

北斗市

館野6遺跡(2)

—高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—

第1分冊

I 諸言

II 調査の方法

III-1 遺構の調査

V 自然科学的分析

VI 成果と問題点

引用・参考文献

平成28年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

北斗市

館野6遺跡(2)

— 高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

第1分冊

I 諸言

II 調査の方法

III - 1 遺構の調査

V 自然科学的分析

VI 成果と問題点

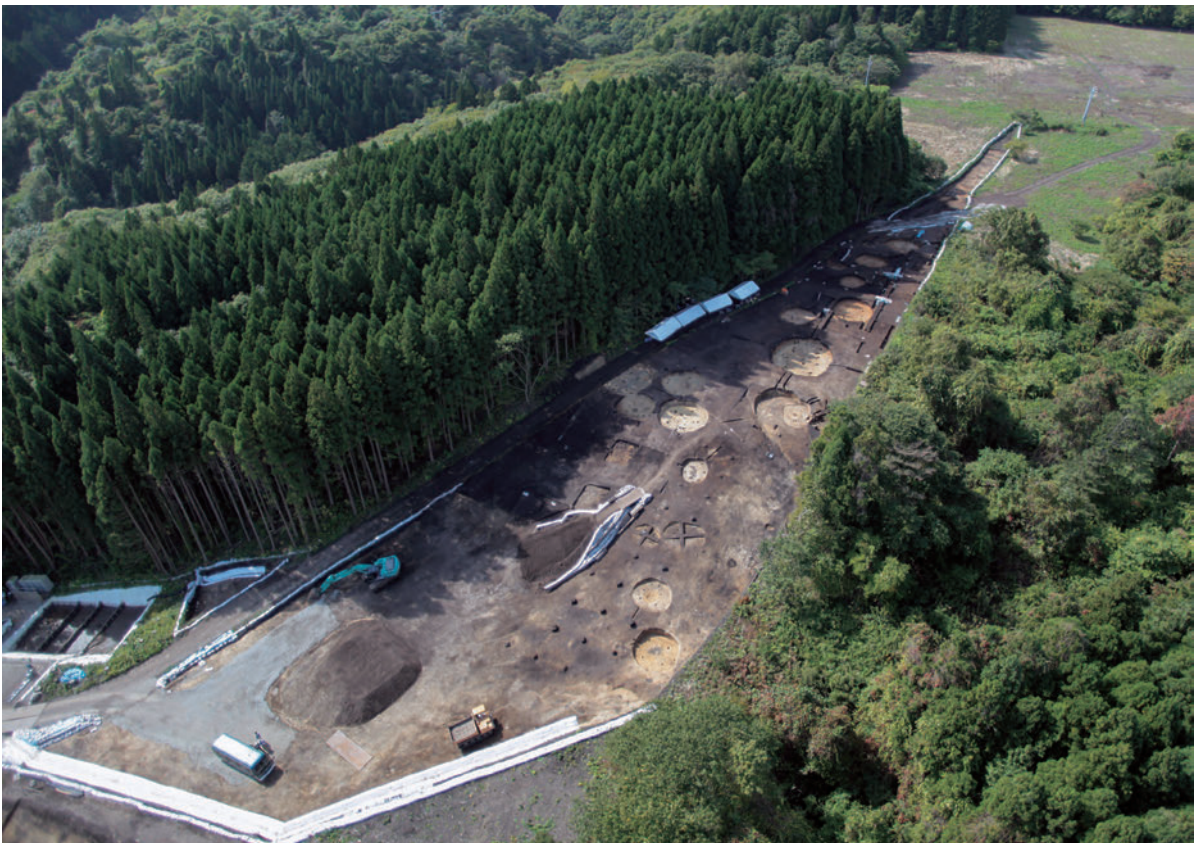
引用・参考文献

平成28年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



東から館野6遺跡全景 丸山を望む（東から）



東から館野6遺跡全景（東から）



調査範囲西端 H58・H61・P54・TP7等（東から）



75～77-Q～R区 削平の可能性がある地区（東から）



62R区 M2上面遺物出土状況（南から）



63R区 H38覆土 遺物出土状況（東から）



61～63-Q～R区 M2上面遺物出土状況（北から）



62S区 H29覆土遺物出土状況（東から）



60T区 M2-2下位遺物出土状況 H21覆土上位（南から）



60T区 M2-2下位遺物出土状況 H21覆土上位
（南から）



60T区 H21覆土下位遺物出土状況（南から）



60S区 H21周辺 M4-6遺物出土状況（西から）



60R・S区 H21脇 Sライントレンチ土層堆積状況（南から）



62S区 H29床面検出状況（北から）



58S区 M4-6検出状況（東から）



57～59S区 Sライントレンチ土層堆積状況（南東から）



58～59R区 M4-6検出状況（南から）



59R区付近 M4-6調査状況（南東から）



60・61S区 M4-3～M4-6調査状況（西から）



58R区 M4-3～6調査状況（南から）



51～60Q区 調査範囲北壁土層堆積状況（東から）



47S区 H45覆土中M5-2遺物検出作業状況（東から）



47S区 H45覆土中M5-2点取り土器出土状況（北から）



44～46-W～Y区周辺 H19・H25～27・H40検出状況およびM6作業状況（北西から）



44a区周辺 M6-2遺物出土状況（西から）



45T区周辺 沢地形作業状況（南西から）



45T区周辺 F82・沢地形検出状況（南西から）

例 言

1. 本書は国土交通省北海道開発局開発建設部が行う高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事に伴い、同建設部の委託を受けて財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成21年度に実施した北斗市館野6遺跡の発掘調査報告書である。
2. 現地の発掘調査は第1調査平成21年度に第2調査部第4調査課が担当し、第1調査部第1調査課、第2調査部第3調査課が補佐した。
3. 現地の写真撮影は大泰司 統、吉田裕吏洋、村田 大、佐藤 剛、袖岡 淳子が行い、室内での写真撮影は吉田（土器を主体）、中山 昭大（石器を主体）が行った。
4. 遺物水洗作業は袖岡・佐藤が行った。遺物整理は大泰司が行った。フローテーション作業を佐川 俊一が行った。
5. 本書全体の編集は、大泰司が行った。本書の執筆は大泰司、村田、佐藤、佐川、袖岡が行い文責は文末に丸括弧で示した。現場写真図版編集を村田が、遺物写真図版編集と写真図版調整は吉田が行った。
6. 当センターにおいて当遺跡担当外の職員からも協力を得た。近世陶磁器についての観察は、鈴木 信に依頼した。石器の類例については坂本尚史、遺跡が立地する段丘を自然地理的観点からの分析に藤井 浩、遺構・遺物の観点から周辺遺跡について分析に立田 理の協力を得た。
7. 現地での基本基準杭設定業務は株式会社ノース技研に委託した。
8. 現地での空中写真撮影業務は株式会社トラスト技研に委託した。
9. 炭化材樹種同定、種実同定、動物遺存体同定は 株式会社 パレオ・ラボに委託した。
10. 放射性炭素年代測定は 炭化木材については 株式会社 加速器分析研究所、土器付着炭化物については中央大学小林謙一教授に委託した。
11. 土器胎土分析は 株式会社 第四紀地質研究所に委託した。遺跡周辺土壤に含まれる珪藻化石、海綿骨針のプレパラート作成と検鏡にあたって、北海道博物館 添田 雄二氏、苫小牧博物館美術館 宮地 鼓氏から指導・助言を受けた。
12. 骨の加工品について、素材となった骨の同定は 金子 浩昌氏に御指導いただいた。
13. 調査にあたっては下記の諸機関に御協力・御指導を頂いた。（順不同・敬称略）

北海道教育庁生涯学習部文化・スポーツ課	北斗市教育委員会 森 靖裕
木古内町教育委員会 木元 豊	市立函館博物館 佐藤 智雄 大矢 京右
函館市教育委員会 野村 祐一 福田 裕二	七飯町教育委員会 山田 央
弘前大学 関根 達人 上條 信彦	厚沢部町教育委員会 石井 淳平
上ノ国町教育委員会 塚田 直哉	洞爺湖町教育委員会 角田 隆志 三谷 智広
伊達市教育委員会 青野 友哉 永谷 幸人	

記号等の説明

- 遺構は下記の記号を略称として用い、確認順にアラビア数字を順に付した。
 竪穴住居：H 竪穴住居の付属遺構 柱穴・土坑：HP 焼土・炉跡：HF
 土坑：P Tピット：TP 焼土：F 集石：S 剥片集中：FC
- 土層の表記は基本層序をローマ数字で、遺構の層序をアラビア数字で示した。
- Ko-d: 駒ヶ岳d火山灰(1,640年降下)・B-Tm: 白頭山一苦小牧火灰(10世紀降下)の略号を用いた。
- 土色の判定と、粒径(直径、径、粒径と調査者により使い分け)の表示[極小粒径(径1mm以下)、小粒径(径1~2mm)、中粒径(径2~5mm)、大粒径(径5~10mm)、極大粒径(径10mm以上)]は『新版標準土色帖』(小山・竹原 2004)を使用した。また、『A+B:AとBがほぼ同量混じる。A>B:AにBが少量混じる。A>>B:AにBが微量混じる。』といった記載を用いる場合もある。調査者の意図を尊重した。
- 挿図中の方位は真北を示す。位置は調査区(調査グリッド)で標記した。
- 遺跡・遺構の挿図にはスケールを付した。主に竪穴住居は60分の1、土坑・焼土・Tピット・遺物集中は40分の1だが、焼土・遺物集中・補足図等で別スケールの図が混在している。
- 遺構で出土地点を記録した遺物は、土器等：×、剥片石器等：△、礫・礫石器等：○で示し、取り上げ番号を付した。大型なもの形状に特徴のあるものはそれを図示し、取り上げ番号を付して、図の脇に番号別に遺物の種類名を記した。まとめて出土した土器について、直線を用いて簡略に垂直分布を示したものもある。
- 遺構図で「No.1」など「No.」付きの数字は発掘現場で用いた出土地点取り上げ番号である。文章中で「点取りNo.」とした。図上で、竪穴住居跡に盛土遺構がからむ場合、盛土側を「盛」の字を付して「盛No.1」、盛土遺構に竪穴住居の点取り遺物がからむ場合、住居番号を付加「H29No.1」などとした。さらにこれが掲載遺物だった場合は「土1」などとさらに付記した。「土1」とあるのは「その遺構の掲載番号1」の土器・土製品。「石1」は同様に石器・石製品の場合である。「盛1」とあるのは「盛土遺構・包含層の掲載番号1」。「盛石1」は同様に石器・石製品である。
- 遺構平面図で、焼土の様に酸化した鉄分等を含む土や、砂ピットの覆土を網掛け(アミカケ)或いは色調で示した図もある。酸化の度合いが強い場合、網掛け或いは色調の濃淡で示した場所もある。
- 床面や底面の極めて浅い窪みで下端が不明瞭な場所はその上端を不整な円形○、自然営力か人為か不明だが、棒状の細い杭が刺さったような痕跡も同様に示した。
- 遺構の規模は以下の方法で「一覧表」に示した。攪乱・遺構の重複等で破壊されている場合は、現存長を丸括弧()を付して、不明の場合は一で示した。(単位：m)
 竪穴住居跡・土坑・Tピットおよび底面が明瞭な付属遺構：
 確認面の長軸長×短軸長/床面あるいは土坑底面の長軸長×短軸長/最深部の深さ
 焼土・遺物集中・底面が不明瞭な付属遺構：確認面の長軸長×短軸長×最深部の深さ
- 掲載遺物については下記の縮尺を用いた。また、各々にはスケールを付してある。
 復元土器・土器拓影図：三分の一。剥片石器・石斧類・石製品：二分の一(ただし石核で大型のものは四分の一、石製品で石棒に類するものは三分の一とした)。礫・礫石器：三分の一(ただし大型の石皿・台石は六分の一)。
- 復元土器には、口径×底径×器高(単位：cm)の計測を行った。欠損部を有する復元土器について、現存長を丸括弧を付して表記した。
- 掲載した石器には実測図上の正面を基準として、最大長×最大幅×最大厚(単位：cm)重さ(単位：g)の計測を行った。欠損があるものは丸括弧を付して表示した。
- 掲載した石器で、擦り面があるものは|—|、叩打痕にはV—Vでその範囲を示した。

分冊項目

第1分冊 本文Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ-1.Ⅴ.Ⅵ

カラー図版

例言・記号等の説明

分冊項目・第一分冊 目次・挿図目次・表目次・写真目次

Ⅰ 諸言

Ⅱ 調査の方法

Ⅲ 遺構の調査と出土遺物－遺構の調査（遺構は盛土遺構以外のものをさす Ⅰ章参照）

1 遺構の調査

Ⅴ 自然科学的分析

Ⅵ 成果と問題点

引用・参考文献

第2分冊 本文Ⅲ-2・3

第二分冊 目次・挿図目次・表目次

Ⅲ 遺構の調査と出土遺物－遺構出土の遺物（遺構は盛土遺構以外のものをさす Ⅰ章参照）

2 遺構出土の土器・土製品

3 遺構出土の石器・石製品

4 表

第3分冊 本文Ⅳ

第三分冊 目次・挿図目次・表目次

Ⅳ 盛土遺構・包含層出土の遺物（盛土トレンチ検出の焼土F66～78関連遺物はこちらに図示した。）

1 土器・土製品

2 石器・石製品

3 骨角器

4 遺物分布図

5 表

第4分冊 写真図版

目次

写真図版

第1分冊（本文Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ-1．Ⅴ．Ⅵ）目次

カラー図版	
例言	
記号等の説明	
目次・表目次・挿図目次・写真図版目次	
I 諸言	1
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯	2
4 調査の概要	10
5 遺跡の位置と環境	16
6 周辺の遺跡	19
II 調査の方法	21
1 調査区の設定と座標値	21
2 発掘調査の方法と経過	21
3 整理作業の方法	24
4 遺物の分類	25
5 土層の区分	31
6 盛土遺構の調査	31
III 遺構の調査と出土遺物	67
1 遺構の調査（遺構は盛土遺構以外のものをさす I章参照）	67
(1) 竪穴住居	67
(2) 土坑	219
(3) Tピット	233
(4) 焼土	234
(5) 集石	251
(6) 遺物集中	251
表	253
V 自然科学的分析	275
1. 館野6遺跡から出土した動物遺体	275
2. 館野6遺跡出土の炭化種実	282
3. 館野6遺跡出土炭化材の樹種同定	288
4. 館野6遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）	292
5. 北斗市館野6遺跡胎土分析 X線回折試験及び化学分析試験	299
6. 館野6遺跡出土土器付着試料の ¹⁴ C年代測定と較正年代	329
VI 成果と問題点	333
1. 遺構	333
2. 土器	340

3. 石器	374
4. 館野～矢不來地区の遺跡	393
引用・参考文献	400
抄録	

第1分冊（本文Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ-1．Ⅴ．Ⅵ）挿図目次

図Ⅰ-1	函館江差自動車道にかかる発掘調査	3	図Ⅱ-24	Sライントレンチ遺物出土状況図1 (62～64ライン) F78	50
図Ⅰ-2	遺跡周辺の地形分類図	5	図Ⅱ-25	Sライントレンチ遺物出土状況図2 (60～62ライン) F74～77	51
図Ⅰ-3	遺跡周辺の地形（館野6遺跡、矢不來館、 矢不來砲台跡）	5	図Ⅱ-26	Sライントレンチ遺物出土状況図3 (58～60ライン) F67・68・70・73・74・77	52
図Ⅰ-4	館野6遺跡、本線部分（調査区設定時の 基準杭）と補償道路部分（Ⅲ層上面等高線）	6	図Ⅱ-27	Sライントレンチ遺物出土状況図4 (56～58ライン) F67・71・77	53
図Ⅰ-5	館野6遺跡補償道路部分の調査範囲	7	図Ⅱ-28	Sライントレンチ遺物出土状況図5 (54～56ライン) F66・72	54
図Ⅰ-6	館野6遺跡 遺構配置図	7	図Ⅱ-29	Sライントレンチ土層断面図および遺物垂 直分布図1（62～69ライン） H29・F78	55
図Ⅰ-7	館野6遺跡 遺構配置図24～65ライン	8	図Ⅱ-30	Sライントレンチ土層断面図および遺物 垂直分布図2（54～61ライン） F66～68・70～77	56
図Ⅰ-8	館野6遺跡 遺構配置図49～88ライン	9	図Ⅱ-31	調査範囲北壁土層断面図（47～51ライン） 51ラインCトレンチ土層断面図（M5関連）	59
図Ⅰ-9	海綿骨針 海棲珪藻ほか	17	図Ⅱ-32	調査範囲北壁土層断面図 (52～59ライン・M5関連)	60
図Ⅰ-10	館野6遺跡周辺遺跡地図	18	図Ⅱ-33	調査範囲北壁土層断面図（60～66ライン）	61
図Ⅱ-1	盛土とトレンチの位置関係図	22	図Ⅱ-34	M5点取り平面図・エレベーション図 (47～48-R～S区)	62
図Ⅱ-2	遺構の位置関係図	22	図Ⅱ-35	M6分布状況（M6-1・2、H26内廃棄層1・2）	63
図Ⅱ-3	円筒下層土器文様解説図	26	図Ⅱ-36	M6周辺住居掘り上げ土分布状況・堆積状況	64
図Ⅱ-4	円筒下層土器部位名称	27	図Ⅱ-37	aラインM6盛土土層断面図	65
図Ⅱ-5	扁平打製石器形態分類模式図	28	図Ⅲ-1-1	H18平面図	68
図Ⅱ-6	基本土層柱状図・73ライン付近基本土層	30	図Ⅲ-1-2	H18ベンチと拡張部分	69
図Ⅱ-7	盛土分布図1（全体・M2・M5・M6）	32	図Ⅲ-1-3	H18土層断面図	70
図Ⅱ-8	盛土分布図2（M3・M4）	33	図Ⅲ-1-4	H18エレベーション図	71
図Ⅱ-9	盛土柱状図1	34	図Ⅲ-1-5	H18ベンチ部分土層断面図	72
図Ⅱ-10	盛土柱状図2	35	図Ⅲ-1-6	H18HP-1～13土層断面図	73
図Ⅱ-11	盛土推定分布図1（全体）	39	図Ⅲ-1-7	H18HP-14～29土層断面図	74
図Ⅱ-12	盛土推定分布図2（M2）	39	図Ⅲ-1-8	H18HP-30～44土層断面図	75
図Ⅱ-13	盛土推定分布図3（M3）	40	図Ⅲ-1-9	H18覆土1遺物出土状況	76
図Ⅱ-14	盛土推定分布図4（M4）	40	図Ⅲ-1-10	H18覆土2・3遺物出土状況	77
図Ⅱ-15	盛土推定分布図5（M5）	41			
図Ⅱ-16	盛土推定分布図6（M6）	41			
図Ⅱ-17	Aトレンチ土層断面図 F69・76	43			
図Ⅱ-18	Aトレンチ遺物出土状況図 F69・76	44			
図Ⅱ-19	Aトレンチ土層断面図および 遺物垂直分布図F69・76	45			
図Ⅱ-20	Bトレンチ土層断面図・遺物出土状況図	46			
図Ⅱ-21	Sライントレンチ土層断面図1 (62～69ライン) F78	47			
図Ⅱ-22	Sライントレンチ土層断面図2 (54～61ライン) F66～68・70～77	48			
図Ⅱ-23	Sライントレンチおよび盛土顕出面遺物 出土状況図（62～64ライン） F78	49			

図Ⅲ-1-11	H18床面遺物出土状況	78	図Ⅲ-1-38	H21点取り遺物出土状況平面図 (覆土7層・床面)	122
図Ⅲ-1-12	H18掘り上げ土分布状況	79	図Ⅲ-1-39	H22平面図・遺物出土状況図・土層断面 図・付属遺構土層断面図	124
図Ⅲ-1-13	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況1 (I群b類・II群b類土器)	80	図Ⅲ-1-40	H23平面図・遺物出土状況図	125
図Ⅲ-1-14	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況2 (III群a類・III群b類・IV群a類土器)	81	図Ⅲ-1-41	H23土層断面図・付属遺構土層断面図	126
図Ⅲ-1-15	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況3 (焼成粘土塊・土器類全般)	82	図Ⅲ-1-42	H23遺物出土状況図	127
図Ⅲ-1-16	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況4 (石鏃・ドリル)	83	図Ⅲ-1-43	H24平面図	128
図Ⅲ-1-17	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況5 (石槍又はナイフ・つまみ付きナイフ)	84	図Ⅲ-1-44	H24土層断面図・付属遺構土層断面図	129
図Ⅲ-1-18	H18器種別遺物覆土1～3層層位別 遺物出土状況6 (スクレイパー・両面調整石器)	85	図Ⅲ-1-45	H24遺物出土状況図・炭化物出土状況図	130
図Ⅲ-1-19	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況7 (石核・Uフレイク)	86	図Ⅲ-1-46	H25平面図	131
図Ⅲ-1-20	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況8 (Rフレイク・剥片石器全般)	87	図Ⅲ-1-47	H25遺物出土状況図	132
図Ⅲ-1-21	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況9 (フレイク・石斧)	88	図Ⅲ-1-48	H25土層断面図・付属遺構土層断面図	133
図Ⅲ-1-22	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況10 (北海道式石冠・扁平打製石器)	89	図Ⅲ-1-49	H26平面図・土層断面図・遺物出土状況 垂直分布図	135
図Ⅲ-1-23	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況11 (すり石・たつき石)	90	図Ⅲ-1-50	H26遺物出土状況平面図	136
図Ⅲ-1-24	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況12 (石鋸・砥石)	91	図Ⅲ-1-51	H26遺物出土状況図	137
図Ⅲ-1-25	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況13 (石皿・台石)	92	図Ⅲ-1-52	H26付属遺構土層断面図	138
図Ⅲ-1-26	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況14 (礫石器全般・礫)	93	図Ⅲ-1-53	H27平面図・土層断面図・付属遺構土層 断面図	139
図Ⅲ-1-27	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況15 (被熱礫・石製品)	94	図Ⅲ-1-54	H27遺物出土状況図	140
図Ⅲ-1-28	H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物 出土状況16 (石器全般・遺物全般)	95	図Ⅲ-1-55	H28平面図	142
図Ⅲ-1-29	H19平面図	110	図Ⅲ-1-56	H28土層断面図・付属遺構土層断面図	143
図Ⅲ-1-30	H19土層断面図・H19付属遺構土層 断面図	111	図Ⅲ-1-57	H28遺物出土状況図	144
図Ⅲ-1-31	H19点取り遺物出土状況図	112	図Ⅲ-1-58	H29平面図・エレベーション図	146
図Ⅲ-1-32	H20平面図・土層断面図	115	図Ⅲ-1-59	H29土層断面図・遺物出土状況垂直 分布図	147
図Ⅲ-1-33	H20付属遺構土層断面図	116	図Ⅲ-1-60	H29遺物出土状況図 (M2盛土基底部・H29覆土上位)	148
図Ⅲ-1-34	H20遺物出土状況図	117	図Ⅲ-1-61	H29遺物出土状況図 (H29覆土下位・覆土最下位・床面)	149
図Ⅲ-1-35	H21平面図・土層断面図	119	図Ⅲ-1-62	H29付属遺構断面図	150
図Ⅲ-1-36	H21付属遺構土層断面図	120	図Ⅲ-1-63	H30平面図・土層断面図・付属遺構 土層断面図	152
図Ⅲ-1-37	H21点取り遺物出土状況垂直分布図	121	図Ⅲ-1-64	H30遺物出土状況図	153
			図Ⅲ-1-65	H31平面図・土層断面図・付属遺構 土層断面図	154
			図Ⅲ-1-66	H31遺物出土状況図	155
			図Ⅲ-1-67	H32平面図・土層断面図・遺物出土 状況図・付属遺構土層断面図	156
			図Ⅲ-1-68	H33平面図・土層断面図・付属遺構 土層断面図	158
			図Ⅲ-1-69	H33遺物出土状況図	159
			図Ⅲ-1-70	H34平面図・土層断面図・付属遺構 土層断面図	160
			図Ⅲ-1-71	H34遺物出土状況図	161
			図Ⅲ-1-72	H35平面図・土層断面図・付属遺構 土層断面図	163
			図Ⅲ-1-73	H35遺物出土状況図	164

図Ⅲ-1-74	H36平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図	165	図Ⅲ-1-110	H60平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図	207
図Ⅲ-1-75	H36遺物出土状況図	166	図Ⅲ-1-111	H61平面図・土層断面図	208
図Ⅲ-1-76	H37平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図	167	図Ⅲ-1-112	H62平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図	210
図Ⅲ-1-77	H37遺物出土状況図	168	図Ⅲ-1-113	H63平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図	212
図Ⅲ-1-78	H38平面図・土層断面図	169	図Ⅲ-1-114	H64平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図	213
図Ⅲ-1-79	H38付属遺構土層断面図	170	図Ⅲ-1-115	H64遺物出土状況図	214
図Ⅲ-1-80	H38遺物出土状況図	171	図Ⅲ-1-116	H65平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図	215
図Ⅲ-1-81	H39平面図・土層断面図	173	図Ⅲ-1-117	H66平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図	217
図Ⅲ-1-82	H39付属遺構土層断面図・遺物出土状況平面図（覆土上位）	174	図Ⅲ-1-118	H67平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図	218
図Ⅲ-1-83	H39遺物出土状況平面図（覆土下位・覆土最下位）	175	図Ⅲ-1-119	P43平面図・土層断面図・遺物出土状況図・P44平面図・土層断面図	220
図Ⅲ-1-84	H39遺物出土状況垂直分布図	176	図Ⅲ-1-120	P45平面図・土層断面図・P46平面図・土層断面図・P47平面図・土層断面図・遺物出土状況図	222
図Ⅲ-1-85	H40平面図・土層断面図・遺物出土状況図	177	図Ⅲ-1-121	P48平面図・土層断面図・遺物出土状況図・P49平面図・土層断面図・遺物出土状況図・P50平面図・土層断面図	223
図Ⅲ-1-86	H41平面図・土層断面図	178	図Ⅲ-1-122	P51とF81平面図・土層断面図・P52平面図・土層断面図	224
図Ⅲ-1-87	H41付属遺構土層断面図・遺物出土状況図	179	図Ⅲ-1-123	P53平面図・土層断面図・P54平面図・土層断面図・遺物出土状況図	227
図Ⅲ-1-88	H42平面図・土層断面図・遺物出土状況図	181	図Ⅲ-1-124	P55平面図・土層断面図・遺物出土状況図・P56平面図・土層断面図・遺物出土状況図	228
図Ⅲ-1-89	H43・H44平面図	182	図Ⅲ-1-125	P57平面図・土層断面図・P58平面図・土層断面図	231
図Ⅲ-1-90	H43・H44土層断面図・付属遺構土層断面図	183	図Ⅲ-1-126	P59平面図・土層断面図・遺物出土状況図・P60平面図・土層断面図	232
図Ⅲ-1-91	H45平面図・土層断面図	185	図Ⅲ-1-127	TP7平面図・土層断面図	233
図Ⅲ-1-92	H45遺物出土状況図	186	図Ⅲ-1-128	F63と遺物集中8平面図・土層断面図・F64平面図・土層断面図・73ライン基本層序	234
図Ⅲ-1-93	H46平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図	187	図Ⅲ-1-129	F65平面図・土層断面図・周辺遺物出土状況図	236
図Ⅲ-1-94	H47平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図	188	図Ⅲ-1-130	F79平面図・土層断面図・遺物出土状況図・F80平面図・土層断面図・遺物出土状況図・F81平面図・土層断面図	248
図Ⅲ-1-95	H48平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図	189	図Ⅲ-1-131	F82平面図・土層断面図・遺物出土状況図	249
図Ⅲ-1-96	H49平面図・土層断面図	190	図Ⅲ-1-132	S5平面図・土層断面図・遺物出土状況図・S6平面図	250
図Ⅲ-1-97	H50平面図・土層断面図・遺物出土状況図	191			
図Ⅲ-1-98	H51平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図	192			
図Ⅲ-1-99	H51遺物出土状況図	193			
図Ⅲ-1-100	H52平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図	195			
図Ⅲ-1-101	H53平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図	196			
図Ⅲ-1-102	H54平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図	197			
図Ⅲ-1-103	H55平面図・土層断面図	199			
図Ⅲ-1-104	H56平面図・土層断面図	200			
図Ⅲ-1-105	H56遺物出土状況図・付属遺構土層断面図	201			
図Ⅲ-1-106	H57平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図	202			
図Ⅲ-1-107	H58平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図	204			
図Ⅲ-1-108	H58遺物出土状況図	205	図Ⅴ-3-1	樹種同定依頼試料一覧	291
図Ⅲ-1-109	H59平面図・土層断面図	206	図Ⅴ-4-1	年代測定依頼試料一覧1	297

図V-4-2	年代測定依頼試料一覧2	298	図VI-2-11	土器11 円筒下層式 鋸歯状文の起源と変化	358
図V-5-1	三角ダイヤグラム位置分類図	319	図VI-2-12	土器12 円筒下層b2式新段階	360
図V-5-2	菱形ダイヤグラム位置分類図	319	図VI-2-13	土器13 円筒下層b2式	362
図V-5-3	Mo-Mi-Hb三角ダイヤグラム	320	図VI-2-14	土器14 円筒下層b2式とその古段階	363
図V-5-4	Mo-Ch、Mi-Hb菱形ダイヤグラム	321	図VI-2-15	土器15 円筒下層b1式	366
図V-5-5	Qt-Pl図	322	図VI-2-16	土器16 円筒下層b1式	367
図V-5-6	SiO ₂ -Al ₂ O ₃ 図	322	図VI-2-17	土器17 円筒下層b1式	368
図V-5-7	Fe ₂ O ₃ -TiO ₂ 図	323	図VI-2-18	土器18 土器計測結果グラフ1	372
図V-5-8	K ₂ O-CaO図	323	図VI-2-19	土器19 土器計測結果グラフ2	373
図V-5-9	館層採取位置図	324	図VI-3-1	石器1 石鏃・石槍又はナイフ・ドリル・スクレイパー	376
図V-5-10	胎土分析依頼試料一覧	325	図VI-3-2	石器2 石槍又はナイフ・ドリル・両面調整石器	378
図V-5-11	化学分析チャート(1)	327	図VI-3-3	石器3 石槍又はナイフ・スクレイパー・石鋸・石製品	380
図V-5-12	化学分析チャート(2) X線回折チャート	328	図VI-3-4	石器4 スクレイパー・石核・両面調整石器・接合資料	382
図V-6-1	測定試料付着土器と校正年代 確率分布	332	図VI-3-5	石器5 石斧・石鋸・石製品	384
図VI-1-1	遺構1 石囲炉を持つ竪穴住居	333	図VI-3-6	石器6 石製品	385
図VI-1-2	遺構2 遺構の時期変遷	334	図VI-3-7	石器7 細分可能扁平打製石器分布図	387
図VI-1-3	遺構3 遺構の時期変遷	335	図VI-3-8	石器8 細分可能扁平打製石器分布図	388
図VI-1-4	遺構4 遺構の時期変遷	336	図VI-3-9	石器9 細分可能扁平打製石器分布図・扁平打製石器細分模式図	389
図VI-1-5	遺構5 遺構の時期変遷	337	図VI-3-10	石器10 細分可能扁平打製石器分布図	390
図VI-1-6	遺構6 遺構の時期変遷	338	図VI-3-11	函館市南茅部地区八木A遺跡出土つまみ付きナイフ(プロペラ状に調整)伊達市北黄金貝塚出土骨角器(ドリルの類例として)	391
図VI-1-7	遺構7 遺構の時期変遷	339	図VI-4-1	北斗市館野~矢不來にかけての遺跡分布	394
図VI-2-1	土器1 円筒下層d2式	342			
図VI-2-2	土器2 円筒下層d2式	343			
図VI-2-3	土器3 円筒下層d1式から下層d2式	346			
図VI-2-4	土器4 円筒下層d1式古段階	347			
図VI-2-5	土器5 円筒下層d1式から下層d2式	348			
図VI-2-6	土器6 円筒下層d1式	349			
図VI-2-7	土器7 円筒下層c式	352			
図VI-2-8	土器8 円筒下層b2新段階・b2~c式・c式	353			
図VI-2-9	土器9 円筒下層式 意図的な打ち欠き 羽状縄文対向による菱形	356			
図VI-2-10	土器10 円筒下層b2新段階・b2~c 円形刺突列 口縁部縦区画 多軸絡条 体地紋	357			

第1分冊（本文Ⅰ．Ⅱ．Ⅲ-1．Ⅴ．Ⅵ）表目次

表Ⅰ-1	函館江差自動車道の発掘調査	4			
表Ⅰ-2	館野6遺跡検出遺構数一覧	6			
表Ⅰ-3	館野6遺跡出土遺物点数表	14			
表Ⅰ-4	館野6遺跡周辺遺跡一覧	18			
表Ⅱ-1	円筒下層式土器文様要素消長表（北斗市館野6遺跡の場合）	27			
表Ⅱ-2	注記略称例	29			
表Ⅱ-3	M2・M2-2・堅穴住居の相関関係	36			
表Ⅱ-4	盛土遺構土層注記（Sライントレンチ）	57			
表Ⅱ-5	盛土遺構土層注記（調査範囲北壁）	58			
表Ⅲ-1-1	H18覆土1層調査区別出土遺物点取り番号一覧（覆土1層）	96			名一覧（1～52）
表Ⅲ-1-2	H18覆土1層調査区別出土遺物点取り番号一覧（覆土2・3層・床面）	97			表Ⅲ-1-20 H24点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～88）
表Ⅲ-1-3	H18点取り遺物出土層位および器種名一覧1（1～376）	98			表Ⅲ-1-21 H25点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～41）
表Ⅲ-1-4	H18点取り遺物出土層位および器種名一覧2（377～743）	99			表Ⅲ-1-22 H26点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～85）
表Ⅲ-1-5	H18点取り遺物出土層位および器種名一覧3（744～1115）	100			表Ⅲ-1-23 H27点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～65）
表Ⅲ-1-6	H18点取り遺物出土層位および器種名一覧4（1116～1486）	101			表Ⅲ-1-24 H28点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～111）
表Ⅲ-1-7	H18点取り遺物出土層位および器種名一覧5（1487～1862）	102			表Ⅲ-1-25 H29点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～65）
表Ⅲ-1-8	H18点取り遺物出土層位および器種名一覧6（1863～2242）	103			表Ⅲ-1-26 H30点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～63）
表Ⅲ-1-9	H18点取り遺物出土層位および器種名一覧7（2243～2621）	104			表Ⅲ-1-27 H31点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～39）
表Ⅲ-1-10	H18点取り遺物出土層位および器種名一覧8（2622～2995）	105			表Ⅲ-1-28 H32点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～22）
表Ⅲ-1-11	H18点取り遺物出土層位および器種名一覧9（2996～3375）	106			表Ⅲ-1-29 H33点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～49）
表Ⅲ-1-12	H18点取り遺物出土層位および器種名一覧10（3376～3753）	107			表Ⅲ-1-30 H34点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～21）
表Ⅲ-1-13	H18点取り遺物出土層位および器種名一覧11（3754～4131）	108			表Ⅲ-1-31 H35点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～25）
表Ⅲ-1-14	H18点取り遺物出土層位および器種名一覧12（4132～4313）	109			表Ⅲ-1-32 H36点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～19）
表Ⅲ-1-15	H19点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～255）	113			表Ⅲ-1-33 H37点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～123）
表Ⅲ-1-16	H20点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～28）				表Ⅲ-1-33 H38点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～21）
表Ⅲ-1-17	H21点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～34）				表Ⅲ-1-34 H39点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～62）
表Ⅲ-1-18	H22点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～9）				表Ⅲ-1-35 H40点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～5）
表Ⅲ-1-19	H23点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～52）				表Ⅲ-1-36 H41点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～10）
					表Ⅲ-1-37 H42点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～7）
					表Ⅲ-1-38 H43点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～25）
					表Ⅲ-1-39 H44点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～49）
					表Ⅲ-1-40 H45点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～22）
					表Ⅲ-1-41 H46点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～14）
					表Ⅲ-1-42 H48点取り遺物出土層位および器種名一覧（1）
					表Ⅲ-1-43 H50点取り遺物出土層位および器種名一覧（1～3）

表Ⅲ-1-16～68は紙面の都合上、図中の「表名」を略した。

表Ⅲ-1-44	H51点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~18)	表Ⅲ-1-63	P56点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~10)
表Ⅲ-1-45	H52点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~45)	表Ⅲ-1-64	P59点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~2)
表Ⅲ-1-46	H53点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~7)	表Ⅲ-1-65	F79点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~3)
表Ⅲ-1-47	H54点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~20)	表Ⅲ-1-66	F80点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~3)
表Ⅲ-1-48	H56点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~16)	表Ⅲ-1-67	F82点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~13)
表Ⅲ-1-49	H57点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~10)	表Ⅲ-1-68	S5点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~9)
表Ⅲ-1-50	H58点取り遺物出土層位および器種名一覧(一括土器①~⑯)	表Ⅲ-2	検出遺構一覧……………253
表Ⅲ-1-51	H60点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~26)	表Ⅲ-3	検出遺構規模一覧……………256
表Ⅲ-1-52	H62点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~36)	表Ⅲ-4	遺構別出土遺物集計一覧……………262
表Ⅲ-1-53	H63点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~34)	表Ⅴ-1-1	館野6遺跡出土動物遺体分類群一覧 276
表Ⅲ-1-54	H64点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~85)	表Ⅴ-1-2	遺構別動物遺体出土数量……………277
表Ⅲ-1-55	H65点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~20)	表Ⅴ-1-3	動物遺体一覧……………277
表Ⅲ-1-56	H66点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~62)	表Ⅴ-1-4	動物遺体分析依頼試料一覧……………281
表Ⅲ-1-57	H67点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~75)	表Ⅴ-2-1~3	館野6遺跡から出土した炭化種実……………283
表Ⅲ-1-58	P43点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~28)	表Ⅴ-2-4	炭化種実分析依頼試料一覧……………287
表Ⅲ-1-59	P47点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~20)	表Ⅴ-3-1	樹種同定結果……………288
表Ⅲ-1-60	P48点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~6)	表Ⅴ-3-2	樹種同定依頼試料一覧……………291
表Ⅲ-1-61	P49点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~3)	表Ⅴ-4-1	年代測定依頼試料一覧1……………297
表Ⅲ-1-62	P55点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~6)	表Ⅴ-4-2	年代測定依頼試料一覧2……………298
		表Ⅴ-5-1	胎土性状表……………307
		表Ⅴ-5-2	化学分析表……………310
		表Ⅴ-5-3	タイプ分類表……………313
		表Ⅴ-5-4	組成分類表……………316
		表Ⅴ-5-5	胎土分析依頼試料一覧……………325
		表Ⅵ-3-1	石器 接合資料一覧……………379
		表Ⅵ-3-2	細分可能扁平打製石器出土点数一覧 386
		表Ⅵ-4-1	館野~矢不来地区の遺跡一覧……………393

第1分冊写真目次

カラー写真図版目次

- カラー図版1 館野6遺跡全景 丸山を望む(東から)
館野6遺跡全景(東から)
- カラー図版2 調査範囲西端 H58・H61・P54・TP7等(東から)
75~77-Q~R区 削平の可能性がある地区(東から)
- カラー図版3 62R区 M2上面遺物出土状況(南から)
63R区 H38覆土 遺物出土状況(東から)
- カラー図版4 61~63-Q~R区 M2上面遺物出土状況(北から)
62S区 H29覆土遺物出土状況(東から)
- カラー図版5 60T区 M2-2下位遺物出土状況H21覆土上位(南から)
60T区 M2-2下位遺物出土状況H21覆土上位(南から)
60T区 H21覆土下位遺物出土状況(南から)
- カラー図版6 60S区 H21周辺 M4-6遺物出土状況(西から)
60R・S区 H21脇 Sライントレンチ土層堆積状況(南から)
- カラー図版7 62S区 H29床面検出状況(北から)
58S区 M4-6検出状況(東から)
- カラー図版8 57~59S区 Sライントレンチ土層堆積状況(南東から)
58~59R区 M4-6検出状況(南から)
59R区付近 M4-6調査状況(南東から)
- カラー図版9 60・61S区 M4-3~M4-6調査状況(西から)
58R区 M4-3~6調査状況(南から)
51~60Q区 調査範囲北壁土層堆積状況(東から)
- カラー図版10 47S区 H45覆土中M5-2遺物検出作業状況(東から)
47S区 H45覆土中M5-2点取り土器出土状況(北から)
- カラー図版11 44~46-W~Y区周辺 H19・H25~27・H40検出状況およびM6作業状況(北西から)
44a区周辺 M6-2遺物出土状況(西から)
- カラー図版12 45T区周辺 沢地形作業状況(南西から)
45T区周辺 F82・沢地形検出状況(南西から)

V章関連図版目次

図版V-1-1 館野6遺跡出土の動物遺体	280
図版V-2-1 館野6遺跡から出土した炭化種実	286
図版V-3-1 館野6遺跡1出土炭化材の走査電子顕微鏡写真	290
図版V-5-1 館野6遺跡分析土器断面写真(1)	326
図版V-5-2 館野6遺跡分析土器断面写真(2)	327

I 諸 言

1 調査要項

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査
 委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部
 受託者：財団法人 北海道埋蔵文化財センター（平成24年3月31日まで）
 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター（平成24年4月1日から）
 遺跡名：館野6遺跡（北海道教育委員会登録番号 B-06-79）
 所在地：北斗市館野91ほか
 調査面積：5,763㎡
 調査期間：平成21年6月8日から11月13日
 平成22年5月7日から10月31日（遺物水洗作業）
 整理期間：平成23年8月1日から平成24年3月30日（一次整理）
 平成24年4月1日から平成25年3月30日（一次整理、二次整理）
 平成25年4月1日から平成26年3月30日（二次整理）
 平成26年4月1日から平成27年3月30日（二次整理）
 平成27年4月1日から平成28年3月30日（二次整理）

2 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター	理事長	坂本 均（平成20年6月1日から）
	専務理事	佐藤 俊和（平成21年5月31日まで）
		松本 昭一（平成21年6月1日から）
	常務理事	畑 宏明（平成19年4月1日から）
	総務部長	松本 昭一（平成21年5月31日まで）
		中田 仁（平成21年6月1日から）
	第1調査部長	越田賢一郎（平成22年3月31日まで）
		千葉 英一（平成22年4月1日から）
	第2調査部長	西田 茂（平成23年3月31日まで）
		三浦 正人（平成23年4月1日から）
平成21年度	第2調査部第4調査課	課長 村田 大（発掘担当者）
		主査 袖岡 淳子（発掘担当者）
		主任 佐藤 剛（発掘担当者）
		主任 大泰司 統（発掘担当者）
	第2調査部第3調査課	課長 佐川 俊一
	第1調査部第1調査課	主任 吉田裕吏洋
平成22年度	第2調査部第2調査課	課長 佐川 俊一
		主査 袖岡 淳子
		主任 佐藤 剛

平成23年度	第2調査部第3調査課	課長	村田 大
		主査	大泰司 統
公益財団法人北海道埋蔵文化財センター	理事長	坂本 均	(平成24年から平成26年度)
		越田賢一郎	(平成27年度から)
	副理事長	畑 宏明	(平成24年から平成26年度)
		中田 仁	(平成27年度から)
	専務理事・事務局長		
		中田 仁	(平成24年から平成26年度)
		山田 寿雄	(平成27年度から)
	常務理事・第1調査部長		
		千葉 英一	(平成24年から平成26年度)
		長沼 孝	(平成27年度から)
平成24年度	第2調査部第3調査課	課長	村田 大
		主査	大泰司 統
平成25～28年度	第1調査部第4調査課	課長	皆川 洋一
		主査	大泰司 統

3 調査に至る経緯

この調査の原因である高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事は、北海道開発局函館開発建設部が実施している。函館市を起点とし、北斗市・木古内町を經由、江差町に至る延長約70kmの一般国道自動車専用道路として国土交通省北海道開発局により整備が進められている。この道路は北海道縦貫道・函館新道と接続し、函館都市圏の新たな環状道路として地域の交通混雑の解消や地域経済の活性化のために計画されたものである。(図I-1)

当該地域における調査の経緯については、当センターおよび近隣町村刊行の調査報告書に詳しい。(表I-1)

館野6遺跡は、北を矢不來川、南を下矢不來川に挟まれた、函館湾に面する海岸段丘上に広がる遺跡である。函館江差道路の本線部分については、平成20年度に調査が行われた。(図I-3・4)

今回の調査範囲は、海岸部を走る国道229号から本線予定範囲を超え、山側の植林地などへ至る市道の機能補償道路部分に相当する。現地調査および整理作業の際は、本線部分の館野6遺跡と区別するため、館野6遺跡補償道路と呼称して作業を実施した。(図I-4)

館野6遺跡補償道路部分の調査範囲に関しては、平成17年10月19日・20日に、上磯町教育委員会(当時、現・北斗市教育委員会)と財団法人北海道埋蔵文化財センター(当時)が、試掘調査を約4,800㎡について実施し、北海道教育委員会(以下、道教委)へ埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告を提出した。その結果、市道を挟み、その両側の4,400㎡について、発掘調査が必要と判断された。

当センターは、試掘調査の結果から、発掘調査計画を策定する上で、対象地区をA、B、Cの3地区に分けた(図I-5)。B地区では、試掘時に、二か所のテストピットから600点以上の遺物が出土している。C地区では、テストピット二か所について壁面から掘り上げ土あるいは遺構と思われる土層を検出した。後にB地区は、B-1地区とB-2地区に細分した(図I-5)。B-2地区は先述の出土遺物量が多いテストピット二か所の側である。

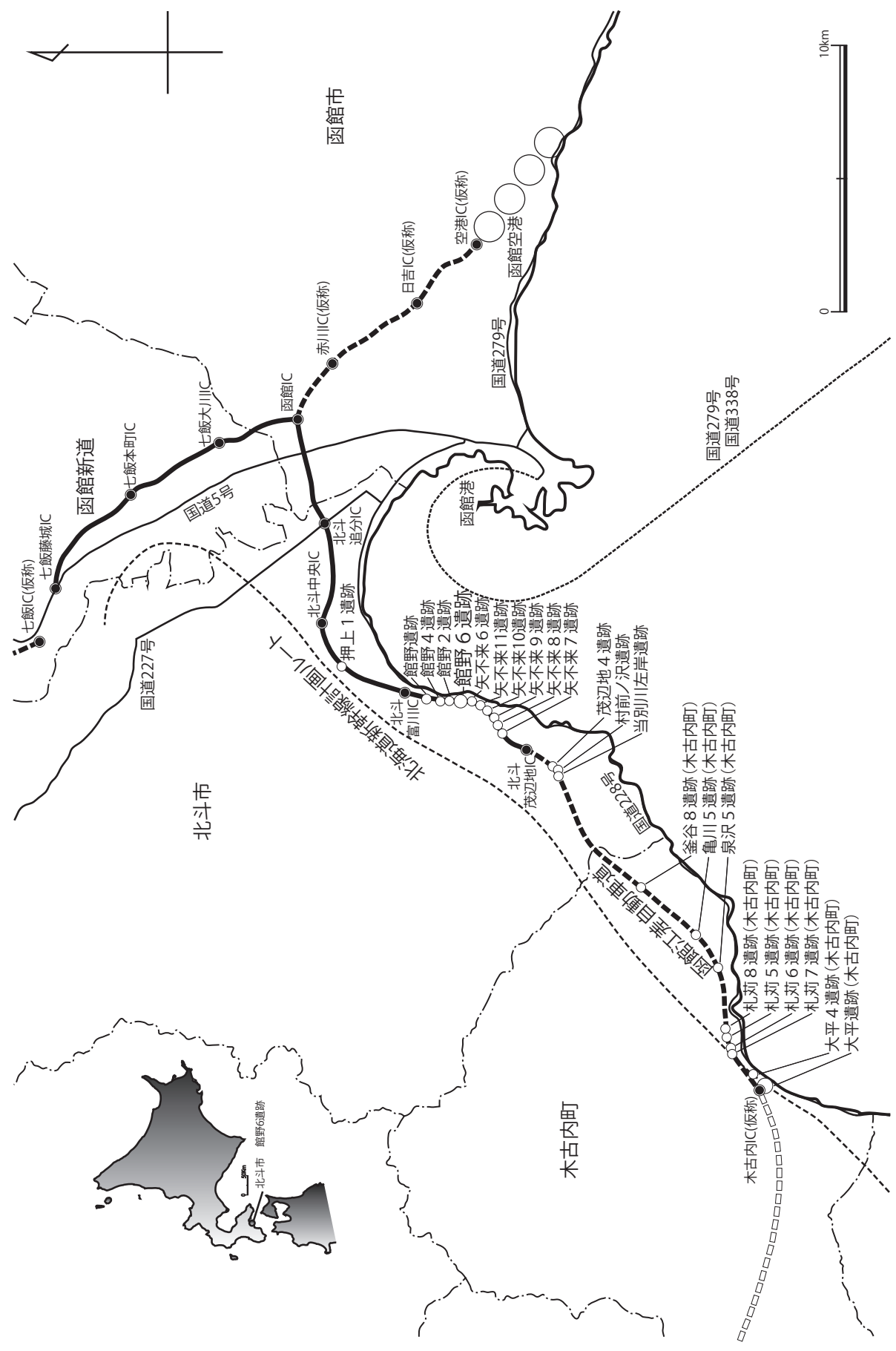


図 I-1 函館江差自動車道にかかる発掘調査

表 I - 1 函館江差自動車道の発掘調査

遺跡名	調査主体	調査面積	現地調査期間	調査の結果	報告書・ほか
押上 1 遺跡	上磯町（現北斗市）教育委員会	2,000㎡	平成14年 7 月16日～12月12日	縄文時代中期末～後期初頭	既刊
		3,800㎡	平成15年 5 月 8 日～10月 9 日	縄文時代後期初頭	既刊
		10,890㎡	平成16年 5 月 1 日～10月31日	縄文時代後期初頭	既刊
		2,665㎡	平成17年 5 月 1 日～10月31日	縄文時代中期末～後期前葉	既刊
館野遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	5,750㎡	平成15年 5 月 6 日～10月31日	縄文時代中期後半～後期初頭の集落跡	北埋調報237集
		2,815㎡	平成16年 5 月 6 日～11月16日	縄文時代後期初頭の配石遺構	北埋調報282集
館野 2 遺跡A地区	財北海道埋蔵文化財センター	953㎡	平成19年 5 月 7 日～10月31日	旧石器時代・縄文時代後期前葉	北埋調報283集
館野 2 遺跡B地区		3,406㎡	平成19年 5 月 7 日～10月31日	縄文時代中期前半の集落	
館野 2 遺跡C地区	(公財)北海道埋蔵文化財センター	2,231㎡	平成19年 5 月 7 日～10月31日	縄文時代中期の集落	北埋調報303集
		2,076㎡	平成20年 5 月12日～10月 1 日		
館野 4 遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	7,100㎡	平成17年 9 月 1 日～10月27日	縄文時代中期前半～後期前葉	北埋調報235集
館野 6 遺跡	(公財)北海道埋蔵文化財センター	5,768㎡	平成20年 5 月12日～11月28日	縄文時代前期後半～中期前半	北埋調報295集
		5,763㎡	平成21年 5 月12日～11月13日	縄文時代前期後半の集落・盛土遺構	本書
矢不來 6 遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	4,660㎡	平成17年 5 月12日～ 8 月31日	縄文時代前期後半の小集落・後期前葉の配石	北埋調報235集
		587㎡	平成19年 9 月 7 日～10月31日	縄文時代中期前半?・後期前葉	北埋調報257集
矢不來 7 遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	2,141㎡	平成16年10月 4 日～10月29日	縄文時代後期後葉の集落跡	北埋調報232集
		6,482㎡	平成17年 5 月 9 日～10月28日		
矢不來 8 遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	6,196㎡	平成17年 8 月 8 日～10月28日	縄文時代晩期中葉	北埋調報232集
		82㎡	平成18年10月 3 日～10月27日	縄文時代中期後半～後期前葉・晩期中葉	北埋調報244集
		1,791㎡	平成20年 5 月12日～ 7 月18日	縄文時代中期後半～後期前葉・晩期中葉	北埋調報272集
矢不來 9 遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	2,030㎡	平成19年 8 月 1 日～10月31日	縄文時代中期前半～後期前葉	北埋調報257集
		1,514㎡	平成20年 5 月12日～ 8 月 4 日	縄文時代中期前半～後期前葉・近世	北埋調報272集
矢不來10遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	7,607㎡	平成18年 7 月10日～10月27日	縄文時代早期前半・後期前葉・晩期後葉	北埋調報244集
		1,907㎡	平成20年 5 月12日～ 7 月18日	縄文時代早期前半・後期前葉・晩期後葉	北埋調報272集
矢不來11遺跡	財北海道埋蔵文化財センター	5,300㎡	平成17年 5 月12日～ 8 月31日	縄文時代後期前葉	北埋調報235集
		246㎡	平成19年 9 月 7 日～10月31日	縄文時代後期前葉	北埋調報257集
		1,349㎡	平成21年 5 月12日～ 6 月30日	縄文時代後期前葉	北埋調報272集
茂辺地 4 遺跡	北斗市教育委員会	99㎡	平成22年 5 月12日～ 6 月 4 日	縄文時代中期前半～後期前葉	未刊
		6,800㎡	平成23年 7 月12日～11月17日	縄文時代中期末～後期初頭	既刊
		8,465㎡	平成24年 5 月 7 日～11月 2 日		
		8,645㎡	平成25年 7 月25日～11月 7 日		
1,131㎡	平成26年 5 月28日～11月26日		未刊		
村前ノ沢遺跡	北斗市教育委員会	1,443㎡	平成25年 7 月25日～11月 7 日	縄文時代中期後半	未刊
		2,804㎡	平成26年 5 月28日～11月26日	縄文時代中期中葉～後半を主体	
当別川左岸遺跡	(公財)北海道埋蔵文化財センター	1,816㎡	平成23年 8 月 1 日～ 9 月 9 日	縄文時代前期前半～後期前葉	北埋調報310集
		2,442㎡	平成24年 8 月 1 日～10月30日		
釜谷 8 遺跡(木古内町)	(公財)北海道埋蔵文化財センター	786㎡	平成23年 9 月 5 日～11月11日	縄文時代早期・中期末・後期前葉	北埋調報305集
		8,414㎡	平成24年 5 月 7 日～10月31日		
亀川 5 遺跡(木古内町)	(公財)北海道埋蔵文化財センター	6,474㎡	平成26年 7 月22日～10月30日	縄文時代後期前半を主体	未刊
泉沢 5 遺跡(木古内町)	(公財)北海道埋蔵文化財センター	8,984㎡	平成26年 9 月 1 日～10月30日	縄文時代中期～後期	未刊
札苺 8 遺跡(木古内町)	(公財)北海道埋蔵文化財センター	832㎡	平成26年 5 月15日～ 8 月 8 日	後期旧石器時代・縄文時代前期後半	未刊
札苺 5 遺跡(木古内町)	(公財)北海道埋蔵文化財センター	3,393㎡	平成23年 5 月 9 日～10月28日	旧石器時代・縄文時代前期後半	北埋調報294集
札苺 6 遺跡(木古内町)	(公財)北海道埋蔵文化財センター	2,758㎡	平成23年 5 月 9 日～10月28日	縄文時代中期前半～後期前葉	北埋調報301集
札苺 7 遺跡(木古内町)	(公財)北海道埋蔵文化財センター	10,690㎡	平成25年 5 月13日～11月 8 日	縄文時代後期前葉・後葉を主体	未刊
		1,295㎡	平成26年 5 月15日～10月30日	縄文時代早期～晩期、中期前半～後期後葉を主体	
大平 4 遺跡(木古内町)	(公財)北海道埋蔵文化財センター	7,054㎡	平成24年 5 月 7 日～10月31日	縄文時代中期後半	未刊
		1,420㎡	平成25年 5 月13日～ 7 月30日		
		7,119㎡	平成26年 5 月14日～ 8 月 6 日		
大平遺跡(木古内町)	(公財)北海道埋蔵文化財センター	1,700㎡	平成25年 5 月13日～11月 8 日	縄文時代晩期を主体	未刊

2015年12月現在



(上磯町教委2001)に加筆

図 I - 3 遺跡周辺の地形 (館野6遺跡、矢不來館、矢不來砲台跡)

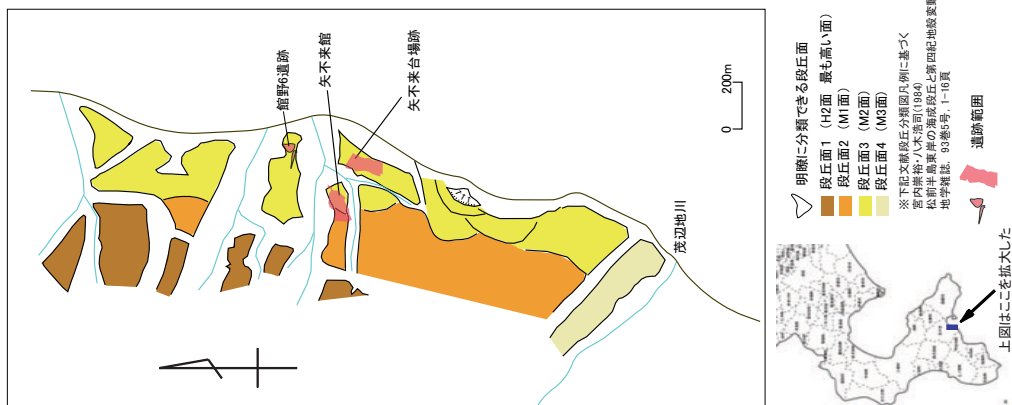


図 I - 2 遺跡周辺の地形分類図

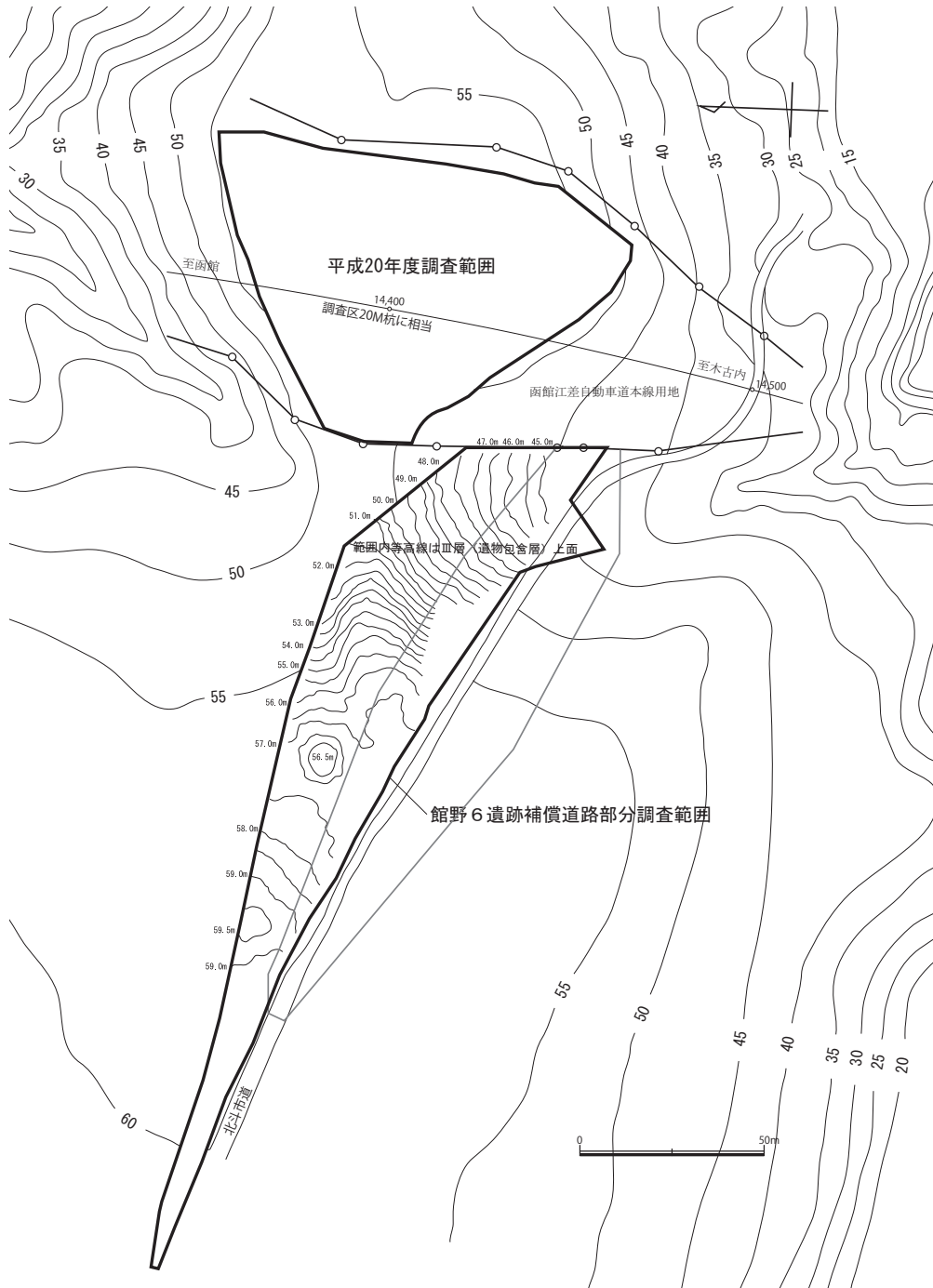


図 I - 4 館野6遺跡、本線部分(調査区設定時の基準杭)と補償道路部分(Ⅲ層上面等高線)

表 I - 2 館野6遺跡検出遺構数一覧

検出年度	平成20年本線部分		平成21年補償道路部分	
	遺構番号	遺構数	遺構番号	遺構数
竪穴住居	H-1~H-17	17	H18~H67	50
焼土	F-1~F-62	62	F63~F82	20
集石	S-1~S-4	4	S5~S6	2
フレイクチップ集中	FC-1~FC-14	14	—	—
遺物集中	遺物集中1~7	7	遺物集中8	1
土坑	P-1~P-42	42	P43~P60	18
重力罨	TP-1~TP-6	6	TP7	1
柱穴状の小土坑	SP	198	—	—

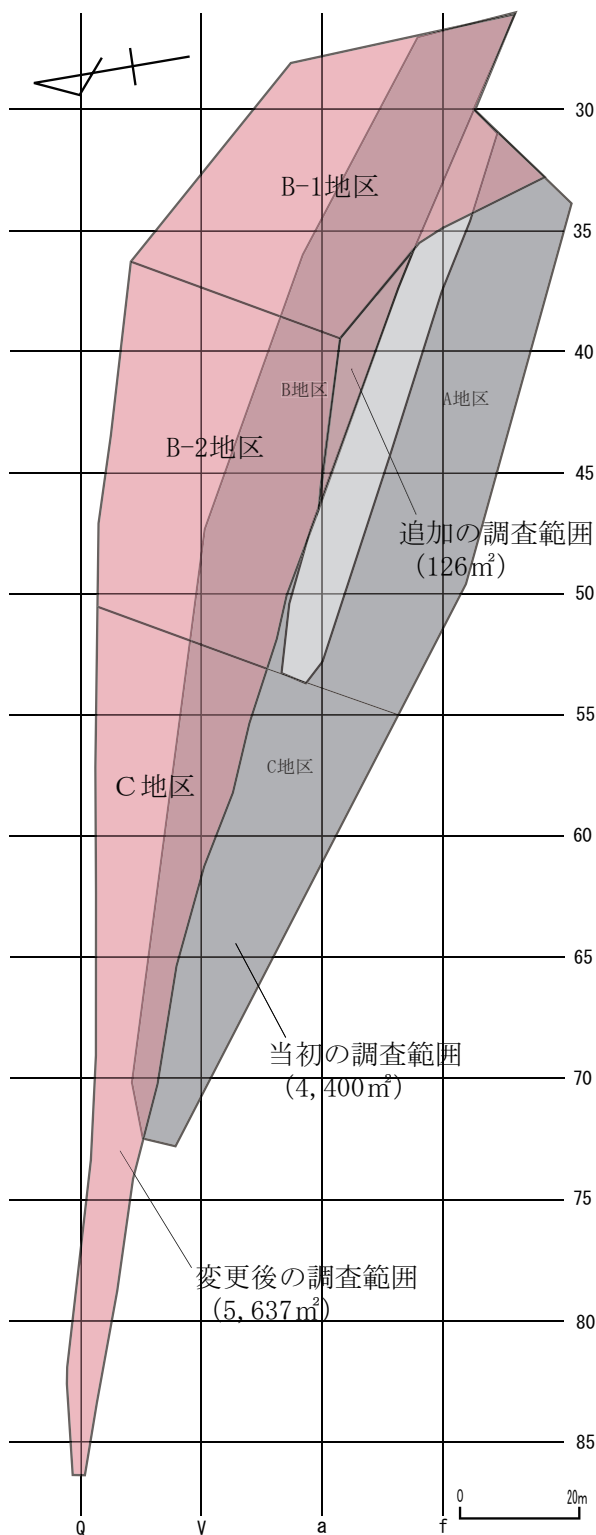


図 I - 5 館野 6 遺跡補償道路部分の調査範囲

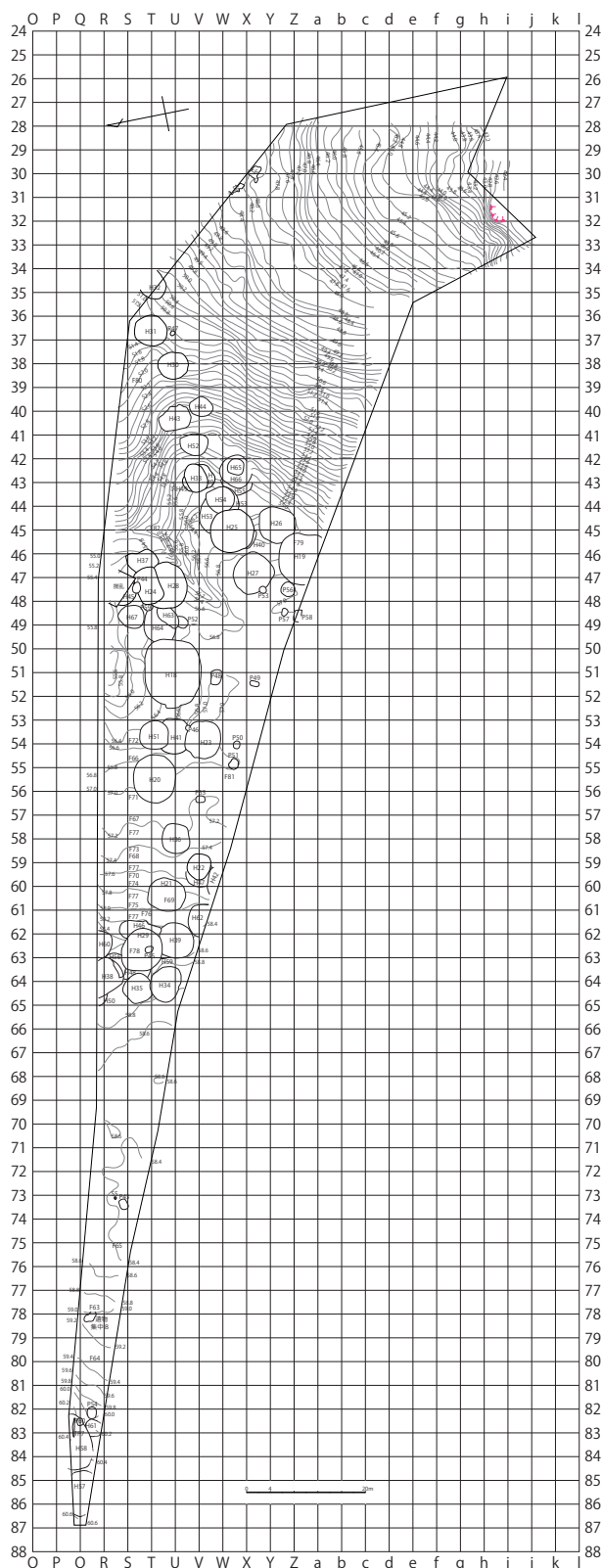


図 I - 6 館野 6 遺跡 遺構配置図

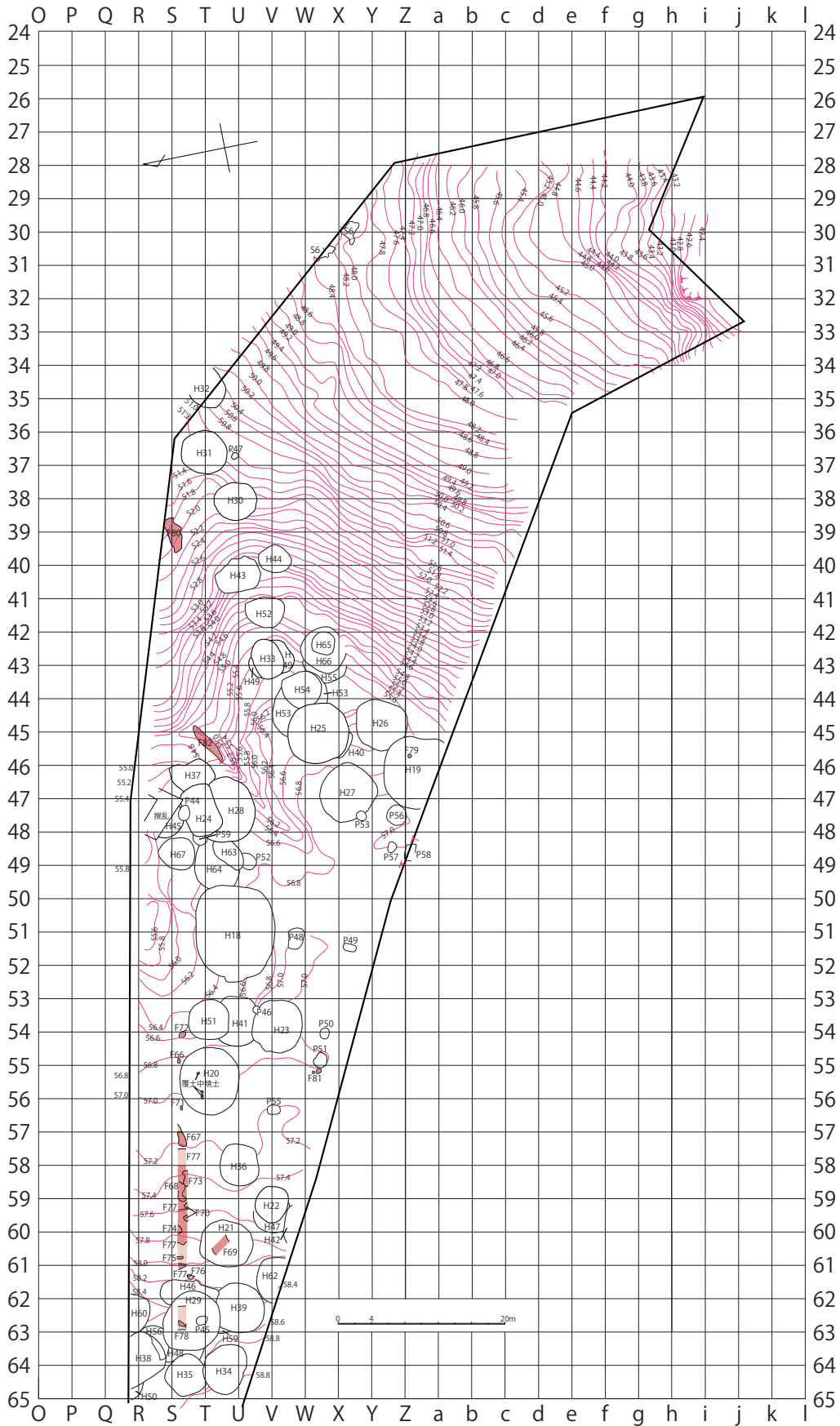


図 I - 7 館野6遺跡 遺構配置図24~65ライン

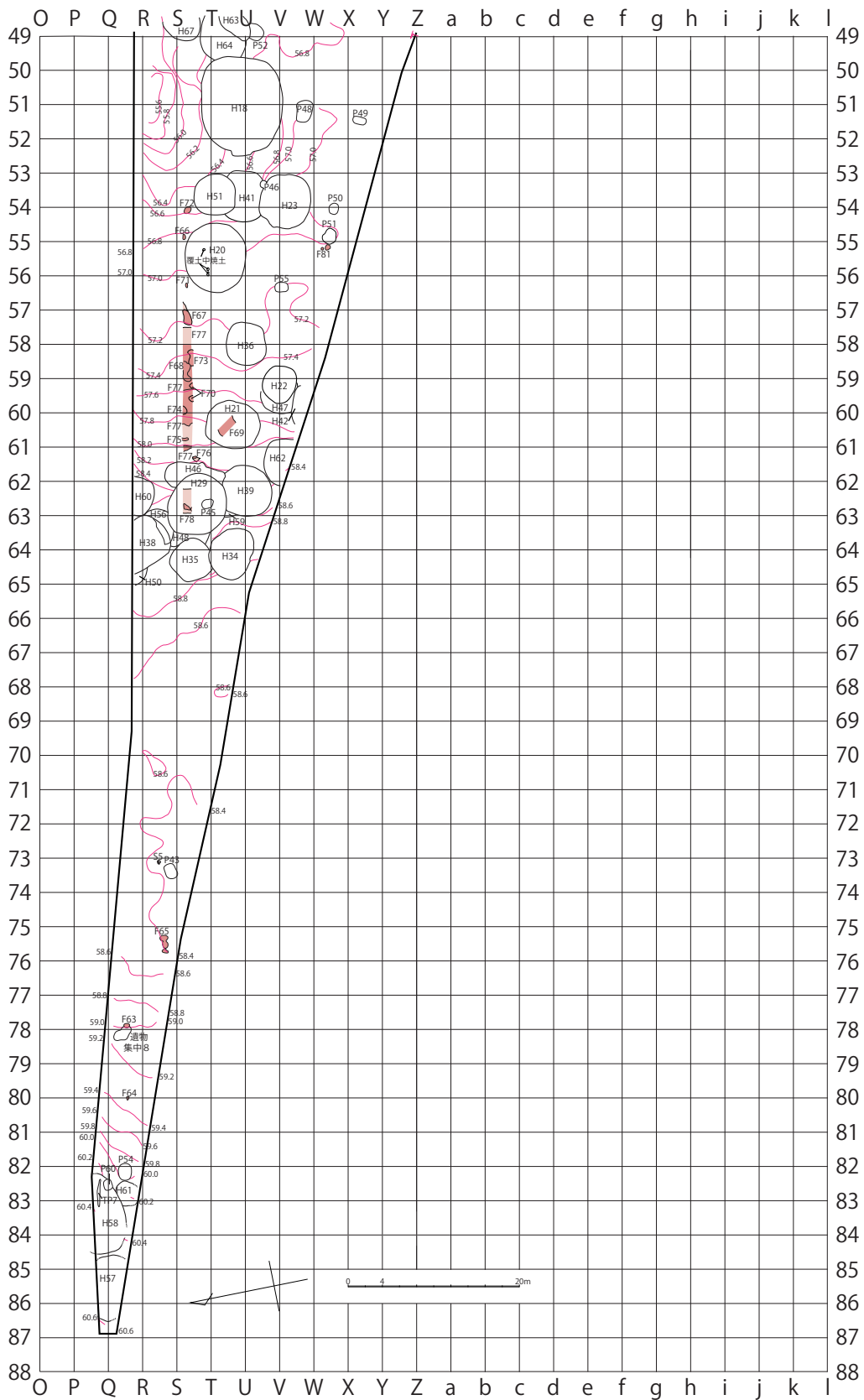


図 I - 8 館野 6 遺跡 遺構配置図49~88ライン

この調査計画をもとに実施計画を策定したが、市道を挟んだ南側部分の用地取得が不調となった。そのため、補償道路は市道の北側に移設して設計することとなった。移設後の範囲の一部は、試掘調査が未了であった。この部分について、関係機関が協議した結果、当初予定範囲に隣接するB-1、B-2、Cの各地区の試掘データを適用し、再度発掘調査計画を策定した(図I-5)。発掘調査を必要とする面積は5,637㎡となり、平成21年に当センターが調査した。

平成21年度の調査は、5月の連休明けから着手予定であったが、調査範囲の大半が植林地で、この木材の伐採、抜根、搬出などの作業がずれ込み、調査の着手は、6月8日となった。

調査着手直後のトレンチ調査で、当初想定にはない、縄文時代前期後半頃の盛土遺構が確認され、相当数の遺構の検出と遺物の出土が予想された。盛土遺構の大半は、試掘調査未実施範囲で確認された。(図I-5・図II-1)

工事工程の都合上、次年度に調査を繰り越すことは難しく、関係機関と協議の結果、現地の一次整理作業人工を現地調査にあて、一次整理作業のうち遺物水洗作業などを次年度以降に実施すること。調査期間の延長および調査員の増員で対応することとなった。

また、道路の設計上、市道と北側へ移設された補償道路範囲の間に、三角形に残る範囲があった。今回の工事の大半が切土工事のため、残存部の遺物包含層の崩落は免れない状態が予想され、関係機関の調整により、この範囲126㎡についても発掘調査を実施することとなり、最終的な面積は、これに加え5,763㎡となった。(図I-5)

調査は、11月13日に終了した。出土した遺物は、現地のユニットハウスに残置し、翌平成22年5月から10月に遺物水洗作業を実施した。遺物分類や台帳作成などの一次整理作業は、平成23年8月から、江別センターの整理作業棟で実施した。

二次整理作業は、平成24年度から実施し、平成28年度以降に調査報告書を刊行することとなった。

(村田)

4 調査の概要

本報告書では盛土遺構についての記載が多い。しかし慣例として盛土遺構以外の堅穴住居・土坑・Tピット・焼土・集石・遺物集中を単に「遺構」と称しているくざりがある。平成21年度の調査館野6遺跡補償道路部分では、遺構として、堅穴住居跡50軒、土坑18基、Tピット1基、を検出した。他に焼土二十か所、集石二か所、遺物集中一か所を検出した。また、円筒下層b1式から下層c式にかけて形成された盛土(M4、M5、M6)、円筒下層d2式の盛土、(M2)、円筒上層a式の盛土的な廃棄場所(H57・H58廃絶後のくぼみ)、サイベ沢Ⅶ式がまとめて廃棄された沢地形(F82)など、廃棄行を伴う盛土遺構および類するものが確認された。以下「(1)住居跡」「(2)土坑」「(3)焼土・その他の遺構」にわけて(図I-6~8)概略を記す。またII章(図II-1~2)とVI章の挿図(図VI-1-2~7)に詳細を示す。盛土遺構については調査過程を踏まえながら、II章で記述する。

(1) 住居跡

堅穴式住居はほとんどが縄文時代前期後半円筒下層式のものである。大型住居・H18は床面近くで潰れていた土器から円筒下層d2式の住居と考える。これら以外の住居はおおむね円筒下層b1式から下層d1式にかけてのもので、円筒下層b式期の範疇のものが多い。一部、円筒下層d1式の可能性があるものもある。その内訳は、

H40・H41は円筒下層b1式の頃。

H26・H37・H43・H56・H67は円筒下層b2式の頃。(H26は円筒下層b2～c式直前)

H45・H46・H47・H48・H50・H51・H55・H60・H63・H64は円筒下層b式の範疇。

H30・H31・H32・H44・H62は円筒下層b式以後の住居。

H33・H49・H53・H54・H66は円筒下層b式から下層c式にかけての頃。

H36は円筒下層b2～c式の頃。(この型式名については第二章4項で解説)

H20・H23・H27・H28・H34・H35・H39・H52は円筒下層c式の頃。

H59・H61は円筒下層c式より古い。

H21・H22・H25・H29・H38・H65は円筒下層d1式の頃。

H42は円筒下層d1式から下層d2式にかけての頃。

H18・H19は円筒下層d2式の頃。

H57・H58は円筒上層a式最古段階の頃。

H24は縄文時代中期前半。

H24は焼失家屋の可能性があり、放射性炭素年代から縄文時代中期前葉の可能性がある。形式的には、三内丸山遺跡の成果(青森県史編さん考古部会 2002・日本植生史学会 2006)を参照にすると円筒上層b式前後の可能性もある。また、H57とH58は床面出土遺物から、縄文時代前期末葉・円筒下層d2式最新段階、あるいは縄文時代中期初頭・円筒上層a式最古段階(報告ではこちらの時期と判断した)の住居であり、先述の円筒上層a式の盛土的な廃棄場所はこの二軒を埋めるように堆積した覆土中を指す。この廃棄場を貝塚に見立てるならば、地点貝塚の様相を呈している。

特徴的な構造としてH25～27・H33は石囲炉を有する(図VI-1-2)。これらは遺物出土状況からは円筒下層b2式から下層d1式の間で、下層c式前後の時期である。しかし形状の類例を踏まえるとH25・26・33は縄文時代中期後半の可能性もある。VI章1項で検討する。

「H18と19」、「H57とH58」は時期と規模・柱穴の配置といった構造から同時期の可能性が高い。

「H27と28」、「H25・26・33」、「H30・31・32」、「H35と39」、「H29と38」もその可能性がある。

また住居の分布をおおよそ下記のa～cの三か所にまとめることができた(図II-1)。

a区:F82が立地する沢地形[39S→50Y区]の南東側、北東向きの斜面に住居が分布する。斜面を登り切った、平坦面には円筒下層d2(H19)→斜面際に下層cから下層d1(H27・H25)→斜面降り際に下層b式から下層d1式にかけての可能性があるものの切りあい(H25・H53・H54・H65・H66ほか)→斜面中腹(調査範囲内において)円筒下層b2式の可能性を持つもの(H43)→斜面ふもと(調査範囲内において)円筒下層b式の可能性があるもの(H30・H31・H32・H44)と続く。

b区:F82が立地する沢地形[39S→50Y区]の北西側、[50R→54V区]にかけては円筒下層b式の住居が並び、部分的に切りあう(H37・H41・H45・H63・H64・H67)上に円筒下層cから下層d1式の住居が切りあったり並んだりする(H20・H23・H51・H28)新しい円筒下層d2式のH18が際立って目立ち、中期の住居H24は焼失家屋である。沢地形[39S→50Y区]F82も縄文時代中期の遺構であるが、時期が若干新しい。

c区:M2盛土が分布する緩斜面[57～65ライン]は円筒下層b式の住居が並び(H46・H47・H48・H50・H60)上に円筒下層cから下層d1式の住居が切りあったり並んだりする(H21・H22・H29・H34・H35・H36・H38・H39・H42・H56・H62)『[39S→50Y区]～[50R→54V区]』より円筒下層cから下層d1式の住居の軒数が多い。

(2) 土 坑

土坑は用途を特定しがたいものが多い中で、石鏃が17点まとまって出土したP43については青森市の石江遺跡、新町野遺跡、稲山遺跡、秋田県大館市池内遺跡に類例があり、墓の可能性が高い。墓の可能性のあるものとしてもう1基、P54がある。土坑底面に小型の付属土坑を2基持つ。1基は壁際、もう1基はほぼ中央でそこから土坑長軸にそって溝が伸びる。中央の土坑をふさぐように円筒下層b式が潰れていた。これも本来の用途から墓への転用という可能性がある。

P50・51・53・56はフラスコ状土坑である。P56は比較的大型で中央に溝が掘られる形状である。坑底面から遺物がまとまって出土した。人骨等は確認できなかったが、墓への転用という可能性がある。

また覆土中から、縄文時代中期前半円筒上層d式の同一個体の土器片が複数出土したP47についても特徴がある。土器は復元に至らなかった。

時期について、列記すると、

P58は不明であるが、縄文時代前期後半の可能性もある。

P54・P55・P59は円筒下層b式の時期。(P59は下層b1式以降で下層b2式以前。)

P50・P51・P57は円筒下層b式以降の土坑という可能性がある。

P43・P53・P56は円筒下層b式からc式にかけての時期。

P46・P49は円筒下層c式以降の土坑の可能性もある。

P48は円筒下層d1式以降の土坑という可能性がある。

P45・P52は円筒下層d2式以降の時期。

P44・P60は縄文時代中期前葉以降のもの。

P47は縄文時代中期前半、円筒上層d式の時期。

(3) 焼土・その他の遺構

F66～78は盛土の堆積を確認するため設定した、Sライントレンチ・Aライントレンチを掘削中に検出した焼土である(図Ⅱ-1)。いずれも盛土遺構の中の焼土で、縄文時代前期後半、円筒下層式土器のころのものである。F77はM4-6層そのもの、F71～74・76もそれに関連する焼土である。F66～68・75・78はM4-6より上位の土層で焚かれた盛土中の焼土である。

F71・75・76は円筒下層b式の前半、F66・F68・F70・F72・F73・F74・F77は円筒下層b2式、F67は円筒下層c式、F69は円筒下層d1式、F78は円筒下層d2式のものである。トレンチ内で出土した点取り土器との対比関係から時期を決定した。

なかでもF78はH29が埋没する過程でその凹み部分で焚かれた焼土である。M3より上位である。F69はH21が埋没する過程でその凹み部分で焚かれた焼土である。

F79はH19覆土中から検出された。円筒下層d2式以降のものである。H19が埋没する過程でその凹み部分で焚かれた焼土である。

F80は斜面において基本層序Ⅲ層下位～Ⅳ層から検出された。H31・30・43・44・52といった堅穴住居跡が連なる尾根筋の北側斜面からの検出である。

F81はP51検出時に同時に見つかったものである。

F82とは先述のサイベ沢Ⅶ式がまとめて廃棄された沢地形[39S→50Y区]の廃棄に伴う沢の埋土である。

65～81ライン付近について基本層序Ⅳ層、いわゆる漸移層が調査範囲内の他の調査区と比較して

発達していない（図Ⅱ-6・Ⅲ-1-128）。土坑墓の可能性のあるP43・P54はこの付近に立地する。F63～64はこのあたりに立地する。Ⅳ～Ⅴ層付近での確認である。酸化した鉄分が赤く発色したものと考える。焼土の可能性も考慮して記録したが、水分により流出した鉄分の固着等も考慮すべきである。この地域のⅣ層が薄い理由として削平された可能性を挙げる。土坑墓の時期からM4盛土の形成と関連する可能性もある。

S5は木根跡に埋められていた礫である。8点の礫が埋められていた。円筒上層d式の土器と同時に検出された。人為の可能性があったので8点のうち1点の叩打痕のある礫を台石に分類、遺構とした。ただしS6、F63に伴う遺物集中8のように人為というより基本層序Ⅵ層より下位の礫層が、風倒木の作用により掘り上がってきた可能性も考慮すべきである。

F63・64・65・81・遺物集中8は縄文時代前期後半以降、F80は縄文時代中期前半以降の可能性はある。いずれも風倒木による掘りあがり、あるいはそこへの水による作用といった、自然の営力の可能性がある。おとし穴TP7やS5は縄文時代中期前葉以降、S6は縄文時代前期後半以降の可能性を指摘したが、いずれも時期は不確定である。

(4) 出土遺物

遺物点数は土器が碎片も含めると、1,452,407点、石器が礫も含めると194,015点である。合計1,646,422点である。（表Ⅰ-3）

土器については盛土・包含層からの出土点数は1,384,584点であるが碎片が746,743点を占める。竪穴住居、土坑といった凹みのある遺構からは67,823点出土している。主体は碎片も含めて縄文時代前期後半円筒下層式である。円筒下層b1式から下層d2式の範疇に収まるものである。次に縄文時代中期前半が多い。円筒上層a式がほとんどで次にサイベ沢Ⅶ式が多い。次に多いのは縄文時代後期前葉である。型式名が不明なものが多いが、涌元式からトリサキ式にかけての範疇におさまるものと考えられる。次に縄文時代早期が多い。コッタロ式、東釧路Ⅳ式を主とする。中期後半については大安在B式が型式としてわかる程度である。Ⅲ群b1類としたものもこの直前くらいのものである。縄文時代晩期は大洞BC～C2式段階のものが少量出土している。

矢不來台場跡が下矢不來川を挟んで当遺跡の対岸にある。それとほぼ同時期の陶磁器が、少量出土している。近現代の陶磁器も若干出土している。遺跡の調査範囲外、矢不來川側の斜面に残された、人工池のある庭園跡や、調査範囲内、北西半分側の耕作痕跡が、近現代の作為と思われる。

土製品では、鐸型土製品や小型舟形器が出土している。焼成粘土塊が886点出土している。土器の中で三番目の出土量である後期前葉の土器が538点なので、点数的にはより多い。

土器の層位的な出土量を見ると、Ⅱ群b類土器、円筒下層式土器以外は包含層Ⅲ層からの出土がほとんどである。Ⅱ群b類土器について、盛土の焼土層M4-6が111,338点の出土であり、これは円筒下層b式が多く出土しているのがわかる。次にM4-3、M4-5と続く、円筒下層b式からc式にかけてが多く出土しているのがわかる。その次に多いのがM2-3、住居出土の土器と続く。

M2とM2-2については、Ⅱ群b類土層すべてを合計しても72,319点である。これはM4-3より少なく、円筒下層d1式から下層d2式にかけての土器出土量がそれ以前の土器型式に比べて、少ない事を示す。

石器については盛土・包含層からの出土点数は158,593点である。竪穴住居、土坑等の凹系遺構からは35,422点出土している。以下、分類別の出土比率を示すがこれは「盛土・包含層」と「凹系遺構」で出土比率の差はほとんど無かった。

出土石器類のうちで、フレイク・チップが圧倒的に多く121,135点、次に礫・礫片が多い。三番目

表 I-3 館野6遺跡出土遺物点数表

土器類出土点数

	I 群b類 土器	II 群b類 土器	III 群a類 土器	III 群b類 土器	III 群b1類 土器	III 群b2類 土器	IV 群a類 土器	V 群土器	近・現代 陶磁器	近世 陶磁器	土製品	焼成 粘土塊	碎片 b類土器	合計
基本層序I層集計	0	389	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	391 I 集計
基本層序II層集計	0	221	22	0	0	0	17	0	0	0	0	0	0	260 II 集計
基本層序III層集計	121	30693	10282	24	0	0	445	86	0	0	4	77	0	41,733 III 集計
基本層序III 2層集計	67	887	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	958 III 2 集計
基本層序III層上面集計	1	7871	32	0	0	2	6	14	1	0	0	16	0	7,943 III 上面集計
基本層序IV層集計	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3 IV 集計
M1 集計	3	49166	40	0	1	27	3	4	0	0	139	6,974	0	56,357 M1 集計
M2 集計	0	18133	10	0	0	0	0	0	0	0	0	84	0	27,795 M2 集計
M2-2 集計	0	48492	125	0	0	5	3	0	0	0	180	25,014	0	73,819 M2-2 集計
M2-2下位集計	0	1852	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1,106	2,964 M2-2下位集計
M2-2最下位集計	0	1225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	700	1,932 M2-2最下位集計
M2-3 集計	7	63312	3	0	0	0	0	0	0	0	0	81	5,389	68,792 M2-3 集計
M2下位集計	0	1337	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	574	1,915 M2下位集計
M2基底部集計	0	1280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1,281 M2基底部集計
M3 集計	0	1009	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	133	1,143 M3 集計
M3-2 集計	0	454	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	454 M3-2 集計
M4-1 集計	0	14178	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8,750	22,936 M4-1 集計
M4-2 集計	0	688	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	659	1,347 M4-2 集計
M4-3 集計	1	76119	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	66,664	142,836 M4-3 集計
M4-4 集計	2	11101	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9	2,459	13,572 M4-4 集計
M4-5 集計	7	63262	0	0	0	0	0	1	0	0	0	31	48	63,349 M4-5 集計
M4-6 集計	5	111338	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	134,069	245,444 M4-6 集計
M5-1 集計	0	5711	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,711 M5-1 集計
M5-2 集計	0	34908	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	34,912 M5-2 集計
M6-1 集計	1	9296	8	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	9,306 M6-1 集計
M6-2 集計	21	38782	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	38,817 M6-2 集計
MT1 集計	0	539	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	540 MT1 集計
MT1~3 集計	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 MT1~3 集計
MT10 集計	0	245	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	16	267 MT10 集計
MT11 集計	1	346	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	355 MT11 集計
MT12 集計	2	221	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	225 MT12 集計
MT13 集計	0	56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57 MT13 集計
MT2 集計	0	1197	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	91	1,292 MT2 集計
MT3 集計	0	634	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	62	702 MT3 集計
MT4 集計	0	733	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	94	836 MT4 集計
MT5 集計	2	593	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	151	753 MT5 集計
MT6 集計	0	272	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	42	318 MT6 集計
MT7 集計	0	334	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	18	357 MT7 集計
MT8 集計	0	551	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	83	637 MT8 集計
MT9 集計	1	464	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	467 MT9 集計
MTD 集計	0	9861	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	9,867 MTD 集計
攪乱集計	0	95	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	80	176 攪乱集計
排土集計	0	46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46 排土集計
風倒木集計	0	118	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	118 風倒木集計
表探集計	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19 表探集計
事故品集計	0	9081	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9,081 事故品集計
住居掘り上げ集計	0	8388	1	2	0	0	0	1	0	0	0	8	0	8,400 住居掘り上げ集計
皿下攪乱集計	0	70	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70 皿下攪乱集計
MTC 集計	242	625609	10525	26	1	34	479	106	2	2	4	811	262,751	37 MTC 集計
盛土包(含塵)出土器合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	900,592 盛土包(含塵)出土器合計
算出碎片数	19	60874	3471	0	1	0	59	0	0	0	4	72	483,992	483,992 算出碎片数
住居出土土器合計	0	1496	51	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6,450 住居出土土器合計
土坑合計	0	928	845	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,549 土坑合計
TP・FIに関連する合計	19	63298	4367	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1774 TP・FIに関連する合計
遺構出土土器合計	261	688907	14892	26	2	34	538	106	2	2	8	886	746,743	6,783 遺構出土土器合計
土器合計														1,452,407 土器合計

にスクレイパー・スクレイパー片が多く出土し6,311点で、被熱礫、Uフレイクと続く。スクレイパーには形状、刃部調整について各種含めたために剥片石器としては量が多くなった。

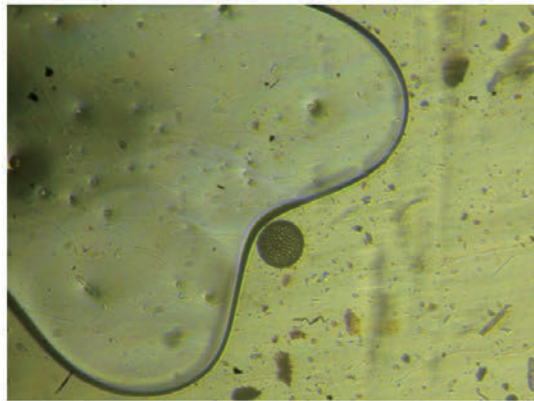
その次に多い、扁平打製石器・扁平打製石器片が定型的な石器の中では1,649点と最も多い。その次には、たたき石・たたき石片が904点と続く。不定形なたたき石に対して定型的な扁平打製石器の量の多さは際立っている。石核、つまみ付きナイフ・つまみ付きナイフ片が800点強、石斧・石斧片、両面調整石器・両面調整石器片、台石・台石片が400点前後、石鏃・石鏃片、石槍又はナイフ・石槍又はナイフ片が300点前後、北海道式石冠・北海道式石冠片、石皿・石皿片、石鋸・石鋸片が150点前後と続く。北海道式石冠と石皿が円筒下層式の遺跡であるため多く出土する予想を立てていたが外れた。定型的な石器で出土量が少ないものは石錘の5点である。前段階の前期前半縄文尖底土器の頃、地域は違うが、北海道中部などでは石錘の出土量が多い。同じ前期でも相反する結果となった。

遺物水洗を停滞させる原因となったのは、盛土の土が基本層序V層土の混在率が高く、粘質が強いいため、II群b類円筒下層式土器に圧着することである。これを洗い落とす際にII群b類土器の胎土のもろさゆえ、細かく割れた破片が発生する。この数字が水洗の作業量の手間に反映される。復原・接合作業の計画をたてる際には見込まれる数字ではない。ただ、実際問題として水洗作業の停滞が今回あった。そこで、数値として復元・接合作業に有効な破片に対してどのくらいの比率が含まれるのか算出した。まず全体の3割5分の袋ごとに、破片の点数を数えた。袋数は遺物収集帳の遺物番号の単位である。残り6割5分についてはその結果の数値で算出した。算出破片数を出すため数えた袋に入っていた破片の作業合計点数は233,275点であった。算出破片数を出すため数えた袋に入っていた破片に対してより細破片の点数262,751点であった。次に二種類の比率を用意した。「比率A：それぞれの「袋ごと」の総細破片数／総破片数(%)の平均1.353463」と「比率B：数えたすべての総細破片数／総破片数(%) 1.126357」である。盛土遺構と包含層から出土したII群b類の合計点数は623,620点である。合計点数623,620点から作業合計点数233,275点を引くと未作業合計点数は390,345点である。未作業合計点数390,345点に比率Aをかけると528,317.5147点である。次に未作業合計点数390,345点に比率Bをかけると439,667.8231点である。簡単ではあるが偏りを極力少なくするため双方の平均をとると483,992点となった。

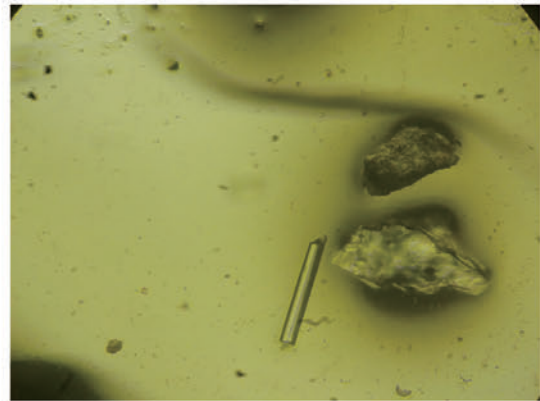
5 遺跡の位置と環境

館野6遺跡は海岸線から約200m離れている。函館湾に面した海岸段丘上に立地する。湾の対岸に函館山を望む。遺跡が立地するのは標高52~58mの段丘である。遺跡両側は河川によって開析されている。南は下矢不來川、北は矢不來川である。本線部分は補償道路部分とは沢地形によって分断されているため、それぞれが独立した平坦面となっている。(図I-3・4)

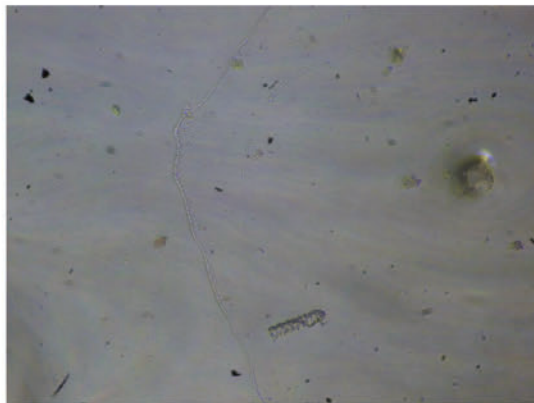
遺跡周辺の地形は海岸段丘によって構成される。本線部分報告書(2013)において、藤井 浩が宮内・八木(1984)を用いて、段丘面を四面に分類している(図I-2に再掲載)。段丘面1(高度60~120m)は宮内・八木分類H2面相当、段丘面2(高度50~80m)は同分類M1面、段丘面3(高度15~70m)はM2面、段丘面4(高度10~38m)はM3面に相当する。当遺跡は段丘面3に立地する。これは、もっとも低い海よりの段丘面で、周辺の遺跡(縄文から現代にいたるまで)もこの面に立地するとした。遺跡の多くはこの面が細かく開析されて部分的になった平坦面上に位置し、背後には段丘面1にいたる緩やかな斜面が続いている(図I-2・3)。地質図で確認すると、H面・M面相当部分には礫・砂及び泥といった中位段丘堆積物(第四紀のもの)が分布している。その丘陵背面には泥岩、泥質砂



海棲珪藻 (*Thalassiosira*類か)



海綿骨針か

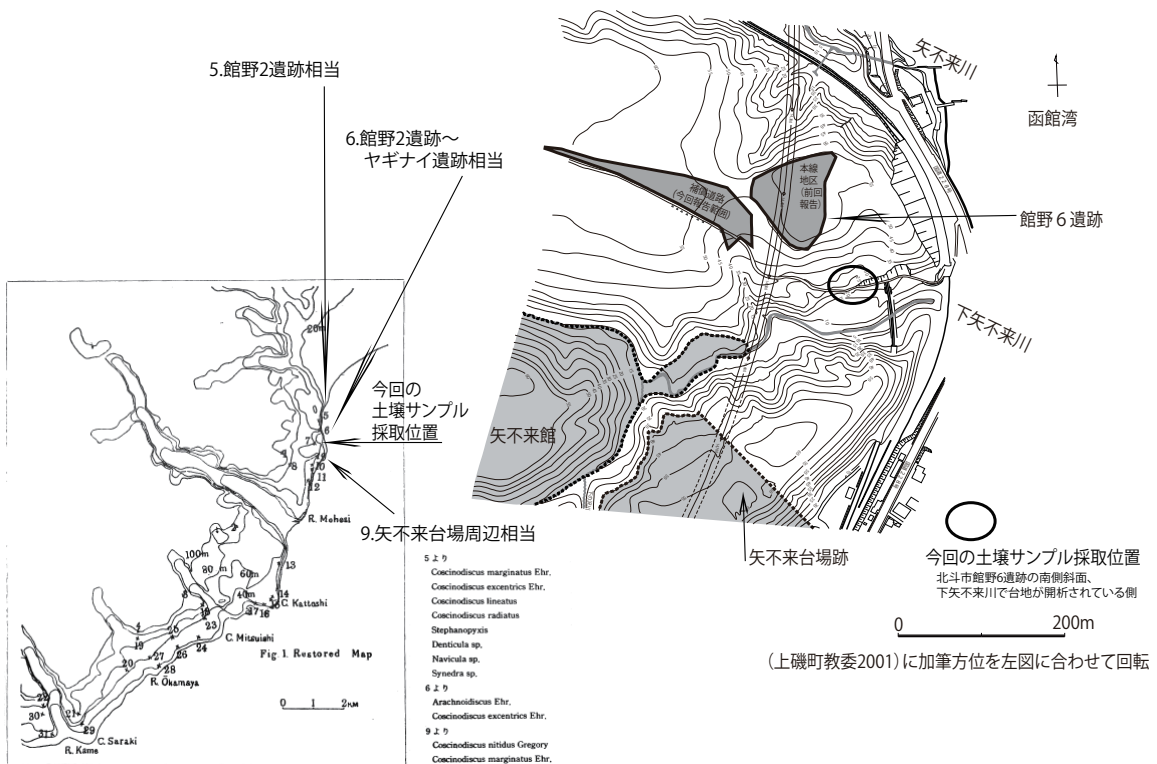


羽根珪藻属か *Pinnularia borealis*か 湿っている土壤や砂丘からよく産出



海綿骨針か

×100の顕微鏡で検視し、デジタルカメラを接眼レンズに押しつけて撮影



5,6,9を茂辺地面としたうえで・・・

「*Coccinodiscus*系のは何れも海棲であり、又*Stephanopyxis* sp.も*Arachnoidiscus* Ehr.も海棲であるから、茂辺地面は海成段丘と云う事が出来る」

「北海道松前半島東岸の海岸段丘について」瀬川秀良1959『東北地理』を改変

・・・と本文に記載がある。

図 I - 9 海綿骨針 海棲珪藻ほか

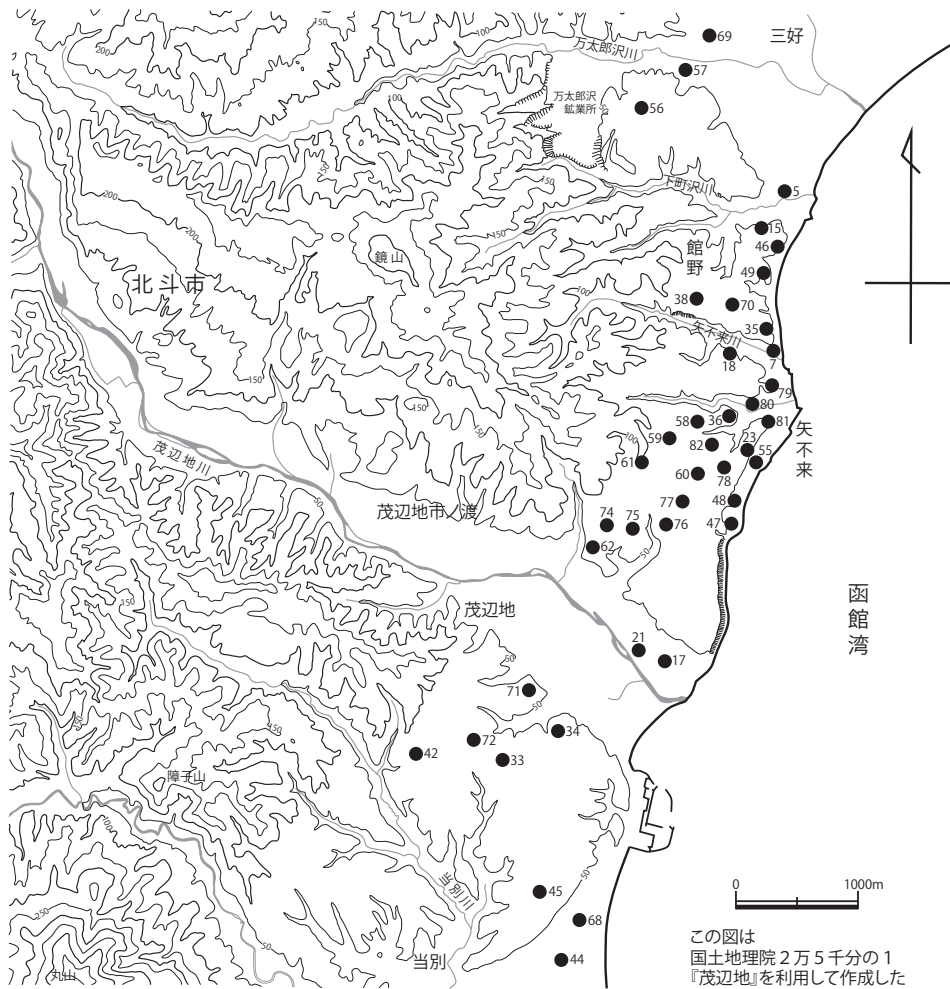


図 I - 10 館野6遺跡周辺遺跡地図

表 I - 4 館野6遺跡周辺遺跡一覧

登録番号	遺跡名	種別	所在地	立地	標高(m)	時期	調査・報告等
B-06-5	寺屋敷遺跡	遺物包含地	高川	丘陵	10~30	縄文	国立歴史民俗博物館2001
B-06-7	ヤブナイ遺跡	遺物包含地	館野	丘陵	10~11	縄文中期・後期・晩期	市教委2009b
B-06-15	館野遺跡	遺物包含地	館野	海岸段丘	50	縄文	遺理文2006(237)
B-06-17	茂野遺跡	集落跡	矢不來	海岸段丘	20~55	縄文早期~晩期・続縄文前半期	上磯町1997 遺理文1998(121) 国立歴史民俗博物館2001
B-06-18	矢不來遺跡	遺物包含地	館野	舌状台地	50~60	縄文中期	国立歴史民俗博物館2001
B-06-21	茂野館跡	城館跡	矢不來	海岸段丘	30	中世	藤本1980 国立歴史民俗博物館2001
B-06-23	矢不來台場跡	台場跡	矢不來	海岸段丘	60	近世	町教委2001 森2002
B-06-33	茂野2遺跡	遺物包含地	茂野地	海岸段丘	65~70	縄文中期・後期	
B-06-34	茂野地1遺跡	遺物包含地	茂野地	海岸段丘	55~65	縄文中期	
B-06-35	館野2遺跡	遺物包含地	館野	海岸段丘	50~57	縄文中期・後期	町1981 遺理文2011(283)
B-06-36	矢不來館跡	城館跡	矢不來	舌状台地	55~60	中世	藤本1980 町教委2001 森2002
B-06-38	館野3遺跡	遺物包含地	館野	丘陵	80	縄文中期	
B-06-42	当別川左岸遺跡	遺物包含地	当別	丘陵	75	縄文後期	
B-06-44	当別4遺跡	遺物包含地	当別	海岸段丘	51	縄文早期	
B-06-45	茂野地3遺跡	遺物包含地	茂野地	海岸段丘	50~60	縄文、縄文	
B-06-46	富川砲壘跡	砲壘跡	館野	海岸段丘	50	近代	町教委1987
B-06-47	矢不來2遺跡	遺物包含地	矢不來	海岸段丘	40	縄文前期・中期・後期・続縄文	遺理文1987a(37)
B-06-48	矢不來天満宮跡	神社跡	矢不來	海岸段丘	43~49	中世、近世	遺理文1988(47)
B-06-49	館野4遺跡	集落跡	館野	海岸段丘	50~55	縄文中期・後期	遺理文2006(235)
B-06-55	矢不來3遺跡	集落跡	矢不來	海岸段丘	7~9	縄文	町教委1990a
B-06-56	柳沢1遺跡	遺物包含地	柳沢	丘陵	80~90	縄文後期・晩期	
B-06-57	柳沢2遺跡	遺物包含地	柳沢	段丘斜面	30	縄文中期・後期	
B-06-58	矢不來4遺跡	遺物包含地	矢不來	舌状台地	70	縄文中期	
B-06-59	矢不來5遺跡	遺物包含地	矢不來	傾斜地	80	縄文後期	
B-06-60	矢不來6遺跡	集落跡	矢不來	台地	60~66	縄文後期	遺理文2006(235)、2008(257)
B-06-61	矢不來台場跡2	台場跡	矢不來	丘陵	60	近世	
B-06-62	矢不來7遺跡	集落跡	矢不來	河岸段丘	20~30	縄文中期・後期・晩期、縄文	遺理文2006(232)
B-06-68	当別5遺跡	遺物包含地	当別	海岸段丘	50	縄文	
B-06-69	柳沢3遺跡	遺物包含地	柳沢・三好	丘陵	15~25	縄文中期・後期	
B-06-70	館野5遺跡	遺物包含地	館野	海岸段丘	52~60	縄文後期	
B-06-71	トドメキ川左岸遺跡	遺物包含地	茂野地	海岸段丘	50~70	縄文	
B-06-72	茂野地4遺跡	遺物包含地	茂野地	海岸段丘	70~80	縄文	
B-06-74	矢不來8遺跡	遺物包含地	矢不來・館野	台地	50~60	縄文中期・後期	遺理文2006(232)、2007(244)、2010(272)
B-06-75	矢不來9遺跡	遺物包含地	矢不來	台地	60~70	縄文中期・後期	遺理文2008(257)、2010(272)
B-06-76	矢不來10遺跡	遺物包含地	矢不來	台地	60~65	縄文	遺理文2007(244)、2008(257)、2010(272)
B-06-77	矢不來11遺跡	遺物包含地	矢不來	台地	60~65	縄文	遺理文2006(235)、2008(257)、2010(272)
B-06-78	矢不來12遺跡	遺物包含地	矢不來	海岸段丘	60~65	縄文後期	
B-06-79	館野6遺跡	集落跡	館野	海岸段丘	50~55	縄文前期・中期・後期	
B-06-80	館野7遺跡	遺物包含地	館野	海岸段丘	50~55	縄文前期	
B-06-81	矢不來13遺跡	遺物包含地	矢不來			縄文後期	
B-06-82	矢不來14遺跡	遺物包含地	矢不來	海岸段丘	55~60	縄文中期・後期	

岩及び酸性凝灰岩（鮮新世）館層が分布している。

館層には海棲の珪藻化石が多く含まれている。土器胎土に含有する生物起源粒との関連を考察すべきである、と、当センター所属の花岡正光・大沼忠春によって、新道4遺跡（1987）報告に述べられている。またM2面とM3面相当の段丘構成層から海棲珪藻が確認されている。館野2遺跡、矢不來台場付近採取の二か所の試料から検出されている（瀬川 1959）（図I-9）。

本線の館野6遺跡本線地区南脇に北斗市道が通っている。補償道路の対象となった市道の国道あるいは鉄道よりの部分である。そこは下矢不來川に面した台地脇部分が削られて造成されていた。その露頭から土壤試料を採取した。35%過酸化水素水に土壤試料を24時間浸して、有機物を除去した。それから薬品を洗浄し、保管した。プレパラートはその洗浄後の沈殿物の細かいものをホットプレートに置いたカバーガラスにピペットで滴下、水分をとばした。スライドガラスに和光純薬工業株式会社製「マウントメディア」を滴下し、カバーガラスについた試料を封入した。顕微鏡で100倍にして検鏡した。珪藻らしきもの、海綿骨針らしきものを見つけたため、その顕微鏡画像をデジタルカメラで撮影した。したがって撮影画像にスケールは入っていない。

撮影画像を、北海道博物館の添田雄二氏に鑑定を依頼した。以下、氏の知見を交えての記載である。『スケールがわからないため断言はできない。すべて「可能性がある」という前提』である。海綿骨針と海生の珪藻*Thalassiosira*類、加えて*Pinnularia borealis*と思われるとのことである。*Pinnularia borealis*は、湿っていれば陸域でも生きることができ、遺跡の土壤や砂丘砂から普通に産出する（図I-9）。当遺跡出土の土器胎土には海綿骨針が含まれるものがほとんどである。周辺から採取された粘土を用いて、土器を制作している可能性がある。資料蓄積のため胎土分析等も行った（第V章5項）が、確定的な結果を導く途中段階といえる。

6 周辺の遺跡（図I-10・図VI-4-1）

平成20年度調査、館野6遺跡本線部分（平成24年度報告）からは竪穴住居17軒、土坑42基、Tピット6基、小ピット198基、焼土六十二か所、フレイク集中十四か所、遺物集中七か所、集石四か所、埋設土器5基を検出し、遺構として報告書に記載した。本線部分調査区中央には断層を伴う地すべり痕が浅い沢状地形を呈する。この沢より北側には縄文時代前期後半の遺構があり、中には円筒下層b式土器がまとまって出土した遺物集中4がある。住居と離れた沢地形そばでは当該期のフラスコ状土坑P-14および同時期の埋設土器が5基検出されている。一方で、沢地形の南側では縄文時代中期後半の遺構が目立つ。出土遺物の総点数は119,462点である。遺構出土遺物は43,686点（土器22,612点、石器等21,074点）、包含層出土遺物は75,766点（土器49,585点、石器等26,191点）である。時期は縄文時代早期から続縄文時代にかけてである。縄文時代前期後半、円筒下層b式期のものを主体とする。ついで縄文時代中期中葉、サイベ沢Ⅶ式期のものが多い。今回、調査・報告の館野6遺跡補償道路部分においては、縄文時代前期後半の盛土遺構と、同時期の竪穴住居跡を主として検出している。

館野6遺跡と同じ段丘の矢不來川上流側、山側には矢不來遺跡がある。縄文時代中期の遺物包蔵地とされる。国立歴史民俗博物館落合計策コレクションにも同名の遺跡出土遺物がある。一方、下矢不來川側、削平されてより低位となった斜面部分に、館野7遺跡がある。縄文時代前期の遺物包蔵地とされる。

下矢不來川を挟んで対岸には海側のM2面（宮内・八木1984、以下の「M・」も同様段丘の名称・図I-2参照）に近世（18世紀）の矢不來台場跡、山側のM2～3面にかけて中世（15世紀後半～16世

紀初頭)の矢不來館跡がある。さらに、削平されてより低位となった斜面部分に、矢不來13遺跡がある。ここは縄文時代後期の遺物包蔵地とされる。

矢不來台場跡は函館湾を挟んで押付台場跡と向い合う。矢不來台場跡は矢不來館跡とともに、上磯町教育委員会が国庫補助事業によりトレンチ調査を行った。この結果にもとづいて平成13年7月、国土交通省北海道開発局函館開発建設部によって道路工法変更がなされ両遺跡の保存が決定した。

矢不來川を挟んで対岸にはヤギナイ遺跡、館野2遺跡、館野3遺跡がある。

ヤギナイ遺跡はM2面の開析された低位部分、標高10~11mにある。縄文時代中期から晩期の遺跡とされる。中国製の青磁片が採集されたこともある。包蔵地の上方には、旧福山街道と思われる小道が残るといふ。2009年の北斗市教育委員会の調査では縄文時代後期から晩期にかけての遺構・遺物が出土した。

館野2遺跡はM2面にある。遺跡内には2本の沢があり、遺跡を分断している。これまでに1980年に上磯町教育委員会が、2007年に当センターが発掘調査している。2007年の調査では、沢で分断された遺跡について北側からA地区、B地区(1980年のA地区に相当)、C地区(1980年のB地区)としている。1980年の調査では、縄文時代早期、中期~後期初頭にかけての遺物が出土しており、B地区(報告ではA地区)は後期前葉を主体とする。C地区(報告ではB地区)から中期後半の住居が5軒検出されている。2007年、当センターのA地点の調査では、旧石器のブロッカーか所が検出された。他に縄文時代早期~後期前葉の遺物が出土した。遺構は縄文時代中期前半、後期前葉のものと考えられ、後期の大津式~白坂3式が主体である。同年のB地点の調査では縄文時代中期前半から後期前葉の遺構が検出された。遺物もやはり縄文時代中期から後期のものが出土しており、後期前葉の土器が主体となる。C地区の調査では縄文時代早期中葉、中期、後期前葉、晩期、続縄文前半の遺物が出土している。遺構としては縄文時代中期前半円筒上層b式土器の集落が主なもので、中期全般の竪穴住居が検出されている。シャチ形土製品に加えて石冠様石器などの中期の石製品等が豊富である。

館野2遺跡と同じ段丘上、矢不來川上流側、山側には館野3遺跡がある。標高80m程で、ここはM1面である。縄文時代中期の包蔵地だが、道路断面に竪穴住居とみられる黒土の落ち込みがあるという。また、ここにはかつて長方形の土塁があった。大正~昭和期初期の火薬庫に付属する土堤と考えられた。松前江差線(昭和11年開通)のトンネル工事に使用した火薬類の貯蔵庫とする説が有力である。ここでは館野6遺跡周辺の遺跡のみについての概説にとどめ、以下、Ⅵ章4.「館野~矢不來地区の遺跡」において近年の調査動向を踏まえた様相を述べる。函館茂辺地道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査の総括とする。

(大泰司)

II 調査の方法

1 調査区の設定と座標値

館野6遺跡のグリッド設定にあたっては、国土交通省北海道開発局函館開発建設部が作成した「函館江差自動車道上磯町館野矢不來間用地測量用地平面図」1/1,000図を基本図として使用し、路線内の測点SPを基準点として用いる。測点SPを二か所直線で結びグリッドラインの基軸とし、それに直交するラインを設け4m×4mの方眼を発掘区に設定している。測点SPに平行するラインにアラビア文字を用い、直交するラインにはアルファベットの大文字を使用した。なお、測量成果は平面直角座標系X I系の値（世界測地系）である。以下に測点と設定の基準を示す。

測点SP14,400-SP14,500間を「20」ライン、SP14,400に直交するラインを「M」として発掘区にグリッドを設定（調査区設定 図I-3・4）。なおSP14,400及びSP14,500の測量成果および水準測量に使用した基準点は次の通りである。

SP14,400 (20M杭)	X = -245,525.262	Y = 30,528.574
SP14,500	X = -245,623.291	Y = 30,508.914

2 発掘調査の方法と経過

北斗市道は調査区内を30g区付近から35d区付近にかけて横切っており道路切り替えを伴う調査が必要とされた。さらに、この市道は、地図上においては調査区南側に沿っている筈であった。しかし、ここは無舗装の道路であり、地形なりに走りやすい部分を車両が通行した結果、68U区付近から70R区付近へかけて調査範囲を横切っていた。そのため道路切り替えの工程が加わった。

表土除去は5月18日から開始された。そこで、杭打設は5月28～29日頃から開始できる見込みとなった。5月22日に伐採は終了した。

調査に伴い、雨天時など濁水が発生する可能性があった。そこで、濁水対策を講じた。調査範囲縁辺の外側に土嚢を積み、そのすぐ内側に溝を設けて濁水が流れるようにした。溝を流れた水は、調査範囲の斜面下側に掘り込まれた沈砂池に流れ込む。沈砂池には濁水をろ過するためのろ過材（パイオと呼ばれていた）が備え付けられた。

表土除去前、現地確認の段階から、51U区近辺は木がまばらであったことから、明瞭な窪みが確認できた。表土除去後、周辺を精査した。すると直径8m前後のいびつな円形をした深さ50cm以上の窪みを検出した。窪みの周りを取り囲むようにして灰黄褐色土が分布する（図Ⅲ-1-12）。その幅4mほど、ところどころではそれ以上あった。灰色黄褐色土は基本層序Ⅲ層とⅤ層が混在し、Ⅴ層の方が多量な土であった。遺構の掘り上げ土と思われた。大型竪穴住居が埋没、そしてその周囲に掘り上げ土が周堤状に残されたと考えた。H18の名称を付けた。

表土除去時に63R区のあたりに丸型スコップの幅で、正方形の試し掘りを行った。すると、65ラインより東側ののぶい黄褐色土が深く続いており、50cmほど掘り下げても、まだ連続していた。これは盛土の可能性があると考えた。表面から採取できる土器片は円筒下層d2式土器であったため、この時期の盛土があると想定していた。

表土除去後、遺跡の状況が若干見えてきた。36S区から48Z区にかけて尾根状の地形があっ

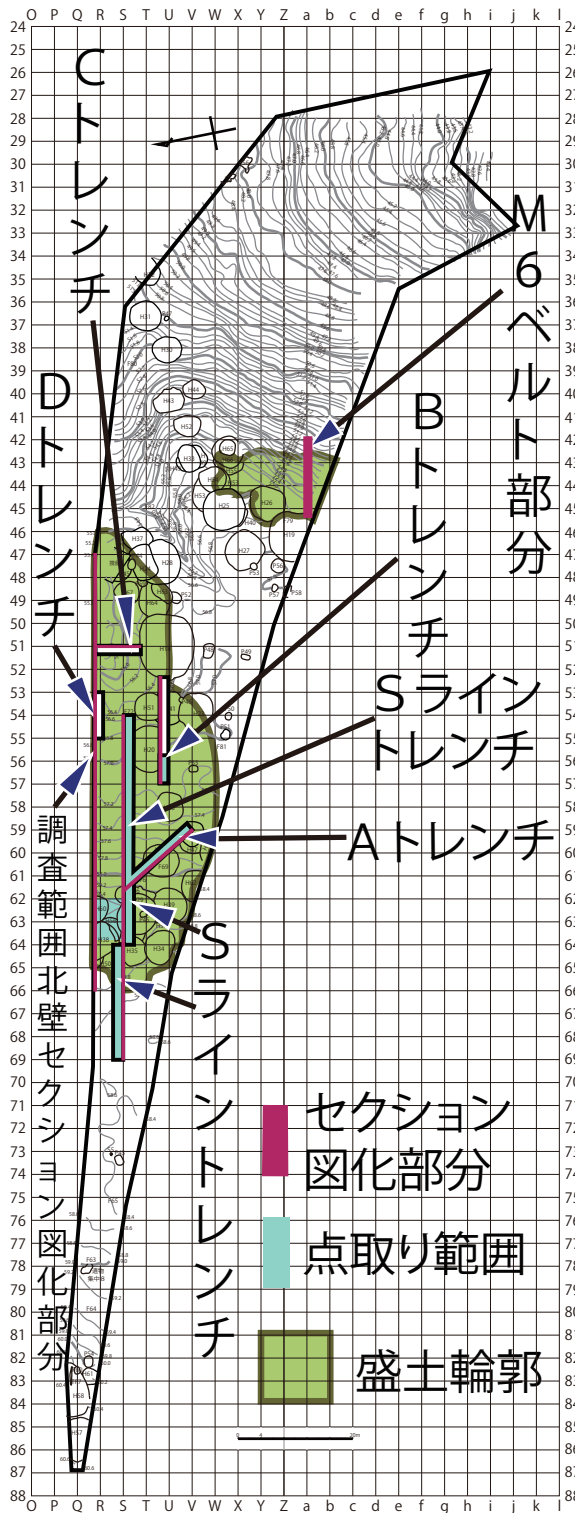


図 II - 1 盛土とトレンチの位置関係図

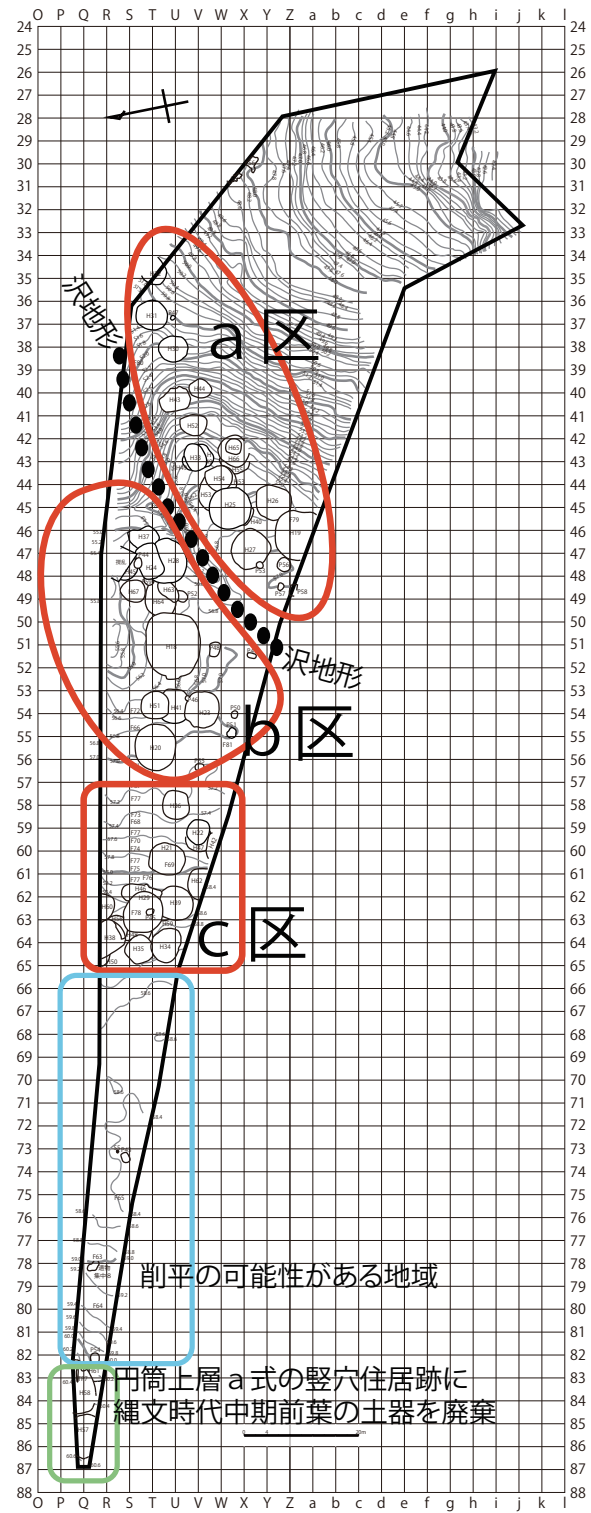


図 II - 2 遺構の位置関係図

た。ここに竪穴住居跡を思わせる窪みが検出された。またこのすぐ北側、45S区から49X区にかけて沢地形が走っていた。後にサイベ沢Ⅶ式の廃棄場所であるF82を検出した沢〔39S→50Y区〕の一番深い部分である。この沢のさらに北側、斜面を登り切った台地縁46～50ライン付近にも竪穴住居跡を思わせる窪みが検出された。盛土が想定できる場所に、竪穴住居らしき窪みが無かったため、盛土部分に竪穴があっても盛土で覆われている可能性があった。逆に63R区近辺の盛土はここまで伸びていない可能性があった。

竪穴住居跡と思われる窪みや、盛土の性格を知るためにトレンチ調査をする必要があったが、まず、調査を展開するにあたっては、広い廃土場が必要であった。

68U区付近から70R区付近へ向かって斜めに調査区を横切る北斗市道路西側は現代の耕作を受けていた。まずはその68～81ラインの間の調査区を先行して行った。

調査当初の廃土場が無い段階では、廃土で土嚢を作った。そして、雨天時に、調査範囲内で濁水が発生した場合に備えて、その土嚢で調査範囲の縁辺をとり囲んだ。

道路に近い側から6～7つの調査区をひとまとまり、2～3ラインごとに調査を進めていった。終了した調査区を廃土場とした。廃土場が満杯になった段階で、道路を利して、重機による廃土搬出を行った。このようにして廃土場を広げて行き、調査範囲西側の廃土場を確保した。(この部分の道路切り替えは9月19日に行った。午前中に廃土処理、午後に道路切り替え工事。)

また同時に、調査範囲内の南東側33h区付近および26～30-d～j区について、市道の道路切り替え、そして、濁水対策の設備機能を完璧にするために、ここを掘削せねばならなかった。そのため、優先して調査する必要があった。

さらに加えて、発掘調査計画策定B-1地区の25%調査(隣接する4調査区のうち1調査区を掘り下げて遺跡の傾向、遺物の出土状況、遺構の有無、を調べる調査)を行った。遺物が少ないことが想定でき、調査を優先的に、効率よく進めることで廃土場を確保、その後の作業のさらなる効率化を望めたためである。その結果、31W杭—35W杭—35X杭—37X杭—37c杭を結んだラインの南側に遺物が少なく、遺構も検出されなかった。そこでこの場所を一気に掘り下げて遺構確認を行い、調査を終了した。調査範囲内東側の廃土場を確保となった。

次に、H18の調査、および36～50ライン近辺の竪穴住居らしき窪みの調査、および盛土のトレンチ調査を同時に開始した。(図Ⅱ-1)この頃、雨あがりの調査範囲内表土除去後表面に、円筒下層c式頃の土器破片が洗い出されるようになってきた。円筒下層d2式の盛土の下に円筒下層c式以前の遺構がある可能性が出てきた。Sライントレンチ調査が進むと、円筒下層d2式の下に円筒下層b式からc式にかけての盛土遺構があることが確認できた。その盛土には竪穴住居が複数軒、掘り込まれている状況も判明してきた。

盛土の性格が見えてきた段階で、調査範囲の西端、81～87ラインの間、H57、H58の調査を開始した。竪穴住居跡覆土中の縄文時代中期の廃棄場、住居跡そのものとそれらと切り合う遺構群の調査である。

盛土のトレンチは当初3本設定した。広く全体の様子を知るための調査区Sラインに沿って設定したSライントレンチ、形状と土層堆積の関係を観察するため、地形を反映して設定したAトレンチ、盛土の分布範囲を確認するため盛土の縁と思われる場所に設定したBトレンチである。(図Ⅱ-1)

H18掘り込み面、H18掘り上げ土、その下の盛土といった、H18北側の堆積状況を知るために、H18平面形短軸断面観察用土手から51ライン沿いにトレンチを伸ばして、掘り下げた。これをCトレンチと称した。(図Ⅱ-1)

加えて、53R区から54R区にある黒色土入り込みの性格を確認するためのDトレンチを掘り下げた。

最初、H18のような大型住居を想定したが、壁面・床面が検出できず、自然地形と判断した。(図Ⅱ-1)

Sライントレンチは65～69ラインまでをSライン上で、54～65ラインまでをSラインより南側に1mの幅で土層観察用ベルトを設けて記録した。

Aトレンチは61T杭と59V杭を結んだラインを北側はSライントレンチにぶつかるまで、南側は59V区にあるH22の南側壁面にぶつかるまで延長して設定したものである。表土除去後の地形から盛土の形状の短軸断面形状を反映させて設定した。

Bトレンチは盛土の広がりを確認するためSライントレンチに平行なトレンチを平面的な土色的分布から、盛土の縁と思われた54U杭から56U杭にかけて設定した。そのままH18掘り上げ土分布を確認するトレンチを拡張、基本層序V層ローム層まで掘り下げた。最終的に53U杭から56U杭の間に加えて、52U区はH18まで拡張とした。

Cトレンチ(51ライントレンチ)はもともとH18の掘り上げ土の土層断面を確認するために設定したトレンチである。51-Q～S区にまたがる。土層観察が急務であった遺物はまとめて取り上げた。

Dトレンチは、53R区と54R区はH18のような大型住居を想定したものである。住居トレンチを想定したためMTD(盛土のトレンチD)という層位(注記)でまとめて遺物を取り上げた。土層は調査範囲北壁の土層図中に記録がある(図Ⅱ-32)

51ライン以東は調査範囲北側の壁にトレンチを開けて土層を確認し、盛土調査の目安とした。最終的には調査区北側壁47～66ラインにかけての土層堆積を記録して盛土遺構の理解に努めた。

現場での写真撮影は主に以下の機材を使用した。

カメラ	マミヤ RZ67Pro II
レンズ	マミヤ・セコール50mmF4.5 マミヤ・セコール60mmF4L-A マミヤ・セコール90mmF3.5mmF3.5W マミヤ・セコールマクロM140mmF4.5m/L-A
フィルム	FUJIFILM NEOPAN 400 FUJIFILM PROVIA 400X

3 整理作業の方法

1. 一次整理

平成21年度は写真整理、図面整理を中心に行った。平成22年度は遺物水洗を中心に作業した。加えて土壌水洗、図面整理等を行った。平成23～24年度は遺物整理台帳付けおよび遺物注記を中心に行った。また、土壌水洗の結果を選別し、植物遺存体、動物遺存体を抽出した。

2. 二次整理

平成24～27年度は、土器片の接合、その結果を反映させての復元を主体として行った。土器および石器について、実測遺物の抽出を行い、図化を行った。また撮影できる遺物については随時、写真撮影を行った。

3. 室内撮影

二次整理後の報告書掲載遺物は室内にて撮影をし、写真図版を作成した。室内での写真撮影は以下の撮影機材を使用した。

土器撮影 吉田担当

カメラ	サカイマシントール TOYO-VIEW45G II
レンズ	ニコン NIKKOR-W210F5.6
撮影台	サカイマシントール 無影撮影台 及び ウェイトスタンド
ストロボ	コメットCA3200 発光部 (32H)
デフューザー	ライトバンク・アンブレラ
フィルム	FUJIFILM NEOPAN100ACROS FUJIFILM PROVIA 100F

石器撮影 主に中山担当

カメラ	サカイマシントール TOYO-VIEW45G II
レンズ	ニコン NIKKOR-AM ED210F5.6
撮影台	サカイマシントール 無影撮影台 及び ウェイトスタンド
ストロボ	コメットCS-2400T II 発光部 (25H)
フィルム	FUJIFILM NEOPAN100ACROS FUJIFILM PROVIA 100F
デジタルカメラ	シグマDP3メリル

スタジオ撮影した台帳はパソコンに入力した。その結果について、吉田が主体となって、被写体による検索が可能なデジタルデータベースとして管理している。

4 遺物の分類

(1) 土器等

縄文時代の各期について、a・b類に分けたものは前半と後半の二段階、a・b・c類に分けたものは前葉と中葉、後葉の三段階に区分したものである。

I 群 縄文時代早期に属する土器群

a類：貝殻復縁文・条痕文・沈線文のある土器群。(今回は出土していない。)

b類：撚糸文・絡条体圧痕文・短縄文のある土器群。コッタロ式、中本格式、東釧路IV式などに相当するもの。

II 群 縄文時代前期に属する土器群

a類：縄文尖底・丸底土器など。春日町式・石川野式・静内中野式などに相当するもの。(今回は出土していない。)

b類：「円筒土器下層式」とも言われる型式である。今回の出土のほとんどであり、当遺跡の調査範囲において円筒下層b式から円筒下層d式までが出土した。これらに加えて、次段階の縄文時代中期円筒上層a式にかけて連続性が高かった。時期細分(表II-1)するにあたりVI章2項に記載した手順で作業を行った。要約すると、まず凹系遺構廃絶後の覆土中廃棄のまともりから、円筒下層c式、円筒下層d1式、円筒下層d2式、縄文時代中期円筒上層a式について基準を定めた。次に盛土遺構出土遺物について、検討した。円筒下層c式の定義を円筒下層b2式新段階と円筒下層c式の間に一段

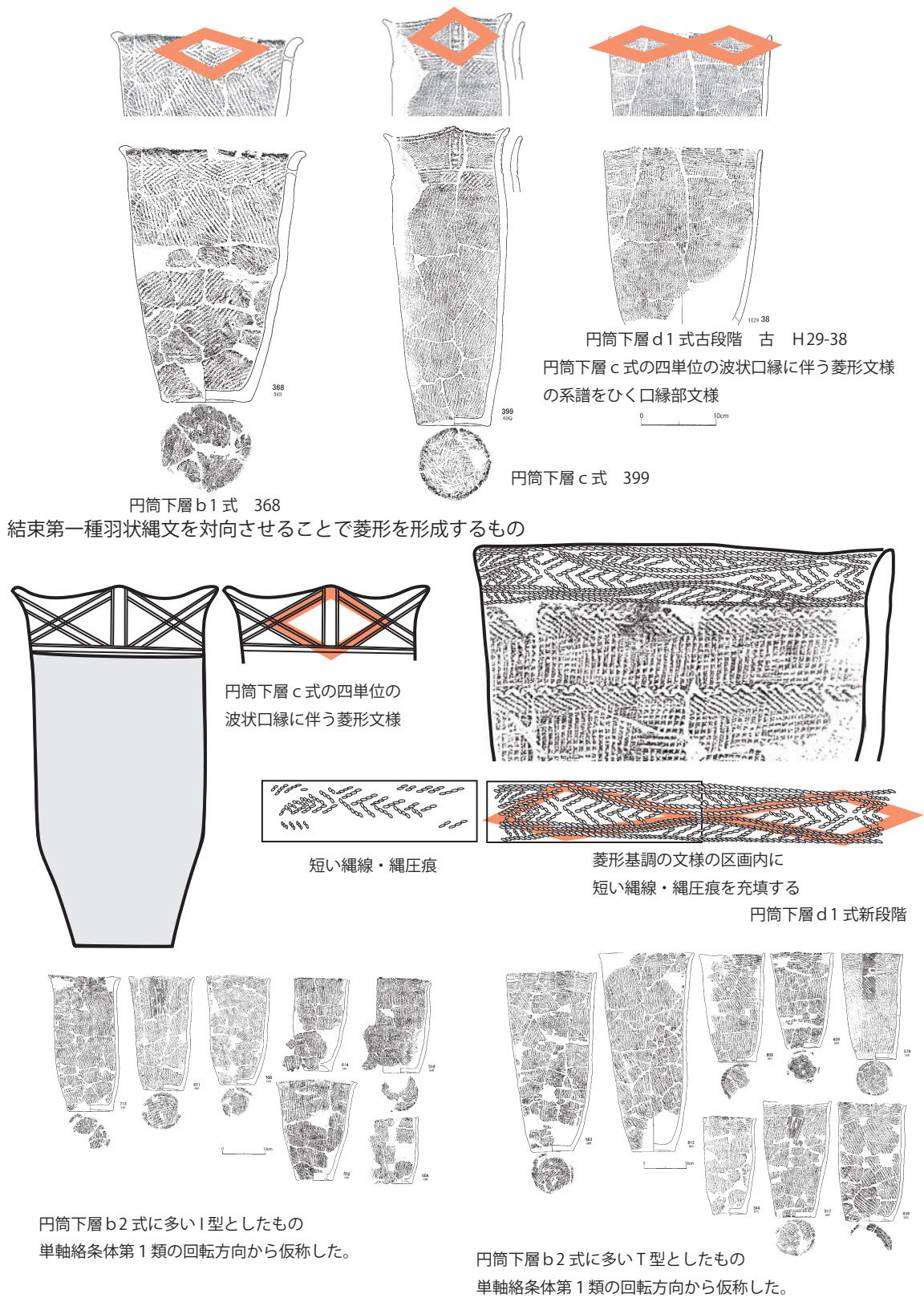


図 II - 3 円筒下層式土器文様解説図

だし同一出土地点の堆積順遺物出土状況や文様要素の集成図が所々挟まる。

Ⅲ群 縄文時代中期に属する土器群

- a類：円筒土器上層式およびサイベ沢Ⅶ式、見晴町式に相当するもの。
- b類：榎林式、大安在B式、ノダツプⅡ式に相当するもの。

Ⅳ群 縄文時代後期に属する土器群

- a類：天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津式、白坂3式に相当するもの。
- b類：ウサクマイC式、手稲式、鯨潤式、エリモB式に相当するもの。(今回は出土していない。)
- c類：堂林式、三ツ谷式、御殿山式、湯の里3式に相当するもの。(今回は出土していない。)

Ⅴ群 縄文時代晩期に属する土器群。大洞BC式、C1式、C2式が出土している。

Ⅵ群 続縄文時代に属する土器群。(今回は出土していない。)

Ⅶ群 擦文時代に属する土器群。(今回は出土していない。)

中世から近世・近代にかけての陶磁器 今回は江戸時代末期の陶磁器が出土した。

土製品 鐸形土製品、小型の舟形土器、焼成粘土塊そして深鉢形土器の割れたものを加工したもの、等が出土している。

(2) 石器等

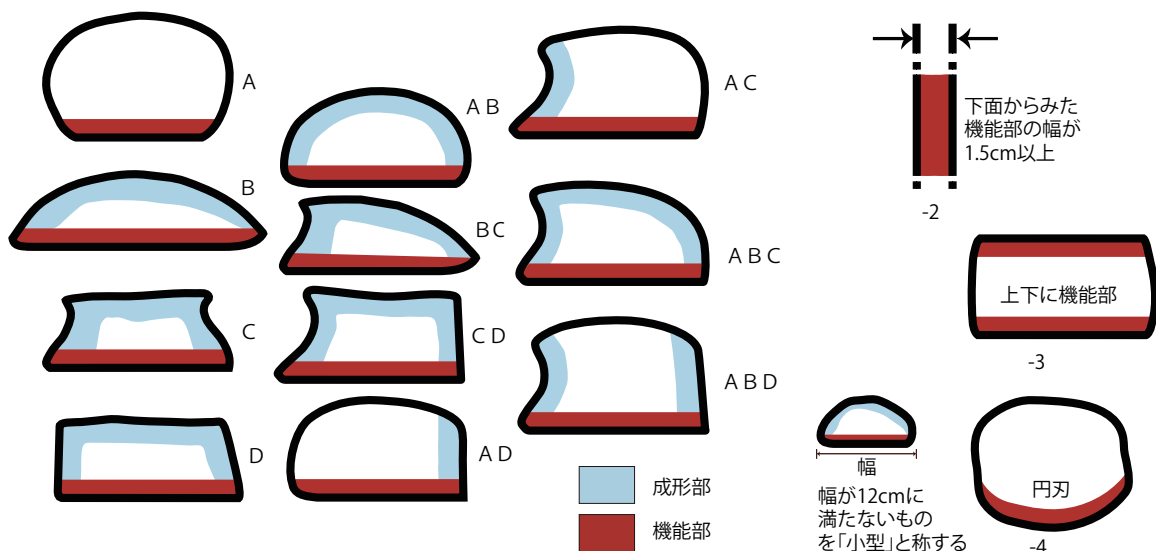
剥片石器

石鏃：弓矢の矢の先端、鏃と考えられるもの。全体を扁平に加工し、端部に尖頭部を作り出したおおよそ5cm以下の石器。おおよそ線対称の形状である。

石槍又はナイフ：素材の両面を加工し、全体を扁平にして、尖頭部を作り出した石器。おおよそ5cm以上で、おおよそ線対称の形状をしている。槍先を連想させる形状のもの。

ドリル：素材の端部に錐の機能を連想させる先頭部を作り出した石器。「石錐(せきすい)」と「石錘(せきすい)」とで音が紛らわしいのでドリルの呼称を用いた。

つまみ付きナイフ：平面観の正中線、中心線など軸をはさんでふたつの袂が対応して「つまみ」状の顕著な装着部を有する石器。スクレイパー的な機能を持つものをここに分類した。線対称でも厚みのあるものはここに分類したのに対して、線対称で扁平に加工されたものは「石鏃」や「石槍又はナイフ」に分類した。また錐状の尖頭部が顕著なものは「ドリル」に分類した。



図Ⅱ-5 扁平打製石器形態分類模式図

スクレイパー：素材の縁辺に、刃部と想定される、連続した加工を施した石器。

石核：石器の素材を剥離したと考えられる石器。

両面調整石器：素材の両面を加工したもの。石核的な要素が強い。線対称な形状であっても、尖頭部が不明瞭、厚みがある、あるいは舟形形状に近い等、石槍に分類し難いもの。

Rフレイク：素材に二次加工を施したもので、定型的な石器に分類されない剥片。

Uフレイク：素材に微細な剥離痕が見られる剥片で、使用したものとみられる剥片。

ピース・エスキュー（楔形石器）：両極技法による剥離が行われた、あるいは同様な状況下で使用されたと思われる石器。

フレイク（剥片）：石核から、あるいは原石から、石器作成時に剥離された不定形な石の破片。

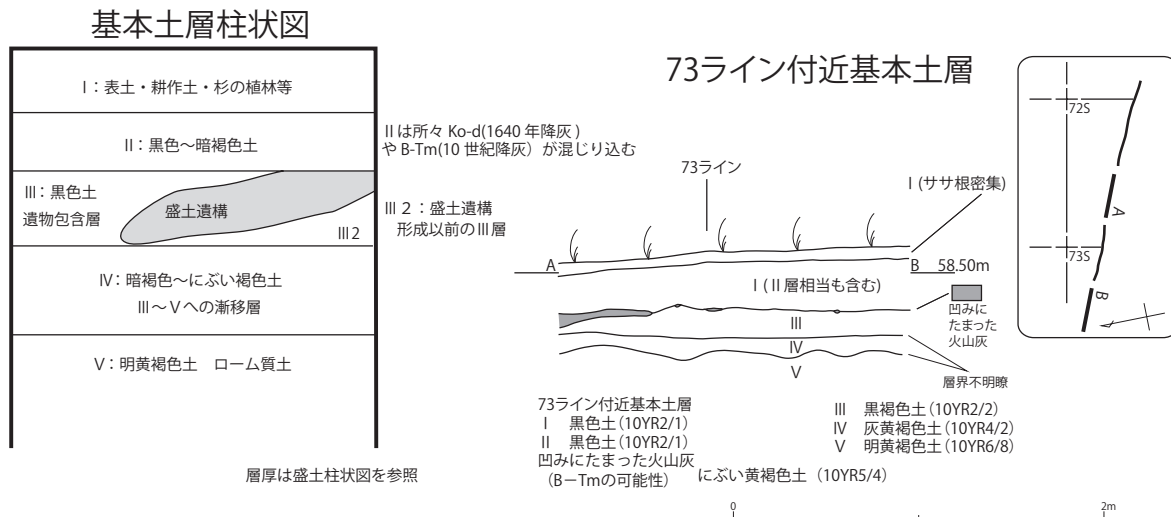
礫石器

石斧：打ち欠き・叩打・研磨により、斧状の刃部を作り出した石器。石のみも今回小型の石斧・石斧片が多かったため石斧として取り扱った。

石斧未成品のうち擦り切り残片：石斧を制作するにあたって特徴的に選択される石材がある。それらは往々にして石鋸により擦り切りにより分割される。石斧素材特有の若干の粘性に適した方法であり、石斧の正面観が直線的で、断面観にふくらみを有する独特な側縁形状を、素材の両面から対応させて擦り切る事で作出しやすいという利点があるためと考える。石斧製作時に石斧に加工しきれなかった、あるいは石斧を取り出した残片が遺物として残ったものである。緑色泥岩が多い。ただ従来「緑色泥岩」とされてきた岩石が、「アオトラ石」という変成岩ではないかという指摘が出てきた。近年「アオトラ石」が交易の視点から、注目されつつある。素材が石斧制作に適した性質を持ち、その産地も平取町に限定されるためである。それゆえ、これを意識して緑色片岩、緑色岩等の記載も試みられている。今回、試料の切片をとっての観察は出来なかった。そこで、当センターにおいて、道央・道南地区の遺跡報告で、従来用いてきた呼称、「緑色泥岩」をそのまま用いるものとした。だが三内丸山遺跡の成果（前川 2006）から鑑みて、産地が限定的であることから、今のところは俗称の「アオトラ石」が岩石名となる可能性もある。以上、平成27年度12月19日に平取町で行われた『特別シンポジウムーアオトラ石の不思議ー』の内容を踏まえて記述した。

表Ⅱ-2 注記略称例

出土場所の例示	出土状況例	対応する注記	出土状況	呼称	略称	解説	用例	注記例
凹系遺構覆土出土遺物	館野 6 遺跡H20床面よりやや上の土層遺物番号25	タ6H20ユ上25	遺跡名	館野 6 遺跡	タ6			
			遺構	覆土	フ		覆土トレンチ	フト
			遺構	覆土 2層直下	フ2T下			
凹系遺構覆土出土遺物、土層観察用土手（ベルト）からの出土	館野 6 遺跡H21ベルト西端出土、遺物番号32	タ6H21ベWW32	遺構	覆土最上部	フ上			
			遺構	掘り上げ土	ホ			
			住居	壁際	カベ			
凹系遺構覆土出土遺物	館野 6 遺跡H25覆土 2層直下遺物番号45	タ6H25フ2T下45	住居	壁内住居中央の砂部分	スナ			
			住居	床面出土	ユ			
凹系遺構の付属遺構出土遺物	館野 6 遺跡H19HP-1の覆土出土遺物番号 8	タ6H19HP1フ 8	住居	床面直土(床の少し上の標高)	ユ上			
			土坑	土坑底部(底面)	テ			
凹系遺構の掘り上げ土出土遺物	館野 6 遺跡 H19掘り上げ土 43Y区出土遺物番号29	タ6H19ホ43Y29	凹系遺構	覆土	フ		覆土 2層	フ2
			凹系遺構覆土	直下	T下		覆土 2層直下	フ2T下
			凹系遺構覆土	覆土下位	フ下			
			凹系遺構覆土	覆土最下位	フ下下			
盛土のトレンチ点取り遺物	館野 6 遺跡M4-1(盛土)点取り遺物(出土位置を記録) No.63	タ6M4-1.63	凹系遺構覆土	覆土最上部	フ上			
			凹系遺構覆土	覆土中位	フ中			
			トレンチやベルトの位置	北	N			
			トレンチやベルトの位置	中央	C			
			トレンチやベルトの位置	西	W			
			トレンチやベルトの位置	西端	WW			
			トレンチやベルトの位置	東	E		東西トレンチ西側	EWt-W
			トレンチやベルトの位置	東端	EE			
			トレンチやベルトの位置	ベルト	ベ			
			トレンチやベルトの位置	南	S			
			トレンチやベルトの位置	南端	SS			
			住居付属遺構	HF-1	HF1			
			住居付属遺構	HP-1	HP1			
			住居付属遺構	周溝	ミ	溝のミ	周溝覆土	ミフ
			住居付属遺構	周溝覆土 1層	ミフ1			
			遺物集中	遺物集中	イシ		遺物集中 1	イシ1
			盛土	Dトレンチ出土遺物	MTD			
			盛土	M 2 基底部	M2キテイ			
			盛土	トレンチ	ト		南側のトレンチ	St
			盛土	盛土9cm掘り下げ一回目	MT1	Bトレンチのみ10cmおき		
			盛土	盛土9cm掘り下げ二回目	MT2	Bトレンチのみ10cmおき		
			沢地形	沢	サ	F82関連	F82沢 1層	F82サ1
			土層	Ⅲ層上面	Ⅲ上			
			土層	撻乱	カ			
			土層	風倒木	風	簡体字		
			出土状況	表面採集(略して表採)	ヒヨ			
			土層と出土位置	排土	ハイド			



図Ⅱ-6 基本土層柱状図・73ライン付近基本土層

たたき石：礫に、叩打痕と思われる顕著な潰れ部分が観察される石器。複数の叩打痕が複合するものが多い。そのため、凹み石もここに分類した。

擦り石：礫の一部、主に側縁に、顕著な擦痕を持ち、それが使用痕と考えられるもの。

扁平打製石器：扁平な礫を素材とし、直線的な側縁部に使用痕を持つもの。使用痕は叩打痕と擦り面が複合したものが多い。使用痕以外の縁辺に打ち欠き等の加工を施したものが多い。

北海道式石冠：上面観が楕円形で、側面に持ち手と思われる叩打による溝を作出する。底面を有し、そこに使用痕を持つ。使用痕は擦り面に叩打痕が複合したものが多い。

石鋸：「擦り切り残片」の項で述べた石斧加工時に擦り切る際用いた石器。扁平な素材の縁辺に、正面観が直線的で、機能部の断面観がU字形ないしはJ字形をした、特有の擦り痕を持つ。

石錘：扁平で楕円形をした礫の、長軸両端に抉り状の加工を施した石器。錘としての機能が想定されるもの。長軸両端に抉りがほどこされていても形状によっては扁平打製石器未成品としたものがある。

砥石：礫の片面、あるいは両面、ときには複数の側縁にも砥面を持つ石器。

台石・石皿：平坦面を持つ大型礫に打撃痕や擦り痕が観察される石器。主に擦り痕主体で凹面を持つものを石皿とした。

加工痕のある礫：礫に加工を施したもので、定型的な石器に分類されないもの。

礫

礫そのもの以外に以下の関連するものがある。

被熱礫：熱を受けたと思われる痕跡がある礫。

有孔礫：礫に自然形成とみられる貫通孔があるもの。

石製品

異形石器：連続した剥離によってスクレイパー等の実用品とは思われない特異な形状をしたもの。

他に、球状耳飾り、軽石を加工したもの、線対称な形状で石鋸の機能部のような側縁を両側に持つもの、石棒、石棒に準ずると思われる礫、全面研磨で石斧を思わせるが刃部を持たないもの、等がある。

(3) 自然遺物

骨角器、焼骨片、炭化材、炭化種実などがある。遺構の事実記載に反映すべく努力した。分析結果はV章にまとめてある。

出土遺物の注記作業について：土器は碎片以外、石器は極力、注記作業を行った。遺跡名・出土位置・

出土土層位・遺物番号（台帳の番号）を遺物の観察に支障がないと思われる場所に記入した。その略称等は表Ⅱ－2の通りである。

5 土層の区分（図Ⅱ－6）

基本土層については平成20年度、本線部分での調査を踏襲した。しかしⅠ層とⅡ層の差異が判然としなかった。火山灰が面的に入り込んでいないことに起因するものと思われる。まばらにレンズ状の火山灰入り込みがあるのみであった。顕著なものは、H18覆土中のみであった。以下、調査範囲内の最大公約数的な傾向である。

- Ⅰ層**：表土。層厚はⅡ層と合わせて20～30cm前後。近現代に行われた耕作、植林、整地等の影響を受ける。Ⅲ層の遺物がそれにより混在する。
- Ⅱ層**：黒色土～褐色土層。Ⅰ層と区別のつかない場所が多い。黒色土と、駒ヶ岳d火山灰（Ko-d 1,670年降灰）、白頭山一苦小牧火山灰（B-Tm 10世紀降灰）の二次堆積層。Ⅰ層同様攪乱の影響を受ける。Ⅲ層の遺物がそれにより混在する。
- Ⅲ層**：黒色土。遺物包含層。Ⅲ2層とした層位は盛土遺構の下に分布していたⅢ層である。縄文時代早期の遺物が若干入り込むが、非常に少ない。
- Ⅳ層**：暗褐色土～にぶい褐色土。漸移層。遺物包含層。
- Ⅴ層**：明黄褐色土。本線部分においてはⅤ層上面の一部に濁川火砕流堆積物（12,000年降灰）の二次堆積と思われる層が見られる。

次に73ライン付近で観察した基本土層を図示する。調査区の盛土が無い部分の具体例である。ただしこの土層図付近は縄文時代前期前半に削平された可能性がある（Ⅰ章4(3)参照）

- Ⅰ層**：黒色土笹根が密集する上部とⅡ層相当と混在する下部がある。下面には地形の凹みには降下火山灰の堆積がたまっている。北斗市矢不來11遺跡（当センター2009年刊行、第Ⅷ章総括に近隣の遺跡の土層対比表あり）など近隣の遺跡と対比すると、白頭山一苦小牧火山灰（B-Tm 10世紀降灰）と思われる。
- Ⅲ層**：黒褐色土でⅣ層との境界は平坦であるが、不明瞭である。不明瞭とはいえ本来の漸移的な変化が見受けられなかった事、Ⅲ層の堆積が調査区内の他か所と異なる事から、このあたりの平坦面について人為的な削平の可能性を考えた。
- Ⅳ層**：灰色黄褐色土。漸移層。Ⅴ層との境界は不明瞭である。土質のせいか、Ⅲ層とⅣ層に比べるとやや明瞭であるが、かなり層界の凹凸が激しい。
- Ⅴ層**：明黄褐色土。

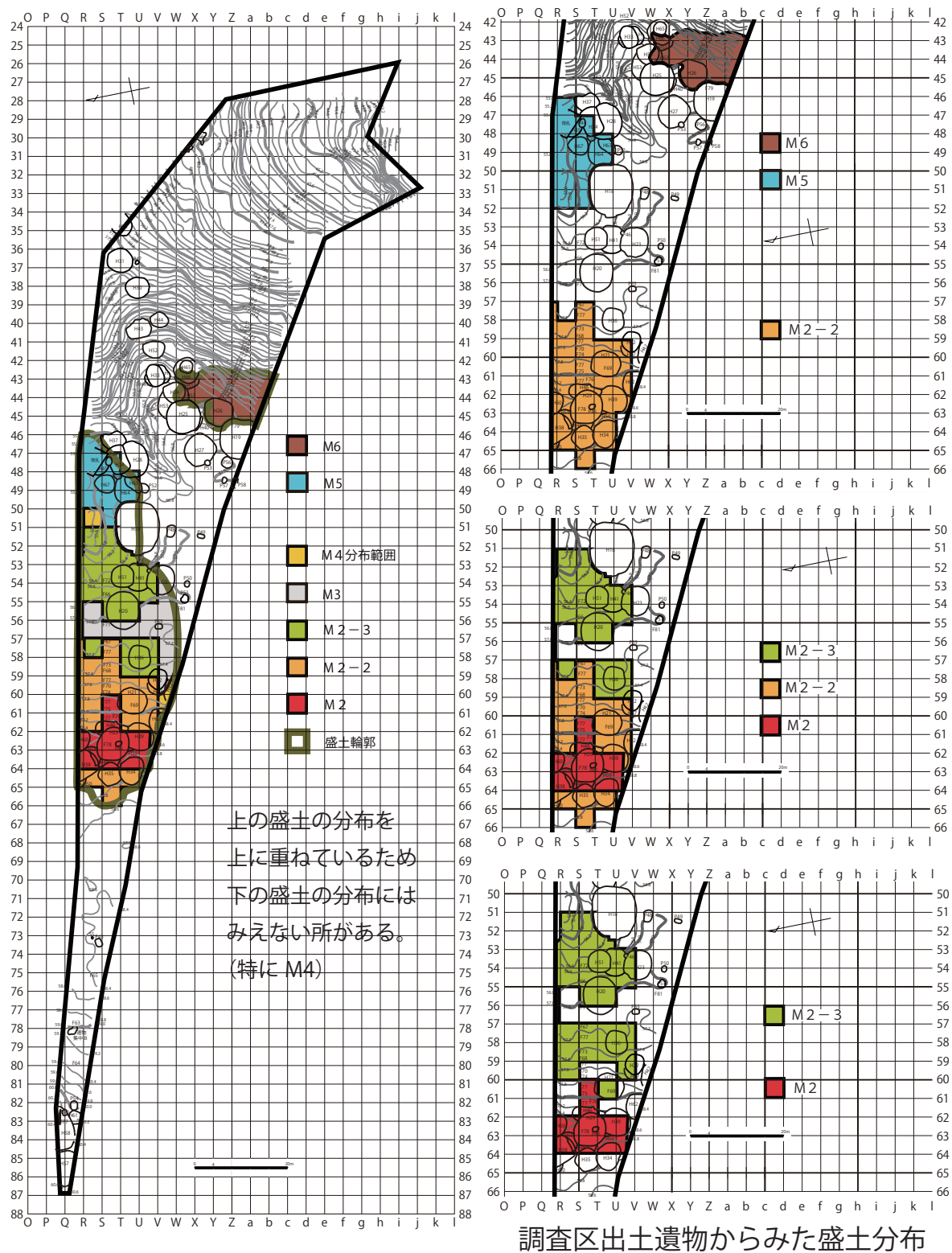
6 盛土遺構の調査

(1) 各盛土遺構の特徴（図Ⅱ－1・2・6～38）

盛土遺構、M1～M4はSライントレンチ・Bトレンチ・Aトレンチによって設定された（図Ⅱ－1）。

M2とM2-2はⅠ章住居の項で示したc区（図Ⅱ－2）に分布し、出土遺物は円筒下層d2式が目立つ。M2-3はb区の52～57ラインに分布する。

M4はM2の下位にある盛土で円筒下層b式が目立つ。M4は明らかなどころでは、円筒下層b2～c式（H36）以降、竪穴住居が掘り込まれ始める。Ⅰ章で示したb区からc区にかけて分布する。盛土



図Ⅱ-7 盛土分布図1 (全体・M2・M5・M6)

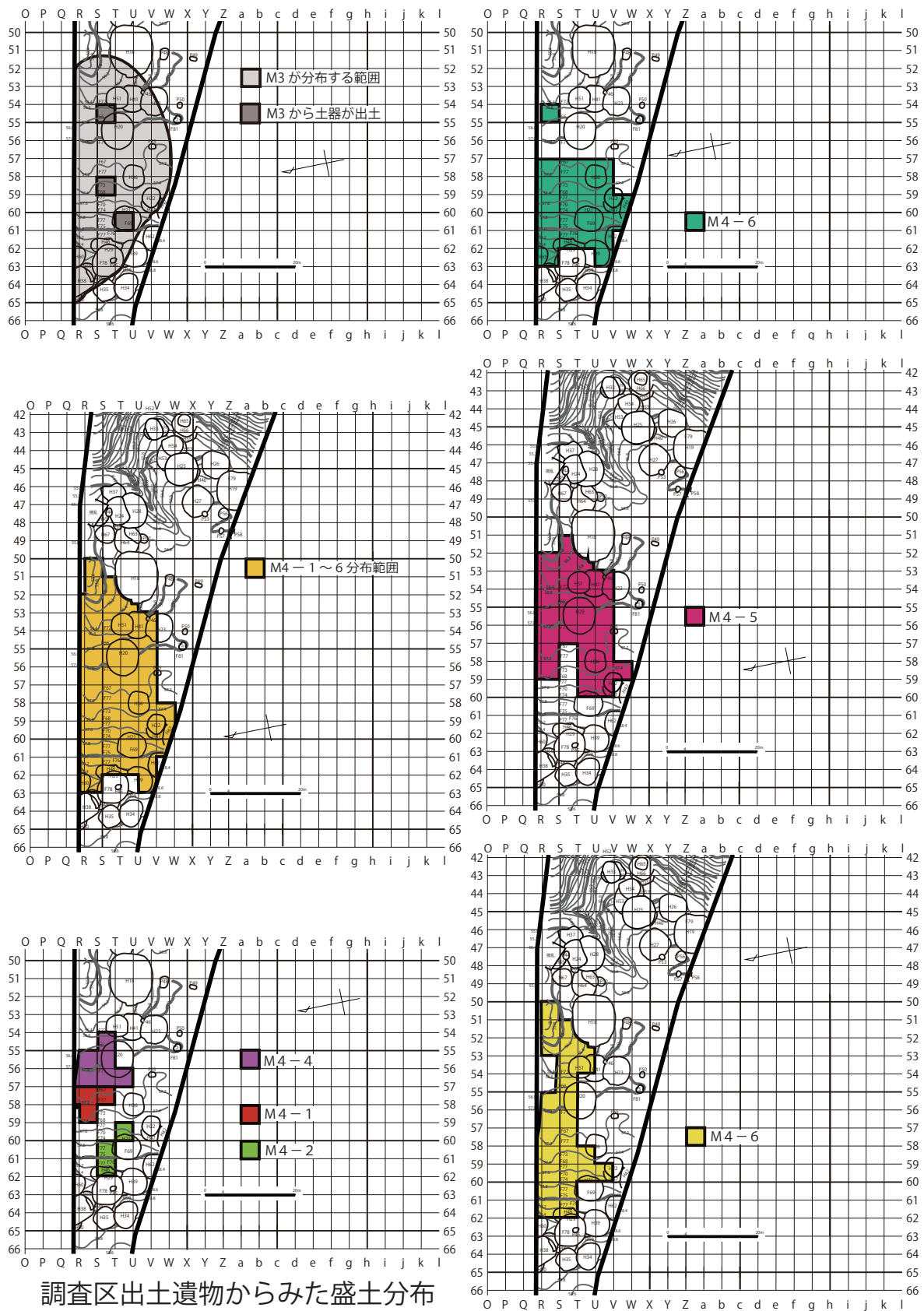
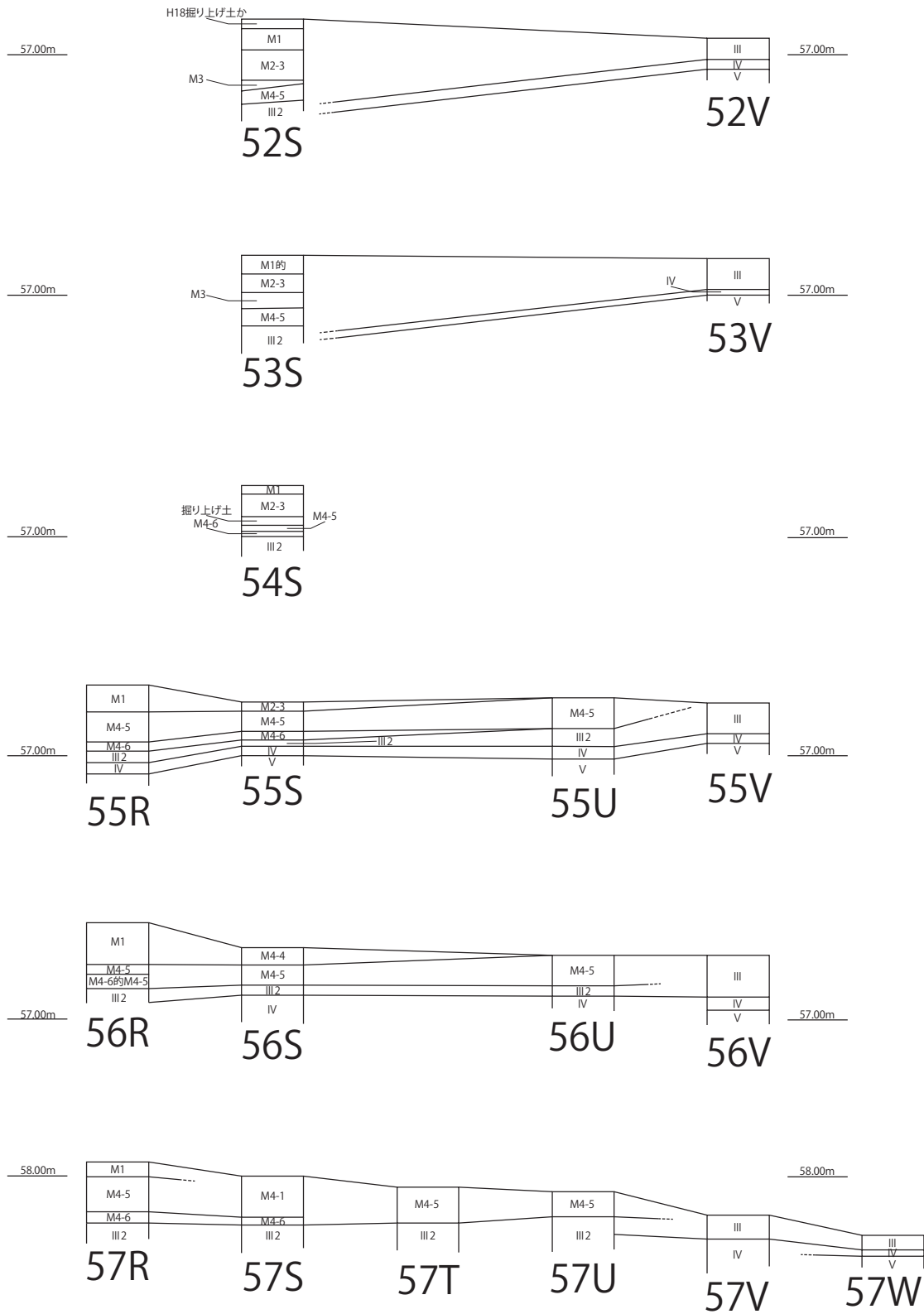


図 II - 8 盛土分布図 2 (M3・M4)

盛土柱状図 52~57ライン

0.2m
I₀



図Ⅱ-9 盛土柱状図 1

盛土柱状図 58~66ライン $\frac{0.2m}{10}$

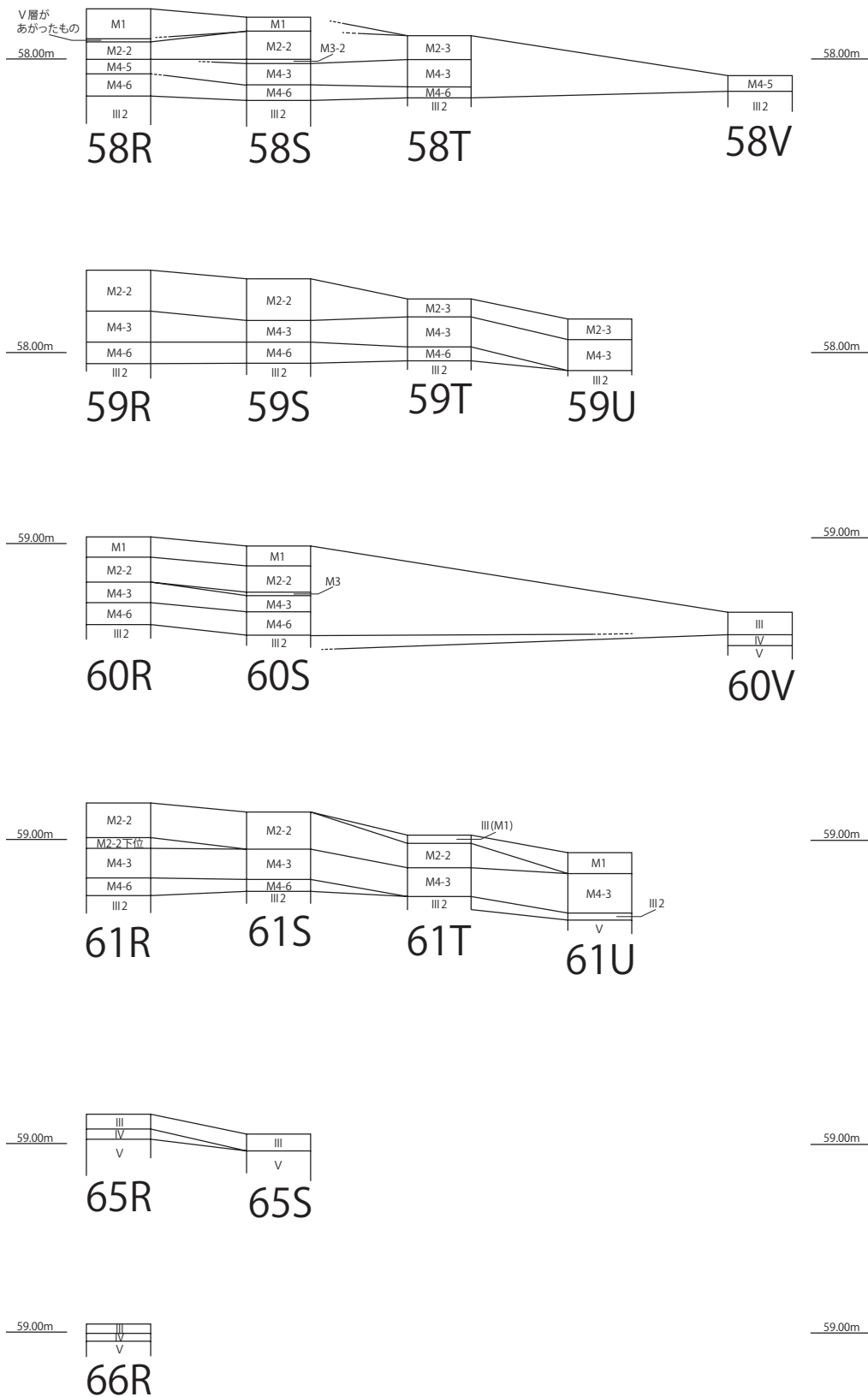


図 II - 10 盛土柱状図 2

表Ⅱ-3 M2・M2-2・竪穴住居の相関関係。土器出土層位(図Ⅵ-1-4~7参照)

	円筒下層c式が廃棄	円筒下層d1式最古段階が廃棄	円筒下層d1式古段階古が廃棄	円筒下層d1式古段階新が廃棄	円筒下層d1式新段階が廃棄	円筒下層d2式が廃棄
H21		H21覆土下位	H21覆土下位		覆土上位のF69・M2-2	覆土上位M2-2
H29			H29覆土下位	H29覆土上位		覆土上位のF78・M2(盛る)
H34					H34覆土	覆土上位のM2
H35・H56	H35・H56覆土					覆土上位のM2
H38					H38覆土	覆土上位のM2
H39	H39床面近く				H39覆土	H39覆土上位
M2						M2(土を盛り上げる)
M2-2				M2-2	M2-2	M2-2

M2とM4は基本層序Ⅲ層、Ⅳ層、Ⅴ層が混じりあった土から成る。Ⅴ層起源の土が主体であるため、多少の程度の差こそあれ、黄褐色味を帯びた土から成る。現世の表土に近い部分において顕著であるが、盛土そのものも、時間と共に黒色土化が進む。

M1としたものは盛土の上面の黒色化がすすみ、基本層序Ⅲ層と変わらない土色となったものである。その場所によって、下に連続する盛土と同じ遺物が多く含まれる。直下の盛土(M2、M2-3、M4-1等)が黒色化したもので、平面的な区別がつかないため取り上げの便宜上M1を使用した。一部は耕作等の攪乱を受けている。

M3はM2とM4の間にはさまるⅤ層主体で、断続的に分布する薄い土層である。M2とM2-2そしてM2-3の分布を併せた分布と同じ分布をするが、全面にM3があるわけではない。水で掘り上げ土が流出、窪みに堆積したものか。Ⅴ層起源土あるいはそれがグライ化したものである。

M5はM4の東側・b区に分布し、M4からそのまま連続する盛土である。海岸段丘が矢不來川に開析された斜面下方へ、言い換えるとRラインより北側の斜面へ、M4、M5盛土は調査範囲外に広がっている。また両盛土とも、円筒下層bから下層c式の竪穴式住居が掘り込まれている。M4は円筒下層b2~c式(H36)以降、M5は円筒下層c式(H28)以降の竪穴住居が掘り込まれ始める。時期的にも立地的にも類する盛土である。M5盛土は円筒下層b2式から下層b2~c式のところに形成されたもので、円筒下層b2式新段階の出土量が目立つ。

M6は、時期的にM4やM5に近いが、分布位置が調査範囲中央の平坦面から東側の斜面にかけて検出された。したがって他の盛土と立地が異なる。調査範囲内の分布状況は、北斗市道側へのひろがりがあった事を示す。I章でa区とした36~50ライン近辺の竪穴住居らしき窪みを調査中に、東側の斜面42~46-W~b区のⅢ層をとところどころ下げたところ、円筒下層b式土器を主体とする廃棄のまとまりを検出した。ベルトを設定して約15cm面的に掘り下げると、にぶい黄褐色土の土層を検出した。斜面を登り切った平坦面に立地する住居群の掘り上げ土とも考えたが、平坦面の住居H19・25・54・66の覆土からも同様に検出されたことから、盛土とした。盛土は円筒下層式d2段階のH19、円筒下層d1式のH25・H65、円筒下層b2式新段階のH26に掘り込まれている。また盛土は円筒下層b式以後、円筒下層d1式以前の住居H53・H54・H66や円筒下層b式の頃のH55に流入している。

M4は円筒下層b2~c式のころ、M5は円筒下層c式、M6は円筒下層b2式新段階から竪穴住居が掘り込まれる。またその頃円筒下層b2~c式以降、比較的平坦部に位置する竪穴住居廃絶後の窪み(H26・H36)へ廃棄が始まる。M5においては円筒下層b式期への廃棄があるが、斜面際の住居であることから、やや性格を異とする。

(2) 盛土の細分(図Ⅱ-1・2・6~38)

本来ならば「M2」は「M2-1」と表記すべきであるが、最初に検出した盛土であるため「-1」を略して表記してきた。しかし、整理が進むにつれて、M4-1、M5-1、M6-1と異なり、基底部上の盛土

の分層というより、「M2-2」、「M2-3」それぞれが、独自の特色・時期を持つため、「M2」として扱った。

M2は円筒下層c式期のH39、円筒下層d1式古段階の時期の竪穴住居H29・H38、下層d1式最古段階のH21の廃絶後のくぼみへの円筒下層d1式古段階の廃棄層がそれぞれを埋めるようにして発生、そこからさらに円筒下層d1式新段階の廃棄土層が成立し、さらには円筒下層d2式廃棄時には盛り上げたものである。

M2およびその分布域である、60～64ラインのM1において円筒下層d2式が目立つ。M2の上位から下位にかけて同様である。M2の発生に伴って、M2から周辺にあふれ出るように分布する土層をM2-2とした。57ライン付近まで分布する。円筒下層d2式に下層d1式が混在する。

またH21の場合円筒下層d1式古段階の廃棄層を覆土下位に廃棄、そのうえのM3から連続する、円筒下層d1式新段階の廃棄をM2-2としたためこのような結果になったものである。つまり、H21覆土上部に相当する、F69（M3から連続）やM2-2最下位において、円筒下層d1式新段階のまとまりが出土した。盛土全体としては、60ラインを主として復元個体が多く、58～63ラインまで復元個体は分布する。

M2やM2-2と直接関連するかどうかは層位的に不明確であったが、M3やM4より新しく、M2-2の縁辺に分布するものをM2-3とした。Rラインならば51ラインまで分布する。円筒下層c式、円筒下層d1式が目立つ。一部、H22以南や57～61ラインでもM2-2と別個の土層をM2-3とした。平面的にみると主な分布は52～56ラインのb区である。調査当初は竪穴住居がM4を掘り込んだ際の「掘り上げ土」的要素が強いと考えていたが、51ライン付近では円筒下層d1式が目立つ。53ライン付近では円筒下層b式とd1式が目立つ。57ライン付近では円筒下層c式が各種出土した。そこに下層d1式が混じる。円筒下層c式のうち四単位の波頂部に対応する、菱形基調の口縁部文様の時期がまとまって出土した。調査範囲内では複数個体にわたる破片の割に復元個体は少ない。

M2-3において特徴的な出土状況を図IV-1-7に示した。凹系遺構を時期別に塗り分けた右図について凹系遺構が分布しない51R区、57R区のM2-3について、51R区では円筒下層d1式古段階のまとまった出土、57R区では円筒下層c式の波頂部に対応した菱形文様を持つ個体の出土がまとまってあった。いずれも円筒下層c式のM4-6での分布の中心は57R区に連続した調査区で傾斜的に斜面の下側に位置する58～59-R区にある。一方、円筒下層d2式古段階が盛土基底部焼土層に伴うのは51R区の49～50R区である。これも、51R区に連続した調査区で傾斜的に斜面の下側に位置する。盛土の形成の結果基底部には焼土層が存在する。そして肉眼観察では一枚に見えるが、斜面の下方に向かって伸びていく様子が後述する事実記載にも示す。つまり一時期に形成されたというより、複数回の廃棄の結果、下の焼土層は延伸していくのである。このM2-3と基底部で同一時期の土器について出土傾向にずれがあるのはその状況の一端を示している可能性がある。

M3はM2とM4の間にはさまるV層主体の土である。b～c区にかけて、M2・M2-2・M2-3と分布をほぼ同じくするが、断続的で全面にあるわけではない。「M3(-1)」はV層起源でグライ化が著しい。M3-2はV層起源でグライ化していないものを「-2」をつける事で示した。

盛土というより、竪穴住居掘削時の掘り上げ土、又はM2盛り上げに際して発生したV層主体土が流出、ところどころ窪み部分に溜まったような状況である。顕著なところでは土器出土を伴う。

H21覆土に分布する60T区M3出土掲載番号67（点取りNo.89）68・69がからは円筒下層d1式新段階のまとまりがあった。54S区M3-2からは、掲載番号54（点取りNo.58）円筒下層b2式が復元できた。58S区M3からM4-3の遺物が接合した掲載番号43（点取りNo.54）は円筒下層b2～c式である。

M3は縄文時代前期後半のものだが、検出場所によって伴う土器型式に新旧差がある。M2とM4の間に堆積することから、円筒下層b1式から下層d1式の間と考える。地点貝塚的な場所もあれば、単なる水的作用による堆積のところもある。盛土の定義上、盛土と呼ぶに難しい側面もあるが、便宜的に用いた。

M4は円筒下層b式から下層c式にかけての盛土である。M4-6とした焼土層が基底部に広がる。M4-1~5については焼土層上の盛土層である。土色や混在物等の構成内容から五種類に細分した。M4-1はにぶい黄褐色土である。M4-2は褐色土だが暗めの色調である。大ブロック状に基本層序Ⅲ層起源土が混じる。M4-3は褐色土で基本層序Ⅴ層がブロック状に混在する。M4-4は暗褐色土で、基本層序Ⅲ層とⅣ層が混在したものである。M4-5は褐色土で、基本層序Ⅲ層とⅣ層が混在したものであるⅢ層の方がやや多く含まれる。M4-6は褐色~にぶい橙色土で基本層序Ⅴ層がブロック状に混在する。基本的には焼土層で、一部がまだらに焼け残る。骨片が混在する。

後続の調査となったM5、M6についても、基底部に明瞭な焼土層を確認し、M5-2、M6-2とした。その上部の土層はM4の調査成果を踏まえて、単純にM5-1、M6-1とした。

M4-1は58R区・57R・S区を中心として分布する。斜面の際の平坦部に立地する。「円筒下層b2~c式」の土器が多く復元された。またSラインレンチの土層のみから言うと、その平面的な位置は、下層に焼土層M4-6を伴うM4-3と伴わないM4-5の間でもある。円筒下層b2~c式の廃棄場所と考える。ただし平面的な土層の把握が難しかったため、一部、M2-3又はM4-5で取り上げた遺物もある。48・49のような円筒下層b1式はM4-1下位からの出土である。レベル的にM4-6のような基底部相当であるため、上位と異なり斜面際から盛土がのびる。つまり古いものが廃棄された場所と考えられる。平坦部・斜面際にこのような現象がみられるのは後述するM4-3でも同様である。

M4-2は60S区付近に分布する。SラインレンチのセクションからはM4-3と入り組むように堆積する。層界は不明瞭だが、60~61ラインの間と思われる。復元個体の分布をみるとちょうど円筒下層b1式と円筒下層b2式古段階の廃棄の境界である。円筒下層b2式古段階の盛土と考える。ただし平面的な土層の把握が難しかったため一部M4-3で取り上げられた遺物もある。

M4-3は主に57~62-Q~U区に分布する。復元個体を多く立ち上げることができた。下の土層には焼土層M4-6が発達する。円筒下層b1式から下層c式までが出土しており、その時間幅の中で、57~60ラインについては、Uラインくらいが古い、S~Tラインで古めのもので出土してくる。Q~Rラインは新しめのもので目立つ。ただし、60T区から円筒下層d2式(掲載番号76)が出土しているが、M2-2とまたがって接合しており、小型深鉢破片がまぎれたものとする。

61ラインになるとこの様相が変わる。61R区は円筒下層b1式、調査範囲の中でも古い段階の土器が主体である。61S区・61T区についても同様で、復元個体の中に、円筒下層b1式が混じってくる。この傾向は62R区についても同様である。

62R区から60T区、56V区にかけて斜面の傾斜変換点がある。台地のへりにH46がある。これについて周囲の竪穴住居との切り合い関係から最も古く、円筒下層b式段階という可能性がある。そこから円筒下層b1式土器を廃棄始めている。61ラインが古く、58ライン側が新しい事から斜面下側に向けて新しいものが廃棄されている可能性がある。また57~60ラインについて、Uラインくらいが古く、Q~Rラインに向かっては新しい土器が目立つという傾向も、この地形の手前から廃棄していく様子が反映されていると考える。以上の遺物出土の傾向はM4-3下位での出土が多い事からその下のM4-6の特徴を反映していると思われる。

M4-3が分布する場所は、H21・H22・H29・H36・H38・H39のように円筒下層c式以降の可能性が

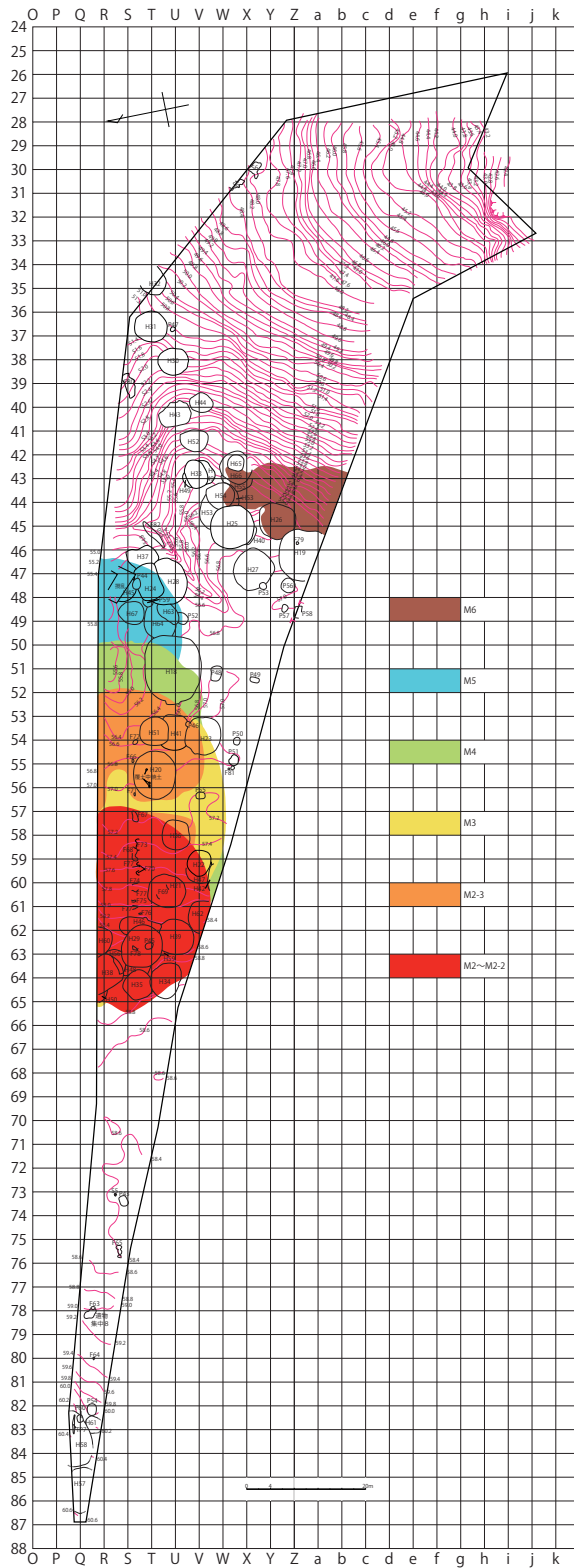


図 II -11 盛土推定分布図 1 (全体)

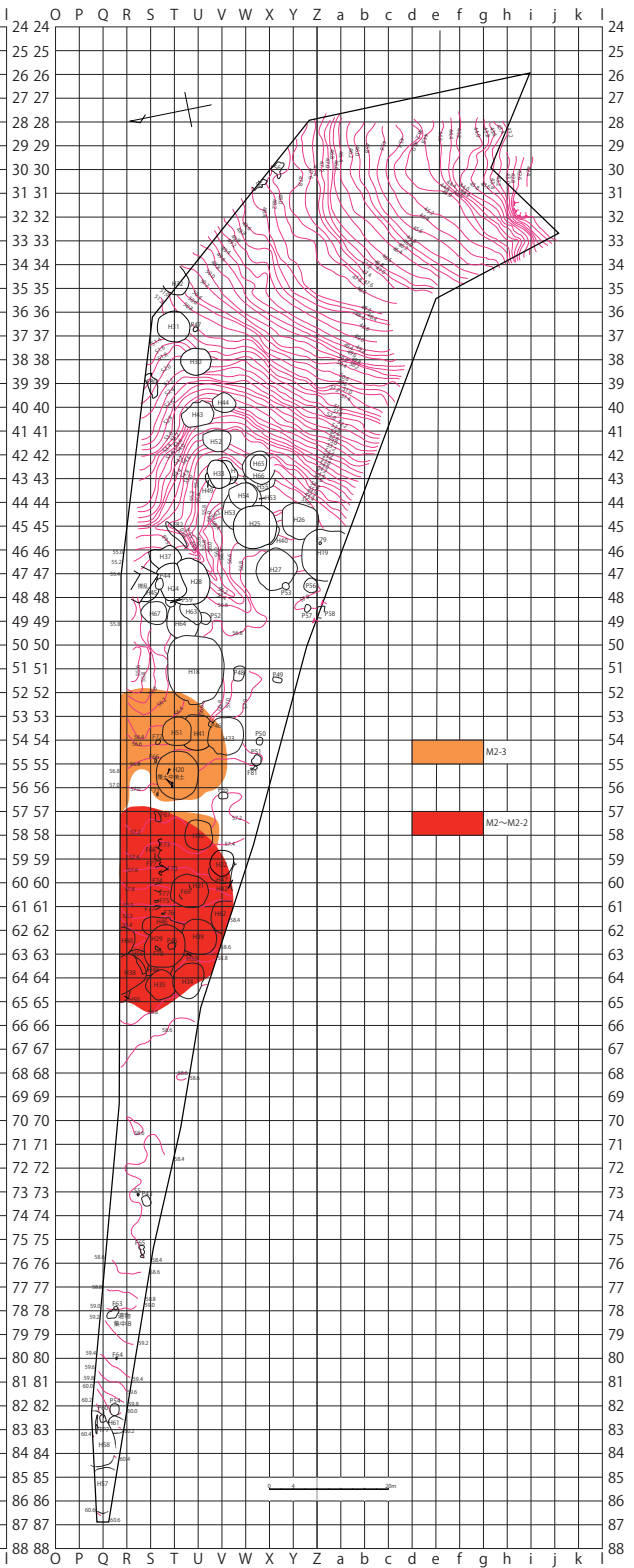
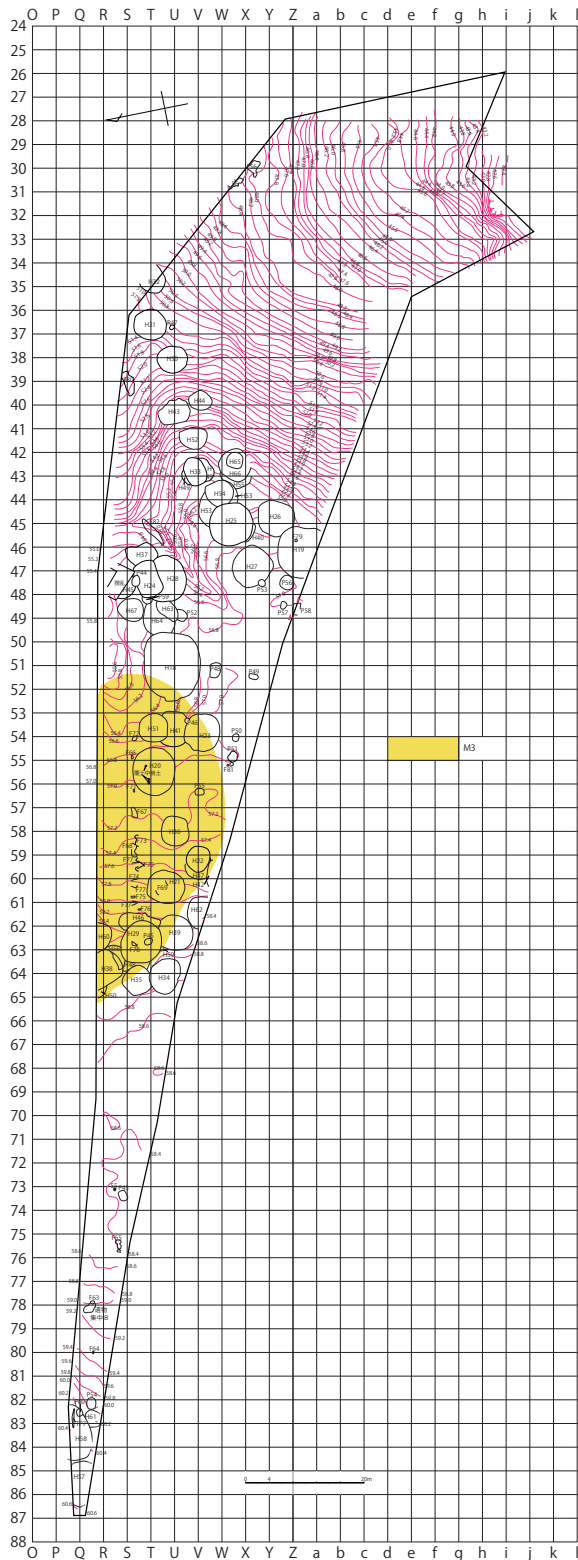
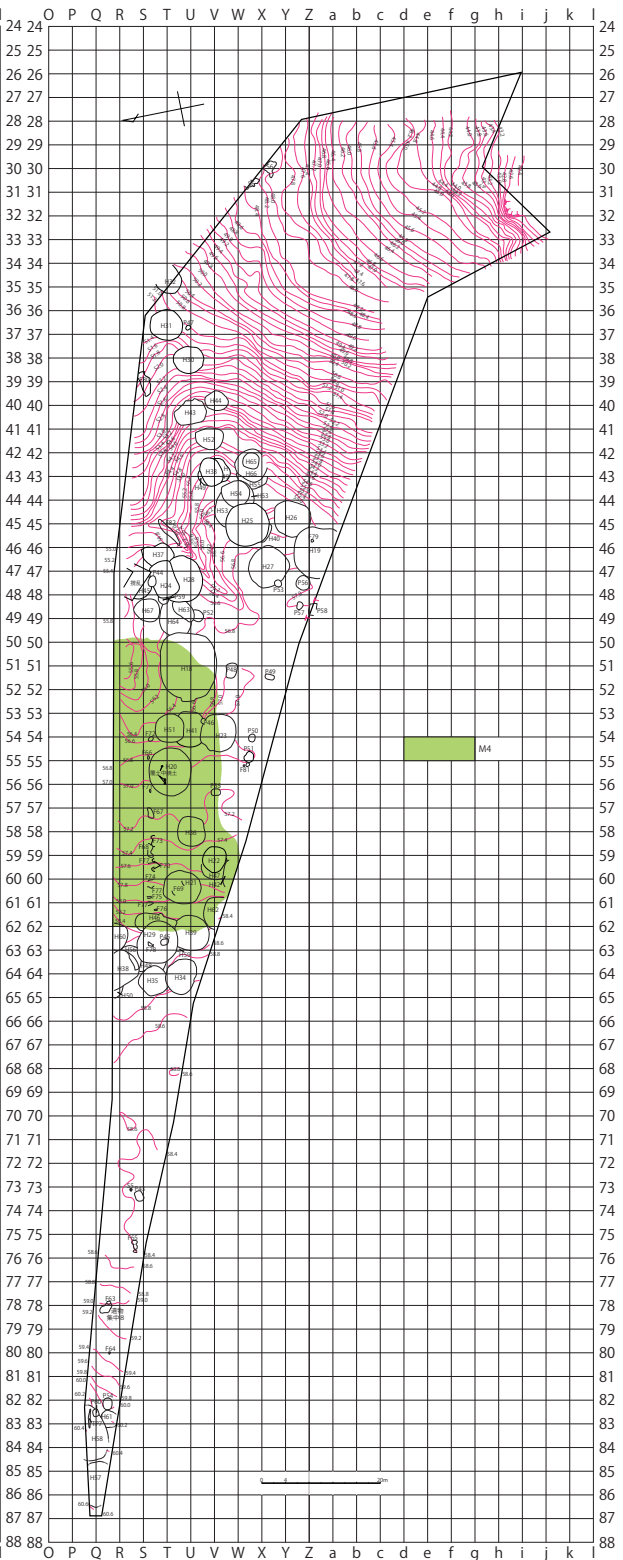


図 II -12 盛土推定分布図 2 (M2)



図Ⅱ-13 盛土推定分布図3 (M3)



図Ⅱ-14 盛土推定分布図4 (M4)

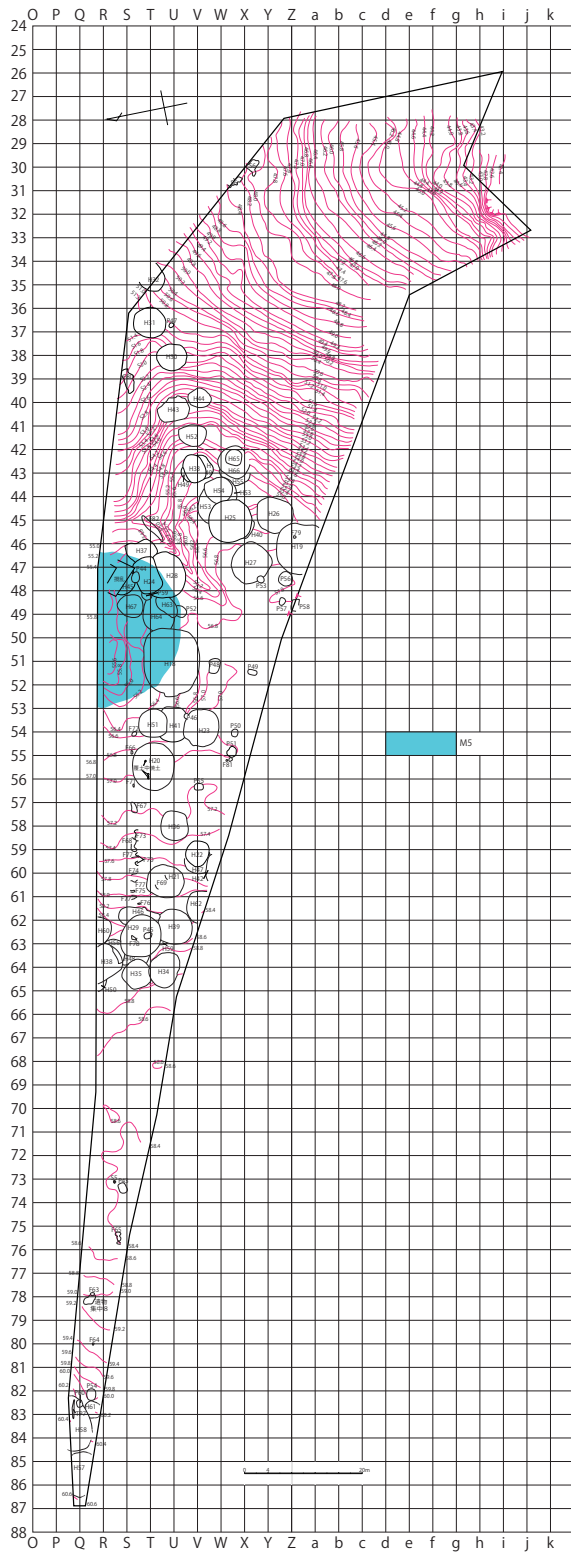


図 II - 15 盛土推定分布図 5 (M5)

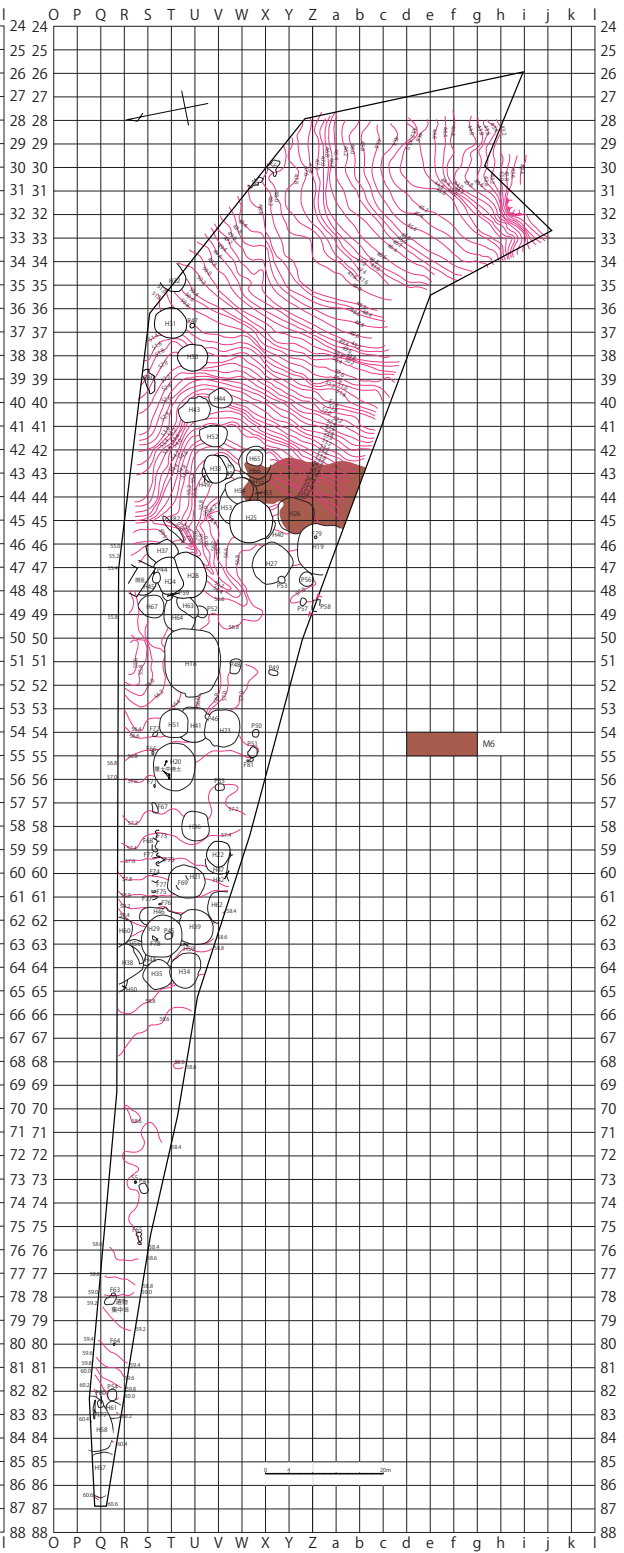


図 II - 16 盛土推定分布図 6 (M6)

ある住居が掘り込まれている。飛び地のように分布する54R区ではH51が脇にある。調査状況として明らかなのはH21であるがM4-6を掘り込んで構築している。M4-3は褐色土で基本層序V層がブロック状に混在する。土層に紛れるブロック状のV層は、竪穴住居の土葺屋根に掘り上げ土を用いたとしてその残土も混じっている可能性がある。

M4-4は54～56S区付近に分布する。盛土に混在する土器から、円筒下層b2式後半から円筒下層b2～c式の盛土である。漸移層IV層と黒色土Ⅲ層の混在である。ロームブロックV層は混在しない。H20覆土遺物とまったく接合しなかった。H20のほうが新しい。出土遺物も新しい。そのためH20の「掘り上げ土」的な意味合いは無いと考える。それ以前の土砂の廃棄と土器の廃棄による盛土である。ただし平面的な土層の把握が難しかったため一部M2-3で取り上げられた遺物もある。

M4-5は主に54～58-Q～U区に分布する。M4-5は褐色土で、基本層序Ⅲ層とⅣ層が混在したものであるⅢ層の方がやや多く含まれる。Sライントレンチ壁面について、M4-5の直下にはM4-6(焼土層)の発達はその下には無い。55～57-S～T区に焼土層が途切れるためである。Qラインでも下位に焼土層を伴わない。52～55S区の一部、およびRラインでは下位に焼土層を伴う。ただし平面的な土層の把握が難しかったため一部M2-3、M4-3、M4-4で取り上げられた遺物もある。

T～Uラインについては古い要素が目立つ。R～Sライン付近では縦区画を口縁部に持つ土器が見受けられる。古い要素の土器の廃棄に加え、新しい要素を持つ円筒下層b2～c式の廃棄が混在する。M4-5の中ではまとまった一段階新しい土器の一群である。全体的にみられる傾向でもあるが、矢不來川に面した斜面側に向けて盛土が伸びていく状況を示していると考ええる。

M4-6は主に50～62-R～T区に分布する。61-Q～R区では円筒下層b1式や円筒下層b2式古段階など調査範囲内で古い時期のものが復元されている。58～60-Q～R区出土の円筒下層c式が最新の要素である。53～56-R～S区は円筒下層b2式の要素が強く56～59-S～T区は円筒下層b1式の要素が強い。一部混在する様相がある。大きくはTラインからRラインに向けて土器が新しくなる。全体的にみられる傾向でもあるが、矢不來川に面した斜面側に向けて盛土が伸びていく状況を示していると考ええる。

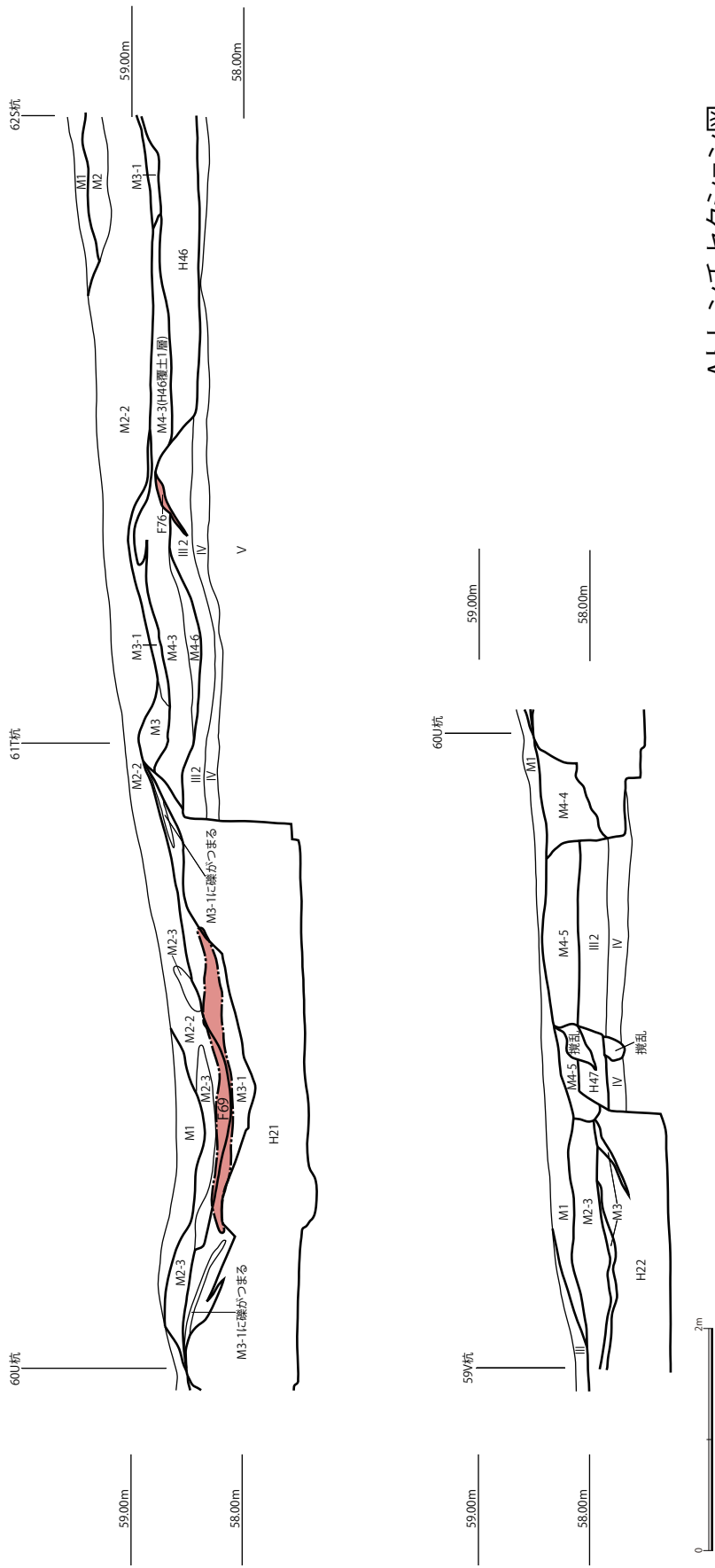
F66・F67の項で述べるが、周辺の遺物出土状況にM4-6及びM4-6相当M4-1下位においても伴う遺物に時期差が見られた。M4-6層が一度に形成されたものではない可能性がある。

M5は46～52-R～T区に主に分布する。M5-1と基底部焼土層M5-2に分けられた。51R区、50S区のM5-2からは後述する、M5点取り段階、円筒下層b2式新段階の土器が出土している。

M5-1・MTDいずれも円筒下層b2～c式、M5点取りの土器群以降のものが出土している。M5-2からは上面観楕円形の深鉢が多く出土している。顕著なものについては掲載表の口径にふたつの数字が記載している。成形調整後、粘土が適度に柔軟な時を見計らって、側面両側から潰したものと考える。M5点取り土器661はその例である。ただし胴部にかけて顕著に変形しているのは図示した684のみであった。

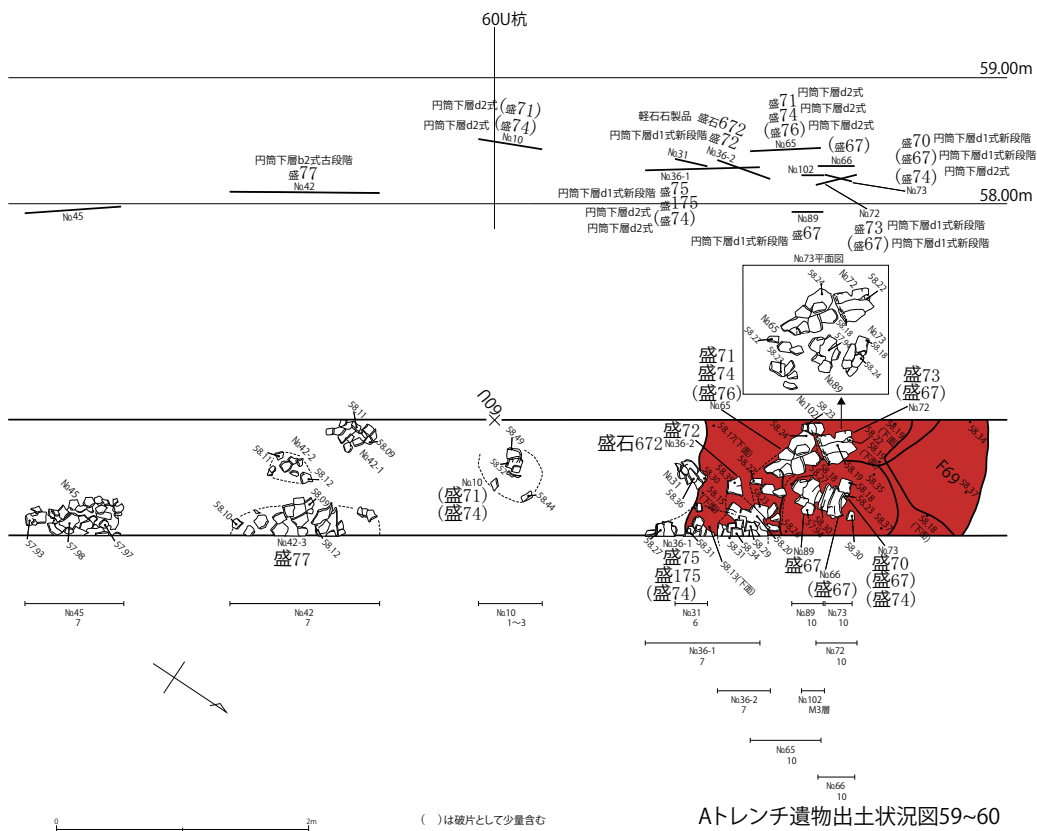
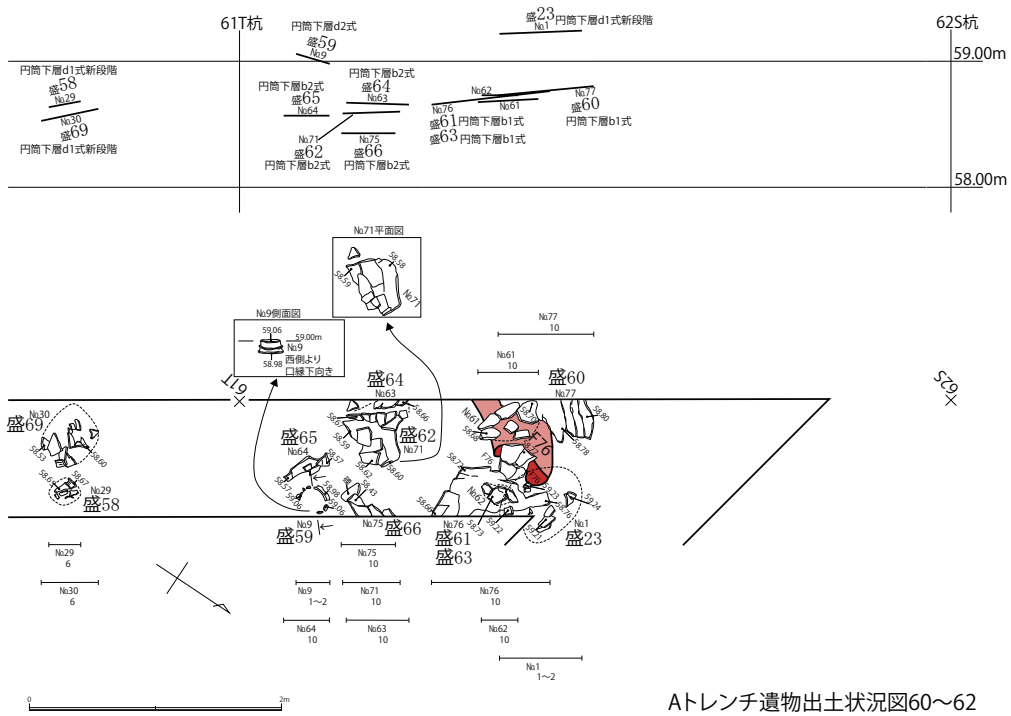
基本的にM5はM5点取り(図Ⅱ-34)段階、円筒下層b2式新段階が主体である。49～51R区は円筒下層d1式古段階ないしは円筒下層c式が混在する。矢不來川側の斜面下方に向かって盛土が伸びる状況を示していると考ええる。

M6は43～45-W～b区に分布(図Ⅱ-35～37)する。M6-1時底部焼土層M6-2に分けられた。層境は明瞭である。南東側では厚みがあるものの、調査範囲内の他の盛土と比べて、あまり厚みがなく分布も狭い。ただし分布が狭かったため範囲を明確に記録できた。M6-1は炭化物粒と焼土粒、骨片はほとんど目立たず、遺物の出土は少量である。M6-2はM6-1より分布範囲は狭い。炭化物粒と焼土粒、

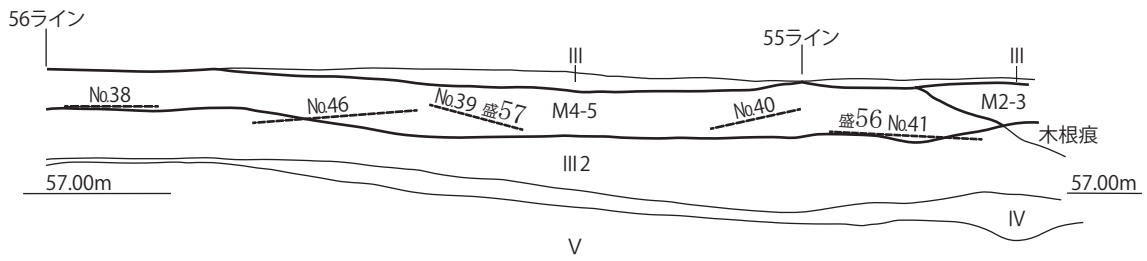
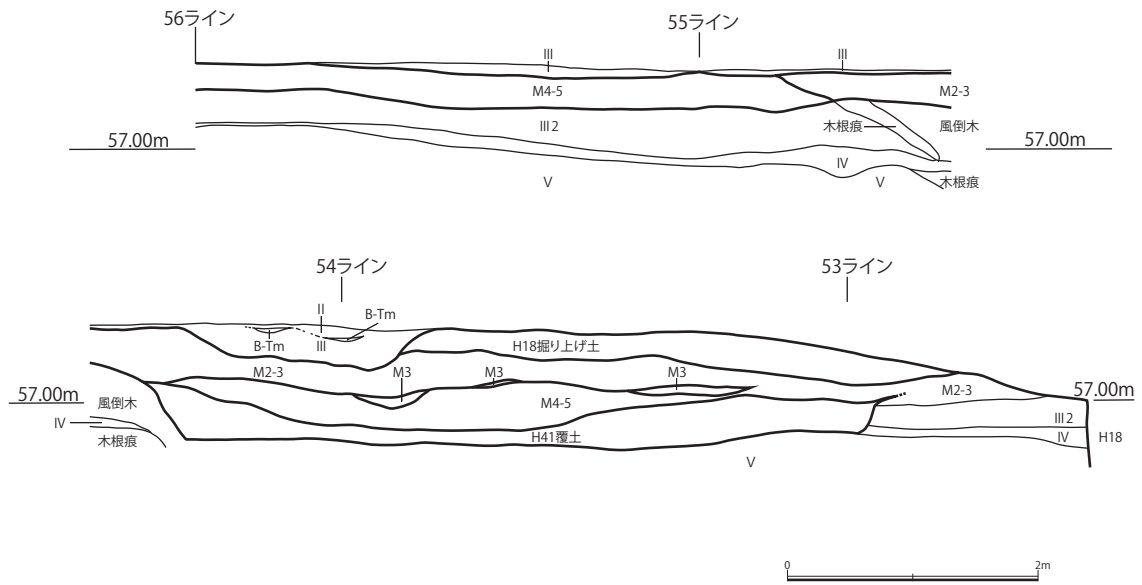


Aトレンチセクション図

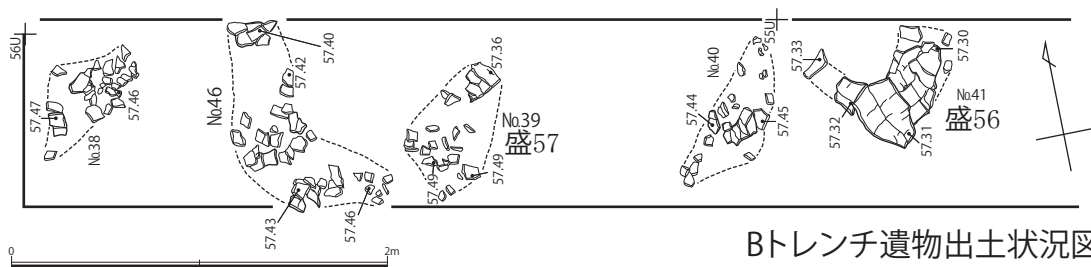
図Ⅱ-17 Aトレンチ土層断面図 F69・76



図Ⅱ-18 Aトレンチ遺物出土状況図 F69・76

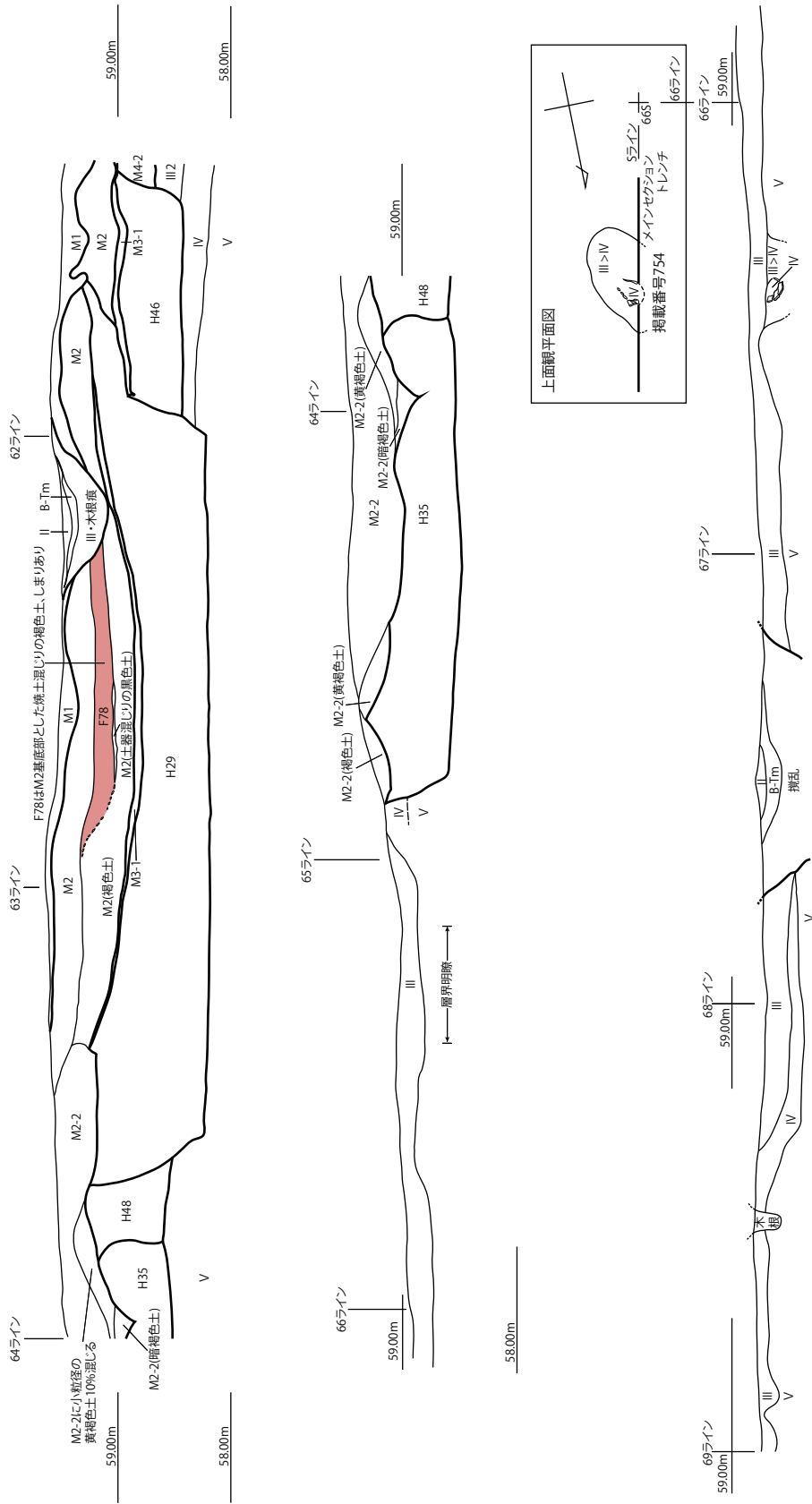


Bトレンチセクション図



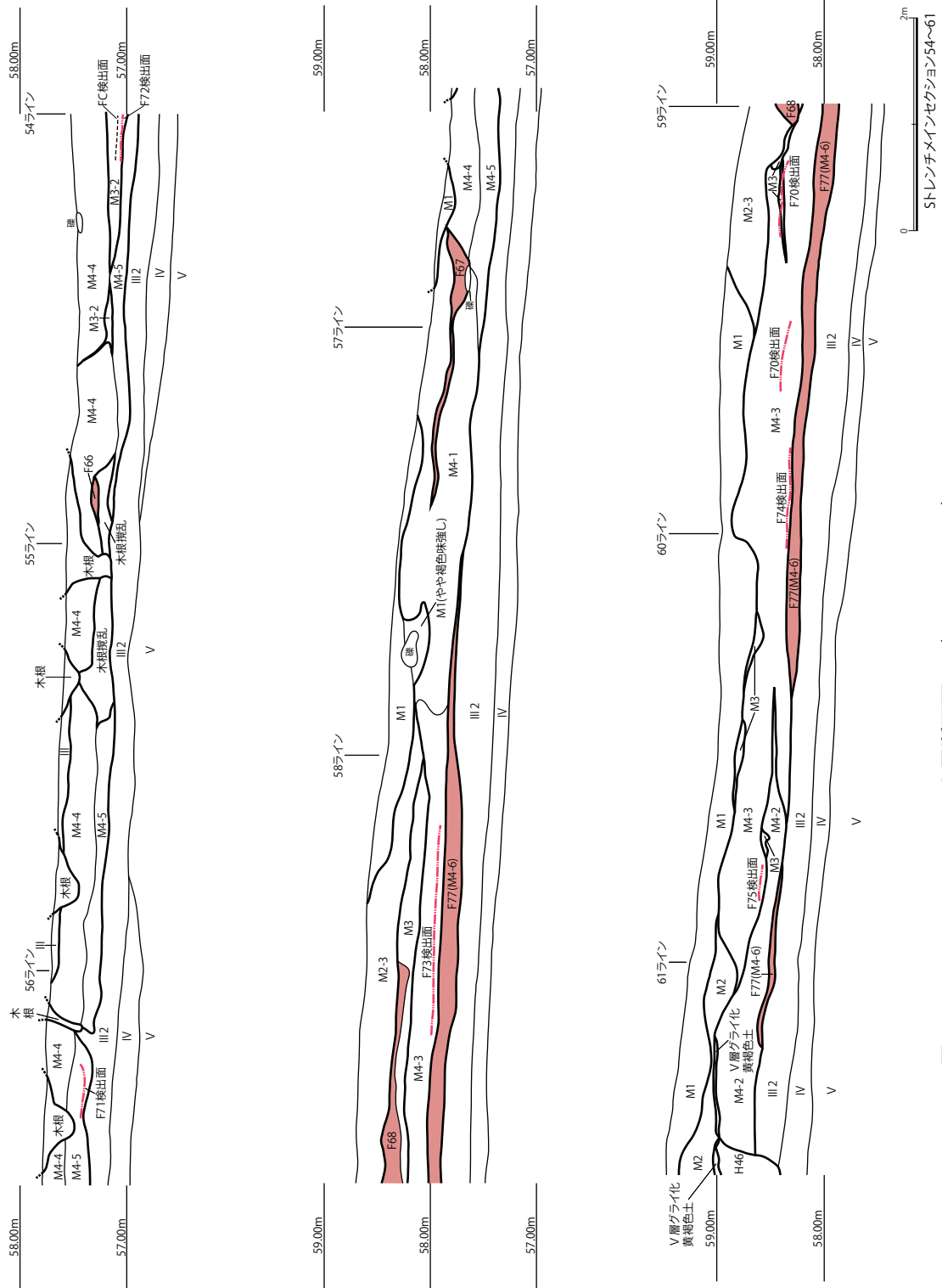
Bトレンチ遺物出土状況図

図Ⅱ-20 Bトレンチ土層断面図・遺物出土状況図



Sトレンチメインセクション62~69

図 II -21 Sライントレンチ土層断面図 1 (62~69ライン) F78



図Ⅱ-22 Sライントレンチ土層断面図2 (54~61ライン) F66~68・70~77

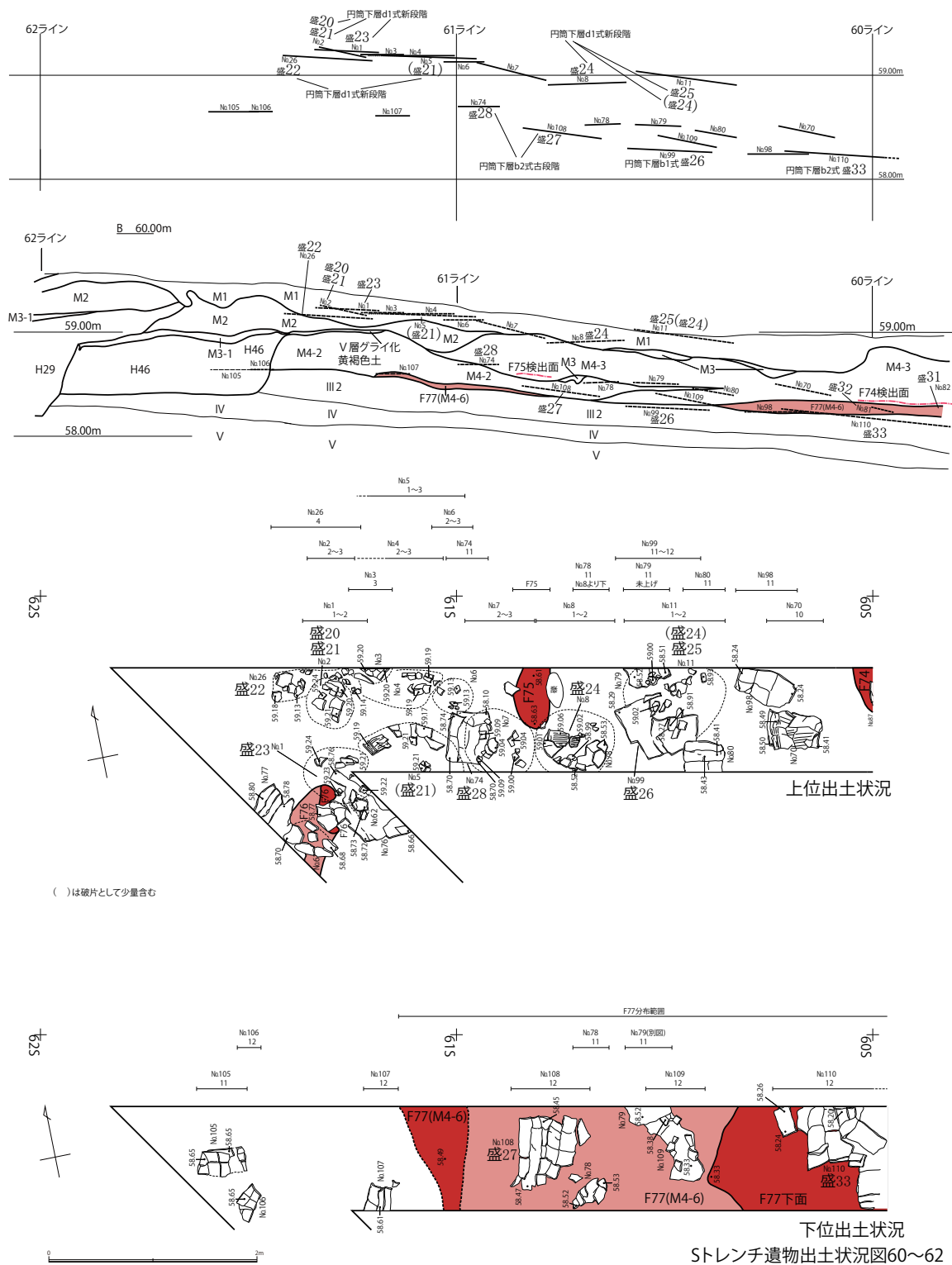
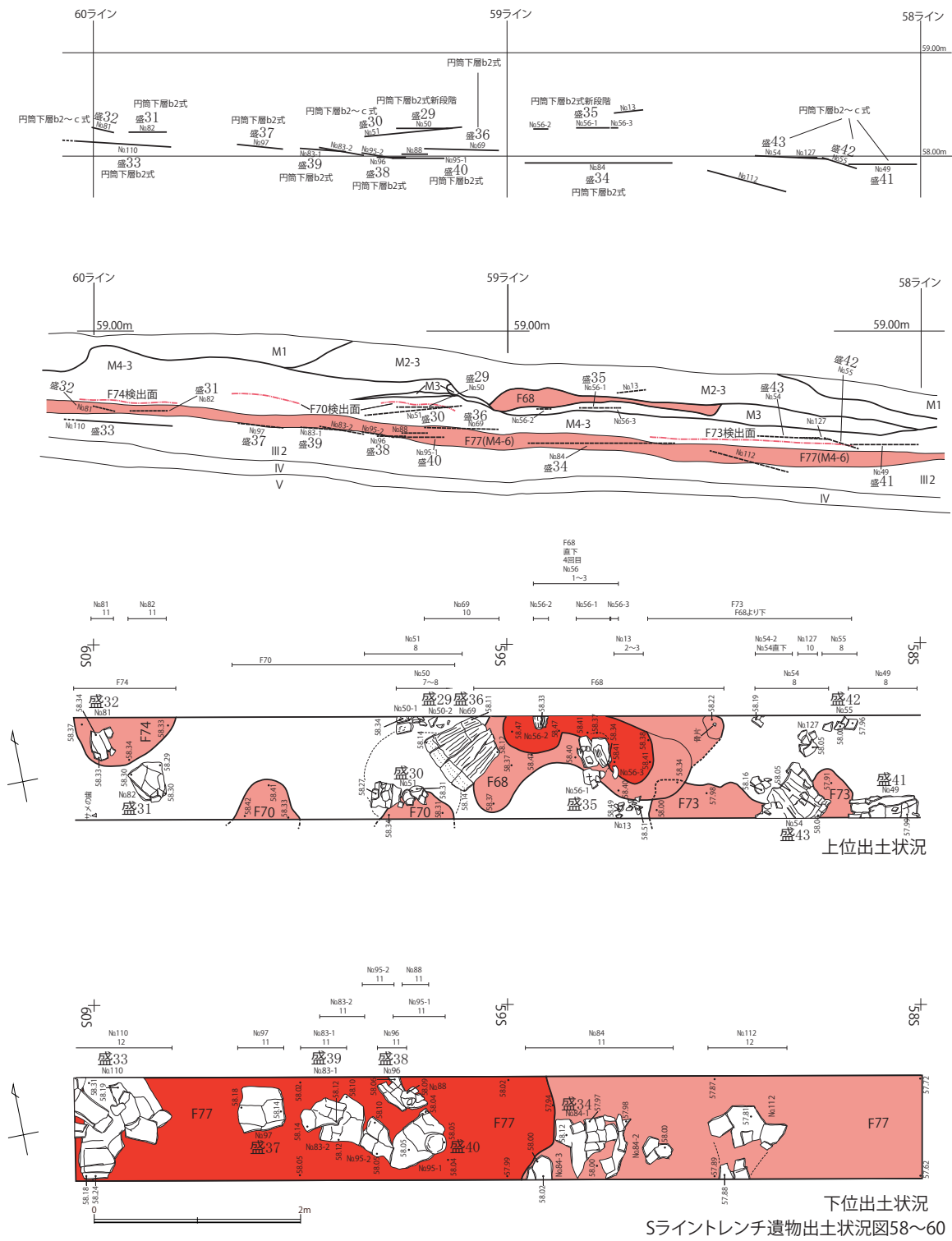
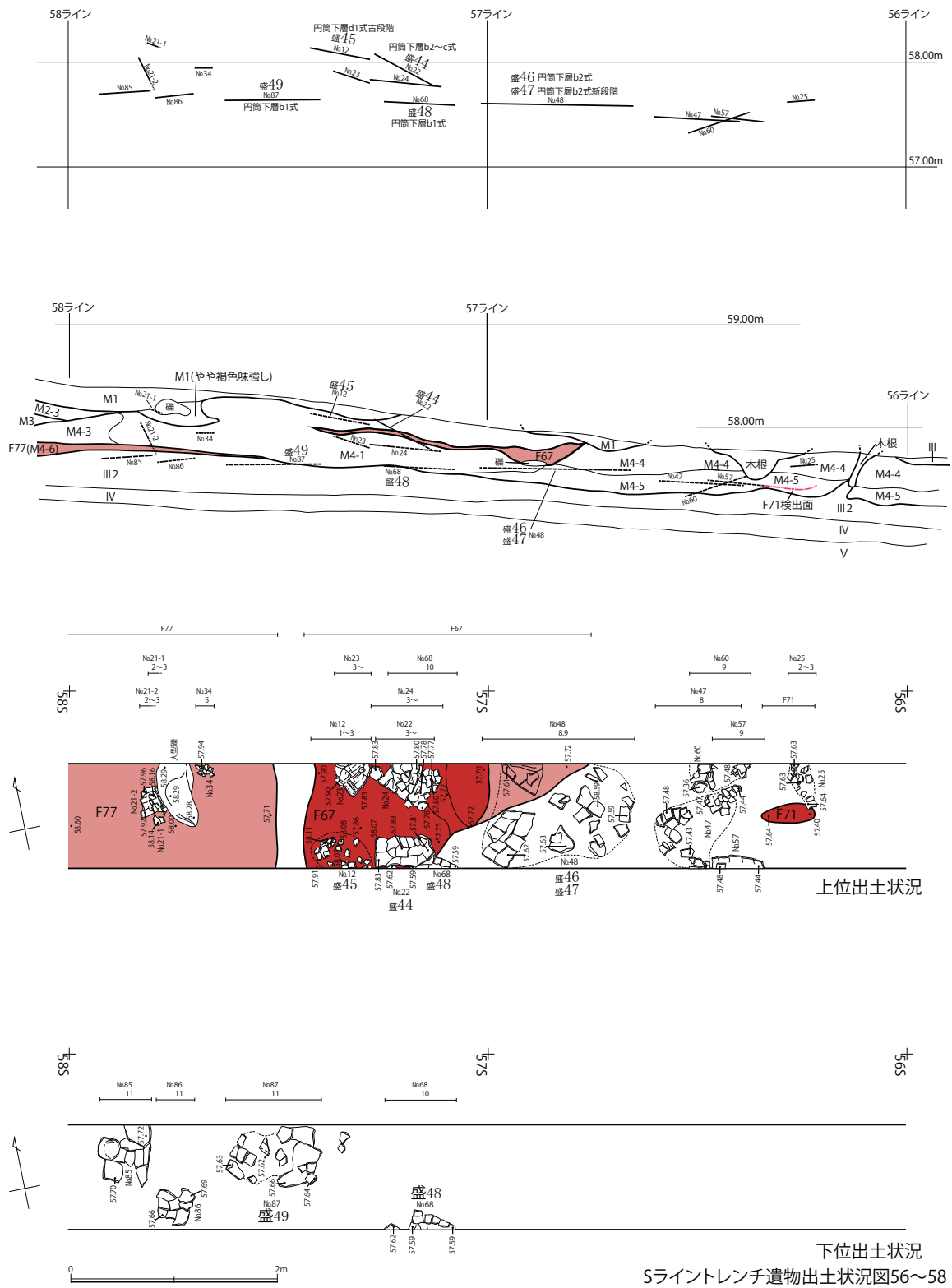


図 II -25 Sライントレンチ遺物出土状況図 2 (60~62ライン) F74~77

館野6遺跡 (2)

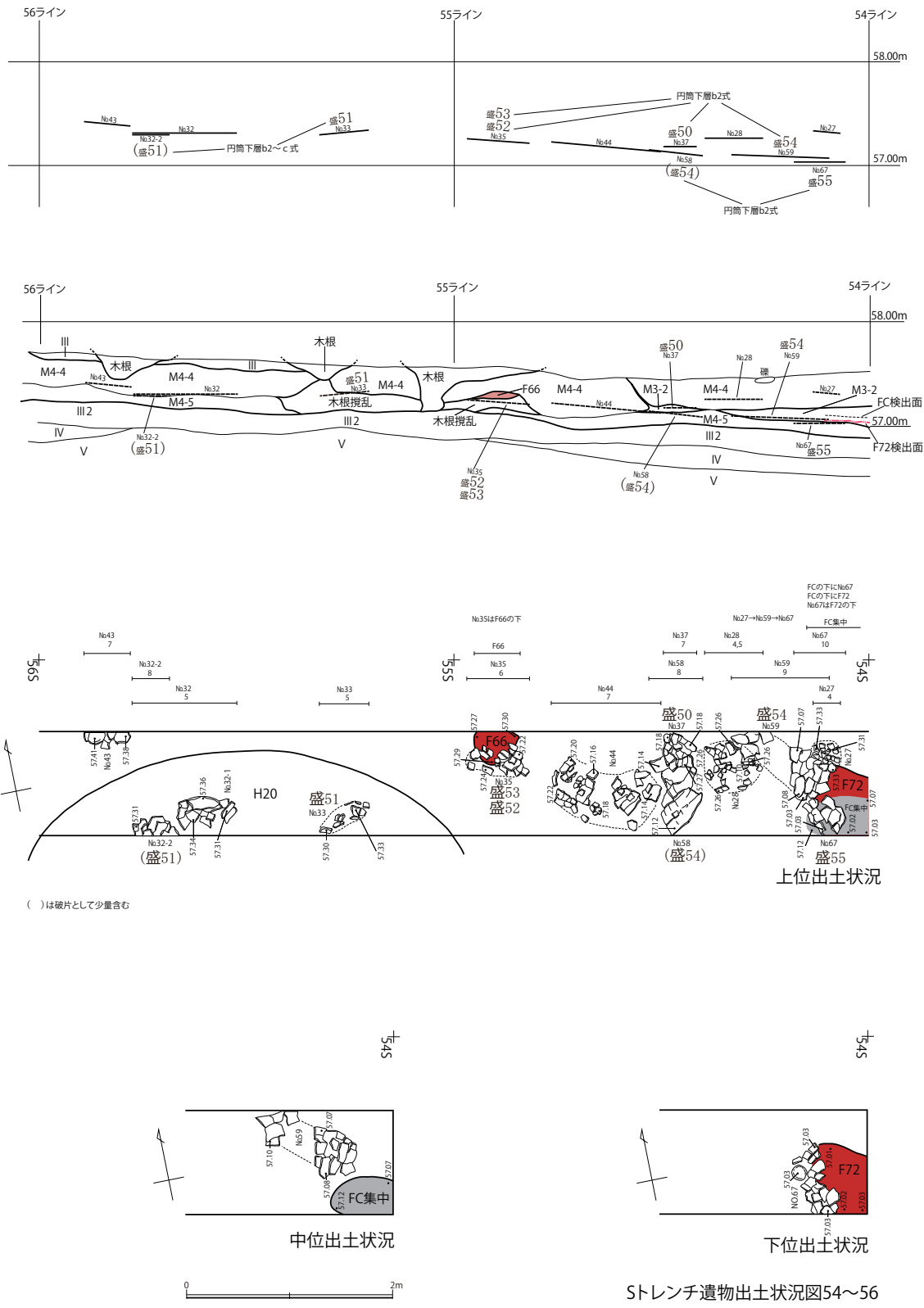


図Ⅱ-26 Sライントレンチ遺物出土状況図3 (58~60ライン) F67・68・70・73・74・77

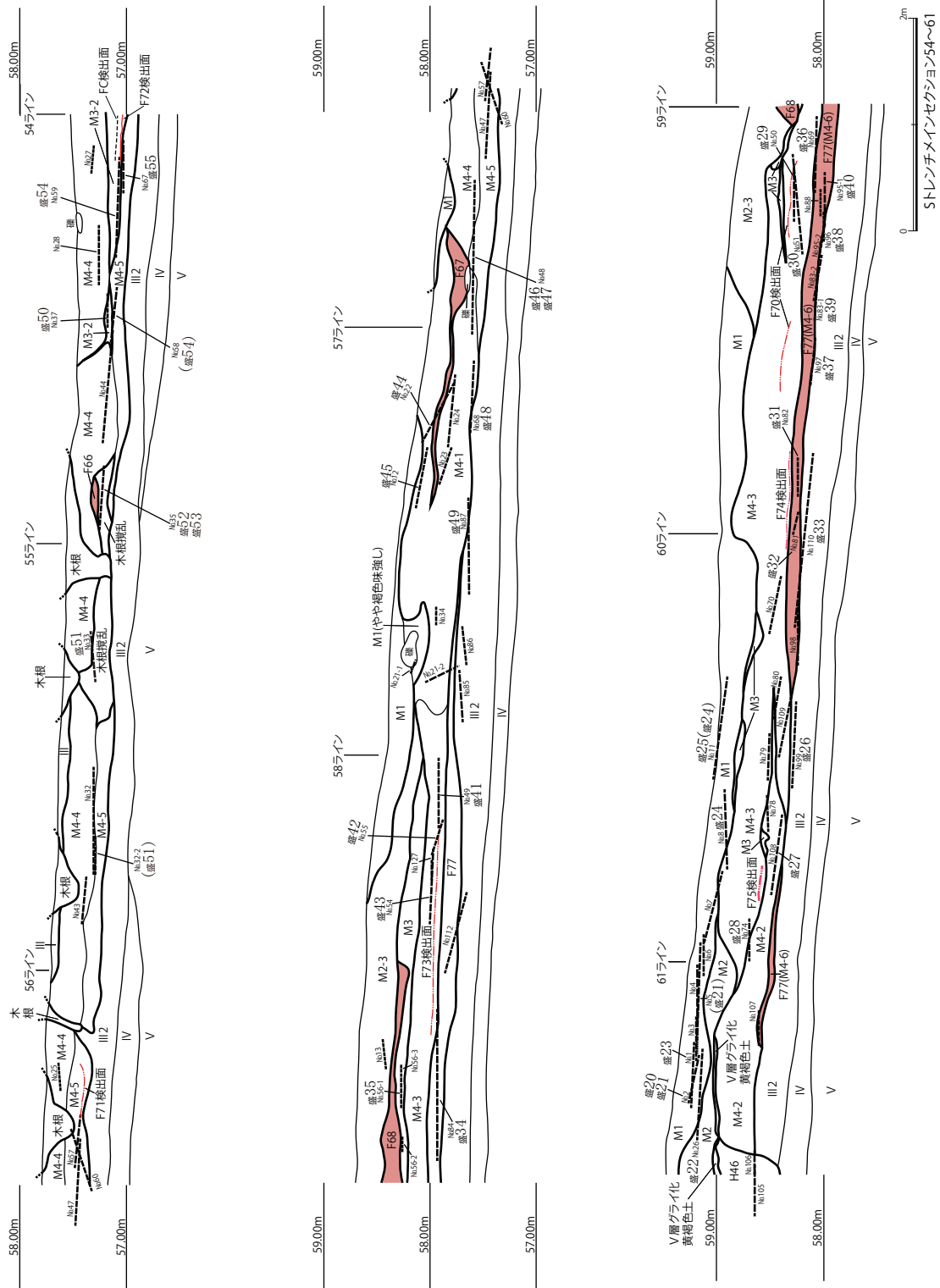


図Ⅱ-27 Sライントレンチ遺物出土状況図4 (56~58ライン) F67・71・77

館野6遺跡(2)



図Ⅱ-28 Sライントレンチ遺物出土状況図5 (54~56ライン) F66・72



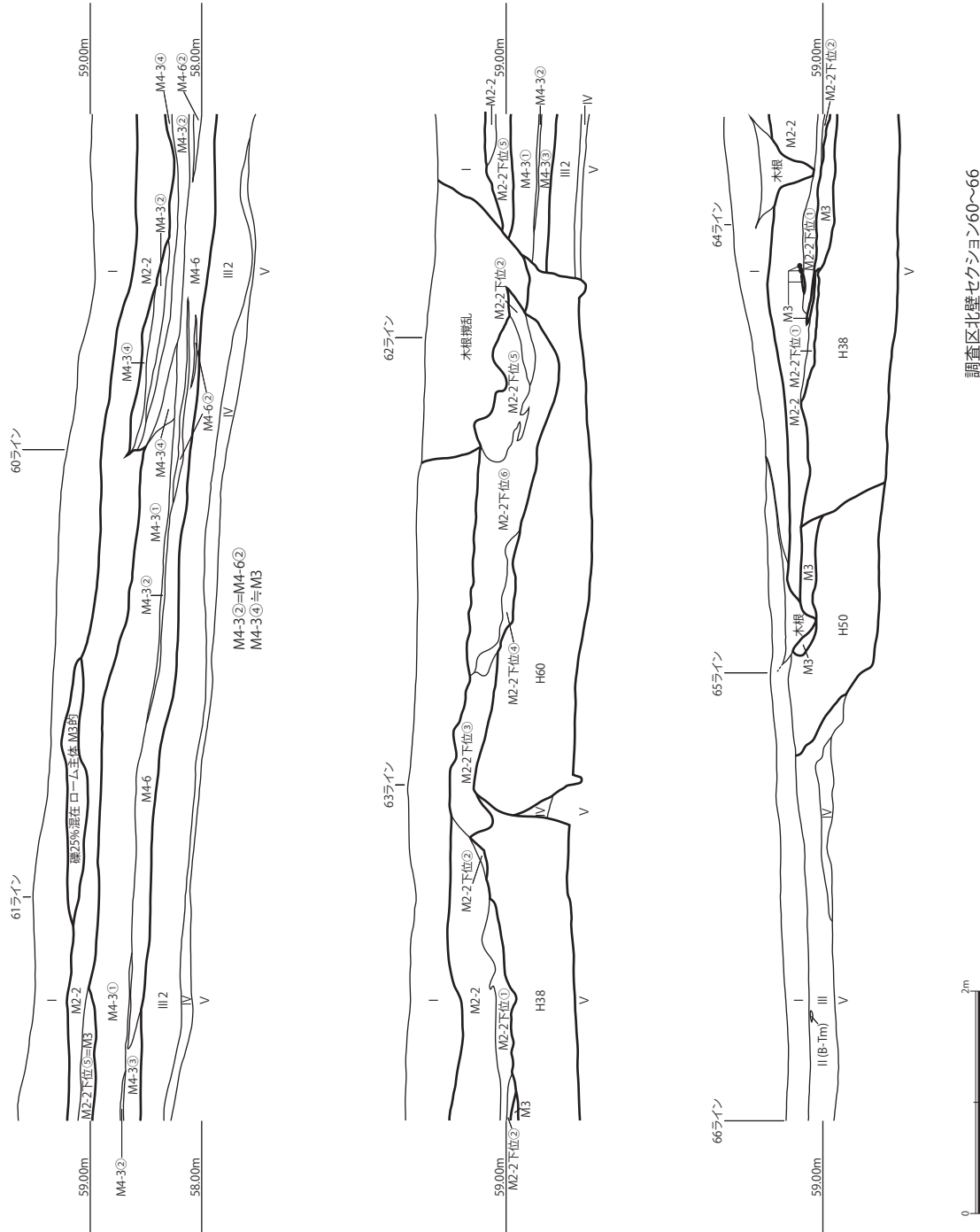
図Ⅱ-30 Sライントレンチ土層断面図および遺物垂直分布図2 (54~61ライン) F66~68・70~77

表Ⅱ-4 盛土遺構土層注記 (Sライントレンチ)

性質	大分類	中分類	小分類	色	色	性質	注記	備考	
黒色土包含層	Ⅲ層	(基本層序)	—	黒色土	幅あり	盛土が無い場合はⅢ2層と判別がつかない	Ⅲ	基本層序	
円筒下層d2式期の盛土を主体とするが掘り込み等により混在する	M1	—	—	黒褐色土	Hue10YR 3/2	M2の上部が黒色化したものをメインとするが、M4の掘り上がった土層 (M4-5) が黒色化したものも含む	M1		
円筒下層d2式期の盛土住居跡凹みへの投棄を主として発達したもの	M2	単純にM2と記載している。「-1」という枝番付けはしていない	—	にぶい黄褐色土	Hue10YR 5/4	住居 (H29) への廃棄を主体とした土	M2	あえて-1をつけない	
			-2	にぶい黄褐色土	Hue10YR 4/3	住居 (H29) への廃棄を主体とした土だがややくすんでいる。平面的に下げて確認したところ汎用性が広いと判断	M2-2		
			-3	M4 (特にM4-5) の再堆積色幅あり	色幅あり	Ⅲ層と紛らわしいときもある。M1とした。	M2-3		
円筒下層c式期の盛土M4を掘りこんで作った住居の掘り上げ土を想定した土層。このM3がある場所はM2とM4が明瞭に分かれる	M3	—	-1	黄褐色土のグライ化したもの	M3-2のグライ化したもの	V層起源グライ化している	M3-1	注記はすべて「M3」	
			-2	黄褐色土	Hue10YR 4/6	V層起源	M3-2		
円筒下層c式期の盛土	M4	—	-1	にぶい黄褐色土	Hue10YR 5/4	粒径1cm以下のパミス混じり	M4-1		
			-2	褐色土	Hue10YR 4/4	暗めの色調 大ブロック状にⅢ層起源土が混じる	M4-2		
			-3	褐色土	Hue10YR 4/4	M3-2 (V層ブロック) が混在する	M4-3		
			-4	暗褐色土	Hue10YR 3/4	Ⅲ+Ⅳ層	M4-4		
			-5	褐色土	Hue10YR 4/6	Ⅲ>Ⅳ層	M4-5		
			-6	褐色土~にぶい橙色	Hue10YR 4~6/4	M3-2 (V層ブロック) が混在する・M4-3に似るが、より土が混じりしりがある。焼土や骨片が混じる (SライントレンチではF-77が関連する)	M4-6		
			F-	にぶい橙色	Hue10YR 6/4	焼土	F ()		() 内はそれぞれの番号・65番目の焼土ならF65
M4に深く関連・連続する盛土	M5	-1 (M4-5的)	A	にぶい黄褐色土	Hue10YR 4/3	M4-5に相当。	M5-1	M5-1が東から西へ掘りすすんできたためM4-5でとりあげた土層だがあればM5-1と注記 (図上でABCに分けただけである) この土層での取り上げは基本的に無い	
			B	にぶい黄褐色土	Hue10YR 5/3	M4-5に相当。小~中粒径の (グライ化した) V層土斑状に3%混じる			
			C	にぶい黄褐色土	Hue10YR 5/3	M4-5に相当。小~中粒径の (グライ化した) V層土斑状に20%混じる			
			D	暗褐色土	Hue10YR 3/3	M4-5に相当。小~中粒径の (グライ化した) V層土斑状に50%混じる			
			-2	暗褐色土	Hue10YR 4~6/4	M3-2 (V層ブロック) が混在する・M4-3に似るが、より土が混じりしりがある。焼土や骨片が混じる。M4-6とほぼ同じ。土器を多く含む。M5-1Dとは土器の多さで差がある。	M5-2	M5盛土東側から、M5-1として西へ掘り進んだ。	
M4とM5に関連	H-18掘り上げ土	—	—	灰黄褐色土	Hue10YR 4/2	基本層序Ⅲ層とV層が混在。V層の方が多い。		他の住居の掘り上げ土と同じ扱い。	
現在、円筒下層c式期の盛土としている (2010.3.12) が、現地で洗浄した破片に茂ヤンモ岱式起源の模様を持つ破片があった為、時期が古くなる可能性がある	M6	-1	a	黒褐色土	Hue7.5YR 3/1	基本層序Ⅰ層的なものか 細かい礫 (中礫) が10~20%混じる	M6-1		
			b	明褐色土	Hue7.5YR 7/1	盛土「M3」的なもの グライ化したV層混じり			
			c	にぶい褐色土	Hue7.5YR 5/4	aとbが1:1で混じったものとする小~中粒径のV層土が斑状に1%混じる			
		-2	d	褐色土	Hue7.5YR 4/3	盛土 (再堆積層) Ⅲ>Vの割合で混じる。多くの遺物が出た。所々微量に「M6-e」や炭化物が混じる	M6-2		
			e	明赤褐色土	Hue2.5YR 5/6	酸化した鉄分によって染まったM6-d層。焼土と考えるが、層境が不明瞭			
			f	暗赤褐色土	Hue5YR 3/3	層境が不明瞭M6-cに似るM6-eの赤みの発色がなくなったものか。微量な骨片 (粒径1mmくらい) を2%ほど含む			
		L	—	褐色土	Hue10YR 4/6	抜根と思われる攪乱の土層			図面上の土層注記なので、この土層名での取り上げは無し
		Ⅲ主体土	この土層近辺の基本層序Ⅲ2層も同色	黒褐色土	Hue10YR 3/1	抜根と思われる攪乱の土層			
		V	—	にぶい黄褐色土	Hue10YR 5/4	基本層序			
盛土下のⅢ層	Ⅲ2層 (基本層序)	—	—	主に黒色土 (場所によって幅あり)	幅あり	盛土が無い場合はⅢ層と判別がつかない。基本的に遺物はない (盛土に遺物が多いため盛土のものが混在している場合がある)。	Ⅲ2		
漸移層	Ⅳ層 (基本層序)	—	—	黒色土~黄褐色の間	幅あり	盛土が無い場合、遺物が出土する事がある	Ⅳ		
地山	V層 (基本層序)	—	—	黄褐色をベース	幅あり	いわゆるローム層	V		

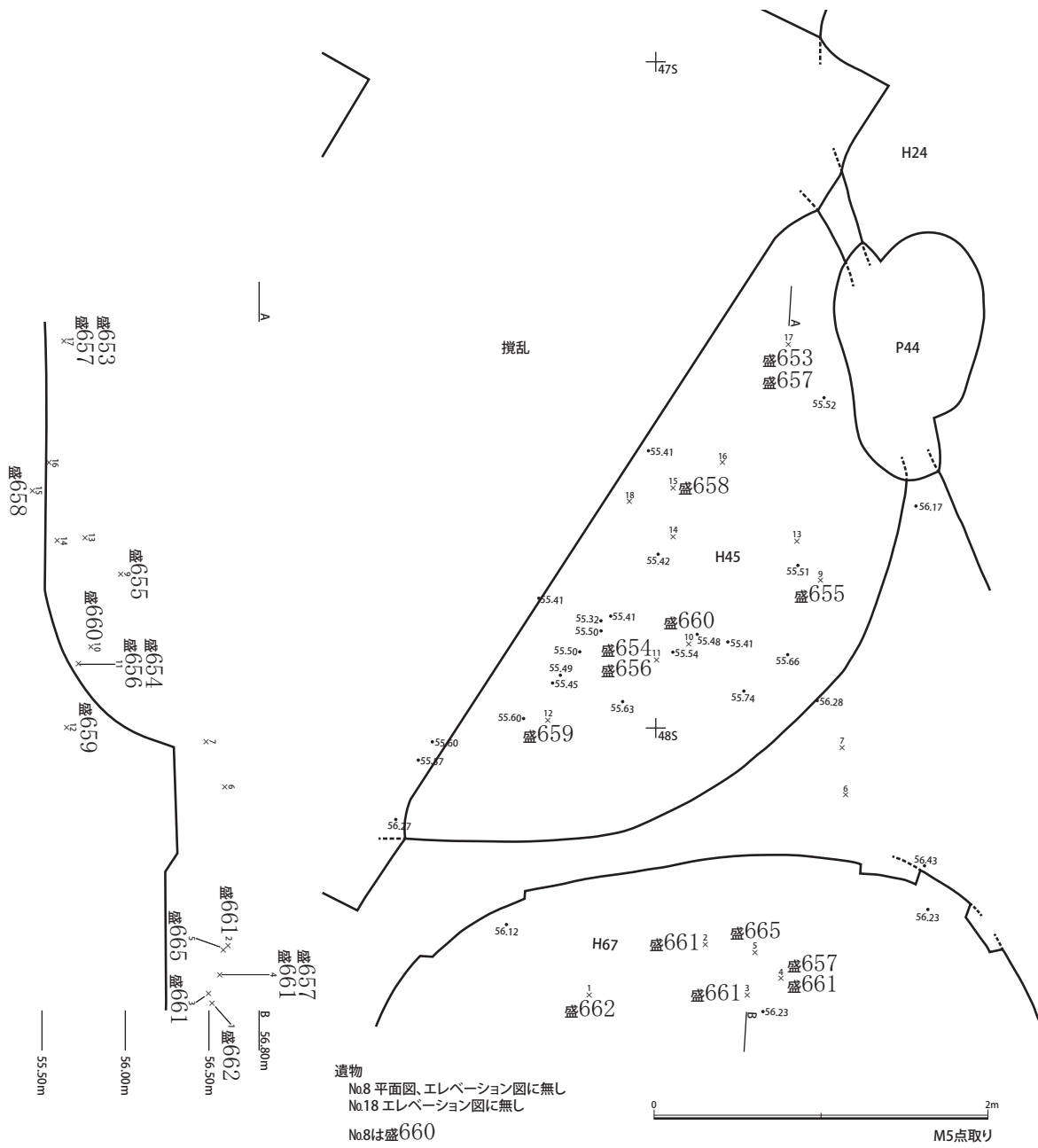
表Ⅱ-5 盛土遺構土層注記(調査範囲北壁)

性質	大分類	中分類	小分類	色	色	性質	注記	備考		
表土	I層	基本層序	表土	幅あり・黒色土(73ライン南壁)	Hue10YR 2/1(73ライン南壁)		I			
表土	I層下	基本層序	表土	表土(北壁の一部)	表土(北壁の一部)	礫25%混在する V層主体		出土遺物無し		
表土	II層	基本層序	表土	幅あり・黒色土(73ライン南壁)	Hue10YR 2/1(73ライン南壁)		II			
表土	B-Tm	B-Tm	B-Tm	にぶい黄褐色土	Hue10YR 5/4(73ライン南壁)	レンズ状の堆積		出土遺物無し		
黒色土包含層	III層	基本層序	—	黒色土~黒褐色土(73ライン南壁)	幅がある・・・一例・ Hue10 YR5/4(73ライン南壁)	盛土が無い場合はIII 2層と判別がつかない	III			
円筒下層d2式期の盛土を主体とするが掘り込み等により混在する	M1	—	—	黒褐色土	Hue10YR3/2	M2の上部が黒色化したものをメインとするが、M4の掘り上がった土層(M4-5)が黒色化したものも含む	M1	III層と区別をつけにくい		
円筒下層d2式期の盛土住居跡凹みへの投棄を主として発達したもの	—	—	—	にぶい黄褐色土	Hue10YR5/4	単純にM2と記載している。「-1」という枝番付けはしていない・・・住居(H29)への廃棄を主体とした土	M2	あえて-1をつけない		
				にぶい黄褐色土	Hue10YR4/3	住居(H29)への廃棄を主体とした土だがややくすんでいる。平面的に下げて確認したところ汎用性が広いと判断	M2-2	M2だけの袋はM2-1である		
	-2下位	—	—	(北壁) 暗褐色土	Hue10YR3/3	III+V	M2-2下	①~⑥は土層注記上の分層、薄層を反映させたものだが注記は包括的に「M2-2下」		
				①(北壁) 黒褐色土	Hue10YR2/3	III+V III>V				
				②(北壁) 黒褐色土	Hue10YR2/3	極小~小粒径の炭化物和焼土粒(5YR4/4)がそれぞれ10%混じる				
				③(北壁) 暗褐色土	Hue10YR3/3	小粒径のV層土10%				
				④(北壁) 黒褐色土	Hue10YR2/2	グライ化したV層土M3に類する				
				⑤(北壁) にぶい黄褐色土	Hue10YR7/4	V層土				
	-3	—	—	M4(特にM4-5)の再堆積色幅あり(北壁)では黒褐色土	Hue10YR4/3	色幅あり(北壁)では Hue7.5YR2/2	M2-3	M2だけの袋はM2-1である		
				にぶい黄褐色土~にぶい黄褐色土	Hue10YR7/4~ Hue10YR5/3	グライ化したV層土V層起源グライ化している(あるいはM3-2のグライ化したもの)	M3-1	注記はすべて「M3」		
円筒下層c式期の盛土	M3	—	—	黄褐色土	Hue10YR4/6	V層起源	M3-2			
				にぶい黄褐色土	Hue10YR5/4	粒径1cm以下のバミス混じり	M4-1			
	M4	-2	—	(北壁)	褐色土	Hue10YR4/4	暗めの色調 大ブロック状にIII層起源土が混じる	M4-2		
					褐色土	Hue10YR4/4	取り上げはM4-5	M4-3		
		-3	—	—	(北壁)	褐色土	Hue10YR4/4	M3-2(V層ブロック)が混在する	M4-3	
						にぶい黄褐色土	Hue10YR3/3	混じり少ない		
						①(北壁) 褐色土	Hue10YR4/4			
						②(北壁) 黒褐色土	Hue10YR3/2			
		-4	—	—	(北壁)	褐色土	Hue7.5YR2/2		M4-4	
						にぶい黄褐色土	Hue10YR7/4	図面27・M4-3③においてM4-3③がダブっていたため④に変更グライ化したV層土M3に類する	M4-5	
-5	—	—	(北壁)では	暗褐色土	Hue10YR3/4	III+IV層	M4-6			
				褐色土	Hue10YR4/6	III+IV層				
				暗褐色土	Hue10YR5/3	混じり少ない・・・55ラインから東に向かって明るさと黄色味を増してくる・・・そしてM5				
				褐色土~にぶい褐色土暗褐色土(北壁)	Hue10YR4~6/4	M3-2(V層ブロック)が混在する・M4-3に似るが、より土が混じりしまりがある。焼土や骨片が混じる(SライントレンチではF-77がこれに相当する)				
-6	—	—	(北壁)	黒褐色土	Hue10YR3/2	M4-3②とほぼ同じ 北壁の一部でM4-5の間に入り込んでいた。①はなし	M4-3			
				にぶい褐色土	Hue10YR6/4	焼土 M4-6相当 Sライントレンチ・Aライントレンチのみ記録	F()	()内はそれぞれの番号・65番目の焼土ならF65		
M4に深く関連・連続する盛土	M5	-1	—	A	Hue10YR4/3	M4-5に相当。	M5-1	M5-1が東から西へ掘りすすんできたためM4-5でとりあげた土層だがあればM5-1と注記(図上でABCに分けただけである)この記載方法での取り上げは基本的に無い		
				B	Hue10YR5/3	M4-5に相当。小~中粒径の(グライ化した)V層土斑状に3%混じる				
				C	Hue10YR5/3	M4-5に相当。小~中粒径の(グライ化した)V層土斑状に20%混じる				
				D	Hue10YR3/3	M4-5に相当。小~中粒径の(グライ化した)V層土斑状に50%混じる				
-2	(北壁)	—	—	暗褐色土	Hue10YR4~6/4	M3-2(V層ブロック)が混在する・M4-3に似るが、より土が混じりしまりがある。焼土や骨片が混じるM4-6とほぼ同じ。土器を多く含む。M5-1Dとは土器の多さで差がある。	M5-2			
				灰黄褐色土	Hue10YR4/2	基本層序III層とV層が混在。V層の方が多い。		他の住居の掘り上げ土と同じ扱い。基本的に遺物はH18そのものとは無関係か。		
点取りとしたものはH26廃棄層のものである。現場段階ではわからなかった。	M6	-1	—	a	Hue7.5YR3/1	基本層序I層的なものか 細かい礫(中礫)が10~20%混じる	M6-1			
				b	Hue7.5YR7/1	盛土「M3」的なもの グライ化したV層混じり				
				c	Hue7.5YR5/4	aとbが1:1で混じったものと考え小~中粒径のV層土が斑状に1%混じる				
		-2	—	—	—	d	Hue7.5YR4/3	盛土(再堆積層)III>Vの割合で混じる。多くの遺物が出土した。所々微量に「M6-e」や炭化物が混じる	M6-2	
						e	Hue2.5YR5/6	層境が不明瞭M6-cに似るM6-eの赤みの発色がにぶくなったものか。微量な骨片(粒径1mmくらい)を2%ほど含む		
		L	—	—	—	褐色土	Hue10YR4/6	抜根と思われる攪乱の土層	III層主体土	この土層近辺の基本層序III 2層も同色
						黒褐色土	Hue10YR3/1	抜根と思われる攪乱の土層		
V	—	—	—	にぶい黄褐色土	Hue10YR5/4	基本層序	V	図面上の土層注記なので、この土層名での取り上げは無い。もしあれば「M6」で		
盛土下のIII層	III 2層	基本層序	—	主に黒色土(場所によって幅あり)	幅あり	盛土が無い場合はIII層と判別がつかない。基本的に遺物はない(盛土に遺物が多いため盛土のものが混在している場合がある)。	III 2			
漸移層	IV層	基本層序	—	黒色土~黄褐色の間・・・一例・灰黄褐色土(73ライン南壁)	幅あり・・・一例・ Hue10 YR4/2(73ライン南壁)	盛土が無い場合、遺物が出土する事がある	IV			
地山	V層	基本層序	—	黄褐色をベース・・・一例・明黄褐色土(73ライン南壁)	幅あり・・・一例・ Hue10 YR6/6(73ライン南壁)	いわゆるローム層	V			

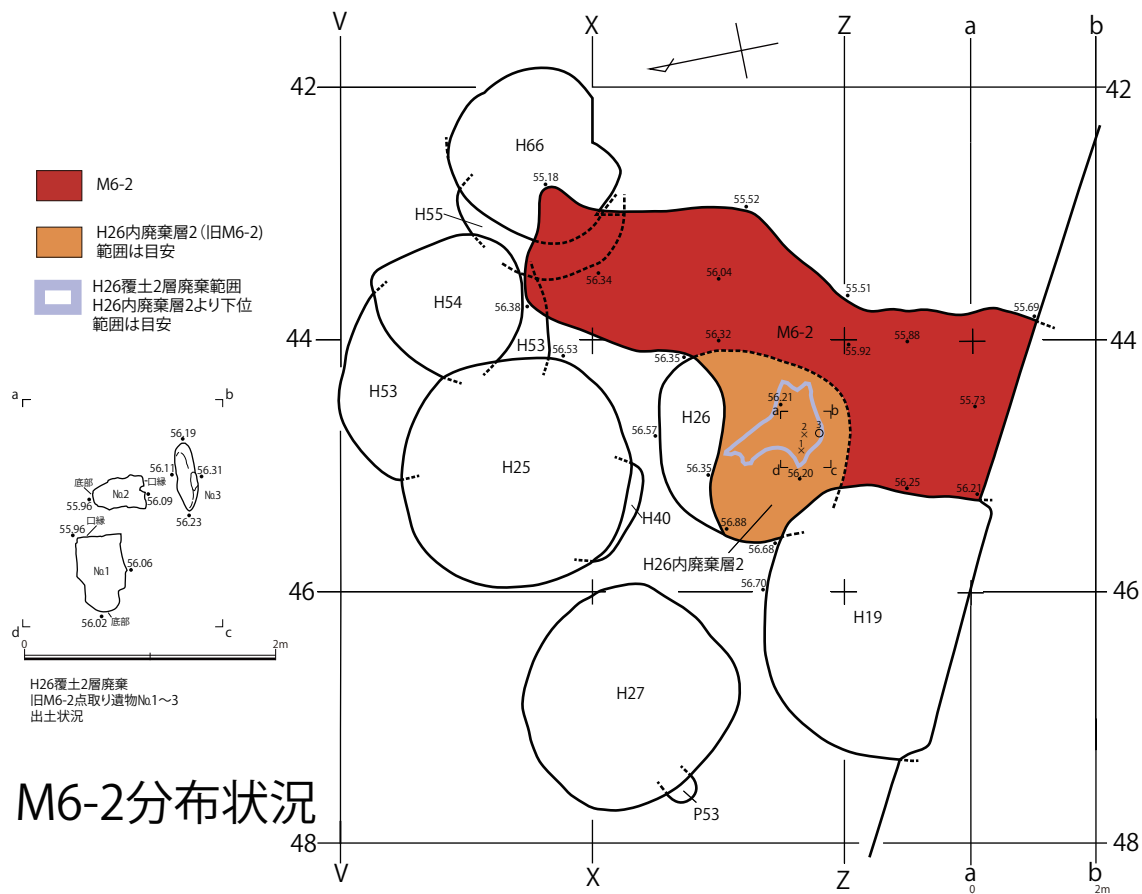
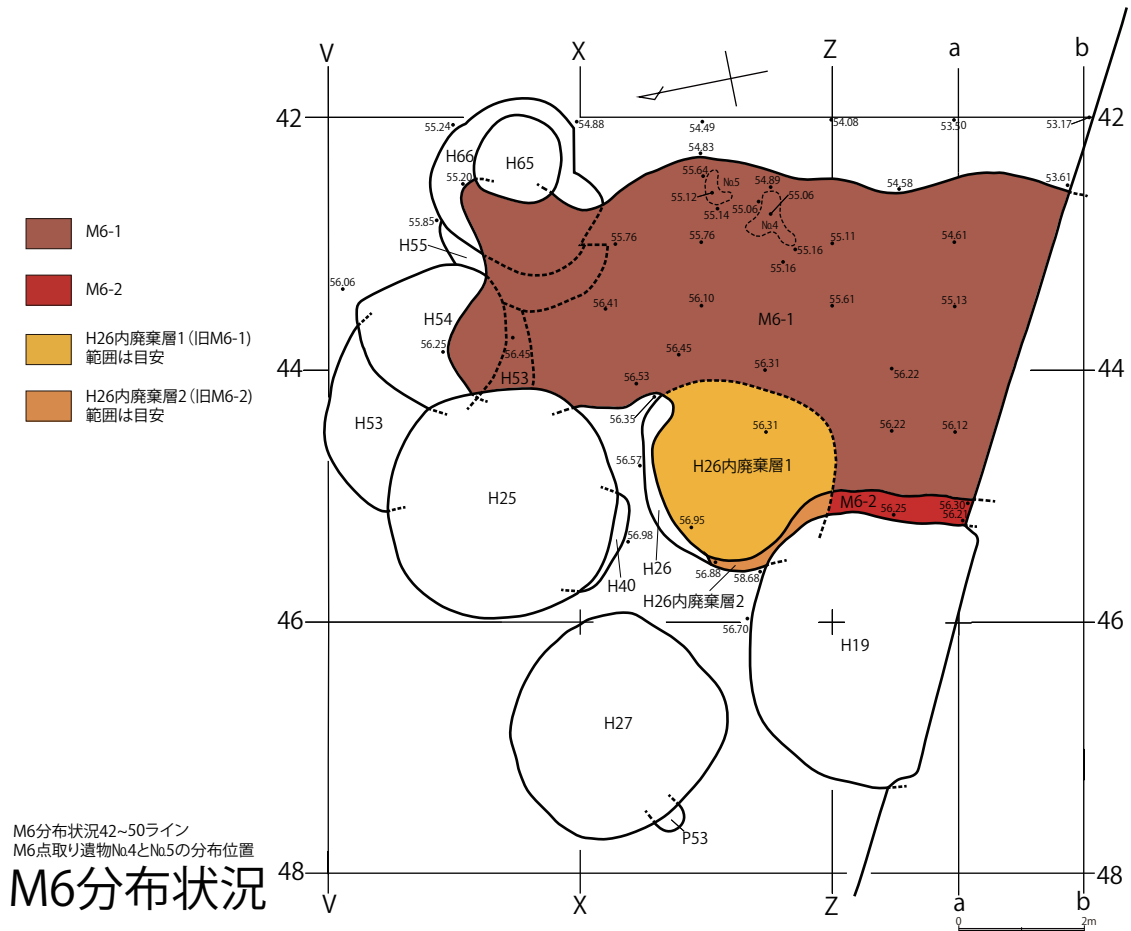


調査区北壁セクション60~66

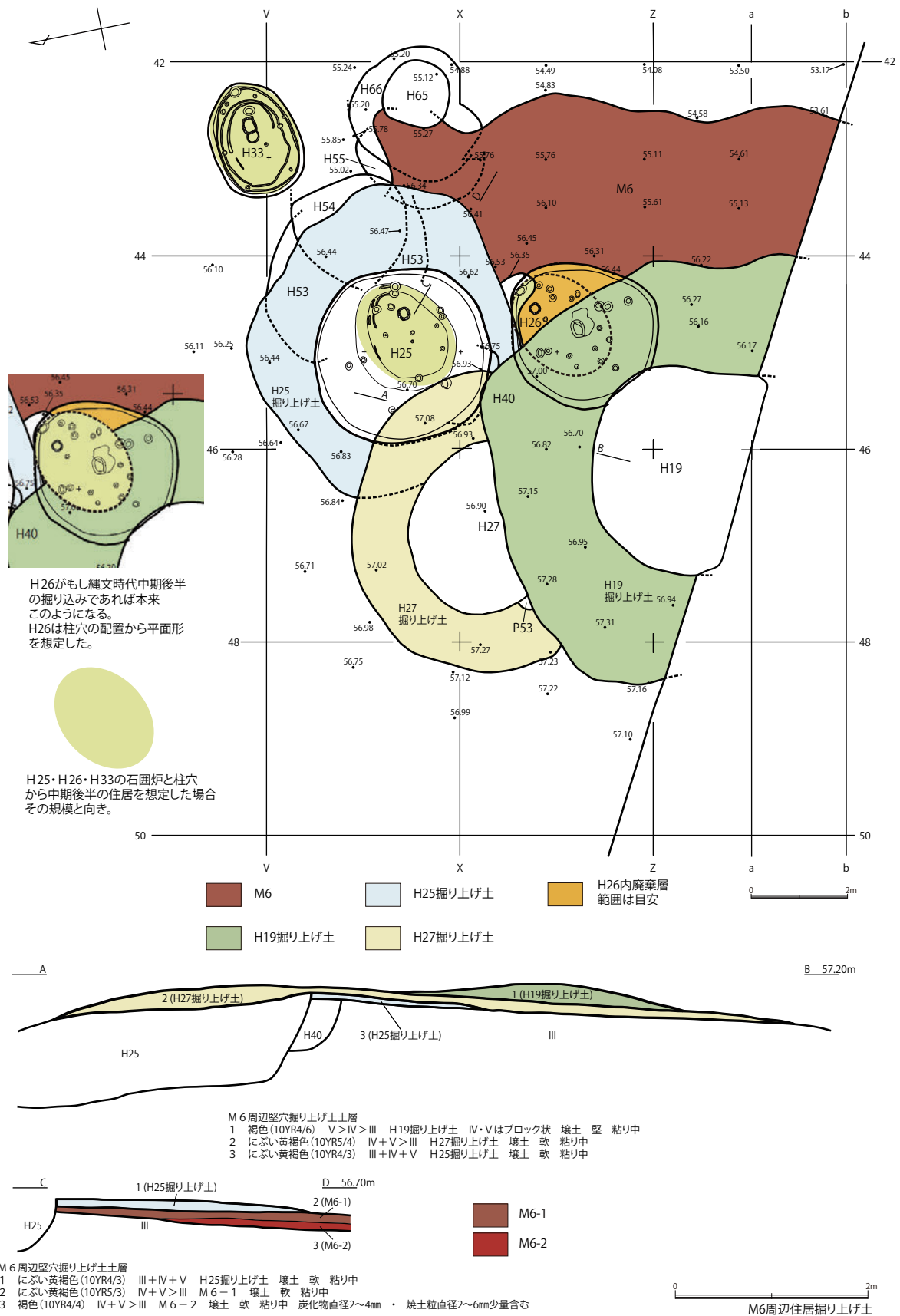
図 II -33 調査範囲北壁土層断面図 (60~66ライン)



図Ⅱ-34 M5点取り平面図・エレベーション図(47~48-R~S区)



図II-35 M6分布状況 (M6-1・2、H26内廃棄層1・2)



図Ⅱ-36 M6周辺住居掘り上げ土分布状況・堆積状況



aラインM6盛土メインセクション図

図 II -37 aラインM6盛土土層断面図

骨片を多く含み、残存率の高い土器が多く出土する。

当初H26はM6より古く、覆土中にまでM6が分布しているものとして遺物を取り上げた。M6の点取り土器として取り上げたNo.1～3についても同様である。だが調査後に精査したところ、H26はM6より新しく、覆土中に地点貝塚のような廃棄層を持つとわかった。M6の点取りNo.1～3はH26の点取り遺物と同じ状況から出土したものとわかった。しかし主にM6扱いの44Y区出土遺物がこれに該当するであろうという目算はたったが台帳上での現状復元は不可能であった。

M6で取り上げた遺物のうち、44Y区を除く、43～45-Y～Z区からは円筒下層b1式が出土している。しかし44Y区については円筒下層d1式の混在が目立つ。斜面際の埋まり切らない窪みが周辺から遺物が流入しやすかったためと考える。

写真と図から明らかにH26廃棄層出土のNo.1～2の土器についてはH26のものとして掲載した。しかしNo.3の石器については盛土の項目でM6出土635として掲載した。しかしH26の石囲炉がH26廃絶後に掘り込まれて設置された可能性が出てきた。そこで遺物の垂直分布について詳細に検討したところ、覆土2層にもう一枚廃棄層があり、H26内廃棄層とは別なもの、さらに下位の覆土から出土していると判明した。No.3の石器はM6出土635としたが、H26の覆土2層出土遺物ということになる。H26の他の点取り遺物と同様の出土状況である。

H26覆土2層出土土器は、48R区のM5点取り段階より新しい文様要素を持つ。複数の縄線によって鋸歯状を表現した口縁部文様帯、隆帯を縁取る沈線、径に対して器高が高い、といった円筒下層c式の要素が強い。胎土等を勘案すると、円筒下層b2式の範疇で新しいものだが、文様要素上、円筒下層c式の古いものである。円筒下層c式の文様要素が見受けられるので特に「円筒下層c式古段階」とした。時間軸的には円筒下層b2～c式とした段階と変わらないと考える。

M6-2の土器を検討すると、本来のM6盛土は円筒下層b1式のころに形成され始め、円筒下層b2式の前半まで継続、H26が掘り込まれて、そこにH26覆土2層に円筒下層c式古段階(円筒下層b2～c式)が廃棄され、さらに埋った時点で、円筒下層d1式期を主としてH26廃棄層が形成されたと想定する。

(大泰司)

Ⅲ 遺構の調査と出土遺物

1 遺構の調査

遺物は第2分冊に図示解説した。ただしF66～78については第3分冊に図示解説した。掲載番号もそれぞれに対応する。記号等の説明でも述べたが、遺物出土状況図中の「土1」とは各遺構における「土器掲載番号1」のことである。同様に「石1」とは「石器掲載番号1」の事である。「No.1」は「点取りNo.1」のことである。「盛1」とは「第3分冊盛土出土遺物の項での掲載番号1」である。記号による略称について、「土器等を×」、「剥片・剥片石器等を△」、「礫・礫石器等を○」で示した。付随する番号は点取り番号である。位置を落とした際に付した番号で、H58以外は遺物番号と対応させた。本文記載においては土器に関連する項の数字は第2分冊第Ⅲ章2項の掲載番号、石器は同じく第Ⅲ章3項の掲載番号である。各遺構に付した表には点取り遺物の出土方位と遺物分類を示した。各遺構の規模について、計測値は表Ⅲ-2 検出遺構規模一覧に示した。動・植物遺体については、遺構ごとに記載し、全体の概要はV章に記した。

(1) 竪穴住居

今回竪穴住居は50軒検出した。縄文時代中期のものが3軒、前期後半のものが47軒である。住居付属遺構について、青灰色砂が密に埋積した土坑を砂ピットと称した。住居の中央に分布する事が多い。縄文時代前期後半に特徴的である。

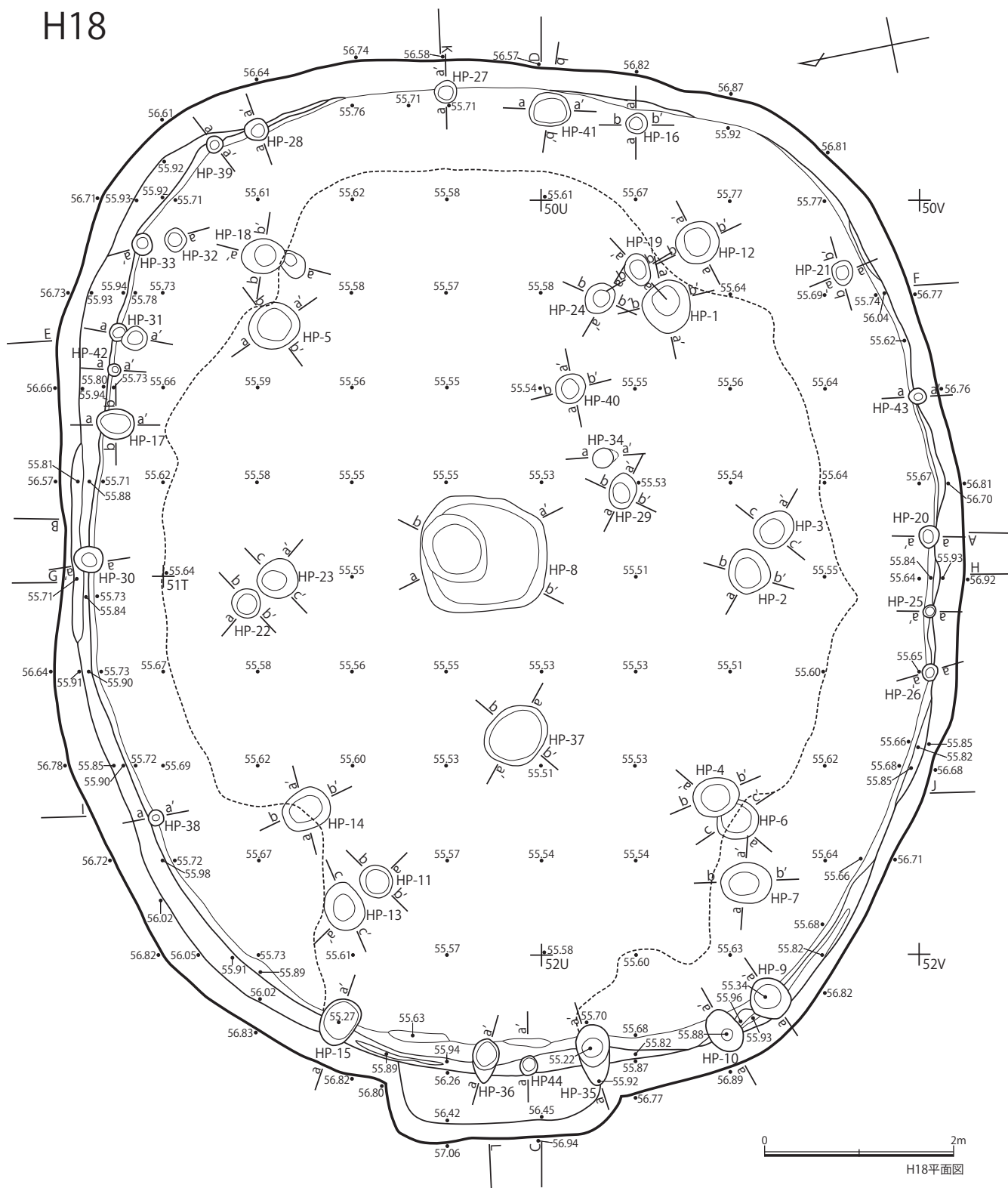
H18 (図Ⅲ-1-1~28、-2-1、3-1~3、図版6・7・54・55・123)

位置・立地 49~52-T~V区 調査区のはほぼ中央、矢不來川に向かって伸びる沢に面した段丘の縁、標高57.0m前後

確認・調査 調査区内の杉の植林を伐採後、大きな落ち窪みとして確認した。重機による表土除去後、人力による精査を行った。窪みの上面はKo-dやB-Tm火山灰で覆われており、中・近世の遺構ではないことを確認した。落ち窪みの周囲は掘り上げ土と考えられる、暗褐色土を主体としたドーナツ状の高まりがみられた(図Ⅲ-1-12)。このことにより縄文時代の遺構であることが想定されたため、窪みの長軸と短軸に土層観察用のベルトを設定、トレンチ調査を行った。これにより、Ⅲ層中から掘り込まれている竪穴住居で、急で明瞭な壁の立ち上がりと床を検出した。床面については、中心部分が平坦であるが、トレンチ調査段階では壁際にローム質土主体の硬く締まりのある土が、西側先端部を除いて長軸の東側と短軸の両側三か所で検出した。これは土葺き屋根の崩落か、もしくはベンチ構造を持つ床面であることの二つの可能性が考えられたため、ベルトと壁際のローム質土を残し覆土を掘り下げた。調査の結果、住居の壁際から1m前後の幅を平坦にめぐらるもので、土で葺いた屋根が崩落して堆積した土とは考え難く、ローム質土が床面に平坦に廻るベンチ状の遺構であると判断した。この貼ベンチの平・断面の実測を行なった後に掘り下げ、住居跡床面の精査を行った。

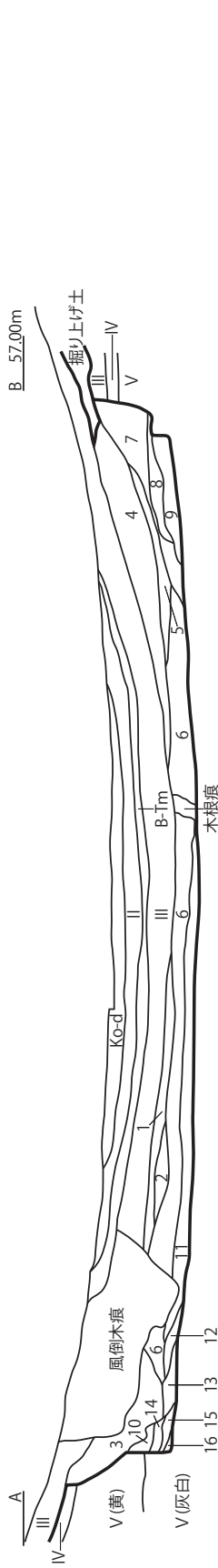
構造 平面は楕円形である。確認面から床面までの深さは1m20~60cmである。長軸は東西方向を向く。長軸の西側先端部、上場が外側に突出する形でテラス状に張り出す。この壁際には段差と微弱な溝があり、壁柱が6か所(HP-9・10・15・35・36・39)確認されている。床面は2段になるベンチ構造の住居跡と考えられ、壁際から1m前後内側をローム質土で硬く平坦に貼られている。ベンチは先端のテラス状付近の床面には無く、平面がUの字状になっている。このベンチの面の高さに合わせ、北壁は約40cm拡幅している。ベンチの内側、床面に6本の支柱穴とみられる。これらは柱穴の重複(HP-4・6)や、検出状況でみられた、床面と同じ高さに、ローム質土で旧柱穴の開口部を塞いで

H18



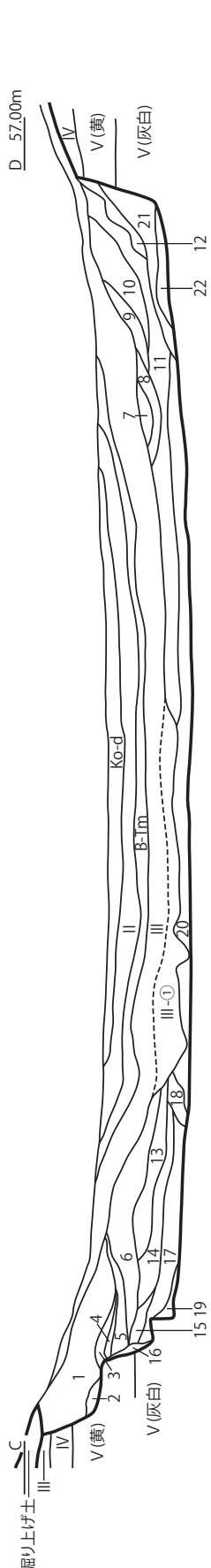
図Ⅲ-1-1 H18平面図

いるもの (HP-3・6・7・12・18) がある。柱穴の検出状況とベンチ、北壁の調査状況から、1~2回は改築が行なわれ、拡幅は改築時に行ない、貼りベンチと同じ高さに北壁を拡張したと考えられる。また、拡幅部分と貼りベンチの境はやや浅く溝状となっており、黒色土の堆積が見られた。ベンチ部分を取り外すと、床面の西側半部、東西の床と壁の境に緩い溝が検出された。明瞭な周溝ではなく、



H18土層(a-a')

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 埴壤土 やや堅 粘り中
- 2 褐灰色土(10YR4/10) 埴壤土 やや堅 粘り中
- 3 暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 ややしう 粘り中
- 4 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 埴壤土 やや堅 粘りやや中〜強
- 5 灰褐色土(7.5YR4/2) 埴壤土 やや堅 粘りやや中〜強
- 6 にぶい黄褐色土〜褐色土(10YR4/3〜10YR4/4) 埴壤土 堅 粘りやや中〜強
- 7 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 やや堅 粘りやや中〜強
- 8 黒褐色土に褐色土が少量斑状に混じる(10YR2/2と10YR4/4) 埴壤土+埴土 固結 粘り強
- 9 黒色土(10YR2/1) 埴壤土 堅 粘りやや中〜強
- 10 黄褐色土(10YR5/8) 埴土 堅 粘り強 ロームブロック
- 11 黒褐色土〜暗褐色土(10YR3/2〜10YR3/3) 埴壤土 堅 粘り中 炭化物3〜5%混
- 12 淡黄色土と黒褐色土の斑状(2.5YR4+10YR2/1) 埴土+埴壤土 堅 粘り強
- 13 明褐色土とにぶい褐色土の斑状(7.5YR5/6+7.5YR5/3) 埴土+埴壤土 堅 粘り強
- 14 明褐色土(10YR4/1) 埴土 しよう〜堅 粘り強
- 15 明褐色土(7.5YR5/6) 埴土 堅 粘り強
- 16 灰白色土(5YR7/1) 埴土 ややしう 粘り強

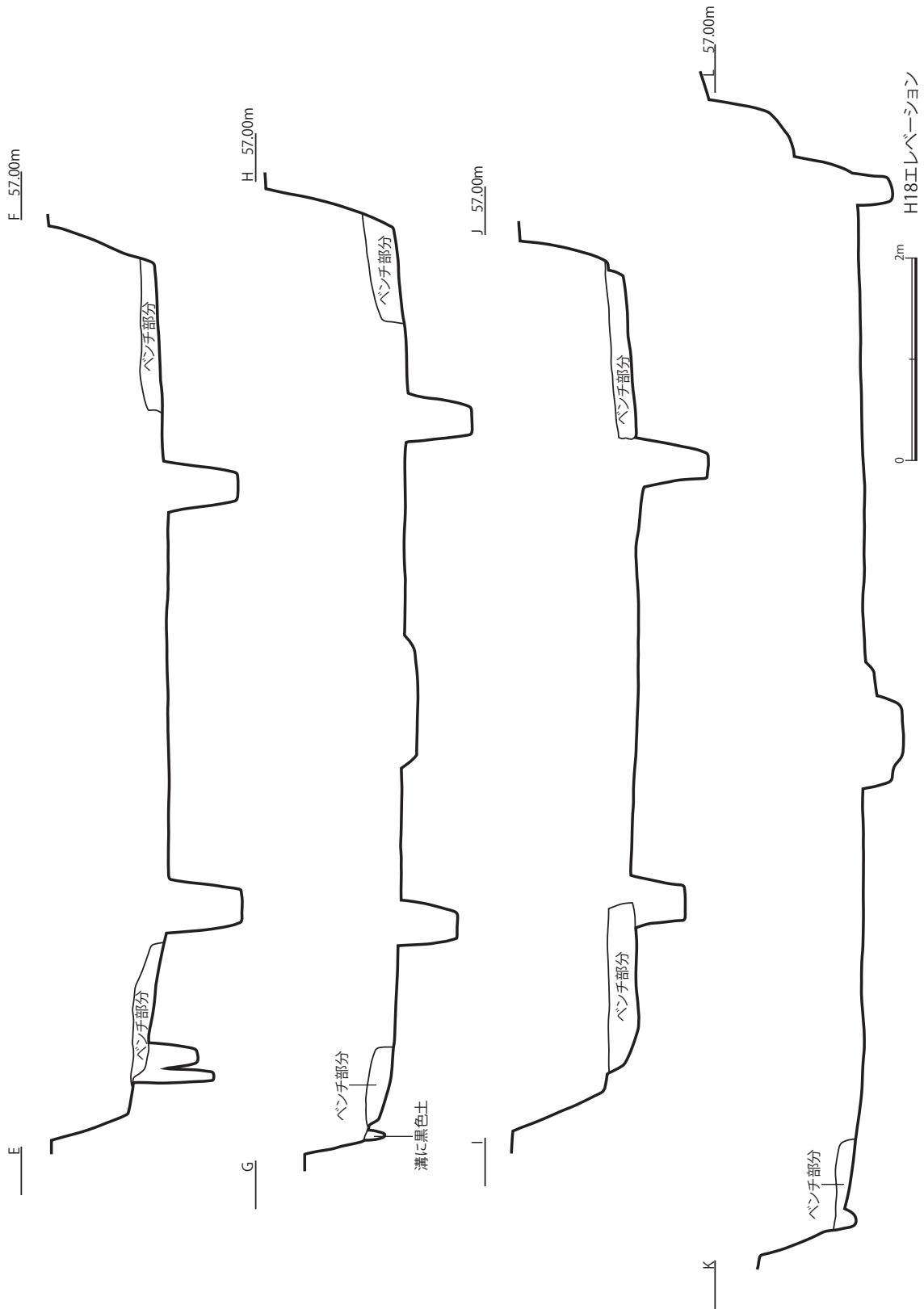


H18土層(b-b')

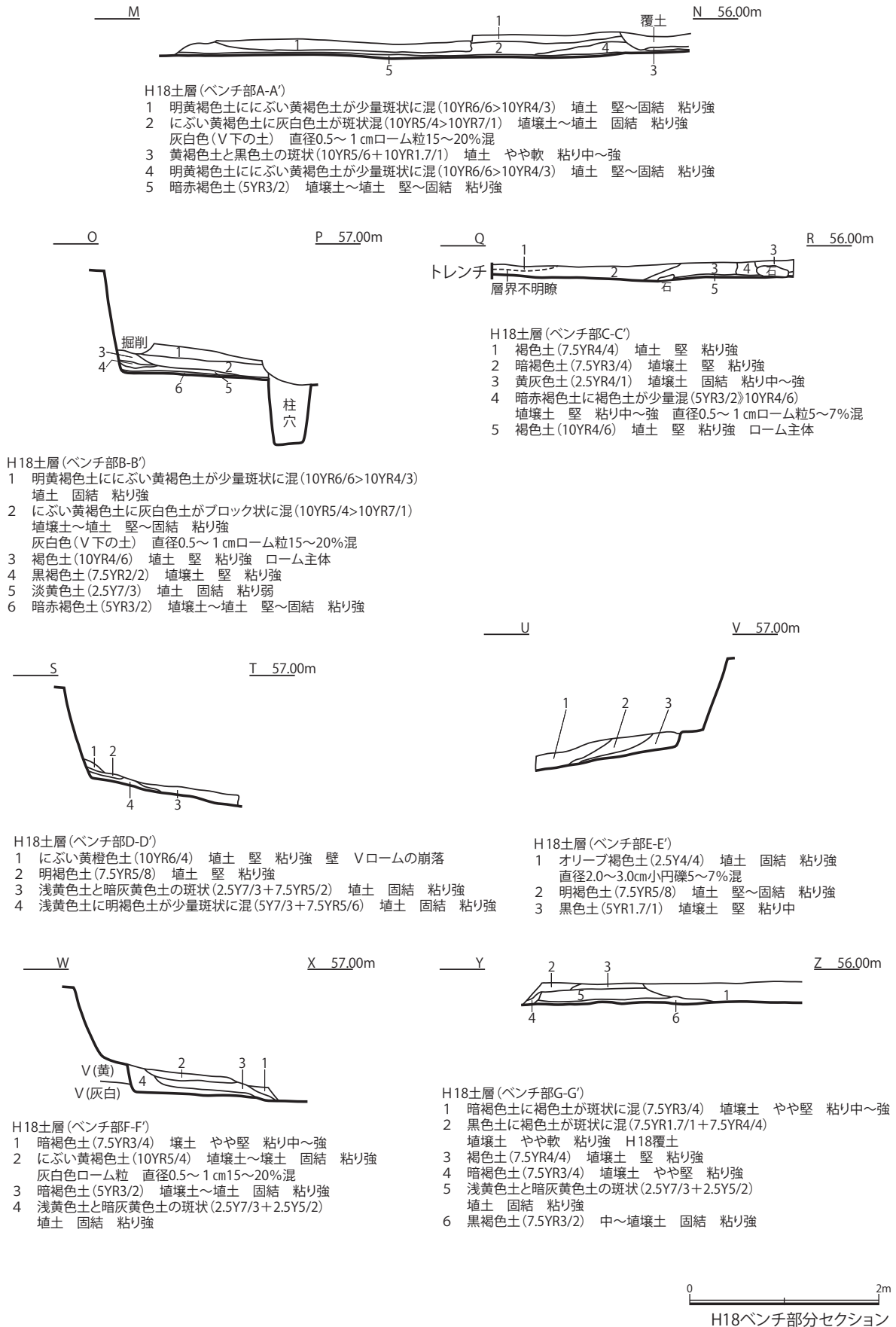
- 1 黒褐色土(10YR3/1) 埴土 やや軟 粘り中
- 2 黄褐色土(10YR5/6) 埴土 やや軟 粘り強
- 3 褐色土と灰黄褐色土の斑状(10YR4/4+10YR4/2) 埴土 やや堅〜堅 粘り強
- 4 黒褐色土(10YR3/1) 埴土 やや軟 粘り中 炭化物1%
- 5 褐色土と黒色土のラミナ状(10YR4/4+10YR2/1) 埴土+埴土 やや堅 粘り中〜強
- 6 黒褐色土(10YR3/2) 埴壤土 やや堅〜堅 粘り中〜強
- 7 灰黄褐色土(10YR4/2) 埴壤土 堅 粘り中〜強
- 8 黒褐色土(10YR3/2) 埴壤土 堅 粘り中〜強
- 9 暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 やや堅 粘り中〜強
- 10 暗褐色土(10YR3/4) 埴壤土 堅 粘り中〜強 炭化物1%
- 11 褐色土(10YR4/4) 埴壤土 堅 粘り中〜強 炭化物1%
- 12 褐色土(10YR4/6) 埴壤土 堅 粘り中〜強 炭化物1%
- 13 黒褐色土(10YR3/1) 埴壤土 やや堅 粘り中〜強 炭化物1%
- 14 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 堅 粘り中〜強 炭化物3%
- 15 黄褐色土と黒色土のラミナ状(10YR5/6+10YR2/1) 埴壤土 堅 粘り中〜強
- 16 にぶい黄褐色土(10YR5/3) 埴土 堅 粘り強
- 17 暗褐色土(10YR3/3) 10YR7/1) 埴壤土 堅 粘り中〜強 混入するロームが灰白色
- 18 灰黄褐色土(10YR4/2) 埴壤土 やや堅 粘り中〜強
- 19 灰白色土に黒色土が少量混(10YR7/1) 10YR1.7/1) 埴土 やや軟 粘り強
- 20 暗褐色土(10YR3/3) 埴壤土 堅 粘り中〜強 炭化物1〜3%
- 21 黒褐色土(10YR2/2) 埴壤土 やや軟 粘り中〜強 炭化物1%
- 22 にぶい黄褐色土と褐色土の互層状(10YR4/4+10YR4/6) 埴土 固結 粘り強 ペンチ部



図Ⅲ-1-3 H18土層断面図



図III-1-4 H18E1レベルシヨン図



図Ⅲ-1-5 H18ベンチ部分土層断面図

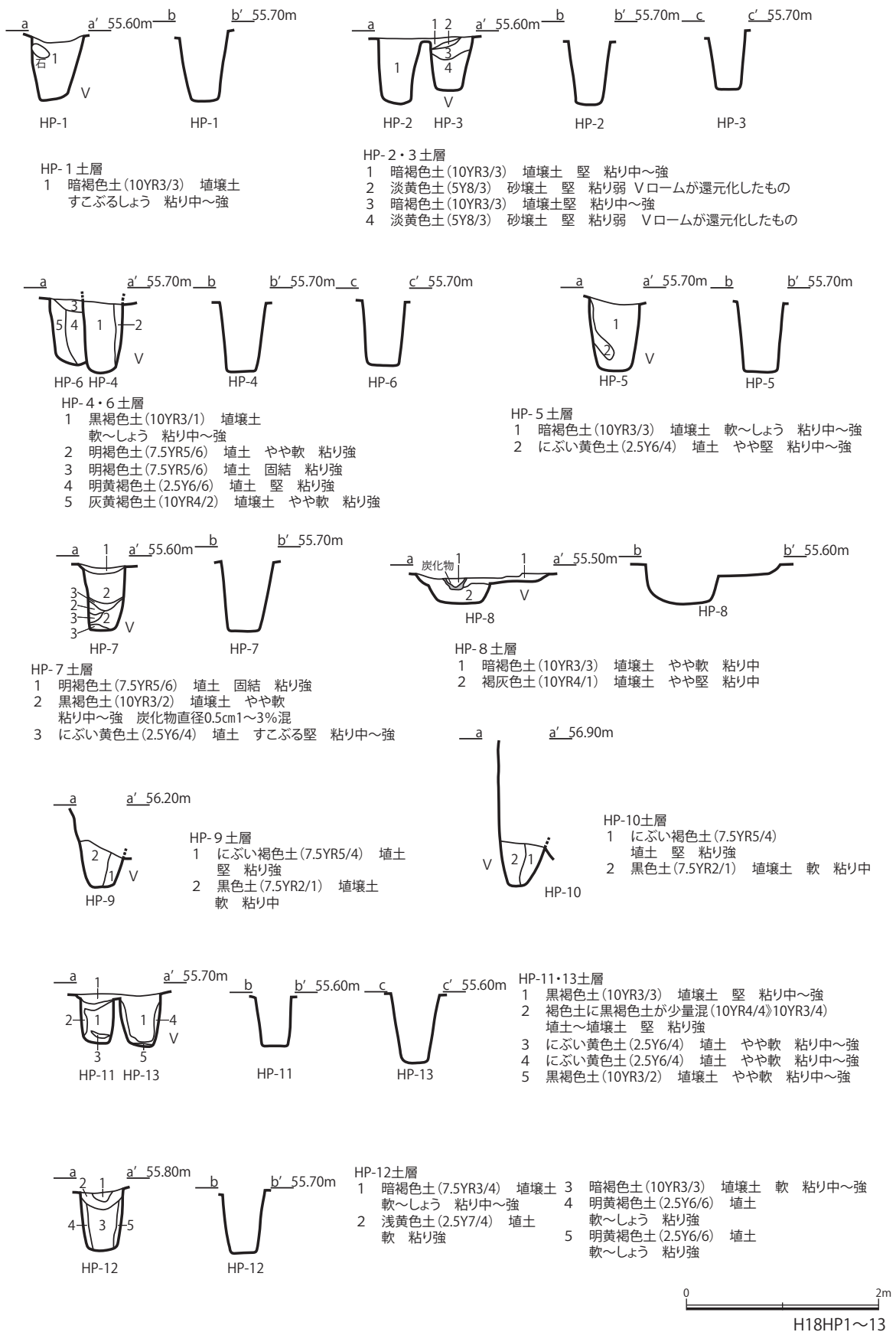
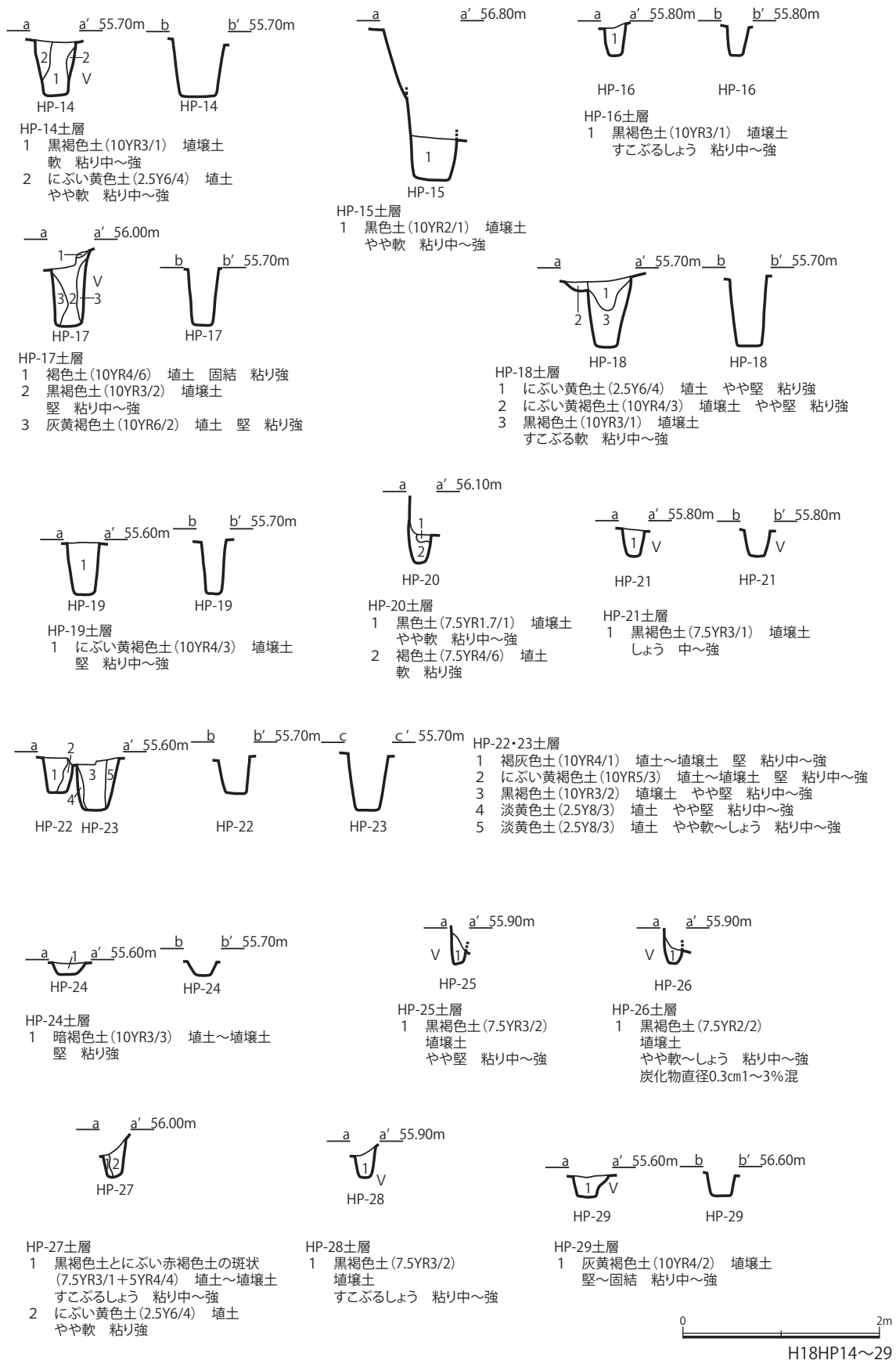
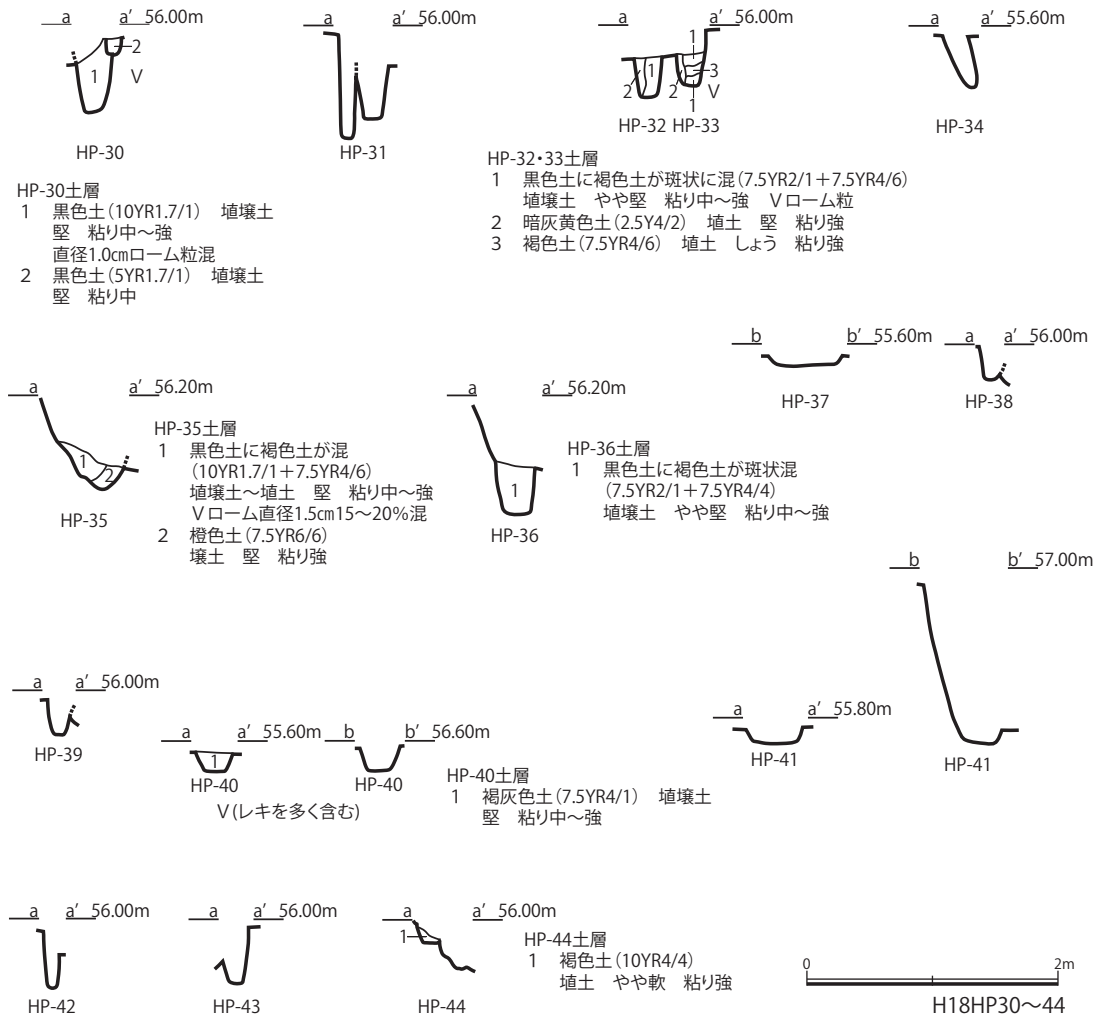


図 III - 1 - 6 H18HP-1～13土層断面図

館野6遺跡(2)



図Ⅲ-1-7 H18HP-14～29土層断面図



図Ⅲ-1-8 H18HP-30～44土層断面図

浅く途切れ途切れのものである。

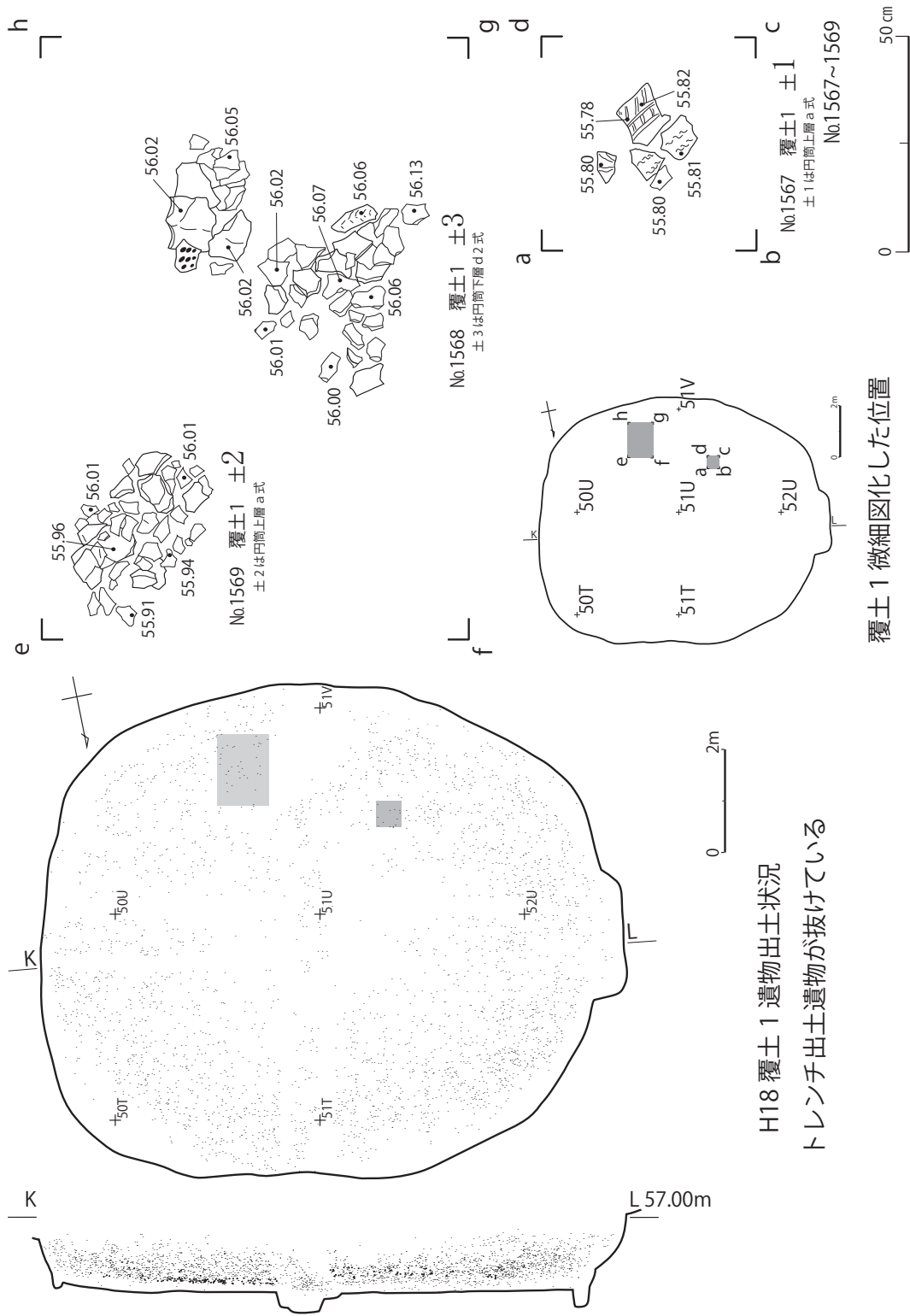
覆土 自然堆積によるものである。

付属遺構 柱穴、四十四か所、住居址床面中央より浅い土坑2基（HP-8・37）を検出している。焼土は検出していない。

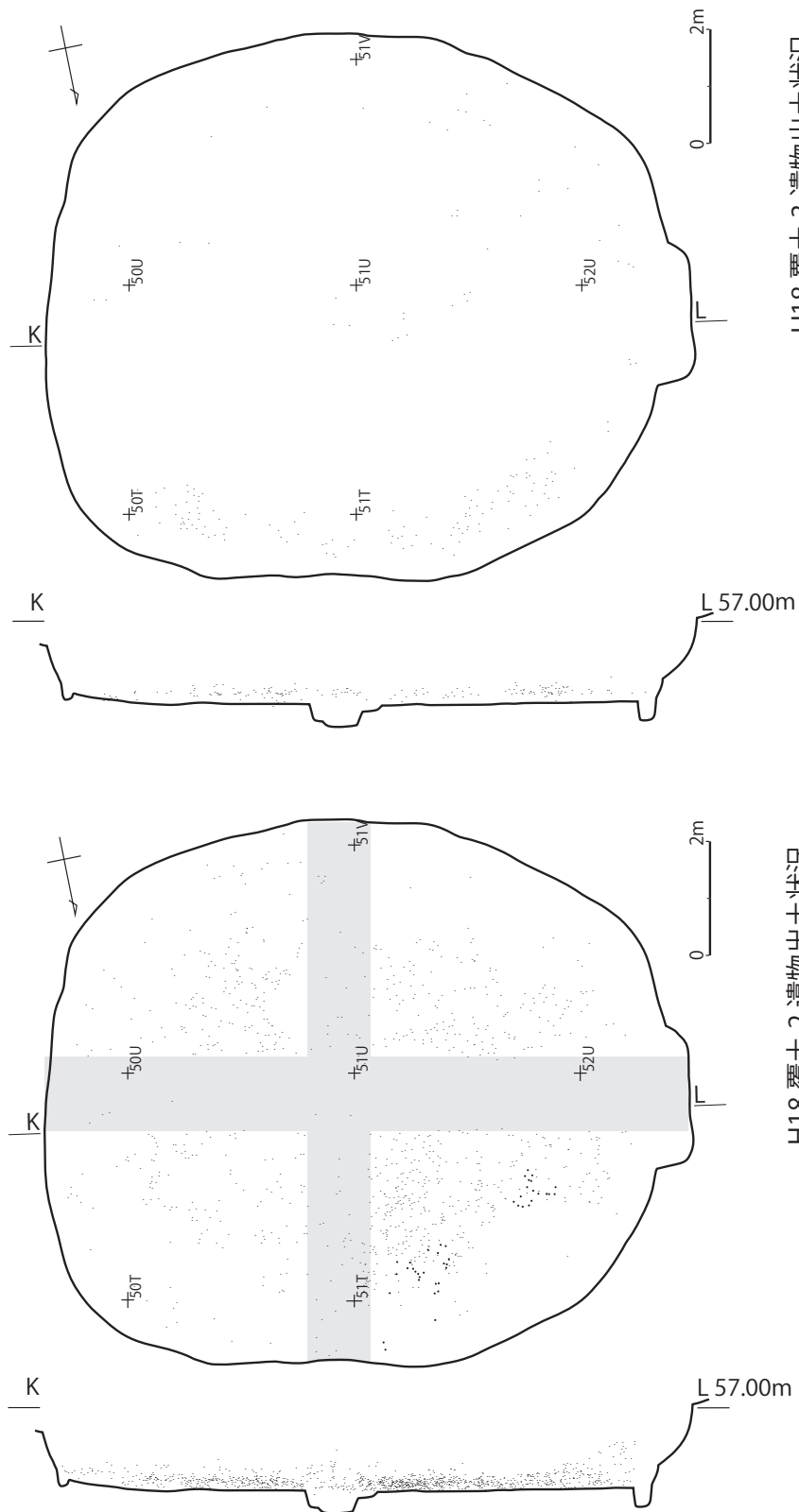
柱穴は床面の内側にある支柱穴と、長軸の西側に壁柱穴、南北の壁に並ぶものがある。支柱穴は前述の通り、重複しているもの・覆土中にローム質土が詰められているもの・床面と同じ高さにローム質土で蓋がされたものの3種類があり、新しいものはベンチに伴う、覆土が黒褐色土や重複で新しいもの（HP-1・2・4・5・13・14・23）である。

遺物出土状況 H18からは5,863点の遺物が出土した。トレンチ調査で、遺物は覆土上位の、黒色味を帯びる土を「覆土1」、覆土下位の褐色を帯びる土を「覆土2」、貼りベンチからの遺物を「覆土3」と区分し、遺物は住居跡を覆うプライマリーのⅢ層出土のものは包含層遺物としてグリッド単位で取り上げた。覆土のものについては平板測量で位置と標高を記録し取り上げた。（袖岡）

覆土1より3,670点、覆土2より1,279点、覆土3より198点、床面より87点出土している。目立って多いのは縄文時代前期後半、円筒下層式土器である。焼成粘土塊も出土する。この時期の盛土を掘り



図Ⅲ-1-9 H18覆土1 遺物出土状況

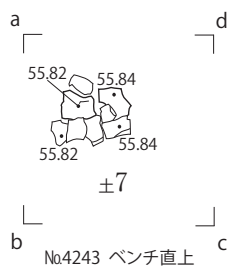
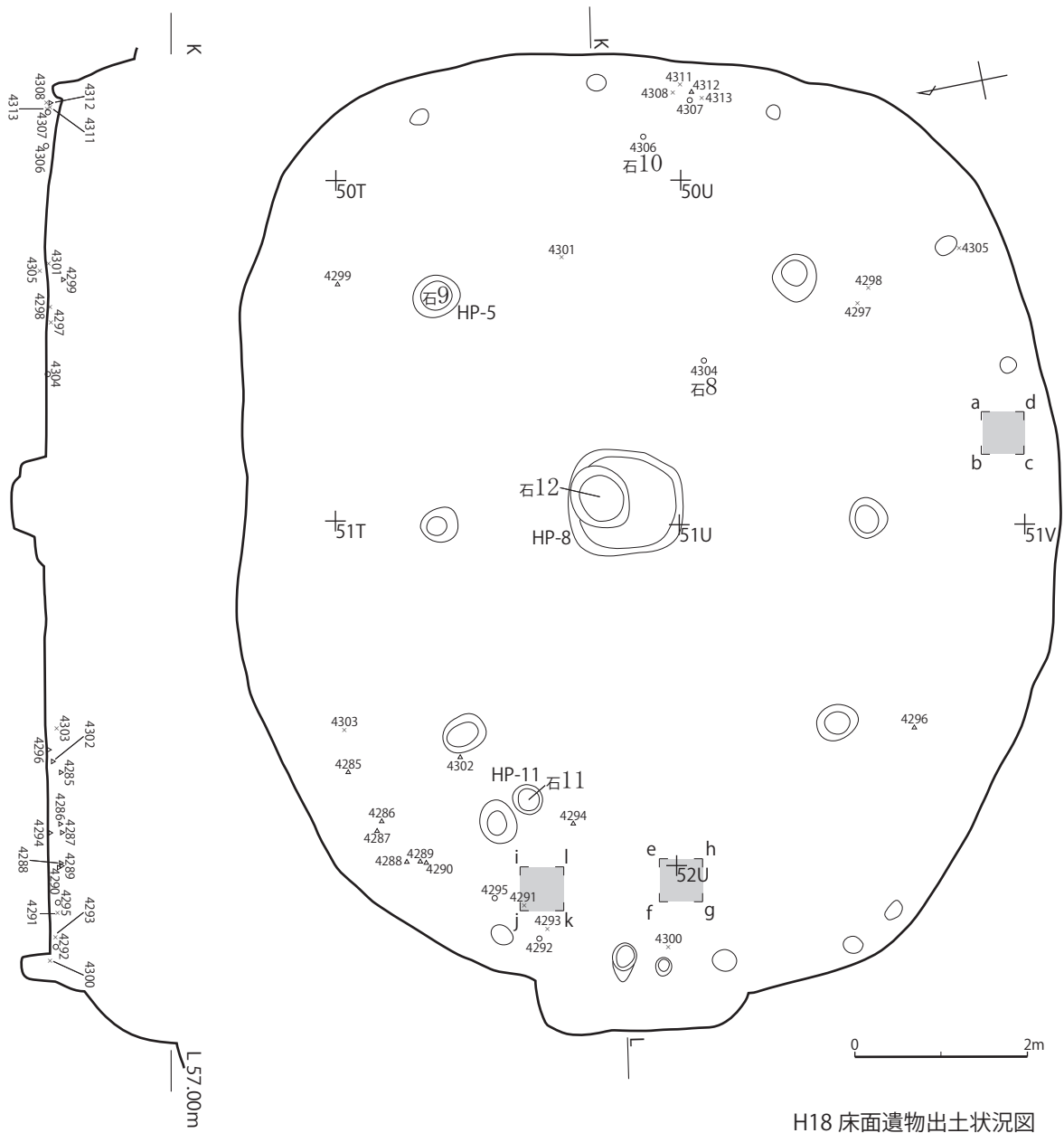


H18 覆土 3 遺物出土状況

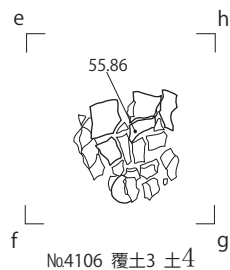
H18 覆土 2 遺物出土状況

トレンチ出土遺物が抜けている

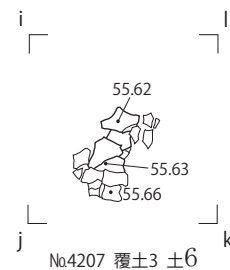
図III-1-10 H18覆土2・3 遺物出土状況



No.4106, 4207, 4243
S=1/30

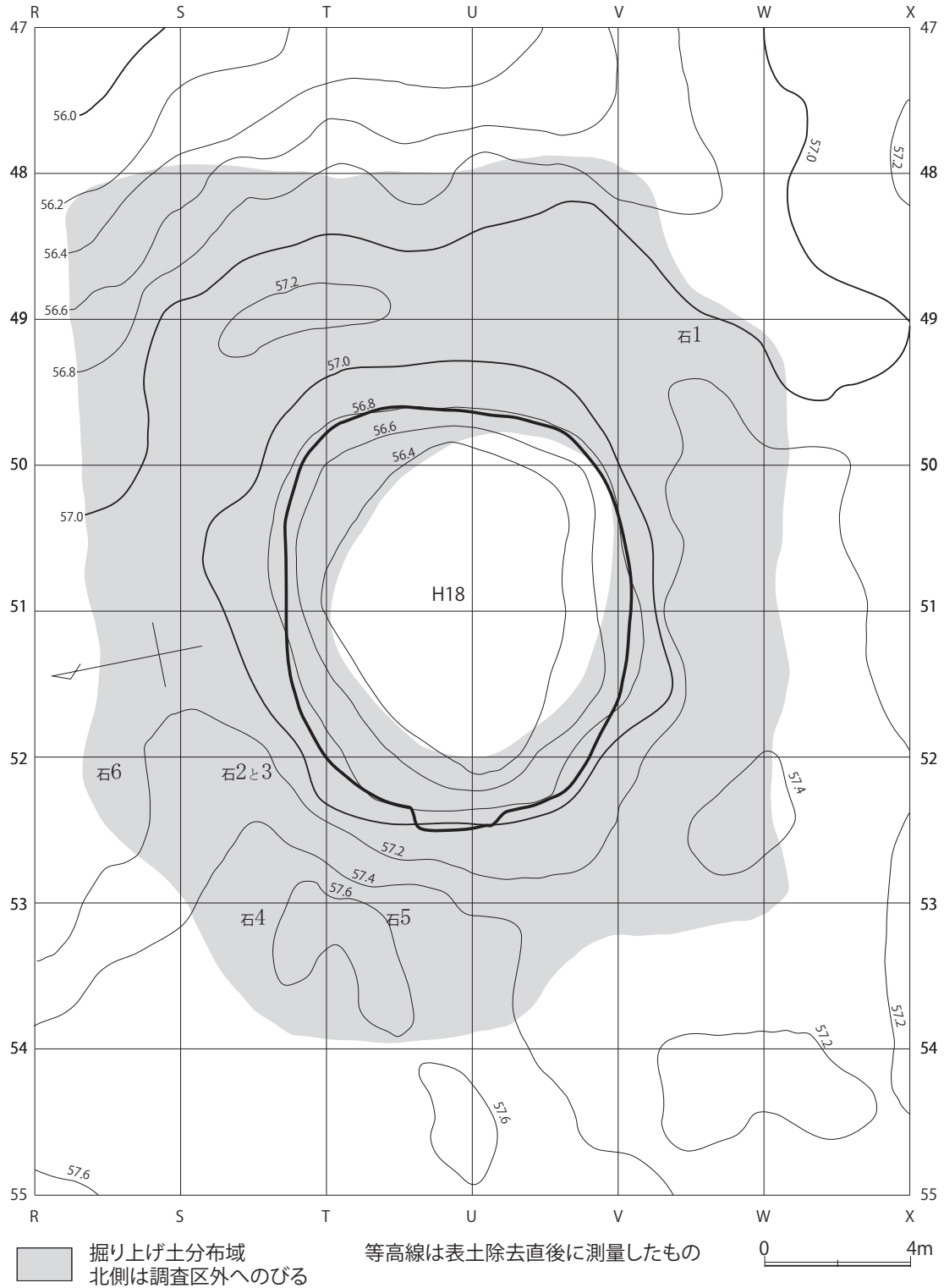


±4・6・7は円筒下層D2式 ±6と±7は同一個体か



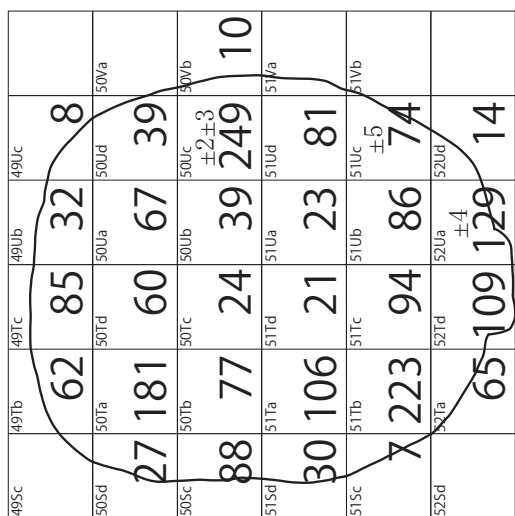
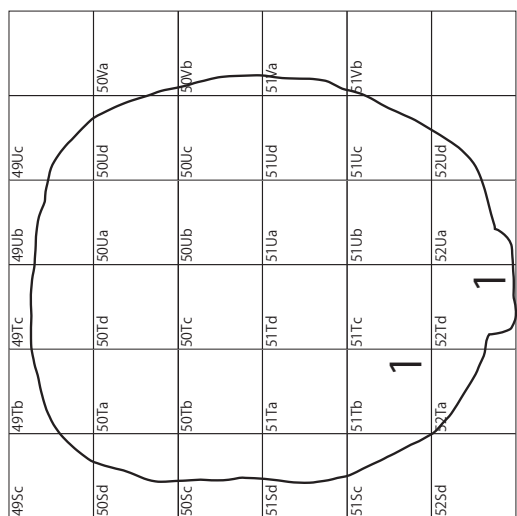
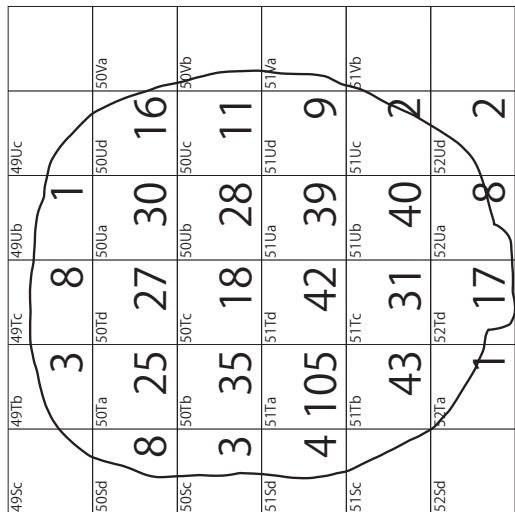
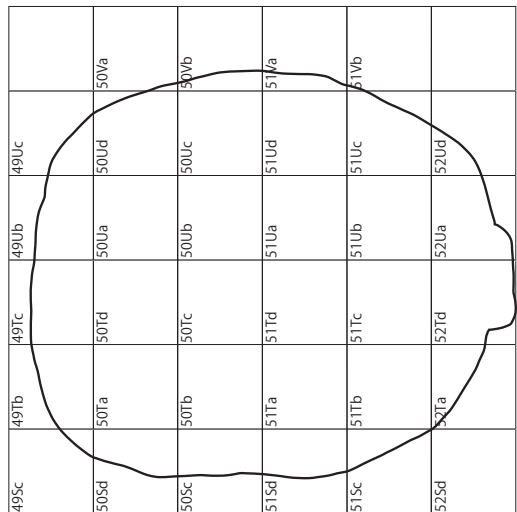
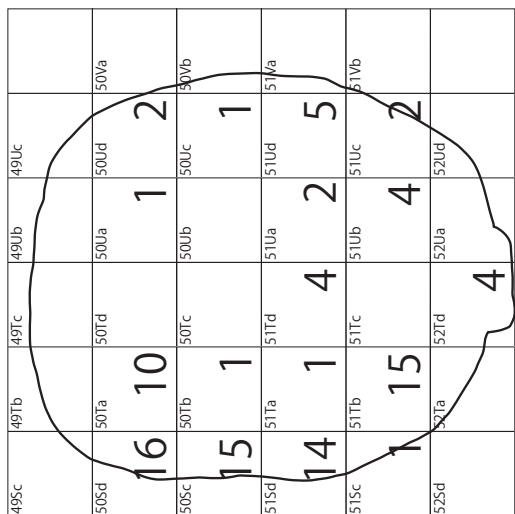
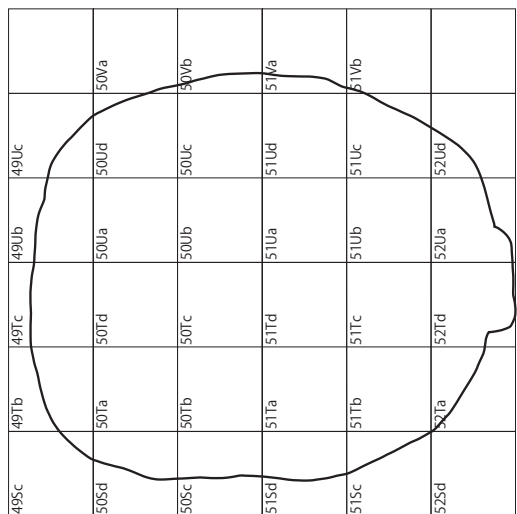
0 50 cm

図Ⅲ-1-11 H18床面遺物出土状況

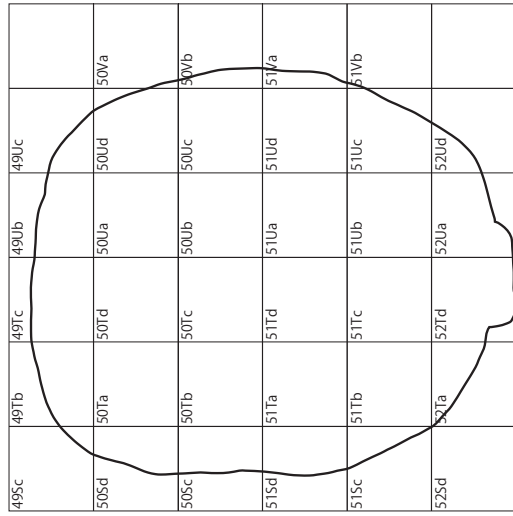


図Ⅲ-1-12 H18掘り上げ土分布状況

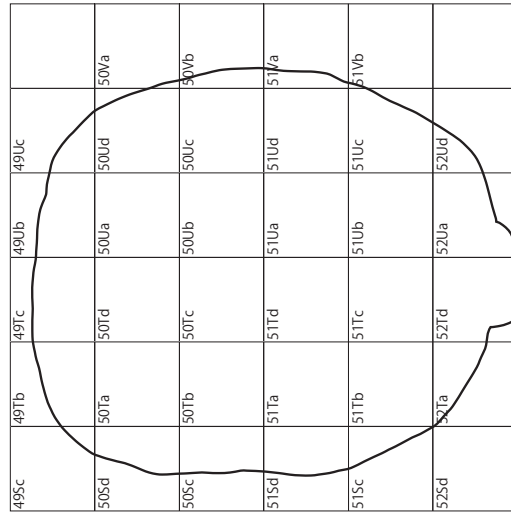
込んで構築しているため、掘り上げたあと、再度盛土由来の遺物が流入している。そのため磨滅がひどく、破片どうしの接合はままならなかった。それに加えて少量ではあるが、盛土より新しい縄文時代中期、後期のものが覆土3層まで混在する。その中で、円筒土器上層a式とおもわれるものは比較的多い。床面とベンチ直上から同一個体の円筒下層d2式が出土している。



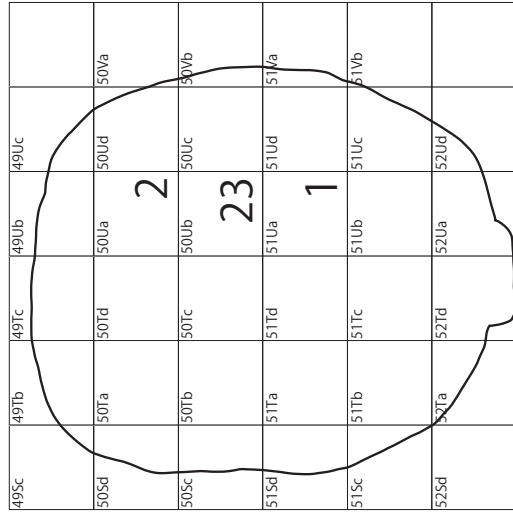
図Ⅲ-1-13 H18器種別遺物覆土1~3層層位別遺物出土状況1 (I群b類・II群b類土器)



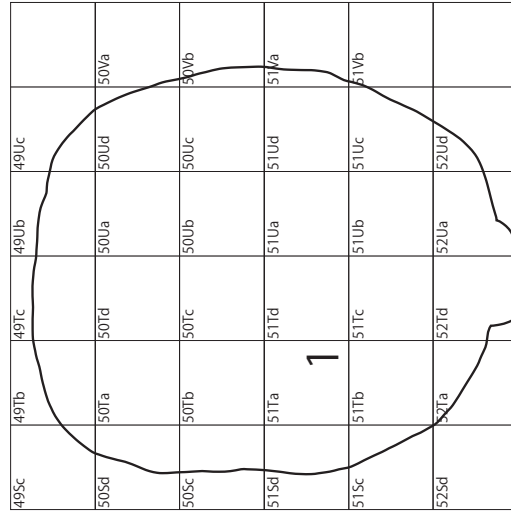
H18 覆土3層 III群 a類土器



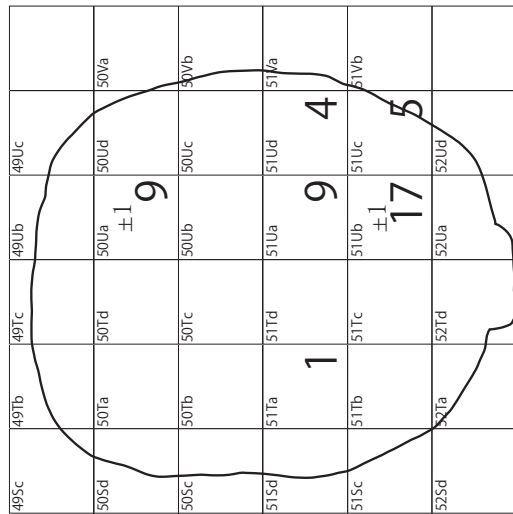
H18 覆土3層 IV群 a類土器



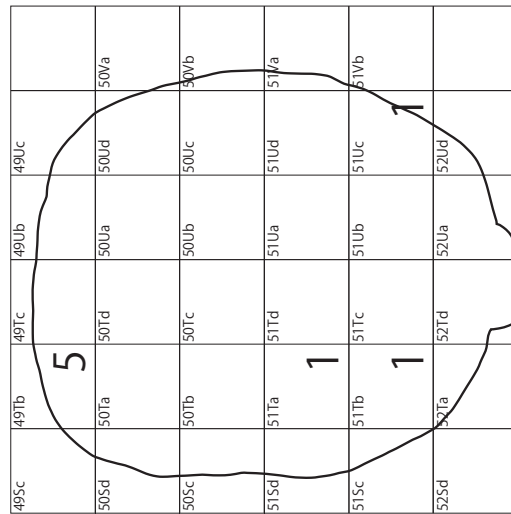
H18 覆土2層 III群 a類土器



H18 覆土2層 IV群 a類土器



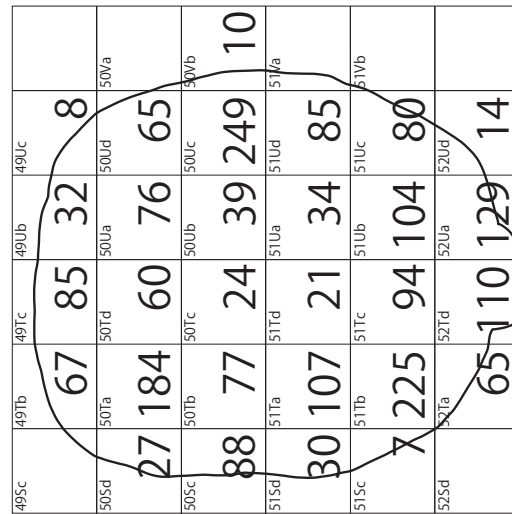
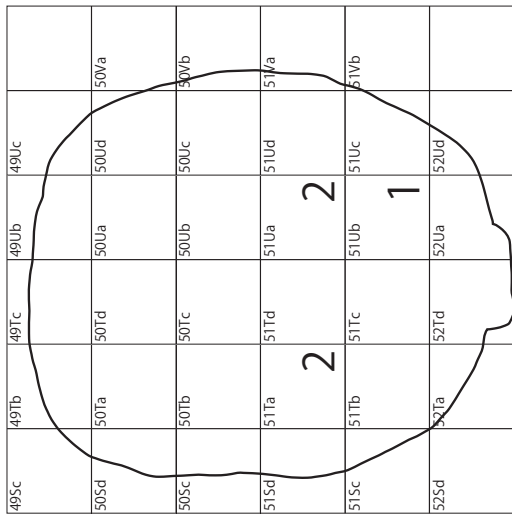
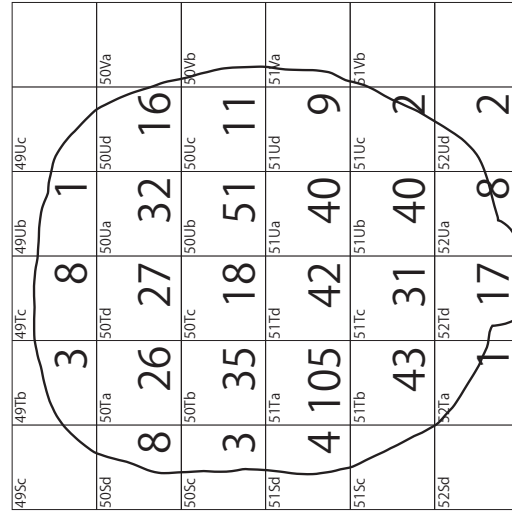
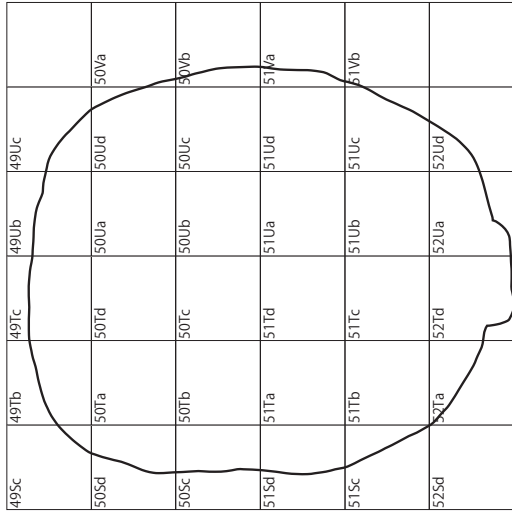
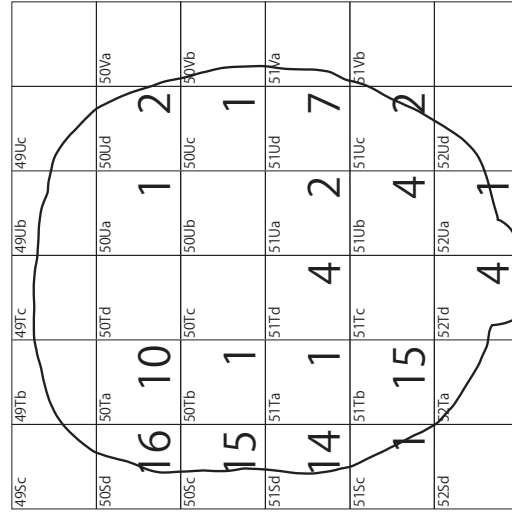
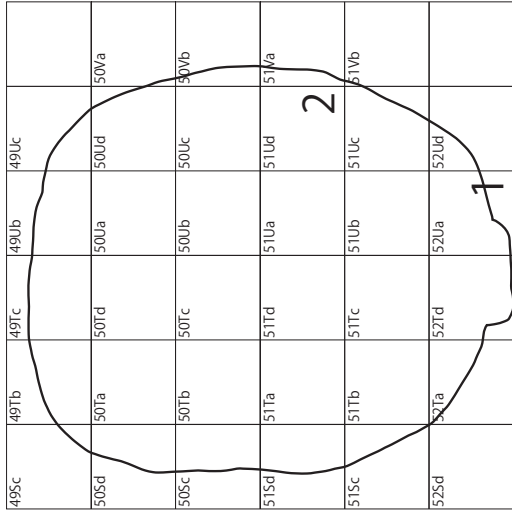
H18 覆土1層 III群 a類土器



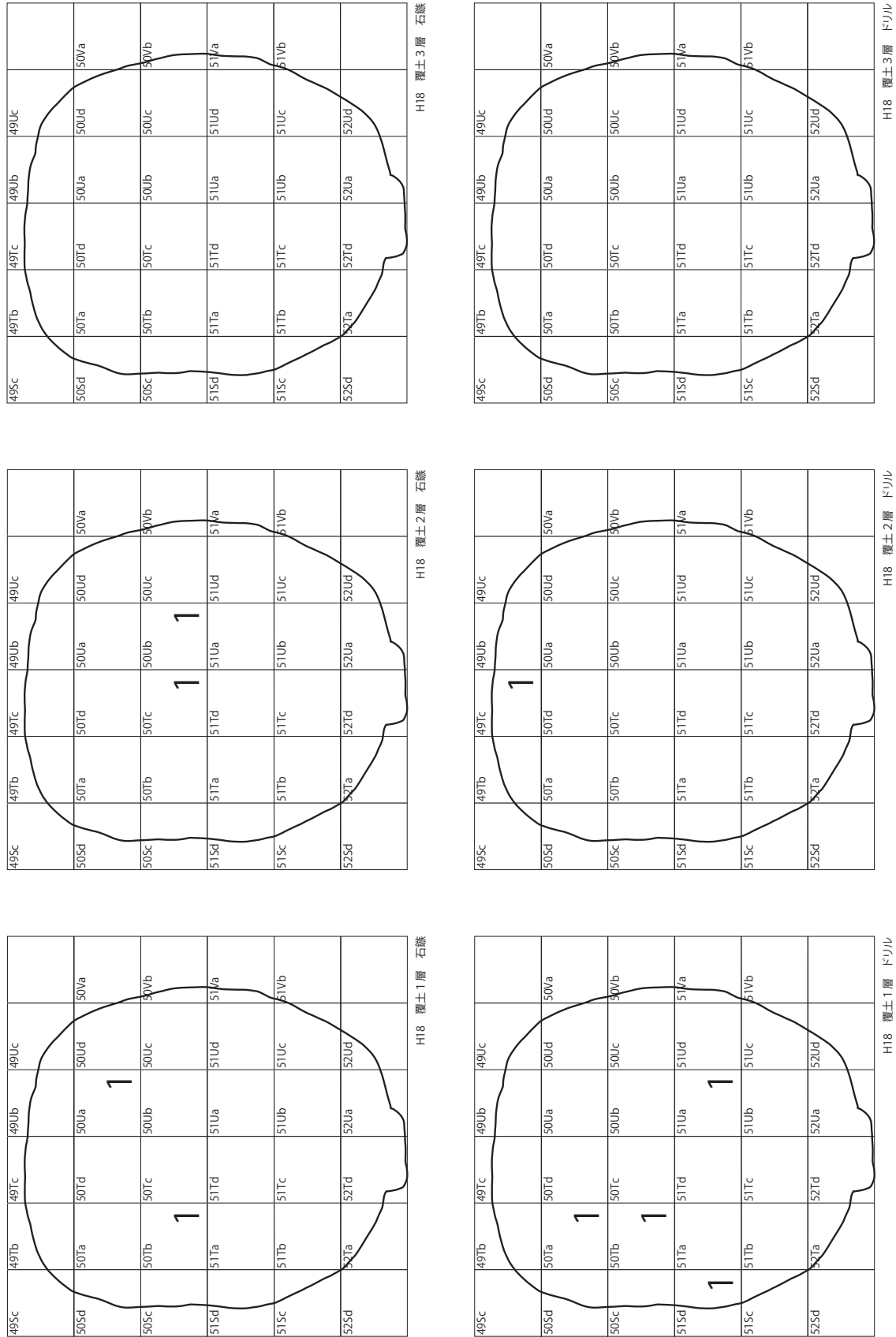
H18 覆土1層 IV群 a類土器

51UcのみIII群 b類土器

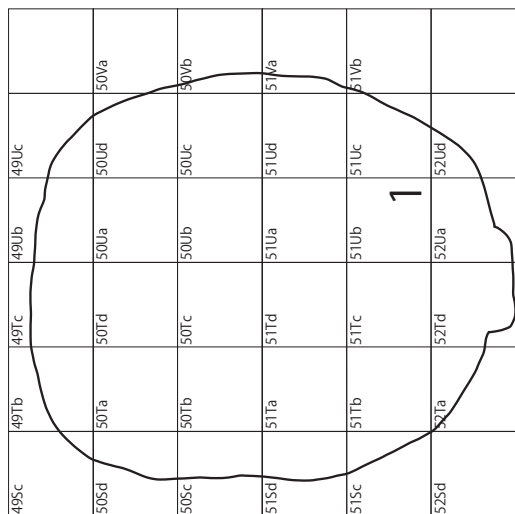
図Ⅲ-1-14 H18器種別遺物出土状況2 (Ⅲ群 a類・Ⅲ群 b類・Ⅳ群 a類・Ⅳ群 b類土器)



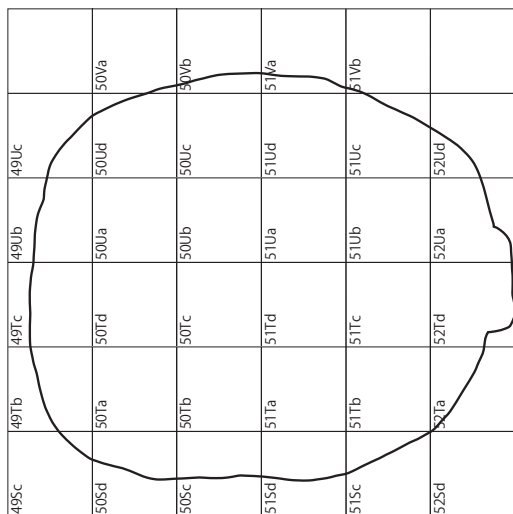
図Ⅲ-1-15 H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物出土状況3 (焼成粘土塊・土器類全般)



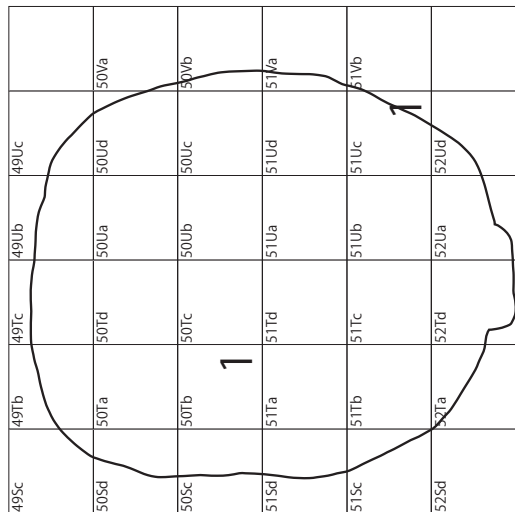
図Ⅲ-1-16 H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物出土状況4 (石舗・ドリル)



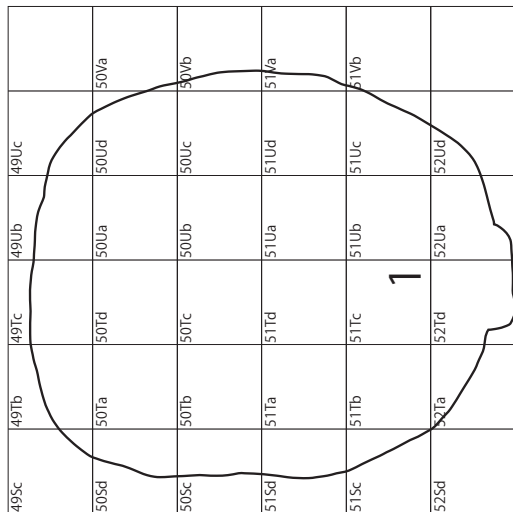
H18 覆土3層 石棺又はナイフ



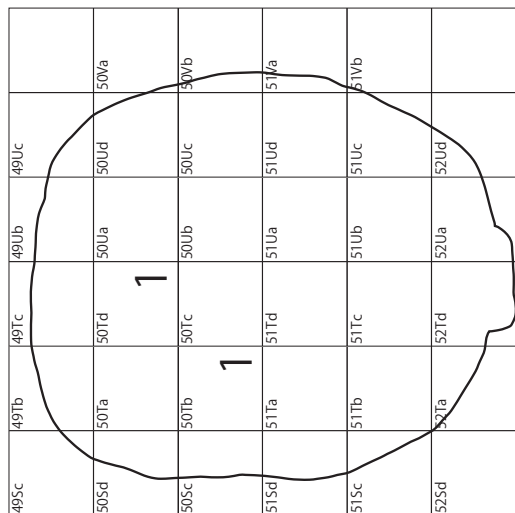
H18 覆土3層 つまみ付ナイフ



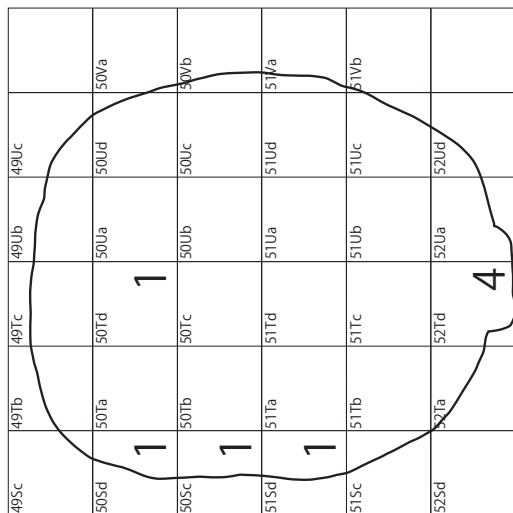
H18 覆土2層 石棺又はナイフ



H18 覆土2層 つまみ付ナイフ

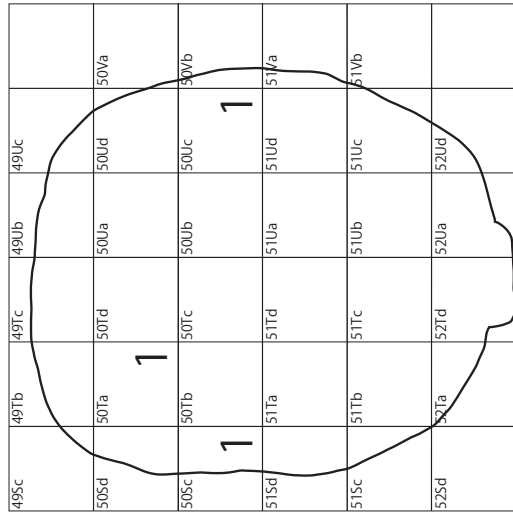


H18 覆土1層 石棺又はナイフ

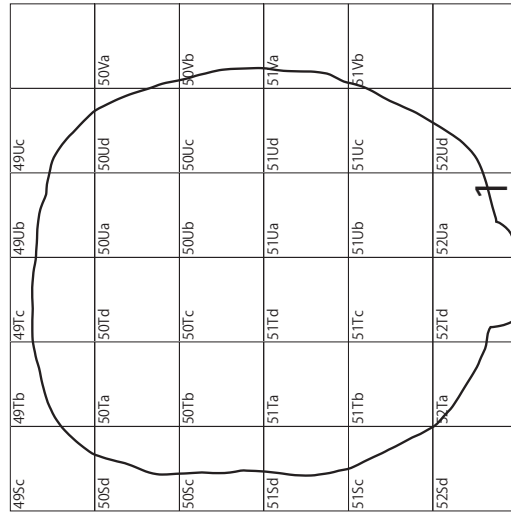


H18 覆土1層 つまみ付ナイフ

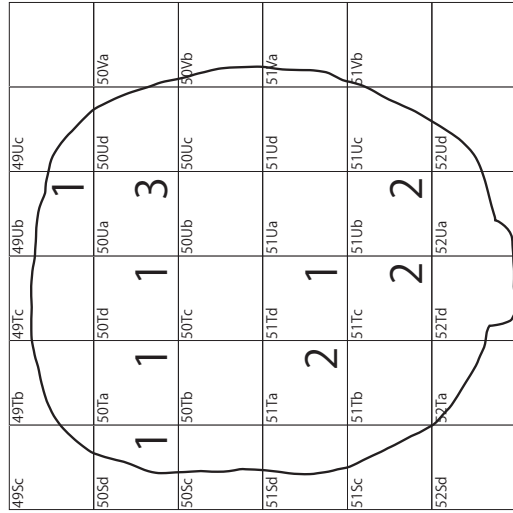
図Ⅲ-1-17 H18器種別遺物覆土1～3層層別遺物出土状況5 (石棺又はナイフ・つまみ付きナイフ)



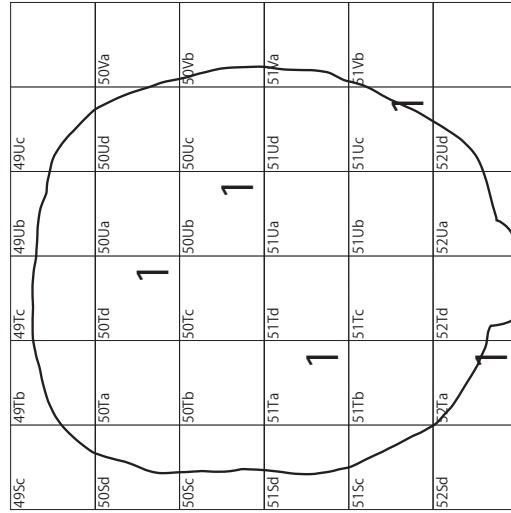
H18 覆土3層 スクレイパー



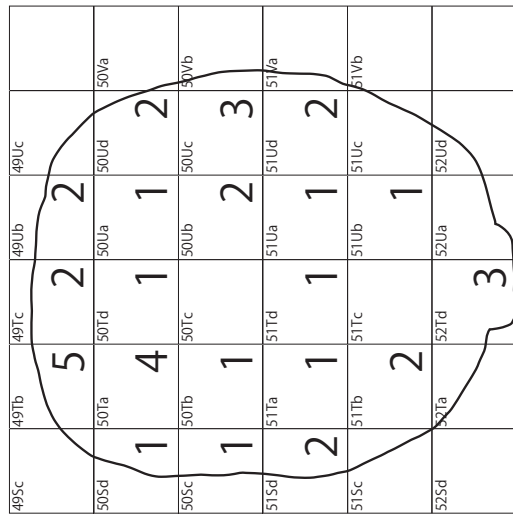
H18 覆土3層 両面調整石器



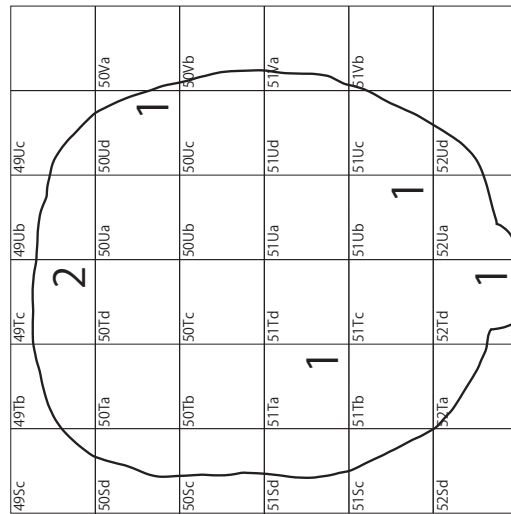
H18 覆土2層 スクレイパー



H18 覆土2層 両面調整石器

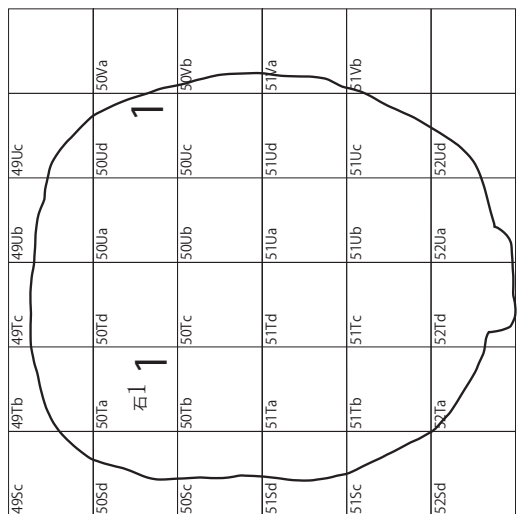


H18 覆土1層 スクレイパー

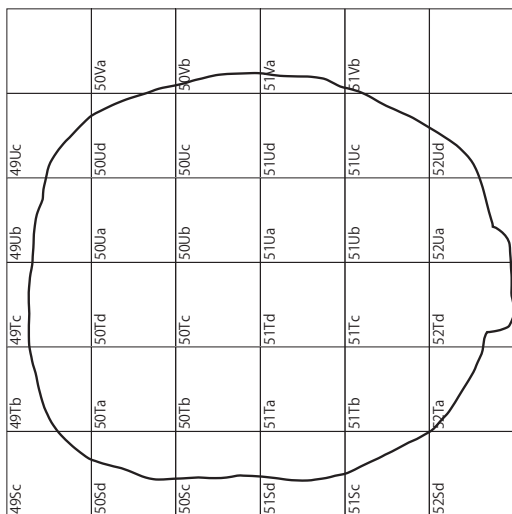


H18 覆土1層 両面調整石器

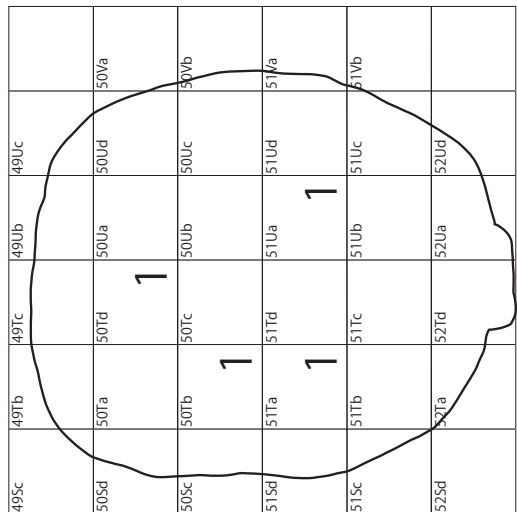
図Ⅲ-1-18 H18器種別遺物覆土1～3層層別遺物出土状況6 (スクレイパー・両面調整石器)



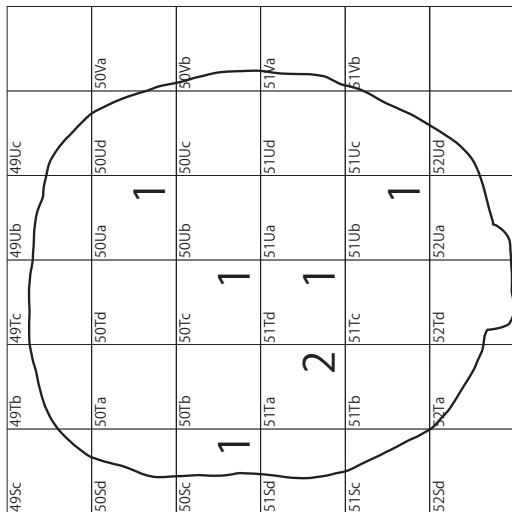
H18 覆土3層 石核



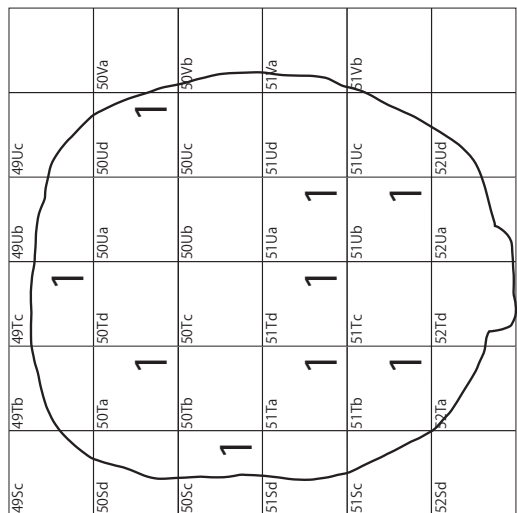
H18 覆土3層 Uフレイク



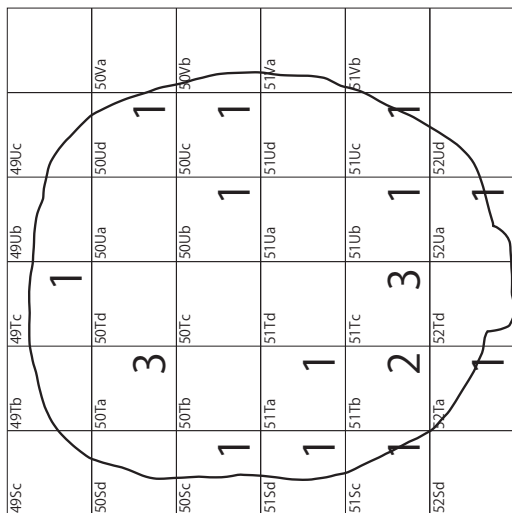
H18 覆土2層 石核



H18 覆土2層 Uフレイク

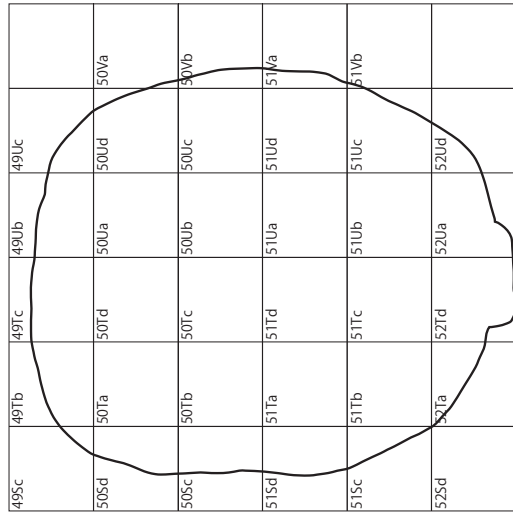


H18 覆土1層 石核

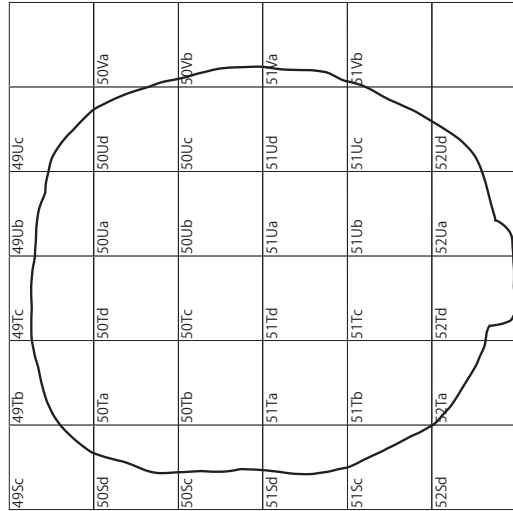


H18 覆土1層 Uフレイク

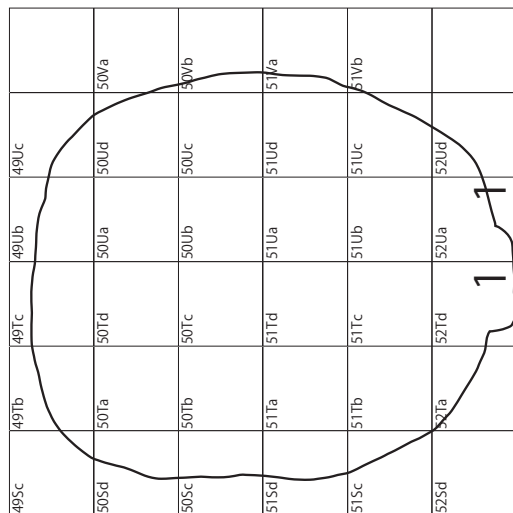
図Ⅲ-1-19 H18器種別遺物覆土1~3層層位別遺物出土状況7 (石核・Uフレイク)



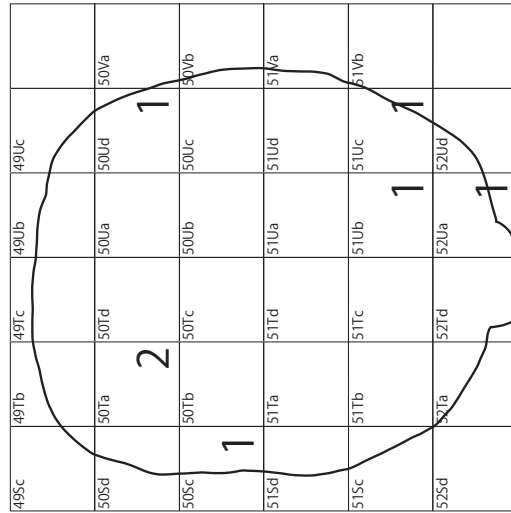
H18 覆土3層 Rフレイク



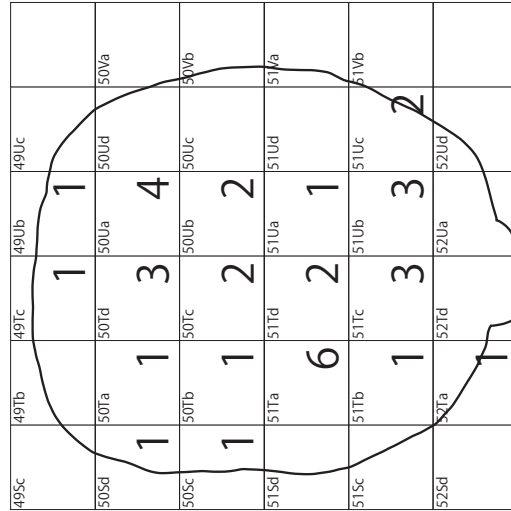
H18 覆土2層 Rフレイク



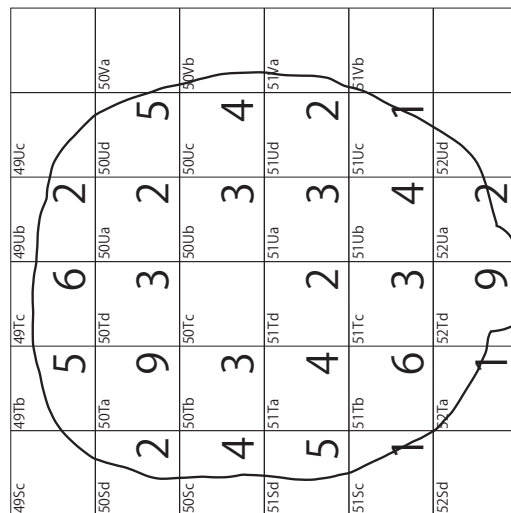
H18 覆土1層 Rフレイク



H18 覆土3層 剥片石器合計

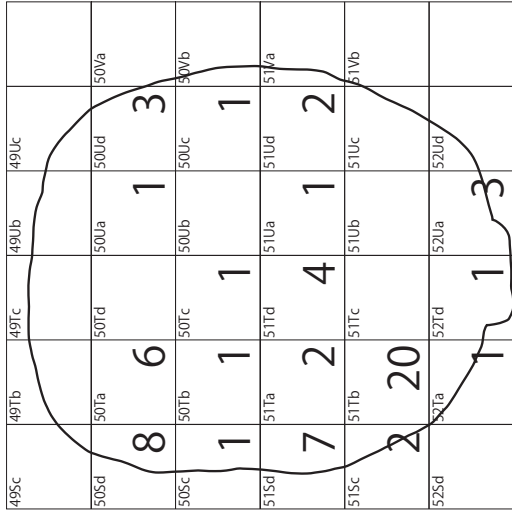


H18 覆土2層 剥片石器合計

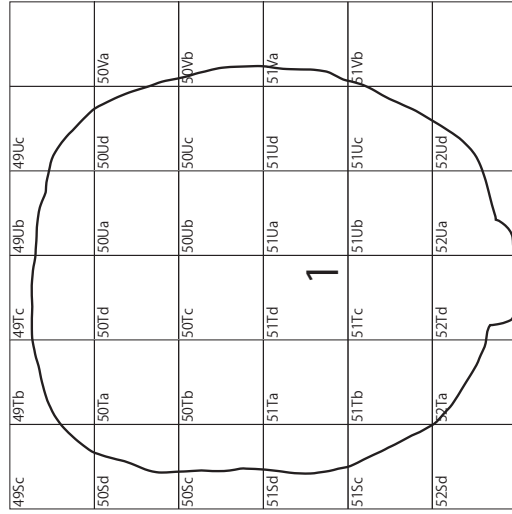


H18 覆土1層 剥片石器合計

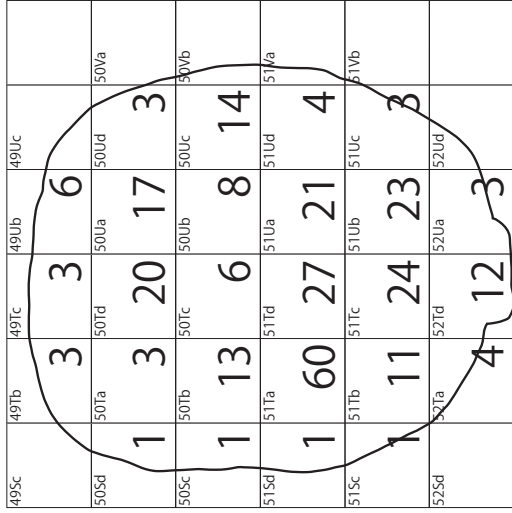
図III-1-20 H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物出土状況8 (Rフレイク・剥片石器全般)



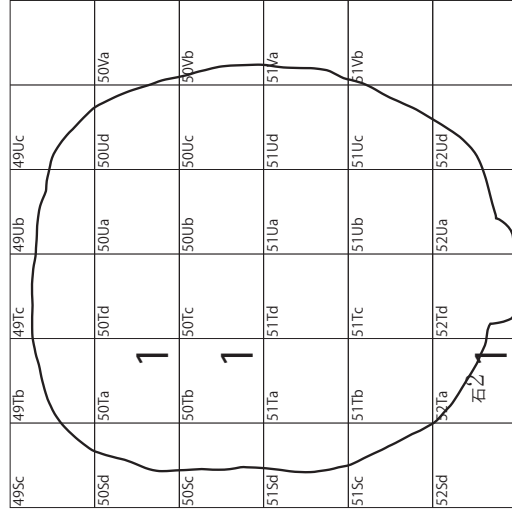
H18 覆土3層 フレイク



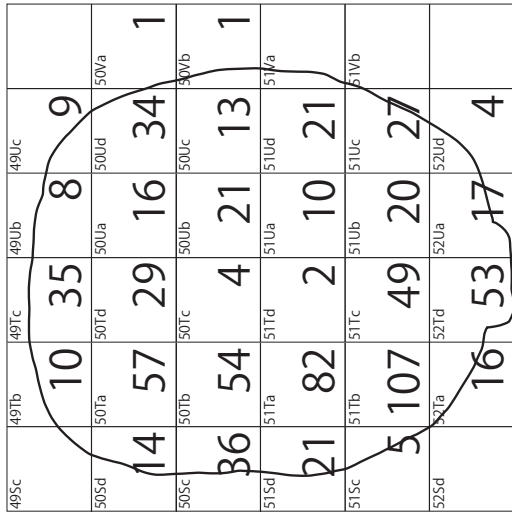
H18 覆土3層 石斧



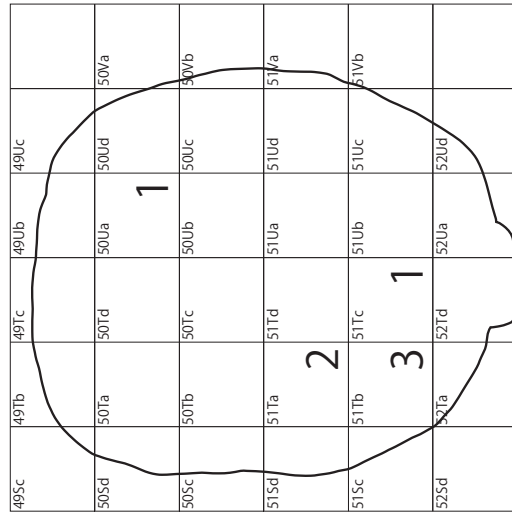
H18 覆土2層 フレイク



H18 覆土2層 石斧

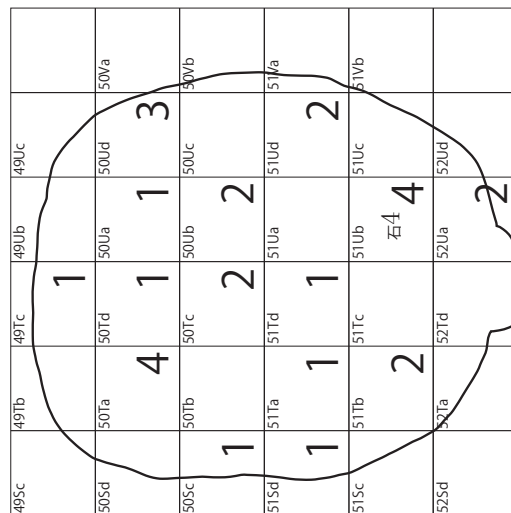
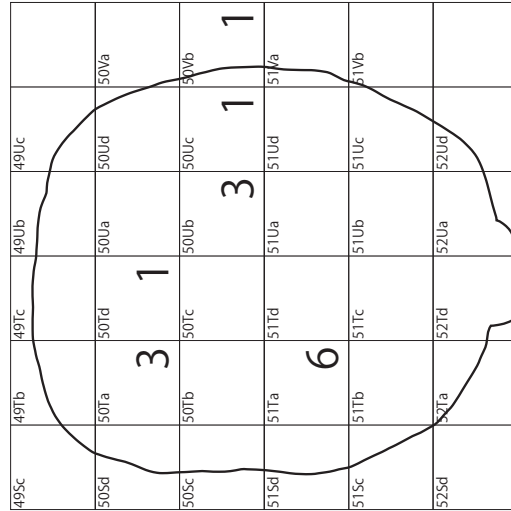
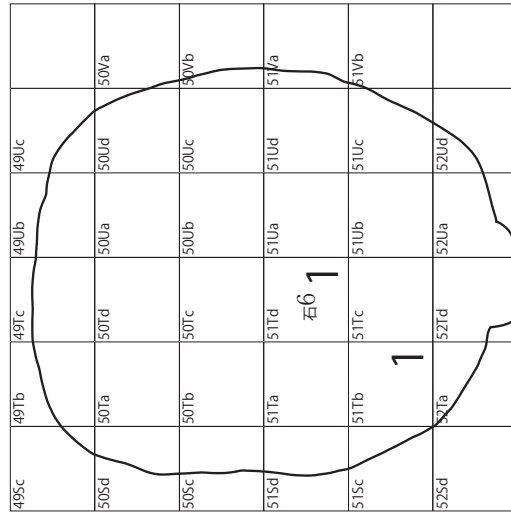
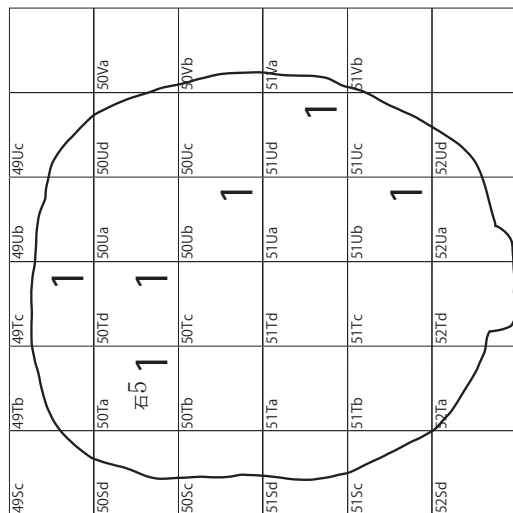
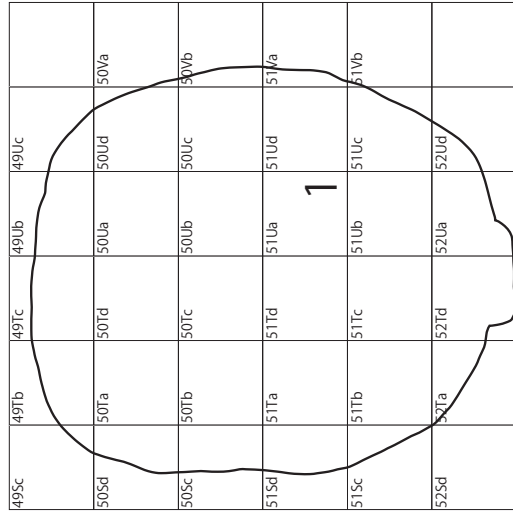
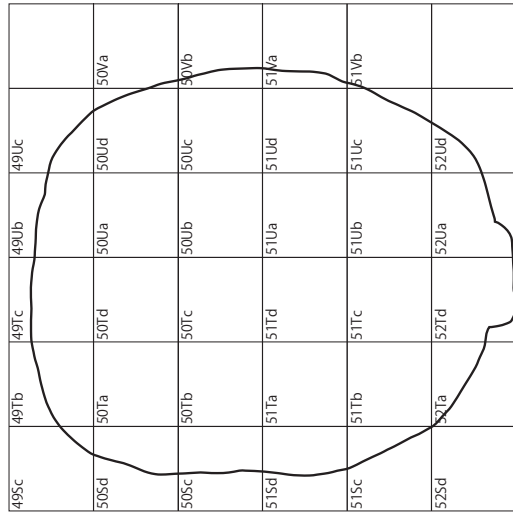


H18 覆土1層 フレイク

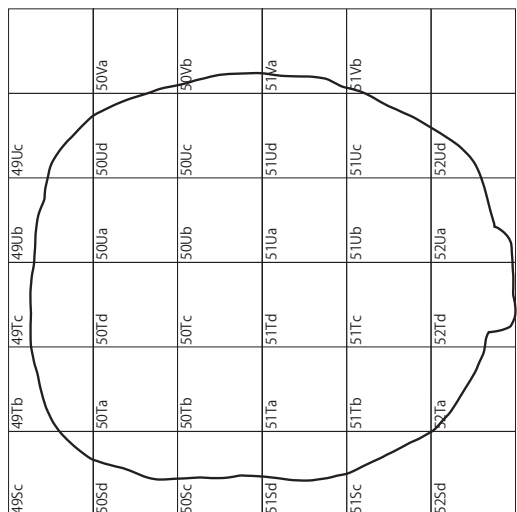


H18 覆土1層 石斧

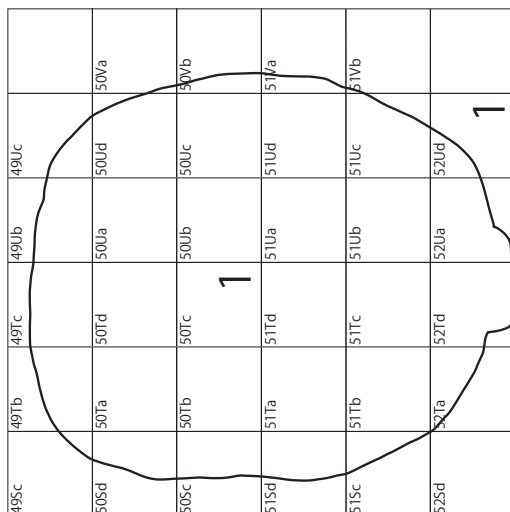
図Ⅲ-1-21 H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物出土状況(フレイク・石斧)



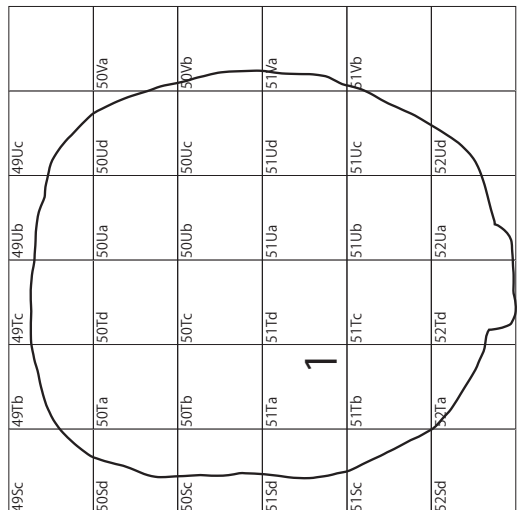
図Ⅲ-1-22 H18器種別遺物覆土1～3層層別遺物出土状況10 (北海道式石冠・扁平打製石器)



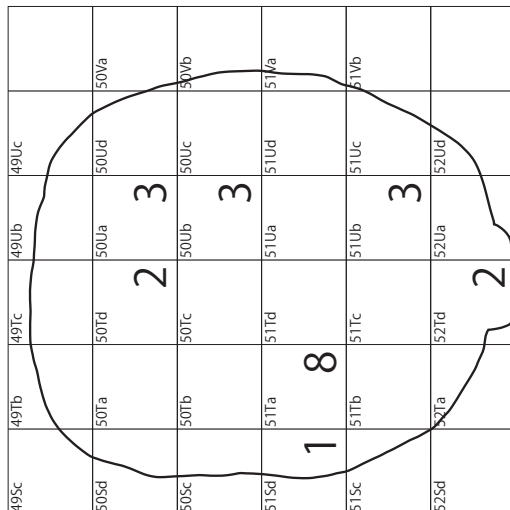
H18 覆土3層 すり石



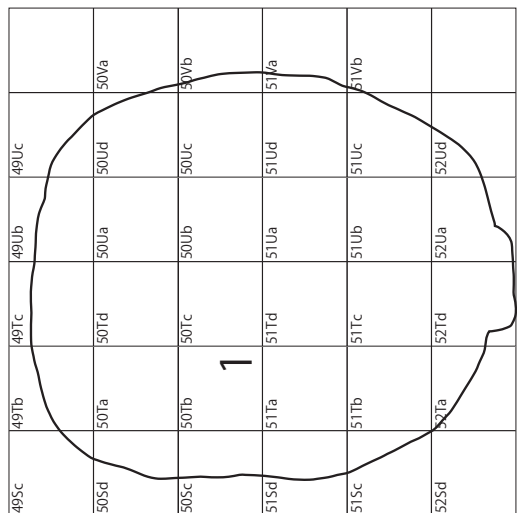
H18 覆土3層 たたき石



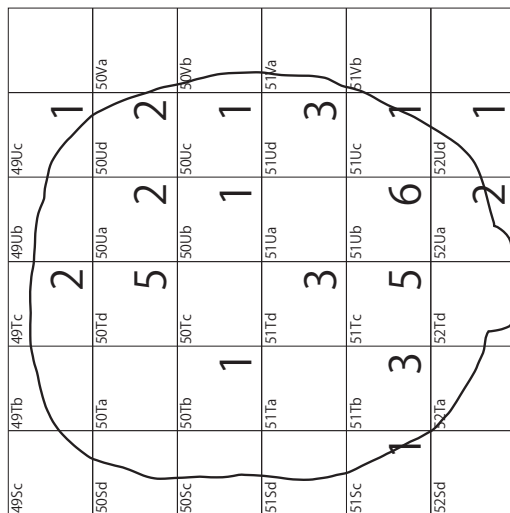
H18 覆土2層 すり石



H18 覆土2層 たたき石

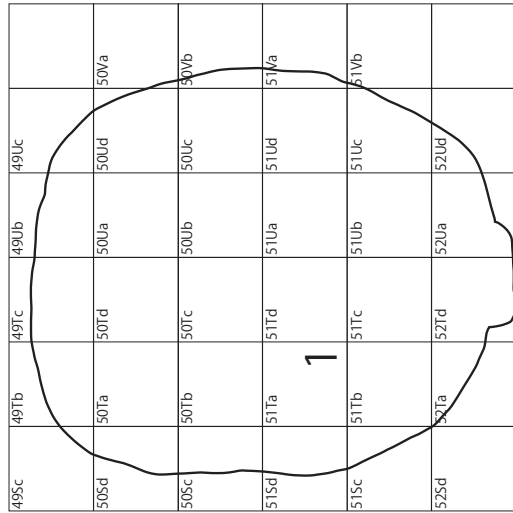


H18 覆土1層 すり石

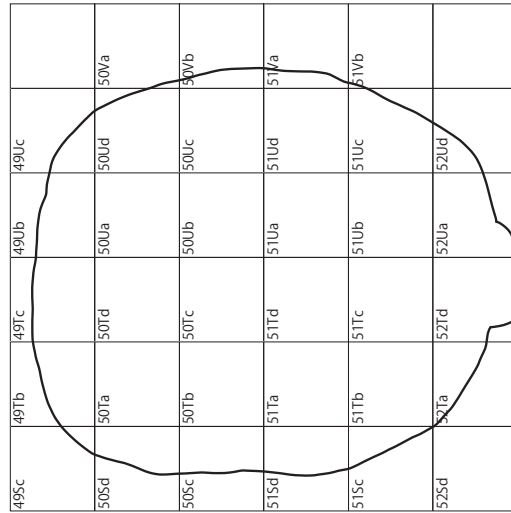


H18 覆土1層 たたき石

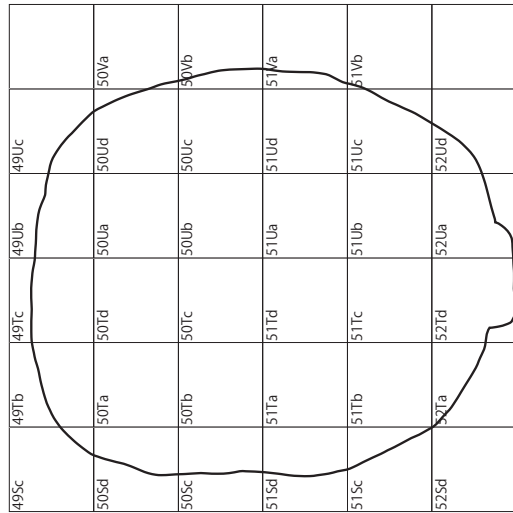
図一 1-23 H18器種別遺物覆土1~3層層位別遺物出土状況11 (すり石・たたき石)



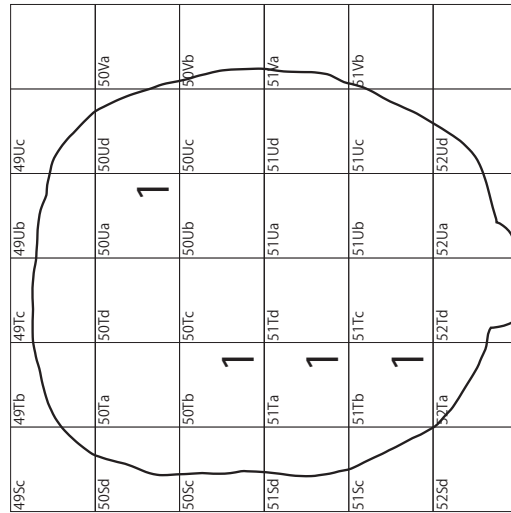
H18 覆土3層 石籠



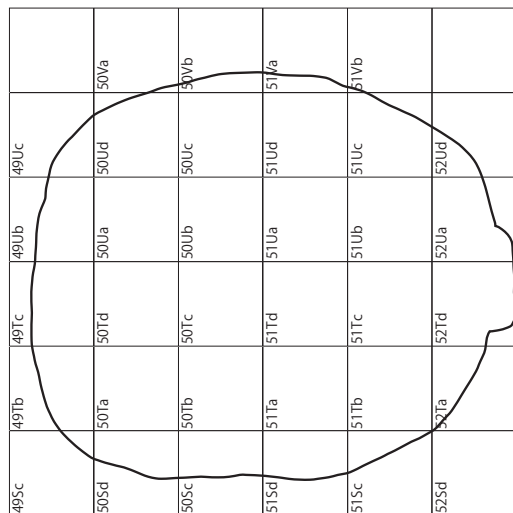
H18 覆土3層 砥石



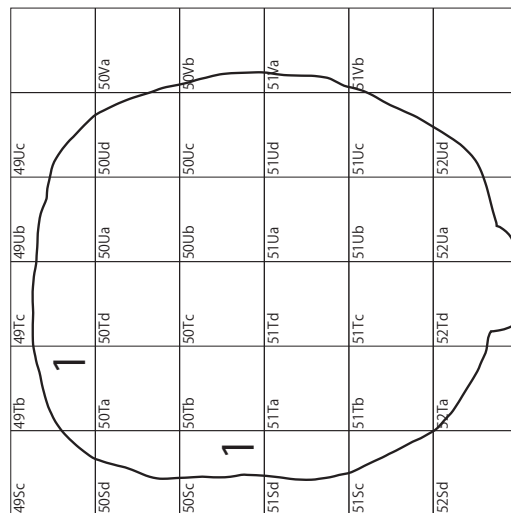
H18 覆土2層 石籠



H18 覆土2層 砥石

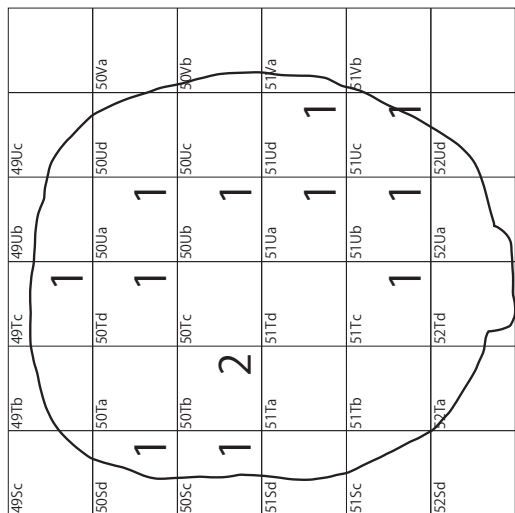
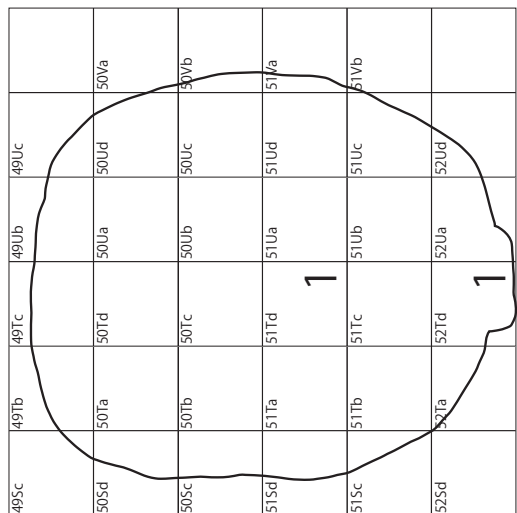
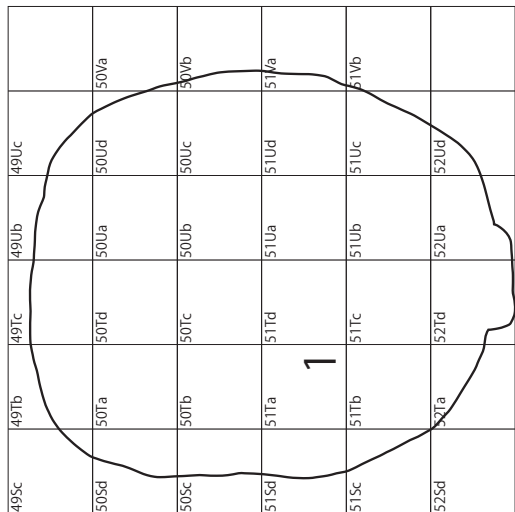
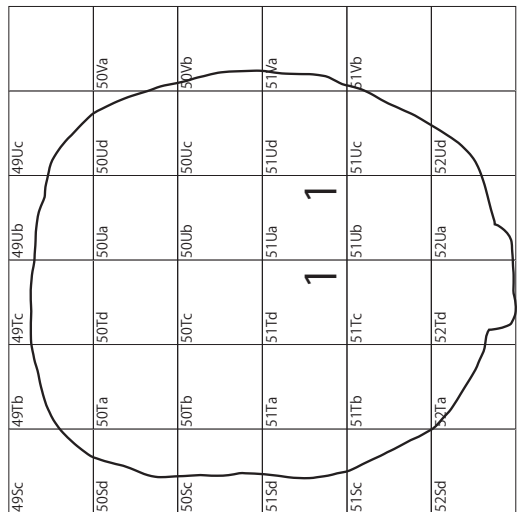
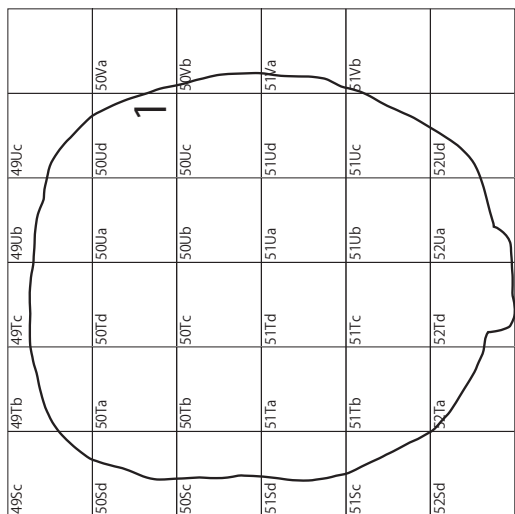
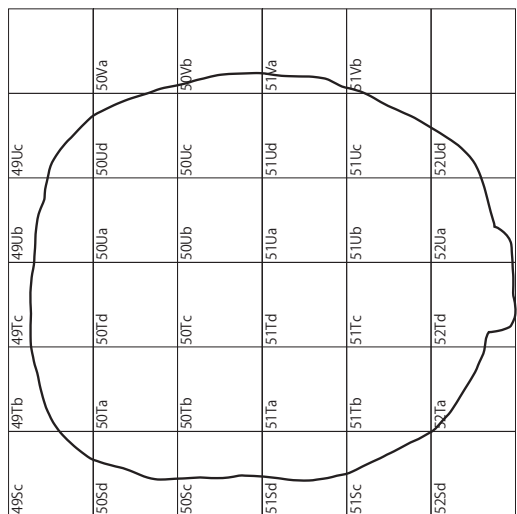


H18 覆土1層 石籠



H18 覆土1層 砥石

図III-1-24 H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物出土状況12 (石籠・砥石)



図Ⅲ-1-25 H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物出土状況13 (石皿・台石)

49Sc	49Tb	49Tc	49Ub	49Uc
50Sd	50Ta	50Td	50Ua	50Ud
50Sc	50Tb	50Tc	50Ub	50Uc
51Sd	51Ta	51Td	51Ua	51Ud
51Sc	51Tb	51Tc	51Ub	51Uc
52Sd	52Ta	52Td	52Ua	52Ud

H18 覆土3層 礎石器合計

49Sc	49Tb	49Tc	49Ub	49Uc
50Sd	50Ta	50Td	50Ua	50Ud
50Sc	50Tb	50Tc	50Ub	50Uc
51Sd	51Ta	51Td	51Ua	51Ud
51Sc	51Tb	51Tc	51Ub	51Uc
52Sd	52Ta	52Td	52Ua	52Ud

H18 覆土2層 礎石器合計

49Sc	49Tb	49Tc	49Ub	49Uc
50Sd	50Ta	50Td	50Ua	50Ud
50Sc	50Tb	50Tc	50Ub	50Uc
51Sd	51Ta	51Td	51Ua	51Ud
51Sc	51Tb	51Tc	51Ub	51Uc
52Sd	52Ta	52Td	52Ua	52Ud

H18 覆土1層 礎石器合計

49Sc	49Tb	49Tc	49Ub	49Uc
50Sd	50Ta	50Td	50Ua	50Ud
50Sc	50Tb	50Tc	50Ub	50Uc
51Sd	51Ta	51Td	51Ua	51Ud
51Sc	51Tb	51Tc	51Ub	51Uc
52Sd	52Ta	52Td	52Ua	52Ud

H18 覆土3層 礎

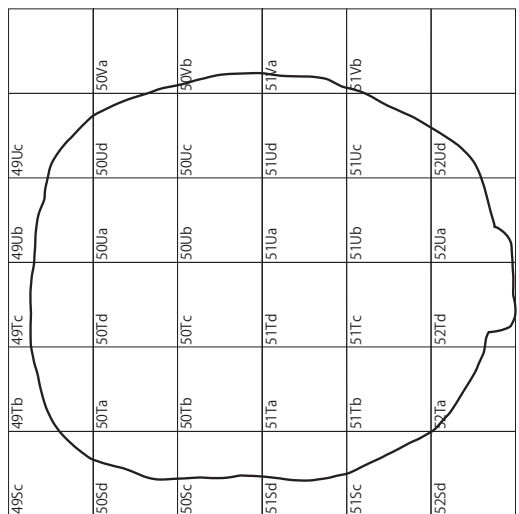
49Sc	49Tb	49Tc	49Ub	49Uc
50Sd	50Ta	50Td	50Ua	50Ud
50Sc	50Tb	50Tc	50Ub	50Uc
51Sd	51Ta	51Td	51Ua	51Ud
51Sc	51Tb	51Tc	51Ub	51Uc
52Sd	52Ta	52Td	52Ua	52Ud

H18 覆土2層 礎

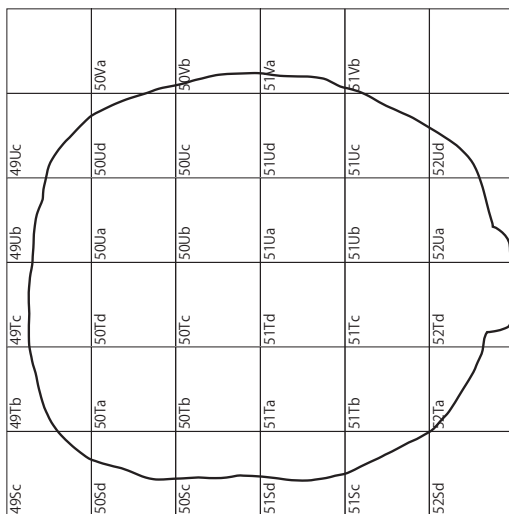
49Sc	49Tb	49Tc	49Ub	49Uc
50Sd	50Ta	50Td	50Ua	50Ud
50Sc	50Tb	50Tc	50Ub	50Uc
51Sd	51Ta	51Td	51Ua	51Ud
51Sc	51Tb	51Tc	51Ub	51Uc
52Sd	52Ta	52Td	52Ua	52Ud

H18 覆土1層 礎

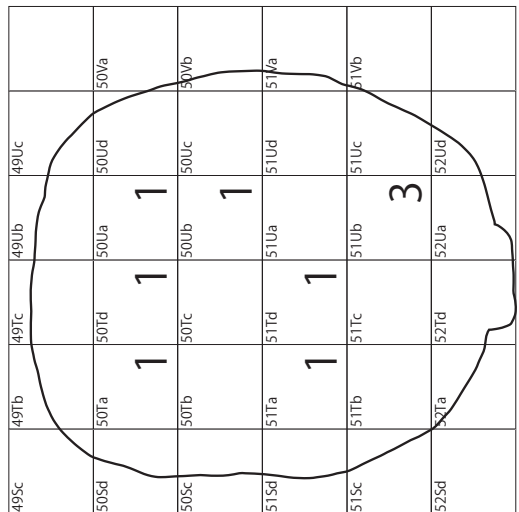
図Ⅲ-1-26 H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物出土状況14 (礎石器全般・礎)



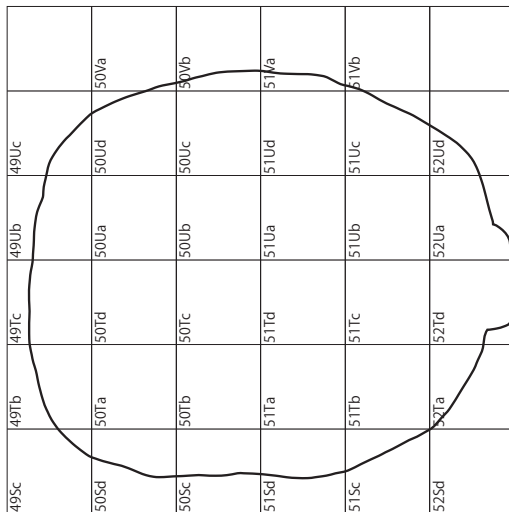
H18 覆土3層 被熱礫



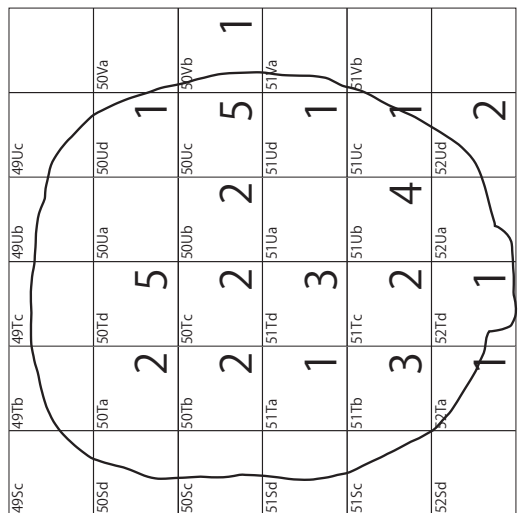
H18 覆土3層 石製品



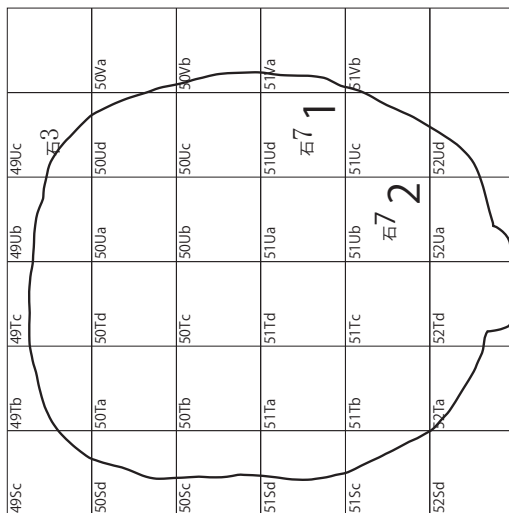
H18 覆土2層 被熱礫



H18 覆土2層 石製品



H18 覆土1層 被熱礫



H18 覆土1層 石製品

図Ⅲ-1-27 H18器種別遺物覆土1~3層層位別遺物出土状況15 (被熱礫・石製品)

49Sc	49Tb	49Tc	49Ub	49Uc
			2	1
50Sd	50Ta	50Td	50Ua	50Ud
10	10		1	5
50Sc	50Tb	50Tc	50Ub	50Uc
	2	1	3	3
51Sd	51Ta	51Td	51Ua	51Ud
	9	3	6	1
51Sc	51Tb	51Tc	51Ub	51Uc
	2	24	1	2
52Sd	52Ta	52Td	52Ua	52Ud
			2	1
			4	1

H18 覆土3層 石器合計

49Sc	49Tb	49Tc	49Ub	49Uc
			2	1
50Sd	50Ta	50Td	50Ua	50Ud
26	20		2	7
50Sc	50Tb	50Tc	50Ub	50Uc
	17	2	3	4
51Sd	51Ta	51Td	51Ua	51Ud
	23	4	10	3
51Sc	51Tb	51Tc	51Ub	51Uc
	3	39	1	5
52Sd	52Ta	52Td	52Ua	52Ud
			2	5
			5	1

H18 覆土3層 遺物合計

49Sc	49Tb	49Tc	49Ub	49Uc
		3	6	9
50Sd	50Ta	50Td	50Ua	50Ud
2	16	35	42	5
50Sc	50Tb	50Tc	50Ub	50Uc
	2	21	14	41
51Sd	51Ta	51Td	51Ua	51Ud
	2	119	52	39
51Sc	51Tb	51Tc	51Ub	51Uc
	1	18	39	5
52Sd	52Ta	52Td	52Ua	52Ud
			6	21
			4	

H18 覆土2層 石器合計

49Sc	49Tb	49Tc	49Ub	49Uc
		6	14	10
50Sd	50Ta	50Td	50Ua	50Ud
10	42	62	74	21
50Sc	50Tb	50Tc	50Ub	50Uc
	5	56	32	92
51Sd	51Ta	51Td	51Ua	51Ud
	6	224	94	79
51Sc	51Tb	51Tc	51Ub	51Uc
	1	61	70	79
52Sd	52Ta	52Td	52Ua	52Ud
			7	38
			12	2

H18 覆土2層 遺物合計

49Sc	49Tb	49Tc	49Ub	49Uc
		18	67	13
50Sd	50Ta	50Td	50Ua	50Ud
21	102	70	33	53
50Sc	50Tb	50Tc	50Ub	50Uc
	56	87	17	47
51Sd	51Ta	51Td	51Ua	51Ud
	28	103	21	21
51Sc	51Tb	51Tc	51Ub	51Uc
	9	139	88	72
52Sd	52Ta	52Td	52Ua	52Ud
			26	77
			33	8

H18 覆土1層 石器合計

49Sc	49Tb	49Tc	49Ub	49Uc
		85	152	45
50Sd	50Ta	50Td	50Ua	50Ud
48	286	130	109	118
50Sc	50Tb	50Tc	50Ub	50Uc
	144	164	41	86
51Sd	51Ta	51Td	51Ua	51Ud
	58	210	42	55
51Sc	51Tb	51Tc	51Ub	51Uc
	16	364	182	176
52Sd	52Ta	52Td	52Ua	52Ud
			91	187
			162	22

H18 覆土1層 遺物合計

図Ⅳ-1-28 H18器種別遺物覆土1～3層層位別遺物出土状況16 (石器全般・遺物全般)

表Ⅲ-1-2 H18覆土1層調査区別出土遺物点取り番号一覧(覆土2・3層・床面)

層位	調査区名	遺物番号
覆土2	49Tb	3458, 3459, 3460, 3461, 3462, 3463
覆土2	49Tc	3464, 3465, 3466, 3469, 3471, 3531, 3532, 4016, 4019, 4023, 4024, 4036, 4037, 4038
覆土2	49Ub	3011, 3012, 3013, 3014, 3065, 3066, 3067, 3068, 3069
覆土2	50Sc	3448, 3534, 3949, 3950, 3951
覆土2	50Sd	3449, 3450, 3451, 3452, 3453, 3454
覆土2	50Ta	2981, 2982, 2983, 2984, 2985, 2986, 2987, 2988, 2989, 2990, 2991, 2992, 2993, 2994, 2995, 2996, 2997, 2998, 2999, 3000, 3001, 3010, 3455, 3456, 3457, 3470, 3472, 3473, 3508, 3509, 3510, 3511, 3512
覆土2	50Tb	2961, 2962, 2963, 2964, 2965, 2966, 2967, 2968, 2969, 2970, 2971, 2972, 2973, 2974, 2975, 2976, 2977, 2978, 2979, 2980, 3504, 3505, 3506, 3507, 3513, 3514, 3515, 3516, 3517, 3519, 3533, 3558, 3891, 3892, 3893, 3894, 3895, 3896, 3897, 3914, 3915, 3916, 3917, 3960, 3961
覆土2	50Tc	3500, 3518, 3520, 3521, 3522, 3523, 3524, 3525, 3526, 3527, 3528, 3529, 3530, 3918, 3919, 3955, 3956, 3973, 3979, 3980, 3981, 3984, 3985, 3986, 3987, 3988, 3989, 3990, 3991
覆土2	50Td	3002, 3003, 3004, 3005, 3006, 3007, 3008, 3009, 3467, 3468, 3474, 3475, 3476, 3477, 3478, 3479, 3480, 3481, 3482, 3483, 3484, 3485, 3486, 3487, 3488, 3489, 3490, 3491, 3492, 3493, 3494, 3495, 3496, 3497, 3498, 3499, 3501, 3502, 3503, 3559, 3560, 3992, 3993, 3994, 3995, 3996, 3997, 3998, 3999, 4000, 4005, 4006, 4007, 4010, 4012, 4017, 4018
覆土2	50Ua	3015, 3016, 3017, 3018, 3019, 3020, 3021, 3022, 3023, 3024, 3025, 3026, 3027, 3028, 3029, 3030, 3031, 3049, 3050, 3051, 3052, 3053, 3054, 3055, 3056, 3057, 3058, 3059, 3060, 3061, 3062, 3063, 3064, 3070, 3072, 3073, 3074, 3075, 3076, 3077, 3078, 3079, 3080, 3081, 3082, 3083, 3118, 3119, 3120, 3125, 3126, 3127, 3128, 3129, 3130, 3131, 3132, 3155, 3156, 3586, 3587, 3588, 3589, 3590, 4022
覆土2	50Ub	3032, 3033, 3034, 3035, 3036, 3037, 3038, 3039, 3040, 3041, 3042, 3043, 3044, 3045, 3046, 3051, 3052, 3053, 3054, 3085, 3086, 3087, 3088, 3089, 3090, 3091, 3092, 3093, 3094, 3095, 3096, 3097, 3098, 3099, 3100, 3101, 3102, 3111, 3112, 3113, 3114, 3115, 3116, 3117, 3157, 3158, 3159, 3160, 3591, 3592, 3593, 3594, 3595, 3596, 3597, 3598, 3599, 3600, 3601, 3602, 3603, 3604, 3605, 3606, 3607, 3608, 3689, 3870, 3871, 3872, 3873
覆土2	50Uc	3103, 3104, 3105, 3106, 3107, 3108, 3109, 3110, 3137, 3138, 3139, 3140, 3141, 3142, 3143, 3144, 3146, 3147, 3148, 3149, 3150, 3874, 4310
覆土2	50Ud	3071, 3121, 3122, 3123, 3124, 3133, 3134, 3135, 3136, 3151, 3152, 3153, 3154, 3581, 3582, 3583, 3584, 3585
覆土2	50Vb	3145
覆土2	51Sc	2960
覆土2	51Sd	2775, 2776, 2792, 2959, 3546
覆土2	51Ta	2737, 2738, 2739, 2740, 2741, 2742, 2743, 2744, 2745, 2746, 2747, 2748, 2749, 2750, 2751, 2752, 2753, 2754, 2755, 2756, 2757, 2758, 2759, 2760, 2761, 2762, 2763, 2764, 2765, 2766, 2767, 2768, 2769, 2770, 2771, 2772, 2773, 2774, 2777, 2778, 2779, 2780, 2781, 2782, 2783, 2784, 2785, 2786, 2787, 2788, 2789, 2790, 2791, 2793, 2794, 2795, 2796, 2797, 2798, 2799, 2800, 2801, 2802, 2803, 2804, 2805, 2806, 2807, 2808, 2809, 2810, 2812, 2813, 2814, 2815, 2816, 2817, 2818, 2819, 2820, 2821, 2822, 2823, 2824, 2825, 2826, 2827, 2828, 2829, 2830, 2831, 2840, 2841, 2855, 2856, 2857, 2858, 2859, 2860, 2858, 3346, 3347, 3348, 3349, 3350, 3351, 3352, 3353, 3354, 3355, 3356, 3357, 3358, 3359, 3360, 3361, 3362, 3363, 3364, 3365, 3366, 3367, 3368, 3369, 3370, 3371, 3372, 3373, 3374, 3375, 3376, 3377, 3378, 3379, 3380, 3381, 3382, 3383, 3384, 3385, 3386, 3387, 3388, 3389, 3390, 3391, 3392, 3393, 3394, 3395, 3396, 3397, 3398, 3399, 3400, 3401, 3402, 3403, 3405, 3408, 3409, 3410, 3411, 3412, 3413, 3414, 3415, 3416, 3417, 3541, 3542, 3543, 3544, 3545, 3547, 3548, 3549, 3550, 3561, 3562, 3563, 3567, 3568, 3569, 3570, 3571, 3572, 3573, 3574, 3575, 3576, 3609, 3610, 3611, 3612, 3613, 3614, 3615, 3616, 3617, 3618, 3619, 3620, 3621
覆土2	51Tb	2811, 2851, 2852, 2853, 2854, 2861, 2862, 2863, 2864, 2865, 2866, 2867, 2868, 2869, 2871, 2872, 2884, 2885, 2886, 2887, 2888, 2889, 2890, 2899, 2900, 2901, 2902, 2903, 2904, 2914, 2920, 2957, 3321, 3322, 3323, 3327, 3339, 3342, 3343, 3344, 3345, 3577, 3622, 3623, 3624, 3625
覆土2	51Tc	2870, 2873, 2874, 2875, 2876, 2880, 2881, 2882, 2883, 2891, 2892, 2893, 2894, 2895, 2896, 2897, 2898, 2905, 2906, 2907, 2913, 2916, 2917, 2918, 2919, 2921, 2938, 2939, 2940, 2941, 2942, 2944, 2945, 3324, 3325, 3326, 3328, 3329, 3330, 3331, 3332, 3333, 3334, 3335, 3336, 3337, 3338, 3340, 3341, 3447, 3578, 3579, 3580, 3626, 3627, 3628, 4047, 4050, 4057
覆土2	51Td	2731, 2732, 2733, 2734, 2735, 2736, 2832, 2833, 2834, 2835, 2836, 2837, 2838, 2839, 2842, 2843, 2844, 2845, 2846, 2847, 2848, 2849, 2850, 2877, 2878, 2879, 2922, 2923, 2924, 2925, 2926, 2927, 2928, 2929, 2930, 2931, 2932, 2933, 2934, 2935, 2936, 2937, 3404, 3406, 3407, 3418, 3419, 3420, 3421, 3422, 3423, 3424, 3425, 3426, 3427, 3428, 3429, 3430, 3431, 3432, 3433, 3434, 3435, 3436, 3437, 3438, 3439, 3440, 3441, 3442, 3443, 3444, 3445, 3446, 3564, 3565, 3566, 4039, 4041, 4043
覆土2	51Ua	3161, 3162, 3163, 3164, 3165, 3166, 3167, 3168, 3169, 3170, 3171, 3182, 3183, 3184, 3185, 3186, 3187, 3188, 3189, 3190, 3191, 3192, 3193, 3194, 3195, 3196, 3197, 3198, 3199, 3200, 3201, 3202, 3203, 3204, 3205, 3206, 3207, 3208, 3209, 3210, 3211, 3212, 3213, 3214, 3215, 3216, 3217, 3218, 3219, 3230, 3232, 3233, 3234, 3235, 3236, 3237, 3238, 3239, 3240, 3241, 3242, 3243, 3244, 3245, 3247, 3248, 3249, 3250, 3251, 3252, 3654, 3655, 3656, 3657, 3658, 3659, 4042
覆土2	51Ub	3174, 3176, 3228, 3229, 3246, 3253, 3254, 3255, 3256, 3257, 3258, 3259, 3260, 3261, 3262, 3263, 3264, 3265, 3266, 3267, 3268, 3269, 3270, 3271, 3272, 3273, 3274, 3275, 3276, 3277, 3278, 3279, 3280, 3281, 3282, 3283, 3284, 3285, 3286, 3287, 3288, 3289, 3290, 3291, 3292, 3293, 3294, 3295, 3296, 3297, 3298, 3301, 3302, 3307, 3643, 3644, 3645, 3646, 3647, 3648, 3649, 3650, 3664, 3665, 3666, 3667, 3672, 3673, 3674, 3675, 3676, 4066
覆土2	51Uc	3224, 3225, 3226, 3227, 3309, 3310, 3311
覆土2	51Ud	3172, 3173, 3175, 3177, 3178, 3179, 3180, 3181, 3220, 3221, 3222, 3223, 3231, 3660, 3661, 3662, 3663
覆土2	52Ta	2908, 2954, 2955, 2956, 3320, 3629, 3630
覆土2	52Td	2909, 2910, 2911, 2912, 2915, 2946, 2947, 2948, 2949, 2950, 2951, 2952, 2953, 3312, 3313, 3314, 3315, 3316, 3317, 3318, 3319, 3631, 3632, 3633, 3671, 4068, 4069, 4088, 4101, 4102
覆土2	52Ua	3299, 3300, 3303, 3304, 3305, 3306, 3638, 3639, 3640, 3641, 3642, 4089
覆土2	52Ud	3308
覆土2	不明	3535, 3536, 3537, 3538, 3539, 3540, 3551, 3552, 3553, 3554, 3555, 3556, 3557
覆土2ベンチ直上	50Uc	4243
覆土3	49Tc	4216, 4217
覆土3	49Ub	4239
覆土3	50Sc	4135, 4136, 4138, 4139, 4140, 4195, 4196, 4197, 4199, 4200, 4201, 4202, 4208
覆土3	50Sd	4137, 4142, 4143, 4144, 4145, 4146, 4148, 4149, 4150, 4151, 4152, 4153, 4154, 4155, 4156, 4157, 4158, 4159, 4172, 4177, 4204
覆土3	50Ta	4147, 4160, 4161, 4162, 4163, 4164, 4165, 4166, 4167, 4168, 4169, 4170, 4171, 4173, 4174, 4175, 4176, 4205, 4219
覆土3	50Tb	4198, 4203
覆土3	50Tc	4226, 4227, 4228
覆土3	50Ua	4224, 4225
覆土3	50Uc	4184, 4185, 4186, 4187
覆土3	50Ud	4178, 4179, 4180, 4181, 4182, 4183, 4309
覆土3	51Sc	4220, 4221, 4250
覆土3	51Sd	4133, 4134, 4188, 4189, 4190, 4191, 4192, 4193, 4194, 4209, 4210, 4211, 4213, 4214, 4215, 4244, 4245, 4246, 4247, 4248, 4249
覆土3	51Ta	4130, 4132, 4212, 4262
覆土3	51Tb	4128, 4129, 4131, 4206, 4222, 4223, 4240, 4241, 4242, 4251, 4252, 4253, 4254, 4255, 4256, 4260, 4261, 4263, 4264, 4265, 4266, 4267, 4268, 4269, 4270, 4271, 4274, 4275, 4276, 4277, 4278, 4279, 4280, 4281, 4282, 4283, 4284
覆土3	51Tc	4236
覆土3	51Td	4127, 4229, 4230, 4231, 4232, 4234, 4235
覆土3	51Ua	4108, 4109, 4110
覆土3	51Ub	4116, 4218, 4237, 4238
覆土3	51Uc	4118, 4119, 4120, 4121
覆土3	51Ud	4122, 4123, 4124, 4125, 4126, 4141
覆土3	52Ta	4272, 4273
覆土3	52Td	4257, 4258, 4259
覆土3	52Ua	4111, 4112, 4113, 4114, 4115
覆土3	52Ud	4117
覆土3	51Tc	1301
覆土トレンチ	49Tc	95, 96, 97, 98, 99
覆土トレンチ	49Ub	70, 71, 72, 73, 74, 75, 76
覆土トレンチ	50Sc	145, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 152, 153
覆土トレンチ	50Tb	117, 118, 119, 120, 121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141, 142, 143, 144
覆土トレンチ	50Tc	109, 110, 111, 112, 113, 114, 115, 116
覆土トレンチ	50Td	100, 101, 102, 103, 104, 105, 106, 107, 108, 265
覆土トレンチ	50Ua	49, 50, 51, 52, 53, 54, 55, 56, 57, 58, 59, 60, 61, 62, 63, 64, 65, 66, 67, 68, 69
覆土トレンチ	50Ub	39, 40, 41, 42, 43, 44, 45, 46, 47, 48, 79, 81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94
覆土トレンチ	50Uc	77, 78, 80
覆土トレンチ	51Sd	154, 155, 156, 157, 158, 159, 160
覆土トレンチ	51Ta	161, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 169, 170, 171, 172, 173, 174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 184, 185, 186
覆土トレンチ	51Tc	205, 206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 223
覆土トレンチ	51Td	187, 188, 189, 190, 191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202, 203, 204
覆土トレンチ	51Ua	26, 27, 28, 29, 32, 33, 34, 35, 36, 37, 38, 249, 250, 251, 252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259
覆土トレンチ	51Ub	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18, 19, 20, 21, 22, 23, 24, 25, 30, 31, 236, 237, 238, 239, 240, 241, 260, 261, 262
覆土トレンチ	51Ud	263, 264
覆土トレンチ	52Td	222, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235
覆土トレンチ	52Ua	242, 243, 244, 245, 246, 247, 248
床	49Tc	4306
床	49Ub	4307
床	49Uc	4308
床	50Sd	4299
床	50Td	4301
床	50Ub	4304
床	50Ud	4297, 4298, 4305
床	51Tb	4285, 4286, 4287, 4288, 4289, 4290
床	51Tc	4302, 4303
床	51Tc	4294
床	51Uc	4296
床	52Ta	4295
床	52Tb	4207
床	52Td	4291, 4292, 4293, 4300
HP-41床面	49Tc	4311
HP-41床面	49Ub	4312, 4313

表Ⅲ-1-3 H18点取り遺物出土層位および器種名一覧1(1~376)

遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名
1		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	96		礫	覆土トレンチ	1	49Tc	191		IIb	覆土トレンチ	1	51Td	285		IIb	覆土1層	1	50Td
2		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	97		IIb	覆土トレンチ	1	49Tc	192		石斧片	覆土トレンチ	1	51Td	286		スクレイパー片	覆土1層	1	49Tb
3		IIb	覆土トレンチ	1	51UUb	98		被熱礫片	覆土トレンチ	1	49Tc	193		フレイク	覆土トレンチ	1	51Td	287		フレイク	覆土1層	1	49Tb
4		IIb	覆土トレンチ	1	51UUb	99		フレイク	覆土トレンチ	1	49Tc	194		IIb	覆土トレンチ	1	51Td	288		IIb	覆土1層	1	50Ta
5		IIb	覆土トレンチ	1	51UUb	100		IIb	覆土トレンチ	1	50Td	195		台石片	覆土トレンチ	1	51Td	289		礫片	覆土1層	1	50Ta
6		IIb	覆土トレンチ	1	51UUb	101		被熱礫片	覆土トレンチ	1	50Td	196		IIb	覆土トレンチ	1	51Td	290		礫片	覆土1層	1	50Ta
7		IIb	覆土トレンチ	4	51UUb	102		扁平打製石器片	覆土トレンチ	1	50Td	197		フレイク	覆土トレンチ	1	51Td	291		フレイク	覆土1層	1	50Ta
8		フレイク	覆土トレンチ	1	51UUb	103		扁平打製石器	覆土トレンチ	1	50Td	198		フレイク	覆土トレンチ	1	51Td	292		IIb	覆土1層	1	50Ta
9		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	104		扁平打製石器	覆土トレンチ	1	50Td	199		フレイク	覆土トレンチ	1	51Td	293		IIb	覆土1層	1	50Ta
10		IIb	覆土トレンチ	1	51UUb	105		礫	覆土トレンチ	1	50Td	200		IIb	覆土トレンチ	1	51Td	294		IIb	覆土1層	1	50Ta
11		IIb	覆土トレンチ	1	51UUb	106		IIb	覆土トレンチ	1	50Td	201		IIb	覆土トレンチ	1	51Td	295		IIb	覆土1層	1	50Ta
12		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	107		礫	覆土トレンチ	1	50Td	202		フレイク	覆土トレンチ	1	51Td	296	1	Uフレイク	覆土1層	1	50Ta
13		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	108		IIb	覆土トレンチ	1	50Td	203		フレイク	覆土トレンチ	1	51Td	296	2	焼成粘土塊	覆土1層	1	50Ta
14		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	109		たたき石	覆土トレンチ	1	50Tc	204		IIb	覆土トレンチ	1	51Td	297		フレイク	覆土1層	1	50Ta
15		被熱礫	覆土トレンチ	1	51UUb	110		たたき石	覆土トレンチ	1	50Tc	205		たたき石	覆土トレンチ	1	51Tc	298		礫	覆土1層	1	50Ta
16		被熱礫	覆土トレンチ	1	51UUb	111		IIb	覆土トレンチ	2	50Tc	206		IIb	覆土トレンチ	1	51Tc	299		IIb	覆土1層	1	50Ta
17		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	112		IIb	覆土トレンチ	2	50Tc	207		礫片	覆土トレンチ	1	51Tc	300		礫	覆土1層	1	50Ta
18		フレイク	覆土トレンチ	1	51UUb	113		フレイク	覆土トレンチ	1	50Tc	208		IIb	覆土トレンチ	1	51Tc	301		IIb	覆土1層	1	50Ta
19		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	114		IIb	覆土トレンチ	1	50Tc	209		IIb	覆土トレンチ	1	51Tc	302		石核	覆土1層	1	50Ta
20		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	115		IIb	覆土トレンチ	1	50Tc	210		フレイク	覆土トレンチ	1	51Tc	303		IIb	覆土1層	1	50Ta
21		IIa	覆土トレンチ	1	51UUb	116		IIb	覆土トレンチ	1	50Tc	211		IIb	覆土トレンチ	1	51Tc	304		IIb	覆土1層	1	50Ta
22		IIb	覆土トレンチ	1	51UUb	117		扁平打製石器	覆土トレンチ	1	50Tb	212		IIb	覆土トレンチ	1	51Tc	305		被熱礫片	覆土1層	1	50Ta
23		扁平打製石器片	覆土トレンチ	1	51UUb	118		礫	覆土トレンチ	1	50Tb	213		フレイク	覆土トレンチ	1	51Tc	306		IIb	覆土1層	1	50Ta
24		IIb	覆土トレンチ	1	51UUb	119		フレイク	覆土トレンチ	1	50Tb	214		フレイク	覆土トレンチ	1	51Tc	307	1	IIb	覆土1層	1	50Ta
25		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	120		IIb	覆土トレンチ	2	50Tb	215		IIb	覆土トレンチ	1	51Tc	307	2	焼成粘土塊	覆土1層	1	50Ta
26		IIa	覆土トレンチ	1	51UUb	121		フレイク	覆土トレンチ	2	50Tb	216		IIb	覆土トレンチ	1	51Tc	308		フレイク	覆土1層	1	50Ta
27		IIb	覆土トレンチ	1	51UUb	122		IIb	覆土トレンチ	1	50Tb	217		IIb	覆土トレンチ	1	51Tc	309		フレイク	覆土1層	1	50Ta
28		IIb	覆土トレンチ	1	51UUb	123		IIb	覆土トレンチ	1	50Tb	218		IIb	覆土トレンチ	1	51Tc	310		IIb	覆土1層	1	50Ta
29		IIb	覆土トレンチ	1	51UUb	124		スクレイパー	覆土トレンチ	1	50Tb	219		礫	覆土トレンチ	1	51Tc	311		IIb	覆土1層	1	50Ta
30		IIb	覆土トレンチ	1	51UUb	125		フレイク	覆土トレンチ	1	50Tb	220		フレイク	覆土トレンチ	1	51Tc	312		IIb	覆土1層	1	50Ta
31		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	126		フレイク	覆土トレンチ	1	50Tb	221		扁平打製石器	覆土トレンチ	1	51Tc	313		IIb	覆土1層	1	50Ta
32		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	127		フレイク	覆土トレンチ	1	50Tb	222		IIb	覆土トレンチ	1	52Td	314		扁平打製石器片	覆土1層	1	50Ta
33		IIb	覆土トレンチ	1	51UUb	128		IIb	覆土トレンチ	1	50Tb	223		IIb	覆土トレンチ	1	51Tc	315		欠番			50Ta
34		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	129		IIb	覆土トレンチ	2	50Tb	224		IIb	覆土トレンチ	1	52Td	316		スクレイパー	覆土1層	1	50Ta
35		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	130		IIb	覆土トレンチ	2	50Tb	225		フレイク	覆土トレンチ	1	52Td	317		IIb	覆土1層	1	50Ta
36		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	131		IIb	覆土トレンチ	2	50Tb	226		IIb	覆土トレンチ	1	52Td	318		IIb	覆土1層	1	50Ta
37		IIb	覆土トレンチ	1	51UUb	132		IIb	覆土トレンチ	3	50Tb	227		IIb	覆土トレンチ	1	52Td	319		スクレイパー	覆土1層	1	50Ta
38		礫	覆土トレンチ	1	51UUb	133		IIb	覆土トレンチ	2	50Tb	228		IIb	覆土トレンチ	1	52Td	320		IIb	覆土1層	1	50Ta
39		扁平打製石器片	覆土トレンチ	1	50Ub	134		フレイク	覆土トレンチ	1	50Tb	229		フレイク	覆土トレンチ	1	52Td	321		IIb	覆土1層	1	50Tb
40		礫片	覆土トレンチ	1	50Ub	135		IIb	覆土トレンチ	1	50Tb	230		フレイク	覆土トレンチ	1	52Td	322		礫	覆土1層	1	50Tb
41		フレイク	覆土トレンチ	1	50Ub	136		IIb	覆土トレンチ	1	50Tb	231		両面調整石器	覆土トレンチ	1	52Td	323		IIb	覆土1層	1	50Ta
42		礫	覆土トレンチ	1	50Ub	137		IIb	覆土トレンチ	1	50Tb	232		扁平打製石器	覆土トレンチ	1	52Td	324		IIb	覆土1層	1	50Ta
43		礫	覆土トレンチ	1	50Ub	138		IIb	覆土トレンチ	1	50Tb	233		IIb	覆土トレンチ	1	52Td	325		IIb	覆土1層	1	50Ta
44		礫	覆土トレンチ	1	50Ub	139		フレイク	覆土トレンチ	1	50Tb	234		IIb	覆土トレンチ	1	52Td	326		フレイク	覆土1層	1	50Sd
45		IIb	覆土トレンチ	1	50Ub	140		つまみ付きナイフ	覆土トレンチ	1	50Tb	235		IIb	覆土トレンチ	1	52Td	327		IIb	覆土1層	1	50Sd
46		IIb	覆土トレンチ	1	50Ub	141		IIb	覆土トレンチ	1	50Tb	236		扁平打製石器	覆土トレンチ	1	51Ub	328		IIb	覆土1層	1	50Ta
47		礫	覆土トレンチ	1	50Ub	142		フレイク	覆土トレンチ	1	50Tb	237		被熱礫	覆土トレンチ	1	51Ub	329		フレイク	覆土1層	1	50Tb
48		礫	覆土トレンチ	1	50Ub	143		IIb	覆土トレンチ	1	50Tb	238		礫	覆土トレンチ	1	51Ub	330		フレイク	覆土1層	1	50Tb
49		礫	覆土トレンチ	1	50Ua	144		フレイク	覆土トレンチ	1	50Tb	239		IIb	覆土トレンチ	1	51Ub	331		フレイク	覆土1層	1	50Tb
50		礫	覆土トレンチ	1	50Ua	145		IIb	覆土トレンチ	1	50Sc	240		フレイク	覆土トレンチ	1	51Ub	332		IIb	覆土1層	1	50Tb
51		礫	覆土トレンチ	1	50Ua	146		フレイク	覆土トレンチ	1	50Sc	241		礫	覆土トレンチ	1	51Ub	333		フレイク	覆土1層	1	50Tb
52		礫	覆土トレンチ	1	50Ua	147		フレイク	覆土トレンチ	1	50Sc	242		IIb	覆土トレンチ	1	52Ua	334		IIb	覆土1層	2	50Tb
53		IIb	覆土トレンチ	1	50Ua	148		フレイク	覆土トレンチ	1	50Sc	243		IIb	覆土トレンチ	1	52Ua	335		IIb	覆土1層	1	50Tb
54		礫	覆土トレンチ	1	50Ua	149		スクレイパー片	覆土トレンチ	1	50Sc	244		フレイク	覆土トレンチ	1	52Ua	336		フレイク	覆土1層	1	50Sd
55		礫	覆土トレンチ	1	50Ua	150		フレイク	覆土トレンチ	1	50Sc	245		フレイク	覆土トレンチ	1	52Ua	337		フレイク	覆土1層	1	50Sd
56		礫	覆土トレンチ	1	50Ua	151		フレイク	覆土トレンチ	1	50Sc	246		IIb	覆土トレンチ	1	52Ua	338		IIb	覆土1層	1	50Sc
57		フレイク	覆土トレンチ	1	50Ua	152		フレイク	覆土トレンチ	1	50Sc	247		スクレイパー	覆土トレンチ	1	52Ua	339		フレイク	覆土1層	1	50Sc
58		IIb	覆土トレンチ	1	50Ua	153		IIb	覆土トレンチ	1	50Sc	248		IIb	覆土トレンチ	1	52Ua	340		フレイク	覆土1層	1	50Sc
59		フレイク	覆土トレンチ	1	50Ua	154		石斧片	覆土トレンチ	1	51Sd	249		礫	覆土トレンチ	1	51Ua	341		フレイク	覆土1層	1	50Sc
60		IIb	覆土トレンチ	1	50Ua	155		フレイク	覆土トレンチ	1	51Sd	250		礫	覆土トレンチ	1	51Ua	342		フレイク	覆土1層	1	50Sc
61		IIb	覆土トレンチ	1	50Ua	156		スクレイパー片	覆土トレンチ	1	51Sd	251		台石片	覆土トレンチ	1	51Ua	343		フレイク	覆土1層	1	50Tb
62		IIb	覆土トレンチ	1	50Ua	157		IIb	覆土トレンチ	1	51Sd	252		IIb	覆土トレンチ	1	51Ua	344		IIb	覆土1層	1	50Tb
63		礫	覆土トレンチ	1	50Ua	158		礫	覆土トレンチ	1	51Sd	253		フレイク	覆土トレンチ	1	51Ua	345		フレイク	覆土1層	1	50Tb
64		IIb	覆土トレンチ	1	50Ua	159		IIb	覆土トレンチ	1	51Sd	254		IIb	覆土トレンチ	1	51Ua	346		フレイク	覆土1層	1	50Tb
65		石皿	覆土トレンチ	1	50Ua	160		礫片	覆土トレンチ	1	51Sd	255		IIb	覆土トレンチ	1	51Ua	347		フレイク	覆土1層	1	50Tb
66		礫	覆土トレンチ	1	50Ua	161		フレイク	覆土トレンチ	1	51Ta	256		IIb	覆土トレンチ	1	51Ua	348		フレイク	覆土1層	1	50Tb
67		IIb	覆土トレンチ	1	50Ua	162		礫	覆土トレンチ	1	51Ta	257		扁平打製石器	覆土トレンチ	1	51Ua	349		IIb	覆土1層	1	50Tb
68		IIb	覆土トレンチ	1	50Ua	163		IIb	覆土トレンチ	1	51Ta	258		たたき石	覆土トレンチ	1	51Ua	350		フレイク	覆土1層	1	50Sc
69		フレイク	覆土トレンチ	1	50Ua																		

表Ⅲ-1-4 H18点取り遺物出土層位および器種名一覧2 (377~743)

遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名
377	IIb	覆土1層	1	52Ua		472	フレイク	覆土1層	1	51Ta		650	フレイク	覆土1層	1	51Ud	
378	フレイク	覆土1層	1	51Ub		473	IIb	覆土1層	1	51Ta		651	IIb	覆土1層	1	51Ud	
379	IIb	覆土1層	1	51Ub		474	フレイク	覆土1層	1	51Ta		652	IIIa	覆土1層	1	51Ud	
380	IIb	覆土1層	1	51Ub		475	フレイク	覆土1層	1	51Ta		653	礫	覆土1層	1	51Ud	
381	扁平打製石器片	覆土1層	1	51Ub		476	フレイク	覆土1層	1	51Ta		654	たたき石	覆土1層	1	51Ud	
382	Uフレイク	覆土1層	1	51Ub		477	フレイク	覆土1層	1	51Ta		655 1	IIb	覆土1層	1	51Ud	
383	IIb	覆土1層	1	51Ub		478	IIb	覆土1層	1	51Sd		655 2	フレイク	覆土1層	1	51Ud	
384	IIb	覆土1層	1	51Ub		479	フレイク	覆土1層	1	51Sd		656	礫	覆土1層	1	51Ud	
385	IIb	覆土1層	1	51Ub		480	フレイク	覆土1層	1	51Sd		657	IIb	覆土1層	1	51Ud	
386	Rフレイク	覆土1層	1	52Ua		481	フレイク	覆土1層	1	51Sd		658	IIb	覆土1層	1	51Ud	
387	フレイク	覆土1層	1	51Ub		482	フレイク	覆土1層	1	51Sd		659	IIIa	覆土1層	1	51Ud	
388	フレイク	覆土1層	1	51Ub		483	ドリル	覆土1層	1	51Sd		660	IIb	覆土1層	1	51Ud	
389	IIb	覆土1層	1	51Ub		484	フレイク	覆土1層	1	51Sd		661	IIb	覆土1層	1	51Ud	
390	扁平打製石器片	覆土1層	1	51Ub		485	IIb	覆土1層	1	51Sd		662	扁平打製石器	覆土1層	1	51Ud	
391	扁平打製石器	覆土1層	1	51Ub		486	フレイク	覆土1層	1	51Sd		663	被熱礫片	覆土1層	1	51Ud	
392	IIb	覆土1層	1	51Ub		487	スクレイパー	覆土1層	1	51Sd		664	たたき石	覆土1層	1	51Ud	
393	IIb	覆土1層	1	51Ub		488	IIb	覆土1層	1	51Sd		665	IIb	覆土1層	1	51Ud	
394	フレイク	覆土1層	1	51Ub		489	スクレイパー	覆土1層	1	51Sd		666	礫	覆土1層	1	51Ud	
395	礫	覆土1層	1	51Ub		490	IIb	覆土1層	1	51Sd		667	礫	覆土1層	1	51Ud	
396	礫	覆土1層	1	51Uc		491	フレイク	覆土1層	1	51Sd		668	礫	覆土1層	1	51Ud	
397	IIb	覆土1層	1	51Ub		492	IIb	覆土1層	1	51Ta		669	IIIa	覆土1層	1	51Ud	
398	IIb	覆土1層	1	51Ub		493	フレイク	覆土1層	1	51Sd		670	IIIa	覆土1層	1	51Ud	
399	IIb	覆土1層	1	51Ub		494	IIb	覆土1層	1	51Ta		671	IIIa	覆土1層	1	51Ud	
400	IIb	覆土1層	6	51Ub		495	フレイク	覆土1層	1	51Ta		672	礫	覆土1層	1	51Ud	
401	IIb	覆土1層	1	51Ub		496	フレイク	覆土1層	1	51Ta		673	IIIa	覆土1層	1	51Ud	
402	IIb	覆土1層	1	51Ub		497	フレイク	覆土1層	1	51Ta		674	礫	覆土1層	1	51Ud	
403	IIb	覆土1層	1	51Ub		498	欠番			51Ta		675	IIIa	覆土1層	1	51Ud	
404	IIb	覆土1層	1	51Ub		499	フレイク	覆土1層	1	51Ta		676	礫片	覆土1層	1	51Ud	
405	IIb	覆土1層	1	51Uc		500	フレイク	覆土1層	1	51Ta		677	フレイク	覆土1層	1	51Ud	
406	IIb	覆土1層	1	51Ub		501	IIb	覆土1層	1	51Ta		678	フレイク	覆土1層	1	51Ud	
407	石製品	覆土1層	1	51Ub		502	フレイク	覆土1層	1	51Ta		679	フレイク	覆土1層	1	51Ud	
408	石製品	覆土1層	1	51Ub		503	フレイク	覆土1層	1	51Ta		680	礫	覆土1層	1	51Ud	
409	礫片	覆土1層	1	51Uc		504	フレイク	覆土1層	1	51Ta		681	IIb	覆土1層	1	51Ud	
410	IIb	覆土1層	1	51Uc		505	IIb	覆土1層	1	51Ta		682	礫	覆土1層	1	51Ud	
411	礫	覆土1層	1	51Uc		506	IIb	覆土1層	1	51Ta		683	IIb	覆土1層	1	51Ud	
412	IIb	覆土1層	1	51Uc		507	IIb	覆土1層	1	51Sd		684	礫	覆土1層	1	51Ud	
413	IIb	覆土1層	1	51Uc		508	IIb	覆土1層	1	51Sd		685	礫	覆土1層	1	51Ud	
414	IIb	覆土1層	1	51Uc		509	フレイク	覆土1層	1	51Ta		686	Uフレイク	覆土1層	1	51Ud	
415	礫	覆土1層	1	51Uc		510	フレイク	覆土1層	1	51Ta		687	IIb	覆土1層	1	51Ud	
416	フレイク	覆土1層	1	51Uc		511	IIb	覆土1層	2	51Sc		688	IIb	覆土1層	1	51Ud	
417	IIb	覆土1層	1	51Uc		512	IIb	覆土1層	1	51Sc		689	フレイク	覆土1層	1	51Ud	
418	IIb	覆土1層	2	51Uc		513	フレイク	覆土1層	1	51Tb		690	礫	覆土1層	1	51Ud	
419	IIb	覆土1層	1	51Ub		514	フレイク	覆土1層	1	51Tb		691	礫片	覆土1層	1	51Ud	
420	IIb	覆土1層	2	51Ub		515	フレイク	覆土1層	1	51Tb		692	IIb	覆土1層	1	51Ud	
421	IIb	覆土1層	2	51Ub		516	IIb	覆土1層	1	51Ta		693	IIb	覆土1層	1	51Ud	
422	礫	覆土1層	1	51Uc		517	IIb	覆土1層	1	51Tb		694	フレイク	覆土1層	1	51Ud	
423	IIb	覆土1層	1	51Uc		518	IIb	覆土1層	2	51Tb		695	IIb	覆土1層	1	51Ud	
424	IIb	覆土1層	1	51Uc		519	IIb	覆土1層	1	51Ta		696	IIb	覆土1層	1	51Ub	
425	礫片	覆土1層	1	51Uc		520	IIb	覆土1層	1	51Tb		697	フレイク	覆土1層	1	51Ub	
426	フレイク	覆土1層	1	51Uc		521	礫	覆土1層	1	51Tb		698	被熱礫片	覆土1層	1	51Ub	
427	礫	覆土1層	1	51Uc		522	フレイク	覆土1層	1	51Tb		699	IIb	覆土1層	1	51Ub	
428	礫	覆土1層	1	51Ub		523	IIb	覆土1層	1	51Tb		700	フレイク	覆土1層	1	51Ub	
429	フレイク	覆土1層	1	51Uc		524	被熱礫片	覆土1層	1	51Tb		701	IIb	覆土1層	1	51Ud	
430	礫片	覆土1層	1	51Ud		525	IIb	覆土1層	1	51Tb		702	礫	覆土1層	1	51Ud	
431	IIb	覆土1層	1	51Ud		526	IIb	覆土1層	1	51Tb		703	IIb	覆土1層	1	51Ud	
432	IIb	覆土1層	1	51Ud		527	IIb	覆土1層	1	51Tb		704	礫片	覆土1層	1	51Ud	
433	IIb	覆土1層	1	51Ud		528	フレイク	覆土1層	1	51Tb		705	IIb	覆土1層	1	51Ub	
434	IIb	覆土1層	1	51Ud		529	IIb	覆土1層	1	51Tb		706	IIb	覆土1層	1	51Ub	
435	礫	覆土1層	1	51Ud		530	フレイク	覆土1層	1	51Tb		707	フレイク	覆土1層	1	51Ub	
436	IIb	覆土1層	1	51Ud		531	IIb	覆土1層	1	51Tb		708	IIb	覆土1層	1	51Ub	
437	IIb	覆土1層	1	51Ud		532	フレイク	覆土1層	1	51Tb		709	IIb	覆土1層	1	51Ub	
438	石製品	覆土1層	1	51Ud		533	フレイク	覆土1層	1	51Tb		710	フレイク	覆土1層	1	51Ub	
439	礫	覆土1層	1	51Ud		534	フレイク	覆土1層	1	51Tb		711	IIb	覆土1層	1	51Ub	
440	石製品	覆土1層	1	51Ua		535	IIb	覆土1層	1	51Tb		712	IIb	覆土1層	1	51Ub	
441	礫	覆土1層	1	51Ud		536	フレイク	覆土1層	1	51Tb		713	礫片	覆土1層	1	51Ub	
442	礫	覆土1層	1	51Ud		537	IIb	覆土1層	2	51Tb		714	フレイク	覆土1層	1	51Uc	
443	扁平打製石器	覆土1層	1	51Ud		538	IIb	覆土1層	1	51Tb		715	IIb	覆土1層	1	51Ub	
444	礫	覆土1層	1	51Ud		539	IIb	覆土1層	1	51Tb		716	IIb	覆土1層	1	52Ua	
445	礫	覆土1層	1	51Ud		540	IIb	覆土1層	1	51Tb		717	礫	覆土1層	1	52Ua	
446	礫	覆土1層	1	51Ud		541	IIb	覆土1層	1	51Tb		718	スクレイパー	覆土1層	1	51Ub	
447	礫	覆土1層	1	51Ud		542	IIb	覆土1層	1	51Tb		719	IIb	覆土1層	1	52Ua	
448	フレイク	覆土1層	1	51Ud		543	礫	覆土1層	1	51Tb		720	IIb	覆土1層	1	52Ua	
449	フレイク	覆土1層	1	51Ud		544	IIb	覆土1層	1	51Tb		721	IIb	覆土1層	1	52Ua	
450	フレイク	覆土1層	1	51Ud		545	IIb	覆土1層	1	51Tb		722	IIb	覆土1層	1	52Ua	
451	IIb	覆土1層	1	51Ud		546	フレイク	覆土1層	1	51Tb		723	IIb	覆土1層	1	52Ua	
452	礫	覆土1層	1	51Ud		547	IIb	覆土1層	1	51Tb		724	IIb	覆土1層	1	52Ua	
453	IIb	覆土1層	1	51Ud		548	IIb	覆土1層	1	51Tb		725	IIb	覆土1層	1	51Ub	
454	IIb	覆土1層	1	51Ud		549	IIb	覆土1層	1	51Tb		726	IIb	覆土1層	3	51Ub	
455	礫	覆土1層	1	51Ud		550	IIb	覆土1層	1	51Tb		727	IIb	覆土1層	1	51Ub	
456	IIb	覆土1層	1	51Ud		551	IIb	覆土1層	1	51Tb		728	IIb	覆土1層	1	52Ua	
457	礫	覆土1層	1	51Ud		552	礫片	覆土1層	1	51Tb		729	フレイク	覆土1層	1	52Ua	
458	フレイク	覆土1層	1	51Ud		553	IIb	覆土1層	2	51Tb		730	IIb	覆土1層	1	52Ua	
459	フレイク	覆土1層	1	51Ud		554	IIb	覆土1層	1	51Tb		731	IIb	覆土1層	1	52Ua	
460	礫	覆土1層	1	51Ud		555	フレイク	覆土1層	1	51Tb		732	IIb	覆土1層	1	52Ua	
461	IIb	覆土1層	1	51Ud		556	IIb	覆土1層	1	51Tb		733	IIb	覆土1層	1	52Ua	
462	礫	覆土1層	1	51Ud		557	IIb	覆土1層	1	51Tb		734	IIb	覆土1層	1	52Ua	
463	スクレイパー	覆土1層	1	51Ud		558	IIb	覆土1層	1	51Tb		735	IIb	覆土1層	1	52Ua	
464	フレイク	覆土1層	1	51Sd		559	IIb	覆土1層	2	51Tb		736	たたき石	覆土1層	1	51Ub	
465	フレイク	覆土1層	1	51Sd		560	フレイク	覆土1層	1	51Tb		737	礫	覆土1層	1	51Ub	
466	フレイク	覆土1層	1	51Sd		561	IIb	覆土1層	1	52Ta		738	IIb	覆土1層	3	51Ub	
467	フレイク	覆土1層	1	51Sd		562	IIb</										

表Ⅲ-1-5 H18点取り遺物出土層位および器種名一覧3 (744~1115)

遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名				
744		フレイク	覆土1層	1	51Ub	835	Uフレイク	覆土1層	1	49Tc	929	IIb	覆土1層	1	50Ud	1024	フレイク	覆土1層	1	50Ta	
745		IIb	覆土1層	1	51Ub	836	礫	覆土1層	1	49Tc	930	IIb	覆土1層	1	50Ud	1025	フレイク	覆土1層	1	50Ta	
746		石核	覆土1層	1	51Ub	837	礫片	覆土1層	1	49Tc	931	IIb	覆土1層	1	50Ud	1026	Uフレイク	覆土1層	1	50Ta	
747		石核	覆土1層	1	51Ua	838	フレイク	覆土1層	1	50Td	932	フレイク	覆土1層	1	50Ud	1027	IIb	覆土1層	1	50Ta	
748		IIb	覆土1層	1	50Sc	839	フレイク	覆土1層	1	50Td	933	IIb	覆土1層	2	50Ud	1028	フレイク	覆土1層	1	50Ta	
749		フレイク	覆土1層	2	50Sc	840	IIb	覆土1層	1	50Td	934	IIb	覆土1層	1	50Ud	1029	フレイク	覆土1層	1	50Ta	
750		IIb	覆土1層	1	50Sc	841	フレイク	覆土1層	1	50Td	935	フレイク	覆土1層	1	50Ud	1030	フレイク	覆土1層	1	50Ta	
751		扁平打製石器	覆土1層	1	50Sc	842	被熱礫片	覆土1層	1	50Td	936	IIb	覆土1層	1	50Ud	1031	フレイク	覆土1層	1	50Ta	
752		フレイク	覆土1層	1	50Sc	843	フレイク	覆土1層	1	50Td	937	IIb	覆土1層	4	50Ud	1032	フレイク	覆土1層	1	50Ta	
753		礫	覆土1層	1	50Sc	843	2	IIb	覆土1層	1	50Td	938	IIb	覆土1層	1	50Ud	1033	フレイク	覆土1層	1	50Ta
754		被熱礫片	覆土1層	1	50Tb	844	礫片	覆土1層	1	50Td	939	フレイク	覆土1層	1	50Ud	1034	フレイク	覆土1層	1	50Ta	
755		IIb	覆土1層	2	50Tb	845	IIb	覆土1層	1	50Td	940	礫片	覆土1層	1	50Ud	1035	IIb	覆土1層	1	50Ta	
756		IIb	覆土1層	1	50Tb	846	IIb	覆土1層	1	49Ub	941	礫片	覆土1層	1	50Ud	1036	IIb	覆土1層	1	50Ta	
757		1	礫	覆土1層	1	50Tb	847	IIb	覆土1層	1	49Ub	942	IIb	覆土1層	1	50Ud	1037	IIb	覆土1層	1	50Ta
757	2	フレイク	覆土1層	1	50Tb	848	礫	覆土1層	1	49Ub	943	IIb	覆土1層	1	50Ud	1038	IIb	覆土1層	1	50Ta	
758		IIb	覆土1層	3	50Sc	849	たたき石	覆土1層	1	50Ua	944	IIb	覆土1層	1	50Ud	1039	IIb	覆土1層	1	50Ta	
759		IIb	覆土1層	2	50Sc	850	IIb	覆土1層	1	50Ua	945	IIb	覆土1層	1	50Ud	1040	フレイク	覆土1層	1	50Ta	
760		石核	覆土1層	1	50Sc	851	フレイク	覆土1層	1	50Ua	946	フレイク	覆土1層	1	50Ud	1041	フレイク	覆土1層	1	50Ta	
761		つまみ付きナイフ	覆土1層	1	50Sc	852	IIb	覆土1層	1	50Ua	947	IIb	覆土1層	1	50Ud	1042	フレイク	覆土1層	1	50Ta	
762		IIb	覆土1層	1	50Sc	853	IIb	覆土1層	1	50Ub	948	たたき石	覆土1層	1	50Ud	1043	北海道式石冠	覆土1層	1	50Ta	
763		礫	覆土1層	1	50Sc	854	IIb	覆土1層	1	50Ub	949	IIb	覆土1層	1	50Ud	1044	IIb	覆土1層	1	50Ta	
764		IIb	覆土1層	1	50Tb	855	IIb	覆土1層	1	50Ua	950	IIb	覆土1層	1	50Ud	1045	IIb	覆土1層	1	50Ta	
764	2	フレイク	覆土1層	2	50Tb	856	礫	覆土1層	1	50Ub	951	IIb	覆土1層	1	50Ud	1046	IIb	覆土1層	1	50Ta	
765		IIb	覆土1層	1	50Tb	857	IIb	覆土1層	1	50Ub	952	IIb	覆土1層	1	50Uc	1047	IIb	覆土1層	1	50Ta	
766		IIb	覆土1層	1	50Tb	858	IIb	覆土1層	1	50Ub	953	IIb	覆土1層	1	50Uc	1048	IIb	覆土1層	1	50Ta	
767		礫	覆土1層	2	50Tb	859	IIb	覆土1層	1	50Ua	954	IIb	覆土1層	4	50Uc	1049	IIb	覆土1層	1	50Ta	
768		礫	覆土1層	1	50Tb	860	IIb	覆土1層	1	50Ua	955	フレイク	覆土1層	1	50Ud	1050	礫	覆土1層	1	50Td	
769		IIb	覆土1層	1	50Tb	861	IIb	覆土1層	1	50Ua	956	IIb	覆土1層	1	50Ud	1051	フレイク	覆土1層	1	50Td	
770		礫	覆土1層	1	50Tb	862	IIb	覆土1層	1	50Ua	957	IIb	覆土1層	1	50Ud	1052	フレイク	覆土1層	1	50Td	
771		フレイク	覆土1層	1	50Tb	863	IIb	覆土1層	1	50Ua	958	フレイク	覆土1層	1	50Ud	1053	フレイク	覆土1層	1	50Td	
772		IIb	覆土1層	1	50Sc	864	礫	覆土1層	1	50Ua	959	IIb	覆土1層	1	50Uc	1054	IIb	覆土1層	1	50Td	
773		フレイク	覆土1層	1	50Sc	865	フレイク	覆土1層	1	50Ua	960	フレイク	覆土1層	1	50Uc	1055	IIb	覆土1層	1	50Td	
774		フレイク	覆土1層	1	50Sd	866	フレイク	覆土1層	1	50Ua	961	Uフレイク	覆土1層	1	50Uc	1056	IIb	覆土1層	1	50Ta	
775		フレイク	覆土1層	1	50Sd	867	IIb	覆土1層	1	50Ua	962	スクレイパー	覆土1層	1	50Uc	1057	IIb	覆土1層	1	50Ta	
776		台石片	覆土1層	1	50Sd	868	たたき石	覆土1層	1	50Ua	963	IIb	覆土1層	1	50Uc	1058	IIb	覆土1層	1	50Ta	
777		IIb	覆土1層	1	50Sd	869	IIb	覆土1層	1	50Ua	964	フレイク	覆土1層	1	50Uc	1059	IIb	覆土1層	1	50Tb	
778		IIb	覆土1層	1	50Tb	870	IIb	覆土1層	1	50Ua	965	フレイク	覆土1層	1	50Uc	1060	IIb	覆土1層	1	50Ta	
779		IIb	覆土1層	1	50Ta	871	礫	覆土1層	1	50Ua	966	IIb	覆土1層	1	50Uc	1061	IIb	覆土1層	1	50Ta	
780		IIb	覆土1層	1	50Tb	872	フレイク	覆土1層	1	50Ua	967	フレイク	覆土1層	1	50Uc	1062	IIb	覆土1層	1	50Ta	
781		礫	覆土1層	2	50Tb	873	IIb	覆土1層	1	50Ua	968	フレイク	覆土1層	1	50Uc	1063	IIb	覆土1層	1	50Ta	
782		スクレイパー	覆土1層	1	50Tb	874	礫	覆土1層	1	50Ua	969	フレイク	覆土1層	1	50Uc	1064	スクレイパー片	覆土1層	1	50Ta	
783		IIb	覆土1層	1	50Tb	875	IIb	覆土1層	1	50Ua	970	IIb	覆土1層	1	49Tc	1065	フレイク	覆土1層	1	50Ta	
784		IIb	覆土1層	1	50Tb	876	フレイク	覆土1層	1	50Ua	971	IIb	覆土1層	1	49Tc	1066	フレイク	覆土1層	1	50Ta	
785		IIb	覆土1層	1	50Tb	877	フレイク	覆土1層	1	50Ua	972	IIb	覆土1層	3	49Tc	1067	フレイク	覆土1層	1	50Ta	
786		礫片	覆土1層	1	50Tb	878	フレイク	覆土1層	1	50Ua	973	礫片	覆土1層	1	49Tc	1068	IIb	覆土1層	2	50Tb	
787		礫片	覆土1層	1	50Sd	879	IIb	覆土1層	1	50Ua	974	IIb	覆土1層	1	49Tc	1069	たたき石	覆土1層	1	50Ta	
788		礫	覆土1層	2	50Ta	880	礫片	覆土1層	1	50Ua	975	フレイク	覆土1層	1	49Tc	1070	IIb	覆土1層	1	50Ta	
789		IIb	覆土1層	1	50Ta	881	IIb	覆土1層	1	50Ua	976	IIb	覆土1層	1	49Tc	1071	IIb	覆土1層	1	50Tb	
790		礫	覆土1層	1	50Ta	882	IIb	覆土1層	1	50Ua	977	IIb	覆土1層	2	49Tc	1072	フレイク	覆土1層	2	50Tb	
791		IIb	覆土1層	2	50Ta	883	IIb	覆土1層	1	49Ub	978	スクレイパー	覆土1層	1	49Tc	1073	IIb	覆土1層	3	50Tb	
792		礫	覆土1層	1	50Sd	884	IIb	覆土1層	1	49Ub	979	フレイク	覆土1層	1	49Tc	1074	IIb	覆土1層	1	50Tb	
793		礫	覆土1層	1	50Sd	885	IIb	覆土1層	1	49Ub	980	フレイク	覆土1層	1	49Tc	1075	IIb	覆土1層	1	50Sc	
794		IIb	覆土1層	2	50Ta	886	IIb	覆土1層	1	49Ub	981	IIb	覆土1層	5	49Tc	1076	フレイク	覆土1層	2	50Sc	
795		IIb	覆土1層	1	50Ta	887	IIb	覆土1層	1	49Ub	982	IIb	覆土1層	1	49Tb	1077	IIb	覆土1層	2	50Sc	
795	2	フレイク	覆土1層	2	50Ta	888	フレイク	覆土1層	1	49Ub	983	IIb	覆土1層	3	49Tb	1078	1	IIb	覆土1層	3	50Sc
796		礫	覆土1層	1	50Ta	889	IIb	覆土1層	1	49Ub	984	IIb	覆土1層	1	49Tc	1078	2	フレイク	覆土1層	1	50Sc
797		フレイク	覆土1層	2	50Ta	890	IIb	覆土1層	1	49Ub	985	フレイク	覆土1層	1	50Ta	1079	フレイク	覆土1層	2	50Sc	
798		IIb	覆土1層	5	50Ta	891	フレイク	覆土1層	1	49Ub	986	フレイク	覆土1層	1	50Td	1080	IIb	覆土1層	2	50Sc	
799		IIb	覆土1層	2	50Ta	892	IIb	覆土1層	1	49Ub	987	フレイク	覆土1層	1	50Td	1081	IIb	覆土1層	1	50Sc	
800		礫	覆土1層	1	50Ta	893	IIb	覆土1層	1	49Ub	988	IIb	覆土1層	1	50Td	1082	IIb	覆土1層	3	50Sc	
801		IIb	覆土1層	1	50Ta	894	IIb	覆土1層	1	49Ub	989	礫片	覆土1層	1	50Td	1083	IIb	覆土1層	1	50Sc	
802		フレイク	覆土1層	1	50Ta	895	IIb	覆土1層	1	49Ub	990	IIb	覆土1層	1	50Td	1084	IIb	覆土1層	2	50Sc	
803		IIb	覆土1層	1	50Ta	896	IIb	覆土1層	1	49Ub	991	たたき石	覆土1層	1	50Td	1085	IIb	覆土1層	2	50Sc	
804		IIb	覆土1層	1	50Ta	897	IIb	覆土1層	1	49Ub	992	たたき石	覆土1層	1	50Td	1086	IIb	覆土1層	3	50Tb	
805		ドリル	覆土1層	1	50Ta	898	フレイク	覆土1層	1	49Ub	993	IIb	覆土1層	3	50Td	1087	IIb	覆土1層	3	50Tb	
806		IIb	覆土1層	3	50Ta	899	IIb	覆土1層	1	49Ub	994	IIb	覆土1層	1	50Td	1088	IIb	覆土1層	3	50Tb	
807	1	IIb	覆土1層	1	50Ta	900	フレイク	覆土1層	1	49Ub	995	礫	覆土1層	1	50Td	1089	1	IIb	覆土1層	1	50Tb
807	2	扁平打製石器	覆土1層	1	50Ta	901	スクレイパー	覆土1層	1	49Ub	996	被熱礫片	覆土1層	1	50Td	1089	2	フレイク	覆土1層	1	50Tb
808		IIb	覆土1層	2	50Ta	902	IIb	覆土1層	1	50Ua	997	フレイク	覆土1層	1	50Td	1090	フレイク	覆土1層	1	50Tb	
809		IIb	覆土1層	1	50Ta	903	IIb	覆土1層	1	50Ua	998	IIb	覆土1層	1	50Td	1091	フレイク	覆土1層	1	50Tb	
810		IIb	覆土1層	3	50Ta	904	フレイク	覆土1層	1	50Ua	999	IIb	覆土1層	1	50Ta	1092	IIb	覆土1層	4	50Sc	
811		フレイク	覆土1層	1	50Ta	905	IIb	覆土1層	1	50Ua	1000	IIb	覆土1層	3	50Ta	1093	IIb	覆土1層	2	50Sc	
812		フレイク	覆土1層	2	50Ta	906	IIb	覆土1層	1	50Ua	1001	IIb	覆土1層								

表Ⅲ-1-6 H18点取り遺物出土層位および器種名一覧4 (1116~1486)

遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名			
1116	IIb	覆土1層	1	51Ua	1211	IIb	覆土1層	1	51Ub	1304	IIb	覆土1層	1	52Ta	1392	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1117	フレイク	覆土1層	1	51Ua	1212	被熱礫	覆土1層	1	51Ub	1305	フレイク	覆土1層	1	52Ta	1393	IIb	覆土1層	1	51Tb	
1118	フレイク	覆土1層	1	51Ud	1213	たたき石	覆土1層	1	51Ub	1306	IIb	覆土1層	1	52Ta	1394	IIb	覆土1層	1	51Tb	
1119	IIb	覆土1層	1	51Ud	1214	IIb	覆土1層	1	52Ua	1307	IIb	覆土1層	1	52Ta	1395	フレイク	覆土1層	1	51Tb	
1120	IIb	覆土1層	1	51Ud	1215	礫	覆土1層	1	52Ua	1308	IIb	覆土1層	1	52Ta	1396	IIb	覆土1層	1	51Tb	
1121	IIb	覆土1層	1	51Ud	1216	IIb	覆土1層	1	52Ua	1309	IIb	覆土1層	1	52Ta	1397	フレイク	覆土1層	1	51Tb	
1122	IIb	覆土1層	1	51Ud	1217	IIb	覆土1層	1	52Ua	1310	IIb	覆土1層	4	51Tb	1398	被熱礫片	覆土1層	1	51Tb	
1123	礫	覆土1層	1	51Ud	1218	フレイク	覆土1層	1	52Ua	1311	IIb	覆土1層	1	51Tb	1399	IIb	覆土1層	1	51Tb	
1124	IIb	覆土1層	1	51Ud	1219	IIb	覆土1層	1	52Ua	1312	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1400	IIb	覆土1層	2	51Tb	
1125	北海道式石冠片	覆土1層	1	51Ud	1220	フレイク	覆土1層	1	52Ua	1313	IIb	覆土1層	1	51Tb	1401	フレイク	覆土1層	1	51Sd	
1126	IIb	覆土1層	1	51Ud	1221	IIb	覆土1層	1	52Ua	1314	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1402	Uフレイク	覆土1層	1	51Sd	
1127	IIb	覆土1層	1	51Ua	1222	IIb	覆土1層	1	52Ua	1315	IIb	覆土1層	1	51Tb	1403	フレイク	覆土1層	1	51Sd	
1128	フレイク	覆土1層	1	51Ua	1223	IIb	覆土1層	1	52Ua	1316	IIb	覆土1層	1	51Tb	1404	フレイク	覆土1層	1	51Sd	
1129	IIb	覆土1層	1	51Ua	1224	IIb	覆土1層	1	52Ua	1317	IIb	覆土1層	1	51Tb	1405	IIb	覆土1層	1	51Sd	
1130	IIb	覆土1層	2	51Ua	1225	フレイク	覆土1層	1	52Ua	1318	IIb	覆土1層	1	51Tb	1406	フレイク	覆土1層	1	51Sd	
1131	IIb	覆土1層	1	51Ua	1226	IIb	覆土1層	1	52Td	1319	IIb	覆土1層	1	51Tb	1407	IIb	覆土1層	1	51Sd	
1132	IIa	覆土1層	1	51Ua	1227	IIb	覆土1層	1	52Td	1320	IIb	覆土1層	1	51Tb	1408	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1133	IIa	覆土1層	1	51Ua	1228	IIb	覆土1層	1	52Td	1321	I	IIb	覆土1層	1	51Tb	1409	フレイク	覆土1層	1	51Ta
1134	IIb	覆土1層	1	51Ua	1229	フレイク	覆土1層	1	52Td	1321	2	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1410	フレイク	覆土1層	1	51Ta
1135	フレイク	覆土1層	1	51Ua	1230	IIb	覆土1層	1	52Td	1322	IIb	覆土1層	1	51Tb	1411	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1136	IIb	覆土1層	1	51Ua	1231	IIb	覆土1層	1	52Td	1323	1	IIb	覆土1層	1	51Tb	1412	IIb	覆土1層	1	51Ta
1137	フレイク	覆土1層	1	51Ua	1232	フレイク	覆土1層	2	52Td	1323	2	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1413	IIb	覆土1層	1	51Ta
1138	IIb	覆土1層	1	51Ua	1233	フレイク	覆土1層	1	52Td	1324	礫	覆土1層	1	51Tb	1414	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1139	IIa	覆土1層	1	51Ub	1234	たたき石	覆土1層	1	51Tc	1325	IIb	覆土1層	1	51Tb	1415	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1140	IIb	覆土1層	1	51Ub	1235	フレイク	覆土1層	2	51Tc	1326	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1416	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1141	IIb	覆土1層	1	51Ub	1236	IIb	覆土1層	1	51Tc	1327	IIb	覆土1層	1	51Tb	1417	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1142	フレイク	覆土1層	1	51Ub	1237	礫片	覆土1層	1	51Tc	1328	IIb	覆土1層	1	51Tb	1418	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1143	IIb	覆土1層	1	51Uc	1238	IIb	覆土1層	1	51Tc	1329	IIb	覆土1層	1	51Tb	1419	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1144	IIb	覆土1層	1	51Ud	1239	礫片	覆土1層	1	51Tc	1330	1	IIb	覆土1層	1	51Tb	1420	フレイク	覆土1層	1	51Ta
1145	IIa	覆土1層	1	51Uc	1240	IIb	覆土1層	2	51Tc	1330	2	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1421	IIb	覆土1層	1	51Ta
1146	IIb	覆土1層	1	51Uc	1241	礫	覆土1層	1	51Tc	1331	1	Uフレイク	覆土1層	1	51Tb	1422	石核	覆土1層	1	51Ta
1147	礫	覆土1層	1	51Ub	1242	礫	覆土1層	1	51Tc	1331	2	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1423	IIb	覆土1層	1	51Ta
1148	IIa	覆土1層	1	51Uc	1243	フレイク	覆土1層	1	52Td	1332	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1424	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1149	IIb	覆土1層	1	51Uc	1244	フレイク	覆土1層	1	52Td	1333	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1425	IIb	覆土1層	1	51Ta	
1150	たたき石	覆土1層	1	51Ud	1245	フレイク	覆土1層	1	52Td	1334	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1426	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1151	礫	覆土1層	1	51Ub	1246	フレイク	覆土1層	1	52Td	1335	IIb	覆土1層	1	51Tb	1427	IIb	覆土1層	1	51Ta	
1152	IIb	覆土1層	3	51Ua	1247	礫	覆土1層	1	52Td	1336	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1428	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1153	礫	覆土1層	1	51Ua	1248	IIb	覆土1層	1	52Td	1337	IIb	覆土1層	1	51Tb	1429	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1154	IIa	覆土1層	1	51Ua	1249	IIb	覆土1層	1	52Td	1338	Uフレイク	覆土1層	1	51Tb	1430	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1155	扁平打製石器	覆土1層	1	51Ub	1250	礫	覆土1層	1	51Tc	1339	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1431	礫	覆土1層	1	51Ta	
1156	フレイク	覆土1層	1	51Uc	1251	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1340	1	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1432	フレイク	覆土1層	1	51Ta
1157	IIb	覆土1層	1	51Uc	1252	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1340	2	IIb	覆土1層	1	51Tb	1433	フレイク	覆土1層	1	51Ta
1158	IIb	覆土1層	1	51Uc	1253	礫	覆土1層	1	51Tc	1341	礫	覆土1層	1	51Tb	1434	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1159	IIb	覆土1層	1	51Uc	1254	フレイク	覆土1層	1	52Td	1342	礫	覆土1層	1	51Tb	1435	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1160	IIb	覆土1層	1	51Uc	1255	IIb	覆土1層	1	52Ta	1343	IIb	覆土1層	1	51Tb	1436	IIb	覆土1層	1	51Ta	
1161	台石片	覆土1層	1	51Uc	1256	IIb	覆土1層	1	52Td	1344	IIb	覆土1層	1	51Tb	1437	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1162	礫	覆土1層	1	51Ub	1257	フレイク	覆土1層	1	52Td	1345	IIb	覆土1層	1	51Tb	1438	IIb	覆土1層	1	51Ta	
1163	フレイク	覆土1層	1	51Uc	1258	IIb	覆土1層	1	52Td	1346	IIb	覆土1層	1	51Tb	1439	IIb	覆土1層	1	51Ta	
1164	IIb	覆土1層	1	51Uc	1259	フレイク	覆土1層	1	52Td	1347	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1440	IIb	覆土1層	1	51Ta	
1165	欠番	覆土1層	1	51Uc	1260	フレイク	覆土1層	1	52Td	1348	IIb	覆土1層	1	51Tb	1441	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1166	フレイク	覆土1層	1	51Uc	1261	IIb	覆土1層	1	52Td	1349	IIb	覆土1層	1	51Tb	1442	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1167	IIb	覆土1層	1	51Uc	1262	礫片	覆土1層	1	52Td	1350	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1443	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1168	IIb	覆土1層	1	51Uc	1263	IIb	覆土1層	1	52Td	1351	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1444	礫	覆土1層	1	51Ta	
1169	IIb	覆土1層	1	51Uc	1264	フレイク	覆土1層	1	52Td	1352	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1445	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1170	フレイク	覆土1層	1	51Uc	1265	I	IIb	覆土1層	3	51Tc	1353	礫	覆土1層	1	51Tb	1446	フレイク	覆土1層	1	51Ta
1171	IIb	覆土1層	1	51Ub	1265	2	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1354	IIb	覆土1層	4	51Tb	1447	IIb	覆土1層	1	51Ta
1172	IIb	覆土1層	1	51Ub	1266	IIb	覆土1層	1	51Tc	1355	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1448	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1173	フレイク	覆土1層	1	51Ub	1267	IIb	覆土1層	1	51Tc	1356	IIb	覆土1層	1	51Tb	1449	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1174	IIb	覆土1層	1	51Ub	1268	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1357	IIb	覆土1層	1	51Tb	1450	IIb	覆土1層	1	51Ta	
1175	フレイク	覆土1層	1	51Ub	1269	IIb	覆土1層	1	51Tc	1358	IIb	覆土1層	1	51Tb	1451	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1176	IIb	覆土1層	1	51Ub	1270	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1359	IIb	覆土1層	1	51Tb	1452	IIb	覆土1層	4	51Ta	
1177	被熱礫	覆土1層	1	51Ub	1271	IIb	覆土1層	1	51Tc	1360	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1453	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1178	被熱礫	覆土1層	1	51Ub	1272	IIb	覆土1層	2	51Tc	1361	IIb	覆土1層	1	51Tb	1454	IIb	覆土1層	4	51Ta	
1179	礫	覆土1層	1	51Ub	1273	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1362	礫	覆土1層	1	51Tb	1455	フレイク	覆土1層	1	51Ta	
1180	礫	覆土1層	1	51Ub	1274	IIb	覆土1層	1	52Ta	1363	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1456	IIb	覆土1層	1	51Ta	
1181	IIb	覆土1層	1	51Ub	1275	フレイク	覆土1層	1	52Ta	1364	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1457	IIb	覆土1層	1	51Ta	
1182	IIb	覆土1層	1	51Ub	1276	IIb	覆土1層	1	52Ta	1365	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1458	IIb	覆土1層	1	51Ta	
1183	礫	覆土1層	1	51Ub	1277	IIb	覆土1層	1	52Ta	1366	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1459	IIb	覆土1層	1	51Ta	
1184	たたき石	覆土1層	1	51Ub	1278	Uフレイク	覆土1層	1	52Ta	1367	1	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1460	フレイク	覆土1層	1	51Ta
1185	IIb	覆土1層	1	51Ub	1279	フレイク	覆土1層	1	52Ta	1367	2	IIb	覆土1層	1	51Tb	1461	IIb	覆土1層	1	51Sd
1186	フレイク	覆土1層	1	51Ub	1280	礫	覆土1層	1	52Ta	1368	IIb	覆土1層	1	51Tb	1462	IIb	覆土1層	1	51Sd	
1187	IIb	覆土1層	1	51Ub	1281	IIb	覆土1層	1	52Ta	1369	IIb	覆土1層	1	51Tb	1463	つまみ付きナイフ	覆土1層	1	51Sd	
1188	IIb	覆土1層	1	51Ub	1282	IIb	覆土1層	1	52Ta	1370	フレイク									

表Ⅲ-1-7 H18点取り遺物出土層位および器種名一覧5 (1487~1862)

遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名			
1487		フレイク	覆土1層	1	51Ta	1582	IIb	覆土1層	1	50Td	1677	フレイク	覆土1層	1	50Tb	1770	IIb	覆土1層	1	50Ub
1488		フレイク	覆土1層	1	51Tb	1583	フレイク	覆土1層	1	50Td	1678	フレイク	覆土1層	1	50Tb	1771	フレイク	覆土1層	1	50Ub
1489	IIb	覆土1層	1	51Tb	1584	IIb	覆土1層	1	50Td	1679	IIb	覆土1層	1	50Tb	1772	IIb	覆土1層	1	50Ub	
1490	IIb	覆土1層	1	51Tb	1585	礫	覆土1層	1	50Td	1680	フレイク	覆土1層	1	50Tb	1773	IIb	覆土1層	1	50Ub	
1491	IIb	覆土1層	1	51Tb	1586	フレイク	覆土1層	1	50Td	1681	IIb	覆土1層	1	50Tc	1774	フレイク	覆土1層	1	50Ub	
1492	IIb	覆土1層	1	51Tb	1587	フレイク	覆土1層	1	50Td	1682	礫片	覆土1層	1	50Tc	1775	扁平打製石器片	覆土1層	1	50Ub	
1493	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1588	礫	覆土1層	1	50Td	1683	IIb	覆土1層	1	50Tc	1776	フレイク	覆土1層	1	50Ub	
1494	IIb	覆土1層	1	51Tb	1589	フレイク	覆土1層	1	50Td	1684	IIb	覆土1層	1	50Tc	1777	礫	覆土1層	1	50Ub	
1495	IIb	覆土1層	1	51Tb	1590	IIb	覆土1層	1	50Td	1685	IIb	覆土1層	1	50Tc	1778	フレイク	覆土1層	1	50Ub	
1496	IIb	覆土1層	1	51Tb	1591	IIb	覆土1層	1	50Td	1686	IIb	覆土1層	1	50Tc	1779	被熱礫片	覆土1層	1	50Ub	
1497	IIb	覆土1層	1	51Ta	1592	フレイク	覆土1層	1	50Td	1687	IIb	覆土1層	1	50Tc	1780	IIb	覆土1層	1	50Ub	
1498	IIb	覆土1層	1	51Ta	1593	IIb	覆土1層	4	50Td	1688	IIb	覆土1層	1	50Tc	1781	礫	覆土1層	1	50Ub	
1499	IIb	覆土1層	1	51Ta	1594	フレイク	覆土1層	1	50Td	1689	IIb	覆土1層	1	50Tc	1782	IIb	覆土1層	1	50Ub	
1500	IIb	覆土1層	1	51Ta	1595	IIb	覆土1層	1	50Td	1690	礫	覆土1層	1	50Tc	1783	礫	覆土1層	1	50Ub	
1501	フレイク	覆土1層	1	51Ta	1596	IIb	覆土1層	1	50Ta	1691	被熱礫片	覆土1層	1	50Tc	1784	フレイク	覆土1層	1	50Ub	
1502	フレイク	覆土1層	1	51Ta	1597	扁平打製石器片	覆土1層	1	50Ta	1692	被熱礫片	覆土1層	1	50Tb	1785	IIb	覆土1層	1	50Ub	
1503	IIb	覆土1層	1	51Ta	1598	IIb	覆土1層	1	50Ta	1693	IIb	覆土1層	1	50Tc	1786	IIb	覆土1層	1	50Ub	
1504	IIb	覆土1層	1	51Ta	1599	IIb	覆土1層	1	50Ta	1694	フレイク	覆土1層	1	50Tb	1787	礫	覆土1層	1	50Ub	
1505	IIb	覆土1層	1	51Tb	1600	フレイク	覆土1層	1	50Ta	1695	IIb	覆土1層	2	50Tb	1788	たたき石	覆土1層	1	50Ub	
1506	たたき石	覆土1層	1	51Tb	1601	IIb	覆土1層	1	49Tb	1696	フレイク	覆土1層	1	50Tb	1789	礫片	覆土1層	1	50Ub	
1507	扁平打製石器	覆土1層	1	51Tb	1602	IIb	覆土1層	1	49Tb	1697	IIb	覆土1層	1	50Tb	1790	IIb	覆土1層	1	50Ub	
1508	IIb	覆土1層	1	51Tb	1603	礫	覆土1層	1	49Tb	1698	礫	覆土1層	1	50Tb	1791	IIb	覆土1層	1	50Ub	
1509	IIb	覆土1層	1	51Tb	1604	IIb	覆土1層	1	49Tb	1699	IIb	覆土1層	1	50Tb	1792	フレイク	覆土1層	1	50Ub	
1510	礫	覆土1層	1	51Ta	1605	IIb	覆土1層	3	50Ta	1700	IIb	覆土1層	1	50Tb	1793	フレイク	覆土1層	1	50Ub	
1511	IIb	覆土1層	2	51Ta	1606	礫	覆土1層	1	50Ta	1701	I	IIb	覆土1層	1	50Tb	1794	フレイク	覆土1層	1	50Ub
1512	IIb	覆土1層	1	51Ta	1607	IIb	覆土1層	1	50Ta	1701	2	石槍又はナイフ	覆土1層	1	50Tb	1795	フレイク	覆土1層	1	50Ub
1513	IIb	覆土1層	2	51Ta	1608	礫片	覆土1層	1	50Ta	1702	フレイク	覆土1層	1	50Tb	1796	IIb	覆土1層	1	50Ub	
1514	石斧	覆土1層	1	51Ta	1609	IIb	覆土1層	1	50Ta	1703	フレイク	覆土1層	1	50Tb	1797	礫	覆土1層	1	50Ub	
1515	フレイク	覆土1層	1	51Ta	1610	IIb	覆土1層	1	50Ta	1704	IIb	覆土1層	1	50Tb	1798	礫	覆土1層	1	50Ub	
1516	フレイク	覆土1層	1	51Ta	1611	礫	覆土1層	1	50Ta	1705	フレイク	覆土1層	1	50Tb	1799	礫片	覆土1層	1	50Ub	
1517	IIb	覆土1層	1	51Tb	1612	礫片	覆土1層	1	50Ta	1706	IIb	覆土1層	1	50Tb	1800	IIb	覆土1層	1	51Ua	
1518	IIb	覆土1層	1	51Tb	1613	IIb	覆土1層	1	50Ta	1707	IIb	覆土1層	1	50Tb	1801	礫	覆土1層	1	51Ua	
1519	IIb	覆土1層	1	51Tb	1614	フレイク	覆土1層	1	50Ta	1708	フレイク	覆土1層	1	50Tb	1802	IIa	覆土1層	1	51Ua	
1520	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1615	被熱礫	覆土1層	1	50Ta	1709	IIb	覆土1層	1	50Tb	1803	IIa	覆土1層	1	51Ua	
1521	IIb	覆土1層	1	51Tb	1616	礫	覆土1層	1	50Ta	1710	フレイク	覆土1層	1	50Tb	1804	IIa	覆土1層	1	51Ua	
1522	IIb	覆土1層	1	51Tb	1617	IIb	覆土1層	1	50Ta	1711	フレイク	覆土1層	1	50Tb	1805	IIa	覆土1層	1	51Ua	
1523	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1618	礫	覆土1層	1	50Ta	1712	IIb	覆土1層	1	50Sc	1806	IIa	覆土1層	1	51Ua	
1524	IIb	覆土1層	1	51Tb	1619	フレイク	覆土1層	1	50Ta	1713	IIb	覆土1層	1	50Sc	1807	焼成粘土塊	覆土1層	1	51Ua	
1525	IIb	覆土1層	4	51Tb	1620	フレイク	覆土1層	1	50Td	1714	IIb	覆土1層	1	50Sc	1808	1	焼成粘土塊	覆土1層	1	51Ua
1526	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1621	フレイク	覆土1層	1	50Td	1715	IIb	覆土1層	3	50Sc	1808	2	フレイク	覆土1層	1	51Ua
1527	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1622	台石	覆土1層	1	50Td	1716	IIb	覆土1層	1	50Sc	1809	IIb	覆土1層	1	51Ua	
1528	礫	覆土1層	1	51Tc	1623	フレイク	覆土1層	1	50Td	1717	フレイク	覆土1層	1	50Sc	1810	IIb	覆土1層	1	51Ua	
1529	IIb	覆土1層	1	51Tc	1624	フレイク	覆土1層	1	50Td	1718	IIb	覆土1層	1	50Sc	1811	IIa	覆土1層	1	51Ub	
1530	IIb	覆土1層	1	51Tc	1625	礫	覆土1層	1	50Td	1719	IIb	覆土1層	1	50Sc	1812	焼成粘土塊	覆土1層	1	51Ub	
1531	IIb	覆土1層	1	51Tc	1626	礫	覆土1層	1	50Td	1720	IIb	覆土1層	4	50Sc	1813	IIb	覆土1層	1	51Ub	
1532	IIb	覆土1層	1	51Tc	1627	石槍又はナイフ	覆土1層	1	50Td	1721	IIb	覆土1層	1	50Sc	1814	IIb	覆土1層	1	51Ub	
1533	IIb	覆土1層	1	51Tc	1628	被熱礫片	覆土1層	1	50Td	1722	フレイク	覆土1層	1	50Sc	1815	IIb	覆土1層	1	51Ub	
1534	IIb	覆土1層	1	51Tc	1629	フレイク	覆土1層	1	50Tc	1723	礫	覆土1層	1	50Sc	1816	礫	覆土1層	1	51Ub	
1535	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1630	フレイク	覆土1層	1	50Td	1724	IIb	覆土1層	1	50Ua	1817	IIb	覆土1層	1	51Ub	
1536	IIb	覆土1層	1	51Tc	1631	IIb	覆土1層	1	50Td	1725	フレイク	覆土1層	1	50Ua	1818	IIb	覆土1層	1	51Ub	
1537	IIb	覆土1層	1	51Tc	1632	被熱礫片	覆土1層	1	50Td	1726	IIb	覆土1層	1	50Ua	1819	IIb	覆土1層	1	51Ub	
1538	IIb	覆土1層	5	51Tb	1633	フレイク	覆土1層	1	50Tc	1727	IIb	覆土1層	1	50Ua	1820	礫片	覆土1層	1	51Ub	
1539	IIb	覆土1層	1	51Tb	1634	礫	覆土1層	1	50Tc	1728	IIb	覆土1層	1	50Ua	1821	IIb	覆土1層	1	51Ub	
1540	IIb	覆土1層	1	51Tb	1635	礫	覆土1層	1	50Tc	1729	IIb	覆土1層	1	50Ua	1822	フレイク	覆土1層	1	51Ub	
1541	IIb	覆土1層	1	51Tb	1636	礫片	覆土1層	1	50Ta	1730	IIb	覆土1層	1	50Ua	1823	フレイク	覆土1層	1	51Ub	
1542	IIb	覆土1層	1	51Tb	1637	礫	覆土1層	1	50Tb	1731	フレイク	覆土1層	1	50Ua	1824	IIb	覆土1層	1	51Ub	
1543	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1638	台石	覆土1層	1	50Tb	1732	IIb	覆土1層	1	50Ua	1825	IIb	覆土1層	2	51Ua	
1544	IIb	覆土1層	1	51Tb	1639	IIb	覆土1層	1	50Tb	1733	IIb	覆土1層	1	50Ua	1826	スレイバー	覆土1層	1	51Ua	
1545	フレイク	覆土1層	1	51Tb	1640	IIb	覆土1層	1	50Tb	1734	IIb	覆土1層	7	50Ua	1827	IIb	覆土1層	1	51Ua	
1546	IIb	覆土1層	1	51Tb	1641	礫	覆土1層	1	50Tb	1735	欠番		50Ua	1828	礫片	覆土1層	1	51Ua		
1547	IIb	覆土1層	1	51Tb	1642	礫	覆土1層	1	50Tb	1736	石斧未成品	覆土1層	1	50Ua	1829	IIb	覆土1層	1	51Ua	
1548	IIb	覆土1層	1	51Tb	1643	礫	覆土1層	1	50Tb	1737	礫	覆土1層	1	50Ua	1830	フレイク	覆土1層	1	51Ua	
1549	IIb	覆土1層	1	52Ta	1644	礫	覆土1層	1	50Ta	1738	フレイク	覆土1層	1	50Ua	1831	礫	覆土1層	1	51Ua	
1550	IIb	覆土1層	1	52Ta	1645	IIb	覆土1層	1	50Ta	1739	石槍	覆土1層	1	50Ua	1832	IIb	覆土1層	2	51Ud	
1551	礫	覆土1層	1	52Ta	1646	礫	覆土1層	1	50Ta	1740	フレイク	覆土1層	1	50Ua	1833	フレイク	覆土1層	1	51Ud	
1552	IIb	覆土1層	1	51Tb	1647	IIb	覆土1層	1	50Ta	1741	IIb	覆土1層	1	50Ua	1834	フレイク	覆土1層	1	51Ud	
1553	IIb	覆土1層	1	52Ta	1648	覆土1層	1	50Ta	1742	台石	覆土1層	1	50Ua	1835	IIb	覆土1層	1	51Ud		
1554	IIb	覆土1層	5	52Ta	1649	IIb	覆土1層	1	50Ta	1743	IIb	覆土1層	1	50Ua	1836	IIb	覆土1層	2	51Ud	
1555	IIb	覆土1層	1	52Ta	1650	IIb	覆土1層	1	50Ta	1744	IIb	覆土1層	1	50Ua	1837	IIb	覆土1層	3	51Ud	
1556	IIb	覆土1層	2	52Ta	1651	フレイク	覆土1層	1	50Ta	1745	礫	覆土1層	1	50Ua	1838	IIb	覆土1層	3	51Ud	
1557	IIb	覆土1層	1	52Ta	1652	フレイク	覆土1層	1	50Ta	1746	礫	覆土1層	1	50Ua	1839	フレイク	覆土1層	1	51Ud	
1558	IIb	覆土1層	3	52Ta	1653	フレイク	覆土1層	1	50Ta	1747	フレイク	覆土1層	1	50Ud	1840	IIb	覆土1層	1	51Ud	
1559	IIb	覆土1層	5	51Tc	1654	IIb	覆土1層	1	50Ta	1748	フレイク	覆土1層	1	50Ud	1841	IIb	覆土1層	2	51Ud	
1560	IIb	覆土1層	6	52Td	1655	IIb	覆土1層	1	50Ta	1749	スレイバー	覆土1層</								

表Ⅲ-1-8 H18点取り遺物出土層位および器種名一覧6 (1863~2242)

遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名				
1863		石皿片	覆土1層	1	52Td	1958	IIb	覆土1層	1	51Ta	2053		たたき石	覆土1層	1	51Tb	2148	IIb	覆土1層	1	50Ub
1864	IIb	覆土1層	1	52Td	1959	フレイク	覆土1層	1	51Ta	2054	IIb	覆土1層	1	51Tb	2149	フレイク	覆土1層	1	50Uc		
1865	IIb	覆土1層	1	52Td	1960	磯	覆土1層	1	51Ta	2055	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2150	IIb	覆土1層	1	50Ud		
1866	IIb	覆土1層	1	52Td	1961	磯	覆土1層	1	51Ta	2056	IIb	覆土1層	1	51Tb	2151	フレイク	覆土1層	1	50Ud		
1867	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1962	フレイク	覆土1層	1	51Ta	2057	IIb	覆土1層	1	51Tb	2152	IIb	覆土1層	1	50Uc		
1868	被熱礫片	覆土1層	1	51Tc	1963	IIb	覆土1層	2	51Ta	2058	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2153	被熱礫片	覆土1層	1	50Uc		
1869	IIb	覆土1層	1	51Tc	1964	フレイク	覆土1層	1	51Ta	2059	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2154	IIb	覆土1層	1	50Uc		
1870	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1965	IIb	覆土1層	1	51Td	2060	IIb	覆土1層	1	51Tb	2155	IIb	覆土1層	1	50Vb		
1871	磯	覆土1層	1	51Tc	1966	IIb	覆土1層	1	51Td	2061	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2156	IIb	覆土1層	1	50Vb		
1872	IIb	覆土1層	2	51Tc	1967	IIb	覆土1層	1	51Ta	2062	IIb	覆土1層	1	51Tb	2157	IIb	覆土1層	1	50Vb		
1873	IIb	覆土1層	1	51Tc	1968	IIb	覆土1層	2	51Ta	2063	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2158	IIb	覆土1層	1	50Vb		
1874	IIb	覆土1層	1	51Tc	1969	IIb	覆土1層	1	51Td	2064	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2159	IIb	覆土1層	1	50Vb		
1875	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1970	IIb	覆土1層	1	51Td	2065	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2160	フレイク	覆土1層	1	50Uc		
1876	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1971	IIb	覆土1層	1	51Td	2066	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2161	IIb	覆土1層	1	50Ub		
1877	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1972	たたき石	覆土1層	1	51Td	2067	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2162	IIb	覆土1層	1	50Ub		
1878	磯	覆土1層	1	51Tc	1973	IIb	覆土1層	1	51Td	2068	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2163	IIb	覆土1層	1	50Ub		
1879	IIb	覆土1層	1	51Tc	1974	合石片	覆土1層	1	51Tc	2069	礫片	覆土1層	1	51Tb	2164	IIb	覆土1層	1	50Ub		
1880	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1975	フレイク	覆土1層	1	51Tc	2070	IIb	覆土1層	1	51Tb	2165	フレイク	覆土1層	1	50Ub		
1881	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1976	たたき石	覆土1層	1	51Tc	2071	スクレイパー	覆土1層	1	51Tb	2166	IIb	覆土1層	1	50Ub		
1882	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1977	IIb	覆土1層	1	51Tc	2072	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2167	IIb	覆土1層	1	52Ua		
1883	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1978	フレイク	覆土1層	1	51Tc	2073	IIb	覆土1層	3	51Tb	2168	IIb	覆土1層	1	52Ua		
1884	IIb	覆土1層	1	51Tc	1979	IIb	覆土1層	1	51Tc	2074	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2169	IIb	覆土1層	1	52Ua		
1885	IIb	覆土1層	2	51Tc	1980	フレイク	覆土1層	1	51Tc	2075	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2170	IIb	覆土1層	1	52Ua		
1886	IIb	覆土1層	1	51Tc	1981	磯	覆土1層	1	51Tc	2076	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2171	IIb	覆土1層	1	52Ua		
1887	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1982	IIb	覆土1層	1	51Tb	2077	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2172	礫片	覆土1層	1	52Ua		
1888	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1983	たたき石	覆土1層	1	51Tb	2078	IIb	覆土1層	5	51Tb	2173	IIb	覆土1層	1	52Ua		
1889	IIb	覆土1層	1	51Tc	1984	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2079	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2174	IIb	覆土1層	1	52Ua		
1890	IIb	覆土1層	1	51Tc	1985	IIb	覆土1層	1	51Ta	2080	フレイク	覆土1層	1	52Ta	2175	IIb	覆土1層	1	52Ua		
1891	IIb	覆土1層	1	51Tc	1986	磯	覆土1層	1	51Ta	2081	磯	覆土1層	1	52Ua	2176	IIb	覆土1層	1	52Ua		
1892	被熱礫	覆土1層	1	52Td	1987	IIb	覆土1層	1	51Td	2082	IIb	覆土1層	1	52Ua	2177	IIb	覆土1層	1	52Ud		
1893	IIb	覆土1層	1	52Td	1988	磯	覆土1層	1	51Ta	2083	フレイク	覆土1層	1	52Ua	2178	フレイク	覆土1層	1	52Ud		
1894	フレイク	覆土1層	1	52Td	1989	IIb	覆土1層	1	51Ta	2084	IIb	覆土1層	1	51Ub	2179	IIb	覆土1層	1	52Ud		
1895	フレイク	覆土1層	1	52Td	1990	IIb	覆土1層	1	51Ta	2085	IIb	覆土1層	1	51Ub	2180	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1896	フレイク	覆土1層	1	52Td	1991	IIb	覆土1層	3	51Ta	2086	被熱礫片	覆土1層	1	51Ub	2181	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1897	IIb	覆土1層	1	52Td	1992	磯	覆土1層	1	51Ta	2087	IIb	覆土1層	1	51Ub	2182	フレイク	覆土1層	1	51Uc		
1898	IIb	覆土1層	1	52Td	1993	IIb	覆土1層	1	51Ta	2088	IIb	覆土1層	2	51Ub	2183	フレイク	覆土1層	1	51Uc		
1899	IIb	覆土1層	1	52Td	1994	IIb	覆土1層	1	51Ta	2089	磯	覆土1層	1	51Ub	2184	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1900	IIb	覆土1層	1	52Td	1995	扁平打製石器	覆土1層	1	51Ta	2090	磯	覆土1層	1	51Ub	2185	フレイク	覆土1層	1	51Uc		
1901	フレイク	覆土1層	1	52Ta	1996	IIb	覆土1層	5	51Ta	2091	皿a	覆土1層	1	51Ub	2186	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1902	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1997	Uフレイク	覆土1層	1	51Ta	2092	たたき石	覆土1層	1	51Ub	2187	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1903	フレイク	覆土1層	1	51Tc	1998	フレイク	覆土1層	1	51Ta	2093	たたき石	覆土1層	1	51Ub	2188	フレイク	覆土1層	1	51Uc		
1904	IIb	覆土1層	1	51Tc	1999	フレイク	覆土1層	1	51Ta	2094	磯	覆土1層	1	51Ub	2189	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1905	IIb	覆土1層	1	51Tc	2000	スクレイパー	覆土1層	1	51Ta	2095	IIb	覆土1層	1	51Ud	2190	礫片	覆土1層	1	51Uc		
1906	IIb	覆土1層	1	51Tc	2001	フレイク	覆土1層	1	51Ta	2096	磯	覆土1層	1	51Ud	2191	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1907	IIb	覆土1層	1	51Tc	2002	フレイク	覆土1層	1	51Ta	2097	磯	覆土1層	1	51Ud	2192	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1908	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2003	IIb	覆土1層	1	51Ta	2098	フレイク	覆土1層	1	51Ua	2193	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1909	IIb	覆土1層	1	51Tb	2004	IIb	覆土1層	1	51Ta	2099	IIb	覆土1層	1	51Ua	2194	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1910	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2005	フレイク	覆土1層	1	51Ta	2100	IIb	覆土1層	1	51Ud	2195	被熱礫	覆土1層	1	51Uc		
1911	IIb	覆土1層	1	51Tc	2006	IIb	覆土1層	1	51Ta	2101	IIb	覆土1層	1	51Ub	2196	フレイク	覆土1層	1	51Uc		
1912	礫片	覆土1層	1	51Tc	2007	IIb	覆土1層	1	51Ta	2102	IIb	覆土1層	1	51Ub	2197	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1913	IIb	覆土1層	1	51Tc	2008	IIb	覆土1層	1	51Ta	2103	IIb	覆土1層	1	51Ub	2198	フレイク	覆土1層	1	51Uc		
1914	磯	覆土1層	1	51Tc	2009	フレイク	覆土1層	1	51Ta	2104	IIb	覆土1層	1	51Ub	2199	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1915	IIb	覆土1層	1	51Tc	2010	IIb	覆土1層	1	51Ta	2105	フレイク	覆土1層	1	51Ub	2200	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1916	Uフレイク	覆土1層	1	51Tc	2011	フレイク	覆土1層	1	51Ta	2106	フレイク	覆土1層	1	51Ub	2201	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1917	フレイク	覆土1層	1	51Tc	2012	フレイク	覆土1層	1	51Ta	2107	IIb	覆土1層	1	51Ub	2202	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1918	IIb	覆土1層	1	51Tc	2013	IIb	覆土1層	1	51Ta	2108	礫片	覆土1層	1	51Ub	2203	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1919	IIb	覆土1層	1	51Tc	2014	IIb	覆土1層	5	51Ta	2109	IIb	覆土1層	2	52Ua	2204	IIb	覆土1層	1	51Uc		
1920	フレイク	覆土1層	1	51Tc	2015	フレイク	覆土1層	1	51Sd	2110	扁平打製石器片	覆土1層	1	52Ua	2205	フレイク	覆土1層	1	51Ud		
1921	IIb	覆土1層	1	51Tc	2016	IIb	覆土1層	1	51Ta	2111	磯	覆土1層	1	52Ua	2206	IIb	覆土1層	1	51Ud		
1922	IIb	覆土1層	1	51Td	2017	IIb	覆土1層	1	51Ta	2112	北海道式石冠	覆土1層	1	51Ub	2207	IIb	覆土1層	1	51Ud		
1923	フレイク	覆土1層	1	51Td	2018	フレイク	覆土1層	1	51Sd	2113	磯	覆土1層	1	51Ub	2208	IIb	覆土1層	1	51Ud		
1924	磯	覆土1層	1	51Td	2019	IIb	覆土1層	1	51Sd	2114	礫片	覆土1層	1	51Ub	2209	IIb	覆土1層	1	51Ud		
1925	被熱礫	覆土1層	1	51Td	2020	IIb	覆土1層	1	51Sd	2115	フレイク	覆土1層	1	51Ub	2210	IIb	覆土1層	1	51Ud		
1926	IIb	覆土1層	1	51Td	2021	IIb	覆土1層	5	51Sd	2116	フレイク	覆土1層	1	51Ub	2211	IIb	覆土1層	1	51Ud		
1927	IIb	覆土1層	1	51Td	2022	IIb	覆土1層	4	51Sd	2117	フレイク	覆土1層	1	51Uc	2212	IIb	覆土1層	1	51Ud		
1928	IIb	覆土1層	1	51Td	2023	フレイク	覆土1層	1	51Ta	2118	IIb	覆土1層	1	51Uc	2213	フレイク	覆土1層	1	51Ud		
1929	IIb	覆土1層	1	51Td	2024	IIb	覆土1層	1	51Ta	2119	IIb	覆土1層	1	51Uc	2214	IIb	覆土1層	1	51Ud		
1930	フレイク	覆土1層	1	51Td	2025	IIb	覆土1層	1	51Sd	2120	IIb	覆土1層	1	51Ud	2215	フレイク	覆土1層	1	51Ud		
1931	IIb	覆土1層	3	51Td	2026	IIb	覆土1層	1	51Ta	2121	IIb	覆土1層	1	51Uc	2216	IIb	覆土1層	1	51Ud		
1932	磯	覆土1層	1	51Td	2027	磯	覆土1層	1	51Ta	2122	IIb	覆土1層	1	51Uc	2217	IIb	覆土1層	1	51Ud		
1933	扁平打製石器	覆土1層	1	51Td	2028	IIb	覆土1層	1	51Ta	2123	IIb	覆土1層	1	51Uc	2218	IIb	覆土1層	1	51Ud		
1934	磯	覆土1層	1	51Td	2029	IIb	覆土1層	1	51Ta	2124	IIb	覆土1層	1	51Uc	2219	IIb	覆土1層	1	51Ud		
1935	IIb	覆土1層	1	51Td	2030	IIb	覆土1層	1	51Sd	2125	IIb	覆土1層	1	51Ud	2220	IIb	覆土1層	1	51Ud		
1936	磯	覆土1層	1																		

表Ⅲ-1-9 H18点取り遺物出土層位および器種名一覧7 (2243~2621)

遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名			
2243		フレイク	覆土1層	1	51Tb	2338	IIb	覆土1層	1	49Uc	2433	礫片	覆土1層	1	52Ta	2527	IIb	覆土1層	1	52Ua
2244	IIb	覆土1層	1	51Tb	2339	フレイク	覆土1層	1	49Uc	2434	フレイク	覆土1層	1	52Ta	2528	IIb	覆土1層	1	52Ua	
2245	IIb	覆土1層	1	51Tb	2340	たたき石	覆土1層	1	49Uc	2435	礫	覆土1層	1	52Ta	2529	IIb	覆土1層	2	52Ua	
2246	IIb	覆土1層	1	51Tb	2341	IIb	覆土1層	1	50Ud	2436	IIb	覆土1層	1	52Ta	2530	フレイク	覆土1層	1	52Ua	
2247	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2342	フレイク	覆土1層	1	50Ud	2437	IIb	覆土1層	1	52Ta	2531	IIb	覆土1層	1	52Ua	
2248	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2343	IIb	覆土1層	1	50Ud	2438	IIb	覆土1層	1	52Ta	2532	IIb	覆土1層	1	52Ud	
2249	IIb	覆土1層	1	51Tb	2344	IIb	覆土1層	1	50Ud	2439	IIb	覆土1層	1	52Ta	2533	IIb	覆土1層	1	52Ud	
2250	IIb	覆土1層	1	51Tb	2345	IIb	覆土1層	1	50Ud	2440	礫	覆土1層	1	52Ta	2534	IIb	覆土1層	1	52Ud	
2251	IIb	覆土1層	1	51Tb	2346	IIb	覆土1層	1	50Ud	2441	IIb	覆土1層	1	52Ta	2535	フレイク	覆土1層	1	52Ud	
2252	IIb	覆土1層	1	51Tb	2347	IIb	覆土1層	1	50Ud	2442	IIb	覆土1層	1	52Ta	2536	被熱礫片	覆土1層	1	52Ud	
2253	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2348	IIb	覆土1層	1	50Ud	2443	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2537	フレイク	覆土1層	1	52Ud	
2254	IIb	覆土1層	1	51Tb	2349	フレイク	覆土1層	1	50Ud	2444	IIb	覆土1層	1	51Tb	2538	IIb	覆土1層	2	52Ud	
2255	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2350	IIb	覆土1層	2	50Ud	2445	石斧片	覆土1層	1	51Tb	2539	IIb	覆土1層	1	52Ud	
2256	IIb	覆土1層	1	51Tb	2351	フレイク	覆土1層	1	50Ud	2446	石礫	覆土1層	1	51Tb	2540	IIb	覆土1層	1	52Ud	
2257	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2352	IIb	覆土1層	1	50Ud	2447	礫	覆土1層	1	51Tb	2541	礫	覆土1層	1	51Uc	
2258	IIb	覆土1層	1	51Tb	2353	IIb	覆土1層	1	50Ud	2448	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2542	IIb	覆土1層	3	51Uc	
2259	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2354	IIb	覆土1層	1	50Ud	2449	IIb	覆土1層	1	51Tb	2543	IIb	覆土1層	1	51Uc	
2260	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2355	IIb	覆土1層	2	50Ud	2450	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2544	フレイク	覆土1層	1	51Uc	
2261	IIb	覆土1層	1	51Tb	2356	フレイク	覆土1層	1	50Ud	2451	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2545	フレイク	覆土1層	1	51Uc	
2262	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2357	フレイク	覆土1層	1	50Ud	2452	IIb	覆土1層	1	51Tb	2546	IIIb1	覆土1層	1	51Uc	
2263	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2358	IIb	覆土1層	1	50Ud	2453	IIb	覆土1層	1	51Tb	2547	IIb	覆土1層	1	51Uc	
2264	IIb	覆土1層	1	51Sc	2359	IIb	覆土1層	1	50Ud	2454	IIb	覆土1層	2	51Tb	2548	礫	覆土1層	1	51Uc	
2265	礫	覆土1層	1	51Sc	2360	フレイク	覆土1層	1	50Ud	2455	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2549	フレイク	覆土1層	1	51Uc	
2266	たたき石	覆土1層	1	51Sc	2361	IIb	覆土1層	1	49Ub	2456	IIb	覆土1層	1	51Tb	2550	礫	覆土1層	1	51Uc	
2267	IIb	覆土1層	1	51Sc	2362	IIb	覆土1層	2	51Ud	2457	フレイク	覆土1層	1	51Tb	2551	IIb	覆土1層	1	51Uc	
2268	スクレイパー	覆土1層	1	50Sc	2363	IIb	覆土1層	1	51Ud	2458	IIb	覆土1層	2	51Tb	2552	フレイク	覆土1層	1	51Uc	
2269	礫	覆土1層	1	50Sc	2364	IIb	覆土1層	1	51Ud	2459	IIb	覆土1層	1	51Tb	2553	礫	覆土1層	1	51Uc	
2270	フレイク	覆土1層	1	50Sc	2365	IIb	覆土1層	1	51Ud	2460	Ib	覆土1層	1	51Tb	2554	フレイク	覆土1層	1	51Uc	
2271	フレイク	覆土1層	1	50Sc	2366	IIb	覆土1層	1	51Ud	2461	礫	覆土1層	1	51Tb	2555	礫片	覆土1層	1	51Uc	
2272	フレイク	覆土1層	1	50Sc	2367	IIb	覆土1層	1	51Uc	2462	フレイク	覆土1層	1	51Sc	2556	フレイク	覆土1層	1	51Ud	
2273	フレイク	覆土1層	1	50Sc	2368	礫片	覆土1層	1	51Uc	2463	フレイク	覆土1層	1	51Sc	2557	IIb	覆土1層	1	52Ua	
2274	礫	覆土1層	1	50Sc	2369	礫	覆土1層	1	51Uc	2464	Uフレイク	覆土1層	1	51Sc	2558	IIb	覆土1層	1	52Td	
2275	IIb	覆土1層	1	50Sc	2370	礫	覆土1層	1	51Uc	2465	フレイク	覆土1層	1	51Sc	2559	フレイク	覆土1層	2	52Td	
2276	IIb	覆土1層	1	50Sc	2371	IIb	覆土1層	1	51Uc	2466	フレイク	覆土1層	1	51Sc	2560	IIb	覆土1層	6	52Td	
2277	IIb	覆土1層	2	50Sc	2372	IIb	覆土1層	1	51Uc	2467	IIb	覆土1層	2	50Sc	2561	IIb	覆土1層	1	52Ta	
2278	フレイク	覆土1層	1	50Sc	2373	IIb	覆土1層	2	51Uc	2468	IIb	覆土1層	2	50Sd	2562	礫片	覆土1層	1	52Ta	
2279	フレイク	覆土1層	1	50Sc	2374	IIb	覆土1層	1	51Uc	2469	IIb	覆土1層	1	50Sc	2563	礫	覆土1層	1	52Ta	
2280	砥石	覆土1層	1	50Sc	2375	IIb	覆土1層	1	51Uc	2470	礫	覆土1層	1	50Sc	2564	IIb	覆土1層	1	51Tb	
2281	礫	覆土1層	1	50Sc	2376	IIb	覆土1層	2	51Uc	2471	IIb	覆土1層	1	50Sd	2565	フレイク	覆土1層	1	51Tb	
2282	礫片	覆土1層	1	50Sc	2377	IIb	覆土1層	2	51Uc	2472	IIb	覆土1層	1	50Sd	2566	フレイク	覆土1層	1	51Tb	
2283	IIb	覆土1層	1	50Sc	2378	礫	覆土1層	1	51Uc	2473	IIb	覆土1層	1	50Sd	2567	礫	覆土1層	1	51Tb	
2284	フレイク	覆土1層	1	50Sc	2379	IIb	覆土1層	2	52Ud	2474	IIb	覆土1層	3	50Sd	2568	IIb	覆土1層	1	51Tb	
2285	IIb	覆土1層	1	50Sd	2380	フレイク	覆土1層	1	52Ud	2475	フレイク	覆土1層	1	50Sd	2569	IIb	覆土1層	1	51Sc	
2286	スクレイパー	覆土1層	1	50Sd	2381	IIb	覆土1層	1	52Ud	2476	IIb	覆土1層	1	50Sd	2570	礫片	覆土1層	1	51Sc	
2287	IIb	覆土1層	1	50Sd	2382	礫	覆土1層	1	52Ud	2477	フレイク	覆土1層	1	50Sd	2571	フレイク	覆土1層	1	51Sc	
2288	つまみ付きナイフ	覆土1層	1	50Sd	2383	IIb	覆土1層	1	52Ua	2478	IIb	覆土1層	1	50Sd	2572	IIb	覆土1層	1	51Sc	
2289	フレイク	覆土1層	1	50Sd	2384	礫	覆土1層	1	52Ua	2479	IIb	覆土1層	1	50Sd	2573	礫	覆土1層	1	52Td	
2290	IIb	覆土1層	1	50Sd	2385	IIb	覆土1層	1	52Ua	2480	I 1b	覆土1層	1	50Sd	2574	IIb	覆土1層	1	52Td	
2291	フレイク	覆土1層	1	50Sd	2386	IIb	覆土1層	1	52Ua	2480 2	フレイク	覆土1層	1	50Sd	2575	スクレイパー	覆土1層	1	52Td	
2292	IIb	覆土1層	1	50Sd	2387	IIb	覆土1層	2	52Ua	2481	フレイク	覆土1層	1	50Sd	2576	スクレイパー	覆土1層	1	52Td	
2293	礫	覆土1層	1	50Sd	2388	IIb	覆土1層	1	52Ua	2482	IIb	覆土1層	1	50Sd	2577	フレイク	覆土1層	1	52Td	
2294	IIb	覆土1層	1	50Sd	2389	フレイク	覆土1層	1	52Ua	2483	IIb	覆土1層	1	50Ta	2578	つまみ付きナイフ	覆土1層	1	52Td	
2295	IIb	覆土1層	1	50Sd	2390	IIb	覆土1層	1	52Ua	2484	フレイク	覆土1層	1	50Sd	2579	礫片	覆土1層	1	52Td	
2296	IIb	覆土1層	1	50Sd	2391	フレイク	覆土1層	1	52Ua	2485	フレイク	覆土1層	1	50Ta	2580	IIb	覆土1層	1	52Td	
2297	フレイク	覆土1層	1	50Sd	2392	IIb	覆土1層	1	52Ua	2486	IIb	覆土1層	1	50Ta	2581	IIb	覆土1層	1	52Ta	
2298	フレイク	覆土1層	1	50Ta	2393	IIb	覆土1層	1	52Ua	2487	IIb	覆土1層	1	50Ta	2582	IIb	覆土1層	1	52Ta	
2299	フレイク	覆土1層	1	50Ta	2394	IIb	覆土1層	1	52Ua	2488	IIb	覆土1層	3	50Sd	2583	IIb	覆土1層	1	52Ta	
2300	フレイク	覆土1層	1	50Ta	2395	IIb	覆土1層	1	52Ua	2489	IIb	覆土1層	1	50Ta	2584	IIb	覆土1層	1	51Tb	
2301	IIb	覆土1層	1	50Ta	2396	IIb	覆土1層	1	52Ua	2490	IIb	覆土1層	1	50Ta	2585	IIb	覆土1層	1	51Tb	
2302	礫	覆土1層	1	50Ta	2397	IIb	覆土1層	1	52Ua	2491	IIb	覆土1層	1	50Ta	2586	IIb	覆土1層	1	51Tb	
2303	IIb	覆土1層	1	49Tb	2398	IIb	覆土1層	1	52Ua	2492	IIb	覆土1層	1	50Ta	2587	IIb	覆土1層	1	51Tb	
2304	IIb	覆土1層	4	49Tb	2399	フレイク	覆土1層	1	52Ua	2493	スクレイパー	覆土1層	1	50Ta	2588	フレイク	覆土1層	1	51Tb	
2305	IIb	覆土1層	3	49Tb	2400	IIb	覆土1層	1	52Ua	2494	フレイク	覆土1層	1	50Ta	2589	フレイク	覆土1層	1	51Tb	
2306	IIb	覆土1層	1	49Tb	2401	IIb	覆土1層	1	52Ua	2495	フレイク	覆土1層	1	49Tb	2590	フレイク	覆土1層	1	51Tb	
2307	IIb	覆土1層	1	49Tb	2402	IIb	覆土1層	1	52Ua	2496	IVa	覆土1層	1	50Ta	2591	IIb	覆土1層	1	51Tb	
2308	スクレイパー	覆土1層	1	49Tb	2403	フレイク	覆土1層	2	52Ua	2497	扁平打製石器	覆土1層	1	50Ta	2592	IVa	覆土1層	1	51Tb	
2309	IIb	覆土1層	1	49Tb	2404	IIb	覆土1層	1	52Ua	2498	フレイク	覆土1層	1	50Ta	2593	フレイク	覆土1層	1	51Tb	
2310	IIb	覆土1層	1	49Tb	2405	扁平打製石器片	覆土1層	1	52Ua	2499	フレイク	覆土1層	1	50Ta	2594	フレイク	覆土1層	1	51Tb	
2311	IIb	覆土1層	3	49Tb	2406	IIb	覆土1層	1	52Ua	2500	IIb	覆土1層	1	49Tb	2595	フレイク	覆土1層	1	51Tb	
2312	フレイク	覆土1層	1	49Tb	2407	IIb	覆土1層	2	52Ua	2501	フレイク	覆土1層	1	49Tb	2596	IIb	覆土1層	1	51Tb	
2313	フレイク	覆土1層	1	49Tb	2408	IIb	覆土1層	1	52Ua	2502	IIb	覆土1層	1	49Tb	2597	IIb	覆土1層	1	50Ta	
2314	IIb	覆土1層	2	49Tb	2409	IIb	覆土1層	1	52Td	2503	スクレイパー	覆土1層	1	49Tb	2598	IIb	覆土1層	1	50Ta	
2315	砥石	覆土1層	1	49Tb	2410	IIb	覆土1層	1	52Ua	2504	IIb	覆土1層	1	49Tb	2599	IIb	覆土1層	1	5	

表Ⅲ-1-10 H18点取り遺物出土層位および器種名一覧 8 (2622~2995)

遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名
2622		磯	覆土1層	1	50Ta	2717		被熱磯片	覆土1層	1	52Ta	2812		磯片	覆土2層	1	51Ta
2623		IIb	覆土1層	3	49Tc	2718		フレイク	覆土1層	1	51Tb	2813		IIb	覆土2層	1	51Ta
2624		磯	覆土1層	1	49Tc	2719		IIb	覆土1層	1	51Tb	2814		磯	覆土2層	1	51Ta
2625		フレイク	覆土1層	1	49Tc	2720		IIb	覆土1層	25	51Tb	2815		IIb	覆土2層	1	51Ta
2626		フレイク	覆土1層	1	49Tc	2721		フレイク	覆土1層	1	51Tb	2816		フレイク	覆土2層	1	51Ta
2627		IIb	覆土1層	4	49Tc	2722		フレイク	覆土1層	1	51Tb	2817		IIb	覆土2層	1	51Ta
2628		IIb	覆土1層	1	49Tc	2723		IIb	覆土1層	1	51Sd	2818		フレイク	覆土2層	1	51Ta
2629		IIb	覆土1層	3	49Tc	2724		IIb	覆土1層	1	50Ta	2819		IIb	覆土2層	1	51Ta
2630		磯	覆土1層	1	49Tc	2725		IIb	覆土1層	3	50Ta	2820		IIb	覆土2層	1	51Ta
2631		フレイク	覆土1層	1	49Tc	2726		IIb	覆土1層	2	50Ta	2821		フレイク	覆土2層	1	51Ta
2632		IIb	覆土1層	1	49Tc	2727		IIb	覆土1層	4	50Ta	2822		フレイク	覆土2層	1	51Ta
2633		フレイク	覆土1層	1	49Tc	2728		磯	覆土1層	1	50Ta	2823		IIb	覆土2層	1	51Ta
2634		フレイク	覆土1層	1	49Tc	2729		IIb	覆土1層	1	50Ta	2824		たたき石	覆土2層	1	51Ta
2635		磯	覆土1層	1	49Tc	2730		フレイク	覆土1層	1	49Tb	2825		磯	覆土2層	1	51Ta
2636		磯	覆土1層	1	49Tc	2731		フレイク	覆土2層	1	51Td	2826		磯	覆土2層	1	51Ta
2637		IIb	覆土1層	2	49Tc	2732		IIb	覆土2層	1	51Td	2827		フレイク	覆土2層	1	51Ta
2638		磯片	覆土1層	1	49Tc	2733		IIb	覆土2層	1	51Td	2828		IIb	覆土2層	1	51Ta
2639		フレイク	覆土1層	1	49Tc	2734		フレイク	覆土2層	1	51Td	2829		磯	覆土2層	1	51Ta
2640		磯片	覆土1層	1	49Tc	2735		フレイク	覆土2層	1	51Td	2830		磯	覆土2層	1	51Ta
2641		磯	覆土1層	1	49Tc	2736		IIb	覆土2層	1	51Td	2831		台石	覆土2層	1	51Ta
2642		IIb	覆土1層	1	49Tc	2737		磯片	覆土2層	1	51Ta	2832		磯	覆土2層	1	51Td
2643		IIb	覆土1層	3	49Tc	2738		磯片	覆土2層	1	51Ta	2833		磯	覆土2層	1	51Td
2644		IIb	覆土1層	1	49Tc	2739		磯	覆土2層	1	51Ta	2834		フレイク	覆土2層	1	51Td
2645		北海道式石冠	覆土1層	1	49Tc	2740		磯	覆土2層	1	51Ta	2835		IIb	覆土2層	3	51Td
2646		IIb	覆土1層	1	52Ta	2741		IIb	覆土2層	1	51Ta	2836		磯	覆土2層	1	51Td
2647		フレイク	覆土1層	1	52Ta	2742		たたき石	覆土2層	1	51Ta	2837		IIb	覆土2層	2	51Td
2648		IIb	覆土1層	1	52Ta	2743		磯	覆土2層	1	51Ta	2838		IIb	覆土2層	1	51Td
2649		IIb	覆土1層	1	52Ta	2744		被熱磯片	覆土2層	1	51Ta	2839		IIb	覆土2層	1	51Td
2650		IIb	覆土1層	1	52Ta	2745		磯片	覆土2層	1	51Ta	2840		フレイク	覆土2層	1	51Ta
2651		IIb	覆土1層	1	51Tb	2746		IIb	覆土2層	1	51Ta	2841		磯	覆土2層	1	51Ta
2652		石核	覆土1層	1	51Tb	2747		磯	覆土2層	1	51Ta	2842		IIb	覆土2層	1	51Td
2653		フレイク	覆土1層	1	51Tb	2748		磯片	覆土2層	1	51Ta	2843		フレイク	覆土2層	1	51Td
2654		IIb	覆土1層	1	51Tb	2749		磯片	覆土2層	1	51Ta	2844		磯片	覆土2層	1	51Td
2655		フレイク	覆土1層	1	51Tb	2750		IIb	覆土2層	1	51Ta	2845		磯	覆土2層	1	51Td
2656		フレイク	覆土1層	1	51Tb	2751		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2846		フレイク	覆土2層	1	51Td
2657		IIb	覆土1層	1	51Tb	2752		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2847		IIb	覆土2層	1	51Td
2658		フレイク	覆土1層	1	51Ta	2753		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2848		フレイク	覆土2層	1	51Td
2659		フレイク	覆土1層	1	50Ta	2754		IIb	覆土2層	1	51Ta	2849		磯	覆土2層	1	51Td
2660		IIb	覆土1層	1	50Sd	2755		IIb	覆土2層	1	51Ta	2850		フレイク	覆土2層	1	51Td
2661		IIb	覆土1層	1	50Ta	2756		IIb	覆土2層	1	51Ta	2851		フレイク	覆土2層	1	51Tb
2662		IIb	覆土1層	1	50Ta	2757		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2852		IIb	覆土2層	1	51Tb
2663		IIb	覆土1層	3	50Ta	2758		両面調整石器	覆土2層	1	51Ta	2853		IIb	覆土2層	1	51Tb
2664		IIb	覆土1層	2	50Ta	2759		石核	覆土2層	1	51Ta	2854		IIb	覆土2層	2	51Tb
2665		IIb	覆土1層	2	50Ta	2760		すり石片	覆土2層	1	51Ta	2855		IIb	覆土2層	2	51Ta
2666		IIb	覆土1層	1	50Ta	2761		IIb	覆土2層	1	51Ta	2856		IIb	覆土2層	1	51Ta
2667		磯	覆土1層	1	50Ta	2762		たたき石	覆土2層	1	51Ta	2857		IIb	覆土2層	1	51Ta
2668		フレイク	覆土1層	1	50Ta	2763		磯	覆土2層	1	51Ta	2858		IIb	覆土2層	1	51Ta
2669		IIb	覆土1層	1	50Ta	2764		IIb	覆土2層	1	51Ta	2859		フレイク	覆土2層	1	51Ta
2670		IIb	覆土1層	1	50Ta	2765		磯	覆土2層	1	51Ta	2860		フレイク	覆土2層	1	51Ta
2671		磯片	覆土1層	1	49Tb	2766		IIb	覆土2層	1	51Ta	2861		フレイク	覆土2層	1	51Tb
2672		フレイク	覆土1層	1	49Tb	2767		IIb	覆土2層	1	51Ta	2862		石核	覆土2層	1	51Tb
2673		IIb	覆土1層	3	50Ta	2768		磯	覆土2層	1	51Ta	2863		IIb	覆土2層	1	51Tb
2674		フレイク	覆土1層	1	50Ta	2769		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2864		磯	覆土2層	1	51Tb
2675		IIb	覆土1層	3	50Ta	2770		磯	覆土2層	1	51Ta	2865		IIb	覆土2層	1	51Tb
2676		IIb	覆土1層	1	50Ta	2771		磯	覆土2層	1	51Ta	2866		IIb	覆土2層	2	51Tb
2677		IIb	覆土1層	1	50Ta	2772		IIb	覆土2層	1	51Ta	2867		IIb	覆土2層	2	51Tb
2678		フレイク	覆土1層	1	50Ta	2773		IIb	覆土2層	1	51Ta	2868		フレイク	覆土2層	1	51Tb
2679		IIb	覆土1層	1	49Tb	2774		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2869		磯	覆土2層	1	51Tb
2680		IIb	覆土1層	1	50Ta	2775		IIb	覆土2層	1	51Sd	2870		フレイク	覆土2層	1	51Tc
2681		IIb	覆土1層	1	49Tb	2776		たたき石	覆土2層	1	51Sd	2871		IIb	覆土2層	1	51Tb
2682		IIb	覆土1層	1	49Tb	2777		磯	覆土2層	1	51Ta	2872		フレイク	覆土2層	1	51Tb
2683		IIb	覆土1層	1	49Tb	2778		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2873		磯片	覆土2層	1	51Tc
2684		IVa	覆土1層	3	49Tb	2779		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2874		フレイク	覆土2層	1	51Tc
2685		IVa	覆土1層	2	49Tb	2780		磯	覆土2層	1	51Ta	2875		IIb	覆土2層	1	51Tc
2686		IIb	覆土1層	1	49Tb	2781		IIb	覆土2層	1	51Ta	2876		磯片	覆土2層	1	51Tc
2687		フレイク	覆土1層	1	49Tc	2782		IIb	覆土2層	2	51Ta	2877		磯	覆土2層	1	51Td
2688		両面調整石器	覆土1層	1	49Tc	2783		IIb	覆土2層	3	51Ta	2878		IIb	覆土2層	1	51Td
2689		磯	覆土1層	1	49Tc	2784		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2879		フレイク	覆土2層	1	51Td
2690		被熱磯片	覆土1層	1	51Tb	2785		IIb	覆土2層	1	51Ta	2880		IIb	覆土2層	2	51Tc
2691		フレイク	覆土1層	1	51Tb	2786		IIb	覆土2層	1	51Ta	2881		フレイク	覆土2層	2	51Tc
2692		磯	覆土1層	1	49Ub	2787		IIb	覆土2層	1	51Ta	2882		フレイク	覆土2層	1	51Tc
2693		扁平打製石器片	覆土1層	1	50Ud	2788		IIb	覆土2層	1	51Ta	2883		IIb	覆土2層	1	51Tc
2694		IIb	覆土1層	1	50Ud	2789		扁平打製石器片	覆土2層	1	51Ta	2884		IIb	覆土2層	1	51Tb
2695		IIb	覆土1層	1	50Ud	2790		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2885		IIb	覆土2層	1	51Tb
2696		IIb	覆土1層	1	50Ud	2791		IIb	覆土2層	1	51Ta	2886		IIb	覆土2層	1	51Tb
2697		磯片	覆土1層	1	50Ud	2792		フレイク	覆土2層	1	51Sd	2887	1	IIb	覆土2層	1	51Tb
2698		フレイク	覆土1層	1	50Ud	2793		IIb	覆土2層	1	51Ta	2887	2	フレイク	覆土2層	1	51Tb
2699		フレイク	覆土1層	1	50Va	2794		IIb	覆土2層	1	51Ta	2888		フレイク	覆土2層	1	51Tb
2700		IIb	覆土1層	1	50Uc	2795		IIb	覆土2層	1	51Ta	2889		砥石片	覆土2層	1	51Tb
2701		IIb	覆土1層	1	50Uc	2796		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2890		IIb	覆土2層	1	51Tb
2702		被熱磯	覆土1層	1	50Vb	2797		IIb	覆土2層	1	51Ta	2891		フレイク	覆土2層	1	51Tc
2703		磯片	覆土1層	1	51Ud	2798		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2892	1	磯	覆土2層	1	51Tc
2704		フレイク	覆土1層	1	51Ud	2799		IIb	覆土2層	1	51Ta	2892	2	磯	覆土2層	1	51Tc
2705		フレイク	覆土1層	1	51Uc	2800		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2893		フレイク	覆土2層	1	51Tc
2706		IIb	覆土1層	1	51Uc	2801		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2894		IIb	覆土2層	1	51Tc
2707		フレイク	覆土1層	1	51Uc	2802		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2895		磯	覆土2層	1	51Tc
2708		IIb	覆土1層	1	51Uc	2803		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2896		IIb	覆土2層	2	51Tc
2709		IIb	覆土1層	1	51Uc	2804		フレイク	覆土2層	1	51Ta	2897		スクレイパー	覆土2層	1	51Tc
2710		IIb	覆土1層	1	52Ud	2805		フレイク	覆土2層	1	51Ta	28					

表Ⅲ-1-11 H18点取り遺物出土層位および器種名一覧9 (2996~3375)

遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名
2996		礫片	覆土2層	1	50Ta	3091		扁平打製石器片	覆土2層	1	50Ub	3186		フレイク	覆土2層	1	51Ua
2997		扁平打製石器片	覆土2層	1	50Ta	3092		Ⅲa	覆土2層	10	50Ub	3187		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
2998		フレイク	覆土2層	1	50Ta	3093		Ⅲa	覆土2層	3	50Ub	3188		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
2999		石片	覆土2層	1	50Ta	3094		Ⅲa	覆土2層	1	50Ub	3189		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3000		Ⅱb	覆土2層	1	50Ta	3095		Ⅲa	覆土2層	1	50Ub	3190		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3001		礫片	覆土2層	1	50Ta	3096		Ⅲa	覆土2層	3	50Ub	3191		フレイク	覆土2層	1	51Ua
3002		扁平打製石器片	覆土2層	1	50Td	3097		両面調整石器	覆土2層	1	50Ub	3192		フレイク	覆土2層	1	51Ua
3003		礫	覆土2層	1	50Td	3098		Ⅲa	覆土2層	5	50Ub	3193		礫片	覆土2層	1	51Ua
3004		Ⅱb	覆土2層	2	50Td	3099		Ⅱb	覆土2層	1	50Ub	3194		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3005		Ⅱb	覆土2層	1	50Td	3100		フレイク	覆土2層	1	50Ub	3195		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3006		Ⅱb	覆土2層	1	50Td	3101		たたき石	覆土2層	1	50Ub	3196		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3007		Ⅱb	覆土2層	1	50Td	3102		礫	覆土2層	1	50Ub	3197		フレイク	覆土2層	1	51Ua
3008		Ⅱb	覆土2層	1	50Td	3103		Ⅱb	覆土2層	1	50Ub	3198		フレイク	覆土2層	1	51Ua
3009		Ⅱb	覆土2層	1	50Td	3104		Ⅱb	覆土2層	4	50Uc	3199		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3010		Ⅱb	覆土2層	1	50Ta	3105		フレイク	覆土2層	1	50Uc	3200		Ⅲa	覆土2層	1	51Ua
3011		フレイク	覆土2層	1	49Ub	3106		Ⅱb	覆土2層	1	50Uc	3201		礫	覆土2層	1	51Ua
3012		礫	覆土2層	1	49Ub	3107		フレイク	覆土2層	1	50Uc	3202		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3013		フレイク	覆土2層	1	49Ub	3108		フレイク	覆土2層	1	50Uc	3203		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3014		Ⅱb	覆土2層	1	49Ub	3109		フレイク	覆土2層	1	50Uc	3204		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3015		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3110		フレイク	覆土2層	1	50Uc	3205		礫	覆土2層	1	51Ua
3016		フレイク	覆土2層	1	50Ua	3111		フレイク	覆土2層	1	50Ub	3206		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3017		礫片	覆土2層	1	50Ua	3112		Ⅱb	覆土2層	1	50Ub	3207		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3018		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3113		Ⅱb	覆土2層	1	50Ub	3208		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3019		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3114		扁平打製石器未成品	覆土2層	1	50Ub	3209		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3020		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3115		礫片	覆土2層	1	50Ub	3210		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3021		フレイク	覆土2層	1	50Ua	3116		被熱礫	覆土2層	1	50Ub	3211		礫	覆土2層	1	51Ua
3022		砥石片	覆土2層	1	50Ua	3117		たたき石	覆土2層	1	50Ub	3212		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3023		礫	覆土2層	1	50Ua	3118		Ⅱb	覆土2層	5	50Ub	3213		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3024		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3119		礫	覆土2層	1	50Ua	3214		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3025		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3120		Ⅱb	覆土2層	2	50Ua	3215		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3026		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3121		Ⅱb	覆土2層	1	50Ud	3216		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3027		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3122		Ⅱb	覆土2層	1	50Ud	3217		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3028		フレイク	覆土2層	1	50Ua	3123		Ⅱb	覆土2層	1	50Ud	3218		礫	覆土2層	1	51Ua
3029		礫	覆土2層	1	50Ua	3124		Ⅱb	覆土2層	1	50Ud	3219		フレイク	覆土2層	1	51Ua
3030		礫	覆土2層	1	50Ua	3125		礫	覆土2層	1	50Ua	3220		礫	覆土2層	1	51Ud
3031		被熱礫片	覆土2層	1	50Ua	3126		フレイク	覆土2層	1	50Ua	3221		礫	覆土2層	1	51Ud
3032		礫	覆土2層	1	50Ub	3127		フレイク	覆土2層	1	50Ua	3222		フレイク	覆土2層	1	51Ud
3033		礫	覆土2層	1	50Ub	3128		フレイク	覆土2層	1	50Ua	3223		礫片	覆土2層	1	51Ud
3034		Ⅱb	覆土2層	1	50Ub	3129		礫	覆土2層	1	50Ua	3224		フレイク	覆土2層	1	51Uc
3035		礫	覆土2層	1	50Ub	3130		フレイク	覆土2層	1	50Ua	3225		両面調整石器	覆土2層	1	51Uc
3036		Ⅱb	覆土2層	1	50Ub	3131		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3226		フレイク	覆土2層	1	51Uc
3037		Ⅱb	覆土2層	2	50Ub	3132		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3227		石槍又はナイフ	覆土2層	1	51Uc
3038		Ⅱb	覆土2層	3	50Ub	3133		Ⅱb	覆土2層	1	50Ud	3228		Ⅱb	覆土2層	1	51Ub
3039		Ⅱb	覆土2層	1	50Ub	3134		礫	覆土2層	1	50Ud	3229		Ⅱb	覆土2層	1	51Ub
3040		礫	覆土2層	1	50Ub	3135		礫	覆土2層	1	50Ud	3230		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3041		礫片	覆土2層	1	50Ub	3136		Ⅱb	覆土2層	1	50Ud	3231		Ⅱb	覆土2層	1	51Ud
3042		礫	覆土2層	1	50Ub	3137		フレイク	覆土2層	1	50Uc	3232		フレイク	覆土2層	1	51Ua
3043		礫	覆土2層	1	50Ub	3138		Ⅱb	覆土2層	1	50Uc	3233		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3044		礫	覆土2層	1	50Ub	3139		フレイク	覆土2層	1	50Uc	3234		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3045		礫	覆土2層	1	50Ub	3140		フレイク	覆土2層	1	50Uc	3235		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3046		礫	覆土2層	1	50Ub	3141		フレイク	覆土2層	1	50Uc	3236		フレイク	覆土2層	1	51Ua
3047		礫片	覆土2層	1	50Ub	3142		フレイク	覆土2層	1	50Uc	3237		礫片	覆土2層	1	51Ua
3048		礫	覆土2層	1	50Ub	3143		礫	覆土2層	1	50Uc	3238		礫片	覆土2層	1	51Ua
3049		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3144		Ⅱb	覆土2層	2	50Uc	3239		礫	覆土2層	1	51Ua
3050		たたき石	覆土2層	1	50Ua	3145		扁平打製石器片	覆土2層	1	50Ub	3240		フレイク	覆土2層	1	51Ua
3051		フレイク	覆土2層	1	50Ua	3146		Ⅱb	覆土2層	1	50Uc	3241		フレイク	覆土2層	1	51Ua
3052		フレイク	覆土2層	1	50Ua	3147		フレイク	覆土2層	1	50Uc	3242		フレイク	覆土2層	1	51Ua
3053		フレイク	覆土2層	1	50Ua	3148		フレイク	覆土2層	1	50Uc	3243		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3054		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3149		フレイク	覆土2層	1	50Uc	3244		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3055		礫	覆土2層	1	50Ua	3150		Ⅱb	覆土2層	1	50Uc	3245		礫	覆土2層	1	51Ua
3056		礫	覆土2層	1	50Ua	3151		Ⅱb	覆土2層	3	50Ud	3246		礫	覆土2層	1	51Ub
3057		スクレイパー	覆土2層	1	50Ua	3152		Ⅱb	覆土2層	2	50Ud	3247		フレイク	覆土2層	1	51Ua
3058		たたき石	覆土2層	1	50Ua	3153		フレイク	覆土2層	1	50Ud	3248		礫	覆土2層	1	51Ua
3059		礫	覆土2層	1	50Ua	3154		Ⅱb	覆土2層	1	50Ud	3249		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3060		礫	覆土2層	1	50Ua	3155		Ⅱb	覆土2層	2	50Ua	3250		礫	覆土2層	1	51Ua
3061		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3156		Ⅱb	覆土2層	2	50Ua	3251		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua
3062		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3157		礫	覆土2層	1	50Ub	3252		フレイク	覆土2層	1	51Ua
3063		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3158		礫	覆土2層	1	50Ub	3253		礫片	覆土2層	1	51Ub
3064		フレイク	覆土2層	1	50Ua	3159		Ⅱb	覆土2層	1	50Ub	3254		Ⅱb	覆土2層	1	51Ub
3065		フレイク	覆土2層	2	49Ub	3160		Ⅱb	覆土2層	1	50Ub	3255		Ⅱb	覆土2層	1	51Ub
3066		礫	覆土2層	1	49Ub	3161		礫	覆土2層	1	51Ua	3256		フレイク	覆土2層	1	51Ub
3067		フレイク	覆土2層	1	49Ub	3162		礫	覆土2層	1	51Ua	3257		Ⅱb	覆土2層	1	51Ub
3068		スクレイパー	覆土2層	1	49Ub	3163		石皿片	覆土2層	1	51Ua	3258		Ⅱb	覆土2層	2	51Ub
3069		フレイク	覆土2層	1	49Ub	3164		Ⅱb	覆土2層	2	51Ua	3259		Ⅱb	覆土2層	1	51Ub
3070		スクレイパー	覆土2層	1	50Ua	3165		フレイク	覆土2層	1	51Ua	3260		フレイク	覆土2層	1	51Ub
3071		フレイク	覆土2層	1	50Ud	3166		フレイク	覆土2層	1	51Ua	3261		たたき石	覆土2層	1	51Ub
3072		礫	覆土2層	1	50Ua	3167		Ⅱb	覆土2層	1	51Ua	3262		フレイク	覆土2層	1	51Ub
3073		フレイク	覆土2層	1	50Ua	3168		北海道式石冠片	覆土2層	1	51Ua	3263		たたき石	覆土2層	1	51Ub
3074		礫	覆土2層	1	50Ua	3169		フレイク	覆土2層	1	51Ua	3264		Ⅱb	覆土2層	1	51Ub
3075		フレイク	覆土2層	1	50Ua	3170		フレイク	覆土2層	1	51Ua	3265		Ⅱb	覆土2層	1	51Ub
3076		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3171		フレイク	覆土2層	1	51Ua	3266		被熱礫片	覆土2層	1	51Ub
3077		フレイク	覆土2層	1	50Ua	3172		Ⅱb	覆土2層	1	51Ud	3267		Ⅱb	覆土2層	1	51Ub
3078		Ⅲa	覆土2層	2	50Ua	3173		Ⅱb	覆土2層	1	51Ud	3268		フレイク	覆土2層	1	51Ub
3079		礫	覆土2層	1	50Ua	3174		Ⅱb	覆土2層	1	51Ub	3269		Ⅱb	覆土2層	1	51Ub
3080		Ⅱb	覆土2層	2	50Ua	3175		フレイク	覆土2層	1	51Ud	3270		礫	覆土2層	1	51Ub
3081		Ⅱb	覆土2層	1	50Ua	3176		Ⅱb	覆土2層	1	51Ub	3271		フレイク	覆土2層	1	51Ub
3082		礫	覆土2層	1	50Ua	3177		Ⅱb	覆土2層	1	51Ud	3272		フレイク	覆土2層	1	51Ub
3083</																	

表Ⅲ-1-12 H18点取り遺物出土層位および器種名一覧10 (3376~3753)

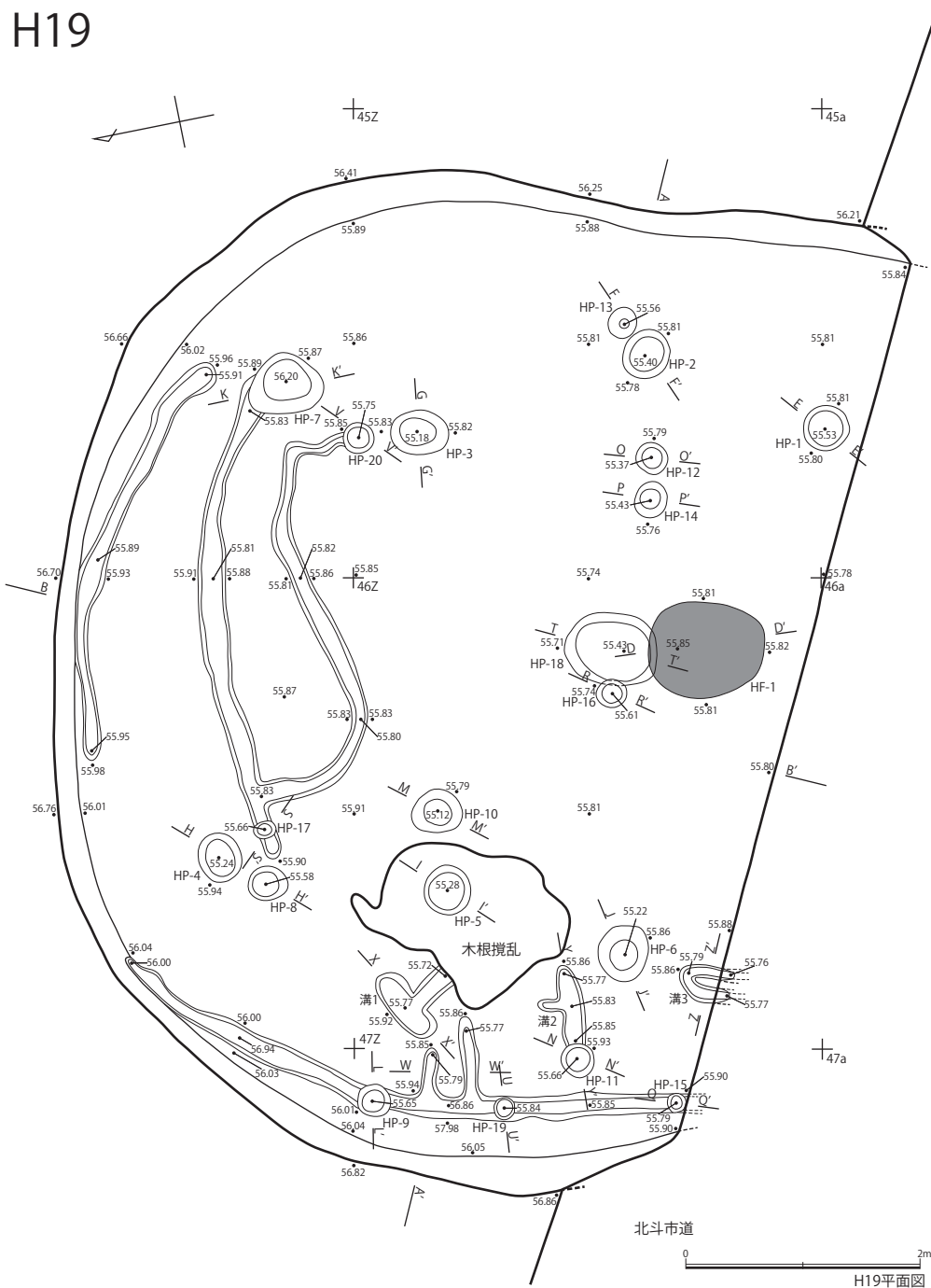
遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名			
3376	IIb	覆土2層	1	51Ta	3471	IIb	覆土2層	1	49Tc	3566	フレイク	覆土2層	1	51Td	3659	IIb	覆土2層	1	51Ua	
3377	IIb	覆土2層	1	51Ta	3472	スクレイパー片	覆土2層	1	50Ta	3567	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3660	IIb	覆土2層	1	51Ud	
3378	IIb	覆土2層	6	51Ta	3473	フレイク	覆土2層	1	50Ta	3568	IIb	覆土2層	1	51Ta	3661	IIb	覆土2層	1	51Ud	
3379	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3474	フレイク	覆土2層	1	50Td	3569	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3662	IIb	覆土2層	1	51Ud	
3380	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3475	礫	覆土2層	1	50Td	3570	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3663	礫	覆土2層	1	51Ud	
3381	砥石	覆土2層	1	51Ta	3476	フレイク	覆土2層	1	50Td	3571	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3664	フレイク	覆土2層	1	51Ub	
3382	礫	覆土2層	1	51Ta	3477	フレイク	覆土2層	1	50Td	3572	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3665	Uフレイク	覆土2層	1	51Ub	
3383	IIb	覆土2層	2	51Ta	3478	礫片	覆土2層	1	50Td	3573	IIb	覆土2層	1	51Ta	3666	礫	覆土2層	1	51Ub	
3384	礫	覆土2層	1	51Ta	3479	礫	覆土2層	1	50Td	3574	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3667	IIb	覆土1層	1	51Ub	
3385	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3480	IIb	覆土2層	2	50Td	3575	IIb	覆土2層	3	51Ta	3668	礫	覆土1層	1	51Ub	
3386	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3481	礫片	覆土2層	1	50Td	3576	IIb	覆土2層	1	51Ta	3669	IIb	覆土2層	2	51Ub	
3387	IIb	覆土2層	1	51Ta	3482	フレイク	覆土2層	1	50Td	3577	IIb	覆土2層	1	51Tb	3670	IIIa	覆土1層	12	51Ub	
3388	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3483	礫	覆土2層	1	50Td	3578	IIb	覆土2層	1	51Tc	3671	たたき石	覆土2層	1	52Td	
3389	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3484	IIb	覆土2層	1	50Td	3579	フレイク	覆土2層	1	51Tc	3672	フレイク	覆土2層	1	51Ub	
3390	IIb	覆土2層	1	51Ta	3485	フレイク	覆土2層	1	50Td	3580	フレイク	覆土2層	1	51Tc	3673	スクレイパー	覆土2層	1	51Ub	
3391	礫片	覆土2層	1	51Ta	3486	礫	覆土2層	1	50Td	3581	IIb	覆土2層	1	50Ud	3674	IIb	覆土2層	1	51Ub	
3392	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3487	IIb	覆土2層	1	50Td	3582	IIb	覆土2層	1	50Ud	3675	礫	覆土2層	1	51Ub	
3393	IIb	覆土2層	1	51Ta	3488	フレイク	覆土2層	1	50Td	3583	IIb	覆土2層	1	50Ud	3676	フレイク	覆土2層	1	51Ub	
3394	Uフレイク	覆土2層	1	51Ta	3489	フレイク	覆土2層	1	50Td	3584	フレイク	覆土2層	1	50Ud	3677	IIb	覆土1層	1	49Tc	
3395	IIb	覆土2層	3	51Ta	3490	フレイク	覆土2層	1	50Td	3585	IIb	覆土2層	1	50Ud	3678	礫片	覆土1層	1	49Tc	
3396	礫片	覆土2層	1	51Ta	3491	フレイク	覆土2層	1	50Td	3586	スクレイパー	覆土2層	1	50Ua	3679	フレイク	覆土1層	1	49Tc	
3397	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3492	IIb	覆土2層	1	50Td	3587	たたき石	覆土2層	1	50Ua	3680	IIb	覆土1層	1	49Tc	
3398	IIb	覆土2層	1	51Ta	3493	フレイク	覆土2層	1	50Td	3588	フレイク	覆土2層	1	50Ua	3681	IIb	覆土1層	1	49Tc	
3399	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3494	加熱礫	覆土2層	1	50Td	3589	フレイク	覆土2層	1	50Ua	3682	スクレイパー	覆土1層	1	49Tc	
3400	IIb	覆土2層	1	51Ta	3495	IIb	覆土2層	1	50Td	3590	Uフレイク	覆土2層	1	50Ua	3683	フレイク	覆土2層	1	49Tc	
3401	IIb	覆土2層	1	51Ta	3496	フレイク	覆土2層	1	50Td	3591	たたき石	覆土2層	1	50Ub	3684	たたき石	覆土1層	1	49Tc	
3402	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3497	IIb	覆土2層	1	50Td	3592	フレイク	覆土2層	1	50Ub	3685	IIb	覆土1層	1	49Tc	
3403	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3498	フレイク	覆土2層	1	50Td	3593	礫	覆土2層	1	50Ub	3686	礫	覆土1層	1	49Tc	
3404	フレイク	覆土2層	1	51Td	3499	フレイク	覆土2層	1	50Td	3594	IIb	覆土2層	1	50Ub	3687	IIb	覆土1層	1	49Tc	
3405	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3500	礫	覆土2層	1	50Tc	3595	扁平打製石器片	覆土2層	1	50Ub	3688	フレイク	覆土1層	1	49Tc	
3406	礫片	覆土2層	1	51Td	3501	フレイク	覆土2層	1	50Td	3596	IIb	覆土2層	2	50Ub	3689	IIb	覆土1層	1	49Tc	
3407	礫片	覆土2層	1	51Td	3502	IIb	覆土2層	2	50Td	3597	礫	覆土2層	1	50Ub	3690	IIb	覆土1層	1	49Tc	
3408	扁平打製石器片	覆土2層	1	51Ta	3503	石核	覆土2層	1	50Td	3598	IIb	覆土2層	1	50Ub	3691	たたき石	覆土1層	1	49Tc	
3409	IIb	覆土2層	1	51Ta	3504	IIb	覆土2層	1	50Tb	3599	フレイク	覆土2層	1	50Ub	3692	IIb	覆土1層	1	49Tc	
3410	礫片	覆土2層	1	51Ta	3505	フレイク	覆土2層	1	50Tb	3600	礫	覆土2層	1	50Ub	3693	フレイク	覆土1層	1	49Tc	
3411	礫片	覆土2層	1	51Ta	3506	フレイク	覆土2層	1	50Tb	3601	フレイク	覆土2層	1	50Ub	3694	礫片	覆土1層	1	49Tc	
3412	たたき石片	覆土2層	1	51Ta	3507	IIb	覆土2層	1	50Tb	3602	1	フレイク	覆土2層	1	50Ub	3695	フレイク	覆土1層	1	49Tc
3413	たたき石片	覆土2層	1	51Ta	3508	扁平打製石器片	覆土2層	1	50Ta	3602	2	IIb	覆土2層	1	50Ub	3696	フレイク	覆土1層	1	49Tc
3414	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3509	IIb	覆土2層	1	50Ta	3603	IIb	覆土2層	1	50Ub	3697	IIb	覆土1層	1	49Tc	
3415	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3510	IIb	覆土2層	1	50Ta	3604	IIb	覆土2層	1	50Ub	3698	フレイク	覆土1層	1	49Tc	
3416	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3511	フレイク	覆土2層	1	50Ta	3605	フレイク	覆土2層	1	50Ub	3699	IIb	覆土1層	1	49Tc	
3417	礫片	覆土2層	1	51Ta	3512	IIb	覆土2層	1	50Ta	3606	IIb	覆土2層	1	50Ub	3700	フレイク	覆土1層	1	49Tc	
3418	フレイク	覆土2層	1	51Td	3513	IIb	覆土2層	1	50Tb	3607	IIb	覆土2層	1	50Ub	3701	IIb	覆土1層	1	49Tc	
3419	IIb	覆土2層	1	51Td	3514	IIb	覆土2層	1	50Tb	3608	フレイク	覆土2層	1	50Ub	3702	フレイク	覆土1層	1	50Td	
3420	IIb	覆土2層	1	51Td	3515	IIb	覆土2層	2	50Tb	3609	IIb	覆土2層	2	51Ta	3703	フレイク	覆土1層	1	50Td	
3421	フレイク	覆土2層	1	51Td	3516	IIb	覆土2層	1	50Tb	3610	IIb	覆土2層	1	51Ta	3704	フレイク	覆土1層	1	50Td	
3422	IIb	覆土2層	3	51Td	3517	礫	覆土2層	1	50Tb	3611	IIb	覆土2層	1	51Ta	3705	IIb	覆土1層	1	50Td	
3423	IIb	覆土2層	1	51Td	3518	IIb	覆土2層	2	50Tb	3612	Uフレイク	覆土2層	1	51Ta	3706	IIb	覆土1層	1	50Td	
3424	礫片	覆土2層	1	51Td	3519	フレイク	覆土2層	1	50Tb	3613	IIb	覆土2層	1	51Ta	3707	スクレイパー片	覆土1層	1	50Td	
3425	礫片	覆土2層	1	51Td	3520	フレイク	覆土2層	1	50Tc	3614	IIb	覆土2層	2	51Ta	3708	IIb	覆土1層	1	50Td	
3426	IIb	覆土2層	1	51Td	3521	フレイク	覆土2層	1	50Tc	3615	スクレイパー	覆土2層	1	51Ta	3709	礫片	覆土1層	1	50Td	
3427	礫片	覆土2層	1	51Td	3522	IIb	覆土2層	1	50Tc	3616	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3710	IIb	覆土1層	1	50Td	
3428	IIb	覆土2層	1	51Td	3523	IIb	覆土2層	1	50Tc	3617	IIb	覆土2層	1	51Ta	3711	IIb	覆土1層	1	50Td	
3429	礫	覆土2層	1	51Td	3524	IIb	覆土2層	3	50Tc	3618	IIb	覆土2層	1	51Ta	3712	北海道式石冠未成品	覆土1層	1	50Td	
3430	礫片	覆土2層	1	51Td	3525	フレイク	覆土2層	1	50Tc	3619	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3713	加熱礫片	覆土1層	1	50Td	
3431	フレイク	覆土2層	1	51Td	3526	IIb	覆土2層	1	50Tc	3620	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3714	礫	覆土1層	1	50Td	
3432	フレイク	覆土2層	1	51Td	3527	IIb	覆土2層	1	50Tc	3621	フレイク	覆土2層	1	51Ta	3715	IIb	覆土1層	1	50Td	
3433	スクレイパー	覆土2層	1	51Td	3528	Uフレイク	覆土2層	1	50Tc	3622	フレイク	覆土2層	1	51Tb	3716	礫片	覆土1層	1	50Td	
3434	フレイク	覆土2層	1	51Td	3529	フレイク	覆土2層	1	50Tc	3623	IIb	覆土2層	1	51Tb	3717	IIb	覆土1層	2	50Td	
3435	フレイク	覆土2層	1	51Td	3530	礫	覆土2層	1	50Tc	3624	礫片	覆土2層	1	51Tb	3718	IIb	覆土1層	2	50Td	
3436	礫片	覆土2層	1	51Td	3531	IIb	覆土2層	1	49Tc	3625	IIb	覆土2層	1	51Tb	3719	IIb	覆土1層	3	50Td	
3437	IIb	覆土2層	1	51Td	3532	IIb	覆土2層	1	49Tc	3626	IIb	覆土2層	1	51Tc	3720	礫片	覆土1層	1	50Td	
3438	IIb	覆土2層	1	51Td	3533	IIb	覆土2層	6	50Tb	3627	フレイク	覆土2層	1	51Tc	3721	IIb	覆土1層	1	50Td	
3439	フレイク	覆土2層	1	51Td	3534	IIb	覆土2層	1	50Sc	3628	フレイク	覆土2層	1	51Tc	3722	礫	覆土1層	1	50Td	
3440	IIb	覆土2層	1	51Td	3535	IIb	覆土2層	2	不明	3629	フレイク	覆土2層	1	52Ta	3723	礫	覆土1層	1	50Td	
3441	IIb	覆土2層	1	51Td	3536	フレイク	覆土2層	1	不明	3630	フレイク	覆土2層	1	52Ta	3724	礫	覆土1層	1	50Td	
3442	礫	覆土2層	1	51Td	3537	フレイク	覆土2層	1	不明	3631	フレイク	覆土2層	1	52Td	3725	礫片	覆土1層	1	50Td	
3443	フレイク	覆土2層	1	51Td	3538	フレイク	覆土2層	1	不明	3632	1	フレイク	覆土2層	1	52Td	3726	礫	覆土1層	1	50Td
3444	IIb	覆土2層	1	51Td	3539	フレイク	覆土2層	1	不明	3632	2	IIb	覆土2層	1	52Td	3727	礫片	覆土1層	1	50Td
3445	IIb	覆土2層	1	51Td	3540	礫	覆土2層	1	不明	3633	礫	覆土2層	1	52Td	3728	IIb	覆土1層	1	50Td	
3446	IIb	覆土2層	4	51Td	3541	IIb	覆土2層	1	51Ta	3634	IIb	覆土1層	1	52Td	3729	IIb	覆土1層	1	50Tc	
3447	礫	覆土2層	1	51Tc	3542	IIb	覆土2層	1	51Ta	3635	IIb	覆土1層	1	52Td	3730	IIb	覆土1層	3	50Tc	
3448	Uフレイク	覆土2層	1	50Sc	3543	礫片	覆土2層	1	51Ta	3636	IIb	覆土1層	1	52Td	3731	IIb	覆土1層	1	50Tc	
3449	IIb	覆土2層	3	50Sd	3544	たたき石	覆土2層	1	51Ta	3637	両面調整石器	覆土1層	1	52Td	3732	礫	覆土1層	1	5	

表Ⅲ-1-13 H18点取り遺物出土層位および器種名一覧11 (3754~4131)

遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名					
3754		被熱礫	覆土1層	1	51Td	3849		つまみ付きナイフ	覆土1層	1	52Td	3944	IIb	覆土1層	1	50Sc	4038	IIb	覆土2層	1	49Tc	
3755		台石片	覆土1層	1	51Ua	3850		礫	覆土1層	1	50Tc	3945	フレイク	覆土1層	1	50Sc	4039	IIb	覆土2層	1	51Td	
3756		礫	覆土1層	1	50Ub	3851		扁平打製石器片	覆土1層	1	50Tc	3946	フレイク	覆土1層	1	50Sc	4040	たたき石	覆土1層	1	51Td	
3757		フレイク	覆土1層	1	50Ub	3852	IIb	覆土1層	1	50Tc	3947	フレイク	覆土1層	1	50Sc	4041	IIb	覆土2層	1	51Td		
3758		北海道式石冠片	覆土1層	1	50Ub	3853	IIb	覆土1層	1	50Tc	3948	IIb	覆土1層	2	50Sc	4042	IIb	覆土2層	1	51Ua		
3759		IIb	覆土1層	1	50Ub	3854	IIb	覆土1層	1	50Tc	3949	フレイク	覆土2層	1	50Sc	4043	礫	覆土2層	1	51Td		
3760		フレイク	覆土1層	1	50Ub	3855		礫片	覆土1層	1	50Tc	3950	IIb	覆土2層	1	50Sc	4044	礫	覆土1層	1	51Td	
3761		IIb	覆土1層	1	50Ub	3856		扁平打製石器片	覆土1層	1	50Tc	3951	IIb	覆土2層	1	50Sc	4045	IIb	覆土1層	1	51Tc	
3762		礫	覆土1層	1	50Ub	3857	IIb	覆土1層	2	51Tc	3952	IIb	覆土1層	1	50Tc	4046	礫	覆土1層	1	51Tc		
3763		フレイク	覆土1層	1	50Ub	3858		被熱礫	覆土1層	1	51Td	3953	IIb	覆土1層	1	50Tc	4047	IIb	覆土2層	3	51Tc	
3764		フレイク	覆土1層	1	50Ub	3859	IIb	覆土1層	1	50Ub	3954	IIb	覆土1層	1	51Td	4048	IIb	覆土1層	1	51Tc		
3765		IIb	覆土1層	1	50Ub	3860	IIb	覆土1層	1	50Ub	3955	フレイク	覆土2層	1	50Tc	4049	IIb	覆土1層	1	51Tc		
3766		フレイク	覆土1層	1	50Ub	3861		フレイク	覆土1層	1	50Ub	3956	IIb	覆土2層	1	50Tc	4050	IIb	覆土2層	1	51Tc	
3767		礫	覆土1層	1	50Ub	3862		スクレイパー	覆土1層	1	50Ub	3957	IIb	覆土1層	2	50Tb	4051	IIb	覆土1層	1	51Tc	
3768		被熱礫片	覆土1層	1	50Ub	3863	IIb	覆土1層	1	50Ub	3958	すり石片	覆土1層	1	50Tb	4052	礫	覆土1層	1	51Tc		
3769		台石片	覆土1層	1	50Ub	3864	IIb	覆土1層	1	50Ub	3959	ドリル	覆土1層	1	50Tb	4053	礫	覆土1層	1	51Tc		
3770		礫	覆土1層	1	50Ub	3865		フレイク	覆土1層	1	50Ub	3960	IIb	覆土2層	1	50Tb	4054	IIb	覆土1層	1	51Tc	
3771		スクレイパー片	覆土1層	1	50Ub	3866		被熱礫片	覆土1層	1	50Uc	3961	フレイク	覆土2層	1	50Tb	4055	IIb	覆土1層	1	51Tc	
3772		礫	覆土1層	1	50Ub	3867		礫	覆土1層	1	50Uc	3962	IIb	覆土1層	2	50Tb	4056	礫	覆土1層	1	51Tc	
3773		IIb	覆土1層	2	50Ub	3868		石皿	覆土1層	1	51Td	3963	IIb	覆土1層	1	50Tb	4057	IIb	覆土2層	1	51Tc	
3774		IIb	覆土1層	1	50Ub	3869		礫片	覆土2層	1	50Ub	3964	礫	覆土1層	1	50Tb	4058	フレイク	覆土1層	1	51Tc	
3775		礫片	覆土1層	1	50Ub	3870	IIb	覆土2層	1	50Ub	3965	IIb	覆土1層	1	50Sc	4059	礫	覆土1層	1	51Tc		
3776		フレイク	覆土1層	1	50Ub	3871	IIb	覆土2層	1	50Ub	3966	IIb	覆土1層	1	50Sc	4060	IIb	覆土1層	1	51Tc		
3777		フレイク	覆土1層	1	50Ub	3872	IIb	覆土2層	1	50Ub	3967	IIb	覆土1層	3	50Sc	4061	礫	覆土1層	1	51Tc		
3778		Uフレイク	覆土1層	1	50Ub	3873	IIb	覆土2層	1	50Ub	3968	フレイク	覆土1層	1	50Sc	4062	礫	覆土1層	1	51Tc		
3779		礫片	覆土1層	1	50Ub	3874		フレイク	覆土2層	1	50Uc	3969	IIb	覆土1層	1	50Sc	4063	礫	覆土1層	1	51Tc	
3780		IIb	覆土1層	2	50Ub	3875		被熱礫片	覆土1層	1	50Tc	3970	礫	覆土1層	1	50Tc	4064	IIb	覆土1層	1	51Tc	
3781		礫片	覆土1層	1	50Ub	3876		フレイク	覆土1層	1	50Tc	3971	IIb	覆土1層	1	50Tc	4065	礫	覆土1層	1	51Tc	
3782		礫片	覆土1層	1	50Ub	3877	IIb	覆土1層	1	50Tb	3972	礫	覆土1層	1	51Td	4066	礫	覆土2層	1	51Ub		
3783		礫片	覆土1層	1	50Ub	3878		フレイク	覆土1層	1	50Tb	3973	IIb	覆土2層	1	50Tc	4067	IIb	覆土1層	1	52Td	
3784		フレイク	覆土1層	1	50Ub	3879		礫片	覆土1層	1	50Tb	3974	礫	覆土1層	1	50Tc	4068	IIb	覆土2層	1	52Td	
3785		礫	覆土1層	1	50Ub	3880		礫	覆土1層	1	50Tb	3975	フレイク	覆土1層	1	50Tc	4069	IIb	覆土1層	1	52Td	
3786		IIb	覆土1層	1	50Uc	3881		礫	覆土1層	1	50Tb	3976	礫	覆土1層	1	50Tc	4070	フレイク	覆土1層	1	52Td	
3787		IIb	覆土1層	1	50Uc	3882		フレイク	覆土1層	1	50Tb	3977	IIb	覆土1層	1	50Tc	4071	IIb	覆土1層	1	52Ua	
3788		IIb	覆土1層	1	50Uc	3883		フレイク	覆土1層	1	50Tb	3978	IIb	覆土1層	1	50Tc	4072	礫	覆土1層	1	52Td	
3789		礫	覆土1層	1	50Uc	3884		フレイク	覆土1層	1	50Tb	3979	石鏃	覆土2層	1	50Tc	4073	IIb	覆土1層	1	52Td	
3790		IIb	覆土1層	1	50Uc	3885		フレイク	覆土1層	1	50Tb	3980	IIb	覆土2層	1	50Tc	4074	フレイク	覆土1層	1	52Td	
3791		礫	覆土1層	1	50Uc	3886	IIb	覆土1層	1	50Tb	3981	IIb	覆土2層	1	50Tc	4075	フレイク	覆土1層	1	52Td		
3792		IIb	覆土1層	1	50Uc	3887		フレイク	覆土1層	1	50Tb	3982	IIb	覆土1層	1	50Tc	4076	礫	覆土1層	1	52Td	
3793		礫	覆土1層	1	50Uc	3888		台石	覆土1層	1	50Tb	3983	IIb	覆土1層	1	50Tc	4077	IIb	覆土1層	1	52Td	
3794		礫片	覆土1層	1	49Tc	3889	IIb	覆土1層	1	50Tb	3984	IIb	覆土2層	1	50Tc	4078	フレイク	覆土1層	1	52Td		
3795		IIb	覆土1層	1	49Tc	3890		フレイク	覆土1層	1	50Tb	3985	フレイク	覆土2層	1	50Tc	4079	IIb	覆土1層	1	52Td	
3796		たたき石	覆土1層	1	50Td	3891		礫	覆土2層	1	50Tb	3986	IIb	覆土2層	1	50Tc	4080	フレイク	覆土1層	1	52Td	
3797		フレイク	覆土1層	1	50Td	3892		石斧片	覆土2層	1	50Tb	3987	礫片	覆土2層	1	50Tc	4081	フレイク	覆土1層	1	52Td	
3798		礫片	覆土1層	1	50Td	3893	IIb	覆土2層	1	50Tb	3988	礫	覆土2層	1	50Tc	4082	フレイク	覆土1層	1	52Td		
3799		礫	覆土1層	1	50Td	3894		礫	覆土2層	1	50Tb	3989	礫	覆土2層	1	50Tc	4083	IIb	覆土1層	1	52Td	
3800		たたき石	覆土1層	1	50Td	3895	IIb	覆土2層	1	50Tb	3990	IIb	覆土2層	1	50Tc	4084	フレイク	覆土1層	1	52Td		
3801		たたき石	覆土1層	1	50Td	3896		礫	覆土2層	1	50Tb	3991	IIb	覆土2層	1	50Tc	4085	フレイク	覆土1層	1	52Td	
3802		IIb	覆土1層	1	50Td	3897	IIb	覆土2層	1	50Tb	3992	両面調整石器	覆土2層	1	50Td	4086	IIb	覆土2層	1	52Td		
3803		IIb	覆土1層	1	50Td	3898		礫片	覆土1層	1	50Tb	3993	フレイク	覆土2層	1	50Td	4087	フレイク	覆土1層	1	52Td	
3804		フレイク	覆土1層	1	51Tc	3899		礫	覆土1層	1	50Tb	3994	IIb	覆土2層	1	50Td	4088	IIb	覆土2層	3	52Td	
3805		フレイク	覆土1層	1	51Tc	3900	IIb	覆土1層	2	50Tb	3995	フレイク	覆土2層	1	50Td	4089	IIb	覆土2層	1	52Ua		
3806		IIb	覆土1層	1	51Tc	3901		礫片	覆土1層	1	50Tb	3996	IIb	覆土2層	1	50Td	4090	フレイク	覆土1層	1	52Td	
3807		Uフレイク	覆土1層	1	51Tc	3902	IIb	覆土1層	2	50Tb	3997	IIb	覆土2層	1	50Td	4091	フレイク	覆土1層	1	52Td		
3808		フレイク	覆土1層	1	51Tc	3903		フレイク	覆土1層	1	50Tb	3998	IIb	覆土2層	1	50Td	4092	フレイク	覆土1層	1	52Td	
3809		礫片	覆土1層	1	51Tc	3904		フレイク	覆土1層	1	50Tb	3999	I	フレイク	覆土2層	1	50Td	4093	IIb	覆土1層	1	52Td
3810		IIb	覆土1層	1	51Tc	3905		フレイク	覆土1層	1	50Tb	3999	2	たたき石	覆土2層	1	50Td	4094	フレイク	覆土1層	1	52Td
3811		フレイク	覆土1層	1	51Tc	3906		フレイク	覆土1層	1	50Tb	4000	IIb	覆土2層	1	50Td	4095	フレイク	覆土1層	1	52Td	
3812		被熱礫	覆土1層	1	51Tc	3907		礫	覆土1層	1	50Tb	4001	IIb	覆土1層	1	50Td	4096	IIb	覆土1層	1	52Td	
3813		たたき石	覆土1層	1	51Tc	3908		フレイク	覆土1層	1	50Tb	4002		つまみ付きナイフ	覆土1層	1	50Td	4097	フレイク	覆土1層	1	52Td
3814		IIb	覆土1層	2	51Tc	3909		礫	覆土1層	1	50Tb	4003		つまみ付きナイフ	覆土1層	1	50Td	4098	IIb	覆土1層	3	52Td
3815		IIb	覆土1層	1	51Tc	3910	IIb	覆土1層	1	50Tb	4004		礫	覆土1層	1	50Td	4099	IIb	覆土1層	1	52Td	
3816		フレイク	覆土1層	1	51Tc	3911	IIb	覆土1層	1	50Tb	4005	IIb	覆土2層	1	50Td	4100	フレイク	覆土1層	1	52Td		
3817		IIb	覆土1層	3	52Td	3912		礫	覆土1層	1	50Tb	4006	フレイク	覆土2層	1	50Td	4101	フレイク	覆土2層	1	52Td	
3818		礫	覆土1層	1	52Td	3913	IIb	覆土1層	1	50Tb	4007	礫	覆土2層	1	50Td	4102	フレイク	覆土2層	1	52Td		
3819		フレイク	覆土1層	1	52Td	3914	IIb	覆土2層	1	50Tb	4008	IIb	覆土1層	1	50Td	4103	IIb	覆土1層	1	52Td		
3820		礫	覆土1層	1	52Td	3915	IIb	覆土2層	3	50Tb	4009	礫	覆土1層	1	50Td	4104	IIb	覆土1層	1	52Td		
3821		フレイク	覆土1層	1	52Td	3916		フレイク	覆土2層	1	50Tb	4010	IIb	覆土2層	1	50Td	4105	IIb	覆土1層	1	52Td	
3822		フレイク	覆土1層	1	52Td	3917	IIb	覆土2層	2	50Tb	4011		フレイク	覆土1層	1	50Td	4106	IIb	覆土1層	4	52Ua	
3823		IIb	覆土1層	1	52Td	3918		礫片	覆土2層	1	50Tc	4012		フレイク	覆土2層	1	50Td	4107	IIb	覆土1層	1	51Ub
3824		IIb	覆土1層	3																		

表Ⅲ-1-14 H18点取り遺物出土層位および器種名一覧12 (4132~4313)

遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	遺物番号	枝番	分類	層位	点数	調査区名	
4132	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Ta	4178	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Ud	4224	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Ua	4270	礫	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	
4133	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4179	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Ud	4225	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Ua	4271	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	
4134	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4180	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Ud	4226	礫	覆土3層	覆土3層	1	50Tc	4272	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	52Ta	
4135	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sc	4181	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Ud	4227	たたき石	覆土3層	覆土3層	1	50Tc	4273	礫	覆土3層	覆土3層	1	52Ta	
4136	スクレイパー	覆土3層	覆土3層	1	50Sc	4182	石核	覆土3層	覆土3層	1	50Ud	4228	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Tc	4274	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	
4137	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4183	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Ud	4229	扁平打製石器	覆土3層	覆土3層	1	51Td	4275	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	
4138	IIb	覆土3層	覆土3層	4	50Sc	4184	礫	覆土3層	覆土3層	1	50Uc	4230	IIb	覆土3層	覆土3層	4	51Td	4276	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	
4139	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sc	4185	礫	覆土3層	覆土3層	1	50Uc	4231	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Td	4277	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	
4140	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sc	4186	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Uc	4232	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Td	4278	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	
4141	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Ud	4187	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Uc	4233	欠番	覆土3層	覆土3層	1	51Td	4279	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	
4142	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4188	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4234	石斧未成品	覆土3層	覆土3層	1	51Td	4280	扁平打製石器	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	
4143	IIb	覆土3層	覆土3層	5	50Sd	4189	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4235	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Td	4281	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	
4144	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4190	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4236	礫	覆土3層	覆土3層	1	51Tc	4282	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	
4145	IIb	覆土3層	覆土3層	2	50Sd	4191	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4237	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Ub	4283	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	
4146	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4192	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4238	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Ub	4284	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	
4147	礫	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4193	IIb	覆土3層	覆土3層	3	51Sd	4239	礫	覆土3層	覆土3層	1	49Ub	4285	フレイク	床	床	1	51Tb	
4148	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4194	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4240	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4286	フレイク	床	床	1	51Tb	
4149	礫片	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4195	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sc	4241	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4287	フレイク	床	床	1	51Tb	
4150	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4196	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sc	4242	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4288	Uフレイク	床	床	1	51Tb	
4151	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4197	IIb	覆土3層	覆土3層	2	50Sc	4243	IIb	覆土3層	覆土3層	19	50Uc	4289	Uフレイク	床	床	1	51Tb	
4152	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4198	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Tb	4244	礫	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4290	Uフレイク	床	床	1	51Tb	
4153	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4199	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Sc	4245	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4291	IIb	床	床	10	52Td	
4154	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4200	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sc	4246	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4292	被熱礫片	床	床	1	52Td	
4155	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4201	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sc	4247	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4293	IIb	床	床	1	52Td	
4156	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4202	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sc	4248	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4294	Uフレイク	床	床	1	51Tc	
4157	礫片	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4203	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Tb	4249	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4295	たたき石	床	床	1	52Ta	
4158	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4204	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4250	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Sc	4296	フレイク	床	床	1	51Uc	
4159	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4205	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4251	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4297	IIb	床	床	1	50Ud	
4160	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4206	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4252	礫	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4298	IIb	床	床	2	50Ud	
4161	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4207	IIb	床	床	53	52Tb	4253	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4299	フレイク	床	床	1	50Sd	
4162	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4208	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sc	4254	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4300	IIb	床	床	1	52Td	
4163	礫片	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4209	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4255	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4301	IIb	床	床	1	50Td	
4164	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4210	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4256	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4302	フレイク	床	床	1	51Tb	
4165	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4211	礫	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4257	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	52Td	4303	IIb	床	床	1	51Tb	
4166	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4212	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Ta	4258	IIb	覆土3層	覆土3層	2	52Td	4304	石血片	床	床	1	50Ub	
4167	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4213	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4259	IIb	覆土3層	覆土3層	2	52Td	4305	IIb	床	床	1	50Ud	
4168	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4214	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4260	IIb	覆土3層	覆土3層	2	51Tb	4306	北海道式石冠	床	床	1	49Tc	
4169	石核	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4215	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Sd	4261	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4307	被熱礫片	床	床	1	49Ub	
4170	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4216	礫	覆土3層	覆土3層	1	49Tc	4262	石鉞	覆土3層	覆土3層	1	51Ta	4308	IIb	床	床	1	49Uc	
4171	スクレイパー	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4217	礫	覆土3層	覆土3層	1	49Tc	4263	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4309	台石	覆土3層	覆土3層	1	50Ud	
4172	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4218	IIb	覆土3層	覆土3層	2	51Ub	4264	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4310	扁平打製石器	覆土2層	覆土2層	1	50Uc	
4173	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4219	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4265	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4311	IIb	HP-41床面	HP-41床面	4	49Tc	
4174	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4220	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Sc	4266	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4312	スクレイパー	HP-41床面	HP-41床面	1	49Ub	
4175	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	50Ta	4221	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Sc	4267	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4313	IIb	HP-41床面	HP-41床面	7	49Ub	
4176	IIb	覆土3層	覆土3層	2	50Ta	4222	IIb	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4268	礫	覆土3層	覆土3層	1	51Tb							
4177	IIb	覆土3層	覆土3層	1	50Sd	4223	フレイク	覆土3層	覆土3層	1	51Tb	4269	IIb	覆土3層	覆土3層	2	51Tb							

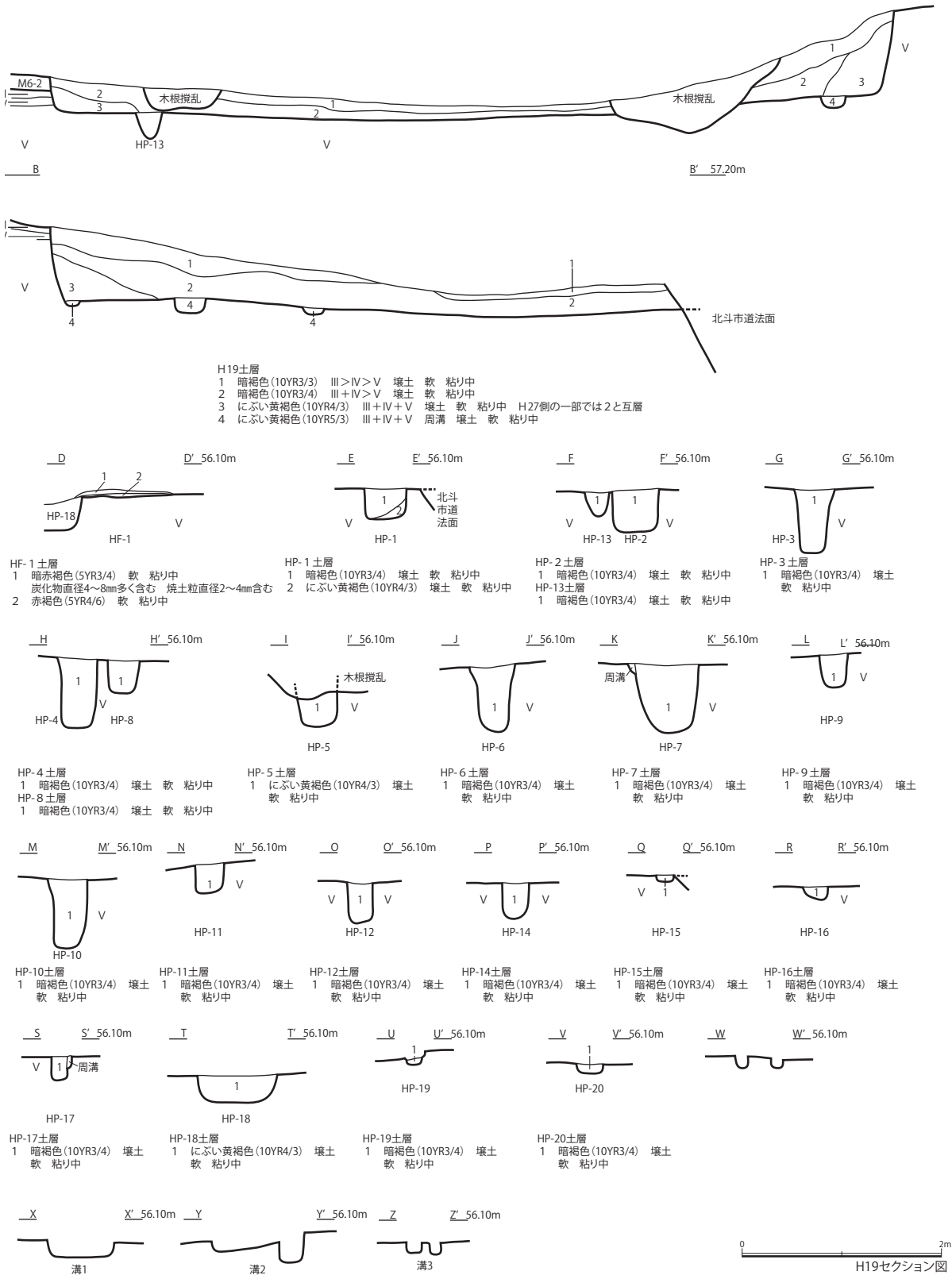


図Ⅲ-1-29 H19平面図

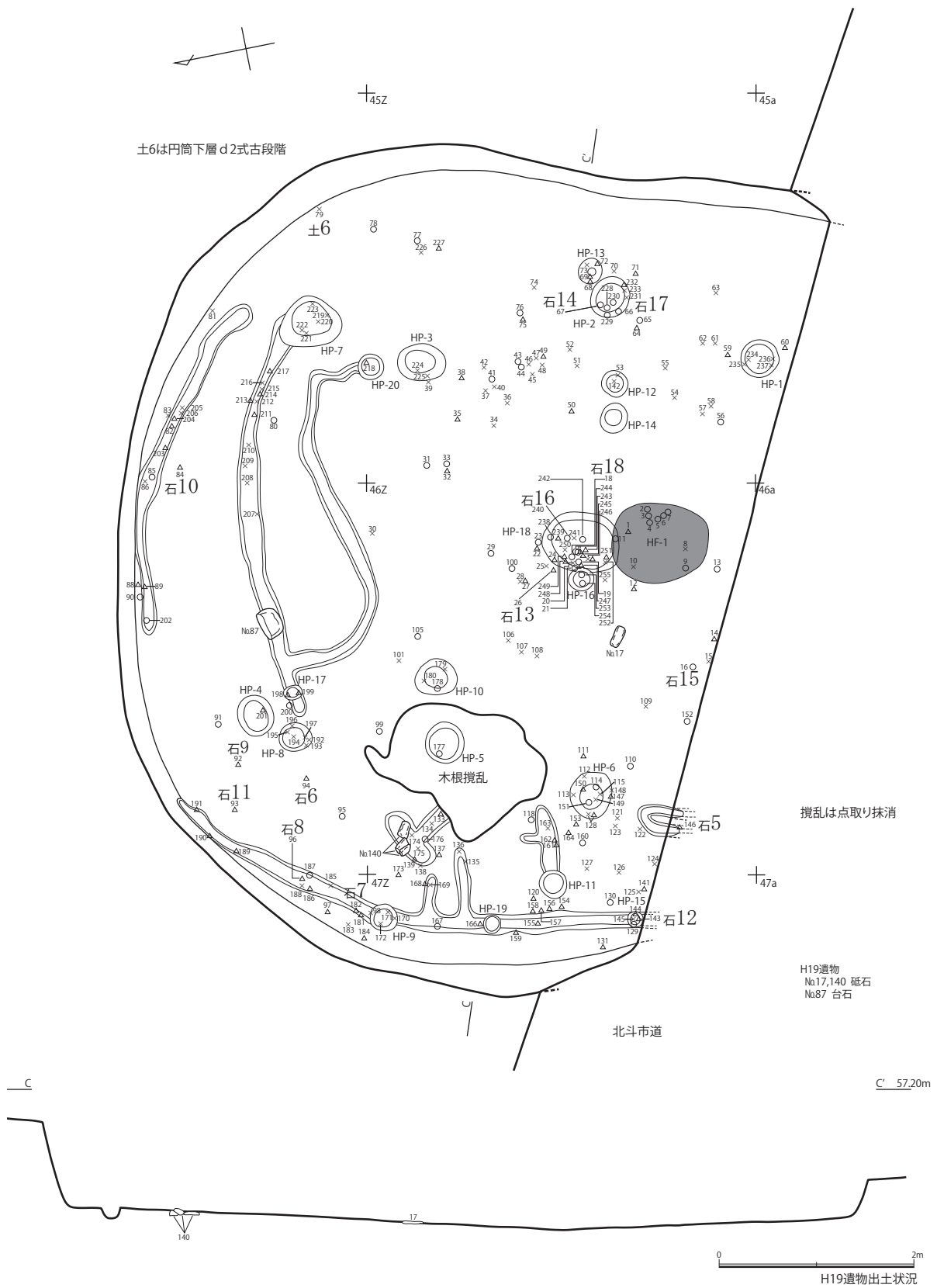
H19 (図Ⅲ-1-29~31、-2-2、-3-4・5、カラー図版11、図版8・55・123・124)

位置・立地 45~47-Y~a区 調査区中央の平坦面

確認・調査 Ⅲ層上面を精査した際に褐色土の高まりとⅢ層の落ち込みを確認した。そこからⅢ層を約30cm掘り下げたところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、柱穴、周溝、掘り上げ土を確認し、住居跡と判断した。範囲は調査区外に広がるが、道路の反対側の切土断面には続かない。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。周辺の住居跡の周辺の住居の掘り上げ土を含めた土層の観察から、M6盛土やH25~27より新しい。



図Ⅲ-1-30 H19土層断面図・H19付属遺構土層断面図



図Ⅲ-1-31 H19点取り遺物出土状況図

表Ⅲ-1-15 H19点取り遺物出土層位および器種名一覧(1~255)

遺物番号	扶番	分類	層位	点数	遺物番号	扶番	分類	層位	点数	遺物番号	扶番	分類	層位	点数	遺物番号	扶番	分類	層位	点数
1		Uフレイク	HF-1覆土1	1	66		たたき石	床面	1	130		礫	床面	1	195		IIb	HP-8覆土1	3
2		礫片	HF-1覆土1	1	67		北海道式石冠	床面	1	131		フレイク	床面	1	196		IIb	HP-8覆土1	3
3		礫片	HF-1覆土1	1	68		フレイク	床面	1	132		フレイク	攪乱	1	197		IIb	HP-8覆土1	1
4		扁平打製石器片	HF-1覆土1	1	69		フレイク	床面	1	133		フレイク	床面	1	198		フレイク	HP-17覆土1	1
5		礫	HF-1覆土1	1	70		IIb	床面	1	134		IIb	床面	2	199		フレイク	HP-17覆土1	1
6		礫片	HF-1覆土1	1	71		フレイク	床面	1	135		IIb	床面	1	200		礫	周溝覆土1	1
7		礫	HF-1覆土1	1	72		フレイク	床面	1	136		IIb	床面	3	201		フレイク	周溝覆土1	1
8		IIb	HF-1覆土1	1	73		IIb	床面	1	137		フレイク	床面	1	202		礫片	周溝覆土1	1
9		礫	HF-1覆土1	4	74		IIb	床面	1	138		IIb	床面	3	203		フレイク	周溝覆土1	1
10		IIb	HF-1覆土1	1	75		フレイク	床面	1	139		フレイク	床面	1	204		フレイク	周溝覆土1	1
11		礫片	HF-1覆土1	1	76		礫	床面	1	140		砥石	床面	3	205		IIb	周溝覆土1	2
12		フレイク	床面	1	77		礫	床面	1	141		フレイク	床面	1	206		IIb	周溝覆土1	3
13		礫	床面	1	78		礫	床面	1	142		IIb	床面	1	207		IIb	周溝覆土1	1
14		フレイク	床面	1	79		IIb	床面	15	143		スクレイパー	床面	1	208		IIb	周溝覆土1	1
15		IIb	床面	1	80		礫	床面	1	144		フレイク	床面	1	209		IIb	周溝覆土1	1
16		北海道式石冠片	床面	1	81		IIb	床面	1	145		IIb	床面	1	210		IIb	周溝覆土1	1
17		砥石	床面	1	82		フレイク	床面	1	146		ドリル	床面	1	211		フレイク	周溝覆土1	1
18		たたき石	床面	1	83		IIb	床面	1	147		フレイク	床面	1	212		IIb	周溝覆土1	1
19		たたき石	床面	1	84		スクレイパー	床面	1	148		IIb	床面	1	213		Rフレイク	周溝覆土1	1
20		IIb	床面	1	85		礫片	床面	1	149		IIb	床面	1	214		フレイク	周溝覆土1	1
21		礫	床面	1	86		焼成粘土塊	床面	1	150		フレイク	床面	1	215		IIb	周溝覆土1	1
22		フレイク	床面	1	87		台石	床面	1	151		礫	HP-6覆土1	1	216		IIb	周溝覆土1	1
23		礫	床面	1	88		フレイク	床面	1	152		石鱗片	床面	1	217		フレイク	周溝覆土1	1
24		フレイク	床面	1	89		フレイク	床面	1	153		フレイク	床面	7	218		Uフレイク	HP-20覆土1	1
25		IIb	床面	1	90		礫片	床面	1	154		フレイク	床面	1	219		IIb	HP-7覆土1	1
26		両面調整石器	床面	1	91		たたき石	床面	1	155		フレイク	周溝覆土1	1	220		IIb	HP-7覆土1	1
27		フレイク	床面	1	92		スクレイパー	床面	1	156		フレイク	床面	1	221		IIb	HP-7覆土1	1
28		IIb	床面	1	93		スクレイパー	床面	1	157		フレイク	床面	1	222		IIb	HP-7覆土1	1
29		礫	床面	1	94		ドリル	床面	1	158		フレイク	床面	1	223		IIb	HP-7覆土1	1
30		IIb	床面	3	95		たたき石	床面	1	159		フレイク	床面	1	224		IIb	HP-3覆土1	1
31		礫	床面	1	96		スクレイパー	床面	1	160		礫	床面	1	225		IIb	HP-3覆土1	1
32		フレイク	床面	1	97		スクレイパー片	床面	3	161		フレイク	床面	1	226		IIb	床面	1
33		礫	床面	1	98		IIb	床面	2	162		フレイク	床面	1	227		フレイク	床面	1
34		IIb	床面	13	99		礫	床面	1	163		IIb	床面	1	228		たたき石	HP-2覆土1	1
35		フレイク	床面	1	100		礫	床面	2	164		フレイク	床面	4	229		礫	HP-2覆土1	1
36		IIb	床面	1	101		IIb	床面	2	165		IIb	攪乱	1	230		礫	HP-2覆土1	1
37		IIb	床面	6	102		礫	攪乱	1	166		フレイク	周溝覆土1	1	231		IIb	HP-2覆土1	1
38		フレイク	床面	1	103		IIb	攪乱	1	167		礫	周溝覆土1	1	232		フレイク	HP-2覆土1	1
39		IIb	床面	4	104		IIb	攪乱	1	168		フレイク	周溝覆土1	1	233		IIb	HP-2覆土1	1
40		IIb	床面	1	105		礫	床面	1	169		IIb	周溝覆土1	1	234		IIb	HP-1覆土1	2
41		礫	床面	1	106		IIb	床面	2	170		IIb	HP-9覆土1	2	235		IIb	HP-1覆土1	1
42		IIb	床面	2	107		IIb	床面	1	171		IIb	HP-9覆土1	1	236		IIb	HP-1覆土1	2
43		礫	床面	1	108		IIb	床面	1	172		IIb	HP-9覆土1	1	237		IIb	HP-1覆土1	1
44		礫	床面	1	109		IIb	床面	1	173		フレイク	床面	1	238		礫	HP-18覆土1	1
45		IIb	床面	1	110		礫	床面	1	174		IIb	床面	1	239		フレイク	HP-18覆土1	1
46		IIb	床面	2	111		フレイク	床面	1	175		IIb	周溝覆土1	1	240		石鱗	HP-18覆土1	1
47		IIb	床面	2	112		IIb	床面	5	176		砥石片	周溝覆土1	1	241		IIb	HP-18覆土1	1
48		IIb	床面	2	113		IIb	床面	1	177		礫片	HP-5覆土1	1	242		礫	HP-18覆土1	1
49		フレイク	床面	1	114		礫	床面	3	178		扁平打製石器片	HP-10覆土1	1	243		フレイク	HP-18覆土1	1
50		フレイク	床面	1	115		IIb	床面	1	179		IIb	HP-10覆土1	2	244	1	フレイク	HP-18覆土1	1
51		IIb	床面	5	116		IIb	攪乱	3	180		IIb	HP-10覆土1	2	244	2	礫	HP-18覆土1	1
52		IIb	床面	1	117		IIb	攪乱	1	181		フレイク	周溝覆土1	1	244	3	礫	HP-18覆土1	2
53		IIb	床面	1	118		礫	床面	1	182		つまみ付きナイフ	周溝覆土1	1	245		フレイク	HP-18覆土1	1
54		IIb	床面	6	119		IIb	攪乱	1	183		IIb	周溝覆土1	1	246	1	IIb	HP-18覆土1	1
55		IIb	床面	1	120		フレイク	床面	1	184		フレイク	周溝覆土1	1	246	2	フレイク	HP-18覆土1	1
56		たたき石	床面	1	121		IIb	床面	1	185		IIb	周溝覆土1	6	247		フレイク	HP-18覆土1	1
57		IIb	床面	1	122		IIb	床面	1	186		フレイク	周溝覆土1	1	248		フレイク	HP-18覆土1	1
58		IIb	床面	7	123		IIb	床面	1	187		石斧未成品	周溝覆土1	1	249		フレイク	HP-18覆土1	15
59		フレイク	床面	1	124		IIb	床面	1	188		IIb	周溝覆土1	1	250		IIb	HP-18覆土1	1
60		フレイク	床面	1	125		IIb	床面	2	189		フレイク	周溝覆土1	1	251		フレイク	HP-18覆土1	1
61		IIb	床面	3	126		IIb	床面	1	190		フレイク	周溝覆土1	1	252		IIb	HP-18覆土1	1
62		IIb	床面	2	127		IIb	床面	10	191		フレイク	周溝覆土1	1	253		礫	HP-16覆土1	1
63		IIb	床面	7	128	1	IIb	床面	3	192		IIb	HP-8覆土1	2	254		礫	HP-16覆土1	1
64		フレイク	床面	1	128	2	フレイク	床面	1	193		IIb	HP-8覆土1	1	255		IIb	床面	3
65		礫	床面	1	129		礫	床面	1	194		IIb	HP-8覆土1	1					

覆土 自然堆積である。溝1~3は周溝1層で点取りした。

構造 平面形は隅丸方形または隅丸長方形である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。周囲には掘り上げ土がリング状に分布する。

付属遺構 HF-1は中央に位置する楕円形の地床炉である。HP-1~8・10は支柱穴で、HP-1・2・3または7・5・6の6本柱と考える。HP-3・7とHP-4・8、HP-5・10は柱穴を改変した可能性がある。HP-12~14は支柱穴で、HP-13は先端が尖る杭状である。HP-16はHF-1に伴う柱穴の可能性ある。HP-9・15・17・19・20は周溝に伴う柱穴である。HP-11はT字状の溝に伴う柱穴である。HP-18は土坑である。坑底はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。覆土は埋め戻しである。周溝は壁際に沿って北側に3条、西側に1条巡る。北側の3条のうち、内側の2本は西側でつながっている。溝1と溝2はT字形の溝である。この溝1と溝2に向かって周溝が内側に向かって伸びており、何らかの内部施設または出入り口の可能性がある。また、溝3は南半が削平されて全形は不明であるが、U字形の溝である。溝1~3は周溝の一部が途切れたものの可能性もある。(佐藤)

遺物出土状況 3,331点出土した。土器類は、覆土1層と覆土2層いずれも同一個体のまとまりはなかった。縄文時代前期後半円筒下層b式から円筒下層d2式、さらに一部は中期円筒上層a式まで出土している。また円筒下層b式については磨滅が著しい破片ばかりである。床面から円筒下層d2式の最古段階が出土している。焼成粘土塊も出土する。

石器類はフレイク、礫の覆土出土が目立つ、次にスクレイパー、Uフレイク、北海道式石冠、扁平打製石器、台石、たたき石の覆土出土が目立つ。

掘り上げ土出土遺物には取り上げ作業時の混乱のため、他住居掘り上げ土の遺物が入った袋が混入している可能性があった。調査区が付記されているものについては集計時に適正を心掛けた。縄文時代前期後半円筒下層式土器が目立つ。石器類ではフレイクと礫が多く、次にスクレイパー、扁平打製石器が目立つ。

時期 M6盛土より新しい、遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層d2式の時期である。

(大泰司)

H20 (図Ⅲ-1-32~34、-2-3~5、-3-5、図版9・56~58・124)

位置・立地 54~56-S・T区 標高57.0m付近の平坦面

確認・調査 Sラインに設定した土層観察用のベルトで確認した。遺構が想定される位置に土層観察用のベルトを設定し、トレンチ調査を行なった。その結果、平坦な面と明瞭な立ち上がり認められたので住居跡と判断した。遺物は遺構覆土出土のものを覆土で、床面出土のものは床面で取り上げ位置を記録した。

覆土 土葺きの屋根土と考えられる黒褐色土が、壁の立ち上がり付近に厚く堆積している。中央付近では、M4盛土の再堆積土、V層の掘り上げ土と考えられる黄褐色土、M2盛土の再堆積土、Ⅲ層の流入土などが互層となる。

構造 掘り込みはM4盛土中と考えられ、V層を若干掘り込んで平坦な床面を構築している。壁は急に立ち上がる。平面形は円形である。

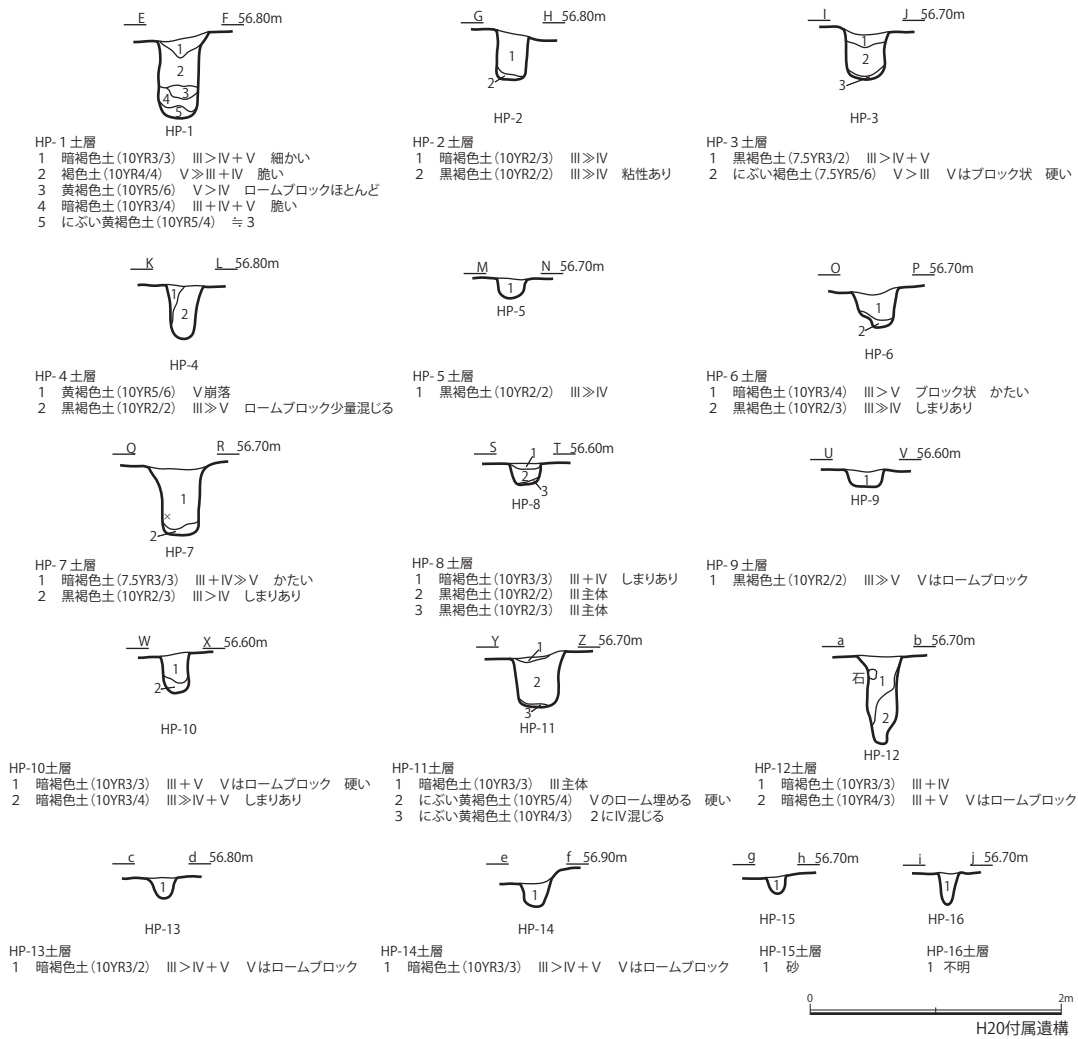
付属遺構 柱穴状のピットは14基確認した。径の大きさと深さから、HP-1・3・7・11は主柱穴と考えられるが、規則的な配列は見られない。東側の壁際で検出したHP-13・14は出入り口施設に関連する柱穴跡の可能性はある。北側の壁際に周溝状の窪みを一か所検出した。

遺物出土状況 床面出土の遺物は、中央付近から北海道式石冠、たたき石、石皿などの礫石器類が出土している。

(村田)

7,678点の遺物が出土した。土器類は縄文時代前期後半が主体だが、少量の早期後半の土器が混在する。焼成粘土塊も出土する。床面の点取りどうしは接合しなかった。復元土器1~4は住居廃絶後のくぼみの中央部から出土した。円筒下層b2式から円筒下層d1式にかけての時期であった。これらの遺物は床面よりやや上の遺物(床上と命名)と接合しなかった。これらは円筒下層b式主体である。H20は脇にあるSトレンチの点取り遺物とは接合しなかった。石器は覆土から礫、フレイクが多く出土し、次に覆土出土のスクレイパーの多さが際立つ。つまみ付きナイフ、Uフレイク、扁平打製石器、被熱礫・礫片の覆土出土が次に目立つ。住居廃絶後、土器が廃棄されている様子がうかがえる。石器についても同様なため、覆土から定型的な石器が多く出土するものとする。

時期 出土遺物から、縄文時代前期後半、円筒下層c式土器頃の時期である。



図Ⅲ-1-33 H20付属遺構土層断面図

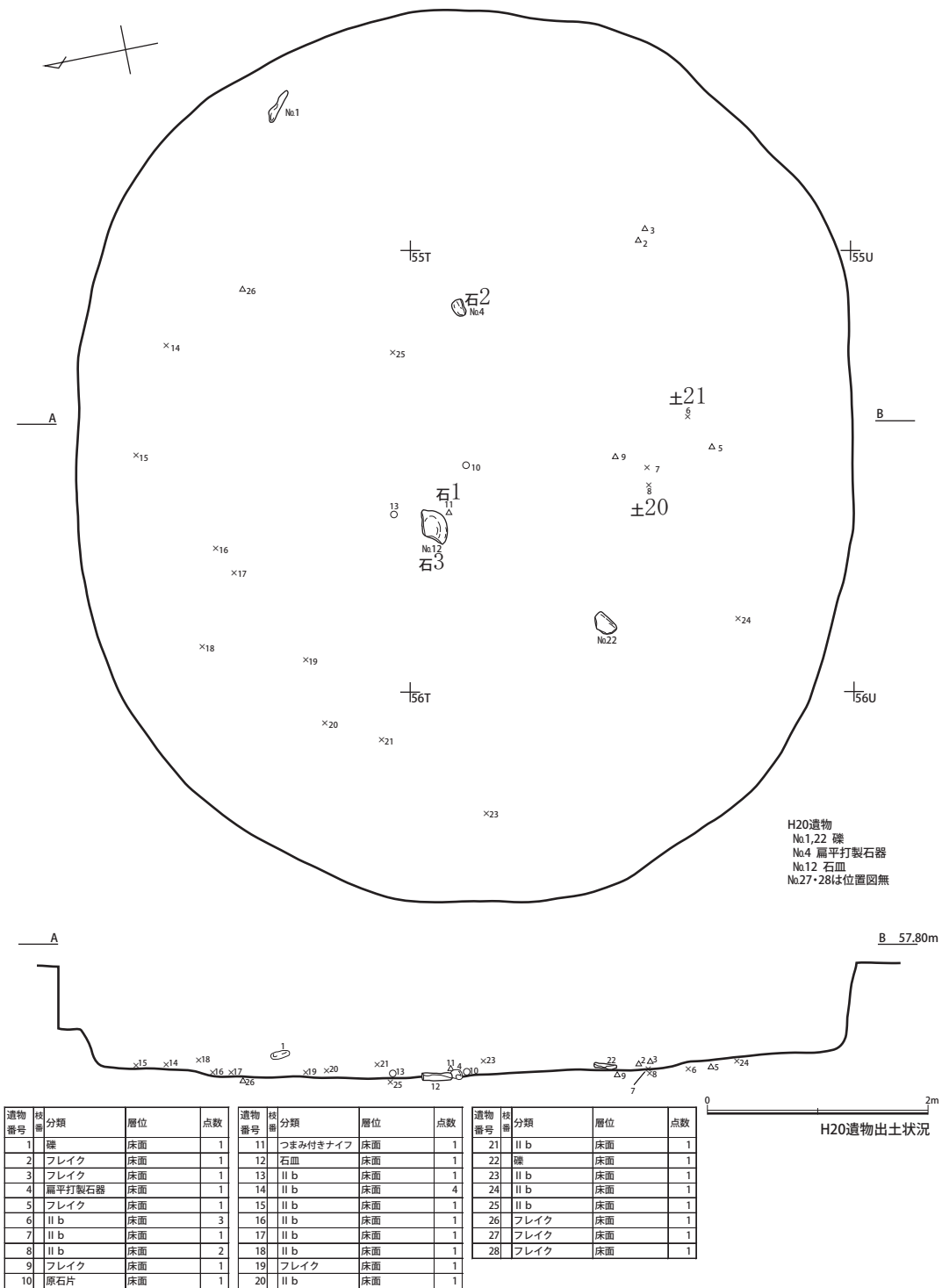


図 III - 1 - 34 H20遺物出土状況図

H21 (図Ⅲ-1-35~38、-2-6~12、-3-6、カラー図版5・6、図版10・58~63・124・125)

位置・立地 59~61-T・U区 標高58.0m付近の斜面。緩斜面から急斜面に移行した傾斜変換部分

確認・調査 Aトレンチ60T区を掘り下げたところM2盛土からV層主体のM3盛土に土層が移行した後その下から礫層を検出した。さらに掘り下げ、M2盛土と時期差のない土器が焼土(F69)とともにまとまって検出された。Aトレンチにおいて60T区を挟む61S・59U区ではM3の下からM2より古い土器がまとまっているM4盛土が検出されたのとは異なる様相であった。穴への廃棄と判断し、穴の規模と掘り上げ土の落ち込みを思わせる土層堆積状況から竪穴住居H21への複数回の廃棄を想定した。

F69を伴う白色粘土層がすり鉢状に落ち込んでいる。遺構覆土について覆土上半部、下半部、覆土9層、床直のおおよそ4回にわけて取り上げた。覆土上半部はM2盛土形成時に窪みとしてあったH21痕跡に廃棄したものと考えられる。覆土下半部も同様であるが、グライ化したM3盛土をはさんで上半部よりは古い可能性があった。覆土9層はすり鉢を形成する土層であり、覆土下半部に対して若干の古い可能性があった。床直としたものは厳密には構築時の床面より上の土層からの出土遺物であり、そこが生活面ないしは住居廃絶時の床面である可能性がある。覆土下半部および覆土9層について遺構中央部についてはすり鉢の底であり、堆積が他の場所と比べて薄い。この場所については床直との高低差はほとんどない事から床面遺物と覆土への廃棄遺物が一部混在している可能性がある。

まずAトレンチの東側半分を掘り下げた。まず覆土上半部を掘り下げた後、Aトレンチに直行する位置に土層観察用の土手を残し、床面を検出した。遺物を取り上げた後メインセクションと直行する土手はずし、西側も同様の手順で床面を検出した。住居の東側は傾斜の変換点よりすぐ下にあり、廃棄し易かったのか出土遺物量は多い。またAトレンチの土手より西側の覆土は、M3盛土の分布範囲が不明瞭であり、覆土中の遺物取り上げ時に覆土上半、下半分、覆土9層といった3段階にわけることが出来なかった。西側を掘り下げた段階でベンチを検出した。すると平面形が当初円形のプランを予想していたことに対して、南北方向に長軸を持つ楕円形となった。ベンチを持つ1軒の楕円形の住居か、2軒の円形をした住居か、覆土における遺物出土状況の濃淡も分かれており、両方の可能性はあったが、覆土土層断面に古い方の住居壁面は検出されなかった。また完掘後、支柱穴と考えられる太い柱痕跡はすべてベンチ内側の窪んだ部分にある事から、1軒の竪穴住居と判断した。

掘り込み面は、遺構壁際が崩れているため、土層からの識別もむずかしいが、周囲のM4盛土について基底部の土器が残っていたためM4形成の後に構築された住居である。

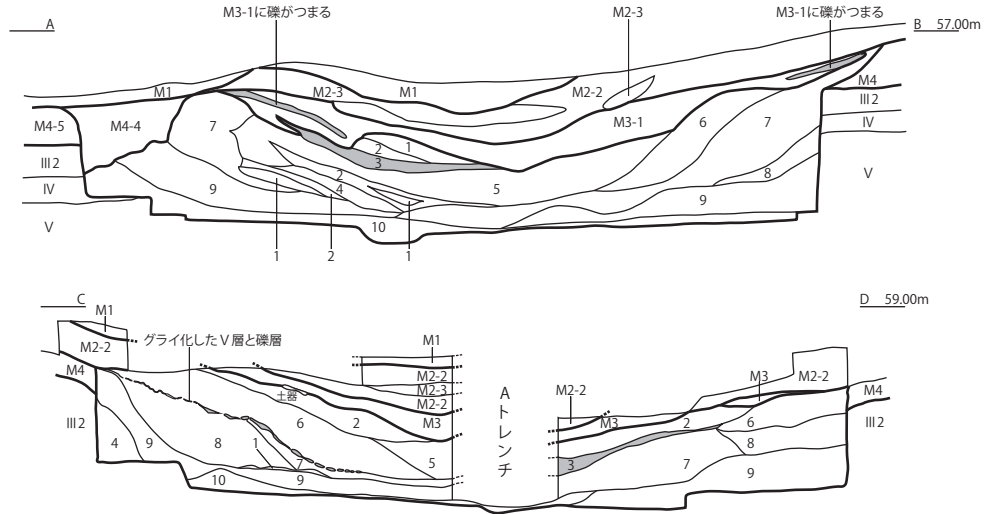
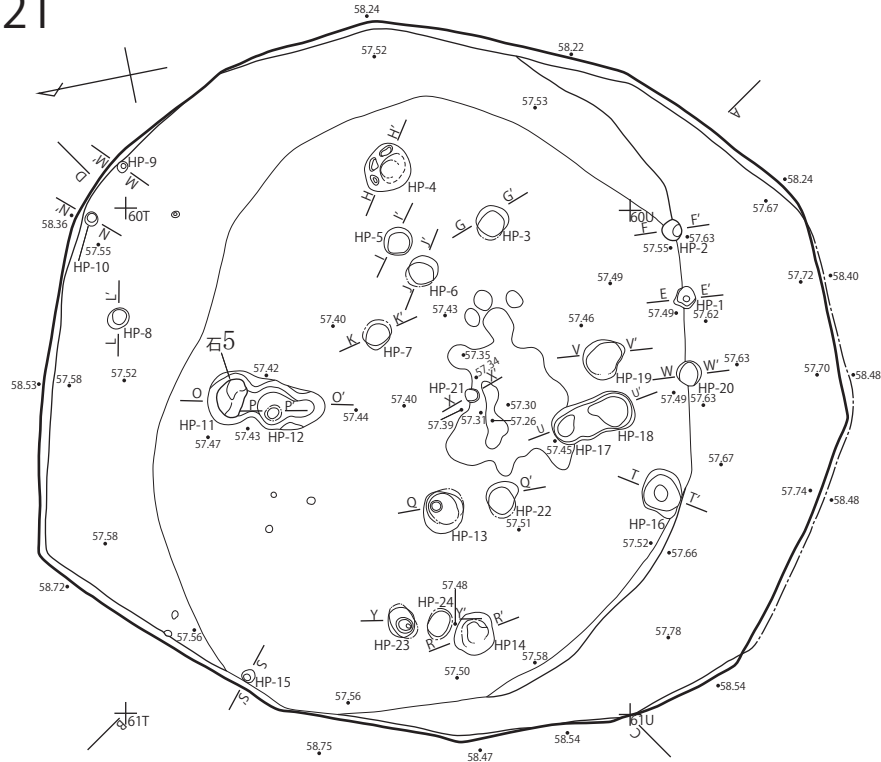
覆土 窪みに対する遺物廃棄を含むと考えられた土層には、土器がまとまって出土した以外に、匝円の大礫の出土が目を引いた。同じ大きさでまとまっているものもあった。竪穴住居構築時にV層起源の礫を廃棄した可能性もある。また、覆土7・8層といったV層主体の土が、穴の縁辺より中央にまとまっている堆積状況は土葺屋根の崩落を思わせる。

構造 平面形は八角形に近い不整な円形。低いベンチ構造を持ち、中央はさらにくぼむ。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

付属遺構 楕円形をした住居平面形に対してベンチ部分は長軸側が幅広く、短軸側の幅がより狭く作られている。またベンチに囲まれた床面中央部分は浅く窪む。その平面形は不整な形状で、取り囲むように砂ピットHP-21・22がある。

支柱穴の可能性のある柱穴が八か所ある。平面形に対して短軸を対称軸として、HP-3・4に対してHP-16・19・20が、HP-11に対してHP-13・14が対となる。HP-11はHP-12に連続し、大型の柱穴である。HP-20は比較的深いのが、ベンチの段差に対して密接して掘り込まれる。同じくベンチ際にあるHP-1・2と等間隔に並ぶ事から、支柱穴以外の機能を持った柱である可能性もある。したがって4本一組の

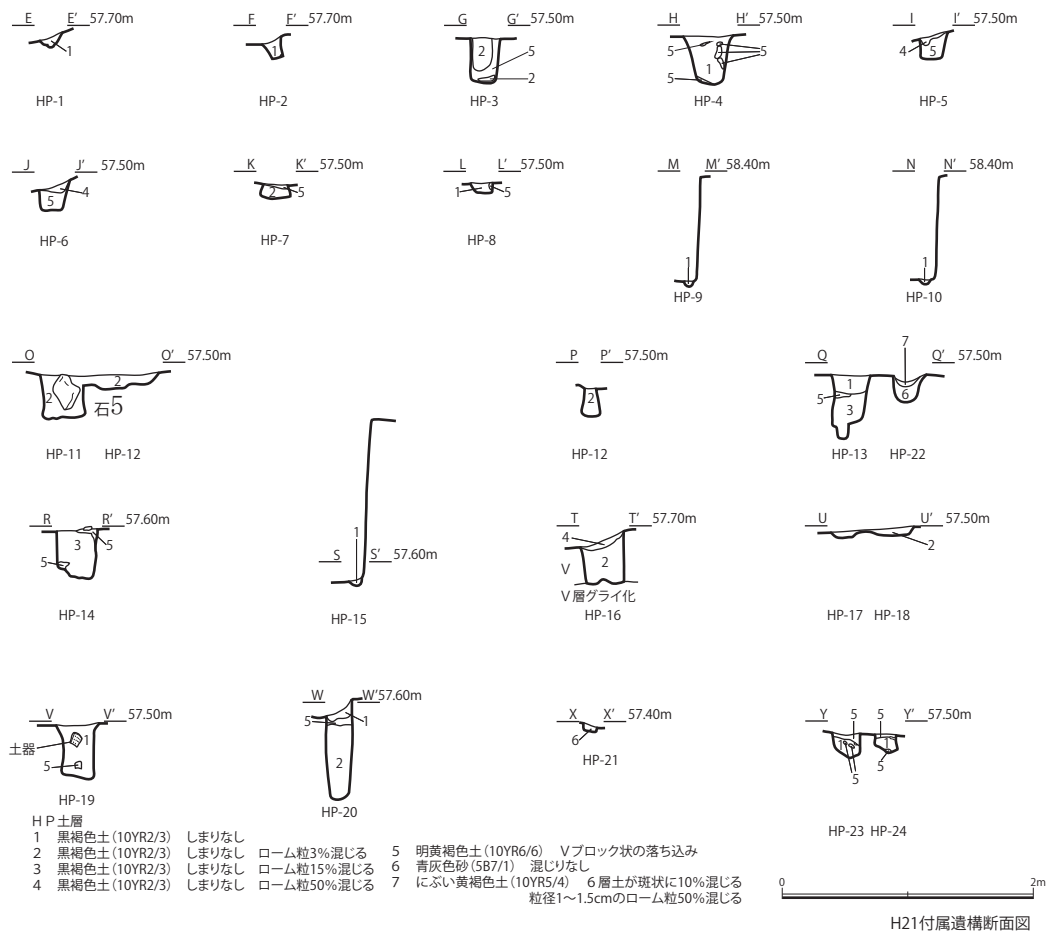
H21



- H21土層
- 1 黄褐色土(10YR5/8) V主体土
 - 2 黒褐色土(10YR2/2) III主体土
 - 3 黄褐色土(10YR5/8) 礫混じりのV主体土
 - 4 明黄褐色土(10YR6/6) Vブロック状の落ち込み
 - 5 褐色土(10YR4/6) V>III よく混在する
 - 6 暗褐色土(10YR3/4) III主体土に(III+V)土が小〜大粒径で10%混じる
 - 7 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 覆土5に小粒径で5%V土が混じる
 - 8 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 覆土5におよそ直径20cmV土が混じる
 - 9 暗褐色土(10YR3/4) III(黒褐色土)主体 小〜中粒径の黄褐色土10%混じる
 - 10 暗褐色土(10YR3/4) III(黒褐色土)主体 小〜中粒径の黄褐色土10%以上密に混じる



図 III - 1 - 35 H21平面図・土層断面図



図Ⅲ-1-36 H21付属遺構土層断面図

支柱穴が二時期分あるいはそれ以上の時期使用された、とも推測できる。だとすると、ロームで蓋がされたHP-16が古く、掘りかたと柱痕跡がはっきり分かれた土層断面を示すHP-3については新しい、そして位置的にHP-11が長期にわたって用いられたものであろう。

遺物出土状況 8,703点の遺物が出土した。土器については、まとまった円筒下層c式(1・2・3)が出土するが、円筒下層d1式と比べると残存率は良好ではない。M4の遺物出土状況から、59ラインで円筒下層c式の破片がまとまって検出されている。M4に円筒下層c式が廃棄された時期あるいは直後に掘り込まれて、円筒下層d1式古段階古の頃に廃絶して廃棄場所になったと考える。焼成粘土塊も出土する。石器は覆土中から、フレイクと礫の出土が目立つ。次に、スクレイパー、つまみ付きナイフ、Uフレイク、Rフレイク、扁平打製石器、被熱礫の覆土出土が目立つ。住居廃絶後、土器が廃棄されている様子がうかがえる。石器についても同様なため、覆土から定型的な石器が多く出土するものと考えられる。

床面として取り上げた遺物については、覆土最下位遺物覆土9・10層の遺物を含むと考える。北側の支柱穴HP-11には人頭大の礫が詰め込まれていた。覆土調査中、目立った骨片を検出、洗浄したところ、海生哺乳網の焼骨片を1点検出した。

時期 遺物出土状況から縄文時代前期後半円筒下層c式が廃棄された時期あるいは直後に掘り込まれて、円筒下層d1式古段階古の頃に廃絶したと考える。(大泰司)

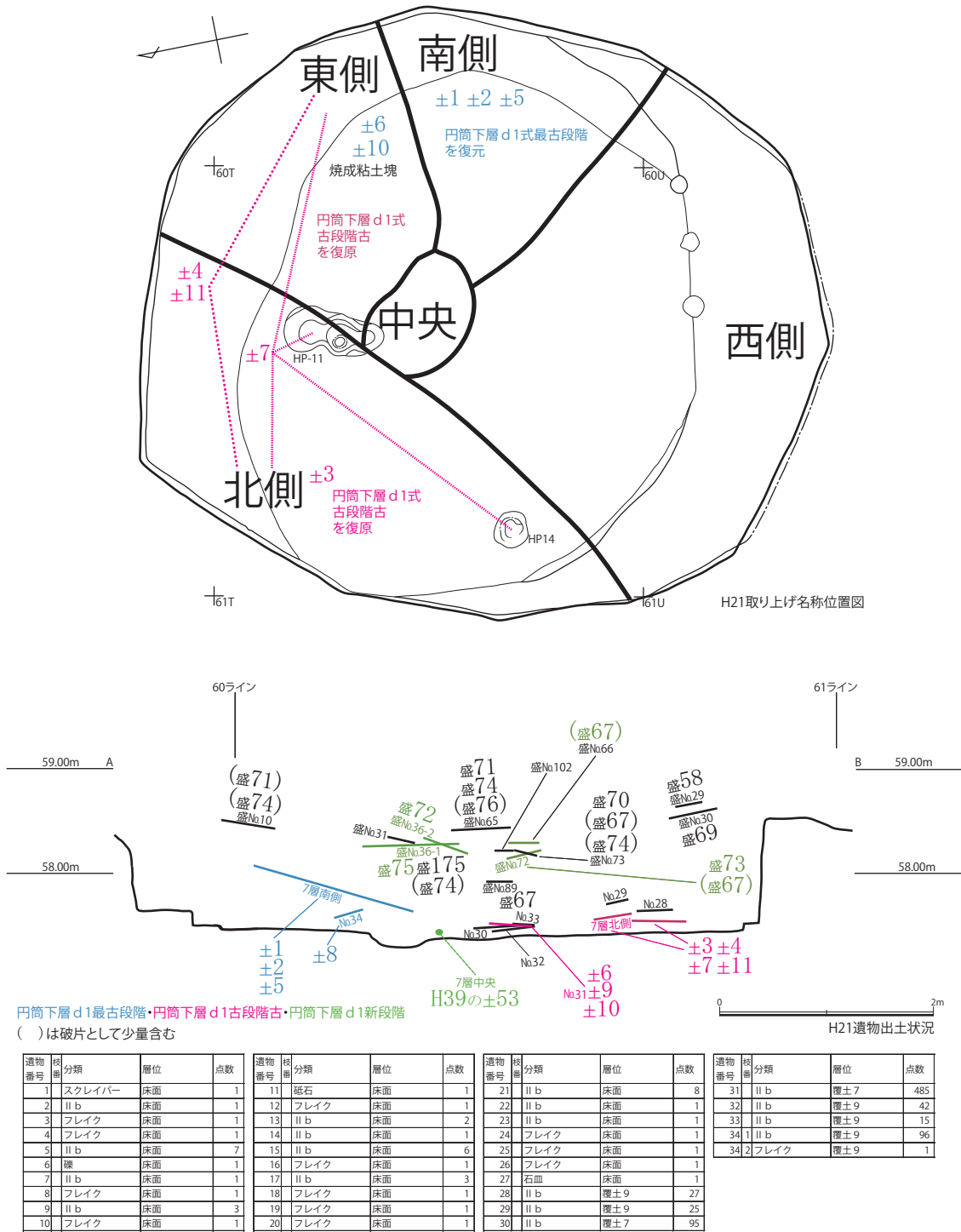
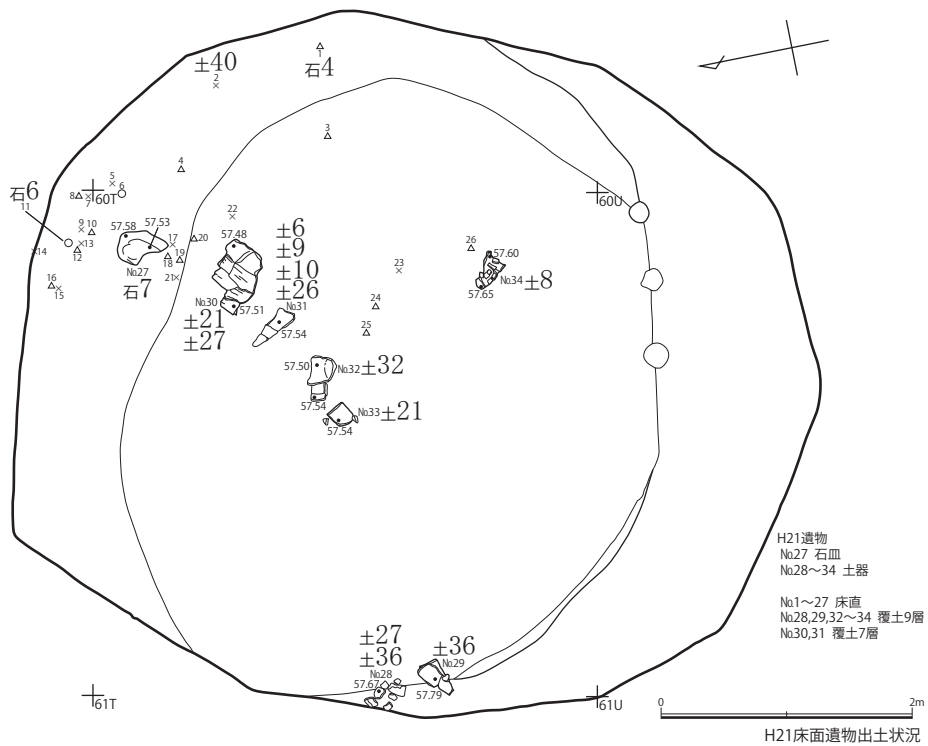
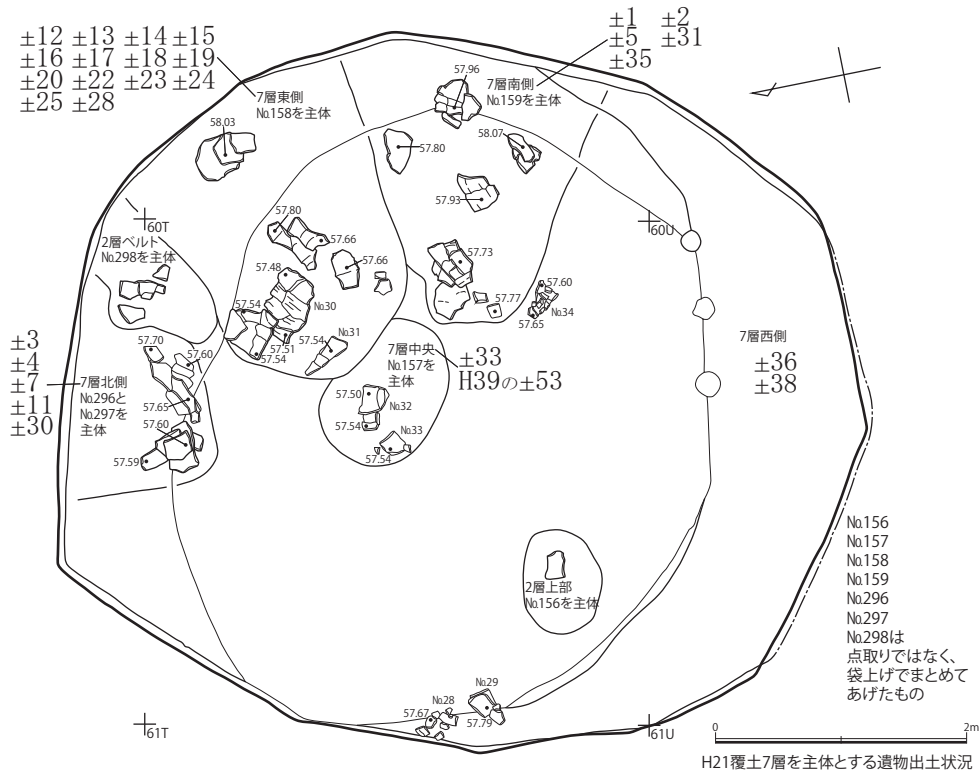


図 III - 1 - 37 H21点取り遺物出土状況垂直分布図



図Ⅲ-1-38 H21点取り遺物出土状況平面図(覆土7層・床面)

H22 (図Ⅲ-1-39、-2-13、図版11・64)

位置・立地 58・59-U・V区 標高57.6m付近の緩斜面

確認・調査 Aトレンチの南端、59U区を掘り下げた。M4盛土の下のⅢ2層さらに漸移層を下げて、V層上面にて、暗褐色土の入り込みを検出した。その平面形の縁は明瞭な線であった。大きさから堅穴住居の平面形の一部と判断して、Aトレンチの西側壁面を一部延長し、そしてそれに直行するように十文字の土層観察土手を残して、Ⅲ層および盛土が黒色化した土層を掘り下げて現れた褐色土のひろがりから、遺構の平面規模を把握し、その上で、覆土の掘り下げへと転じて、床面を検出した。

掘り込み面は、遺構壁際が崩れているため、土層からの識別もむずかしいが、周囲の盛土M4盛土について基底部の土器が残っていたことから、M4形成後に構築された住居である。

覆土 覆土から出土した土器のまともは、盛土M4盛土からの流入と考える。また、M2盛土が分布していない調査区において、覆土2層のようなV層主体の土が、穴の縁辺より中央にまとまっている堆積状況は土葺屋根の崩落を思わせる。

構造 平面形は不整な円形である。床面は平坦で、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

付属遺構 支柱穴の可能性のある柱穴が七か所ある。平面形に対して長軸を対称軸として、HP-2・3に対してHP-6・7が、HP-1に対してHP-4・5が対となる。二回以上の建て替えがあり、HP-1が二時期以上にわたって用いられた柱とも推測できるが、HP-5は脇にあるHP-4が浅く、HP-2・6についてもそれぞれ脇に位置するHP-3・7が小規模であるため支柱とその補助柱という見方も可能である。強いて覆土の土色から時期変遷を言うならば、HP-[1(浅い方) ⇔ 2 ⇔ 6 ⇔ 5]の時期があり、次に覆土が黒色土主体のHP-[1(深い方) ⇔ 3 ⇔ 7 ⇔ 5]か。HP-8は対称軸のほぼ中央、つまり遺構中央に位置する。

遺物出土状況 4,184点の遺物が出土した。覆土における遺物出土状況は前述の通りである。床面として取り上げた遺物だが、覆土遺物、のうち覆土最下位にあったものも含むと考える。北側の支柱穴HP-1には大型礫が4つ詰め込まれていた。

覆土下位から、円筒下層d1式古段階およびHP-2から円筒下層d1式が出土している。

時期 遺物出土状況から縄文時代前期後半円筒下層d1式の頃と考える。 (大泰司)

H23 (図Ⅲ-1-40~42、-2-14・15、-3-6・7、図版12・64~66・124・125)

位置・立地 52・53-U・V区 調査区のほぼ中央、矢不來川に向かって伸びる沢に面した段丘の平坦面、標高57.0m前後

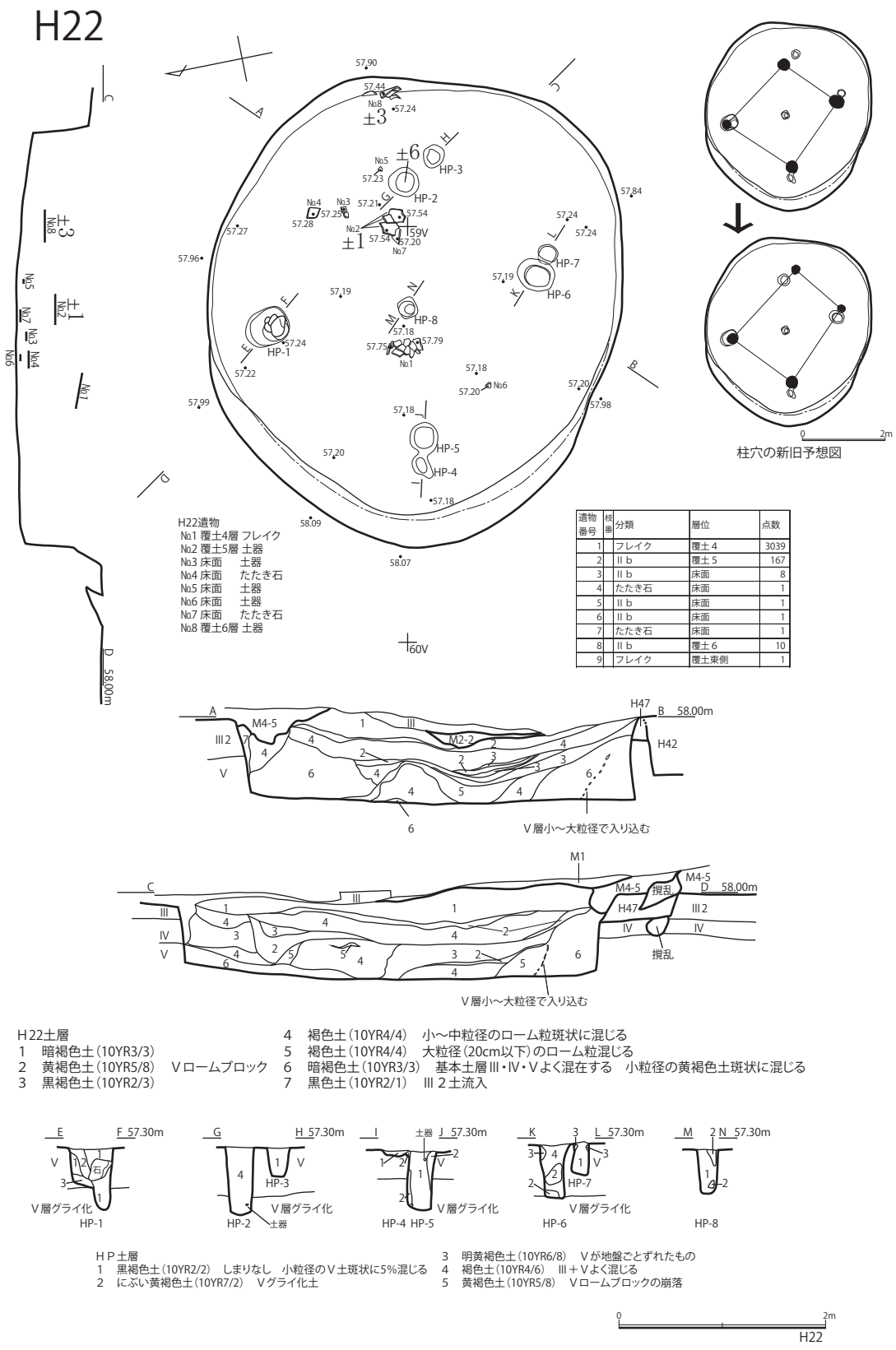
確認・調査 包含層調査により黒色土の落ち込みとして確認した。土層観察用のベルトを設定し掘り下げ、平坦な床面と急で明瞭な壁を検出し遺構と判断した。

構造 平面は角が丸い四角形に近い。床面に4本の支柱穴がある。床面中央では焼土を検出した。

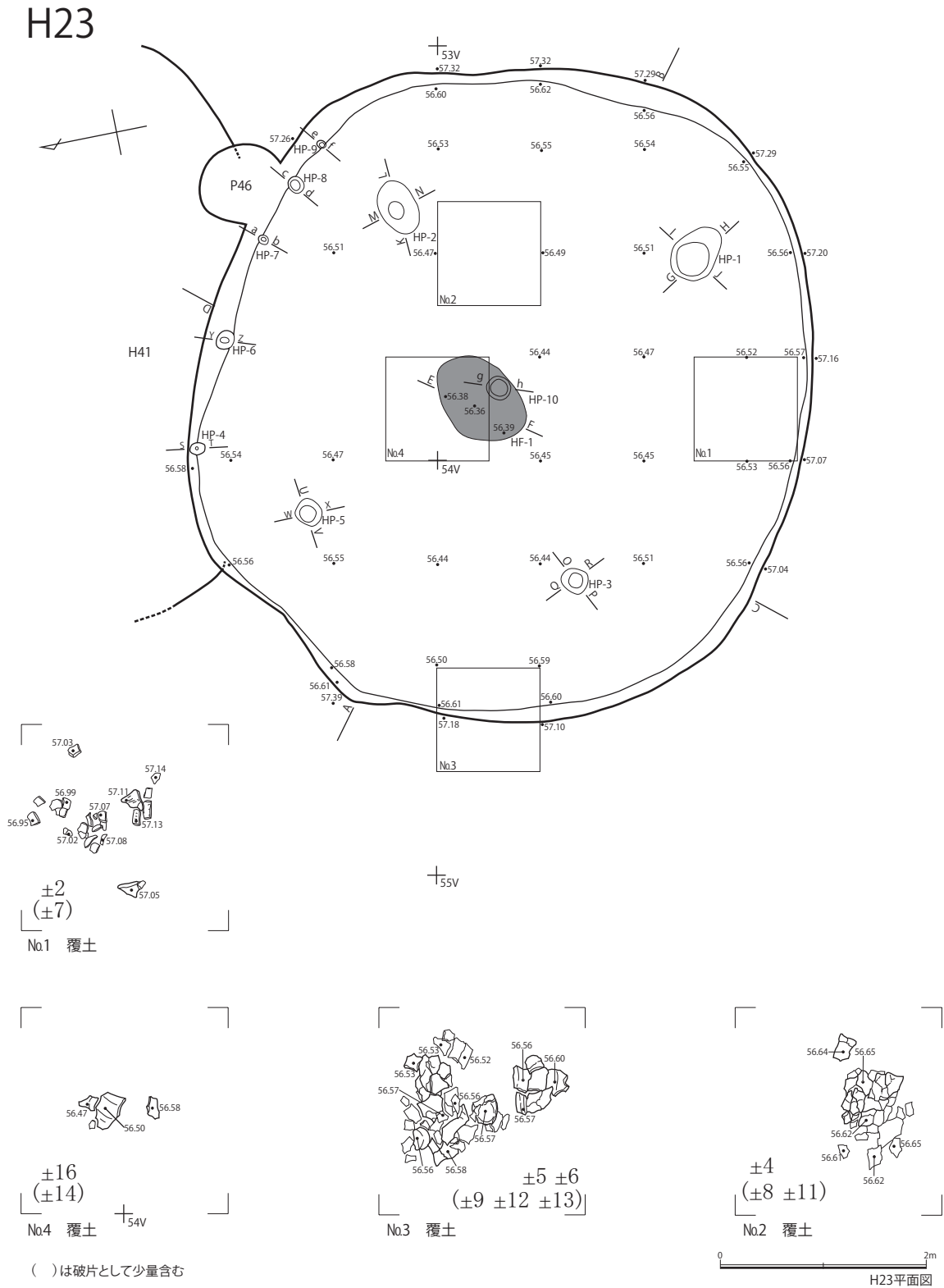
覆土 自然堆積によるものである。

付属遺構 中央に地床炉がある。中央部分が10cm程度窪む。炉の下からは更に柱穴状のピット(HP-10)を検出した。 (袖岡)

遺物出土状況 3,803点の遺物が出土した。土器については、覆土中からは、縄文時代前期後半、円筒土器下層d1式の土器二個体、一個体は円筒下層c式に近く、もう一個体は円筒下層d2式に近い。円筒下層d2式が一個体、縄文時代後期前葉が一個体出土している。焼成粘土塊も出土する。自然堆積に伴う、覆土中に点在していた遺物はH23の覆土出土土器として、まとめて取り上げている。付属遺構HP-2の覆土から円筒下層d1式土器が出土している。石器については、覆土中からフレイク、礫



図Ⅲ-1-39 H22平面図・遺物出土状況図・土層断面図・付属遺構土層断面図

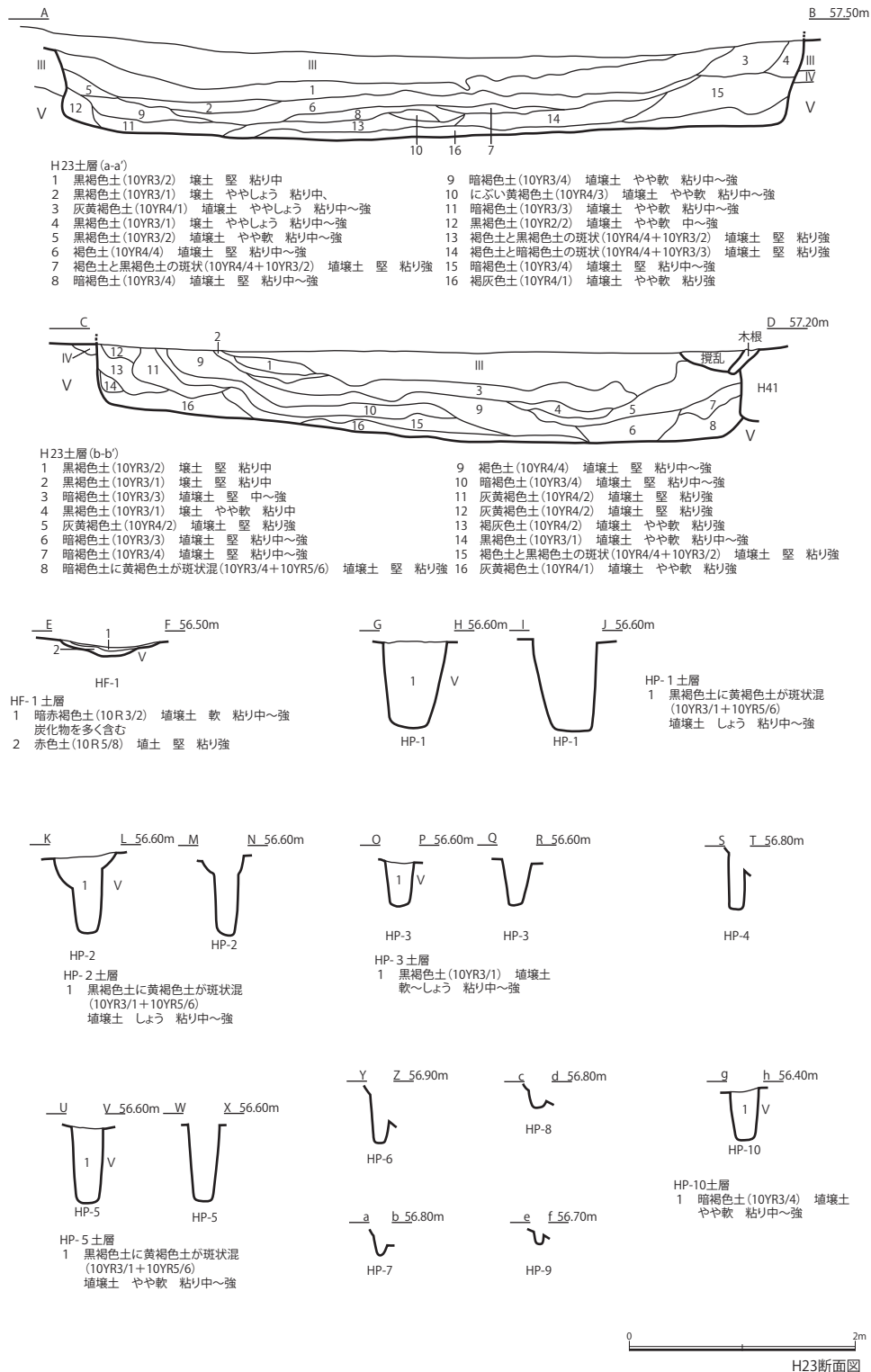


図Ⅲ-1-40 H23平面図・遺物出土状況図

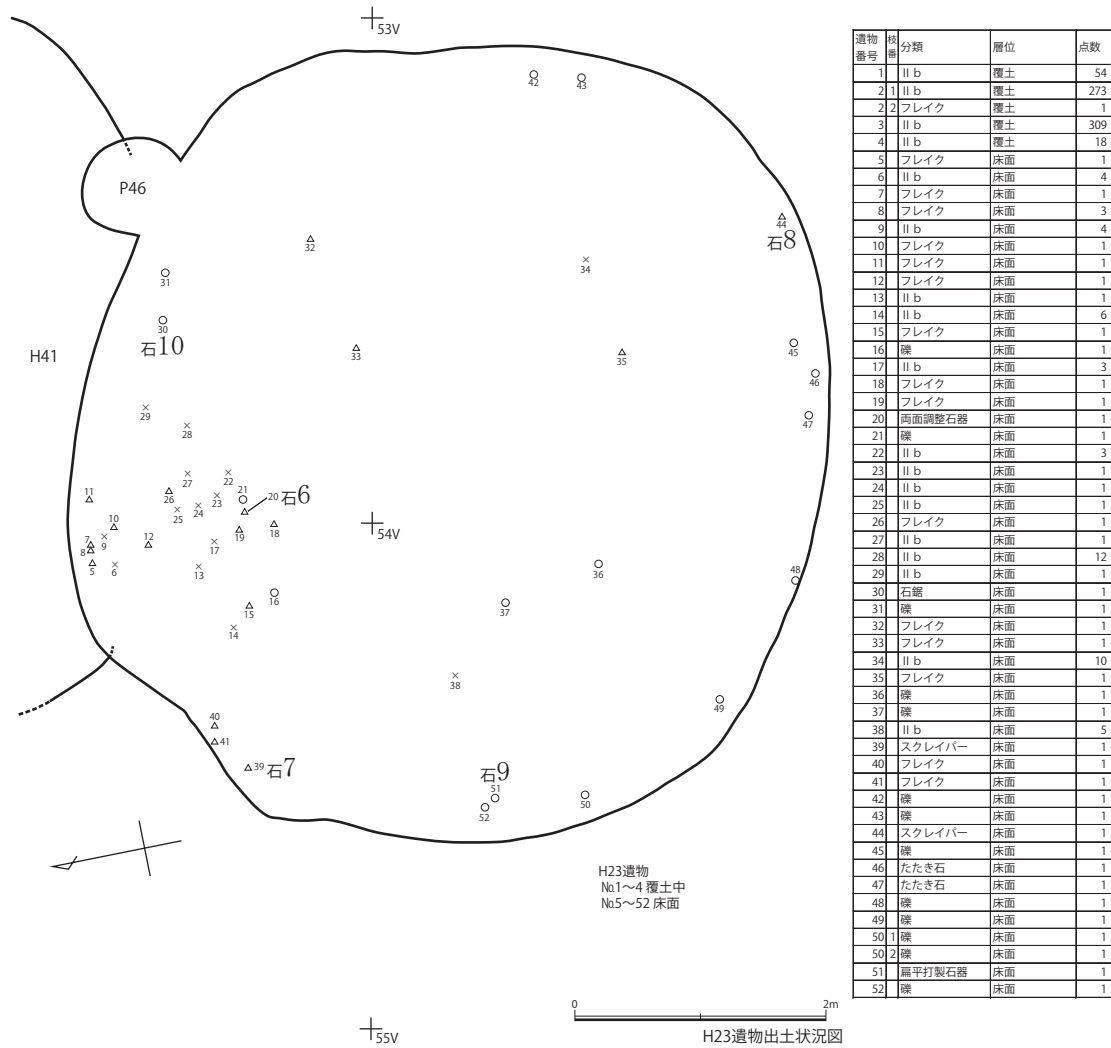
の出土が多い。次にスクレイパー、被熱礫の出土が目立つ。

時期 縄文時代前期後半、円筒下層c式から円筒下層d1式直前の時期の竪穴住居跡と判断する。

(大泰司)



図Ⅲ-1-41 H23土層断面図・付属遺構土層断面図



図Ⅲ-1-42 H23遺物出土状況図

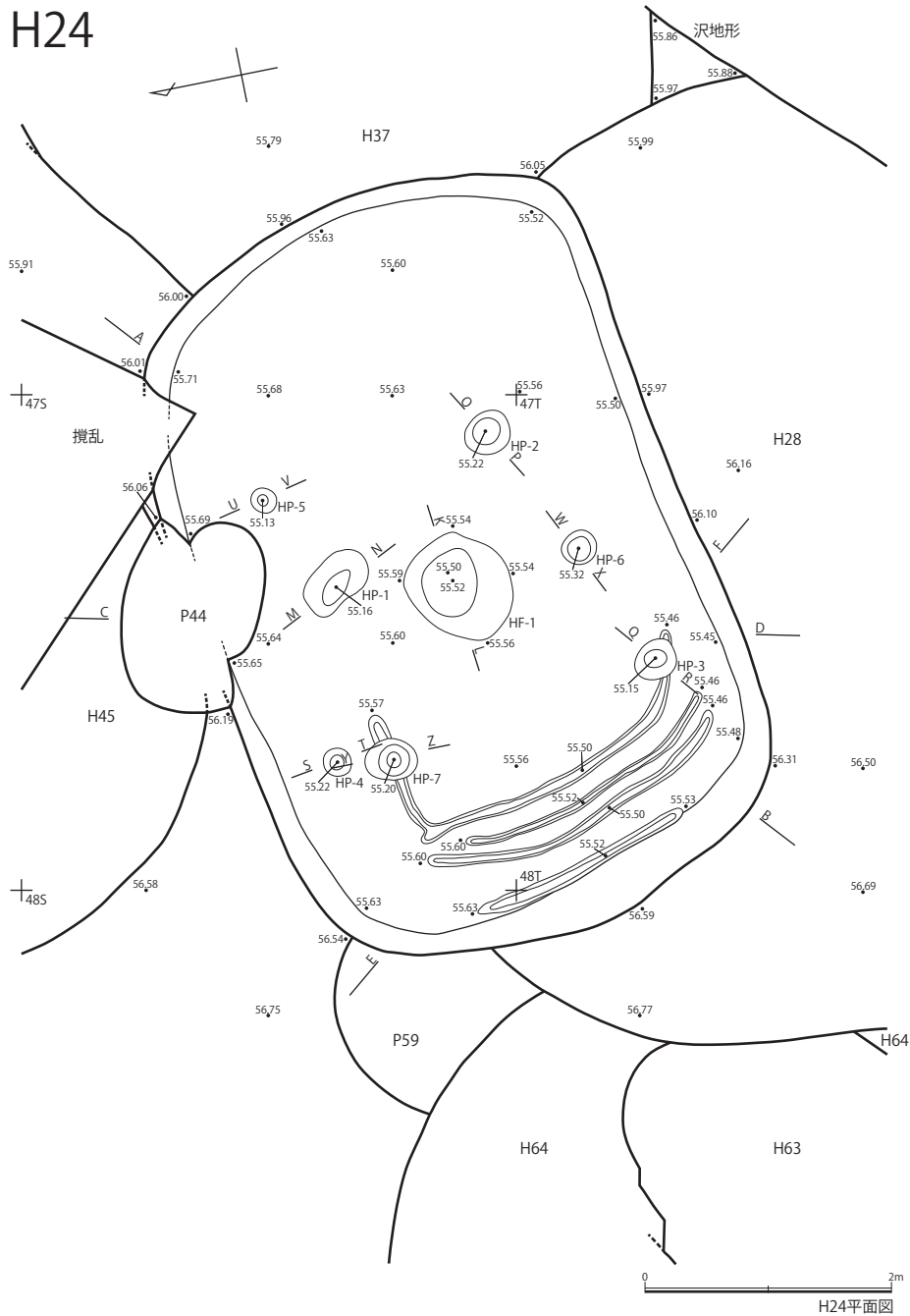
H24 (図Ⅲ-1-43~45、-2-16、-3-8、図版13・67・125)

位置・立地 46~48-S・T区 調査区北東側の緩斜面

確認・調査 Ⅲ層上面を精査した際にⅢ層の落ち込みを確認した。そこからⅢ層を約15cm掘り下げたところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、柱穴、周溝を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。西側の3層中位で炭化材を検出した。炭化材は3層中位に面的に広がり、上位のものは壁に直行するものが多く、中位から下位のものが多い。太さは直径または幅で細いもの(3~4cm)、中間のもの(5~7cm)、太いもの(8~10cm)がある。3層には明瞭な焼土や焼土粒が見られず、他の覆土中にも見られない。これらのことから焼失住居とは考えず、3層は地面に近い屋根の葺土で、炭化材は葺土で覆われた屋根材と考える。土層の観察から、M5盛土とH28より新しく、P44より古い。

覆土 自然堆積である。西側の3層中位で炭化材を検出した。

構造 平面形は隅丸長方形である。床面はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。東側の壁面は斜面に流出したと考える。

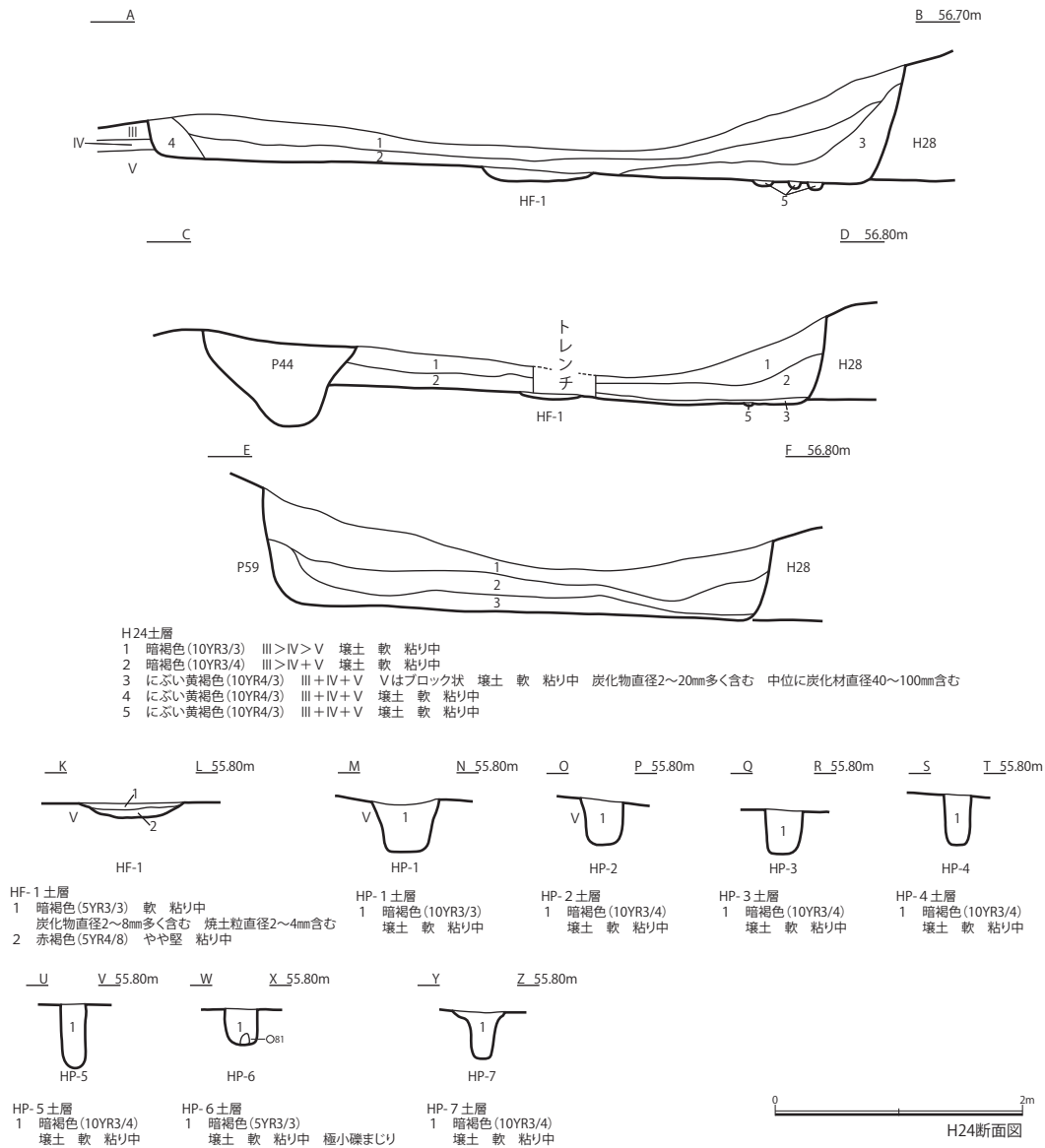


図Ⅲ-1-43 H24平面図

付属遺構 HF-1は中央に位置する円形の浅い掘り込みのある地床炉である。HP-1~7は主柱穴で、HP-1~3・4または7・5・6の6本柱と考える。HP-3・7は柱穴を改変した可能性がある。周溝は西側の短軸側の壁際に沿って4条巡る。一番中央寄りのものはHP-3・4を越える位置まで伸びる。

(佐藤)

遺物出土状況 1,625点の遺物が出土した。土器については、覆土に円筒下層c式から円筒下層d式が入り込むのに加えて、Ⅲ群a類土器のうち、円筒上層d式やサイベ沢Ⅶ式が覆土に混ざり込む点で周辺の住居と異なっている。床面からサイベ沢Ⅶ式の口縁部が出土している。覆土には大安在B式土器も混在する。石器については、礫、フレイクの出土が多い。次にスクレイパーの覆土出土が目立つ。また、HF-1覆土1層を土壌水洗したところ、哺乳網の焼骨片を2点検出した。



図III-1-44 H24土層断面図・付属遺構土層断面図

覆土3層中位出土木炭について樹種同定と放射性炭素年代測定を分析依頼した。その結果、樹種についてNo.7は同定不能、No.8とした半割らしき木片がコナラ属だった他はクリ材であった。

これら木炭の14C年代は、No.1が4500±30yrBP、No.2が4430±30yrBP、No.6が4510±30yrBPである。No.1とNo.6の値は誤差(±1σ)の範囲で重なり、近い年代を示すが、No.2はこれらよりも若干新しい値となっている。暦年較正年代(1σ)は、No.1が3336~3105cal BC、No.2が3263~2944cal BC、No.6が3338~3106cal BCの間に各々複数の範囲で示される。No.1とNo.6が縄文時代中期前葉頃、No.2が中期中葉頃に相当すると見られるとの見解を得た。詳細はV章に記載がある。

分析に提出した段階では、遺物の分析および覆土土層の整合性の検討がなされていなかった。当初は前期後半の住居跡で覆土4層下位として分析依頼を行った。編集時に訂正に努めた。

時期 M5盛土より新しい、床面出土のⅢ群a類土器、および炭化材の分析結果から縄文時代中期前半である。円筒上層d式~サイベⅦ式あるいはその直前の時期か。(大泰司)

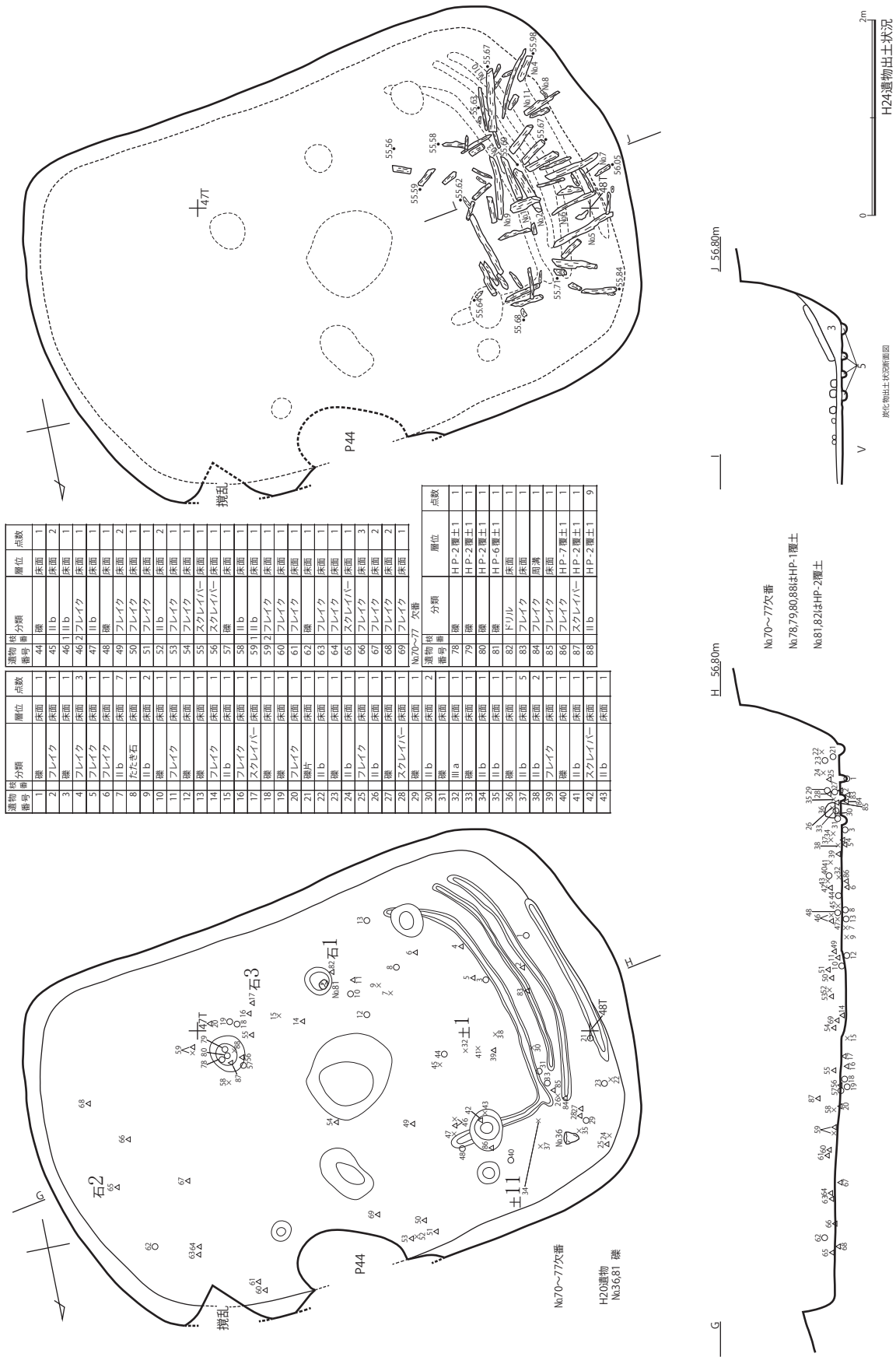
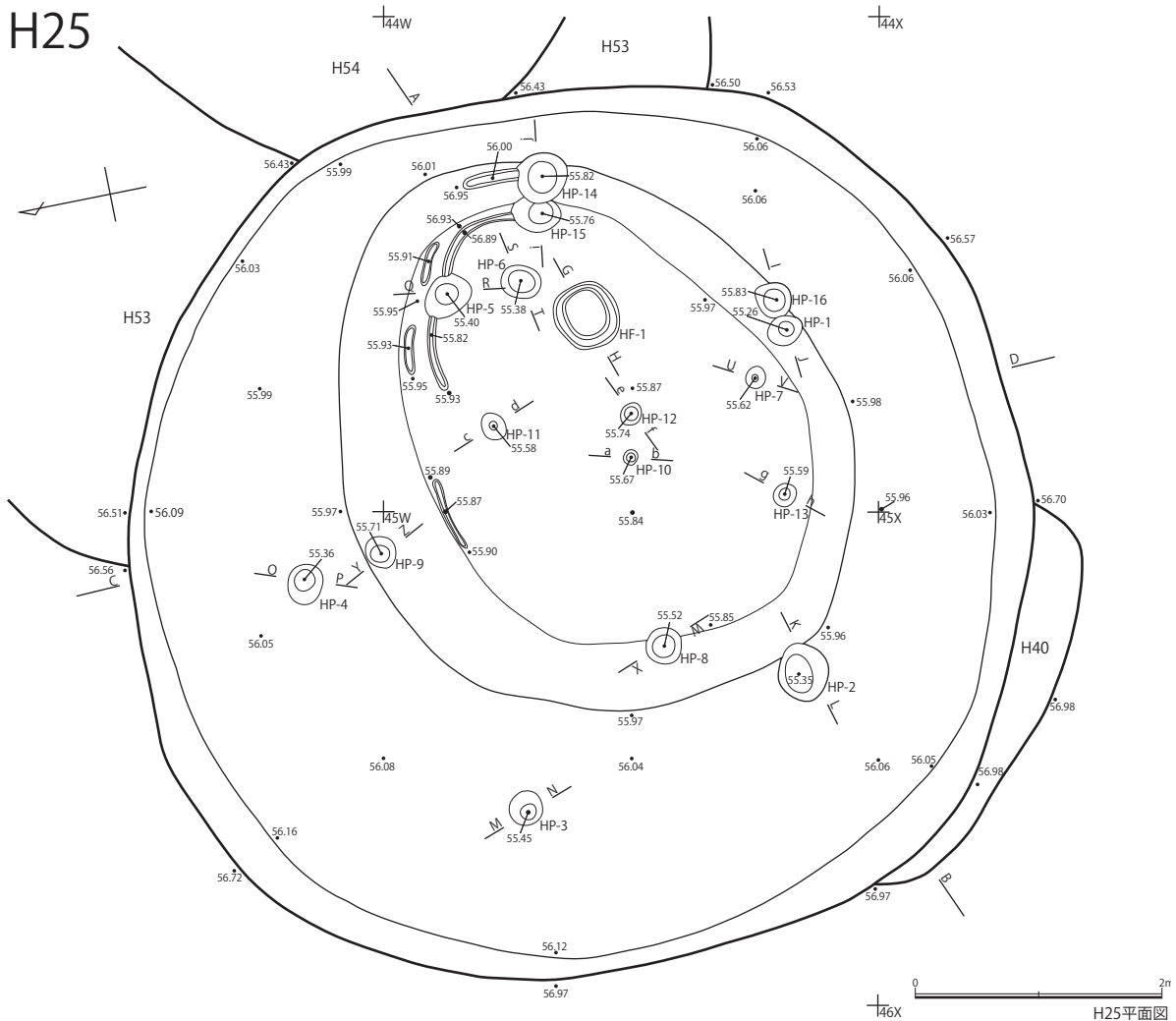


図 Ⅲ - 1 - 45 H24遺物出土状況図・炭化物出土状況図



図Ⅲ-1-46 H25平面図

H25 (図Ⅲ-1-46~48、-2-17、-3-8・9、カラー図版11、図版14・67・125・126)

位置・立地 44・45-V~X区 調査区中央の平坦面

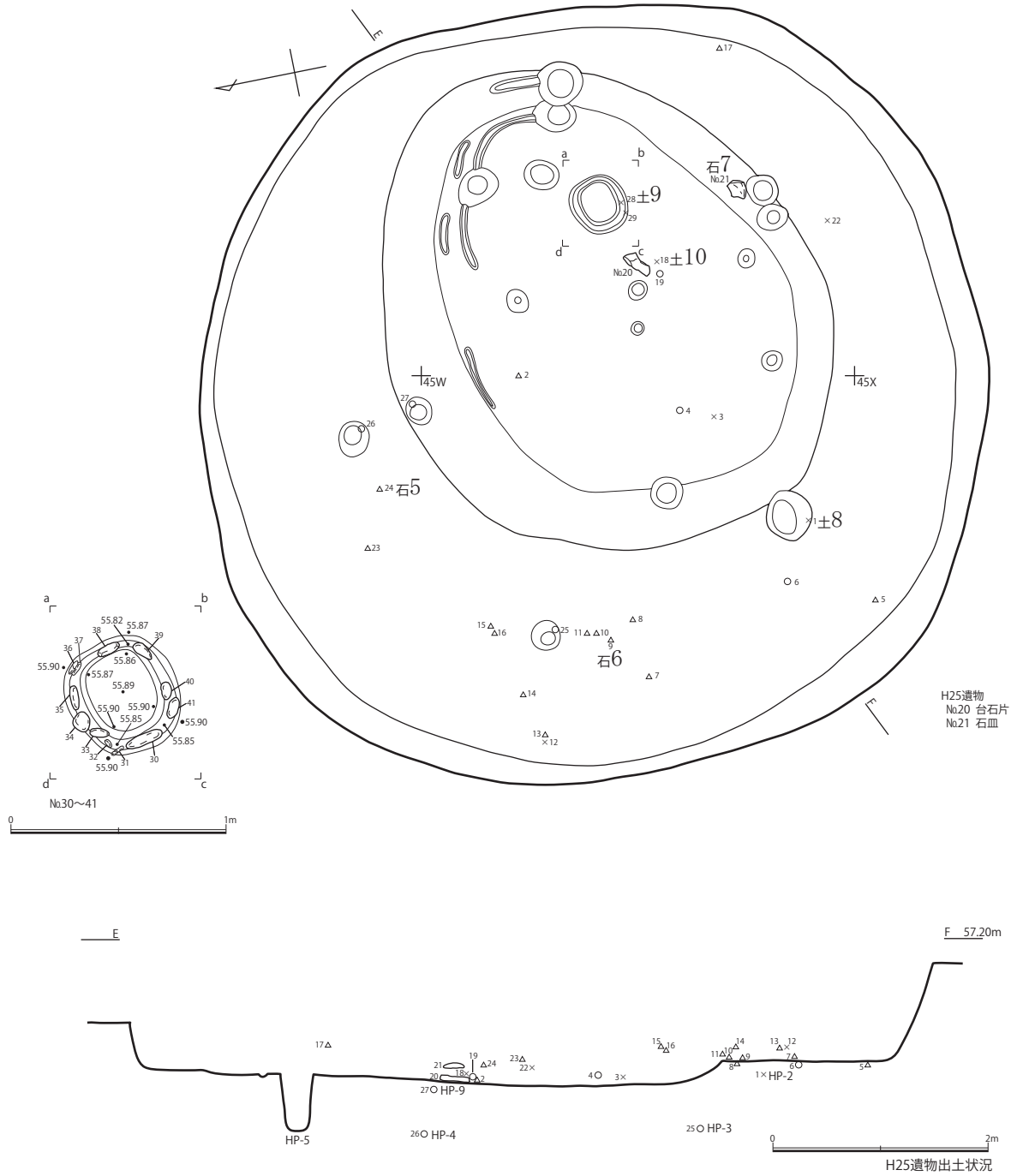
確認・調査 Ⅲ層上面を精査した際ににぶい黄褐色土の高まりとⅢ層の落ち込みを確認した。そこからⅢ層を約15cm掘り下げたところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、柱穴、周溝、掘上げ土を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。住居周辺の土層の観察と遺物出土状況から、M6盛土とH26・27より新しく、H19より古い。

床面の中央が大きく卵形に段状に低くなることから、住居跡が切り合っていた可能性もある。この点についてはH33の項目に記載する。

覆土 自然堆積である。

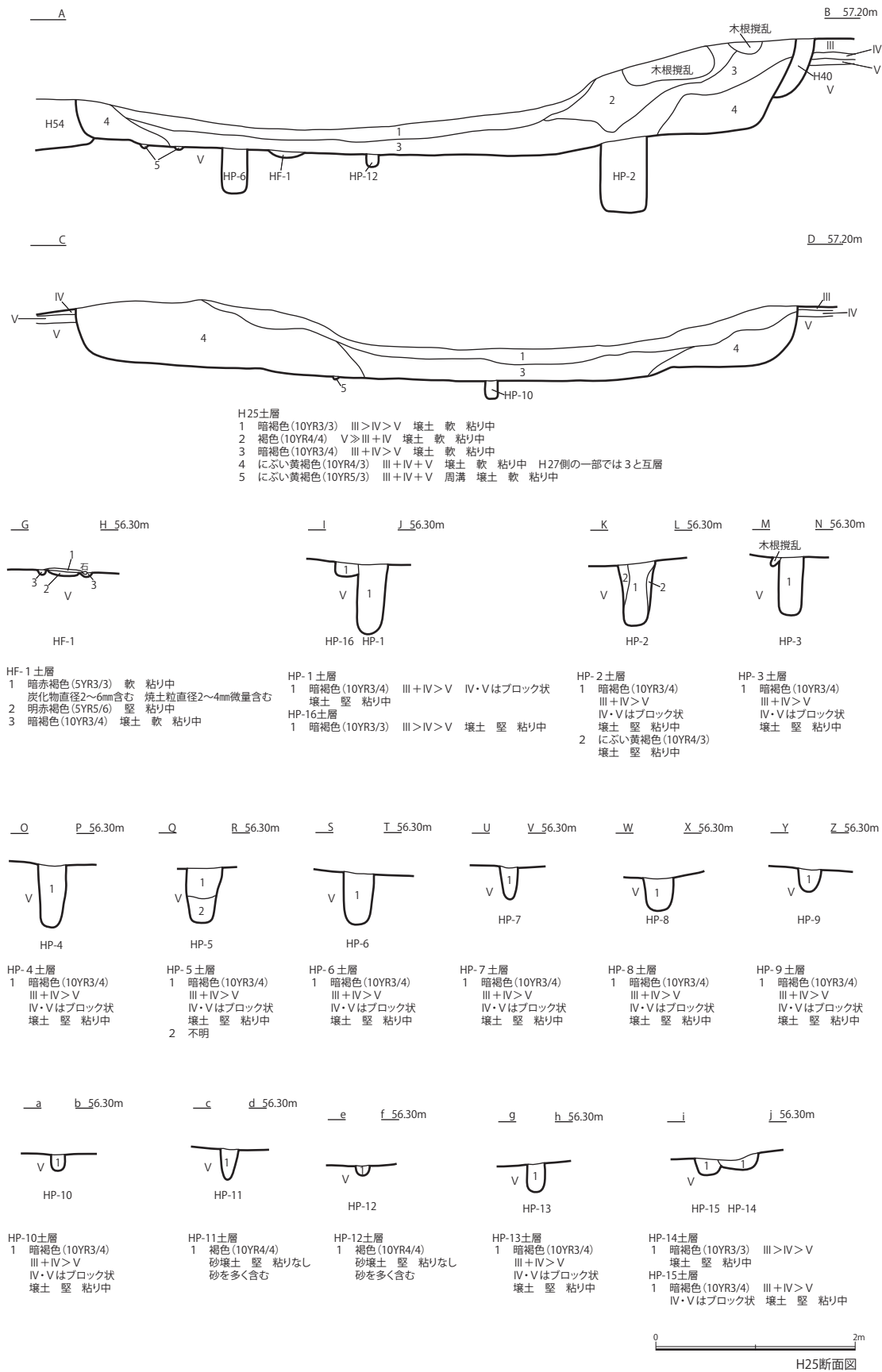
構造 平面形は円形である。床面はほぼ平坦で中央が大きく卵形に段状に低くなる。壁はやや急角度に立ち上がる。周囲には掘上げ土がリング状に分布する。

付属遺構 HF-1は段状の低まりの東側に位置する方形の石囲炉である。石組は浅い溝を作り、そこに扁平な10cm程度の楕円形の円礫を、長軸をそろえて立つように並べて構築している。HP-1~6・9・16は支柱穴で、HP-1・16とHP-5・6、HP-4・9のまとまりがHP-2~4と組み合う5本柱と考える。HP-1・16とHP-5・6、HP-4・9は柱穴を改変した可能性がある。HP-1とHP-16は切り合い関係があり、



遺物番号	図分類	層位	点数	遺物番号	図分類	層位	点数	遺物番号	図分類	層位	点数	遺物番号	図分類	層位	点数
1	II b	HP-2	3	11	スクレイパー	床面	1	22	II b	床面	2	33	被熱礫	H F-1 覆土 3	1
2	フレイク	床面	1	12	II b	床面	31	23	フレイク	床面	1	34	被熱礫	H F-1 覆土 3	1
3	II b	床面	1	13	フレイク	床面	1	24	石槌又はナイフ	床面	1	35	被熱礫	H F-1 覆土 3	1
4	たたき石	床面	1	14	フレイク	床面	3	25	礫	HP-3	1	36	被熱礫	H F-1 覆土 3	1
5	フレイク	床面	1	15	フレイク	床面	3	26	礫	HP-4	1	37	被熱礫	H F-1 覆土 3	1
6	礫	床面	1	16	フレイク	床面	1	27	礫	HP-9	1	38	被熱礫	H F-1 覆土 3	1
7	フレイク	床面	1	17	フレイク	床面	1	28	II b	H F-1 覆土 3	1	39	被熱礫	H F-1 覆土 3	1
8	フレイク	床面	1	18	II b	床面	1	29	II b	H F-1 覆土 3	1	40	被熱礫	H F-1 覆土 3	1
9	スクレイパー	床面	1	19	礫	床面	1	30	被熱礫	H F-1 覆土 3	1	41	被熱礫	H F-1 覆土 3	1
10	フレイク	床面	1	20	台石片	床面	1	31	被熱礫	H F-1 覆土 3	1				
10	スクレイパー	床面	1	21	石皿	床面	1	32	被熱礫	H F-1 覆土 3	1				

図Ⅲ-1-47 H25遺物出土状況図



図Ⅲ-1-48 H25土層断面図・付属遺構土層断面図

HP-1が新しい。HP-8は支柱穴と考える、やや浅いものである。HP-7・11は先端が尖る杭状であることから、内部施設に伴う柱穴の可能性はある。HP-14・15は周溝に伴う浅い柱穴である。切り合い関係があり、HP-14はHP-15より新しい。HP-10・12は小型で浅い柱穴である。周溝は断続的に壁際に沿って1条巡る。

遺物出土状況 床面から台石片(点取りNo20)石皿(点取りNo21)が出土した。(佐藤)

1,016点の遺物が出土した。土器については、覆土からは円筒下層b式から円筒下層d2式までが出土している。明らかに円筒下層c式段階で、磨滅してはいるがまとまった破片が目立つ。これは切りあっているH25より古いH40, 53, 54と違う点である。また覆土1層からは円筒下層d2式が一個体まとまって出土している。床から円筒下層d1式が出土している。石器は礫、フレイクの出土が目立つ。次にスクレイパーの出土が目立つ。石囲炉の石を埋め込む際の掘りかたから円筒下層d1式か皿群a類か判断に迷う小型の底部9が出土している。

掘り上げ土からは105点が出土する。縄文時代前期後半の土器が目立つ。(大泰司)

時期 M6盛土より新しい、床面出土の土器から縄文時代前期後半、円筒下層d1式あるいはその直前の時期である。石囲炉を伴う住居に関してはH33で総括するものとする。場合によっては時期変更の可能性もある。掲載土器9もその根拠足りうる。(佐藤・大泰司)

H26 (図Ⅲ-1-49~52、-2-18~20、-3-9・10、カラー図版11、図版15・68・69・126)

位置・立地 44・45-X~Z区 調査区中央の平坦面

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、にぶい褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、柱穴を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位およびM6-2より上位と考える。周辺の土層の観察から、M6盛土より新しく、H19・25・27より古い。

覆土 上部には廃棄層が確認できる。

構造 平面形は方形または卵形である。床面はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

付属遺構 HF-1は北東側の壁近くに位置する方形の石囲炉である。石組は浅い溝を作り、そこにやや厚みのある6cm程度の円礫を中心に並べて構築している。HF-2は中央に位置する隅丸長方形の浅い掘り込みをもつ地床炉である。HP-1~9は支柱穴で、HP-1・17とHP-2・5、HP-3・4・6、HP-7~9のそれぞれのまとまりで組み合う4本柱と考える。HP-1・17とHP-2・5、HP-3・4・6は柱穴を改変した可能性がある。HP-10~16・18は支柱穴である。HP-10・12~14は深いもの、HP-11・15・16・18は浅いものである。HP-14は先端が尖る杭状であることから、内部施設に伴うものの可能性もある。HP-19は北東側の壁際に位置する浅い楕円形の土坑である。出入り口に関連する土坑の可能性もある。(佐藤)

M6分布範囲を参考にして単純に置き換えて、「H26内廃棄層は概略この範囲」として示す(図Ⅱ-35)ものとした。ところが、H26の石囲炉が入れ子状に切り合う住居の可能性を検討(図Ⅱ-36)していくうちに、M6点取り遺物No.1~3について他のH26点取り遺物と共に、「H26覆土2層」廃棄としてそれより下位の廃棄層として扱う事が適切と判断した。すでに台帳化された段階であり、44Y区M6出土遺物について、これらを二枚の廃棄層に振り分けることは現状では不可能であった。M6出土遺物と区別できたものはこの点取りされた二個体の土器と一点の石皿である。土器はH26出土遺物として掲載した。同時に図化した石皿はM6盛土関連遺物として石器掲載番号635として図化した。これは上の「H26内廃棄層」出土遺物と考察した時点で図版を作成したため、基準が確立していなかったためである。実際は石皿も「H26覆土2層」出土遺物である。

H26

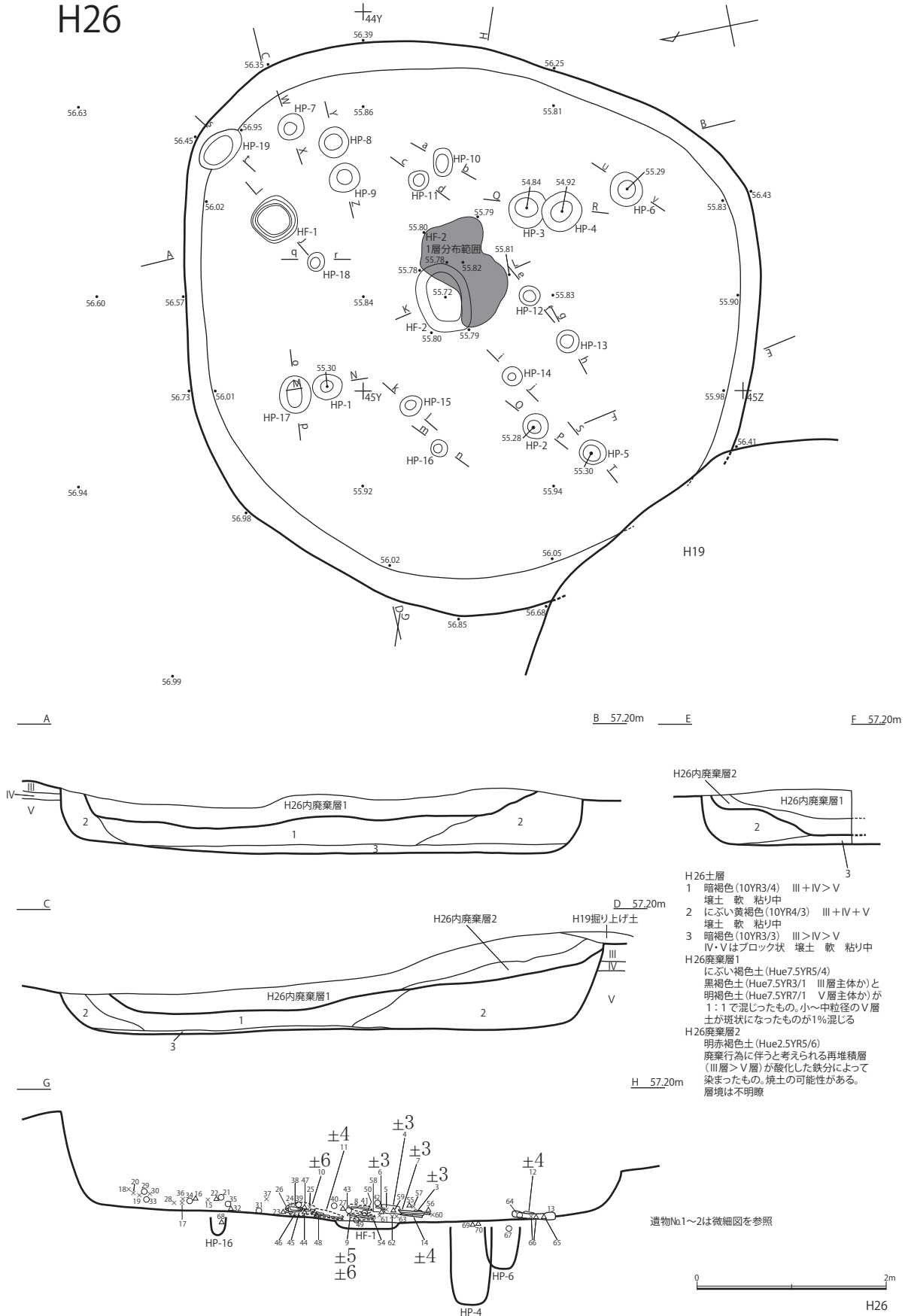
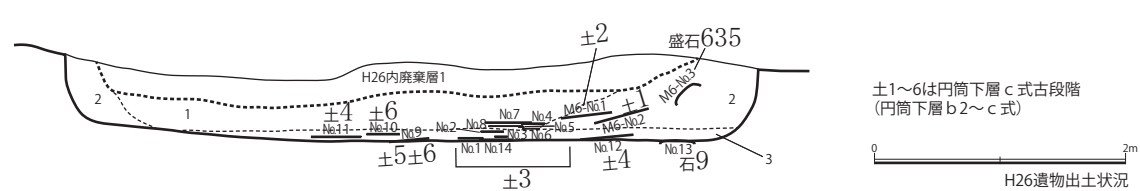
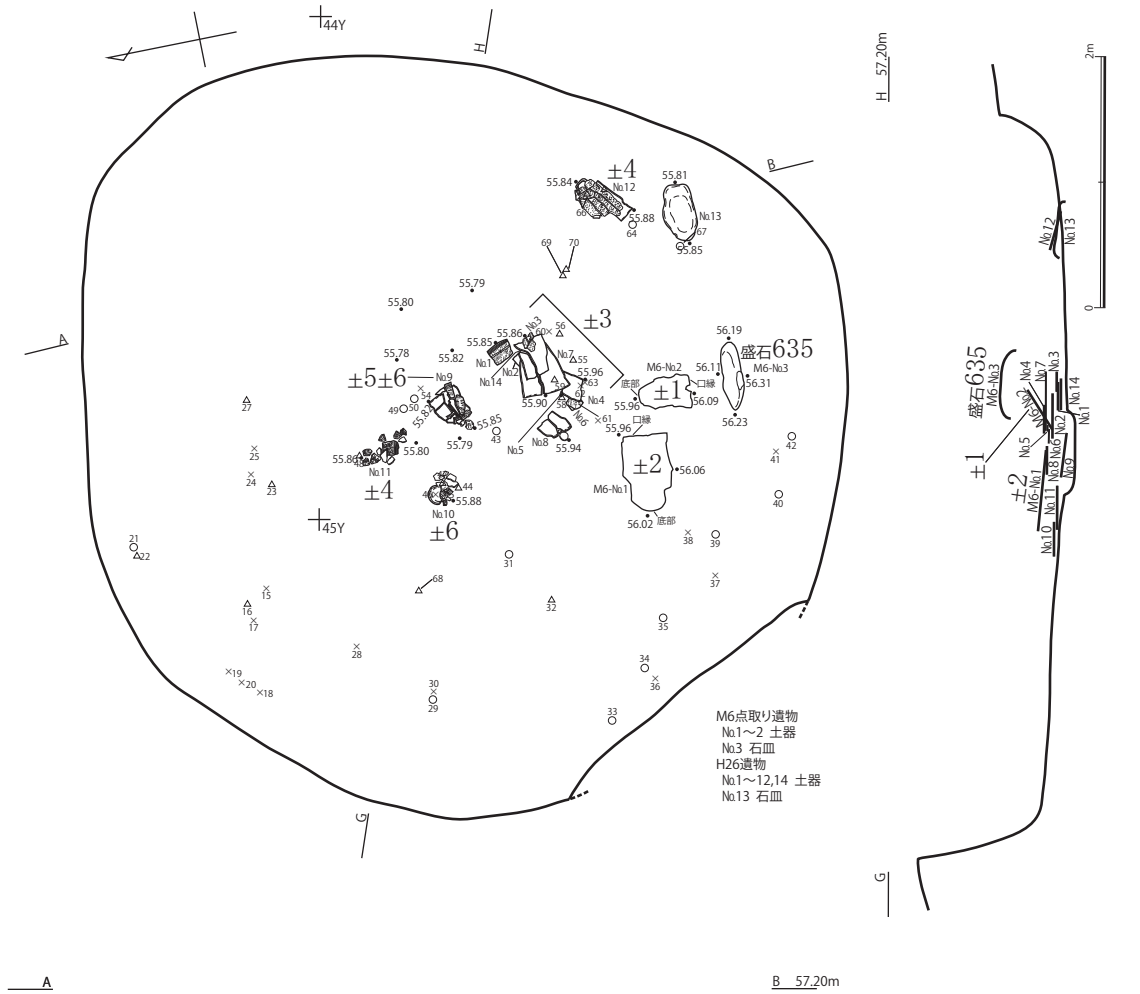
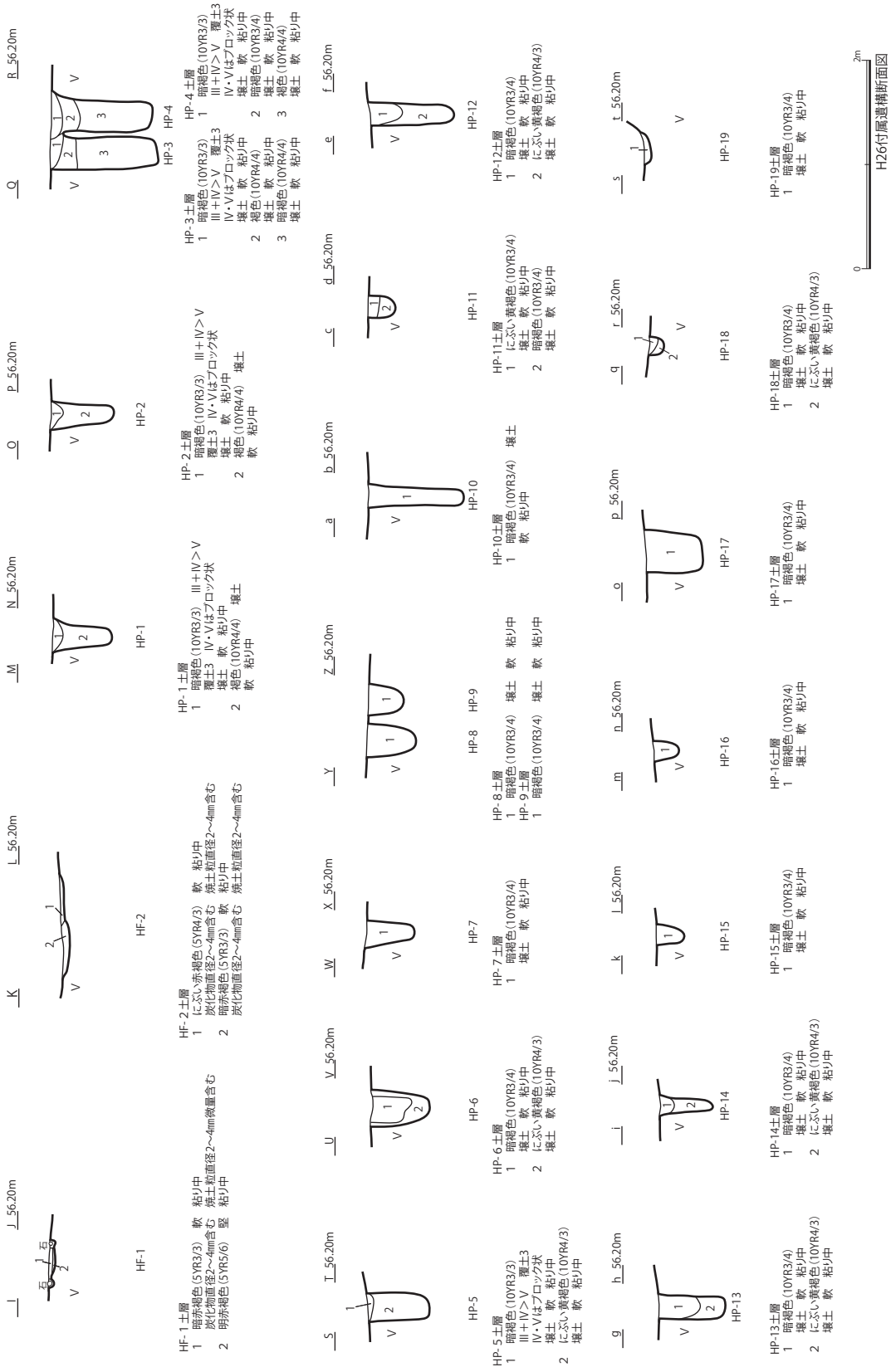


図 III - 1 - 49 H26平面図・土層断面図・遺物出土状況垂直分布図



遺物番号	図番	分類	層位	点数	遺物番号	図番	分類	層位	点数	遺物番号	図番	分類	層位	点数	遺物番号	図番	分類	層位	点数	
1	11	b	床面	4	26	26	たたき石	床面	1	53	53	II b	床面	1	79	79	被熟礫	HF-1覆土1	1	
2	11	b	床面	18	27	27	フレイク	床面	2	54	54	II b	床面	3	80	80	被熟礫	HF-1覆土1	1	
3	11	b	床面	28	28	28	II b	床面	3	55	55	つまみ付きナイフ	床面	1	81	81	被熟礫	HF-1覆土1	1	
4	11	b	床面	8	29	29	礫	床面	1	56	56	フレイク	床面	1	82	82	被熟礫	HF-1覆土1	1	
5	11	b	床面	1	30	30	II b	床面	1	57	57	II b	床面	18	83	83	被熟礫	HF-1覆土1	1	
6	11	b	床面	7	31	31	扁平打製石器	床面	1	58	58	フレイク	床面	1	84	84	被熟礫	HF-1覆土1	1	
7	11	b	床面	62	32	32	フレイク	床面	1	59	59	フレイク	床面	1	85	85	被熟礫	HF-1覆土1	1	
8	11	b	床面	39	33	33	礫	床面	1	60	60	II b	床面	1						
9	11	b	床面	237	34	34	礫	床面	1	61	61	II b	床面	3						
9	2	スクレイパー	床面	1	35	35	礫	床面	1	62	62	II b	床面	1						
10	11	b	床面	36	36	36	II b	床面	1	63	63	II b	床面	12						
11	11	b	床面	61	37	37	II b	床面	1	64	64	礫	床面	1						
12	11	b	床面	114	38	38	II b	床面	1	65	65	Rフレイク	床面	1						
12	2	フレイク	床面	1	39	39	礫片	床面	1	66	66	スクレイパー	床面	1						
13	11	b	床面	1	40	40	礫	床面	1	67	67	II b	床面	1						
14	11	b	床面	101	41	41	II b	床面	1	68	68	礫	HP-1覆土1	1						
15	11	b	床面	10	42	42	たたき石	床面	1	69	69	石核	HP-4覆土1	1						
16	11	b	床面	1	43	43	扁平打製石器未成品	床面	1	70	70	たたき石	HP-16覆土1	1						
17	11	b	床面	6	44	44	フレイク	床面	1	71	71	スクレイパー片	HP-16覆土1	1						
18	11	b	床面	1	45	45	II b	床面	1	72	72	被熟礫	HF-1覆土1	1						
19	11	b	床面	1	46	46	II b	床面	1	73	73	被熟礫	HF-1覆土1	1						
20	11	b	床面	1	47	47	石鏃	床面	1	74	74	被熟礫	HF-1覆土1	1						
21	11	b	床面	1	48	48	フレイク	床面	1	75	75	被熟礫	HF-1覆土1	1						
22	11	b	床面	1	49	49	礫石	床面	1	76	76	被熟礫	HF-1覆土1	1						
23	11	b	床面	1	50	50	石斧	床面	1	77	77	被熟礫	HF-1覆土1	1						
24	11	b	床面	3	51	51	II b	床面	3	78	78	被熟礫	HF-1覆土1	1						
25	11	b	床面	6	52	52	たたき石片	床面	1											

図Ⅲ-1-51 H26遺物出土状況図



図Ⅷ-1-52 H26付属遺構土層断面図

H27

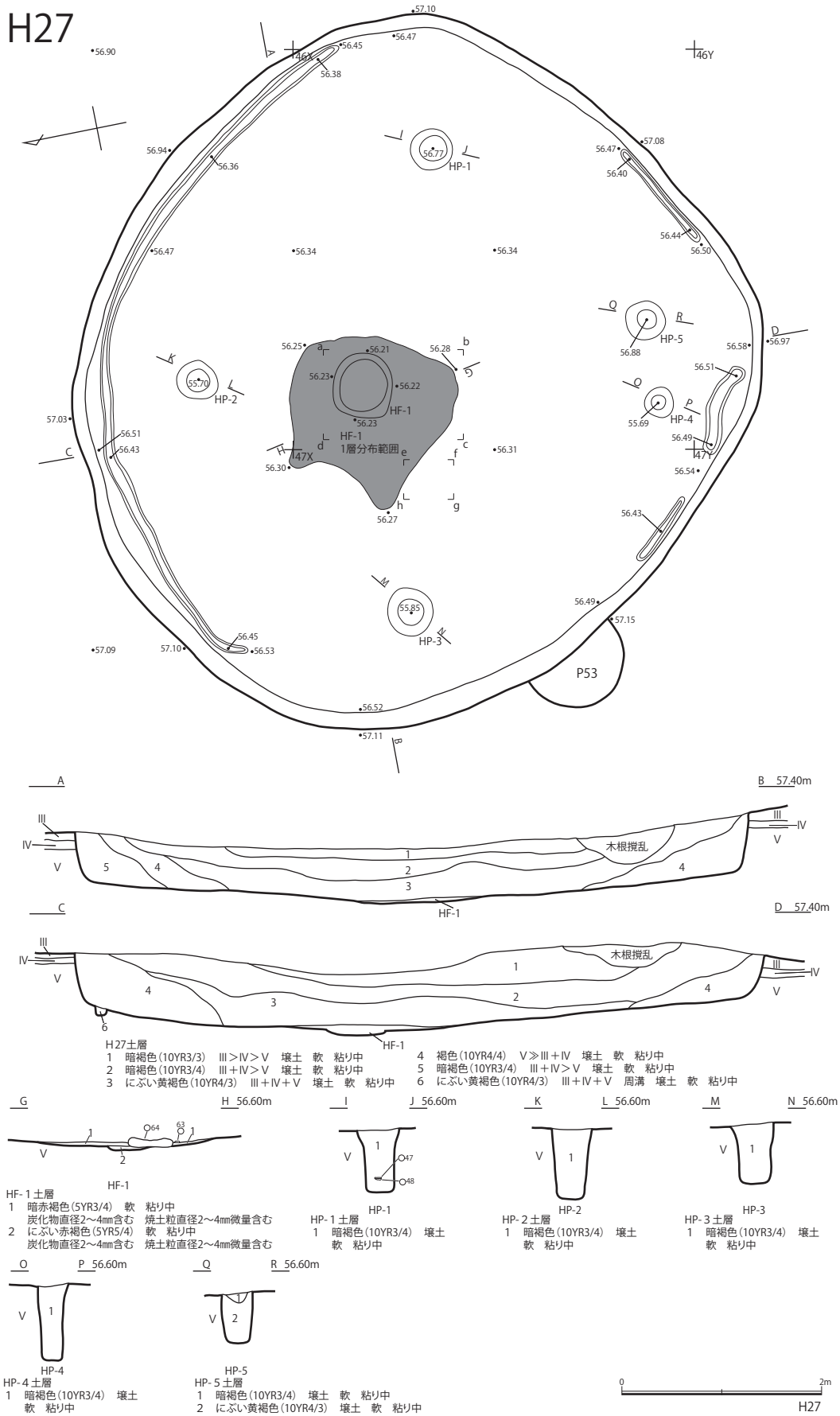
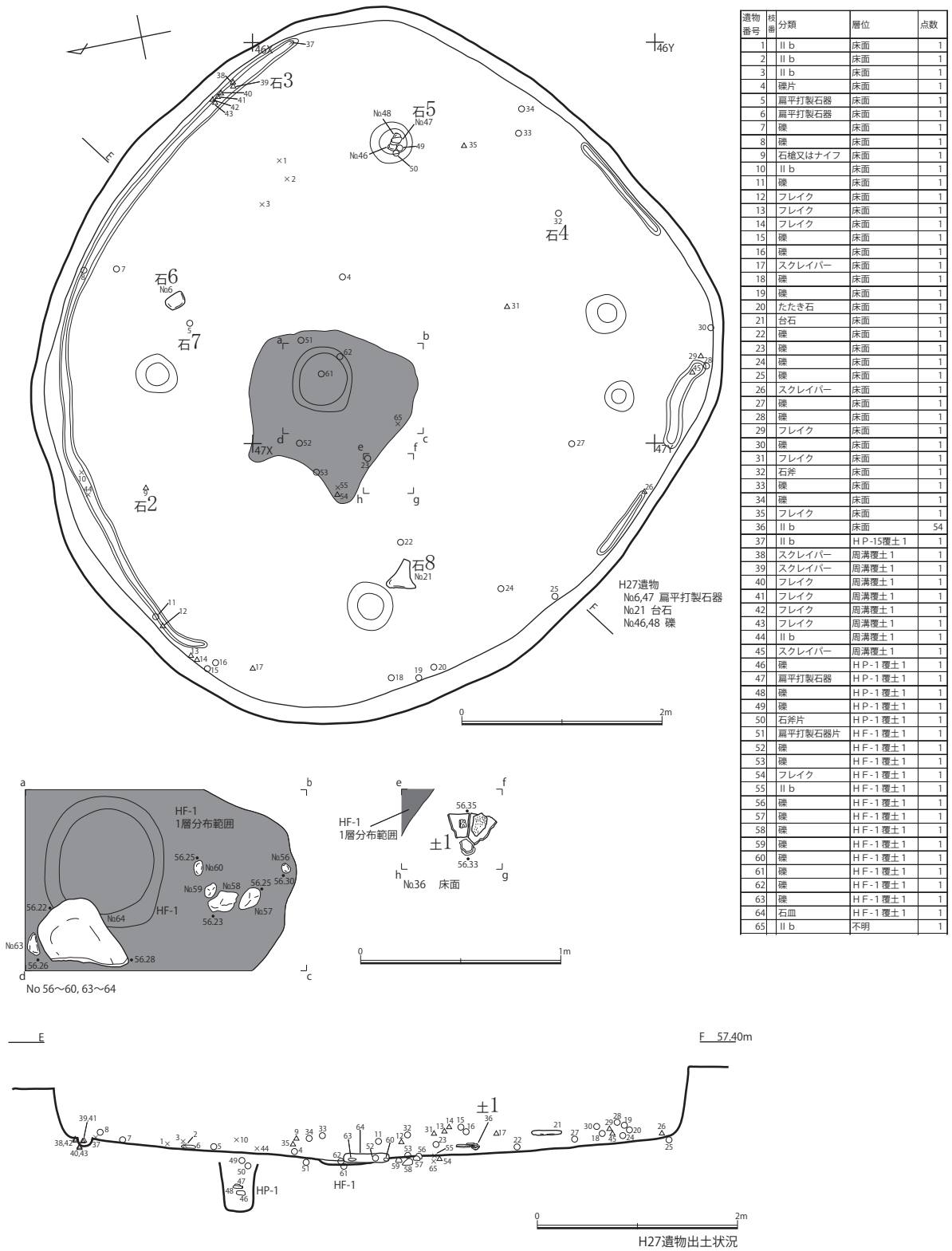


図 III-1-53 H27平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図



図Ⅲ-1-54 H27遺物出土状況図

二次整理段階で、上部の廃棄層を二枚確認した。M6点取り遺物について、H26覆土出土遺物と同時期性が高いと判断、図面・写真等を検討しながら、二次整理段階で再検討したところ、H26がM6より新しいと結論づけた。そこで当初はH26の存在する44Y区のM6出土遺物は「H26内廃棄層出土遺物」として定義し直すものとしたが、その分布範囲、性格等については明瞭ではなかった。当初はH26点

取り遺物と同じく「H26廃棄層」出土遺物とした。

HP-19と石囲炉HF-1を長軸と想定した場合、小型の楕円形住居が想定できる。この点についてはH33の項目に記載する。図Ⅲ-1-50に想定図を示した。写真等の記録からH26の土層観察によって掘り込みを想定した。しかし、図Ⅲ-1-49や図Ⅱ-36で示した、「H26内廃棄層出土遺物」や「H19掘り上げ土」についてつじつまが合わなくなる。可能性として示すにとどめたい。図Ⅱ-36には柱穴から想定した平面形、図Ⅲ-1-50・図Ⅵ-1-1には写真の掘り込みから想定した平面形を示した。長軸方向および規模は類している。詳細はH33の項、Ⅵ章1項に述べる。

遺物出土状況 849点の遺物が出土した。土器については、覆土の廃棄層から円筒下層c式の文様要素を持つ土器がまとまって出土している。胎土等からは円筒下層b2式に近い要素がある。円筒下層b2～c式とした段階の一群と考える。床出土とした復元土器も、円筒下層c式古段階とでもいうべきまとまりである。沈線と隆帯によって口縁部区画を加飾する。M6-2点取り遺物も床面点取り遺物も覆土2層のものである。床面のものも検討の結果、厳密には床面から浮いていると判断した。石器については被熱礫とフレイクの出土が目立つ。(大泰司)

時期 覆土中廃棄層層の土器群から判断して、縄文時代前期後半、円筒下層b2～c式の時期あるいはその直前の時期である。石囲炉を伴う住居に関してはH33で総括するものとする。場合によっては時期変更の可能性もある。(佐藤・大泰司)

H27 (図Ⅲ-1-53・54、-2-21、-3-10・11、カラー図版11、図版16・69・126・127)

位置・立地 45～47-W～Y区 調査区中央の平坦面

確認・調査 Ⅲ層上面を精査した際ににぶい黄褐色土の高まりとⅢ層の落ち込みを確認した。そこからⅢ層を約15cm掘り下げたところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、柱穴、周溝、掘り上げ土を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。住居周辺の土層の観察と遺物出土状況から、M6盛土とH26より新しく、H19・25より古い。

覆土 自然堆積である。

構造 平面形は隅丸方形である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。周囲には掘り上げ土がリング状に分布する。

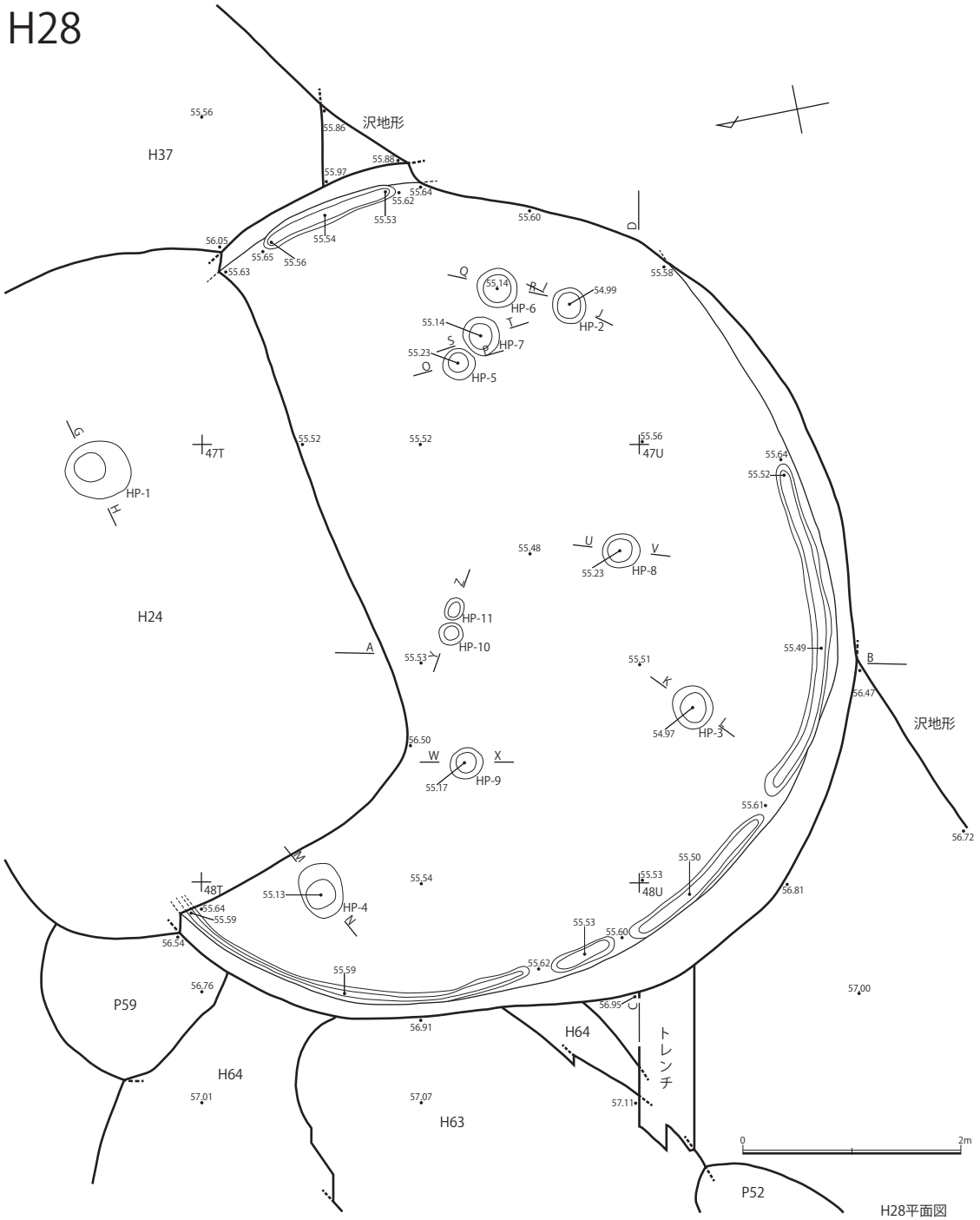
付属遺構 HF-1は中央に位置する浅い掘り込みのある隅丸方形の地床炉である。HF-1の1層上には掘り込みから離れる位置に厚みのある小型の円礫がコの字状に置かれていたが、掘り込みは検出しなかった。礫を置いただけの石囲炉の可能性もある。HP-1～5は主柱穴で、HP-1～3とHP-4・5が組み合う4本柱と考える。HP-4・5は柱穴を改変した可能性がある。

周溝は北側では連続するが、南側では断続的に壁際に沿って巡る。東側と西側では大きく途切れる。

遺物出土状況 HF-1からは石皿(点取りNo64)と小型の礫が出土した。HF-1に近接して土器(1・点取りNo36)が1個体潰れた状態で出土した。(佐藤)

2,156点の遺物が出土した。土器については、覆土中からは円筒下層c式から円筒下層d1式のまとまりが出土している。ひどく磨滅している。円筒上層a式の破片が1点だが混在していた。床面から小型の円筒下層c式が1個体出土、先述の(1・点取りNo36)である。焼成粘土塊も出土する。石器は礫、フレイクの出土が目立つ。次にスクレイパーの出土が目立つ。石皿(点取りNo64)は「もろい凝灰岩製」で取り上げ時は形状をとどめていたが、取り上げ後に乾燥して粉々になってしまっていた。そのため図化できなかった。掘り上げ土からは60点が出土する。フレイクが目立つ。

時期 M6盛土より新しい、床面出土の土器から縄文時代前期後半、円筒下層c式の時期。(大泰司)



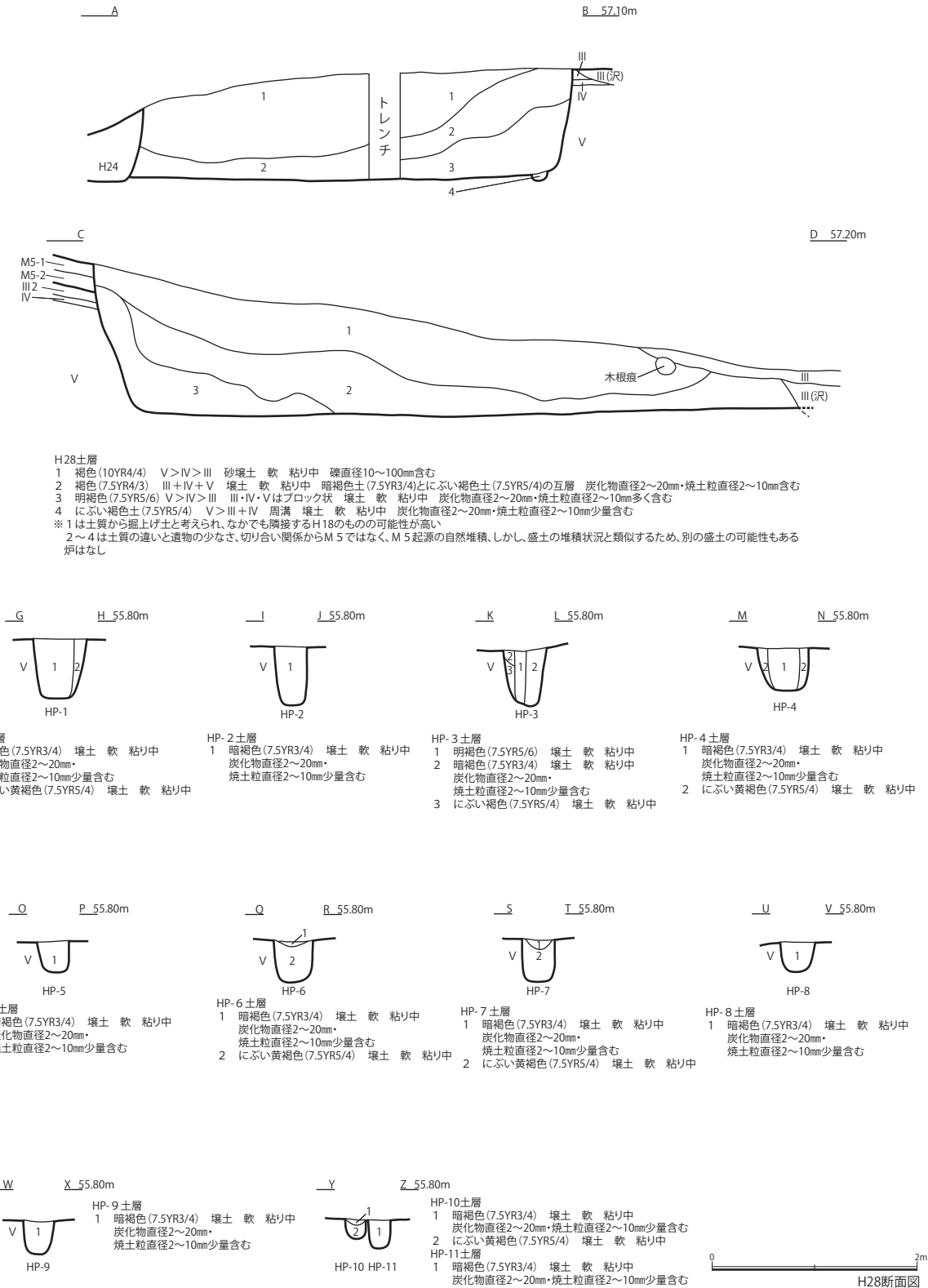
図Ⅲ-1-55 H28平面図

H28 (図Ⅲ-1-55~57、-2-22、-3-11~13、図版17・70・127・128)

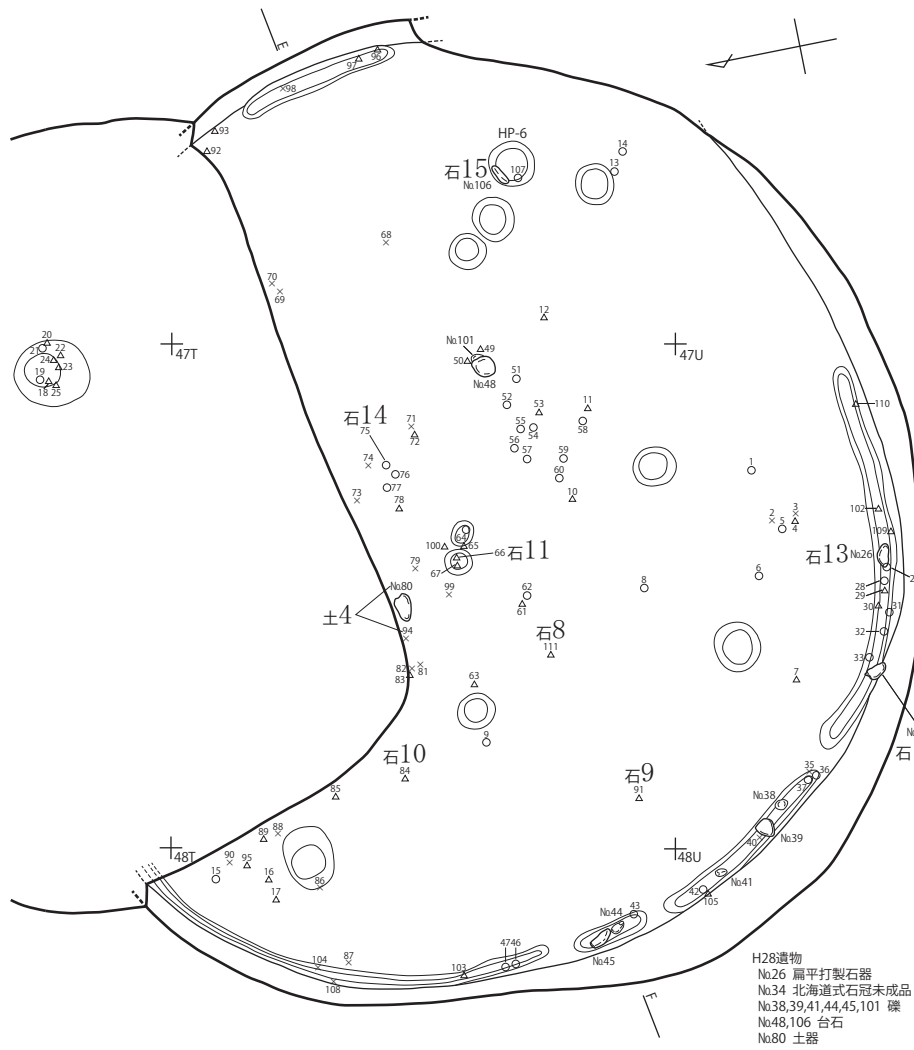
位置・立地 46~48-S~U区 調査区北東側の緩斜面

確認・調査 Ⅲ層上面を精査した際にⅢ層の落ち込みを確認した。そこからⅢ層を約15cm掘り下げたところ、褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、柱穴、周溝を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。土層の観察から、M5盛土より新しく、H24より古い。

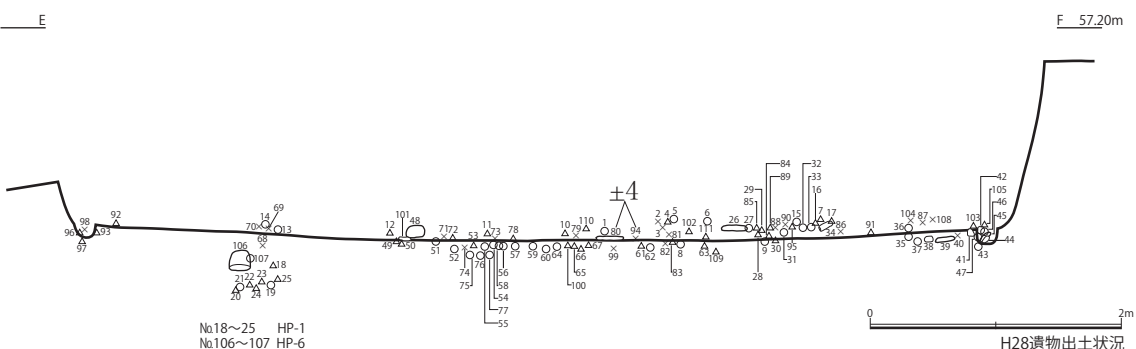
覆土 自然堆積である。1層は土質と遺物の少なさから掘り上げ土と考えられ、H18由来の可能性



図Ⅲ-1-56 H28土層断面図・付属遺構土層断面図



遺物番号	種別	分類	層位	点数
1	礫		床面	1
2	II b		床面	1
3	II b		床面	1
4	フレイク		床面	1
5	礫		床面	1
6	礫		床面	1
7	フレイク		床面	1
8	礫		床面	1
9	礫		床面	1
10	フレイク		床面	1
11	フレイク		床面	1
12	フレイク		床面	1
13	礫		床面	1
14	礫		床面	1
15	礫		床面	1
16	フレイク		床面	1
17	フレイク		床面	1
18	フレイク		HP-1 覆土 1	1
19	礫		HP-1 覆土 1	1
20	Uフレイク		HP-1 覆土 1	1
21	礫		HP-1 覆土 1	1
22	スクレイパー		HP-1 覆土 1	1
23	フレイク		HP-1 覆土 1	1
24	フレイク		HP-1 覆土 1	2
25	スクレイパー		HP-1 覆土 1	1
26	扁平打製石器		周溝覆土 1	1
27	礫		周溝覆土 1	1
28	礫		周溝覆土 1	1
29	礫		周溝覆土 1	1
30	礫		周溝覆土 1	1
31	礫		周溝覆土 1	1
32	礫		周溝覆土 1	1
33	礫		周溝覆土 1	1
34	北海道式石冠未成品		周溝覆土 1	1
35	II b		周溝覆土 1	1
36	礫		周溝覆土 1	1
37	礫		周溝覆土 1	1
38	礫		周溝覆土 1	1
39	礫		周溝覆土 1	1
40	II b		周溝覆土 1	1
41	礫		周溝覆土 1	1
42	礫		周溝覆土 1	1
43	礫		周溝覆土 1	1
44	礫		周溝覆土 1	1
45	礫		周溝覆土 1	1
46	礫		周溝覆土 1	1
47	礫		周溝覆土 1	1
48	台石		床面	1
49	フレイク		床面	1
50	フレイク		床面	1
51	礫		床面	1
52	礫		床面	1
53	Uフレイク		床面	1
54	石血片		床面	1
55	礫		床面	1
56	礫		床面	1



遺物番号	種別	分類	層位	点数
57	礫		床面	1
58	石血片		床面	1
59	礫		床面	1
60	被熱礫		床面	1
61	Uフレイク		床面	1
62	礫		床面	1
63	フレイク		床面	1
64	礫		床面	1
65	フレイク		床面	1
66	石製品		床面	1
67	フレイク		床面	1
68	II b		床面	9
69	II b		床面	12
70	II b		床面	2
71	II b		床面	7
72	フレイク		床面	1
73	II b		床面	1
74	II b		床面	1
75	たたき石		床面	1
76	被熱礫		床面	1
77	礫		床面	1
78	フレイク		床面	1
79	II b		床面	7
80	II b		床面	31
80	礫片		床面	1
81	II b		床面	1
82	II b		床面	1
83	フレイク		床面	1
84	両面調整石器		床面	1
85	フレイク		床面	1
86	II b		床面	1
87	II b		床面	7
88	II b		床面	1
89	フレイク		床面	1
90	II b		床面	1
91	コモリケナイノドリル		床面	1
92	スクレイパー		床面	1
93	フレイク		床面	1
94	II b		床面	2
95	フレイク		床面	1
96	フレイク		周溝覆土 1	1
97	Uフレイク		周溝覆土 1	1
98	II b		周溝覆土 1	2
99	II b		床面	1
100	フレイク		床面	1
101	礫		床面	1
102	Rフレイク		周溝覆土 1	1
103	Uフレイク		周溝覆土 1	1
104	II b		周溝覆土 1	1
105	フレイク		周溝覆土 1	1
106	台石		HP-6 覆土 1	1
107	礫		HP-6 覆土 1	1
108	II b		床面	5
109	スクレイパー		周溝覆土 1	1
110	フレイク		周溝覆土 1	1
111	石礫		床面	1

図Ⅲ-1-57 H28遺物出土状況

が高い。2～4層は土質の違いと遺物の少なさ、切り合い関係からM5盛土ではなく、M5盛土起源の自然堆積と考えた。しかし、盛土層の堆積と類似するため、M5盛土ではない別の再堆積層の可能性もある。

構造 平面形は円形である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。東側の壁面は斜面に流出したと考える。

付属遺構 HP-1～9は主柱穴で、HP-1～4の4本柱と考える。HP-1～4は掘方がある。HP-2と周辺のHP-5～7は柱穴を改変した可能性がある。HP-8・9は支柱穴の可能性はある。HP-10・11は内部施設に伴う柱穴の可能性はある。周溝は断続的に壁際に沿って1条巡る。(佐藤)

遺物出土状況 2,156点出土した。土器については、円筒下層d1式の破片が多数出土した。床からは円筒下層c式のまとまりが出土した。焼成粘土塊も出土する。石器は礫、フレイクの出土が目立つ。次にスクレイパーの出土が目立つ。

時期 遺構の検出状況および遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層c式の時期である。

(大泰司)

H29 (図Ⅱ-29、Ⅲ-1-58～62、-2-23～31、-3-14・15、カラー図版4・7、図版18・19・71～79・128・129)

位置・立地 61～63-R～T区 標高58.6m付近の緩斜面

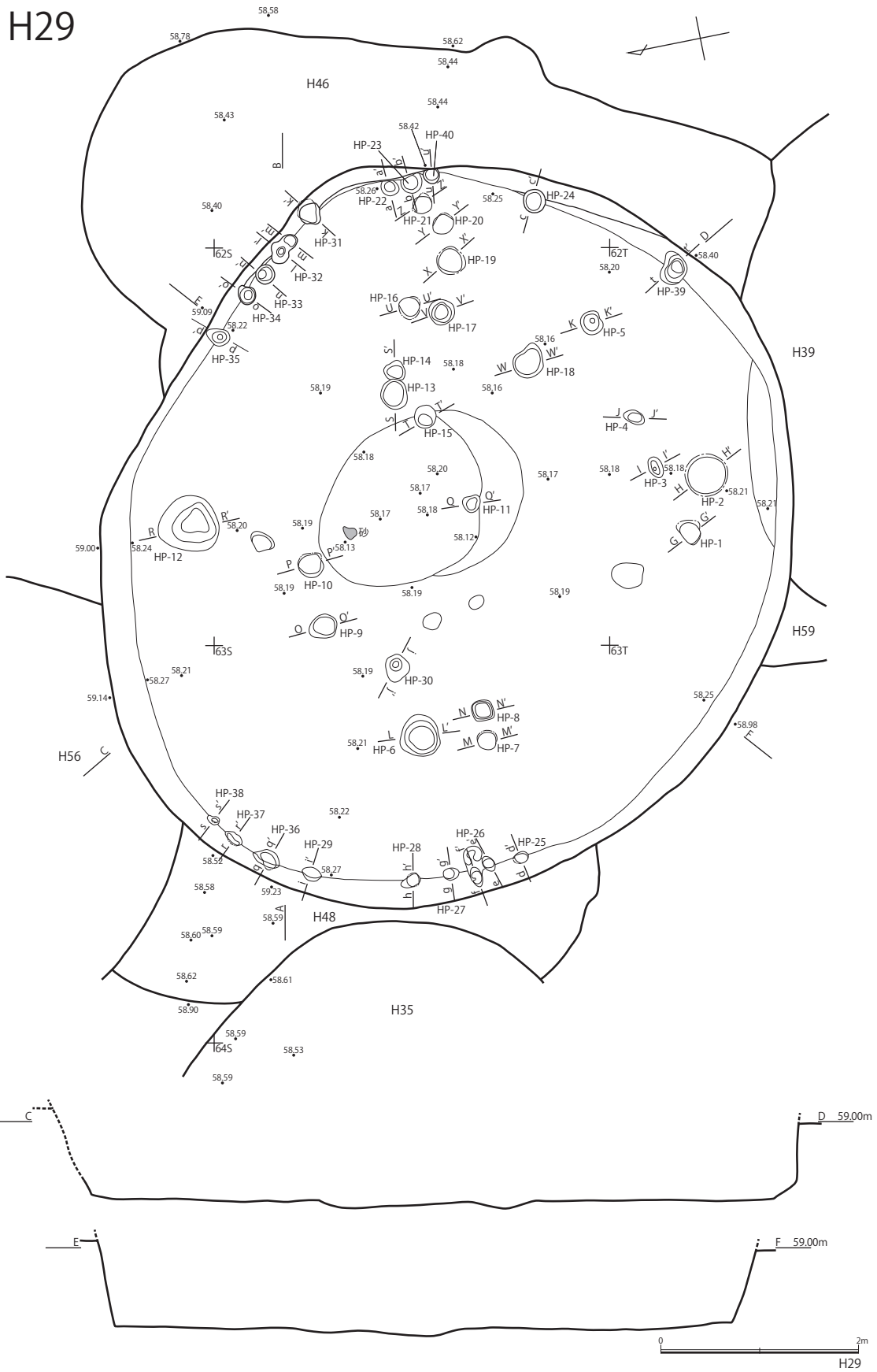
確認・調査 Sライントレンチ62～63S区においてトレンチセクションに堅穴住居の土層断面を検出した。少なくとも2軒以上が切り合ってV層を掘り込んでいる状況であった。そのうち土層断面に現れた切り合い関係から、一番新しい堅穴住居を判断した。結果、SライントレンチとAトレンチの交差する地点の西側、傾斜変換点の平坦な側の縁に位置するものをH29として調査を開始した。SライントレンチのメインセクションからM2盛土はこの堅穴住居を埋めた土を主体として構成される事が明らかであった。また斜面の傾斜変換点際という住居の立地もM2盛土の成立に関連していると考えられた。

覆土 トレンチ内で床面を検出後、62S区のSライントレンチ以南側を5cmずつ掘り下げた。この調査区について、M2盛土は上面と基底部そしてH29覆土上半部、下半部と、四回のまとまりを認識した。土層断面には、遺構の縁辺について土葺屋根部分が崩落したかのような流入層があり、覆土中央には「薄いV層土主体土層」と「Ⅲ層とV層土が混在する土層」によって縞状の土層断面が観察できた。遺物が多く出土する層と、この縞状構造の対応関係は確認できなかった。むしろ土の色構成とは無関係にも見受けられた。縞状構造の覆土で埋没後も窪みがありそこから盛土が主に斜面下側である、北側へと広がっていく状況がSライントレンチの土層に加えて、平面的にも確認できた。

構造 平面形は不整な楕円形である。床面は平坦だが、中央部分がいびつに窪む。壁面は急角度に立ち上がる。

付属遺構 主柱穴は楕円形をした住居平面形に対して長軸を対称軸とすると、HP-3にはHP-6が対となる。HP-2に対してはHP-16・19・20・21の柱穴群が対となる。しかしHP-19・20・21は密接しており、なにか機能的な側面を持つ可能性がある。また深く掘り込まれて柱穴の可能性のあるものにHP-18と39があり、これは対称軸上に位置する。また同規模の壁柱穴が遺構の東-北-西側に巡る。

また主柱穴に囲まれた床面中央部分は楕円形に浅く窪む。その平面形は不整な形状で、取り囲むように砂ピットHP-15と、砂が薄くこびりついていた場所(図Ⅲ-1-61右図)がある。この窪みからは大型の砥石と石皿が出土している。砂ピットに関連して、HP-22・23・40の覆土上部にはごくまば



図Ⅲ-1-58 H29平面図・エレベーション図

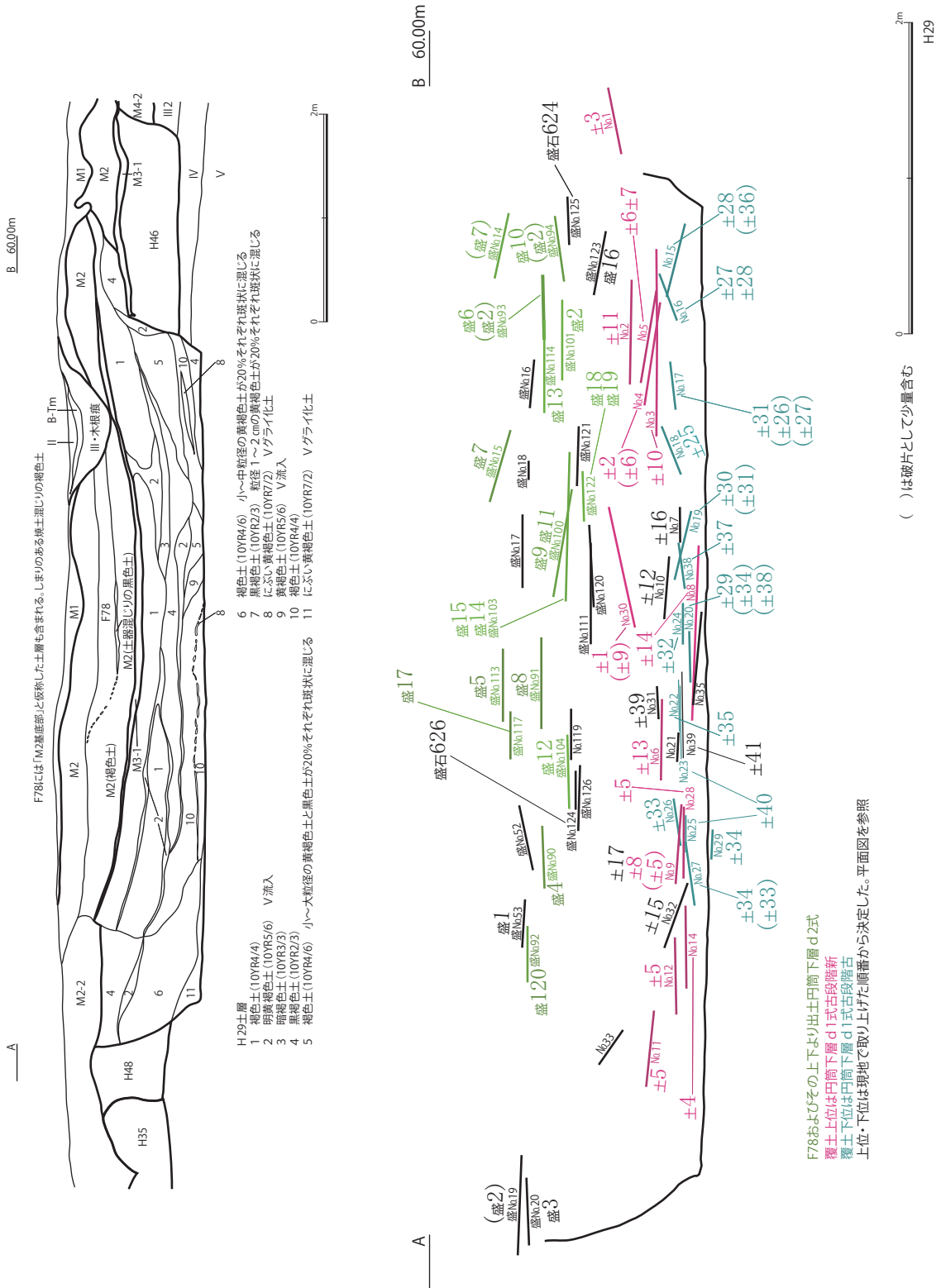
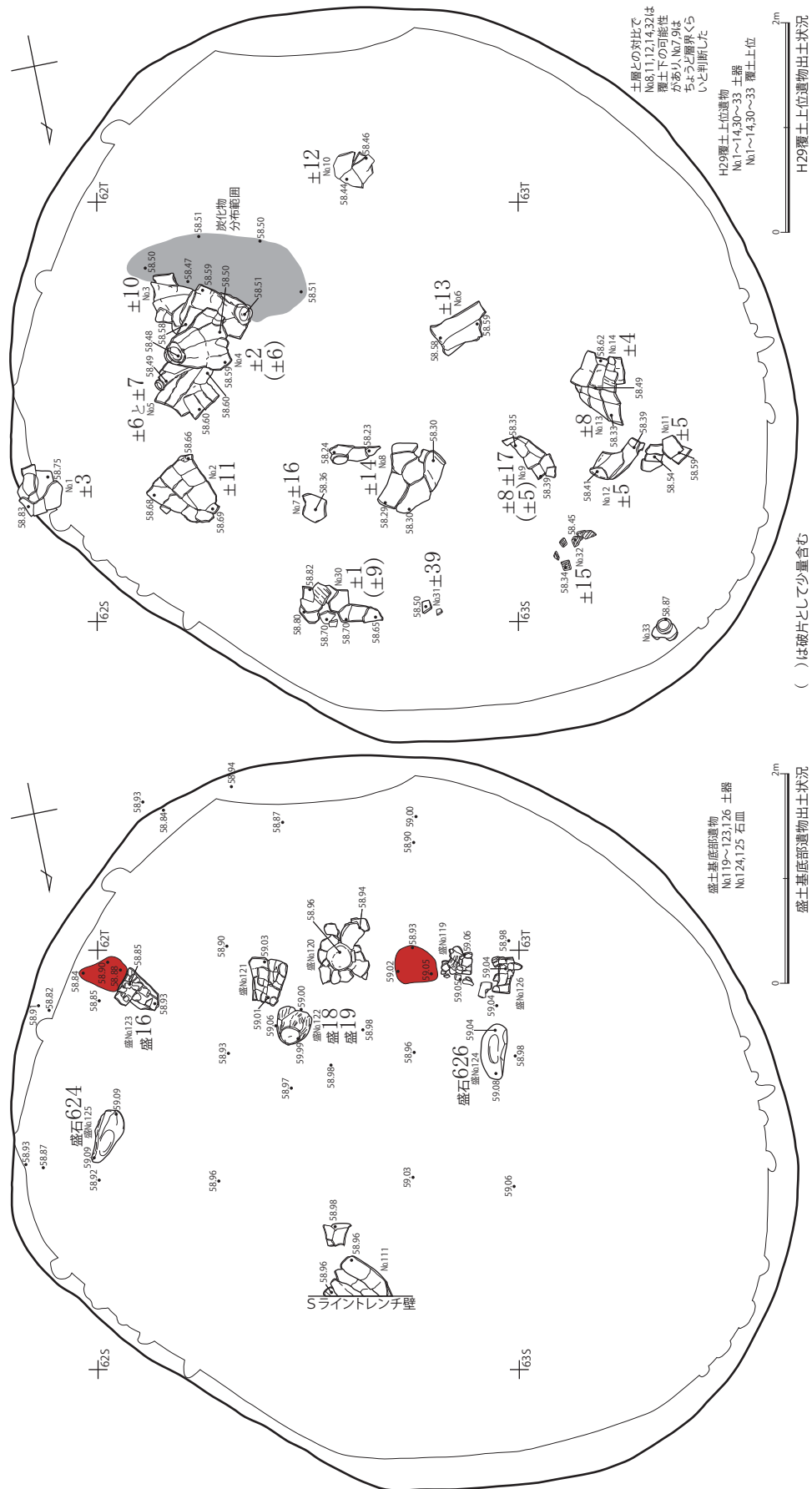


図 III-1-59 H29土層断面図・遺物出土状況垂直分布図

F78およびその上下より出土土筒下層 d2式
 覆土上位は土筒下層 d1式古段階新
 覆土下位は土筒下層 d1式古段階古
 上位・下位は現地で取り上げた順番から決定した。平面図を参照



図Ⅲ-1-60 H29遺物出土状況図 (M2盛土基底部・H29覆土上位)

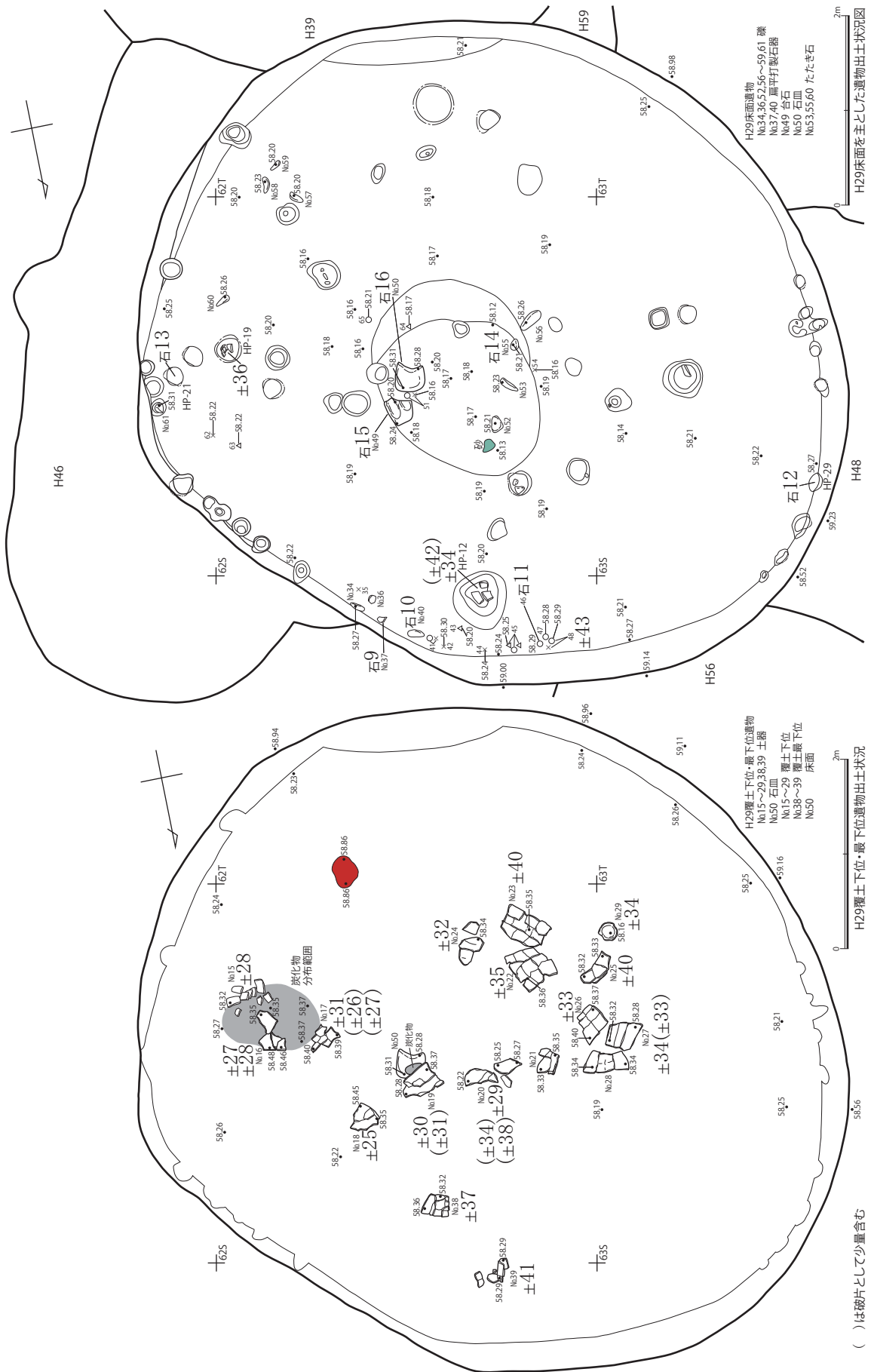
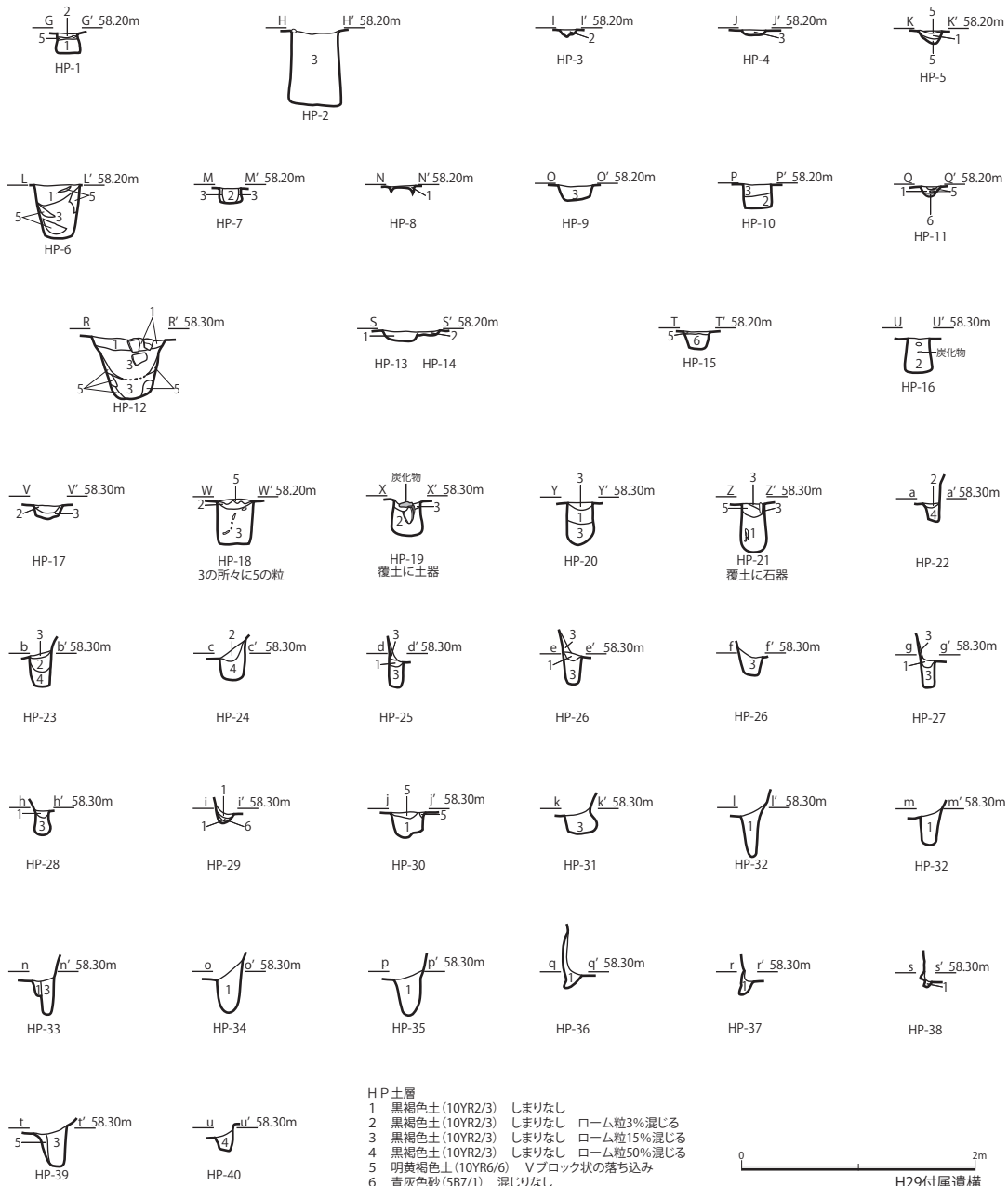


図 III-1-61 H29遺物出土状況図 (H29覆土下位・覆土最下位・床面)

館野6遺跡(2)

遺物番号	種類	層位	点数	遺物番号	種類	層位	点数	遺物番号	種類	層位	点数	遺物番号	種類	層位	点数		
1	II b	覆土上位	97	19	II b	覆土下位	390	36	礫	床面	1	51	II b	床面	1		
2	II b	覆土上位	195	20	II b	覆土下位	155	37	石鏝	床面	1	51	2	礫片	床面	1	
3	II b	覆土上位	230	20	2	フレイク	覆土下位	1	38	II b	覆土最下位	125	52	礫	床面	1	
4	II b	覆土上位	68	21	II b	覆土下位	20	39	II b	覆土最下位	8	53	たたき石	床面	1		
5	II b	覆土上位	120	22	II b	覆土下位	135	40	扁平打製石器	床面	1	54	II b	床面	1		
6	II b	覆土上位	22	22	2	再生土製品	覆土下位	2	41	1	礫	床面	1	55	たたき石	床面	1
7	II b	覆土上位	41	23	II b	覆土下位	26	41	2	II b	床面	1	56	礫	床面	1	
8	II b	覆土上位	36	24	II b	覆土下位	27	42	II b	床面	7	57	礫	床面	1		
9	II b	覆土上位	43	25	II b	覆土下位	7	43	フレイク	床面	6	58	礫	床面	1		
10	II b	覆土上位	107	26	II b	覆土下位	60	44	II b	床面	3	59	礫	床面	1		
11	II b	覆土上位	27	27	II b	覆土下位	16	45	1	スクレイパー	床面	1	60	たたき石	床面	1	
11	2	再生土製品	2	28	II b	覆土下位	87	45	2	フレイク	床面	2	61	礫	床面	1	
12	II b	覆土上位	84	29	II b	覆土下位	3	45	3	礫	床面	1	62	II b	床面	3	
13	II b	覆土上位	46	30	II b	覆土上位	57	46	扁平打製石器	床面	1	63	フレイク	床面	1		
14	II b	覆土上位	74	31	II b	覆土下位	2	47	礫	床面	1	64	フレイク	床面	1		
15	II b	覆土下位	65	32	II b	覆土上位	30	48	1	II b	床面	42	65	礫	床面	1	
16	II b	覆土下位	6	33	II b	覆土下位	17	48	2	フレイク	床面	12					
17	II b	覆土下位	131	34	礫	覆土上位	1	49	台石	床面	1						
18	II b	覆土下位	34	35	II b	床面	4	50	石皿	床面	1						



図Ⅲ-1-62 H29付属遺構断面図

らに、HP-29覆土には明瞭に、砂ピット覆土に混在する砂が入り込んでいたが、これはそれぞれH46とH48に起因するものと考ええる。

主柱穴の可能性のある柱穴が七か所ある。平面形に対して長軸を対称軸として、HP-2・3に対してHP-6・7が、HP-1に対してHP-4・5が対となる。HP-8は対称軸のほぼ中央、つまり遺構中央に位置する。HP-5は脇にあるHP-4が浅いため、そしてHP-1はその位置から二時期以上にわたって用いられた可能性がある。またHP-2・6についてもそれぞれ脇に位置するHP-3・7の大きさが小さいため主柱とその補助柱などの関係があるかもしれない。

遺物出土状況 7,533点の遺物が出土した。覆土の、そして中央窪み部分の、それぞれ特徴的な遺物出土状況は前述の通りである。床面として取り上げた遺物については、覆土最下位にあったものが主体と考える。土器については、縄文時代前期後半の土器が主体である。焼成粘土塊も出土する。「円筒下層d1式 古段階」の廃棄が確認できた。覆土の上位と下位で、顕著ではないがこれについてさらに新旧関係があった。

「H29覆土上位」出土遺物の特徴は、「口縁部文様帯区画に刺突列。」そして「口縁部文様帯の縄線文様に、縄線押圧を交差させる文様構成の顕在化。」の2点である。「口縁部文様帯の縄線文様に、縄線押圧を交差させる文様構成の顕在化。」については、前段階「円筒下層c式の四単位の波状口縁に伴う菱形文様の伝統を残す文様例」は「H29覆土下位」28、38のように存在する。ただし割合としては少なく、他の「円筒下層d1式古段階 古」一括土器群に復元例は無い。

「H29覆土上位」においての4や14のように曲線的で波状の要素をもつ鋸歯状的なもの、11のように規則性に欠くものが出現する。これらの傾向は「円筒下層d1式新段階」の施文傾向につながる。最終的には覆土上位を「円筒下層d1式古段階 新」と覆土下位を「円筒下層d1式古段階 古」とした。

時期判断に関連する遺物として、36はH29のHP-19と覆土下位の点取りNo15が接合したものである。北側の主柱穴HP-12には大型の土器破片が詰め込まれていた（34と42が混在する）。H29はM3を切っているため、より新しい。H21はM3が流れ込んでいるため、より古い。H39の2層がM3相当と考えられる。またH39はH29に切られているため、H39とH21はH29より古い。H39が床面に近い円筒下層c式の時期とすると、H29は柱穴の時期をとって円筒下層d1式である。

石器は礫、フレイクの出土が目立つ。次にスクレイパー、たたき石の出土が目立つ。覆土からはUフレイク、石核の出土が目立つ。

覆土調査中、目立った骨片を検出、洗浄したところ、硬骨魚網の部位不明焼骨片が数点、海生哺乳動物部位不明骨片が複数点、検出された。

時期 遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層d1式と考える。 (大泰司)

H30 (図Ⅲ-1-63・64、-2-32、-3-16、図版20・80・129)

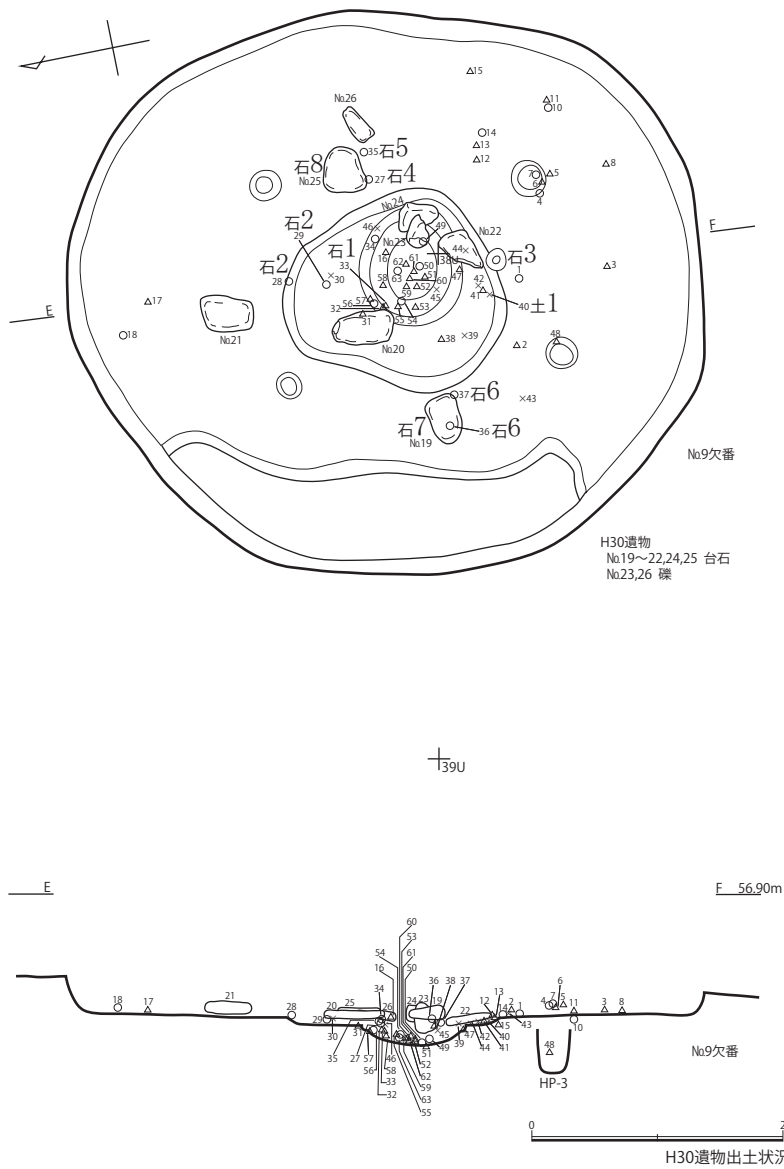
位置・立地 37・38-U・V区 調査区北東側の尾根

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、柱穴、ベンチ状構造を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。

覆土 自然堆積である。

構造 平面形は円形である。床面はほぼ平坦で、炉跡周辺は段状に低くなる。壁は急角度に立ち上がる。東側の壁面の上部は斜面に流出したと考える。ベンチ状構造は西側に位置し、V層を掘り残して構築している。

付属遺構 HF-1は中央に位置する段状の掘り込みがある楕円形の地床炉である。HP-1～4は主柱穴



遺物番号	種類	層位	点数
1	扁平打製石器	床面	1
2	フレイク	床面	1
3	フレイク	床面	1
4	礫	床面	1
5	フレイク	床面	3
6	フレイク	床面	1
7	礫	床面	1
8	フレイク	床面	1
9	欠番		
10	礫片	床面	1
11	フレイク	床面	1
12	フレイク	床面	1
13	フレイク	床面	1
14	礫	床面	1
15	フレイク	床面	2
16	Uフレイク	床面	1
17	フレイク	床面	1
18	礫	床面	1
19	台石	床面	1
20	台石	床面	1
21	台石	床面	1
22	台石	床面	1
23	礫	床面	1
24	台石	床面	1
25	台石	床面	1
26	礫	床面	1
27	たたき石	床面	1
28	扁平打製石器	床面	1
29	扁平打製石器片	床面	1
30	II b	床面	1
31	フレイク	床面	1
32	Uフレイク	床面	1
33	スクレイパー	床面	1
34	礫	床面	1
35	たたき石	床面	1
36	たたき石	床面	1
37	たたき石片	床面	1
38	フレイク	床面	1
39	II b	床面	2
40	II b	床面	1
41	フレイク	床面	1
42	II b	床面	4
43	II b	床面	1
44	II b	床面	1
45	II b	HF-1 覆土 1	2
46	II b	HF-1 覆土 1	2
47	フレイク	HF-1 覆土 1	1
48	Uフレイク	HP-3 覆土 1	1
49	礫	HF-1 覆土 2	1
50	礫	HF-1 覆土 2	1
51	フレイク	HF-1 覆土 2	1
52	フレイク	HF-1 覆土 2	1
53	フレイク	HF-1 覆土 2	1
54	礫	HF-1 覆土 2	1
55	フレイク	HF-1 覆土 2	1
56	礫	HF-1 覆土 2	1
57	フレイク	HF-1 覆土 2	1
58	フレイク	HF-1 覆土 2	1
59	フレイク	HF-1 覆土 2	1
60	フレイク	HF-1 覆土 2	3
61	フレイク	HF-1 覆土 2	2
62	フレイク	HF-1 覆土 2	3
63	たたき石片	HF-1 覆土 2	1

図 III - 1 - 64 H30遺物出土状況図

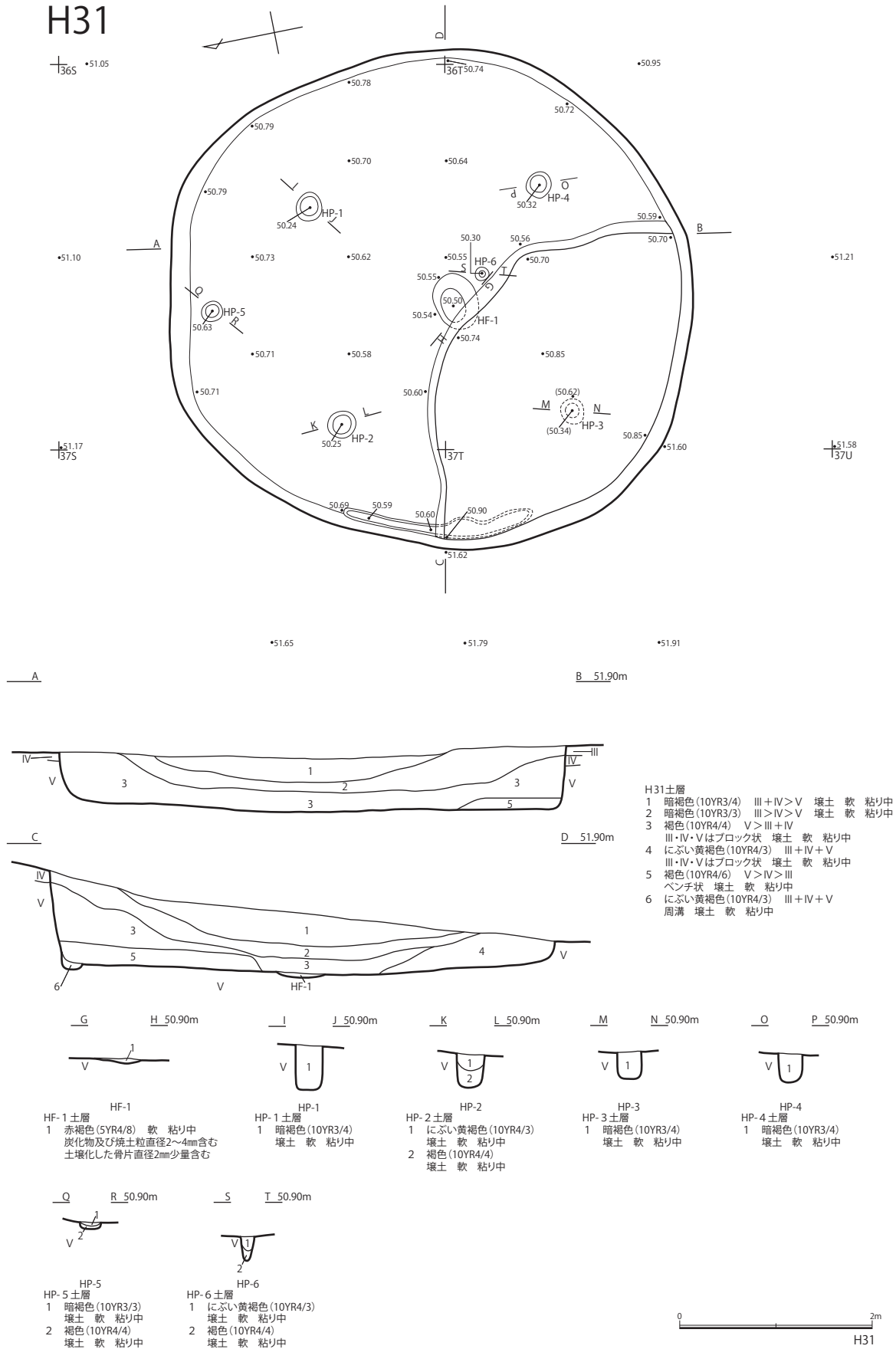
で、4本柱と考える。HP-2は他の支柱穴に比べて浅いものである。HP-5は先端が尖る杭状の浅いもので、内部施設に伴う柱穴の可能性がある。

遺物出土状況 HF-1周辺と床面から大型の礫（点取りNo.19～25）がまとまって出土した。床面から大型の偏平な礫がまとまって出土する状況はH52・67の出土状況と類似する。（佐藤）

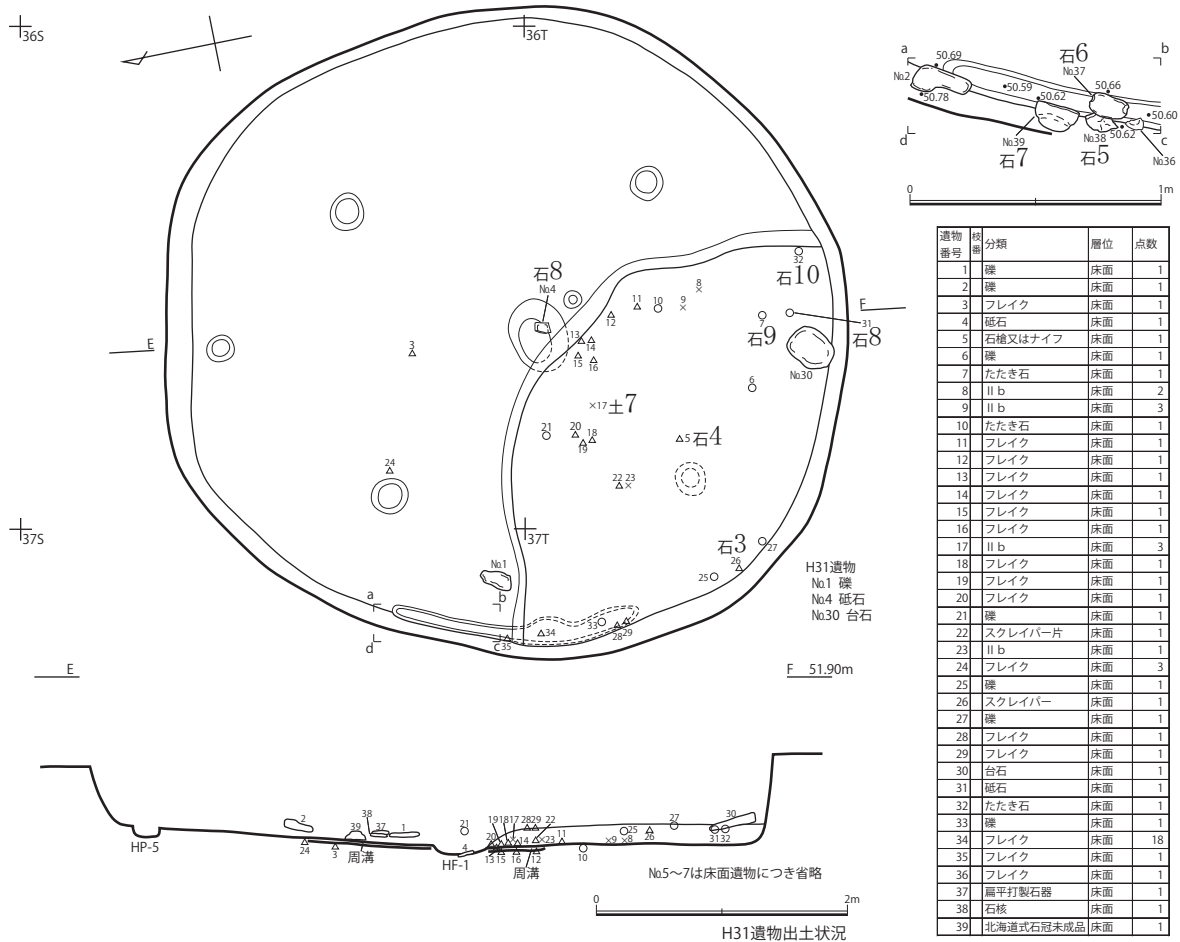
482点の遺物が出土した。土器は覆土、床面いずれも磨滅した円筒下層b式が流入する。石器は礫、フレイクの出土が目立つ。

時期 遺物の出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の時期。（大泰司）

H31



図Ⅲ-1-65 H31平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図



図Ⅲ-1-66 H31遺物出土状況

H31 (図Ⅲ-1-65・66、-2-32、-3-17・18、図版21・80・129・130)

位置・立地 35~37-S・T区 調査区北東側の尾根

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、柱穴、ベンチ状構造、周溝を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。HF-1とHP-4、周溝の一部はベンチ状構造の貼床の下から検出したことから、住居跡の改築が行われた可能性がある。

覆土 自然堆積である。

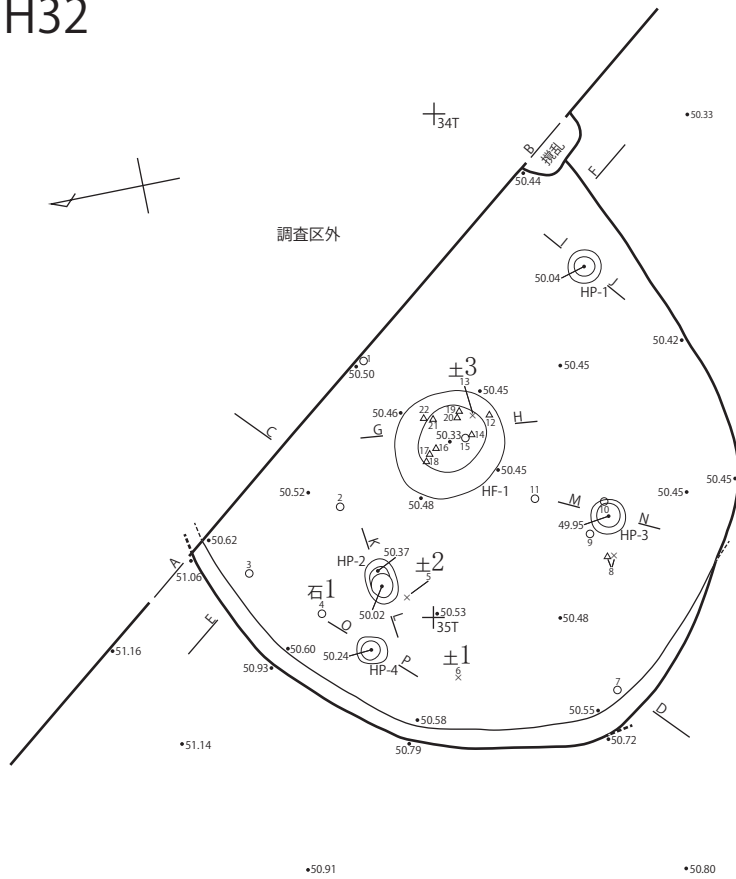
構造 平面形は円形である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。南東側の壁面は斜面に流出したと考える。

付属遺構 HF-1は掘り込みのある円形の地床炉である。HP-1~4は支柱穴で、4本柱と考える。ベンチ状構造は床面にV層を中心とする土を厚さ約15cmに貼って平坦に構築している。周溝は西側の壁際に沿って1条巡る。

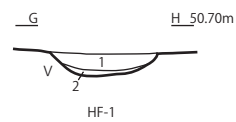
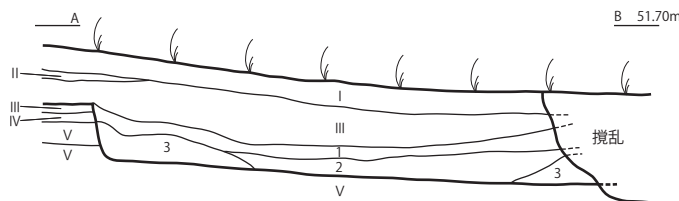
遺物出土状況 ベンチ状構造の床面から大型の台石(点取りNo.30)が出土した。周溝からまとまって礫石器及び礫が出土した。(佐藤)

544点の遺物が出土した。土器はⅢ群a類、円筒上層d式とⅡ群b類、円筒下層b式から円筒下層d2式までが出土した。円筒下層d1式は一個体の半分ほどが、磨滅しているがまとまっていた。床面

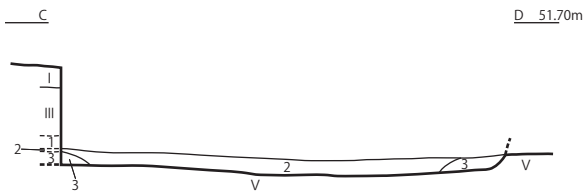
H32



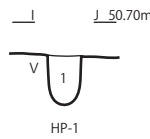
遺物番号	種類	層位	点数
1	礎	床面	1
2	礎	床面	1
3	たたき石	床面	1
4	扁平打製石器片	床面	1
5	II b	床面	2
6	II b	床面	1
7	礎	床面	1
8	1	床面	1
8	II b	床面	1
9	被熱燂片	床面	1
10	礎	HF-1 覆土 1	1
11	扁平打製石器片	床面	1
12	フレイク	HF-1 覆土 1	1
13	II b	HF-1 覆土 1	2
14	フレイク	HF-1 覆土 2	1
15	礎	HF-1 覆土 2	1
16	フレイク	HF-1 覆土 2	1
17	フレイク	HF-1 覆土 2	1
18	フレイク	HF-1 覆土 2	1
19	フレイク	HF-1 覆土 2	1
20	フレイク	HF-1 覆土 2	1
21	フレイク	HF-1 覆土 2	1
22	フレイク	HF-1 覆土 2	1



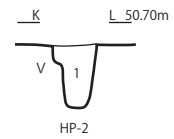
HF-1 土層
 1 暗赤褐色 (5YR3/6) 軟 粘り中
 炭化物直径2~4mm・焼土粒直径2~4mm含む
 2 極暗赤褐色 (5YR2/4) 軟 粘り中
 炭化物直径2~8mm・焼土粒直径2~4mm含む



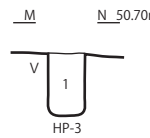
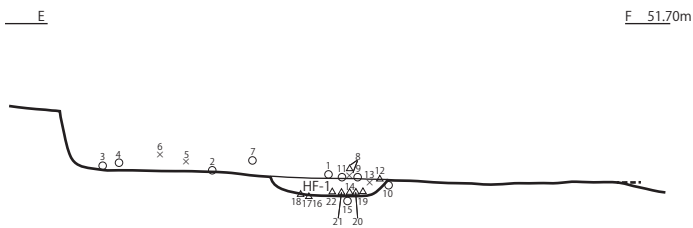
H32土層
 1 暗褐色 (10YR3/2) 壤土 軟 粘り中
 2 にふい黄褐色 (10YR4/3) Vブロック 壤土 軟 粘り中
 3 にふい黄褐色 (10YR4/3) 壤土 軟 粘り中



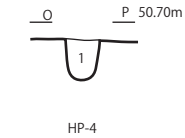
HP-1 土層
 1 暗褐色 (10YR3/4) Vブロック含む
 壤土 軟 粘り中



HP-2 土層
 1 暗褐色 (10YR3/4) Vブロック含む
 壤土 軟 粘り中



HP-3 土層
 1 暗褐色 (10YR3/3)
 壤土 軟 粘り中



HP-4 土層
 1 暗褐色 (10YR3/3)
 壤土 軟 粘り中



図Ⅲ-1-67 H32平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図

からは磨滅した円筒下層b式のみが出土した。まともにはない。石器は礫、フレイクの出土が目立つ。次にスクレイパー、たたき石の出土が目立つ。覆土からはUフレイクの出土が目立つ。台石（点取りNo30）はもろい凝灰岩製で図化できなかった。

時期 土器遺物の出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の時期。（大泰司）

H32（図Ⅲ-1-67、-2-32、-3-18、図版22・80・130）

位置・立地 34・35-S・T区 調査区北東側の尾根

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、柱穴を確認し、住居跡と判断した。範囲は調査区外に広がる。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。

覆土 自然堆積である。

構造 平面形は不明である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

付属遺構 HP-1~4は支柱穴で、HP-1とHP-2・4、HP-3、他に調査区外に想定する1本が組み合う4本柱と考える。HP-2・4は柱穴を改変した可能性がある。HF-1覆土1層を土壌水洗したところ、炭化物の中からタニソバ果実1点、子囊菌の炭化子囊2点が検出された。

遺物出土状況 HF-1の1層からは小礫・礫片が多く出土した。（佐藤）

25点の遺物が出土した。土器は床および付属遺構から円筒下層b式の破片。石器は礫、フレイクの出土が目立つ。

時期 遺物の出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の時期。（大泰司）

H33（図Ⅲ-1-68・69、-2-32、-3-19、図版23・80・130）

位置・立地 42・43-U・V区 調査区北東側の尾根

確認・調査 Ⅲ層上面を精査中にⅢ層の落ち込みを確認した。さらにⅢ層を約10cm掘り下げたところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。当初はH49との切り合い関係が不明瞭であったが、平坦な床面、炉跡、柱穴、周溝を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層中位と考える。土層の観察から、H49より新しい。

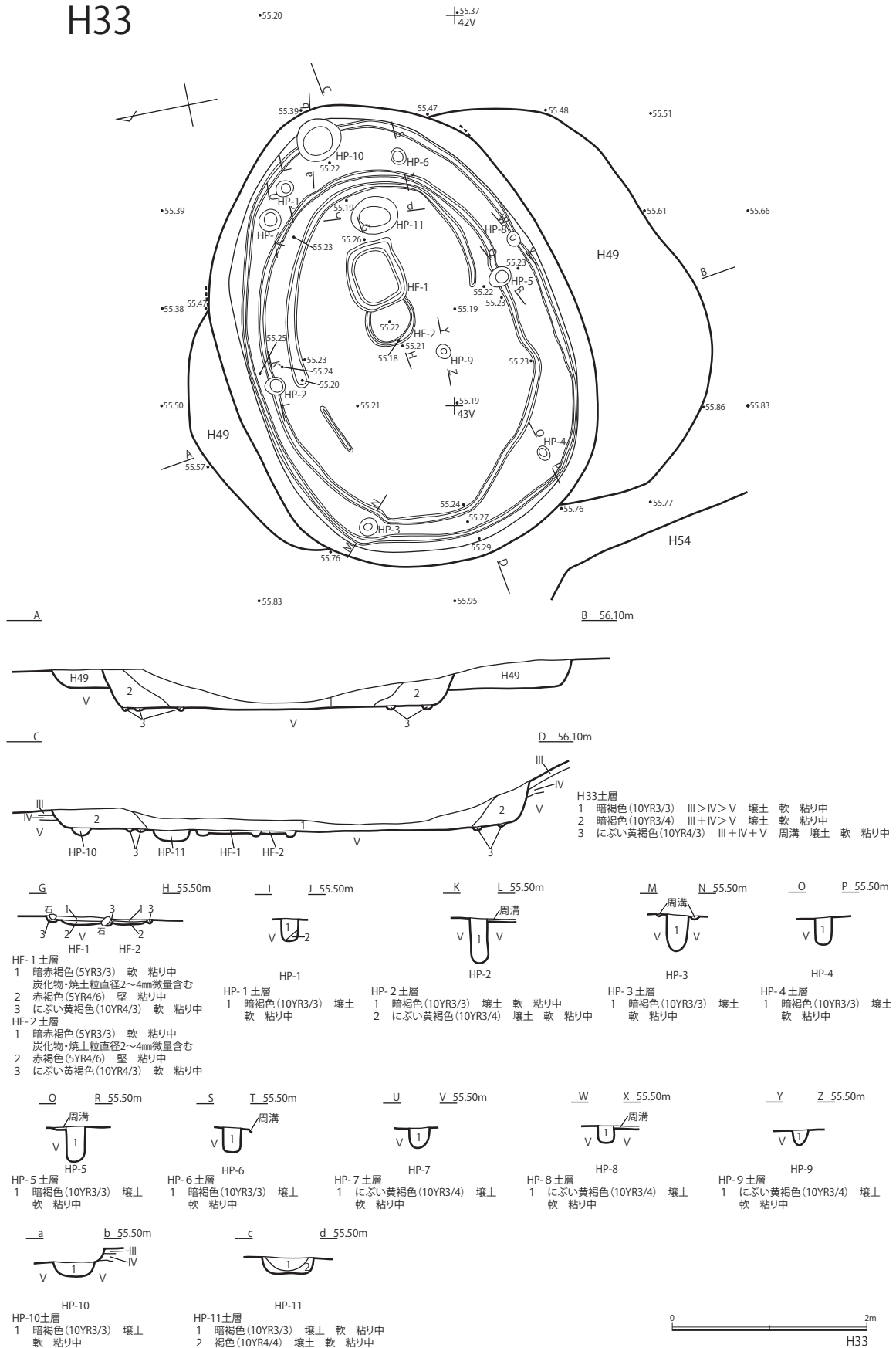
覆土 自然堆積である。

構造 平面形は卵形である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。東側の壁面の上部は斜面に流出したと考える。

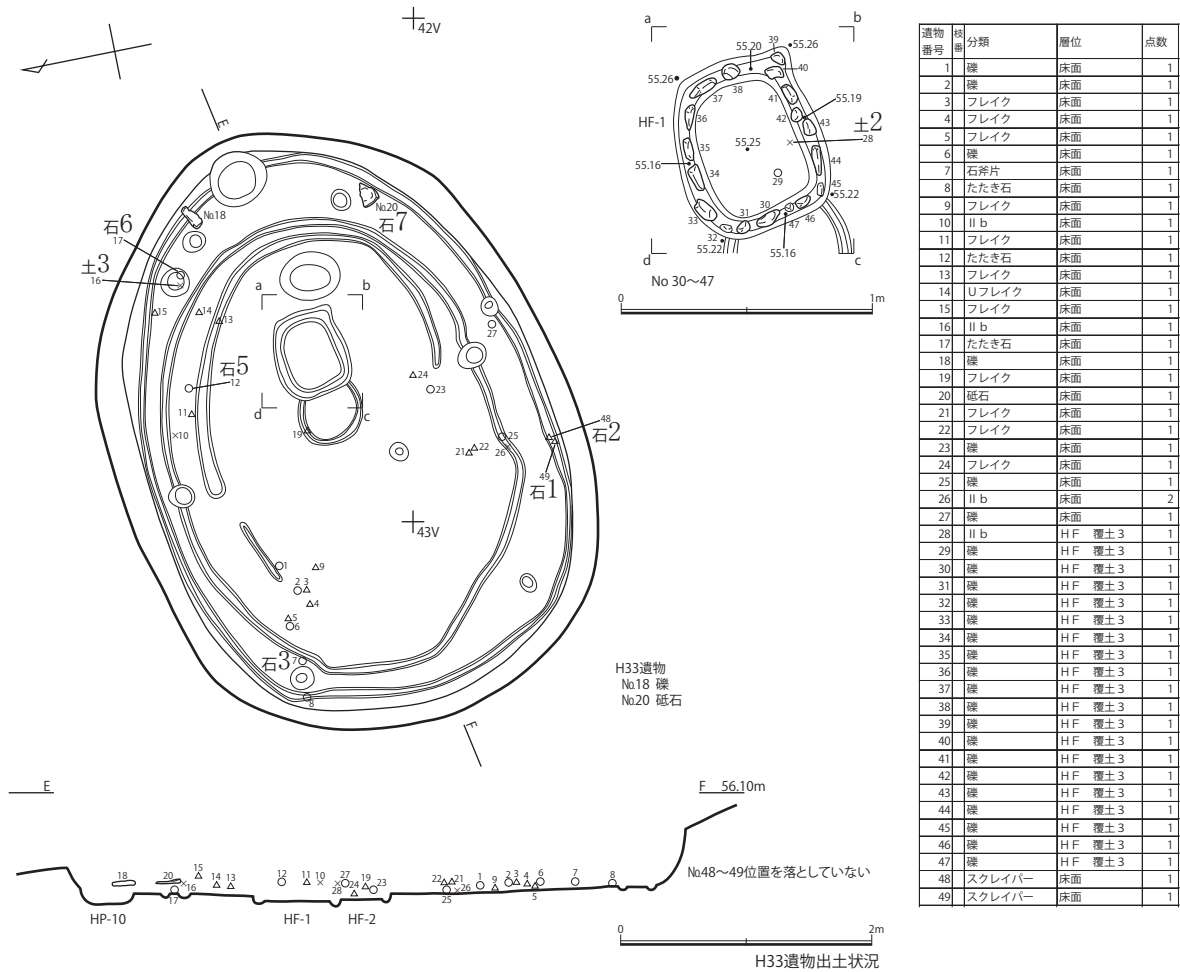
付属遺構 HF-1は中央からやや北東寄りに位置する隅丸長方形の石囲炉である。石組は浅い溝を作り、そこに扁平な5~10cm程度の楕円形の円礫を、長軸をそろえて並べて構築している。円形のものから作り替えられている。HP-1~7は支柱穴で、HP-1・7とHP-2~6が組み合う6本柱と考える。HP-1・7は柱穴を改変した可能性がある。HP-9は先端が尖る杭状のもので、HF-1に近接することからHF-1に伴う柱穴の可能性がある。HP-8は浅く小さいもので周溝に伴う柱穴である。HP-10は浅い土坑で、先端ピットである（遺物の時期を確認する）。HP-11は浅い土坑である。周溝は壁際に沿って全周するものが2条、その内側に東側の半分を中心に途切れるものが1条巡る。（佐藤）

遺物出土状況 235点の遺物が出土した。覆土、床およびHF-1から円筒下層b式で、同一個体のまともが無い破片が出土している。円筒下層b式~円筒下層c式にかけての時期。石器は礫、フレイクの出土が目立つ。掘り上げ土からは45点が出土する。礫が目立つ。土器は縄文時代前期後半のものである。（大泰司）

H33



図Ⅲ-1-68 H33平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図



図Ⅲ-1-69 H33遺物出土状況図

時期 遺物の出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層 b 式以後の時期。

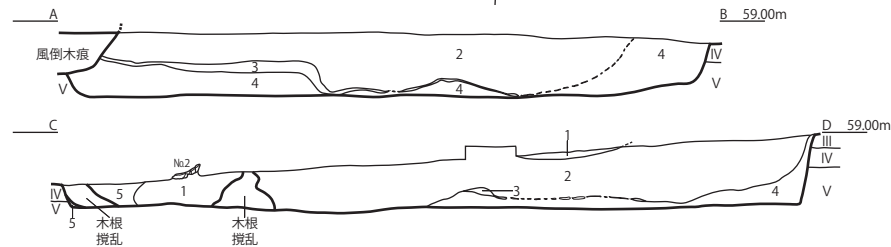
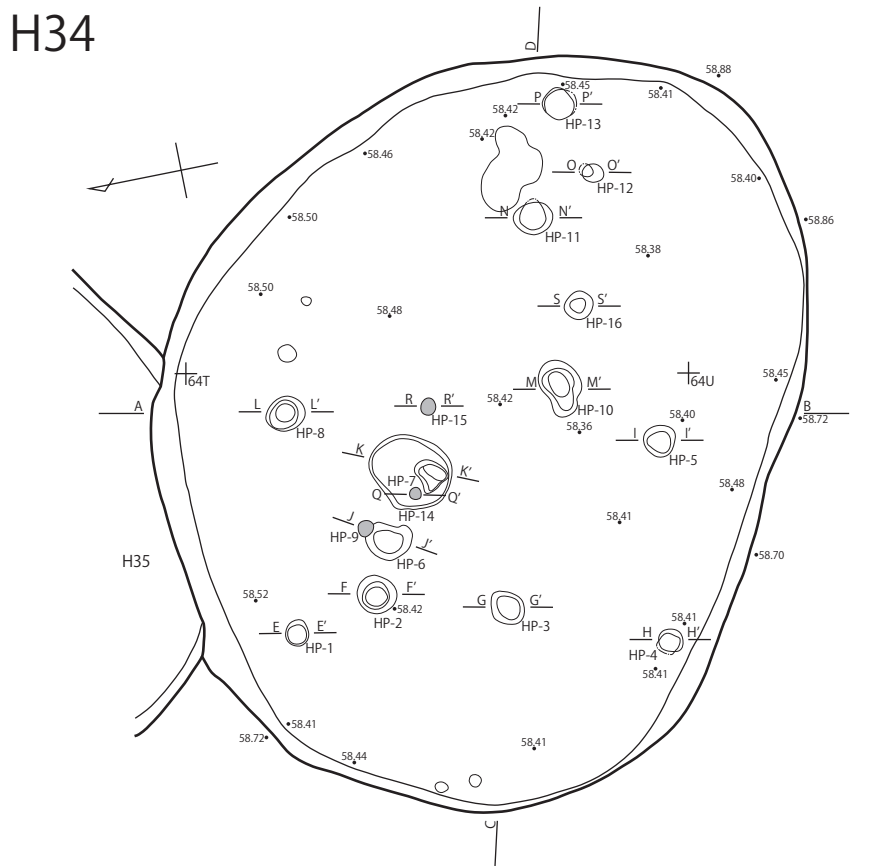
石囲炉を持つ住居は他にも検出されている。H25、H26、H27である。H27については、石の配置が不整で、石組といえなくもないという状況で、かつ平面形が他の3軒と共通せず、周辺の前期の竪穴住居と類似するため、ここでは取り上げない。

H25はその内部施設、H26は残存する付属遺構、H33はその掘り込まれた形状から、類する規模の、卵型ないしは楕円形をした平面形を想定できる。掘り込みの根拠が弱いH26について、これはまとまった土器廃棄がみられる廃棄層を持つ住居であるが、まとまった遺物の分布が石囲炉周辺に無い。H25については調査者が指摘している通り、またH26は複雑な土層のため現場で認知できなかった可能性がある。この3軒は立地も似ている。長軸、あるいは想定できる長軸の方向もほぼ同じである。図Ⅵ-1-1に立地等を示した。

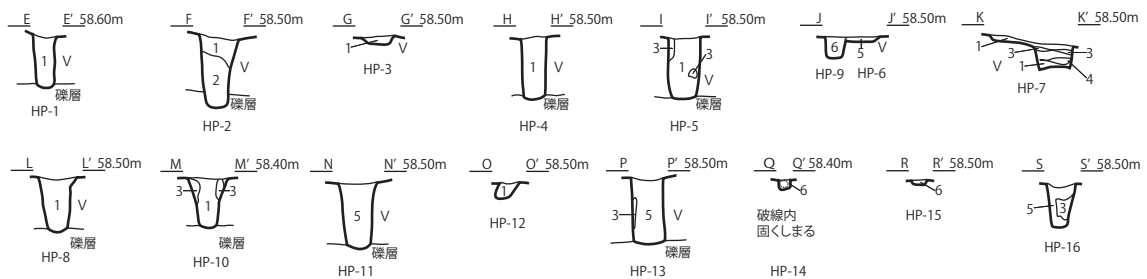
卵型に近い楕円形の平面形とその長軸上に石囲炉を持つ形状からは、縄文時代中期後半Ⅲ群b3類の住居を思わせる。(2006 館野遺跡 北埋調報 237)。ただしいずれの住居に関しても、周辺の出土遺物および遺物の出土状況からは縄文時代前期後半の住居の可能性が調査者から指摘されている。

(佐藤・大泰司)

H34



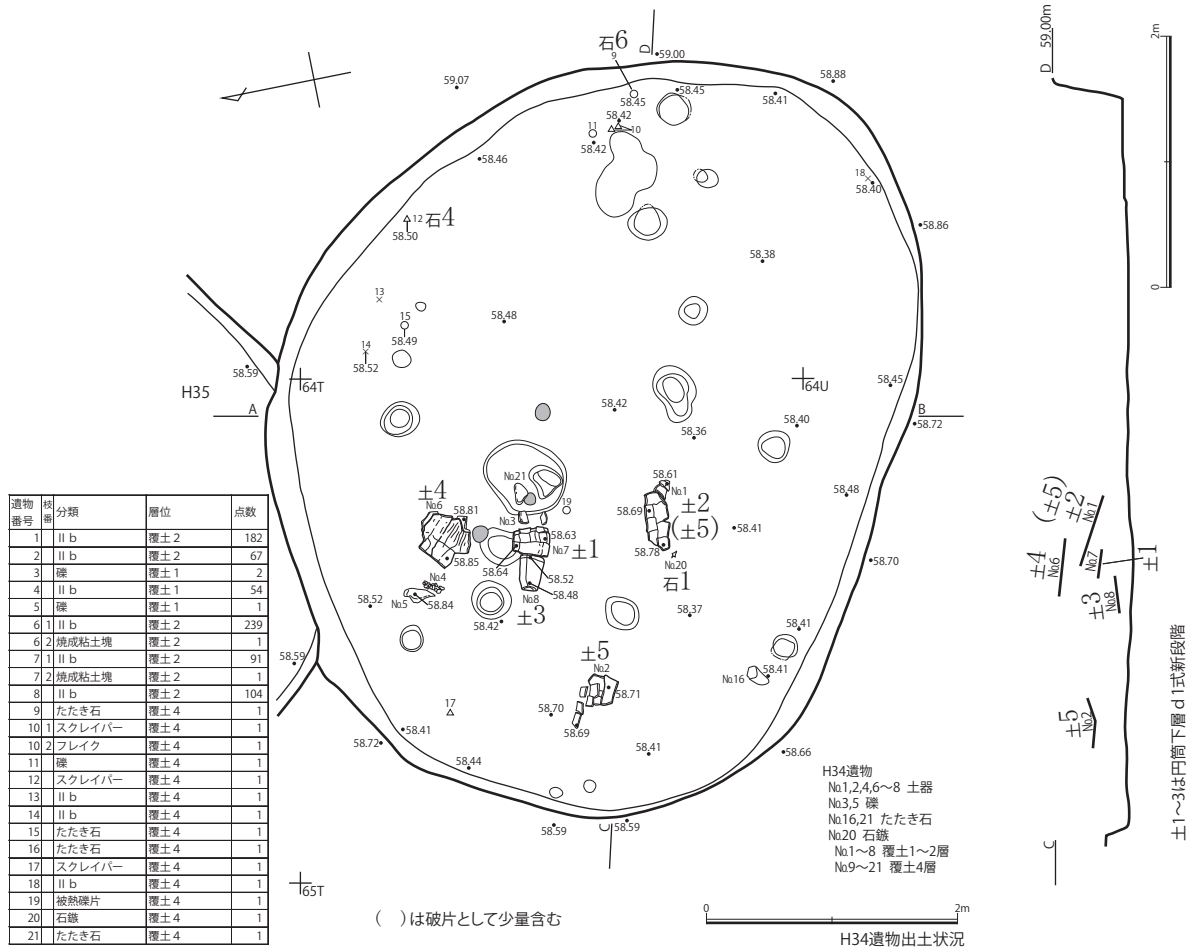
- H34土層
- 1 明黄褐色土(10YR7/6) 盛土M 2-2に類する土 盛土か
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) 主体となる覆土・盛土M 2-2に関連か 土器がまとまって出土 III・IV・Vがよく混じる
 - 3 黒褐色土(10YR2/3) III主体土 しまりなし
 - 4 褐色土(10YR4/6) 小〜中粒径のV土が斑状に10%混じる III・IV・V層が混在するが混じりがない
 - 5 黄褐色土(10YR8/6) V主体土 木根によってあがったものか
 - 6 黄褐色土(10YR5/8) 木根による攪乱 しまりなし



- HP土層
- 1 暗褐色土(10YR3/3) しまりなし
 - 2 暗褐色土(10YR4/6) しまりなし
 - 3 明黄褐色土(10YR6/8) Vがブロック状に入り込む
 - 4 に近い黄褐色土(10YR7/3) 斑状に堆積したにふい黄褐色土に対して中粒径のVブロックが斑状に10%混じる
 - 5 暗褐色土(10YR3/3) 4の土が10%しまりのない暗褐色土中に混じり込む
 - 6 明青灰色砂(5B7) 砂ピットの覆土 HP-14破線で囲んだ範囲が固くしまっていた



図Ⅲ-1-70 H34平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図



図Ⅲ-1-71 H34遺物出土状況図

H34 (図Ⅲ-1-70・71、-2-33、-3-20、図版24・80・81・131)

位置・立地 63・64-S~U区 標高58.8m付近の緩斜面

確認・調査 63・64-S~U区において、楕円形の暗褐色土入り込みを検出した。土層断面観察用の土手を残して、掘り下げたところ、ところどころ木根によって破壊されていたが、明瞭な床面と壁面を確認した事から竪穴住居跡と判断した。H35より新しい。

覆土 覆土1・2層はM2盛土との連続性があり、そこから出土した遺物1~8についてもM2の遺物の可能性がある。覆土の西半分について木根による攪乱が著しい。M2盛土よりは古い住居である。M4盛土はこの住居周辺には分布していない。

構造 平面形は不整な楕円形である。床面はおおよそ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

付属遺構 遺構平面形である楕円形の短軸を30度左回りに回転させると、おおよそ支柱穴の対称軸となる。HP-8に対してHP-2、HP-11に対してHP-5、対称軸上にHP-10が位置する。またHP-13に対してHP-4があるが、HP-18・11・16・5・4はいずれも柱穴を思わせる形状をしており、かつ一直線上に並ぶ。ほかに柱穴の可能性のあるものとしてはHP-1があり、位置的にはHP-2の補助的な役割が想定される。また支柱穴に囲まれた床面中央部分は楕円形に浅く窪む。その平面形は不整な形状で、取り囲むように砂が薄くこびりついていた場所(図Ⅲ-1-70・71アミカケ部分)がある。この窪みからはたたき石が出土している。

柱穴に囲まれ、かつ対称軸上に不整な円形をしたHP-7がある。この土坑には縞状の堆積をしめす

穴がさらに掘られておりV層土と混じりのある土が互層を成している。またHP-7の内部および周辺には砂ピットHP-9・14・15がある。

遺物出土状況 1,751点の遺物が出土した。土器は覆土1・2層には盛土起源の土器がそれぞれ個体ごとにまとまっていたが、1層と2層でわかれている状況は確認できなかった。床面として取り上げた遺物については、覆土の遺物で、覆土最下位にあったものが混在すると考える。覆土から円筒下層b式からc式にかけて出土。覆土上部の2層に円筒下層d1式新段階を廃棄。焼成粘土塊も出土する。石器は覆土から礫、フレイクの出土が目立つ。次にスクレイパー、扁平打製石器の出土が目立つ。

時期 遺物出土状況から縄文時代前期後半円筒下層下c式以降、円筒下層d1式新段階以前の時期。
(大泰司)

H35 (図Ⅲ-1-72・73、-2-34、-3-20・21、図版25・82・131)

位置・立地 63・64-R~T区 標高58.8m付近の緩斜面

確認・調査 Sライントレンチ62~63S区においてトレンチセクションに竪穴住居の土層断面を検出した。少なくとも2軒以上が切り合ってV層を掘り込んでいる状況であった。そのうち土層断面に現れた切り合いH29を調査終了後、63・64-R~T区を掘り下げたところ、いびつな円形の褐色土入り込みを検出した。土層断面観察用の土手を残して、掘り下げたところ、ところどころ木根によって破壊されてはいたが、明瞭な床面と壁面を確認したことから竪穴住居跡と判断した。南側の端はH34によって掘り込まれ壊されていた。東端はH29に壊されているもうひとつの住居を掘り込んでいた。HP-16とした付属遺構はこの住居の壁柱穴に準ずる溝の可能性が高い。M2盛土よりは古い住居である。M4盛土はこの住居周辺には分布していない。

覆土 M2盛土がかぶっていた。その下に褐色土である覆土1・2層が堆積している。盛土より古い。覆土の北東部分については木根による攪乱が著しい。

構造 平面形は、不整な円形で五角形に近い。床面は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

付属遺構 遺構平面形である円形の長軸を称軸として支柱穴が分布する。HP-11・14に対してHP-7・8、HP-2に対してHP-4・6がある。支柱穴を4本ひと組と想定するならば建て替えの可能性があるので、覆土からは引き抜き、埋め戻しの明瞭な痕跡はない。対称軸上にHP-3・9・12・13が並ぶ。またHP-9の脇に位置するHP-10も明瞭な形状をしており、なにか付属施設の構造を示している可能性がある。HP-12・13は長軸中央にある直径40cmほどの窪み中に並んで位置し、砂ピットである。

遺物出土状況 1,105点の遺物が出土した。床面として取り上げた遺物については、覆土最下位にあったものが主体と考える。潰れた状況で検出した土器についても同様である。土器については、円筒下層c式が床面から二個体分まとまって出土している(1と2、点取りNo.6)。石器はフレイクの出土が目立つ。

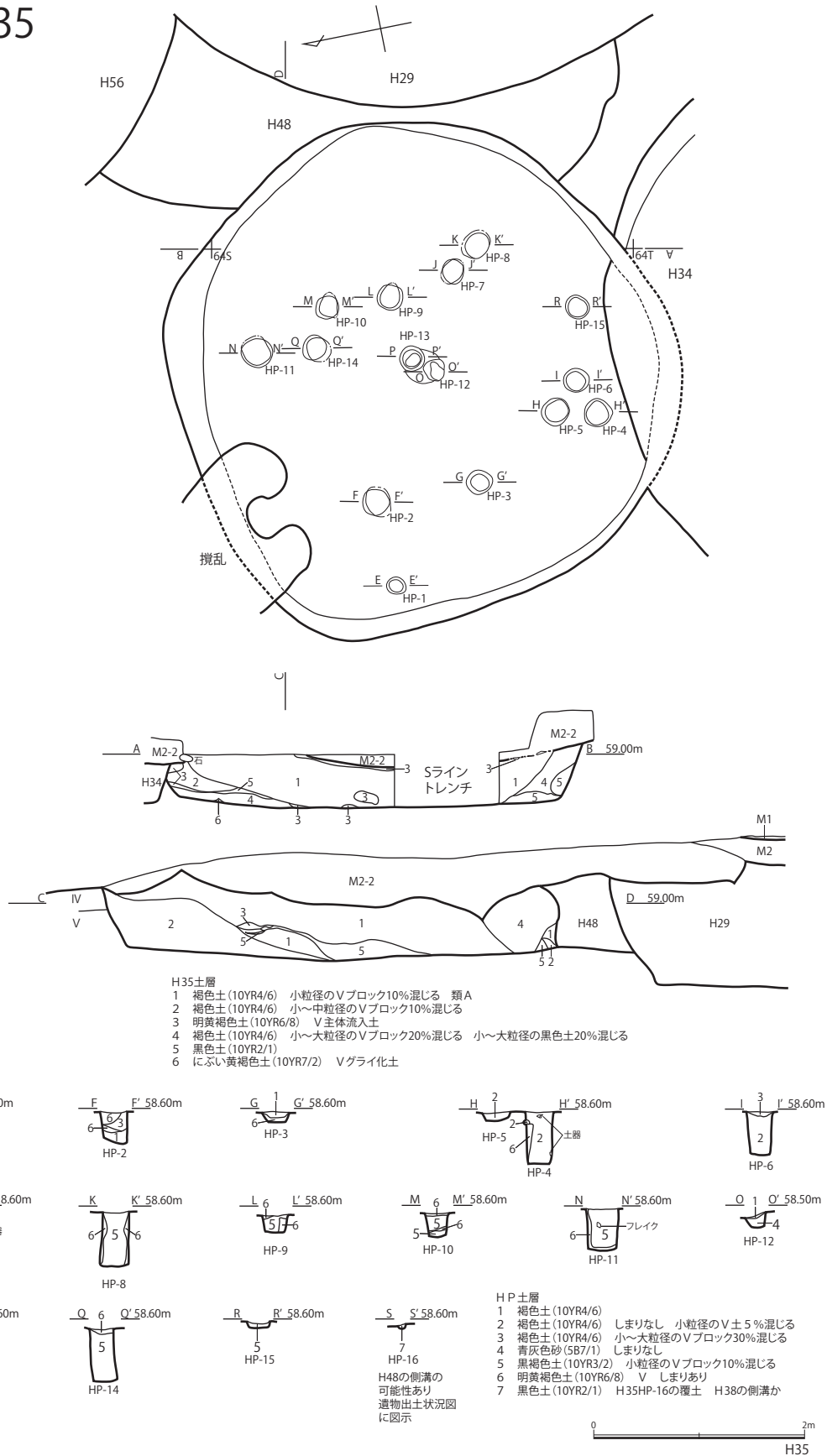
時期 遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層c式の時期。
(大泰司)

H36 (図Ⅲ-1-74・75、-2-35・36、-3-21、図版26・82~84・131・132)

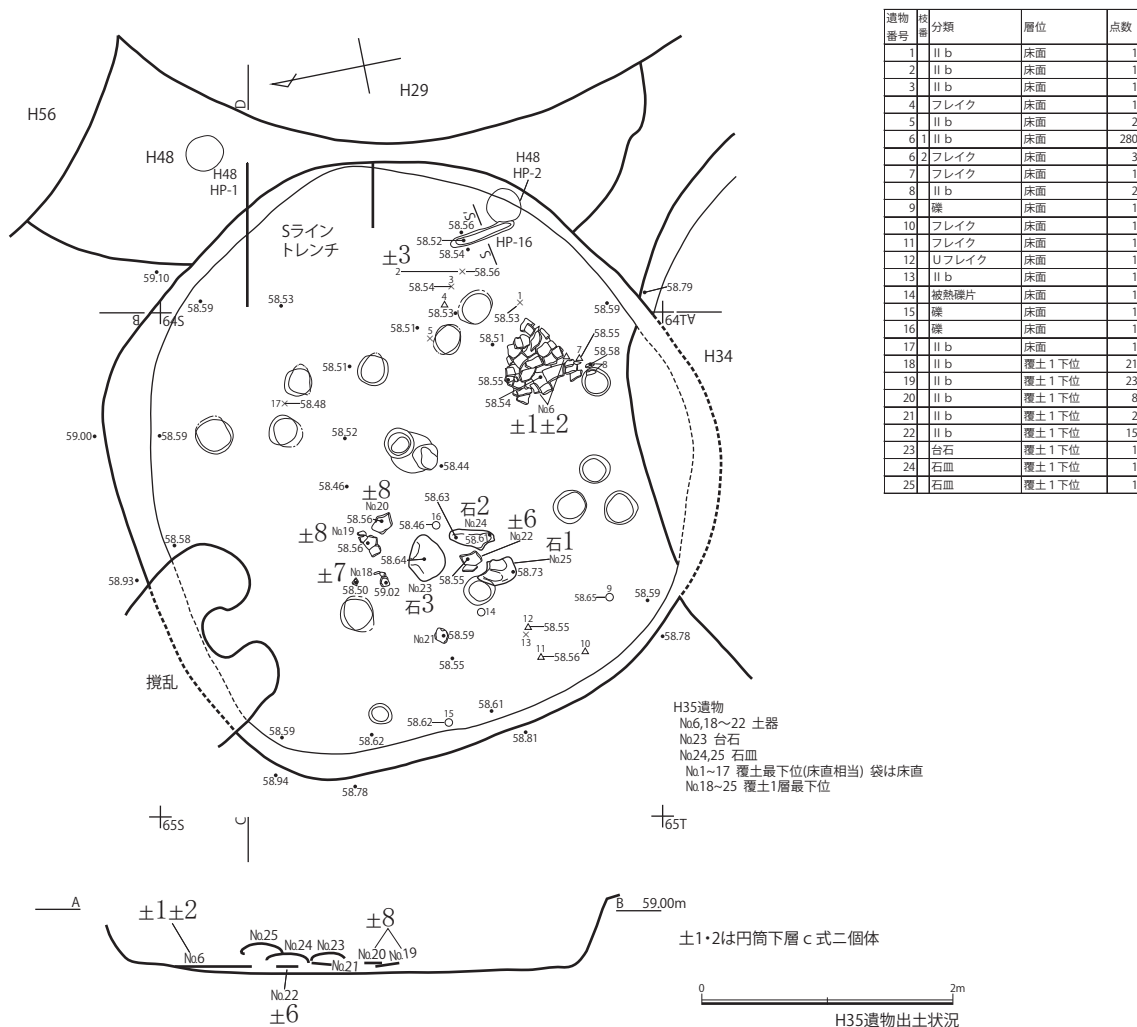
位置・立地 57・58-T・U区 標高57.4m付近の緩斜面

確認・調査 58-T・U区のM4盛土調査中、明黄褐~暗褐色土の入り込みを検出した。平面形はいびつな半円で、57-T・U区に連続している可能性が高かった。調査の展開上、57-T・U区側は着手できなかったためまず58ライン以西を調査した。明瞭な床面と壁面を検出し、規模と柱穴、砂ピットといった付属遺構から、竪穴住居跡と判断し、その後58ライン以东の調査も行った。床面中央、長軸中央

H35



図Ⅲ-1-72 H35平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図



図Ⅲ-1-73 H35遺物出土状況図

のやや西よりは窪んでいる。そして窪みの西よりに砂ピットが分布している。床面の北側から西側にかけて壁際には溝が巡る。

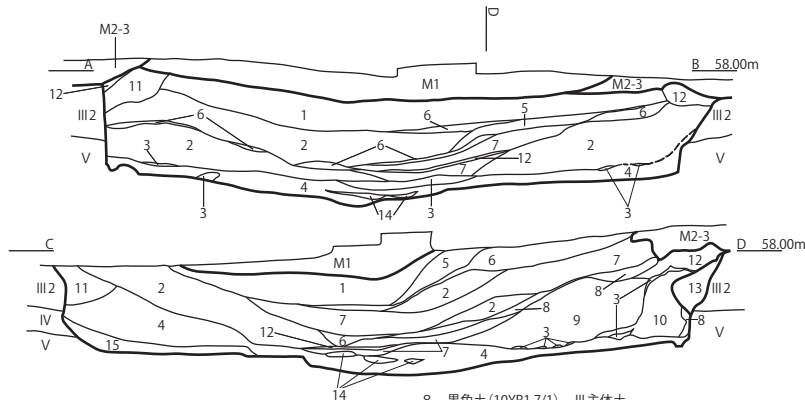
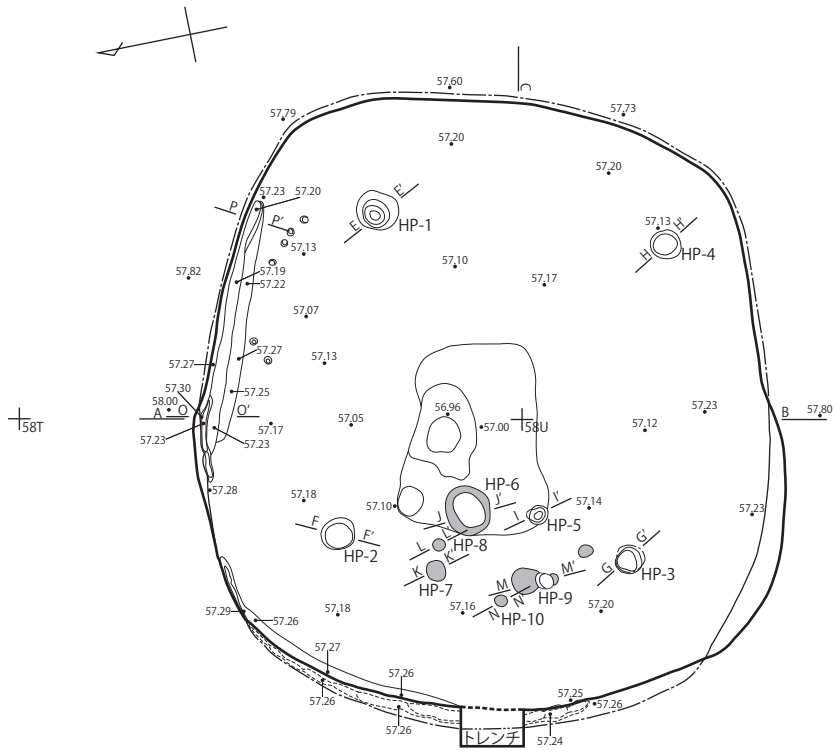
覆土 住居の縁には、M4盛土が一旦掘りあがったM2-3盛土が入り込んでいた。また遺構中央の窪み部分にはM2-3が黒色化したM1層が入り込んでいた。床面に近い部分には覆土4・15層のような黒褐色土、そしてへりから中央にむけてすり鉢状に覆土2・9層といった褐色土が堆積している。そしてすり鉢を埋めるようにして覆土1・6・7層といったV層土を主体とする覆土が埋めている。中央の窪み部に落ち込んでいる覆土7層には砂ピットに混じりがちな青灰色砂が混在しているが、床面よりは10cmほど高い部分から下への分布である。中央窪みの東側に砂ピットはないが、大型の礫が分布している。M4盛土を掘り込んで構築した住居である。

構造 平面形は不整な円形で四角形に近い。床面はおおむね平坦で、中央がいびつにくぼむ。壁は急角度に立ち上がる。

付属遺構 長軸を対称軸として主柱穴が四か所ある。HP-1にはHP-4が対応する。HP-2にはHP-3が対応する。HP-6~10は砂ピットである。HP-3の中央側のわきにも薄く砂ピットと同質の砂が貼り付いている(図Ⅲ-1-74・75にアミカケで表示)。床面中央の窪みについては、長軸上に位置するHP-6を挟んで両側にHP-5と浅い窪みが存在する。壁際の溝については、C字に配された溝の丁度真

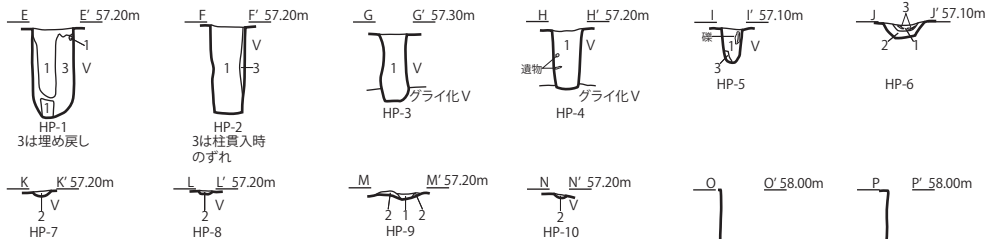
H36

57u



H36土層

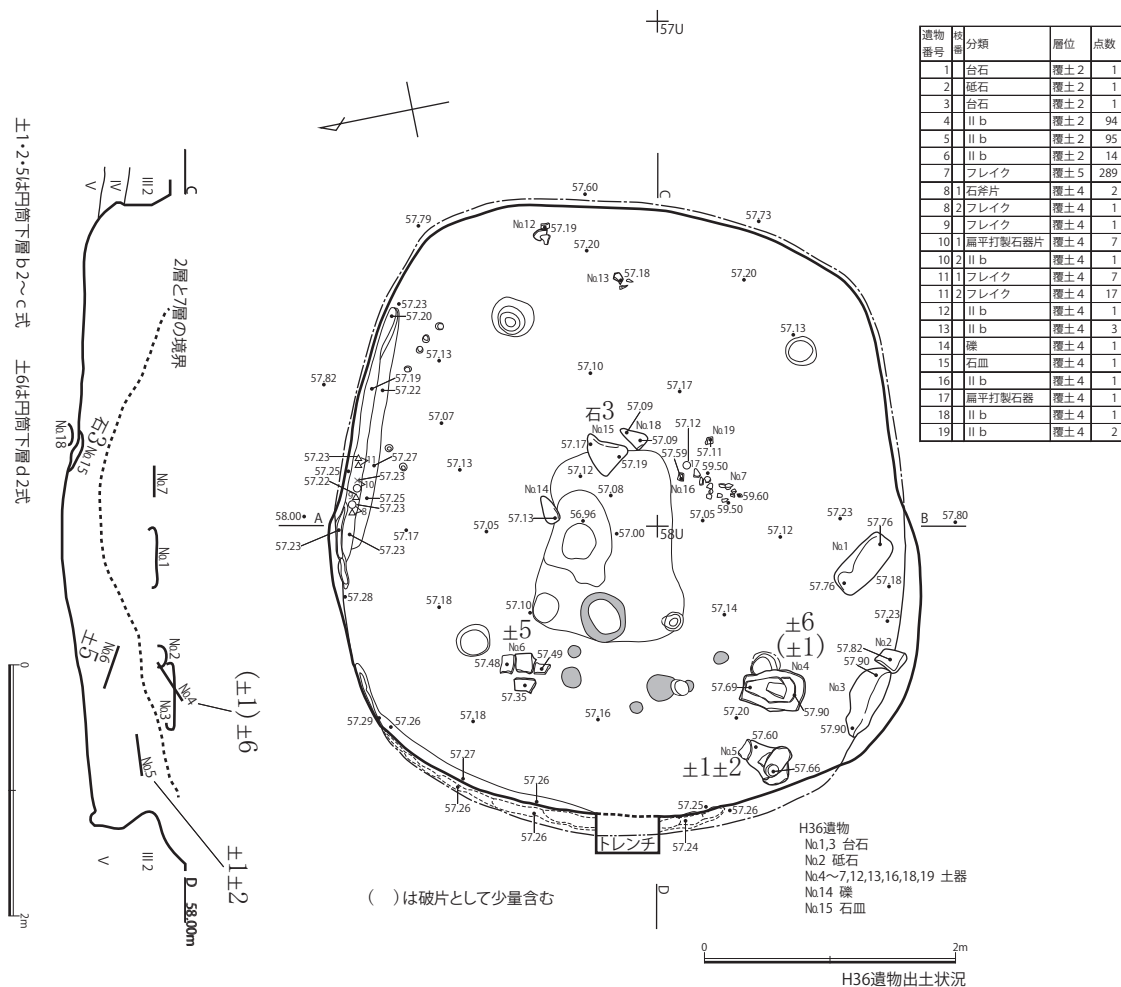
- 1 明黄褐色土 (10YR6/8) V主体土
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) IIIとIV・Vがよく混ざった状況である
- 3 黄褐色土 (10YR5/6) V主体土がブロック状に入り込む
- 4 黒褐色土 (10YR2/3) 小〜大粒径のVがブロック状に7%混じる
- 5 褐色土 (10YR4/6) IIIとIV・Vが同じ比率でよく混ざった状況である
- 6 明黄褐色土 (10YR6/8) やや乳白色味をおびる Vがグライ化したもののかたまり
- 7 黄褐色土 (10YR5/6) 5に類するがVの割合が高い
- 8 黒色土 (10YR1.7/1) III主体土
- 9 暗褐色土 (10YR3/3) 中〜大粒径のVが10%混じる
- 10 黒褐色土 (10YR2/3) 小〜大粒径のVがブロック状に10%混じる 4に類する
- 11 褐色土 (10YR4/4) M4-5起源の土
- 12 黒色土 (10YR2/1) III主体土
- 13 黒褐色土 (10YR2/3) しまりなし 色的には4・10に類する
- 14 黄褐色土 (10YR5/6) V主体土がブロック状に入り込んだものだが砂ビットの砂がところどころ混じる
- 15 黒褐色土 (10YR2/3) 小〜大粒径のVがブロック状に5%混じる 4に類するが混在するVが少ない



- H P土層
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 小〜中粒径のVが2%混じる
 - 2 青灰色砂 (5B7/1)
 - 3 明黄褐色土 (10YR6/8) V主体土



図Ⅲ-1-74 H36平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図



図Ⅲ-1-75 H36遺物出土状況図

中で溝痕が不明瞭となる。また、東側については連続して並べられた板の痕跡らしき単位が確認できたが、北側は不明瞭であった。北側は溝の床面側、中央側が明瞭に盛り上がる。

遺物出土状況 4,120点の遺物が出土した。覆土上半部から大型の土器破片がまとまり、剥片の集中を検出した。これらの土器石器等は廃絶後の窪みへ直接廃棄した可能性があるが、M4盛土掘り上げ後の流入である、M2-3層がさらに流入した可能性もある。床面として取り上げた遺物については、覆土最下位にあったものが主体と考える。

潰れた状況で検出した土器についても同様である。屋根葺土の流入と思われる覆土2層から円筒下層b2~c式が出土し、三個体復元できた。円筒下層d2式の肩部より下のみ復元できた。円筒下層b1式から下層d2式が破片レベルで混在する。覆土下位である覆土4層から円筒下層c式の底部が出土。焼成粘土塊も出土する。

石器は礫、フレイクの出土が目立つ。次に被熱礫、スクレイパー、Uフレイクの出土が目立つ。

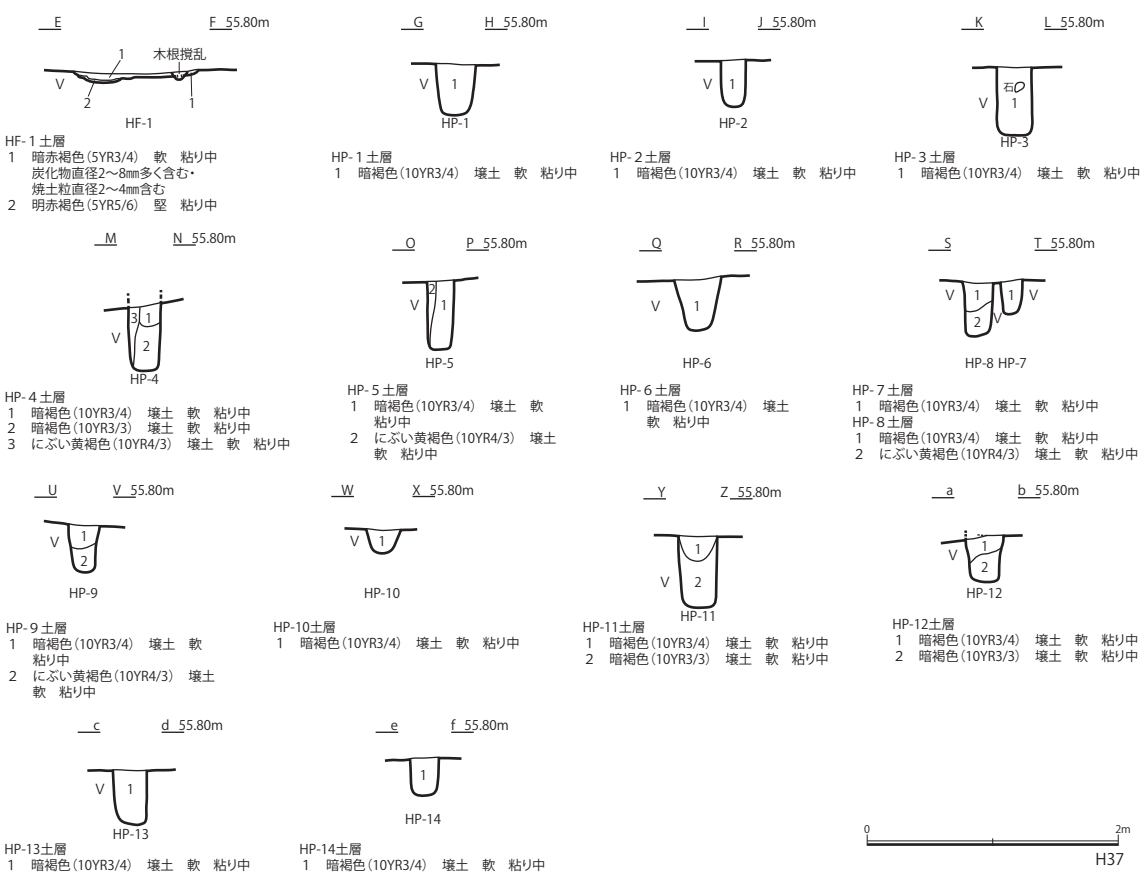
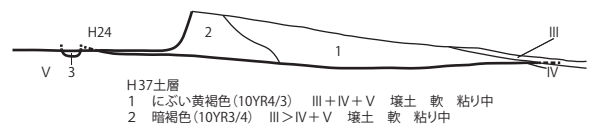
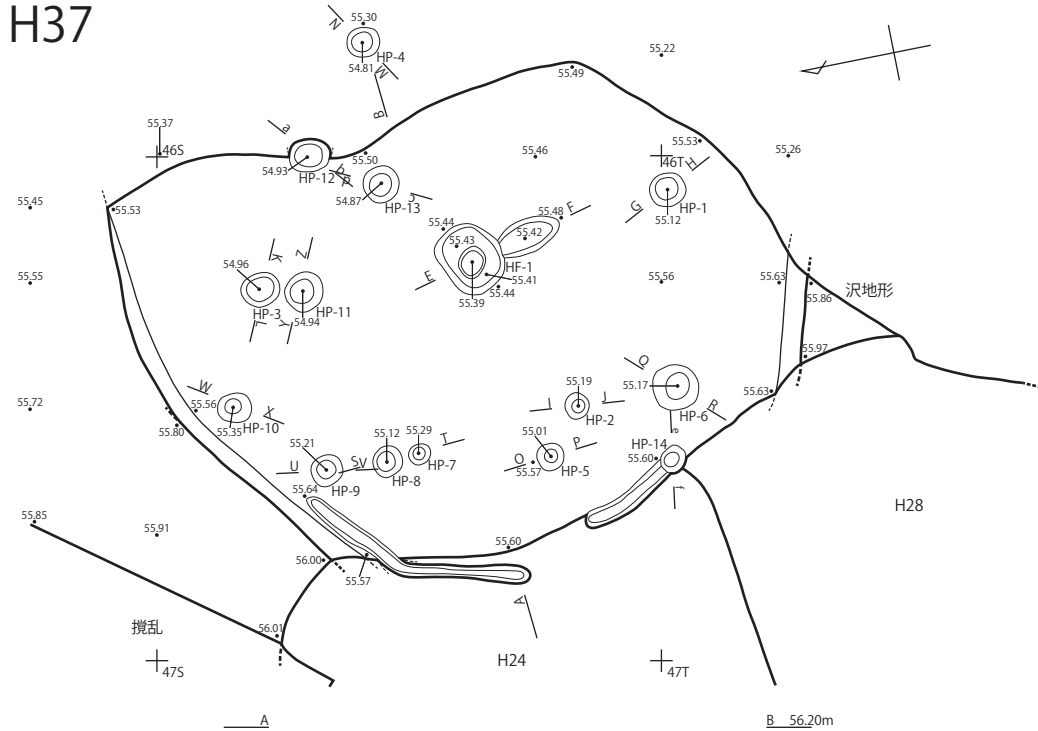
時期 遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層b2~c式段階ないしはその直前の時期。

(大泰司)

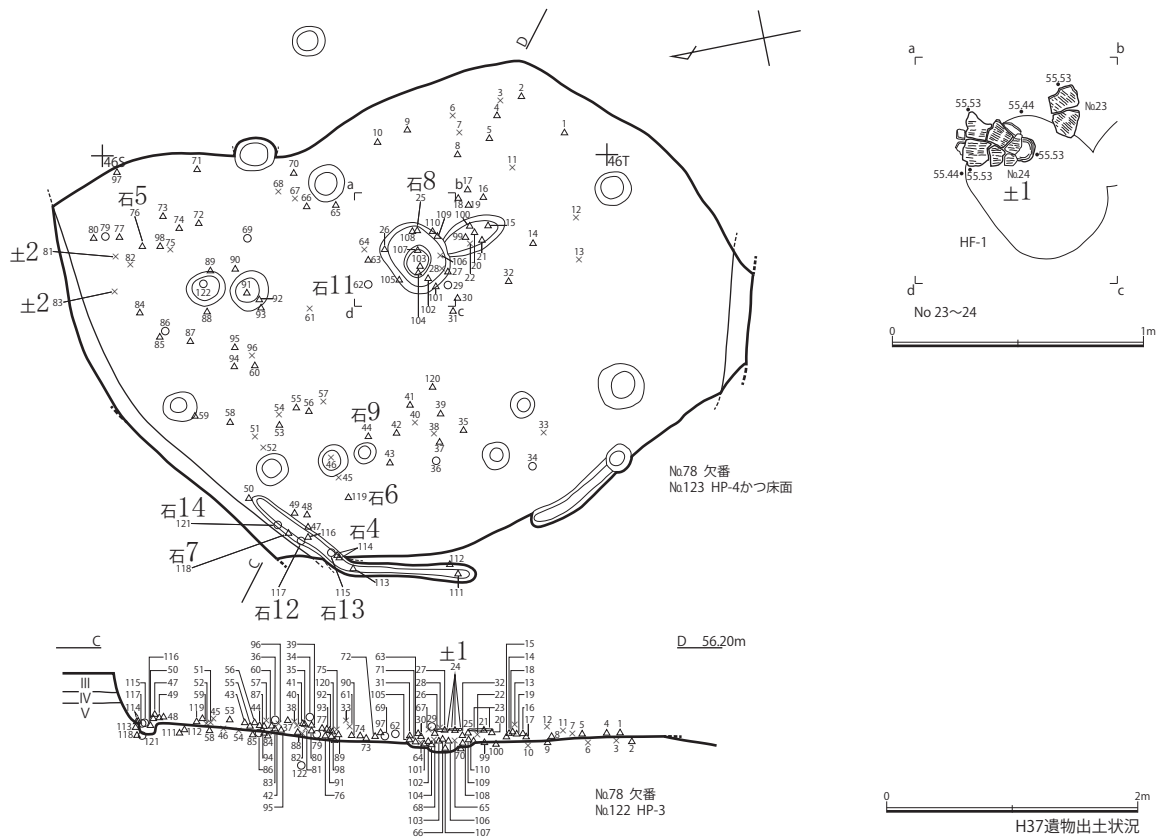
H37 (図Ⅲ-1-76・77、-2-37、-3-21・22、図版27・84・132)

位置・立地 45~47-R~T区 調査区北東側の緩斜面

H37

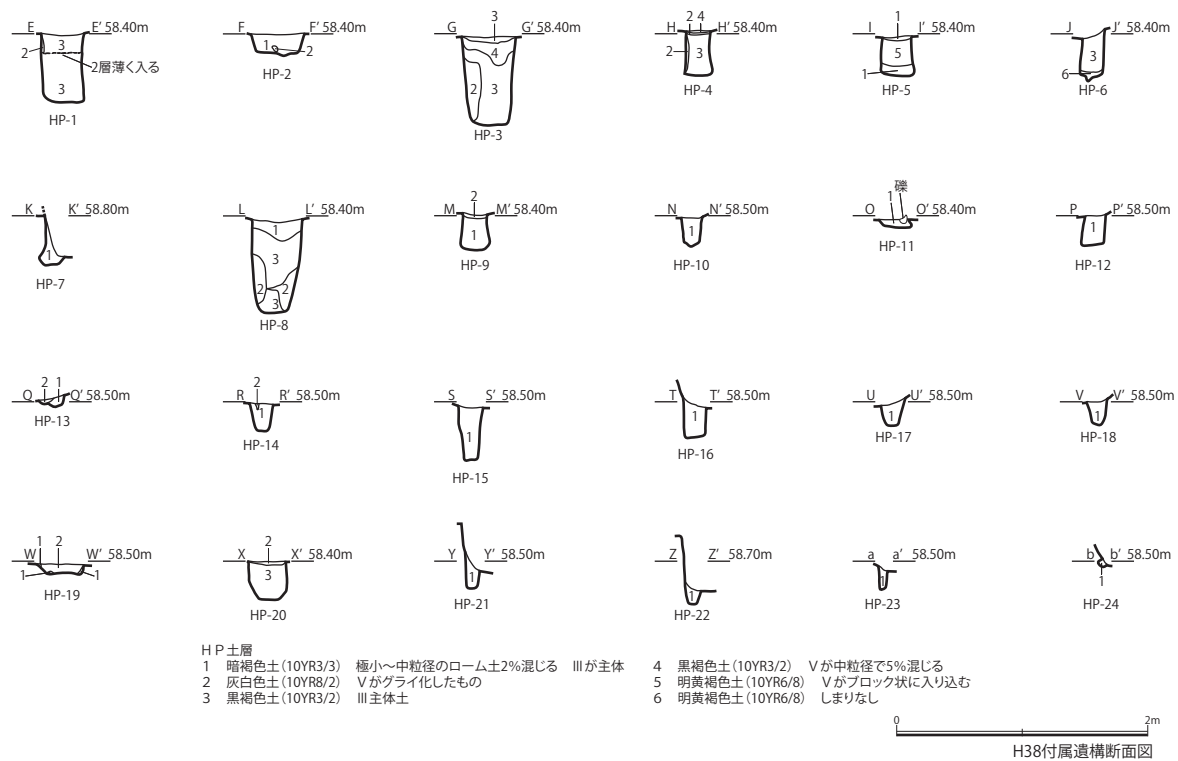


図III-1-76 H37平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図



遺物番号	採番	分類	層位	点数	遺物番号	採番	分類	層位	点数	遺物番号	採番	分類	層位	点数	遺物番号	採番	分類	層位	点数	
1		スクレイパー	床面	1	32		フレイク	床面	1	64		II b	床面	1	96		II b	床面	1	
2		フレイク	床面	1	33		II b	床面	1	65		フレイク	床面	1	97		フレイク	床面	2	
3		II b	床面	3	34		礫	床面	1	66		フレイク	床面	2	98		フレイク	床面	1	
4		フレイク	床面	1	35		フレイク	床面	1	67		II b	床面	47	99		フレイク	H F-1 覆土 1	1	
5		フレイク	床面	2	36		石斧片	床面	1	68		II b	床面	1	100		フレイク	H F-1 覆土 1	1	
6		II b	床面	1	37		フレイク	床面	1	69		たたき石	床面	1	101		フレイク	H F-1 覆土 1	1	
7		II b	床面	3	38		II b	床面	1	70		礫	床面	1	102		フレイク	H F-1 覆土 1	1	
8		フレイク	床面	1	39		フレイク	床面	1	71		フレイク	床面	1	103		フレイク	H F-1 覆土 1	1	
9		フレイク	床面	1	40		II b	床面	1	72		フレイク	床面	2	104		フレイク	H F-1 覆土 1	1	
10		フレイク	床面	1	41		フレイク	床面	1	73		フレイク	床面	1	105		フレイク	H F-1 覆土 1	1	
11		II b	床面	3	42		フレイク	床面	1	74		フレイク	床面	1	106		II b	H F-1 覆土 1	1	
12		II b	床面	1	43		フレイク	床面	1	75		II b	床面	1	107		フレイク	H F-1 覆土 1	1	
13		II b	床面	5	44		両面調整石器	床面	1	76		ドリル	床面	1	108		フレイク	H F-1 覆土 1	1	
14		Rフレイク	床面	1	45		II b	床面	2	77		フレイク	床面	1	109		Rフレイク	H F-1 覆土 1	1	
15		フレイク	床面	2	46		II b	床面	1	78		欠番		110		フレイク	H F-1 覆土 1	1		
16		フレイク	床面	1	47		フレイク	床面	1	79		たたき石	床面	1	111		両面調整石器片	周溝覆土 1	1	
17		フレイク	床面	1	48		フレイク	床面	1	80		フレイク	床面	1	112		フレイク	周溝覆土 1	1	
18		フレイク	床面	1	49		フレイク	床面	1	81		II b	床面	1	113		フレイク	周溝覆土 1	1	
19		フレイク	床面	1	50		フレイク	床面	1	82		II b	床面	1	114		フレイク	周溝覆土 1	1	
20		フレイク	床面	1	51		II b	床面	1	83		II b	床面	1	114		石鏃	周溝覆土 1	1	
21		フレイク	床面	1	52		II b	床面	1	84		フレイク	床面	1	115		たたき石	周溝覆土 1	1	
22		II b	床面	1	53		フレイク	床面	1	85		フレイク	床面	1	116		フレイク	周溝覆土 1	1	
23		II b	床面	97	54		フレイク	床面	1	86		礫	床面	1	117		たたき石	周溝覆土 1	1	
24		II b	床面	215	55		II b	床面	1	87		フレイク	床面	1	118		スクレイパー	周溝覆土 1	1	
24		2	フレイク	床面	56		フレイク	床面	1	88		フレイク	床面	1	119		スクレイパー	床面	1	
25		両面調整石器	床面	1	57		II b	床面	1	89		フレイク	床面	1	120		フレイク	床面	1	
26		フレイク	床面	2	58		フレイク	床面	1	90		フレイク	床面	1	121		たたき石	周溝覆土 1	1	
27		フレイク	床面	1	59		フレイク	床面	1	91		フレイク	床面	2	122		たたき石	H P-3 覆土 1	1	
28		II b	床面	20	60		フレイク	床面	3	92		フレイク	床面	1	123		II b	H P-4 覆土 1	4	
29		被熱礫	床面	1	61		II b	床面	7	93		フレイク	床面	1						
30		フレイク	床面	1	62		扁平打製石器	床面	1	94		フレイク	床面	1						
31		フレイク	床面	1	63		フレイク	床面	1	95		フレイク	床面	2						

図Ⅲ-1-77 H37遺物出土状況図



図Ⅲ-1-79 H38付属遺構土層断面図

確認・調査 H24・28周辺のⅢ層を約15cm掘り下げたところ、にぶい黄褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、柱穴、周溝を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。土層の観察から、H24・28より古い。

覆土 自然堆積である。1層はH24またはH28の掘り上げ土の可能性が高い。

構造 平面形は不明である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。東側は斜面に流出したと考える。

付属遺構 HP-1～9・11～13は支柱穴で、HP-1～4の4本柱またはHP-1～5・10・12の7本柱と考える。HP-1～5・10・12の7本柱の場合、東側が沢地形で流出していることから、8本の可能性もある。HP-4・5は掘りかたがある。HP-2・5とHP-3・11、HP-12・13は柱穴を改変した可能性がある。HP-7～9は支柱穴の可能性もある。HP-14は周溝に関連する柱穴と捉える。HP-6はやや大きめの柱穴である。周溝は西側で断続的に壁際に沿って1条巡る。(佐藤)

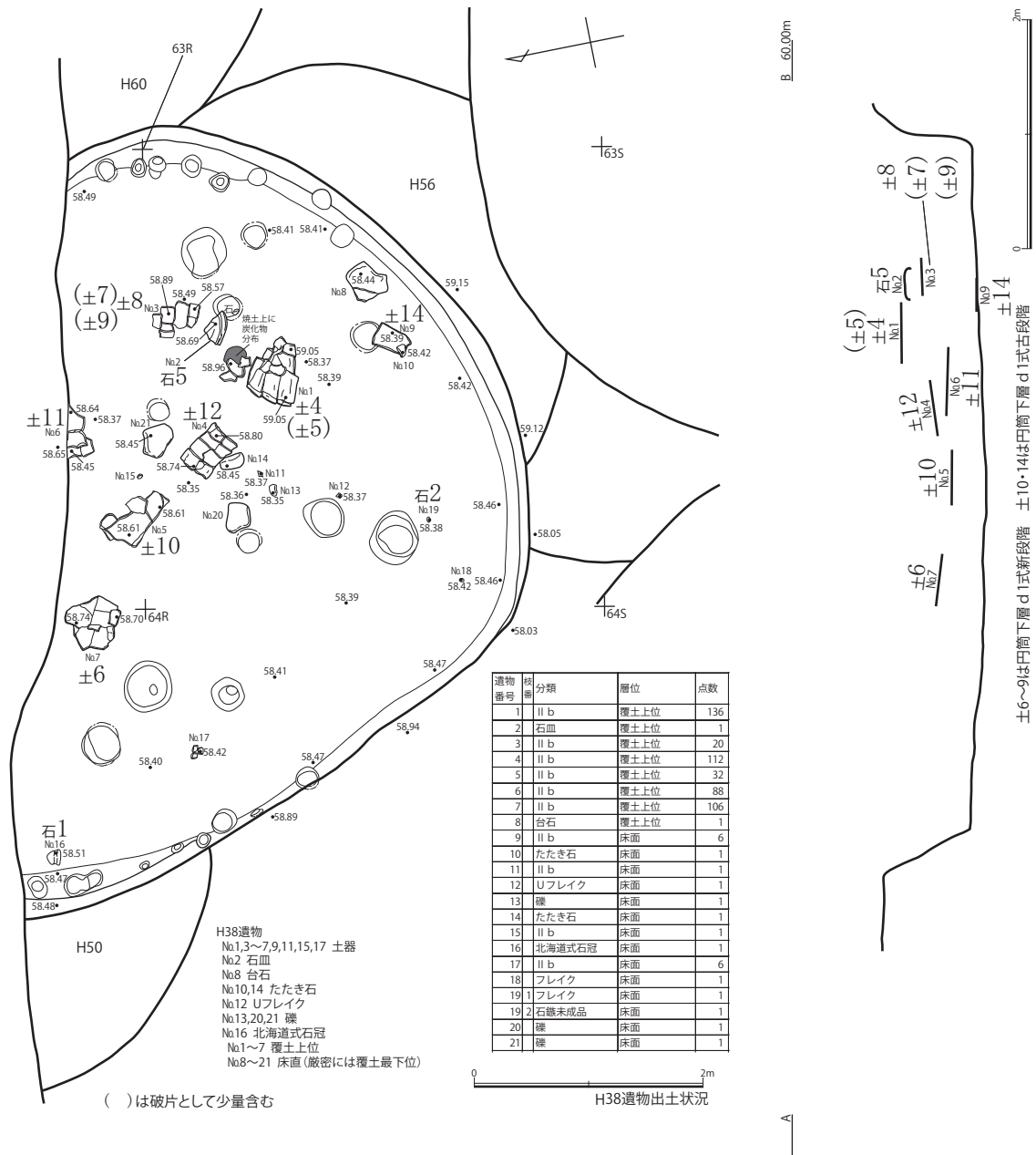
遺物出土状況 979点の遺物が出土した。土器については、覆土から床にかけて円筒下層b式が再流入。地紋が網目状絡条体の円筒下層b2式のころのまとまりもある。石器はフレイクの出土が目立つ。

時期 縄文時代前期後半、円筒下層b2式またはより古い時期。(大泰司)

H38 (図Ⅲ-1-78～80、-2-38～41、-3-22・23、カラー図版3、図版28・84～88・132)

位置・立地 63・64-R・S区 標高58.6m付近の緩斜面

確認・調査 63・64-R・S区のM2盛土調査中、暗褐色土の入り込み検出した。平面形は楕円形で一部発掘区外へ延びているようであった。長軸と発掘区壁際に土層観察用の土手を残し、掘り下げたところ、5軒の竪穴住居と考えられる遺構が切り合っている状況と判断した。そのうち切り合い上一番新しい2軒の1軒であるH29を調査終了後、もう1軒の住居の調査に着手した。まず覆土の上に被っ



図III-1-80 H38遺物出土状況図

ているM2盛土を調査した後、覆土上部中央からNo.1・3~7までの六個体の土器を検出し、取り上げた。床面を検出し、南東-北西を長軸とする隅丸方形に近い楕円形の堅穴住居であることが判明した。M2盛土より古いのが、周辺の住居H48・50・56・60よりは新しい。

覆土 覆土下半部にはV層主体の土が堆積し、住居掘り上げ土によって土葺きとした屋根の崩落を思わせる。その上の覆土中央部はV層とⅢ層主体の土層が交互に入り込み、断面は縞状を呈している。

構造 平面形は不整な楕円形で四角形に近いと想定。床面はほぼ平坦だが、中央が浅く窪む。壁は急角度に立ち上がる。

付属遺構 長軸を対称軸として四か所の主柱穴が想定できる。HP-3に対応するHP-8、HP-1に対応する柱穴は発掘区外にあると考える。壁際には壁柱穴が巡る。H38より古いH56の調査時に、床をはがすとH56HP-4~7・9・11・14を検出したが、これはこのH38壁柱穴の可能性が高い。発掘区内の

H38について南角のみ壁柱穴が分布しない。H56HP-6上部には砂ピット特有の砂が入り込むが、H56起源の可能性もあり、砂ピットとは明言し難い。HP-4・6や深さが浅いHP-11・19はそれぞれ長軸を対称とした位置に対応する。HP-2・20も明瞭に掘り込まれた穴である。

遺物出土状況 3,343点出土した。覆土上半部出土のまとまった土器破片は、廃絶後の窪みへ直接廃棄した可能性があるが、M4盛土掘り上げ後の流入である、M2-3層がさらに流入した可能性もある。床面として取り上げた遺物については、覆土最下位にあったものが主体と考える。床面近くから台石を思わせる大型の礫が出土しているが、H56に絡んだ柱穴の埋没した上に位置することから、この住居床面かどうかは判断出来なかった。覆土上半部から大型の円筒下層d1式新段階である。床面近くからは口縁部文様帯の幅が狭く、区画帯を持たない円筒下層d1式古段階の破片が出土している。焼成粘土塊も出土する。石器は礫、フレイクの出土が目立つ。次にスクレイパー、ドリルの出土が目立つ。

時期 遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層d1式古段階あるいは直前。(大泰司)

H39 (図Ⅲ-1-81~84、-2-42~53、-3-23~25、図版29・88~99・133)

位置・立地 61・62-T・U区 標高58.4m付近の緩斜面

確認・調査 61・62-T・U区においてM2盛土調査中、にぶい黄褐色～浅黄褐色土の入り込みを検出した。入り込みは長楕円形を呈しており、62T区には黒～黒褐色土の入り込みを検出したため風倒木によって堅穴住居の覆土上部が攪乱を受けている状況を想定した。そこで南北と東西、直行する2本の土層観察用土手を残して覆土を掘り下げた。62U杭の周りを中心として、土器がまとまって複数個体検出された。これは黄褐色～浅黄褐色土の分布範囲と同じである。床面・壁面を検出した事から、1軒の堅穴住居と判断した。平面形は不整な円形でH29より古い。南東壁にはベンチを有する。

覆土 覆土下半部南半分はV層土主体である。北半分は掘り込みより上部からの木根の影響によって乱れている。覆土上半分はM2盛土に類似するV層土主体の土の堆積であるM3盛土に相当するグライ化したV層と礫がからんだ土層が2層である。この土層がすり鉢状になった覆土下半部の土層に入り込む。遺物はこの土層と一緒に覆土に混じり込む。覆土の上部から下部まで連続して遺物が出土しており、覆土最上部、覆土上部、覆土中部、覆土下部、覆土最下部と区別して取り上げた。覆土下半部のV層主体の土の堆積は、住居掘り上げ土によって土葺きとした屋根の崩落を思わせる。

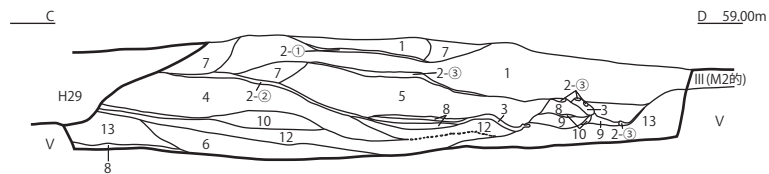
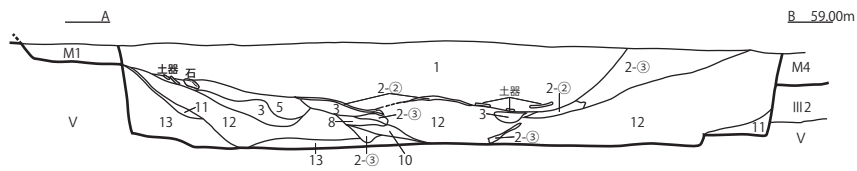
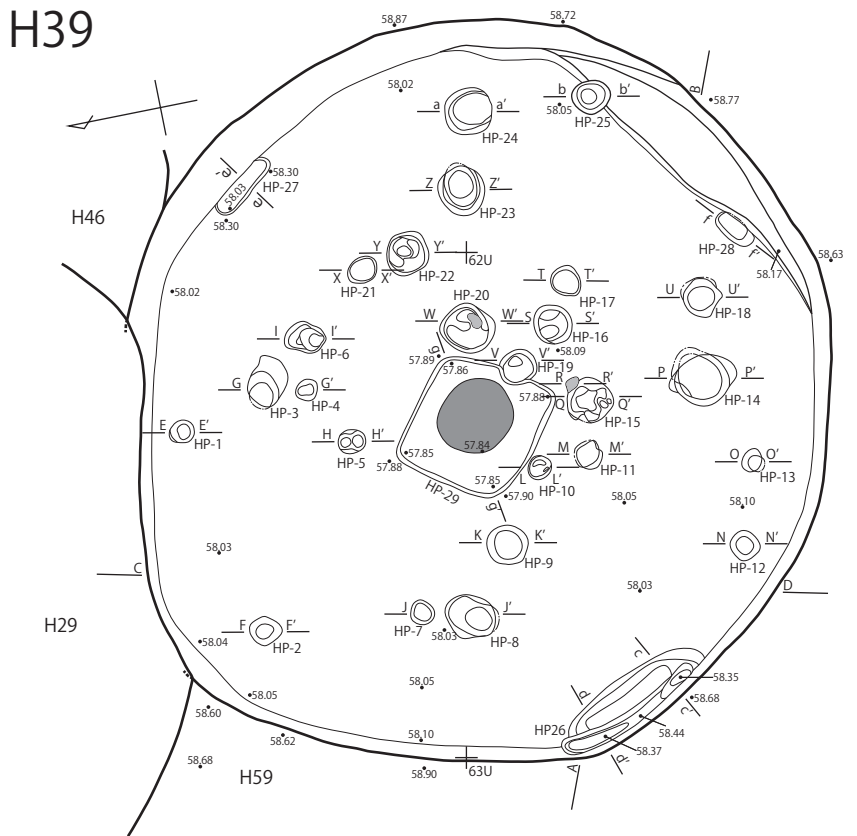
構造 平面形は不整な円形である。南縁と西縁に浅いベンチがある。東西端に短い周溝がある。床面はおおよそ平坦で中央が窪む。壁面は急角度に立ち上がる。

付属遺構 ベンチの中心、そしてHP-26と27の中心を通る軸を対称軸として想定すると、四か所の支柱穴とみなされる大型の柱穴は対称性がある。HP-23に対応するHP-14、HP-3に対応するHP-8がそれである。ベンチ際にはHP-18・25といった柱があり、HP-28については側溝を思わせる穴である。HP-26は住居南西壁際にある側溝で、溝内側が盛り上がる。HP-27は覆土中にフレイクチップが入り込んでいたため一括して取り上げた。住居中央、四角形の窪みHP-29があり、中央が酸化した鉄分によるものか、橙色に色づいている。この土坑の対象軸上南側には円形の窪みHP-19があり、これを中央として挟むようにして砂を含んだ土坑HP-15・16がある。またHP-29西脇には砂ピットHP-10もある。平面形が円形の浅い小土坑が、おおよそ軸に対して線対称に複数展開する。

遺物出土状況 10,672点の遺物が出土した。覆土上半部から覆土最下部までのまとまった土器群については前述の通りである。破片は、廃絶後の窪みへ直接廃棄した可能性がある。また、床面として取り上げた遺物については、覆土の最下位にあったものが主体と考える。

覆土最下位での円筒下層c式のまとまり63~65(点取りNo.40~42)が床面に近い一群と言える。そ

H39

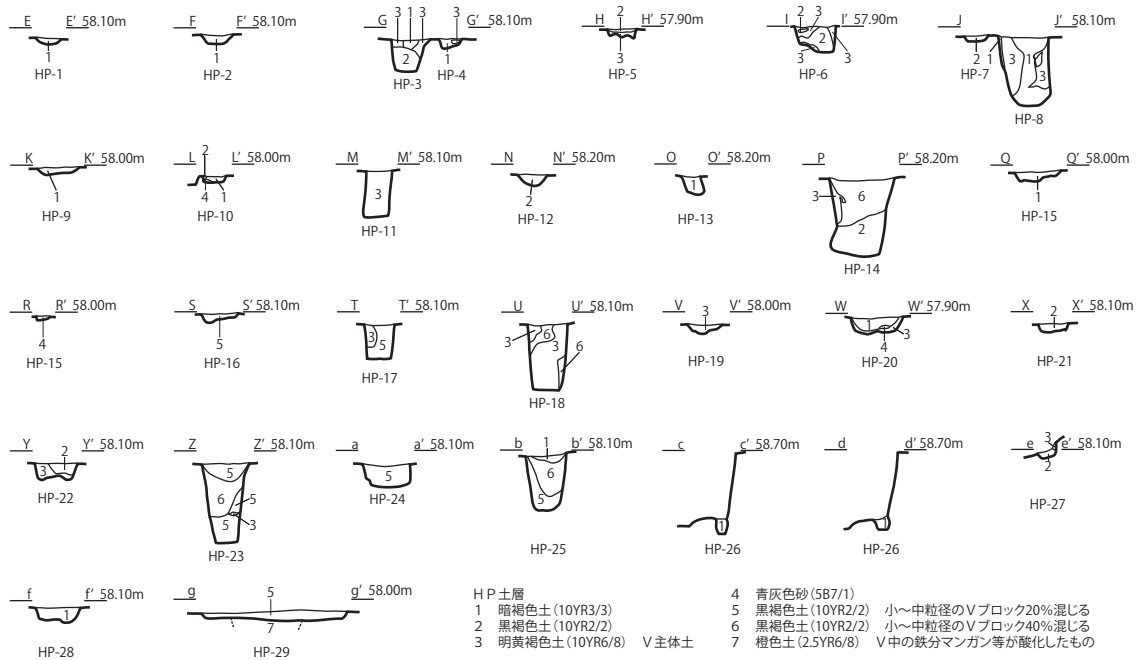


H39土層

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 に近い黄褐色土(10YR5/3) III+Vよく混じる M2-2的 | 6 黒褐色土(10YR2/2) |
| 2-① 浅黄褐色土(10YR8/3) Vグライ化土 礫多し | 7 黒色土(10YR1.7/1) |
| 2-② 浅黄褐色土(10YR8/3) Vグライ化土 焼土混じり | 8 黒褐色土(10YR3/2) |
| 2-③ 浅黄褐色土(10YR8/3) Vグライ化土 | 9 褐色土(10YR4/6) |
| 3 明黄褐色土(10YR7/6) V土 | 10 明黄褐色土(10YR6/8) 小〜大粒径のVブロック20%混じる |
| 4 黒褐色土(10YR3/2) | 11 黄褐色土(10YR5/8) 小〜大粒径のVブロック20%混じる |
| 5 褐色土(10YR4/4) | 12 褐色土(10YR4/6) 小粒径のVブロック5%混じる |
| | 13 褐色土(10YR4/6) 小粒径のVブロック15%混じる |

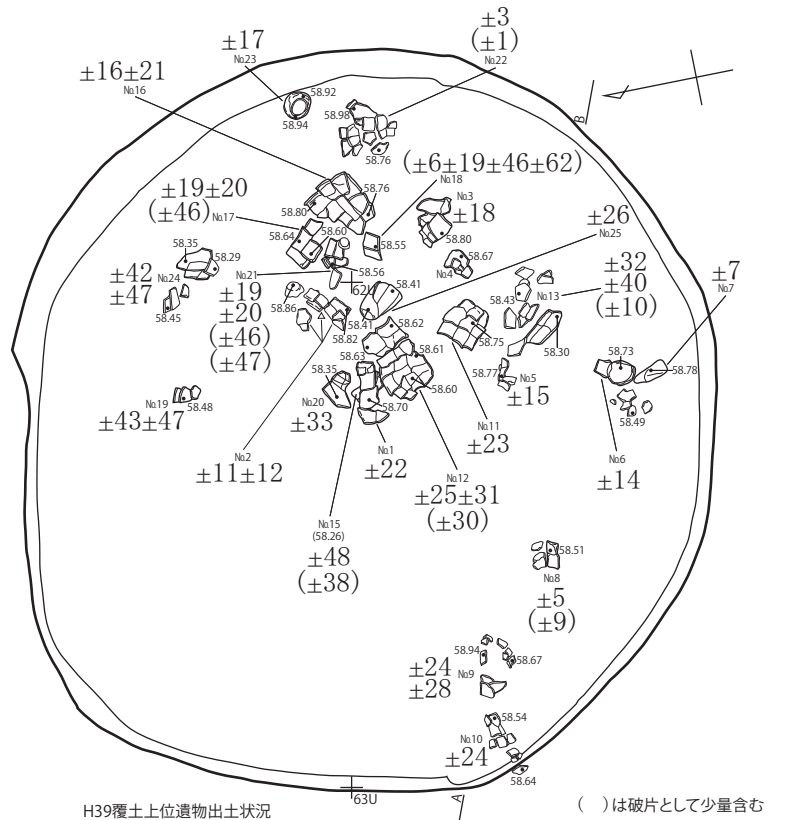
図III-1-81 H39平面図・土層断面図

館野6遺跡(2)



HP土層
 1 暗褐色土(10YR3/3)
 2 黒褐色土(10YR2/2)
 3 明黄褐色土(10YR6/8) V主体土
 4 青灰色砂(5B7/1)
 5 黒褐色土(10YR2/2) 小〜中粒径のVブロック20%混じる
 6 黒褐色土(10YR2/2) 小〜中粒径のVブロック40%混じる
 7 橙色土(2.5YR6/8) V中の鉄分マンガン等が酸化したものの

遺物番号	坑番号	分類	層位	点数
1	1	II b	覆土上位	108
2	1	II b	覆土上位	183
2	2	フレイク	覆土上位	2
3	1	II b	覆土上位	302
3	2	焼成粘土塊	覆土上位	2
4	1	II b	覆土上位	42
5	1	II b	覆土上位	45
6	1	II b	覆土上位	163
7	1	II b	覆土上位	37
8	1	II b	覆土上位	15
9	1	II b	覆土上位	24
10	1	II b	覆土上位	44
11	1	II b	覆土上位	129
12	1	II b	覆土北側上位	203
13	1	II b	覆土上位	207
13	2	焼成粘土塊	覆土上位	1
14	1	II b	覆土上位	76
15	1	II b	覆土上位	54
16	1	II b	覆土上位	276
17	1	II b	覆土上位	39
18	1	II b	覆土上位	47
19	1	II b	覆土上位	46
20	1	II b	覆土上位	63
21	1	II b	覆土上位	123
22	1	II b	覆土最上位	276
23	1	II b	覆土最上位	192
24	1	II b	覆土上位	35
25	1	II b	覆土2直下	141
26	1	II b	覆土下位	327
26	2	焼成粘土塊	覆土下位	7
26	3	フレイク	覆土下位	1
27	1	II b	覆土下位	36
28	1	II b	覆土下位	28
29	1	II b	覆土下位	25
30	1	II b	覆土下位	56
31	1	II b	覆土下位	171
31	2	フレイク	覆土下位	1
32	1	II b	覆土中位	192
32	2	フレイク	覆土中位	1
33	1	II b	覆土下位	79
34	1	II b	覆土下位	20
35	1	II b	覆土下位	106
36	1	谷石	覆土下位	1
37	1	II b	覆土下位	2
38	1	II b	覆土下位	33
39	1	II b	覆土下位	74
40	1	II b	覆土最下位	95
40	2	フレイク	覆土最下位	2
41	1	II b	覆土最下位	149
42	1	II b	覆土最下位	41
43	1	石器未成品	床面	1
44	1	II b	床面	2
45	1	フレイク	床面	1
46	1	フレイク	床面	2
47	1	フレイク	床面	1
48	1	フレイク	床面	1
49	1	フレイク	床面	1
50	1	フレイク	床面	1



遺物番号	坑番号	分類	層位	点数
51	1	フレイク	床面	1
52	1	II b	床面	1
53	1	鏝	床面	1
54	1	II b	床面	1
55	1	フレイク	床面	1
56	1	フレイク	床面	1
57	1	フレイク	床面	1
58	1	II b	床面	1
59	1	焼熱礫	床面	1
60	1	鏝	床面	1
61	1	フレイク	床面	2
62	1	スクレイパー	床面	2

H39覆土上位遺物
 No1~13,15~25 土器
 No1~12 覆土北側上位
 No13~21, No24 覆土上位
 No14 覆土上位だが、レベルが下位と同じため下位扱
 No22~23 覆土最上位
 No25 覆土上位、覆土2層直下

図Ⅲ-1-82 H39付属遺構土層断面図・遺物出土状況平面図(覆土上位)

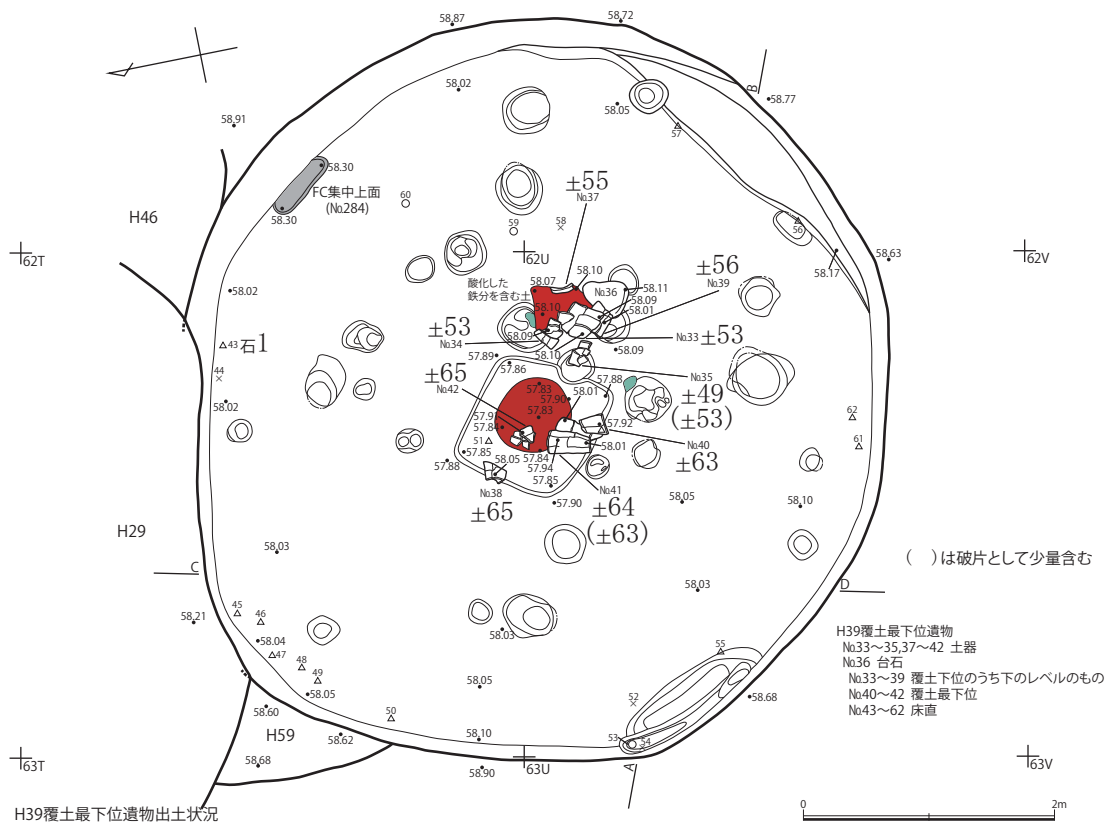
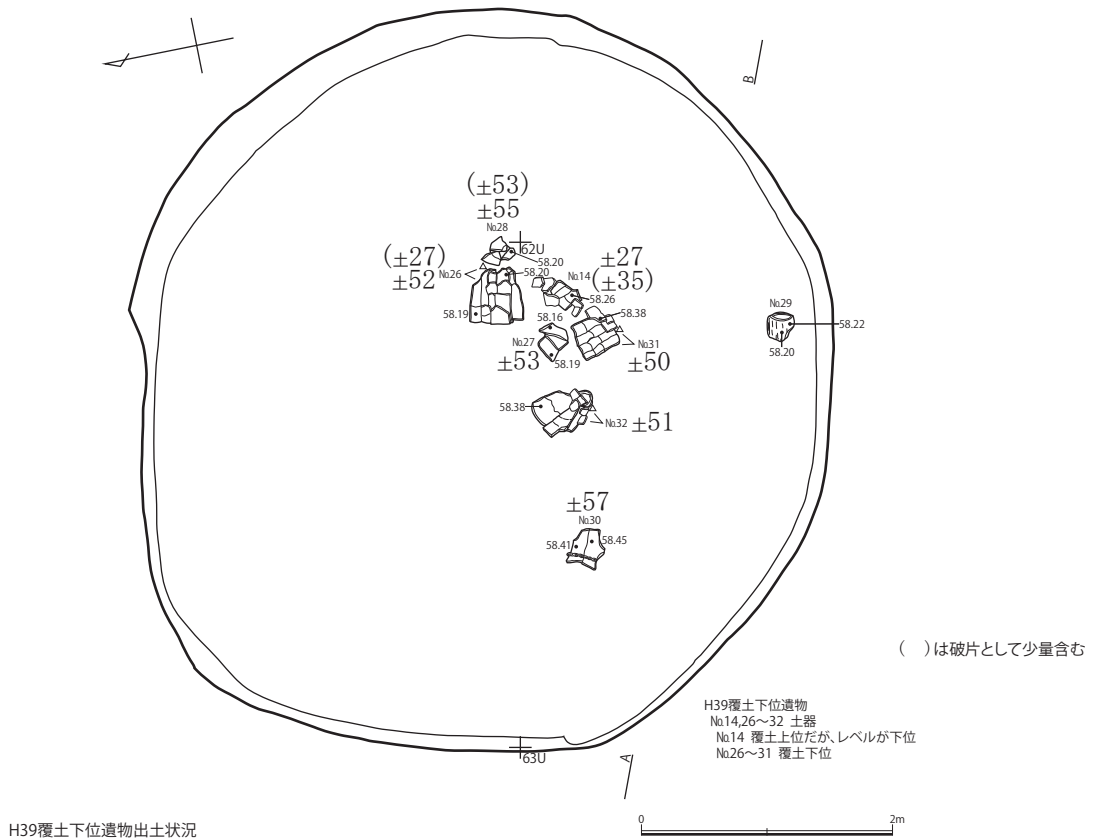
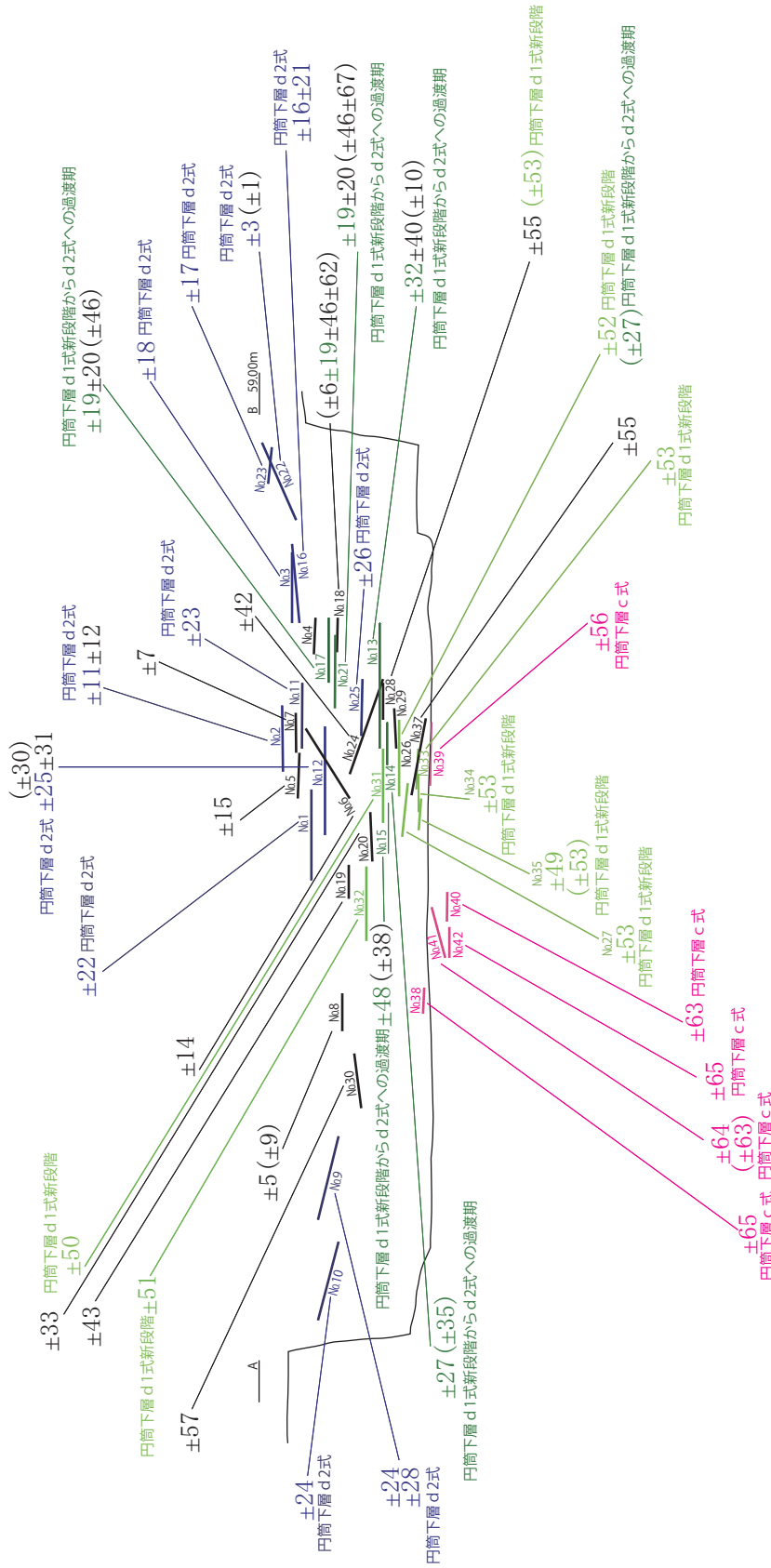
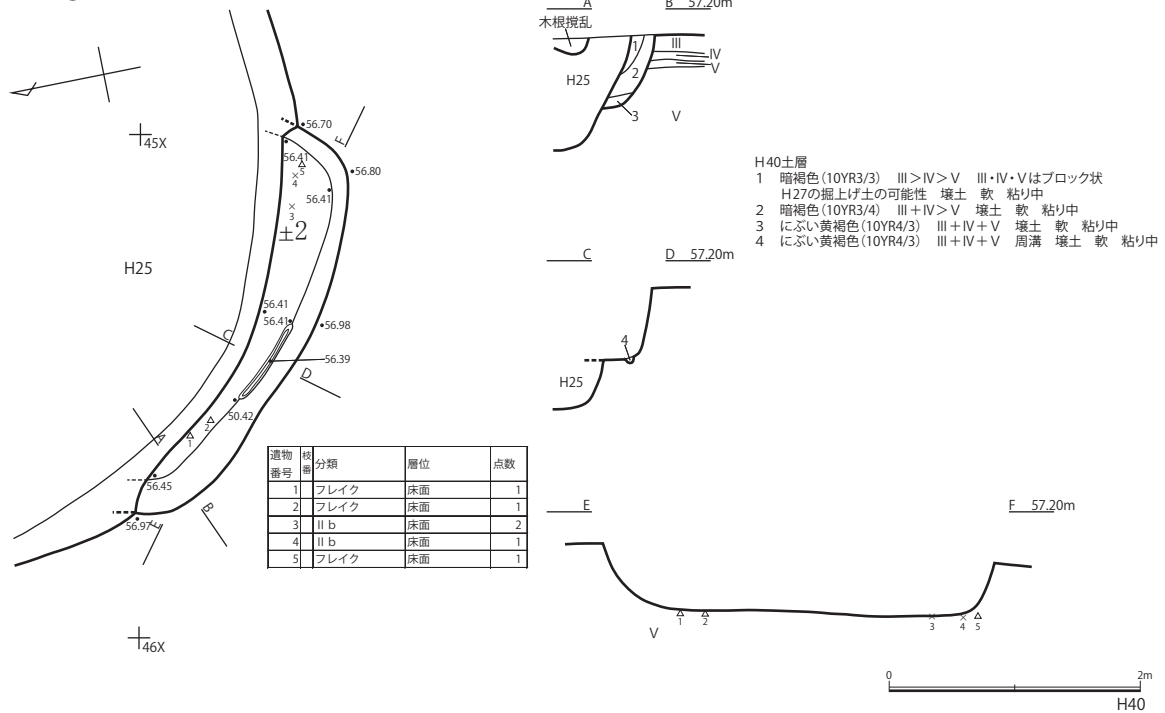


図 III - 1 - 83 H39遺物出土状況平面図 (覆土下位・覆土最下位)



図Ⅲ-1-84 H39遺物出土状況垂直分布図

H40



図Ⅲ-1-85 H40平面図・土層断面図・遺物出土状況図

して覆土上位から出土する円筒下層c式が多い事から、この時期に掘り込まれて、この時期に廃絶した可能性がある。覆土出土の円筒下層d1式新段階は口縁部文様帯内に縄線で直線構成の山形ないしは菱形文を施し、円筒下層d2式に近い。H34とH38もこの段階である。加えて、円筒下層d1式古段階の新、と円筒下層d2式が混じる。焼成粘土塊も出土する。

石器は礫、フレイクの出土が目立つ。次にスクレイパーが目立つ。

覆土調査中、目立った骨片を検出、洗浄したところ、焼骨片が複数点、検出された。覆土下部からは、エイ・サメ類の椎骨1点、エイ類の椎骨2点、ツノザメ目の椎骨1点、サバ属の尾椎1点、硬骨魚類の椎骨2点、硬骨魚類の不明破片複数点、小型哺乳類の頭蓋骨破片が1点、哺乳類の不明破片が1点検出された。壁際の崩落部分からは海生哺乳類の不明破片が1点、見つかった。

時期 遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層c式段階である。 (大泰司)

H40 (図Ⅲ-1-85、-2-53、-3-25、カラー図版11、図版27・99・133)

位置・立地 45-W・X区 調査区中央の平坦面

確認・調査 H25で設定した土層観察用のベルトのトレンチの断面で暗褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、周溝を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。周辺の住居跡の掘上げ土を含めた土層の観察から、H19・25・27より古い。

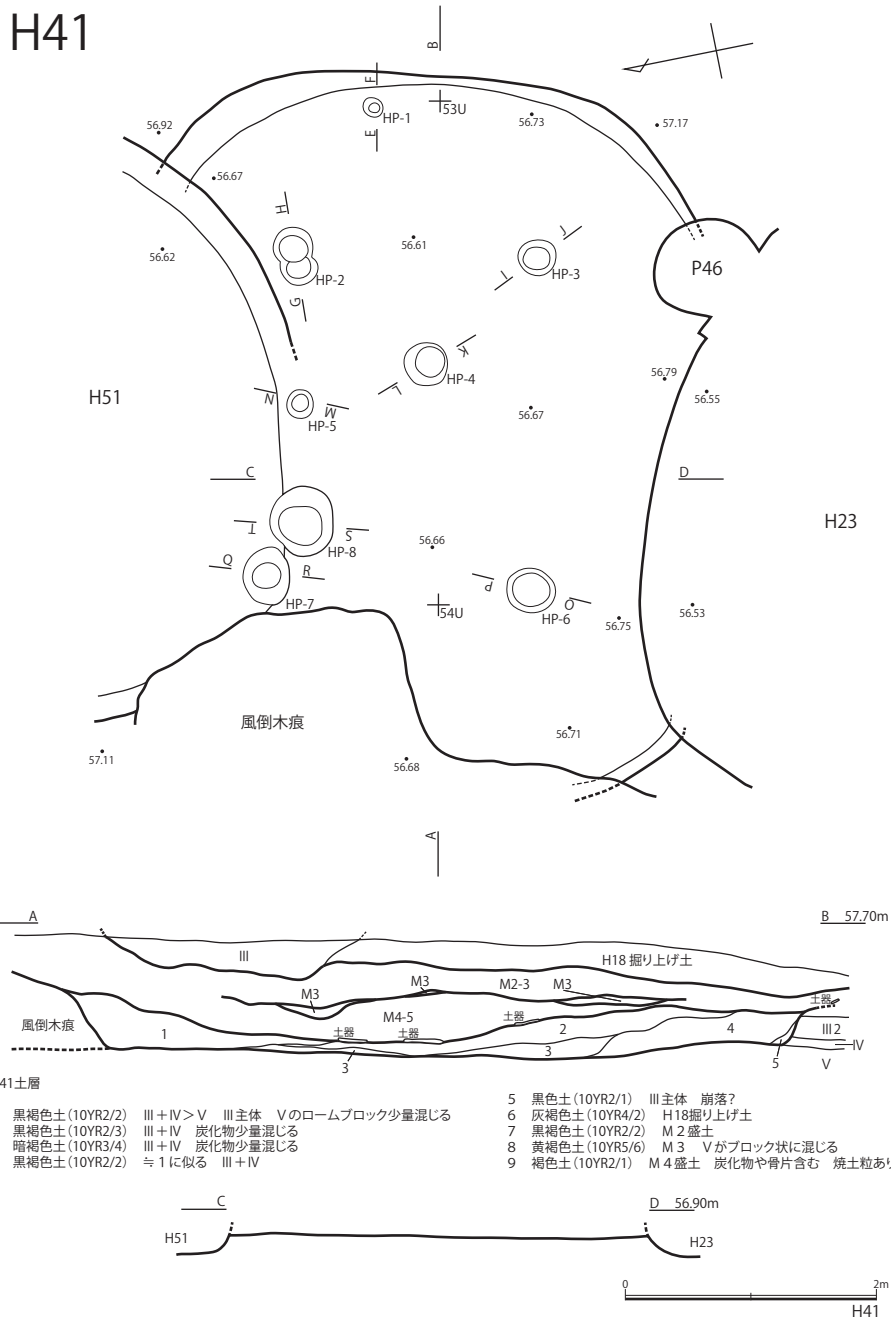
覆土 自然堆積である。

構造 平面形は不明である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

付属遺構 周溝は壁際の一部で検出した。 (佐藤)

遺物出土状況 60点の遺物が出土した。覆土、床面いずれからも磨滅した円筒下層b1式の破片が出土。石器はフレイクの出土が目立つ。

時期 遺物の出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b1式かその直後の時期。 (大泰司)



図Ⅲ-1-86 H41平面図・土層断面図

H41 (図Ⅲ-1-86・87、-2-54~56、-3-26、図版30・100~102・133・134)

位置・立地 53・54-T・U区 標高56.8m付近の平坦面

確認・調査 H23の壁面で遺構覆土と思われる黒褐色土が確認されたため、遺構が想定される位置に土層観察用のベルトを設定し、トレンチ調査を行なった。その結果、平坦な面と明瞭な立ち上がりが認められたので、住居跡と判断した。遺物は遺構覆土出土のものを覆土で、床面出土のものは床面で取り上げ位置を記録した。

覆土 壁付近は、Ⅲ層が主体でⅤ層のロームブロックが少量混じる黒褐色土が厚く堆積している。

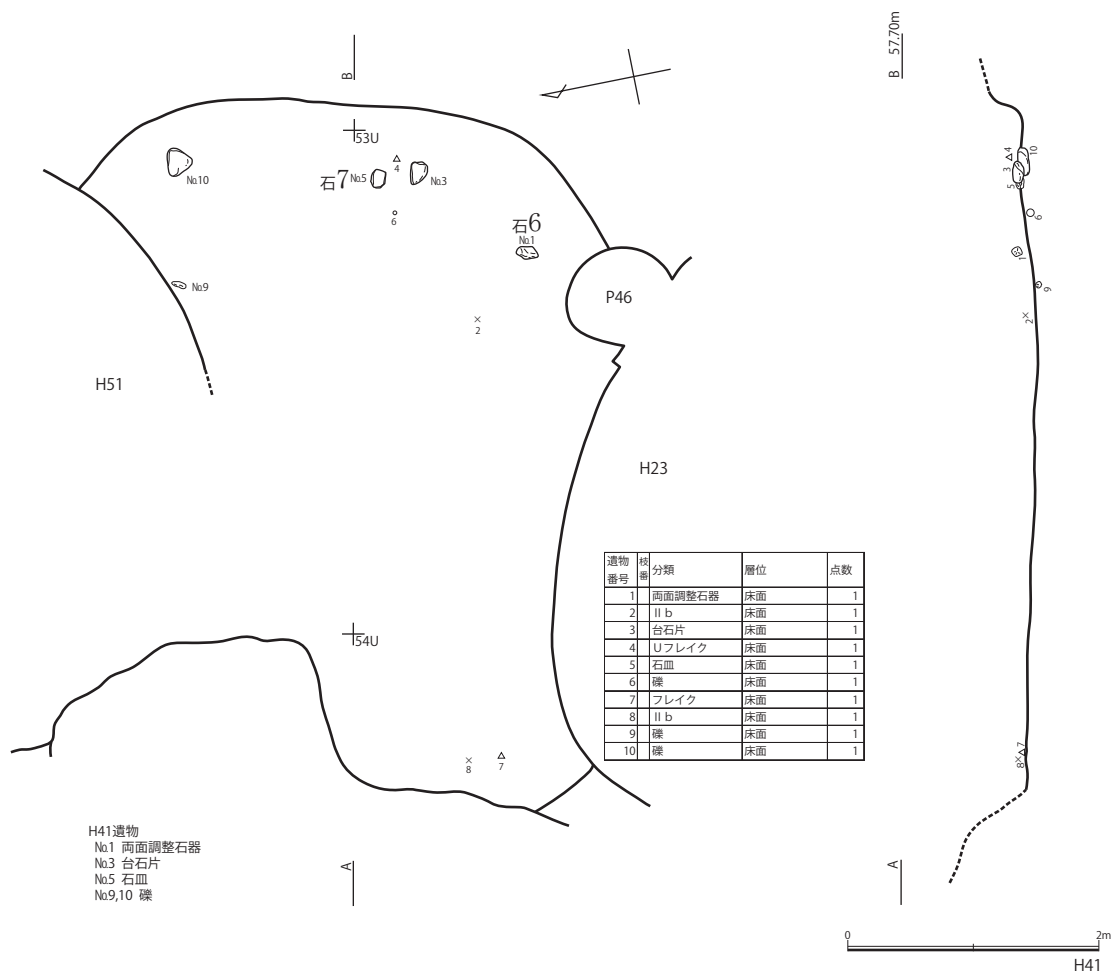
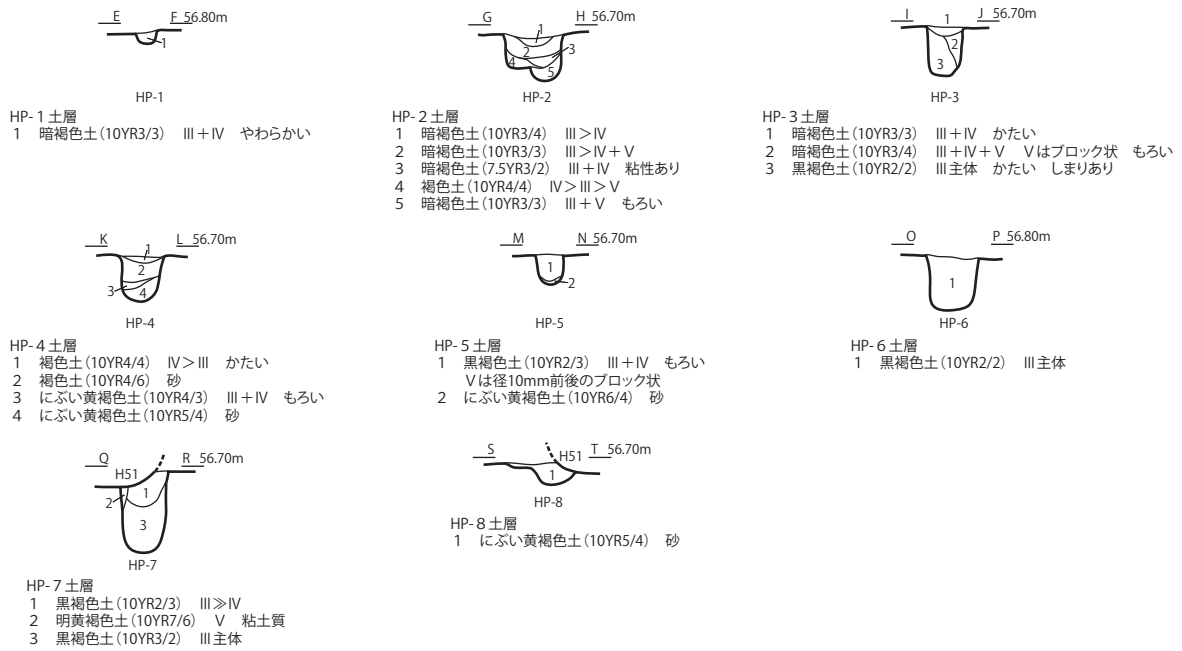


図 III - 1 - 87 H41付属遺構土層断面図・遺物出土状況図

中央付近は、炭化物が少量混じる暗褐色土が見られる。これら覆土1～4層堆積後の窪みに、Ⅱ群b類の土器が大量に廃棄され、その後周囲の盛土層が流入し厚く堆積している。覆土5は、炭化物や骨片が多く混じることから、M4盛土層が主体と思われる。V層の掘り上げ土と考えられる覆土6層を挟み、上部にM2盛土層主体の覆土7層が堆積している。H18の掘り上げ土の暗褐色土がこれらを覆っている。

構造 掘り込みは、M2盛土層中と考えられ、V層をわずかに掘り込んで床を構築している。床面は平坦で、壁は急に立ち上がる。平面形は円形である。

付属遺構 柱穴状の小ピットは8基確認した。径の大きさや深さから、HP-2・3・6・7は主柱穴と考えられる。4本柱の住居跡である。中央付近のHP-4・5・8はにぶい黄褐色を呈する砂が充填されている、いわゆる「砂ピット」である。

遺物出土状況 床面出土の遺物は、東側の壁付近から、両面調整石器、Uフレイク、石皿が出土している。(村田)

2912点の遺物が出土した。円筒下層b1式が出土。円筒下層b2式のころ形成されたM4盛土が覆土に入り込む。この盛土より古い。石器はフレイクの出土が目立つ。

時期 遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b1式から円筒下層b2式古段階くらいの時期。(大泰司)

H42 (図Ⅲ-1-88、-2-57、図版31・102)

位置・立地 59・60-V区 標高57.6m付近の緩斜面

平面形 不整な円形で四角形に近い形状を想定

確認・調査 H21の土層断面について、メインセクションのトレンチを延長したところ、南端に、にぶい黄褐色土の入り込みを検出した。住居の可能性を想定し、59・60-V区を掘り下げたところ平面形の一部を検出した。その大部分は発掘区の外側に延びる。

覆土 床面直上の西半分にはⅢ層起源の黒色土4層が分布する。覆土下半部北半分から覆土上面にかけてはV層土主体である。

構造 平面形は不整な円形で四角形に近い形状を想定。床面はほぼ平坦で、壁は垂直から、急角度に立ち上がる。

付属遺構 今回検出した範囲にはなかった。

遺物出土状況 222点の遺物が出土した。土器については、覆土から円筒下層b式と円筒下層d2式の破片が出土している。円筒下層b式から下層d1式にかけての住居・H47より新しい。石器はフレイクの出土が目立つ。

時期 遺構周辺の遺物出土状況から判断すると縄文時代前期後半、円筒下層b式以後、かつ、円筒下層d1式以後で下層d2式以前と考える。(大泰司)

H43 (図Ⅲ-1-89・90、-2-57、-3-27、図版32・102・134)

位置・立地 39・40-T・U区 調査区北東側の尾根

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、にぶい黄褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、柱穴を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。1層のにぶい黄褐色土はH44の掘り上げ土の可能性が高いことから、H44より古い。

覆土 自然堆積である。

H42

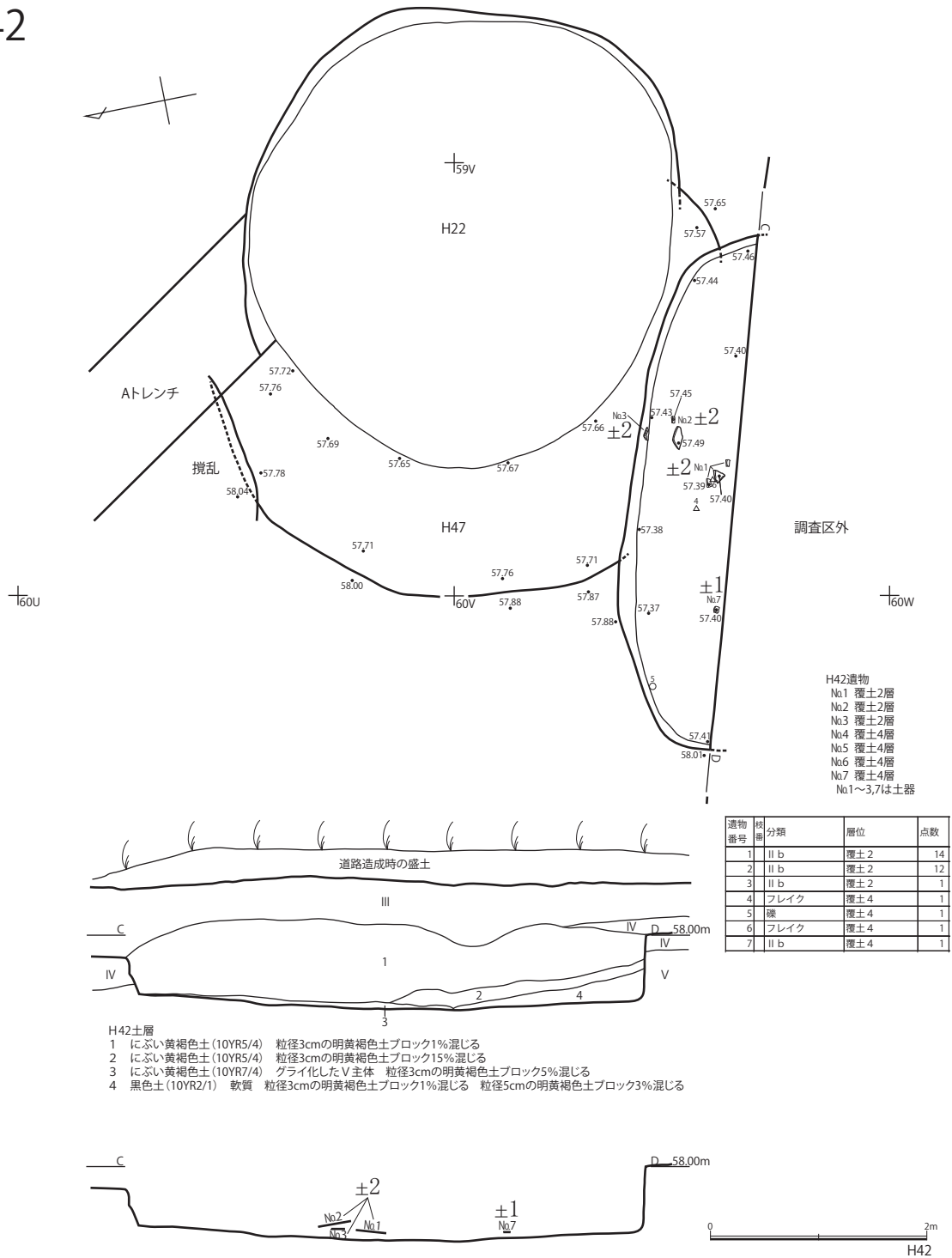


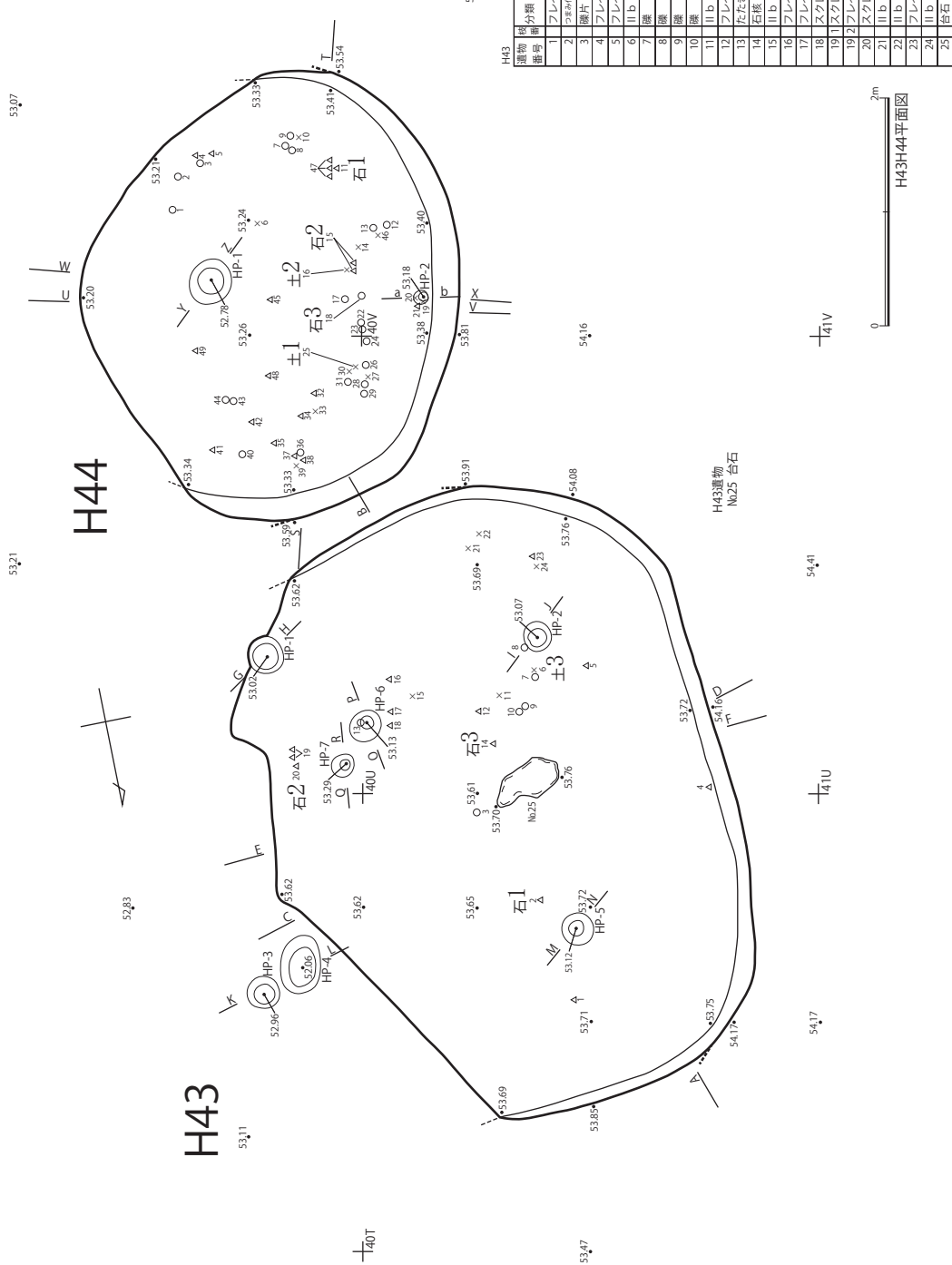
図 III - 1 - 88 H42平面図・土層断面図・遺物出土状況図

構造 平面形は不明である。床面はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。東側は斜面に流出したと考える。

付属遺構 HP-1~5は主柱穴で、HP-1とHP-2、HP-3・4、HP-5が組み合う4本柱と考える。HP-3・4は柱穴を改変した可能性がある。HP-6・7は先端が尖る杭状で、内部施設に伴う柱穴の可能性がある。

(佐藤)

H43 H44

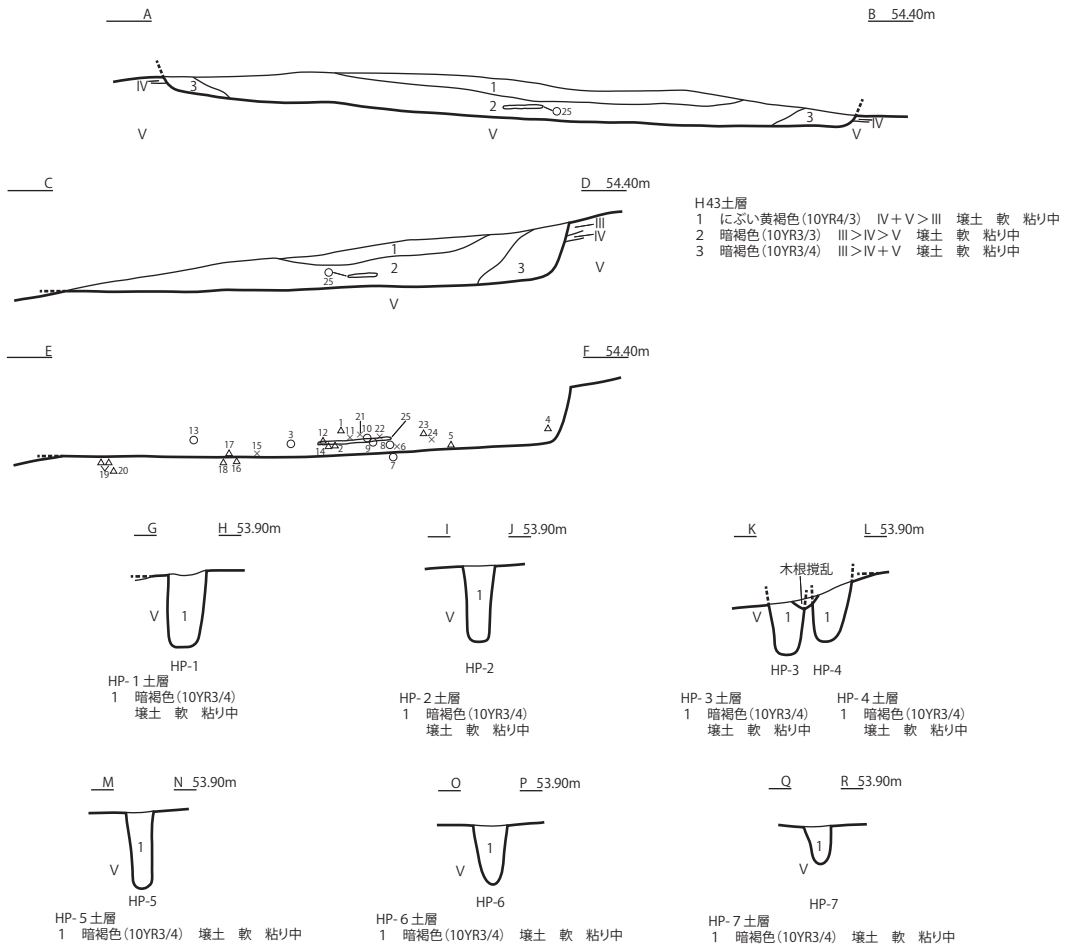


遺物番号	種別	分類	層位	点数
H44-1	土	土	床面	1
H44-2	土	土	床面	1
H44-3	土	土	床面	1
H44-4	土	土	床面	2
H44-5	土	土	床面	1
H44-6	土	土	床面	1
H44-7	土	土	床面	1
H44-8	土	土	床面	1
H44-9	土	土	床面	1
H44-10	土	土	床面	6
H44-11	土	土	床面	1
H44-12	土	土	床面	1
H44-13	土	土	床面	1
H44-14	土	土	床面	4
H44-15	土	土	床面	2
H44-16	土	土	床面	1
H44-17	土	土	床面	1
H44-18	土	土	床面	1
H44-19	土	土	床面	1
H44-20	土	土	床面	1
H44-21	土	土	床面	1
H44-22	土	土	床面	1
H44-23	土	土	床面	1
H44-24	土	土	床面	1
H44-25	土	土	床面	1
H44-26	土	土	床面	1
H44-27	土	土	床面	2
H44-28	土	土	床面	1
H44-29	土	土	床面	1
H44-30	土	土	床面	5
H44-31	土	土	床面	1
H44-32	土	土	床面	1
H44-33	土	土	床面	1
H44-34	土	土	床面	2
H44-35	土	土	床面	1
H44-36	土	土	床面	1
H44-37	土	土	床面	1
H44-38	土	土	床面	1
H44-39	土	土	床面	4
H44-40	土	土	床面	1
H44-41	土	土	床面	1
H44-42	土	土	床面	1
H44-43	土	土	床面	1
H44-44	土	土	床面	1
H44-45	土	土	床面	1
H44-46	土	土	床面	1
H44-47	土	土	床面	1
H44-48	土	土	床面	6
H44-49	土	土	床面	1

遺物番号	種別	分類	層位	点数
H43-1	土	土	床面	1
H43-2	土	土	床面	1
H43-3	土	土	床面	1
H43-4	土	土	床面	1
H43-5	土	土	床面	1
H43-6	土	土	床面	1
H43-7	土	土	床面	1
H43-8	土	土	床面	1
H43-9	土	土	床面	1
H43-10	土	土	床面	1
H43-11	土	土	床面	1
H43-12	土	土	床面	1
H43-13	土	土	床面	1
H43-14	土	土	床面	1
H43-15	土	土	床面	1
H43-16	土	土	床面	1
H43-17	土	土	床面	2
H43-18	土	土	床面	1
H43-19	土	土	床面	1
H43-20	土	土	床面	1
H43-21	土	土	床面	1
H43-22	土	土	床面	3
H43-23	土	土	床面	1
H43-24	土	土	床面	1
H43-25	土	土	床面	1

図III-1-89 H43・H44平面図

H43



H44

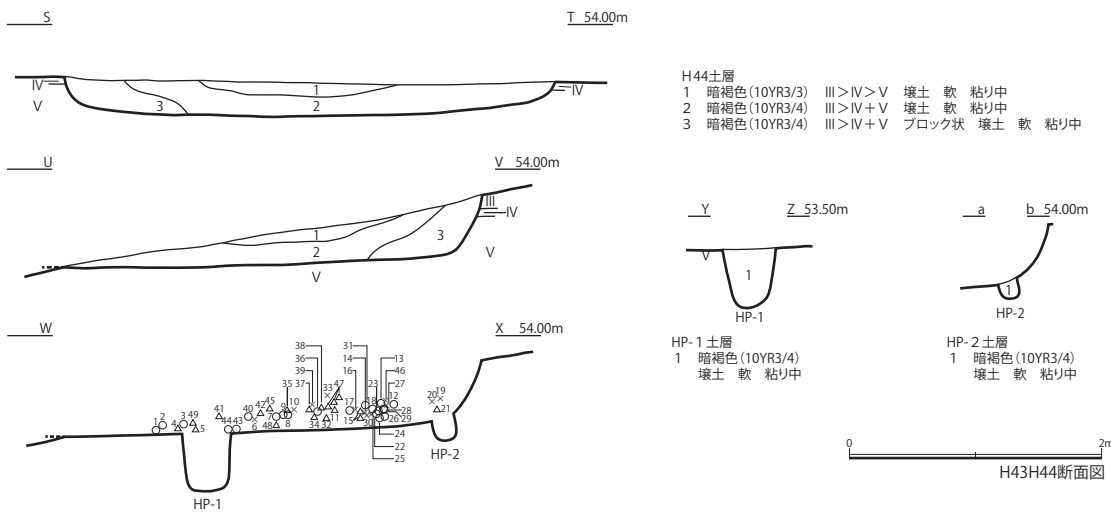


図 III - 1 - 90 H43・H44土層断面図・付属遺構土層断面図

遺物出土状況 92点の遺物が出土した。覆土および床面から、円筒下層b式が出土した。古手のものから円筒下層c式に近いものにかけて時期幅がある。床面から、円筒下層b2式土器片の加工品が出土した。礫、フレイクの出土が目立つ、次にスクレイパー、Uフレイクの出土が目立つ。台石(点取りNo.25)は「もろい凝灰岩製」で図化できなかった。

時期 遺物出土状況から土器から縄文時代前期後半、円筒下層b2式の頃と考える。(大泰司)

H44 (図Ⅲ-1-89・90、-2-57、-3-27、図版33・102・134)

位置・立地 39・40-U・V区 調査区北東側の尾根

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、柱穴を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。H43の1層のにおい黄褐色土はH44の掘り上げ土の可能性が高いと判断することから、H44より新しい。

覆土 自然堆積である。

構造 平面形は不明である。床面はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。東側は斜面に流出したと考える。

付属遺構 HP-1は支柱穴で、1本柱と考える。HP-2は角度のある浅い小型の柱穴で、支柱穴の可能性もある。(佐藤)

遺物出土状況 94点の遺物が出土した。覆土および床面から円筒下層b式が出土する。石器は礫、フレイクの出土が目立つ。

時期 遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の時期である。(大泰司)

H45 (図Ⅲ-1-91・92、-2-57、-3-28、カラー図版10、図版34・102・134)

位置・立地 47・48-R・S区 調査区北東側の緩斜面

確認・調査 Ⅲ層上面を精査した際にⅢ層の落ち込みを確認した。そこからⅢ層を約15cm掘り下げたところ、M5盛土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、土坑、ベンチ状構造、周溝を確認し、住居跡と判断した。遺構は攪乱により大きく掘り込まれ、一部の検出である。範囲は調査区外に広がる。堆積状況から、掘り込み面はⅢ2層上面と考える。土層の観察から、M5盛土とP44より古い。

覆土 自然堆積である。

構造 平面形は円形である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

付属遺構 HF-1は楕円形の浅い掘り込みのある地床炉である。HP-1は土坑である。円形基調で、坑底はやや丸みを帯びるが平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。ベンチ状構造は西側で2段検出し、貼床を行っている。段と段の間には溝がある。周溝は断続的に壁際に沿って西側に1条巡る。(佐藤)

遺物出土状況 174点の遺物が出土した。覆土、周溝、炉から磨滅した円筒下層b式が出土する。同一個体のまとまりは無い。M5点取り土器群が覆土の上位より出土した。

石器はフレイクの出土が目立つ。

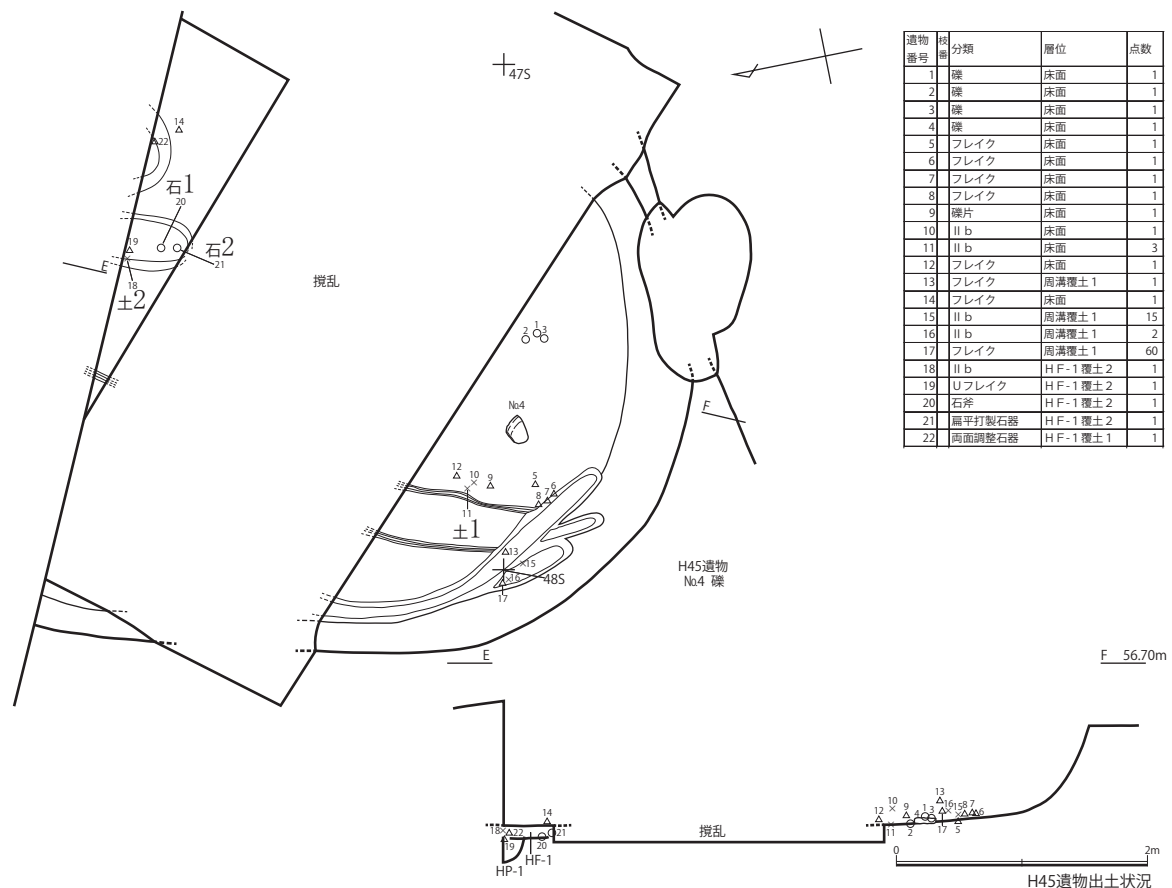
時期 M5盛土より古い、遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層b2式古段階あるいは下層b1式の頃と考える。

(大泰司)

H46 (図Ⅲ-1-93、-2-58、-3-28、図版35・103・134)

位置・立地 61・62-R・S区 標高58.2m付近の緩斜面、緩斜面から急斜面に移行する手前

確認・調査 Sライントレンチの土層断面において、H29の東側に褐色土の入り込みの断面があった。



図Ⅲ-1-92 H45遺物出土状況図

褐色土入り込みはH29より古く、M4盛土を掘り込んで構築されている。M2・M3盛土はこの入り込み覆土に覆い被さっているためより新しいものである。H29調査終了後、東側壁面には後にHP-9となる砂ピットの断面が検出されていた。そこでここにH29に切られた住居があると判断し、平面形が検出できるまで掘り下げた。すると長楕円形がH29に掘り込まれている状況を検出した。そこで土層観察用の土手をSライントレンチに加えて二本設定し、掘り下げた。

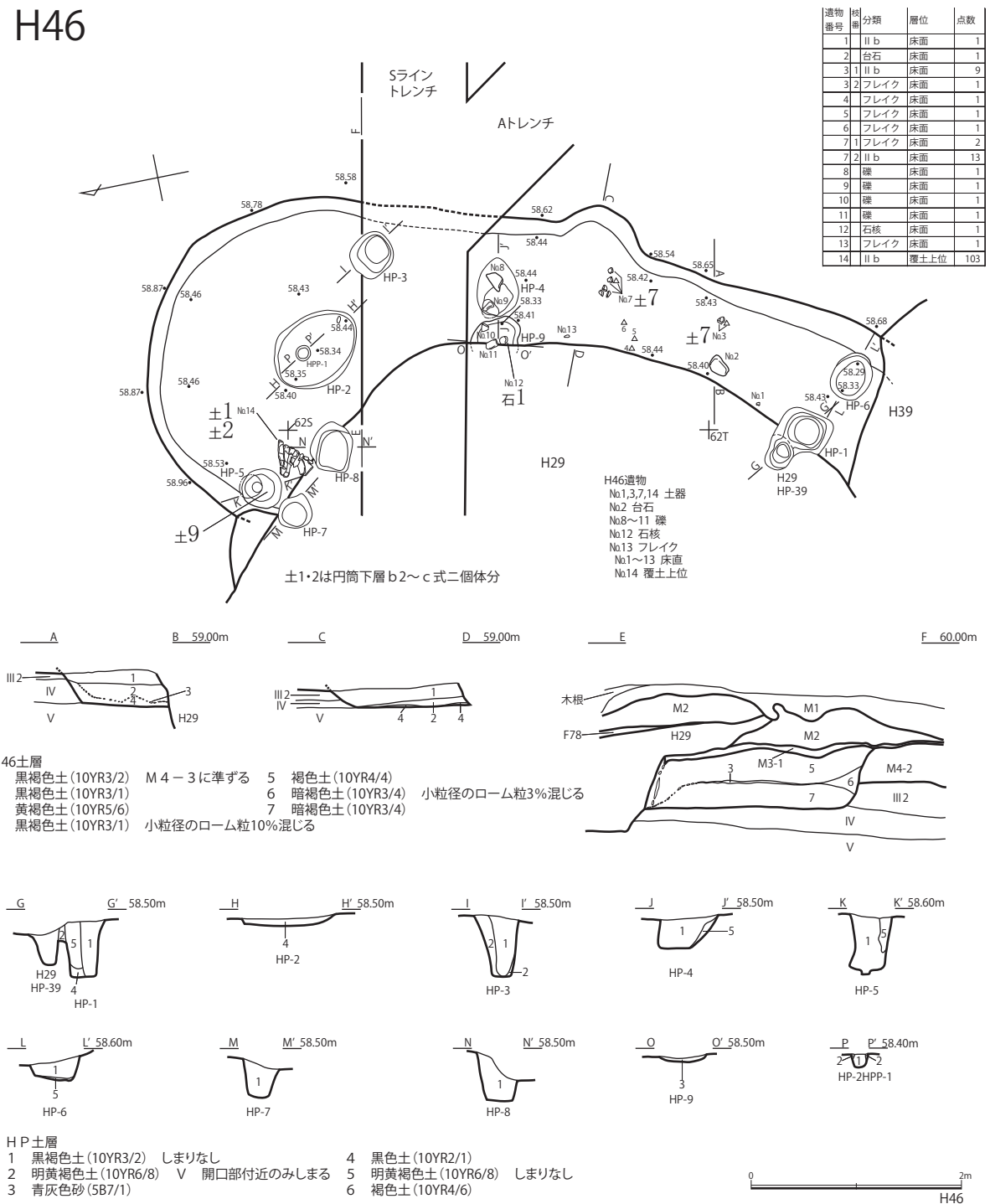
覆土 床面直上の南半分にはⅢ層起源の黒色土4層が分布し、V層起源土の薄い流入を挟んでさらに上に黒色土が堆積する。この付近はM4盛土の分布域西端であり、Ⅲ層の流入である可能性が高い。また遺構の北半分は断面から判断すると明らかにM4盛土を掘り込んでいた。

構造 平面形は不整な長楕円形である。残存する床面は平坦で、壁はゆるやかに立ち上がる。

付属遺構 今回検出した範囲から、支柱穴は楕円形長軸を挟んでHP-3と5が対応し、4本柱とすると、HP-1が相当する柱と考える。この三本は柱の掘りかた部分にV層土が入り込んでいる。HP-7・8もその形状から柱穴の可能性が高い。当初H29の壁柱穴の可能性を考えたが、一旦埋められたH46の柱穴と判断した。H29HP-1についても判断を迷ったがH29のものとした。H46長軸上には浅い皿状のHP-2と砂ピットHP-9がある。HP-2については用途不明だが、中央付近に小土坑HPP-1を伴う。

遺物出土状況 2,041点の遺物が出土した。覆土でまともだった点取り番号No.14とM4並行の覆土上部からまともに出土した土器片群(遺物番号31)の接合結果が1である。円筒下層b2~c式である。同じくNo.14に混在していた土器片と覆土出土の土器片が接合して2となった。1, 2共にかかなり近い時期と考える。いずれも円筒下層b2~c式段階とするのが妥当という可能性がある。7が床面、9

H46



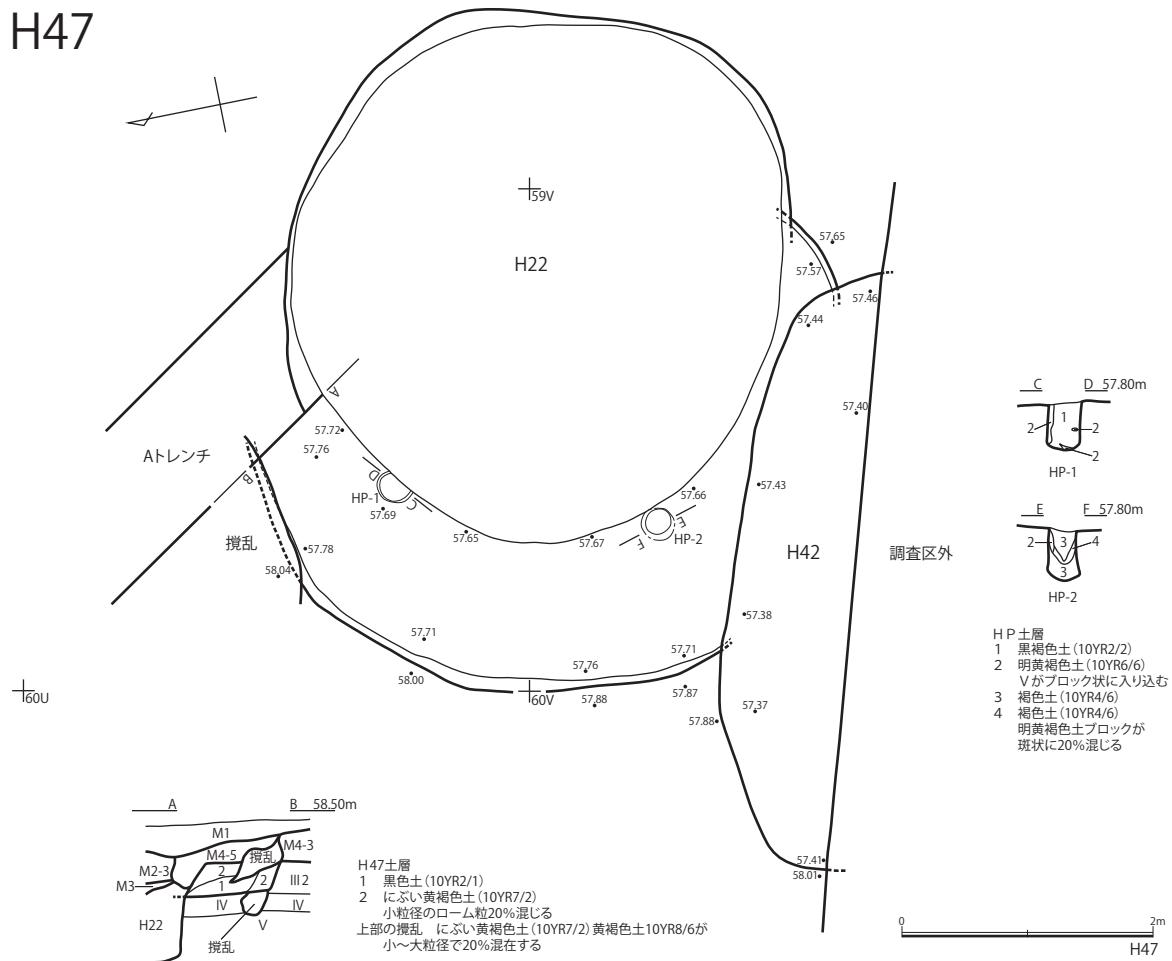
図Ⅲ-1-93 H46平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図

が付属遺構HP-5出土である。いずれも円筒下層b2式である。

H46は切りあっている住居の中で、一番古い住居のひとつである。まとまりのない破片について、円筒下層b2式から円筒下層d1式（覆土壁際63がM2-2下位～M4-3,62R区・M1,62Q区と接合）と覆土上位30（M1～M2-2,62Q区と接合）までが覆土から出土している。石器はフレイクの出土が目立つ。

時期 遺構周辺の遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層b式前半の住居である。（大泰司）

H47



図Ⅲ-1-94 H47平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図

H47 (図Ⅲ-1-94、-2-59、図版31・104)

位置・立地 58・59-V区 標高57.6m付近の緩斜面

確認・調査 H21の西側壁面について、黒色土の入り込みを検出した。入り込みとV層の境界線は明瞭で、床面・壁面を思わせた。そこで土層観察用の土手を残して掘り下げたところ、竪穴住居がH21と42より古い遺構と判断した。また、外形線から遺構は大型で、支柱穴と考えられる柱穴を持つことから、竪穴住居跡とした。

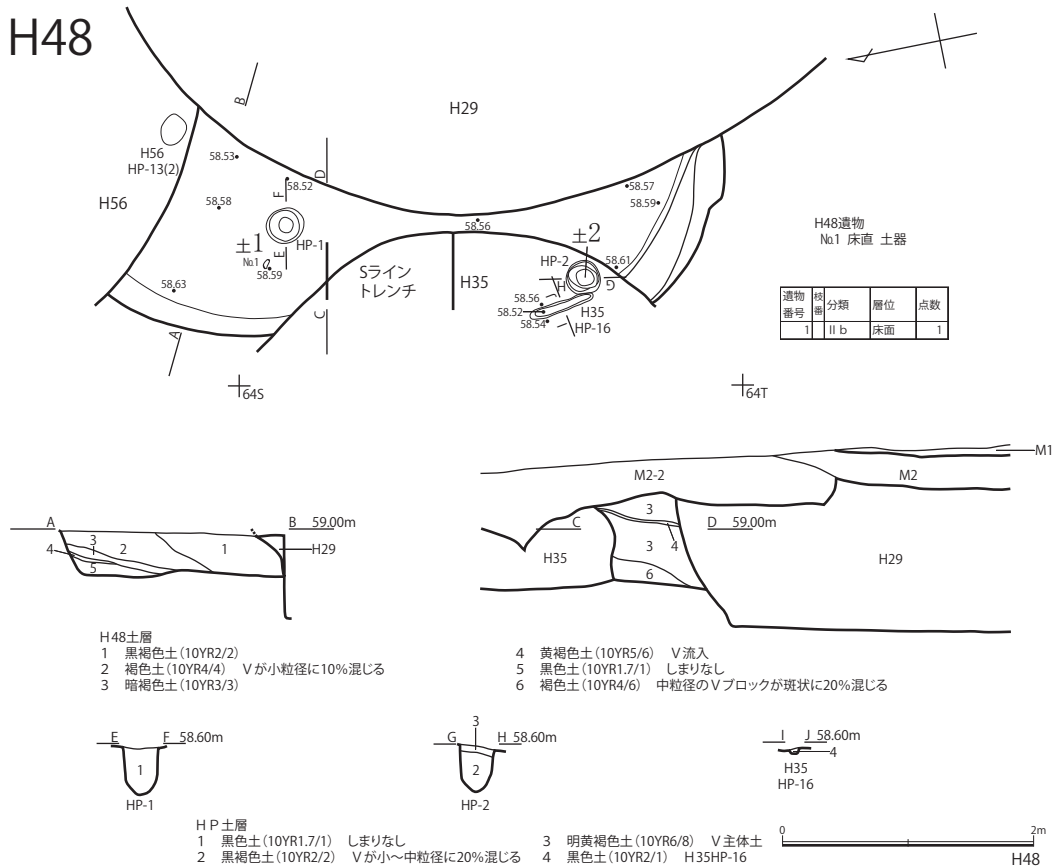
覆土 床面直上にはⅢ層起源の黒色土1層が分布する。覆土中部から覆土上面にかけてはV層土主体である。

構造 平面形は不整な円形で多角形に近い形状を想定。床面は中央に向かって窪む。壁はおおよそ垂直に立ち上がる。

付属遺構 今回検出した範囲に支柱穴が二か所あった。

遺物出土状況 259点の遺物が出土した。土器は、覆土から円筒下層b式が出土している。円筒下層b式古段階の流入である。石器はフレイクの出土が目立つ。

時期 円筒下層b式以後のH42より古い。H22より古いため円筒下層d1式よりは古い。遺構周辺の遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層b式前後の住居と考える。(大泰司)



図Ⅲ-1-95 H48平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図

H48 (図Ⅲ-1-95、-2-59、図版35・104)

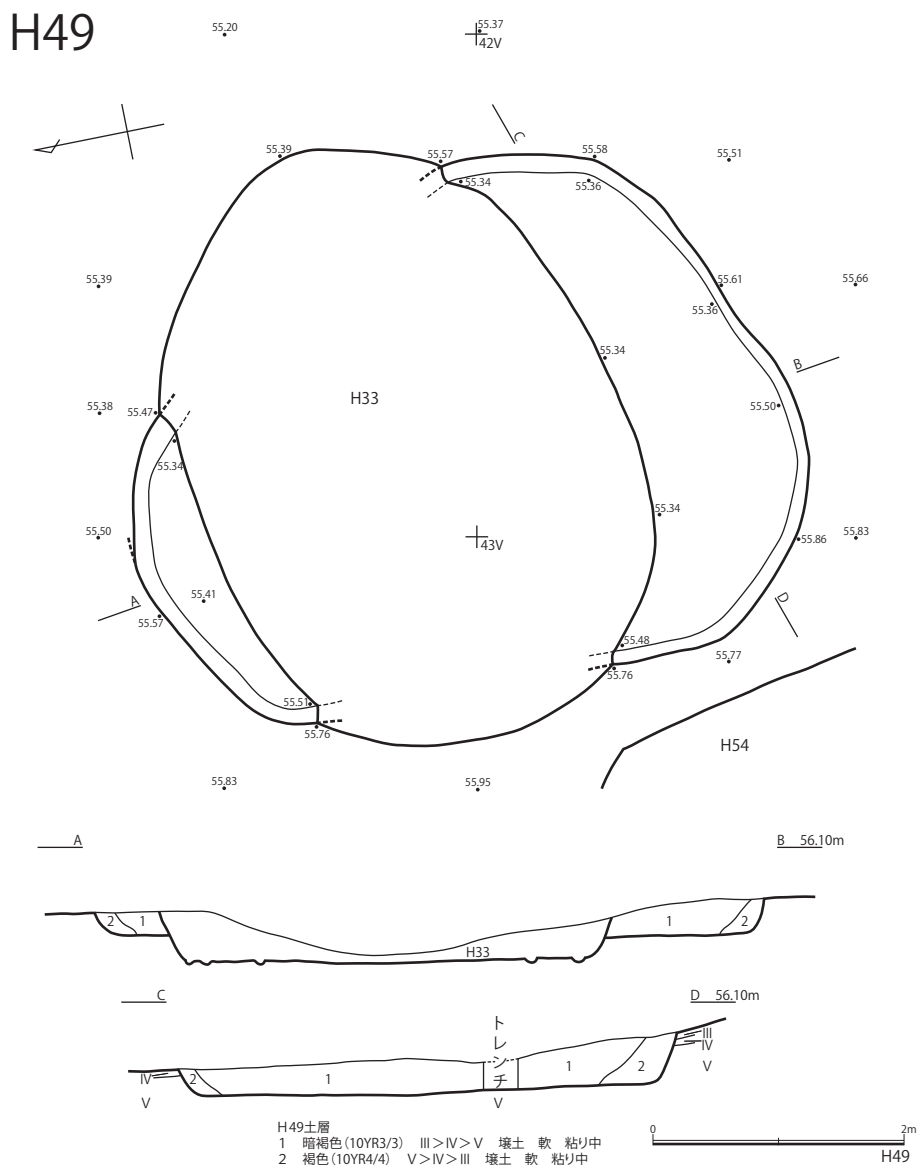
位置・立地 62・63-R区 標高58.8m付近の緩斜面

確認・調査 Sライントレンチの土層断面において、H29の西側に褐色～暗褐色土の入り込みの断面があった。褐色土入り込みはH29およびH35より古い。M2盛土が覆土の上に覆い被さっている。H29・35の調整終了後、H56を検出、調査を行った。H56の調査中土層断面に対応する褐色～暗褐色土の入り込みの平面をさらに検出した。H56よりさらに古い遺構を想定した。メインセクションに加えてもう一本土層観察用の土手を残して掘り下げた。遺構そのものの規模と、支柱穴と思われる明らかな柱穴を伴っている事から竪穴住居跡と判断した。

覆土 Sライントレンチに現れた土層はV層主体土が覆土を構成しているが、Sラインよりやや北よりにおいて観察した土層断面には床面の壁際および中央にⅢ層主体の黒色土ないしは黒褐色土が入り込んでいた。

構造 平面形は不整な円形を想定する。床面はおおよそ平らである。壁は急角度に立ち上がる。

付属遺構 今回検出した範囲から、支柱穴は楕円形長軸を挟んでHP-1と2が対応し、規模と形状の兼ね合いから4本柱の可能性もある。H35HP-16とした溝はこのH48の側溝と判断し直した。H35に掘り込まれていたせいもあるが、溝の立ち上がりから連続性が感じられないためもともと短い溝の可能性もある。また南壁側に幅の狭いベンチ状の張り出しがある。H56HP-13(2)に示した柱穴は元来H48の柱穴がH56構築時に埋められた可能性もある。



図Ⅲ-1-96 H49平面図・土層断面図

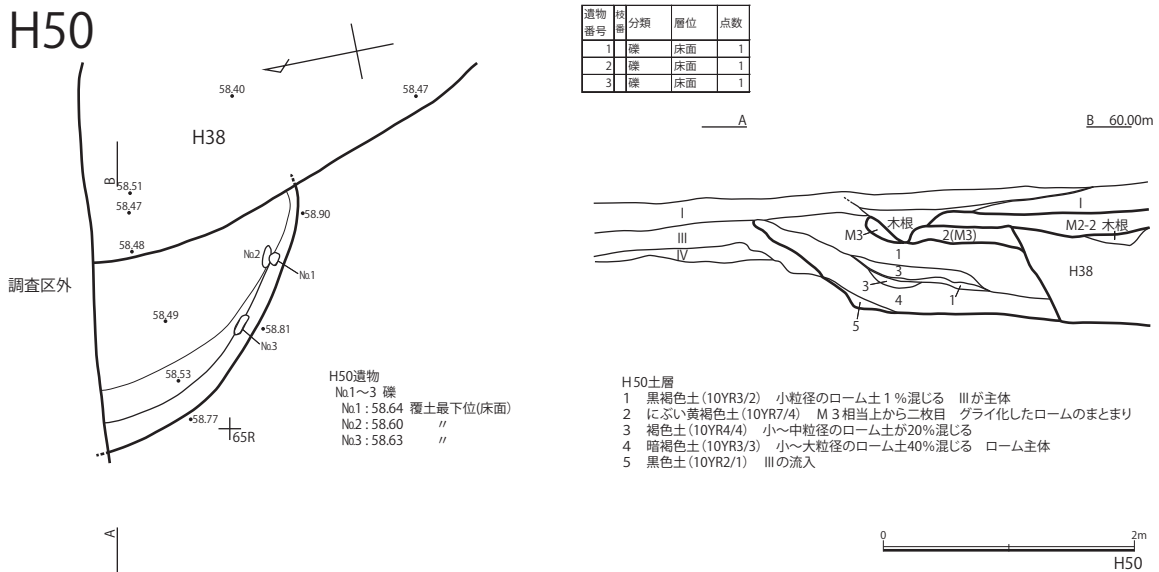
遺物出土状況 193点の遺物が出土した。覆土、床面、付属遺構HP-2覆土から遺物が出土した。H48は覆土から円筒下層b式が出土している。特に円筒下層b2式の破片が目立つ。同一個体のまとまりは無い。石器は礫、フレイクが目立つ。

時期 H48はH29(円筒下層d1式段階)・H35(円筒下層c式段階)・H56(円筒下層b2式段階)より古い。遺構周辺の遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層b式の時期と考える。(大泰司)

H49 (図Ⅲ-1-96、-2-59、-3-28、図版36・104・134)

位置・立地 42・43-U・V区 調査区北東側の尾根

確認・調査 Ⅲ層上面を精査中にⅢ層の落ち込みを確認した。さらにⅢ層を約10cm掘り下げたところ、H33の暗褐色土の落ち込みを検出した。その周辺を精査したところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。当初はH33との切り合い関係が不明瞭であったが、平坦な床面を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。土層の観察から、H33より古い。



図Ⅲ-1-97 H50平面図・土層断面図・遺物出土状況図

覆土 自然堆積である。

構造 平面形は卵形である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

付属遺構 検出しなかった。

(佐藤)

遺物出土状況 75点の遺物が出土した。覆土から磨滅した円筒下層b式~下層c式と思われる土器破片が出土する。石器はフレイクが目立つ。

時期 調査範囲内の遺物出土状況から相対的に判断すると、縄文時代前期後半、円筒下層b式~下層c式あるいはその直後の可能性がある。H33より古いことから中期後半よりは古い。

(大泰司)

H50 (図Ⅲ-1-97、-2-59、図版36・104)

位置・立地 64-Q・R区 標高58.6m付近の緩斜面

確認・調査 64-Q・R区においてH38の土層堆積状況を確認するため発掘区壁面に沿ってトレンチをいれたところ、H38の西側壁面が他の遺構を切っている状況が断面から読み取れた。そこでH38調査終了後、西側の縁の検出面について精査したところ、黒褐色土の入り込みを検出した。それは発掘区外へ広がっている状況であった。掘り下げたところ明瞭な壁面と床面を検出した。発掘区内の平面形を考慮すると竪穴住居の可能性が高いと判断した。残存部分の東側はM2盛土が覆い被さるが、西側は盛土とからんでいない。しかし、竪穴の縁からⅢ層が落ち込んでいるため掘り込み面は不明である。

覆土 残存する覆土について、土層断面を観察した。Ⅲ層起源の黒色土にⅤ層の土が混在したものが堆積している。最上部にはM3盛土相当と思われる土がM2盛土との境を為している。

構造 平面形は不整な楕円形を想定する。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

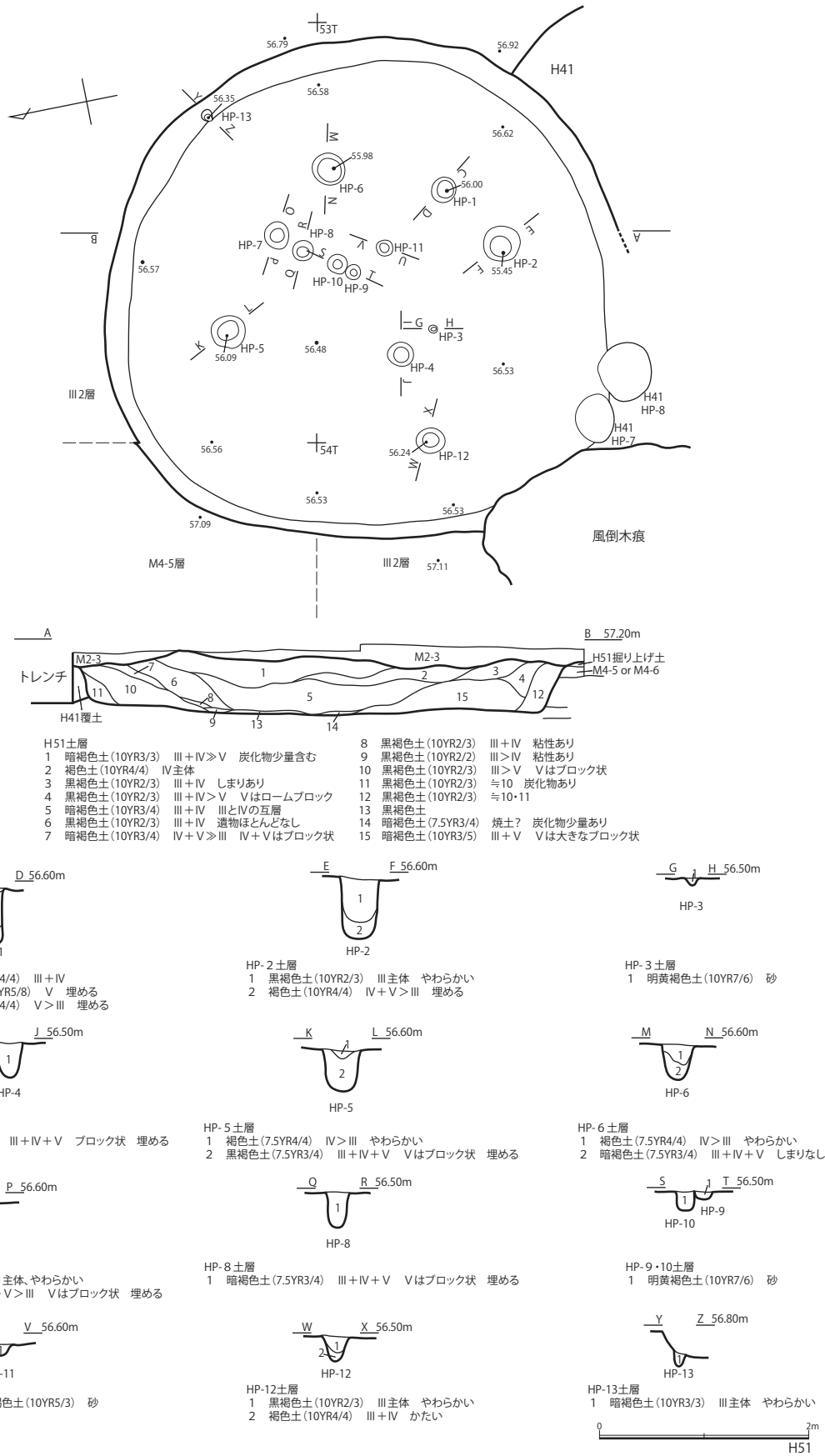
付属遺構 今回検出した範囲から、付属遺構は検出されなかった。

遺物出土状況 10点の遺物が出土した。覆土最下位とした壁際の遺物は層位的には床面ともいえるが、調査時に上から連続する覆土の遺物と判断した。土器については、覆土から円筒下層b式土器が出土する。いずれも磨滅しており同一個体のまつまりは無い。石器はフレイク、礫が出土する。

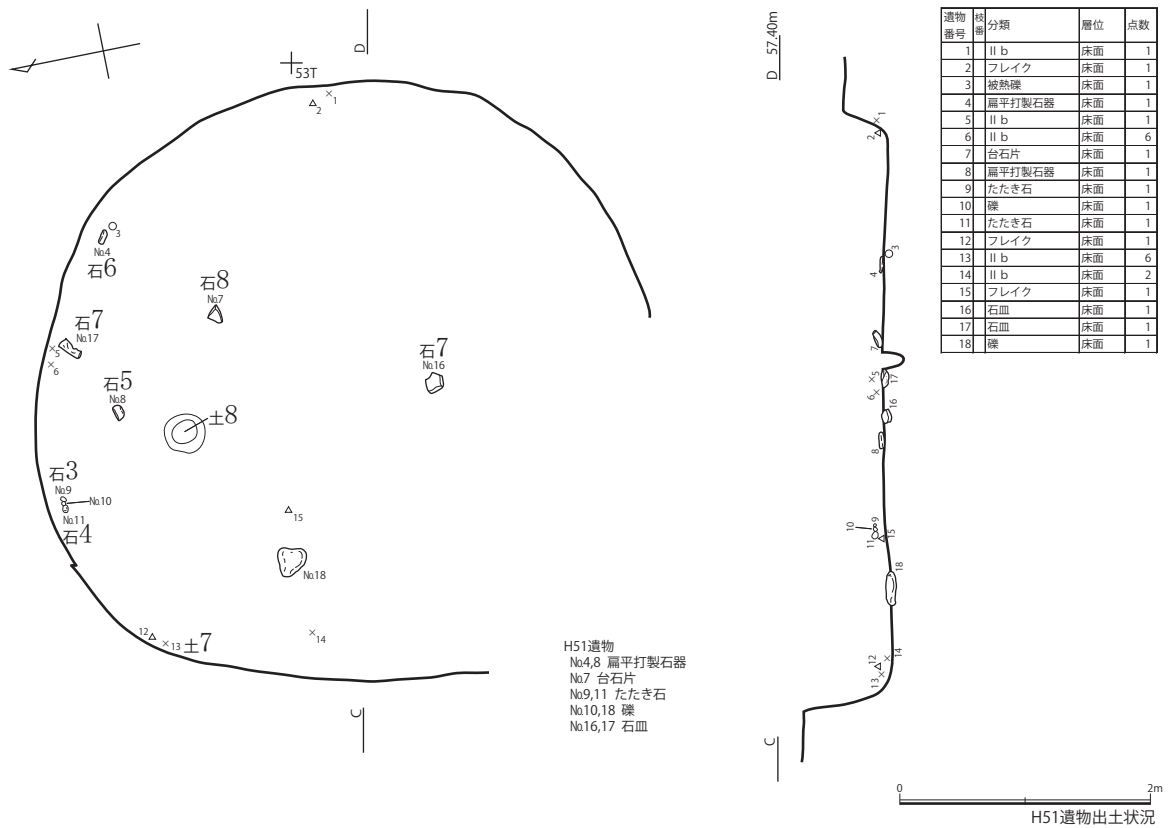
時期 遺構周辺の遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層b式の時期と考える。H38(円筒下層d1式古段階あるいはより古い時期)より古い。

(大泰司)

H51



図Ⅲ-1-98 H51平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図



図Ⅲ-1-99 H51遺物出土状況図

H51 (図Ⅲ-1-98・99、-2-59、-3-28・29、図版37・104・134・135)

位置・立地 53・54-T・V 標高56.6m付近の平坦面

確認・調査 M2盛土層の調査中に、V層がブロック状に混じる暗褐色土が、直径5m前後の円形に分布する範囲を確認した。遺構が想定される位置に土層観察用のベルトを設定し、M2盛土層を掘り下げた。Ⅲ層上面でⅢ層の黒色土と暗褐色土の明瞭な境を確認できたので、遺構と認定した。平坦な面と明瞭な立ち上がりが見られ、柱穴状の小ピットを検出したので住居跡と判断した。遺物は遺構覆土出土のものを覆土で、床面出土のものは床面で取り上げ位置を記録した。

覆土 M2盛土層の再堆積層が主体で、一部にⅢ層の流入土やⅣ層・Ⅴ層がブロック状に混入する暗褐色土が混じる。

構造 掘り込みはM2盛土層中と考えられ、Ⅲ層を掘り込み、床はⅣ層・Ⅴ層をわずかに掘り込んだ程度で構築している。床面は平坦で、壁は急に立ち上がる。平面形は円形である。

付属遺構 柱穴状の小ピットは11基確認した。径の大きさや深さから、HP-2・5・6は主柱穴と考えられる。中央付近のHP-3・9・10・11にはぶい黄褐色土を呈する砂が充填されている、いわゆる「砂ピット」である。

遺物出土状況 床面出土の遺物は、北側の壁付近から扁平打製石器、たたき石、石皿、台石などの礫石器類が出土している。(村田)

1,582点の遺物が出土した。土器については、円筒下層b式から円筒下層c式までが出土する。焼成粘土塊も出土する。円筒下層d1式が入っていない。床面からは円筒下層b式のみが出土する。覆土から円筒下層c式の同一個体がまともだったが、復元には至らなかった。円筒下層b式の同一個体のまとまりは無かった。石器はフリイクが目立つ。

時期 出土遺物から、縄文時代前期後半、円筒下層c式直前と考える。H41(円筒下層b式古手)の時期より新しい。(大泰司)

H52 (図Ⅲ-1-100、-2-60、-3-29・30、図版38・105・135)

位置・立地 40・41-U・V区 調査区北東側の尾根

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、柱穴を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。

覆土 自然堆積である。

構造 平面形は円形である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。東側は斜面に流出したと考える。

付属遺構 HF-1は隅丸方形の浅い掘り込みのある地床炉である。掘り込みは2段となる。1層は2層より被熱の度合いが強いことから、最終的に1層上で焚かれていたと考える。HP-1~3は主柱穴である。東側の崩落と床面の攪乱により組み合わせは不明であるが、4本または6本柱の可能性はある。

HP-4は深い先端が尖る杭状の柱穴で、内部施設に伴う柱穴の可能性はある。HP-5は浅い柱穴である。

遺物出土状況 床面から台石(3、点取りNo.38)、と大型の偏平な礫・台石(点取りNo.39~43)がまとまって出土した。床面から大型の偏平な礫がまとまって出土する状況はH30・H67の出土状況と類似する。(佐藤)

380点の遺物が出土した。土器は、円筒下d1式古段階が一個体復元できた(1)。覆土1層と2層から出土した土器が接合した。覆土および床面から円筒下層b式から円筒下層c式のころと思われる破片が出土している。石器はフレイクの出土が目立つ。

時期 M5より古い。土器から縄文時代前期後半、円筒下層c式以後で円筒下層d1式古段階以前である。(大泰司)

H53 (図Ⅲ-1-101、-2-60、-3-30、図版38・105・135)

位置・立地 43・44-U~W区 調査区中央の平坦面

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。当初はH54との切り合い関係が不明瞭であったが、平坦な床面、炉跡、柱穴を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。周辺の住居跡の掘り上げ土を含めた土層の観察から、M6-2層とH25・54・55より古い。H53平面図はH54調査後の輪郭図であり、実際の切り合い関係はH25の図Ⅲ-1-46の通りである。

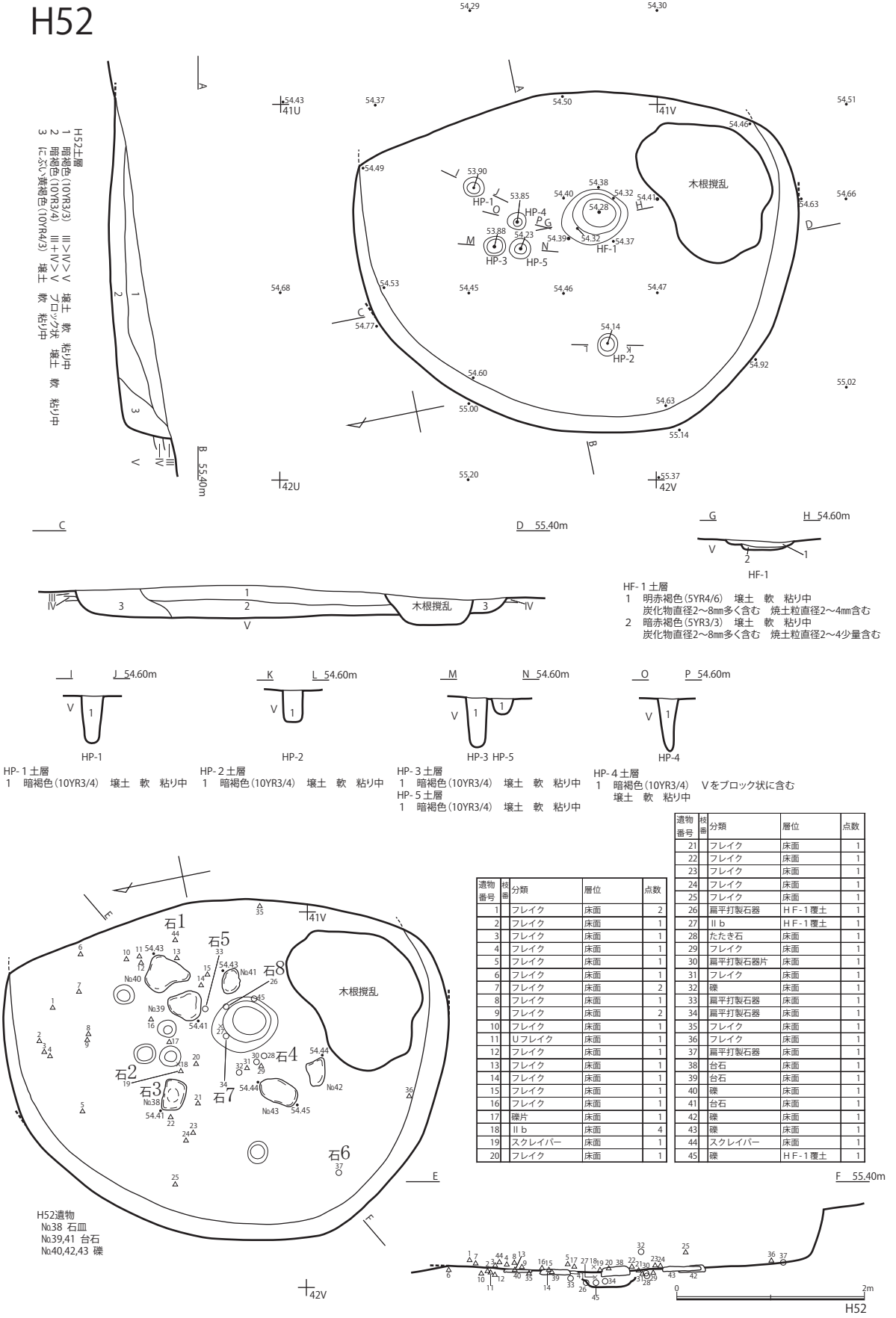
覆土 自然堆積である。

構造 平面形は楕円形である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

付属遺構 HF-1は中央からやや北西側に寄る浅い掘り込みのある円形の地床炉である。HP-1・2・4~6は主柱穴で、HP-1・2とHP-4・5、HP-6が組み合う3本柱またはH25・54により削平されているそれ以上の複数本柱と考える。HP-1・2とHP-4・5は柱穴を改変した可能性がある。HP-3は先端が尖る杭状の柱穴である。(佐藤)

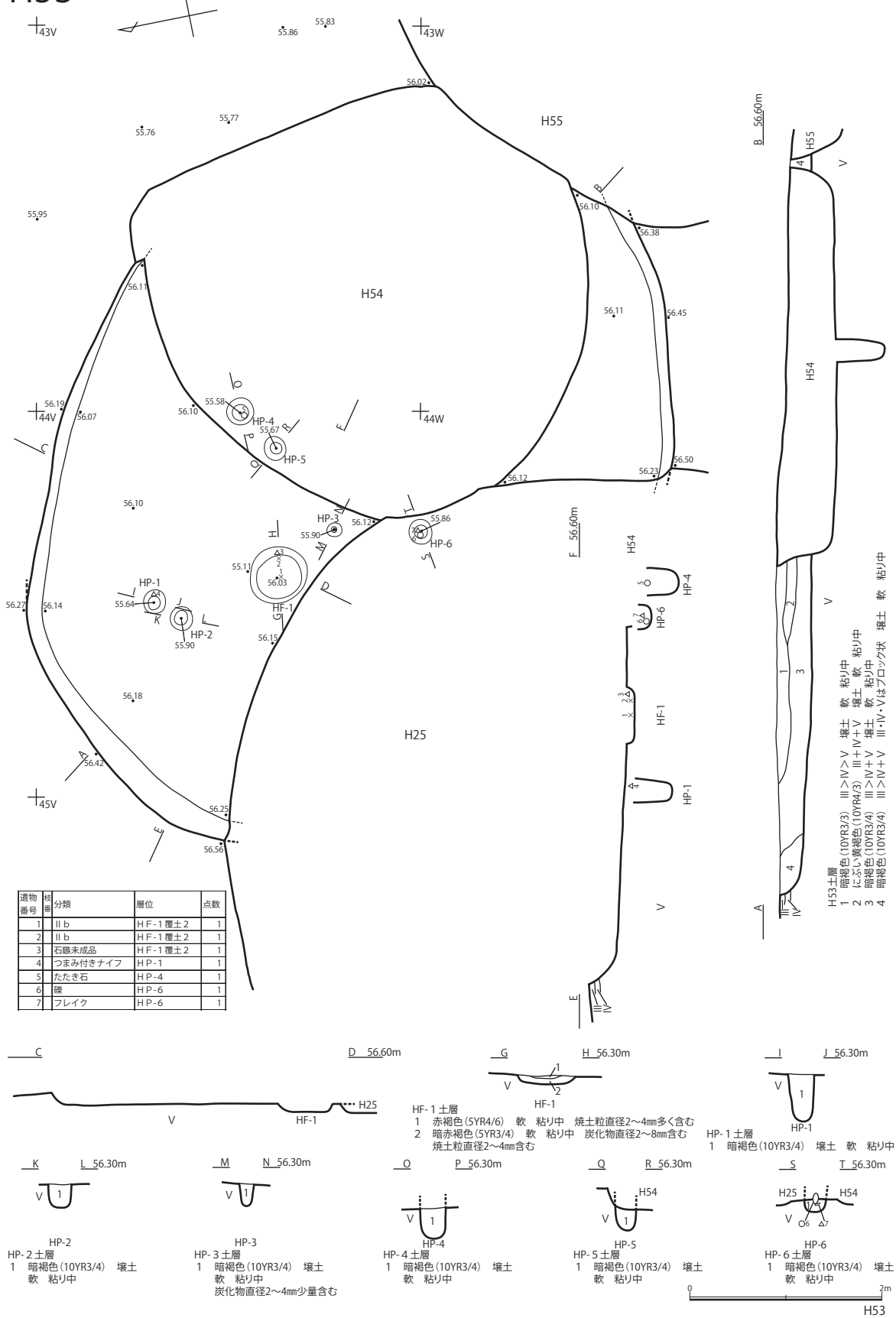
遺物出土状況 755点の遺物が出土した。土器は、HF-1覆土2層出土の点取り土器については円筒下層b式から下層c式にかけてのものと思われる土器碎片である。覆土からも円筒下層b式から円筒下層c式にかけての土器片が流入している。円筒下層b式が主体であり、円筒下層c式の可能性のあるものについても円筒下層b2式に近い古手のものである。石器は、フレイクが目立つ。

H52

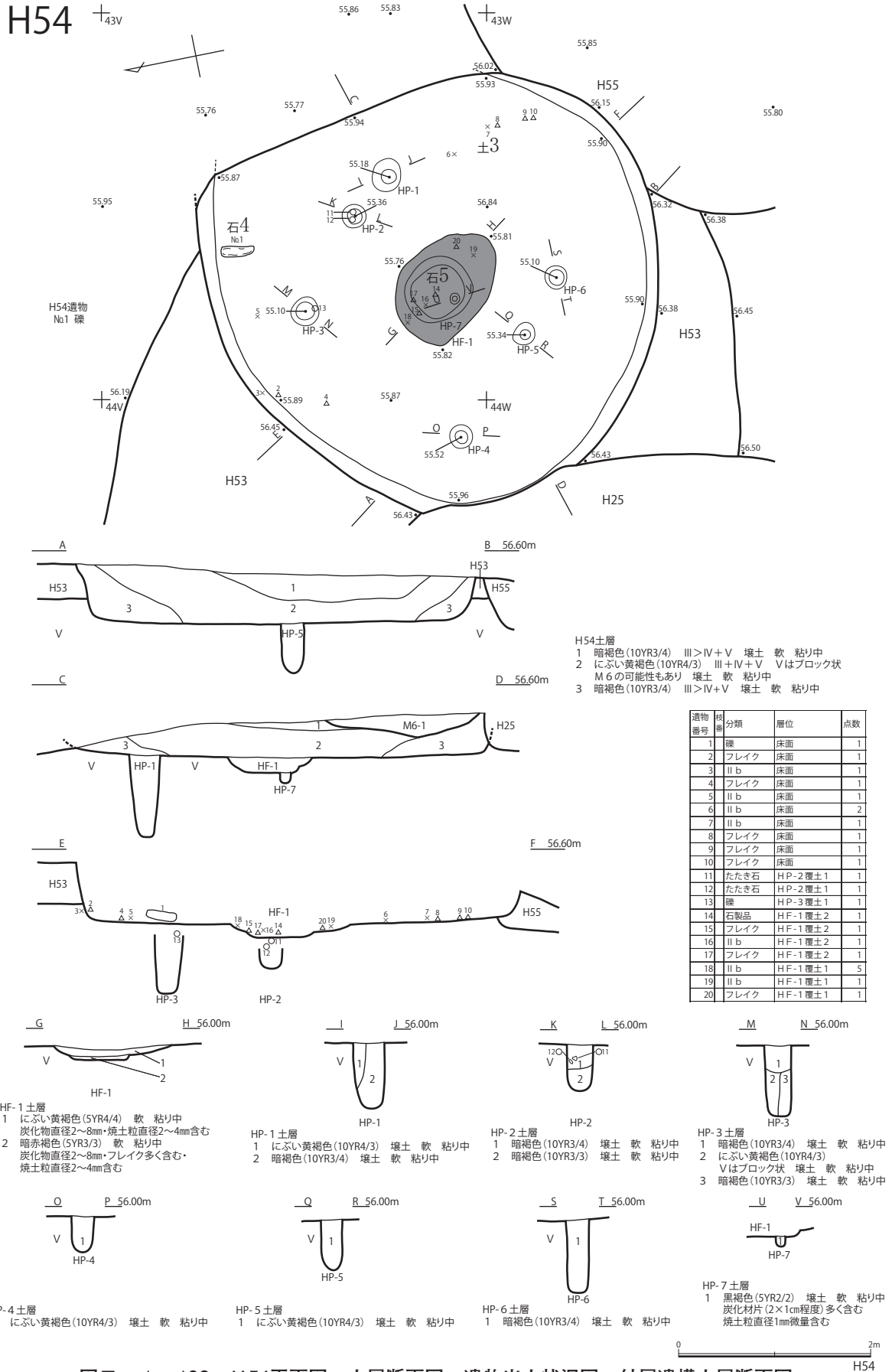


図Ⅲ-1-100 H52平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図

H53



図Ⅲ-1-101 H53平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図



図Ⅲ-1-102 H54平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図

時期 遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の住居という可能性がある。H25より古いため、円筒下層d1式以前である。H54(円筒下層b式以後、円筒下層d1式以前)・H55(円筒下層b式の頃)より古い。円筒下層b式の住居である。(大泰司)

H54 (図Ⅲ-1-102、-2-60、-3-31、図版39・105・135・136)

位置・立地 43・44-V・W区 調査区北東側の尾根

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、暗褐色土の落ち込みを検出した。当初はH53との切り合い関係が不明瞭であったが、平坦な床面、炉跡、柱穴を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。周辺の竪穴住居の掘り上げ土を含めた土層の観察から、M6-1層とH25より古く、H53・55(円筒下層b式)の頃より新しい。

覆土 自然堆積である。

構造 平面形は円形である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。東側は斜面に流出したと考える。

付属遺構 HF-1は中央からやや北西側に寄る浅い掘り込みのある方形の地床炉である。HP-1~6は支柱穴で、6本柱と考える。HP-7は浅く小さい柱穴で、HF-1に伴うと考える。

遺物出土状況 床面から礫(点取りNo.1)が出土した。(佐藤)

4674点の遺物が出土した。土器は、床面、覆土いずれからも円筒下層b式の碎片が出土している。石器は、フレイクの出土が目立つ。HF-1覆土2層を土壤水洗したところ、炭化物の中から中えい1点、子囊菌の炭化子囊6点が検出された。

時期 遺物出土状況から縄文時代前期後半である。縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の住居という可能性がある。H25より古いため、円筒下層d1式以前である。H53より新しい。(大泰司)

H55 (図Ⅲ-1-103、-2-60、-3-32、図版39・105・136)

位置・立地 42・43-V~X区 調査区東側の斜面

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、H53・54・65・66の周辺を精査中に、M6盛土の下から暗褐色土の落ち込みを検出した。当初はH66との切り合い関係が不明瞭であったが、平坦な床面を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。土層の観察から、M6-2層とH54・65・66より古く、H53より新しい。

覆土 自然堆積である。

構造 平面形は不明である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。東側の大部分は斜面に流出したと考える。

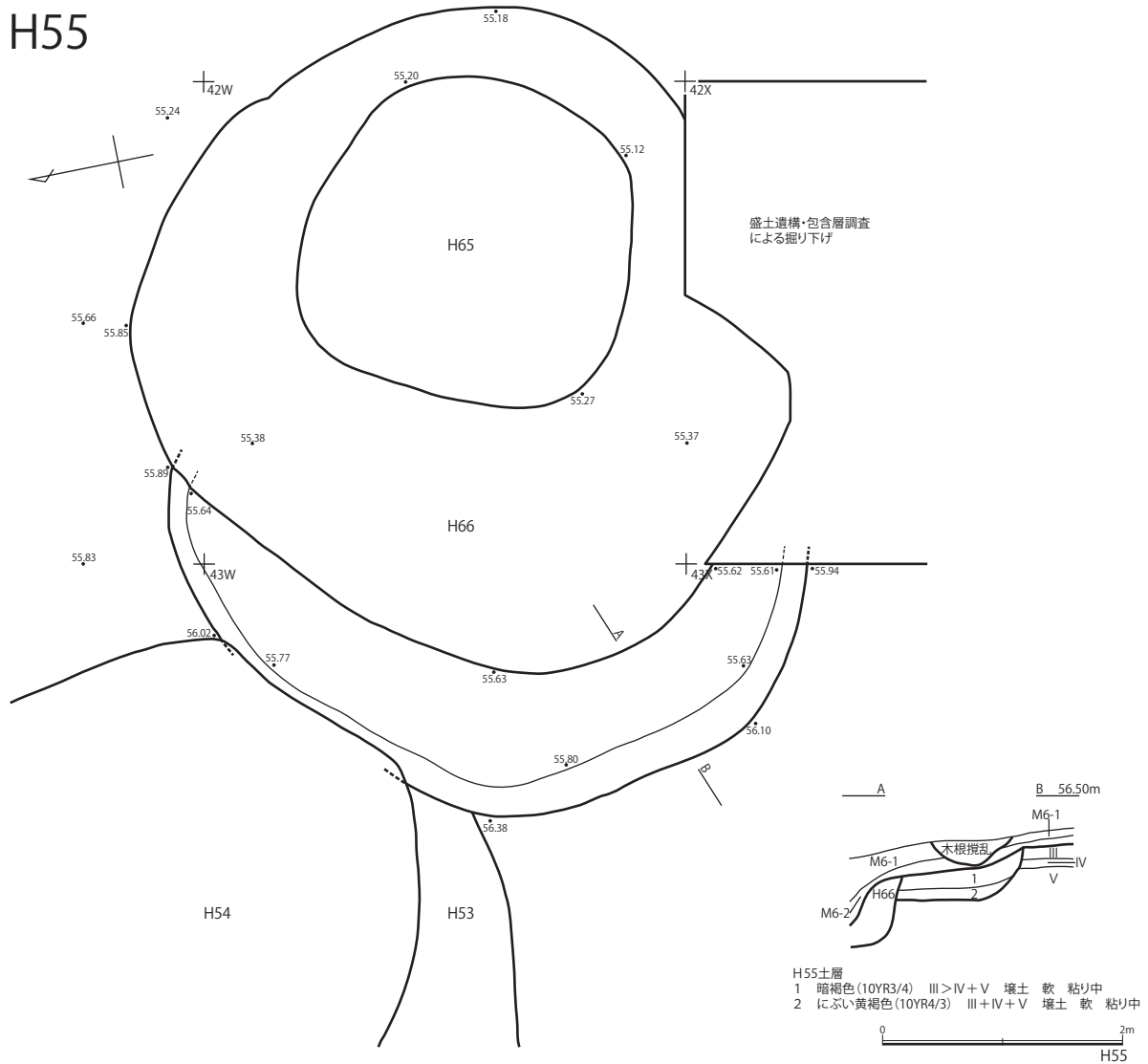
付属遺構 検出しなかった。(佐藤)

遺物出土状況 493点の遺物が出土した。覆土から円筒下層b式から円筒下層d1式にかけての碎片が出土している。同一個体のまとまりは無い。

時期 遺物出土状況から縄文時代前期後半である。円筒下層d1式古段階以前の住居である。M6-2(円筒下層b式の時期)より古く、H53(円筒下層b式の時期)より新しいことから、円筒下層b式段階の住居である。(大泰司)

H56 (図Ⅲ-1-104・105、-2-61・62、-3-32、図版40・106・107・136)

位置・立地 63-R・S区 標高58.8m付近の緩斜面



図Ⅲ-1-103 H55平面図・土層断面図

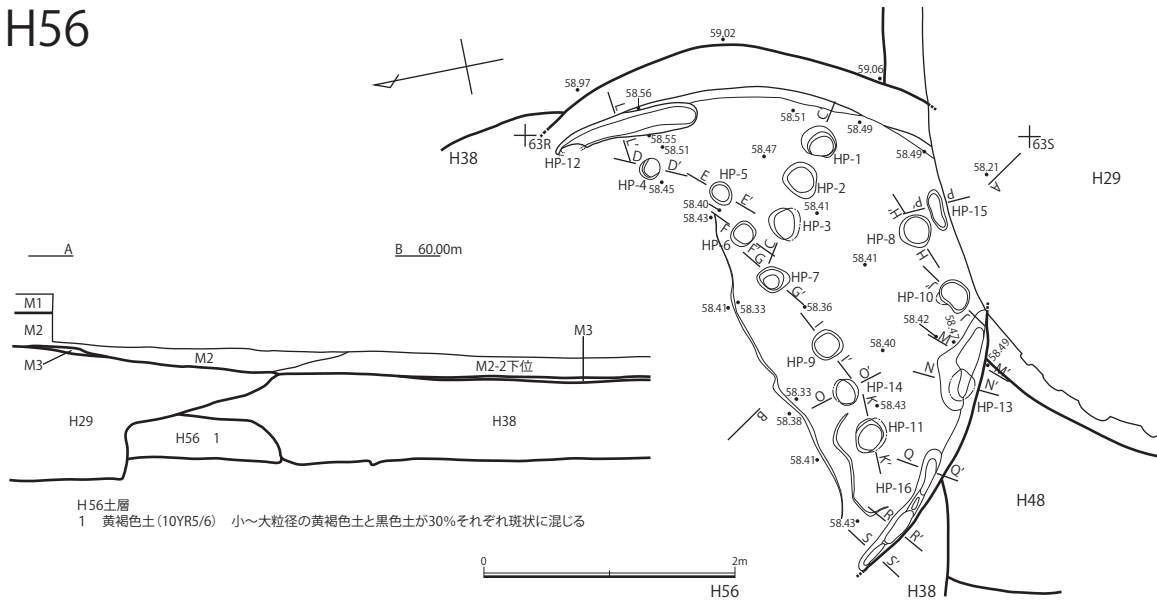
確認・調査 M2盛土調査中、暗褐色土の入り込みを検出した。平面形は楕円形で一部発掘区外へ延びているようであった。長軸と発掘区壁に沿って土層観察用の土手を残し、掘り下げたところ、5軒の竪穴住居と考えられる遺構が切り合っている状況と判断した。そのうち切り合い上、一番新しい2軒であるH29・38を順に調査した。これらの間について土層断面を観察した段階で、黄褐色土の入り込みがあった。そこで2軒の調査終了後、この入り込みを精査し、掘り下げた。すると明瞭な床面と壁面際を巡る柱穴と溝を検出したため竪穴住居と判断した。H29・38より古く、H48より新しい。

覆土 残存する覆土について、観察した土層断面、V層起源の黄褐色土が床面から上面にかけて堆積している。

構造 平面形は不整な楕円形である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

付属遺構 今回検出した範囲から、支柱穴は判然としなかった。南西壁と北東壁に溝が巡る。また南隅には柱穴を埋めるかのように掘られた溝HP-13がある。ただしこのH56HP-13(2)に示した柱穴は元来H48の柱穴がH56構築時に埋められた可能性も考えられる。また溝HP-12は上面観で覆土に変化が観察できたためそれを図示した。

H56



図Ⅲ-1-104 H56平面図・土層断面図

また床面を掘り下げた段階で、貼り床と考えて調査した部分について、剥がしたところ柱穴HP-4～7・9・11・14が並んでいた。これはH38の壁際にあたる部分に並んでいたため、H38の壁柱穴と判断した。このうちHP-6上面に砂ピットの砂が分布していたのはH56平面形中央に位置することからH56起源の砂と考える。支柱穴が検出できなかったのはH38に所属するとした付属遺構に含まれているものを弁別できなかった。H38HP-5は覆土が半分以上V層土で埋められていることと、H56平面形における位置関係からH56付属遺構とも考えられる。また加えて、構築時に埋められたものを検出できなかった可能性もある。また南壁側に幅の狭いベンチ状の張り出しがある。

遺物出土状況 903点の遺物が出土した。覆土上部から出土した点取りNo.1～4(1～4・6)についてはM4盛土からの流入と考える。覆土下部点取りNo.5(5)と時期差がある可能性がある。床直については厳密には覆土最下部と考える。

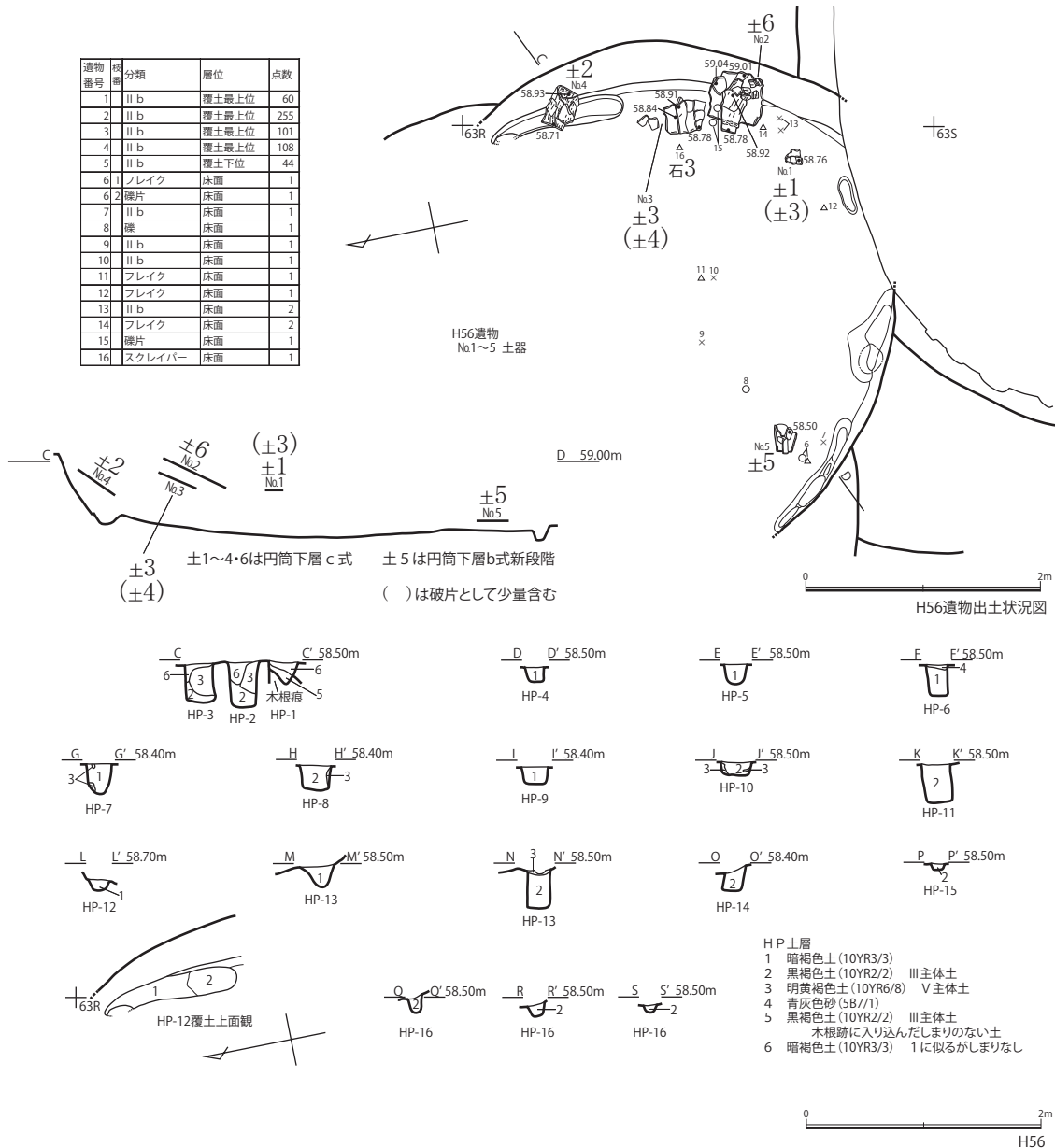
土器については、覆土最上部では1～3・6の四個体が復元可能であった。円筒下層c式のまとまりとして判断した。覆土下位、床面近くで、底部が欠損した円筒下層b式の新段階のものが出土している。円筒下層c式直前、円筒下層b2式新段階あるいは円筒下層b2～c式に並行している可能性がある。調査範囲内で類例が無い。石器はフレイクの出土が目立つ。

時期 遺構周辺の遺物出土状況から縄文時代前期後半と考える。円筒下層c式直前、円筒下層b2式後半の時期。
(大泰司)

H57 (図Ⅲ-1-106、-2-62・63、-3-33、図版40・107・108・137)

位置・立地 84～86-P・Q区

確認・調査 82～86ラインのV層上面で黒色土の落ち込みを確認、調査区の北壁側にトレンチを設定して調査を開始した。調査区は幅1～2m程度と狭くなっているためトレンチ調査と並行してグリッドを掘り下げた。途中、調査区の奥(西端)で階段状にV層を検出したが、手前(東側)では検出できないため断層のずれによる段差の可能性もある。その後、段状の低い部分でもトレンチ内でV層を検出し、グリッド全体を掘り下げたところ付属ピットや炉跡の掘り込みを確認したのでベンチ構造を



図Ⅲ-1-105 H56遺物出土状況図・付属遺構土層断面図

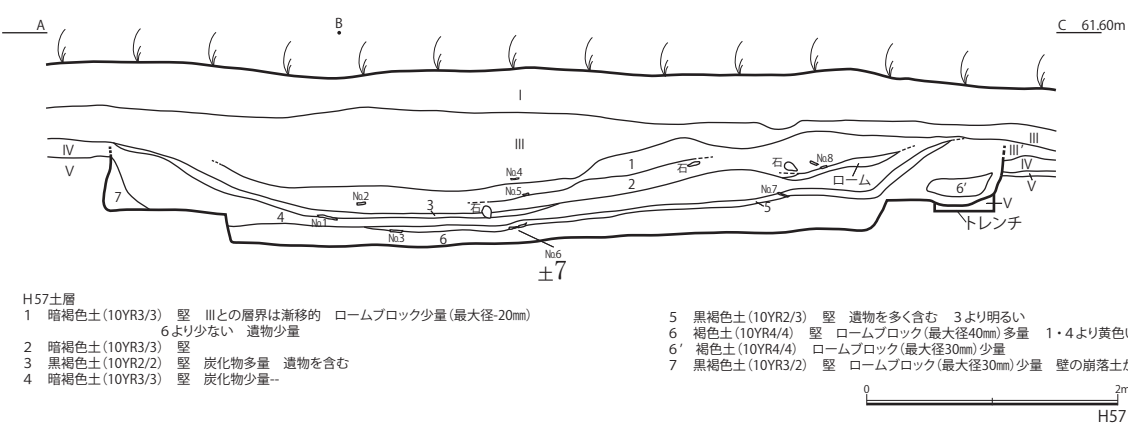
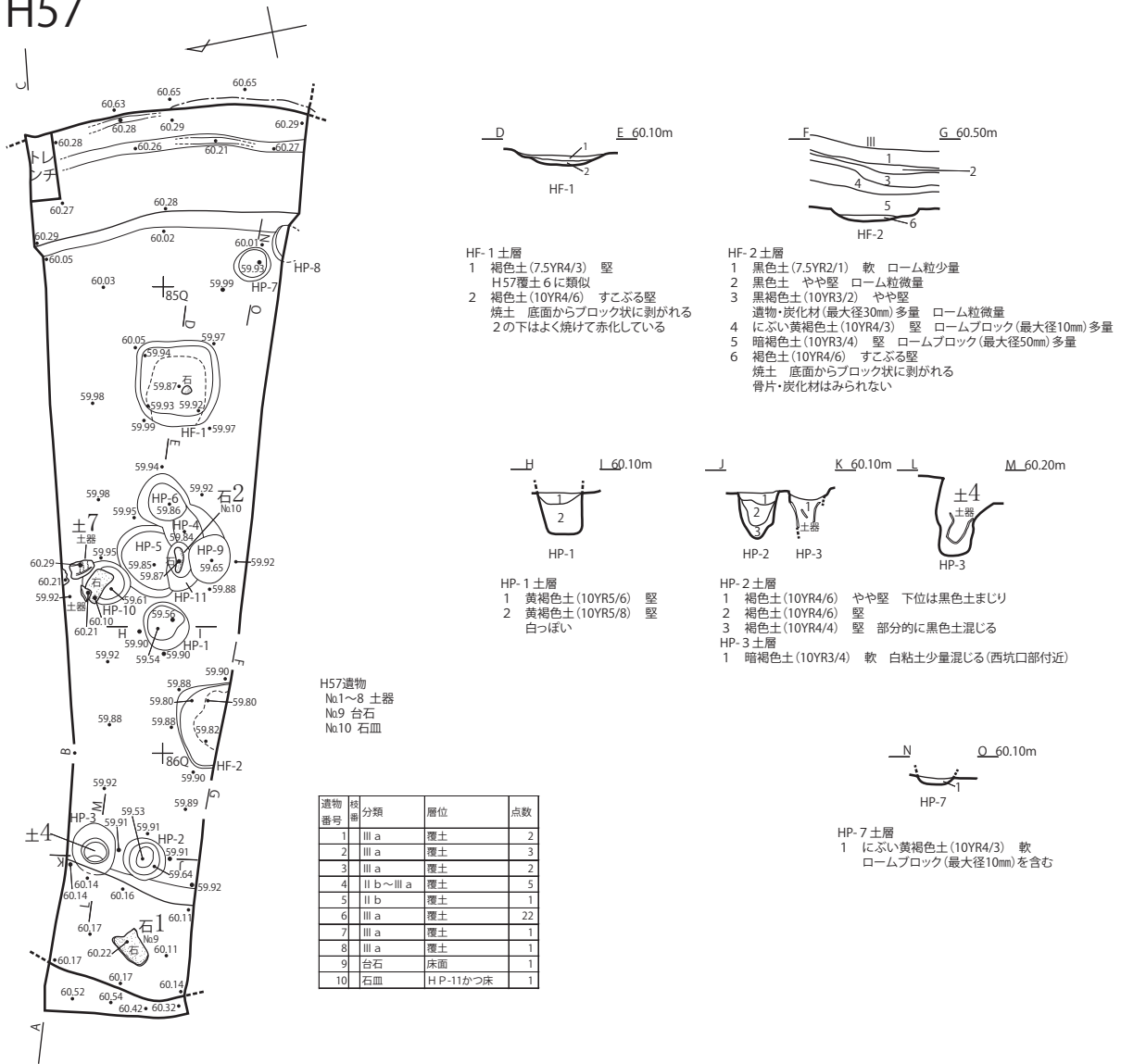
伴う84~86ラインにかけてと82~84ラインにかけてを2軒の竪穴式住居跡と認定した。84~86ラインをH57、もう一方をH58とした。調査は床面及びベンチを検出した後、付属ピット、炉跡の調査を行い、調査区北壁のセクション図を作成し終了した。

覆土 1~7層に分層した。住居廃絶後、6層(褐色土)で埋まり、その後二回にわたり腐植土(3層及び5層)が堆積した。上位の3層(黒褐色土)は炭化物を多く含み、下位の5層(黒褐色土)は遺物を多く含んでいた。3層の上位は1・2層(暗褐色土)でロームブロックと遺物を少量含む。

構造 ベンチ構造をもち、床面及びベンチからの立ち上がりは急である。平面形は不明である。長軸方向は南-北と考えられる。重複は無い。

床面 東西の床面レベルを比較すると西側が約10cm低い。掘り込み面から床面までの深さは約90cmである。

H57



図Ⅲ-1-106 H57平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図

ベンチ 東西で幅約1mのベンチを確認した。床面との比高差は約25cmである。

付属遺構

- ・地床炉 HF-1・2の二か所検出した。地床炉は約70cm四方で深さ約10cmの方形の掘り込みを伴っている。東側のHF-1は全体を検出したが、西側のHF-2は南側が調査区域外に延びており全体の約1/2を検出した。炉跡二か所の新旧関係は不明である。調査中の肉眼観察では覆土中に骨片などはみられなかった。HF-1覆土1層を土壌水洗したところ、炭化物の中から中えい破片2点、子囊菌の炭化子囊1点が検出された。
- ・柱穴 付属ピットは11基検出した（HP-1～11）。これらは深さにより2種類に分けられる。一つは深さ30cm以上で円筒状に掘られたものが6か所ある（HP-1～3, 8～10）。このうちHP-3では完形土器一個体が口縁を上にして住居の内側にやや斜めに埋められていた。もう一つは深さ10cm以下の浅い皿状ピットが床面中央部に重複して4基検出された（HP-4～6, 11）。なお、HP-2・3は西側の床とベンチ際に、HP-8は東側の床とベンチ際に検出された。
- ・周溝 東側のベンチ上で2条確認された。壁側のものは幅約5cm、西側のものは幅約10cm、深さ約8cmである。

遺物出土状況 床面出土の遺物は少ないが、西側のベンチ上面で長形状の台石1点。付属ピットHP-3の中に埋設された完形土器一個体。HP-10・11の検出面で礫が各1点出土した。HP-10の上面から浅鉢が一個体出土している。（佐川）

1,118点の遺物が出土した。土器は縄文時代前期後半、中期前半の土器片、焼成粘土塊が出土している。HP-3の埋設土器とHP-10上面出土の浅鉢は、縄文時代中期初頭、円筒上層a式最古段階と判断した。石器はフレイク、礫の出土が目立つ。

時期 HP-3の埋設土器及びHP-10の上面から出土した浅鉢により、縄文時代中期初頭、円筒上層a式最古段階の頃と考えられる。（大泰司）

H58（図Ⅲ-1-107・108、-2-64～69、-3-33、カラー図版2、図版41・108～113・137）

位置・立地 82～84-P・Q区

確認・調査 H57と同様に82～86ラインのV層上面で黒色土の落ち込みを確認、調査区の北壁側沿いにトレンチを設定して調査を開始した。トレンチ調査により住居跡H58の壁面および床面を確認後、遺構全体の覆土を掘り下げた。覆土中からは同一個体の土器が多く出土したことから、その個体ごとに出土状況（または出土範囲）を実測し、遺物を取り上げながら覆土を掘り下げた。覆土中から出土した土器は少なくとも十六個体分を数えた。これらの土器は西側に多く分布し、付属ピットHP-1上面などから多く出土した。なお、トレンチ調査中、東側で溝状の落ち込みを検出、調査の結果Tピット（TP7）であることを確認した。

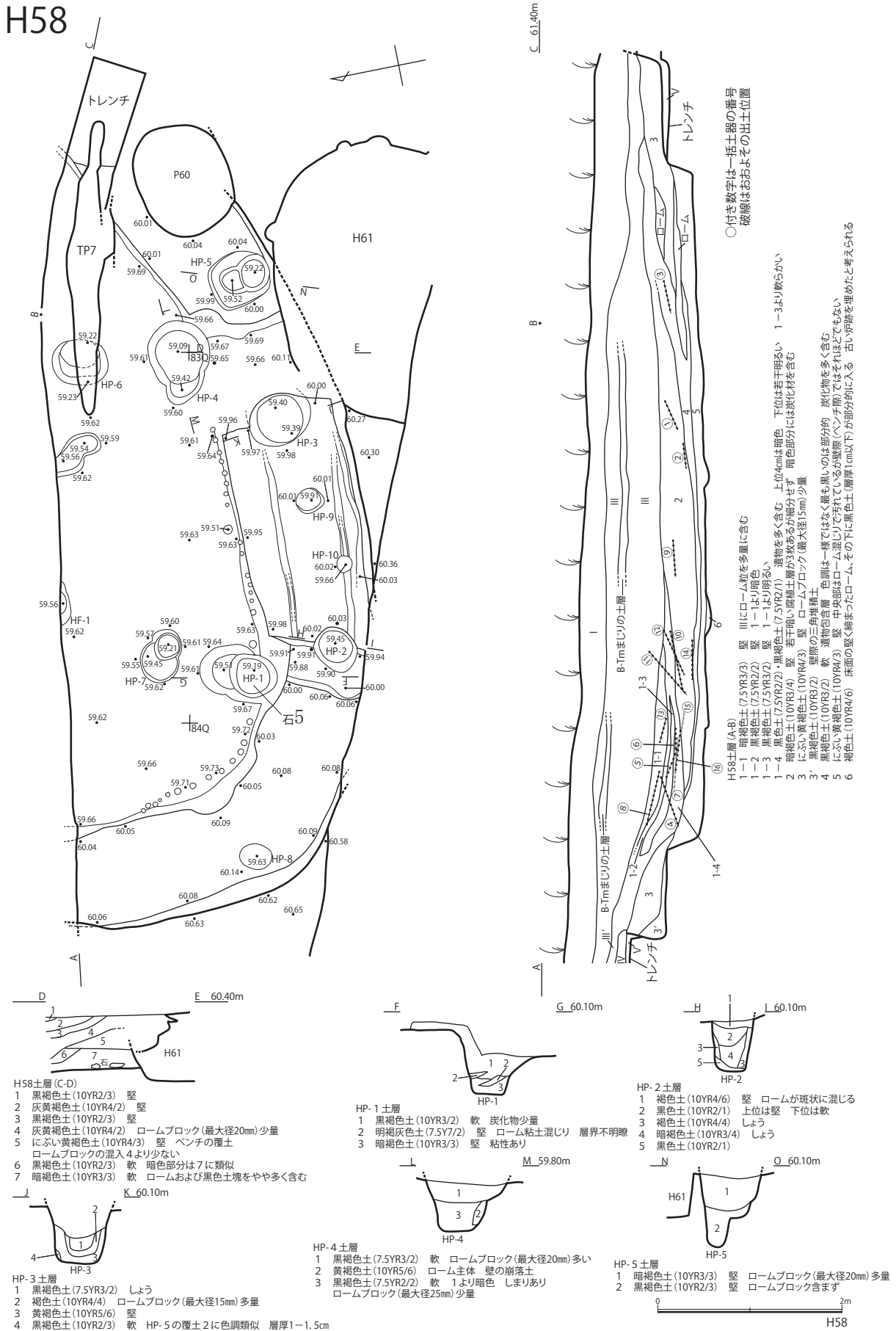
床面およびベンチ、壁面を検出後、付属ピット、北壁のセクションを実測、最後に床面を精査し調査を終了した。調査によって検出したのは竪穴の南端部分である。

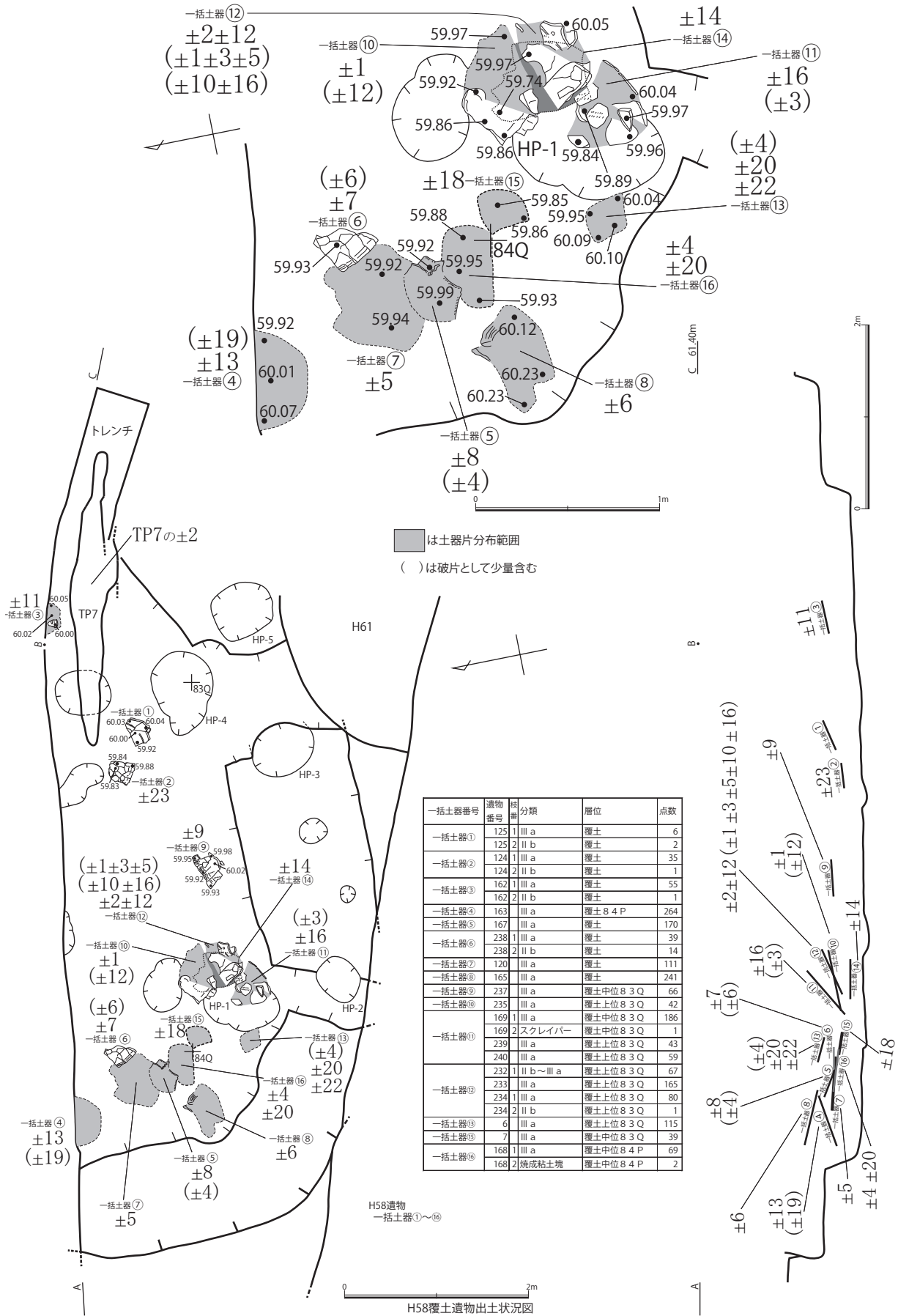
覆土 1～5層に分層した。住居跡廃絶後、3,5層（にぶい黄褐色土）で埋まり、5層の直上に4層（黒褐色土）が堆積、その上に腐植土の2層（暗褐色土）、そして遺物を多く含む1層（黒色・黒褐色土）がある。

構造 ベンチ構造をもち、立ち上がりは急である。東側ではP60とH61、TP7に切られ、南西側では壁面の一部が調査区域外に延びている。平面形は不明である。長軸方向は南南東-北北西。

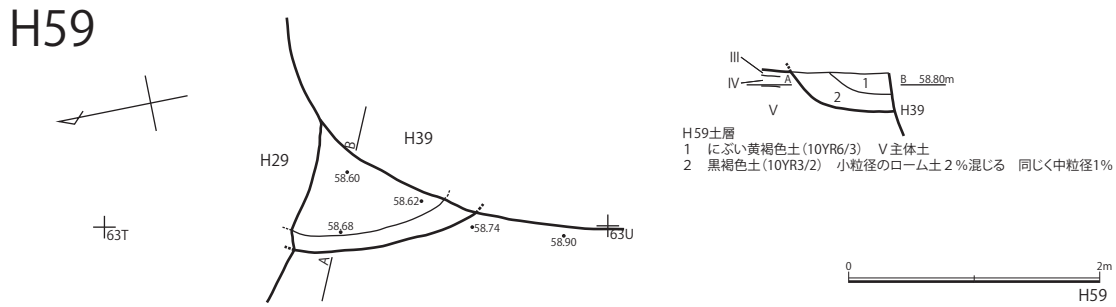
床面 床及びベンチ上面は平坦である。掘り込み面から床面までの深さは約90cmである。

H58





図III-1-108 H58遺物出土状況図



図Ⅲ-1-109 H59平面図・土層断面図

付属遺構

- ・地床炉 北壁のセクションにかかる古い炉跡と考えられるものを一か所検出した(HF-1)。深さ約6cmの掘り込みをもち、覆土は堅くしまった褐色ローム土である。その覆土を取り除いたところ底面は被熱により橙褐色に赤化している。
- ・柱穴 付属ピットは10基検出した。床面上で4基(HP-1・4・6・7)、ベンチ上で6基(HP-2・3・5・8~10)である。このうち柱穴の可能性のあるものは7基である(HP-1~7)。HP-1,4は床面とベンチの際にあり、径50~70cm、床面からの深さは約50cmである。底面では砂利が検出された。HP-1・4と対応するように約1m内側でHP-6・7が検出された。深さは床面から約40cmである。ベンチ上面の付属ピットで柱穴の可能性のあるものは3基ある(HP-2・3・5)。これらは径約40~70cm、深さは58~82cm(ベンチ上面から)である。この他に床面を精査した際に壁際から径4~10cm程度の小柱穴状ピットが10~20cm間隔で30基検出された。このうち5基について半截したところ深さは平均16cmである。
- ・周溝 南側のベンチ上面で3条検出した。壁面側に2条、ベンチ内側に1条である。周溝の大きさは3条とも上端の幅約8cm、下端の幅は約4cmである。
- ・ベンチ 幅1.1~1.35mで全周めぐっている。ベンチは途中二か所で分断されている。西側の溝はHP-2にかかり、幅約50cm、深さ15cmである。東側はHP-3,4にかかり、幅約100cm、深さ約35cmである。この溝の性格については不明である。床面との比高差は約40cmである。

遺物出土状況 ベンチ上の西側の溝上面から北海道式石冠が1点出土した。(佐川)

4268点の遺物が出土した。覆土からは土器が十六個体復元可能であった。焼成粘土塊も出土する。石器はフレイク、礫の出土が目立つ。次にスクレイパーが目立つ。

時期 覆土から出土した同一個体の土器はほとんど円筒上層a式古段階である。また隣接するH57と形状がよく似ることから縄文時代中期初頭、円筒上層a式最古段階と考える。(大泰司)

H59 (図Ⅲ-1-109、-2-69、図版41・113)

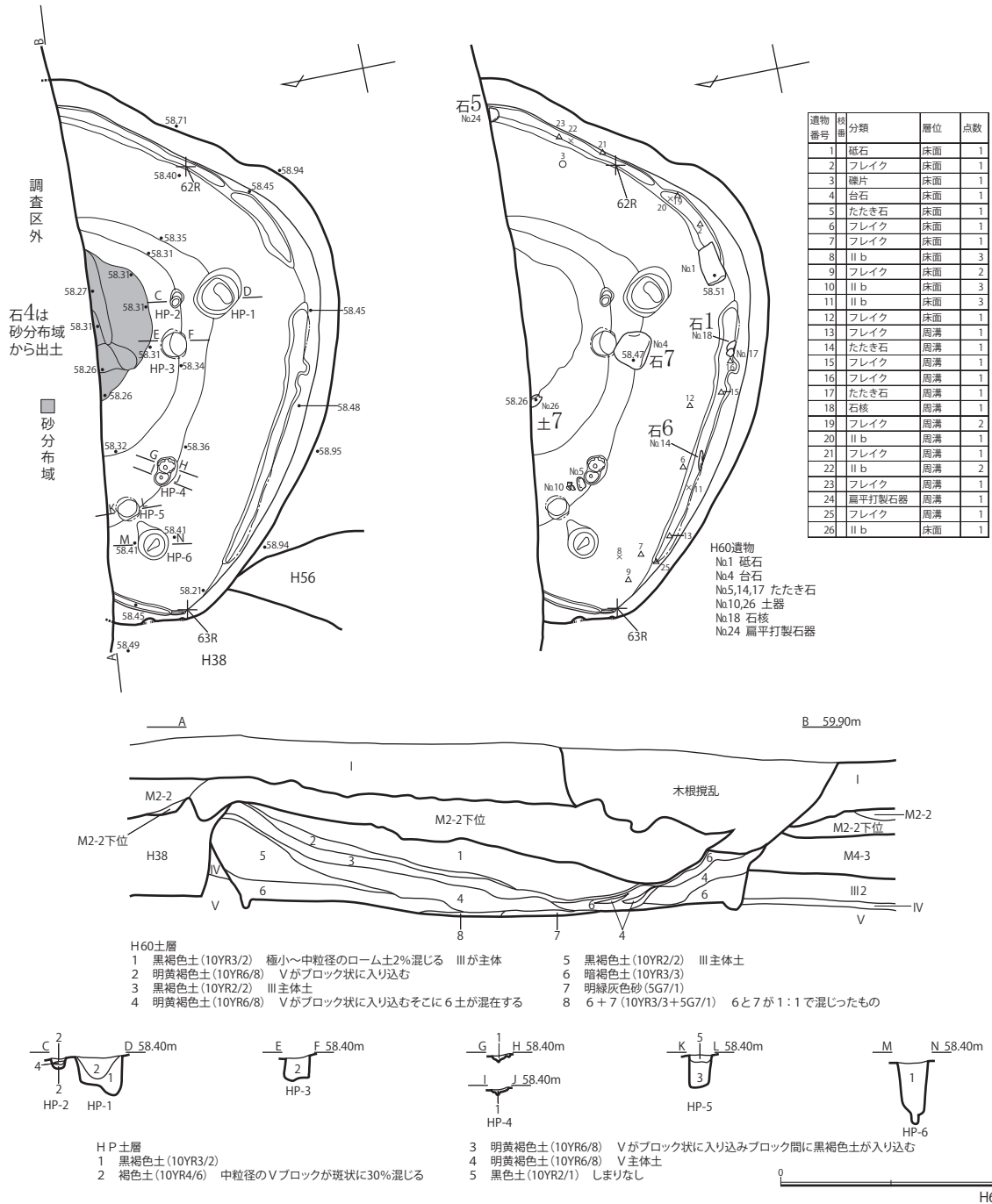
位置・立地 61・62-T区 標高58.6m付近の緩斜面

確認・調査 61・62-T区においてH39を調査中、壁面南側に、黒褐色土の入り込みを検出した。入り込みとV層の境界線は明瞭で、床面・壁面を思わせた。そこで土層観察用の土手を残して掘り下げたところ、竪穴住居がH29と39より古い遺構と判断した。また、外形線から遺構は大型と判断、竪穴住居跡とした。

覆土 覆土下半部南半分はⅢ層土主体である。中央にはV層土が入り込む。

構造 平面形は不整な円形を想定する。残存する床面は平坦で、壁は急に立ち上がる。

H60

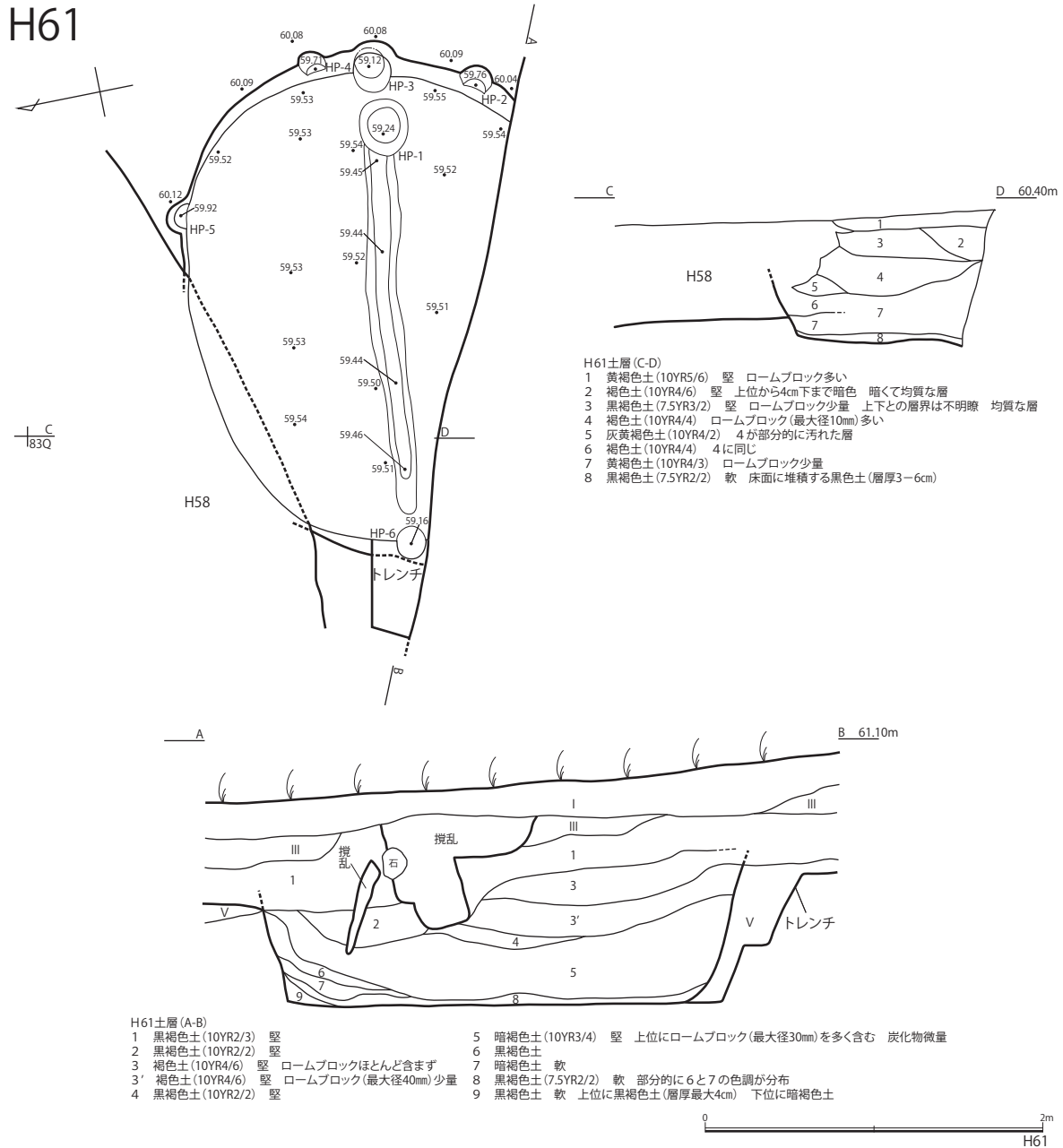


図Ⅲ-1-110 H60平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図

付属遺構 今回検出した範囲では検出していない。

遺物出土状況 34点の遺物が出土した。覆土から遺物が出土した。磨滅した円筒下層b式が出土した。流入と思われる。石器は、フレイク、礫、スクレイパーが出土した。

時期 遺構周辺の遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の時期と考える。H29(円筒下層d1式古段階)・H39(円筒下層c式)より古いため、円筒下層c式より古い住居である。(大泰司)



図Ⅲ-1-111 H61平面図・土層断面図

H60 (図Ⅲ-1-110、-2-70、-3-34、図版42・114・137)

位置・立地 61・62-Q・R区 標高58.6m付近の緩斜面

確認・調査 H38の土層堆積状況を確認するため発掘区壁面に沿ってトレンチをいれたところ、H38の東側壁面が他の遺構を切っている状況が断面から読み取れた。そこでH38調査終了後、両調査区を掘り下げたところ楕円形に黒褐色味のあるM4盛土中に黄褐色味のあるM2盛土が入り込んで、一部は発掘区外に延びている状況であった。M2盛土部分を掘り下げて、トレンチを延長し、床面を確認した。そこから壁面を検出した事から、竪穴住居と判断した。

覆土 上部はⅢ層起源の黒褐色土とⅤ層起源の黄褐色土が互層となっている。下部にはⅢ～Ⅴ層が混在した褐色土が堆積している。床面中央部の窪みには青灰色砂が薄く溜まっている。

構造 平面形は不整な円形で四角形に近い形状を想定。残存する床面は平坦で、中央が浅く窪む。

周溝が巡るが、隅で途切れがちである。壁は急に立ち上がる。

付属遺構 柱穴と思われるもの、そうでないもの、いずれの付属遺構も中央部窪みの際に並ぶ。中央部窪みには青灰色砂が溜まる。砂ピットは検出できなかった。HP-3と5はそれぞれHP-1と6際があり、形状は小型の柱穴を思わせる。支柱穴に対して補助的な柱の可能性もあるHP-2・4は浅い。それぞれHP-1と6近くにあり、そのことや、窪みの縁にあることに機能上の意味があるかどうかは不明である。壁際には側溝がめぐるが住居の角隅には溝が無い。

遺物出土状況 959点の遺物が出土した。床直とした遺物は厳密には覆土最下位である。側溝からの遺物出土については比較的まとまっている。土器について、円筒下層c式から下層d1式の出土は無い。これはH48やH50、H59、H62も同じ状況である。いずれも同時期、円筒下層b式以後の時期と考える。石器はフレイクの出土が多い。

時期 遺構周辺の遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の時期と考える。M4-3を掘り込んでいる。H38（円筒下層d1式以前）、H56（円筒下層b式前半より新しい）より古い。円筒下層b2式後半より古い。（大泰司）

H61（図Ⅲ-1-111、カラー図版2、図版41）

位置・立地 82・83-Q区

確認・調査 82Q区のV層上面で長円形の落ち込みを確認、調査区南壁に設定したトレンチにより、壁の立ち上がり及び床面を検出した。また、北側に隣接するH58との重複関係を確認するため83ラインに沿ってトレンチを設定した。2本のトレンチにより壁面及び床面を検出したので覆土を掘り下げた。その後、床面の溝状遺構と壁際に掘られた付属ピットを確認して調査を行った。なお、南側は遺構全体の1/4程度が調査区域外に延びている。

覆土 1～9層に分層した。大まかには床面に堆積する軟らかい8層（黒褐色土）とその直上に堅くしまった5層（暗褐色土）がある。

壁面 全周ともに立ち上がりは急である。平面形は長円形で、軸は東-西方向である。H58を切る。

床面 ほぼ平坦である。遺構の長軸と同一方向で長さ2.2m、幅15～20cm、深さ5～8cmの溝がある。溝の西端は閉じているが、東端には径30×34cm、深さ29cmの円形ピット（HP-1）がある。

付属ピット 全部で6基ある（HP-1～6）。HP-1は床面の項で説明したものである。残り5基はいずれも壁際に掘られ、東側に4基（HP-2～5）、西側に1基（HP-6）ある。溝状遺構の両端にある2基（HP-3・6）は、径20～30cm、確認面から深さ約1mで床面を掘り込んでいる。他の3基は径16～22cm、深さ20～37cm、ピットの底面は床面より上位にある（HP-2・4・5）。（佐川）

遺物出土状況 133点の遺物が出土した。覆土から円筒下層c式～下層d2式の破片が混在して出土する。流入と思われる。いずれも磨滅著しい。あるいは碎片のため、図化できなかった。石器はフレイクが目立つ。

時期 H58より古く、遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層c式以前の可能性がある。

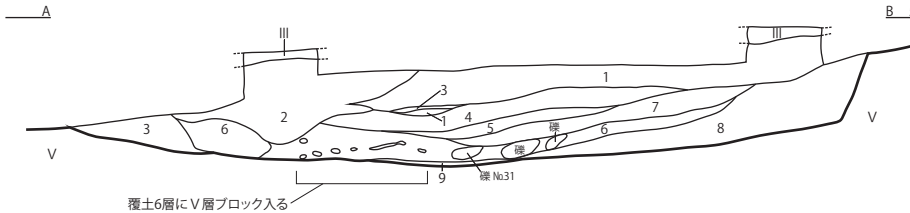
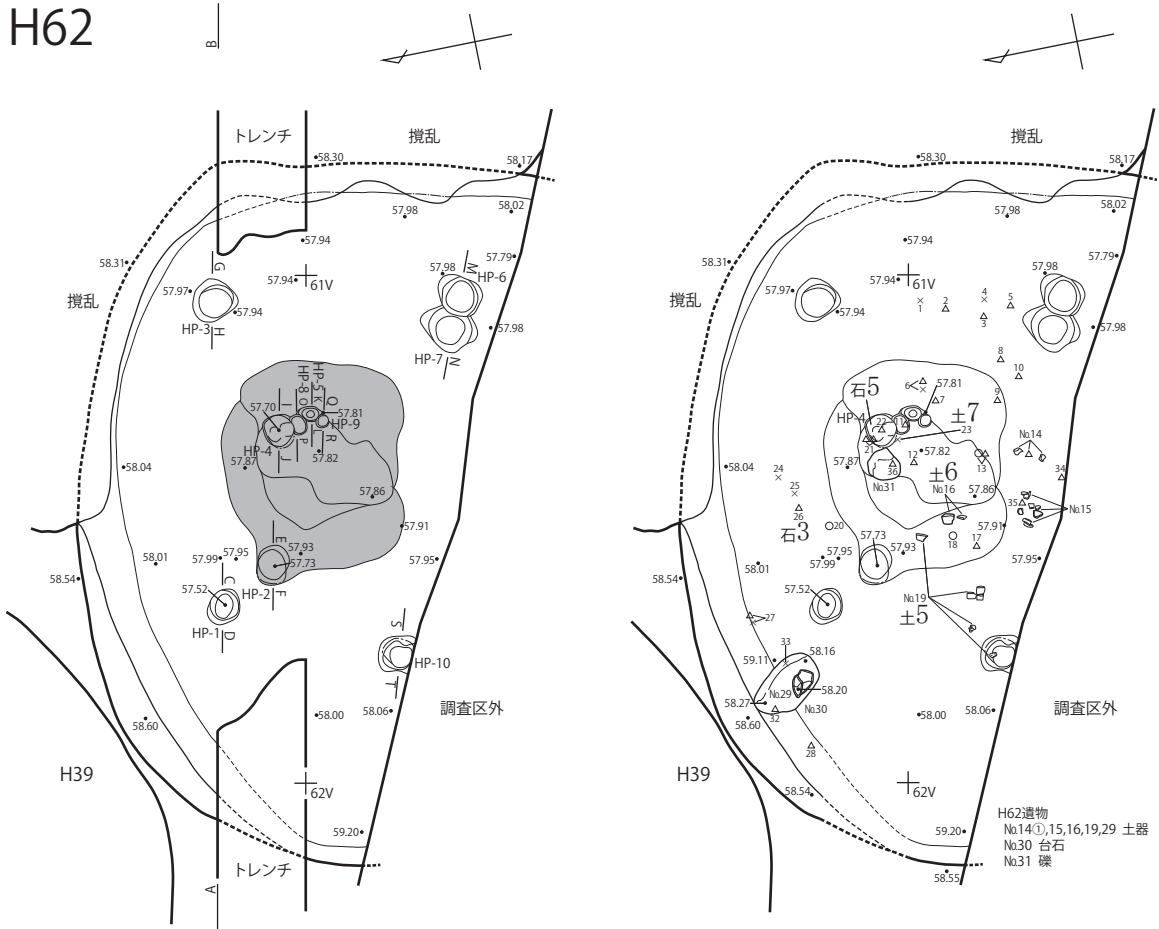
（大泰司）

H62（図Ⅲ-1-112、-2-71、-3-35、図版43・115・138）

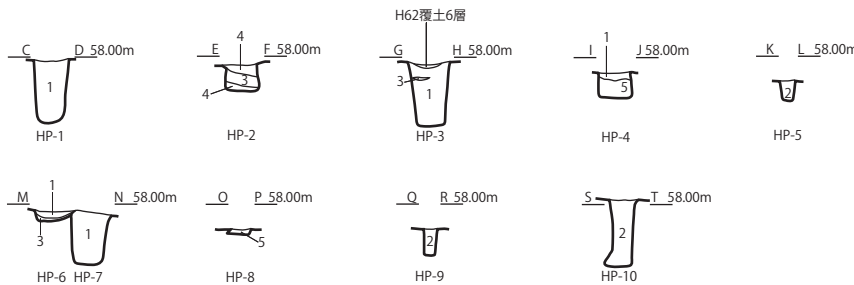
位置・立地 60・61-U・V区 標高58.2m付近の緩斜面

確認・調査 60・61-U・V区においてにぶい黄褐色～褐色土の入り込みを検出した。その平面形は楕円形に近かったが、周辺の木根痕によって不明瞭だった為、中央にトレンチを入れた。遺構底面らし

H62



- H62土層**
- 1 にぶい黄褐色土(10YR7/4) M 3相当上から二枚目 グライ化したロームのまつまり
 - 2 褐色土(10YR4/6) 小~中粒径のVブロックが斑状に5%混じる
 - 3 黒色土(10YR2/1) III主体土 風倒木・木根による攪乱
 - 4 黒褐色土(10YR2/2)
 - 5 黄褐色土(10YR5/6) V主体土
 - 6 暗褐色土(10YR3/3) 大粒径のVブロックが斑状に20%混じる
 - 7 暗褐色土(10YR3/3)
 - 8 黒褐色土(10YR3/2)
 - 9 青灰色砂(SB7/1)



- HP土層**
- 1 黒褐色土(10YR3/2) しまりなし
 - 2 暗褐色土(10YR3/3) 大粒径のVブロックが斑状に20%混じる H62覆土6
 - 3 明黄褐色土(10YR6/8) V主体土
 - 4 黒褐色土(10YR3/2) Vが斑状に5%混じる H62覆土6
 - 5 青灰色砂(SB7/1)

遺物番号	検出層	分類	層位	点数
1	II b	床面	3	
2	フレイク	床面	1	
3	フレイク	床面	1	
4	II b	床面	5	
5	Uフレイク	床面	1	
6	フレイク	床面	1	
6	II b	床面	2	
7	フレイク	床面	1	
8	フレイク	床面	1	
9	フレイク	床面	1	
10	フレイク	床面	2	
11	フレイク	床面	2	
12	スクレイパー	床面	1	
13	1	フレイク	床面	1
13	2	礫片	床面	1
14	1	II b	床面	3
14	2	フレイク	床面	1
15	II b	床面	17	
16	II b	床面	2	
17	フレイク	床面	1	
18	礫	床面	1	
19	II b	床面	14	
20	礫	床面	1	
21	1	フレイク	床面	1
21	2	Uフレイク	床面	1
22	フレイク	床面	2	
23	II b	床面	4	
24	II b	床面	2	
25	II b	床面	10	
26	石核	床面	1	
27	1	フレイク	床面	1
27	2	II b	床面	1
28	フレイク	床面	1	
29	II b	床面	2	
30	台石	床面	1	
31	礫	床面	1	
32	フレイク	床面	1	
33	II b	床面	1	
34	フレイク	床面	1	
35	フレイク	床面	1	
36	フレイク	床面	1	

図Ⅲ-1-112 H62平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図

きしまりのあるV層面を検出したが、木根痕が著しいため多少強めに掘りぬいた。するとその規模から竪穴住居と思われる遺構が発掘区境界に位置しており、その東側壁面が木根によって破壊されている状況が明らかとなった。発掘区内の遺構を掘り下げ、壁面残存部分を検出し、木根によって破壊されている場所については、極力残存部の確認をした上で、想定できる壁面を復元するように調査した。西側壁面についても斬移層の乱れた面を掘り下げているため掘り込み面は不明瞭である。

覆土 上部～覆土最下位にかけてはV層起源の黄褐色土が主体であり、覆土中位にⅢ層起源の黒褐色土が入り込んでいる。ただし竪穴住居西側については覆土最下位から上面にかけてⅢ層起源の黒褐色土が入り込んでいる。床面中央部は窪んでおり、そこには砂ピットの砂、青灰色砂が溜まっている。

構造 平面形は不整な円形で四角形に近い形状を想定。残存する床面はおおよそ平坦だが、中央にむかって窪む。中央部分がさらに窪む。残存する壁は急に立ち上がる。

付属遺構 東—西方向の長軸を対称軸として支柱穴の可能性が高いものが4本配される。いずれも中央部窪みの外側に並ぶ。HP-3に対して7、HP-1に対して10がある。HP-7の脇には浅いHP-6があるが用途は不明である。中央部窪みには青灰色砂が溜まる。窪みの中、西側にHP-2があり、東側にHP-4・5・8・9がある。HP-2はV層土が覆土中に挟まっている。HP-4と8は砂ピットであり、HP-5・9は砂ピットと連続した細長い穴である。柱というよりは、砂ピットに関連する作業に必要な可能性があるが不明である。

遺物出土状況 1,628点の遺物が出土した。床面出土とした遺物は厳密には覆土最下位からの出土と考える。土器は、覆土から円筒下層d2式新段階と円筒下層b式が出土する。円筒下層d2式は覆土上位からの出土で周囲の盛土出土遺物と接合する。床面からは円筒下層b式が出土する。石器はフレイク、礫の出土が目立つ。次にスクレイパー、Uフレイクが目立つ

時期 遺構周辺の遺物出土状況と形状から縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の住居と考える。

(大泰司)

H63 (図Ⅲ-1-113、-2-71、-3-35、図版44・115・138)

位置・立地 48・49-T・U区 調査区中央の平坦面

確認・調査 H18の掘り上げ土とM5盛土のトレンチ調査中に、断面で検出した。その後、M5盛土を掘り下げると、Ⅲ2層上面で、M5盛土の落ち込みを検出した。当初はH64との切り合い関係が不明瞭であったが、平坦な床面、柱穴、周溝を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ2層上面と考える。土層の観察から、M5盛土とP22より古く、H64より新しい。H64→H63→M5盛土→H28→H24→P44

覆土 自然堆積である。

構造 平面形は楕円形である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

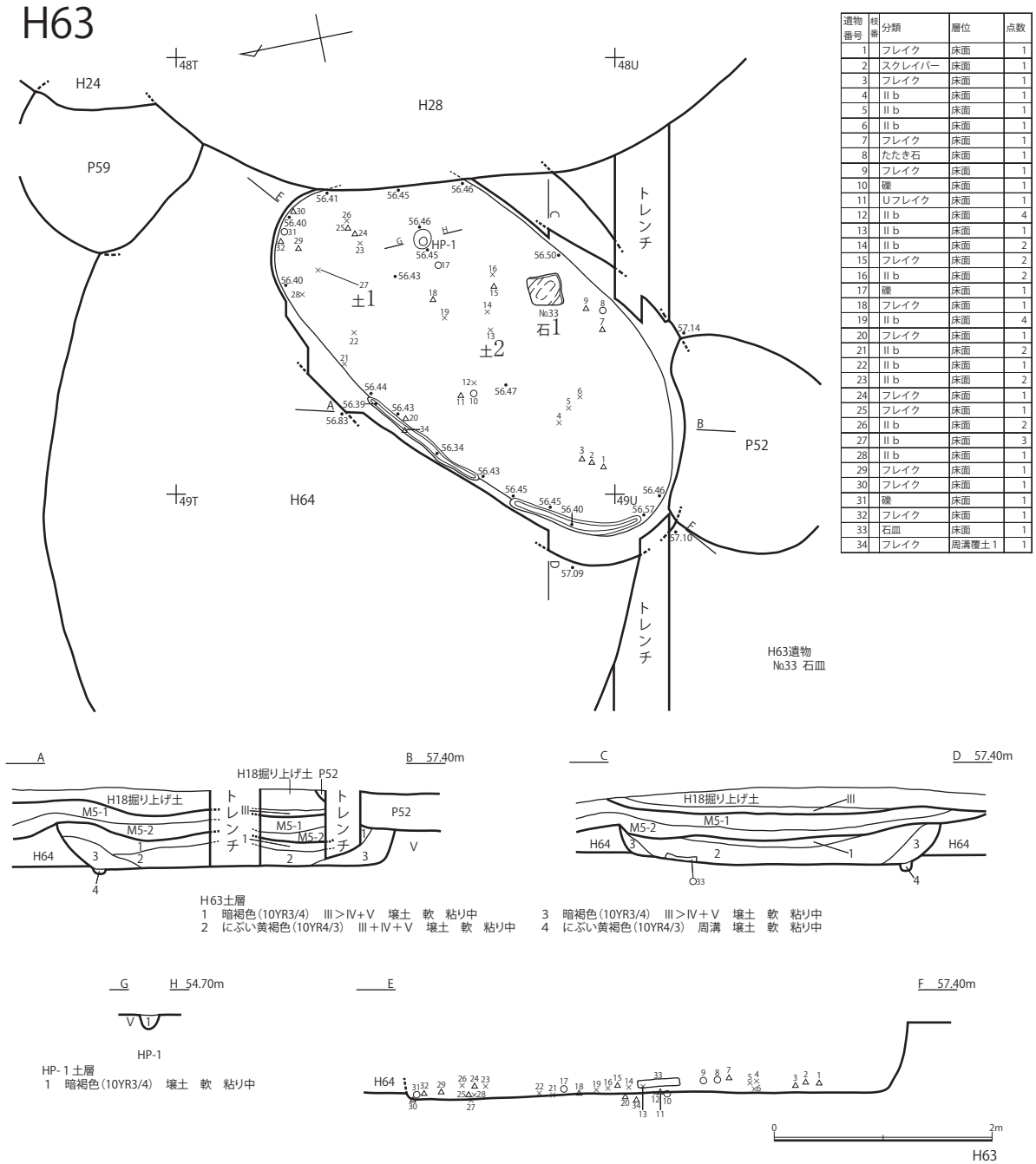
付属遺構 HP-1は支柱穴で、1本柱と考える。HP-1は浅いものである。周溝は西側の長軸側を中心に、壁際に沿って1条巡る。

遺物出土状況 床面から石皿(1・点取りNo.33)が出土した。(佐藤)

48点の遺物が出土した。土器は、床面から円筒下層b式が出土する。同一個体のまともは無い。石器はフレイクが目立つ。

時期 M5より古い。遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b式の時期。(大泰司)

H64 (図Ⅲ-1-114・115、-2-72、-3-36、図版44・115・138)



図Ⅲ-1-113 H63平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図

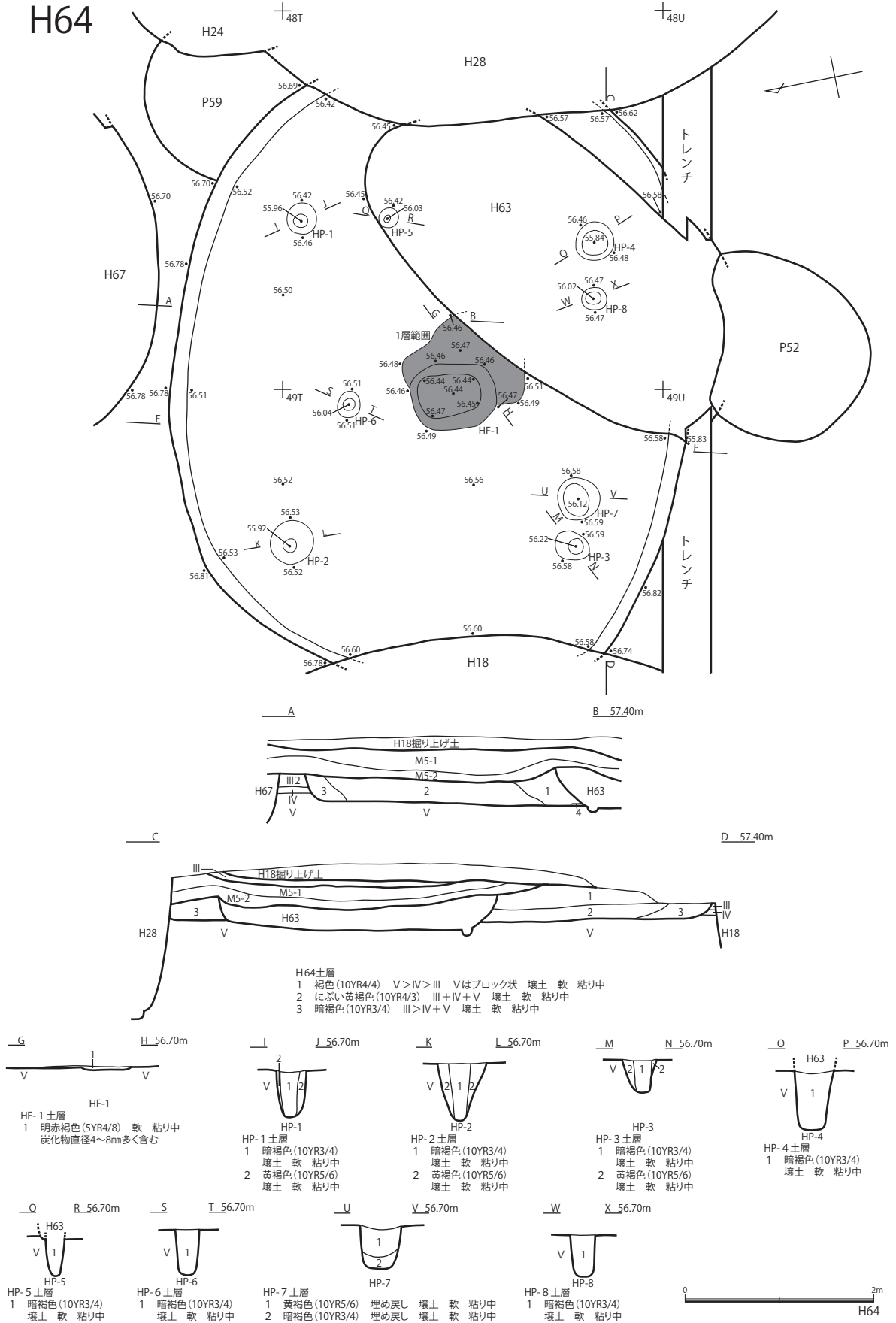
位置・立地 48・49-S~U区 調査区中央の平坦面

確認・調査 H18の掘り上げ土とM5盛土のトレンチ調査中に、断面で検出した。その後、M5盛土を掘り下げると、Ⅲ2層上面で、M5盛土の落ち込みを検出した。当初はH63との切り合い関係が不明瞭であったが、平坦な床面、炉跡、柱穴を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ-2層上面と考える。土層の観察から、M5盛土とH63より古く、P59より新しい。

覆土 自然堆積である。

構造 平面形は隅丸長方形である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

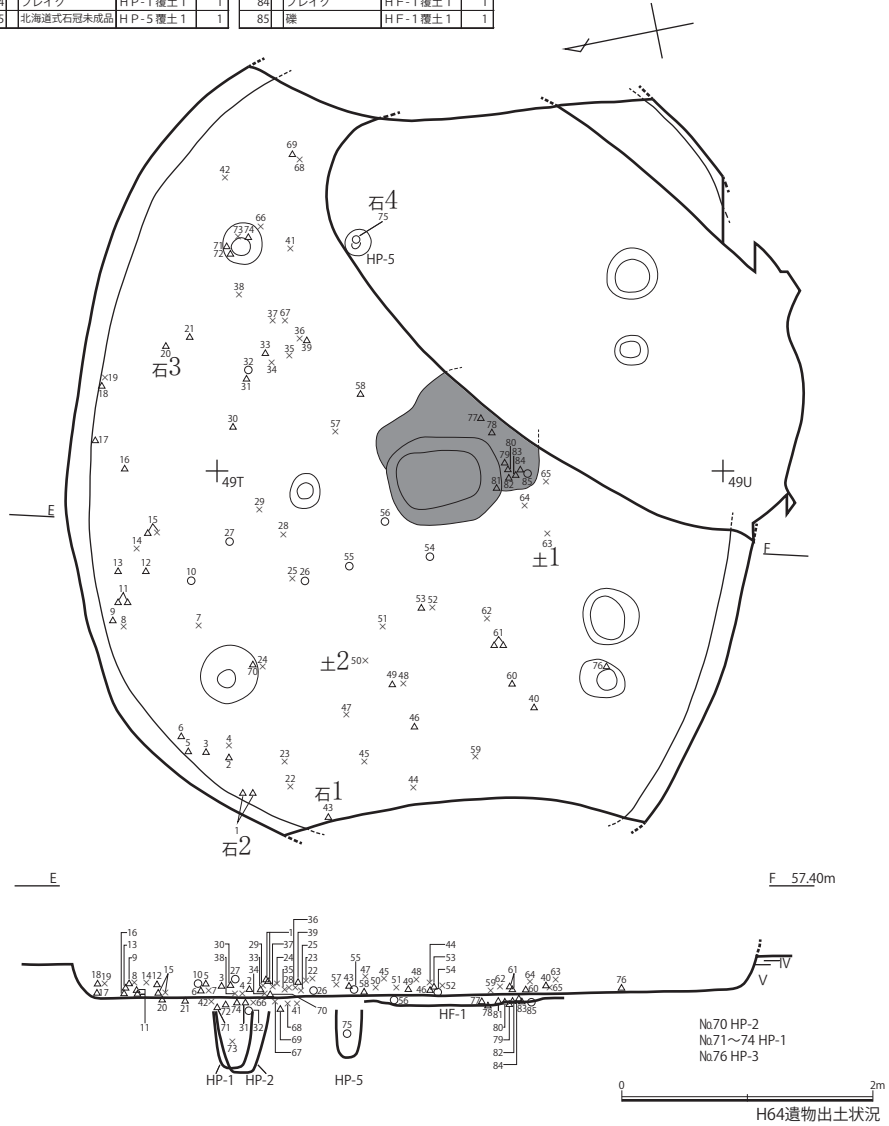
付属遺構 HF-1は隅丸長方形の浅い掘り込みのある地床炉である。HP-1~4・7は支柱穴で、HP-1~3・



図Ⅲ-1-114 H64平面図・土層断面図・付属遺構土層断面図

遺物番号	図番	分類	層位	点数
1		フレイク	床面	8
1	2	スクレイパー	床面	1
2		フレイク	床面	1
3		スクレイパー	床面	1
4		II b	床面	2
5		フレイク	床面	4
6		フレイク	床面	3
7		II b	床面	5
8		II b	床面	2
9		フレイク	床面	1
10		礫	床面	1
11	1	Uフレイク	床面	1
11	2	フレイク	床面	1
12		フレイク	床面	1
13		フレイク	床面	1
14		II b	床面	1
15	1	II b	床面	1
15	2	フレイク	床面	1
16		礫	床面	1
17		フレイク	床面	1
18		フレイク	床面	2
19		II b	床面	1
20		石核	床面	1
21		フレイク	床面	1
22		II b	床面	1
23		II b	床面	5
24		II b	床面	5
25		II b	床面	5
26		被熱礫	床面	1
27		被熱礫	床面	1
28		II b	床面	1
29		II b	床面	1
30		石核	床面	1
31		フレイク	床面	1
32		礫	床面	1
33		フレイク	床面	1
34		II b	床面	4
35		II b	床面	2
36		II b	床面	3
37		II b	床面	1
38		II b	床面	1
39		フレイク	床面	1
40		フレイク	床面	1
41		II b	床面	4
42		II b	床面	3
43		スクレイパー	床面	1
44		II b	床面	1
45		II b	床面	5
46		フレイク	床面	1
47		II b	床面	3
48		II b	床面	7
49		フレイク	床面	1
50		II b	床面	5
51		II b	床面	1
52		II b	床面	9
53		フレイク	床面	1
54		礫	床面	1
55		礫	床面	1
56		たたき石	床面	1
57		II b	床面	1
58		フレイク	床面	1
59		II b	床面	1
60		フレイク	床面	2
61	1	Uフレイク	床面	1
61	2	フレイク	床面	1
62		II b	床面	2
63		II b	床面	3
64		II b	床面	1
65		II b	床面	3

遺物番号	図番	分類	層位	点数
66		II b	床面	3
67		II b	床面	7
68		II b	床面	1
69		フレイク	床面	1
70		フレイク	HP-2 覆土1	1
71		フレイク	HP-1 覆土1	1
72		フレイク	HP-1 覆土1	1
73		II b	HP-1 覆土1	1
74		フレイク	HP-1 覆土1	1
75		北海道式石冠未成品	HP-5 覆土1	1
76		フレイク	HP-3 覆土1	1
77		フレイク	HF-1 覆土1	1
78		フレイク	HF-1 覆土1	1
79		フレイク	HF-1 覆土1	2
80		フレイク	HF-1 覆土1	1
81		フレイク	HF-1 覆土1	1
82		フレイク	HF-1 覆土1	1
83		フレイク	HF-1 覆土1	1
84		フレイク	HF-1 覆土1	1
85		礫	HF-1 覆土1	1

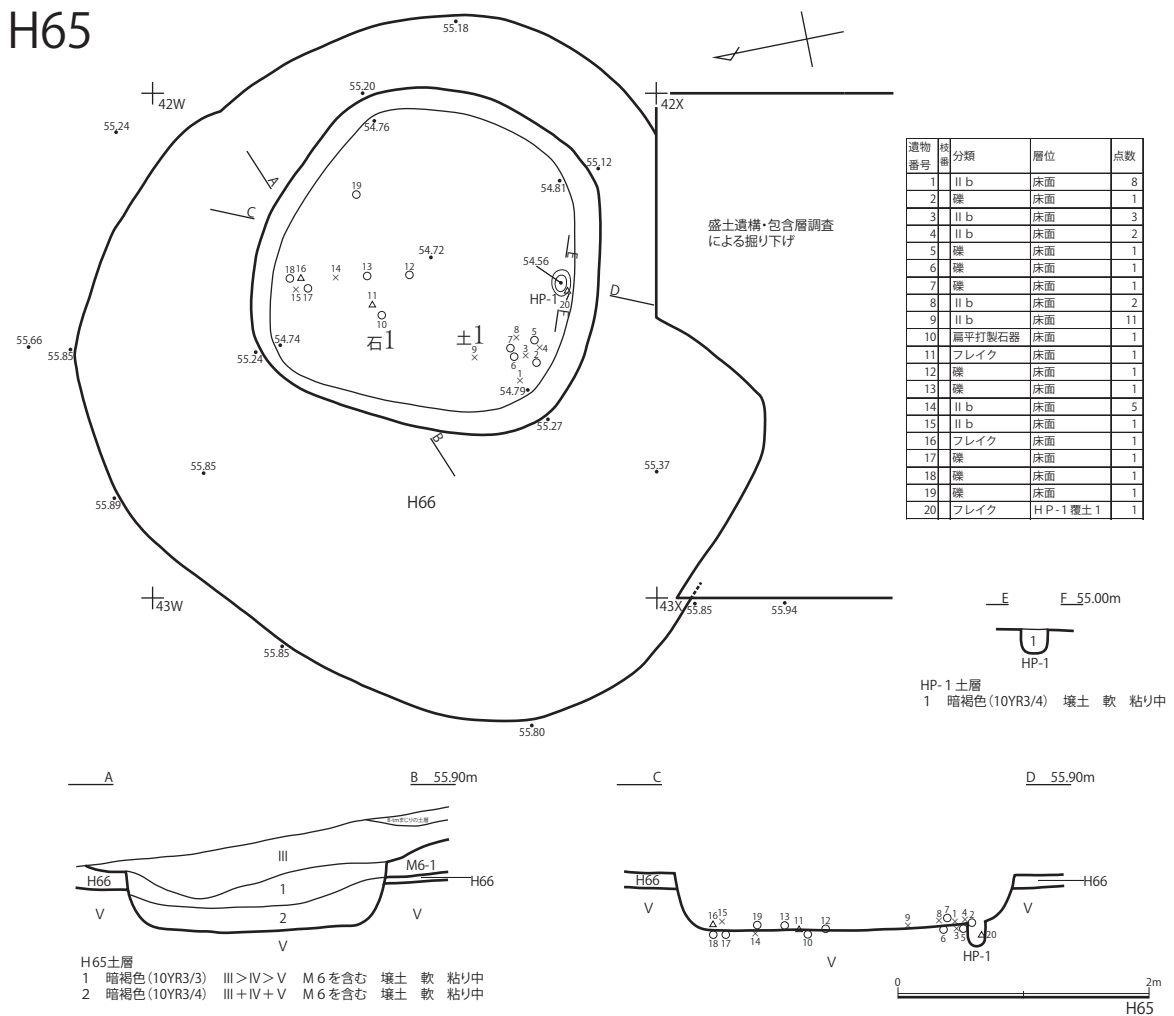


図Ⅲ-1-115 H64遺物出土状況図

7またはHP-1~4の4本柱と考える。HP-1~3は掘りかたがある。HP-7は覆土が埋め戻しであることから、HP-4・7は柱穴を改変した可能性がある。HP-5・6・8は支柱穴の可能性があり、HP-5は先端がやや尖る杭状である。(佐藤)

遺物出土状況 217点の遺物が出土した。土器は、覆土や床面から円筒下層b式が出土する。石器はフレイクが目立つ。

時期 M5より古い、遺物出土状況から縄文時代前期後半円筒下層b式の時期。H64はH63よりも古い。(大泰司)



図Ⅲ-1-116 H65平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図

H65 (図Ⅲ-1-116、-2-72、-3-36、図版45・115・138)

位置・立地 41・42-W 調査区東側の斜面

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、H53~55・66の周辺を精査中に、Ⅲ層の落ち込みを確認した。土層観察用のベルトを設定し掘り進めると、M6盛土の落ち込みを確認した。さらに掘り進めると暗褐色土の落ち込みを検出した。当初はH66との切り合い関係が不明瞭だったが、平坦な床面と柱穴を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。土層観察から、M6盛土とH53・55・66より新しい。

覆土 自然堆積である。

構造 平面形は方形である。床面はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

付属遺構 HP-1は支柱穴で、1本柱と考える。南側の壁近くに位置する。

(佐藤)

遺物出土状況 81点の遺物が出土した。土器は、床面および覆土から円筒下層b式から下層d1式が出土している。しかし磨滅が著しい。石器はフレイク、礫が目立つ。

時期 M6盛土より新しく、H66より新しい。遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層d1式の時期という可能性がある。

(大泰司)

H66 (図Ⅲ-1-117、-2-72、-3-36・37、図版45・115・138・139)

位置・立地 41~43-V~X 調査区東側の斜面

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、H53~55・65の周辺を精査中に、Ⅲ層の落ち込みを確認した。土層観察用のベルトを設定し掘り進めると、M6盛土の落ち込みを確認した。さらに掘り進めると暗褐色土の落ち込みを検出した。当初はH55・65との切り合い関係が不明瞭であったが、平坦な床面と炉跡、柱穴、周溝を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ層下位と考える。土層の観察から、H53・55より新しく、M6-2層とH65より古い。

覆土 自然堆積である。

構造 平面形は隅丸方形である。床面はほぼ平坦で、壁はやや急角度に立ち上がる。

付属遺構 HF-1はほぼ中央に位置する浅い掘り込みのある隅丸方形または隅丸長方形の地床炉である。HP-1~5は支柱穴で、HP-1・2とHP-3・4、HP-5、さらに1本はH65により削平されたと考え、4本柱と考える。HP-1・2とHP-3・4は柱穴を改変した可能性がある。HP-6は浅く小さい先端が尖る杭状の柱穴で、HF-1に伴うと考える。(佐藤)

遺物出土状況 102点の遺物が出土した。土器は、覆土から円筒下層b式のみ出土し、床面からは円筒下層b式から円筒下層d1式が出土している。そのうち円筒下層d1式についてはH65覆土中とM6-1、42Wの土器片と同一個体の可能性が高い。円筒下層d1式の古手は42Yにも類例ある。円筒下層d1式が出土しているが、M6より古いので混在の可能性はある。柱穴覆土から円筒下層b式が出土している。石器は、フレイクが目立つ。次に扁平打製石器が目立つ。

時期 遺物出土状況から縄文時代前期後半、円筒下層b式から円筒下層d1式の直前という可能性がある。(大泰司)

H67 (図Ⅲ-1-118、-2-72、-3-37・38、図版46・116・139・140)

位置・立地 48・49-R・S 調査区中央の平坦面

確認・調査 Ⅲ2層上面を精査中に、M5盛土の落ち込みを検出した。平坦な床面、炉跡、柱穴を確認し、住居跡と判断した。堆積状況から、掘り込み面はⅢ2層上面と考える。土層の観察から、M5盛土より古い。

覆土 自然堆積である。

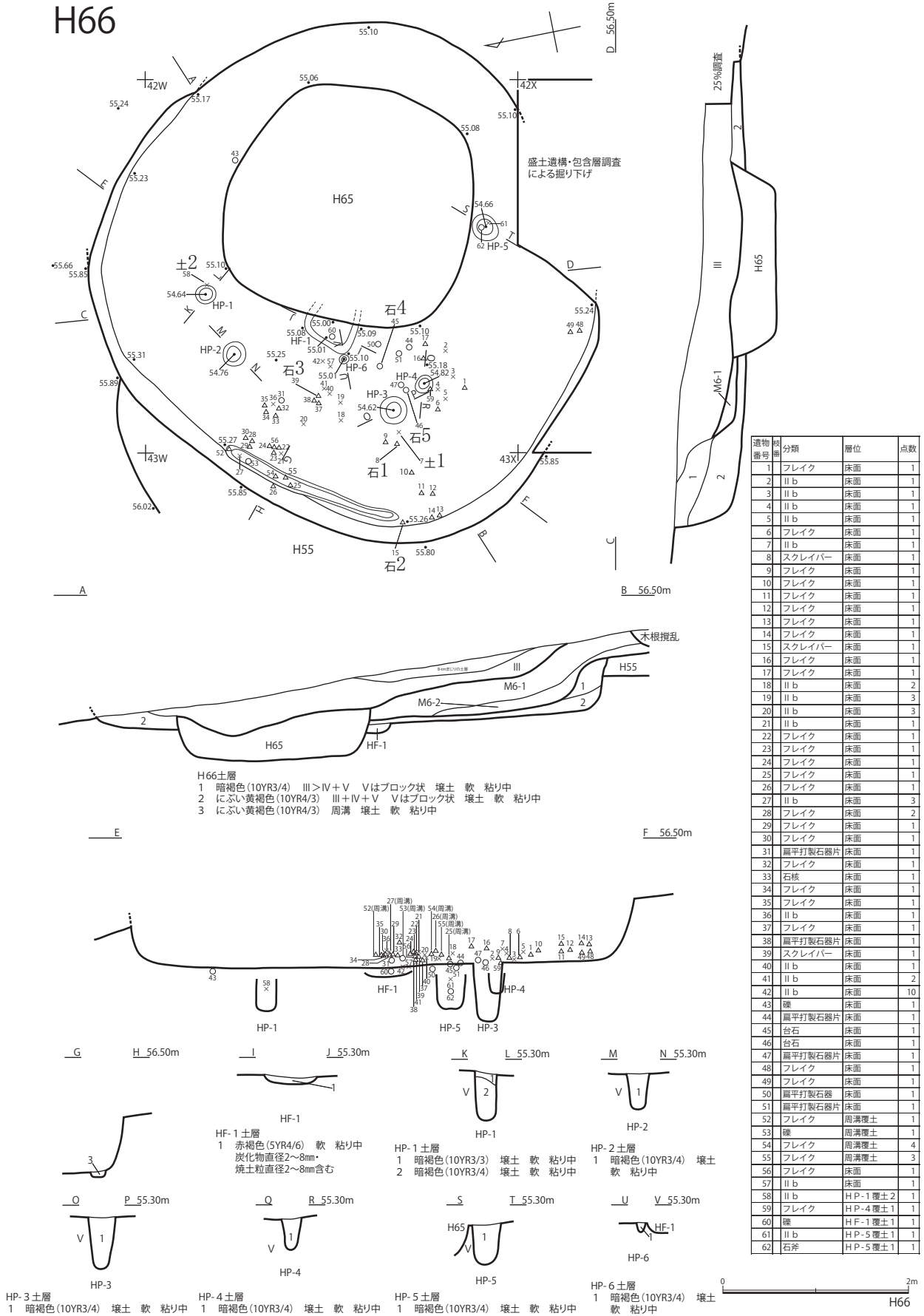
構造 平面形は卵形である。床面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

付属遺構 HF-1は隅丸長方形の浅い掘り込みのある地床炉である。1層は砂質が強く、遺跡内の他の炉跡と異なる。HP-1・2は支柱穴で、2本柱と考える。HP-3は浅いもので、支柱穴または内部施設に伴う柱穴の可能性はある。

遺物出土状況 床面から砥石・点取りNo62(6)と大型の扁平な台石・点取りNo58・64(8・7)とNo63がまとまって出土した。床面から大型の扁平な礫がまとまって出土する状況はH30・52の出土状況と類似する。(佐藤)

252点の遺物が出土した。土器は、床面および付属遺構HP-1から出土した破片が接合し、一個体復元できた。古い要素を持つ円筒下層b2式土器である。石器は、フレイクの出土が目立つ。

時期 M5より古い。床面出土の土器から縄文時代前期後半、円筒下層b2式前半である。(大泰司)



図III-1-117 H66平面図・土層断面図・遺物出土状況図・付属遺構土層断面図

(2) 土 坑

P43 (図Ⅲ-1-119、-3-39、図版47・140)

位置・立地 73-R・S区 標高58.4m付近の平坦面

確認・調査 V層上面で、灰黄褐色土の入り込みとして確認した。その平面形は隅丸方形に近い楕円形をしている。土坑の可能性を認め、長軸に土層観察用の土手を残し、入り込みを掘り下げたところ、坑底面と壁面を検出した。土層断面上半はV層主体の覆土1層、下半はⅢ層起源なのか黒色土混じりの覆土2層である。いずれもV層起源の偽礫が多い部分（それぞれ1層・2層）が混在する。埋め戻された遺構の可能性が高いと判断した。土層観察用土手を掘り下げたところ、17本の石鏃がまとめて出土した。あまりに密に集中していたため、掘りだした際に、一部の石鏃について先端の向きがずれた可能性がある。点取りNo25~28（掲載番号2・6・5・3）は明らかに動いたため図化せずそのまま取り上げたものである。ただし、現場での観察では、仮に動かなかつたとしても、先端の向きが、もともと不揃いであった可能性が高い。形態・規模から判断して土坑墓と推定した。覆土上部から散点的に11点の遺物が出土した。そのうち、覆土1層（覆土上半）から円筒下層b式から下層c式の破片が出土した。同一個体のまとまりは無い。合計で29点の遺物が出土した。まとめて出土した石鏃は覆土2層最下位からの出土であり、土坑底面に相当すると考える。他は流入の可能性はある。平面形は楕円形である。

時 期 遺構の確認状況と、周辺の出土遺物から判断するならば、縄文時代前期後半～中期前葉の可能性はある。縄文時代前期後半青森市石江遺跡、秋田県大館市池内遺跡において類似した遺構が検出されている。石鏃がまとめて収められており、墓の可能性があるとされている。覆土の状況から当該遺構もその可能性が高い。類例を踏まえると、円筒下層b2式から下層c式の時期である。（大泰司）

P44 (図Ⅲ-1-119、図版47)

位置・立地 47S 調査区北東側の緩斜面

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、にぶい黄褐色土の落ち込みを検出した。平面形は楕円形である。坑底は平坦面があり、中央がさらに円形の土坑状に落ち込む。壁はなだらかに立ち上がる。土層の観察からH24より新しい。

覆 土 覆土は埋め戻しと考える。（佐藤）

遺物出土状況 20点の遺物が出土した。土器については、覆土2層と3層から円筒下層b式が出土。同一個体のまとまりは無い。石器はフレイクが目立つ。扁平打製石器の出土がある。

時 期 遺物出土状況から、少なくとも円筒下層b式以後の遺構である。中期前半の住居より新しいため、縄文時代中期前葉以降の土坑である。（大泰司）

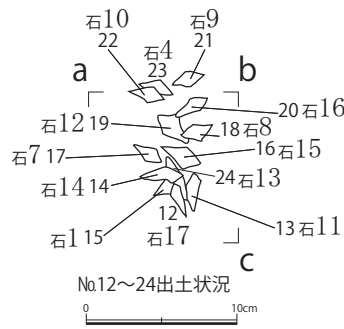
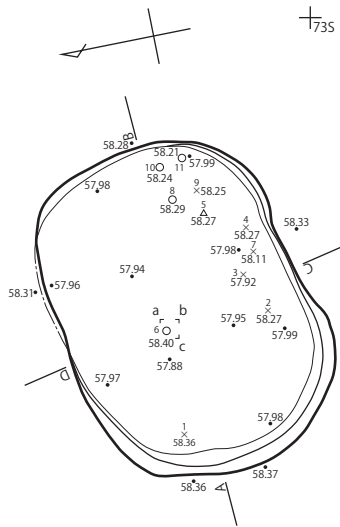
P45 (図Ⅲ-1-120、-2-73、図版47・116)

位置・立地 63-R・S区 標高59.1m付近のM2盛土下でH29覆土中

確認・調査 M2盛土層を掘り下げ、H29の平面形が明瞭となる面を検出した。するとH29覆土とした範囲内に楕円形をした、ややしまりのあるにぶい黄褐色土の入り込みを検出した。短軸北側を半截したところしまった坑底とそれに連続する壁面を検出した。完掘し、底面・壁面ともに明瞭な土坑と判断した。平面形は楕円形である。用途は不明である。

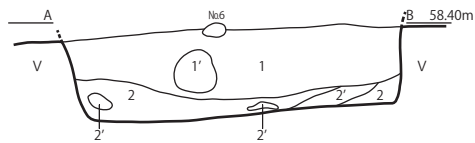
覆 土 覆土中の遺物は流入と考えられる。また土坑底面西側部分は堅く締まっている。覆土はV層起源であるが、覆土にしまりはなく、盛土中からの掘り込みで、盛土由来の土が流入した覆土と考える。

P43



遺物No.1~11 覆土1
 遺物No.12~28 覆土2 だが、限りなく土坑底面に近い
 遺物No.25~28は12~23の直上 図示せず
 No.25は石2, No.26は石6, No.27は石5, No.28は石3
 No.12~15は57.961m
 No.16~19は57.962m
 No.20~23は57.969m

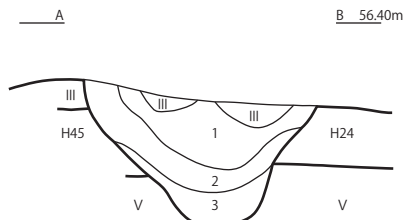
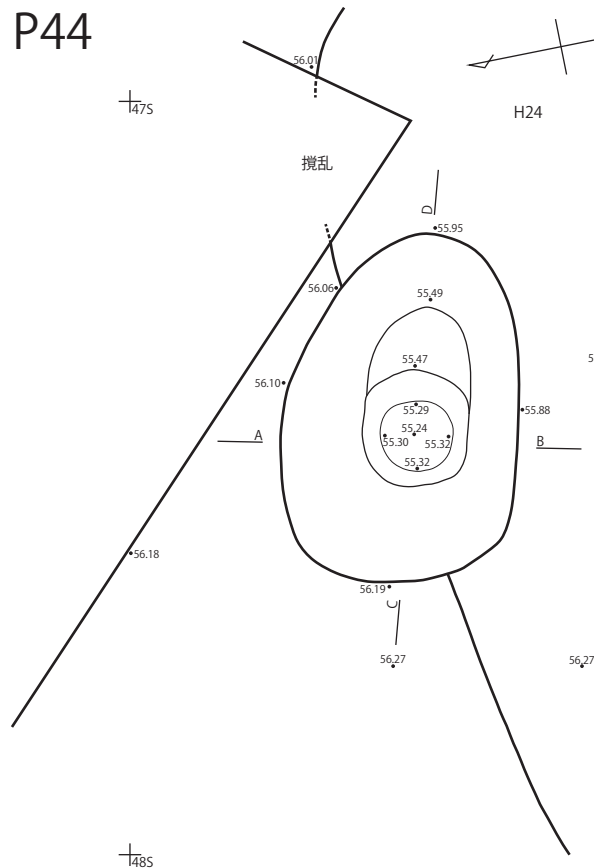
遺物番号	分類	層位	点数
1	II b	覆土1	1
2	II b	覆土1	1
3	II b	覆土1	1
4	II b	覆土1	1
5	フレイク	覆土1	1
6	礫	覆土1	1
7	II b	覆土1	2
8	被熱礫片	覆土1	1
9	II b	覆土1	1
10	礫	覆土1	1
11	砥石	覆土1	1
12	石礫	覆土2	1
13	石礫	覆土2	1
14	石礫	覆土2	1
15	石礫	覆土2	1
16	石礫	覆土2	1
17	石礫	覆土2	1
18	石礫	覆土2	1
19	石礫	覆土2	1
20	石礫	覆土2	1
21	石礫	覆土2	1
22	石礫	覆土2	1
23	石礫	覆土2	1
24	石礫	覆土2	1
25	石礫	覆土2	1
26	石礫	覆土2	1
27	石礫	覆土2	1
28	石礫	覆土2	1



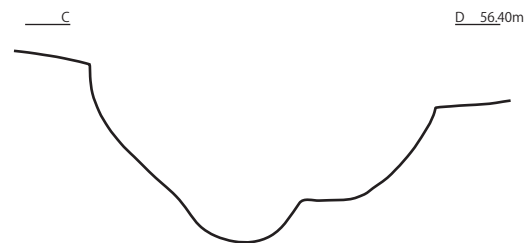
P43土層
 1 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりなし ややねばる 粒径1~3cmのロームブロック斑状に5%混じる
 1' 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりなし ややねばる 粒径1~3cmのロームブロック斑状に20%混じる
 2 褐灰色土(10YR4/1) III主体の土 黒褐色土10YR3/1が混在する 粒径1~3cmのロームブロック斑状に5%混じる
 2' 褐灰色土(10YR4/1) III主体の土 黒褐色土10YR3/1が混在する 粒径1~3cmのロームブロック斑状に40%混じる

0 2m
P43平面図断面図

P44



P44土層(III中位)
 1 にぶい黄褐色(10YR5/4) V>III>IV 壤土 堅 粘り中
 2 黒褐色(10YR2/3) III>IV+V 壤土 軟 粘り中
 3 暗褐色(10YR3/3) III 壤土 軟 粘り中



0 2m
P44平面図断面図

図Ⅲ-1-119 P43平面図・土層断面図・遺物出土状況図・P44平面図・土層断面図

遺物出土状況 87点の遺物が出土した。土器は、流入と思われる覆土から、円筒下層b式と円筒下層d2式が出土する。同一個体のまとまりは無い。円筒下層d2式の破片には木目状撚糸文風の単軸絡条体第一類と多軸絡条体を組合せた個体や、単軸絡条体第四類のものが含まれる。今回調査範囲内で、単軸絡条体第四類地紋の個体について、口縁から底部まで一個体分の復元に至るものは無かった。石器はフレイクの出土が目立ち、礫、スクレイパーなども出土している。

時期 H29より新しく、また遺物出土状況から判断するならば、縄文時代前期後半、円筒下層d2式以降の時期と考える。(大泰司)

P46 (図Ⅲ-1-120)

位置・立地 53V区 標高57m付近の平坦面

確認・調査 H23の壁面で確認した。この面を土層断面として設定し調査を行なった。坑底は丸く、壁は急に立ちあがる。性格は不明。平面形は円形である。

覆土 Ⅲ層とM2盛土層の流入土を主体とする、自然堆積層である。

遺物出土状況 坑底付近から、砂岩製の円礫が1点出土している。(村田)

土器の出土は無い。

時期 遺構の検出状況から、縄文時代前期後半、Ⅱ群b類土器の時期である。H23より新しいことから、円筒下層c式あるいは下層d1式より新しい。(大泰司)

P47 (図Ⅲ-1-120、-2-73、図版48・116)

位置・立地 36U区 調査区東側の斜面

確認・調査 遺構確認範囲のV層上面を精査中に、暗褐色土の落ち込みを検出した。

平面形は楕円形である。坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

覆土 覆土は埋め戻しである。(佐藤)

遺物出土状況 49点の遺物が出土した。遺物は覆土2層を中心に出土した。土器は覆土2層から円筒上層d式土器破片が出土した。胎土等からこれらの破片はほとんどが同一個体由来のものと考えた。まとまった出土は無く、もとの器形がわからない状態であった。接合したが、復元には至らなかった。石器は礫、スクレイパーが出土した。

時期 遺物出土状況から、縄文時代中期前半、円筒上層d式の時期の土坑と考える。(大泰司)

P48 (図Ⅲ-1-121、図版48)

位置・立地 51V区 標高57m付近の平坦面

確認・調査 盛土層調査後に遺構確認調査を行い、V層上面で確認した。長軸方向で半割し掘り下げた。覆土の堆積と断面の形態から遺構と判断した。坑底は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。性格は不明。平面形は不整である。

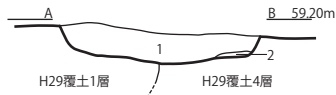
覆土 Ⅲ層とV層を主体とする、自然堆積層である。

遺物出土状況 覆土から、砥石や石皿などが出土している。(村田)

28点の遺物が出土した。覆土から円筒下層d1式が出土している。同一個体のまとまりは無い。

時期 遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層d1式以降の可能性はある。(大泰司)

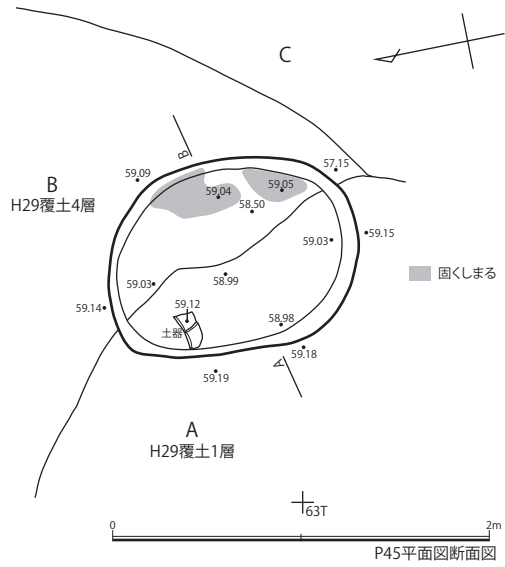
P45



P45土層

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/4) ややしまる
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) かたくしまる

- A にぶい黄褐色土(10YR7/4) H29覆土1~2相当 固くしまる M2に相当する
- B 黒褐色土(10YR2/3) H29覆土4相当 底面はしまるか壁面はしまっていない
- C にぶい黄褐色土(10YR4/3) 住居(H29)への廃棄を主体とした土だがややぐすんでいる



†63S

C

B
H29覆土4層

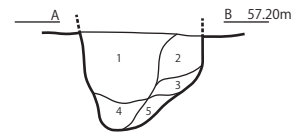
A
H29覆土1層

■ 固くしまる

P45平面図断面図

P46

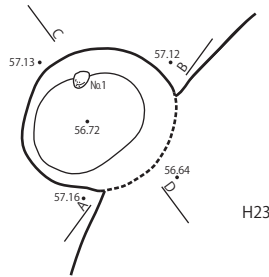
†53U



P46土層

- 1 暗褐色土(10YR3/3) III+IV+V Vはロームブロック
- 2 黒褐色土(10YR2/2) III>IV 崩落
- 3 褐色土(10YR4/4) IVの崩落
- 4 黄褐色土(10YR5/6) V+IV しまりなし
- 5 にぶい黄褐色土(10YR4/3) III+IV もろい

P46遺物
No1 碟



H23

D 57.20m

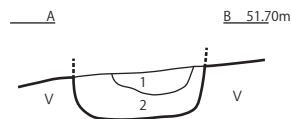
P46平面図断面図

遺物番号	検出層	分類	層位	点数
1	碟	底面	1	1

P47

51.31

51.31

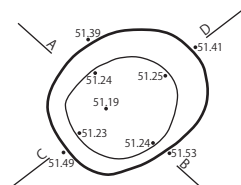


P47土層(V上面)

- 1 暗褐色(10YR3/4) III>IV+V 埋め戻し 壤土 軟 粘り中
- 2 にぶい黄褐色(10YR4/3) III+IV+V 埋め戻し 壤土 堅 粘り中

51.45

51.93



†37U

D 51.70m

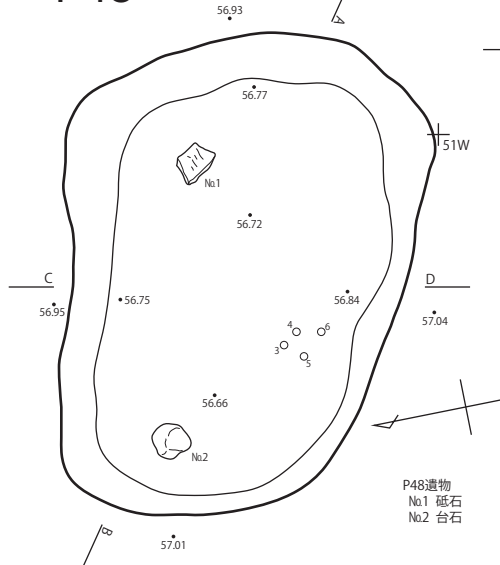
P47平面図断面図

遺物番号	検出層	分類	層位	点数
1	III a	覆土2	4	
2	III a	覆土2	2	
3	III a	覆土2	3	
4	III a	覆土2	1	
5	III a	覆土2	3	
6	III a	覆土2	1	
7	III a	覆土2	1	
8	III a	覆土2	1	
9	III a	覆土2	3	
10	III a	覆土2	4	
11	III a	覆土2	1	
12	スクレイパー	覆土2	1	
13	碟	覆土2	1	
14	III a	覆土2	5	
15	III a	覆土2	1	
16	碟	覆土2	1	
17	III a	覆土2	2	
18	III a	覆土2	4	
19	III a	覆土2	9	
20	III a	覆土2	1	

1~20まではすべて同一個体の土器 土1

図Ⅲ-1-120 P45平面図・土層断面図・P46平面図・土層断面図・P47平面図・土層断面図・遺物出土状況

P48



P48土層
1 暗褐色土(10YR3/3) III+V Vはローム下の砂利層が少量混じる しまりあり



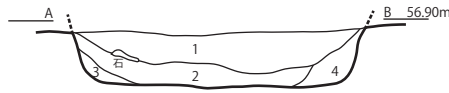
遺物番号	図番	分類	層位	点数
1		磁石	覆土	1
2		台石	覆土	1
3		鏝	覆土	1
4		鏝	覆土	1
5		鏝	覆土	1
6		鏝	覆土	1

P48遺物
No.1 磁石
No.2 台石



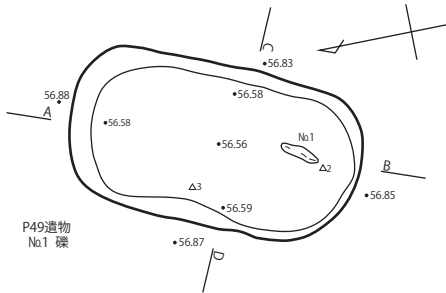
P49

51X



P49土層
1 暗褐色土(10YR3/4) III+IV しまりあり かたい
2 にふい黄褐色土(10YR4/3) IV>III+V Vはロームブロック 硬い
3 褐色土(10YR4/4) III+IV IVは崩落
4 褐色土(10YR4/6) IV>III 硬い 粒子細かい

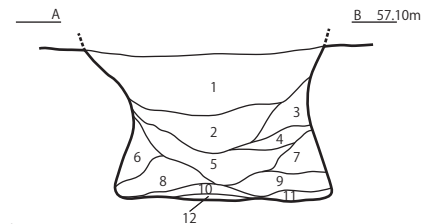
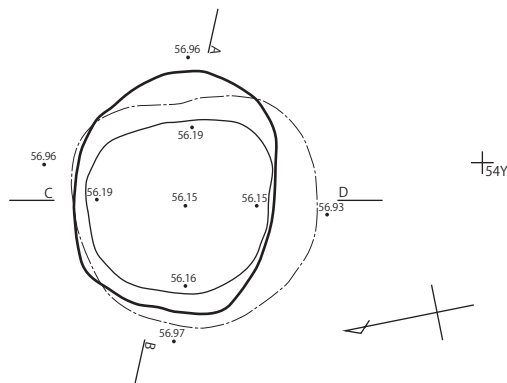
遺物番号	図番	分類	層位	点数
1		鏝	覆土	1
2		フレイク	覆土	1
3		つまみ付きナイフ	覆土	1



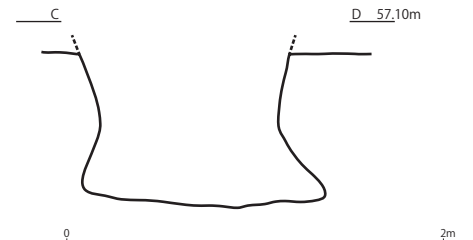
P49遺物
No.1 鏝



P50



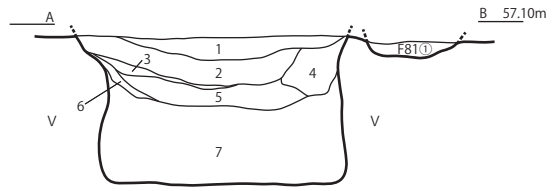
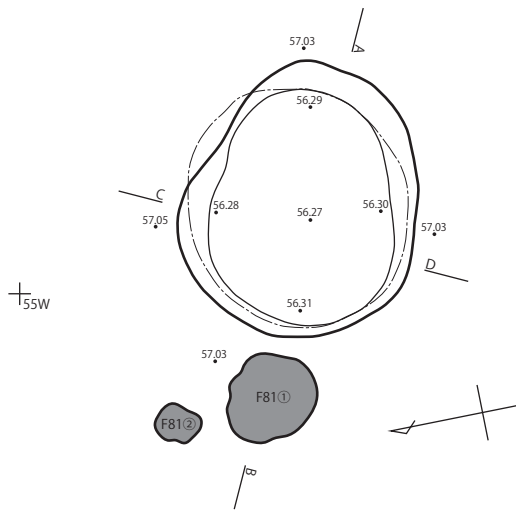
P50土層
1 暗褐色土(10YR3/3) III+IV 細かい
2 褐色土(7.5YR4/3) IV>>III+M2 盛土 炭化物少量混じる
3 褐色土(7.5YR4/3) IV>III+V 径10mm程のロームブロック少量混じる
4 暗褐色土(10YR3/3) III>IV+V
5 褐色土(10YR4/6) V>III+IV+M2 盛土 Vは径2~3cmのロームブロック
6 褐色土(7.5YR4/4) III+IV+V ほそほそ
7 明褐色土(7.5YR4/4) Vの崩落
8 明褐色土(7.5YR4/4) ≈7 Vの崩落
9 褐色土(7.5YR4/4) IV+V>III ほそほそ
10 黒褐色土(10YR2/3) III>IV しまりなし
11 暗褐色土(10YR3/3) ≈10 ほとんどIII
12 黄褐色土(10YR5/6) V>>III しまりあり



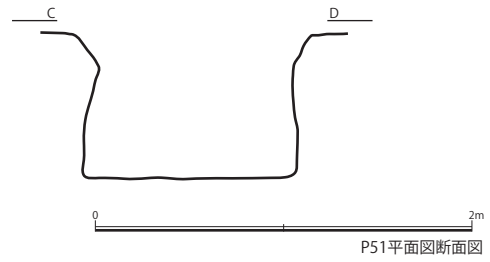
P50平面図断面図

図III-1-121 P48平面図・土層断面図・遺物出土状況図・P49平面図・土層断面図・遺物出土状況図・P50平面図・土層断面図

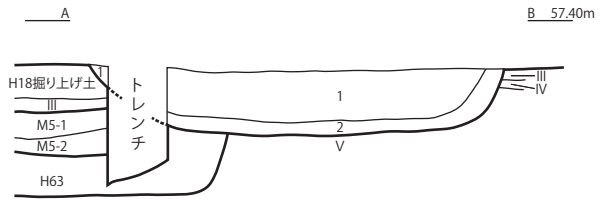
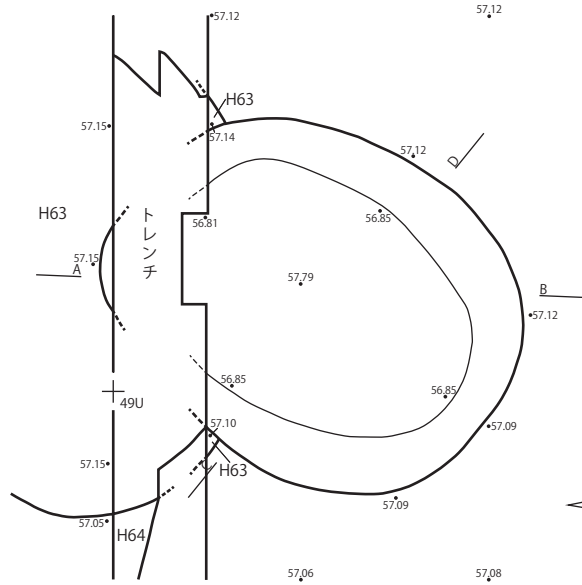
P51



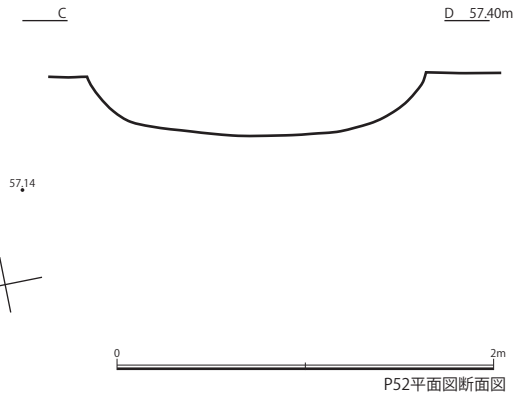
- P51土層
- 1 暗褐色土(10YR3/3) III>IV 粒子細かい
 - 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) IV>III 粒子細かい
 - 3 暗褐色土(10YR3/4) III>IV+V Vは径1cm程のロームブロック少量混じる
 - 4 黄褐色土(10YR5/6) IV+V 主にVの崩落
 - 5 黄褐色土(10YR5/6) ≒2 2にVのロームブロック混じる
 - 6 暗褐色土(10YR3/4) ≒3 3よりIIIが少し多い
 - 7 褐色土(7.5YR4/4) III+IV+M2盛土>V 炭化物少量混じる Vのロームブロック微量に混じる



P52



- P52土層(III中~上位)
- 1 にぶい黄褐色(10YR5/4) III+IV+V 壤土 堅 粘り中
 - 2 暗褐色(10YR3/4) III>IV+V 壤土 軟 粘り中



図Ⅲ-1-122 P51とF81平面図・土層断面図・P52平面図・土層断面図

P49 (図Ⅲ-1-121、図版48)

位置・立地 51X区 標高57m付近の平坦面

確認・調査 盛土層調査後に遺構確認調査を行い、V層上面で確認した。長軸方向で半割し掘り下げた。覆土の堆積と断面の形態から遺構と判断した。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。性格は不明。平面形は長方形である。

覆土 Ⅲ層・Ⅳ層を主体とする自然堆積層である。一部、V層がブロック状に混入している。

遺物出土状況 覆土中から、つまみ付ナイフ、スクレイパーなどの剥片石器が出土した。(村田)

43点の遺物が出土した。覆土から円筒下層c式土器片が出土している。同一個体のまとまりは無い。

時期 遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層c式以降の土坑の可能性がある。(大泰司)

P50 (図Ⅲ-1-121、図版49)

位置・立地 53・54-W区 標高57m付近の平坦面

確認・調査 盛土層調査後に遺構確認調査を行い、V層上面で確認した長軸方向で半割し掘り下げた。覆土の堆積と断面の形態から遺構と判断した。坑底は平坦で、壁はオーバーハングしている。遺構の形態から貯蔵穴と考えられる。平面形は円形である。

覆土 坑底付近はⅢ層を主体とする黒色土が堆積している。中層はⅢ層・Ⅳ層の流入土とオーバーハング部の崩落土であるV層が互層となる部分が見られた。上層はⅢ層・Ⅳ層とM2盛土層の褐色土が少量混じって堆積している。

遺物出土状況 安山岩製の石鋸、頁岩製の両面調整石器やスクレイパーなどの剥片石器類が覆土上部から出土している。大半はM2盛土層の流入土からの出土である。(村田)

80点の遺物が出土した。覆土から円筒下層b式土器片が出土している。同一個体のまとまりは無い。

時期 遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b式以降の土坑の可能性がある。(大泰司)

P51 (図Ⅲ-1-122、-3-39、図版49・140)

位置・立地 54・55-W区 標高57m付近の平坦面

確認・調査 盛土層調査後に遺構確認調査を行い、V層上面で確認した長軸方向で半割し掘り下げた。覆土の堆積と断面の形態から遺構と判断した。坑底は平坦である。壁はややオーバーハングしているが、土層にV層の崩落土がほとんど見られないため、断面形はフラスコ型より円筒型に近い。性格は形態から貯蔵穴と考えられる。西側の坑口部付近に焼土が二か所検出された。F81である。この土坑とほぼ同時期のものと考えられる。平面形は円形である。

覆土 坑底から土坑の中位までは、Ⅲ・Ⅳ層とM2盛土層が混じった褐色土が堆積している。自然堆積と考えられるが、土質がほぼ均質なため比較的短時間で堆積したものと考えられる。

遺物出土状況 覆土から石錐、石斧などの石器類が少量出土した。(村田)

135点の遺物が出土した。覆土から円筒下層b式土器片が出土している。同一個体のまとまりは無い。新段階のものも含まれる。

時期 遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b式以降の土坑の可能性がある。(大泰司)

P52 (図Ⅲ-1-122、図版49)

位置・立地 48・49-T・U区 調査区中央の平坦面

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、にぶい黄褐色土の落ち込みを検出した。平面形は楕

円形である。坑底は平坦で壁はなだらかに立ち上がる。M5(円筒下層b式新段階)やH18の掘り上げ土(円筒下層d2式)を切っている。よってH18よりは新しい。

覆土 覆土は埋め戻しと考える。当初、覆土1層はH28の掘り上げ土の可能性もあった。しかし、H28が円筒下層c式の時期の住居と判断された。円筒下層d2式の住居・H18の掘り上げ土を切っていることからその可能性は無くなった。(佐藤)

遺物出土状況 171点の遺物が出土した。土器は、覆土から円筒下層b式が出土している。同一個体のまとまりは無い。新段階のものも含まれる。石器はフレイクの出土が目立つ。

時期 遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b式以降の土坑という可能性があった。周辺の遺構との新旧関係から円筒下層d2式以降の土坑である。(大泰司)

P53(図Ⅲ-1-123、図版50)

位置・立地 47X区 調査区中央の平坦面

確認・調査 H27の壁近くを調査中に暗褐色土の落ち込みを検出した。平面形は円形である。坑底は平坦で壁はオーバーハングするフラスコ状である。土層の観察からH27より古い。

覆土 覆土は自然堆積である。(佐藤)

遺物出土状況 36点の遺物が出土した。土器は、覆土から円筒下層b式が出土している。同一個体のまとまりは無い。新段階のものも含まれる。円筒下層b式以降の土坑という可能性がある。覆土から円筒下層b式が出土している。同一個体のまとまりは無い。新し手のものも含まれる。石器はフレイクの出土が目立つ。

時期 H27(円筒下層c式)の時期より古い。周辺遺構との新旧関係と遺物出土状況から 縄文時代前期後半、円筒下層b式以降で、円筒下層c式以前の土坑という可能性がある。(大泰司)

P54(図Ⅲ-1-123、-2-74、カラー図版2、図版50・116・117)

位置・立地 81・82-Q区

確認・調査 V層上面で長円形の落ち込みを確認したので、東西の長軸方向にセクションベルトを設定して覆土を掘り下げた。底面近くで土器一個体が出土したのでそれを残しながら底面まで掘り下げた。土層断面を実測後、セクションベルトの除去と底面の精査を行い調査を終了した。平面形は隅丸長方形、軸の方向は、東-西である。重複はない。

覆土 1~9層に分層した。覆土は人為的な埋め戻し土ではなく、ほとんど自然堆積によるものと考えられる。1層は付近の包含層でも確認されている中期前葉の盛土的土層と考える。

壁面 立ち上がりは急である。

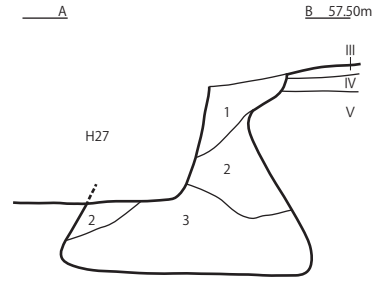
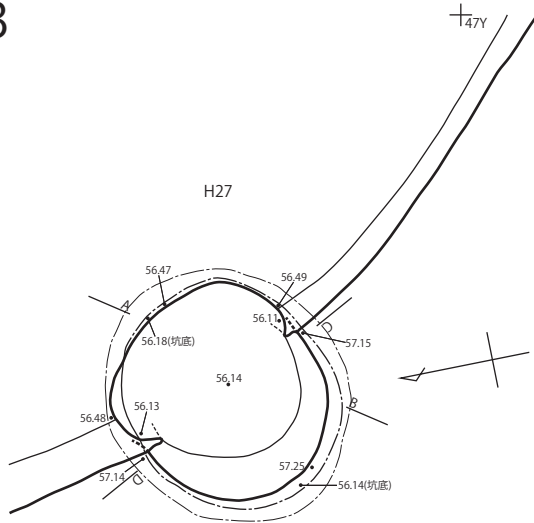
底面 ほぼ平坦である。

付属ピット 溝状遺構1条とピット2基(PP-1・2)がある。溝状遺構は遺構の長軸方向と同じく底面中央から西側の壁面下端まで掘られている。大きさは長さ1.3m、幅12cm、深さ1.6~9.0cmで、東端から約13cmのところ長円形のピットが1基ある(PP-2)。規模は径34cm、深さ21cmである。また、南東端の壁際から長円形のピットが1基検出されている(PP-1)。大きさは径48×41cm、深さは底面から約27cmである。

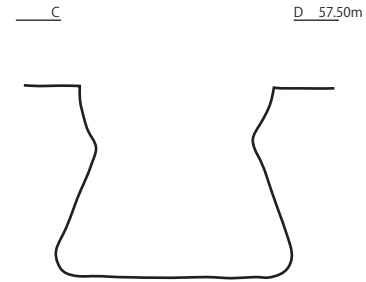
遺物出土状況 底面中央のPP-2上面では土器一個体が口縁部を北東に向け横倒しの状態で出土した。(佐川)

273点の遺物が出土した。土坑底面の土器は円筒下層b2式古段階と考える。石器は礫一点を除いて、

P53

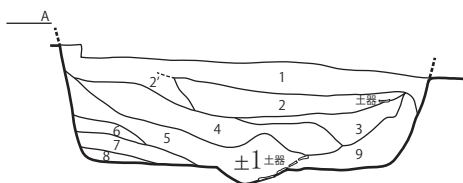
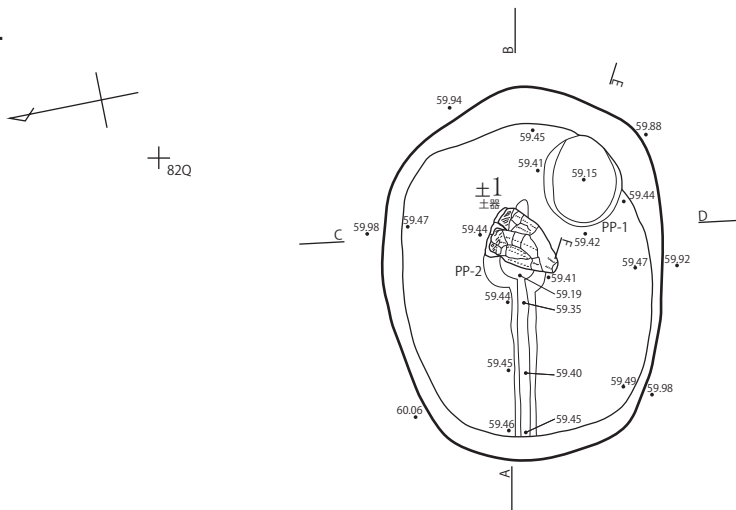


- P53土層(III中位~下位)
- 1 暗褐色(10YR3/4) III>IV+V 埋め戻し 壤土 軟 粘り中
 - 2 極暗赤褐色(5YR2/4) 埋め戻し 壤土 軟 粘り中 焼土粒直径2~6mm微量含む
 - 3 暗赤褐色(5YR3/6) 埋め戻し 壤土 軟 粘り中 焼土粒直径2~10mm多く含む

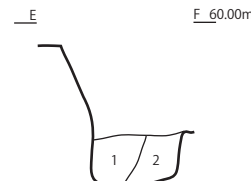
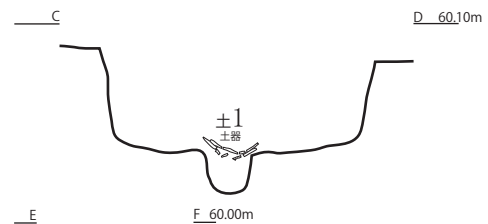


0 2m
P53平面図断面図

P54



- P54土層
- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 堅 均質な層
 - 2 黒褐色土(10YR2/3) 堅
 - 2' にぶい黄褐色土(10YR4/3) 2との層界は不明瞭
ロームB(最大15mm)少量
 - 3 黒褐色土(10YR2/2) 堅 ローム微量
 - 8より明るく 9より若干明るい
 - 4 暗褐色土(10YR3/4) 軟
ロームB(最大25mm)多い
 - 5 黒褐色土(10YR3/1) 軟 6より明るい
ロームB少量
 - 6 黒褐色土(10YR2/3) 軟 2より若干暗い
8・9と同じ色調
 - 7 褐色土(10YR4/4) 軟
 - 8 黒褐色土(10YR2/2) 軟
 - 9 黒褐色土(10YR2/2) 堅 3と同じ色調
ロームB少量

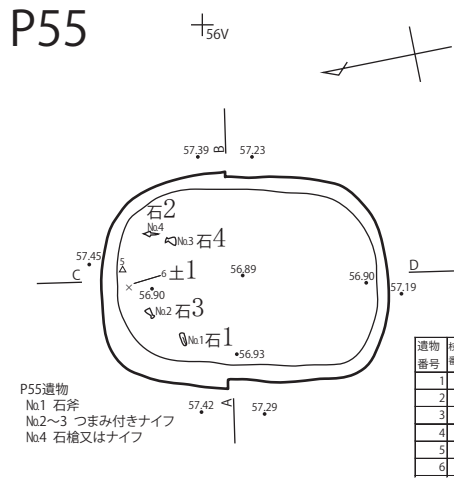


- P54底面小ピット土層
- 1 黒褐色土(7.5YR3/2) 軟 炭化物少量
ロームB(最大20mm)を含む
 - 2 黒褐色土(7.5YR3/2) 軟
白っぽい粘土(10YR5/6)とロームB(最大20mm)を含む

0 2m
P54平面図断面図

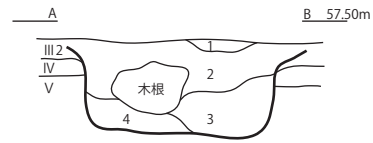
図III-1-123 P53平面図・土層断面図・P54平面図・土層断面図・遺物出土状況図

P55



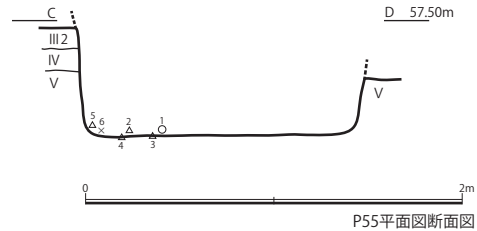
P55遺物
 No.1 石斧
 No.2~3 つまみ付きナイフ
 No.4 石槍又はナイフ

遺物番号	検出	分類	層位	点数
1		石斧	底面	1
2		つまみ付きナイフ	底面	1
3		つまみ付きナイフ	底面	1
4		石槍又はナイフ	底面	1
5		フレイク	底面	1
6		II b	底面	80



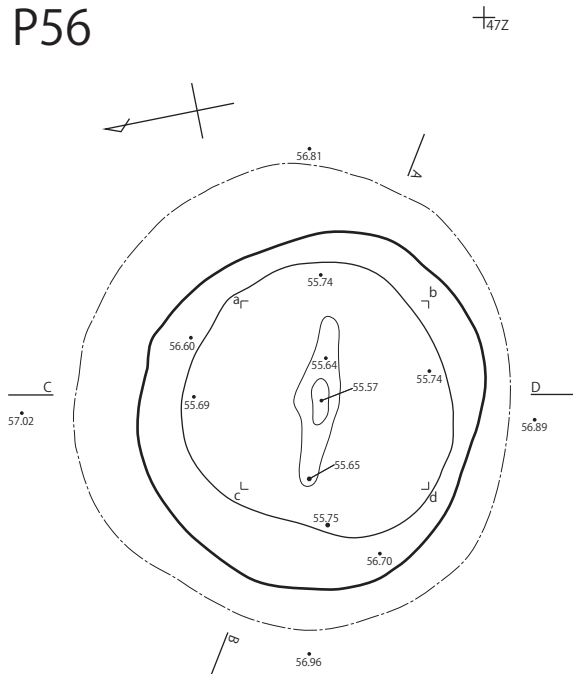
P55土層

- 1 褐色土(10YR4/6) IV+V しまりあり 周辺堅穴の掘上げ土
- 2 黒褐色土(10YR2/3) III 2 主体 V少量含む 径1cmのブロック状 埋め戻し
- 3 暗褐色土(10YR3/3) III 2+IV+V 埋め戻し
- 4 暗褐色土(10YR4/3) III 2+IV+V Vはブロック状 埋め戻し

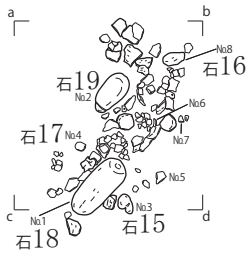


P55平面図断面図

P56



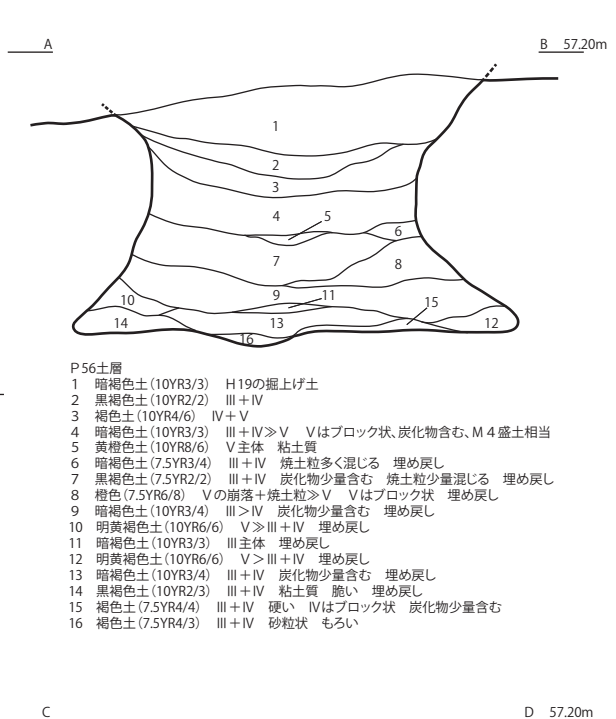
57.02



遺物番号	検出	分類	層位	点数
1		叩打痕のある礫	底面	1
2		叩打痕のある礫	底面	1
3		たたき石	底面	1
4		スクレイパー	底面	1
5		Uフレイク	底面	1
6		たたき石	底面	1
7		スクレイパー片	底面	1
8		扁平打製石器	底面	1
9		II b	底面	327
10		II b	底面	249

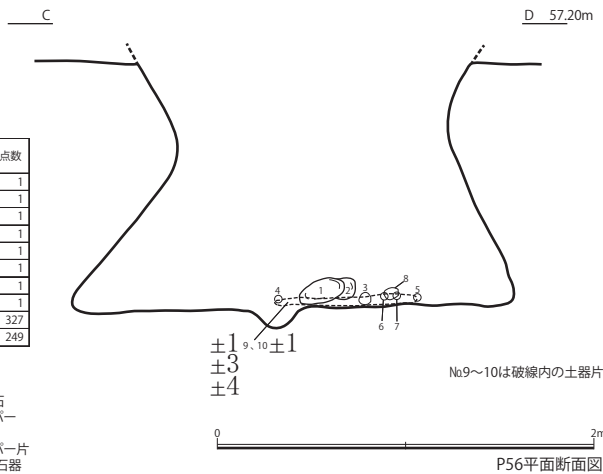
P56遺物

- No.1,2 礫
- No.3,6 たたき石
- No.4 スクレイパー
- No.5 Uフレイク
- No.7 スクレイパー片
- No.8 扁平打製石器



P56土層

- 1 暗褐色土(10YR3/3) H19の掘上げ土
- 2 黒褐色土(10YR2/2) III+IV
- 3 褐色土(10YR4/6) IV+V
- 4 暗褐色土(10YR3/3) III+IV>>V Vはブロック状、炭化物含む、M4盛土相当
- 5 黄褐色土(10YR8/6) V主体 粘土質
- 6 暗褐色土(7.5YR3/4) III+IV 粘土粒多く混じる 埋め戻し
- 7 黒褐色土(7.5YR2/2) III+IV 炭化物少量含む 粘土粒少量混じる 埋め戻し
- 8 褐色土(7.5YR6/8) Vの崩落+焼土粒>>V Vはブロック状 埋め戻し
- 9 暗褐色土(10YR3/4) III>IV 炭化物少量含む 埋め戻し
- 10 明黄褐色土(10YR6/6) V>III+IV 埋め戻し
- 11 暗褐色土(10YR3/3) III主体 埋め戻し
- 12 明黄褐色土(10YR6/6) V>III+IV 埋め戻し
- 13 暗褐色土(10YR3/4) III+IV 炭化物少量含む 埋め戻し
- 14 黒褐色土(10YR2/3) III+IV 粘土質 脆い 埋め戻し
- 15 褐色土(7.5YR4/4) III+IV 硬い IVはブロック状 炭化物少量含む
- 16 褐色土(7.5YR4/3) III+IV 砂粒状 もろい



P56平面断面図

図Ⅲ-1-124 P55平面図・土層断面図・遺物出土状況図・P56平面図・土層断面図・遺物出土状況図

覆土からの出土である。フレイクと礫、たたき石の出土が目立つ。 (大泰司)

時期 底面出土の土器の時期と考える。縄文時代前期後半、円筒下層b2式の時期。 (佐川)

P55 (図Ⅲ-1-124、-2-74、-3-39、図版50・117・140)

位置・立地 56-U・V区 標高57.2m付近の平坦面

確認・調査 盛土層調査後に遺構確認調査を行い、V層上面で確認した短軸方向で半割し掘り下げた。覆土の堆積と断面の形態から遺構と判断した。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。埋め戻しの覆土と遺物の出土状況から土坑墓と考えられる。平面形は長方形である。

覆土 覆土1層は周辺の遺構の掘り上げ土と思われる褐色土である。覆土2～3層はⅢ2層を主体としⅣ・V層が混入する埋め戻しの土である。

遺物出土状況 長軸方向の北側の坑底から、石鏃1点、石槍またはナイフ2点、つまみ付ナイフ2点、スクレイパー1点などの剥片石器類と緑色泥岩製の石斧1点がまとまって出土している。また、北側壁付近の土坑底面から、Ⅱ群b類土器が一個体(1・点取りNo.6)出土した。 (村田)

171点の遺物が出土した。覆土からは、円筒下層b式から下層d式にかけての土器が出土した。覆土中での同一個体のまともは無かったが、一部No.6に接合した。円筒下層b2式土器と考える。

時期 坑底出土の遺物から、縄文時代前期後半、円筒下層b2式の時期である。新しい時期の遺物が覆土に混在していると考えられる。 (大泰司)

P56 (図Ⅲ-1-124、-2-74、-3-40・41・42、図版51・117・141・142)

位置・立地 47Y区 標高57m付近の平坦面

確認・調査 盛土層調査後に遺構確認調査を行い、V層上面で確認した東西方向で半割し掘り下げた。覆土の堆積と断面の形態から遺構と判断した。坑底は平坦で中央に溝状の窪みがある。壁はオーバーハングし、断面の形態はフラスコ状を呈する。形態および覆土の状況と坑底の遺物出土状況から、貯蔵穴を転用した土坑墓と考えられる。平面形は長方形である。

覆土 覆土5～16は埋め戻しの覆土で、Ⅲ・Ⅳ層に炭化物が少量混じる暗褐色土が主体である。覆土6～8層は褐色の焼土粒を大量に含んでいる。坑底部を埋め戻した後に散布されたものと考えられる。上層は、周辺の遺構の掘り上げ土と思われる暗褐色土やⅢ・Ⅳ層を主体とする黒褐色土が流入している。最上部にH19の掘り上げ土と考えられる暗褐色土が見られる。

遺物出土状況 939点の遺物が出土した。大半が坑底部からの出土である。土器はⅡ群b類のものが少なくとも二個体がまとまって出土した。石器は剥片石器類の石槍ナイフ1点、スクレイパー8点が、石斧類は石斧1点と未成品2点が、礫石器類は扁平打製石器7点、たたき石3点、砥石2点が出土した。そのほかに石棒状を呈する敲打痕のある礫が2点と石製品が1点出土している。 (村田)

整理の結果、覆土からは円筒下層b2～c式が比較的まとまって出土していた。磨滅がひどい。底からはほぼ一個体分の円筒下層b2～c式が出土した。おおよそ復元できたが、底部はあったが、打ち欠かれたためか胴部との接点が無かった。調査時に確認できた二個体とは1と3・4の事と思われる。

時期 坑底出土の遺物から、縄文時代前期後半、円筒下層b2～c式期の土坑と考える。 (大泰司)

P57 (図Ⅲ-1-125、図版51)

位置・立地 47Z区 標高57m付近の平坦面

確認・調査 盛土層調査後に遺構確認調査を行い、V層上面で確認し短軸方向で半割し掘り下げた。

覆土の堆積と断面の形態から遺構と判断した。坑底は平坦で壁は急に立ち上がる。埋め戻しの覆土から土坑墓の可能性はある。平面形は楕円形である。

覆土 覆土1層はⅢ・Ⅳ層を主体とする自然堆積層。覆土2層～4層は、Ⅳ・Ⅴ層を主体とする埋め戻しの土層である。覆土5層は崩落。

遺物出土状況 覆土からスクレイパー、Uフレイクなどの剥片石器類と砂岩製の石鋸が1点出土している。(村田)

19点の遺物が出土した。同じく覆土からは磨滅した円筒下層b式土器が出土している。

時期 遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の可能性はある。(大泰司)

P58 (図Ⅲ-1-125)

位置・立地 48Z区 標高57m付近の平坦面

確認・調査 調査区に隣接する市道の法面で確認した。短軸方向で半割し掘り下げた。覆土の堆積と断面の形態から遺構と判断した。坑底は平坦で壁は急に立ち上がる。市道工事により半分ほど欠損している。埋め戻しの覆土から土坑墓の可能性はある。平面形は隅丸長方形である。

覆土 遺構の中位までⅢ・Ⅳ・Ⅴ層それぞれがブロック状の混じる褐色土で埋められている。しまりのある暗褐色土層を挟んで、上層はほぼⅤ層の明黄褐色土で覆われている。

遺物出土状況 覆土から頁岩製の剥片が散見される程度である。8点の遺物が出土した。(村田)

覆土から土器の出土が無い。スクレイパーとした遺物も調整、使用痕ともに不明瞭である。

時期 時期は不明だが、周囲の遺物出土状況から、円筒下層式に関連する土坑の可能性もある。

(大泰司)

P59 (図Ⅲ-1-126、図版52)

位置・立地 48-S・T区 調査区中央の平坦面

確認・調査 H64周辺のⅢ2層上面を精査中に、暗褐色土の落ち込みを検出した。平面形は円形である。坑底は平坦で壁は急角度に立ち上がる。平面での切り合い関係により、H64より古い。

覆土 覆土は自然堆積である。(佐藤)

遺物出土状況 19点の遺物が出土した。覆土から円筒下層b2式が出土している。他にフレイクが1点出土している。

時期 H28(円筒下層c式の時期)より古い。円筒下層b2式新段階を主体とするM5より古い。周囲の遺構との戦後関係から、縄文時代前期後半、円筒下層b1式以降で円筒下層b2式新段階以前の可能性がある。(大泰司)

P60 (図Ⅲ-1-126、-2-75、図版52・118)

位置・立地 82-P・Q区

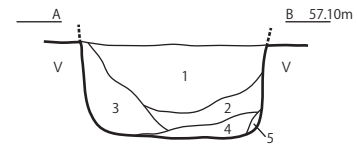
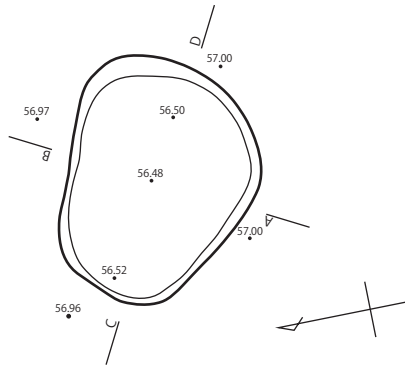
確認・調査 H58東側の壁面を調査中に長円形の落ち込みを確認した。東西方向に半割したところ長円形のピットであることを確認した。平面形は長方形である。長軸方向は、東南東-西北西である。H58の壁面及びベンチを掘り込んでいる。

覆土 1～4層に分層した。2層(褐色土)、3層(暗褐色土)は炭化物を微量含む。また3層ではロームブロックを少量含んでいる。

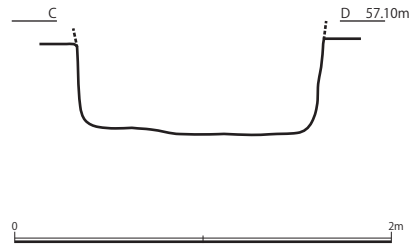
壁面 全周ともに急である。

P57

48Z

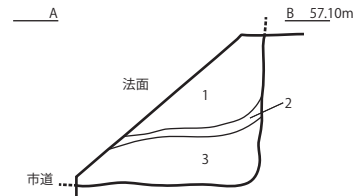
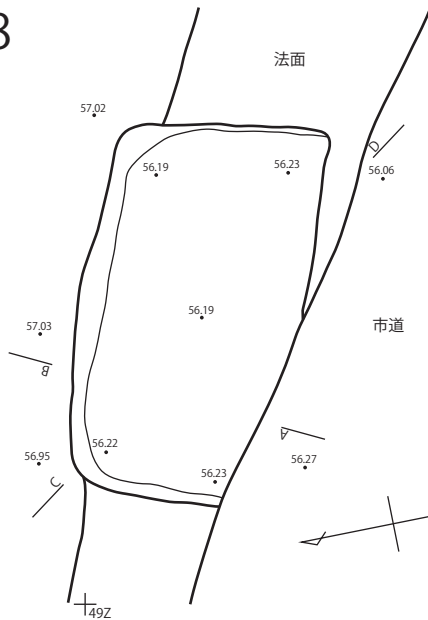


- P57土層
 1 暗褐色土(10YR3/3) III+IV しまりあり
 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) V主体 粘質土
 3 褐色土(10YR4/6) IV+V>III Vはブロック状が少量混じる
 4 褐色土(10YR4/4) IV+V
 5 明褐色土(10YR6/6) V 崩落

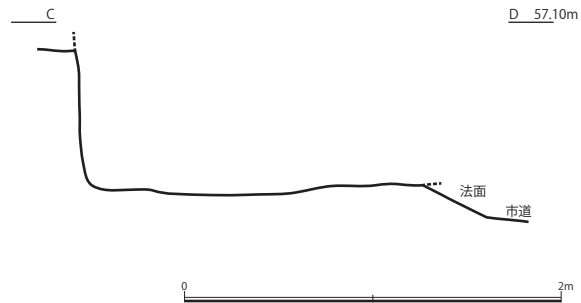


P57平面図断面図

P58



- P58土層
 1 明黄褐色土(10YR6/6) V>III
 2 暗褐色土(10YR3/3) III+IV+V しまりあり
 3 褐色土(10YR4/4) III+IV+V すべてブロック状



P58平面図断面図

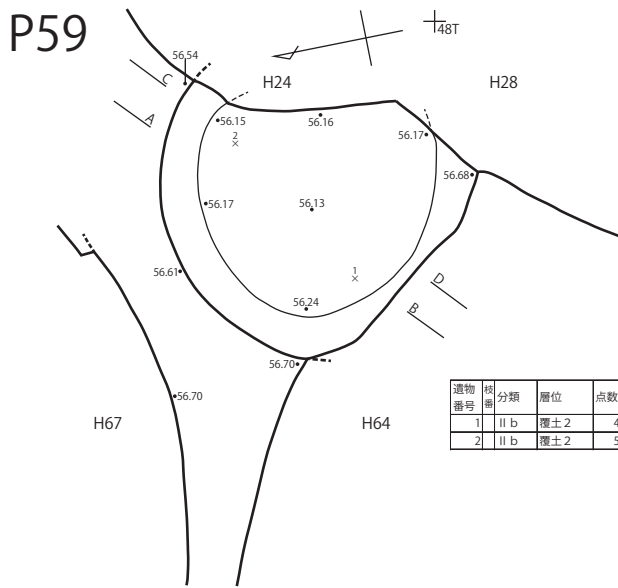
図Ⅲ-1-125 P57平面図・土層断面図・P58平面図・土層断面図

底面 平坦である。

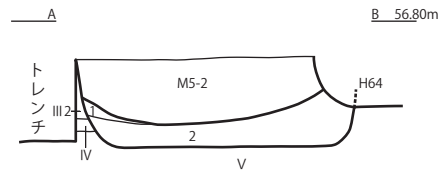
遺物出土状況 遺物は出土しているが点取り遺物は無い。

時期 H58を掘り込んでいることから縄文時代中期初頭より新しい。

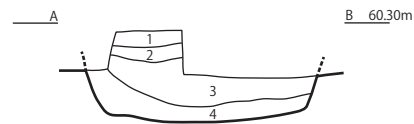
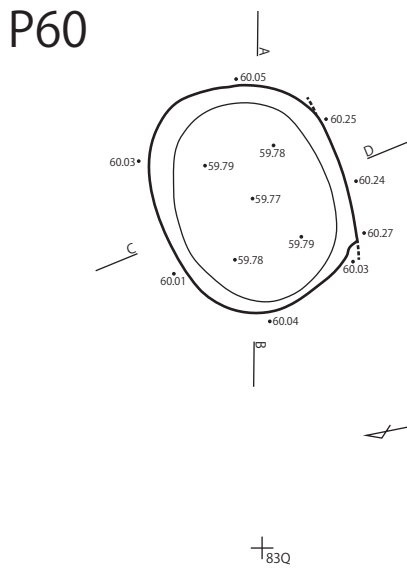
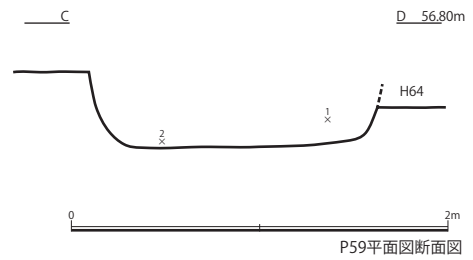
(佐川)



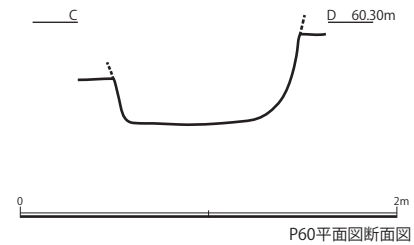
遺物 番号	種類	層位	点数
1	II b	覆土2	4
2	II b	覆土2	5



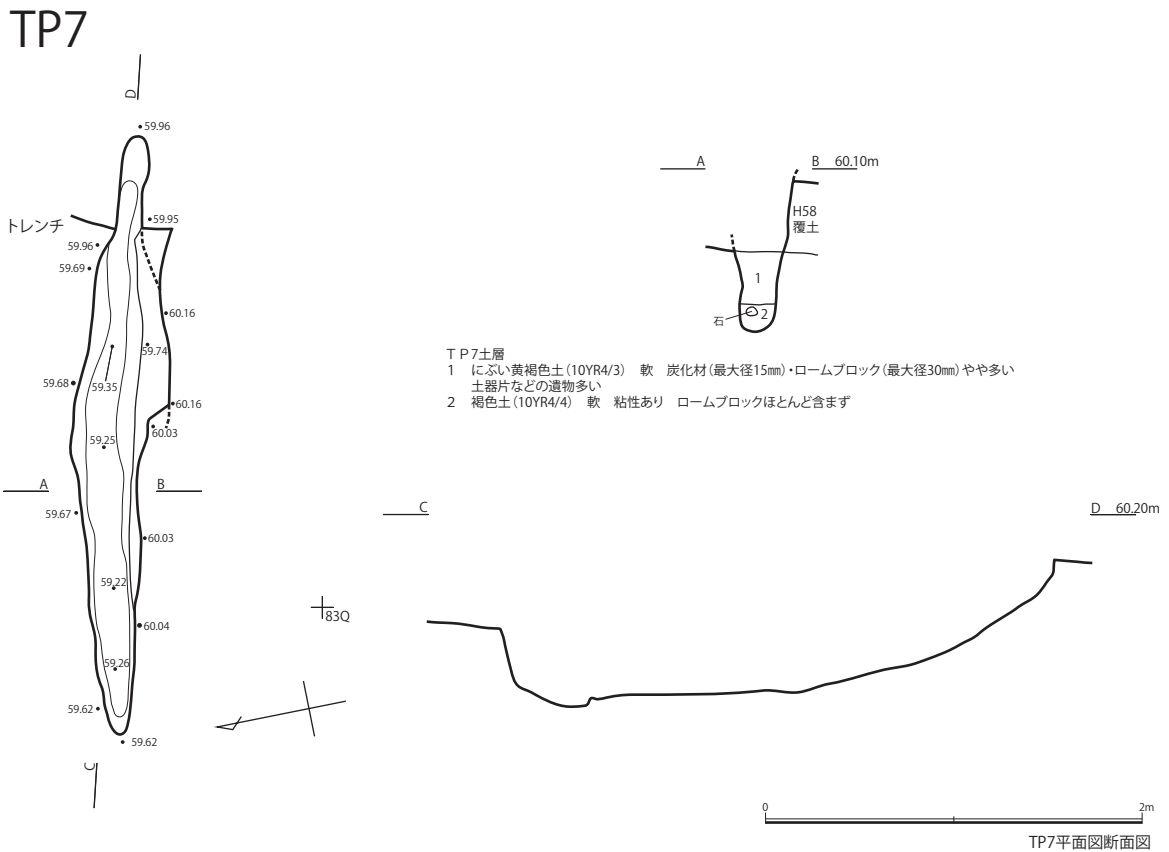
P59土層(III 2層上面)
 1 暗褐色(10YR3/3) III>IV>V 壤土 軟 粘り中
 2 暗褐色(10YR3/4) III>IV+V 壤土 軟 粘り中



P60土層
 1 暗褐色土(10YR3/3) 堅
 2 褐色土(10YR4/6) 堅 炭化物微量
 3 暗褐色土(10YR3/4) 堅 ロームブロック少量(最大径30mm) 炭化物微量
 4 黒褐色土(10YR3/2) 堅



図Ⅲ-1-126 P59平面図・土層断面図・遺物出土状況図・P60平面図・土層断面図



図Ⅲ-1-127 TP7平面図・土層断面図

(3) Tピット

TP7 (図Ⅲ-1-127、-2-75、カラー図版2、図版52・118)

位置・立地 82・83-P区

確認・調査 H58調査のために北壁に沿って開けたトレンチ内の東側で溝状の落ち込みを検出した。覆土を掘り下げたところH58のベンチと床面を掘り込むTピットであることを確認した。西側ではH58の柱穴HP-6を掘り込んでいる。

覆土 覆土上部はH58調査のためのトレンチにより掘り下げてしまった。このためセクションを実測できたのは底面から約40cm上までである。覆土は2層に分層した。1層はにぶい黄褐色土で、流れ込みの炭化材と遺物を多く含んでいる。2層は褐色土でロームブロックをほとんど含まない。TP7からは173点の遺物が出土した。平面形は溝状で、軸は、東-西方向。H58覆土を掘り込んでいる。

壁面 西側の立ち上がりは急であるが、東側に向かって緩やかに立ち上がっている。

底面 西端の浅い落ち込みはH58HP-6の底面である。

遺物 173点の遺物が出土した。覆土から円筒下層d2式と円筒上層a式が出土している。掲載遺物はいずれも覆土出土遺物と遺構立地する82P区出土遺物が接合した。

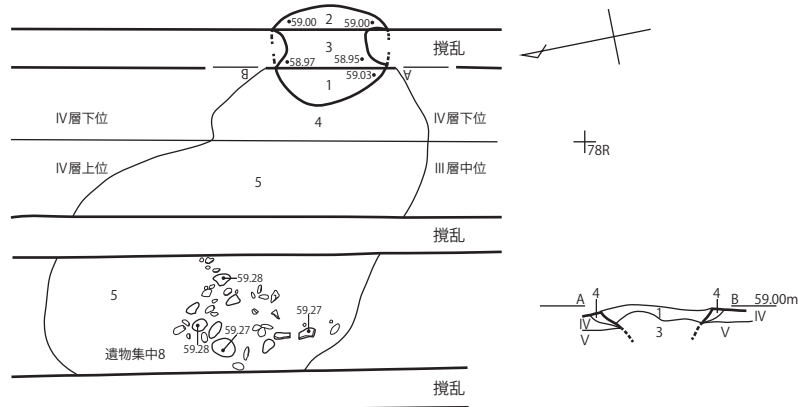
時期 縄文中期初頭のH58を掘り込んでいることからそれより新しい。

(佐川)

円筒上層a式以降のものと考える。

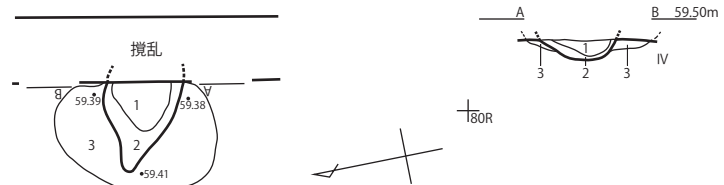
(大泰司)

F63 遺物集中8



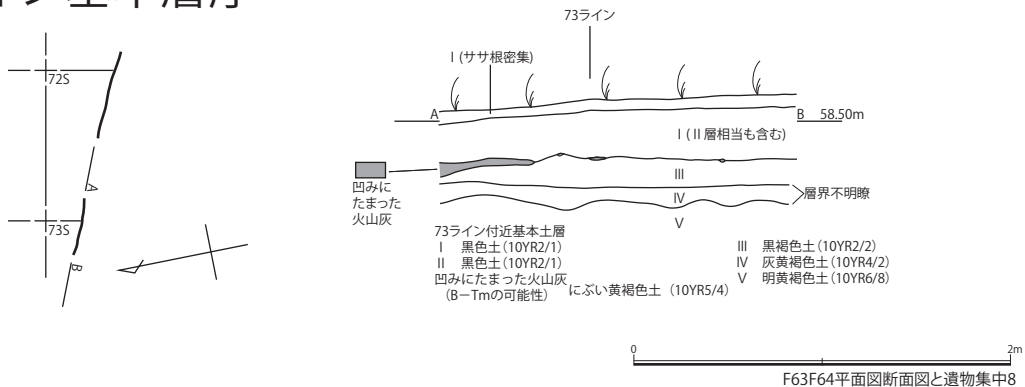
- F63土層
- 1 明赤褐色土 (5YR5/8) 4が酸化したもの 酸化著しい 粒径1~2cmのロームブロック斑状に5%混じる 粒径0.5~2cmの酸化した堅い土粒が5%混じる
 - 2 にぶい赤褐色土 (5YR5/4) 4が酸化したもの やや酸化 粒径1~2cmのロームブロック斑状に5%混じる 粒径0.5~2cmの酸化した堅い土粒が5%混じる
 - 3 褐色土 (5YR6/6) Vが酸化したもの
 - 4 褐灰色土 (10YR4/1) III>V 木根攪乱
 - 5 黒色土 (10YR1.7/1) III主体 木根跡か
 - V 明黄褐色土 (10YR6/8)
 - IV 灰黄褐色土 (10YR4/2)

F64



- F64土層
- 1 明赤褐色土 (5YR5/6) IVが酸化したもの 酸化著しい
 - 2 暗赤褐色土 (5YR3/6) IVが酸化したもの やや酸化
 - 3 黒色土 (10YR2/1) III主体 木根跡か

73ライン基本層序



図Ⅲ-1-128 F63と遺物集中8平面図・土層断面図、F64平面図・土層断面図、73ライン基本層序

(4) 焼土

今回調査範囲内で確認した焼土には、通常の調査で検出した焼土 (F63~65・F79~82遺物は第2分冊に図示) と盛土のトレンチ調査で確認した焼土の二種類がある。後者はF66~78 (遺物は第3分冊に図示) である。F77はM4-6相当である。F69はH21竪穴住居廃絶後の窪み、F78はH29竪穴住居廃絶後の窪みに位置する焼土である。F69は円筒下層d1式新段階、F78は円筒下層d2式のまとまった廃棄を伴う。いずれも焼土の下位に円筒下層d1式古段階、焼土の上に円筒下層d2式のまとまった廃棄が確認された。層位と出土遺物の関連については第Ⅵ章2項にまとめた。F69とH21については図Ⅵ-2-5~6、F78とH29については図Ⅵ-2-1と図Ⅵ-2-4にまとめた。盛土には掲載した

以外にも、不整な範囲・形状で分布する小規模な焼土があったが、トレンチ内で出土したものを精査し、他は特徴的なものや目立った焼骨等の確認に努めるものとした。基底部の焼土はM4-6、M5-2、M6-2等の土層名をつけた。

盛土のトレンチでは遺物の位置を記録して取り上げを行った。一個体がある場で潰れていると思われる土器（洗ってみるとそうではないものも多々あったが）や石皿・台石を対象とした。図Ⅱ-18～30においてNo付き数字は、その際の遺物点取り番号である。点取り土器で、それが復元できた場合には、No付き数字のわきに第3分冊の掲載番号を付した。点取り番号68で掲載番号48ならば「No68盛48」となる。若干の破片が混在していた場合は「No66（盛67）」のように（ ）が付く。

本文中では点取りNoの後に掲載番号を（ ）付で示した。「No68（48）」のようになる。（ ）のない本文記載中の数字も第3分冊の掲載番号である。

F 63（図Ⅲ-1-128）

位置・立地 77Q区 標高 59.0m付近の緩斜面

特徴 77Q区Ⅳ層下位から78Q区Ⅳ層上位にかけて黒色土の入り込みを確認した。その平面形は不整な円形で、木根痕の可能性があった。そして77Q区のその平面形東端には連続して明赤褐色土が楕円形に入り込んでいた。また、78Q区の黒色土平面形西側半分には礫や土器が目立って分布していた。

黒色土入り込みには、耕作時の約20cm幅の犁と思われる農具跡が60～80cm間隔で入り込んでおり、そのうち1本が明赤褐色土の平面形中央を横切っていた。明赤褐色土の土層断面を観察するため、その農具痕の攪乱土を120cmほど抜きとった。攪乱土内にも農具がある場で上下反転の作業をしたためか、偽礫化した明赤褐色土が多く含まれていた。断面を観察したところ、明赤褐色土の下は橙色土になっていた。木根起源の攪乱中に酸化した鉄分がⅣ層主体土を着色したのか、あるいは木根起源による窪地においてⅣ層の面で火を焚いたためその場の土が酸化したのか、どちらかの可能性があった。焼土の可能性が否定できなかったため、焼土として記録した。ただし、灰層あるいは炭化物層は無い。焼土であったとしても、人為的なものか、自然の営力によるものかはわからない。尚、礫と土器が散らばっていた部分は遺物集中8として遺物分布範囲を記録した。焼成面は不明だが、検出面とほぼ同じか、やや上である。F63そのものからの遺物出土は無かった。

時期 不明である。遺構は遺物集中8と同一面で検出された。遺物集中8を主とする周辺の遺物出土状況から、縄文時代前期後半以降の可能性もある。（大泰司）

F 64（図Ⅲ-1-128）

位置・立地 79・80-Q区 標高 59.4m付近の緩斜面

特徴 79・80-Q区Ⅳ層上面から黒色土の入り込みを確認した。その平面形は不整な円形で、木根痕の可能性があった。そしてその中央には明赤褐色土が入り込んでいた。

黒色土入り込みは、耕作時の約20cm幅の犁と思われる農具跡によって乱されていた。明赤褐色土の土層断面を観察するため、その農具痕の攪乱土を120cmほど抜きとった。断面を観察したところ、橙色味は中心が濃く、外側へ向かって薄くなっていた。木根起源の攪乱中に酸化した鉄分がⅣ層主体土を着色したのか、あるいは木根起源による窪地においてⅣ層の面で火を焚いたためその場の土が酸化したのか、どちらかの可能性があった。焼土の可能性が否定できなかったため、焼土として記録した。ただし、灰層あるいは炭化物層は無い。焼土であったとしても、人為的なものか、自然の営力によるものかはわからない。焼成面は不明だが、検出面とほぼ同じか、やや上である。F64そのものか

かの可能性があった。焼土の可能性が否定できなかったため、焼土として記録した。ただし、灰層あるいは炭化物層は無い。焼土であったとしても、人為的なものか、自然の営力によるものかはわからない。焼成面は不明だが、検出面とほぼ同じか、やや上である。

F65周辺から出土した遺物を図化した。1は76R区の風倒木と思われる攪乱から出土した土器である。据え置いた後に、木の根が入り込んだ可能性があった。口縁部が大きく欠損しており接合しなかった。取り上げ時に土器の下から礫が出土したが、使用痕などなくV層より下位の礫層起源のものと考える。2は木の根に据えられていたあるいは入り込んでいた土器底部である。76Q区のa b c dで囲んだ範囲から出土した。いずれも円筒下層b2～c式頃の遺物と考える。

時期 不明である。周辺からは円筒下層b式から下層d2式、円筒上層a式から上層d式にかけて出土する。F65そのものについては縄文時代前期後半以降の可能性はある。(大泰司)

F 66 (図Ⅱ-22・28・30、遺物は第3分冊に図示、図版53)

位置・立地 54S区 標高 56.8m付近の緩斜面

特徴 Sライントレンチを調査中、54S区を5cmずつ3回掘り下げた時点で、明赤褐色土の入り込みを検出した。酸化した鉄分等が発色したものである。北側はトレンチ外へ広がっている。

遺構の上にはM4-4が堆積する。当調査区において、M2、M4盛土ともに、円筒下層b式から下層c式にかけて(ほとんどがb)が出土している。円筒下層d式はⅢ層からのみの出土である。M4-4は調査時にM2-3と見分けがつかず、遺物はM2-3として取り上げられているものが多い。これはM4-5の掘りあがり等による再堆積がM2-3やM4-4の主体であることに起因すると考える。この調査区についてM2-3として取り上げた土層に復元にいたる土器の個体は無かった。そのM4-4直下からの検出であり、F66はM4盛土形成時その場で焚かれた焼土として記録した。この焼土直下の木根攪乱はM4盛土形成時のものである。

後に判明したが、この54S区においてM4-6はまばらに分布する。M4-5のセット368・369に比べて、M4-6のセット628・630は新しい要素を持つ土器である。本来基底部である焼土層M4-6から新しい土器が出土しているのは、傾斜の下側(Rライン側、53ライン側)から古い土器が出土するためである。盛土形成の過程に関連する事象と考える。

F66は点取り土器No.35のほぼ同一検出面である。No.35は円筒下層b式の一括土器で三個体が混在していた。ひとつめの53は底部まで残存。もう一個体の52は底部が欠損する。もう一個体は口縁部の一部であった。

52と53について52はM4-6出土628・630・633、F72と関連する54と類する。層位的にF66と同時期である52・53は円筒下層b2式である。

灰層は無い。土壌水洗の結果、硬骨魚網の焼骨片が検出されたが、種別部位とも不明である。炭化物の中からはオニグルミの炭化核片と種類不明の炭化種実片が1点ずつ出土した。

時期 遺構の確認状況と遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b2式の前半頃の時期である。(大泰司)

F 67 (図Ⅱ-22・26・27・30、遺物は第3分冊に図示)

位置・立地 57S区 標高 57.2m付近の緩斜面

特徴 Sライントレンチを調査中、57S区を5cmずつ四回掘り下げた時点で、明赤褐色土の入り込みを検出した。酸化した鉄分等が発色したものである。北側はトレンチ外へ広がっている。遺構の

上下にはM4-1が堆積する。M4-1中の焼土である。

この57S区において、M2盛土はM2-3で円筒下層b式から下層d1式が出土する。M4盛土はM4-1で、円筒下層b～c式が出土し、M4-3又は-6で円筒下層b式が出土している円筒下層d2式はⅢ層あるいはM1からのみの出土である。M4-1は平面的な調査時において、M4-3と一部厳密な区別ができなかったが、遺物は円筒下層c式が混じる。礫の浮き上がりおよびM1と酸化土との対応からM4盛土形成時の木根攪乱に起因する窪みへの、廃棄行為が考えられる。F67はM4盛土形成時その場で焚かれた焼土として記録した。

F67は点取り土器No.12(45)円筒下層d1式よりは下位である。点取り土器No.22(44)円筒下層b2～c式、No.23、No.24のほぼ同一検出面である。No.18(46・47)は円筒下層b2式である。46は隆帯上に指頭圧痕を連続し、47は多軸絡条体地紋に貝殻条痕の口縁部文様帯を持つ。

No.22(44)は円筒下層b2～c式。同じくNo.23は円筒下層b2～c式であった。残存状態が悪く凶化しなかった。またNo.24は円筒下層b2式二個体分である。(M4-3 57S区3と接合したが、残存状態が悪く凶化しなかった。なお、上位から出土したNo.12は円筒下層d1古段階一個体であった(45))

F67より下、M4-1下位からは、No.68(48)とNo.87(49)はF67より下位である。いずれも円筒下層b1式である。M4-3から出土している9月30日取り上げの339と346はこれらと同時期である。同じM4-3でも341(円筒下層b2式古段階)と349(円筒下層b2式新段階)は9月29日取り上げでより上位の出土である。これらは焼土層M4-6(F77と連続している)から出土した618(円筒下層b2式古段階)と623(円筒下層b2式新段階)と類する。623は多軸絡条体が口縁部を横走し、618よりやや新しい様相を持つが10月5日で同時に出土する。

M4-1は同一面で236円筒下層b1式の要素を持つ円筒下層b2式と237円筒下層b2～c式が同じ10月2日に出土している。より上面から円筒下層b式でも新しい範疇である238が出土している。これは盛土形成過程になんらかの時期差がからんでいると考えるM4-6がある部分が新しい時期(円筒下層b2式)という可能性がある。

灰層は無い。土壌水洗の結果、哺乳網の焼骨片が検出されたが、種別部位とも不明である。炭化物の中からはオニグルミの炭化核片が68点と、クリの炭化子葉片が4点、そして種類不明の炭化種実片が4点出土した。

時期 遺構の確認状況と遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b1式よりは新しく、円筒下層b2式から円筒下層b2～c式にかけての時期である。円筒下層d1式より古い。(大泰司)

F68 (図Ⅱ-22・26・30、遺物は第3分冊に図示)

位置・立地 58S区 標高 57.5m付近の緩斜面

特徴 Sライントレンチを調査中、58S区を5cmずつ五回掘り下げた時点で、層界不明瞭ではあるが、明赤褐色土の入り込みを検出した。酸化した鉄分等が発色したものである。これは七回目まで連続して検出された。北側はトレンチ外へ広がっている。セクショナルにF68は点取り土器No.56-1(35・円筒下層b2式新段階)とNo.56-2(残存状態が悪く凶化せず)のほぼ同一検出面である。No.13(残存状態が悪く凶化せず)よりは下位である。No.69(36・円筒下層b2式)よりは上位である。36より新しく、35と同一ないしは、より古い。遺構の上にはM2-3が堆積する。直下にはM3があり連続している。M2-3は周囲の調査区と並行して掘り下げていたのでM2-2として取り上げた遺物もある。平面的な土色差が判然としなかったためである。

この58S区において、M2-2～3としてあげた土器には円筒下層b式から円筒下層d2式までの土器が

含まれており、主体は円筒下層 c 式から下層 d1 式である。円筒下層 b 式は周辺の堅穴住居掘り上げ時にあがってきたものと考えられる。M4-3, 6 からは円筒下層 b 式から下層 c 式までが含まれており、M4-6 では円筒下層 b1 式が目立つ。円筒下層 c 式は少なく、木の根などの攪乱によって下がったものの可能性がある。M3 からの遺物出土は無かった。

F68 と同一検出面出土の点取り土器 No.56-1 (35) は円筒下層 b2 式新段階の胴より上である。同じく No.56-2 の円筒下層 b2 式ほぼ一個体分である。底部が欠落している。残存状態が悪く図化しなかった。F68 より上位の No.13 は円筒下層 b2 式から下層 c 式にかけての土器であり、胴の上半分の四分の一が残存してままとまっている。磨滅もひどく堅穴住居掘削時にほりあがったものという可能性もある。残存状態が悪く図化しなかった。F68 より下位の No.69 (36) はその場で潰れていた円筒下層 b2 式一個体分である。

F68 は M3 盛土形成直後にその場で焚かれた焼土として記録した。灰層は無い。土壌水洗の結果、焼けた骨片と炭化した種子を検出した。

焼骨片として、サメ類椎骨椎体が 2 点、エイ・サメ類椎骨椎体が 1 点、マイワシ第二椎骨椎体 2 点、ニシン科腹椎 椎体 15 点、ニシン科尾椎 椎体 28 点、コイ科尾椎 椎体 1 点、サケ科椎骨椎体破片が複数点、フサカサゴ科方骨左関節 1 点、フカカサゴ科の椎骨椎体と思われるもの 1 点、アイナメ属前上顎骨左前端 1 点、同じく方骨左関節 1 点、基後頭骨破片 1 点、第一椎骨椎体 7 点、尾椎 椎体 92 点、アイナメ科腹椎 椎体 47 点、硬骨魚類顎骨左右不明破片 8 点、同じく尾部棒状骨破片 2 点、硬骨魚類部位不明破片無数、哺乳綱部位不明破片無数が複数点検出された。アイナメ科腹椎 椎体にはホッケ属が混じっている可能性がある。

炭化物の中からはオニグルミの炭化核片が 82 点、クリの炭化子葉が 23 点、そして種類不明の炭化種実片が 8 点出土した。

時期 遺構の確認状況と遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層 b2 式新段階の時期である。
(大泰司)

F69 (図 II - 17~19、遺物は第 3 分冊に図示)

位置・立地 60T 区 標高 58.0m 付近の緩斜面

特徴 A ライントレンチを調査中、60T 区を 5 cm ずつ七回掘り下げた時点で、層界不明瞭ではあるが、橙色味を帯びた土の入り込みを検出した。酸化した鉄分等が発色したものである。トレンチを掘り下げて、土層断面で確認したところ、M3 とその直上の M2-2 からまたがって橙色味をおびていた。H21 廃絶後のくぼみであるため場所にもよるが十回掘り下げた段階層位まで連続していた。ただし層界は不明瞭である。複数の土層をまたがっていたことから粘質の強い M3 の作用が関係した水の影響による鉄分等の沈着を想定したが、人為の可能性もあった事から土壌を採取し、フローテーション法にて処理した。

この 60T 区において、M2-2 は円筒下層 d 式が含まれている。H21 廃絶後のくぼみで、M3 との境目 M2-2 下位から最下位とした層位からは円筒下層 d1 式新段階から円筒下層 d2 式古段階が出土している。M3 からは円筒下層 b 式から円筒下層 d1 式までが出土するが円筒下層 d1 式が主体である。M2-3 には円筒下層 d 式が含まれているが、円筒下層 b 式も混じり込む。M4-3 は円筒下層 b 式を主体とする。

F69 周辺の点取り土器との検出状況、特に層位的な上下関係を検討した。結果は以下の通り。

No.72 (73) は F69 とほぼ同じ時期か。円筒下層 d1 式新段階一個体分で、5 cm 十回目 M2-2 相当出土。

No.73 (70) は F69 とほぼ同じ時期か。円筒下層 d1 式新段階一個体分 で、5 cm 十回目 M2-2 相当出土。

H39覆土上位(H39-27・32・34・35・48)と同じ段階で円筒下層d1式から下層d2式への移行期を示し、器形からより円筒下層d2式に近い可能性がある。

No36-1はF69とほぼ同じ時期か。円筒下層d2段階(175)の一部と円筒下層d1式新段階(75)の一部で、5cm七回目M2-2～M2-3～M3相当出土。

No36-2はF69とほぼ同じ時期か。円筒下層d1式新段階一全体分(72)と円筒下層c式口縁部など5cm七回目M2-2～M2-3～M3相当出土。

No66は5cm十回目、H21廃絶後の深さを勘案すると、M2-2～M2-3相当出土。No89は5cm十回目で、M3相当出土。いずれもF69とほぼ同じ時期か。これらは円筒下層d1新段階(67)と接合した。

F69は、M3盛土形成直後の、円筒下層d1式新段階から円筒下層d2式段階にかけての廃棄場所に立地する。

焼土と想定した場合、灰層は確認できなかったが、土壤水洗の結果、焼けた骨片と炭化した種子を検出した。

焼骨片として、エイ類の椎骨 椎体が6点、サメ類の椎骨 椎体が4点、ツノザメ目の椎骨 椎体が3点、ニシン科腹椎 椎体が2点、ニシン科尾椎 椎体が4点、タイ科の歯が12点、ブリ属の角骨左関節が1点、サバ属の第一椎骨 椎体が1点、サバ属尾椎 椎体が1点、硬骨魚網の椎骨 椎体が2点、硬骨魚網部位不明破片が複数点、鳥網の四肢骨 骨幹が2点、鳥網四肢骨片が2点、哺乳網の指骨が1点、海生哺乳網の肋骨中間部破片が1点、哺乳網部位不明骨片が複数点検出された。

炭化物の中からはオニグルミの炭化核片が76点、クリの炭化子葉が3点、ニワトコの炭化核が1点、種類不明の炭化種実片が5点、そして子囊菌の炭化子囊が5点出土した。

土層断面と、確認した焼骨片や炭化種子からその場で焚かれた焼土と考える

時期 遺構の確認状況と遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層d1式新段階から円筒下層d2式にかけての期間に段階を経て形成されたものと考えられる。(大泰司)

F70 (図Ⅱ-22・26・30、遺物は第3分冊に図示)

位置・立地 59S区 標高 57.6m付近の緩斜面

特徴 Sライントレンチを調査中、59S区を5cmずつ八回掘り下げた時点で、層界不明瞭ではあるが、橙色味を帯びた土の入り込みを検出した。酸化した鉄分等が発色したものである。トレンチを掘り下げて、土層断面で確認したところ、この調査区から一部明瞭に検出されたM3と、標高的にほぼ同一検出面であった。ただしこの土層に関してM3としたが、土層断面から他のM3とした土層より古い可能性がある。右に位置するF68がらみのM3と堆積状況について連続性が異なるためである。M3が何等かの作用で動いたか、M4-3形成途中のV層土の掘りあがりである。トレンチ外南側にのびている。

検出面はM4-3中位であり、F70からは点取り土器No51、M3としたV層土の掘りあがりにはNo50が伴って出土している。

No51は検出面から、F70と同じ時期と考えられる。円筒下層b2式、三全体分が不完全な形でまとまって出土した二個体は円筒下層b2式で復元できなかった。復元できた30は円筒下層b2～c式である。5cm八回目M4-3相当出土。

No50-1は検出面から、F70とほぼ同じ時期と考えられる。円筒下層b2式の口縁部破片。残存状態が悪く図化しなかった。5cm七～八回目M4-3相当出土。

No50-2は検出面から、F70とほぼ同じ時期と考えられる。円筒下層b2式新段階の29が復元できた。

小型深鉢一個体分である。三単位で後円部にサルボウ条痕横走。5 cm七~八回目M4-3相当出土。

当調査区において、M2-2、M4-3、M4-6が確認されており、いずれも円筒下層b式から円筒下層d式にかけて出土している。M2-2は円筒下層d2式が目立つ。M4-3は円筒下層b2式、M4-6は円筒下層b1式が目立つ。

焼骨片として、エイ類の歯がほぼ完体で2点、メジロザメ科と考えられる歯の破片が2点、サバ属の腹椎 椎体が1点、カツオ・マグロ属の尾椎（尾柄部）椎体が2点、硬骨魚尾椎（尾柄部）椎体が1点、硬骨魚網の部位不明片が数点、哺乳綱部位不明骨片が複数点検出された。

炭化物の中からはオニグルミの炭化核片が6点検出された。

遺構検出状況と、確認した焼骨片や炭化種子から、M4-3の形成途中にその場で焚かれた焼土と考える。灰層は確認できなかった

時期 遺構の確認状況と遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b2式新段階から円筒下層b2~c式にかけて形成されたものとする。（大泰司）

F71（図Ⅱ-22・27・30、遺物は第3分冊に図示）

位置・立地 56S区 標高 57.0m付近の緩斜面

特徴 Sライントレンチを調査中、56S区を5 cmずつ八回掘り下げた時点で、層界不明瞭ではあるが、橙色味を帯びた土の入り込みを検出した。酸化した鉄分等が発色したものである。

検出面はM4-5中~下位であり、より上位のM4-5上位~M4-4にかけて点取り土器No25がF71わきから出土している。平面では確認できなかったが、F71北東側、56ライン付近のセクションに酸化土を確認した。標高的にはほぼ同一検出面と考える。

No25は検出面から、F70より新しい時期と考えられる。円筒下層b2式新段階一個体分のおよそ半分がまとまって出土した。残存状態が悪く図化しなかった。5 cm二~三回目M4-4相当、一部M4-5上位相当から出土。

この56S区において、M4-5、M4-6が確認されており、いずれも円筒下層b式から円筒下層d式が出土している。M4-5は円筒下層d2式が目立つ。M4-5は円筒下層b2式、M4-6は円筒下層b1式が目立つ。Ⅲ層からは円筒下層d2式が出土しており、ほかに各層位に縄文時代早期後半、東釧路Ⅳ式前後の土器が混じる。

焼骨片として、硬骨魚網の部位不明片が数点、哺乳綱部位不明骨片が複数点検出された。F71から出土した炭化物の中から炭化種子は確認できなかった。

まとまって検出した焼骨片やからM4-5の形成途中にその場で焚かれた焼土と考える。灰層は確認できなかった

時期 遺構の確認状況と遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層c式以前の円筒下層b式の段階に形成されたものとする。（大泰司）

F72（図Ⅱ-22・28・30、遺物は第3分冊に図示）

位置・立地 54S区 標高 56.6m付近の急斜面

特徴 Sライントレンチを調査中、54S区を5 cmずつ十回掘り下げた時点で、層界不明瞭ではあるが、橙色味を帯びた土の入り込みを検出した。酸化した鉄分等が発色したものである。トレンチ外東側にのびている。

検出面はM3-2下位からM4-5上位にかけてである。F72は点取り土器No27（残存状態が悪く図化せ

ず)より下位、No59(54)直下から検出された。No67(55)とほぼ同一検出面からの出土である。またF72直上No59(54)とほぼ同一面からはフレイクチップが1,000点以上まとまって出土している。

No27(残存状態が悪く図化せず)は5cmずつ四回掘り下げた段階で検出した。M4-4相当である。円筒下層b式の下半分であり、磨滅の程度から勘案して掘りあがったものの可能性がある。

No59(54)は5cmずつ九回掘り下げた段階で検出した。M3-2下位相当である。円筒下層b2式二個体分の破片が混在していた。54は横から検出されたNo58の一部と接合した。

No67(55)は5cmずつ十回掘り下げた段階で検出した。M3-2下位からM4-5上位相当である。円筒下層b2式三個体分の破片が混在していた。

焼骨片として、スケトウダラあるいはマダラの腹椎 椎体が1点出土した。硬骨魚網の部位不明片が数点、哺乳網部位不明骨片が複数点検出された。炭化物の中からはオニグルミの炭化核片が4点検出された。まとまって検出した焼骨片や検出状況からM4-5の形成後にその場で焚かれた焼土と考える。灰層は確認できなかった

時期 遺構の確認状況と遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b2式段階に形成されたものとする。(大泰司)

F73(図Ⅱ-22・26・30、遺物は第3分冊に図示)

位置・立地 58S区 標高 57.4m付近の緩斜面

特徴 Sライントレンチを調査中、58S区を5cmずつ十回掘り下げた時点で、層界不明瞭ではあるが、橙色味を帯びた土の入り込みを検出した。酸化した鉄分等が発色したものである。トレンチ外南側にのびている。検出面はM4-3中である。

点取り土器No54(43)はF73より上位で出土した。5cmずつ八回掘り下げた時点、M3~M4-3相当での検出である。円筒下層b2~c式一個体だが底部欠損。No54のうち1点は、より下位の焼土M4-6相当F77出土のNo84-1(34)と接合した。

No54-2はF73と同一検出面より出土した。5cmずつ十回掘り下げた時点、M3~M4-3相当で出土。円筒下層b2式が数個体分混在。一個体は多軸絡条地紋。残存状態が悪く図化しなかった。

No49(41)はF73より上位から出土した。5cmずつ八回掘り下げた時点、M4-3相当での検出である。円筒下層b2~c式である。

No55(42)はF73のすぐ北側で、より上位から出土した。5cmずつ八回掘り下げた時点、M4-3相当での検出である。円筒下層b2~c式縦半分のみ。円形刺突文が二列口縁に連続する。

No112はF73より下位から検出した。5cmずつ八回掘り下げた時点、M4-6相当、F77からの出土。円筒下層b1およそ二個体分。残存状態が悪く図化しなかった。

No.84-1は58S区、F77と同一検出面からの出土である。円筒下層b1縦半分のみ円筒下層b2縦半分のみと大破片バラ、円筒下層b1式から下層c式頃と思われる破片が混在していた。5cmずつ十一回掘り下げた時点、M4-6相当、F77からの出土。うち円筒下層b2式でおよそ縦半分が残存する34を復元した。より上位のNo54とNo84が1点接合しているが、No54が混在したとみる。胴部下半分が合捺地紋で、隆帯には縄端圧痕が並ぶ。文様構成は円筒下層b1式を思わせる。

焼骨片として、ニシン科腹椎 椎体2点、コイ科尾椎 椎体1点、硬骨魚網の部位不明片が数点、哺乳網部位不明骨片が複数点、鳥網脛足根骨右側遠位端が1点、鳥網足根中足骨左近位端が1点、鳥網四肢骨片が複数点、検出された。

炭化物の中からはオニグルミの炭化核片が22点、クリ炭化子葉片が4点検出された。

まとまって検出した動物や植物の遺存体や、検出状況からM4-3の形成途中にその場で焚かれた焼土と考える。灰層は確認できなかった

時期 遺構の確認状況と遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b2～c式より古く、古段階までいかないが古い要素を持った円筒下層b2式より新しい。円筒下層b2式の焼土。(大泰司)

F74 (図Ⅱ-22・25・26・30、遺物は第3分冊に図示)

位置・立地 59・60-S区 標高 57.8m付近の緩斜面

特徴 Sライントレンチを調査中、59～60S区を5cmずつ十回掘り下げた時点で、層界不明瞭ではあるが、橙色味を帯びた土の入り込みを検出した。酸化した鉄分等が発色したものである。トレンチ外北側にのびている。検出面はM4-6上面である。

点取り土器No81はF74上面直下で出土した。5cmずつ十一回掘り下げた時点、M4-6相当での検出である。32を復元した。口縁部の縦区画から円筒下層b2～c式とした。

点取り土器No82はF74上面直下で出土した。5cmずつ十一回掘り下げた時点、M4-6相当での検出である。31を復元した。口縁部の単軸絡条体第5類横回転から、円筒下層b2式とした。

焼骨片、炭化種子類は検出されなかった。

検出状況からM4-6の形成直後にその場で焚かれた焼土と考える。灰層は確認できなかった

時期 遺構の確認状況と遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b2式の新しい段階から円筒下層b2～c式の直後に焚かれた可能性がある。(大泰司)

F75 (図Ⅱ-22・25・30、図版53、遺物は第3分冊に図示)

位置・立地 60S区 標高 58.2m付近の緩斜面

特徴 Sライントレンチを調査中、60S区を5cmずつ十一回掘り下げた時点で、層界不明瞭ではあるが、橙色味を帯びた土の入り込みを検出した。酸化した鉄分等が発色したものである。トレンチ外北側にのびている。検出面はM4-3下位である。

点取り土器No8はF75より上位で出土した。5cmずつ一～二回掘り下げた時点、M1相当での検出である。円筒下層d1式縦半分のみ二個体分が出土した。円筒下層d1式新段階に相当する。一個体は残存状態が悪く図化せず。もう一個体24は復元した。これはNo11とも接合した。

点取り土器No74はF75のわき、やや高い標高から出土した。5cmずつ十二回掘り下げた時点、M4-2～M4-6相当での検出である。円筒下層b2式古段階、28を復元した。

点取り土器No108はF75より下位で出土した。5cmずつ十二回掘り下げた時点、M4-2～M4-6相当での検出である。円筒下層b2式古段階、27を復元した。

焼骨片として、硬骨魚網の部位不明片が数点、哺乳網部位不明骨片が複数点検出された。

炭化物の中からは子囊菌の炭化子囊が3点検出された。

まとまって検出した動物や植物の遺存体や、検出状況からM4-3の形成途中にその場で焚かれた焼土と考える。灰層は確認できなかった。

時期 遺構の確認状況と遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b2式古段階以降で、円筒下層d2式より古い。周辺状況から円筒下層b2式古段階に近い。(大泰司)

F76 (図Ⅱ-17～19・22・25・30、遺物は第3分冊に図示)

位置・立地 61S区 標高 58.2m付近の緩斜面

特徴 Aトレンチを調査中、60S区を5cmずつ十一回掘り下げた時点で、層界不明瞭ではあるが、橙色味を帯びた土の入り込みを検出した。酸化した鉄分等が発色したものである。トレンチ断面を観察したところ、トレンチ外南側にのびている。検出面はM4-3直下である。なにかの攪乱にからんでいる。

点取り土器No.1はF76より上位で出土した。5cmずつ一～二回掘り下げた時点、M1～M2-2相当である。円筒下層d1式新段階23を復元した。これに加えて円筒下層d式の破片が混在していた。ただし同一個体の復元に至るまともりは無かった。

No.61はF76と同一検出面で出土した。5cmずつ十回掘り下げた時点、M4-3相当である。円筒下層b1式胴部中央より下半分が出土した。残存状態が悪く図化しなかった。

No.62はF76より上位で出土した。5cmずつ十回掘り下げた時点、M4-3相当である。円筒下層b式が出土した。同一個体で、復元に至るまともりは無かった。残存状態が悪く図化しなかった。

No.76はF76と同一検出面より出土した。5cmずつ十回掘り下げた時点、M4-3相当である。円筒下層b1式から下層b2式古段階にかけての破片が複数個体まとまっていた。そのうち状態のいい61と63を復元した。61は鋸歯状の沈線文が入っており、円筒下層b2式古段階に分類した。63は円筒下層b1式とした。

No.77はF76と同一検出面で出土した。5cmずつ十回掘り下げた時点、M4-3相当である。円筒下層b1式が縦半分のみ残っていた。60として復元した。胴部中央に帯が無いなど新しい要素を持つ。

焼骨片として、硬骨魚網の部位不明片が数点検出された。炭化物の中からはオニグルミの炭化核片が16点検出された。

まとめて検出した動物や植物の遺存体や、検出状況からM4-6の形成時にその場で焚かれた焼土と考える。灰層は確認できなかった。

時期 遺構の確認状況と遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b1式新段階から円筒下層b2式古段階に形成されたものと考え。文様構成等から二型式に分かれたが、出土状況から、かなり近い時期のものと考え。これらは本線道路部分の調査、館野6遺跡、遺物集中4の時期に近いと考える。(大泰司)

F77 (図Ⅱ-22・25・26・27・30、遺物は第3分冊に図示)

位置・立地 57～61-S区 標高 57.2～58.2m付近の緩斜面

特徴 Sライントレンチを調査中、59S区を5cmずつ十一回掘り下げた時点で、層界不明瞭ではあるが、橙色味を帯びた土の入り込みを検出した。酸化した鉄分等が発色したものである。トレンチ外北側と南側の両方にのびている。トレンチを掘り広げていくと57～61S区まで分布が確認できた。

検出面はM4-1～3の下である。その後Sライントレンチの調査が進むにつれてM4盛土の基底部分には焼土層がほぼ普遍的に存在することがわかった。M4盛土と時期の近いM5、M6盛土についても同様であった。M4の場合M4-6であり、F77はトレンチ内で検出したM4-6である事がわかった。

点取り土器No.83-1は59S区、F77と同一検出面からの出土である。円筒下層b1式ないしはb2式古段階の上半縦半分のみが二種類と下縦半分が混じっていた。残存状態が悪く図化しなかった。そして円筒下層b2式39を一個体復元できた。絡条体圧痕により鋸歯状文を施文する。5cmずつ十一回掘り下げた時点である。

No.83-2は59S区、F77と同一検出面で、円筒下層b1式の上半分のみが出土した。5cmずつ十一回掘り下げた時点である。残存状態が悪く図化しなかった。

No.84-1は58S区、F77と同一検出面からの出土である。円筒下層b1式ないし下層b2式古段階の縦半分のみ出土した、加えて円筒下層b2式の縦半分および復元・図化に至らない多個体の破片が混在していた。5 cmずつ十一回掘り下げた時点、F77からの出土。そのうち円筒下層b2式34を復元した。これにはより上位のNo54が一点接合しているが、混在とみる。

No.84-2は58S区、F77と同一検出面で、円筒下層 b 式の上半で縦半分のみが出土した。5 cmずつ十一回掘り下げた時点である。残存状態が悪く図化しなかった。

No.84-3は58S区、F77と同一検出面で、円筒下層 b 式縦半分のみが出土した。5 cmずつ十一回掘り下げた時点である。残存状態が悪く図化しなかった。

No.95-1は59S区、F77と同一検出面で、円筒下層b2式古段階縦半分および複数個体の破片が出土した。40を復元した。円筒下層b2式である。No.95-2とは別個体であった。5 cmずつ十一回掘り下げた時点である。

No.95-2は59S区、F77と同一検出面からの出土である。円筒下層 b 式の破片があった。5 cmずつ十一回掘り下げた時点での出土である。残存状態が悪く図化しなかった。

No.96は59S区、F77と同一検出面からの出土である。円筒下層b2式38と複数個体のまとまりのない破片があった。5 cmずつ十一回掘り下げた時点で出土した。復元した38にはNo83からも類似する個体が出土している。

No.97は59S区、F77と同一検出面からの出土である。円筒下層b2式37と複数個体のまとまりのない破片があった。5 cmずつ十一回掘り下げた時点である。

No.98は60 S 区、F77と同一検出面からの出土である。円筒下層b1式あるいは下層b2式古段階のころと思われる下半分の縦半分のみがあった。5 cmずつ十一回掘り下げた時点である。残存状態が悪く図化しなかった。

No.110は60 S 区、F77と同一検出面からの出土である。円筒下層b1式から、円筒下層b2式にかけての破片が複数個体分出土している。円筒下層b2式、33を復元した。5 cmずつ十二回掘り下げた時点である。

焼骨片として、エイ・サメ類の椎骨不明破片が1点、メジロザメ科の歯が1点、ニシン科の腹椎椎体5点、ニシン科の尾椎 椎体10点、コイ科の尾椎 椎体が3点、アイナメ属の前上顎骨左前端1点、タイ科の歯が1点、硬骨魚綱 顎骨片が1点、硬骨魚綱の椎骨 椎体が1点、硬骨魚綱の不明破片が複数点、アイナメ属の腹椎 椎体が1点、ヒトの後臼歯破片が1点、海生哺乳綱不明破片複数点、哺乳綱不明破片複数点が検出された。

炭化物の中からはオニグルミ炭化核片が192点、クリの炭化子葉片233点、キハダ炭化種子片1点、同定不能炭化種実片8点が検出された。

まとめて検出した動物や植物の遺存体や、検出状況からM4盛土の形成時にその場で焚かれた焼土と考える。灰層は確認できなかった。F77としたこの焼土も含めて、M4盛土ではM4-6層に相当する。

時期 遺構の確認状況と遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層 b 式段階に形成されたものとする。円筒下層b2式の可能性が高い。M4-6が一枚の土層と肉眼観察では受け取れるため、33・34・37・38・39・40は同時期の円筒下層b2式の多様性とも受け取れる。ただし遺物整理の結果M4-6は時間をかけて段階を経て形成される状況もわかってきた。(大泰司)

F78 (図II-21・23・24・29、遺物は第3分冊に図示)

位置・立地 62 S 区 標高 58.6m付近の緩斜面

特徴 Sライントレンチを調査中、62S区を5cmずつ七回掘り下げた時点で、層界不明瞭ではあるが、橙色味を帯びた土の入り込みを二か所検出した。酸化した鉄分等が発色したものである。一方はトレンチ外南側にのびている。周辺はしまりのある土が分布しており、遺物も比較的まとまっていた。M2基底部として一部遺物を取り上げた。八回掘り下げた時点で焼骨片の出土が目立った。トレンチ壁面で確認すると周辺の土層も含めて、焼土混じりで、しまりのある褐色土の分布が明らかであった。検出面はM2中である。調査中、H29覆土より上位で、M2の一番下と考えた部分を基底部と称して取り上げた。最初基底部だと思った上位を基底部Aとした。ところが上位の土層と連続して土器を中心とした廃棄層が検出できたため基底部Bとして取り上げた。遺物整理を行ったところ、M2基底部AとしたのはF78のことである。盛土基底部Bとしたのは実際の基底部で、F78より下位のM2の褐色土部分である。

点取り土器No14はF78より上位から出土した。5cm二回掘り下げた時点で、M1相当。円筒下層d2式でまとまりのない破片群であった。うち1点が、円筒下層d2式の7と接合した。

No15はF78より上位から出土した。5cmずつ一～二回掘り下げた時点で、M1相当。円筒下層d2の上半分、でほとんどが円筒下層d2式の7となった。

No16はF78より上位から出土した。5cmずつ二回掘り下げた時点で、M2相当である。円筒下層d2式の口縁部である。残存状態が悪く図化しなかった。

No7はF78より上位から出土した。5cmずつ二回掘り下げた時点で、M2相当である。円筒下層d2式でまとまりのない破片群である。円筒下層d2新段階である。残存状態が悪く図化しなかった。

No18はF78より上位から出土した。5cmずつ二回掘り下げた時点で、M2相当である。円筒下層d2口縁部である。円筒下層d2式である。残存状態が悪く図化しなかった。

No19はF78より上位から出土した。5cmずつ一～二回掘り下げた時点であり、M2-2相当である。円筒下層d2式の一部とまとまりのない破片群である。円筒下層d2式2である。これはNo93・No94とも接合した。

No91はF78より上位から出土した。5cmずつ五回掘り下げた時点で、M2相当である。円筒下層d2式、8で口縁部に頸部をもたずそのまま外反する。

No92はF78より上位から出土した。5cmずつ五回掘り下げた時点で、M2相当である。円筒下層d2式下半の縦半分が出土し、120と接合した。これは「M2 63S区16」を主体とする、単軸絡条体縦回転地紋の円筒下層d2式である。他にはまとまりのない破片群が出土した。

No93はF78より上位から出土した。5cmずつ四～六回掘り下げた時点で、M2相当である。円筒下層d2式、下半の縦半分のみとまとまりのない破片群である。破片群から1点が6と接合した。7点が2と接合した。いずれも円筒下層d2式である。

No94はF78より上位から出土した。5cmずつ四～六回掘り下げた時点で、M2相当である。円筒下層d2式一個体と下半の縦半分のみである。ひとつは10と、もうひとつは2と接合した。いずれも円筒下層d2式である。

No114はNo91との対比から、F78より上位から出土した。M2相当である。円筒下層d2式上半は13に接合した。これに同一個体の可能性があるものとしてNo117から未接合の破片が出土している。円筒下層d2式である。

No100はF78と同一検出面から出土した。5cmずつ七回掘り下げた時点で、M2基底部A相当である。円筒下層d2式一個体と残存状態のいい破片が出土した。9と11である。いずれも円筒下層d2式である。

No101はF78と同一検出面から出土した。5cmずつ七回掘り下げた時点で、M2基底部A相当である。

円筒下層d2縦半分のみ二個体分である。2である。円筒下層d2式新段階である。もう一個体もd2新段階である。残存状態が悪く図化しなかった。

No.103はF78と同一検出面から出土した。5 cmずつ八回掘り下げた時点で、M2基底部Aの下位相当である。円筒下層d2式の下半が二個体分である。14と15に接合した。いずれも円筒下層d2式である。

No.104はF78の直下から出土した。5 cmずつ八回掘り下げた時点であり、M2基底部B相当である。円筒下層d2式である。円筒下層d2式、12である。

No.111はF78の直下から出土した。5 cmずつ八回掘り下げた時点であり、M2基底部B相当である。円筒下層d2式の上半で縦半分である。円筒下層d1新段階から円筒下層d2式にかけての土器である。残存状態が悪く図化しなかった。

No.119はNo.104, 111との対比から、F78の直下、M2基底部B相当出土である。円筒下層d2式縦半分のみである。残存状態が悪く図化しなかった。

No.120はNo.104, 111との対比から、F78の直下、M2基底部B相当出土である。円筒下層d2式下半分である。円筒下層d2式で、肥厚した口縁部を持つ。残存状態が悪く図化しなかった。

No.121はNo.104, 111との対比から、F78の直下、M2基底部B相当出土である。円筒下層d2式上半縦半分のみである。円筒下層d2式で複数個体の破片が混じっていた。残存状態が悪く図化しなかった。

No.122はNo.104, 111との対比から、F78の直下、M2基底部B相当出土である。円筒下層d2式、19とまとまりのない破片である。破片から円筒下層d2式、18を復元した。

No.123はNo.104, 111との対比から、F78の直下、M2基底部B相当出土である。円筒下層d2式上半分である。円筒下層d1式古段階、16である。

No.126はNo.104, 111との対比から、F78の直下、M2基底部B相当出土である。円筒下層d2式の縦半分のみである。残存状態が悪く図化しなかった。

F78より下からNo.124・No.126が出土している。石皿で掲載番号624・626である。

焼骨片として、エイ・サメ類の椎骨 椎体5点、サメ類椎骨 椎体3点、ツノザメ目椎骨 椎体6点、ニシン科腹椎 椎体3点、ニシン科尾椎 椎体14点、コイ科尾椎 椎体1点、サケ科のものか歯が2点、カレイ科腹椎 椎体1点、アイナメ属腹椎 椎体1点、アイナメ属尾椎 椎体1点、アイナメ科腹椎 椎体1点、タイ科の歯6点、サバ属の腹椎 椎体2点、硬骨魚網の顎骨片1点、硬骨魚網の椎骨 椎体4点、硬骨魚網の部位不明片が数点、哺乳綱部位不明骨片が複数点、検出された。炭化物の中からはオニグルミ炭化核片111点、スギナ近似地下茎1点および同地下茎片5点、同定不能炭化種実片9点が検出された。

まとめて検出した動物や植物の遺存体や、検出状況からM4-3の形成途中にその場で焚かれた焼土と廃棄された焼土が両方混在している可能性がある。灰層は確認できなかった

時期 遺構の確認状況と遺物出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層d2式段階に形成されたものとする。(大泰司)

F79 (図Ⅲ-1-130、-3-43、図版53・142)

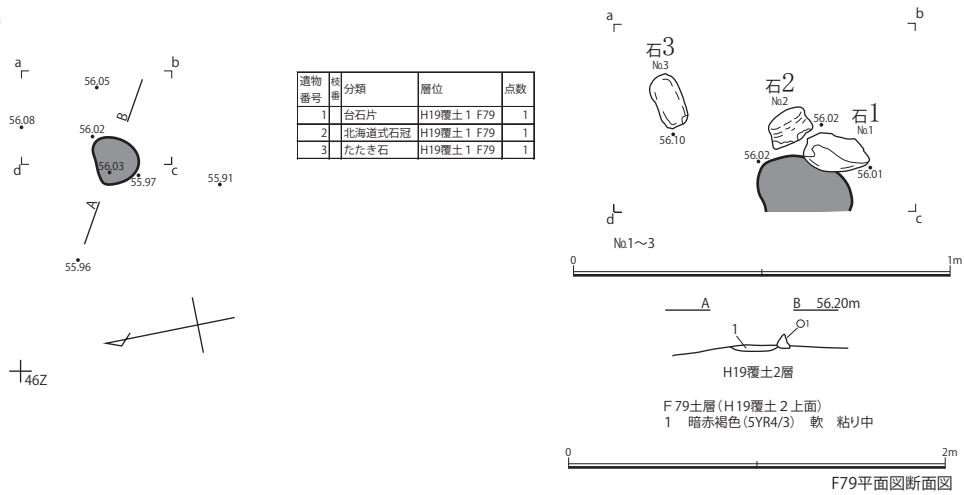
位置・立地 45Z区 調査区中央の平坦面のH19内

確認・調査 H19の2層上面を精査中に焼土を検出した。平面形は不整形である。焼成部分のみの検出で、その場で焚かれた焼土である。

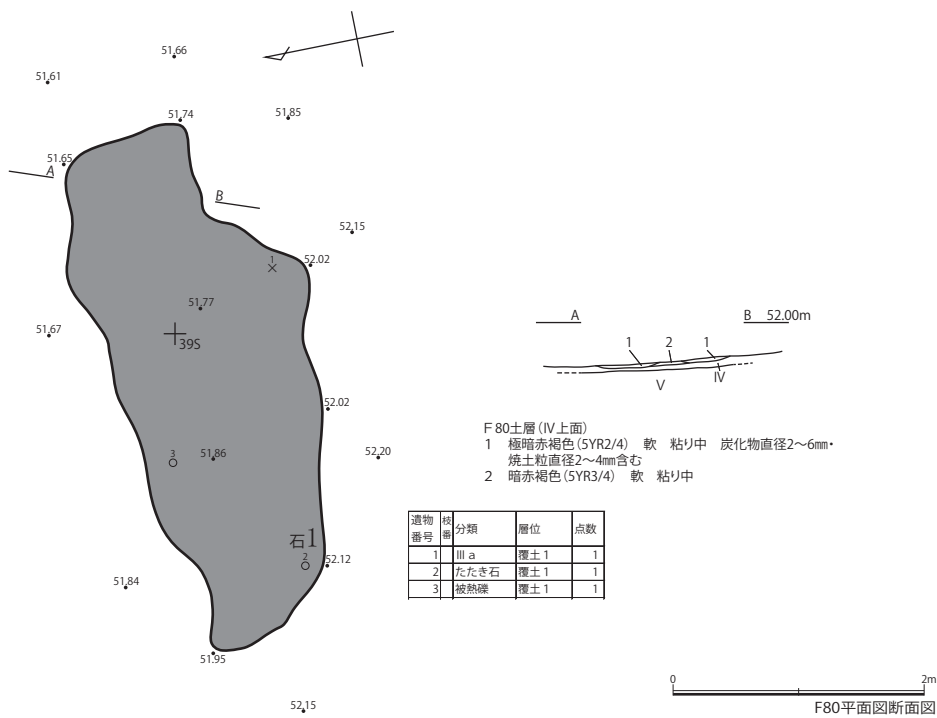
覆土 下限が漸移的な焼成部分を確認した。

遺物出土状況 F79からは3点の遺物出土があった。いずれもH19覆土中から、北海道式石冠、礫、

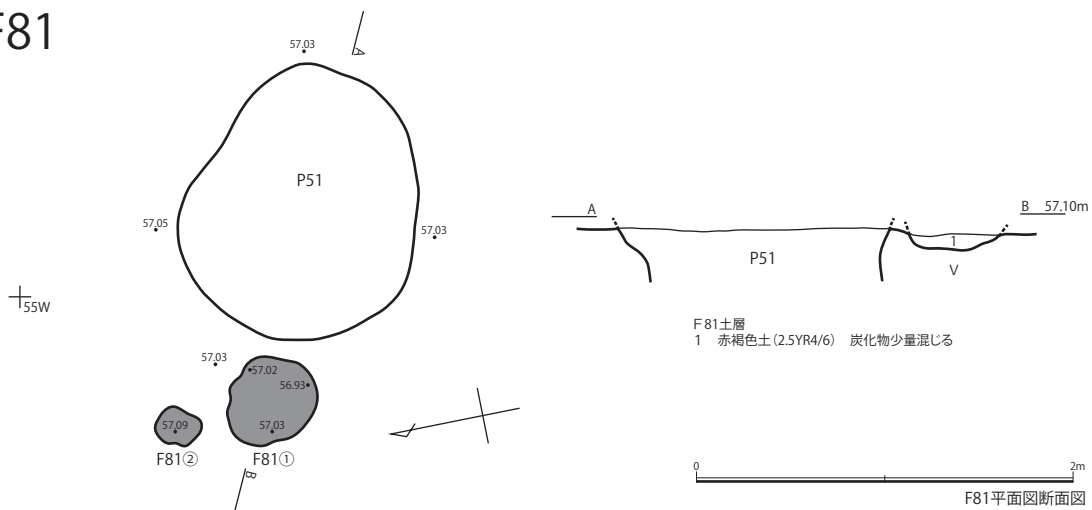
F79



F80

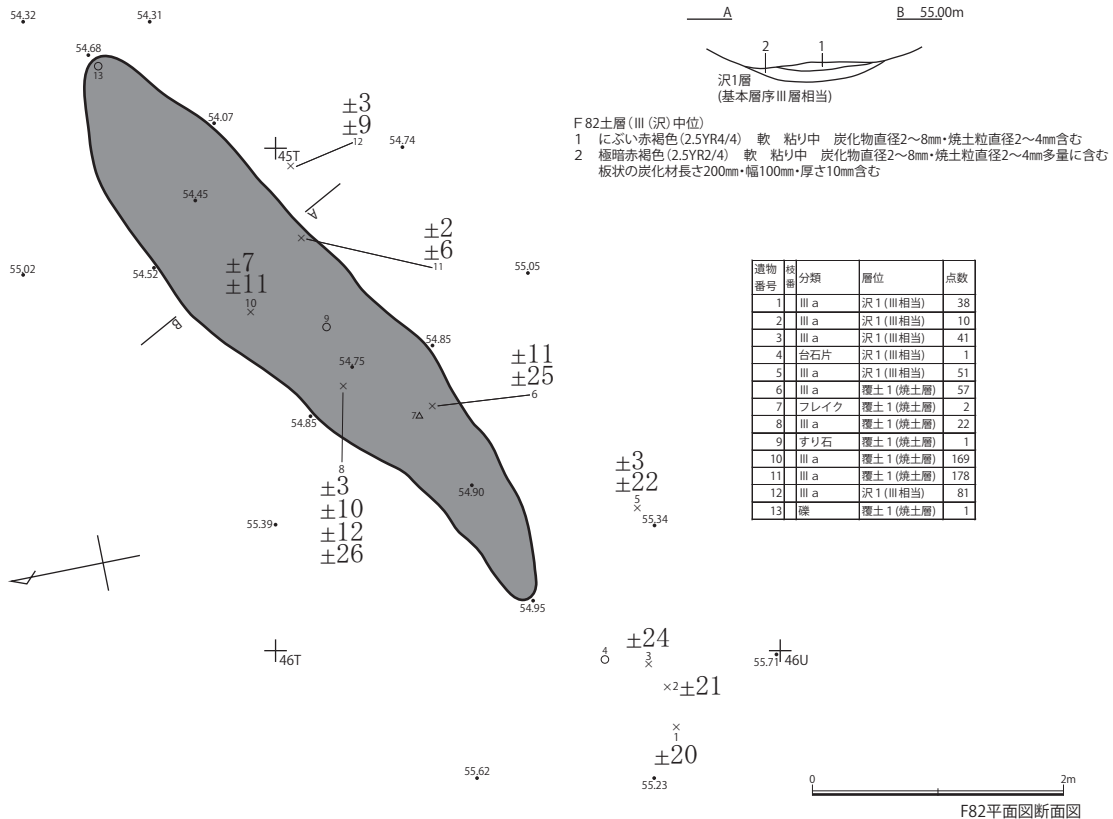


F81



図Ⅲ-1-130 F79平面図・土層断面図・遺物出土状況図・F80平面図・土層断面図・遺物出土状況図・F81平面図・土層断面図

F82



図Ⅲ-1-131 F 82平面図・土層断面図・遺物出土状況図

北海道式石冠未成品の可能性がほぼ焼土と同一検出面から出土した。

時期 H19より新しい。(佐藤) 縄文時代前期後半、円筒下層d2式古段階以降。(大泰司)

F80 (図Ⅲ-1-130)

位置・立地 38・39-R・S区 調査区北東側の斜面

確認・調査 Ⅲ層を約15cm下げたところ、焼土を検出した。平面形は不整形である。焼成部分の検出状況から、その場で焚かれた焼土である。

覆土 下限が漸移的な焼成部分を確認した。

遺物出土状況 3点関連している。Ⅲ群a類土器、たたき石、被熱礫が出土した。

時期 確認状況と出土遺物から縄文時代中期前半以降の可能性はある。(佐藤)

F81 (図Ⅲ-1-122・130)

位置・立地 55W区 標高 57m付近の平坦面

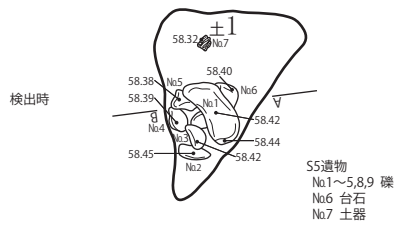
特徴 IV層下位からV層上面で赤褐色土を確認した。炭化物が少量みられたのと被熱した土壌が確認できたので、焼土と判断した。大小二か所からなる。炭化物が少量みられるが、明確な灰層または炭化物層はない。焼成面はIV層下位と考えられ、V層が被熱し赤褐色化している。

時期 不明であるが、遺構周辺の遺物出土状況から、縄文時代前期後半の焼土と推定される。(村田)

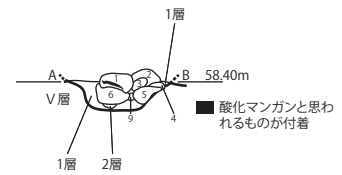
F82 (図Ⅲ-1-131、-2-77~80、-3-43、カラー図版12、図版53・119~122・142)

S5

73R

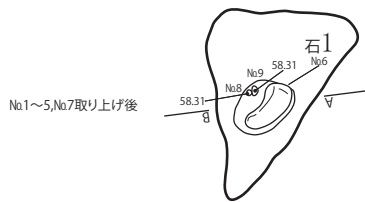


73S



S5土層
1 灰黄褐色土(10YR5/2) IIIとVが1:1で混在する
粒径1~2cmのロームブロック斑状に7%混じる
2 黒褐色土(10YR2/3) 木根攪乱
V 黄褐色土(10YR7/8)

73R

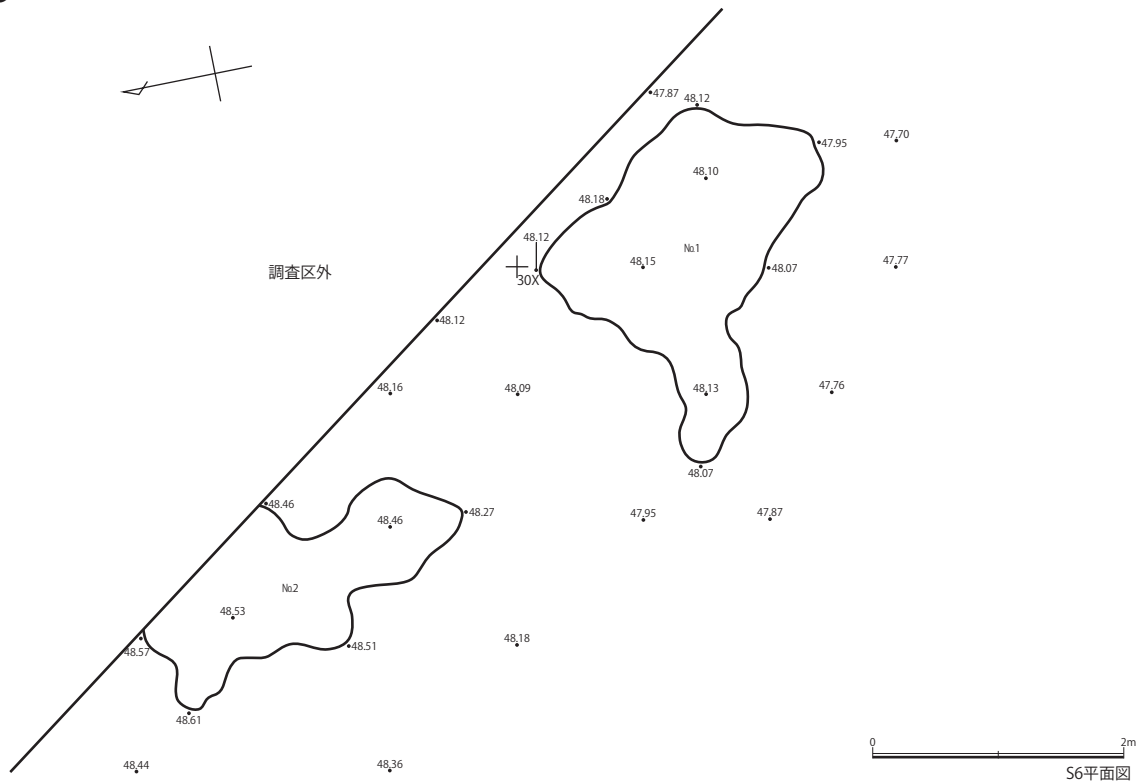


73S

遺物番号	図分類	層位	点数
1	礫	覆土1	1
2	礫	覆土1	1
3	礫	覆土1	1
4	礫	覆土1	1
5	礫	覆土1	1
6	台石	覆土1	1
7	III a	覆土1	1
8	礫	覆土1	1
9	礫	覆土1	1



S6



図Ⅲ-1-132 S5平面図・土層断面図・遺物出土状況図・S6平面図

位置・立地 44・45-S・T区 調査区北東側の沢地形

確認・調査 沢地形のⅢ層相当を約20cm下げたところ、焼土を検出した。平面形は沢地形に沿って帯形である。焼成部分が見られないことから動かされた焼土である。

覆土 炭化物粒と焼土粒を含み、層境は明瞭である。 (佐藤)

遺物出土状況 2043点の遺物出土があった。F82は縄文時代中期中葉サイベ沢Ⅶ式土器廃棄である。口径9～22cm、器高12～20cm、底径4～9cmと小型の深鉢で構成される。また中空の台付鉢や、丸底に成形した浅蜂に台をこしらえた器もある。小型の特殊器形の廃棄である。1点だけ、円筒上層d式大型深鉢を意図的に割って形を整えた可能性があるものが混じる(12)。

時期 確認状況と出土遺物から縄文時代中期中葉サイベ沢Ⅶ式の時期である。 (大泰司)

(5) 集石

S5 (図Ⅲ-1-132、-2-75、-3-43、図版53・119・142)

位置・立地 73-R・S区 標高58.4m付近の平坦面

特徴 V層上面で、P43を確認した。その同じ面において60cm東に灰黄褐色土の入り込みには礫がまとまって入り込んでいた。その平面形は不整な三角形をしている。切り割ったところ中礫が九個入り込んでいた。人為的な埋め戻しかどうか判然としなかった。周辺を調査した際、下の礫層からの礫がV層面まで上がっている状況がいくつかあったが、木根がらみの自然現象であった。今回は三角形の入り込みが下部の礫層まで到達していなかったため、人為の可能性があり、記録した。そばには円筒下層bから下層c式にかけての土坑墓P43がある。円筒上層d式の土器口縁部と同時に検出された。周辺からは、円筒下層b式から下層d式そして、円筒上層a式から上層d式が出土している。縄文時代前期後半から中期前半の可能性はある。

時期 遺構の確認状況と、周辺の出土遺物から判断するならば、縄文時代前期後半～中期前半の可能性はある。 (大泰司)

S6 (図Ⅲ-1-132、図版53)

位置・立地 29・30-W・X区 調査区東側の斜面

確認・調査 Ⅲ層を約15cm掘り下げたところ、近接する小礫のまとまりを二か所検出した。周辺に類似する遺構がないことから関連するものと考え、同一の遺構とした。 (佐藤)

遺物出土状況 S6はⅢ層に2866点の遺物が分布していた。円筒下層b式と思われる破片が混在していた。周辺からは円筒下層d式やⅣ群a類も出土している。

時期 混在する円筒下層b式の破片から、縄文時代前期後半以降の可能性はある。 (大泰司)

(6) 遺物集中

遺物集中8 (図Ⅲ-1-128)

位置・立地 78Q区 標高59.0m付近の緩斜面

特徴 77Q区Ⅳ層下位から78Q区Ⅳ層上位にかけて黒色土の入り込みを確認した。その平面形は不整な円形で、木根痕の可能性があった。また、78Q区のこの黒色土の平面形について西側半分には礫や土器が目立って分布していた。尚、礫と土器が散らばっていた部分は遺物集中8として遺物分布範囲を記録した。検出面はF63よりは上である。人為的に集められた遺物か、倒木時に遺物が集まるように動いたもの等自然の営力によるものかは判断できなかった。70点の遺物が分布していた。円筒下層d2式ないしはⅢ群a類円筒上層a式、又は上層d式と思われる破片が同時に検出されている。

時期 不明である。人為的なものであれば、遺構の確認状況と遺物集中8の遺物出土状況から判断すると、縄文時代前期後半以降の可能性はある。 (大泰司)

表Ⅲ-2 検出遺構一覧

遺構種類	遺構名	時期（土器型式細分）	調査開始日	調査区	確認面あるいは確認状況	備考
竪穴住居	H18	縄文時代前期後半、円筒下層d2式の頃。	7月9日	49~52-S ~V	I層	
竪穴住居	H19	縄文時代前期後半、円筒下層d2式の頃。	8月3日	46Z	I層からⅢ層下位にかけて	道路法面にて確認
竪穴住居	H20	縄文時代前期後半、円筒下層c式の頃。	8月5日	55S	M4盛土を掘り込む	ストレンヂにて検出・P45が同じ図面にあるH-20覆土焼土の図がある
竪穴住居	H21	縄文時代前期後半、円筒下層c式、あるいは、円筒下層d1式古段階古。	8月5日	59T	M4盛土を掘り込む	Aトレンヂにて検出
竪穴住居	H22	縄文時代前期後半、円筒下層d1式の時期。	8月5日	59U	M4盛土を掘り込む	Aトレンヂにて検出。H47より新しい。
竪穴住居	H23	縄文時代前期後半、円筒下層c式から下層d1式の直前の時期。	8月17日	54V	Ⅲ層	H41より新しい。P46より古い。
竪穴住居	H24	縄文時代中期前半、円筒上層d式～サイベⅦ式あるいはその直前の時期。	8月18日	47T	I層からⅢ層下位にかけて	焼失家屋的 材の年代から中期前葉か（中央大 小林謙一氏のご教授による）。P44より古い。
石囲炉を有する竪穴住居	H25	縄文時代前期後半、円筒下層d1式か直前の時期。石囲炉の属性によっては時期の変更もある。H33の記載参照。	8月18日	45W	I層からⅢ層下位にかけて	H40・53・54より新しい。石囲炉を有する。
石囲炉を有する竪穴住居	H26	縄文時代前期後半、円筒下層b2～c式の時期、あるいはその直前の時期。石囲炉の属性によっては時期の変更もある。H33の記載参照。	8月18日	45X	I層からⅢ層下位にかけて	石囲炉を有する。
石囲炉を有する竪穴住居	H27	縄文時代前期後半、円筒下層c式の時期	8月18日	46X	I層からⅢ層下位にかけて	P53の方が新しい。石囲炉を有する。
竪穴住居	H28	縄文時代前期後半、円筒下層c式の時期。	8月31日	47U	Ⅲ層上面からⅢ層下位にかけて	
竪穴住居	H29	縄文時代前期後半、円筒下層d1式古段階の時期。	9月1日	62S	M4-2層	M2層はこの住居の覆土から派生しているM4-2層およびV層上から掘り込み
竪穴住居	H30	縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の時期。	9月2日	37T	Ⅳ層上面	
竪穴住居	H31	縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の時期。	9月2日	36T	Ⅳ層上面	
竪穴住居	H32	縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の時期。	9月2日	35S	V層上面	
石囲炉を有する竪穴住居	H33	遺物の出土状況から、縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の時期。形状からは縄文時代中期後半。石囲炉の属性によってはH25・H26についても時期の変更がある。	9月3日	42U	Ⅲ層上面	H49より新しい。石囲炉を有する。
竪穴住居	H34	縄文時代前期後半、円筒下層下c式以降で円筒下層d1式新段階以前の時期か。	9月3日	64T	M2直下からV層にかけて	M2をはがしたら検出、平面形の一部V層上面で確認。H35より新しい。
竪穴住居	H35	縄文時代前期後半、円筒下層c式の時期。	9月6日	64S	M2直下からV層にかけて	M2をはがしたら検出、平面形の一部V層上面で確認。H34より古い。
竪穴住居	H36	縄文時代前期後半、円筒下層b2～c式段階ないしはその直前の時期。	9月9日	58-T~U	M2直下	
竪穴住居	H37	縄文時代前期後半、円筒下層b2式またはより古い時期。	9月14日	46S	Ⅲ層下位	H24やH28より古い
竪穴住居	H38	縄文時代前期後半、円筒下層d1式古段階あるいは直前。	9月15日	63~64-R	M2-2下位検出	M2-2掘り下げ時に検出。H50より新しい。
竪穴住居	H39	縄文時代前期後半、円筒下層c式段階である。	9月16日	62U	M2-2直下、Ⅳ層中	M2-2を剥がしたら検出、一部、Ⅳ層より検出。H46より新しく、H29より古い。
竪穴住居	H40	縄文時代前期後半、円筒下層下b1式かその直後の時期。	9月17日	45X	Ⅲ層下位	H25より古い
竪穴住居	H41	縄文時代前期後半、円筒下層b1式から下層b2式古段階くらいの時期。	9月22日	53-T~U	M2-3中	H23壁で確認 H51より古い。H23・51、P46より古い。M3・H18掘り上げ土より古く、M4盛土以前。
竪穴住居	H42	縄文時代前期後半、円筒下層b式以後、かつ、円筒下層d1式以後で下層d2式以前と考える。	9月28日	59~60-V	Ⅲ層中位	H47より新しい。
竪穴住居	H43	縄文時代前期後半、円筒下層b2式の頃と考える。	9月29日	40T	Ⅲ層下位	
竪穴住居	H44	縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の時期である。	9月29日	39~40-V	Ⅲ層下位	
竪穴住居	H45	縄文時代前期後半、円筒下層b式の前半と考える。	10月1日	48S	Ⅲ層下位	攪乱に切られる H24より古い。M5点取りの土器群より古い。
竪穴住居	H46	縄文時代前期後半、円筒下層b式の前半と考える。	10月2日	61S	M2より下からM4下位	M4-3検出時に確認。
竪穴住居	H47	縄文時代前期後半、円筒下層b式ころの住居。円筒下層d1式よりは古い。	10月5日	59V	M4下位からⅢ2層にかけて	M4下位 Ⅲ2層上面。H22、H42より古い。H22壁面で確認。
竪穴住居	H48	縄文時代前期後半、円筒下層b式の時期と考える。	10月12日	63S	M2-2より下	H35検出時に確認。H29・H35・H56より古い

館野6遺跡(2)

遺構種類	遺構名	時期	調査開始日	調査区	確認面	備考
竪穴住居	H49	縄文時代前期後半、円筒下層b式から下層c式にかけての時期あるいはその直後と考える。中期後半よりは古い。	10月13日	42V	Ⅲ層下位	H33より古い。
竪穴住居	H50	縄文時代前期後半、円筒下層b式の時期と考える。	10月13日	65R	V層上面で、M2-2より下	H38より古い、M2-2掘り下げ直後に検出
竪穴住居	H51	縄文時代前期後半、円筒下層c式直前と考える。円筒下層b式古手より新しい。	10月14日	53S	Ⅲ2層上面からM4-5にかけて	H41より新しい
竪穴住居	H52	縄文時代前期後半、円筒下層c式以後で、円筒下層d1式古段階以前。	10月15日	41-U~V	V層上面	
竪穴住居	H53	縄文時代前期後半、円筒下層b式以後、円筒下層d1式以前。	10月15日	44V	Ⅲ層下位	H25・H54より古い
竪穴住居	H54	縄文時代前期後半、円筒下層b式以後、円筒下層d1式以前である。	10月19日	43-V~W	Ⅲ層下位	H25より古い。H53より新しい
竪穴住居	H55	縄文時代前期後半、円筒下層b式の頃。	10月19日	42W	Ⅲ層下位	M6-2とH54・65・66より古く、H53より新しい。
竪穴住居	H56	縄文時代前期後半、円筒下層c式直前、円筒下層下b2式後半の時期。	10月19日	63R	M2-2下位	H29・38より古い。H48より新しい。
竪穴住居	H57	縄文時代中期初頭、円筒上層a式最古段階。	10月20日	84~86-P~Q	V層上面	調査区最西端
竪穴住居	H58	縄文時代中期初頭、円筒上層a式最古段階と考える。	10月20日	82~84-P~Q	V層上面	H57の東に隣接
竪穴住居	H59	縄文時代前期後半、円筒下層b式以後で、円筒下層c式より古い。	10月23日	62T	Ⅲ層下位	H29・39より古い H39壁面より検出
竪穴住居	H60	縄文時代前期後半、円筒下層b式以後だが、円筒下層b2式後半より古い。	10月23日	62Q	M2-2より下、M4-3より新しい	H38・56より古い
竪穴住居	H61	縄文時代前期後半、円筒下層下c式以前の可能性がある。	10月24日	82~83-Q	Ⅲ層下位	H58より古い。
竪穴住居	H62	縄文時代前期後半、円筒下層b式以後。	10月25日	61V	Ⅲ2層	風倒木によって壊される
竪穴住居	H63	縄文時代前期後半、円筒下層b式の時期。	10月27日	48T	Ⅲ層下位	H64より新しい。M5より古い。H24・28、P44より古い。
竪穴住居	H64	縄文時代前期後半、円筒下層b式の時期。	10月27日	48~49-T	Ⅲ層下位	M5より古い。H24・28・63、P44より古い。P59図と一緒に検出
竪穴住居	H65	縄文時代前期後半、円筒下層d1式の時期という可能性がある。	10月28日	42W	Ⅲ層下位	H66より新しい。M6盛土より新しい。
竪穴住居	H66	縄文時代前期後半、円筒下層b式から下層d1式直前の時期という可能性がある。	10月28日	42~43-W	Ⅲ層下位	M6-2層流れ込みあり H55より新しい。H65より古い。
竪穴住居	H67	縄文時代前期後半、円筒下層b2式だが前半である。	10月29日	48~49-S	Ⅲ層下位	M5より古い。

遺構種類	遺構名	時期	調査開始日	調査区	確認面	備考
土坑	P43	縄文時代前期後半、円筒下層b式から下層c式にかけての時期。	6月16日	73R	V層上面	
土坑	P44	縄文時代中期前葉以降のもの。	8月31日	47S	Ⅲ層上面	H24より新しい
土坑	P45	縄文時代前期後半、円筒下層d2式以降の時期。	9月4日	63T	M2直下からⅢ2層中位にかけて	H29より新しい。
土坑	P46	縄文時代前期後半、円筒下層c式、あるいは下層d1式より新しい。	10月1日	53U	M2-3上面	H23より新しい。H23はH41より新しい
土坑	P47	縄文時代中期前半、円筒上層d式の時期。	10月7日	37T	V層上面	底に土器
土坑	P48	縄文時代前期後半、円筒下層d1式以降の土坑という可能性がある。	10月7日	51V	V層上面	重機による遺構確認によって検出 P50F-8図と一緒に検出
土坑	P49	縄文時代前期後半、円筒下層c式以降の土坑の可能性がある。	10月7日	51X	V層上面	重機による遺構確認によって検出 P51図と一緒に検出
土坑	P50	縄文時代前期後半、円筒下層b式以降の土坑という可能性がある。	10月7日	53~54-W	V層上面	重機による遺構確認によって検出・フラスコ状土坑
土坑	P51	縄文時代前期後半、円筒下層b式以降の土坑という可能性がある。	10月8日	54W	V層上面	重機による遺構確認によって検出・フラスコ状土坑
土坑	P52	縄文時代前期後半、円筒下層b式以降の土坑で、円筒下層d2式中段階以降である。	10月22日	48~49-U	Ⅲ層下位	M5やH18掘り上げ土を切っている。H63より新しい。
土坑	P53	縄文時代前期後半、円筒下層b式以降で、下層c式以前の土坑という可能性がある。	10月26日	47X	Ⅲ層下位	H27(円筒下層c式の時期)より古い
土坑	P54	縄文時代前期後半、円筒下層b2式古段階の時期。	10月28日	81~82-Q	V層上面	H61の東側
土坑	P55	縄文時代前期後半、円筒下層b式の時期。	10月28日	56-U~V	V層上面	重機による遺構確認によって検出 P57-58図と一緒に検出
土坑	P56	縄文時代前期後半、円筒下層b2~c式期の土坑と考える。	10月28日	47Y	V層上面	H19掘り上げ土より下
土坑	P57	縄文時代前期後半、円筒下層b式以後の可能性がある。	10月28日	48Y	V層上面	重機による遺構確認によって検出

III 遺構の調査と出土遺物

遺構種類	遺構名	時期	調査開始日	調査区	確認面	備考
土坑	P58	不明である。縄文時代前期後半の可能性もある。	10月28日	48Z	V層上面	道路法面に確認・IV層
土坑	P59	縄文時代前期後半、円筒下層b1式以降で円筒下層b2式新段階以前の可能性がある。	10月28日	48S	Ⅲ層下位	H28（円筒下層c式の時期）より古い。M5より古い。
土坑	P60	縄文時代中期初頭、円筒上層a式より新しい時期の遺構。	11月4日	82-P~Q	Ⅲ層下位	H58覆土より新しい。

遺構種類	遺構名	時期（土器型式細分）	調査開始日	調査区	確認面	備考
おとし穴	TP7	円筒上層a式以降の時期。	10月21日	82~83-P	H58覆土中	H58の東壁を切る
焼土	F63	縄文時代前期後半以降の可能性はある。	6月25日	77Q	IV層下位	
焼土	F64	周辺からは縄文時代前期後半、円筒下層b2式から下層d2式、円筒上層a式から上層d式が出土している。縄文時代前期後半以降の可能性はある。	6月25日	79Q	IV層上面	
焼土	F65	縄文時代前期後半以降の可能性はある。	6月25日	75R	V層上面	
焼土	F66	縄文時代前期後半、円筒下層b2式前半頃の時期。	7月28日	54S	M4盛土Sライントレンチ中の焼土	ストレンチ5cm掘りで3回目。M4-4直下からの検出であり、F66直下の木根攪乱はM4盛土形成時のもので、より古いものである。
焼土	F67	縄文時代前期後半、円筒下層b2式から円筒下層b2~c式にかけての時期。円筒下層d1式より古い。縄文時代前期後半、円筒下層b1式よりは新しい。	7月29日	57S	M4盛土Sライントレンチ中の焼土	ストレンチ5cm掘りで4回目。焼土の上下にはM4-1が堆積する。
焼土	F68	縄文時代前期後半、円筒下層b2式新段階の時期。	7月29日	58S	M3盛土に関連。Sライントレンチ中の焼土	ストレンチ5cm掘りで5~7回目。上にはM2-3が堆積。直下にはM3が連続。M2-3は周囲の調査区と並行して掘り下げていたためM2-2として取り上げた遺物もある。平面的な差が無かった。
焼土	F69	縄文時代前期後半、円筒下層d1式新段階から、円筒下層d2式にかけて形成されたものと考え。複数回焚かれた可能性がある。	7月29日	60T	M2盛土より下から検出した竪穴住居H21覆土への遺物廃棄に伴う焼土。H21はM4盛土を掘りこんで構築。	ストレンチ5cm掘りで7~10回目。M3とその直上のM2-2にまたがって橙色味をおびていた。H21廃絶後のくぼみ。
焼土	F70	縄文時代前期後半、円筒下層b2式の新段階から円筒下層b2~c式にかけて形成された可能性がある。	7月30日	59S	M3からM4にかけての盛土部分、Sライントレンチ中の焼土	ストレンチ5cm掘りで8回目。一部明瞭に検出されたM3と、標高的にほぼ同一検出面であった。ただしこの土層に関してM3としたが、土層断面から他のM3とした土層より古い可能性。
焼土	F71	縄文時代前期後半、円筒下層c式以前、円筒下層b2式の段階に形成された可能性がある。	7月30日	56S	M4盛土Sライントレンチ中の焼土	ストレンチ5cm掘りで8回目。M4-5中~下位。
焼土	F72	縄文時代前期後半、円筒下層b2式段階に形成された可能性。	8月3日	54S	M3からM4にかけての盛土部分、Sライントレンチ中の焼土	ストレンチ5cm掘りで10回目。M3-2下位からM4-5上位。
焼土	F73	縄文時代前期後半、円筒下層b2~c式より古く、円筒下層b2式古手より新しいものと考え。	8月3日	58S	M4盛土Sライントレンチ中の焼土	ストレンチ5cm掘りで10回目。M4-3中の焼土。
焼土	F74	縄文時代前期後半、円筒下層b2式新段階から円筒下層b2~c式にかけて形成されたものと考え。	8月3日	59~60-S	M4盛土Sライントレンチ中の焼土	ストレンチ5cm掘りで10回目。M4-6上面。
焼土	F75	縄文時代前期後半、円筒下層b1式以降で、土層から縄文時代前期後半、円筒下層b2式古段階に近い。	8月3日	60S	M4盛土Sライントレンチ中の焼土	ストレンチ5cm掘りで11回目。M4-3下位
焼土	F76	縄文時代前期後半、円筒下層b1式新段階~縄文時代前期後半、円筒下層b2式古段階（遺物集中4に近い時期）に形成されたものと考え。	8月3日	61S	M4盛土Sライントレンチ中の焼土	ストレンチ5cm掘りで11回目。M4-3直下。攪乱にからむ。
焼土	F77	縄文時代前期後半、円筒下層b2式段階に形成された可能性がある。円筒下層b2式の可能性が高い。	8月4日	59S	M4盛土Sライントレンチ中の焼土。M4-6相当	ストレンチ5cm掘りで11回目。57~60S区にまたがっていた。M4-1~5下面。M4の基底部に普遍的に存在する焼土層M4-6をSライントレンチで確認したものの。
焼土	F78	縄文時代前期後半、円筒下層d2式段階に形成されたものと考え。	8月4日	62S	M2盛土下位から検出。H29覆土の遺物廃棄に伴う焼土。H29はM4盛土を掘りこんで構築。Sライントレンチ中の焼土	ストレンチ5cm掘りで7回目
焼土	F79	H19より新しい。縄文時代前期後半、円筒下層d2式古段階以降のもの。	8月31日	45Z	H19覆土2層上面	炉石的遺物出土状況
焼土	F80	縄文時代中期前半以降の可能性はある。	9月29日	39S	Ⅲ層下位~Ⅳ層	斜面
焼土	F81	縄文時代前期後半の可能性はある。	10月7日	55W	V層上面	
焼土	F82	縄文時代中期中葉、サイベ沢Ⅶ式の時期。	10月8日	45~46-S	沢1層（Ⅲ層相当）	
集石	S5	縄文時代前期後半から中期前半以降の可能性はある。	6月10日	73R	V層上面	
集石	S6	混在している円筒下層b2式との破片から、縄文時代前期後半以降の可能性はある。	6月25日	30W	Ⅲ層下位~Ⅳ層上面	
遺物集中	遺物集中8	縄文時代前期後半以降の可能性はある。	6月25日	78Q	Ⅲ層中位	

表Ⅲ-3 検出遺構規模一覧

() 現存長 — 不明 残存する最深

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)
	長軸	短軸	長軸	短軸	
住居本体	11.380	9.540	10.420	9.120	1.368
HP-1	0.514	0.514	—	—	0.670
HP-2	0.452	0.416	—	—	0.672
HP-3	0.434	0.372	—	—	0.560
HP-4	0.484	0.418	—	—	0.734
HP-5	0.518	0.466	—	—	0.688
HP-6	0.450	0.394	—	—	0.747
HP-7	0.536	0.428	—	—	0.674
HP-8	1.334	1.216	1.224	1.022	0.410
HP-9	0.456	0.416	—	—	0.748
HP-10	0.468	0.316	—	—	(0.484)
HP-11	0.342	0.330	—	—	0.538
HP-12	0.442	0.424	—	—	0.618
HP-13	0.510	0.408	—	—	0.534
HP-14	0.500	0.418	—	—	0.570
HP-15	0.528	0.366	—	—	(0.824)
HP-16	0.230	0.216	—	—	0.328
HP-17	0.390	0.318	—	—	0.772
HP-18	0.660	0.366	—	—	0.704
HP-19	0.346	0.254	—	—	0.534
HP-20	0.230	0.204	—	—	(0.608)
HP-21	0.248	0.200	—	—	0.280
HP-22	0.314	0.306	—	—	0.364
HP-23	0.432	0.406	—	—	0.494
HP-24	0.332	0.296	—	—	0.134
HP-25	0.134	0.126	—	—	0.354
HP-26	0.162	0.162	—	—	0.282
HP-27	0.234	0.234	—	—	0.394
HP-28	0.252	0.226	—	—	0.308
HP-29	0.364	0.288	—	—	0.214
HP-30	0.308	0.276	—	—	(0.588)
HP-31	0.400	0.234	—	—	0.558
HP-32	0.250	0.230	—	—	0.294
HP-33	0.224	0.198	—	—	0.432
HP-34	0.210	0.202	—	—	0.482
HP-35	0.674	0.358	—	—	0.422
HP-36	0.462	0.270	—	—	0.430
HP-37	0.720	0.594	0.590	0.500	0.068
HP-38	0.162	0.148	—	—	0.430
HP-39	0.172	0.172	—	—	0.282
HP-40	0.308	0.288	—	—	0.186
HP-41	0.444	0.352	—	—	1.286
HP-42	0.144	0.124	—	—	0.144
HP-43	0.190	0.168	—	—	0.454
HP-44	0.214	0.174	—	—	0.268

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)
	長軸	短軸	長軸	短軸	
住居本体	(6.340)	8.500	(6.200)	8.120	1.102
HF-1	0.994	0.824	—	—	0.092
HP-1	0.376	0.376	—	—	0.292
HP-2	0.428	0.366	—	—	0.404
HP-3	0.502	0.388	—	—	0.618
HP-4	0.428	0.342	—	—	0.700
HP-5	0.458	0.388	—	—	(0.316)
HP-6	0.500	0.426	—	—	0.678
HP-7	0.564	0.514	—	—	0.702
HP-8	0.338	0.286	—	—	0.316
HP-9	0.290	0.272	—	—	0.338
HP-10	0.402	0.386	—	—	0.694
HP-11	0.296	0.272	—	—	0.290
HP-12	0.282	0.260	—	—	0.402
HP-13	0.272	0.222	—	—	0.230
HP-14	0.308	0.260	—	—	0.336
HP-15	0.162	0.152	—	—	0.052
HP-16	0.270	0.264	—	—	0.118
HP-17	0.184	0.138	—	—	0.230
HP-18	0.804	0.620	0.646	0.500	0.260
HP-19	0.194	0.168	—	—	0.116
HP-20	0.266	0.266	—	—	0.096
床の溝幅最大値	—	0.260	—	0.176	0.290

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)
	長軸	短軸	長軸	短軸	
住居本体	8.050	7.000	7.660	6.680	0.840
HP-1	0.432	0.404	—	—	0.684
HP-2	0.258	0.244	—	—	0.384
HP-3	0.342	0.308	—	—	0.408
HP-4	0.246	0.230	—	—	0.424
HP-5	0.298	0.254	—	—	0.168
HP-6	0.428	0.348	—	—	0.308
HP-7	0.508	0.380	—	—	0.556
HP-8	0.374	0.248	—	—	0.176
HP-9	0.296	0.228	—	—	0.128
HP-10	0.232	0.200	—	—	0.310
HP-11	0.482	0.440	—	—	0.430
HP-12	0.366	0.334	—	—	0.696
HP-13	0.316	0.244	—	—	0.160
HP-14	0.312	0.258	—	—	0.218
HP-15	0.116	0.116	—	—	0.142
HP-16	0.152	0.150	—	—	0.250

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)
	長軸	短軸	長軸	短軸	
住居本体	6.320	5.520	6.260	5.400	1.140
ベンチの内側	—	—	4.870	4.160	0.150
HP-1	0.172	0.156	—	—	0.112
HP-2	0.172	0.164	—	—	0.160
HP-3	0.236	0.232	—	—	0.360
HP-4	0.396	0.336	—	—	0.344
HP-5	0.232	0.220	—	—	0.200
HP-6	0.236	0.220	—	—	0.244
HP-7	0.208	0.164	—	—	0.104
HP-8	0.164	0.140	—	—	0.064
HP-9	0.084	0.060	—	—	0.048
HP-10	0.112	0.100	—	—	0.024
HP-11	0.412	0.324	—	—	0.312
HP-12	0.588	0.376	—	—	0.248
HP-13	0.332	0.288	—	—	0.484
HP-14	0.364	0.296	—	—	0.376
HP-15	0.104	0.096	—	—	0.052
HP-16	0.392	0.308	—	—	0.400
HP-17	0.288	0.256	—	—	0.052
HP-18	0.376	0.324	—	—	0.056
HP-19	0.352	0.308	—	—	0.408
HP-20	0.196	0.204	—	—	0.800
HP-21	0.108	0.108	—	—	0.052
HP-22	0.272	0.248	—	—	0.208
HP-23	0.244	0.200	—	—	0.188
HP-24	0.212	0.156	—	—	0.144

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)
	長軸	短軸	長軸	短軸	
住居本体	4.384	3.968	4.104	3.856	0.756
主柱穴の内側	—	—	1.516	1.184	—
HP-1	0.444	0.364	—	—	0.592
HP-2	0.304	0.284	—	—	0.648
HP-3	0.244	0.196	—	—	0.276
HP-4	0.128	0.096	—	—	0.036
HP-5	0.288	0.256	—	—	0.556
HP-6	0.356	0.296	—	—	0.516
HP-7	0.200	0.152	—	—	0.320
HP-8	0.188	0.180	—	—	0.428

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)
	長軸	短軸	長軸	短軸	
住居本体	6.660	5.820	6.240	5.560	0.804
HF-1	0.952	0.702	—	—	0.118
HP-1	0.584	0.434	—	—	0.782
HP-2	0.540	0.350	—	—	0.736
HP-3	0.260	0.222	—	—	0.412
HP-4	0.142	0.112	—	—	0.486
HP-5	0.252	0.234	—	—	0.686
HP-6	0.184	0.160	—	—	0.434
HP-7	0.104	0.086	—	—	0.172
HP-8	0.168	0.140	—	—	0.144
HP-9	0.074	0.072	—	—	0.148
HP-10	0.226	0.210	—	—	0.458

Ⅲ 遺構の調査と出土遺物

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H24	住居本体	6.200	4.020	5.660	3.700	0.970
	HF-1	0.906	0.816	0.482	0.452	0.108
	HP-1	0.592	0.362	0.344	0.174	0.398
	HP-2	0.372	0.324	—	—	0.386
	HP-3	0.332	0.318	—	—	0.370
	HP-4	0.222	0.198	—	—	0.414
	HP-5	0.202	0.194	—	—	0.512
	HP-6	0.296	0.286	—	—	0.294
	HP-7	0.420	0.334	—	—	0.408
	床の溝幅最大値	—	0.134	—	0.072	0.052

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H25	住居本体	7.500	7.200	6.860	6.660	1.172
	HF-1	0.522	0.522	0.358	0.302	0.052
	HP-1	0.306	0.230	—	—	0.698
	HP-2	0.462	0.440	—	—	0.624
	HP-3	0.270	0.260	—	—	0.572
	HP-4	0.336	0.280	—	—	0.620
	HP-5	0.394	0.310	—	—	0.556
	HP-6	0.326	0.262	—	—	0.520
	HP-7	0.180	0.168	—	—	0.348
	HP-8	0.298	0.274	—	—	0.334
	HP-9	0.256	0.222	—	—	0.232
	HP-10	0.112	0.094	—	—	0.158
	HP-11	0.236	0.196	—	—	0.314
	HP-12	0.194	0.158	—	—	0.106
	HP-13	0.194	0.178	—	—	0.284
	HP-14	0.414	0.406	—	—	0.146
	HP-15	0.390	0.296	—	—	0.160
	HP-16	0.276	0.272	—	—	0.130
	床の溝幅最大値	—	0.090	—	0.052	0.012

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H26	住居本体	6.000	5.900	5.660	5.360	1.008
	HF-1	0.460	0.456	0.304	0.304	0.052
	HF-2	0.728	0.512	0.526	0.336	0.064
	HF-2焼土規模	1.142	0.762	—	—	0.022
	HP-1	0.304	0.266	—	—	0.556
	HP-2	0.272	0.252	—	—	0.610
	HP-3	0.418	0.368	—	—	1.028
	HP-4	0.420	0.384	—	—	0.992
	HP-5	0.278	0.266	—	—	0.600
	HP-6	0.368	0.332	—	—	0.590
	HP-7	0.306	0.274	—	—	0.482
	HP-8	0.330	0.304	—	—	0.470
	HP-9	0.334	0.314	—	—	0.354
	HP-10	0.320	0.194	—	—	0.924
	HP-11	0.224	0.198	—	—	0.268
	HP-12	0.212	0.202	—	—	0.858
	HP-13	0.244	0.240	—	—	0.656
	HP-14	0.210	0.198	—	—	0.530
	HP-15	0.250	0.204	—	—	0.268
	HP-16	0.186	0.172	—	—	0.252
	HP-17	0.402	0.320	—	—	0.584
	HP-18	0.230	0.172	0.380	—	0.166
	HP-19	0.530	0.324	—	0.210	0.104

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H27	住居本体	6.800	6.320	6.500	6.020	0.866
	HF-1	0.656	0.606	0.524	0.480	0.076
	HF-1焼土規模	1.740	1.676	—	—	0.018
	HP-1	0.430	0.402	—	—	0.600
	HP-2	0.408	0.380	—	—	0.696
	HP-3	0.468	0.436	—	—	0.598
	HP-4	0.300	0.284	—	—	0.754
	HP-5	0.386	0.386	—	—	0.500
	床の溝幅最大値	—	0.156	—	0.100	0.084

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H28	住居本体	7.800	7.100	7.260	6.700	1.480
	HP-1	0.598	0.276	—	—	0.560
	HP-2	0.318	0.234	—	—	0.572
	HP-3	0.398	0.268	—	—	0.560
	HP-4	0.506	0.242	—	—	0.422
	HP-5	0.270	0.188	—	—	0.302
	HP-6	0.364	0.248	—	—	0.400
	HP-7	0.354	0.242	—	—	0.418
	HP-8	0.360	0.252	—	—	0.298
	HP-9	0.316	0.198	—	—	0.318
	HP-10	0.230	0.144	—	—	0.196
	HP-11	0.208	0.154	—	—	0.262
	床の溝幅最大値	—	0.200	—	0.090	0.106

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H29	住居本体	7.680	6.510	7.200	6.160	1.020
	主柱穴の内側	—	—	3.456	2.524	—
	HP-1	0.232	0.200	—	—	0.172
	HP-2	0.392	0.372	—	—	0.632
	HP-3	0.208	0.140	—	—	0.056
	HP-4	0.224	0.120	—	—	0.028
	HP-5	0.232	0.204	—	—	0.108
	HP-6	0.436	0.400	—	—	0.452
	HP-7	0.180	0.180	—	—	0.132
	HP-8	0.220	0.200	—	—	0.048
	HP-9	0.300	0.244	—	—	0.128
	HP-10	0.252	0.228	—	—	0.196
	HP-11	0.172	0.164	—	—	0.096
	HP-12	0.588	0.588	—	—	0.532
	HP-13	0.304	0.264	—	—	0.068
	HP-14	0.208	0.192	—	—	0.036
	HP-15	0.228	0.208	—	—	0.148
	HP-16	0.200	0.176	—	—	0.272
	HP-17	0.248	0.248	—	—	0.112
	HP-18	0.324	0.288	—	—	0.372
	HP-19	0.252	0.236	—	—	0.300
	HP-20	0.212	0.192	—	—	0.360
	HP-21	0.192	0.184	—	—	0.392
	HP-22	0.196	0.164	—	—	0.152
	HP-23	0.224	0.188	—	—	0.300
	HP-24	0.220	0.212	—	—	0.328
	HP-25	0.128	0.112	—	—	0.412
	HP-26(1)	0.172	0.112	—	—	0.452
	HP-26(2)	0.200	0.124	—	—	0.248
	HP-27	0.164	0.116	—	—	0.446
	HP-28	0.118	0.100	—	—	0.212
	HP-29	0.204	0.218	—	—	0.176
	HP-30	0.276	0.228	—	—	0.220
	HP-31	0.212	0.212	—	—	0.184
	HP-32(1)	0.220	0.176	—	—	0.464
	HP-32(2)	0.140	0.124	—	—	0.320
	HP-33	0.172	0.172	—	—	0.300
	HP-34	0.200	0.156	—	—	0.456
	HP-35	0.256	0.172	—	—	0.376
	HP-36	0.280	0.148	—	—	0.508
	HP-37	0.200	0.100	—	—	0.196
	HP-38	0.136	0.076	—	—	0.120
	HP-39	0.324	0.244	—	—	0.356
	HP-40	0.152	0.152	—	—	0.256

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H30	住居本体	5.020	4.440	4.800	4.140	7.820
	HF-1	1.788	1.612	1.602	1.384	0.196
	HP-1	0.242	0.224	—	—	0.392
	HP-2	0.204	0.176	—	—	0.160
	HP-3	0.246	0.246	—	—	0.462
	HP-4	0.288	0.274	—	—	0.484
	HP-5	0.166	0.158	—	—	0.204

館野6遺跡(2)

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H31	住居本体	5.420	5.140	5.060	4.920	0.952
	HF-1	0.596	0.448	0.370	0.240	0.042
	HP-1	0.298	0.260	—	—	0.462
	HP-2	0.290	0.278	—	—	0.350
	HP-3	0.256	0.216	—	—	0.286
	HP-4	0.260	0.244	—	—	0.304
	HP-5	0.220	0.194	—	—	0.062
	HP-6	0.138	0.136	—	—	0.250
床の溝幅最大値	—	0.106	—	0.068	0.138	

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H32	住居本体	(3.500)	(4.260)	(3.360)	(4.140)	0.546
	HF-1	0.904	0.818	0.556	0.484	0.180
	HP-1	0.258	0.250	—	—	0.378
	HP-2	0.358	0.234	—	—	0.480
	HP-3	0.280	0.280	—	—	0.490
	HP-4	0.242	0.206	—	—	0.318

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H33	住居本体	4.900	3.600	4.640	3.200	0.496
	HF-1	0.702	0.582	0.522	0.368	0.076
	HF-2	(0.384)	0.532	(0.328)	0.408	0.028
	HP-1	0.178	0.142	—	—	0.224
	HP-2	0.206	0.188	—	—	0.438
	HP-3	0.174	0.170	—	—	0.364
	HP-4	0.152	0.108	—	—	0.276
	HP-5	0.234	0.184	—	—	0.354
	HP-6	0.172	0.146	—	—	0.240
	HP-7	0.222	0.202	—	—	0.188
	HP-8	0.152	0.126	—	—	0.166
	HP-9	0.150	0.140	—	—	0.152
	HP-10	0.470	0.428	0.302	0.272	0.152
	HP-11	0.480	0.368	0.312	0.204	0.158
床の溝幅最大値	—	0.134	—	0.106	0.018	

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H34	住居本体	5.996	4.856	5.824	4.668	0.512
	主柱穴の内側	—	—	2.300	1.368	—
	HP-1	0.216	0.164	—	—	0.428
	HP-2	0.304	0.296	—	—	0.588
	HP-3	0.304	0.240	—	—	0.080
	HP-4	0.208	0.180	—	—	0.496
	HP-5	0.260	0.256	—	—	0.480
	HP-6	0.316	0.296	—	—	0.052
	HP-7	0.660	0.580	—	—	0.208
	HP-8	0.320	0.260	—	—	0.420
	HP-9	0.136	0.120	—	—	0.168
	HP-10	0.452	0.328	—	—	0.392
	HP-11	0.320	0.248	—	—	0.540
	HP-12	0.168	0.136	—	—	0.124
	HP-13	0.260	0.244	—	—	0.516
	HP-14	0.092	0.088	—	—	0.080
	HP-15	0.140	0.120	—	—	0.040
HP-16	0.216	0.204	—	—	0.344	

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H35	住居本体	4.712	4.612	4.408	4.224	0.564
	主柱穴の内側	—	—	1.496	1.204	—
	HP-1	0.184	0.160	—	—	0.036
	HP-2	0.244	0.244	—	—	0.030
	HP-3	0.252	0.216	—	—	0.092
	HP-4	0.264	0.248	—	—	0.500
	HP-5	0.256	0.252	—	—	0.080
	HP-6	0.248	0.220	—	—	0.400
	HP-7	0.240	0.200	—	—	0.552
	HP-8	0.248	0.224	—	—	0.496
	HP-9	0.232	0.228	—	—	0.144
	HP-10	0.236	0.212	—	—	0.228
	HP-11	0.300	0.260	—	—	0.396
	HP-12	0.188	0.184	—	—	0.144
	HP-13	0.236	0.224	—	—	0.196
	HP-14	0.248	0.224	—	—	0.500
	HP-15	0.236	0.220	—	—	0.044
HP-16	0.540	0.092	—	—	0.044	

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H36	住居本体	4.800	4.390	5.044	4.510	0.960
	主柱穴の内側	—	—	0.232	0.209	—
	HP-1	0.336	0.296	—	—	0.712
	HP-2	0.284	0.298	—	—	0.700
	HP-3	0.220	0.196	—	—	0.532
	HP-4	0.244	0.240	—	—	0.452
	HP-5	0.160	0.136	—	—	0.268
	HP-6	0.404	0.360	—	—	0.116
	HP-7	0.164	0.148	—	—	0.040
	HP-8	0.088	0.080	—	—	0.012
	HP-9	0.372	0.216	—	—	0.040
HP-10	0.096	0.088	—	—	0.032	

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H37	住居本体	5.400	—	5.100	(3.800)	0.410
	HF-1	0.980	0.568	0.864	0.484	0.078
	HP-1	0.262	0.246	0.176	0.154	0.410
	HP-2	0.188	0.182	0.088	0.102	0.372
	HP-3	0.308	0.262	0.216	0.176	0.518
	HP-4	0.252	0.228	0.162	0.154	(0.542)
	HP-5	0.222	0.224	0.106	0.110	0.554
	HP-6	0.362	0.358	0.204	0.192	0.416
	HP-7	0.174	0.166	0.100	0.116	0.260
	HP-8	0.250	0.242	0.180	0.150	0.440
	HP-9	0.264	0.242	0.150	0.152	0.394
	HP-10	0.266	0.216	0.124	0.112	0.192
	HP-11	0.334	0.306	0.196	0.200	0.588
	HP-12	0.326	0.258	0.216	0.184	0.368
	HP-13	0.302	0.276	0.190	0.180	0.452
HP-14	0.218	0.194	0.122	0.110	0.304	
床の溝幅最大値	—	0.142	—	0.052	(0.032)	

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H38	住居本体	(3.816)	5.556	(3.632)	5.244	0.852
	主柱穴の内側	—	—	2.728	2.524	—
	HP-1	0.312	0.308	—	—	0.524
	HP-2	0.432	0.432	—	—	0.156
	HP-3	0.476	0.420	—	—	0.704
	HP-4	0.180	0.180	—	—	0.364
	HP-5	0.220	0.220	—	—	0.320
	HP-6	0.176	0.152	—	—	0.416
	HP-7	0.200	0.188	—	—	0.412
	HP-8	0.408	0.368	—	—	0.768
	HP-9	0.196	0.180	—	—	0.284
	HP-10	0.172	0.164	—	—	0.236
	HP-11	0.232	0.220	—	—	0.068
	HP-12	0.168	0.144	—	—	0.220
	HP-13	0.200	0.136	—	—	0.076
	HP-14	0.184	0.116	—	—	0.224
	HP-15	0.340	0.176	—	—	0.416
	HP-16	0.232	0.176	—	—	0.328
	HP-17	0.180	0.176	—	—	0.196
	HP-18	0.160	0.116	—	—	0.188
	HP-19	0.364	0.324	—	—	0.096
	HP-20	0.292	0.276	—	—	0.300
	HP-21	0.128	0.108	—	—	0.296
	HP-22	0.124	0.060	—	—	0.168
HP-23	0.100	0.056	—	—	0.200	
HP-24	0.088	0.020	—	—	0.048	

III 遺構の調査と出土遺物

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H39	住居本体	6.040	5.724	5.788	5.276	0.972
	主柱穴の内側	—	—	2.160	1.990	—
	HP-1	0.216	0.200	—	—	0.032
	HP-2	0.260	0.244	—	—	0.052
	HP-3	0.380	0.284	—	—	0.256
	HP-4	0.164	0.160	—	—	0.072
	HP-5	0.224	0.168	—	—	0.080
	HP-6	0.324	0.252	—	—	0.200
	HP-7	0.180	0.176	—	—	0.028
	HP-8	0.428	0.344	—	—	0.528
	HP-9	0.328	0.320	—	—	0.048
	HP-10	0.208	0.204	—	—	0.048
	HP-11	0.220	0.200	—	—	0.356
	HP-12	0.220	0.204	—	—	0.088
	HP-13	0.180	0.164	—	—	0.152
	HP-14	0.536	0.384	—	—	0.620
	HP-15	0.408	0.344	—	—	0.084
	HP-15(砂ビット)	0.152	0.084	—	—	0.032
	HP-16	0.352	0.296	—	—	0.032
	HP-17	0.256	0.216	—	—	0.264
	HP-18	0.284	0.268	—	—	0.536
	HP-19	0.308	0.272	—	—	0.076
	HP-20	0.408	0.336	—	—	0.140
	HP-21	0.240	0.208	—	—	0.048
	HP-22	0.336	0.320	—	—	0.128
	HP-23	0.376	0.360	—	—	0.644
	HP-24	0.376	0.360	—	—	0.156
	HP-25	0.308	0.260	—	—	0.432
	HP-26	1.220	0.136	—	—	0.128
HP-27	0.576	0.164	—	—	0.112	
HP-28	0.344	0.168	—	—	0.116	
HP-29	1.320	1.004	—	—	0.080	
遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H40	住居本体	3.280	0.440	2.800	0.240	0.562
	床の溝幅最大値	—	0.038	—	0.014	0.034
遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H41	住居本体	(4.950)	4.790	4.540	4.420	0.910
	HP-1	0.160	0.156	—	—	0.104
	HP-2	0.448	0.202	—	—	0.368
	HP-3	0.320	0.278	—	—	0.392
	HP-4	0.392	0.328	—	—	0.364
	HP-5	0.230	0.220	—	—	0.236
	HP-6	0.428	0.332	—	—	0.436
	HP-7	0.454	0.392	—	—	0.626
	HP-8	0.530	0.518	—	—	0.178
遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H42	住居本体	4.748	(0.964)	4.608	(0.832)	0.804
遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H43	住居本体	5.440	(4.120)	5.260	(3.940)	0.462
	HP-1	0.324	0.300	—	—	0.604
	HP-2	0.270	0.244	—	—	0.596
	HP-3	0.280	0.280	—	—	(0.418)
	HP-4	0.518	0.342	—	—	(0.476)
	HP-5	0.280	0.278	—	—	0.594
	HP-6	0.288	0.250	—	—	0.484
	HP-7	0.218	0.196	—	—	0.304
遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H44	住居本体	3.960	3.300	3.640	3.100	0.490
	HP-1	0.400	0.358	—	—	0.460
	HP-2	0.128	0.114	—	—	0.172
遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H45	住居本体	(4.600)	(4.940)	(4.140)	(4.660)	0.902
	HF-1	(0.522)	(0.438)	(0.478)	(0.318)	0.054
	HP-1	(0.676)	(0.192)	(0.344)	(0.090)	0.220
	床の溝幅最大値	—	0.200	—	0.140	0.100

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H46	住居本体	(6.760)	(3.200)	(6.600)	2.880	0.760
	主柱穴の内側	—	—	1.384	3.804	—
	HP-1	0.492	0.384	—	—	0.536
	HP-2	0.904	0.664	—	—	0.072
	HP-2HPP-1	0.148	0.140	—	—	0.122
	HP-3	0.404	0.364	—	—	0.592
	HP-4	0.552	0.392	—	—	0.276
	HP-5	0.388	0.352	—	—	0.540
	HP-6	0.456	0.368	—	—	0.256
	HP-7	0.348	0.320	—	—	0.360
HP-8	0.468	0.396	—	—	0.472	
HP-9	0.476	(0.376)	—	—	0.036	

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H47	住居本体	4.860	(3.700)	4.736	(3.596)	0.432
	主柱穴の内側	—	—	1.788	—	—
	HP-1	0.280	0.236	—	—	0.380
HP-2	0.216	0.196	—	—	0.420	

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H48	住居本体	(4.748)	(1.760)	(4.544)	(1.630)	0.732
	主柱穴の内側	—	—	2.116	—	—
	HP-1	0.300	0.280	—	—	0.364
	HP-2	0.274	0.268	—	—	0.380

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H49	住居本体	0.510	4.340	4.900	4.060	0.400

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H50	住居本体	(1.972)	(1.664)	(1.456)	(1.584)	0.700

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H51	住居本体	6.270	—	5.860	—	0.650
	HP-1	0.246	0.214	—	—	0.524
	HP-2	0.362	0.332	—	—	0.590
	HP-3	0.092	0.068	—	—	0.072
	HP-4	0.260	0.232	—	—	0.334
	HP-5	0.336	0.298	—	—	0.400
	HP-6	0.302	0.300	—	—	0.336
	HP-7	0.262	0.248	—	—	0.370
	HP-8	0.206	0.182	—	—	0.330
	HP-9	0.152	0.118	—	—	0.064
	HP-10	0.174	0.174	—	—	0.168
	HP-11	0.158	0.150	—	—	0.100
	HP-12	0.272	0.230	—	—	0.244
HP-13	0.106	0.104	—	—	0.142	

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H52	住居本体	4.700	3.620	4.400	3.440	0.544
	HF-1	0.722	0.562	0.356	0.300	0.086
	HP-1	0.232	0.200	—	—	0.484
	HP-2	0.244	0.212	—	—	0.334
	HP-3	0.228	0.200	—	—	0.526
	HP-4	0.196	0.176	—	—	0.556
HP-5	0.232	0.218	—	—	0.164	

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H53	住居本体	(7.880)	6.100	(7.600)	(5.940)	0.360
	HF-1	0.592	0.592	0.450	0.446	0.076
	HP-1	0.260	0.222	—	—	0.486
	HP-2	0.254	0.238	—	—	0.234
	HP-3	0.160	0.146	—	—	0.236
	HP-4	0.286	0.274	—	—	(0.310)
HP-5	0.260	0.216	—	—	(0.220)	
HP-6	0.260	0.232	—	—	(0.122)	

館野6遺跡(2)

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H54	住居本体	4.920	4.600	4.540	4.320	0.062
	HF-1	0.694	0.632	0.530	0.490	0.024
	HF-1焼土規模	1.252	0.890	—	—	0.088
	HP-1	0.358	0.294	—	—	0.678
	HP-2	0.252	0.238	—	—	0.492
	HP-3	0.312	0.262	—	—	0.720
	HP-4	0.250	0.238	—	—	0.398
	HP-5	0.242	0.208	—	—	0.510
	HP-6	0.240	0.230	—	—	0.762
HP-7	0.104	0.092	—	—	0.088	

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H55	住居本体	5.300	(1.200)	4.940	(0.900)	0.426

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H56	住居本体	4.320	(2.828)	3.964	(2.524)	0.336
	主柱穴の内側	—	—	—	—	—
	HP-1	0.280	0.240	—	—	0.184
	HP-2	0.296	0.264	—	—	0.376
	HP-3	0.236	0.212	—	—	0.336
	HP-4	0.172	0.164	—	—	0.112
	HP-5	0.200	0.164	—	—	0.152
	HP-6	0.192	0.168	—	—	0.256
	HP-7	0.268	0.216	—	—	0.248
	HP-8	0.272	0.252	—	—	0.216
	HP-9	0.232	0.232	—	—	0.140
	HP-10	0.252	0.204	—	—	0.112
	HP-11	0.288	0.216	—	—	0.328
	HP-12	(1.156)	0.232	—	—	0.080
	HP-13(1)	0.564	0.172	—	—	0.180
	HP-13(2)	0.252	0.176	—	—	0.328
	HP-14	0.204	0.188	—	—	0.212
HP-15	0.332	0.120	—	—	0.068	
HP-16	(1.130)	0.164	—	—	0.140	

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H57	住居本体	(1.600)	(7.700)	(1.600)	(5.600)	0.880
	HF-1	0.736	0.718	0.574	0.614	0.102
	HF-2	0.698	0.400	0.652	0.384	0.088
	HP-1	0.402	0.394	—	—	0.378
	HP-2	0.376	0.342	—	—	0.394
	HP-3	0.450	0.384	—	—	0.446
	HP-4	0.410	—	0.220	(0.248)	0.699
	HP-5	0.652	(0.466)	0.538	(0.400)	0.368
	HP-6	(0.444)	0.412	(0.418)	0.284	0.006
	HP-7	0.298	0.276	—	—	(0.068)
	HP-8	0.320	0.108	—	—	0.550
	HP-9	0.410	0.334	—	—	0.278
HP-10	0.420	0.374	—	—	0.342	
HP-11	0.302	(0.184)	—	—	0.086	

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H58	住居本体	(3.250)	(9.100)	(1.900)	(6.300)	0.900
	HF-1	(0.496)	(0.114)	—	—	0.054
	HP-1	0.844	0.580	0.344	0.366	0.678
	HP-2	0.494	0.412	0.348	0.322	(0.562)
	HP-3	0.704	0.542	0.500	0.494	(0.628)
	HP-4	0.826	0.662	0.570	0.482	(0.566)
	HP-5	0.674	0.556	0.268	0.260	(0.794)
	HP-6	0.616	0.506	0.442	0.328	0.399
	HP-7	0.598	0.430	0.250	0.222	0.352
	HP-8	0.340	0.262	—	—	0.510
	HP-9	0.296	0.262	—	—	0.096
HP-10	0.180	0.154	—	—	0.355	

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H59	住居本体	(1.460)	(1.040)	(1.200)	(0.910)	0.300

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H60	住居本体	4.300	3.908	(3.440)	(3.184)	0.836
	主柱穴の内側	—	—	1.948	(1.200)	—
	砂分布範囲	—	—	1.388	(0.524)	—
	HP-1	0.488	0.364	—	—	0.356
	HP-2	0.170	0.124	—	—	0.108
	HP-3	0.232	0.220	—	—	0.196
	HP-4(1)	1.840	1.560	—	—	0.068
	HP-4(2)	1.440	0.120	—	—	0.040
	HP-5	1.920	1.520	—	—	0.300
HP-6	0.380	0.276	—	—	0.532	

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H61	住居本体	3.060	(1.800)	2.800	(1.500)	0.570
	HP-1	0.336	0.278	—	—	0.293
	HP-2	0.188	(0.144)	—	—	0.330
	HP-3	0.202	0.218	—	—	0.418
	HP-4	0.166	(0.116)	—	—	0.370
	HP-5	0.212	(0.114)	—	—	0.200
	HP-6	0.176	0.156	—	—	0.350
溝	(2.186)	0.198	(1.908)	0.098	0.081	

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H62	住居本体	5.512	(3.656)	5.128	(2.668)	0.868
	主柱穴の内側	—	—	2.088	1.424	—
	砂分布範囲	—	—	1.692	1.424	—
	HP-1	0.304	0.236	—	—	0.504
	HP-2	0.284	0.240	—	—	0.200
	HP-3	0.340	0.316	—	—	0.504
	HP-4	0.252	0.232	—	—	0.184
	HP-5	0.188	0.112	—	—	0.156
	HP-6	0.372	0.300	—	—	0.092
	HP-7	0.460	0.356	—	—	0.424
	HP-8	0.164	0.116	—	—	0.040
HP-9	0.104	0.084	—	—	0.208	
HP-10	(0.260)	0.284	—	—	0.516	

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H63	住居本体	4.560	2.380	4.300	2.140	0.386
	HP-1	0.166	0.156	0.072	0.066	0.128
	床の溝幅最大値	—	0.114	—	0.074	0.080

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H64	住居本体	6.700	5.300	6.340	5.000	0.280
	HF-1	0.876	0.702	0.662	0.438	0.014
	HF-1焼土規模	1.282	0.964	—	—	0.012
	HP-1	0.328	0.308	0.140	0.156	0.472
	HP-2	0.472	0.436	0.150	0.150	0.494
	HP-3	0.384	0.294	0.168	0.160	0.606
	HP-4	0.404	0.404	0.266	0.256	(0.344)
	HP-5	0.224	0.200	0.078	0.070	(0.630)
	HP-6	0.276	0.222	0.132	0.122	0.384
	HP-7	0.452	0.432	0.432	0.254	0.476
HP-8	0.264	0.216	0.156	0.134	(0.458)	

遺構名	確認検出面(m)		床面ないしは坑底(m)		深さ(m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H65	住居本体	2.704	2.658	2.376	2.364	0.546
	HP-1	0.218	0.136	—	—	0.180

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H66	住居本体	5.400	(5.140)	5.120	(4.940)	0.686
	HF- 1	0.554	(0.312)	0.420	(0.248)	0.054
	HP- 1	0.224	0.196	—	—	0.536
	HP- 2	0.266	0.244	—	—	0.382
	HP- 3	0.298	0.290	—	—	0.538
	HP- 4	0.198	0.176	—	—	0.342
	HP- 5	0.304	0.264	—	—	0.418
HP- 6	0.104	0.092	—	—	0.088	
床の溝幅最大値	—	0.150	—	0.094	0.054	

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
H67	住居本体	4.420	3.880	4.120	3.660	0.548
	HF- 1	0.662	0.508	0.530	0.382	0.042
	HF-1焼土規模	1.024	0.798	—	—	0.028
	HP- 1	0.021	0.026	0.104	0.128	0.420
	HP- 2	0.280	0.258	0.260	0.156	0.382
HP- 3	0.258	0.232	0.202	0.166	0.210	

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)	
	長軸	短軸	長軸	短軸		
P43	1.800	1.640	1.280	1.230	0.450	
P44	1.868	1.264	0.960	0.568	0.960	
P45	1.380	1.080	1.240	0.920	0.160	
P46	0.830	(0.630)	0.620	0.480	0.510	
P47	0.842	0.684	0.592	0.510	0.244	
P48	2.730	1.860	2.290	1.390	0.280	
P49	1.570	0.870	0.920	0.710	0.280	
P50	1.270	1.080	1.220	1.300	0.770	
P51	1.450	1.250	1.210	1.020	0.780	
P52	(1.956)	1.792	(1.746)	1.274	0.350	
P53	1.142	1.024	1.436	1.250	1.070	
P54	土坑本体	1.980	1.500	1.670	1.330	0.570
	PP- 1	0.450	0.410	0.432	0.338	0.302
	PP- 2	0.342	0.342	0.240	0.198	0.230
	溝	1.252	0.128	1.122	0.056	0.090
P56	P55	1.520	1.080	1.370	0.930	0.510
	土坑本体	1.950	1.270	2.400	2.350	0.860
	溝	0.930	0.232	—	—	0.126
P57	1.280	0.990	1.190	0.870	0.490	
P58	2.033	(1.210)	1.930	(1.210)	0.810	
P59	1.680	(1.312)	1.276	(1.102)	0.420	
P60	1.200	1.000	1.070	0.830	0.480	

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)
	長軸	短軸	長軸	短軸	
TP7	3.170	0.500	2.840	0.170	0.940

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)
	長軸	短軸	長軸	短軸	
遺物集中 8	0.880	0.600	—	—	—

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)
	長軸	短軸	長軸	短軸	
F63	0.680	0.520	—	—	0.700
F64	0.480	0.400	—	—	0.100
F65	2.120	0.960	—	—	0.060
F66	0.410	0.400	—	—	0.070
F67	2.780	1.000	—	—	0.150
F68	2.420	0.490	—	—	0.180
F69	2.560	1.000	—	—	0.160
F70	2.200	0.400	—	—	0.080
F71	0.500	0.190	—	—	0.050
F72	0.800	0.600	—	—	0.050
F73	1.970	0.460	—	—	0.050
F74	0.980	0.470	—	—	0.050
F75	0.600	0.360	—	—	0.050
F76	0.460	0.170	—	—	0.050
F77	12.540	1.000	—	—	0.150
F78	2.840	1.000	—	—	0.170
F79	0.264	0.254	—	—	0.028
F80	4.160	1.710	—	—	0.018
F81①	0.480	0.460	—	—	0.080
F81②	0.240	0.210	—	—	0.080
F82	5.520	1.110	—	—	0.154

遺構名	確認検出面 (m)		床面ないしは坑底 (m)		深さ (m・残存する最深)
	長軸	短軸	長軸	短軸	
S6	集石本体	6.700	(2.060)	—	—
	S6- 1	2.798	1.428	—	—
	S6- 2	2.690	(1.292)	—	—
	S5	0.420	0.360	—	—

H20出土遺物集計	覆土	床面の すぐ上の 覆土	床面	HP-1	HP-2	HP-3	HP-4	HP-5	HP-6	HP-7	HP-8	HP-10	HP-12	合計
I群b類土器	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
II群b類土器	5006	412	20	4	2	8	2	8	2	8	1	7	5471	6
焼成粘土塊	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
石織	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
石織未成品	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
石織又はナイフ	101	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	109
スクレイパー	11	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
つまみ付きナイフ	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
ドリル	13	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
画面調整石器	17	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	19
石核	31	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32
Uフレイク	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
Rフレイク	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
石斧	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
フレイク	1186	107	8	1	0	0	1	2	2	2	0	0	4	1313
オリ石	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
扁平打製石器	27	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29
北海道式石冠	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
石籠	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
たたき石	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
砥石	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
石鏝	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
台石	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
石皿	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
椀・漆片	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36
加工痕のある椀	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
椀・漆片	524	32	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4	564
砥石・原石片	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	7024	586	34	2	4	4	9	4	2	11	1	1	16	7678

H22出土遺物集計	覆土	床面	HP-1	HP-2	HP-5	HP-6	HP-10	HP-12	合計
I群b類土器	595	0	167	10	10	0	0	0	785
スクレイパー	8	0	0	0	0	0	0	0	8
つまみ付きナイフ	3	0	0	0	0	0	0	0	3
画面調整石器	2	0	0	0	0	0	0	0	2
石核	9	0	0	0	0	0	0	0	9
Uフレイク	204	3039	0	0	0	0	0	0	3243
扁平打製石器	7	0	0	0	0	0	0	0	7
たたき石	3	0	0	0	2	0	0	0	5
石皿	1	0	0	0	0	0	0	0	1
椀・漆片	5	0	0	0	0	0	0	0	5
椀・漆片	109	0	0	0	0	0	0	0	109
合計	948	3039	167	10	12	5	1	2	4184

H24出土遺物集計	覆土	床面	HP-2	HP-4	HP-6	HP-9	HP-11	HP-13	HP-14	HP-19	HP-20	HP-23	HP-24	合計
II群b類土器	1046	980	2539	124	1074	580	246	2	34	0	0	1	2	7189
焼成粘土塊	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
石織	3	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
石織未成品	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
スクレイパー	8	15	7	32	0	0	1	0	1	0	0	0	0	64
つまみ付きナイフ	4	2	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
ドリル	1	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6
画面調整石器	1	4	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	9
石核	2	0	2	8	0	0	0	1	0	0	0	0	0	12
Uフレイク	6	5	3	34	0	0	0	1	0	0	0	0	0	52
Rフレイク	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
石斧	1	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
石斧未成品	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
フレイク	149	193	66	486	0	1	0	11	7	12	0	0	0	940
扁平打製石器	4	5	1	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
石籠	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
たたき石	4	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
砥石	0	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
石鏝	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
台石	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
石皿	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
椀・漆片	6	10	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27
椀・漆片	56	47	23	151	0	0	26	0	1	0	0	0	0	309
石織品	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	1294	1282	646	3316	124	1075	580	286	10	50	1	1	1	8701

H24出土遺物集計	覆土1	覆土2	覆土3	床面	周溝	HP-2 覆土1	HP-6 覆土1	HP-7 覆土1	合計
I群b類土器	523	478	5	34	0	9	0	0	1049
II群b類土器	2	6	0	1	0	0	0	0	9
III群a類土器	0	2	0	0	0	0	0	0	2
石鏃	0	1	0	0	0	0	0	0	1
石鏃未成品	2	17	0	6	0	1	0	0	26
スクレイパー	2	1	0	0	0	0	0	0	3
つまみ付きナイフ	0	0	0	1	0	0	0	0	1
ドリル	4	2	0	0	0	0	0	0	6
石核	4	6	0	0	0	0	0	0	10
Uフレイク	1	2	0	0	0	0	0	0	3
Rフレイク	194	140	34	1	0	0	0	1	370
扁平打製石器	7	0	0	0	0	0	0	0	7
たたき石	0	4	0	1	0	0	0	0	5
燧石・燧片	1	7	0	0	0	0	0	0	8
燧・燧片	35	64	2	19	0	3	1	0	124
石製品	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	775	731	7	96	1	13	1	1	1625

H25出土遺物集計	床面	HF-1 覆土1	HP-1 覆土1	HP-4 覆土1	HP-16 覆土1	合計
I群b類土器	797	0	0	0	0	797
石鏃	1	0	0	0	0	1
スクレイパー	3	0	0	0	1	4
つまみ付きナイフ	1	0	0	0	0	1
石核	0	0	0	1	0	1
Rフレイク	1	0	0	0	0	1
石斧	2	0	0	0	0	2
Uフレイク	11	0	0	0	0	11
扁平打製石器	1	0	0	0	0	1
扁平打製石器未成品	1	0	0	0	0	1
たたき石	3	0	0	0	1	4
石皿	1	0	0	0	0	1
燧石・燧片	0	15	0	0	0	15
燧・燧片	7	0	1	0	0	8
燧石・原石片	1	0	0	0	0	1
合計	830	15	1	1	2	849

H23出土遺物集計	覆土	覆土1	床面	HF-1 覆土	HP-1 覆土	HP-2 覆土	HP-3 覆土	HP-5 覆土	合計
I群b類土器	5	0	0	0	0	0	0	0	5
II群b類土器	2833	36	53	1	0	2	0	1	2726
III群b類土器	9	0	0	0	0	0	0	0	9
IV群a類土器	51	0	0	0	0	0	0	0	51
焼成粘土塊	4	0	0	0	0	0	0	0	4
石鏃	1	0	0	0	0	0	0	0	1
石鏃又はナイフ	2	0	0	0	0	0	0	0	2
スクレイパー	22	0	2	0	1	0	0	0	25
つまみ付きナイフ	4	1	0	0	0	0	0	0	5
ドリル	1	0	0	0	0	0	0	0	1
両面調整石器	1	0	1	0	0	0	0	0	2
石核	6	0	0	0	0	0	0	0	6
Uフレイク	10	0	0	1	0	0	0	0	11
石斧未成品	1	0	0	0	0	0	0	0	1
フレイク	470	7	17	1	0	3	2	0	500
扁平打製石器	11	0	1	0	0	0	0	0	12
北海道式石冠	2	0	0	0	0	0	0	0	2
石鏃	0	0	1	0	0	0	0	0	1
たたき石	10	1	2	0	0	0	0	0	13
台石	1	0	0	0	0	0	0	0	1
石皿	5	0	0	0	0	0	0	0	5
燧石・燧片	41	3	0	0	0	0	0	0	44
燧・燧片	349	2	13	0	0	3	0	1	368
石製品	2	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	3641	50	90	3	1	8	2	8	3803

H25出土遺物集計	覆土1	覆土2	床面	HF-1 覆土3	HP-2	HP-3	HP-4	HP-9	合計
I群b類土器	172	286	35	2	3	0	0	0	498
石鏃又はナイフ	0	0	1	0	0	0	0	0	1
スクレイパー	14	11	3	0	0	0	0	0	28
つまみ付きナイフ	2	1	0	0	0	0	0	0	3
ドリル	2	0	0	0	0	0	0	0	2
両面調整石器	1	0	0	0	0	0	0	0	1
石核	2	4	0	0	0	0	0	0	6
Uフレイク	3	4	0	0	0	0	0	0	7
Rフレイク	0	1	0	0	0	0	0	0	1
石斧未成品	0	2	0	0	0	0	0	0	2
フレイク	102	90	15	0	0	0	0	0	207
すり石	2	0	0	0	0	0	0	0	2
扁平打製石器	3	4	0	0	0	0	0	0	7
扁平打製石器未成品	1	2	0	0	0	0	0	0	3
北海道式石冠未成品	0	1	0	0	0	0	0	0	1
石鏃	2	1	0	0	0	0	0	0	3
たたき石	5	1	1	0	0	0	0	0	7
台石	2	2	1	0	0	0	0	0	5
石皿	0	0	1	0	0	0	0	0	1
燧石・燧片	10	0	0	12	0	0	0	0	22
燧・燧片	141	62	2	0	0	1	1	1	208
石製品	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	465	472	59	14	3	1	1	1	1016

H25HF-1覆土3
II群b類としたが
III群b類の可能性
が高いものあり。

H28出土遺物集計		覆土1	覆土2	覆土3	床面	周溝 覆土1	HP-1 覆土1	HP-6 覆土1	合計
I群b類土器	0	1	0	0	0	0	0	0	1
II群b類土器	457	400	619	92	5	0	0	0	1573
焼成粘土塊	0	1	1	0	0	0	0	0	2
石鏃	0	0	1	1	0	0	0	0	2
石鏃又はナイフ	0	0	1	0	0	0	0	0	1
スクレイパー	15	11	6	1	1	2	0	0	36
つまみ付きナイフ	0	2	0	0	0	0	0	0	2
ドリル	1	0	0	1	0	0	0	0	2
面割調整石器	2	4	0	1	0	0	0	0	7
石核	4	1	0	0	0	0	0	0	5
Uフレイク	5	4	1	2	2	1	0	0	15
Rフレイク	0	1	0	0	1	0	0	0	2
石斧	0	1	1	0	0	0	0	0	2
フレイク	134	121	27	20	3	4	0	0	309
扁平打製石器	1	2	1	0	1	0	0	0	5
扁平打製石器未成品	0	0	0	0	0	0	0	0	1
北海道式石冠未成品	0	0	0	0	0	1	0	0	1
たたき石	6	2	1	1	0	0	0	0	10
砥石	0	1	1	0	0	0	0	0	2
台石	1	4	1	1	1	0	0	1	8
石皿	0	2	1	2	0	0	0	0	5
燧石・燧片	6	2	1	2	0	0	0	0	11
線・燧片	57	34	17	19	18	2	1	1	148
石製品	1	2	1	1	1	0	0	0	5
合計	691	596	682	144	32	9	2	2	2156

H27出土遺物集計		覆土1	覆土2	床面	周溝 覆土1	HP-1 覆土1	HP-15 覆土1	HP-1 覆土1	層位 不明	合計
II群b類土器	690	892	58	1	1	0	1	0	1	1644
III群b類土器	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
焼成粘土塊	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
石鏃	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
石鏃又はナイフ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
スクレイパー	8	16	2	3	0	0	0	0	0	29
つまみ付きナイフ	1	3	0	0	0	0	0	0	0	4
面割調整石器	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3
石核	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
Uフレイク	2	8	0	0	0	0	0	0	0	10
Rフレイク	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
石斧	1	1	1	0	0	0	0	1	0	4
石斧未成品	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
フレイク	162	125	6	4	1	0	1	0	0	288
扁平打製石器	1	8	2	0	1	0	0	1	0	13
石鏃	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
たたき石	3	4	1	0	0	0	0	0	0	8
砥石	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
台石	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
石皿	0	2	0	0	1	0	0	0	0	3
燧石・燧片	4	2	0	0	0	0	0	0	0	6
海綿骨針入り燧	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
線・燧片	146	121	17	0	10	0	3	0	0	297
合計	1027	1192	89	8	14	1	5	1	5	2337

H29出土遺物集計		覆土 壁際	覆土 上位	覆土 下位	周溝 覆土1 最下位	床面	HP-5 覆土1	HP-6 覆土1	HP-1 覆土1	HP-10 覆土1	HP-12 覆土1	HP-13 覆土1	HP-16 覆土1	HP-18 覆土1	HP-19 覆土1	HP-20 覆土1	HP-21 覆土1	HP-23 覆土1	HP-24 覆土1	HP-26 覆土1	HP-27 覆土1	HP-29 覆土1	HP-30 覆土1	HP-31 覆土1	HP-32 覆土1	HP-35 覆土1	HP-39 覆土1	合計	
II群b類土器	132	1833	2475	1272	147	62	1	2	6	0	0	0	0	7	3	5	7	2	3	0	2	5	1	0	0	1	1	5976	
焼成粘土塊	2	4	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
石鏃	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
石鏃未成品	0	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
石鏃又はナイフ	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
スクレイパー	0	40	21	9	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72
つまみ付きナイフ	0	8	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
ドリル	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
面割調整石器	0	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
石核	2	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
Uフレイク	0	13	10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
Rフレイク	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
石斧	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
フレイク	9	345	212	40	22	22	0	0	0	0	0	1	0	3	0	1	2	0	0	1	0	1	0	4	3	0	0	0	666
扁平打製石器	1	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
扁平打製石器未成品	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
石鏃	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
たたき石	0	7	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
砥石	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
台石	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
石皿	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
燧石・燧片	0	24	7	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33
線・燧片	9	307	257	58	18	13	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	687
原石・原石片	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
石製品	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	155	2615	3002	1387	188	106	1	3	6	2	6	1	1	10	3	6	10	3	3	1	2	7	1	4	6	1	2	7532	

H32出土遺物集計		床面	HF-1 覆土1	HF-1 覆土2	合計
II群b類土器		4	2	0	6
フレイク		1	1	8	10
扁平打製石器		2	0	0	2
たたき石		1	0	0	1
襦袢・礫片		1	0	0	1
礫・礫片		3	1	1	5
合計		12	4	9	25

H33出土遺物集計		覆土1	床面	HF-1 覆土3	合計
II群b類土器		61	4	1	66
スクレイパー		4	2	0	6
つまみ付きナイフ		1	0	0	1
Uフレイク		1	1	0	2
Rフレイク		2	0	0	2
石斧		1	1	0	2
フレイク		113	11	0	124
たたき石		0	3	0	3
礫石		0	1	0	1
襦袢・礫片		1	0	0	1
礫・礫片		1	7	19	27
合計		185	30	20	235

H31出土遺物集計		覆土	覆土1	覆土2	床面	HP-1 覆土1	HP-3 覆土1	HP-4 覆土1	合計
II群b類土器		0	101	9	9	0	0	0	119
III群a類土器		0	6	1	0	0	0	0	6
石鏃		0	1	0	0	0	0	0	1
石鏃又はナイフ		0	0	0	1	0	0	0	1
スクレイパー		0	9	5	2	0	0	0	16
画面調整石器		0	2	0	0	0	0	0	2
石核		0	1	2	1	1	0	0	5
Uフレイク		0	5	11	0	0	0	0	16
Rフレイク		0	1	0	0	0	0	0	1
石斧		0	0	1	0	0	0	0	1
フレイク		0	155	20	35	0	0	0	210
扁平打製石器		4	1	0	1	0	0	0	6
北海道式石冠未成品		0	0	0	1	0	0	0	1
たたき石		1	4	8	3	0	0	0	16
礫石		0	1	1	2	0	0	0	4
合石		0	0	0	1	0	0	0	1
襦袢・礫片		0	0	2	0	0	0	0	2
礫・礫片		9	48	73	7	0	1	1	139
合計		14	335	132	63	1	1	1	547

H30出土遺物集計		覆土1	覆土2	床面	HF-1 覆土1	HF-1 覆土2	HP-3 覆土1	合計
II群b類土器		23	18	10	4	0	0	55
石鏃		1	1	0	0	0	0	2
スクレイパー		1	2	1	0	0	0	4
画面調整石器		1	0	0	0	0	0	1
石核		2	0	0	0	0	0	2
Uフレイク		1	0	2	0	0	0	4
石斧		1	0	0	0	0	0	1
フレイク		173	43	16	1	15	0	248
扁平打製石器		2	0	3	0	0	0	5
たたき石		0	0	4	0	1	0	5
合石		0	3	6	0	0	0	9
礫・礫片		59	74	8	0	4	0	145
原石・原石片		0	1	0	0	0	0	1
合計		264	142	50	5	20	1	482

H35出土遺物集計		覆土上部 一部H29 の遺物か	覆土 層下位	床面	HP-4 覆土	HP-7 覆土	HP-16 覆土	合計
II群b類土器		98	309	69	289	2	0	769
スクレイパー		0	10	0	0	0	0	10
ドリル		0	2	0	0	0	0	2
石核		1	1	0	0	0	0	2
Uフレイク		1	3	0	1	0	0	5
石斧		0	1	0	0	0	0	1
フレイク		25	244	0	7	0	1	279
扁平打製石器		0	1	0	0	0	0	1
たたき石		0	2	0	0	0	0	2
合石		0	0	2	1	0	0	3
石皿		0	0	2	0	0	0	2
襦袢・礫片		1	1	0	1	0	0	3
礫・礫片		3	20	0	3	0	0	26
合計		129	596	72	301	2	3	1105

H34出土遺物集計		覆土	覆土1	覆土2	HP-4 覆土	HP-7 覆土	合計
II群b類土器		602	54	683	4	1	1344
焼成粘土塊		0	0	2	0	0	2
石鏃		0	0	0	1	0	1
石鏃未成品		2	0	0	0	0	2
スクレイパー		19	0	0	3	0	22
つまみ付きナイフ		2	0	0	0	0	2
画面調整石器		5	0	0	0	0	5
Uフレイク		2	0	0	0	0	2
Rフレイク		1	0	0	0	0	1
石斧		3	0	0	0	0	3
フレイク		163	0	0	2	0	165
扁平打製石器		7	0	0	0	0	7
石鏃		1	0	0	0	0	1
たたき石		2	0	0	4	0	6
合石		2	0	0	0	0	2
襦袢・礫片		4	0	0	1	0	5
礫・礫片		177	3	0	1	0	181
合計		992	57	685	16	1	1751

H37出土遺物集計		覆土1	覆土2	覆土3	床面	周溝	HP-1	HP-3	HP-4	合計
		覆土1	覆土2	覆土3	床面	覆土1	覆土1	覆土1	覆土1	合計
II群B類土器		215	122	0	420	0	1	0	4	762
石鏃		0	0	0	0	1	0	0	0	1
石鏃未成品		0	0	1	0	0	0	0	0	1
スクレイパー		3	6	0	2	1	0	0	0	12
ドリル		1	0	0	1	0	0	0	0	2
両面調整石器		0	0	0	2	1	0	0	0	3
石核		3	0	0	0	0	0	0	0	3
Rフレイク		0	0	0	1	0	1	0	0	2
石斧		1	0	0	1	0	1	0	0	2
Uフレイク		52	32	3	69	4	10	0	0	170
扁平打製石器		0	1	0	1	0	0	0	0	2
たたき石		0	1	1	2	3	0	1	0	8
砥石		0	1	0	0	0	0	0	0	1
撥熱燻・燻片		0	0	1	0	1	0	0	0	1
燻・燻片		2	4	0	3	0	0	0	0	9
合計		277	167	5	503	10	12	1	4	979

H36出土遺物集計		覆土	覆土2	覆土4	覆土5	HP-2	HP-3	HP-4	HP-5	合計
		覆土	覆土2	覆土4	覆土5	覆土	覆土	覆土	覆土	合計
		壁際	最下位	最上位	最上位	上位	下位	上位	中位	床面
II群B類土器		2323	203	64	0	5	4	3	1	2603
焼成粘土塊		2	0	0	0	0	0	0	0	2
石鏃		1	0	0	0	0	0	0	0	1
石鏃又はナイフ		1	0	0	0	0	0	0	0	1
スクレイパー		31	0	5	0	0	0	0	0	36
つまみ付きナイフ		7	0	1	0	0	0	0	0	8
ドリル		3	0	0	0	0	0	0	0	3
両面調整石器		5	0	0	0	0	0	0	0	5
石核		8	0	0	0	0	0	0	0	8
Uフレイク		20	0	1	0	0	0	0	0	21
ピエス・エスキュー		1	0	1	0	0	0	0	0	2
石斧		6	0	4	0	0	0	0	0	10
フレイク		824	0	45	289	0	1	0	0	1159
扁平打製石器		14	0	12	0	0	0	0	0	26
扁平打製石器未成品		2	0	1	0	0	0	0	0	3
石鏃		0	0	1	0	0	0	0	0	1
たたき石		10	0	1	0	0	0	0	0	11
砥石		1	1	0	0	0	0	0	0	2
台石		0	2	1	0	0	0	0	0	3
石皿		1	0	1	0	0	0	0	0	2
撥熱燻・燻片		82	0	1	0	0	0	0	0	83
燻・燻片		107	0	21	0	1	1	0	0	130
合計		3449	206	160	289	6	6	3	1	4120

H38出土遺物集計		覆土	覆土壁際	覆土最下位	覆土最上位	覆土上位	覆土下位	覆土上位	覆土中位	床面	HP-1	HP-2	HP-3	HP-6	HP-8	HP-9	HP-10	HP-11	HP-15	HP-17	HP-20	合計	
		覆土	壁際	最下位	最上位	上位	下位	上位	中位	床面	覆土1	覆土1	覆土1	覆土1	覆土1	覆土1	覆土1	覆土1	覆土1	覆土1	覆土1	覆土1	合計
II群B類土器		745	26	74	146	812	477	200	23	14	5	1	5	1	1	1	0	0	1	0	0	2609	
焼成粘土塊		1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
石鏃		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
石鏃未成品		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
スクレイパー		11	1	1	0	6	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
つまみ付きナイフ		3	0	0	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
ドリル		18	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
両面調整石器		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
石核		2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
Uフレイク		1	1	1	0	2	6	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
Rフレイク		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ピエス・エスキュー		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
石斧		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
石斧未成品		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
フレイク		150	4	19	8	50	101	30	4	2	1	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	374	
扁平打製石器		3	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
扁平打製石器未成品		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
北海道式石冠		0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
石鏃		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
たたき石		3	0	0	0	0	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
台石		0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
石皿		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
撥熱燻・燻片		4	0	0	1	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
燻・燻片		170	5	9	6	22	16	17	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	251
砥石・砥石片		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計		1117	37	106	161	901	614	334	29	24	3	2	6	1	1	2	1	1	1	1	1	3343	

H44出土遺物集計	覆土1	覆土2	床面	合計
II群b類土器	3	4	28	35
石鏝又はナイフ	0	0	1	1
スクレイパー	0	0	2	2
ドリル	1	0	0	1
石核	0	0	1	1
Uフレイク	0	0	5	5
フレイク	2	7	18	27
扁平打製石器	0	0	1	1
たたき石	0	0	4	4
礫・礫片	0	1	16	17
合計	6	12	76	94

H45出土遺物集計	覆土1	床面	HP-1 覆土1	HP-1 覆土2	周溝 覆土1	合計
II群b類土器	42	4	0	0	17	64
ドリル	1	0	0	0	0	1
面周調整石器	1	0	1	0	0	2
石核	1	0	0	0	0	1
Uフレイク	2	0	0	1	0	3
石斧	0	0	0	1	0	1
フレイク	28	6	0	0	61	95
扁平打製石器	0	0	0	1	0	1
礫・礫片	1	5	0	0	0	6
合計	76	15	1	4	78	174

H46出土遺物集計	覆土 下部	覆土 上部	覆土 壁際	中央砂 部分	HP-1 覆土	HP-2 覆土	HP-3 覆土	HP-4 覆土	HP-5 覆土	HP-6 覆土	HP-7 覆土	HP-8 覆土	合計
II群b類土器	488	261	183	23	0	1	0	1	1	29	2	1	1539
スクレイパー	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
つまみ付きナイフ	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
石核	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
Uフレイク	6	3	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	14
フレイク	128	109	28	108	7	1	0	1	0	1	1	3	389
扁平打製石器	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
扁平打製石器未成品	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
砥石	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
台石	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
礫・礫片	32	12	5	8	4	0	1	2	0	0	1	1	69
合計	663	394	221	36	1	2	3	1	1	31	4	3	2041

H47出土遺物集計	II群b類土器	石鏝	スクレイパー	石核	Uフレイク	扁平打製石器	被熱礫・礫片	礫・礫片	合計
II群b類土器	145								
石鏝		1							1
スクレイパー			9						9
石核				1					1
Uフレイク					8				8
扁平打製石器						89			89
被熱礫・礫片							1		1
礫・礫片								4	4
合計									259

H48出土遺物集計	覆土	床面	HP-2 覆土	合計
II群b類土器	151	1	1	153
Uフレイク	3	0	0	3
フレイク	18	0	0	18
礫・礫片	19	0	0	19
合計	191	1	1	193

H49出土遺物集計	覆土
II群b類土器	17
スクレイパー	4
石核	1
Uフレイク	2
扁平打製石器	46
礫・礫片	4
石製品	1
合計	75

H50出土遺物集計	覆土	床面	合計
II群b類土器	5	0	5
フレイク	2	0	2
礫・礫片	0	3	3
合計	7	3	10

H51出土遺物集計	床面	HP-2 覆土	HP-3 覆土	HP-4 覆土	HP-5 覆土	HP-6 覆土	HP-7 覆土	HP-8 覆土	合計
II群b類土器	16	1100	1	1	2	219	2	22	1119
焼成粘土塊	0	1	0	0	0	0	0	0	1
石鏝又はナイフ	0	4	0	0	0	0	0	0	4
スクレイパー	0	17	0	0	0	0	0	0	17
つまみ付きナイフ	0	5	0	0	0	0	0	0	5
面周調整石器	0	3	0	0	0	0	0	0	3
石核	0	3	0	0	0	0	0	0	3
Uフレイク	0	8	0	0	0	0	0	0	8
Rフレイク	0	1	0	0	0	0	0	0	1
石斧	0	3	0	0	0	0	0	0	3
フレイク	3	377	1	0	0	0	0	0	381
扁平打製石器	2	2	0	0	0	0	0	0	4
扁平打製石器未成品	0	1	0	0	0	0	0	0	1
石鏝	0	2	0	0	0	0	0	0	2
たたき石	2	3	0	0	0	0	0	0	5
砥石	0	2	0	0	0	0	0	0	2
台石	1	3	0	0	0	0	0	0	4
石皿	2	0	0	0	0	0	0	0	2
被熱礫・礫片	1	0	0	0	0	0	0	0	1
礫・礫片	2	13	0	0	0	0	0	0	15
石製品	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	29	1549	2	2	2	2	2	2	1582

H52出土遺物集計	覆土1	覆土2	床面	HP-1 覆土1	HP-1 覆土2	合計
II群b類土器	135	75	4	1	0	215
スクレイパー	2	6	2	0	0	10
つまみ付きナイフ	0	1	0	0	0	1
Uフレイク	1	0	1	0	0	2
フレイク	24	23	28	0	38	113
扁平打製石器	0	0	4	1	0	5
たたき石	1	0	1	0	0	2
台石	0	2	3	0	0	5
礫・礫片	16	5	5	1	0	27
合計	179	112	48	3	38	380

床面だが覆土層下位として取り上げ

H55出土遺物集計		覆土1
II群b類土器		202
スクレイパー		4
石核		1
Uフレイク		5
石斧		1
フレイク		235
扁平打製石器		5
被熱燻・燻片		3
燻・燻片		37
合計		493

H53出土遺物集計						
覆土1	HF-2 覆土2	HP-1 覆土1	HP-4 覆土1	HP-6 覆土1	合計	
I群b類土器	4	0	0	0	0	4
II群b類土器	305	41	2	0	0	348
石燻未成品	1	1	0	0	0	3
石燻又はナイフ	0	1	0	0	0	1
スクレイパー	4	2	0	0	0	6
つまみ付きナイフ	1	0	0	1	0	2
石核	4	1	0	0	0	5
Uフレイク	7	0	0	0	0	7
石斧	1	0	0	0	0	1
石斧未成品	0	0	0	0	0	0
フレイク	318	30	0	0	0	349
扁平打製石器	2	0	0	0	0	2
たたき石	1	2	0	0	1	4
被熱燻・燻片	0	1	0	0	0	1
燻・燻片	14	7	0	0	0	22
合計	662	86	3	1	1	755

H54出土遺物集計						
覆土1	覆土2	床面	MF-1 覆土1	MF-1 覆土2	HP-3 覆土1	合計
II群b類土器	3	333	5	6	1	348
スクレイパー	0	5	0	0	0	5
つまみ付きナイフ	0	2	0	0	0	2
両面調整石器	1	0	0	0	0	1
石核	0	1	0	0	0	1
Uフレイク	0	4	0	0	0	4
石斧	0	1	0	0	0	1
フレイク	51	4193	5	1	2	4252
扁平打製石器	1	1	0	0	0	2
たたき石	1	2	0	0	0	3
台石	0	2	0	0	0	2
石皿	0	1	0	0	0	1
被熱燻・燻片	1	3	0	0	0	4
燻・燻片	10	33	1	0	0	45
石製品	0	0	0	0	1	1
合計	68	4581	11	7	4	4674

H57出土遺物集計											
覆土	覆土 上位	覆土 中位	覆土 下位	床面	HF-1 覆土1	HP-2覆 土	HP-3覆 埋没土器	HP-8 覆土	HP-8覆 土上位	HP-11 覆土上位	合計
II群b類土器	352	17	2	11	6	0	0	83	0	0	471
III群a類土器	164	62	58	8	0	1	1	0	5	0	289
焼成粘土塊	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3
スクレイパー	7	1	4	0	0	0	0	0	0	0	12
石核	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
Uフレイク	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	8
石斧	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
フレイク	76	23	31	3	1	0	0	2	0	0	136
扁平打製石器	5	0	2	0	3	0	0	0	0	0	10
たたき石	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	5
台石	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	4
石皿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
被熱燻・燻片	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	5
燻・燻片	110	27	19	1	0	1	1	0	0	0	159
石製品	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	732	133	122	23	12	2	2	83	7	1	1118

H56出土遺物集計												
覆土 最上位	覆土 下位	貼付 床面	床面	HP-2 覆土	HP-3 覆土	HP-7 覆土	HP-10 覆土	HP-11 覆土	HP-12 覆土	HP-13 覆土	HP-14 覆土	合計
II群b類土器	94	588	72	1	5	1	2	1	2	0	4	771
スクレイパー	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4
つまみ付きナイフ	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
両面調整石器	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
石核	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Uフレイク	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
石斧	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
フレイク	39	11	15	0	5	0	0	0	3	3	0	76
たたき石	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
台石	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
被熱燻・燻片	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
燻・燻片	22	3	5	0	3	0	1	0	0	0	0	34
合計	164	610	95	1	14	1	2	1	2	3	8	903

H58出土遺物集計													
覆土 最上位	覆土 下位	貼付 床面	床面	覆土 下位	覆土 中位	覆土 上位	HP-1 覆土	HP-2 覆土	HP-3 覆土	HP-4 覆土	HP-6 覆土	SP 覆土	合計
II群b類土器	290	117	1	44	1	44	0	5	4	1	7	6	475
III群a類土器	1547	751	492	84	0	0	0	0	0	0	0	0	2874
焼成粘土塊	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
石燻	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
石燻未成品	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
石燻又はナイフ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
スクレイパー	13	5	4	3	0	2	0	2	1	0	1	0	35
つまみ付きナイフ	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
両面調整石器	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
石核	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
Uフレイク	6	7	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	15
Rフレイク	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
石斧	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
フレイク	128	26	9	38	1	3	2	3	7	3	1	221	
扁平打製石器	9	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
北海道式石冠	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
たたき石	4	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	7
台石	6	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	12
被熱燻・燻片	297	160	21	39	1	5	0	0	32	8	0	583	
燻・燻片	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
石製品	2314	1102	539	212	7	14	8	4	48	19	1	4288	

H59出土遺物集計	覆土
II群b類土器	24
石鏝又はナイフ	2
フレイク	7
鏃・礫片	1
合計	34

H60出土遺物集計	覆土	中央砂部分	房溝覆土	HP-1覆土	HP-5覆土	HP-6覆土	合計
II群b類土器	707	10	0	3	0	1	721
石鏝又はナイフ	1	0	0	0	0	0	1
フレイク	12	0	0	0	0	0	12
スクレイパー	3	0	0	0	0	0	3
つまみ付きナイフ	2	0	0	0	0	0	2
ドリル	0	0	0	1	0	0	1
石核	9	0	0	0	0	0	9
Uフレイク	131	6	0	8	0	3	149
Rフレイク	10	0	1	1	0	0	12
扁平打製石器	0	1	0	2	1	0	4
たたき石	0	1	0	0	0	0	1
砥石	1	1	0	0	0	0	2
台石	40	1	1	0	0	1	43
鏃・礫片	916	19	2	15	1	4	959
合計							

H61出土遺物集計	覆土	床面	合計
II群b類土器	80	1	81
スクレイパー	1	0	1
両面調整石器	1	0	1
石核	1	0	1
Uフレイク	1	0	1
フレイク	18	0	18
扁平打製石器	1	0	1
北海道式石鏝	1	0	1
たたき石	1	0	1
砥石	1	0	1
鏃・礫片	26	0	26
合計	132	1	133

H63出土遺物集計	床面	房溝覆土	合計
II群b類土器	27	0	27
スクレイパー	1	0	1
Uフレイク	1	0	1
フレイク	13	1	14
たたき石	1	0	1
石核	1	0	1
鏃・礫片	3	0	3
合計	47	1	48

H62出土遺物集計	覆土	覆土下位	床面	HP-3覆土	HP-4覆土	合計
II群b類土器	1143	24	66	0	0	1233
石鏝	1	0	0	0	0	1
石鏝又はナイフ	2	0	0	0	0	2
スクレイパー	20	3	1	0	0	24
つまみ付きナイフ	1	1	0	0	0	2
ドリル	1	0	0	0	0	1
石核	8	1	1	0	0	10
Uフレイク	19	0	2	0	0	21
Rフレイク	6	0	0	0	0	6
石鏝	1	0	0	0	0	1
フレイク	183	4	22	0	1	210
扁平打製石器	3	0	0	0	1	4
石鏝	1	0	0	0	0	1
台石	6	0	1	0	0	7
箱敷鏃・礫片	4	0	0	0	0	4
鏃・礫片	92	3	4	1	0	100
石製品	1	0	0	0	0	1
合計	1492	36	97	1	2	1628

H64出土遺物集計	覆土1	床面	HF-1覆土1	HP-1覆土1	HP-2覆土1	HP-3覆土1	HP-5覆土1	合計
II群b類土器	32	101	0	1	0	0	0	134
スクレイパー	2	3	0	0	0	0	0	5
石核	1	2	0	0	0	0	0	3
Uフレイク	1	2	0	0	0	0	0	3
フレイク	6	37	9	3	1	1	0	57
扁平打製石器	1	0	0	0	0	0	0	1
北海道式石鏝未成品	0	0	0	0	0	0	1	1
たたき石	0	1	0	0	0	0	0	1
披針鏃・礫片	0	2	0	0	0	0	0	2
鏃・礫片	4	5	1	0	0	0	0	10
合計	47	153	10	4	1	1	1	217

H65出土遺物集計	覆土1	床面	HP-1覆土1	合計
II群b類土器	30	32	0	62
フレイク	4	2	1	7
扁平打製石器	0	1	0	1
披針鏃・礫片	1	0	0	1
鏃・礫片	1	9	0	10
合計	36	44	1	81

H66出土遺物集計	覆土1	床面	房溝覆土	HF-1覆土1	HP-1覆土2	HP-4覆土1	HP-5覆土1	合計
II群b類土器	11	32	0	0	1	0	1	45
スクレイパー	0	3	0	0	0	0	0	3
石核	0	1	0	0	0	0	0	1
石鏝	0	0	0	0	0	0	0	0
石鏝	4	26	8	0	1	0	1	39
フレイク	1	6	0	0	0	0	0	7
扁平打製石器	0	2	0	0	0	0	0	2
台石	1	1	1	1	0	0	0	4
鏃・礫片	17	71	9	1	1	1	2	102
合計								

H67出土遺物集計	床面	HF-1覆土1	HP-1覆土1	合計
II群b類土器	113	0	41	154
石鏝又はナイフ	1	0	0	1
スクレイパー	2	0	0	2
つまみ付きナイフ	1	0	0	1
Rフレイク	1	1	0	2
石鏝	2	0	0	2
フレイク	58	17	1	76
扁平打製石器	6	0	0	6
たたき石	1	0	0	1
砥石	1	0	0	1
台石	3	0	0	3
鏃・礫片	2	0	0	2
石製品	0	1	0	1
合計	191	19	42	252

V 自然科学的分析

1. 館野6遺跡から出土した動物遺体

中村賢太郎 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

北海道北斗市館野に所在する館野6遺跡は、海岸から約200m、標高50~60mの海岸段丘上、下矢不來川左岸に位置する。ここでは、縄文時代前期後半の盛土遺構、竪穴住居、焼土から採取された動物遺体について同定結果を報告する。なお、海生哺乳類の同定にあたって国立歴史民俗博物館の西本豊弘先生に、魚類の同定にあたって早稲田大学の樋泉岳二先生にご教示をいただいた。

2. 試料と方法

試料は、試料袋60点である。

試料が採取されたのは、縄文時代前期後半（円筒下層式）の盛土遺構M2、M4、M6、竪穴住居H21、H24、H29、H39、焼土F66、F67、F68、F69、F70、F71、F72、F73、F75、F76、F77、F78の各遺構である。

各遺構から採取された土壌について、北海道埋蔵文化財センターにおいて水洗選別が行われ、0.425mm以上の動物遺体が選別された。

パレオ・ラボにおいて魚類、鳥類、哺乳類について同定可能な部位の抽出、同定、計数を行った。同定は、肉眼あるいは実体顕微鏡下で現生標本との比較により行った。魚類のうち、同定と計数の対象とした部位は、歯、前上顎骨、主上顎骨、歯骨、角骨、方骨、前鰓蓋骨、主鰓蓋骨、椎骨（サケ科は破片、サケ科以外は椎体1/2以上残存）である。この他にも、特徴的な部位は同定と計数の対象とした。

3. 結果

表1に同定された分類群一覧、表2に遺構別出土数量、表3に個別の記載を示す。

認められた分類群は、軟骨魚綱のエイ・サメ類（板鰓亜綱）、メジロザメ科、アオザメ？、ツノザメ目、硬骨魚綱のニシン、マイワシ、ニシン科、コイ科、サケ科、タラ科（マダラ or スケトウダラ）、カレイ科、フサカサゴ科、アイナメ属、アイナメ科、タイ科、ブリ属、サバ属、カツオ・マグロ類、鳥綱の一種、哺乳綱のヒト、イタチ科、オットセイ？である。

ほぼ全ての試料が焼けていた。タイ科やサメ類の歯は焼けているかどうか明確に判断できなかった。なお、焼けたことで細片化や変形した動物遺体も多く、綱レベルの同定に留まる試料が多かった。

4. 考察

魚類では、エイ類、サメ類、メジロザメ科といったエイ・サメ類の歯や椎骨が見られた。エイ・サメ類は、食用の他に歯や椎骨が骨角器の素材として利用された可能性が考えられる。

エイ・サメ類以外では、沿岸や大陸棚に生息するタラ科、回遊するニシン、マイワシ、ニシン科、ブリ属、サバ属、カツオ・マグロ類、沿岸や内湾に生息するカレイ科、フサカサゴ科、アイナメ属、アイナメ科、タイ科といった海に生息する分類群や、河川を遡上するサケ科、淡水に生息するコイ科が見られた。海から淡水域にかけての水域で漁労活動が行われていたと推定される。

鳥類は種類が同定できなかったが、ある程度の量が見られ、食用にされていた可能性がある。

哺乳類は種類が同定できない試料が多かった。海生哺乳類が比較的多く見られた一方、確実に陸生と判断される哺乳類はごくわずかであった。海生哺乳類の中には、おそらくオットセイと見られる椎骨、中手骨あるいは中足骨、指骨が含まれており、海岸あるいは海上で海獣狩猟が行われていたと考えられる。縄文時代前期後半の函館市八木A遺跡や伊達市北黄金貝塚でも海獣が多く出土しており、館野6遺跡に認められた傾向も同時期の北海道における傾向と共通する。一方、同時期の青森県の遺跡(三内丸山遺跡や東道ノ上(3)遺跡)では陸獣が主体である。

陸生哺乳類として同定できたのは、イタチ科であり、小型陸獣を対象とした狩猟が行われていたと考えられる。明らかに大型陸獣(シカなど)と見られる骨が無かった点も特徴的である。ただし、焼骨のみの同定により把握できる動物遺体の出土傾向は限定的であり(福井, 2008)、今回得られた哺乳類の出土傾向に関しても注意が必要である。

引用・参考文献

福井淳一(2008)動物遺存体の出土状況. 工藤研治ほか編「釧路町天寧1遺跡」, 北海道埋蔵文化財センター.
 福井淳一(2010)石倉1遺跡出土の動物遺存体. 遠藤香澄ほか編「森町石倉1遺跡(2)」, 北海道埋蔵文化財センター.
 西本豊弘(1993)八木A遺跡出土の動物遺体. 南茅部町埋蔵文化財調査団編「八木A遺跡・ハマナス野遺跡」, 南茅部町埋蔵文化財調査団.
 西本豊弘(1998)三内丸山遺跡第6鉄塔地区出土の鳥類・哺乳類遺体. 青森県教育庁文化課編「三内丸山遺跡IX」, 青森県教育委員会.
 西本豊弘(1999)伊達市北黄金貝塚出土の動物遺体. 伊達市教育委員会編「国指定史跡北黄金貝塚発掘調査報告書」, 伊達市教育委員会.
 斉藤慶吏(2006)動物遺存体. 青森県埋蔵文化財調査センター編「東道ノ上(3)遺跡」, 青森県教育委員会.

表V-1-1 館野6遺跡出土動物遺体分類群一覧

表1 館野6遺跡出土動物遺体分類群一覧

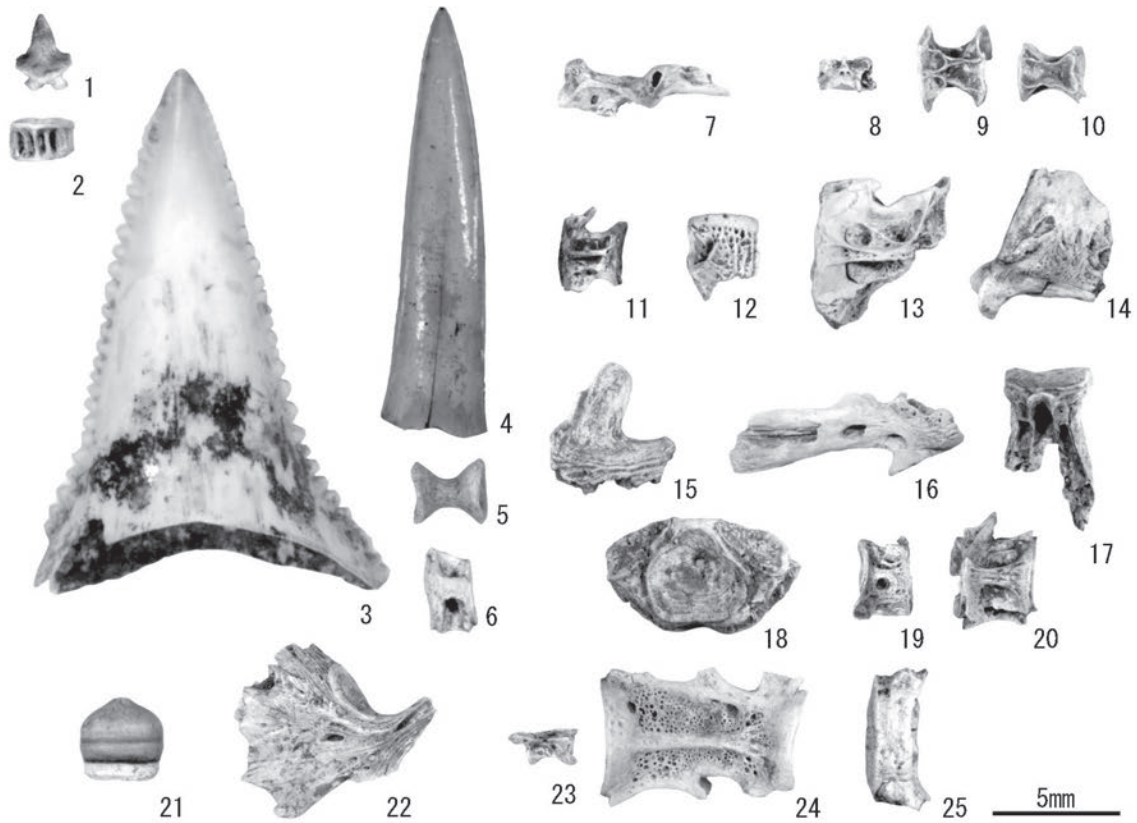
脊椎動物門 Phylum VERTEBRATA	
軟骨魚綱 Class Elasmobranchii	
エイ・サメ類	Elasmobranchii ord., fam., gen. et sp. indet.
メジロザメ科	Carcharhinidae gen. et sp. indet.
アオザメ?	<i>Isrus oxyrinchus</i> ?
ツノザメ目	Squaliformes fam., gen. et sp. indet.
硬骨魚綱 Class Osteithyes	
ニシン	<i>Clupea pallasii</i>
マイワシ	<i>Sardinops sagax</i>
ニシン科	Clupeidae gen. et sp. indet.
コイ科	Cyprinidae gen. et sp. indet.
サケ科	Salmonidae gen. et sp. indet.
タラ科	Gadidae gen. et sp. indet.
カレイ科	Pleuronectidae gen. et sp. indet.
フサカサゴ科	Scorpaenidae gen. et sp. indet.
アイナメ属	<i>Hexagrammos</i> spp.
アイナメ科	Hexagrammidae gen. et sp. indet.
タイ科	Sparidae gen. et sp. indet.
ブリ属	<i>Seriola</i> sp.
サバ属	<i>Scomber</i> sp.
カツオ・マグロ類	Scombrinae gen. et sp. indet.
鳥綱 Class Aves	
鳥綱の一種	Aves ord., fam., gen. et sp. indet.
哺乳綱 Class Mammalia	
ヒト	<i>Homo sapiens</i>
イタチ科	Mustelidae gen. et sp. indet.
オットセイ?	<i>Callorhinus ursinus</i> ?

館野6遺跡(2)

遺構	試料番号	発掘区	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考
M4	13	59R	エイ類	椎体	—	椎体	1	焼
			アイナメ属	歯骨	右	破片	1	焼
			アイナメ属	腹椎	—	椎体	1	焼
			アイナメ属	尾椎	—	椎体	3	焼
			硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
			哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	1	焼
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
			哺乳綱?	不明	不明	破片	+	焼
			硬骨魚綱	椎骨	—	椎体	1	焼
	14	59R	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
			鳥綱	四肢骨	不明	破片	1	焼
	15	59R	オットセイ?	中手骨or中足骨	不明	近位端	1	焼,♀?
			哺乳綱(海生)	四肢骨	不明	破片	4	焼
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
	16	59R	オットセイ?	指骨(母指)	不明	近位端	1	焼
			哺乳綱	不明	不明	破片	4	焼
	17	59R	鳥綱	中足骨	右	骨幹	1	焼
			鳥綱	四肢骨	不明	骨幹	1	焼
鳥綱			四肢骨	不明	破片	3	焼	
18	59T	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼	
		哺乳綱	不明	不明	破片	1	焼	
19	60R	イタチ科	下顎骨	右	下顎体	1	焼	
		オットセイ?	中手骨or中足骨	不明	近位端	1	焼	
		哺乳綱(海生)	四肢骨	不明	破片	2	焼	
		哺乳綱	頭蓋骨	不明	破片	1	焼,小型	
M6	20-25	44a	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
	21-23	43a	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
			硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
	24-25	43a	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
			哺乳綱	四肢骨	不明	骨幹破片	2	焼
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
	26	44a	ニシン	主上顎骨	左	破片	1	焼
			ニシン科	尾椎	—	椎体	1	焼
			サケ科	椎骨	—	破片	+	焼
			硬骨魚綱	顎骨?	不明	破片	1	焼
硬骨魚綱			不明	不明	破片	+	焼	
哺乳綱			不明	不明	破片	+	焼	
哺乳綱(海生)			不明	不明	破片	1	焼	
H21	28	59T	哺乳綱(海生)	不明	不明	破片	1	焼
H24,HF-1	29	47T	哺乳綱	不明	不明	破片	2	焼
H29	30	62S	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
			哺乳綱(海生)	不明	不明	破片	+	焼
H39	31	62U	エイ類	椎骨	—	椎体	2	焼
			ツノザメ目	椎骨	—	椎体	1	焼
			エイ・サメ類	椎骨	—	椎体	1	焼
			サバ属	尾椎	—	椎体	1	焼
			硬骨魚綱	椎骨	—	椎体	2	焼
			硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
32	62U	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼	
		哺乳綱	頭蓋骨	不明	破片	1	焼,小型	
		哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼	
33	62T	哺乳綱(海生)	不明	不明	破片	1	焼	
F66	34	54S	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
F67	35	57S	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
F68	36	58S	サメ類	椎骨	—	椎体	2	焼
			エイ・サメ類	椎骨	—	椎体	1	焼
			マイワシ	第2椎骨	—	椎体	2	焼
			ニシン科	腹椎	—	椎体	15	焼
			ニシン科	尾椎	—	椎体	28	焼
			コイ科	尾椎	—	椎体	1	焼
			サケ科	椎骨	—	椎体破片	+	焼
			フサカサコ科	方骨	左	関節	1	焼
			フサカサコ科?	椎骨	—	椎体	1	焼
			アイナメ属	前上顎骨	左	前端	1	焼
			アイナメ属	方骨	左	関節	1	焼
			アイナメ属	基後頭骨	—	破片	1	焼
			アイナメ属	第1椎骨	—	椎体	7	焼
			アイナメ科	腹椎	—	椎体	47	焼,アイナメ属以外にホッケ属も混じるか?
			アイナメ属	尾椎	—	椎体	92	焼
			硬骨魚綱	顎骨	不明	破片	8	焼
			硬骨魚綱	尾部棒状骨	—	破片	2	焼
			硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
			F69	37	60T	サメ類	椎骨	—
ニシン科	尾椎	—				椎体	1	焼
タイ科	歯	不明				不明	2	焼?
硬骨魚綱	不明	不明				破片	+	焼
鳥綱	四肢骨	不明				破片	1	焼
哺乳綱	不明	不明				破片	+	焼
38	60T	エイ類		椎骨	—	椎体	2	焼
		サメ類		椎骨	—	椎体	3	焼
		タイ科		歯	不明	不明	6	焼2点,焼?3点
		サバ属		第1椎骨	—	椎体	1	焼
硬骨魚綱	不明	不明		破片	+	焼		
鳥綱	四肢骨	不明		破片	1	焼		
哺乳綱	不明	不明		破片	+	焼		
39	60T	エイ類	椎骨	—	椎体	3	焼	
		ツノザメ目	椎骨	—	椎体	2	焼	
		ニシン科	腹椎	—	椎体	1	焼	
		ニシン科	尾椎	—	椎体	2	焼	
		タイ科	歯	不明	不明	1	焼?	
		硬骨魚綱	椎骨	—	椎体	2	焼	
		硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼	
哺乳綱	指骨	不明	ほぼ完存	1	焼,小型			
哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼			

遺構	試料番号	発掘区	分類群	部位	左右	部分・状態	数量	備考			
F69	40	60T	エイ類	椎骨	—	椎体	1	焼			
			ツノザメ目	椎骨	—	椎体	1	焼			
			ニシン科	腹椎	—	椎体	1	焼			
			ニシン科	尾椎	—	椎体	1	焼			
			タイ科	歯	不明		3	焼?			
			フリ属	角骨	左	関節	1	焼			
			サバ属	尾椎	—	椎体	1	焼			
			硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼			
			鳥綱	四肢骨	不明	骨幹	2	焼			
			哺乳綱(海生)	肋骨	不明	中間部破片	1	焼			
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼			
			エイ類	歯	不明	ほぼ完存	2	焼			
F70	41	59S	メジロザメ科?	歯	不明	破片	2	焼			
			サバ属	腹椎	—	椎体	1	焼			
			カツオ・マグロ類	尾椎(尾柄部)	—	椎体	2	焼			
			硬骨魚綱	尾椎	—	椎体	1	焼			
			硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼			
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼			
			硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼			
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼			
			F71	42	56S	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
						スケットウダラorマダラ	腹椎	—	椎体	1	焼
						硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼
			F72	43	54S	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼
ニシン科	腹椎	—				椎体	2	焼			
コイ科	尾椎	—				椎体	1	焼			
F73	44	58S	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼			
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼			
			鳥綱	脛足根骨	右	遠位端	1	焼			
	45	58S	鳥綱	足根中足骨	左	近位端	1	焼			
			鳥綱	四肢骨	不明	不明	破片	+	焼		
			硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼			
F75	46	60S	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼			
	47	60S	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼			
F76	48	61S	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼			
			ニシン科	腹椎	—	椎体	1	焼			
F77	49	57S	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼			
			哺乳綱(海生)	不明	不明	破片	+	焼			
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼			
	50	58S	ニシン科	尾椎	—	椎体	2	焼			
			アイナメ属	前上顎骨	左	前端	1	焼			
			硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼			
	51	58S	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼			
			哺乳綱(海生)	不明	不明	破片	+	焼			
	52	58S	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼			
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼			
	53	59S	ニシン科	腹椎	—	椎体	4	焼			
			ニシン科	尾椎	—	椎体	5	焼			
コイ科			尾椎	—	椎体	2	焼				
硬骨魚綱			顎骨	不明	破片	1	焼				
硬骨魚綱			不明	不明	破片	+	焼				
哺乳綱			不明	不明	破片	+	焼				
54	59S	エイ・サメ類	椎骨	—	椎体	1	焼				
		ニシン科	尾椎	—	椎体	3	焼				
		コイ科	尾椎	—	椎体	1	焼				
55	60S	タイ科	歯	不明		1	焼?				
		アイナメ属	腹椎	—	椎体	1	焼				
56	60S	硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼				
		メジロザメ科	歯	不明		1	焼?				
57	61S	硬骨魚綱	椎骨	—	椎体	1	焼				
		硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼				
		ヒト	後臼歯	不明	破片	1	焼				
F78	58	62S	哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼			
			硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼			
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼			
	59	62S	エイ・サメ類	椎骨	—	椎体	2	焼			
			サメ類	椎骨	—	椎体	3	焼			
			ツノザメ目	椎骨	—	椎体	4	焼			
			ニシン科	腹椎	—	椎体	3	焼			
			ニシン科	尾椎	—	椎体	11	焼			
			ニシン科	尾椎	—	椎体	2	焼			
			サケ科?	歯	不明		2	焼			
			アイナメ属	腹椎	—	椎体	1	焼			
			アイナメ属	尾椎	—	椎体	1	焼			
カレイ科			腹椎	—	椎体	1	焼				
硬骨魚綱			顎骨	不明	破片	1	焼				
硬骨魚綱			尾椎	—	椎体	2	焼未同定				
硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼						
哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼						
F78相当	60	62S	エイ・サメ類	椎骨	—	椎体	3	焼			
			ツノザメ目	椎骨	—	椎体	2	焼			
			ニシン科	尾椎	—	椎体	1	焼			
			コイ科	尾椎	—	椎体	1	焼			
			アイナメ科	腹椎	—	椎体	1	焼			
			タイ科	歯	不明		6	焼?			
			サバ属	腹椎	—	椎体	2	焼			
			硬骨魚綱	椎骨	—	椎体	2	焼未同定			
			硬骨魚綱	不明	不明	破片	+	焼			
			哺乳綱	不明	不明	破片	+	焼			

+ : あり (計数せず)



図版V-1-1 館野6遺跡出土の動物遺体

- 1. エイ類歯(41) 2. エイ類椎骨(13) 3. メジロザメ科歯(56) 4. アオザメ?歯(2)
- 5. ツノザメ目椎骨(39) 6. サメ類椎骨(36) 7. ニシン主上顎骨L(26) 8. マイワシ第2椎骨(36)
- 9. ニシン科腹椎(36) 10. ニシン科尾椎(36) 11. コイ科尾椎(36) 12. サケ科椎骨(36)
- 13. スケトウダラorマダラ腹椎(43) 14. フサカサゴ科方骨L(36) 15. アイナメ属前上顎骨L(36)
- 16. アイナメ属歯骨R(13) 17. アイナメ属基後頭骨(36) 18. アイナメ属第1椎骨(36) 19. アイナメ科腹椎(36)
- 20. アイナメ属尾椎(36) 21. タイ科歯(38) 22. プリ属角骨L(40) 23. サバ属第1椎骨(38) 24. サバ属尾椎(31)
- 25. カツオ・マグロ類尾椎(41) 26. 烏綱上腕骨R(8) 27. 烏綱脛足根骨(45) 28. ヒト後臼歯(57)
- 29. イタチ科下顎骨(19) 30. オットセイ?椎骨(5) 31. オットセイ?中手骨or中足骨(15) 32-33. オットセイ?指骨(16, 1)

表V-1-4 動物遺体分析依頼試料一覧

整理番号	フローテーション試料通し番号	遺構種類	遺構名	発掘区	層位	特徴 (時期はいずれも縄文時代前期後半で、円筒下層式に伴うものである)	調査月日 (2009)	水洗前 乾燥重 量 (g)	水洗前 乾燥体 積 (l)	作業月日 (2010)	浮遊物① (2.0mm) (g)	浮遊物② (0.425mm) (g)	残渣 重量 (g)	骨片 (g)	炭化種 子等の 整理 番号
1	101	盛土遺構	M2	62R	M2	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.8.18	2970	4.700	6月29日	1.0	0.9	522.5	3.2	
2	127	盛土遺構	M2	60T	M2-2最下位土器46に伴う土器注記はM2-2下下	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.09.01	-	-	11月14日	-	-	-	0.1	
3	113	盛土遺構	M2	59S	M2-2	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.07	20	0.020	6月30日	-	0.0<	3.7	1.9	
4	114	盛土遺構	M4	590	M4-6	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.24	120	0.180	6月30日	-	0.0<	0.1	0.0<	
5	111	盛土遺構	M4	59S	M4-6	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.08	70	0.050	6月29日	-	0.0<	0.9	0.9	
6	115	盛土遺構	M4	59S	M4-3	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.29	10	0.010	6月30日	-	-	0.5	0.5	
7	116	盛土遺構	M4	60R	M4-3	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.30	30	0.040	6月30日	-	0.0<	0.1	0.0<	
8	118	盛土遺構	M4	56R	M4-5	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.19	10	0.010	6月30日	-	-	1.1	1.1	
9	117	盛土遺構	M4	59S	M4-5	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.14	10	0.010	6月30日	-	-	1.5	1.5	
10	109	盛土遺構	M4	58R	M4-6	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.22	60	0.100	6月29日	0.0<	0.0<	0.2	0.1	
11	125	盛土遺構	M4	58R	M4-6土器170に伴う	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.20	-	-	11月14日	-	-	-	0.4	
12	108	盛土遺構	M4	590	M4-6	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.29	170	0.300	6月29日	0.0<	0.0<	3.5	1.9	
13	102	盛土遺構	M4	59R	M4-6	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.22	1040	1.700	6月29日	0.7	0.6	21.1	4.5	
14	103	盛土遺構	M4	59R	M4-6	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.27	240	0.300	6月29日	0.1	0.1	5.9	3.1	T6- 1
15	105	盛土遺構	M4	59R	M4-6	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.28	140	0.200	6月29日	0.8	0.0<	4.9	3.6	
16	106	盛土遺構	M4	59R	M4-6	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.21	20	0.030	6月29日	0.0<	0.0<	1.1	1.1	
17	107	盛土遺構	M4	59R	M4-6	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.24	100	0.180	6月29日	0.0<	0.0<	2.9	2.3	
18	119	盛土遺構	M4	59T	M4-6	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.28	10	0.010	6月30日	-	-	1.1	1.1	
19	110	盛土遺構	M4	60R	M4-6	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.23	20	0.030	6月29日	0.0<	0.0<	4.7	4.4	
20	26	盛土遺構	M6	44a	M6-1	M6盛土ベルト中の焼土部分をサンプリング (焼土名は付けず)	2009.11.06	18080	20.900	6月25日	28.1	28.4	604.3	0.0<	T6- 2
21	27	盛土遺構	M6	42a	M6-2	M6盛土ベルト中の焼土部分をサンプリング (焼土名は付けず)	2009.11.06	11650	13.700	6月25日	7.8	14.0	459.5	0.5	T6- 3
22	25	盛土遺構	M6	43a	M6-2	M6盛土ベルト中の焼土部分をサンプリング (焼土名は付けず)	2009.11.06	24580	27.000	6月25日	30.2	30.2	677.5	0.0<	T6- 4
23	28	盛土遺構	M6	43a	M6-2	M6盛土ベルト中の焼土部分をサンプリング (焼土名は付けず)	2009.11.07	6040	7.000	6月25日	9.4	10.1	124.6	0.3	T6- 5
24	128	盛土遺構	M6	43a	M6-2	M6盛土ベルト中の焼土部分をサンプリング (焼土名は付けず)	2009.11.07	-	-	11月14日	-	-	-	1.9	
25	29	盛土遺構	M6	44a	M6-2	M6盛土ベルト中の焼土部分をサンプリング (焼土名は付けず)	2009.11.07	4130	4.600	6月24日	-	-	552.2	0.1	
26	30	盛土遺構	M6	44a	M6-2	M6盛土ベルト中の焼土部分をサンプリング (焼土名は付けず)	2009.11.06	11600	15.100	6月25日	20.4	22.1	447.6	0.6	T6- 7
27	112	盛土遺構	M6	44Z	M6-2	M6盛土ベルト中の焼土部分をサンプリング (焼土名は付けず) 骨製品 (鯨骨製) 8.6gと共存	2009.10.31	20	0.040	6月29日	-	-	10.4	0.1	
28	120	竪穴住居覆土中廃棄	H21	59T	住居覆土	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.-.-	50	0.080	6月30日	-	0.0<	0.9	0.9	
29	9	竪穴住居炉	H24_HF-1	47T	HF1覆土1層	住居中の焼土をサンプリング	2009.10.01	3270	3.800	6月24日	2.7	6.7	97.5	0.0<	T6- 9
30	121	竪穴住居覆土中廃棄	H29	62S	住居覆土	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.-	510	1.000	6月29日	0.0<	0.0<	9.2	1.2	
31	122	竪穴住居覆土中廃棄	H39	62U	住居覆土下部	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.15	1380	2.400	6月29日	7.3	10.5	58.0	0.8	T6- 10
32	123	竪穴住居覆土中廃棄	H39	62U	住居覆土下部	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.19	1890	3.100	6月29日	11.4	10.0	108.8	0.5	T6- 11
33	124	竪穴住居覆土中廃棄	H39	62T	住居壁際前落部	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル	2009.10.24	10	0.020	6月30日	-	0.0<	3.4	3.4	
34	32	盛土遺構中の焼土	F66	54S	焼土層 ストレッチ (5cm×3回掘り下げ)	M4盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.07.28	3430	4.600	6月25日	3.8	5.1	97.8	0.1	T6- 13
35	33	盛土遺構中の焼土	F67	57S	焼土層 ストレッチ (5cm×4回掘り下げ)	M4盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.07.29	29460	36.900	6月25日	18.3	34.8	761.9	1.5	T6- 14
36	34	盛土遺構中の焼土	F68	58S	焼土層 ストレッチ (5cm×5回掘り下げ)	M3盛土に関連。Sライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.07.29	44300	55.200	6月28日	24.5	64.1	1095.6	2.1	T6- 15
37	35	H21覆土への遺物廃棄に伴う焼土	F69	60T	焼土層 アトレッチ (5cm×7回掘り下げ)	M2盛土より下から検出した竪穴住居H21覆土への遺物廃棄に伴う焼土。H21はM4盛土を掘りこんで構築。Aライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.07.29	7040	9.500	6月28日	41.3	41.5	229.9	3.2	T6- 16
38	36	H21覆土への遺物廃棄に伴う焼土	F69	60T	焼土層 アトレッチ (5cm×7回掘り下げ)	M2盛土より下から検出した竪穴住居H21覆土への遺物廃棄に伴う焼土。H21はM4盛土を掘りこんで構築。Aライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.07.31	2910	4.000	6月24日	27.0	26.8	182.3	2.5	T6- 17
39	37	H21覆土への遺物廃棄に伴う焼土	F69	60T	焼土層 アトレッチ (5cm×7回掘り下げ)	M2盛土より下から検出した竪穴住居H21覆土への遺物廃棄に伴う焼土。H21はM4盛土を掘りこんで構築。Aライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.08.03	18880	25.900	6月28日	83.6	127.4	651.8	4.5	T6- 18
40	38	H21覆土への遺物廃棄に伴う焼土	F69	60T	焼土層 アトレッチ (5cm×7回掘り下げ)	M2盛土より下から検出した竪穴住居H21覆土への遺物廃棄に伴う焼土。H21はM4盛土を掘りこんで構築。Aライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.08.04	5120	6.800	6月28日	30.6	85.9	307.4	4.1	T6- 19
41	39	盛土遺構中の焼土	F70	59S	焼土層 ストレッチ (5cm×8回掘り下げ)	M4 (またはM3) 盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.07.30	10770	14.100	6月28日	13.0	39.5	306.0	0.6	T6- 20
42	40	盛土遺構中の焼土	F71	56S	焼土層 ストレッチ (5cm×8回掘り下げ)	M4盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.07.30	1950	2.600	6月24日	1.6	1.6	18.7	0.0<	
43	41	盛土遺構中の焼土	F72	54S	焼土層 ストレッチ (5cm×10回掘り下げ)	M4 (またはM3) 盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.08.03	950	1.500	6月24日	2.9	2.5	72.4	0.1	T6- 22
44	42	盛土遺構中の焼土	F73	58S	焼土層 ストレッチ (5cm×10回掘り下げ)	M4盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.08.04	10460	13.500	6月28日	10.0	22.4	120.6	2.6	T6- 23
45	129	盛土遺構中の焼土	F73	58S	焼土層 ストレッチ (5cm×10回掘り下げ)	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル。 M4盛土トレッチ以外	2009.08.04	-	-	11月14日	-	-	-	0.7	
46	44	盛土遺構中の焼土	F75	60S	焼土層 ストレッチ (5cm×11回掘り下げ)	M4盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.08.05	4300	5.900	6月24日	48.1	20.8	116.8	0.6	T6- 24
47	43	盛土遺構中の焼土	F75	60S	焼土層 ストレッチ (5cm×11回掘り下げ)	M4盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.08.04	4260	5.500	6月24日	8.0	6.2	78.9	0.0<	T6- 25
48	45	盛土遺構中の焼土	F76	61S	焼土層 アトレッチ (5cm×11回掘り下げ)	M4盛土Aライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.08.04	2230	3.300	6月24日	16.0	11.1	71.4	0.2	T6- 26
49	46	盛土遺構中の焼土	F77	57S	焼土層 ストレッチ (5cm×11回掘り下げ)	M4盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング。M4-6層相当の焼土	2009.08.05	5880	7.700	6月24日	17.1	16.5	370.2	2.8	T6- 21
50	47	盛土遺構中の焼土	F77	58S	焼土層 ストレッチ (5cm×11回掘り下げ)	M4盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング。M4-6層相当の焼土	2009.08.05	7400	10.100	6月28日	22.5	26.9	238.1	2.2	T6- 27
51	48	盛土遺構中の焼土	F77	58S	焼土層 ストレッチ (5cm×11回掘り下げ)	M4盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング。M4-6層相当の焼土	2009.08.05	1300	1.900	6月24日	1.5	2.1	88.0	1.5	T6- 28
52	50	盛土遺構中の焼土	F77	58S	焼土層 ストレッチ (5cm×11回掘り下げ)	M4盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング。M4-6層相当の焼土	2009.08.06	21420	28.600	6月28日	45.0	52.4	275.8	4.0	T6- 29
53	49	盛土遺構中の焼土	F77	59S	焼土層 ストレッチ (5cm×11回掘り下げ)	M4盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング。M4-6層相当の焼土	2009.08.05	38580	49.800	6月28日	126.2	186.7	710.5	1.7	T6- 30
54	51	盛土遺構中の焼土	F77	59S	焼土層 ストレッチ (5cm×11回掘り下げ)	M4盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング。M4-6層相当の焼土	2009.08.06	41440	52.800	6月28日	131.5	143.8	780.5	3.2	T6- 31
55	52	盛土遺構中の焼土	F77	60S	焼土層 ストレッチ (5cm×11回掘り下げ)	M4盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング。M4-6層相当の焼土	2009.08.06	2130	3.300	6月24日	12.3	11.1	63.3	0.4	T6- 32
56	126	盛土遺構中の焼土	F77	60S	焼土層 ストレッチ (5cm×11回掘り下げ)	骨片が目立つため補足的に取り上げた土壌サンプル。M4-6層相当の焼土トレッチ以外	2009.08.05	-	-	11月14日	-	-	-	0.2	
57	53	盛土遺構中の焼土	F77	61S	焼土層 ストレッチ (5cm×11回掘り下げ)	M4盛土Sライントレンチ中の焼土をサンプリング。M4-6層相当の焼土	2009.08.06	2090	3.100	6月24日	9.3	6.6	79.4	1.3	T6- 33
58	54	H29覆土への遺物廃棄に伴う焼土	F78	62S	焼土層 アトレッチ (5cm×7回掘り下げ)	M2盛土より下から検出した竪穴住居H29覆土への遺物廃棄に伴う焼土。H29はM4盛土を掘りこんで構築。Sライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.08.06	3760	4.800	6月24日	1.6	2.9	105.9	0.0<	T6- 34
59	55	H29覆土への遺物廃棄に伴う焼土	F78	62S	焼土層 アトレッチ (5cm×7回掘り下げ)	M2盛土より下から検出した竪穴住居H29覆土への遺物廃棄に伴う焼土。H29はM4盛土を掘りこんで構築。Sライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.08.06	2930	4.000	6月24日	0.3	0.6	322.0	13.4	T6- 35
60	31	H29覆土への遺物廃棄に伴う焼土	F78相当	62S	焼土層 アトレッチ (5cm×7回掘り下げ)	M2盛土より下から検出した竪穴住居H29覆土への遺物廃棄に伴う焼土。H29はM4盛土を掘りこんで構築。Sライントレンチ中の焼土をサンプリング	2009.08.05	3980	4.600	6月24日	6.8	8.2	261.1	6.4	T6- 36

2. 館野6遺跡出土の炭化種実

佐々木由香・バンダリ スダルシャン (パレオ・ラボ)

1. はじめに

館野6遺跡は北斗市館野に位置し、海岸から約200mの下矢不來川左岸の海岸段丘上、標高約50～60mの地点に立地する。ここでは円筒下層b式から下層d式期を中心とする縄文時代前期後半の盛土遺構および竪穴住居跡などから得られた種実の同定を行い、当時の植生や食用とされた種実に関する情報を得る。

2. 試料と方法

試料は、1試料あたり1点から数百点の炭化物を含む水洗済み試料である。試料の内訳を整理番号順に遺構名と試料数で示すと、盛土遺構であるM4(1試料)とM6(6試料)、竪穴住居炉であるH19, HF1(1試料)とH24, HF1(1試料)、竪穴住居覆土中廃棄のH39(2試料)、竪穴住居炉であるH52, HF1(1試料)、盛土遺構中の焼土であるF66(1試料)と、F67(1試料)、F68(1試料)、H21覆土への遺物廃棄に伴う焼土であるF69(4試料)、盛土遺構中の焼土であるF70(1試料)と、F77(1試料)、F72(1試料)、F73(1試料)、F75(2試料)、F76(1試料)、F77(7試料)、H29覆土への遺物廃棄に伴う焼土であるF78(3試料)、竪穴住居炉であるH32, HF1(1試料)とH54, HF1(1試料)、H57, HF1(1試料)の計39試料である。遺構の時期は、いずれも縄文時代前期後半で、各遺構の詳細な時期は不明だが、主体となる時期は円筒下層b式から下層d式期である。

堆積物の採取から水洗、抽出までの作業は、北海道埋蔵文化財センターによって行われた。水洗前の土壌重量は表を参照されたい。水洗は、最小0.425mmの篩を用いて、浮遊選別法と水洗選別法によって浮遊物と沈殿物双方が回収された。炭化種実の抽出・同定・計数は肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損しても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。試料は北海道埋蔵文化財センターに保管されている。

3. 結果

同定した結果、木本植物では広葉樹のオニグルミ炭化核と、クリ炭化子葉、キハダ炭化種子、トチノキ炭化種子、ニワトコ炭化核の5分類群が見いだされた(表1～3)。このほかに、科以下の同定ができなかった一群を不明炭化種実Aとし、微細な破片であるため科以下の識別点をもたない同定不能な一群を同定不能種実とした。種実以外では、炭化した虫えいと子囊菌が得られた。炭化材や骨片も得られたが検討の対象外とした。また、草本植物で未炭化のタニソバ果実とスギナ地下茎が得られた。遺跡の立地から判断して、当時の未炭化種実は残存しないと考えられるため、未炭化の種実は現生の種実として扱った。同定した総点数は、1149点であった。

以下に、遺構種類別の炭化種実の出土傾向を記載する(未炭化種実と、不明炭化種実、同定不能炭化種実、虫えい、子囊菌は除く)。

[盛土遺構]

M4: 炭化種実が得られなかった。

M6: オニグルミが多数、クリとトチノキが少数、キハダがわずかに得られた。44aのM6-1層からはオニグルミの破片が67点得られたが、完形個体数に換算すると2～3個程度であった。ほかの地点でもオニグルミの破片数は多いが、完形個体数に換算すると、1個かそれ以下であった。

表V-2-1~3 館野6遺跡から出土した炭化種実

表1 館野6遺跡から出土した炭化種実(括弧は破片を示す)

遺構種類	盛土遺構						竪穴住居炉		竪穴住居覆土中廃棄		竪穴住居炉	
	M4		M6		M6		H19, HF-1	H24, HF-1	H39	H52, HF-1		
遺構名	59R		44a		42a		43X		44a		46Z	
発掘区	M4-6		M6-1		M6-2		M6-2		M6-2		M6-2	
層位	T6-1		T6-2		T6-3		T6-4		T6-5		T6-6	
整理番号	T6-1		T6-2		T6-3		T6-4		T6-5		T6-6	
試料通し番号	103		26		27		25		28		19	
分類群	水洗重量(g)		240		18,080		11,650		24,580		6,040	
オニグルミ	炭化核		(67)	(18)	(17)	(9)	(6)	(48)				
クリ	炭化子葉				(8)							(1)
キハダ	炭化種子		(1)									
トチノキ	炭化種子							(7)				
ニワトコ	炭化核										3	(3)
タニソバ	果実	1										
不明A	炭化種実											1
同定不能	炭化種実		(20)		(1)			(17)	(1)	(1)		(3)
虫えい									(2)			
子囊菌	炭化子囊											1

表2 館野6遺跡から出土した炭化種実(括弧は破片を示す)

遺構種類	盛土遺構中の焼土				H21覆土への遺物廃棄に伴う焼土				盛土遺構中の焼土					
	F66		F67		F68		F69		F70		F77		F73	
遺構名	54S		57S		58S		60T		59S		57S		54S	
発掘区	54S		57S		58S		60T		59S		57S		54S	
層位	焼土層 Stレンヂ				焼土層 Atレンヂ				焼土層 Stレンヂ					
掘り下げ範囲	5cm×3回		5cm×4回		5cm×5~7回		5cm×7回		5cm×8回		5cm×10回		5cm×11回	
範囲×回数	T6-13		T6-14		T6-15		T6-16		T6-17		T6-18		T6-19	
整理番号	32		33		34		35		36		37		38	
試料通し番号	32		33		34		35		36		37		38	
分類群	水洗重量(g)		3,430		29,460		44,300		7,040		2,910		18,880	
オニグルミ	炭化核	(1)	(68)	(82)	(20)	(2)	(47)	(7)	(6)			(4)	(22)	
クリ	炭化子葉		(4)	(23)	(1)		(1)	(1)				(4)		
ニワトコ	炭化核						1							
同定不能	炭化種実	(1)	(4)	(8)	(3)		(2)							
子囊菌	炭化子囊						5			1			2	
													1	

表3 館野6遺跡から出土した炭化種実(括弧は破片を示す)

遺構種類	盛土遺構中の焼土						H29覆土への遺物廃棄に伴う焼土				竪穴住居炉									
	F76		F77		F77		F78		F78相当		H32, HF-1	H54, HF-1	H57, HF-1							
遺構名	61S		58S		59S		60S		61S		62S		F78相当							
発掘区	61S		58S		59S		60S		61S		62S		F78相当							
層位	焼土層 Atレンヂ				焼土層 Stレンヂ				焼土層 Atレンヂ				HF-1覆土1層	HF-1覆土2層	HF-1覆土1層					
掘り下げ範囲	5cm×11回				5cm×11回				5cm×7回											
範囲×回数	T6-26				T6-27				T6-28				T6-29							
整理番号	45				47				48				50							
試料通し番号	45				47				48				50							
分類群	水洗重量(g)				2,230				7,400				1,300				21,420			
オニグルミ	炭化核	(16)	(23)		(28)	(90)	(17)	(26)	(8)	(2)	(2)	(107)								
クリ	炭化子葉		(6)		(2)	(21)	(201)	(3)												
キハダ	炭化種子					(1)														
タニソバ	果実															1				
スギナ近似種	地下茎															1 (5)				
同定不能	炭化種実				(3)	(4)	(1)		(1)	(2)	(9)									
虫えい																1 (2)				
子囊菌	炭化子囊												2	6		1				

[竪穴住居炉]

H19, HF-1・H24, HF-1・H52, HF-1・H32, HF-1・H54, HF-1・H57, HF-1: 炭化種実が得られなかった。

[竪穴住居覆土中廃棄]

H39: クリとニワトコがわずかに得られた。

[盛土遺構中の焼土]

F66: オニグルミがわずかに得られた。

F67: オニグルミが多数とクリがわずかに得られた。オニグルミの完形個体換算数は1~2個程度であった。

F68: オニグルミが多数とクリが少数得られた。オニグルミの完形個体換算数は1~2個程度であった。クリの復元完形個体数は1個以上であった。

F70: オニグルミがわずかに得られた。

F72: オニグルミがわずかに得られた。

F73: オニグルミが少数とクリがわずかに得られた。オニグルミの完形個体換算数は1個程度であった。

F75: 炭化種実が得られなかった。

F76: オニグルミが少数得られた。オニグルミの完形個体換算数は1~2個程度であった。オニグルミには齧歯類の食痕をもつものが1点みられた。

F77: オニグルミとクリが多数とキハダがわずかに得られた。オニグルミとクリは59Sに多数みられ、オニグルミの完形個体換算数は4個程度、クリの完形個体換算数は12~13個程度であった。オニグルミは60Sでも多い傾向があり、完形個体換算数は1~2個程度であった。そのほかの試料では、オニグルミの完形個体換算数は1個未満であった。

[H21覆土への遺物廃棄に伴う焼土]

F69: オニグルミが多数とクリとニワトコがわずかに得られた。オニグルミはT6-18に多数みられ、完形個体換算数は1~2個程度であった。そのほかの試料では、オニグルミの完形個体換算数は1個未満であった。

[H29覆土への遺物廃棄に伴う焼土]

F78: オニグルミがわずかに得られた。

F78相当: オニグルミが多数得られた。完形個体換算数は1~2個程度であった。

以下に、炭化種実の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

(1) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino 炭化核 クルミ科
すべて1/2未満の破片である。完形ならば側面観は広卵形。表面に縦方向の縫合線があり、浅い溝と凹凸が不規則に入る。壁は緻密で硬く、ときどき空隙がある。断面は鋭角で光沢があり、角が尖るものが多い。最大で、残存長17.8mm、残存幅15.3mm。

(2) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 炭化子葉 ブナ科

側面は広卵形。しわ状の浅い縦溝が一面にある。しわ以外の面は平坦でやや光沢があり、硬質。最大で、長さ13.5mm、幅14.9mm。

(3) キハダ *Phellodendron amurense* Rupr. 炭化種子 ミカン科

すべて破片である。完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は偏楕円形。表面にはやや大きく高さのほとんどない網目模様がある。壁はやや薄い硬い。最大で、残存長3.5mm、残存幅1.6mm。

(4) トチノキ *Aesculus turbinata* Blume 炭化種子 トチノキ科

すべて破片である。完形ならば楕円形で、下半部は褐色で光沢がなく、上半部は黒褐色で光沢がややある。上下の境目の下に少し突出した着点がある。種皮は薄くやや硬い。種皮は3層からなり、各層で細胞の配列方向が異なる。種皮表面には指紋状の微細模様が密にある。最大で、残存長6.8mm、残存幅4.8mm。

(5) ニワトコ *Sambucus racemosa* L. subsp. *sieboldiana* (Miq.) H.Hara 炭化核 スイカズラ科

上面観は扁平、側面観は楕円形で基部が尖る。基部に小さな着点があり、縦方向にやや反る。波状の凹凸が横方向に走る。長さ2.0mm、幅1.3mm程度。

(6) 不明A Unknown A 炭化種実

上面観は扁平、側面観はやや角がある倒卵形。形状はニワトコに似るが、表面には凹凸がみられない。長さ2.2mm、幅1.5mm。

(7) 虫えい Gall

楕円形で、片側中央部が凹む。表面は平滑。長さ2.0mm、幅2.7mm。

(8) 子囊菌 Ascomycota 炭化子囊

球形で、表面には微細な模様がある。長さ0.8mm、幅1.0mm程度。

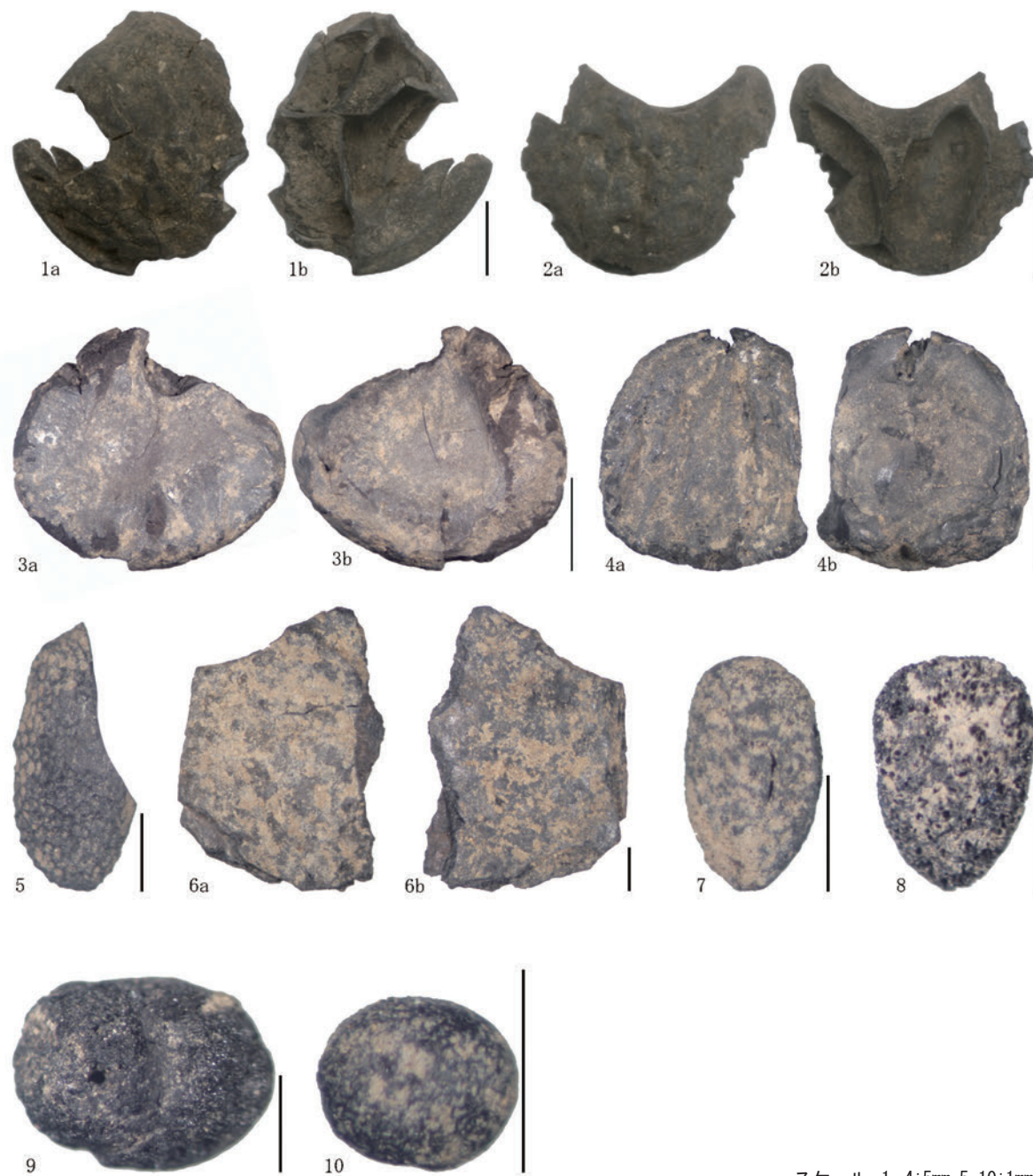
4. 考 察

縄文時代前期後半の遺構から出土した種実では、オニグルミや、クリ、トチノキといった食用可能な堅果類が多く、これらにキハダやニワトコといった食用可能な種実が伴っていた。これらのうち、トチノキは食用にあたってアク抜きが必要な種である。トチノキは盛土遺構の1ヵ所のみからしか得られていないが、縄文時代前期後半段階においてトチノキが利用されていた可能性を示唆している。オニグルミやトチノキは、食用にならない部位の出土が多いことから、利用されたものとするならば、加工時の残滓が炭化したと考えられる。キハダはすべて炭化した破片であり、加工時の何らかの状況を反映している可能性がある。

遺構種類別に出土傾向をみていくと、M6の盛土遺構からは、オニグルミとクリ、トチノキ、キハダが得られた。オニグルミは165点と多いがすべて破片で、完形個体換算数は5～6個程度であった。また、同定不能炭化種実も38点と多く、炭化材も含まれていた。同定可能な分類群はすべて食用可能な種実である点や炭化材が多い点から、盛土遺構内には生活残滓がかなり混在していたと考えられる。

竪穴住居炉からは同定可能な炭化種実が得られなかった。同定不能種実がわずかに得られたのみであり、元々種実が含まれていなかった可能性や、種実があったとしてもほとんどが灰または同定不能種実となり、同定可能な種実として遺存しなかった可能性や、水洗量が他の遺構と比べて少なかったために種実が得られなかった可能性などが考えられる。

竪穴住居覆土中に廃棄されたH39からは、クリとニワトコが得られた。盛土遺構中の焼土からは、9基中8基から同定可能な種実が得られ、オニグルミが8基、クリが4基、キハダが1基から得られた。H21覆土への遺物廃棄に伴う焼土であるF69からは、オニグルミとクリ、ニワトコが得られた。H29覆土への遺物廃棄に伴う焼土であるF78とF78相当からはオニグルミが得られた。これらは調理中、あるいは利用後の残滓が何らかの要因で炭化したか、火にくべられて炭化したなどの可能性が考えられる。オニグルミは他の種実と比べても残りやすいため、利用された比率については言及するのは難しいが、少なくとも複数の遺構から得られたオニグルミとクリ、キハダ、ニワトコについては、縄文時代前期後半の館野6遺跡で頻繁に利用されていたと考えられる。



図版V-2-1 館野6遺跡から出土した炭化種実

1. オニグルミ炭化核(T6-32)、2. オニグルミ炭化核(動物食痕、T6-33)、3. クリ炭化子葉(T6-31)、
4. クリ炭化子葉(T6-30)、5. キハダ炭化種子(T6-2)、6. トチノキ炭化種子(T6-7)、7. ニワトコ炭化核(T6-10)、
8. 不明A炭化種実(T6-11)、9. 虫えい(T6-38)、10. 子囊菌炭化子囊(T6-18)

表V-2-4 炭化種実分析依頼試料一覧

遺跡略称	整理番号	フローテーション試料通し番号	調査月日(2009)	遺構種類	遺構名	発掘区	層位	水洗前乾燥重量(g)	水洗前乾燥体積(l)	作業月日(2010)	浮遊物①(2.0mm)(g)	浮遊物②(0.425mm)(g)	残渣重量(g)	堅果(g)	種子(粒)	動物遺体整理番号との対応
T6-1	103		2009.10.27	盛土遺構	M4	59R	M4-6	240	0.300	6月29日	0.1	0.1	5.9	-	1	14
T6-2	26		11/6	盛土遺構	M6	44a	M6-1	18080	20.900	6月25日	28.1	28.4	604.3	1.6	-	20
T6-3	27		11/6	盛土遺構	M6	42a	M6-2	11650	13.700	6月25日	7.8	14.0	459.5	0.5	-	21
T6-4	25		11/6	盛土遺構	M6	43a	M6-2	24580	27.000	6月25日	30.2	30.2	677.5	1.0	-	22
T6-5	28		11/7	盛土遺構	M6	43a	M6-2	6040	7.000	6月25日	9.4	10.1	124.6	0.1	5	23
T6-6	19		10/31	盛土遺構	M6	43X	M6-2	900	1.000	6月24日	-	-	128.8	0.1	-	
T6-7	30		11/6	盛土遺構	M6	44a	M6-2	11600	15.100	6月25日	20.4	22.1	447.6	2.2	-	26
T6-8	2		9/15	竪穴住居炉	H19,HF-1	-	覆土1層	4550	4.900	6月24日	3.1	6.4	679.0	-	2	
T6-9	9		10/1	竪穴住居炉	H24,HF-1	-	覆土1層	3270	3.800	6月24日	2.7	6.7	97.5	-	1	29
T6-10	122		2009.10.15	竪穴住居覆土中廃棄	H39	-	覆土下部	1380	2.400	6月29日	7.3	10.5	58.0	-	3	31
T6-11	123		2009.10.19	竪穴住居覆土中廃棄	H39	-	覆土下部	1890	3.100	6月29日	11.4	10.0	108.8	-	6	32
T6-12	16		10/26	竪穴住居炉	H52,HF-1	-	覆土2層	5670	6.500	6月25日	27.5	11.9	139.2	1点	-	
T6-13	32		7/28	盛土遺構中の焼土	F66	54S	焼土層	3430	4.600	6月25日	3.8	5.1	97.8	0.1	-	34
T6-14	33		7/29	盛土遺構中の焼土	F67	57S	焼土層	29460	36.900	6月25日	18.3	34.8	761.9	1.1	-	35
T6-15	34		7/29	盛土遺構中の焼土	F68	58S	焼土層	44300	55.200	6月28日	24.5	64.1	1095.6	1.7	-	36
T6-16	35		7/29	盛土遺構中の焼土	F69	60T	焼土層	7040	9.500	6月28日	41.3	41.5	229.9	0.9	-	37
T6-17	36		7/31	盛土遺構中の焼土	F69	60T	焼土層	2910	4.000	6月24日	27.0	26.8	182.3	0.1	-	38
T6-18	37		8/3	盛土遺構中の焼土	F69	60T	焼土層	18880	25.900	6月28日	83.6	127.4	651.8	1.0	8	39
T6-19	38		8/4	盛土遺構中の焼土	F69	60T	焼土層	5120	6.800	6月28日	30.6	85.9	307.4	0.3	-	40
T6-20	39		7/30	盛土遺構中の焼土	F70	69S	焼土層	10770	14.100	6月28日	13.0	39.5	306.0	0.2	-	41
T6-21	46		8/5	盛土遺構中の焼土	F77	57S	焼土層	5880	7.700	6月24日	17.1	16.5	370.2	-	1	49
T6-22	41		8/3	盛土遺構中の焼土	F72	54S	焼土層	950	1.500	6月24日	2.9	2.5	72.4	0.2	-	43
T6-23	42		8/4	盛土遺構中の焼土	F73	58S	焼土層	10460	13.500	6月28日	10.0	22.4	120.6	0.7	-	44
T6-24	44		8/5	盛土遺構中の焼土	F75	60S	焼土層	4300	5.900	6月24日	48.1	20.8	116.8	0.1	2	46
T6-25	43		8/4	盛土遺構中の焼土	F75	60S	焼土層	4260	5.500	6月24日	8.0	6.2	78.9	-	1	47
T6-26	45		8/4	盛土遺構中の焼土	F76	61S	焼土層	2230	3.300	6月24日	16.0	11.1	71.4	0.6	-	48
T6-27	47		8/5	盛土遺構中の焼土	F77	58S	焼土層	7400	10.100	6月28日	22.5	26.9	238.1	0.5	-	50
T6-28	48		8/5	盛土遺構中の焼土	F77	58S	焼土層	1300	1.900	6月24日	1.5	2.1	88.0	0.1	-	51
T6-29	50		8/6	盛土遺構中の焼土	F77	58S	焼土層	21420	28.600	6月28日	45.0	52.4	275.8	0.5	9	52
T6-30	49		8/5	盛土遺構中の焼土	F77	59S	焼土層	38580	49.800	6月28日	126.2	186.7	710.5	2.8	4	53
T6-31	51		8/6	盛土遺構中の焼土	F77	59S	焼土層	41440	52.800	6月28日	131.5	143.8	780.5	5.6	37	54
T6-32	52		8/6	盛土遺構中の焼土	F77	60S	焼土層	2130	3.300	6月24日	12.3	11.1	63.3	1.3	-	55
T6-33	53		8/6	盛土遺構中の焼土	F77	61S	焼土層	2090	3.100	6月24日	9.3	6.6	79.4	0.5	-	57
T6-34	54		8/6	盛土遺構中の焼土	F78	62S	焼土層	3760	4.800	6月24日	1.6	2.9	105.9	0.1	-	58
T6-35	55		8/6	盛土遺構中の焼土	F78	62S	焼土層	2930	4.000	6月24日	0.3	0.6	322.0	0.1	-	59
T6-36	31		8/5	盛土遺構	F78相当	62S	焼土層	3980	4.600	6月24日	6.8	8.2	261.1	1.4	-	60
T6-37	10		10/6	竪穴住居炉	H32,HF-1	-	覆土1層	4160	4.200	6月24日	15.0	7.9	221.2	-	3	
T6-38	18		10/29	竪穴住居炉	H54,HF-1	-	覆土2層	5430	6.000	6月25日	9.0	5.7	464.2	-	7	
T6-39	21		11/2	竪穴住居炉	H57,HF-1	-	覆土1層	880	1.200	6月24日	5.2	5.5	29.0	-	3	

3. 館野6遺跡出土炭化材の樹種同定

黒沼保子(パレオ・ラボ)

1. はじめに

館野6遺跡は北斗市館野に所在する遺跡であり、縄文時代前期後半円筒下層式期の盛土遺構や竪穴住居跡が検出されている。ここでは、竪穴住居跡から出土した建築材と推定される炭化材の樹種同定結果を報告する。

2. 試料と方法

試料は、縄文時代中期前半円筒上層式期の竪穴住居跡(調査時は前期後半と考えていた)である、H24の覆土4層下位から出土した炭化材10点(HT6-1~6、HT6-8~11)である。

試料の3断面(横断面・接線断面・放射断面)を、手あるいはカッターナイフを用いて割り出し、直径1cmの真鍮製試料台に試料を両面テープで固定、銀ペーストを塗布した。乾燥後、金蒸着して走査型電子顕微鏡(日本電子(株)製 JSM-5900LV型)を用いて樹種の同定を行った。

3. 結果

広葉樹のクリとコナラ属コナラ節の2分類群が確認された。クリはすべて破片であったため、元の形状は不明である。コナラ属コナラ節は割れていたが、元は半割か丸木と思われる。結果の一覧を表1に示す。

表V-3-1 樹種同定結果

表1 樹種同定結果

試料番号	遺構	層位	重量(g)	樹種	形状(残存径、残存年輪数)
HT6-1	H24 竪穴住居	覆土3層中位	4.34	クリ	破片(1.7×2.0cm、6年輪)
HT6-2	H24 竪穴住居	覆土3層中位	1.58	クリ	破片(3.0×1.3cm、13年輪)
HT6-3	H24 竪穴住居	覆土3層中位	1.13	クリ	破片(0.8×2.1cm、22年輪)
HT6-4	H24 竪穴住居	覆土3層中位	2.69	クリ	破片(2.0×1.0cm、12年輪)
HT6-5	H24 竪穴住居	覆土3層中位	5	クリ	破片(1.3×1.6cm、17年輪)
HT6-6	H24 竪穴住居	覆土3層中位	2.5	クリ	破片(2.0×2.0cm、10年輪)
HT6-8	H24 竪穴住居	覆土3層中位	5.54	コナラ属コナラ節	半割?(直径:2.3cm、2年輪)
HT6-9	H24 竪穴住居	覆土3層中位	3.07	クリ	破片(不明)
HT6-10	H24 竪穴住居	覆土3層中位	11.1	クリ	破片(2.6×3.2cm、33年輪)
HT6-11	H24 竪穴住居	覆土3層中位	5.74	クリ	破片(2.3×2.5cm、12年輪)

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版1 1a-1c(HT6-11)、2a(HT6-1)、3a(HT6-2)、4a(HT6-3)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で主に単列である。道管放射組織間壁孔は柵状となる。

クリは温帯下部から暖帯に分布する落葉高木で、材は耐朽性・耐湿性に優れ、保存性が高い。

(2) コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Primus* ブナ科 図版1 5a-5c(HT6-8)

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は温帯下部および暖帯に分布する落葉高木で、カシワ、ミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で加工困難である。

4. 考 察

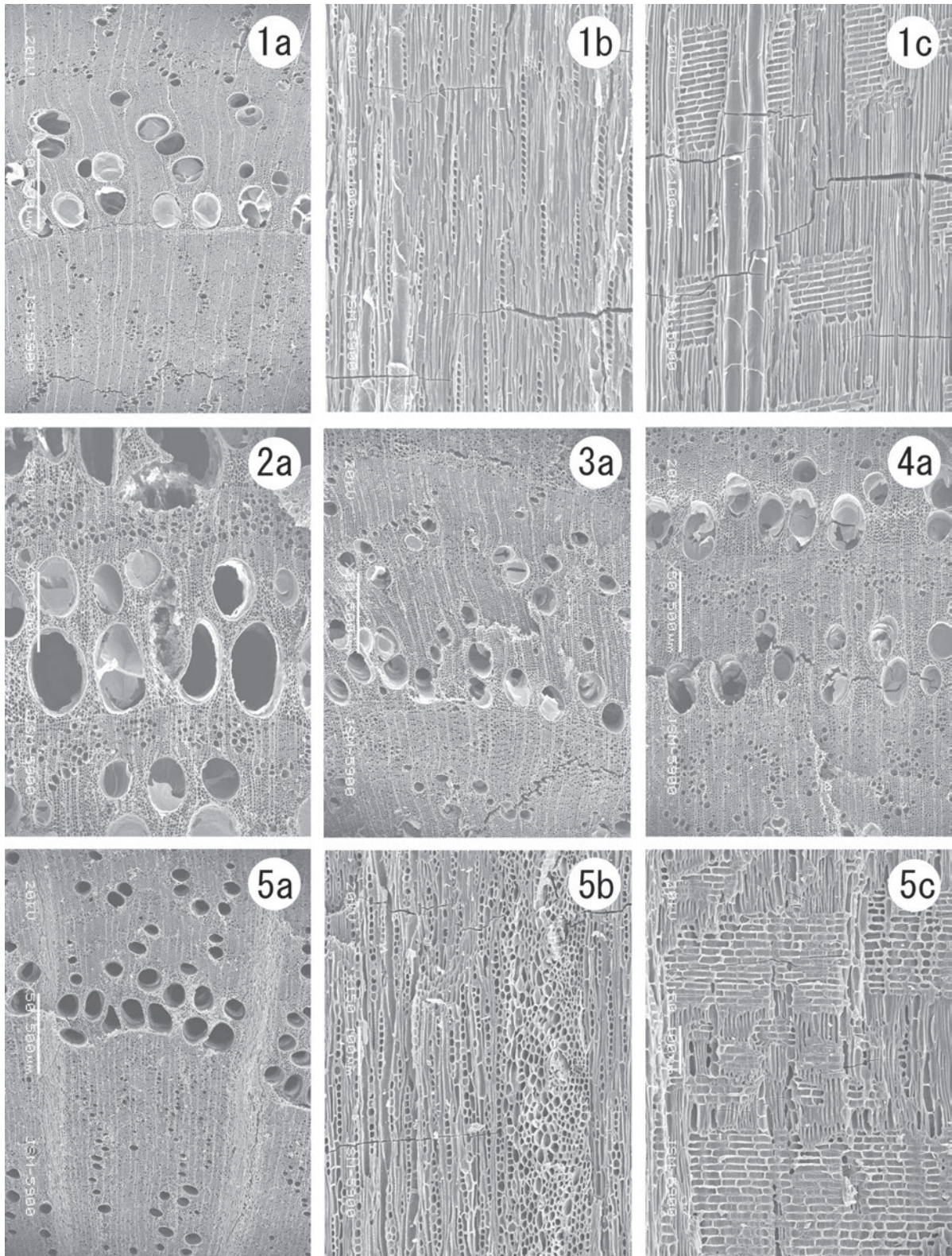
全試料の10点中9点がクリであり、1点のみコナラ属コナラ節が認められた。クリは破片となっていたため元の形状が不明であるが、コナラ属コナラ節は丸木の可能性があり直径が2 cm程度であることから枝材と思われる。

木古内町の新道4遺跡で行われた花粉分析結果から、縄文時代前期末はコナラ亜属が優占し、ニレ属、シナノキ属、カバノキ属、ブナ属などを加えた落葉広葉樹林が広がっていたと推測されている(山田, 1986)。また、クリ属の花粉も検出されているため、当地域にはクリが身近に生育していたと考えられる。しかし、クリ以外にも住居構築材や燃料材として有用な樹木は多種類あったと考えられることから、クリを選択的に利用した可能性が高い。

近隣に位置する館野4遺跡では、縄文時代中期の住居跡から出土した建築材はすべてクリであり、燃料材でもクリとアサダが確認されている(植田, 2006)。また、上磯郡の木古内2遺跡では、縄文時代前期後半の住居跡と燃焼材でクリが多く確認されている(黒沼, 2011)。本遺跡でもクリが多用されていることから、当地域では縄文時代の住居構築材や燃料材でクリを多用する傾向があると考えられる。

引用文献

- 黒沼保子(2011) 木古内町木古内2遺跡出土炭化材の樹種同定. 北海道埋蔵文化財センター編「木古内町 木古内2遺跡」: 63-65, 北海道埋蔵文化財センター.
- 植田弥生(2006) 館野4遺跡焼失住居跡出土炭化材の樹種同定. 北海道埋蔵文化財センター編「北斗市 矢不來6遺跡・矢不來11遺跡・館野4遺跡」: 158-161, 北海道埋蔵文化財センター.
- 山田悟郎(1986) 新道4遺跡周辺の古植生と堅果について. 北海道埋蔵文化財センター編「木古内町 建川1・新道4遺跡」: 465-474, 北海道埋蔵文化財センター.



図版V-3-1 館野6遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. クリ (HT6-11)、2a. クリ (HT6-1)、3a. クリ (HT6-2)、4a. クリ (HT6-3)、5a-5c. コナラ属コナラ節 (HT6-8)
a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

4. 館野6遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)

(株)加速器分析研究所

1 測定対象試料

館野6遺跡は、北海道北斗市館野91ほか(北緯41°47'11"、東経140°37'16")に所在する。測定対象試料は、P-54底面出土木炭(HT6-1:IAAA-112193)、H-24覆土3層中位出土木炭(HT6-2:IAAA-112194~HT6-4:IAAA-112196)、M4-6層(盛土基底部焼土)出土木炭(HT6-5:IAAA-112197~HT6-10:IAAA-112202)の合計10点である(表1)。

2 測定の意義

P54出土試料の測定により、土坑の年代を確認し、調査範囲内にある他遺構との関係を推定する。H24出土試料の測定では、竪穴住居の建築部材と考えられる木炭群について3ヶ所の年代を測定して当住居と出土炭化材の関係を考察し、さらに周辺遺構との関係を考察する一助とする。M4出土試料の測定により、焼土の形成時期を考察する手がかりを得る。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l(1M)の塩酸(HCl)を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム(NaOH)水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素(CO₂)を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト(C)を生成させる。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置(NEC社製)を使用し、¹⁴Cの計数、¹³C濃度(¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度(¹⁴C/¹²C)の測定を行う。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度(¹³C/¹²C)を測定し、基準試料からのずれを千分偏差(‰)で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。¹⁴C年代と誤差は、

下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下一桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース (Reimer et al. 2009) を使い、OxCalv4.1較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

P54底面出土木炭HT6-1の ^{14}C 年代は $4850 \pm 30\text{yrBP}$ 、暦年較正年代 (1σ) は3658~3541cal BCの間に2つの範囲で示され、縄文時代前期後半頃に相当する。

H24覆土3層中位出土木炭の ^{14}C 年代は、HT6-2が $4500 \pm 30\text{yrBP}$ 、HT6-3が $4430 \pm 30\text{yrBP}$ 、HT6-4が $4510 \pm 30\text{yrBP}$ である。HT6-2とHT6-4の値は誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で重なり、近い年代を示すが、HT6-3はこれらよりも若干新しい値となっている。暦年較正年代 (1σ) は、HT6-2が3336~3105cal BC、HT6-3が3263~2944cal BC、HT6-4が3338~3106cal BCの間に各々複数の範囲で示される。HT6-2とHT6-4が縄文時代中期前葉頃、HT6-3が中期中葉頃に相当すると見られ、住居の時期が前期後半と考えられていることと一致しない (編集者注: その後中期前半の住居と判断を訂正)。

M4-3およびM4-6 (盛土基底部焼土) 出土木炭の ^{14}C 年代は、HT6-5が $4950 \pm 30\text{yrBP}$ 、HT6-6が $4810 \pm 30\text{yrBP}$ 、HT6-7が $4980 \pm 30\text{yrBP}$ 、HT6-8が $4800 \pm 30\text{yrBP}$ 、HT6-9が $4730 \pm 30\text{yrBP}$ 、HT6-10が $4840 \pm 30\text{yrBP}$ である。HT6-5、HT6-7の2点、HT6-6、HT6-8、HT6-10の3点の値は、各々誤差 ($\pm 1\sigma$) の範囲で重なり、近い年代を示すが、6点の試料の間には年代差が認められる。暦年較正年代 (1σ) は、HT6-5が3769~3699cal BCの範囲、HT6-6が3645~3536cal BCの間に3つの範囲、HT6-7が3784~3711cal BCの範囲、HT6-8が3640~3534cal BCの間に2つの範囲、HT6-9が3628~3382cal BCの間に3つの範囲、HT6-10が3656~3541cal BCの間に2つの範囲で示される。この焼土層は、円筒下層式土器がまとまって出土したことから縄文時代前期後半と考えられており、6点の年代値はいずれもその時期に含まれるいくつかの土器型式に当たる年代幅となっている。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-112193	HT6-1	P54 底面	木炭	AAA	-24.63 ± 0.39	4,850 ± 30	54.71 ± 0.20
IAAA-112194	HT6-2	H24 覆土 3 層中位	木炭	AAA	-24.41 ± 0.44	4,500 ± 30	57.10 ± 0.21
IAAA-112195	HT6-3	H24 覆土 3 層中位	木炭	AAA	-26.32 ± 0.41	4,430 ± 30	57.65 ± 0.21
IAAA-112196	HT6-4	H24 覆土 3 層中位	木炭	AAA	-27.02 ± 0.51	4,510 ± 30	57.07 ± 0.19
IAAA-112197	HT6-5	M4-3	木炭	AAA	-24.21 ± 0.42	4,950 ± 30	53.97 ± 0.18
IAAA-112198	HT6-6	M4-6 (盛土基底部焼土)	木炭	AAA	-30.08 ± 0.30	4,810 ± 30	54.93 ± 0.20
IAAA-112199	HT6-7	M4-6 (盛土基底部焼土)	木炭	AAA	-28.33 ± 0.38	4,980 ± 30	53.77 ± 0.20
IAAA-112200	HT6-8	M4-6 (盛土基底部焼土)	木炭	AAA	-24.48 ± 0.46	4,800 ± 30	55.01 ± 0.20
IAAA-112201	HT6-9	M4-3	木炭	AAA	-27.52 ± 0.43	4,730 ± 30	55.53 ± 0.20
IAAA-112202	HT6-10	M4-6 (盛土基底部焼土)	木炭	AAA	-27.63 ± 0.42	4,840 ± 30	54.72 ± 0.19

[#4807]

表 2 (1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-112193	4,840 ± 30	54.75 ± 0.19	4,845 ± 29	3658calBC – 3634calBC (57.1%) 3552calBC – 3541calBC (11.1%)	3696calBC – 3631calBC (73.1%) 3579calBC – 3535calBC (22.3%)
IAAA-112194	4,490 ± 30	57.17 ± 0.20	4,501 ± 29	3336calBC – 3310calBC (11.5%) 3298calBC – 3283calBC (6.2%) 3276calBC – 3265calBC (4.8%) 3240calBC – 3209calBC (13.8%) 3192calBC – 3152calBC (17.7%) 3138calBC – 3105calBC (14.3%)	3348calBC – 3097calBC (95.4%)
IAAA-112195	4,450 ± 30	57.49 ± 0.20	4,425 ± 29	3263calBC – 3246calBC (6.4%) 3101calBC – 3011calBC (56.2%) 2978calBC – 2963calBC (4.1%) 2949calBC – 2944calBC (1.5%)	3323calBC – 3272calBC (6.6%) 3266calBC – 3236calBC (8.8%) 3172calBC – 3161calBC (1.1%) 3117calBC – 2923calBC (78.8%)
IAAA-112196	4,540 ± 30	56.83 ± 0.18	4,505 ± 27	3338calBC – 3312calBC (11.2%) 3295calBC – 3286calBC (3.3%) 3275calBC – 3265calBC (3.9%) 3239calBC – 3206calBC (14.2%) 3195calBC – 3106calBC (35.6%)	3349calBC – 3262calBC (32.8%) 3252calBC – 3098calBC (62.6%)

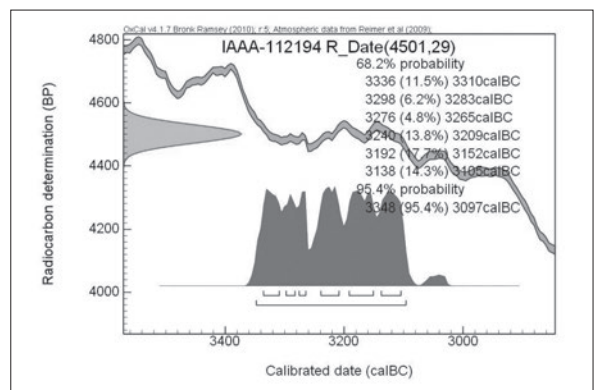
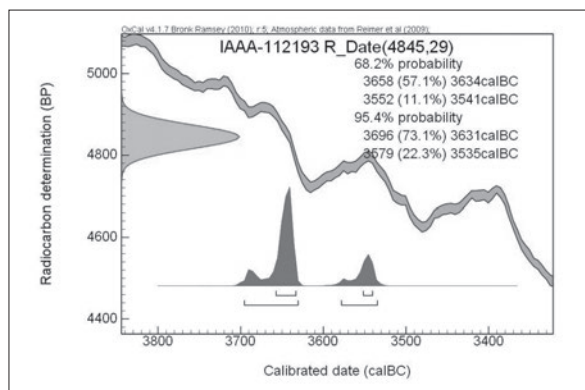
表 2 (2)

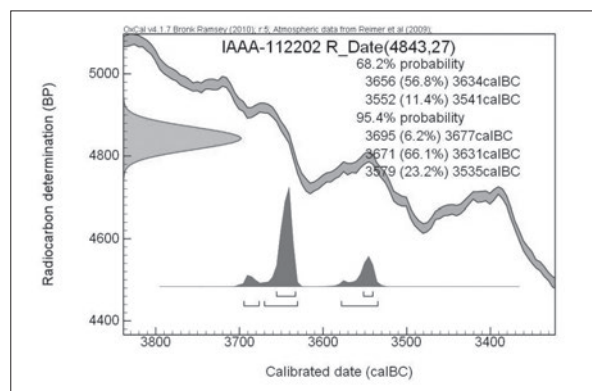
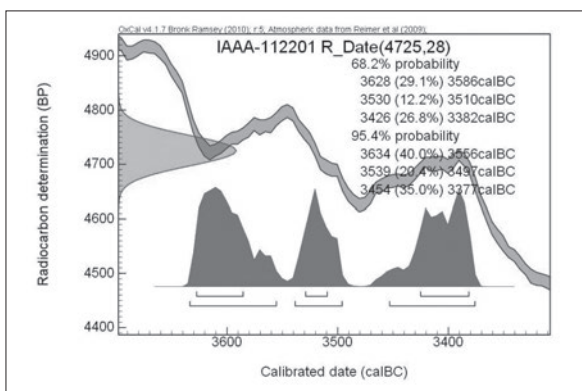
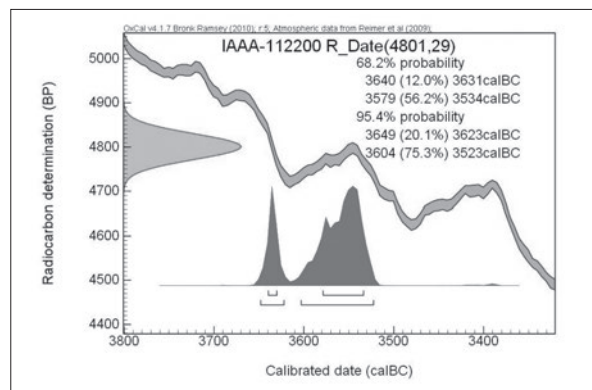
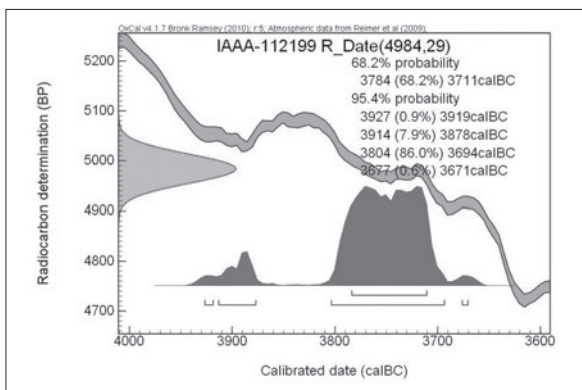
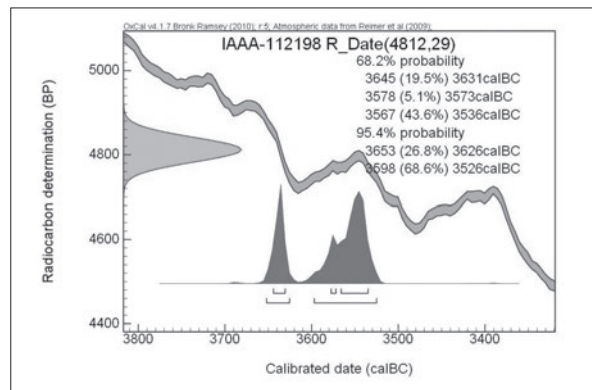
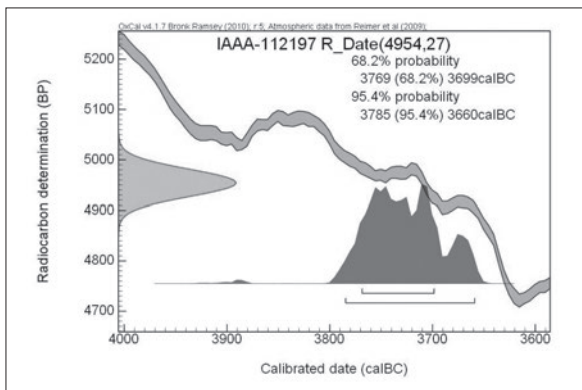
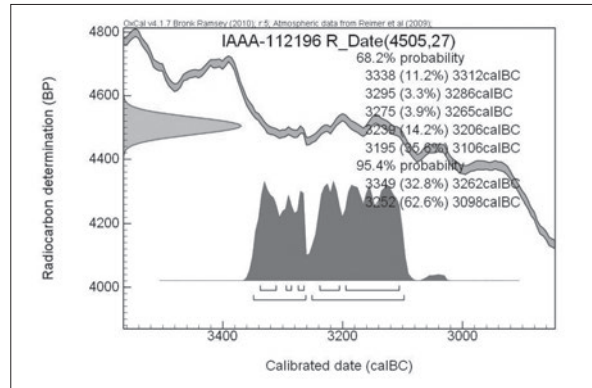
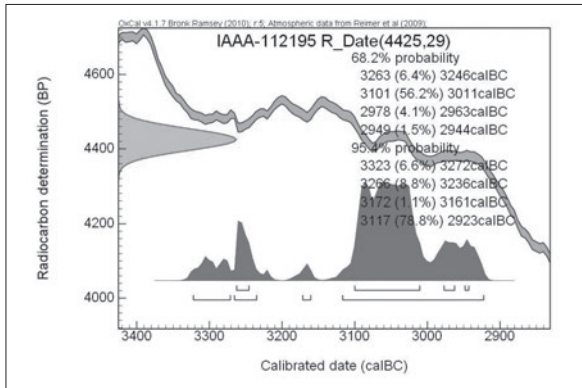
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-112197	4,940 \pm 30	54.06 \pm 0.18	4,954 \pm 27	3769calBC – 3699calBC (68.2%)	3785calBC – 3660calBC (95.4%)
IAAA-112198	4,900 \pm 30	54.36 \pm 0.20	4,812 \pm 29	3645calBC – 3631calBC (19.5%) 3578calBC – 3573calBC (5.1%) 3567calBC – 3536calBC (43.6%)	3653calBC – 3626calBC (26.8%) 3598calBC – 3526calBC (68.6%)
IAAA-112199	5,040 \pm 30	53.40 \pm 0.19	4,984 \pm 29	3784calBC – 3711calBC (68.2%)	3927calBC – 3919calBC (0.9%) 3914calBC – 3878calBC (7.9%) 3804calBC – 3694calBC (86.0%) 3677calBC – 3671calBC (0.6%)
IAAA-112200	4,790 \pm 30	55.07 \pm 0.19	4,801 \pm 29	3640calBC – 3631calBC (12.0%) 3579calBC – 3534calBC (56.2%)	3649calBC – 3623calBC (20.1%) 3604calBC – 3523calBC (75.3%)
IAAA-112201	4,770 \pm 30	55.25 \pm 0.19	4,725 \pm 28	3628calBC – 3586calBC (29.1%) 3530calBC – 3510calBC (12.2%) 3426calBC – 3382calBC (26.8%)	3634calBC – 3556calBC (40.0%) 3539calBC – 3497calBC (20.4%) 3454calBC – 3377calBC (35.0%)
IAAA-112202	4,890 \pm 30	54.43 \pm 0.18	4,843 \pm 27	3656calBC – 3634calBC (56.8%) 3552calBC – 3541calBC (11.4%)	3695calBC – 3677calBC (6.2%) 3671calBC – 3631calBC (66.1%) 3579calBC – 3535calBC (23.2%)

[参考値]

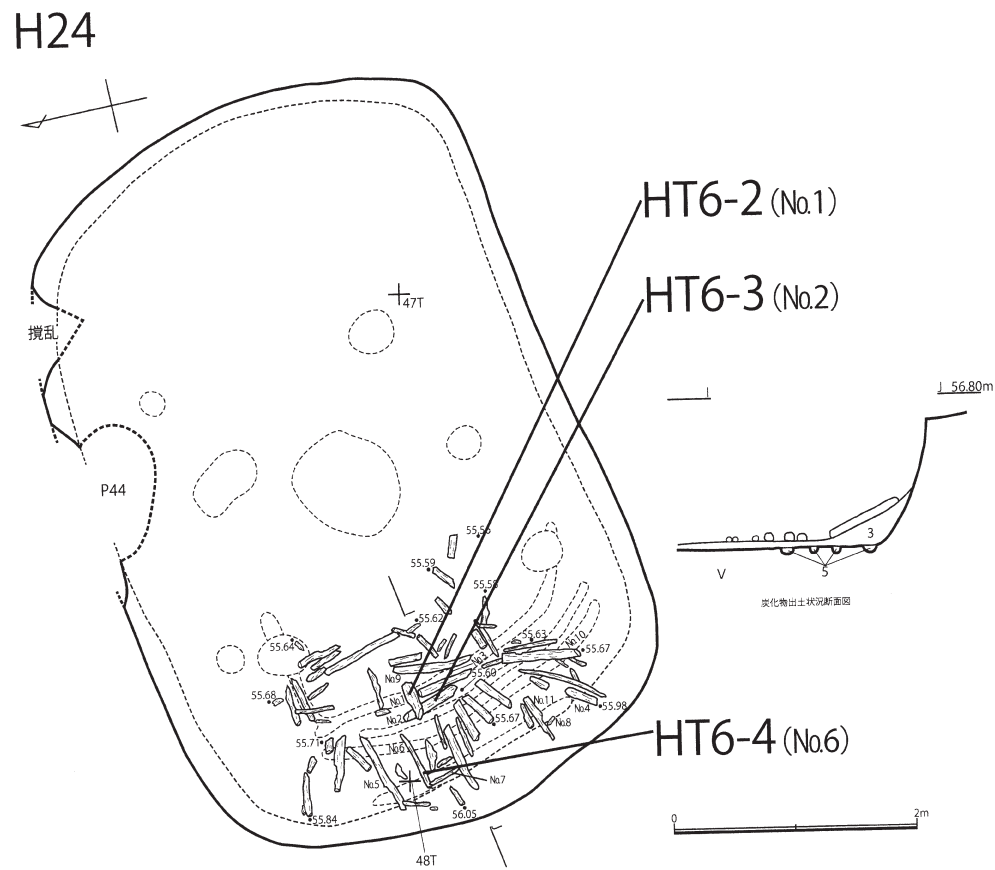
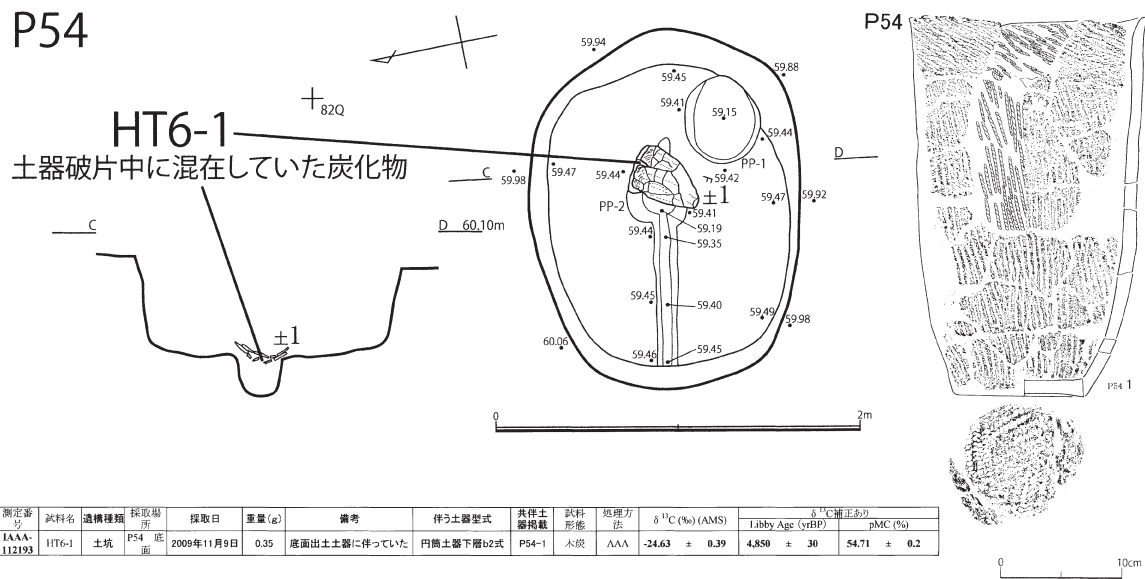
文献

- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355–363
 Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337–360
 Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0–50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51(4), 1111–1150

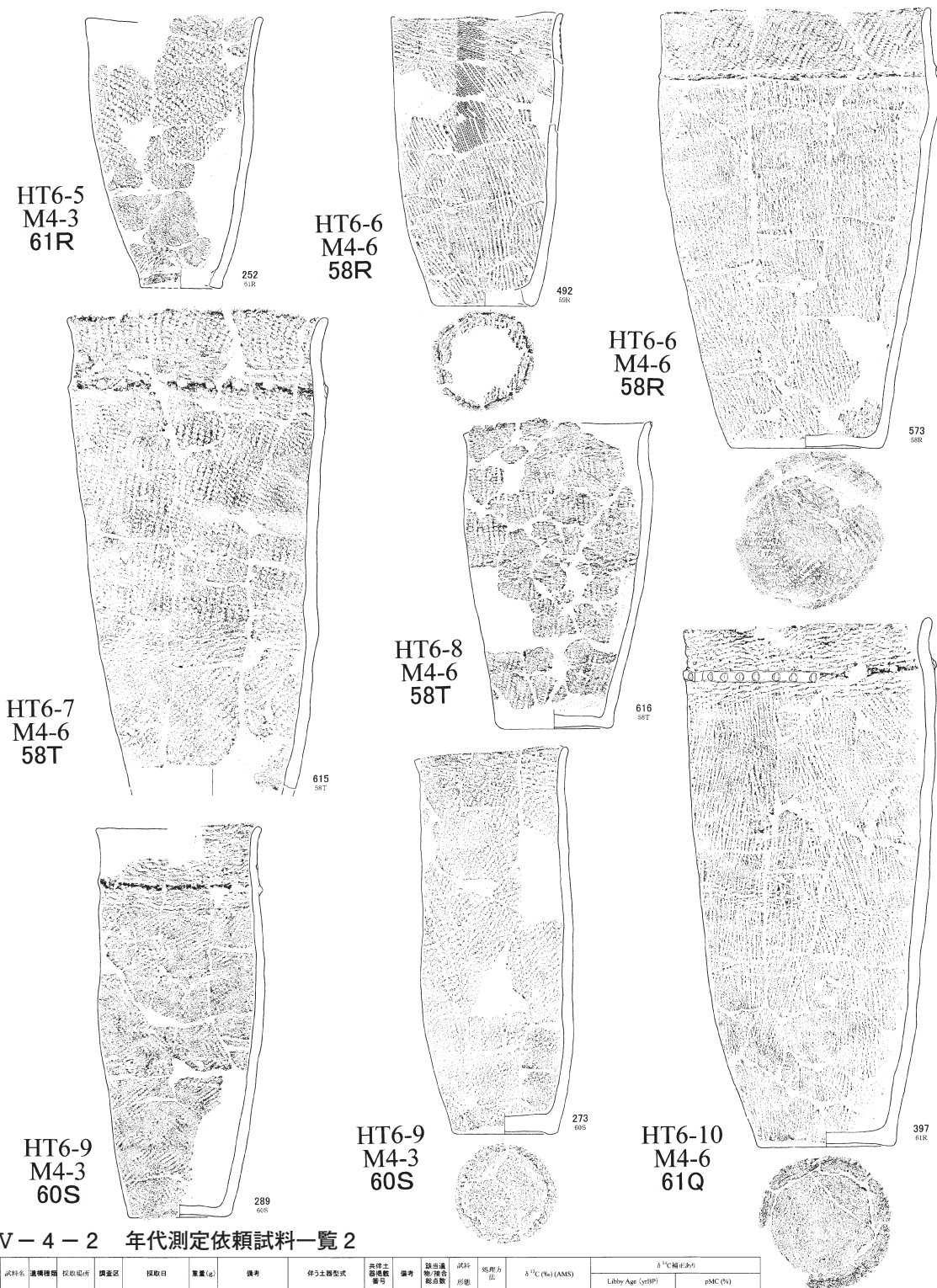




[参考] 暦年較正年代グラフ



表V-4-1 図V-4-1 年代測定依頼試料一覧1



表V-4-2 年代測定依頼試料一覧2

新定番号	試料名	遺構種類	採取場所	調査区	採取日	重量(g)	備考	伴う土器型式	供体土器型式番号	器種	器形	器形番号	測定方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
															Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-112197	HT6-5	竈土遺構	M4-3	61R	2009年10月29日	0.41	調査区内遺物番号72土器に伴っていた。	円筒土器下層b1式古段版	252	代替(同一調査区)白磁土	64/64	木炭	AAA	-24.21 ± 0.42	4,950 ± 30	53.97 ± 0.18
IAAA-112198	HT6-6	竈土遺構	M4-6	58R	2009年10月19日	0.61	調査区内遺物番号65土器に伴っていた。	円筒土器下層b1式	492	代替(同一調査区)白磁土	128/158	木炭	AAA	-30.08 ± 0.3	4,810 ± 30	54.93 ± 0.2
IAAA-112198	HT6-6	竈土遺構	M4-6	58R	2009年10月19日	0.61	調査区内遺物番号65土器に伴っていた。	円筒土器下層b1式新陶版	573	代替(同一調査区)白磁土	99/99	木炭	AAA	-30.08 ± 0.3	4,810 ± 30	54.93 ± 0.2
IAAA-112199	HT6-7	竈土遺構	M4-6	58T	2009年10月6日	0.56	調査区内遺物番号8土器に伴っていた。	円筒土器下層b1式	615	代替(同一調査区)白磁土	91/91	木炭	AAA	-28.35 ± 0.38	4,980 ± 30	53.77 ± 0.2
IAAA-112200	HT6-8	竈土遺構	M4-6	58T	2009年10月6日	0.66	調査区内遺物番号20土器に伴っていた。	円筒土器下層b1式	616	代替(同一調査区)白磁土	59/72	木炭	AAA	-24.48 ± 0.46	4,800 ± 30	55.01 ± 0.2
IAAA-112201	HT6-9	竈土遺構	M4-3	60S	2009年10月2日	0.51	調査区内遺物番号9土器に伴っていた。	円筒土器下層b1式	289	代替(同一調査区)白磁土	16/63	木炭	AAA	-27.52 ± 0.43	4,730 ± 30	55.53 ± 0.2
IAAA-112201	HT6-9	竈土遺構	M4-3	60S	2009年10月2日	0.51	調査区内遺物番号9土器に伴っていた。	円筒土器下層b2式	273	代替(同一調査区)白磁土	2/125	木炭	AAA	-27.52 ± 0.43	4,730 ± 30	55.53 ± 0.2
IAAA-112202	HT6-10	竈土遺構	M4-6	61Q	2009年10月24日	0.34	調査区内遺物番号7土器に伴っていた。	円筒土器下層b2式	397	代替(同一調査区)白磁土		木炭	AAA	-27.63 ± 0.42	4,840 ± 30	54.72 ± 0.19

図V-4-2 年代測定依頼試料一覧2

5. 北斗市館野6遺跡胎土分析 X線回折試験及び化学分析試験

(株)第四紀地質研究所 井上 巖

目 次	図 表 目 次
1 実験条件	第1図 三角ダイヤグラム位置分類図
2 実験結果の取扱	第2図 菱形ダイヤグラム位置分類図
3 X線回折試験結果	第3図 Mo-Mi-Hb三角ダイヤグラム
3-1 タイプ分類	第4図 Mo-Ch、Mi-Hb菱形ダイヤグラム
3-2 石英(Qt)-斜長石(Pl)の相関について	第5図 Qt-Pl図 (茂辺地4遺跡)
3-3 石英(Qt)-滑石(Talc)の相関について	第6図 SiO ₂ -Al ₂ O ₃ 図 (茂辺地4遺跡)
4 化学分析結果	第7図 Fe ₂ O ₃ -TiO ₂ 図 (茂辺地4遺跡)
4-1 SiO ₂ -Al ₂ O ₃ の相関について	第8図 K ₂ O-CaO図 (茂辺地4遺跡)
4-2 Fe ₂ O ₃ -TiO ₂ の相関について	
4-3 K ₂ O-CaOの相関について	第1表 胎土性状表
5 組成分類	第2表 化学分析表
	第3表 タイプ分類表
	第4表 組成分類表
	館層採取位置図 (巻末)
	館野6遺跡胎土分析試料一覧 (巻末)
	館野6遺跡土器と断面写真 (巻末)
	化学分析チャート (巻末)
	X線回折チャート (巻末)

編集者による前段

今回、館野6遺跡H21覆土から円筒下層d1式土器のまとまりが出土した。円筒下層d1式古段階とした一群である。これらのうち復元土器六個体について胎土分析を依頼した。破壊分析であるため、復元した土器と同時に検出したものの、復元時に接合せず、かつ同じ個体の可能性が高いもの(未接合資料)を分析用に提出した。館野6遺跡T-1~6である。

単純に、該当資料の化学組成の分析を行うのみではなく、同じ北海道南部、津軽海峡沿岸の試料との対比も行った(図V-5-11)。知内町において土壌サンプルとして採取した4種類(S-1~4)、福島町において土壌サンプルとして採取した2種類(S-5・6)、木古内町新道4遺跡出土土器から採取した試料(S-7)、(以上、図V-5-9参照)北斗市茂別遺跡から採取した試料(S-8)、北斗市の茂辺地4遺跡の試料(S-9・茂辺地と略称)(以上、図VI-4-1参照)、大平遺跡出土土器から採取した土器群である。大平遺跡1、大平遺跡2とあるが二回に分けて分析したための便宜上の番号であり、同じ土器群である。加えて、木古内町の露頭から採取した土壌も分析、対比した。

1 実験条件

1-1 試料

分析に供した試料は第1表胎土性状表に示す通りである。

X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料とし

て実験に供した。

化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

1-2 X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製JDX-8020X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40kV, Current: 30mA, ステップ角度: 0.02°

計数時間: 0.5秒。

1-3 化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧: 15kV、分析法: スプリント法、分析倍率: 200倍、分析有効時間: 100秒、分析指定元素10元素で行った。

2 X線回折試験結果の取扱い

実験結果は第1表胎土性状表に示す通りである。

第1表右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示してあり、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

2-1 組成分類

1) Mont-Mica-Hb三角ダイヤグラム

第1図に示すように三角ダイヤグラムを1~13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont、Mica、Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14にいれ、別に検討した。

三角ダイヤグラムはモンモリロナイト(Mont)、雲母類(Mica)、角閃石(Hb)のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント(%)で表示する。

モンモリロナイトは $\text{Mont}/(\text{Mont}+\text{Mica}+\text{Hb})\times 100$ でパーセントとして求め、同様にMica、Hbも計算し、三角ダイヤグラムに記載する。

三角ダイヤグラム内の1~4はMont、Mica、Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっていることを表している。

位置分類についての基本原則は第1図に示す通りである。

2) Mont-Ch、Mica-Hb菱形ダイヤグラム

第2図に示すように菱形ダイヤグラムを1~19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

モンモリロナイト(Mont)、雲母類(Mica)、角閃石(Hb)、緑泥石(Ch)の内、

a) 3成分以上含まれない、b) Mont、Chの2成分が含まれない、

c) Mica、Hbの2成分が含まれない、の3例がある。

菱形ダイヤグラムはMont-Ch, Mica-Hbの組合せを表示するものである。

Mont-Ch, Mica-Hb のそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、Mont/Mont+Ch*100と計算し、Mica, Hb, Chも各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイヤグラム内にある1～7はMont, Mica, Hb, Chの4成分を含み、各辺はMont, Mica, Hb, Chのうち3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。

位置分類についての基本原則は第2図に示すとおりである。

3) 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法（10元素全体で100%になる）で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいてSiO₂-Al₂O₃図、Fe₂O₃-TiO₂図、K₂O-CaO図の各図を作成した。これらの図をもとに、土器類を元素の面から分類した。

3 X線回折試験結果

3-1 タイプ分類

第1表胎土性状表には平成26年度の大平遺跡1と2、新道遺跡、茂辺地4遺跡、館野6遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した原土が記載してある。第3表タイプ分類表に示すように土器と原土はA～Lの12タイプが検出された。

Aタイプ：Hb 1成分を含み、Mont, Mica, Chの3成分に欠ける。(24個)

大平遺跡1と2が主体で、新道遺跡、茂辺地遺跡の土器が共存する。

Bタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。(9個)

大平遺跡1, 2が主体で、茂辺地遺跡の土器と木古内町の原土が共存する。

Cタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。(27個)

大平遺跡1と2が主体で、新道遺跡と茂辺地遺跡の土器が共存する。

Dタイプ：Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。

Bタイプと組成は類似するが検出強度が異なる。(55個)

大平遺跡1と2が主体で、茂辺地遺跡と新道遺跡と館野6遺跡の土器が共存する。原土では木古内町の原土が主体で、知内町と茂辺地遺跡の原土が共存する。

Eタイプ：Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。(38個)

組成的にはCタイプと類似するが、検出強度が異なる。

大平遺跡1と2が主体で、新道遺跡、茂辺地遺跡の土器が共存する。

Fタイプ：Mica 1成分を含み、Mont, Hb, Chの3成分に欠ける。(10個)

大平遺跡の土器が主体で、木古内町の原土が共存する。

Gタイプ：Mont 1成分を含み、Mica, Hb, Chの3成分に欠ける。(4個)

大平遺跡の土器が主体

Hタイプ：Mont, Mica, Hb, Chの4成分にかける。(8個)

大平遺跡の土器が主体

Iタイプ：Mont, Mica, Hbの3成分を含み、Chの1成分にかける。(1個)

茂辺地遺跡の土器

Jタイプ：Mont, Micaの2成分を含み、Hb, Chの2成分にかける。(2個)

大平遺跡と茂辺地遺跡の土器が共存する。

Kタイプ：Mont, Mica, Hb, Chの4成分にかける。(2個)

館野6遺跡の土器

Lタイプ：Mica, Chの2成分を含み、Mont, Hbの2成分にかける。(9個)

館野6遺跡と新道遺跡の土器が共存する。木古内町と知内町の前土が共存する。

第3表に示すように大平遺跡の土器は多い順からDタイプの55個、次いでEタイプ、Cタイプ、Aタイプの土器が主体である。館野6遺跡の土器はKとLタイプが各2個、Dタイプが1個である。

3-2 石英(Qt)－斜長石(Pl)の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を制作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地土を作るといったことは個々の集団が持つ土器制作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

第5図Qt-Pl図に示すように大平遺跡1と2、新道遺跡、茂辺地4遺跡、館野6遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した前土が記載してある。Qtの強度が小の領域から大の領域にかけてQt-1～Qt-5の5グループに分類された。

Qt-1：Qtが570～1200、Plが50～200の領域に分布する。

Qt-2：Qtが1200～3300、Plが100～680の領域に分布する。

大平遺跡1と2の土器が集中し、新道遺跡、茂辺地4遺跡、館野6遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した前土が共存している。分析した土器の多くはこの領域に集中し、関連性が窺われる。

Qt-3：Qtが1500～2900、Plが600～1200の領域に分布する。

大平遺跡1と2の土器が集中し、新道遺跡の土器が共存する。

Qt-4：Qtが1700～2800、Plが1400～2100の領域に分布する。

Plの強度が高く異質である。

Qt-5：Qtが5800～7800、Plが50～650の領域に分布する。

Qtの強度が高く、異質である。

“その他”新道遺跡の土器と前土が領域外にあり、これらを“その他”とした。

第5図Qt-Pl図に示すように、館野6遺跡の土器はその大半がQt-2の領域に集中する。この領域には大平遺跡1と2の土器が集中し、新道遺跡と茂辺地4遺跡の土器と前土も共存している。

4 化学分析結果

第2表化学分析表には大平遺跡1と2、新道遺跡、茂辺地4遺跡、館野6遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した前土が記載してある。

分析結果に基づいて第6図SiO₂-Al₂O₃図、第7図Fe₂O₃-TiO₂図、第8図K₂O-CaO図を作成した。

4-1 SiO₂-Al₂O₃の相関について

第6図 SiO₂-Al₂O₃図に示すように、大平遺跡1と2、新道遺跡、茂辺地4遺跡、館野6遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した原土が記載してある。SiO₂の小さい領域からI～VIの6タイプに分類された。

Iタイプ：SiO₂が35～40%、Al₂O₃が33～48%の領域に分布する。

大平遺跡、茂辺地4遺跡、新道遺跡の土器が共存する。

IIタイプ：SiO₂が42～54%、Al₂O₃が22～32%の領域に分布する。

大平遺跡の土器が集中する。

IIIタイプ：SiO₂が49～60%、Al₂O₃が23～33%の領域に分布する。

新道遺跡の土器が集中する。大平遺跡と原土が共存する。

IVタイプ：SiO₂が53～66%、Al₂O₃が20～30%の領域に分布する。

大平遺跡1と2の土器が集中する。茂辺地4遺跡と館野6遺跡、原土が共存する。

Vタイプ：SiO₂が64～73%、Al₂O₃が12～21%の領域に分布する。

大平遺跡1の土器が集中し、原土が共存する。

VIタイプ：SiO₂が74～84%、Al₂O₃が7～18%の領域に分布する。

大平遺跡1の土器が集中し、原土が共存する。

“その他” 8, 91, 55, 171の4個は近い領域に入るものとして判別した。

土器の大半はII、III、IVの3タイプの領域に集中する。館野6遺跡の土器はIVタイプの領域にある。第6図 SiO₂-Al₂O₃図に示すように土器と原土は各々の領域で集中し、土器と原土はおおむね同じ領域にあり、関連性が認められる

4-2 Fe₂O₃-TiO₂の相関について

第7図 Fe₂O₃-TiO₂図に示すように、大平遺跡1と2、新道遺跡、茂辺地4遺跡、館野6遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した原土が記載してある。Fe₂O₃はFe₂O₃の1～5の5領域に分類される。

Fe₂O₃-1 : Fe₂O₃が5～12%、TiO₂が0.7～2.1%の領域に分布する。

大平遺跡1と2、新道遺跡、茂辺地4遺跡、館野6遺跡の土器が集中する。原土が共存する。

Fe₂O₃-2 : Fe₂O₃が10～17%、TiO₂が0.8～2.1%の領域に分布する。

大平遺跡1と2、新道遺跡の土器が集中する。茂辺地4遺跡、館野6遺跡の土器、原土が共存する。

Fe₂O₃-3 : Fe₂O₃が16～23%、TiO₂が0.7～2.7%の領域に分布する。

大平遺跡1と2の土器が集中する。新道遺跡の土器と原土が共存する。

Fe₂O₃-4 : Fe₂O₃が3.3～6.6%、TiO₂が0.3～0.9%の領域に分布する。

大平遺跡1と2の土器が集中し、新道遺跡の土器と原土が共存する。

Fe₂O₃-5 : Fe₂O₃が2.0～4.5%、TiO₂が0.8～1.3%の領域に分布する。

大平遺跡1と新道遺跡の土器と原土が共存する。

第7図 $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-TiO}_2$ 図に示すように、大平遺跡1と2、新道遺跡、茂辺地4遺跡、館野6遺跡の土器と原土は $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-1}$ ～3の領域に集中し、館野6遺跡の土器は $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-1}$ と $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-2}$ の領域に分かれて分布する。

4-3 $\text{K}_2\text{O-CaO}$ の相関について

第8図 $\text{K}_2\text{O-CaO}$ 図に示すように、大平遺跡1と2、新道遺跡、茂辺地4遺跡、館野6遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した原土が記載してある。 K_2O の小さい領域から $\text{K}_2\text{O-1}$ ～4の4タイプに分類された。

$\text{K}_2\text{O-1}$ ： K_2O が1.25～3.0%、 CaO が0.4～1.3%の領域に分布する。

大平遺跡1と2、新道遺跡の土器が集中する。茂辺地4遺跡、館野6遺跡の土器と原土が共存する。

$\text{K}_2\text{O-2}$ ： K_2O が2.0～4.5%、 CaO が0～0.8%の領域に分布する。

大平遺跡1の土器が集中する。新道遺跡、茂辺地4遺跡の土器と原土が共存する。

$\text{K}_2\text{O-3}$ ： K_2O が5.1～5.7%、 CaO が0.4～0.8%の領域に分布する。

大平遺跡1の土器が集中する。

$\text{K}_2\text{O-4}$ ： K_2O が1.1～1.9%、 CaO が0.4～0.8%の領域に分布する。

新道遺跡、茂辺地4遺跡の土器が集中する。大平遺跡と館野6遺跡と原土が共存する。

5 組成分類

X線回折試験と蛍光X線分析結果に基づいて、大平遺跡1と2、新道遺跡、茂辺地4遺跡、館野6遺跡から出土した土器と周辺地域で採取した原土を第4表組成分類表に示すように分類した。第4表組成分類表に示すように、遺跡出土主要土器と少数・異質タイプに分類して表示した。遺跡出土土器は12タイプに分類され、組成的特徴により明確に分かれている。少数・異質タイプは主に周辺地域で採取された原土と異質土器である。

多く検出された組成のタイプ順に記述する。

- 1) 最も多く検出されたのは「Qt-2、Si-4、 $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-1}$ 」タイプで70個が該当する。主に大平遺跡1と2の土器・焼成粘土塊と茂辺地4遺跡の土器が集中し、館野6遺跡、新道遺跡の土器が共存する。原土としては知内町の牧場の原土が同じ組成をしており、土器との関連性が窺われる。
- 2) 「Qt-2、Si-2、 $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-2}$ 」タイプは18個が検出され、大平遺跡1と2の焼成粘土塊が集中し、土器が共存する。
- 3) 「Qt-2、Si-4、 $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-2}$ 」タイプは14個が検出され、大平遺跡1と2の土器と焼成粘土塊が集中し、館野6遺跡の土器、茂辺地4遺跡の土器と福島町の館層土壌サンプルが共存する。
- 4) 「Qt-2、Si-2、 $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-3}$ 」タイプは13個が検出され、大平遺跡1の焼成粘土塊が集中し、土器と木古内町の現場露頭の原土と共存する。
- 5) 「Qt-2、Si-3、 $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-2}$ 」タイプは13個が検出され、新道遺跡の土器が集中し、木古内町の現場露頭の原土と共存する。
- 6) 「Qt-3、Si-4、 $\text{Fe}_2\text{O}_3\text{-1}$ 」タイプは9個が検出され、大平遺跡1と2の土器と焼成粘土塊が集中し、茂辺地4遺跡の土器と福島町の館層土壌サンプルが共存する。

- 7) 「Qt-2、Si-3、Fe₂O₃-1」タイプは7個が検出され、新道遺跡の土器が集中し、茂辺地4遺跡の原土と大平遺跡1の土器が共存する。
- 8) 「Qt-2、Si-6、Fe₂O₃-4」タイプは6個が検出され、木古内町の現場露頭の原土が集中し、福島町の館層の原土が共存する。
- 9) 「Qt-3、Si-4、Fe₂O₃-2」タイプは5個が検出され、大平遺跡1の土器と焼成粘土塊が集中し、大平遺跡2の土器が共存する。
- 10) 「Qt-2、Si-2、Fe₂O₃-1」タイプは4個が検出され、大平遺跡1と2の土器が集中する。
- 11) 「Qt-2、Si-5、Fe₂O₃-1」タイプは4個が検出され、大平遺跡1の土器と木古内町の現場露頭の原土と共存する。
- 12) 「Qt-3、Si-2、Fe₂O₃-2」タイプは3個が検出され、大平遺跡1の土器と焼成粘土塊、大平遺跡2の土器が共存する。
- 13) 少数・異質タイプ

館野6遺跡(2)

少数・異質タイプ								
Qt-1, Si-4 Fe-1 (2)								
1	4	1	T-46	大平-46	G	焼成粘土塊	炭化物付着?、タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
1	4	1	T-50	大平-50	A	焼成粘土塊	タイ米状、多量海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
Qt-2, Si-3 Fe-5 (2)								
5	3	2	T-8	大平-8	F	土器片	多量海綿骨針・繊維・砂粒を含む。内面調整粗雑	大平遺跡1
5	3	2	T-171	Ks-3	D	土壌サンプル	木古内・現場土壌3	木古内露頭採取原土
Qt-2, Si-4 Fe-3 (1)								
3	4	2	T-109	S-11	A	盛土	多量繊維少量・骨針少量。中粒Qt	大平遺跡2
Qt-2, Si-5 Fe-1 (1)								
2	5	2	T-179	Ks-11	D	土壌サンプル	大平・木古内2橋・熊谷	木古内露頭採取原土
Qt-2, Si-5 Fe-4 (1)								
4	5	2	T-180	Ks-12	F	土壌サンプル	大平・当別漁港・海岸	木古内露頭採取原土
Qt-3, Si-4 Fe-4 (1)								
4	4	3	T-125	S-27	C	盛土	多量繊維・骨針少量。雑、粗粒Qt多	大平遺跡2
Qt-3, Si-5 Fe-1 (2)								
1	5	3	T-77	大平-77	E	土器片	多量繊維・砂粒を含む。少量海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	5	3	T-189	SS-9	D	土壌サンプル	細粒砂岩・繊維、骨針なし	北斗市茂辺地遺跡・浜層9
Qt-4, Si-4 Fe-1 (1)								
1	4	4	T-73	大平-73	E	土器片	多量繊維、少量の滑石の小破片を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
Qt-4, Si-5 Fe-1								
1	5	4	T-98	大平-98	H	土器片	砂粒多く、海綿状骨針は含まない。繊維は少ない 北陸系土器重要	大平遺跡1
Qt-5, Si-6 Fe-4 (3)								
4	6	5	T-87	大平-87	E	土壌サンプル	砂粒多い。	大平遺跡1
4	6	5	T-88	大平-88	D	土器内の砂	砂粒少ない。	大平遺跡1
4	6	5	T-89	大平-89	D	土壌サンプル	砂粒多い。	大平遺跡1
Qt-6, Si-4 Fe-1 (1)								
1	4	6	T-9	大平-9	B	土器片	厚手。多量海綿骨針・繊維・砂粒を含む。内面調整粗雑	大平遺跡1
Qt-7, Si-3 Fe-5 (1)								
5	3	7	T-163	S-65	L	深鉢	砂粒・白色岩片多い	木古内町・新道遺跡
Qt-7, Si-6 Fe-5 (1)								
5	6	7	T-187	SS-7	L	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	木古内町・新道4遺跡7
Qt-1, Si-2 Fe-2 (1)								
2	2	1	T-24	大平-24	H	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
Qt-1, Si-2 Fe-3 (1)								
3	2	1	T-49	大平-49	A	焼成粘土塊	タイ米状、多量海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
Qt-2, Si-1 Fe-1 (1)								
1	1	2	T-142	S-44	D	土壌サンプル	凝灰質粘土	茂辺地
Qt-2, Si-1 Fe-2 (1)								
2	1	2	T-143	S-45	B	土壌サンプル	凝灰質粘土	茂辺地
Qt-2, Si-1 Fe-3 (1)								
3	1	2	T-148	S-50	A	深鉢	多量繊維を含む砂粒・骨針を含む	木古内町・新道遺跡
Qt-2, Si-1 Fe-5 (1)								
6	1	2	T-47	大平-47	E	焼成粘土塊	米粒状、多量海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1

表に見られるようにこのタイプの多くは土壌サンプルである原土と異質土器である。異質土器は搬入土器である可能性が考えられる。焼成粘土塊系統は試料が小さく、また他の土との混合が考えられるのでわからない。

第1表 胎土性状表

試料 連しNo	試料 No	タイプ 分類	組成分類 Mo-Mi-Hb Mo-Ch-Mi-Hb	粘土鉱物および遊離塩類														備考		
				Mont	Mica	Hb	Ch(Fe)	Ch(Mg)	Qt	Pl	Crist	Mullite	K-Fels	Halloy	Kaol	Zeol	Talc		Ser	
T-67	大平-67	D	7	9	135	98	212	2605	403	89								土器片	多量繊維・少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-68	大平-68	E	7	20	114	98	2037	431	81									土器片	多量繊維・少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-69	大平-69	C	6	20	119	144	1925	319	85									土器片	少量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
T-70	大平-70	B	6	20	124	233	187	2792	298	125								土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
T-71	大平-71	C	6	20	132	188	81	2376	848	92					102			土器片	渾手・砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-72	大平-72	H	14	20	124	112	2414	265	75									土器片	渾手・砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-73	大平-73	A	7	20	124	118	2500	1438	120						108			土器片	渾手・砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-74	大平-74	A	7	20	135	118	1566	865	147									土器片	多量の繊維・白土の岩粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-75	大平-75	F	8	20	135	104	2057	215	77						130			土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
T-76	大平-76	A	5	20	128	113	1798	832	181						141			土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
T-77	大平-77	E	7	20	128	113	1687	310	139									土器片	多量の繊維を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-78	大平-78	A	5	20	100	165	2121	317	82						112			土器片	多量の繊維・少量の滑石の小破片を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-79	大平-79	B	6	10	123	123	2708	310	124						147			土器片	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-80	大平-80	F	8	20	134	99	155	2188	906	81								土器片	多量の繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
T-81	大平-81	C	6	20	121	172	2010	405	97									土器片	多量の繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
T-82	大平-82	C	6	20	121	172	2010	405	97									土器片	多量の繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
T-83	大平-83	A	5	20	106	157	1952	535	229									土器片	多量の繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
T-84	大平-84	A	5	20	119	99	1623	489	154									土器片	渾手・砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-85	大平-85	H	14	20	76	52	2758	305	104									土器片	渾手・砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-86	大平-86	D	7	9	88	56	87	54	5938	185								土器片	砂粒が多い。	大平遺跡1
T-87	大平-87	E	7	20	99	68	65	7424	615									土器片	砂粒が多い。	大平遺跡1
T-88	大平-88	D	7	9	163	106	1420	211										土器片	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-89	大平-89	E	7	20	130	110	2228	738										土器片	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-90	大平-90	E	7	20	204	158	216	90	248									土器片	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-91	大平-91	E	7	9	157	85	322	138	1718	268								土器片	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-92	大平-92	D	7	9	190	116	2024	109										土器片	繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-93	大平-93	D	7	9	107	126	207	84	2368	523								土器片	繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
T-94	大平-94	D	7	9	2361	1859	108											土器片	砂粒多く。海綿状骨針は含まない。繊維は少ない。北陸系土器重要。	大平遺跡1
T-95	大平-95	E	7	20	119	222	2541	385										土器片	多量の繊維・海綿状骨針は含まない。繊維は少ない。北陸系土器重要。	大平遺跡1
T-96	大平-96	E	7	20	178	120	1927	358	261						134			土器片	多量の繊維・海綿状骨針は含まない。繊維は少ない。北陸系土器重要。	大平遺跡2
T-97	大平-97	B	6	20	123	153	2002	421	185									土器片	多量の繊維・海綿状骨針は含まない。繊維は少ない。北陸系土器重要。	大平遺跡2
T-98	大平-98	C	6	20	127	153	2186	326	125									土器片	多量の繊維・海綿状骨針は含まない。繊維は少ない。北陸系土器重要。	大平遺跡2
T-99	大平-99	G	8	20	181	98	2089	334	114						190			土器片	多量の繊維・相対talkを含む。骨針なし。	大平遺跡2
T-100	大平-100	F	8	20	179	191	75	2136	317						105			土器片	多量の繊維・骨針なし。細粒Qt	大平遺跡2
T-101	大平-101	C	6	20	124	258	2740	793	182									土器片	多量の繊維・骨針なし。細粒Qt	大平遺跡2
T-102	大平-102	J	11	20	139	172	1155	288	279									土器片	多量の繊維・骨針なし。Qt多	大平遺跡2
T-103	大平-103	A	5	20	102	102	2096	452	102									土器片	多量の繊維・骨針なし。中粒Qt	大平遺跡2
T-104	大平-104	A	5	20	1805	916	1673	310	108									土器片	多量の繊維・骨針なし。中粒Qt	大平遺跡2
T-105	大平-105	A	5	20	129	112	1793	550	189									土器片	多量の繊維・骨針なし。中粒Qt	大平遺跡2
T-106	大平-106	E	7	20	132	106	2136	343	209									土器片	多量の繊維・骨針少量。細粒	大平遺跡2
T-107	大平-107	E	7	20	143	136	1929	385	135									土器片	多量の繊維・骨針少量。細粒	大平遺跡2
T-108	大平-108	E	7	20	131	103	2573	443	137									土器片	多量の繊維・海綿状骨針は含まない。繊維は少ない。北陸系土器重要。	大平遺跡2
T-109	大平-109	E	7	20	111	129	2016	434	103						102			土器片	多量の繊維・骨針少量。粗粒Qt	大平遺跡2
T-110	大平-110	C	6	20	130	203	1951	395	121									土器片	多量の繊維・海綿状骨針は含まない。繊維は少ない。北陸系土器重要。	大平遺跡2
T-111	大平-111	C	6	20	130	203	1951	395	121									土器片	多量の繊維・海綿状骨針は含まない。繊維は少ない。北陸系土器重要。	大平遺跡2
T-112	大平-112	B	6	10	120	102	1942	391	181									土器片	多量の繊維・骨針少量。粗	大平遺跡2
T-113	大平-113	B	6	10	132	243	1961	557	133									土器片	多量の繊維・骨針少量。粗	大平遺跡2
T-114	大平-114	D	7	9	141	99	2234	360	211									土器片	多量の繊維・海綿状骨針は含まない。繊維は少ない。北陸系土器重要。	大平遺跡2
T-115	大平-115	D	7	9	112	116	1409	543	149						107			土器片	多量の繊維・骨針少量。細粒	大平遺跡2
T-116	大平-116	G	8	20	144	144	2231	237	137									土器片	多量の繊維・骨針少量。粗粒	大平遺跡2
T-117	大平-117	E	7	20	139	102	1920	486	161									土器片	多量の繊維・骨針少量。良質	大平遺跡2
T-118	大平-118	S-20	D	6	20	119	161	2145	451	120								土器片	多量の繊維・海綿状骨針は含まない。繊維は少ない。北陸系土器重要。	大平遺跡2
T-119	大平-119	S-21	C	6	20	118	124	2143	626	126								土器片	多量の繊維・海綿状骨針は含まない。繊維は少ない。北陸系土器重要。	大平遺跡2
T-120	大平-120	S-22	C	6	20	105	161	2031	380	105								土器片	多量の繊維・骨針少量。粗	大平遺跡2
T-121	大平-121	S-23	E	7	20	121	93	1897	624									土器片	多量の繊維・骨針少量。粗。相対Qt多	大平遺跡2
T-122	大平-122	S-24	C	6	20	126	146	1852	424	146								土器片	多量の繊維・骨針少量。粗。相対Qt多	大平遺跡2
T-123	大平-123	S-25	C	6	20	124	126	1822	424	146								土器片	多量の繊維・骨針少量。粗。相対Qt多	大平遺跡2
T-124	大平-124	S-26	C	6	20	115	92	2364	1115	229								土器片	多量の繊維・骨針少量。粗粒	大平遺跡2
T-125	大平-125	S-27	C	6	20	115	92	2066	997	134								土器片	多量の繊維・骨針少量。粗粒	大平遺跡2
T-126	大平-126	S-28	D	7	9	119	153	1559	328	117								土器片	多量の繊維・骨針少量。粗粒	大平遺跡2
T-127	大平-127	S-29	C	6	20	132	122	1649	361									土器片	多量の繊維・骨針少量。中粒	大平遺跡2
T-128	大平-128	S-30	G	8	20	126	102	1722	459	105								土器片	多量の繊維・骨針なし。細粒	大平遺跡2
T-129	大平-129	S-31	E	7	9	126	102	164										土器片	多量の繊維・骨針なし。細粒	大平遺跡2
T-130	大平-130	S-32	D	7	9	126	102	164										土器片	多量の繊維・骨針なし。細粒	大平遺跡2
T-131	大平-131	S-33	D	7	9	126	102	164										土器片	多量の繊維・骨針なし。細粒	大平遺跡2
T-132	大平-132	S-34	D	7	9	126	102	164										土器片	多量の繊維・骨針なし。細粒	大平遺跡2

第1表 胎土性状表

試料 通しNo	試料 No	タイプ 分類	組成分類										粘土鉱物および遊離鉱物										備考		
			Mo	W	Hb	Mo	Ch	Mi	Hb	Mont	Mica	Hb	Crn(Fe)	Crn(Mg)	Qtz	Pl	Orst	Mullite	K-fels	Hallopy	Kaol	Zeol		Talc	Ser
T-133	S-35	I	1	16	161	114	114	2102	285	103														PO-11覆土 繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
T-134	S-36	D	7	9	155	75	171	2325	285	86														PO-12覆土 繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
T-135	S-37	J	11	20	232	131	232	2450	336	97														同上	茂辺地
T-136	S-38	D	7	9	156	89	220	2618	357															PO-13覆土 繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
T-137	S-39	E	7	20	222	89	174	3033	304	112														PO-14覆土 繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
T-138	S-40	A	5	20	135	113		3044	340	96														PO-15覆土 繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
T-139	S-41	A	5	20	1759	401	166	2347	199															流灰質粘土	茂辺地
T-140	S-42	B	6	10	148	173	150	2307	172															流灰質粘土	茂辺地
T-141	S-43	D	7	9	138	125	206	107	1288	280														流灰質粘土	茂辺地
T-142	S-44	D	7	9	138	125	206	107	1288	280														流灰質粘土	茂辺地
T-143	S-45	B	6	10	133	150	215	93	1242	211														流灰質粘土	茂辺地
T-144	S-46	D	7	9	171	114	216	2094	295	219														深緑	木古内町・新道遺跡
T-145	S-47	E	7	20	162	127		1906	1020	255														深緑	木古内町・新道遺跡
T-146	S-48	E	7	20	155	119		2195	511	231														深緑	木古内町・新道遺跡
T-147	S-49	E	7	20	130	111		1822	301	213														深緑	木古内町・新道遺跡
T-148	S-50	A	5	20	2034	313	233	2034	313	233														深緑	木古内町・新道遺跡
T-149	S-51	E	7	20	147	112		2219	377	255														深緑	木古内町・新道遺跡
T-150	S-52	A	5	20	2227	389		2227	389															深緑	木古内町・新道遺跡
T-151	S-53	A	5	20	2216	379		2216	379															深緑	木古内町・新道遺跡
T-152	S-54	A	5	20	2123	463	134	2123	463	134														深緑	木古内町・新道遺跡
T-153	S-55	E	7	20	138	99		1764	440	213														深緑	木古内町・新道遺跡
T-154	S-56	E	7	20	152	140		1986	631	127														深緑	木古内町・新道遺跡
T-155	S-57	A	5	20	108	108		2109	270	242														深緑	木古内町・新道遺跡
T-156	S-58	A	5	20	2064	543	195	2064	543	195														深緑	木古内町・新道遺跡
T-157	S-59	A	5	20	2153	383	247	2153	383	247														深緑	木古内町・新道遺跡
T-158	S-60	C	6	20	2702	255	102	2702	255	102														深緑	木古内町・新道遺跡
T-159	S-61	E	7	20	173	167	191	2027	506	220														深緑	木古内町・新道遺跡
T-160	S-62	D	7	9	167	99		2092	282	107														深緑	木古内町・新道遺跡
T-161	S-63	L	8	20	2435	337	111	2435	337	111														深緑	木古内町・新道遺跡
T-162	S-64	C	6	20	157	297	221	1666	218	132														深緑	木古内町・新道遺跡
T-163	S-65	L	8	20	1449	207		2450	319	116														深緑	木古内町・新道遺跡
T-164	T-1	D	7	9	136	89	201	1766	218	136														深緑	木古内町・新道遺跡
T-165	T-2	L	8	20	137	137	224	1584	506	136														深緑	木古内町・新道遺跡
T-166	T-3	L	8	20	261	261		1879	305	131														深緑	木古内町・新道遺跡
T-167	T-4	K	14	20				2116	220	153														深緑	木古内町・新道遺跡
T-168	T-5	K	14	20				1645	412															深緑	木古内町・新道遺跡
T-169	Ks-1	B	6	10	107	119	75	1611	367															深緑	木古内町・新道遺跡
T-170	Ks-2	D	7	9	118	81	159	90	1611	367														深緑	木古内町・新道遺跡
T-171	Ks-3	D	7	9	144	88	135	95	1600	398														深緑	木古内町・新道遺跡
T-172	Ks-4	F	8	20	114	119	80	1700	372															深緑	木古内町・新道遺跡
T-173	Ks-5	D	7	9	118	83	212	118	3483	389														深緑	木古内町・新道遺跡
T-174	Ks-6	D	7	9	105	74	132	81	1333	416														深緑	木古内町・新道遺跡
T-175	Ks-7	D	7	9	102	92	110	2130	602															深緑	木古内町・新道遺跡
T-176	Ks-8	F	8	20	162	162		2495	101															深緑	木古内町・新道遺跡
T-177	Ks-9	D	7	9	230	198	223	1702	220															深緑	木古内町・新道遺跡
T-178	Ks-10	D	7	9	147	135	209	97	1567	197														深緑	木古内町・新道遺跡
T-179	Ks-11	D	7	9	159	102	230	127	2025	207														深緑	木古内町・新道遺跡
T-180	Ks-12	F	8	20	160	160	289	147	1688	253														深緑	木古内町・新道遺跡
T-181	SS-1	D	7	9	179	134	288	141	1982	208														深緑	木古内町・新道遺跡
T-182	SS-2	L	8	20	211	247	164	1869	238															深緑	木古内町・新道遺跡
T-183	SS-3	L	8	20	156	166	201	115	2315	199														深緑	木古内町・新道遺跡
T-184	SS-4	D	7	9	185	114	216	127	1885	212														深緑	木古内町・新道遺跡
T-185	SS-5	L	8	20	115	115	216	1569	407															深緑	木古内町・新道遺跡
T-186	SS-6	L	8	20	133	133	289	78	2922	353														深緑	木古内町・新道遺跡
T-187	SS-7	L	8	20	152	152	169	78	3932	113														深緑	木古内町・新道遺跡
T-188	SS-8	D	7	9	151	89	258	138	1679	222														深緑	木古内町・新道遺跡
T-189	SS-9	D	7	9	124	114	187	98	1478	749														深緑	木古内町・新道遺跡

Mont.: モンモロロナイト Mica.: 雲母類 Hb.: 角閃石 Oh.: 緑泥石(Ch.: Fe 一次反射; Ch.: Mg 二次反射) Qtz.: 石英 Pl.: 斜長石 Orst.: クラストブライト Talc.: 滑石
 Mullite.: ムライト K-fels.: カリ長石 Zeol.: 沸石 Au.: 普通輝石 Py.: 紫輝石
 *ア部分には試料不足

表V-5-2 化学分析表

第2表 化学分析表

通し・試料No	試料名	Na2O	MnO	AP2O3	SiO2	K2O	CaO	TO2	MnO	Fe2O3	NiO	Total	備考	
T-1	大平-1	0.72	0.00	24.20	57.28	2.49	0.89	1.37	0.66	12.25	0.14	100.00	土器片 繊維・砂粒多量含む。海綿骨針なし。内面調整粗粒	大平遺跡1
T-2	大平-2	1.32	0.00	25.71	60.34	1.81	0.50	1.07	0.00	9.25	0.00	100.00	土器片 多量の海綿骨針・繊維。砂粒少ない。内面調整丁寧	大平遺跡1
T-3	大平-3	1.19	0.00	25.76	60.94	2.69	0.31	1.34	0.00	9.56	0.25	100.00	土器片 多量の繊維・砂粒。海綿骨針少量。内面調整粗粒	大平遺跡1
T-4	大平-4	1.37	0.00	25.92	58.11	1.73	0.50	1.79	0.83	9.52	0.30	100.00	土器片 多量の海綿骨針・繊維。砂粒少ない。内面調整丁寧	大平遺跡1
T-5	大平-5	0.73	0.00	25.48	60.30	1.72	0.34	1.18	0.96	9.24	0.03	100.00	土器片 多量の海綿骨針・繊維。砂粒。内面調整粗粒	大平遺跡1
T-6	大平-6	1.40	0.00	28.22	50.33	3.78	0.99	2.75	0.43	12.03	0.07	100.00	土器片 炭化物付着。多量の繊維。砂粒。海綿骨針少量。内面調整丁寧	大平遺跡1
T-7	大平-7	1.87	0.00	27.07	59.89	1.83	0.58	1.49	0.11	6.66	0.50	100.00	土器片 多量の海綿骨針・繊維。砂粒少ない。内面調整粗粒	大平遺跡1
T-8	大平-8	1.32	0.00	36.77	54.52	2.30	0.09	1.26	0.00	3.45	0.29	100.00	土器片 多量の海綿骨針・繊維。砂粒を含む。内面調整粗粒	大平遺跡1
T-9	大平-9	1.00	0.00	23.81	56.66	3.07	0.72	1.49	0.53	8.33	0.06	100.00	土器片 厚手。多量の海綿骨針・繊維。砂粒を含む。内面調整粗粒	大平遺跡1
T-10	大平-10	0.97	0.00	22.96	59.14	2.02	0.66	1.88	0.51	11.40	0.03	100.00	土器片 多量の海綿骨針・繊維。砂粒を含む。内面調整粗粒	大平遺跡1
T-11	大平-11	1.38	0.00	25.02	50.43	3.86	0.62	1.52	1.27	15.85	0.06	99.99	海成粘土塊 角状。炭屑。少量の海綿骨針。砂粒が多い	大平遺跡1
T-12	大平-12	0.91	0.00	24.00	44.71	3.81	0.59	2.24	1.78	22.36	0.00	100.00	海成粘土塊 タイ米状。赤褐色。多量に海綿骨針を含む	大平遺跡1
T-13	大平-13	0.77	0.11	27.15	51.17	3.33	0.17	1.54	0.64	14.80	0.33	100.00	海成粘土塊 積の積状。少量の海綿骨針・砂粒。炭化物を含む	大平遺跡1
T-14	大平-14	0.99	0.00	26.58	53.10	4.07	0.32	1.09	0.81	13.04	0.00	100.00	海成粘土塊 米粒状。少量の海綿骨針・砂粒を含む	大平遺跡1
T-15	大平-15	1.17	0.00	23.78	57.45	2.32	0.56	1.65	0.66	12.42	0.00	100.00	海成粘土塊 米粒状。多量の海綿骨針を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-16	大平-16	1.46	0.00	23.65	57.90	2.23	0.85	1.09	0.54	12.28	0.00	99.99	海成粘土塊 米粒状。多量の海綿骨針。少量の砂粒を含む。きめが細かい。	大平遺跡1
T-17	大平-17	0.74	0.00	27.83	51.96	2.65	0.35	1.70	0.63	14.13	0.00	99.99	海成粘土塊 米粒状。海綿骨針なし。多量の砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-18	大平-18	0.74	0.00	24.48	53.06	4.07	0.44	1.76	1.01	13.76	0.68	100.00	海成粘土塊 米粒状。多量の海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-19	大平-19	0.91	0.18	22.92	52.79	3.71	0.49	1.93	0.29	15.94	0.84	100.00	海成粘土塊 米粒状。海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-20	大平-20	0.66	0.61	23.42	48.42	4.41	0.44	2.10	0.39	19.55	0.00	100.00	海成粘土塊 米粒状。海綿骨針なし。少量の砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-21	大平-21	0.68	0.00	26.34	52.62	4.36	0.44	1.92	0.46	13.11	0.09	100.00	海成粘土塊 米粒状。海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-22	大平-22	0.76	0.00	25.39	51.76	4.59	0.32	1.40	0.32	15.39	0.09	100.00	海成粘土塊 タイ米状。海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-23	大平-23	0.88	0.00	25.55	52.76	3.08	0.41	1.49	0.38	14.34	1.11	100.00	海成粘土塊 米粒状。海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-24	大平-24	0.98	0.00	23.06	56.95	2.23	0.41	2.19	0.49	13.69	0.00	100.00	海成粘土塊 米粒状。多量の海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-25	大平-25	1.33	0.00	23.90	60.77	3.06	0.52	1.74	0.42	8.26	0.00	100.00	海成粘土塊 米粒状。多量の海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-26	大平-26	0.77	0.00	23.46	58.01	3.12	0.52	2.00	0.70	11.42	0.00	100.00	海成粘土塊 海状。多量の海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-27	大平-27	1.05	0.00	22.64	62.89	2.16	0.39	1.58	0.00	9.03	0.25	100.00	海成粘土塊 米粒状。多量の海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-28	大平-28	0.78	0.15	23.34	59.93	2.90	0.84	1.18	0.25	10.60	0.23	100.00	海成粘土塊 米粒状。多量の海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-29	大平-29	0.82	0.00	24.86	58.61	2.67	0.61	1.61	0.51	10.38	0.00	100.00	海成粘土塊 米粒状。多量の海綿骨針。少量の砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-30	大平-30	0.80	0.00	23.74	59.97	2.34	0.61	1.53	0.87	10.14	0.00	100.00	海成粘土塊 ハスカフツ状。海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-31	大平-31	0.66	0.00	26.39	48.62	3.93	0.66	1.81	0.40	19.47	0.25	99.99	海成粘土塊 タイ米状。海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-32	大平-32	0.92	0.30	25.13	49.00	4.12	0.42	1.54	1.90	17.66	0.00	100.00	海成粘土塊 ハスカフツ状。海綿骨針なし。多量の砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-33	大平-33	0.55	0.54	28.33	44.18	5.72	0.61	1.75	0.34	15.96	0.00	100.00	海成粘土塊 米粒状。海綿骨針なし。少量の砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-34	大平-34	0.80	0.00	27.17	49.11	2.61	0.60	1.82	2.49	14.78	0.61	99.99	海成粘土塊 タイ米状。多量の海綿骨針。少量の砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-35	大平-35	0.92	0.00	24.79	57.06	2.71	0.53	2.03	0.43	11.42	0.00	100.00	海成粘土塊 タイ米状。少量の海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-36	大平-36	0.80	0.00	26.14	54.54	3.93	0.70	1.74	1.60	10.43	0.00	100.00	海成粘土塊 ハスカフツ状。海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-37	大平-37	0.92	0.00	26.68	46.79	3.81	0.46	1.72	0.76	18.80	0.27	100.00	海成粘土塊 米粒状。海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-38	大平-38	0.69	0.03	26.68	46.79	3.81	0.46	1.72	0.76	18.80	0.27	100.00	海成粘土塊 米粒状。海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-39	大平-39	0.80	0.75	25.70	48.72	5.67	0.50	1.54	1.06	14.54	0.72	100.00	海成粘土塊 米粒状。海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-40	大平-40	1.14	0.00	27.00	54.55	3.09	0.22	1.22	0.32	12.40	0.06	100.00	海成粘土塊 米粒状。海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-41	大平-41	0.73	0.00	24.28	45.82	4.08	0.61	1.54	0.30	22.43	0.21	100.00	海成粘土塊 米粒状。海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-42	大平-42	1.12	0.33	22.51	50.31	5.14	0.74	2.23	0.45	17.17	0.00	100.00	海成粘土塊 タイ米状。多量の海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-43	大平-43	0.83	0.00	28.99	51.53	4.32	0.63	1.52	0.24	11.89	0.04	99.99	海成粘土塊 米粒状。細い海綿骨針を少量含む。砂粒を含む。きめが細かい。	大平遺跡1
T-44	大平-44	0.92	0.11	25.94	52.01	4.02	0.43	1.28	0.70	14.43	0.15	99.99	海成粘土塊 タイ米状。海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-45	大平-45	0.99	0.00	23.81	48.67	3.44	1.39	1.96	1.10	18.60	0.04	100.00	海成粘土塊 炭化物付着。タイ米状。海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-46	大平-46	0.91	0.64	25.69	61.07	1.60	0.89	0.92	1.96	7.23	0.00	100.00	海成粘土塊 米粒状。多量の海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-47	大平-47	1.03	0.00	33.74	35.67	5.58	2.33	3.32	0.52	17.76	0.11	100.00	海成粘土塊 米粒状。多量の海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-48	大平-48	1.11	0.00	22.82	57.28	2.16	0.60	1.59	0.00	14.26	0.26	100.00	海成粘土塊 米粒状。多量の海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-49	大平-49	1.00	0.00	23.75	51.36	3.66	0.77	1.26	0.83	16.93	0.23	100.00	海成粘土塊 タイ米状。多量の海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-50	大平-50	0.84	0.00	23.17	56.42	2.88	0.51	1.23	0.55	13.50	0.89	99.99	海成粘土塊 タイ米状。多量の海綿骨針。砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-51	大平-51	0.39	0.56	26.03	53.43	3.29	0.65	1.45	0.45	13.85	0.00	100.00	粘土 フラスコ状ピット。壁、ローム上部 厚層20cm	大平遺跡1
T-52	大平-52	0.50	0.00	28.54	52.38	2.95	0.20	1.23	0.84	13.36	0.00	100.00	粘土 フラスコ状ピット。壁、ローム下部 厚層40~50cm	大平遺跡1
T-53	大平-53	0.70	0.01	24.71	55.73	3.57	0.38	1.04	0.48	13.42	0.00	100.00	粘土 フラスコ状ピット。壁、ローム下部 厚層40~50cm	大平遺跡1
T-54	大平-54	0.47	0.87	24.27	51.26	3.24	0.48	1.20	0.69	17.53	0.00	100.00	粘土 フラスコ状ピット。壁、ローム下部 厚層40~50cm	大平遺跡1
T-55	大平-55	0.65	1.17	19.29	52.53	2.03	0.75	0.83	0.23	22.28	0.24	100.00	粘土(泥岩) 多量繊維・砂粒を含む。少量の滑石が認められる。海綿骨針は含まない。	大平遺跡1
T-56	大平-56	1.10	0.07	29.01	46.52	2.11	1.67	2.26	0.27	16.75	0.24	100.00	土器片 多量繊維・砂粒を含む。海綿骨針は含まない。58に類似。	大平遺跡1
T-57	大平-57	0.84	0.00	29.28	56.45	2.46	0.52	1.79	0.36	9.31	0.00	100.00	土器片 多量繊維・砂粒を含む。海綿骨針は含まない。	大平遺跡1
T-58	大平-58	1.03	0.00	27.04	58.71	2.43	0.66	1.62	0.45	7.64	0.22	100.00	土器片 多量繊維・砂粒を含む。少量の砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-59	大平-59	0.97	0.00	25.79	61.47	1.45	0.77	1.62	0.75	17.50	0.00	100.00	土器片 多量の繊維・砂粒を含む。少量の砂粒を含む。多孔隙。	大平遺跡1
T-60	大平-60	1.04	0.00	25.41	55.72	1.82	1.12	1.26	0.00	13.50	0.12	99.99	土器片 多量の繊維・砂粒を含む。多量の海綿骨針を含む。	大平遺跡1
T-61	大平-61	1.57	0.00	25.25	58.14	1.79	0.75	1.56	0.43	10.51	0.00	100.00	土器片 多量の繊維・砂粒を含む。少量の滑石。海綿骨針を含む。	大平遺跡1
T-62	大平-62	1.31	0.00	26.14	58.75	2.49	0.77	1.74	0.34	9.91	0.00	100.00	土器片 少量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿骨針を含む。	大平遺跡1
T-63	大平-63	0.99	0.00	27.50	57.83	2.15	0.58	1.50	0.17	8.63	0.65	100.00	土器片 多量の繊維・砂粒を含む。海綿骨針は含まない。	大平遺跡1
T-64	大平-64	1.80	0.00	29.10	58.33	1.72	1.07	1.09	0.48	5.77	0.85	100.00	土器片 多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿骨針を含む。	大平遺跡1
T-65	大平-65	1.84	0.00	27.13	60.79	2.21	1.07	1.33	0.06	5.57	0.00	100.00	土器片 多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿骨針を含む。	大平遺跡1

第2表 化学分析表

通し・試料No	試料名	Na2O	MfO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NiO	Total	備考
T-66	大平-66	1.55	0.00	29.18	56.32	2.38	1.07	1.21	0.34	7.83	0.11	99.99	土層片 多量の砂粒、少量の繊維を含む。
T-67	大平-67	3.19	0.00	27.35	57.53	2.57	0.87	1.46	0.12	6.86	0.60	100.00	土層片 多量繊維、少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。
T-68	大平-68	1.65	0.00	26.38	57.38	2.52	0.94	1.41	0.19	9.48	0.00	100.00	土層片 多量繊維、少量の砂粒、海綿状骨針を含む。
T-69	大平-69	1.68	0.00	27.61	57.24	1.87	0.52	2.38	0.33	8.34	0.04	100.01	土層片 少量の繊維・砂粒を含む、少量の海綿状骨針を含む。
T-70	大平-70	1.43	0.00	28.62	57.47	2.38	0.69	1.68	0.38	6.86	0.29	100.00	土層片 薄手、砂粒・繊維を多量に含む、海綿状骨針は含まない。
T-71	大平-71	0.84	0.00	28.79	56.38	2.40	0.67	1.88	0.19	6.60	0.14	100.01	土層片 多量繊維、少量の滑石の小破片を含む、海綿状骨針は含まない。
T-72	大平-72	0.47	0.00	24.51	65.40	1.19	0.38	1.21	1.10	5.60	0.00	100.01	土層片 薄手、砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。
T-73	大平-73	1.27	0.00	25.69	59.68	2.54	0.51	0.93	0.19	8.70	0.00	100.01	土層片 薄手、砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。
T-74	大平-74	1.06	0.00	27.86	51.87	2.44	1.71	1.65	0.34	13.18	0.30	99.99	土層片 多量の繊維・白色の岩粒を含む。海綿状骨針は含まない。
T-75	大平-75	0.57	0.00	31.07	54.91	1.37	0.33	1.35	0.00	9.75	0.66	100.01	土層片 少量の繊維・砂粒を含む、少量の海綿状骨針を含む。
T-76	大平-76	1.32	0.00	24.57	62.97	1.33	0.88	1.31	0.00	7.62	0.00	100.00	土層片 多量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。
T-77	大平-77	0.57	0.00	19.97	69.02	1.66	0.50	1.21	0.00	6.74	0.32	99.99	土層片 多量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。
T-78	大平-78	1.30	0.00	31.79	50.30	1.77	0.65	1.74	0.18	12.47	0.00	100.00	土層片 多量の繊維・少量の滑石の小破片を含む、海綿状骨針は含まない。
T-79	大平-79	1.08	0.00	20.40	67.58	1.84	0.53	1.52	0.00	10.91	0.30	100.00	土層片 多量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。
T-80	大平-80	0.83	0.00	26.80	59.83	2.67	0.98	1.70	0.30	6.65	0.13	100.00	土層片 多量の繊維・海綿状骨針を含む。
T-81	大平-81	1.00	0.00	27.53	57.66	2.18	0.80	1.78	0.19	7.72	0.66	100.01	土層片 薄手、砂粒・繊維を多量に含む、海綿状骨針は含まない。
T-82	大平-82	1.57	0.00	28.23	54.98	1.81	0.38	1.67	0.36	7.22	0.33	100.00	土層片 薄手、砂粒・繊維を多量に含む、海綿状骨針は含まない。
T-83	大平-83	1.18	0.00	26.22	60.46	1.86	0.70	1.67	0.00	10.91	0.60	99.99	土層片 多量の繊維・海綿状骨針を含む。
T-84	大平-84	1.03	0.00	27.89	56.14	1.75	0.98	1.44	0.62	9.74	0.40	99.99	土層片 多量の繊維・海綿状骨針を含む。
T-85	大平-85	1.90	0.00	27.97	57.21	1.50	1.15	1.93	0.00	8.73	0.00	99.99	土層片 薄手、砂粒・繊維を多量に含む、海綿状骨針は含まない。
T-86	大平-86	1.13	0.00	24.72	59.53	2.37	0.40	1.41	0.33	9.56	0.56	100.01	土層片 薄手、砂粒・繊維を多量に含む、海綿状骨針は含まない。
T-87	大平-87	0.71	0.59	7.63	82.64	1.56	0.65	0.40	0.32	5.32	0.00	100.01	土層片 砂粒多量。
T-88	大平-88	0.81	0.07	10.75	77.85	2.10	0.74	0.43	0.75	6.15	0.35	100.00	土層内の砂 砂粒少ない。
T-89	大平-89	0.46	1.61	11.83	74.90	2.30	1.12	0.33	0.68	6.47	0.30	100.00	土層片 砂粒多い。
T-90	大平-90	0.94	0.00	29.16	42.48	4.07	0.42	1.96	0.21	20.64	0.52	100.00	腐成粘土塊 少量の繊維・砂粒を含む、海綿状骨針は含まない。
T-91	大平-91	1.23	0.30	33.42	45.03	2.95	0.45	1.45	0.17	15.37	0.02	99.99	腐成粘土塊 少量の繊維・砂粒・海綿状骨針は含まない。
T-92	大平-92	1.05	0.00	28.29	53.73	2.64	0.47	1.29	0.63	11.89	0.00	99.99	腐成粘土塊 繊維・砂粒、海綿状骨針は含まない。
T-93	大平-93	0.70	0.00	29.28	52.84	3.12	0.25	1.40	0.56	11.33	0.00	100.01	腐成粘土塊 少量の繊維・砂粒を含む、海綿状骨針は含まない。
T-94	大平-94	0.81	0.00	28.48	55.34	3.24	0.41	0.80	0.46	10.11	0.35	100.00	腐成粘土塊 少量の繊維・砂粒を含む、海綿状骨針は含まない。
T-95	大平-95	1.05	0.00	27.73	58.24	2.97	0.41	2.01	1.16	6.94	0.49	100.00	腐成粘土塊 少量の繊維・砂粒は含まない、少量の海綿状骨針を含む。
T-96	大平-96	1.33	0.00	26.50	55.26	3.02	0.64	1.46	1.22	10.58	0.00	100.01	腐成粘土塊 繊維・砂粒・海綿状骨針は含まない。
T-97	大平-97	0.88	0.62	13.81	70.93	2.55	0.91	0.86	1.06	8.51	0.07	100.00	粘土(泥岩) 砂粒多量、海綿状骨針は含まない、繊維は少ない。北陸系土器重要。
T-98	大平-98	0.39	0.00	16.97	72.62	1.13	0.36	0.77	0.00	7.77	0.00	100.01	土層片 大量、海綿状骨針は含まない、繊維は少ない。北陸系土器重要。
T-99	S-1	1.92	0.00	27.15	53.35	1.71	0.63	1.71	0.16	13.25	0.52	100.00	盛土 多量の繊維・海綿状骨針を多く含む、細粒、粗粒のQtを含む。
T-100	S-2	2.94	0.00	25.87	58.08	2.29	1.84	0.85	0.00	8.02	0.11	100.00	盛土 多量の繊維・海綿状骨針を多く含む、細粒、粗粒のQtを含む。
T-101	S-3	1.10	0.00	26.15	55.95	2.01	0.48	1.53	0.03	12.76	0.00	100.01	盛土 多量の繊維・海綿状骨針を多く含む、細粒。
T-102	S-4	1.20	0.00	31.80	54.46	1.77	0.36	1.58	0.51	8.25	0.26	99.99	盛土 多量の繊維・粗粒Tahを含む、骨針なし。
T-103	S-5	0.33	0.00	23.80	63.67	2.29	0.21	1.62	0.37	7.72	0.00	100.01	盛土 多量の繊維・粗粒Tahを含む、骨針なし。
T-104	S-6	0.40	0.00	24.27	62.33	3.97	0.28	0.77	0.00	7.98	0.00	100.00	盛土 多量の繊維・骨針なし、細粒Qt。
T-105	S-7	0.11	0.00	24.61	55.50	1.40	0.31	1.46	0.30	16.30	0.00	99.99	盛土 多量の繊維・骨針なし、粗粒Qt。
T-106	S-8	2.89	0.00	24.12	61.35	1.90	1.40	0.99	0.00	7.49	0.17	100.01	盛土 多量の繊維・骨針なし、Qt多。
T-107	S-9	1.28	0.00	26.18	53.26	1.81	0.50	1.92	0.00	14.85	0.42	100.02	盛土 多量の繊維・海綿状骨針を多く含む、細粒。
T-108	S-10	0.83	0.00	30.35	52.41	1.28	0.64	2.08	0.11	11.52	0.78	100.00	盛土 多量の繊維・骨針なし、中粒Qt。
T-109	S-11	1.36	0.00	25.76	50.99	1.53	0.44	1.34	0.00	18.15	0.43	100.00	盛土 多量の繊維・骨針なし、中粒Qt。
T-110	S-12	1.38	0.00	27.99	58.99	1.67	0.71	1.79	0.58	6.90	0.00	100.01	盛土 多量の繊維・骨針少量、細粒。
T-111	S-13	1.21	0.00	27.61	58.49	1.70	0.63	1.36	0.07	8.94	0.00	100.01	盛土 多量の繊維・骨針少量、細粒。
T-112	S-14	0.96	0.00	24.65	59.10	1.77	0.59	1.94	0.00	10.41	0.18	100.00	盛土 多量の繊維・海綿状骨針を多く含む、細粒。
T-113	S-15	1.36	0.00	23.40	63.20	1.73	0.90	0.99	0.51	7.93	0.38	100.00	盛土 繊維少量、骨針少量、粗粒Qt。
T-114	S-16	1.05	0.00	24.42	62.04	2.01	0.50	1.26	0.00	8.72	0.00	100.00	盛土 多量の繊維少量、骨針少量、粗粒Qt。
T-115	S-17	0.88	0.00	28.61	52.46	2.06	0.61	1.40	0.26	12.64	0.00	100.01	盛土 繊維・海綿状骨針を含む、薄。
T-116	S-18	1.37	0.00	28.12	56.46	1.91	0.32	1.20	0.00	8.21	0.00	99.99	盛土 多量の繊維・骨針少量、粗。
T-117	S-19	1.08	0.00	25.57	59.03	2.02	0.38	1.73	0.00	10.55	0.15	99.99	盛土 多量の繊維・海綿状骨針を多く含む、細粒。
T-118	S-20	0.74	0.00	24.27	59.62	1.20	0.45	1.78	0.07	10.58	0.46	99.99	盛土 多量の繊維・海綿状骨針を多く含む、細粒。
T-119	S-21	1.24	0.00	28.07	49.70	2.77	0.96	1.53	0.84	14.89	0.00	100.00	盛土 多量の繊維少量、骨針少量、細粒。
T-120	S-22	0.81	0.00	30.69	58.77	1.95	0.25	1.97	0.00	5.26	0.19	99.99	盛土 繊維少量、骨針少量、粗粒。
T-121	S-23	0.97	0.00	28.73	57.13	1.78	0.40	1.80	0.00	8.75	0.44	100.00	盛土 繊維少量、骨針少量、良質。
T-122	S-24	1.05	0.00	30.11	56.56	1.36	0.57	1.13	0.59	9.65	0.00	100.01	盛土 多量の繊維・海綿状骨針を多く含む、細粒。
T-123	S-25	1.96	0.00	29.15	54.87	1.84	0.64	1.16	0.43	9.96	0.00	100.01	盛土 多量の繊維・骨針少量、粗。
T-124	S-26	1.75	0.00	28.77	55.34	2.01	0.51	1.16	0.95	8.76	0.75	100.00	盛土 多量の繊維・骨針少量、粗。
T-125	S-27	1.22	0.00	29.69	59.68	1.61	0.45	0.57	0.04	6.57	0.18	100.01	盛土 多量の繊維・骨針少量、粗、粗粒Qt多。
T-126	S-28	1.25	0.00	24.89	57.60	1.63	0.33	1.39	1.03	11.54	0.34	100.00	盛土 繊維少量、骨針少量、少量Qt。
T-127	S-29	1.22	0.00	28.30	55.31	1.92	0.82	1.56	0.00	10.58	0.29	100.00	盛土 繊維中量、骨針中量、細粒。
T-128	S-30	1.94	0.00	26.93	57.03	2.30	1.28	1.39	0.00	9.14	0.00	100.01	盛土 繊維・骨針少量、細粒。
T-129	S-31	2.62	0.00	20.55	54.69	1.10	2.28	1.11	0.00	7.15	0.51	100.00	PO ₄ -10盛土 繊維・骨針少量、粗粒-良質。
T-130	S-32	1.15	0.00	26.07	59.27	1.42	0.32	1.27	0.31	10.19	0.00	100.00	PO ₄ -10盛土 繊維少量、骨針少量、細粒。

第2表 化学分析表

通し・試料No	試料名	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	NiO	Total	備考
T-131	S-33	0.75	0.00	25.66	59.40	1.57	0.26	1.71	0.60	10.05	0.00	100.00	PO-10覆土 繊維少量・骨針少量。中粒
T-132	S-34	1.15	0.00	27.86	59.49	1.21	0.60	0.94	0.00	8.64	0.00	99.99	PO-11覆土 繊維、骨針なし。細粒
T-133	S-35	0.80	0.00	25.20	57.23	1.72	0.15	0.92	0.71	12.85	0.23	99.99	PO-11覆土 繊維、骨針なし。細粒
T-134	S-36	1.21	0.00	22.99	64.27	2.07	0.13	0.92	0.12	8.22	0.08	100.01	PO-12覆土 繊維、骨針なし。細粒
T-135	S-37	1.46	0.00	24.59	65.22	1.74	0.32	1.07	0.10	5.51	0.00	100.00	III 繊維、骨針なし。細粒
T-136	S-38	2.15	0.00	25.06	61.56	2.35	0.94	1.29	0.00	6.63	0.01	100.00	III 繊維、骨針なし。細粒
T-137	S-39	2.01	0.00	23.28	60.38	4.52	0.11	0.97	0.65	7.63	0.43	100.00	PO-12覆土 繊維、骨針なし。細粒
T-138	S-40	0.36	0.00	22.05	64.33	1.60	0.61	0.99	0.64	8.98	0.00	99.98	PO-10覆土 繊維、骨針なし。細粒
T-139	S-41	0.89	0.00	25.94	61.17	1.49	0.44	1.01	0.00	9.07	0.00	100.01	PO-11覆土 准灰質粘土
T-140	S-42	0.81	0.00	26.71	57.56	2.14	0.25	1.64	0.02	10.88	0.00	100.01	土層サンプル 准灰質粘土
T-141	S-43	0.49	0.00	30.00	58.21	2.26	0.17	1.40	0.00	7.10	0.37	100.00	土層サンプル 准灰質粘土
T-142	S-44	0.43	0.00	47.39	38.75	1.40	0.00	1.21	2.25	8.56	0.00	99.99	土層サンプル 准灰質粘土
T-143	S-45	0.98	0.00	42.70	37.02	1.52	0.36	0.99	1.22	15.08	1.02	99.99	土層サンプル 繊維を含む細かい多量の骨針
T-144	S-46	0.69	0.00	29.49	58.30	1.87	0.41	1.22	0.51	7.50	0.00	99.99	細かい多量の骨針
T-145	S-47	1.59	0.00	27.60	58.62	1.60	0.65	1.02	0.00	8.79	0.14	100.01	繊維を含む細かい多量の白色岩片・骨針を含む
T-146	S-48	1.41	0.00	28.58	51.70	1.83	0.44	1.36	0.00	14.68	0.00	100.00	繊維を含む細かい多量の砂粒・骨針を含む
T-147	S-49	0.64	0.00	30.58	51.83	1.67	0.31	1.06	0.88	12.01	0.43	100.01	繊維を含む細かい多量の骨針
T-148	S-50	0.80	0.00	38.61	36.64	1.39	0.61	0.74	0.46	20.37	0.38	100.00	多量の繊維を含む砂粒・骨針を含む
T-149	S-51	1.01	0.00	25.59	54.39	2.28	0.30	1.19	0.62	14.61	0.00	99.99	繊維を含む細かい多量の骨針
T-150	S-52	0.58	0.00	27.63	55.15	1.47	0.24	1.29	0.20	12.73	0.62	99.99	繊維を含む細かい多量の骨針
T-151	S-53	1.29	0.00	28.35	51.89	1.39	0.27	1.37	0.53	14.62	0.38	100.01	繊維を含む細かい多量の骨針
T-152	S-54	1.52	0.00	27.71	58.90	1.43	0.36	1.47	0.26	8.35	0.00	100.00	繊維を含む細かい多量の骨針
T-153	S-55	1.21	0.00	31.54	48.38	1.57	0.57	1.46	0.35	14.15	0.76	99.99	繊維を含む細かい多量の骨針
T-154	S-56	1.28	0.00	29.88	56.57	1.45	0.46	1.25	0.00	7.12	0.00	100.01	繊維を含む細かい多量の骨針
T-155	S-57	1.11	0.00	27.76	52.08	1.16	0.32	1.20	1.04	15.35	0.00	100.02	繊維を含む細かい多量の骨針
T-156	S-58	1.42	0.00	31.45	53.88	1.27	0.58	0.97	0.07	10.36	0.00	100.00	多量の繊維を含む細かい多量の骨針
T-157	S-59	1.30	0.00	25.96	56.05	1.61	0.75	1.38	0.28	12.66	0.00	99.99	繊維を含む細かい多量の骨針
T-158	S-60	0.76	0.00	27.98	56.91	1.42	0.24	1.10	0.14	11.36	0.00	100.01	繊維を含む細かい多量の骨針
T-159	S-61	1.67	0.00	26.47	59.83	1.64	0.44	1.11	0.06	8.75	0.04	100.01	繊維を含む細かい多量の骨針
T-160	S-62	0.74	0.00	30.45	49.76	1.37	0.47	1.44	0.68	15.08	0.00	99.99	繊維を含む細かい多量の骨針
T-161	S-63	1.24	0.00	31.67	51.51	1.42	0.23	0.99	1.14	12.31	0.50	100.01	繊維を含む細かい多量の骨針
T-162	S-64	0.56	0.00	27.59	61.06	1.91	0.36	0.99	0.03	7.39	0.10	99.99	繊維を含む細かい多量の骨針
T-163	S-65	0.70	0.00	26.59	64.79	2.68	0.15	0.88	0.33	3.41	0.46	99.99	砂粒・白色岩片多い
T-164	T-1	1.38	0.00	27.36	55.04	2.22	0.51	1.52	0.09	11.33	0.56	100.01	繊維、骨針多量。細粒
T-165	T-2	0.78	0.00	30.00	52.18	1.43	0.09	1.15	0.66	13.08	0.64	100.01	繊維、骨針多量。細粒
T-166	T-3	0.89	0.00	25.84	59.44	1.96	0.59	1.25	0.45	9.57	0.00	99.99	繊維少量・骨針なし。細粒
T-167	T-4	1.08	0.00	28.53	56.84	1.49	0.51	1.28	0.89	7.00	0.27	99.99	繊維少量・骨針少量。細粒
T-168	T-5	1.03	0.00	28.01	53.60	1.24	0.24	1.13	0.00	14.75	0.00	100.00	繊維少量・骨針少量。細粒
T-169	KS-1	0.89	0.92	15.64	69.54	2.26	0.74	0.70	0.54	8.77	0.00	100.00	木古内・現場土層 1
T-170	KS-2	0.45	1.01	19.99	66.91	3.92	0.92	1.15	0.26	5.77	0.00	99.98	木古内・現場土層 2
T-171	KS-3	0.62	0.00	33.11	59.94	1.51	0.10	1.08	0.00	3.45	0.20	100.01	木古内・現場土層 3
T-172	KS-4	0.77	0.00	31.61	49.04	3.26	0.23	1.61	0.50	12.99	0.00	100.01	木古内・現場土層 4
T-173	KS-5	0.77	0.48	24.36	55.61	3.44	0.24	1.29	0.13	13.59	0.09	100.00	木古内・現場土層 5
T-174	KS-6	0.51	0.30	27.73	48.24	3.05	0.23	1.77	1.59	13.58	0.00	100.00	木古内・現場土層 6
T-175	KS-7	0.91	0.80	7.72	82.36	2.43	0.35	0.38	0.23	4.45	0.68	100.01	木古内・河口
T-176	KS-8	0.45	0.89	10.17	81.48	2.49	0.40	0.42	0.00	3.32	0.38	100.00	木古内・橋下
T-177	KS-9	0.53	1.09	9.34	79.56	2.68	0.41	0.87	0.27	4.86	0.37	99.98	木古内・橋下
T-178	KS-10	0.46	1.20	11.39	77.06	2.77	0.15	0.48	0.00	6.49	0.00	100.00	木古内・橋下
T-179	KS-11	0.64	1.03	13.58	64.80	3.21	0.50	0.87	0.42	14.53	0.41	99.99	木古内・橋下
T-180	KS-12	1.81	2.79	12.90	71.73	2.93	0.66	0.61	0.85	5.59	0.12	99.99	木古内・当別滝・海岸
T-181	S-1	0.65	0.41	23.59	56.93	2.63	0.39	0.91	0.48	11.23	0.77	99.99	准灰質粘土・繊維、骨針なし
T-182	S-2	0.43	0.30	22.80	61.01	3.01	0.65	1.37	0.55	9.44	0.44	100.00	准灰質粘土・繊維、骨針なし
T-183	S-3	0.71	0.00	27.53	60.01	2.78	0.52	1.41	0.41	6.26	0.38	100.01	准灰質粘土・繊維、骨針なし
T-184	S-4	0.50	0.00	29.12	57.66	3.12	0.28	1.23	0.10	7.98	0.00	99.99	准灰質粘土・繊維、骨針なし
T-185	S-5	0.37	0.57	12.15	77.07	1.92	0.68	0.70	0.00	6.54	0.00	100.00	細粒砂岩・繊維、骨針なし
T-186	S-6	1.19	0.82	20.30	60.33	2.89	0.40	0.93	0.91	11.48	0.75	100.00	准灰質粘土・繊維、骨針なし
T-187	S-7	0.15	0.00	17.35	76.66	2.04	0.21	0.85	0.00	2.74	0.00	100.00	准灰質粘土・繊維、骨針なし
T-188	S-8	0.90	0.00	31.00	53.02	2.99	0.18	1.09	0.30	10.51	0.00	99.99	准灰質粘土・繊維、骨針なし
T-189	S-9	0.30	2.37	12.74	69.33	3.35	1.28	0.92	0.08	9.42	0.00	99.99	細粒砂岩・繊維、骨針なし

ア3部分は試料不足

表V-5-3 タイプ分類表

第3表 タイプ分類表

組成分類			試料	試料	タイプ	備 考	
Fe	Si	Qt	通しNo	No	分類		
Aタイプ (24)							
1	4	2	T-5	大平-5	A	土器片 多量の海綿骨針・繊維・砂粒。内面調整粗雑	大平遺跡1
2	4	2	T-16	大平-16	A	焼成粘土塊 米粒状、多量の海綿骨針を含む。多孔質。	大平遺跡1
1	4	2	T-26	大平-26	A	焼成粘土塊 米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
2	4	2	T-27	大平-27	A	焼成粘土塊 涙状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
1	4	2	T-28	大平-28	A	焼成粘土塊 米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
3	2	2	T-45	大平-45	A	焼成粘土塊 米粒状、多量の海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
3	2	1	T-49	大平-49	A	焼成粘土塊 タイ米状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
1	4	1	T-50	大平-50	A	焼成粘土塊 タイ米状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
2	2	3	T-74	大平-74	A	土器片 薄手、砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	3	T-76	大平-76	A	土器片 少量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
2	2	2	T-78	大平-78	A	土器片 多量の繊維を含む。海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	2	T-83	大平-83	A	土器片 多量の繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	2	T-84	大平-84	A	土器片 多量の繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
2	4	2	T-107	S-9	A	盛土 多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
2	2	3	T-108	S-10	A	盛土 多量の繊維・骨針なし。中粒Qt	大平遺跡2
3	4	2	T-109	S-11	A	盛土 多量の繊維少量・骨針少量。中粒Qt	大平遺跡2
1	4	2	T-139	S-41	A	PO-11覆土 凝灰質粘土	茂辺地
3	1	2	T-148	S-50	A	深鉢 多量の繊維を含む砂粒・骨針を含む	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-150	S-52	A	深鉢 繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-151	S-53	A	深鉢 繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
1	3	2	T-152	S-54	A	深鉢 繊維を含む砂粒・白色岩片・骨針を含む	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-155	S-57	A	深鉢 繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
1	3	2	T-156	S-58	A	深鉢 多量の繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-157	S-59	A	深鉢 繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
Bタイプ (9)							
1	4	6	T-9	大平-9	B	土器片 厚手。多量 of 海綿骨針・繊維・砂粒を含む。内面調整粗雑	大平遺跡1
2	2	2	T-35	大平-35	B	焼成粘土塊 タイ米状、多量 of 海綿骨針、少量 of 砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
1	4	2	T-70	大平-70	B	土器片 多量 of 繊維・砂粒を含む。少量 of 海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	5	2	T-79	大平-79	B	土器片 多量 of 繊維、少量 of 滑石の小破片を含む砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	5	2	T-97	大平-97	B	粘土(泥岩)	大平遺跡1
1	4	2	T-116	S-18	B	盛土 多量 of 繊維・骨針少量。雑	大平遺跡2
1	4	2	T-140	S-42	B	土壌サンプル 凝灰質粘土	茂辺地
2	1	2	T-143	S-45	B	土壌サンプル 凝灰質粘土	茂辺地
1	5	2	T-169	Ks-1	B	土壌サンプル 木古内・現場土壌1	木古内露頭採取原土
Cタイプ (27)							
6	2	2	T-6	大平-6	C	土器片 炭化物付着。多量 of 繊維、砂粒・海綿骨針少量。内面調整丁寧	大平遺跡1
3	2	2	T-13	大平-13	C	焼成粘土塊 タイ米状、赤褐色粒・多量に海綿骨針を含む	大平遺跡1
2	2	2	T-20	大平-20	C	焼成粘土塊 米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
3	2	2	T-32	大平-32	C	焼成粘土塊 タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。脆弱、多孔質。	大平遺跡1
3	2	2	T-42	大平-42	C	焼成粘土塊 タイ米状、多量 of 海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
2	4	2	T-48	大平-48	C	焼成粘土塊 米粒状、多量 of 海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
1	4	2	T-63	大平-63	C	土器片 少量 of 繊維・砂粒を含む。少量 of 海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	3	T-64	大平-64	C	土器片 多量 of 繊維・砂粒を含む。海綿状骨針を含まない。	大平遺跡1
1	4	3	T-66	大平-66	C	土器片 多量 of 砂粒、少量 of 繊維を含む。	大平遺跡1
1	4	2	T-69	大平-69	C	土器片 少量 of 砂粒、多量 of 繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	3	T-71	大平-71	C	土器片 薄手、砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-82	大平-82	C	土器片 多量 of 繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
2	4	2	T-99	S-1	C	盛土 多量 of 繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
2	4	2	T-101	S-3	C	盛土 多量 of 繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
2	4	3	T-105	S-7	C	盛土 多量 of 繊維・骨針なし。細粒Qt	大平遺跡2
1	4	2	T-114	S-16	C	盛土 多量 of 繊維少量・骨針少量。粗粒Qt	大平遺跡2
2	4	2	T-115	S-17	C	盛土 繊維・海綿状骨針を中。雑	大平遺跡2
1	4	2	T-117	S-19	C	盛土 多量 of 繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
2	2	2	T-119	S-21	C	盛土 多量 of 繊維少量・骨針少量。細粒	大平遺跡2
1	4	2	T-122	S-24	C	盛土 多量 of 繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
1	4	2	T-123	S-25	C	盛土 多量 of 繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
1	4	2	T-124	S-26	C	盛土 多量 of 繊維・骨針少量。雑	大平遺跡2
4	4	3	T-125	S-27	C	盛土 多量 of 繊維・骨針少量。雑、粗粒Qt多	大平遺跡2
1	4	2	T-127	S-29	C	盛土 繊維中量・骨針中量。細粒	大平遺跡2
1	4	2	T-130	S-32	C	PO-10覆土 繊維少量・骨針少量。細粒	茂辺地
2	3	2	T-158	S-60	C	深鉢 繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
1	3	2	T-162	S-64	C	深鉢 繊維を含む砂粒・骨針を含む	木古内町・新道遺跡
Dタイプ (55)							
1	4	2	T-3	大平-3	D	土器片 多量 of 繊維・砂粒、海綿骨針少量。内面調整粗雑	大平遺跡1
2	2	2	T-12	大平-12	D	焼成粘土塊 涙状 脆弱。少量 of 海綿骨針、砂粒が多い	大平遺跡1
2	2	2	T-14	大平-14	D	焼成粘土塊 柿の種状。少量 of 海綿骨針・砂粒、炭化物?を含む	大平遺跡1
2	2	2	T-15	大平-15	D	焼成粘土塊 米粒状、少量 of 海綿骨針・砂粒を含む。	大平遺跡1
2	4	3	T-17	大平-17	D	焼成粘土塊 米粒状、多量 of 海綿骨針、少量 of 砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1
2	2	2	T-18	大平-18	D	焼成粘土塊 米粒状、海綿骨針なし。多量 of 砂粒を含む。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-19	大平-19	D	焼成粘土塊 米粒状、多量 of 海綿骨針、少量 of 砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡1

第3表 タイプ分類表

組成分類			試料	試料	タイプ	備考	
Fe	Si	Qt	通しNo	No	分類		
3	2	2	T-21	大平-21	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針なし、少量の砂粒を含む。多孔質。大平遺跡1
2	2	2	T-22	大平-22	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。大平遺跡1
2	2	2	T-23	大平-23	D	焼成粘土塊	タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。大平遺跡1
3	2	2	T-33	大平-33	D	焼成粘土塊	ハスカップ状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。大平遺跡1
1	2	2	T-38	大平-38	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。大平遺跡1
2	2	2	T-40	大平-40	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。大平遺跡1
3	2	2	T-41	大平-41	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。大平遺跡1
2	2	2	T-44	大平-44	D	焼成粘土塊	タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。大平遺跡1
1	2	2	T-51	大平-51	D	粘土	フラスコ状ピット、壁、ローム上部 層厚20cm 大平遺跡1
1	2	2	T-52	大平-52	D	粘土	フラスコ状ピット、壁、ローム下部 層厚40~50cm 大平遺跡1
1	4	2	T-53	大平-53	D	粘土	大平遺跡1
3	2	2	T-54	大平-54	D	粘土	大平遺跡1
3	2	2	T-55	大平-55	D	粘土(泥岩)	大平遺跡1
3	2	2	T-56	大平-56	D	土器片	多量繊維・砂粒を含む。少量の滑石が認められる。海綿状骨針は含まない。大平遺跡1
1	4	2	T-57	大平-57	D	土器片	多量繊維・少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。58に類似。大平遺跡1
1	4	2	T-58	大平-58	D	土器片	多量繊維・少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。57に類似。大平遺跡1
1	4	2	T-67	大平-67	D	土器片	多量繊維・少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。大平遺跡1
1	4	3	T-81	大平-81	D	土器片	多量の繊維を含む。海綿状骨針を含まない。大平遺跡1
1	4	2	T-86	大平-86	D	土器片	薄手、繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。大平遺跡1
4	6	5	T-88	大平-88	D	土器内の砂	砂粒少ない。大平遺跡1
4	6	5	T-89	大平-89	D	土壌サンプル	砂粒多い。大平遺跡1
2	2	2	T-93	大平-93	D	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。大平遺跡1
1	4	2	T-94	大平-94	D	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。大平遺跡1
1	4	2	T-103	S-5	D	盛土	多量の繊維・骨針なし。細粒Qt 大平遺跡2
1	4	2	T-118	S-20	D	盛土	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒 大平遺跡2
2	4	2	T-126	S-28	D	盛土	繊維少量・骨針少量。少量Qt 大平遺跡2
1	4	2	T-131	S-33	D	PO-10覆土	繊維少量・骨針少量。中粒 茂辺地
1	4	2	T-132	S-34	D	PO-11覆土	繊維・骨針なし。細粒 茂辺地
1	4	2	T-134	S-36	D	PO-12覆土	繊維・骨針なし。細粒 茂辺地
1	4	2	T-136	S-38	D	Ⅲ	繊維・骨針なし。細粒 茂辺地
1	4	2	T-137	S-39	D	PO-12覆土	繊維・骨針なし。細粒 茂辺地
1	4	2	T-141	S-43	D	土壌サンプル	凝灰質粘土 茂辺地
1	1	2	T-142	S-44	D	土壌サンプル	凝灰質粘土 茂辺地
1	4	2	T-144	S-46	D	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針 木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-160	S-62	D	深鉢	繊維を含むきめ細かい少量の骨針 木古内町・新道遺跡
1	4	2	T-164	T-1	D	深鉢	繊維・骨針多量。細粒 館野6遺跡
1	5	2	T-170	Ks-2	D	土壌サンプル	木古内・現場土壌2 木古内露頭採取原土
5	3	2	T-171	Ks-3	D	土壌サンプル	木古内・現場土壌3 木古内露頭採取原土
2	3	2	T-173	Ks-5	D	土壌サンプル	木古内・現場土壌5 木古内露頭採取原土
3	2	2	T-174	Ks-6	D	土壌サンプル	木古内・現場土壌6 木古内露頭採取原土
4	6	2	T-175	Ks-7	D	土壌サンプル	大平・木古内・河口 木古内露頭採取原土
4	6	2	T-177	Ks-9	D	土壌サンプル	大平・木古内・橋下 木古内露頭採取原土
4	6	2	T-178	Ks-10	D	土壌サンプル	大平・木古内・橋下 木古内露頭採取原土
2	5	2	T-179	Ks-11	D	土壌サンプル	大平・木古内2橋・熊谷 木古内露頭採取原土
1	4	2	T-181	SS-1	D	土壌サンプル	凝灰質砂岩・繊維、骨針なし 知内町・牧場1
1	4	2	T-184	SS-4	D	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし 知内町・牧場4
1	3	2	T-188	SS-8	D	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし 北斗市茂辺地遺跡・原土8
1	5	3	T-189	SS-9	D	土壌サンプル	細粒砂岩・繊維、骨針なし 北斗市茂辺地遺跡・浜層9
Eタイプ (38)							
1	4	2	T-2	大平-2	E	土器片	多量海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整丁寧 大平遺跡1
1	4	2	T-4	大平-4	E	土器片	多量海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整丁寧 大平遺跡1
1	4	2	T-7	大平-7	E	土器片	多量海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整丁寧 大平遺跡1
1	4	2	T-10	大平-10	E	土器片	多量海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整粗雑 大平遺跡1
2	4	3	T-11	大平-11	E	焼成粘土塊	角柱状、脆弱。多量海綿骨針、砂粒少ない 大平遺跡1
1	4	2	T-30	大平-30	E	焼成粘土塊	米粒状、多量海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。大平遺跡1
2	2	2	T-34	大平-34	E	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針なし、少量の砂粒を含む。きめが細かい。大平遺跡1
2	4	3	T-36	大平-36	E	焼成粘土塊	タイ米状、少量海綿骨針・砂粒を含む。多孔質。大平遺跡1
2	2	2	T-43	大平-43	E	焼成粘土塊	米粒状、細かな海綿骨針を少量含む。砂粒を含まない。きめが細かい。大平遺跡1
6	1	2	T-47	大平-47	E	焼成粘土塊	米粒状、多量海綿骨針・砂粒を含む。多孔質 大平遺跡1
1	4	2	T-59	大平-59	E	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量海綿状骨針を含む。大平遺跡1
2	4	2	T-60	大平-60	E	土器片	多量の繊維・少量の砂粒を含む。海綿状骨針を含む。大平遺跡1
1	4	2	T-62	大平-62	E	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量の滑石粒・海綿状骨針を含む。大平遺跡1
1	4	2	T-65	大平-65	E	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量海綿状骨針を含む。大平遺跡1
1	4	2	T-68	大平-68	E	土器片	多量繊維・少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。大平遺跡1
1	4	4	T-73	大平-73	E	土器片	多量繊維・少量の滑石の小破片を含む。海綿状骨針は含まない。大平遺跡1
1	5	3	T-77	大平-77	E	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量海綿状骨針を含む。大平遺跡1
4	6	5	T-87	大平-87	E	土壌サンプル	砂粒多い。大平遺跡1
3	2	2	T-90	大平-90	E	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。大平遺跡1
2	2	2	T-91	大平-91	E	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。大平遺跡1
2	2	3	T-92	大平-92	E	焼成粘土塊	繊維・砂粒・海綿状骨針は含まない。大平遺跡1
1	4	2	T-95	大平-95	E	焼成粘土塊	繊維・砂粒を含まない。少量海綿状骨針を含む。大平遺跡1

第3表 タイプ分類表

組成分類			試料	試料	タイプ	備考		
Fe	Si	Qt	通しNo	No	分類			
1	4	2	T-96	大平-96	E	焼成粘土塊	繊維・砂粒・海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-100	S-2	E	盛土	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒、粗粒のQt含む	大平遺跡2
1	4	2	T-110	S-12	E	盛土	多量の繊維・骨針少量。細粒	大平遺跡2
1	4	2	T-111	S-13	E	盛土	多量の繊維・骨針少量。細粒	大平遺跡2
1	4	2	T-112	S-14	E	盛土	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡2
1	4	2	T-113	S-15	E	盛土より下	繊維少量・骨針少量。粗粒Qt	大平遺跡2
1	4	2	T-121	S-23	E	盛土	繊維少量・骨針少量。良質	大平遺跡2
1	4	3	T-129	S-31	E	PO-10覆土	繊維・骨針少量。粗粒・異質	茂辺地
1	4	2	T-138	S-40	E	PO-10覆土	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
1	4	3	T-145	S-47	E	深鉢	繊維を含む砂粒多い・少量の白色岩片・骨針を含む	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-146	S-48	E	深鉢	繊維を含む少量の砂粒・骨針を含む	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-147	S-49	E	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-149	S-51	E	深鉢	繊維を含む砂粒・骨針を含む	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-153	S-55	E	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
1	3	2	T-154	S-56	E	深鉢	繊維を含む砂粒・白色岩片・骨針を含む	木古内町・新道遺跡
1	3	2	T-159	S-61	E	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
Fタイプ(10)								
5	3	2	T-8	大平-8	F	土器片	多量の海綿骨針・繊維・砂粒を含む。内面調整粗粒	大平遺跡1
1	4	3	T-31	大平-31	F	焼成粘土塊	ハスカップ状。海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
1	2	2	T-37	大平-37	F	焼成粘土塊	ハスカップ状。海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	2	2	T-39	大平-39	F	焼成粘土塊	米粒状。海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
1	3	2	T-75	大平-75	F	土器片	多量の繊維・白色の岩粒を含む。海綿状針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-80	大平-80	F	土器片	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-104	S-6	F	盛土	多量の繊維・骨針なし。細粒Qt	大平遺跡2
2	3	2	T-172	Ks-4	F	土壌サンプル	木古内・現場土壌4	木古内露頭採取原土
4	6	2	T-176	Ks-8	F	土壌サンプル	大平・木古内・橋下	木古内露頭採取原土
4	5	2	T-180	Ks-12	F	土壌サンプル	大平・当別漁港・海岸	木古内露頭採取原土
Gタイプ(4)								
1	4	1	T-46	大平-46	G	焼成粘土塊	炭化物付着?、タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
1	4	2	T-102	S-4	G	盛土	多量の繊維・粗粒Talk含む、骨針なし	大平遺跡2
1	4	2	T-120	S-22	G	盛土	多量の繊維中量・骨針少量。細粒	大平遺跡2
1	4	3	T-128	S-30	G	盛土	繊維・骨針少量。細粒	大平遺跡2
Hタイプ(8)								
2	4	3	T-1	大平-1	H	土器片	繊維・砂粒多く含む。海綿骨針なし。内面調整粗粒	大平遺跡1
2	2	1	T-24	大平-24	H	焼成粘土塊	米粒状。海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡1
2	4	2	T-25	大平-25	H	焼成粘土塊	米粒状。多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
1	4	2	T-29	大平-29	H	焼成粘土塊	米粒状。多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡1
1	4	2	T-61	大平-61	H	土器片	多量の繊維を含む。多量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡1
1	4	2	T-72	大平-72	H	土器片	多量の繊維・白色の岩粒を含む。海綿状針は含まない。	大平遺跡1
1	4	2	T-85	大平-85	H	土器片	薄手、砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡1
1	5	4	T-98	大平-98	H	土器片	砂粒多く、海綿状骨針は含まない。繊維は少ない 北陸系土器重要	大平遺跡1
Iタイプ(1)								
2	4	2	T-133	S-35	I	PO-11覆土	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
Jタイプ(2)								
1	4	2	T-106	S-8	J	盛土	多量の繊維・骨針なし。Qt多	大平遺跡2
1	4	2	T-135	S-37	J	Ⅲ上	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
Kタイプ(2)								
1	4	2	T-167	T-4	K	深鉢	繊維少量・骨針少量。細粒	館野6遺跡
2	4	2	T-168	T-5	K	深鉢	繊維少量・骨針少量。細粒	館野6遺跡
Lタイプ(9)								
2	3	2	T-161	S-63	L	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
5	3	7	T-163	S-65	L	深鉢	砂粒・白色岩片多い	木古内町・新道遺跡
2	4	2	T-165	T-2	L	深鉢	繊維・骨針多量。細粒	館野6遺跡
1	4	2	T-166	T-3	L	深鉢	繊維少量・骨針なし。細粒	館野6遺跡
1	4	2	T-182	SS-2	L	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	知内町・牧場2
1	4	2	T-183	SS-3	L	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	知内町・牧場3
4	6	2	T-185	SS-5	L	土壌サンプル	細粒砂岩・繊維、骨針なし	福島町・館層5
2	4	2	T-186	SS-6	L	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	福島町・館層風化粘土6
5	6	7	T-187	SS-7	L	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	木古内町・新道4遺跡7

表V-5-4 組成分類表

第4表 組成分類表

組成分類			試料	試料	タイプ			
Fe	Si	Qt	通しNo	No	分類		備考	
Qt-2, Si-2 Fe-1 (4)								
1	2	2	T-37	大平-37	F	焼成粘土塊	ハスカップ状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡 1
1	2	2	T-38	大平-38	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡 1
1	2	2	T-51	大平-51	D	粘土	プラスチックピット、壁、ローム上部 層厚20cm	大平遺跡 1
1	2	2	T-52	大平-52	D	粘土	プラスチックピット、壁、ローム下部 層厚40~50cm	大平遺跡 1
Qt-2, Si-2 Fe-2 (18)								
2	2	2	T-12	大平-12	D	焼成粘土塊	涙状 脆弱。少量の海綿骨針、砂粒が多い	大平遺跡 1
2	2	2	T-14	大平-14	D	焼成粘土塊	柿の種状。少量の海綿骨針・砂粒、炭化物?を含む	大平遺跡 1
2	2	2	T-15	大平-15	D	焼成粘土塊	米粒状、少量の海綿骨針・砂粒を含む。	大平遺跡 1
2	2	2	T-18	大平-18	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針なし、多量の砂粒を含む。きめが細かい。	大平遺跡 1
2	2	2	T-19	大平-19	D	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡 1
2	2	2	T-20	大平-20	C	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡 1
2	2	2	T-22	大平-22	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡 1
2	2	2	T-23	大平-23	D	焼成粘土塊	タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡 1
2	2	2	T-34	大平-34	E	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針なし、少量の砂粒を含む。きめが細かい。	大平遺跡 1
2	2	2	T-35	大平-35	B	焼成粘土塊	タイ米状、多量の海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡 1
2	2	2	T-39	大平-39	F	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡 1
2	2	2	T-40	大平-40	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡 1
2	2	2	T-43	大平-43	E	焼成粘土塊	米粒状、細かな海綿骨針?を少量含む。砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡 1
2	2	2	T-44	大平-44	D	焼成粘土塊	タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡 1
2	2	2	T-78	大平-78	A	土器片	多量の繊維を含む。海綿状骨針を含む。	大平遺跡 1
2	2	2	T-91	大平-91	E	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡 1
2	2	2	T-93	大平-93	D	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡 1
2	2	2	T-119	S-21	C	盛土	多量の繊維少量・骨針少量。細粒	大平遺跡 2
Qt-2, Si-2 Fe-3 (13)								
3	2	2	T-13	大平-13	C	焼成粘土塊	タイ米状、赤褐色粒・多量に海綿骨針を含む	大平遺跡 1
3	2	2	T-21	大平-21	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針なし、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡 1
3	2	2	T-32	大平-32	C	焼成粘土塊	タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。脆弱、多孔質。	大平遺跡 1
3	2	2	T-33	大平-33	D	焼成粘土塊	ハスカップ状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡 1
3	2	2	T-41	大平-41	D	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。	大平遺跡 1
3	2	2	T-42	大平-42	C	焼成粘土塊	タイ米状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡 1
3	2	2	T-45	大平-45	A	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡 1
3	2	2	T-54	大平-54	D	粘土		大平遺跡 1
3	2	2	T-55	大平-55	D	粘土(泥岩)		大平遺跡 1
3	2	2	T-56	大平-56	D	土器片	多量繊維・砂粒を含む。少量の滑石が認められる。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡 1
3	2	2	T-90	大平-90	E	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡 1
3	2	2	T-174	Ks-6	D	土壌サンプル	木古内・現場土壌 6	木古内露頭採取原土
6	2	2	T-6	大平-6	C	土器片	炭化物付着。多量の繊維、砂粒・海綿骨針少量。内面調整丁寧	大平遺跡 1
Qt-2, Si-3 Fe-1 (7)								
1	3	2	T-75	大平-75	F	土器片	多量の繊維・白色の岩粒を含む。海綿状針は含まない。	大平遺跡 1
1	3	2	T-152	S-54	A	深鉢	繊維を含む砂粒・白色岩片・骨針を含む	木古内町・新道遺跡
1	3	2	T-154	S-56	E	深鉢	繊維を含む砂粒・白色岩片・骨針を含む	木古内町・新道遺跡
1	3	2	T-156	S-58	A	深鉢	多量の繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
1	3	2	T-159	S-61	C	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
1	3	2	T-162	S-64	C	深鉢	繊維を含む砂粒・骨針を含む	木古内町・新道遺跡
1	3	2	T-188	SS-8	D	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	北斗市茂別遺跡・原土 8
Qt-2, Si-3 Fe-2 (13)								
2	3	2	T-146	S-48	E	深鉢	繊維を含む少量の砂粒・骨針を含む	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-147	S-49	E	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-149	S-51	E	深鉢	繊維を含む砂粒・骨針を含む	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-150	S-52	A	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-151	S-53	A	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-153	S-55	E	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-155	S-57	A	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-157	S-59	A	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-158	S-60	C	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-160	S-62	D	深鉢	繊維を含むきめ細かい少量の骨針	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-161	S-63	L	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
2	3	2	T-172	Ks-4	F	土壌サンプル	木古内・現場土壌 4	木古内露頭採取原土
2	3	2	T-173	Ks-5	D	土壌サンプル	木古内・現場土壌 5	木古内露頭採取原土
Qt-2, Si-4 Fe-1 (70)								
1	4	2	T-2	大平-2	E	土器片	多量の海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整丁寧	大平遺跡 1
1	4	2	T-3	大平-3	D	土器片	多量の繊維・砂粒、海綿骨針少量。内面調整粗雑	大平遺跡 1
1	4	2	T-4	大平-4	E	土器片	多量の海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整丁寧	大平遺跡 1
1	4	2	T-5	大平-5	A	土器片	多量の海綿骨針・繊維・砂粒。内面調整粗雑	大平遺跡 1
1	4	2	T-7	大平-7	E	土器片	多量の海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整丁寧	大平遺跡 1
1	4	2	T-10	大平-10	E	土器片	多量の海綿骨針・繊維、砂粒少ない。内面調整粗雑	大平遺跡 1
1	4	2	T-26	大平-26	A	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡 1
1	4	2	T-28	大平-28	A	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡 1
1	4	2	T-29	大平-29	H	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡 1
1	4	2	T-30	大平-30	E	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。	大平遺跡 1
1	4	2	T-53	大平-53	D	粘土		大平遺跡 1
1	4	2	T-57	大平-57	D	土器片	多量繊維、少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。58Iに類似。	大平遺跡 1
1	4	2	T-58	大平-58	D	土器片	多量繊維、少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。57Iに類似。	大平遺跡 1
1	4	2	T-59	大平-59	E	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡 1
1	4	2	T-61	大平-61	H	土器片	多量の繊維を含む。多量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡 1
1	4	2	T-62	大平-62	E	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量の滑石粒・海綿状骨針を含む。	大平遺跡 1

第4表 組成分類表

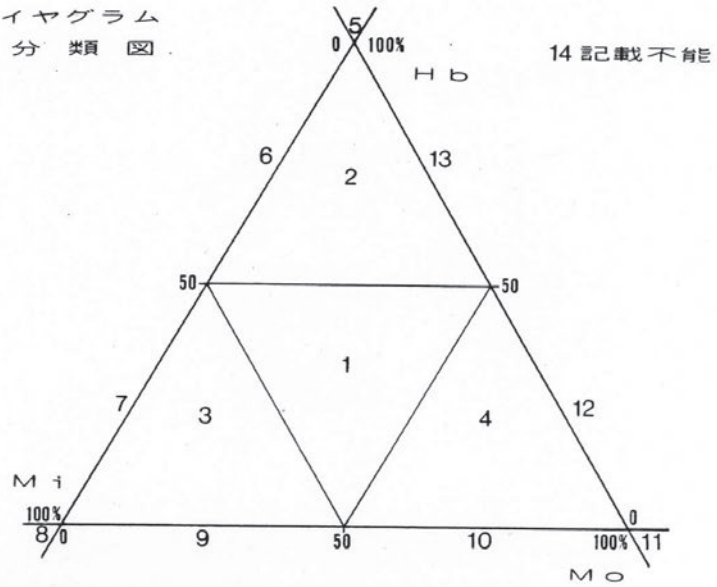
組成分類			試料	試料	タイプ	備考		
Fe	Si	Qt	通しNo	No	分類			
1	4	2	T-63	大平-63	C	土器片	少量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡 1
1	4	2	T-65	大平-65	E	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡 1
1	4	2	T-67	大平-67	D	土器片	多量繊維、少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡 1
1	4	2	T-68	大平-68	E	土器片	多量繊維、少量の砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡 1
1	4	2	T-69	大平-69	C	土器片	少量の砂粒、多量の繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡 1
1	4	2	T-70	大平-70	B	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡 1
1	4	2	T-72	大平-72	H	土器片	多量の繊維・白色の岩粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡 1
1	4	2	T-80	大平-80	F	土器片	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡 1
1	4	2	T-82	大平-82	C	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡 1
1	4	2	T-83	大平-83	A	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡 1
1	4	2	T-84	大平-84	A	土器片	多量の繊維・海綿状骨針を含む。	大平遺跡 1
1	4	2	T-85	大平-85	H	土器片	薄手、砂粒、繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡 1
1	4	2	T-86	大平-86	D	土器片	薄手、繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡 1
1	4	2	T-94	大平-94	D	焼成粘土塊	少量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡 1
1	4	2	T-95	大平-95	E	焼成粘土塊	繊維・砂粒を含まない。少量の海綿状骨針を含む。	大平遺跡 1
1	4	2	T-96	大平-96	E	焼成粘土塊	繊維・砂粒・海綿状骨針は含まない。	大平遺跡 1
1	4	2	T-100	S-2	E	盛土	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒、粗粒のQt含む	大平遺跡 2
1	4	2	T-102	S-4	G	盛土	多量の繊維・粗粒Talk含む、骨針なし	大平遺跡 2
1	4	2	T-103	S-5	D	盛土	多量の繊維・骨針なし。細粒Qt	大平遺跡 2
1	4	2	T-104	S-6	F	盛土	多量の繊維・骨針なし。細粒Qt	大平遺跡 2
1	4	2	T-106	S-8	J	盛土	多量の繊維・骨針なし。Qt多	大平遺跡 2
1	4	2	T-110	S-12	E	盛土	多量の繊維・骨針少量。細粒	大平遺跡 2
1	4	2	T-111	S-13	E	盛土	多量の繊維・骨針少量。細粒	大平遺跡 2
1	4	2	T-112	S-14	E	盛土	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡 2
1	4	2	T-113	S-15	E	盛土より下	繊維少量・骨針少量。粗粒Qt	大平遺跡 2
1	4	2	T-114	S-16	C	盛土	多量の繊維少量・骨針少量。粗粒Qt	大平遺跡 2
1	4	2	T-116	S-18	B	盛土	多量の繊維・骨針少量。雑	大平遺跡 2
1	4	2	T-117	S-19	C	盛土	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡 2
1	4	2	T-118	S-20	D	盛土	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡 2
1	4	2	T-120	S-22	G	盛土	多量の繊維中量・骨針少量。細粒	大平遺跡 2
1	4	2	T-121	S-23	E	盛土	繊維少量・骨針少量。良質	大平遺跡 2
1	4	2	T-122	S-24	C	盛土	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡 2
1	4	2	T-123	S-25	C	盛土	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡 2
1	4	2	T-124	S-26	C	盛土	多量の繊維・骨針少量。雑	大平遺跡 2
1	4	2	T-127	S-29	C	盛土	繊維中量・骨針中量。細粒	大平遺跡 2
1	4	2	T-130	S-32	C	PO-10覆土	繊維少量・骨針少量。細粒	茂辺地
1	4	2	T-131	S-33	D	PO-10覆土	繊維少量・骨針少量。中粒	茂辺地
1	4	2	T-132	S-34	D	PO-11覆土	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
1	4	2	T-134	S-36	D	PO-12覆土	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
1	4	2	T-135	S-37	J	Ⅲ上	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
1	4	2	T-136	S-38	D	Ⅲ	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
1	4	2	T-137	S-39	D	PO-12覆土	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
1	4	2	T-138	S-40	E	PO-10覆土	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
1	4	2	T-139	S-41	A	PO-11覆土	凝灰質粘土	茂辺地
1	4	2	T-140	S-42	B	土壌サンプル	凝灰質粘土	茂辺地
1	4	2	T-141	S-43	D	土壌サンプル	凝灰質粘土	茂辺地
1	4	2	T-144	S-46	D	深鉢	繊維を含むきめ細かい多量の骨針	木古内町・新道遺跡
1	4	2	T-164	T-1	D	深鉢	繊維・骨針多量。細粒	館野 6 遺跡
1	4	2	T-166	T-3	L	深鉢	繊維少量・骨針なし。細粒	館野 6 遺跡
1	4	2	T-167	T-4	K	深鉢	繊維少量・骨針少量。細粒	館野 6 遺跡
1	4	2	T-181	SS-1	D	土壌サンプル	凝灰質砂岩・繊維、骨針なし	知内町・牧場 1
1	4	2	T-182	SS-2	L	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	知内町・牧場 2
1	4	2	T-183	SS-3	L	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	知内町・牧場 3
1	4	2	T-184	SS-4	D	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	知内町・牧場 4
Qt-2, Si-4 Fe-2 (14)								
2	4	2	T-16	大平-16	A	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針を含む。多孔質。	大平遺跡 1
2	4	2	T-25	大平-25	H	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡 1
2	4	2	T-27	大平-27	A	焼成粘土塊	涙状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡 1
2	4	2	T-48	大平-48	C	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質	大平遺跡 1
2	4	2	T-60	大平-60	E	土器片	多量の繊維、少量の砂粒を含む。海綿状骨針を含む。	大平遺跡 1
2	4	2	T-99	S-1	C	盛土	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡 2
2	4	2	T-101	S-3	C	盛土	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡 2
2	4	2	T-107	S-9	A	盛土	多量の繊維・海綿状骨針を多く含む。細粒	大平遺跡 2
2	4	2	T-115	S-17	C	盛土	繊維・海綿状骨針を中。雑	大平遺跡 2
2	4	2	T-126	S-28	D	盛土	繊維少量・骨針少量。少量Qt	大平遺跡 2
2	4	2	T-133	S-35	I	PO-11覆土	繊維・骨針なし。細粒	茂辺地
2	4	2	T-165	T-2	L	深鉢	繊維・骨針多量。細粒	館野 6 遺跡
2	4	2	T-168	T-5	K	深鉢	繊維少量・骨針少量。細粒	館野 6 遺跡
2	4	2	T-186	SS-6	L	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし	福島町・館屋風化粘土 6
Qt-2, Si-5 Fe-1 (4)								
1	5	2	T-79	大平-79	B	土器片	多量繊維、少量の滑石の小破片を含む砂粒を含む。海綿状骨針は含まない。	大平遺跡 1
1	5	2	T-97	大平-97	B	粘土(泥岩)		大平遺跡 1
1	5	2	T-169	Ks-1	B	土壌サンプル	木古内・現場土壌 1	木古内露頭採取原土
1	5	2	T-170	Ks-2	D	土壌サンプル	木古内・現場土壌 2	木古内露頭採取原土
Qt-2, Si-6 Fe-4 (6)								
4	6	2	T-175	Ks-7	D	土壌サンプル	大平・木古内・河口	木古内露頭採取原土
4	6	2	T-176	Ks-8	F	土壌サンプル	大平・木古内・橋下	木古内露頭採取原土
4	6	2	T-177	Ks-9	D	土壌サンプル	大平・木古内・橋下	木古内露頭採取原土
4	6	2	T-178	Ks-10	D	土壌サンプル	大平・木古内・橋下	木古内露頭採取原土

第4表 組成分類表

組成分類			試料	試料	タイプ	備考	
Fe	Si	Qt	通しNo	No	分類		
4	6	2	T-185	SS-5	L	土壌サンプル	細粒砂岩・繊維、骨針なし 福島町・館層5
Qt-3, Si-2 Fe-2 (3)							
2	2	3	T-74	大平-74	A	土器片	薄手、砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。
2	2	3	T-92	大平-92	E	焼成粘土塊	繊維・砂粒・海綿状骨針は含まない。
2	2	3	T-108	S-10	A	盛土	多量の繊維・骨針なし。中粒Qt
Qt-3, Si-4 Fe-1 (9)							
1	4	3	T-31	大平-31	F	焼成粘土塊	ハスカップ状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。
1	4	3	T-64	大平-64	C	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。海綿状骨針を含まない。
1	4	3	T-66	大平-66	C	土器片	多量の砂粒、少量の繊維を含む。
1	4	3	T-71	大平-71	C	土器片	薄手、砂粒・繊維を多量に含む。海綿状骨針は含まない。
1	4	3	T-76	大平-76	A	土器片	少量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。
1	4	3	T-81	大平-81	D	土器片	多量の繊維を含む。海綿状骨針を含まない。
1	4	3	T-128	S-30	G	盛土	繊維・骨針少量。細粒
1	4	3	T-129	S-31	E	PO-10覆土	繊維・骨針少量。粗粒-異質
1	4	3	T-145	S-47	E	深鉢	繊維を含む砂粒多い・少量の白色岩片・骨針を含む
Qt-3, Si-4 Fe-2 (5)							
2	4	3	T-1	大平-1	H	土器片	繊維・砂粒多く含む。海綿骨針なし。内面調整粗粒
2	4	3	T-11	大平-11	E	焼成粘土塊	角柱状、脆弱。多量の海綿骨針、砂粒少ない
2	4	3	T-17	大平-17	D	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針、少量の砂粒を含む。多孔質。
2	4	3	T-36	大平-36	E	焼成粘土塊	タイ米状、少量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質。
2	4	3	T-105	S-7	C	盛土	多量の繊維・骨針なし。細粒Qt

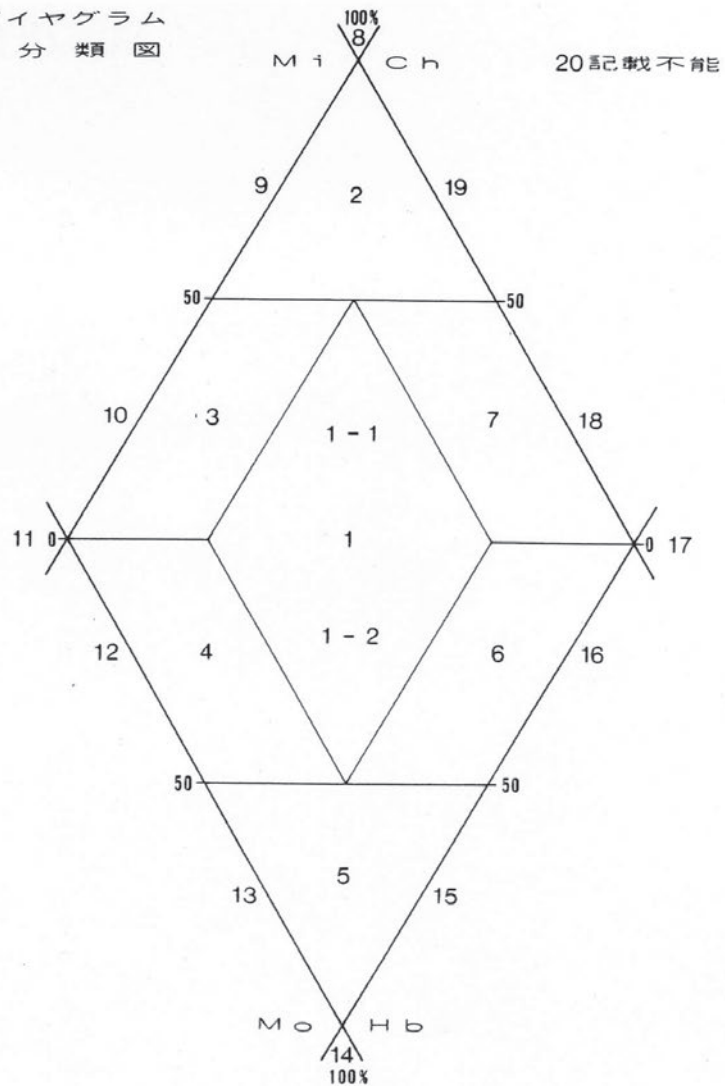
少数・異質タイプ							
Qt-1, Si-4 Fe-1 (2)							
1	4	1	T-46	大平-46	G	焼成粘土塊	炭化物付着?、タイ米状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。
1	4	1	T-50	大平-50	A	焼成粘土塊	タイ米状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質
Qt-2, Si-3 Fe-5 (2)							
5	3	2	T-8	大平-8	F	土器片	多量の海綿骨針・繊維・砂粒を含む。内面調整粗粒
5	3	2	T-171	Ks-3	D	土壌サンプル	木古内・現場土壌3
Qt-2, Si-4 Fe-3 (1)							
3	4	2	T-109	S-11	A	盛土	多量の繊維少量・骨針少量。中粒Qt
Qt-2, Si-5 Fe-1 (1)							
2	5	2	T-179	Ks-11	D	土壌サンプル	大平・木古内2橋・熊谷
Qt-2, Si-5 Fe-4 (1)							
4	5	2	T-180	Ks-12	F	土壌サンプル	大平・当別漁港・海岸
Qt-3, Si-4 Fe-4 (1)							
4	4	3	T-125	S-27	C	盛土	多量の繊維・骨針少量。雑、粗粒Qt多
Qt-3, Si-5 Fe-1 (2)							
1	5	3	T-77	大平-77	E	土器片	多量の繊維・砂粒を含む。少量の海綿状骨針を含む。
1	5	3	T-189	SS-9	D	土壌サンプル	細粒砂岩・繊維、骨針なし
Qt-4, Si-4 Fe-1 (1)							
1	4	4	T-73	大平-73	E	土器片	多量繊維、少量の滑石の小破片を含む。海綿状骨針は含まない。
Qt-4, Si-5 Fe-1							
1	5	4	T-98	大平-98	H	土器片	砂粒多く、海綿状骨針は含まない。繊維は少ない 北陸系土器重要
Qt-5, Si-6 Fe-4 (3)							
4	6	5	T-87	大平-87	E	土器サンプル	砂粒多い。
4	6	5	T-88	大平-88	D	土器内の砂	砂粒少ない。
4	6	5	T-89	大平-89	D	土器サンプル	砂粒多い。
Qt-6, Si-4 Fe-1 (1)							
1	4	6	T-9	大平-9	B	土器片	厚手。多量の海綿骨針・繊維・砂粒を含む。内面調整粗粒
Qt-7, Si-3 Fe-5 (1)							
5	3	7	T-163	S-65	L	深鉢	砂粒・白色岩片多い
Qt-7, Si-6 Fe-5 (1)							
5	6	7	T-187	SS-7	L	土壌サンプル	凝灰質粘土・繊維、骨針なし
Qt-1, Si-2 Fe-2 (1)							
2	2	1	T-24	大平-24	H	焼成粘土塊	米粒状、海綿骨針・砂粒を含まない。きめが細かい。
Qt-1, Si-2 Fe-3 (1)							
3	2	1	T-49	大平-49	A	焼成粘土塊	タイ米状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質
Qt-2, Si-1 Fe-1 (1)							
1	1	2	T-142	S-44	D	土壌サンプル	凝灰質粘土
Qt-2, Si-1 Fe-2 (1)							
2	1	2	T-143	S-45	B	土壌サンプル	凝灰質粘土
Qt-2, Si-1 Fe-3 (1)							
3	1	2	T-148	S-50	A	深鉢	多量の繊維を含む砂粒・骨針を含む
Qt-2, Si-1 Fe-5 (1)							
6	1	2	T-47	大平-47	E	焼成粘土塊	米粒状、多量の海綿骨針・砂粒を含む。多孔質

第1図 三角ダイヤグラム
位置分類図

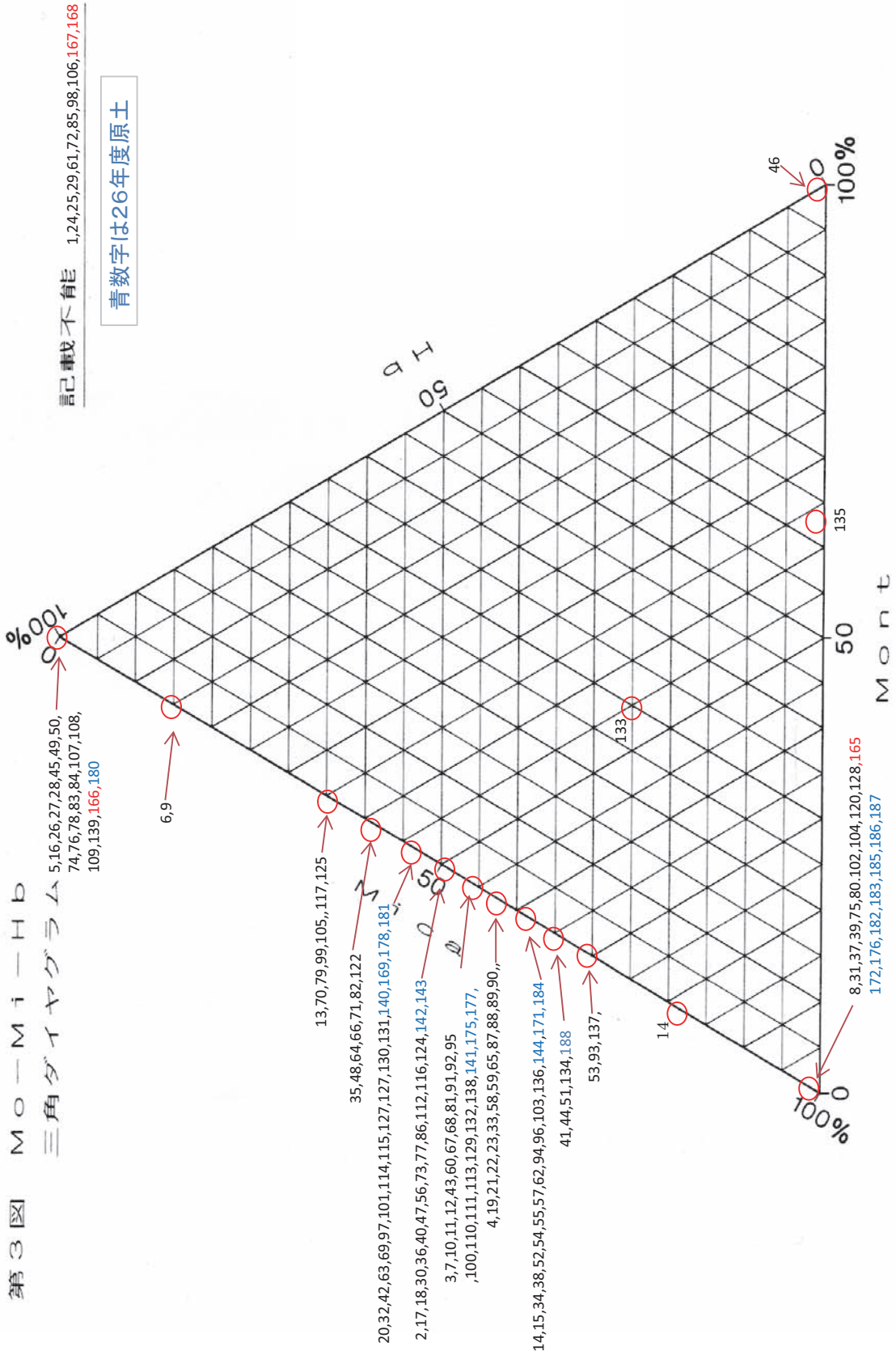


図V-5-1 三角ダイヤグラム位置分類図

第2図 菱形ダイヤグラム
位置分類図

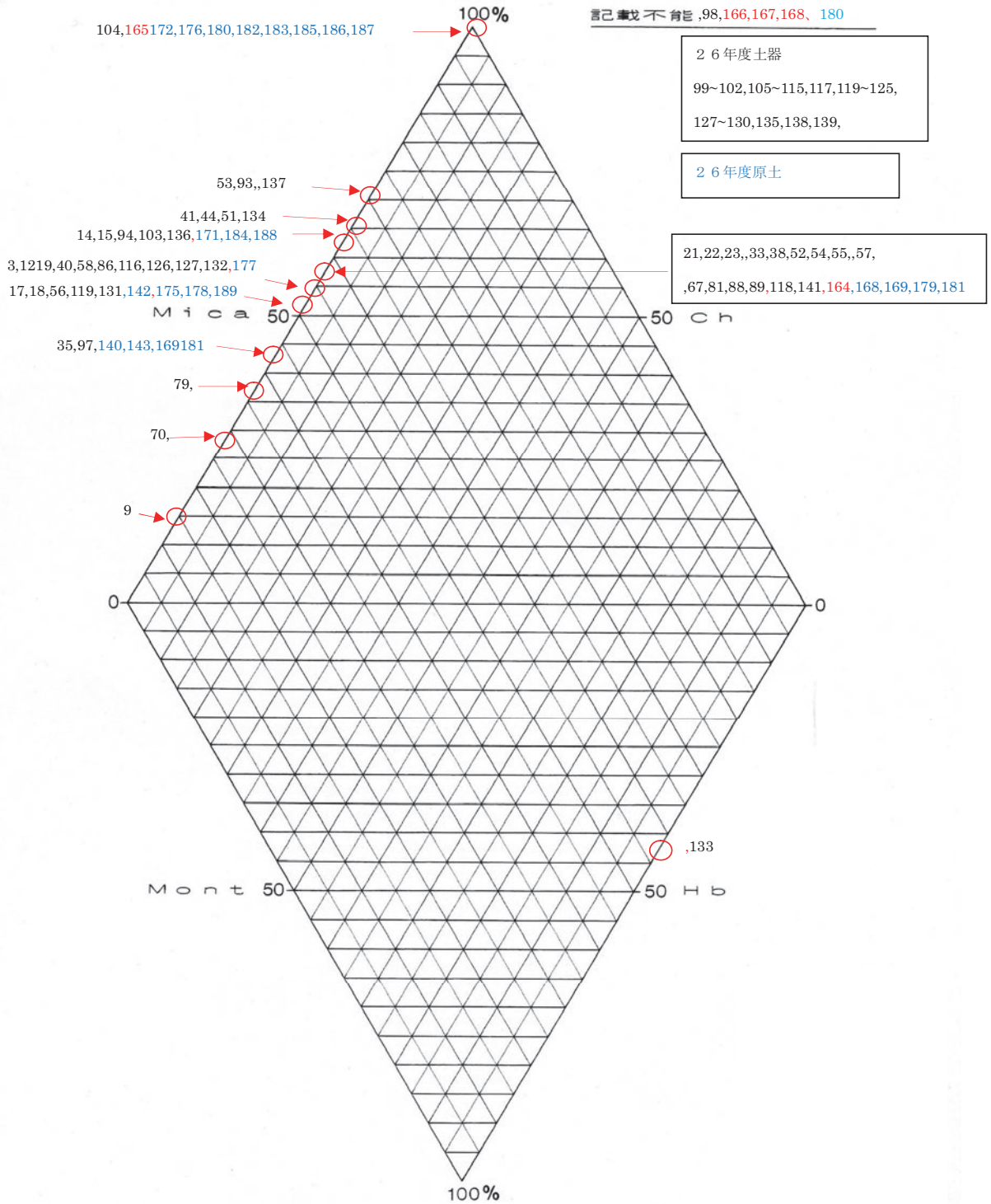


図V-5-2 菱形ダイヤグラム位置分類図



図V-5-3 Mo-Mi-Hb三角ダイヤグラム

第4図 Mo-Ch, Mi-Hb
菱形ダイヤグラム



図V-5-4 Mo-Ch、Mi-Hb菱形ダイヤグラム

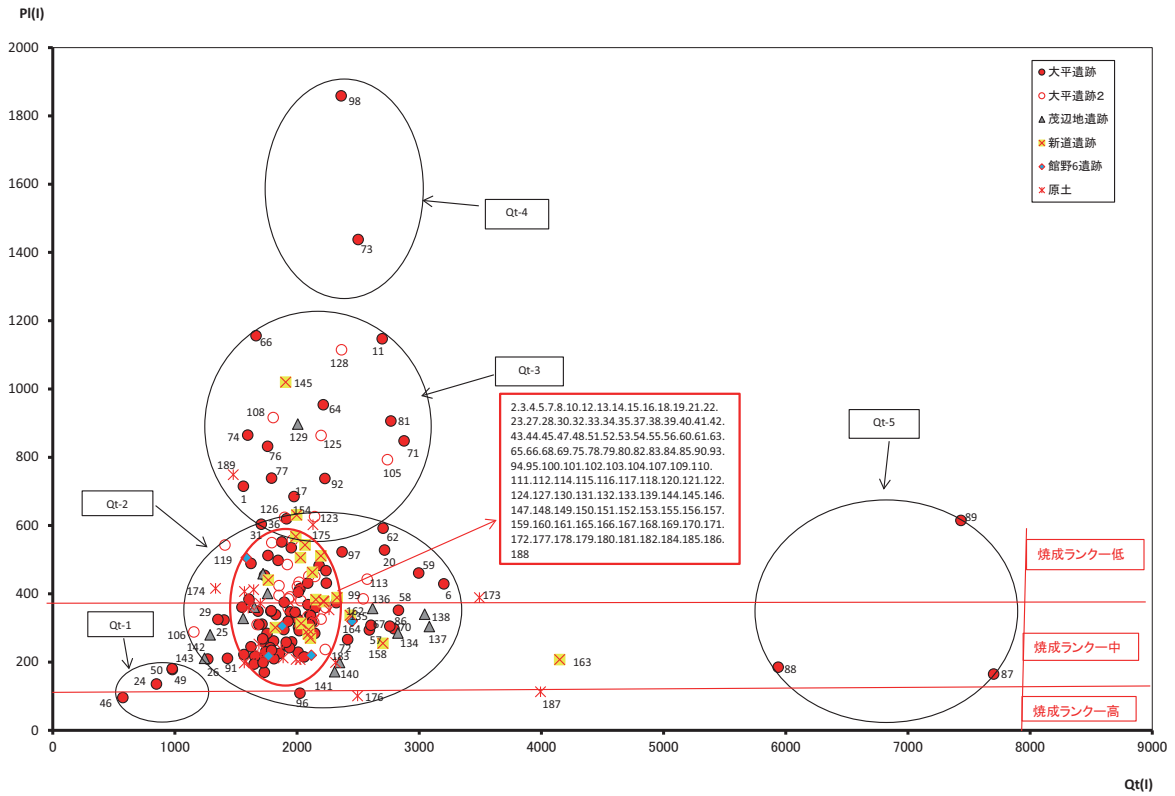


図 V-5-5 Qt-Pi図

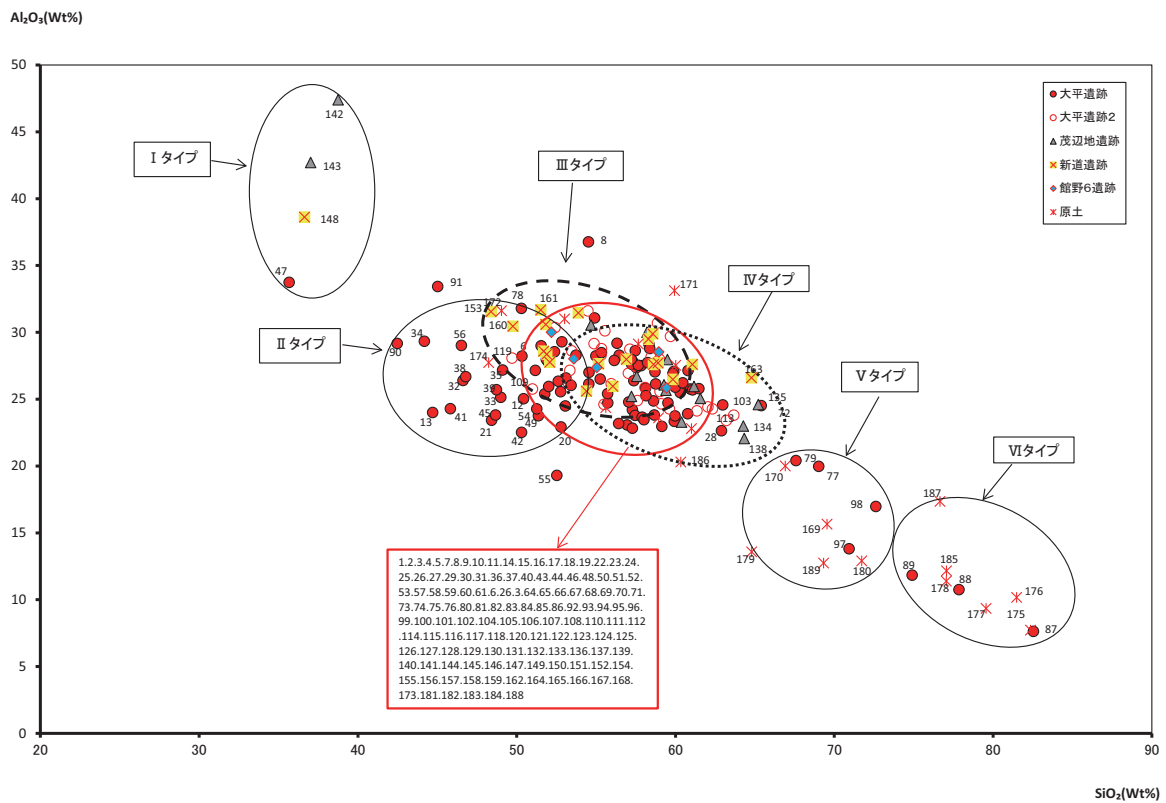
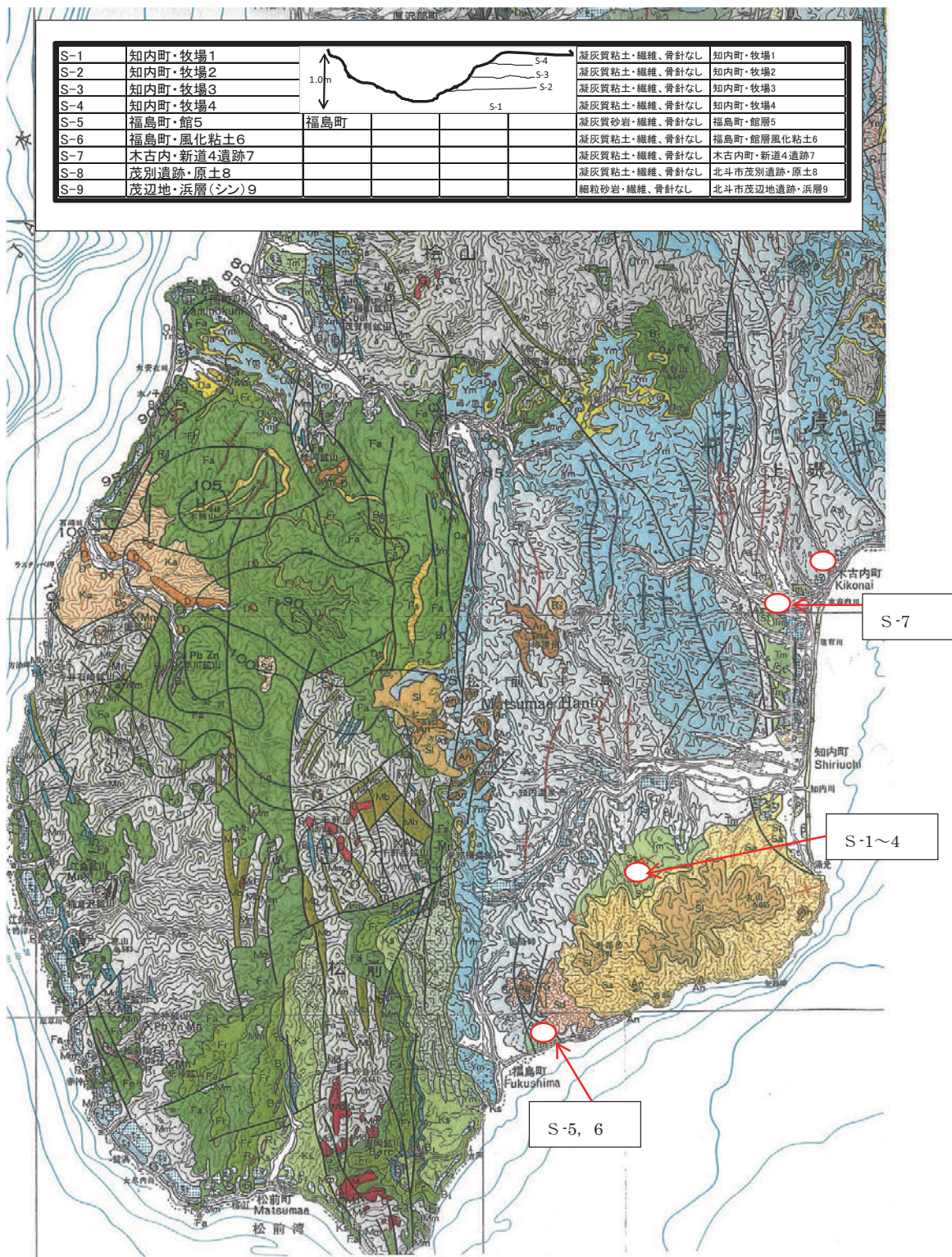
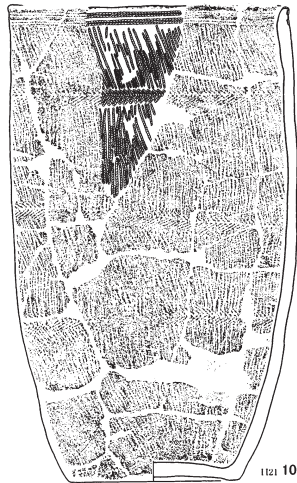


図 V-5-6 SiO₂-Al₂O₃図

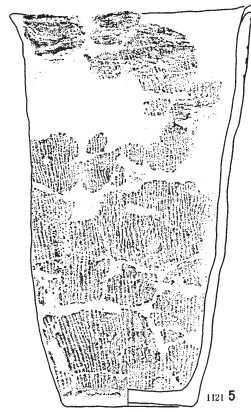


「S-8 茂別遺跡」「S-9 茂辺地 4 遺跡 (茂辺地と略称)」は 図VI-4-1を参照
 「木古内町」の上の赤丸は「大平遺跡」

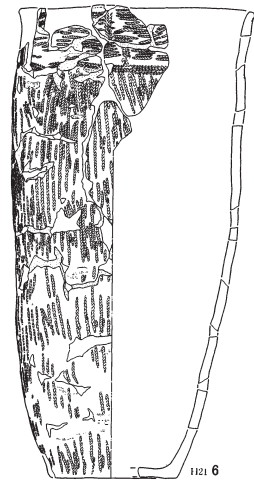
図V-5-9 館層採取位置図



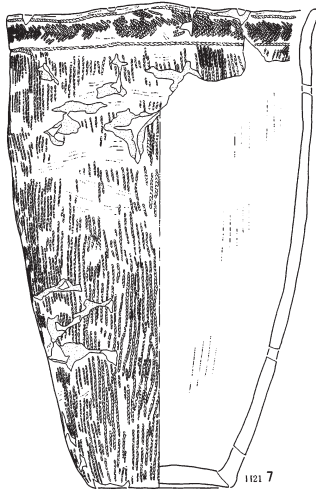
試料番号 T-1
掲載番号 H21-10



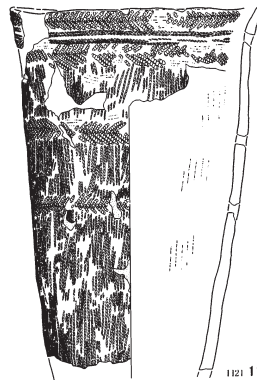
試料番号 T-2
掲載番号 H21-5



試料番号 T-3
掲載番号 H21-6



試料番号 T-4
掲載番号 H21-7



試料番号 T-5
掲載番号 H21-11



表V-5-5 胎土分析依頼試料一覧

北斗市館野6遺跡胎土分析 館野6遺跡出土の試料一覧

試料番号	復元番号	掲載番号	型式名称	器形	出土地点	取り上げ日	接合点数(点)	同一個体の可能性が高い破片(未接合)	合計点数(点)	区分	取り上げ番号	遺物番号
T-1	110	H21-10	円筒下層d1式古段階	古 深鉢	H21覆土7層31	915	125	3点のうち一点(1.6g)	138	住居覆土	31	31
					H21覆土東側下位113	911	7					113
					H21覆土東側下位177	915	3					177
T-2	112	H21-5	円筒下層d1式最古段階	深鉢	H21覆土7層上面南側159	911	116	8点のうち一点(3.4g)	124	住居覆土		159
T-3	113	H21-6	円筒下層d1式古段階	古 深鉢	H21覆土7層31	915	165	98点のうち一点(7.8g)	263	住居覆土	31	31
T-4	114	H21-7	円筒下層d1式古段階	古 深鉢	H21覆土7層上面北側296	911	107	6点のうち一点(1.4g)	127	住居覆土		296
					H21覆土東側下位113	911	8					113
					H21覆土東側壁際82	911	3					82
					H21HP-11覆土312	930	2				住居付属遺構覆土	312
					H21HP-14覆土315	930	1				住居付属遺構覆土	315
T-5	267	H21-11	円筒下層d1式古段階	古 深鉢	H21覆土東側上位163	911	2		100	住居覆土		163
					H21覆土東側上位259	915	3					259
					H21覆土7層上面北側297	911	4					297
					H21覆土ベルト中位298	911	89	2点のうち一点(2.8g)				298

で示した、同一個体の未接合土器片から試料を抽出する。各復元個体から一点ずつ。

図V-5-10 胎土分析依頼試料一覧

館野6遺跡土器と断面写真



館野6遺跡土器-1 (T-1)



館野6遺跡断面-1 (T-1)



館野6遺跡土器-2 (T-2)



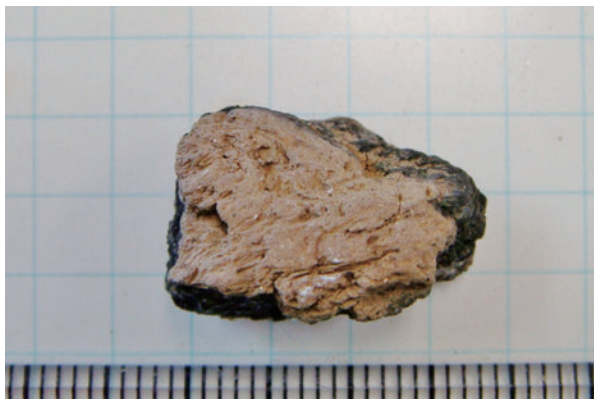
館野6遺跡断面-2 (T-2)



館野6遺跡土器-3 (T-3)



館野6遺跡断面-3 (T-3)



館野6遺跡土器-4 (T-4)

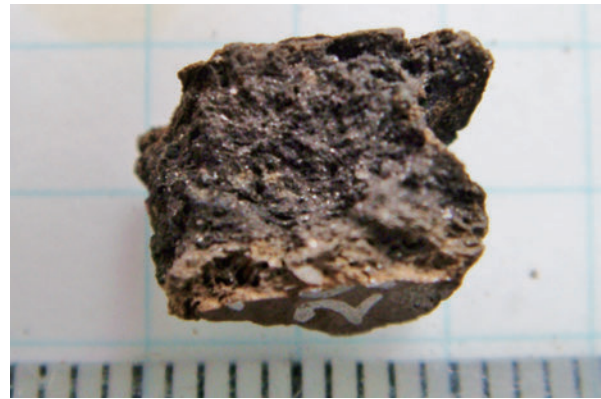


館野6遺跡断面-4 (T-4)

図版V-5-1 館野6遺跡分析土器断面写真(1)



館野6遺跡土器-5 (T-5)



館野6遺跡断面-5 (T-5)

図版V-5-2 館野6遺跡分析土器断面写真(2)

化学分析チャート

J E O L J E D - 2 0 0 1
S P R I N T v e r s . 2 . 1 8

試料名: 26 Tatenog 1

測定日時: ;5年02月16日 15時38分20秒
分析日時: ;5年02月16日 15時40分42秒

--- 測定-ジオメトリ パラメータ ---

加速電圧 : 15.00 kV 取り出し角度 : 20.32 °
経過時間 : 126.96 秒 有効時間 : 100.00 秒

--- 分析 結果 ---

元素	分析線	重量%	原子量%	化合物	重量%	Kレシオ
Na	K	1.02	0.35	Na2O	1.38	0.1113
Mg	K	0.00	0.00	MgO	0.00	0.0000
Al	K	14.48	11.48	Al2O3	27.36	2.8069
Si	K	25.73	19.59	SiO2	55.04	5.0465
K	K	1.84	1.01	K2O	2.22	0.4767
Ca	K	0.37	0.20	CaO	0.51	0.1008
Ti	K	0.91	0.41	TiO2	1.52	0.2401
Mn	K	0.07	0.03	MnO	0.09	0.0174
Fe	K	7.92	3.04	Fe2O3	11.33	2.1313
Ni	K	0.44	0.16	NiO	0.56	0.1180
O	-	47.23	63.14	-----	-----	-----
合計		100.00	100.00		100.00	

J E O L J E D - 2 0 0 1
S P R I N T v e r s . 2 . 1 8

試料名: 26 Tatenog 3

測定日時: ;5年02月16日 15時47分21秒
分析日時: ;5年02月16日 15時49分45秒

--- 測定-ジオメトリ パラメータ ---

加速電圧 : 15.00 kV 取り出し角度 : 20.32 °
経過時間 : 130.99 秒 有効時間 : 100.00 秒

--- 分析 結果 ---

元素	分析線	重量%	原子量%	化合物	重量%	Kレシオ
Na	K	0.66	0.61	Na2O	0.89	0.0802
Mg	K	0.00	0.00	MgO	0.00	0.0000
Al	K	13.67	10.74	Al2O3	25.84	2.9368
Si	K	27.79	20.95	SiO2	59.44	6.0598
K	K	1.63	0.88	K2O	1.96	0.4563
Ca	K	0.42	0.22	CaO	0.59	0.1257
Ti	K	0.75	0.33	TiO2	1.25	0.2146
Mn	K	0.35	0.13	MnO	0.45	0.0996
Fe	K	6.70	2.54	Fe2O3	9.57	1.9500
Ni	K	0.00	0.00	NiO	0.00	0.0000
O	-	48.03	62.59	-----	-----	-----
合計		100.00	100.00		100.00	

J E O L J E D - 2 0 0 1
S P R I N T v e r s . 2 . 1 8

試料名: 26 Tatenog 2

測定日時: ;5年02月16日 15時42分56秒
分析日時: ;5年02月16日 15時45分18秒

--- 測定-ジオメトリ パラメータ ---

加速電圧 : 15.00 kV 取り出し角度 : 20.32 °
経過時間 : 129.39 秒 有効時間 : 100.00 秒

--- 分析 結果 ---

元素	分析線	重量%	原子量%	化合物	重量%	Kレシオ
Na	K	0.58	0.54	Na2O	0.78	0.0571
Mg	K	0.00	0.00	MgO	0.00	0.0000
Al	K	15.87	12.65	Al2O3	30.00	2.8146
Si	K	24.39	18.67	SiO2	52.18	4.3169
K	K	1.18	0.65	K2O	1.43	0.2833
Ca	K	0.06	0.03	CaO	0.09	0.0158
Ti	K	0.89	0.31	TiO2	1.15	0.1686
Mn	K	0.51	0.20	MnO	0.65	0.1243
Fe	K	9.15	3.52	Fe2O3	13.08	2.2790
Ni	K	0.50	0.18	NiO	0.64	0.1259
O	-	47.06	63.23	-----	-----	-----
合計		100.00	100.00		100.00	

J E O L J E D - 2 0 0 1
S P R I N T v e r s . 2 . 1 8

試料名: 26 Tatenog 4

測定日時: ;5年02月16日 15時51分29秒
分析日時: ;5年02月16日 15時53分48秒

--- 測定-ジオメトリ パラメータ ---

加速電圧 : 15.00 kV 取り出し角度 : 20.32 °
経過時間 : 127.63 秒 有効時間 : 100.00 秒

--- 分析 結果 ---

元素	分析線	重量%	原子量%	化合物	重量%	Kレシオ
Na	K	0.80	0.73	Na2O	1.08	0.0965
Mg	K	0.00	0.00	MgO	0.00	0.0000
Al	K	15.10	11.76	Al2O3	28.53	3.1651
Si	K	27.55	20.61	SiO2	58.94	5.7547
K	K	1.24	0.66	K2O	1.49	0.3327
Ca	K	0.37	0.19	CaO	0.51	0.1050
Ti	K	0.77	0.34	TiO2	1.28	0.2109
Mn	K	0.69	0.26	MnO	0.89	0.1889
Fe	K	4.90	1.84	Fe2O3	7.00	1.3721
Ni	K	0.21	0.08	NiO	0.27	0.0598
O	-	48.38	63.52	-----	-----	-----
合計		100.00	100.00		100.00	

図V-5-11 化学分析チャート(1)

JEOL JED-2001
SPRINT vers. 2.18

試料名: 26 Tatenob 5

測定日時: 5年02月16日 15時57分27秒

分析日時: 5年02月16日 15時59分48秒

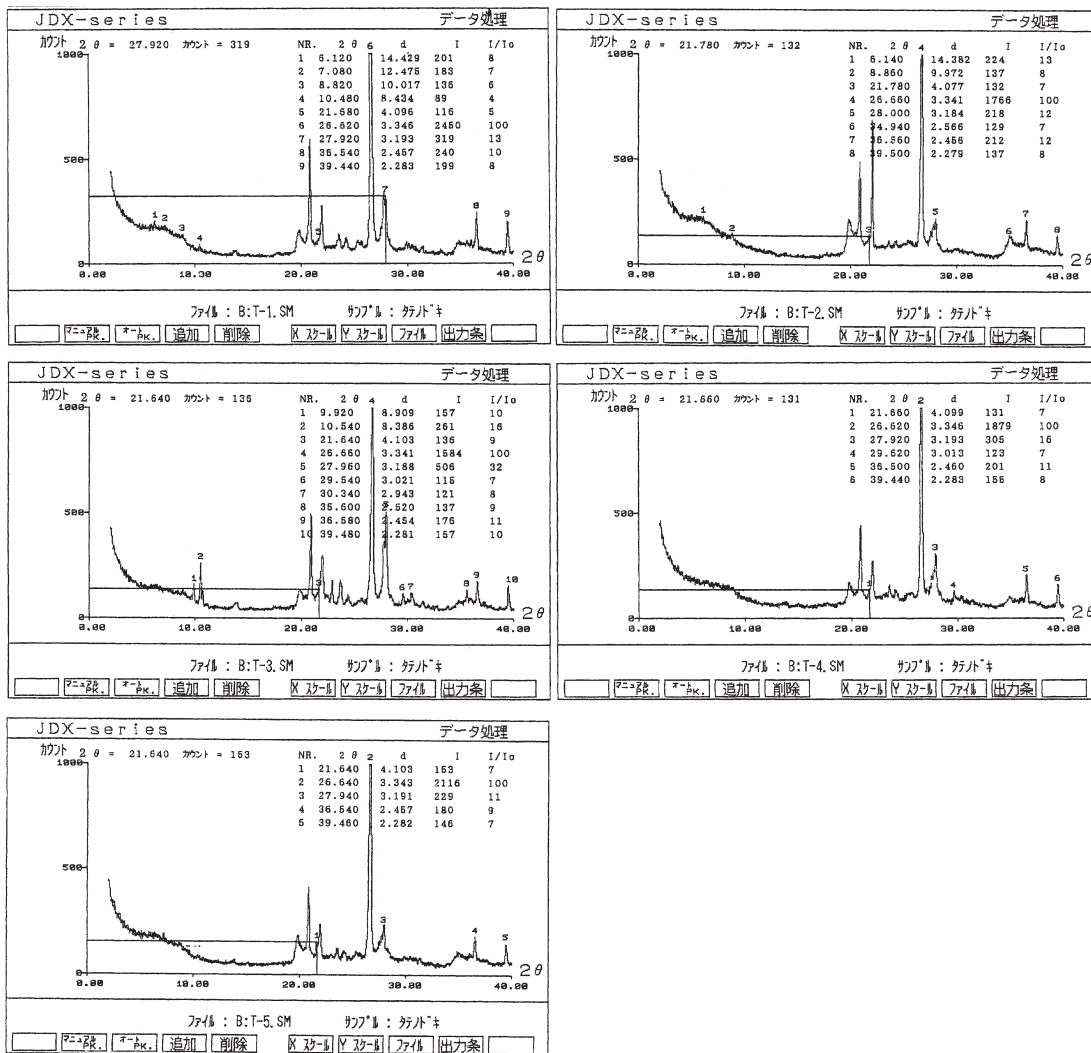
--- 測定-ジオメトリ パラメータ ---

加速電圧 : 15.00 kV 取り出し角度 : 20.32 °
経過時間 : 122.50 秒 有効時間 : 100.00 秒

--- 分析 結果 ---

元素	分析線	重量%	原子量%	化合物	重量%	Kレシオ
Na	K	0.77	0.72	Na2O	1.03	0.0425
Mg	K	0.00	0.00	MgO	0.00	0.0000
Al	K	14.82	11.81	Al2O3	28.01	1.4830
Si	K	25.05	19.17	SiO2	53.60	2.5375
K	K	1.03	0.56	K2O	1.24	0.1391
Ca	K	0.17	0.09	CaO	0.24	0.0244
Ti	K	0.68	0.30	TiO2	1.13	0.0942
Mn	K	0.00	0.00	MnO	0.00	0.0000
Fe	K	10.32	3.97	Fe2O3	14.75	1.4537
Ni	K	0.00	0.00	NiO	0.00	0.0000
O	-	47.16	63.37	-	-	-----
合計		100.00	100.00		100.00	

X線回折チャート



図V-5-12 化学分析チャート (2) X線回折チャート

6. 館野6遺跡出土土器付着試料の¹⁴C年代測定と校正年代

小林謙一（中央大学）

1. はじめに

館野6遺跡（北海道埋蔵文化財センター関連の年代測定用試料の略号をHDMBとした）出土土器付着物サンプルに対して、加速器質量分析法（AMS）による放射性炭素年代測定をおこなった。測定した試料は、図1に示す。試料は北海道埋蔵文化財センターにて小林謙一が2014年度に試料採取をおこない、2015年度に国立歴史民俗博物館年代実験室で小林がAAA処理をおこなった後、山形大学へ送付しAMS測定をおこなった。

2. 試料と方法

試料情報は下記の通りである。なお、HDMB-307・308・309ab（内面・外面）の3個体から4試料を採取したが、308および309aは炭素量が不足でAMS測定ができなかったため、以下には測定結果を得た2試料について記す。

HDMB-307は、H57住（円筒上層a式土器最古段階の住居）覆土中出土の縄紋中期円筒上層a式土器（復元番号235）の口縁外（口唇上）付着の吹きこぼれ状の炭化物である。

HDMB-309bは、盛土下層焼土層上（M4-3 59Q区）出土の縄紋前期円筒下層b式土器（復元番号214）の胴下部外面付着の煤状の炭化物である。

試料のAAAによる前処理は、国立歴史民俗博物館年代実験室で小林が以下の手順でおこなった。

アセトン中で5分間の超音波洗浄を行った後、クロロホルムとメタノールを容量2対1で混合した溶媒（CM混液）による30分間の還流を2回行った。次いで、アセトン中で5分間の超音波洗浄を2回行った。この操作で、油分や接着剤などの成分が除去されたと判断できる。

酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1 mol/l（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では1Mの水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用いる。

前処理により、HDMB-307は70mgを前処理し37.2mgが回収された。うち24.95mgを炭素14年代測定用に、12.25mgを安定同位体比測定用に分取した。HDMB-309bは36mgを前処理し、10.05mgが回収された。うち6.64mgを炭素14年代測定用に、3.41mgを安定同位体比測定用に分取した。すべて年代測定に適した良好な状態であった。

以下の作業は山形大学へ委託した。それぞれの測定試料は、元素分析計、質量分析計、ガラス真空ラインより構成されるグラファイト調整システムにてグラファイト化を行った。この際のEA使用量（処理で使用した量）は、307が2.845mg、309bが2.897mgで、ガラスラインで回収した炭素量（回収したCO₂量より計算）は、307が0.922mg、309bが0.892mgであった。その後、総合研究所1階に設置した加速器質量分析計（YU-AMS：NEC製1.5SDH）を用いて放射性炭素年代を測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

3. 結果

(株)SIサイエンスに委託した質量分析計による炭素・窒素安定同位体比、炭素量、窒素量を下記に示す。

	$\delta^{13}\text{C}$ -VPDB‰	$\delta^{15}\text{N}$ -Air‰	TOTAL-N%	TOTAL-C%
HDMB-307	-23.1	11.7	5.76	47.0
HDMB-309b	-22.9	13.1	5.85	57.8

炭素13/炭素12比はともに-24‰より重く、海洋リザーバー効果の影響を受けている可能性がある値である。窒素同位体比も高く、C/N比からも海産物の魚貝類に由来する焦げの可能性が考えられるが、309bについては外面の煤状の付着物であるため、海産物の煮焦げとは考えられず、なぜ $\delta^{13}\text{C}$ が重たいのか不明である。

以下に、サンプルの放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果を示す。各結果には、同位体分別効果の補正に用いる炭素安定同位体比($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲を示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正をおこなうため記載した。

AMS-炭素14年代測定値

試料番号	測定機関番号	AMS- $\delta^{13}\text{C}$	$^{14}\text{CyrBP}$	較正用	2σ 較正年代calBC
HDMB-307	YU-3930		-22.65 ± 0.41	4753 ± 23	4755 ± 25
HDMB-309b	YU-3931		-22.58 ± 0.36	5158 ± 23	5160 ± 25

暦年較正年代確率分布 (IntCal13,OxCal2013)

試料番号	2σ 較正年代cal BC		
HDMB-307	3636~3515 (90.9%)	3411~3405 (0.9%)	3399~3384 (3.6%)
HDMB-309b	4039~4017 (7.8%)	3999~3945 (87.6%)	

^{14}C 年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い(^{14}C の半減期 5730 ± 40 年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。 ^{14}C 年代の暦年較正には較正曲線データ(IntCal13²⁾)を使用し、OxCal4.2¹⁾またはOxCal4.2.4を用いて算出した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す(図1)。

4. 年代的考察

年代測定結果の較正年代であるが、2013年に較正曲線が水月湖の湖底堆積物などのデータにより後期旧石器時代5万年前までをカバーするIntCal13に更新された²⁾。特に1万2千年より以前の較正年代については、これまでに測定されてきた結果も含めてIntCal13を参照することが推奨されている。

縄文時代前期～中期はIntCalのバージョンによる大きな齟齬はないが、以下ではIntCal13による較正年代を 2σ の有効範囲で計算した結果による。

HDMB-307の炭素14年代測定結果および較正年代は、前期末葉に相当する年代である³⁾。しかし、上述のように $\delta^{13}\text{C}$ 値からみて、海洋リザーバー効果の影響を受けていることが想定され、円筒上層a2式が相当すると考えられる3300～3200calBCころ⁴⁾と比べ、数百年古い年代値となっていることも、海産物の煮焦げ由来の試料による海洋リザーバー効果の影響と考えることができる。

HDMB-309bの炭素14年代測定結果および較正年代は、4000～3945calBCの間に含まれる年代である可能性が高い。この年代は三内丸山遺跡出土円筒下層b式の年代の古い年代値に当たる⁵⁾が、やや古い年代である。上述のように $\delta^{13}\text{C}$ 値が-22‰と重たいため、外面付着物であるが、なんらかの理由でリザーバー効果の影響を受けている可能性も考えられる。

本稿で用いた年代測定は、日本学術振興会科学研究費助成基盤研究(B)「炭素14年代測定による縄文文化の枠組みの再構築-環境変動と文化変化の実年代体系化」(課題番号25284153, 研究代表小林謙一, 平成25～29年度)によるものである。グラフィット作成からAMS測定は、山形大学高感度加速器質量分析センターに委託した。炭素回収率については、山形大学、較正年代の計算については国立歴史民俗博物館今村峯雄・坂本稔の教示を得た。

1) Bronk Ramsey, C. 2009. Bayesian analysis of radiocarbon dates. *Radiocarbon*, vol.51,Nr-1,p. 337-360.

Christopher Bronk Ramsey, Sharen Lee.2013. Recent and Planned Developments of the Program OxCal. *Radiocarbon*, Vol 55, No 2-3

2) Paula J Reimer • Edouard Bard • Alex Bayliss • J Warren Beck • Paul G Blackwell • Christopher Bronk Ramsey • Caitlin E Buck • Hai Cheng • R Lawrence Edwards • Michael Friedrich • Pieter M Grootes • Thomas P Guilderson • Hafliði Hafliðason • Irka Hajdas • Christine Hatté † • Timothy J Heaton • Dirk L Hoffmann • Alan G Hogg • Konrad A Hughen • K Felix Kaiser* • Bernd Kromer • Sturt W Manning • Mu Niu • Ron W Reimer • David A Richards • E Marian Scott † • John R Southon • Richard A Staff • Christian S M Turney • Johannes van der Plicht, 2013 INTCAL13 AND MARINE13 RADIOCARBON AGE CALIBRATION CURVES 0-50,000 YEARS CAL BP, *RADIOCARBON*, Vol 55, Nr 4, p 1869-1887, the Arizona Board of Regents on behalf of the University of Arizona

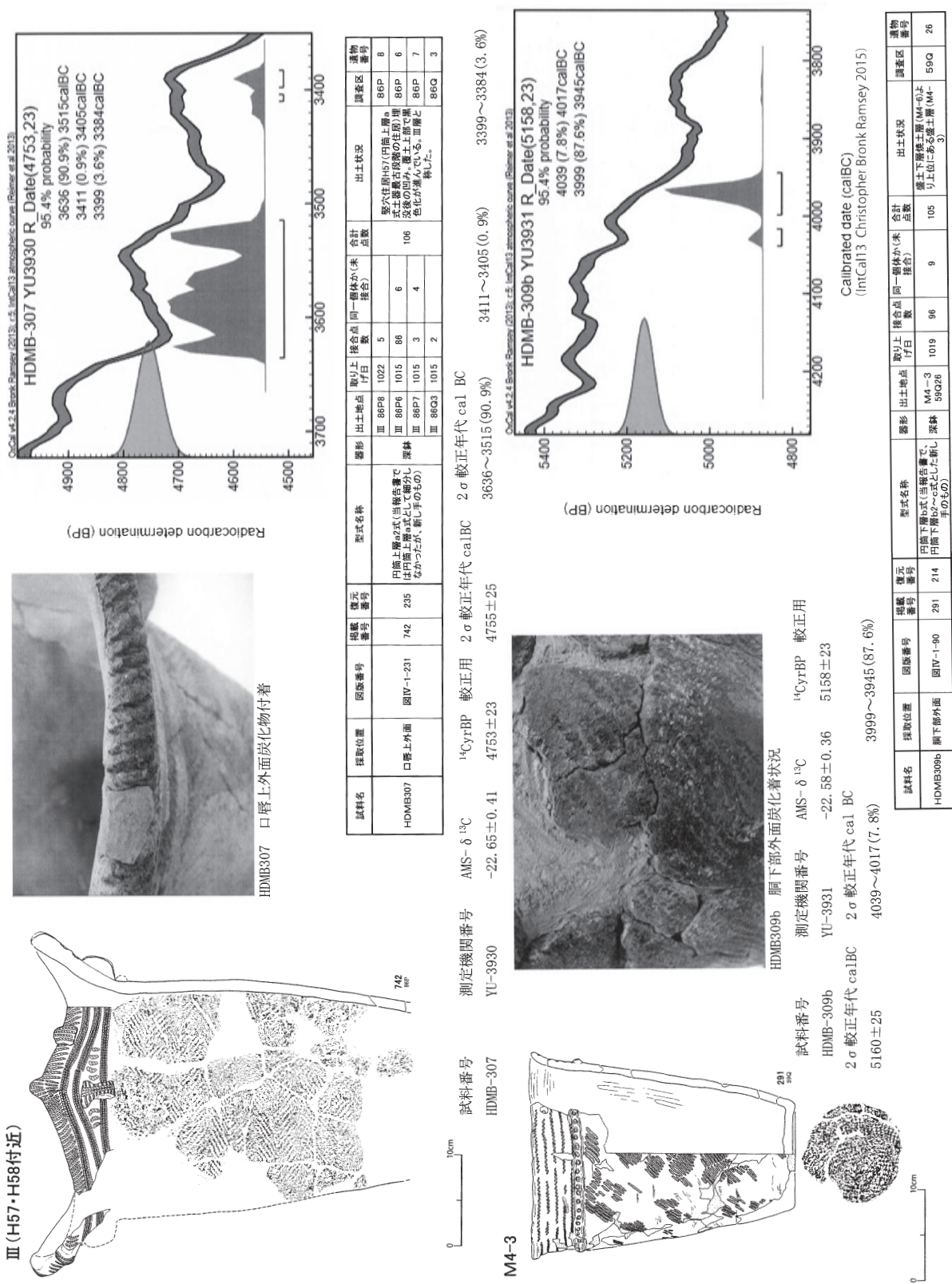
3) 小林謙一2008「縄文土器の年代(東日本)」『総覧縄文土器』小林達雄編, アムプロモーション

4) 八戸市笹ノ沢(3)遺跡の円筒上層a式中～新段階に比定されるSI35住・SI31住炭化柱材のウイグルマッチングでは、前者が3332～3085calBC(ベストマッチは3317calBC)、後者が3304～3122calBC(ベストマッチは3223calBC)ころの較正年代であった。

小林謙一・坂本稔・松崎浩之2004「第5章 自然科学的分析 第2節 青森県八戸市笹ノ沢(3)遺跡出土土器付着物の ^{14}C 年代測定」『笹ノ沢(3)遺跡Ⅳ-八戸環状道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-』青森県埋蔵文化財調査報告書第372集、青森県教育委員会(中村哲也編)

5) 三内丸山遺跡円筒下層b式土器付着物AOMR-5725は複数回測定し $4880 \pm 40, 4900 \pm 90^{14}\text{CyrBP}$ 、較正年代で3715～3630(86.3%), 3945～3515calBC(95.1%)の年代であった。

小林謙一・坂本稔・西本豊弘・松崎浩之2008「三内丸山遺跡出土試料の ^{14}C 年代測定(2006年度)」特別史跡三内丸山遺跡年報11,青森県教育委員会



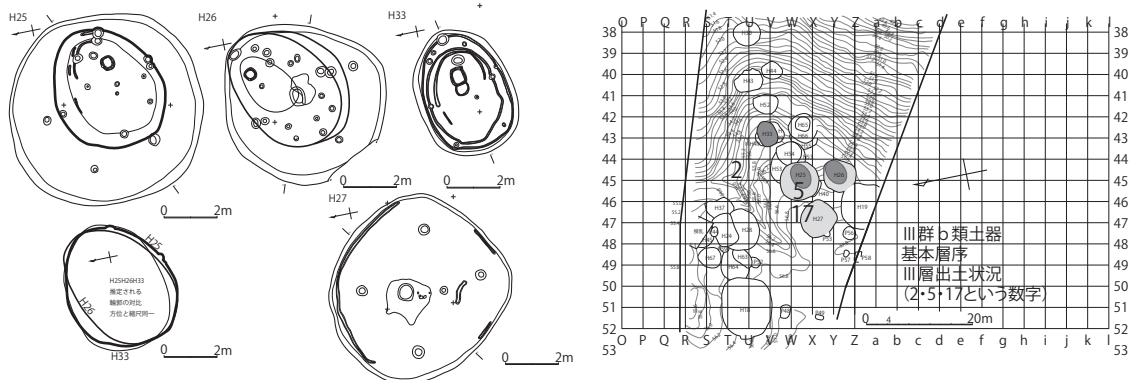
図V-6-1 測定試料付着土器と較正年代確率分布

VI 成果と問題点

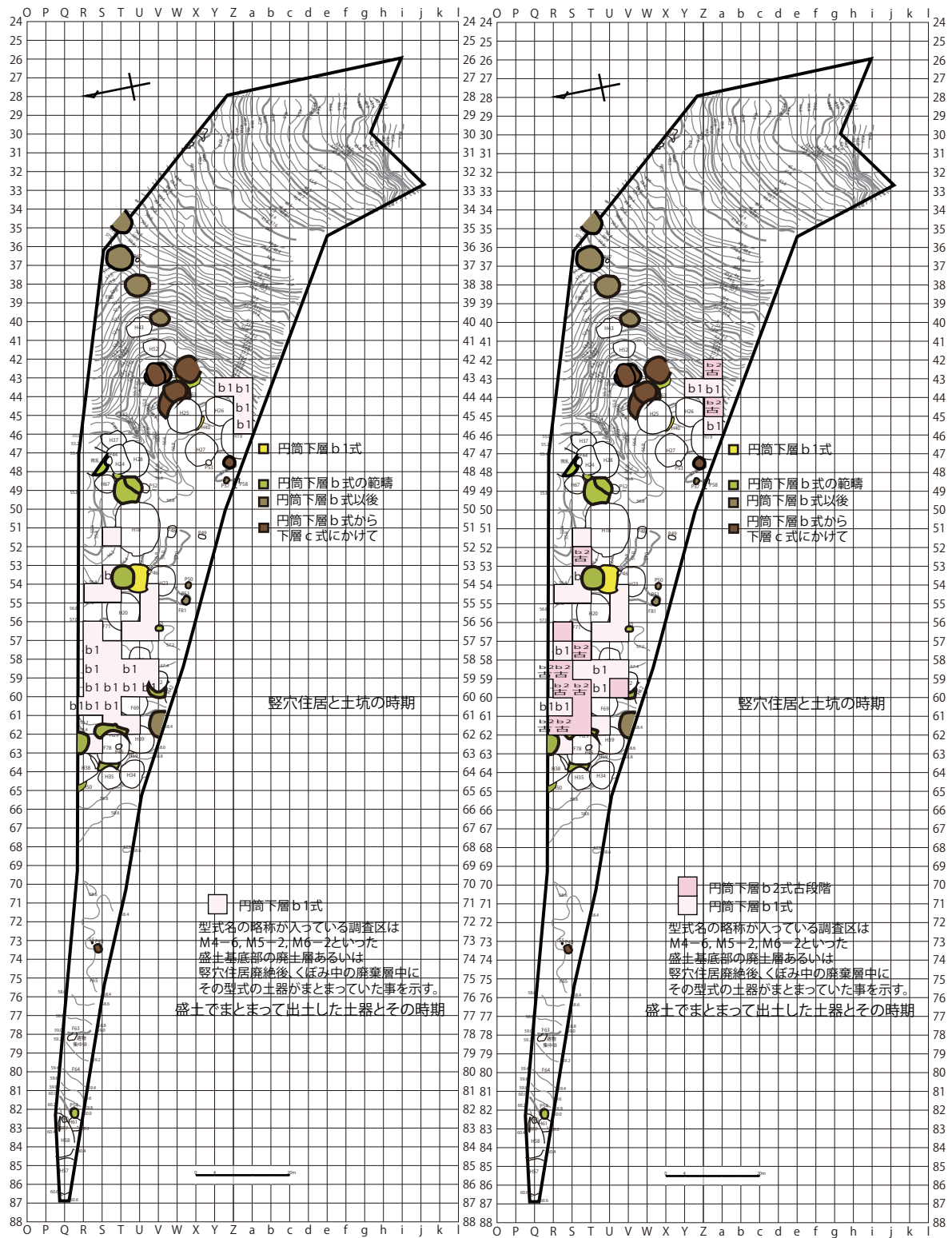
1 遺構

盛土遺構の変遷：当遺跡の盛土遺構は円筒下層b1式のころ形成が始まる。図VI-1-2～7に復元土器出土調査区と凹系遺構の時期を示した。調査区に「(円筒下層) b1 (式)」等、土器型式の略称を示したものは盛土基底部焼土層 (M4-6・M5-2・M6-2) からの出土であり、住居に「b1」等と示したものは住居廃絶後の窪みに廃棄層があったものでその型式名である。土器の廃棄が円筒下層b1式から型式をおうごとに、傾斜変換点から徐々に矢不來川側の斜面下方にのびていく様子がわかる。円筒下層b2～c式のころ、斜面の捨て場が飽和してきたためか、平坦面にある竪穴住居廃絶後の窪みに廃棄し始める。M4やM5・M6に竪穴住居を掘り始めるのもこの前後である。円筒下層d1新段階のころ60～63-R～T区の廃絶竪穴住居への廃棄が飽和してくる。窪みが埋まりきってくる。円筒下層d2式のころには土を盛り上げはじめてM2を形成する。図VI-1-2～7について、石囲炉を持つ住居については、縄文時代前期のものとして図化してある。

石囲炉を持つ住居：H25・H26・H27・H33は石囲炉を持つとした住居である。H27は、「石組と言えなくもない」検出状況で、平面形も典型的な縄文時代前期後半の竪穴住居のため、ここではH25・H26・H33の検討のみとする。3軒について、諸条件をもとに石囲炉に伴う住居平面形を推定した(図II-36・図VI-1-1)。H25はその内部施設、H26は残存する付属遺構、H33はその掘り込まれた形状を根拠とした。ただし、H26は土層断面図等、図面上では、石囲炉に伴う掘り込みの根拠が弱い。ただしH26覆土2層出土遺物の分布が石囲炉周辺に少ない事や、写真の再検証で平面形を示した(図III-1-50)。廃棄層を二枚持つ土層の認知が、現場では困難だったと思われる。これら3軒は立地、規模、想定できる長軸の方向が類似する。卵型に近い楕円形の平面形とその長軸上に石囲炉を持つ形状から、縄文時代中期後半Ⅲ群b3類土器の住居を思わせる。(2006館野遺跡 北埋調報237)。調査範囲内の中期後半Ⅲ群b類のⅢ層出土分布とも似る(図VI-1-1)。ただし、調査者の指摘どおり3軒とも遺構周辺・遺構そのものの遺物出土状況のみからでは縄文時代前期後半とも言える。ただ不確定ながら、本文中で述べた通り、石囲炉出土の掲載土器H25-9は胎土と形態から中期中葉サイベ沢Ⅶ式(Ⅲ群a類)の可能性もある。また、現場段階の情報で作成した図II-37ではH26は石囲炉から想定する住居平面形も含めて、前期後半のH19掘り上げ土とM6に覆われる。だが、H19掘り上げ土は不明瞭である事、H26の覆土2層廃棄同様、この住居について覆土上部や周辺土層の確認が現場では困難だったと思われる。(大泰司)



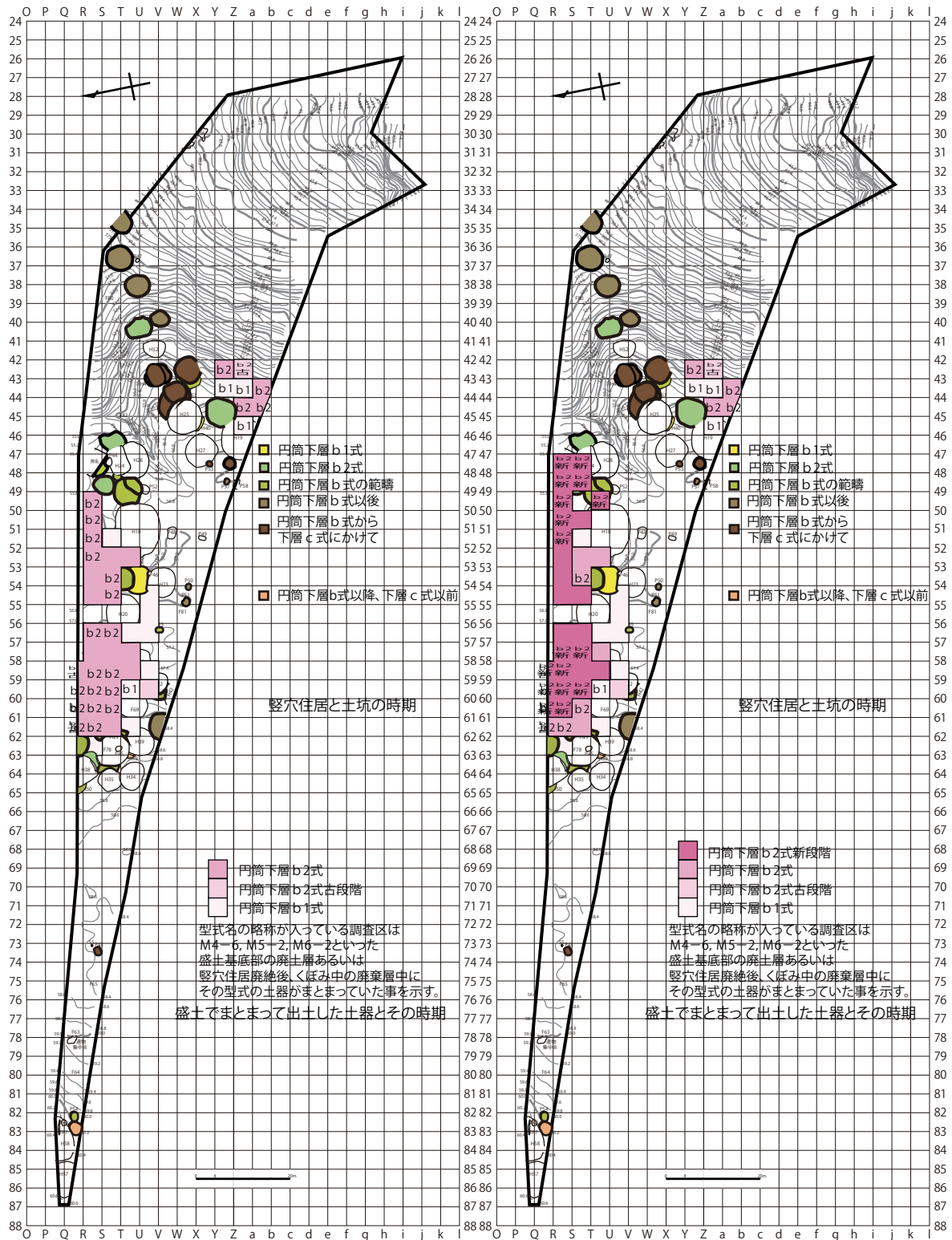
図VI-1-1 遺構1 石囲炉を持つ竪穴住居



円筒下層b1式

円筒下層b2式古段階を追加

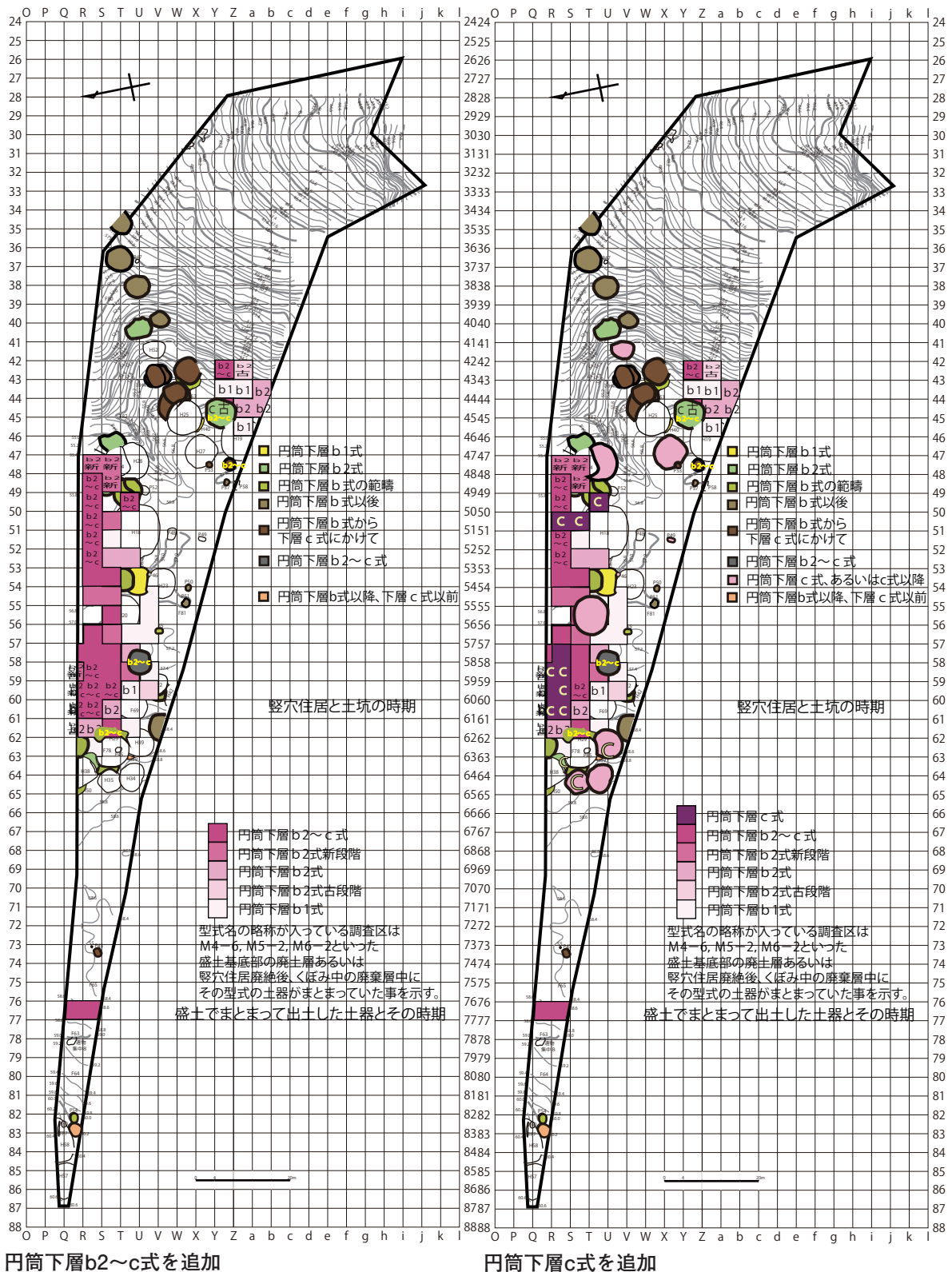
図VI-1-2 遺構2 遺構の時期変遷



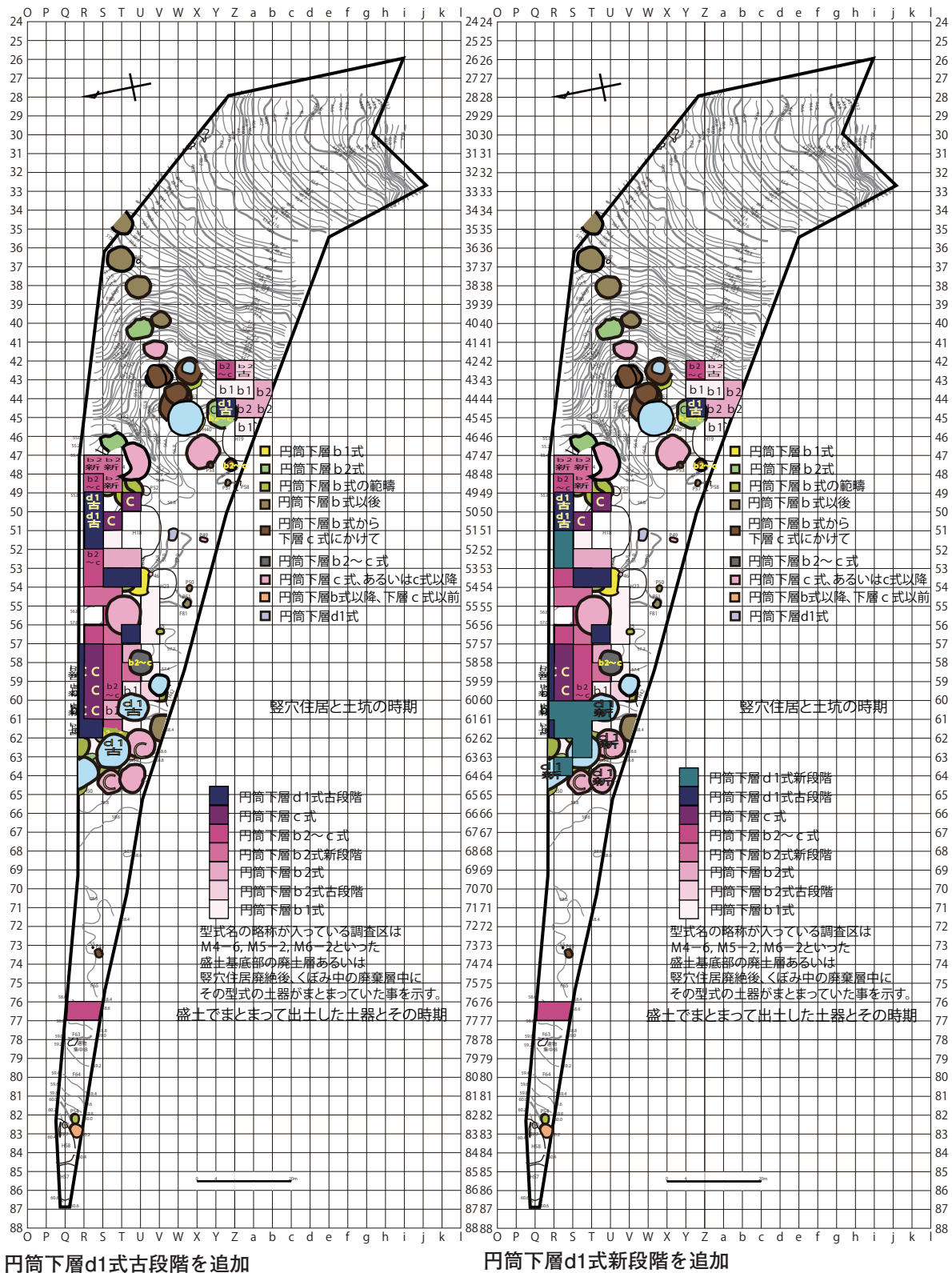
円筒下層b2式を追加

円筒下層b2式新段階を追加

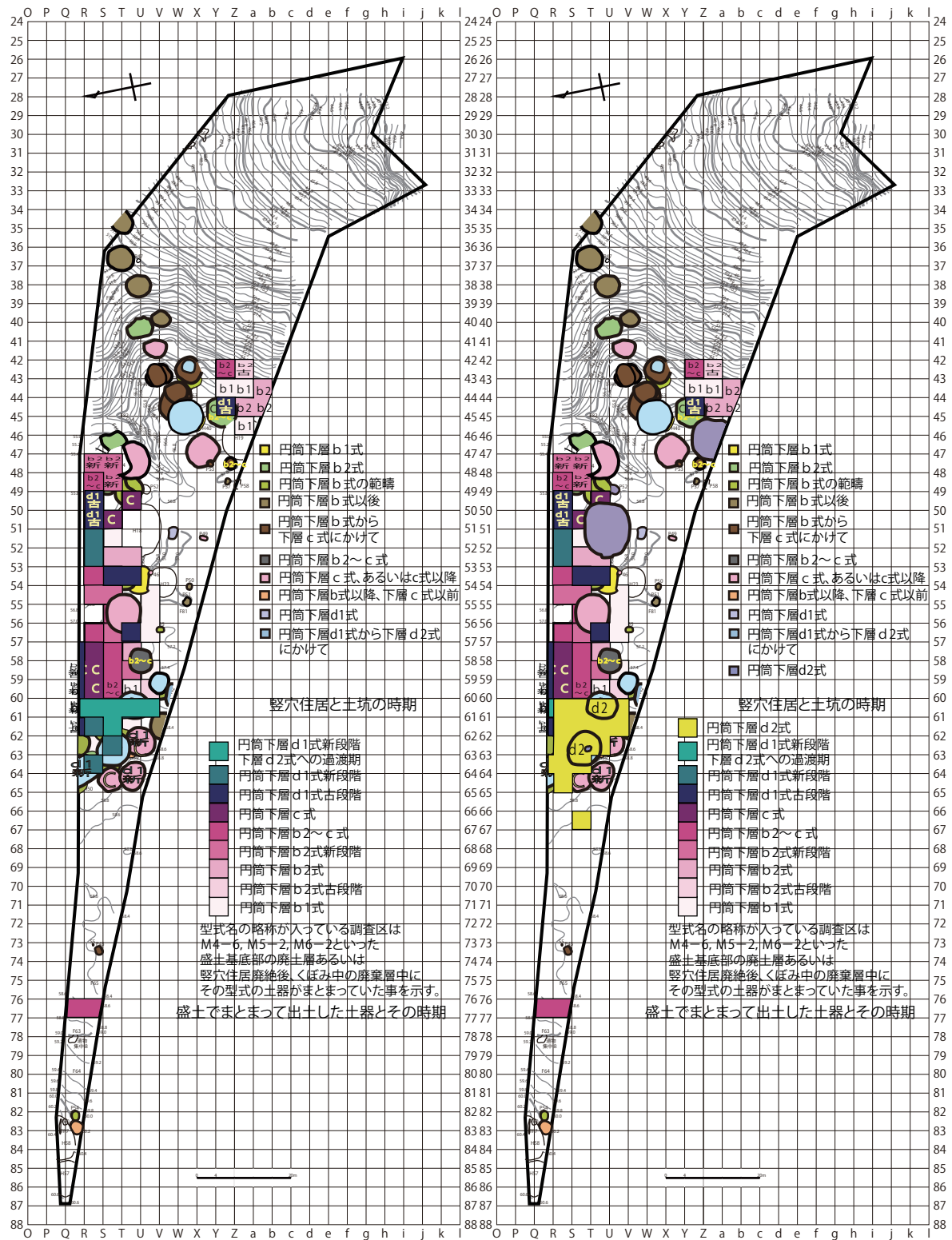
図VI-1-3 遺構3 遺構の時期変遷



図VI-1-4 遺構4 遺構の時期変遷



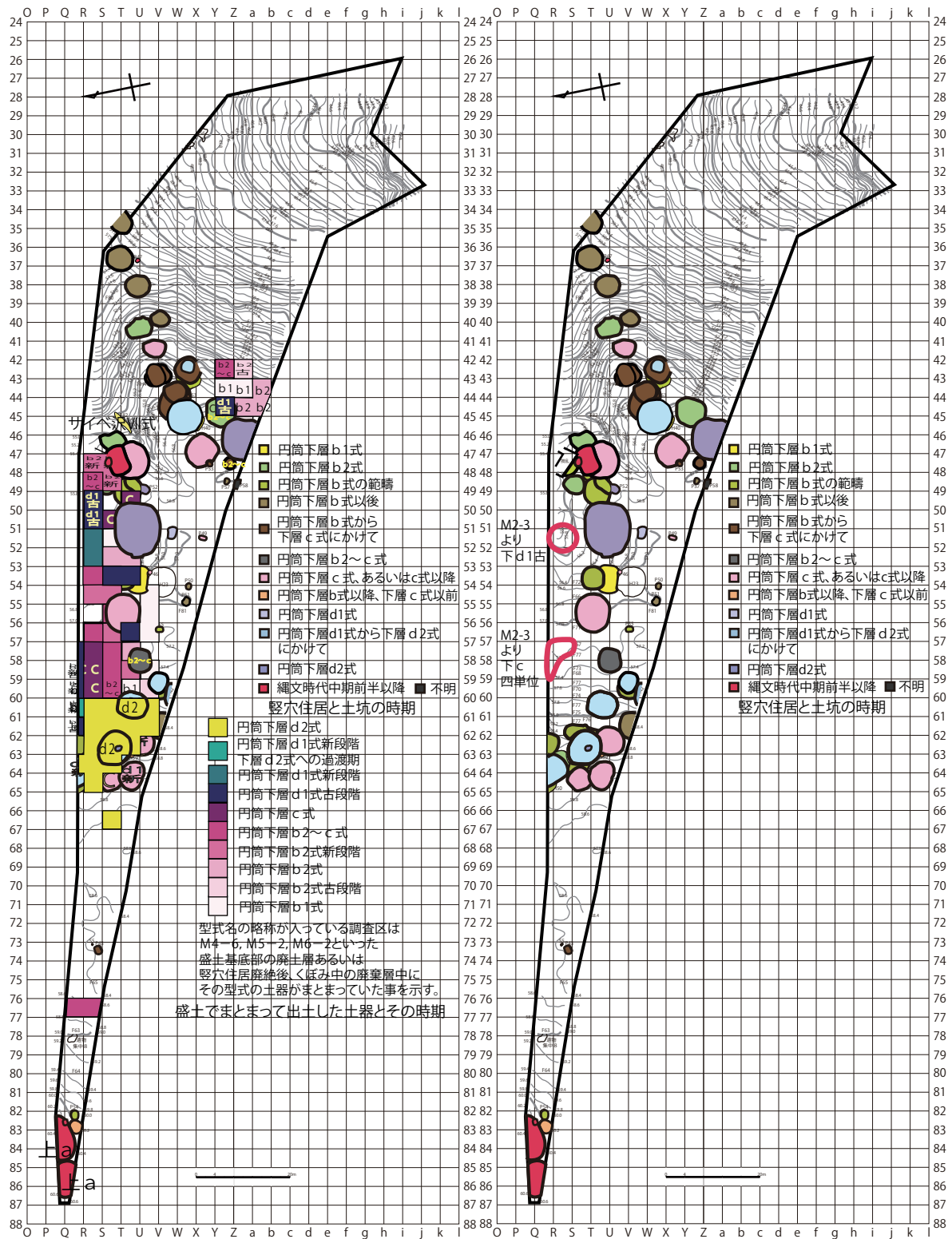
図VI-1-5 遺構5 遺構の時期変遷



円筒下層d1式新段階でより円筒d2式に近いものを追加

円筒下層d2式を追加

図VI-1-6 遺構6 遺構の時期変遷



図VI-1-7 遺構7 遺構の時期変遷

2 土器

館野6遺跡の一括出土土器の前後関係を対比することで、型式的変遷を検討する。大きく二種類の一括出土状況があった。一つ目は、竪穴住居へのまとまった土器の廃棄、貝塚に例えるならば、“地点貝塚”的様相、そして二つ目は、盛土へ一括廃棄された土器群、特にM4-6、M5-2、M6-2といった盛土基底部焼土層からは土器がまとまって出土している。これらのまとまりを「」で示し、その特徴を例示した。

一つ目の出土状況、竪穴住居の埋没過程に一括廃棄された土器群を認定するにあたって注意点があった。それは、特にM4を掘り込んでいる住居H21、H39等にありがちであるが周囲の盛土からの流入した土器の判別である。文様要素を目安として、検討対象からこれらを取り除く操作が必要であった。一個体分の破片がほぼまとまって出土した、残存率の高い復元個体を選ぶ事で、作為的な操作を極力排除することに努めたが、検討の余地は残る。

また盛土調査における、土器のまとまりを検討するにあたり、「毎回盛土を5cmずつ掘り下げ、視覚的にまとまっている土器を個別に取り上げる。」という作業内容を利用した。取り上げた調査区と日付が同じものは出土した標高・層位が同じ可能性が高い。問題点として盛土表面の面を基準として掘り下げたため、最終的な地形の傾斜が強い調査区(例えばQ・Rライン)では、混在の可能性が高かった。場所によっては、木根等攪乱の影響もあるため、絶えず文様要素の確認をする必要があった。まとまり同士が示す傾向のうち、斉一性の高いものを同時期のまとまりとして「」で示した。

縄文時代中期中葉

サイベ沢Ⅶ式：F82沢地形出土のサイベ沢Ⅶ式のまとまりを一括性の高い一群として挙げるができる。小型の深鉢が集中して出土した。円筒上層d式の大型の破片F82-12は意図的な打ち欠きと廃棄の可能性はある。

縄文時代中期前葉

円筒上層a式：竪穴住居H57とH58覆土中、埋没過程の廃棄層から円筒上層a式を主体とする中期前葉の土器がまとまって出土した。H58-1やH18-1については次段階、円筒上層b式から上層c式にかけての可能性を考えたが、口縁部文様帯が縦方向の区画が基調となっており、これが次段階の口縁部文様帯の装飾傾向と異なる。そしてH58-1が他の円筒上層a式の復元個体と出土状況が変わらないため、H58-2と同時期、円筒上層a式の最新段階として分類した。

縄文時代前期後半

円筒下層b1式、下層b2式、下層c式、下層d1式、下層d2式がM1～M6盛土中、そして竪穴住居覆土中、埋没過程の廃棄層から出土した。今回、土器の変遷を段階的に追うことができた。そのため円筒下層b2式から下層c式にかけての過渡期とも言える土器群がまとまって出土した。円筒下層式土器の場合、遺跡間で土器の差異が顕著であるため館野6遺跡独自の基準で「円筒下層b2～c式」の仮称で解説した。また円筒下層d1式から下層d2式にかけての過渡期とも言える土器群もまとまって出土した。これについては「円筒下層d1式新段階」と称する方が盛土の連続性を説明するに容易かったため円筒下層d1式を古段階と新段階にわけた。「円筒下層d1式古段階」においては秋田県萩ノ台Ⅱ遺跡(秋田県教育委員会1993)におけるⅢ群-d、Ⅲ群-eが含まれる。今回これらの土器群は、「円筒下層c式」

ではなく「円筒下層d1式古段階」と共伴したためである。

円筒下層d2式（図VI-2-1・2）

「多軸絡条体回転地文」が復活する。これらは円筒下層b2式新段階に目立つ特徴で、円筒下層c式で徐々に無くなる傾向にあった。斜め回転が多く、口縁部横回転なども少量だがみられる円筒下層b2式前後に対して、下層d2式は縦回転がほとんどである。円筒下層d1式以来の「簾状地文」は無くなる傾向にあり、口縁部直下の結束第一種羽状縄文、あるいは胴部上半にのみ残るもの（18）がある。

円筒下層d1式新段階以来の「明瞭な肩部あるいは隆帯貼付によって口縁部文様帯を区画する器形」が普遍的になる。その中で口縁部文様帯部分そのものが肥厚するもの（19・80・81・126）、二段口縁風の口縁を持つもの（177）が出現する。全体的に器高に対して胴部径が大きくまた器壁も厚くなる。

当遺跡の特徴として、円筒下層d1式新段階以来の「縄による地文施文前にサルボウ条痕をほぼ全面に横走させる調整」は残るが、下層d1式に多かった自縄自巻縄文縦走との組み合わせは無くなる傾向にある。単軸絡条体第1類縦回転地文の個体が目立つ。また単軸絡条体第4類縦回転地文の破片は多く出土したが、一個体分の破片が揃ったものは無かった。

円筒下層d2式の変遷（図VI-2-1） 竪穴住居H29が掘り込まれている調査区62S区において層位的な変遷を追ってみる。H29の窪みへの廃棄遺物とその外側の盛土出土遺物で対比を行う。

まず、H29覆土中、埋没途中に焚かれた焼土F78がM2盛土の基底部と考える（M4でいうところの基底部焼土層M4-6）。土器群は「F78より上（の面、より新しい時期）」と「F78と同一（検出面、ほぼ同時期）」に分ける事が出来る。現場段階でまず盛土基底部としたのはこのF78である。ところがこの下に土器の廃棄が続き、それに断片的な焼土層（図III-1-60）も伴っていた。そこで前者を盛土基底部A、後者を盛土基底部Bと調査段階で仮称した。Bの下位からM3を検出したため、便宜上盛土はこのM3までとした。Ⅲ章F78の頃でこのA・Bの基底部について記した。

「F78より上」は2・7・8・13・120である。全体的に口縁部文様帯の幅が広い。器壁に厚みがある。平行線を基調とした縄線文、絡条体圧痕文が口縁部に施される。

「F78と同一」はさらに、同一検出面出土の「同時期（旧盛土基底部A）」のものと、検出面直下である「その直前（旧盛土基底部B）」にわけた。と「F78と同一（同時期）」は9・11・14・15で、2も一部ここから出土している。「F78と同一（その直前）」は12・18・19である。「F78と同一（同時期）」、11・14は鋸歯状文的文様を持つ。また、15は木目状捺糸文風の単軸絡条体第1類を地文に持ち、口縁部文様帯の菱形文様に対応して穿孔されるものがある。「F78と同一（その直前）」F78直下出土のものには口縁部に菱形文様の連続を基調とした（12・18）や肥厚した口縁部に四単位の波頂部と対応した口縁部文様を持つ19がある。19に類似した土器に126がある。規格が19の三分の二ほどで、隣接する62T区から出土した。対向する縄線折り返し部分に特徴がある。126は波頂部が非線対称である。また一段階前の類似土器として387がある。胴部の簾状地紋からこちらは円筒下層d1式とした。口縁部文様帯は肥厚しない。

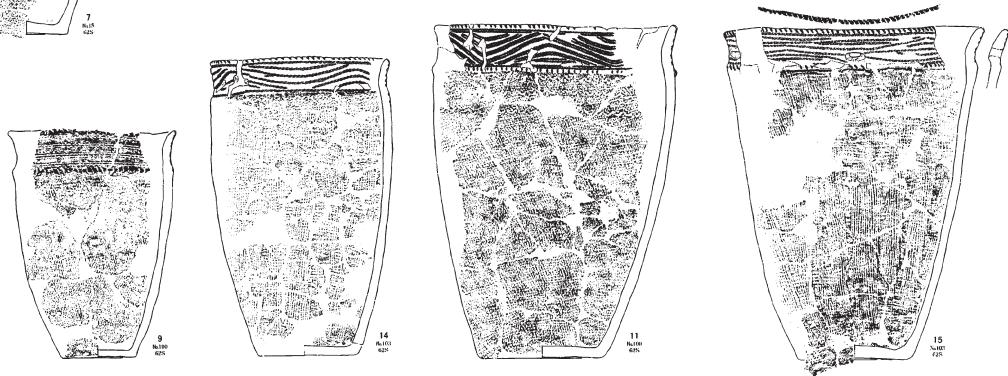
このように独特な文様構成で器の規格が相似する土器として、64R区M2-2出土80と63R区M2出土81がある。これらは円筒下層d2式で19とほぼ同時期と考えられる。規格的にも、81は80の三分の二ほどの規格である。

次に、同じ62S区について、H29の外側、盛土遺構調査での、土器のまとまりを検討する。

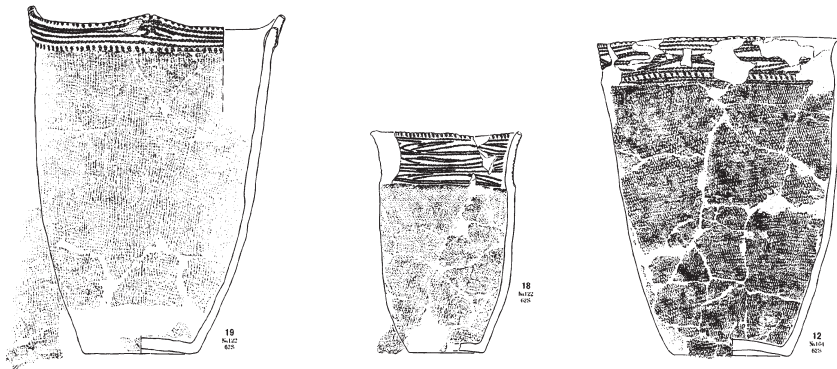
「62S区M2 9月2日取り上げ」は口縁部に波状文、菱形基調の文様を持つ114・121、あるいはそれに類する117、小型舟形容器119から成る。「62S区M2 9月25日取り上げ」は波頂部の形状に対応した縄線を平行に施す112・115や、後述する「短い縄線・縄圧痕を縄線区画内に充填する、円筒下層



62S F78より上



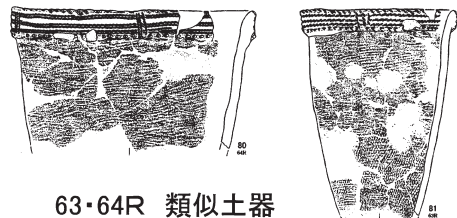
62S F78と同一



62S F78の直下



62T 19と類似土器

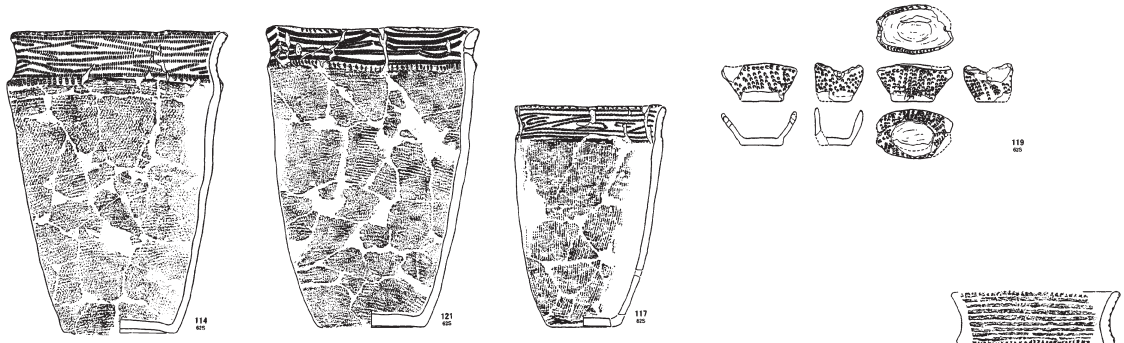


63・64R 類似土器

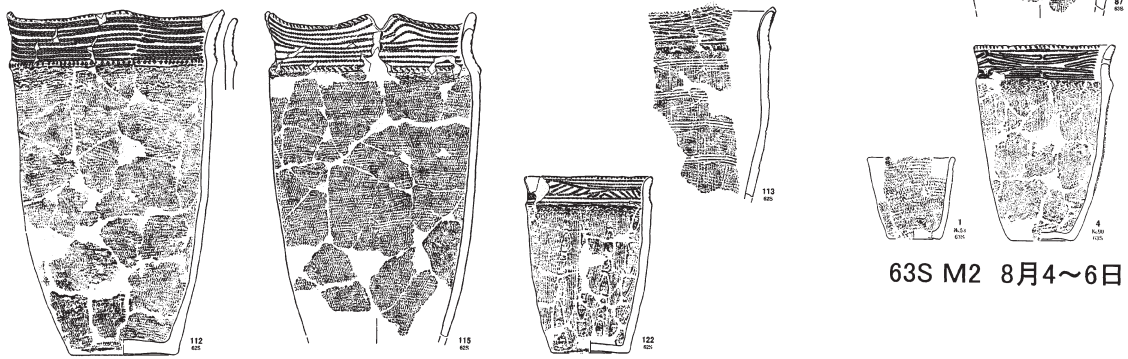


円筒下層d2式

図VI-2-1 土器1 円筒下層d2式

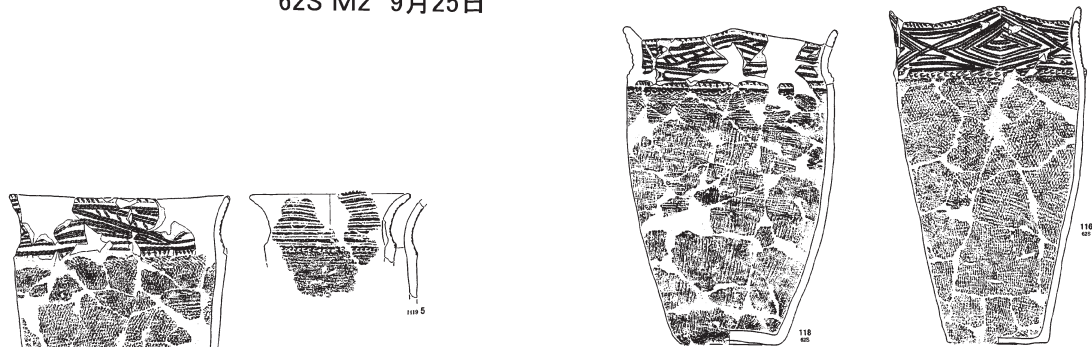


62S M2 9月2日

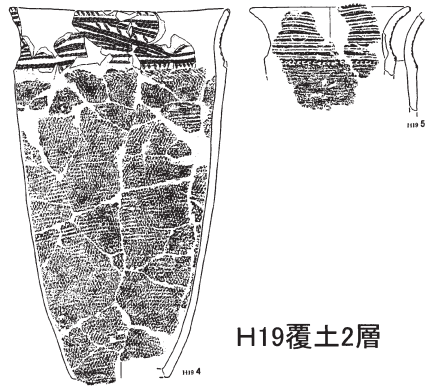


62S M2 9月25日

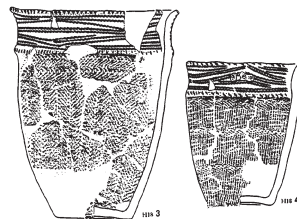
63S M2 8月4~6日



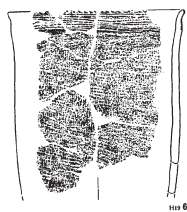
62S M2 8月27日



H19覆土2層



H18覆土1層



H19 床面



H18 床面



H18 ベンチ

円筒下層d2式



図VI-2-2 土器2 円筒下層d2式

d1式新段階以来の文様(図Ⅱ-3)」を口縁部に持ち、木目状撚糸文地の122、当遺跡ではサルボウ条痕を絡条体施文以前に施すのが通常だが、最後に施す事で、多段の帯風に仕上げる113から成る。「62S区M2 8月27日取り上げ」は四単位の波頂部と対応した菱形文様を持つ116・118から成る。これらは、「F78と同一」と同じ時期と考える。

62S区に隣接する「63S区M2 8月4～6日取り上げ」は屈曲させた縄線を対向させ、条痕地文を持つ4、幅広い口縁部文様帯に、単軸絡条体第4類縦回転地文を持つ87、口縁部文様帯を持たない小型深鉢1から成る。「F78と同一」から「F78より上」の段階が混在している。

次に、凹系遺構62S区以外の出土遺物を検討する。まずは竪穴住居H18とH19からまとまって出土した遺物についてである。円筒下層d2式土器が「覆土」と「床面」から出土している。

「H18覆土1層」出土のものが二個体ある。いずれも口縁部には菱形基調の縄線文を施し、結束第一種羽状縄文を縦走させる3、と多段の帯を持つ4から成り立つ。F78形成期の段階、地文を考慮するとより古い段階のものと考えられる。

「H19覆土2層」は「短い縄線・縄圧痕を縄線区画内に充填する、円筒下層d1式新段階以来の文様」を口縁部に持つ4や、口縁部文様帯の幅が広い5がある。「F78と同一」から「F78より上」のものが混在している。

「H18 床面とベンチ」床面出土6とベンチ出土7に接点はないが同一個体と思われる。これらは口縁部文様帯の幅が狭いが器壁が相対的に厚く、内面調整が丁寧であることから、円筒下層d2式とした。層位的に前述のものより古い段階である。

「H19 床面」床面出土6もほぼ同じ段階と考える。口縁部文様帯直下の結束第一種羽状縄文と器壁が相対的に薄い事から、円筒下層d2式最古、あるいは円筒下層d1式最新段階と考える。

円筒下層d1式

円筒下層d1式新段階(図Ⅵ-2-3・5) 刺突列が再び現れ、口縁部文様帯の縄線に交差する文様構成や縄線側面を刺突具のように押圧するようになる。H38やH39覆土上位出土遺物、H34覆土中廃棄層-1～3にまとまった出土がある。刺突列は円筒下層c式から円筒下層d1式古段階にかけて減少傾向にあった。個体が口縁部文様帯を肩部あるいは薄い隆帯で区画する。その結果、口縁部文様帯を持つ個体はそれが明瞭となる。ほかに自縄自巻縄文とサルボウ条痕横走の組み合わせ、多段化した帯残るなどの特徴を持つ。H21の覆土上部から検出したまとまり「60T区M2-2最下位9月1日取り上げ(172・180～187)」も典型例である。竪穴住居H21とH39の廃絶後、円筒下層d1式古段階から円筒下層d2式への変遷がみられる

円筒下層d1式新段階への変遷(図Ⅵ-2-3・5) H21覆土の上に盛土が堆積している。「60T区M2-2～M2-2下位」である。ここから169・171・173・174・176・177・186が出土した。そのうち169・176・177・186は、円筒下層d2式で「F78と同一あるいは直下」段階である。171は小型深鉢で口縁部文様帯を持たず、サルボウ条痕が口縁部から胴部まで連続して施される。172と共通する要素を持つ土器であり、円筒下層d2式の項で解説した1にも類似する。173・174は「短い縄線・縄圧痕を縄線区画内に充填する、円筒下層d1式新段階以来の文様(図Ⅱ-3円筒下層新段階を参照)」を口縁部文様帯に持つ一群である。円筒下層d1式新段階が混在したものと考えられる。

これらの下位、つまり、H21廃絶後の窪みにおいて最上位、埋没過程の初期段階から「円筒下層d1式新段階」の一括資料が出土した。「60T区M2-2最下位9月1日取り上げ(172・180～185・187)」が円筒下層d1式新段階の一括土器と言える。菱形基調、鋸歯状基調の縄線文を持ち、「短い縄線・縄圧痕を縄線区画内に充填する、円筒下層d1式新段階以来の文様」を付加、ないしは、絡条体側面圧

痕あるいは縄線を波状に押捺したものなど細かい鋸歯状をした押圧が口縁部に施されるようになる。地文としては横走するサルボウ条痕と縦走する自縄自巻の組み合わせにより碁盤の目を思わせる地文184や多段化した地文181が出現する。183も地文に多段の帯を持つ。172は小ぶりの深鉢で171に似る。サルボウ条痕が口縁部から胴部まで連続して施される。胴部には条痕の上に多軸絡条体回転。当遺跡の円筒下層d1式において多軸絡条体地紋はより円筒下層d2式に近い段階になるまで無い。小型なので特殊、あるいは混在の可能性がある。

同じ60T区H21廃絶後の土層中のさらに下位に、覆土中位相当に「F69」が広がる。この「F69」からも同様な土器群（67・72・73・75）が出土した。器形・文様構成から「M2-2最下位」とほぼ同時期と考える。組成の中に72・181のように連続刺突を肩部に有するものが混じっている。72は右方向へ押し引き気味である。これは円筒下層b1式の土器のうち隆帯上に、爪先を含めた指頭による連続刺突の形状を思わせる。

竪穴住居埋没過程の廃棄層で検出されたこの時期の一括土器群（図VI-2-3）がある。「H34覆土（1～3）（63～64T区）」「H38覆土上位（6～9）（63～64-Q～R区）」「H39覆土下位（49・50・52・53）覆土中位（51）（61～62-T～U区）」である。また円筒下層d2式への移行期を示すものとして同じく「H39覆土上位（27・32・34・35・48）」がある。

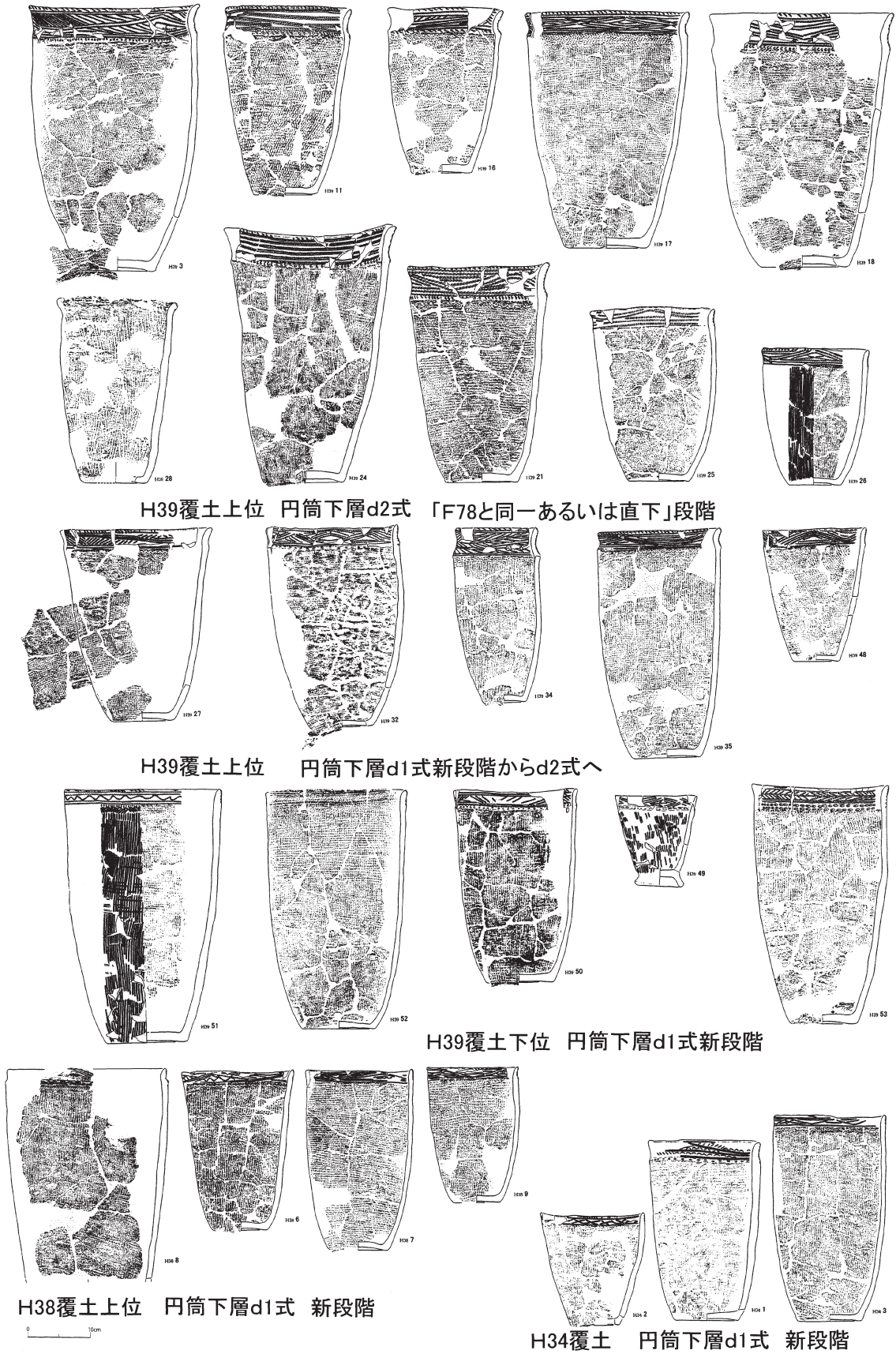
「H39出土土器」（図VI-2-3）

「H39覆土上位」のうち円筒下層d2式相当（3・11・16・17・18・21・24・25・26・28）を対比の為に示した。文様構成等から、「F78と同一あるいは直下」段階のものが主体と考える。覆土上位出土で、層位的にも時期差が明瞭である。28はサルボウ条痕横走後、木目状撚糸文。24は木目状撚糸文風地文。3・16は円筒下層d1式新段階で発生した口縁部文様。17はより下位の35と類似した地文。26は類似した口縁部文様帯を持つ。ただし35は胴部の最大径部分が膨らまず、筒状である。円筒下層d1式的な器形である。H39の53は口縁部破片の1点がH21覆土7層の中央から出土、接合している。覆土7層はこの前段階である、円筒下層d1式古段階の一括土器が出土している。覆土中央は絶えず周囲より窪みがちな事から、後の時期に混在したものと考えられる。

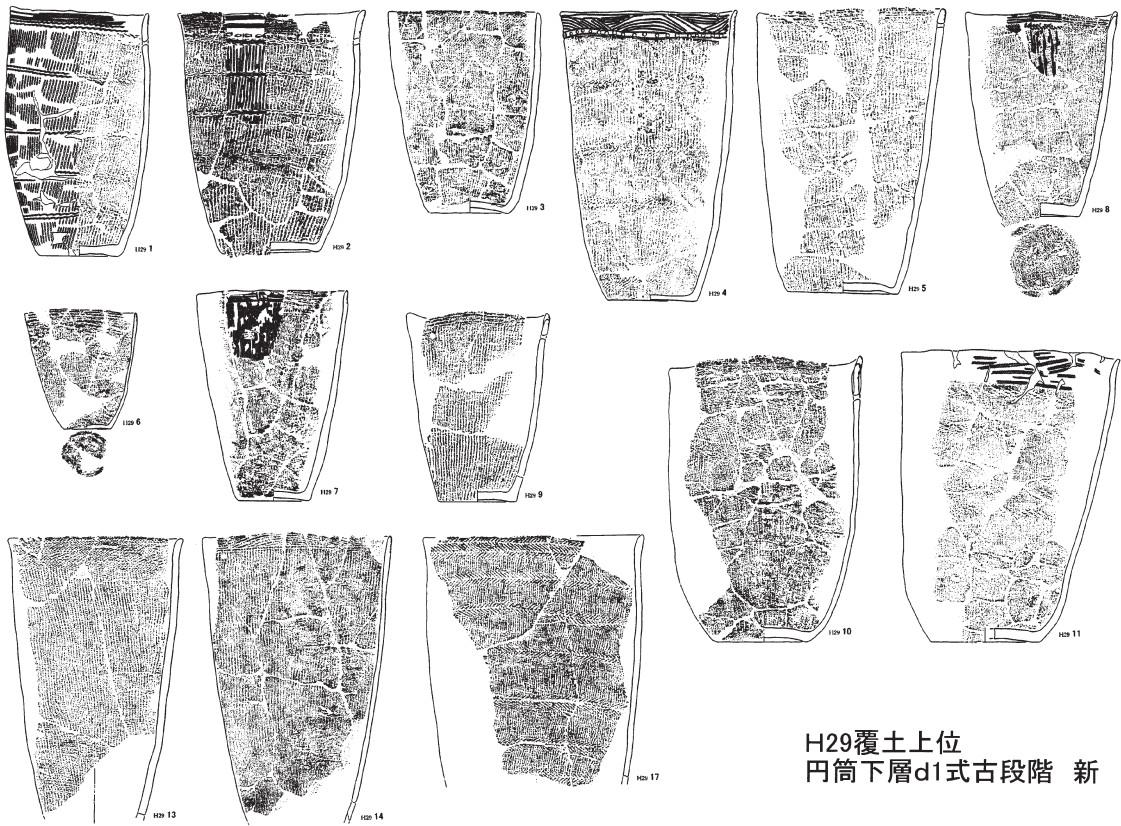
「H39覆土上位（27・32・34・35・48）」は円筒下層d2式への移行期を示す可能性がある。F69とほぼ同じ時期と思われる70はこの段階の可能性がある。より下層d2式色が強いものである。H39の35覆土2層直下の出土で、視覚的に覆土上位と判断した点取りNo14と接合している。エレベーション図に示した通り標高的には覆土下位の遺物と変わらない。しかし、比率的に器壁が厚く、口縁部文様帯を区画する肩部が明瞭等、円筒下層d2式的な要素を持つ。34も35同様、覆土2層直下出土遺物を主体とする復元個体だが、多段の帯を持ち比率的に細長い筒状器形といったように古い要素と、幅広い口縁部文様帯等、新しい要素が混在する土器である。35と接合した、点取りNo14の主たる構成要素であった27、同様の標高が低い視覚上上位に位置したNo13の土器32、同じくNo15の48も円筒下層d1新段階の要素に下層d2式の要素を併せ持った土器である。一方覆土中位とした51は円筒下層d1式新段階の土器である。

円筒下層d1式 古段階 竪穴住居埋没過程の廃棄層からの一括土器出土例があった。「H29覆土上位」「H29覆土下位」（以上、図VI-2-4）「H28覆土」「H21覆土7層北側」「H21覆土7層」「H21覆土9層」「H21覆土7層南側」（以上、図VI-2-6）である。

口縁部文様帯の特徴として、円筒下層c式に比べて幅が狭くなる。最古段階としたものや「古段階古」としたものの一部から、幅広かった口縁部文様帯の一部の帯、口唇側の一連の文様が新しく口縁部文様帯として独立したためそのまま幅が狭くなった様子を観察できる。結束羽状縄文横回転によっ



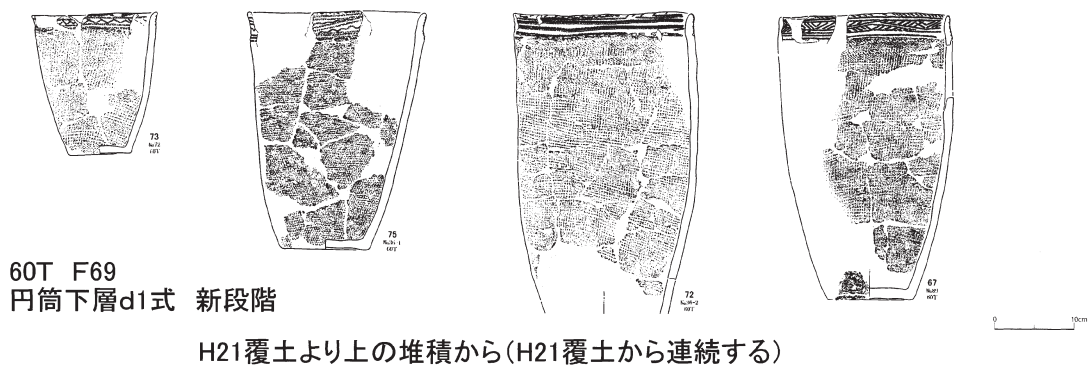
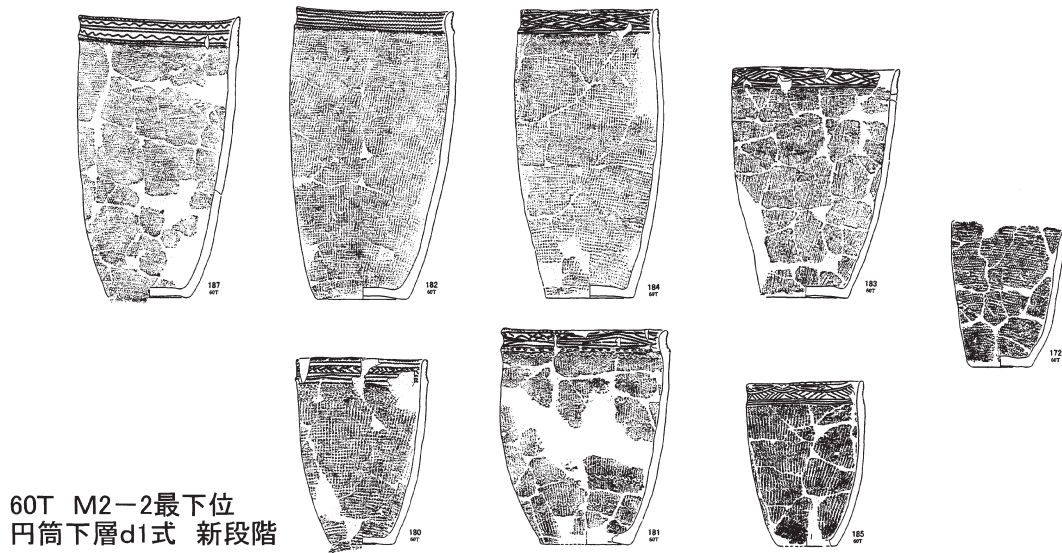
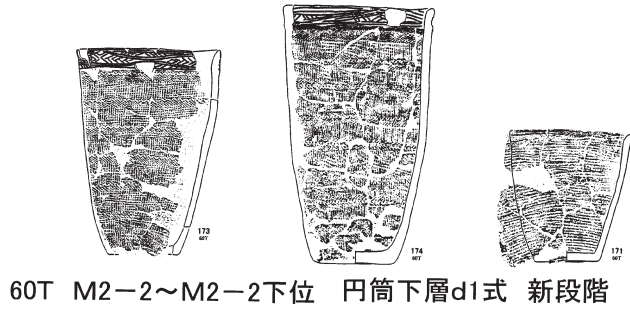
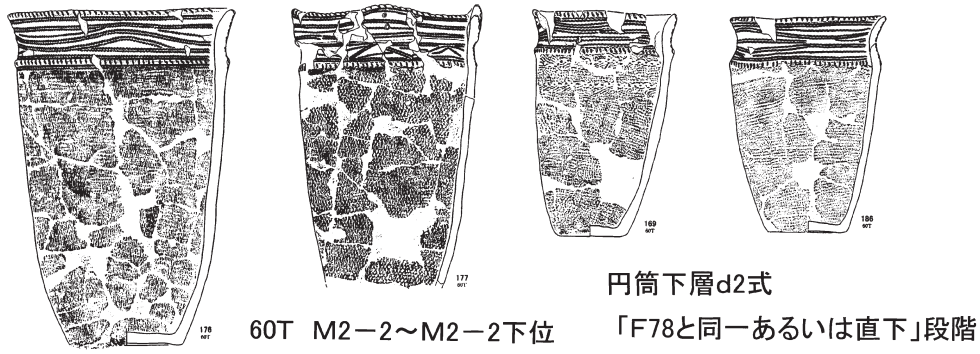
図VI-2-3 土器3 円筒下層d1式から下層d2式



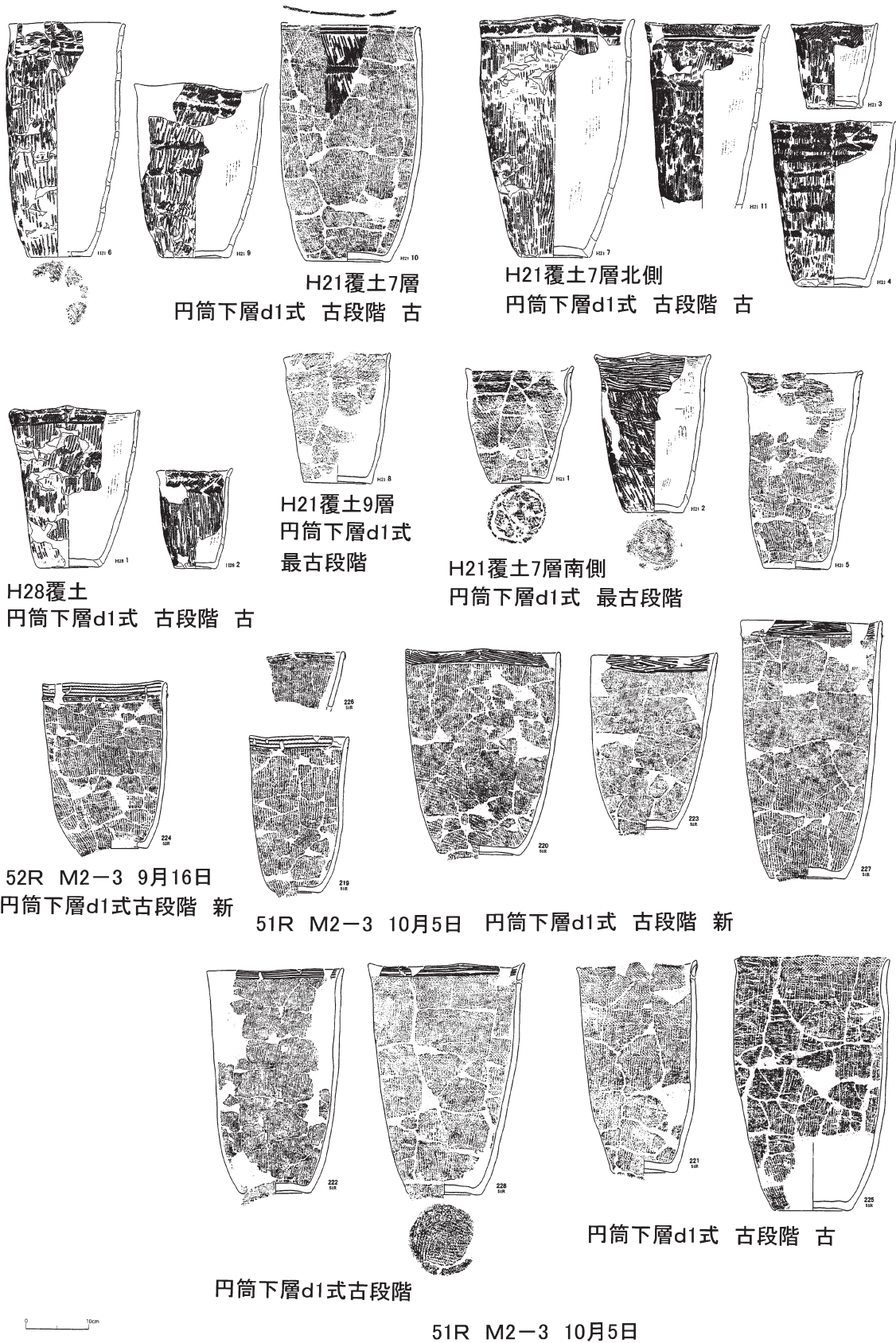
円筒下層d1式古段階



図VI-2-4 土器4 円筒下層d1式古段階



図VI-2-5 土器5 円筒下層d1式から下層d2式



図VI-2-6 土器6 円筒下層d1式

て構成される文様帯、あるいはそれを縄線で区画したもの、また別に、矢羽根状ないしは単独の縄線を平行に押圧した幅の狭い口縁部文様帯から成る。地文では、自縄自巻縄文縦走地文出現。多段の帯の出現(H21覆土下位、H29覆土下位)を挙げる事が出来る。

また、円筒下層c式に比べて、寸胴に近い形状、すなわち、口縁部文様帯区画部と口唇部の屈曲部がゆるい、あるいは無くなる。胴部上半に最大径があり、口縁部にかけてゆるやかに外反、または筒状に真直ぐに立ち上がる。

円筒下層d1式 古段階の変遷(図VI-2-4)さらにH29の「覆土上位(図III-1-60)」と「覆土下位(図III-1-61)」が現地では漠然と面でとらえることができた。それぞれ不整な炭化物集中を伴う。遺物整理後、それぞれ出土土器にわずかだが特徴に違いがあった(図III-1-59)。それを、層位的に「円筒下層d1式古段階 新」と「同古段階 古」とした。「新」として「H29覆土上位」出土遺物の特徴は、「口縁部文様帯区画に刺突列」そして「口縁部文様帯に、縄線押圧をX字状に交差させる文様構成の顕在化」の2点である。「口縁部文様帯」が「古段階 古」に比べて明瞭となる。出土状況から、「円筒下層d1式古段階 新」において「H29-2・6・7・10」「H29-4・5・8・17」は一括性が高い。

前段階「円筒下層c式の四単位の波状口縁に伴う菱形文様の伝統を残す文様例」は「古」である「H29覆土下位」28・38のように存在する。ただし割合としては少なく、他の「円筒下層d1式古段階 古」一括土器群に復元例は無い。

「新」である「H29覆土上位」においての4や14のように曲線的で波状の要素をもつ鋸歯状のもの、11のように規則性に欠くものが出現する。これらの傾向は「円筒下層d1式新段階」の施文傾向につながる。

また「H29覆土下位」において35(点取りNo22)の幅広い口縁部文様帯は円筒下層c的な古い要素である。「H21覆土南側」に幅広い口縁部文様帯を持つ一括土器(1・2・5)がある。「H21覆土9層-8」も同様である。「H28覆土-1」や「H21覆土7層-6」のように縦区画が入るものは古い段階でも混在してくる可能性がある。

以上の傾向から、円筒下層d1式 古段階を三段階に分けるとすると「古段階 新」として「H29覆土上位」。「古段階 古」として、「H29覆土下位」「H28覆土」「H21覆土7層北側」「H21覆土7層」。「最古段階」として「H21覆土9層」「H21覆土7層南側」を挙げる事が出来る。

これらの一括資料を参照にして、円筒下層d1式期の盛土M2から「円筒下層d1式古段階」を捉える事が可能だったのは、「51R区M2-3 10月5日取り上げ(220・222・223・226~228)」(図VI-2-6)である。この組成の中には刺突列を有する復元個体はなかったが、破片試料として226が口縁部文様帯をほとんど有しない代わりに、口唇に貼付された隆帯に刺突列を持つ。加えて隣接する調査区の同一層位「52R区M2-3 9月16日取り上げ」において、219の口縁部文様帯区画の隆帯に刺突列を施したような224が出土する。220・223・226・227は「円筒下層d1式 古段階 新」の範疇の可能性はある。222・228は比較的、「古段階 新」の可能性があるとしか言えない。

一方、「円筒下層d1式古段階 古」として認められたのは「51R区M2-3 10月5日取り上げ(221・225)」のみである。竪穴住居覆土資料がなければ古と新の分離は根拠的に厳しい。

円筒下層c式(図VI-2-7)

円筒下層c式 新段階あるいは別系統円筒下層c式の文様組成には、四単位の波頂部に対応する菱形基調の文様(図II-3、図VI-2-8)を持つ、あるいは平口縁だが類する菱形基調の口縁部文様を持つ一群がある。円筒下層d1式の口縁部文様の初現を思わせる。664などまさにその例である。

「57R区M2-3」からまとまった出土があった。ただし良好な接合結果は得られず、破片試料が主体である。200の様に菱形文様は持たないが、器形が典型的なものが復元できた。この57R区M2-3下位の層位M4-3から円筒下層b2～c式のまとまりが出土している。このうち347・348・350は鋸歯状文から「波頂部に対応する菱形基調の文様」成立過程を示す土器といえる。胴部上半のみの関連資料348は縄線による鋸歯状の構成で、沈線や縄線による菱形文様の確立直前と思われ、円形刺突を伴うことから、この円筒下層c式の前段階、円筒下層b2～c式とした。「57R区M4-1」232は中央に同心円を持つもので独特である。菱形文様から派生したものと判断し、円筒下層c式とした。232と348は時期差をつけたが、円形刺突列を持ち、地紋も類似し、口縁部文様も縄線による構成であることから近い時期のものとする。隣接する「58-Q～R区M4-3」からも類例(312・313・314)の出土がある。

円筒下層c式 「H35床面」「H39床面付近」(図VI-2-7) 竪穴住居埋没過程の廃棄層および床面で、円筒下層c式の一括土器の組み合わせが確認できた。今回の調査で出土した、円筒下層c式の典型的な一括土器として「H35床面-1・2」「H39床面付近-56・63・64・65」がある。口縁部文様帯を区画する隆帯、刺突列、多軸絡条体回転地文および単軸絡条体回転地文が無くなる傾向にある。反撚り地文が目立つ。沈線、縄線によって口縁部文様帯を区画する。また口縁部文様帯区画部と口唇部の中央に強い屈曲部を持つ外反器形で胴部中央より上位に最大径を持つ、器形が普遍的となる。65は羽状縄文地文の口縁部文様帯に縦区画が入り、口唇にも縄線で縁取る。絡条体回転地文である56・63・64と異なってNo.38とNo.42および他数か所からの遺物が接合した点で、破片がほぼ一か所からまとまって出土したほかの三個体と出土状況が異なる。文様要素的にも古く、一段階古い可能性がある。

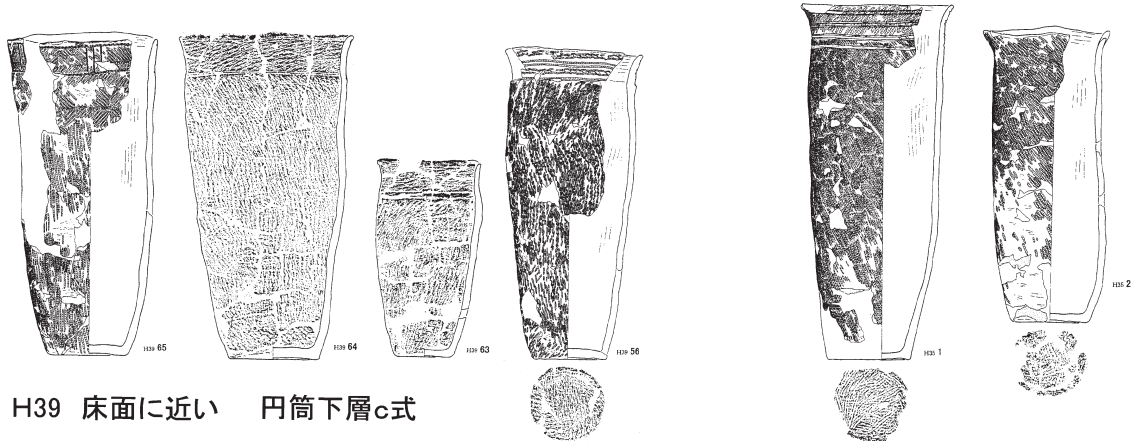
円筒下層c式の変遷

円筒下層c式 やや古段階 「H56覆土上位」(図VI-2-7) H35、H39の一括土器と時期的に近いものに「H56覆土上位-1・2・3・4・6」がある。4・6は刺突列ないしは押し引き、6は多軸絡条体地紋を持つことから古い様相を残す土器群である。このまとまりの直下から「H56覆土下位-5」が出土している。口縁部文様帯の区画に隆帯が用いられ、さらに縄線の押圧が施される。地文は単軸絡条体縦回転で、筒状の胴部を持つ。層位的にも、円筒下層c式より一段階古いものとする。器形が細長く、単軸絡条体地紋であることから円筒下層b2式新段階とした。盛土出土遺物では、376(新旧を決める要素が無く円筒下層b2式とした)274(縦区画があるため円筒下層b2～c式とした。)317(円筒下層b2式新段階)を類例として挙げる。

円筒下層c式古段階(円筒下層b2～c式並行)「H26覆土2層」(図VI-2-7) 円筒下層c式土器の要素を持つ一括土器が「H26覆土2層-1～6」である。口縁部文様帯を隆帯で区画する2・3がある。3は上から指頭大の連続刺突を持ち、2は隆帯の直上直下に沈線文を施す。口縁部文様帯に、4は結節回転文、1は複数の縄線を鋸歯状風に互い違いに配する。3は縄線で鋸歯状文の一部を施す。3・4は単軸絡条体回転地文を持つ。器形的には円筒下層c式器形の確立段階にあるといえる。1・2に対し3・4・5はゆるく胴部中央から外反する筒形である。3・4が古い要素を持つのに対して、水平方向に走る複数の縄線を口縁部に押圧する5は新しい要素を持つが、むしろ一段階古い円筒下層b2～c式の要素である。全体を包括的にみると円筒下層c式の要素が色濃いが、時間軸的には円筒下層b2～c式段階と考える。円筒下層c式の文様要素の出現期を示す古段階のものとする。以上「直前段反撚り地文が目立つ。多軸絡条体回転地文の減少。単軸絡条体第5類回転地文の消滅。T型・I型消滅。」を円筒下層c式の特徴として挙げる。

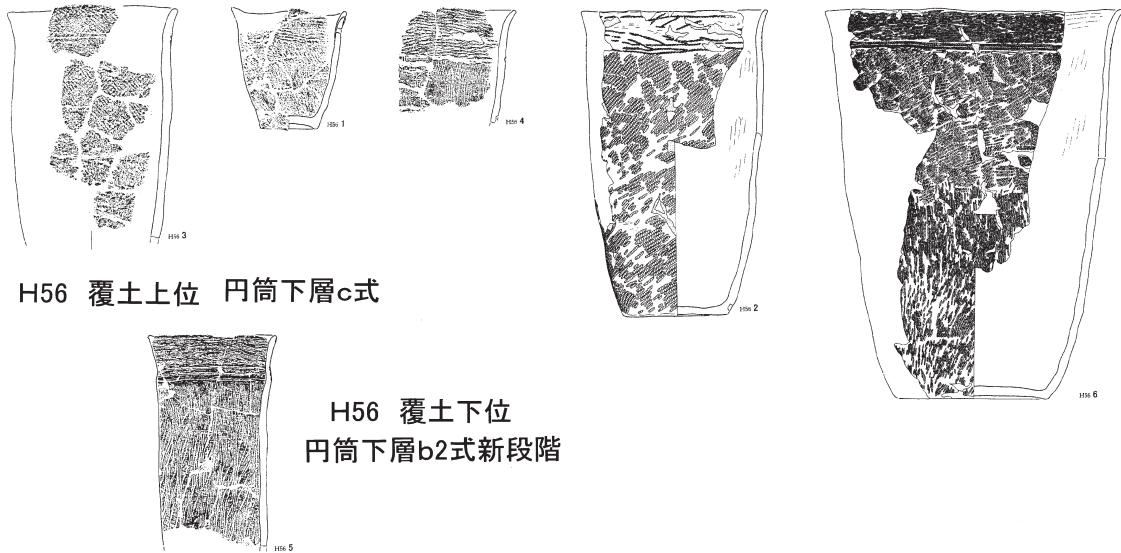
円筒下層b2～c式

「H26覆土-1～6」を円筒下層c式古段階として、これと同時期と思われる円筒下層b2～c式に



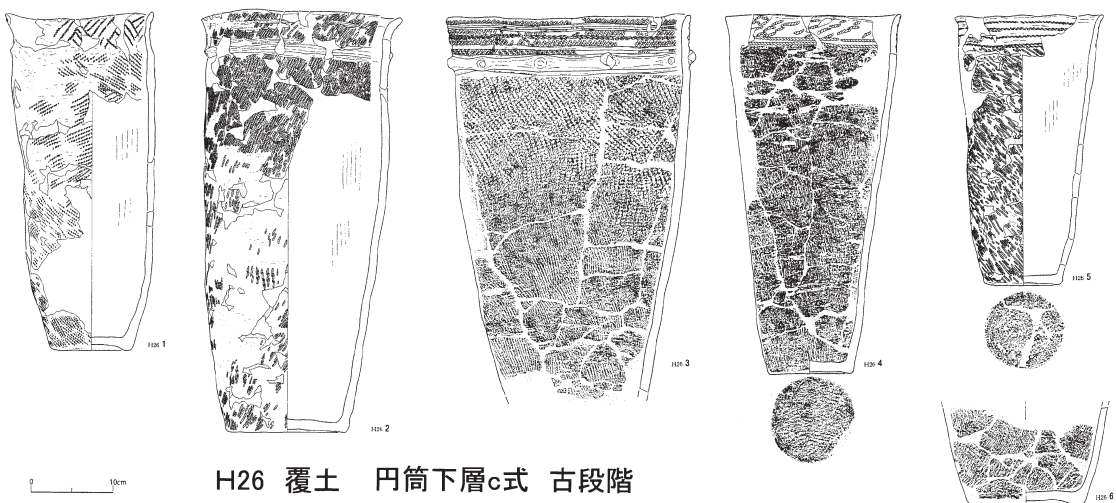
H39 床面に近い 円筒下層c式

H35 床面 円筒下層c式



H56 覆土上位 円筒下層c式

H56 覆土下位
円筒下層b2式新段階



H26 覆土 円筒下層c式 古段階

図VI-2-7 土器7 円筒下層c式



図VI-2-8 土器8 円筒下層b2新段階・b2~c式・c式

ついて検討する。一括資料として「H46覆土上位-1・2」「60R区M4-3 10月5日取り上げ」「H36覆土-1・2・5」(図VI-2-8)を挙げる。「H46覆土上位-1・2」について、連続刺突のある隆帯を持ち、口縁部文様帯に横走る条痕を持つ1は円筒下層b1式を思わせる文様構成であるが、器形が円筒下層c式のように細長い筒状である。H26-5・H46-2については口縁部文様帯が複数の縄線圧痕で構成されるタイプである。これは円筒下層b2~c式の組成中に多いものであるが、円筒下層b2式新段階から円筒下層c式にかけての深鉢の文様組成中に入ってくるものである。H26-5は直前段反撚り回転地文、H46-2は絡条体回転地文である。後者は古い要素を持つ。ただしH46の遺物番号14と62が接合した結果二個体の土器H46-1と2として復元できたものである。文様要素の新旧はあっても出土状況から同時期、円筒下層b2~c式のまとまりと考える。

「60R区M4-3 10月5日取り上げ」において、この口縁部文様帯を複数の縄線で構成する深鉢がまとまって出土している。これを円筒下層b2~c式の一括土器として捉える。二単位の突起様波頂部を持つ266、口縁部文様帯区画が隆帯で直上に円形刺突が並ぶ267、よく外反する口縁部を持ち口唇部に指頭圧痕が連続する264と形状が多岐にわたる。また縄線を施す口縁部文様帯部分の地文も胴部地文と異なる267、無文の212・223・263・264・266がある。胴部地文そのものも単軸絡条体回転の212・263・264・267、直前段反撚り縄文回転の223、L R縄文横回転の266と多様である。円筒下層b2~c式の別系統の器種・文様組成の一群として「H36覆土1・2・5」をあげる事ができる。これら三個体について、同一原体による制作の可能性はある。1と2は小型深鉢で六単位の波頂部を有する。3はH36出土土器と「58R区M4-6 10月16日取り上げ(この前後で円筒下層b2~c式が多く出土している)」の二か所から出土した大型破片どうしを接合した。接点は無かったが残存率が良く、器形を推定できた。隆帯を貼付しヘラによる刺突が連続する。口縁部文様帯には1・2の要素を併せ持つ。**「円筒下層b2~c式」初現の検討。その要素。**第VI章1項に述べたが、円筒下層b2式以前の時期は、堅穴住居廃絶後の窪みに、地点貝塚的な廃棄がみられなかったため、盛土の基底部焼土層にまとまっていた土器の変遷から型式を解釈するほかなかった。そのため円筒下層b2式と考えた個体のうち、特徴的な文様要素や出土状況、を抽出して考察する必要がある。「口縁部文様帯の縦区画文様と対向する羽状縄文」「多軸絡条体回転地文」「意図的に打ち欠いた可能性がある大型の破片」「鋸歯状文」そして「M5点取り土器群」について検討し、円筒下層b2~c式と円筒下層b2式の境界を型式学的に検討したい。以下(1)~(6)まで六項目設けた。

(1)「口縁部文様帯の縦区画文様と対向する羽状縄文」(図VI-2-9):円筒下層b2~c式を考察する上で縦区画文様が入る個体について検討する必要がある。縦区画の出現の要因のうちもっとも初現と思われるのは、結束第一種羽状縄文を対向させて菱形文様を作る文様と思われる。口縁部文様帯に結束第一種羽状縄文を横回転させ、「<」文を構成した段階で、原体上下反転して回転し「>」文を作り、対向させて「<>」菱形を形成する。この文様によっておのずと中央に正中線が発生、縦区画が現れる。

対向する羽状縄文の例をみる。型式名は総合的な判断で最終的に決めたものである。円筒下層b1式としたのは242・259・289・292・336・366・368である。289と336は胴部地文に結束第一種羽状縄文対向文を持つものである。259と366は器壁が厚く胴部中央に帯を持つ文様構成は円筒下層b1式である。帯部分に対向する結束第一種羽状縄文を対向させる。円筒下層b2式としたのは341・360・361・440・506・613、円筒下層b2~c式としたのは582、円筒下層c式としたのは233・399・404・407である。404・407は口縁部から底部際まで帯状に対向文様が連続する。399になると正中線が波頂部の中心にきて、連続刺突が対応している。399の様な発想が菱形文様と縦区画の組み合わせとなった可能性が

ある。類例として472・483がある。472から421、破片試料470・471のような文様が派生した可能性がある。また、472に水平方向の円形刺突連続と羽状の組み合わせを持つが、区画内に水平方向に連続する刺突列と42・295・296・419・484との時期的な関連性が考えられる。613は円筒下層b2式で、羽状縄文の上に鋸歯状文を施すが厳密な対応はしていない。

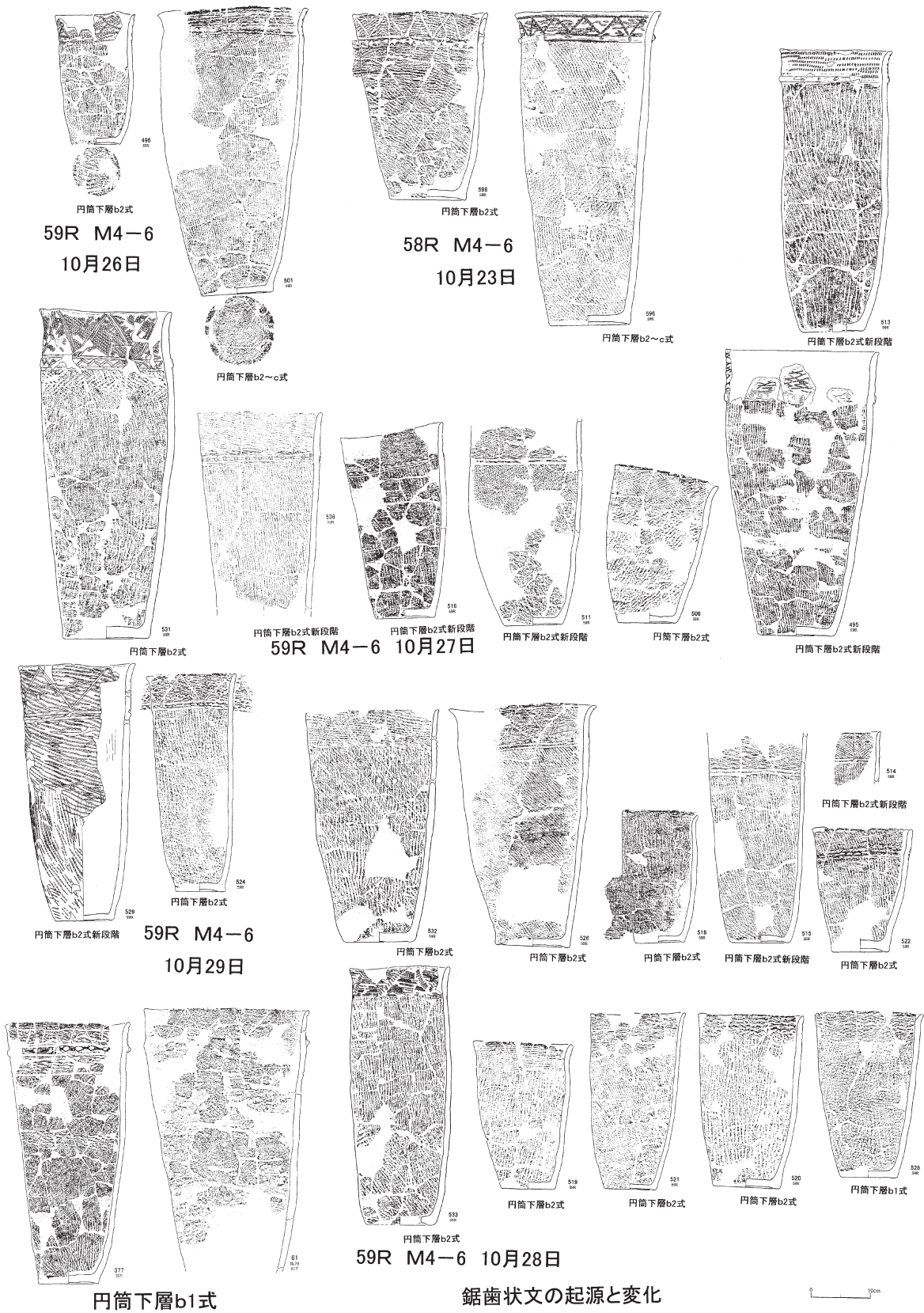
374は二本一組の縄線で縦区画を有するが、圧痕を観察すると、結束第一種羽状縄文の原体の可能性が高い。今回、対抗羽状縄文以外、縦区画が確立したものは円筒下層b2～c式にしがちであった。T型への加飾であり、縦区画以外の要素は新しいものではない。そこで円筒下層b2式の新段階とした。対向羽状縄文の原体は縦区画の縄線以外、器面のどこにも用いられていない。また網目状絡条体、単軸絡条体第5類横回転と縦区画との組み合わせる例651がある。単軸絡条体第1類と縦区画および鋸歯状的文様との組み合わせ例として666がある。いずれも円筒下層b2～c式としたが、666はM5-2点取り遺物と器形および口縁部文様帯に幅が広い等の文様構成に類似点が多く、その胎土は繊維が目立ち、円筒下層b2式の古いものに類する。一段階古い円筒下層b2式新段階の可能性があったが、口縁部文様帯の縦区画を優先した。

(2)「縦区画と鋸歯状文の変化(図VI-2-8・10)」また別系統のものとして、鋸歯状文と縦区画の融合あるいは派生という可能性も挙げられる。鋸歯状と縦区画の関連例として348・350(図VI-2-8)がある。菱形と鋸歯状文の融合形347と三個体とも同一調査区からの出土である。666と677・722・680・696といった鋸歯状文と連弧文と縦区画が融合した文様帯も存在する(図VI-2-10)。他は縦区画が確立していることから「円筒下層b2～c式」とした。単軸絡条体第5類回転文を持つ48R区666・51R区651、そして、口縁部文様に複数の縄線による鋸歯状風の文様を構成する器規格が相似の土器49R～50-R区M5-2出土の677・696は縦区画が確立していることから、円筒下層b2～c式段階とした。680は発達した隆帯と縦区画が確立していない。また680は722とよく似た個体で、単軸絡条体地紋に口縁部文様帯が発達していることから、「円筒下層b2式新段階」とした。

(3)「多軸絡条体回転地文」円筒下層b2式新段階では多軸絡条体回転地文が目立つ。623のように口縁部文様帯に横回転させるもの、545のように上から下まで縦回転地文のものは少数で多くは縦回転308・323・231、あるいはやや斜めの縦回転地文323・581・500・432である。円筒下層b1式新段階に特徴的な胴部中央からよく外反する深鉢323・667・689、筒状のもの500・545・681にみられる。

(4)「意図的に打ち欠いた可能性がある大型の破片」722(M6-2 44Y15)・700(M5-2 50R2)・405(M4-6 60Q28)・455(M4-6 59Q36)・267(M4-3 60R85)・538(M4-6 59R78)・452(M4-6 60R40)・536(M4-6 59R110)・537(M4-6 59R63)：いずれも円筒下層b2式新段階(反撚り地紋出現以降、斜行縄文地文段階の後・M5点取り段階の後)から、円筒下層b2式新段階、円筒下層b2～c式の大型破片である。722は口縁部文様帯において、連弧文が対向しており、別系統のものである。538はサルボウ貝殻条痕が口縁部に施される。537は反撚り縦走地文とゆるやかな四単位の波頂部から円筒下層c式段階のものとした。455・700・538は多軸絡条体地紋である。加えて、廃絶竪穴住居の窪みから出土した、H29-14・25・28・38・40・H36-5・H38-8・10・11・14・15が顕著なものである。H38-16・17・18はH38-15を素材として作出されている。247にも可能性がある。これは他よりも一段階古いものである。H36と「58R区M4-6 10月16日取り上げ(この前後で円筒下層b2～c式が多く出土している)」の二か所に分断されて廃棄されていた大型破片どうしH36-5や、類する出土状況を持つH29-25のように残り半分が遺跡内のどこかにある可能性を持つ。調査範囲内では見つける事ができなかった。

(5)「鋸歯状文」菱形文の検討の際たびたび出てきた鋸歯状文についてである。口縁部文様帯に、い



図VI-2-11 土器11 円筒下層式 鋸齒状文の起源と変化

わゆる鋸歯状を、沈線あるいは縄線、絡条体側面圧痕で描く土器群は何時の段階に出現するのかその消長について検討する。盛土基底部焼土層M4-6に絞って、59R区の復元個体について取り上げ日ごとに集成、検証を試みたが、他の文様要素から判断、対比したところ同日取り上げの一群でも、円筒下層b2式古段階から円筒下層b2～c式にかけてのものが混在して出土していた。また、他の文様要素との組み合わせそして対比から、鋸歯状文を有する土器が円筒下層b2式の範疇で、新旧の目安とはならなかった。Rラインは斜度がきつく遺物が下方へ動くことに加え、M4-6は一枚の土層にみえたが、複数回の成因で成り立つことがわかった。

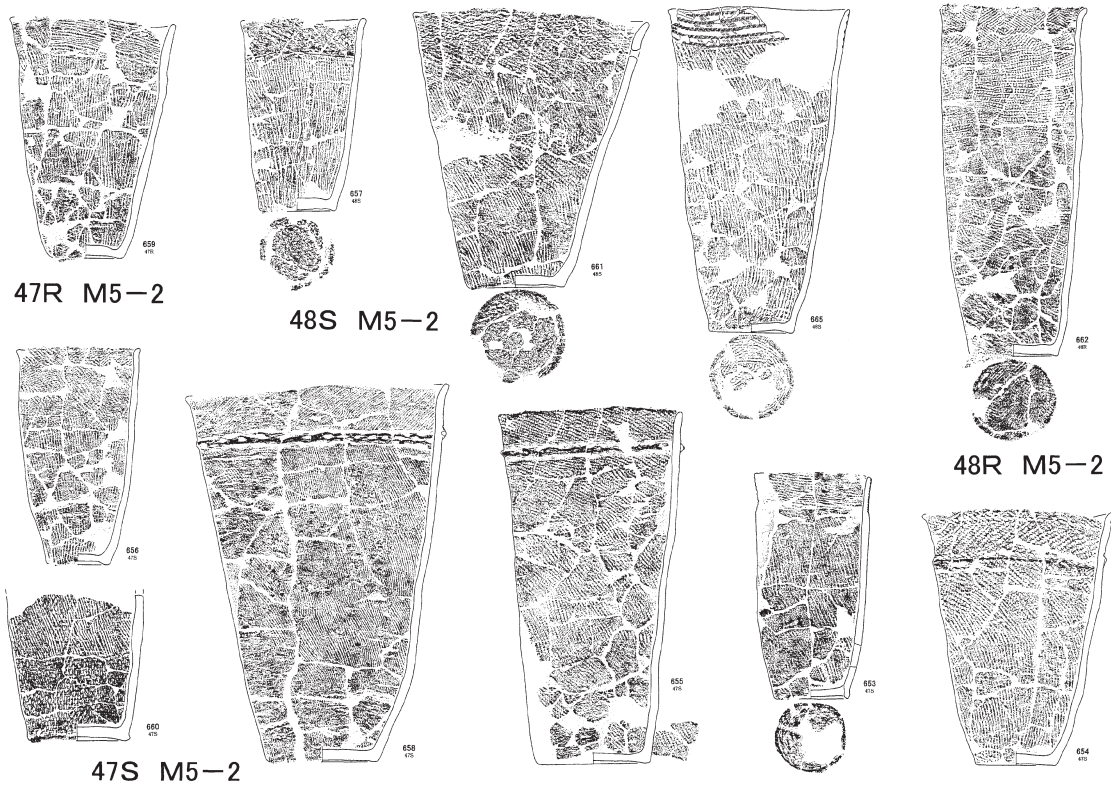
「59R区M4-6 10月26・27・28・29日取り上げ」段階を取り上げ日ごとに並べてみると26日に縦区画を持つ円筒下層b2～c式とした501と円筒下層b2式の範疇とした496が同時に出土している。496は鋸歯状文の発展した菱形文を有する。新しい要素といえるのかもしれない。隣接する調査区「58R区M4-6 10月23日取り上げ」においても、円筒下層b2～c式期の鋸歯状文596と円筒下層b2式の範疇とした598が共伴した。

「10月27日取り上げ」には円筒下層b2式新段階の土器群と共に、鋸歯状文を持つ531が出土する。531は「厚い器壁と口縁部文様帯直下に文様帯を持つ」など古い要素と同時に、「沈線による区画を持つ」など新しい要素も併せ持つ土器が共伴している。口縁部文様帯を沈線で区画する511に加えて、516や土製品の大型破片536といった円形刺突列を有する個体も共伴している。「10月28日取り上げ」には円筒下層b2式に526・532・533といった鋸歯状文の土器が共伴している。結節回転文を口縁部文様帯に持つ520・528・特に528は胴部に帯を持つ。528は縦走する縄文地文等古い要素を多く持つことから円筒下層b1式に分類したが、円筒下層b2式古段階の範疇という可能性もある。口縁部文様帯を沈線で区画する、514・515は27日出土のものと同様個体である。518は「I型」、522は爪による連続刺突を持つ。円筒下層b2式でも古い要素が混在してきている。522は胎土・器形等むしろ下層b1式を思わせる。「10月29日取り上げ」は鋸歯状文の土器のみが復元できた。器上半と下半で地文を変化させる529。沈線間に円形刺突の連続を持つ（新しい要素）が口縁部文様帯は結節回転文（古い要素）の524がある。524は胴部下半で地文が変化する。鋸歯状文はないが10月27日取り上げ516が成形等に類似点がある。

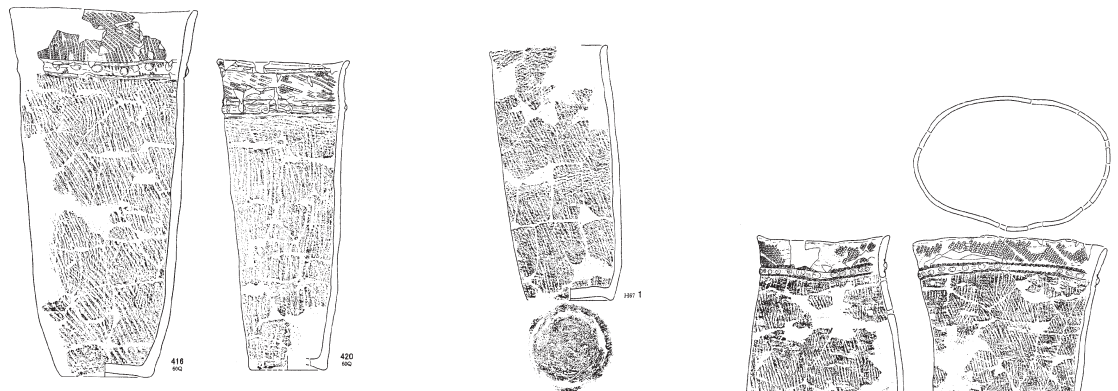
鋸歯状文を持つより古い個体として盛土出土の61・377がある。円筒下層b1式としたが、沈線による縁取りや絡条体地紋など新しい要素を持つものである。山内清男の青森県八戸市是川一王子貝塚出土円筒下層a式土器写真（1996 『画龍点睛』）にはすでにみられることなどから、大木式の影響を受けやすい地域にある他遺跡ではより古い段階からある可能性もあるが、今回は当調査区内に話を収めるものとする。鋸歯状文は円筒下層b1式の新しい時期に発生、円筒下層b2～c式にかけて存続した。

(6) 『M5-2盛土点取りの一群「点取り」と「点取り以外のまとめり」から新旧関係を探る』「円筒下層b2～c式」直前とも言える「円筒下層b2式新段階」土器群として「盛土点取りM5-2出土の一群」653・654・655・656・658・660（以上47S区出土）、657・661（同48S区）・659・662・665（同48R区）である。665のように新しい要素のものもあるがほぼ同時期と考えられる。「筒下層b2式新段階」位置付けたい。これらは堅穴住居H45、H67の埋没過程において、覆土中に入り込んだM5-2出土土器群であり、「H67床面出土（H67-1）」円筒下層b2式土器よりは新しい。661のようにM5盛土から目立って出土した、上面観が顕著な楕円形の土器はこの時期に目立って出土する。土器焼成前段階で生乾きの時に口縁部を左右から押しつぶしたような形状の土器である。円筒下層c式あるいは下層d1式のように器壁が薄い土器にもまれに見受けられるが特に顕著なものである。684が典型的な例である。

円筒下層b2新段階の確立 (1)～(6)を踏まえて M5出土遺物「円筒下層b2式新段階」との対比から、



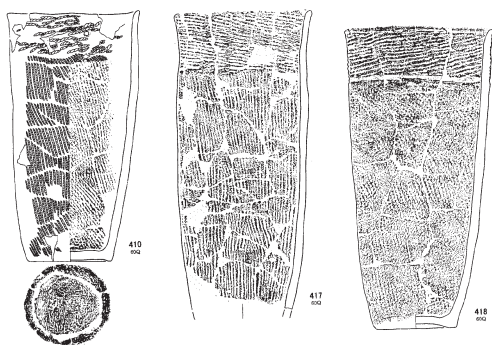
M5-2点取り土器 円筒下層b2式新段階



60Q M4-6 10月24日
円筒下層b2式新段階

M5-2点取り土器の下部
H67 床面出土
円筒下層b2式

50R M5-2
円筒下層b2式新段階



60Q M4-6 10月26日 円筒下層b2式新段階



図VI-2-12 土器12 円筒下層b2式新段階

「円筒下層b2～c式」を定義する。円形刺突が水平方向に連続するもの。縦区画があるものが挙げられる。古い要素の残存として「減少傾向」にあるものとして、単軸絡条体第5類回転、多軸絡条体回転、口縁部文様帯を肩部で区画する。等があり、新しい要素として円筒下層c式期に特徴的な正面観線対称の深鉢が確立する点などがある。先述の「60R区M4-3 10月5日取り上げ(図VI-2-8)」に加えて、「図VI-2-10 円形刺突と羽状縄文の組み合わせ・縦区画との関連性 円形刺突と縄線」に集成した一群の土器がひとつの典型と考える。

「円筒下層b2～c式」の定義 以上から「円筒下層b2～c式」を定義するならば「縄線あるいは絡条体側面圧痕を多段に押圧する口縁部の出現。円形刺突連続の多用。T型・I型消滅傾向。」を挙げる事ができる。そして「対向羽状縄文以外の縦区画が確立、鋸歯状文から縦区画分離」とでもいうべきか。M5-2点取り段階の外反器形などの要素をもっと具体化できればより境界線が明瞭になると考える。

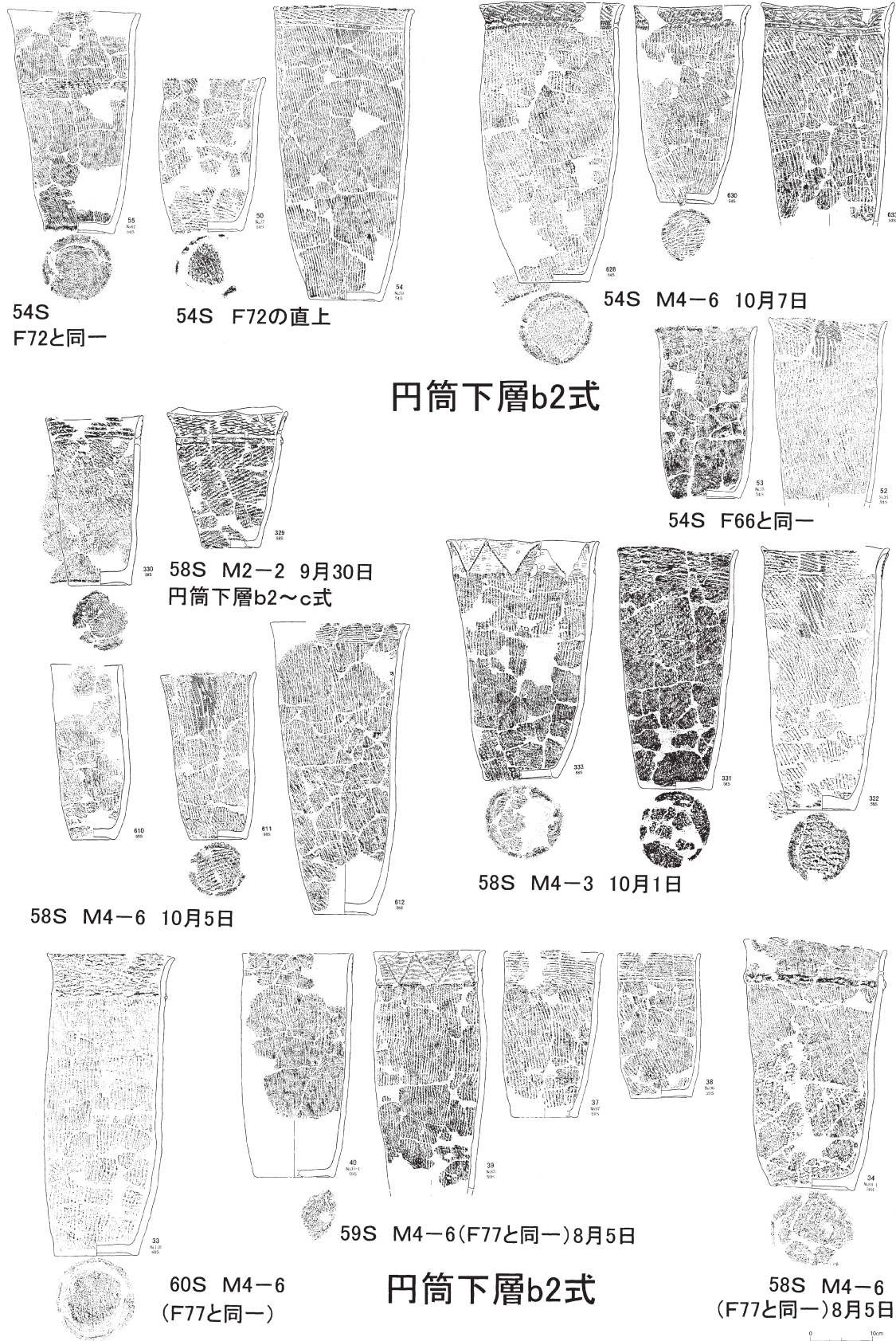
追加項目として、土器観察表(表Ⅲ-4・表Ⅳ-1)の内面調整の欄に「口縁上半形態外反の場合○」という項目がある。これは口唇部に近い、口縁部内面上端の狭い範囲のみ横方向にミガキ、その下は縦ミガキである。これは円筒下層b1式でも新しい要素を持つものには施される。そして円筒下層b2～c式で際立つ、一番目立つようになり、円筒下層d1式ではほとんど見られなくなる。円筒下層b1式では728のように口唇部内面を外側に向けて若干反らせる調整が丁寧なものにみられる。円筒下層b2～c式や下層c式では口唇部内面を外側に向けて若干反らせる調整が多い事が結果につながったと考える。

「円筒下層b2～c式」「円筒下層b2式新段階」の分類の実際 「51R区出土遺物」隆帯上に円形連続刺突を持ち、口縁部文様帯に絡条体側面圧痕や縄線を水平方向に並べる51R区M5-2出土701・48R区M5-2出土667は円筒下層b2～c式に分類した。「58R区M4-6 10月19日取り上げ(図Ⅳ-1-178～180)」の一群は572は縦区画と円形刺突の連続、574は縦区画と水平方向の縄線の連続、582は隆帯の直情直下の縄線および隆帯上の押し引く刺突列、整った口唇部など新しい要素としたものを持つ個体とそれらを持たない573・575・57が混在して出土した。前者を円筒下層b2～c式、後者を円筒下層b2式新段階とした。582は口縁部文様帯の構成や、口唇部の調整から円筒下層c式にすべきか迷った。多軸絡条体地紋の円筒下層c式もあるためである。「58S区M2-2 9月30日取り上げ(図VI-2-13)」は隆帯上に円形刺突の連続を持つ。329と330口縁部文様帯に複数の縄線を施したものである。329の口縁部文様帯には単軸絡条体第5類を横回転する。330の地文は単軸絡条体第6A類を縦に近い斜め回転で施している。これらは円筒下層b2～c式とした。その流れで、58S区の遺物の上下関係で出土遺物のまとまりをとらえたところ、「58S区M4-3 10月1日取り上げ」、「58S区M4-6 10月5日取り上げ」がある。これらは円筒下層b2式のまとまりである。層位的に331～333は下位のM4-6より新しい事になる。後者はT型・I型から構成される。34は同調査区のSライントレンチから出土したもののだが、円筒下層b1式の要素をよく残すものである。

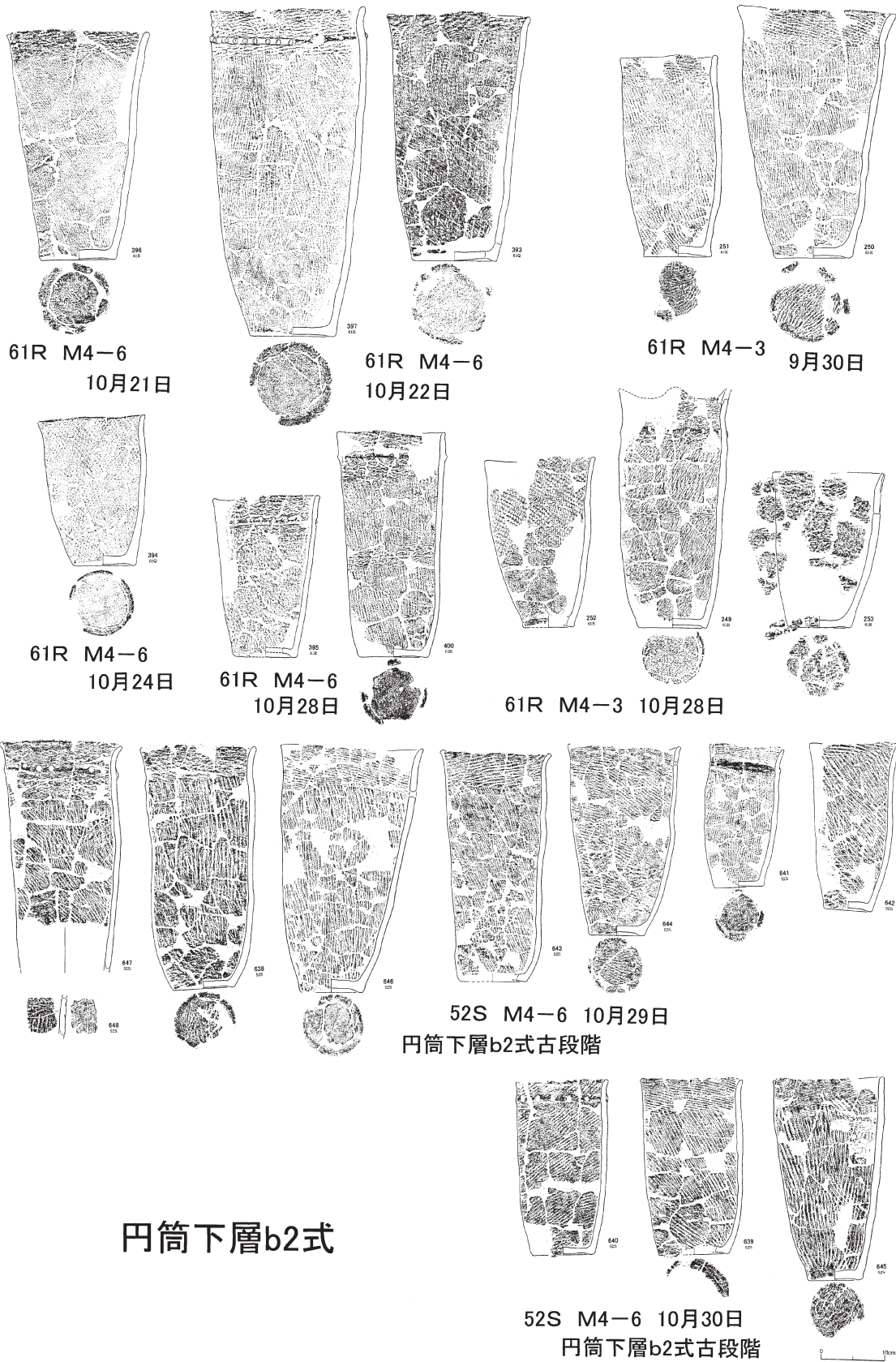
円筒下層b2式 新旧の要素を持たないもの「中盤」とでもいうべき一群(図VI-2-12・13)

「円筒下層b2式」円筒下層b2式として分類した土器は、文様要素等から、古段階でも新段階でもないものである。要素が少なく決められない、あるいは実際に古段階と新段階の間のものである。円筒下層b2式の「新段階」と「古段階」の要素を述べることにより、円筒下層b2式の変遷を検討する。

「F72出土土器とその類例(図VI-2-13)」:「54S区M4-6 10月7日取り上げ」においてF72出土土器とよく似た土器が出土している。628・630である。単軸絡条体縦回転地文で、絡条体側面圧痕で口縁部文様帯を区画、施文する。頸部とよく窄まる胴部を持つ。「54S区トレンチ出土 F72直上」出土遺物について、沈線による口縁部文様区画、文様構成の深鉢54が出土した。同一面で50も出土し



図Ⅵ-2-13 土器13 円筒下層b2式



図VI-2-14 土器14 円筒下層b2式とその古段階

た。同じ54S区において検出された焼土F66と同一検出面において52は沈線あるいは絡条体側面圧痕による加飾はないがよく似た文様構成の深鉢である。53もF66と同一検出面である。また55はF72と同一検出面であり、F77直上出土遺物と時期的な差は大きくないものとする。隣接する調査区53S区M4-6の633においても類例が出土している。50・52・53・54・55・628・630・633は円筒下層b2式中盤の様相を示すと考える。

「F77出土土器(図Ⅵ-2-13)」: F77と同一面で検出された土器群について検討してみる。これはSライントレンチ内で検出された土器で、F77は便宜上つけた名称であり、トレンチ内で検出したM4-6の事である。M4盛土基底部焼土層からの出土である。33は60S区出土であり、F74より下位でもある。円筒下層b1式を思わせる口縁部の結節回転文、隆帯上に押し引き刺突が連続する。器形は次段階特有の筒型に近い深鉢で地文も単軸絡条体縦回転である。37・38・39・40は59S区出土土器である。34は58S区出土土器である。口縁部文様帯を区画する隆帯と器形に、円筒下層b1式の影響がある。これらは多様性を持つが円筒下層b2式古段階までいかない円筒下層b2式中盤の様相と考える。

「60Q区出土土器(図Ⅵ-2-12)」: 「60Q区M4-6 10月26日取り上げ」「60Q区M4-6 10月24日取り上げ」は口縁部文様帯区画について、前者は隆帯が無く、後者は隆帯がある。後者が日時的には先行するが、刺突が円形刺突的で、隆帯直上直下を沈線で縁取る。

円筒下層b2式 古段階(図Ⅵ-2-14) 52S区出土土器 「52S区M4-6 10月29日取り上げ」「52S区M4-6 10月30日取り上げ」も60Q区M4-6と同様隆帯を持つものと持たないものが混在する。持たないものはT型的である。647は横方向に二個一組の刺突が並ぶ。648は口縁部文様帯区画に貝殻側縁圧痕が連続する。内面も貝殻条痕による調整である。640・641・647は器形と隆帯の位置関係が円筒下層b1式的である。638は胴部中央に粘土輪積み由来のくびれがある。円筒下層b1式では帯をつけて補強しがちな部分である。これらを持って、円筒下層b2式古段階としたい。

「円筒下層b2式土器の変遷」 T型とした単軸絡条体口縁部横回転胴部縦回転、I型とした単軸絡条体口縁部から底部際まで縦回転の深鉢が円筒下層b2式の古段階から新段階に至るまで普遍的に存在する(図Ⅱ-3)。口縁部文様帯と胴部地文を区画する文様を持たない。58S区M4-3の332のように肩部を持つものについてはT型の範疇に収めた。58S区M4-6において、613はT型、610・611・614は典型的なI型である。52S区M4-6の639・642・643・644・646はT型である。

以上、円筒下層b2式を概観する形となったが隆帯を持たないものはT型を基調として小型のものにはI型が混じる。隆帯を持つものについては刺突を伴うもの伴わないもの両者あるが、指頭圧痕が施文される率が下がり、新しい段階のものには円形刺突、あるいは直上直下に沈線による縁取りが残る。

円筒下層b2式について、下層b2式～c式直前の「新段階」と円筒下層b1式直後の「古段階」について様相を検討してきた。中盤というべき段階は多様性があり、「F77段階」や「F72段階」、と文様要素に新旧の特徴のないものが分類の文言上混在する結果となってしまった。後述する円筒下層b1式と円筒下層b2式古段階の連続性が高いことにも原因がある。

「円筒下層b2式 新段階」 多軸絡条体地紋の多用。縦区画の初現。単軸絡条体第6類あるいは6類風の第4類が出現。サルボウ条痕横走の出現。T型・I型がまだある。M5-2盛土点取りの一群。

「円筒下層b2式 中盤 中段階」 F72やF77に関連するとして示したもの。

「円筒下層b2式 古段階」 単軸絡条体第5類がよく用いられる。T型・I型出現。鋸歯状文がよく用いられるようになる(60S区58R区59R区M4-6 出土遺物等)。館野6遺跡高規格道路本線部分(2013)で報告された、遺物集中4がこれに該当すると考える。394などは定義次第では円筒下層a式に分類できなくもないが、出土状況から円筒下層b2式古段階とした。

「円筒下層b1式」(図VI-2-15~17)

円筒下層b1式として盛土遺構各調査区においてまとまりを複数設定できた。S~Uラインの比較的平坦面、斜面際よりやや平坦面側に分布していた。そのため斜面Q・Rラインに分布するため同一調査区でもまとまりを認知しにくい、円筒下層b2式や円筒下層c式ほど、比較検討に悩まなかった。

「60R区M4-6 10月26日27日取り上げ(図VI-2-16)」444・436・449は円筒下層b1式とした。447は隆帯に二個一組の刺突が巡り、単軸絡条体第5類が口縁部に横回転、胴部地文に縦回転する。441、429は口縁部区画に隆帯を持たないものであり、442は粗雑であるが多軸絡条体地紋である。447と共に新しい要素の混在か組成の中での一要素か不明である。

「60S区M4-3 9月22日取り上げ(図VI-2-16)」272・273のような口縁部区画に隆帯を持たないものが文様組成の中でひとつの要素と考える。277のような器形は一定量見受けられる。272は口縁部と胴部帯に結節が巡る。これが後々T型になる可能性が高い。よく似た傾向は「51S区M4-5 10月19日取り上げ(図VI-2-16)」にもみられる。

「60S区M4-3 9月23日取り上げ」「60S区M4-3 9月25日取り上げ(図VI-2-16)」も加えて60SM4-3に円筒下層b1式の一様相が見受けられる。

「59T区M4-6 10月14日取り上げ(図VI-2-15)」は557のような円筒下層b1式段階に加えて、559のように縄端による円形刺突風連続刺突を持ち、単軸絡条体地紋の新しい要素のものが混在する。また556は合捺地文、558は口縁部と胴部の帯に結節回転を持つ等古い要素がある。

「58T区M4-6 10月6日取り上げ(図VI-2-15)」は円筒下層b1式のまとまりと判断したが、614のようなI型が混在したり、615が口縁部文様帯と胴部地文が共通する縄文縦走で、口縁部文様帯直下の帯や胴部中央の帯が無かったり、円筒下層b2式段階の要素が多い一群である。

「62R区M4-3 10月22日・27日・28日・29日取り上げ(図VI-2-17)」についても、円筒下層b2式段階の要素が多い一群である。240・241口縁部文様帯と胴部地文が共通している。作りの似た247・248は胴部に帯、口縁部区画直下に文様帯を持つなど古い要素を持つ一方、器壁が薄く、単軸絡条体縦回転地紋である点が新しい。246も文様要素的には古い、文様帯を沈線で区画したり、地文が単軸絡条体であったり新しい要素を含む。

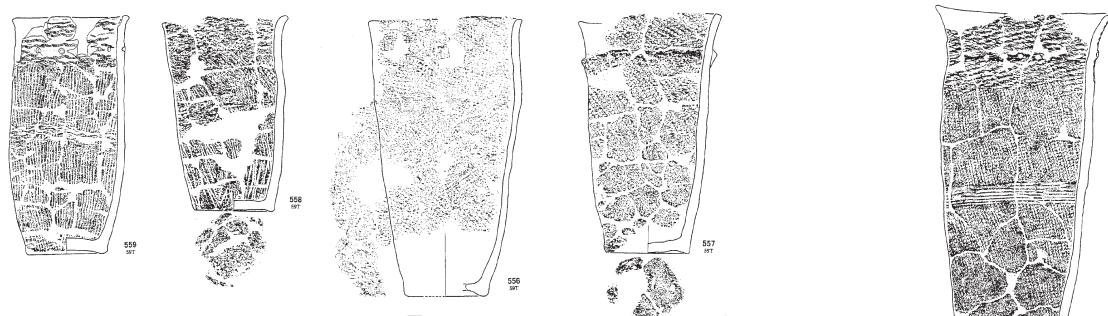
「56T区M4-5 10月7日・8日取り上げ(図VI-2-17)」は文様要素的に古い、器形について口縁部に最大径があり下窄まりな筒型という点が次の円筒下層b2式段階の組成に占める器形に似る。また555は胴部に帯、口縁部区画直下に文様帯を持つなど古い要素を持つ一方、帯が貝殻条痕の横走であったり、口縁部文様帯および直下の文様帯が単軸絡条体であったり、器壁が厚く混和剤に砂粒が多いなど、他の円筒下層b1式に比べて変わっている。

「55U区M4-5下 Bトレンチ出土7月28日・29日取り上げおよび56U区M4-5(図VI-2-17)」についても555・246のような、文様要素は古い、最大径が口縁にありそのまま他個体に比べて直線的に底部にむけて窄まり、器壁が厚い土器が組成に混じる。

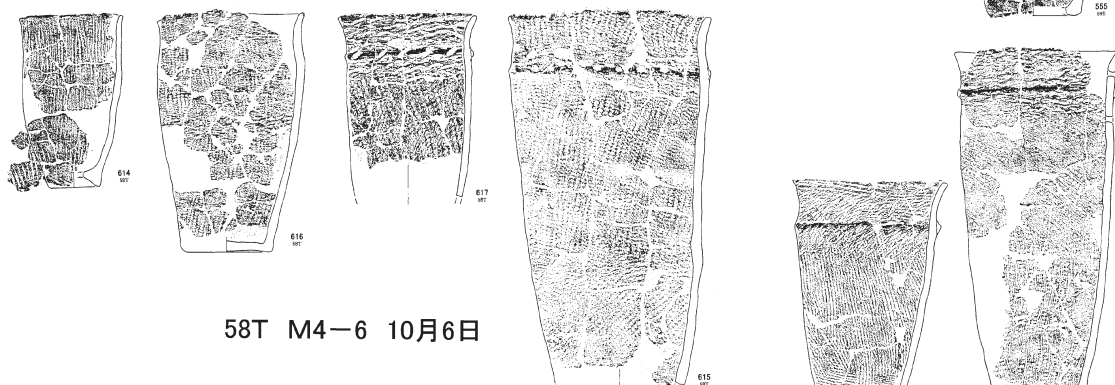
「44ZM6-2 10月31日~11月4日取り上げ」739はL R縄とR縄による付加条地文を持つ。胴部下半は単軸絡条体縦回転である。740・741の様に口縁部と胴部の地文が同じで器壁が比較的厚い。地文は反撚りで、新しい要素と言える。

当調査範囲で典型的な円筒下層b1式とは

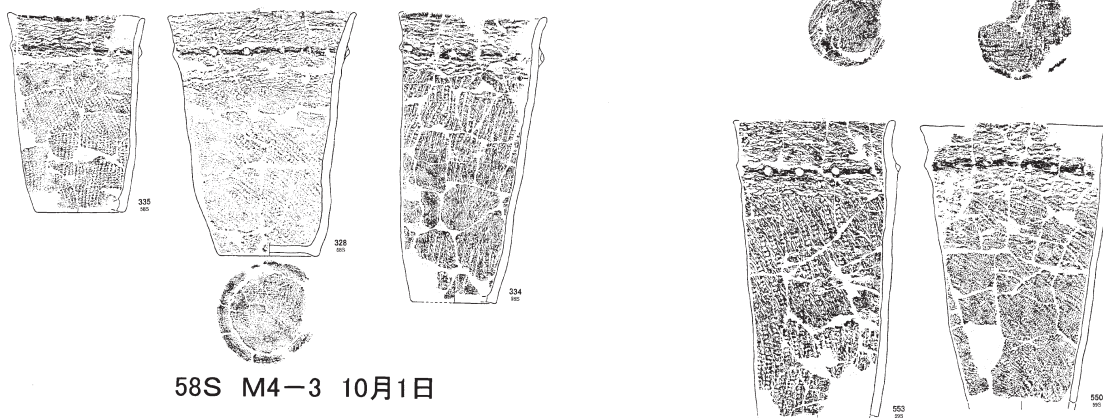
「59S区M4-6 10月7日・8日取り上げ」「58S区M4-3 10月1日取り上げ」「58U区M4-3 10月8日・13日取り上げ」を円筒下層b1式の典型的なものとして挙げる事ができる。「58U区M4-3 10月13日取り上げ328」は結束第一種羽状縄文地文である。59S区において548と552が破片上混在して出



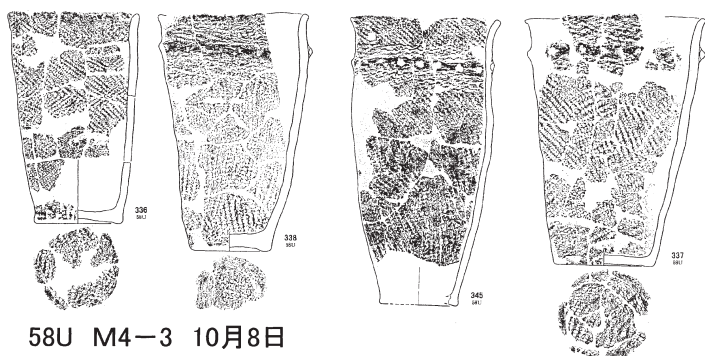
59T M4-6 10月14日



58T M4-6 10月6日



58S M4-3 10月1日



58U M4-3 10月8日

58U M4-3 10月13日

59S M4-6 10月7日

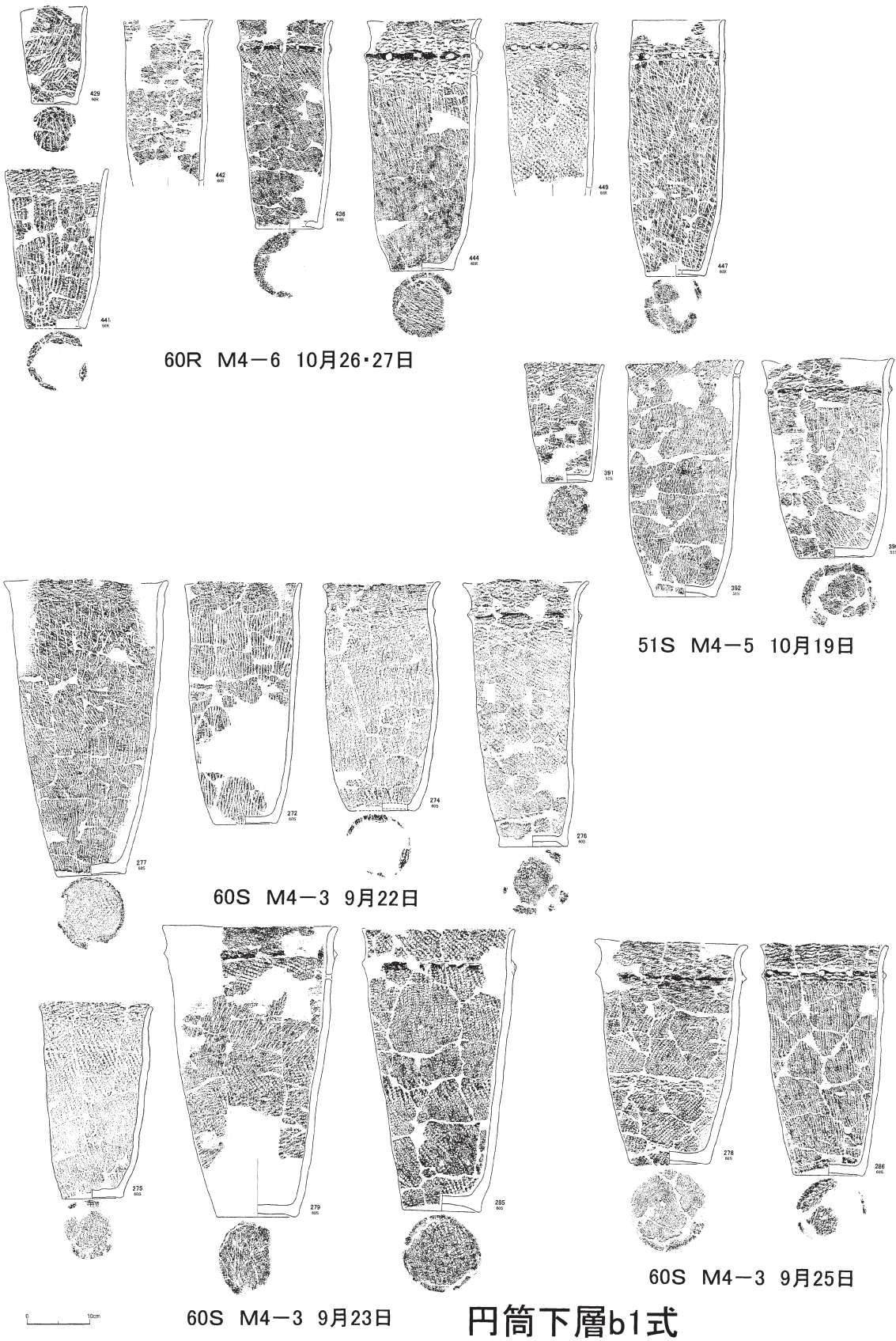


59S M4-6 10月8日

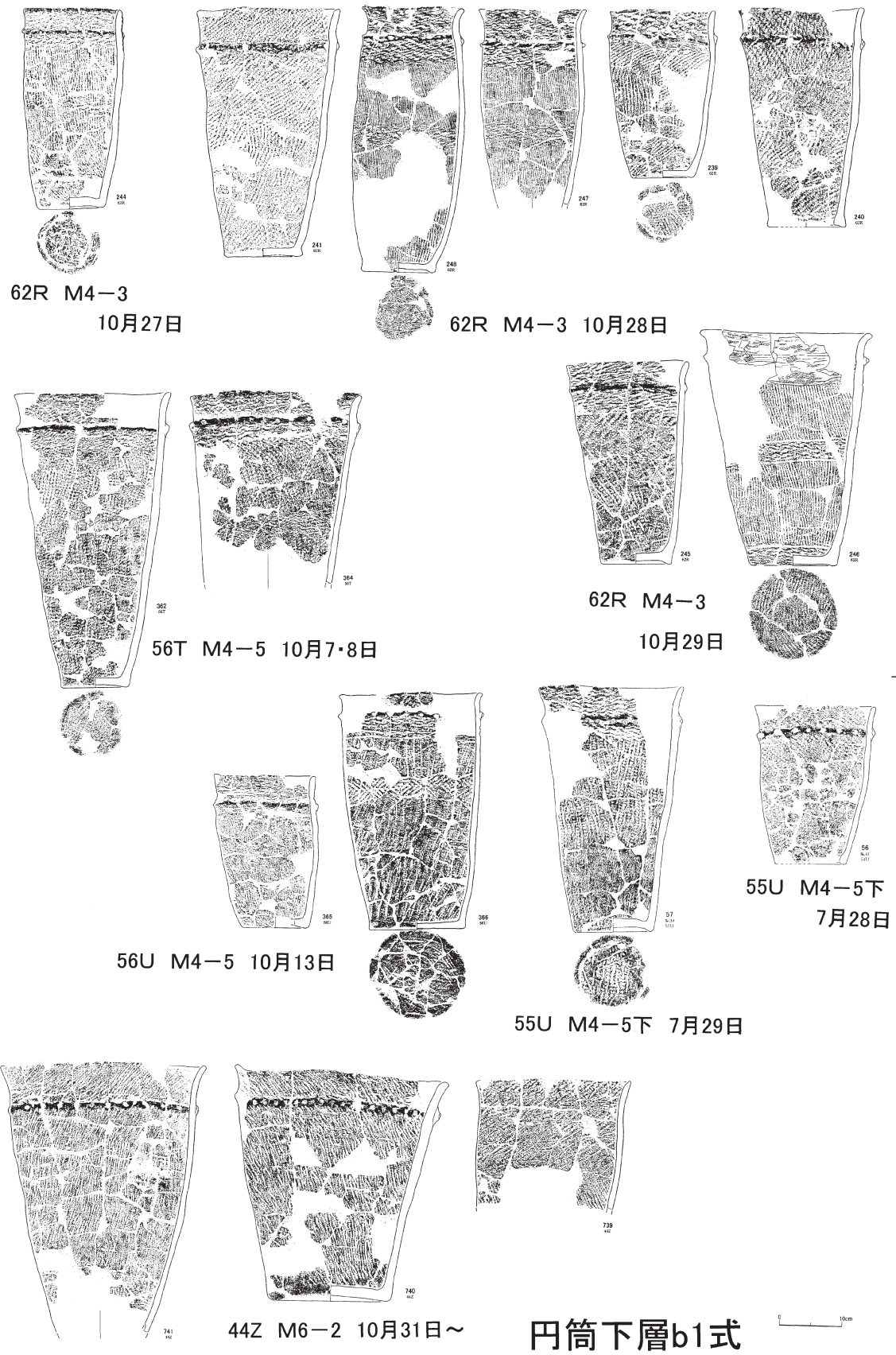


円筒下層b1式

図VI-2-15 土器15 円筒下層b1式



図VI-2-16 土器16 円筒下層b1式



図VI-2-17 土器17 円筒下層b1式

土している。548を円筒下層b2式古段階、552を新しい要素を持つ円筒下層b1式としたが、現実的に分けきれない実態がある。例えば円筒下層b1式で新しい要素を持った土器を含む一群「59T区M4-6 10月14日」「58T区M4-6 10月6日」「60R区M4-6 10月26日・27日」と円筒下層b2式古段階とした「52S区M4-6 10月29日・30日」段階では円筒下層b1式的な隆帯を持たない土器で新しい要素を持つ土器の量比で新旧をわけたとも言える。

円筒下層 a 式 394・740・741等、可能性があるものもあるが、断言できるものはない。ただし、今回、円筒下層b1式とした範疇に、椀川式が一部含まれているとも解釈しうる。

放射性年代を測定した土器：土器をとりあげた際混在していた炭化物を測定した。安全な共伴とは言い難いが試みた。HT6-1・P54-1は円筒下層b2式土器である4850年ほど前である。潰れた土器中の木炭を測定した。胎土は粗く、円筒下層b2式でも古い可能性があるが、文様要素的に言及できなかった。HT6-5～10は盛土遺構出土土器破片に混在する木炭を測定。その破片から復元できた個体を抽出した。HT6-6と7は該当する復元土器がなかった。同日同層位取り上げのものを選んだ。HT6-5・252は円筒下層b2式古段階。4950年ほど前である。HT6-1の結果より古い。HT6-6は4810年ほど前である。HT6-1の結果より新しい。492は円筒下層b2式である。HT6-1と文様は似るが、焼成が良く、新しく見える。573は円筒下層b2式新段階である。159点中128点が該当した。HT6-7は円筒下層b1式。4980年ほど前である。HT6-1より型式も年代も古い。HT6-8・616は円筒下層b1式とした。4800年ほど前である。HT6-1より型式は古いが年代は新しい。616には隆帯が無く、新しい要素を持つ、そして属する円筒下層b1式「58T区M4-6 10月6日段階」そのものも新しい要素を持つ。厳密には円筒下層b2古段階とすべきか。HT6-9は4730年ほど前である。HT6-1より大分新しい。289は円筒下層b1式、72点中59点が該当。273は円筒下層b2式、63点中16点のみ該当。同番号でも遺物に時期幅がある。木炭は273に近い時期である。HT6-10は4840年前である。397は125点中2点のみ該当、主体ではない。円筒下層b2式で、HT6-1より年代は若干新しいが型式は新しい。検討を要する。一方、土器付着炭化物は付着した土器の型式より古い年代がでた。

再生土製品：土器破片を打ち欠いて成形したと思われるものである。円筒下層b2式の項で述べた「大型のもの」、「擦り切ったタブレット状のもの（H38-15～18）」も含めると、定義は難しい。ここではおおよそ円形に整えた直径5cm以下のものについて述べるものとする。60-R～T区に分布の中心があり、周辺調査区に連続する。層位的には下位も含めたM2-2に多く分布（63点）する。平面的な分布の中心もこれと重なる。M1についても分布範囲からM2-2が黒色化した可能性が高い。M2は分布の中心が61S区にあり、M2-2とおおよそ同様な傾向にある。次にM4-3からの出土が30点と二番目に多い。M4盛土基底部の焼土層M4-6についても平面的な分布傾向はやや似ており、60R区と58Q区付近に分布の中心がある。H18～H22、H25、H29、H35、H36、H38、H39、H43、H45、P54、F82から出土がある。H20から中茶路式の再生土製品が床面のやや上の土層から出土している。円筒下層d2式古段階のH19の床面および付属遺構、円筒下層d1式か直前の時期のH25の付属遺構、円筒下層c式の時期のH35の床面、円筒下層b2式の頃のH43の付属遺構から出土しているほかは覆土から遺物が出土している。

H18、H19、H25、H43、H45、F82、P54は分布の中心から離れる。H20～22、H29、H35、H36、H38、H39は分布の中心に近い。実際分類してみてもかなり成形されて整ったもの以外は判別が難しい側面もある。

舟形をした土器：比較的大型の119、ミニチュアとも言えるサイズの165・756がある。756は焼成が悪い。共通点として楕円を基準とすると、上面観の長軸がゆがんでいる事である。楕円の長軸を想定すると、それが直線ではなく、ゆるやかな「く」の字である。

異質な土器・特徴的な土器：円筒下層b1式から下層b2式の範疇で、胎土が他個体よりきめが細かく、砂を少量含む土器がある。いずれも盛土遺構出土土器である。焼成もより良いものと思われる。最初すべてが同時期のものと考えたが、共伴関係から、236・531のように円筒下層b2式、57・246・366・377・555のように円筒下層b1式のものに分けた。236については隆帯の形状等から古段階である。隆帯上刺突の形状が57と似る。377は鋸歯状文が入る。円筒下層b1式としたが、沈線の縁取りや単軸絡条体地紋から新しい要素を持つものである。

また胎土がきめ細かく造形が際立って丁寧だった土器に、M4-3出土254とP45-1がある。P45-1は覆土中の一破片に加えて、63R区M2-2の土器破片を中心として接合した。器壁が薄く、焼成が良好である。層位、文様要素等を考慮し、円筒下層d2式段階のものとした。

146・147・204・205は条痕による施文を施す。146・147はM2-2、204・205はM2-3からの出土である。146は直線構成、147・204・205は曲線構成で施文を施す。146のように口縁部文様帯を横走る条痕で施文する例は見つけられなかったが、条痕によって曲線を描く類例は、秋田県協和町上ノ山Ⅱ遺跡遺構外出土土器、秋田県杉沢台遺跡SKF44出土遺物にみられる。時期と文様的に近隣の土器型式である、大木6式の影響が考えられる。(大泰司)

土器計測の結果：館野6遺跡の復元土器のうち口縁部から底部まで連続して復元出来た深鉢について、型式別に容量に関する数値を計算し比較した。口縁部の直径、底部の直径、器高を観察表に掲載した。ここから、円錐台の容量を求める公式 $\{V = 1/3 \cdot \pi (r_1^2 + r_1 \cdot r_2 + r_2^2) h\}$ を用いて、正確ではないが、簡易的に体積を求めて比較した。それは以下の様になる。

『簡略化して求めた体積(容量のイメージのため) = $1/3 \times \pi (3.14 \text{ を使用}) \times \{(\text{口縁の直径} \times 1/2)^2 + (\text{口縁の直径} \times 1/2) \times (\text{底面の直径} \times 1/2) + (\text{底面の直径} \times 1/2)^2\} \times \text{器高}$ 』

まずは各型式ごとに器高の度数分布を調べた(図Ⅵ-2-18左)。すると円筒下層b1式以外、35cm以上と以下にそれぞれピークがあることがわかった。円筒下層c式、下層d2式、上層a式には20cm以下の器高にも若干のピークがうかがえた。

次に各型式ごとに容量の度数分布を調べた(図Ⅵ-2-18中央)。円筒下層b1式、下層b2式古段階は6ℓのものが多い。そして下層b1ならば14ℓ、下層b2式古段階なら10ℓにもうひとつのピークが存在する。下層b2式新段階、下層b2~c式、下層c式は4ℓのものが多くなり、下層d1式ではやはり6ℓのものが多くなる。これが下層d2式になると4ℓの器に加えて12ℓ以上の器にも次のピークが出現する。上層a式だと18ℓ以上の器がある。小型の深鉢ばかりが出土したサイベ沢Ⅶ式については2ℓ以下の器がほとんどである。繰り返すがこの容量は略測であり、目安である。

次に容量を縦軸、器高を横軸にした散布図を示す(図Ⅵ-2-18右)。この散布図によると円筒下層b1式においても35cmよりやや大きい値、40cmまでいかない数値でピークがわかれることがわかる。他の散布図についても35cmでピークがわかれている。またそれぞれの容量のピーク6ℓないしは4ℓでの器高をみると35cm以上以下を問わず容量が同じものがそれぞれ並んでいる。各型式ごとに4~6ℓより大きい容量にピークがあるものはやはり器高も高いものが分布している。円筒下層c式は器高が高い深鉢は径が細くなるため容量が他型式ほど大きくならない。しかし突出して25ℓ以上の容

量を持つ器が存在する。この予兆は円筒下層b2～c式にみられるが、この時期は器高が大きい深鉢に径が太いものが多いため、25ℓの容量が際立っているもの下層c式ほどではない。この際だって大きな深鉢は円筒下層d1式段階で無くなるが、円筒下層d2式、円筒上層a式でまた現れる。ただしこの2型式については器高の高いものはほぼ比例して径も大きくなるため25ℓの器が際立って大きいということはない。サイベ沢Ⅶ式については当調査範囲においてはやはり小型のものが際立ってまとまっている。

次に器形についての分布図を作成した(図Ⅵ-2-19左)。縦軸は器高を口径で割った値。横軸は底径を口径で割った値である。これはドットが左下にいくほどバケツ型(口径が大きく、尻すぼみ)右上にいくほど細長い筒型となる。円筒下層b1式から円筒下層b2～c式にかけてドットの分布をみると、縦軸2、横軸0.6のところにおおよその中心がくる。これは円筒下層b1式でいうと器高29cmの掲載番号369、器高43.5cmの掲載番号49がこの値に近い。円筒下層b1式にばらつきがある。これが円筒下層b2式ではほぼまとまり、下層b2～c式にかけて細い筒型(右上方向)とバケツ型(左下方向)に分化していく。これと比べると円筒下層b1式は、多方向にばらついているため深鉢の器がバリエーションに富んでいるといえる。

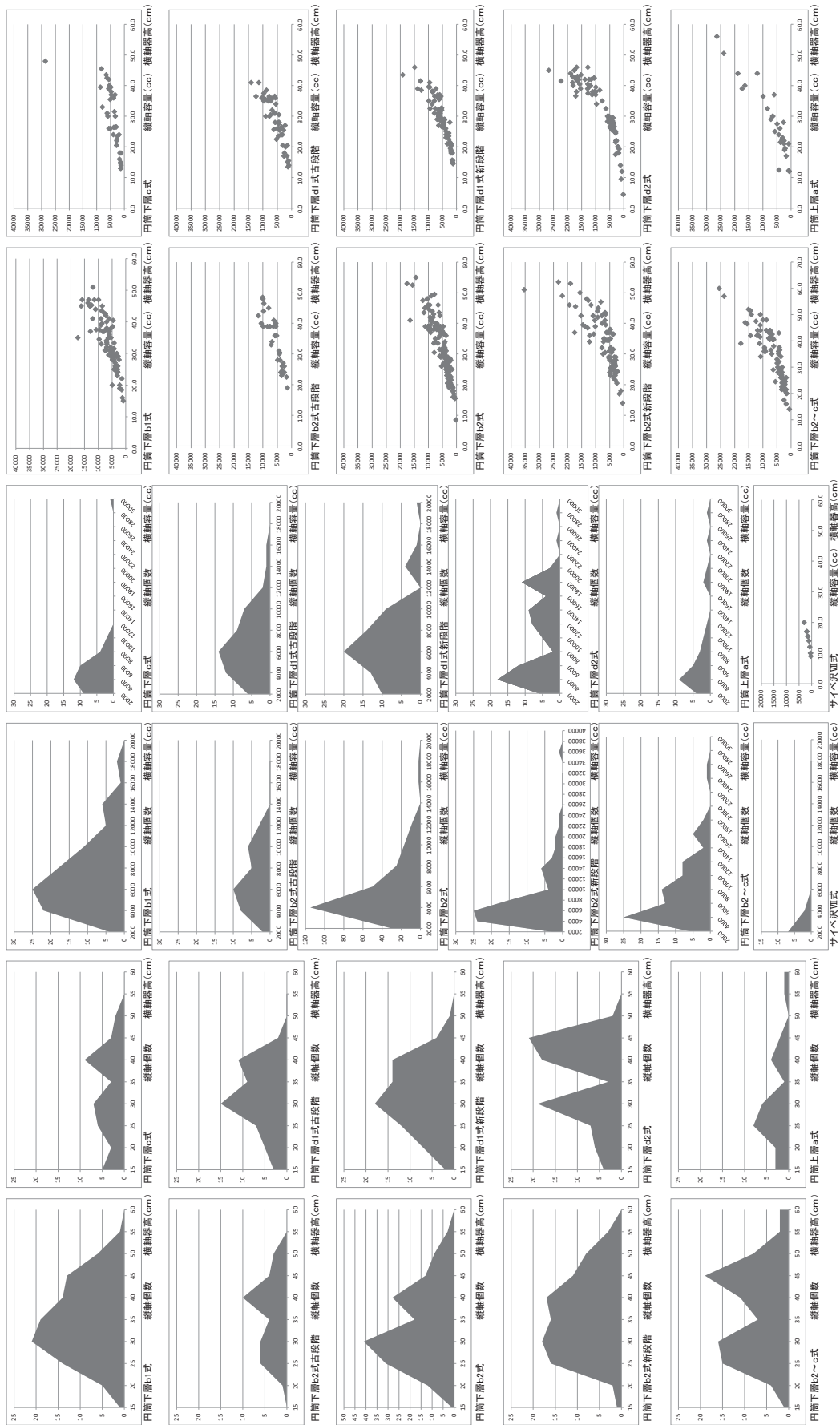
円筒下層b2～c式が右上・左下にばらつくその傾向は、円筒下層c式になると一層顕著になる。ただし容量が一定になるのは先述の通りである。

これが円筒下層d1式になると縦軸1.5、横軸0.55のところを中心にきてばらつきが少なくなる。H38-13がこの数値におおよそ該当する。この傾向は円筒下層d2式、円筒上層a式でも共通するが、この二型式ではドットのばらつきがおおよそ水平方向、ないしは右下方向に伸びる。これは、容量を縦軸、器高を横軸にした散布図で示された通り器高が高いものが径も太くなるためと考える。

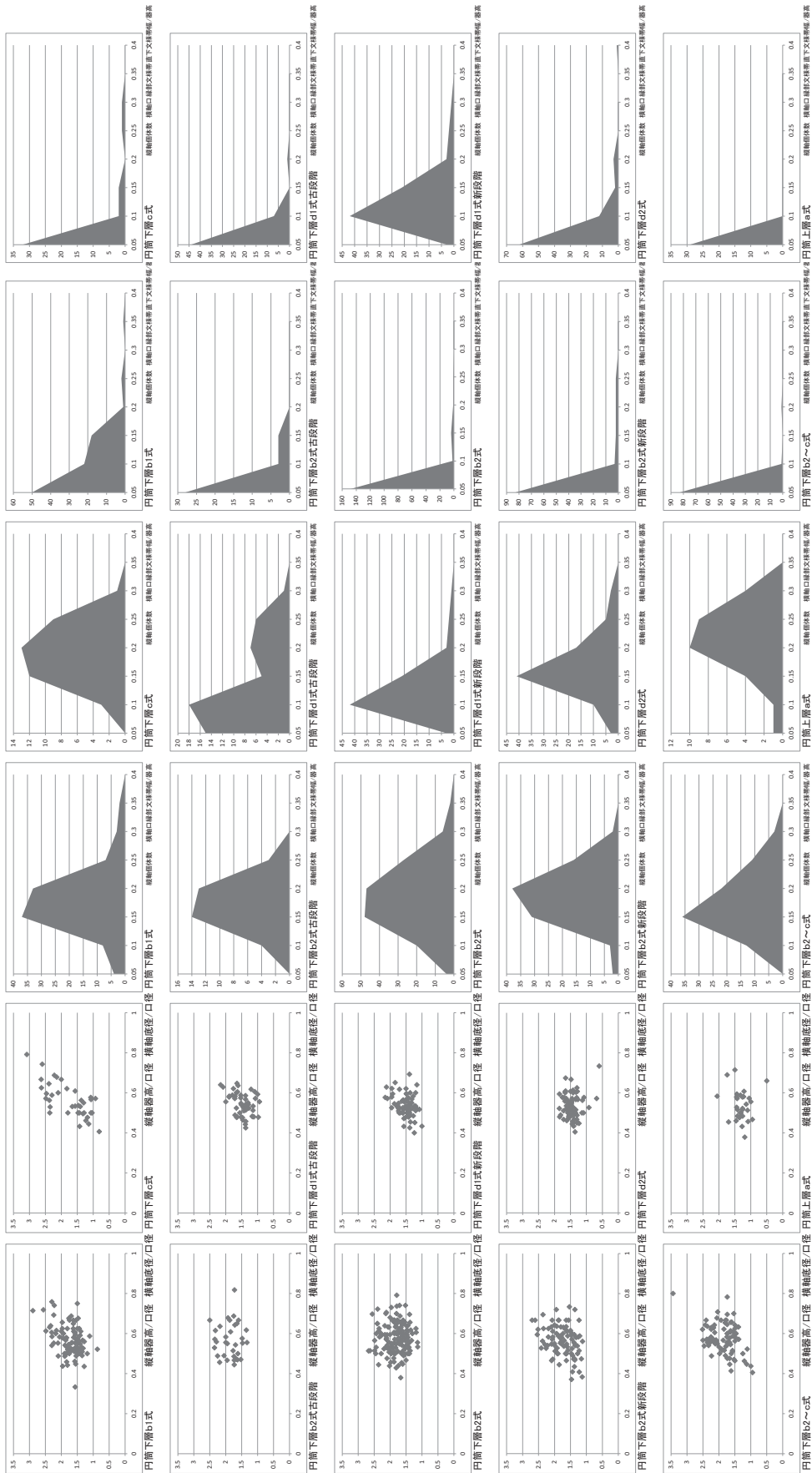
以上、深鉢の型式別器形変化を追及してみた。気を付けなければならないのは、当調査において出土した縄文時代中期サイベ沢Ⅶ式が明らかに独特な出土状況、小型で特殊な器形がまとまって廃棄されているように、この変化は当調査区独自のものである。ただし円筒下層b1式から円筒上層a式にかけては器種を問わずまとまって廃棄された状況であるため、ある程度、縄文時代前期後半の型式別の器種組成を示している可能性が高い。

口縁部文様帯の幅の変化について度数分布図を示した(図Ⅵ-2-19中央)。器高に占める口縁部文様帯幅の割合で表現している。円筒下層b1式は15%をピークに20%も多い。これは円筒下層b2式についてもおおよそその傾向がある。円筒下層b2式新段階についていうと20%をピークに15%から25%にかけて多い。数値上は幅広になったわけである。これが円筒下層b2～c式については15%の側にピークが戻り、c式についてまた20%がピークとなる。個体数に差があるため、この三型式に関しては、幅が広がったものと考ええる。

ではここで、円筒下層b1式を例にとると、10%は279、15%は444、次に円筒下層b2式新段階を例にとると、20%は654・672、25%は212となる。ここで注意すべき点がある。具体例とした円筒下層b1式は器壁がまっすぐで、円筒下層b2式新段階は器壁が外反して傾いている事である。これは先述の器高/口径と底径/口径の分布図に立ち返るとたしかに円筒下層b2式新段階の方が下層b1式と比較してバケツ型にドットが傾いている。下層b2～c式、下層c式についても同じである。つまり口縁部文様帯幅と器高の割合で出した比率のため、底面から口唇の長さが同じであっても外反器形の方の器高が低くなるという点である。つまり文様帯幅が広い割合でやすい。ただし下層b2式新段階から下層c式にかけては細い筒型器形も増えるため包括的にみるとこの時期口縁部文様帯は幅広くなるものと考ええる。これは出土深鉢全体を概観した際の印象とも合致する。



図VI-2-18 土器18 土器計測結果グラフ1



図VI-2-19 土器計測結果グラフ2

これが円筒下層d1式になると10%前後に幅が狭くなるこれは幅広い円筒下層c式土器の口縁部文様帯の口唇側が口縁部文様帯となり、下側が多段化した帯となるためである。円筒下層d2式ではこの下層d1式の文様帯が15%程度に広がってくる。そして円筒上層a式で20%をピークに25%にかけて多い結果となる。そのまま幅広くなり続けたということである。

次に口縁部文様帯直下文様の幅と器高に対する割合の度数分布図を概観する(図VI-2-19右)。0.05の項目に「0」つまり直下文様無しが含まれる。概観すると口縁部文様帯直下文様は円筒下層b1式で出現し、円筒下層b2式古段階が古い文様要素として引き継ぎ、円筒下層b2式新段階に至る。円筒下層b2~c式・円筒下層c式にも若干残る。しかし円筒下層c式では多段の対向する結束羽状縄文なども含まれ、これは円筒下層d1式の多段の帯につながっていくいわば新しい系統のものと考えられる。この次に口縁部文様帯直下文様がピークを迎えるのは円筒下層d1式新段階である。これは円筒下層d1式に出現した先述の多段の帯に由来する結束部分の回転施文である。結束第二種羽状縄文あるいは結束部分を帯状に口縁部文様帯直下に施す。これは円筒下層d2式まで引き継がれるが、円筒上層a式ではなくなる。ただし当調査範囲には無いが、円筒上層a式成立の頃に口縁部文様帯直下に斜行縄文を帯状に施す場合がある。木古内町大平遺跡(2016)P-60の1函館市西桔梗1遺跡(1998)NH-6の1等である。(大泰司)

3 石器

今回出土した石器について、一括性の高いもの、遺跡の特徴を示していると考えられる器種を示す。またつまみ付きナイフ、石鏃、石槍又はナイフに分類したが、定義的にあいまいな点が発生した。とくに「つまみ」と呼ばれる装着部を持つ石器に多い。分類をまたいで共通項がある石器を示した。

石鏃の一括資料：P43から17点の石鏃がまとまって出土した(1~17)凸基有茎鏃(1)やそれに類した形状の五角形鏃(2)と柳葉形に近い尖基鏃(3~17)が共存する。北東北地方の慣例に従い、先細りに尖った方をすべて上にしたが、11~17のように作り出しが長いものについては基部の可能性もある。このような石鏃を集中して埋納した土坑については小笠原雅行(2010)に詳しい。類例として青森市石江遺跡DSK-4023・5079・5078・6088・6095・6106・6122・6123があり、6088・6123等形状の異なる石鏃が埋納されている場合もある。秋田県大館市池内遺跡SKS-208・386・387・394・408も類例であるが、208・386・394・408は土器を伴う。2014年に見学にいった青森県立郷土館には石江遺跡、秋田県立博物館には池内遺跡の上記の土坑に関連する展示があった。

黒曜石製のつまみ付き石器：全体の形状によって器種名を変えたが「つまみ」が特徴的である。つまみ付きナイフか石鏃か不明瞭なものがある。H39-5(覆土出土)、H60-2(覆土出土)、H62-4(覆土出土)には、明瞭な刃部の残存はなかったが、刺突部がないため、つまみ付きナイフとした。H41-3(覆土出土)はつまみ部分のみ作り出したRフレイクである。明瞭な刺突部を持ち、あるいは持っていたと思われる、おおよそ線対称な形状のものは石鏃、石槍またはナイフとした。小型の13・22・28・29は石鏃、やや大きめの105・106・109・120・121は石槍又はナイフとした。190~196・206・221・222・238~241は若干の刃部があったため、つまみ付きナイフとした。191以外は刺突部が無い。191は装着部の角度等、非線対称な形状なので石槍又はナイフとした。

線対称で両面全面調整の刺突部分を持つもの：相対的に厚さが薄く、握じれやそりが少ないものを石鏃46、あるいは石槍又はナイフ92とした。134・135・182は刺突部とつまみが明瞭であり、つまみ付きのドリルとした。136・143・145・154・156・171・179・181・185は比較的厚みがあったり握じれがあったり、刺突部が丸みをおびたものであり、ドリルとした。136・145は石鏃の転用という可能性がある。

反りのある比較的大型の刺突具：比較的大型で、反りが著しい刺突具である。縁辺の表裏に調整がおよぶ68は線対称のため石槍又はナイフに分類した。他はドリルとして分類した。H37-5（床面出土）、178のように両面全面調整のもの。138・165・188は素材の形状をそのまま生かしている。188は船底型的だが、いずれも剥離は人為作用が加わる以前のもので、石核というより棒状素材を生かした結果のものである。

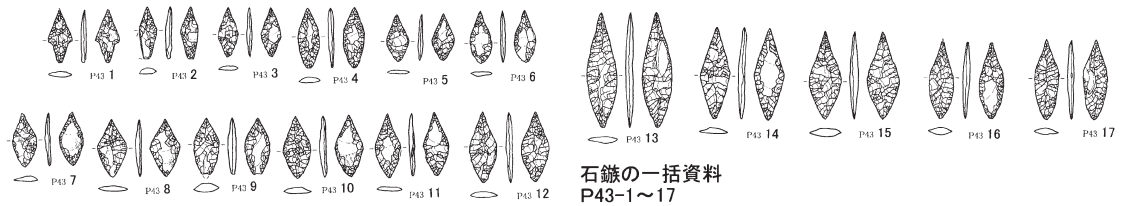
頁岩以外の素材で作られた石槍型石器あるいはその未成品：片岩石槍：板状剥離する素材を打ち欠いた石槍である。H31-4（床面出土）・H39-7（覆土出土）・H60-3（覆土出土）・H62-2（覆土出土）・74・78・93・94・95・97は石槍又はナイフに分類した。H62-2は先端を、680は全面を研磨によって整える。P56-2（覆土出土）・479は両面調整石器としたもので未成品の可能性はある。680はつまみを作りだし、石製品とした。先端は鋭くないが、黒曜石製のつまみ付き石器に類するものとする。片岩石槍と形状・質感が類似するものとして、凝灰岩製の67・131、礫岩製の79、砂岩製の96・98、流紋岩製の132・133がある。

線対称で両面全面調整の刺突具、装着部のくびれが比較的浅い：石鏃、ないしは石槍又はナイフ、ドリルといった器種が想定できる。H38-3（覆土出土）・H43-1（床面出土）は刺突部を筒状に作り出し、厚みがあるものをドリルとした。刺突部が先端まで平たいものについて、比較的小型の23・44を石鏃。おおぶりの103・107を石槍又はナイフとした。

49R区M5-2からまとめて出土した細長い刺突具：エイの棘部をおもわせる119、際だって細長い118が目立つ。49R区M5-2から出土した。おおよそ類似した形状のもの、116・117・118・119がそれに該当する。117は先述の「線対称で両面全面調整の刺突具、装着部のくびれが比較的浅い」に類するとも言えるが、まとまりとして捉えた。周囲からは円筒下層b2式の新しい段階のものが復元されている。

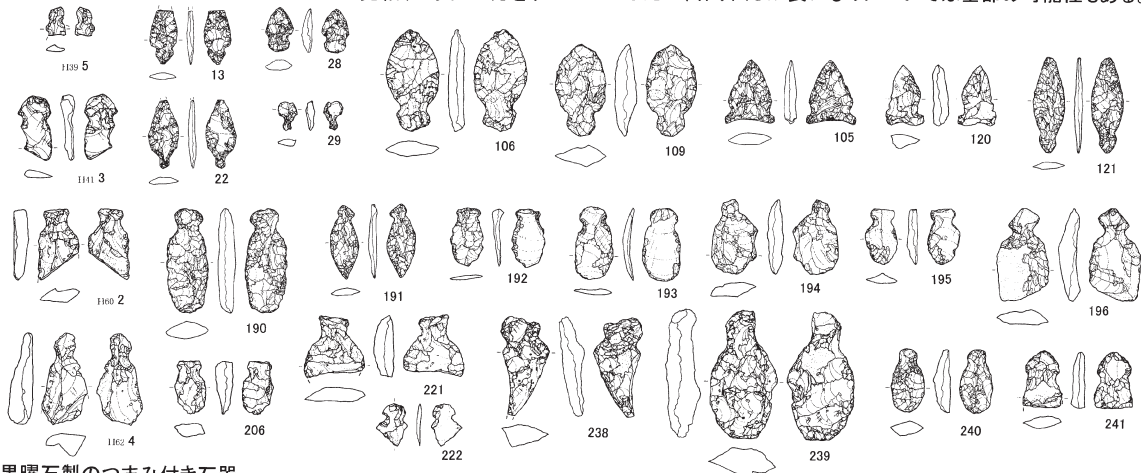
明瞭な「つまみ」を持つ石槍又はナイフ：線対称で、両面全面調整比較的厚みが無い76・77・85・86・108・129・130をこれに当てはめた。円筒下層式の報告書においてありがちな分類であるため踏襲してみた。H29-5は（覆土上位出土）比較的厚みがあるためつまみ付きナイフとした。

腹部中央側面に張り出し部を持つ刺突具：いずれも近隣調査区同一層位からの出土である。まったく同時に出土する事例が二件あった。H18掘り上げ土出土1～3は縁辺のみの調整である。2と3は52S区で同時に出土した。形状に類似点がある。1については小型でつまみ部分を持つ。「つまみ」の装着部を有する89・90・91が57～61S区M4-3と比較的近隣調査区からまとめて出土した。線対称で、両面全面調整のため石槍又はナイフに分類した。89は先述の「線対称で両面全面調整の刺突具、装着



石鏃の一括資料
P43-1~17

先細りに尖った方をすべて上にしたが、作り出しが長いものについては基部の可能性もある。



黒曜石製のつまみ付き石器

形状によって器種を変えたが「つまみ」が特徴的である。つまみ付きナイフが石鏃か不明瞭なものがある。

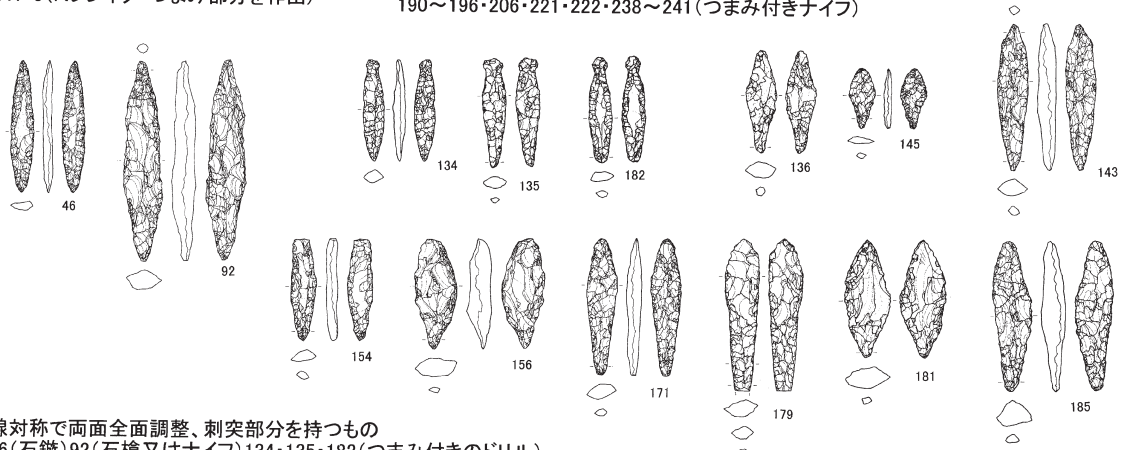
H39-5・H60-2・H62-4(つまみ付きナイフ)

13・22・28・29(石鏃)

105・106・109・120・121(石槍又はナイフ)

H41-3(Rフレイク つまみ部分を作成)

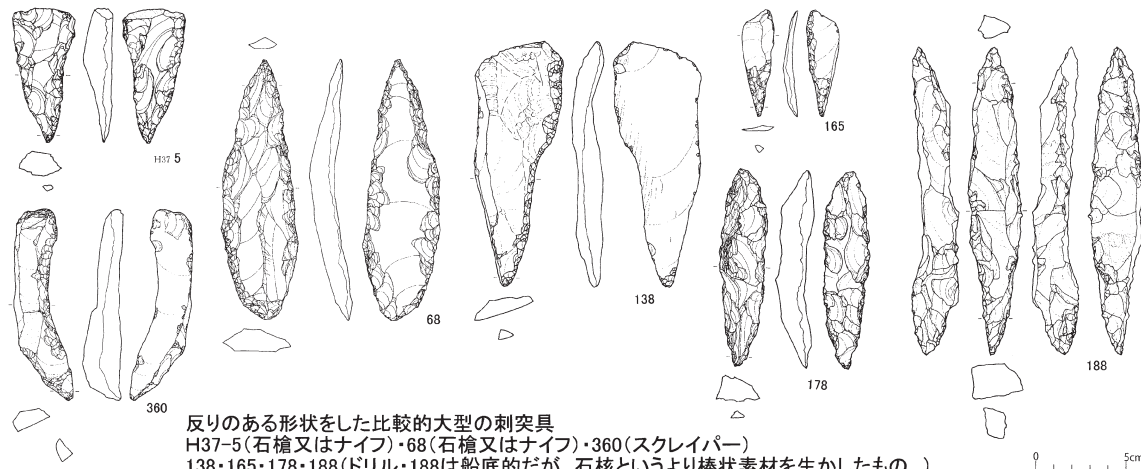
190~196・206・221・222・238~241(つまみ付きナイフ)



線対称で両面全面調整、刺突部分を持つもの

46(石鏃)92(石槍又はナイフ)134・135・182(つまみ付きのドリル)

136・143・145・154・156・171・179・181・185(ドリル 136・145は石鏃の転用か)



反りのある形状をした比較的大型の刺突具

H37-5(石槍又はナイフ)・68(石槍又はナイフ)・360(スクレイパー)

138・165・178・188(ドリル)・188は船底的だが、石核というより棒状素材を生かしたもの。



図Ⅵ-3-1 石器1 石鏃・石槍又はナイフ・ドリル・スクレイパー

部のくびれが比較的浅い」に類するが張り出し部分が鈍角的に対応する。59T区M4-6から同時に出土した176・177は線対称で両面調整、先端および筒状のつまみ部分を持つ。全体に丸みを帯びたもの。ドリルに分類した。周囲からは円筒下層b1式の新しい段階のものが出土している。類例がまとまって出土している遺跡として函館市南茅部地区八木A遺跡（南茅部町1995）（図VI-3-11）がある。図上での対比では当遺跡と比較して厚さが薄くみえる。円筒下層a式の前後の頃と思われる。石の錐ではないが、伊達市北黄金貝塚A'地点に骨角器刺突具で類例がある（伊達市2013）（図VI-3-11）。この貝塚は、円筒下層c式まで存続していたと考えられる。

両面調整の石器：H34-2、H39-9は素材の形状から剥離が及ばない場所がある。88・101は上部に刺突部が正面観について丸みを帯びる。これ以外のもは両面全面調整で、全体の形状は丸みを帯びる。H31-1、H39-9は覆土出土。厚みがあり、裏面が甲板風のため、両面調整石器とした。H34-2と3は覆土東側出土で、裏面が平坦なため両面調整石器とした。88・101は比較的薄く、線対称の形状から石槍又はナイフとした。273・282・288・382・318・386・396・400・405・408はスクレイパーに分類した、両面全面調整の石器である。273・282・288・382は線対称で長楕円形の正面観を持ち筒状のものである。

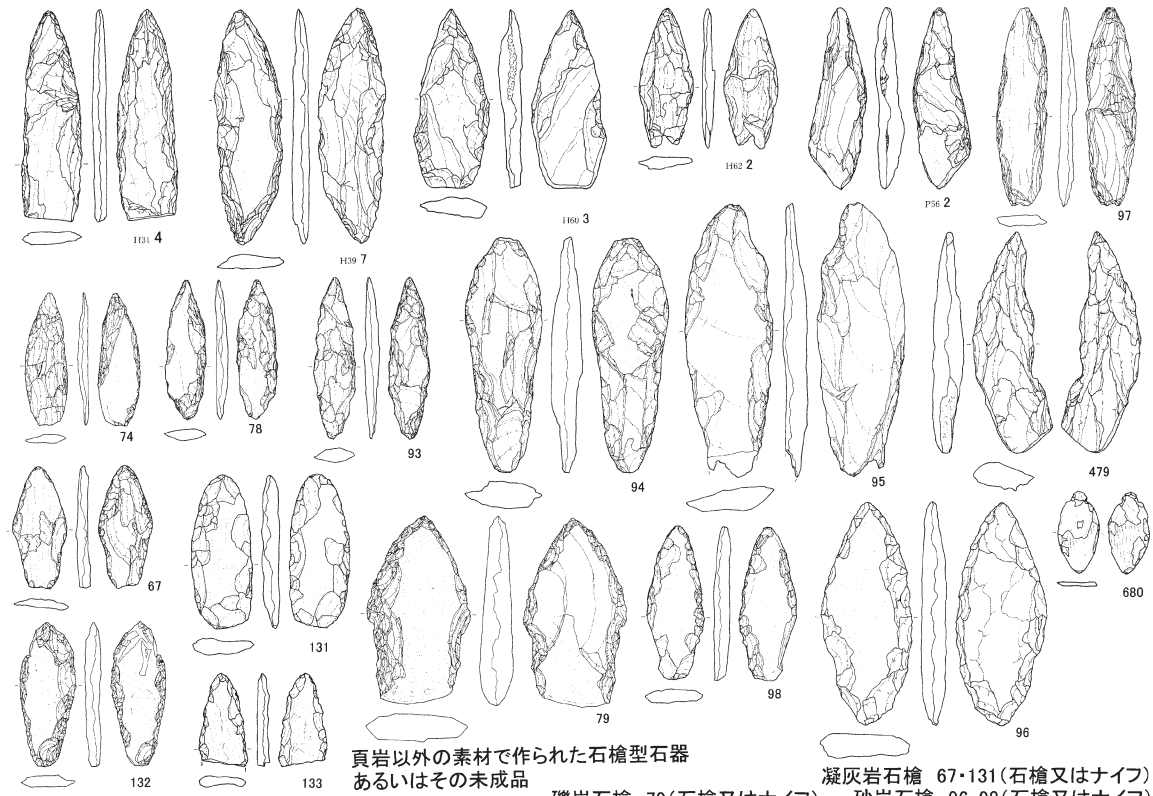
装着部付き削器：横長のつまみ付きナイフ、あるいは長軸の両端又は片端に装着部と思われる「挟り」を有するスクレイパーを集成した。H39-11は覆土出土で、唯一の両面全面調整。覆土出土のH58-2と322は装着部が「つまみ」に類しており、顕著なため、つまみ部分を水平、横長にして図化した。269・304・317・336・407 上端、下端ともに「挟り」が明瞭。これを装着部と想定した。246・249・254・259・325「挟り」が片側のみ、あるいは不明瞭。322は二つのつまみが正面観に対して線対称であったため、石製品的だったが、スクレイパーとした。

頁岩製石器に石鋸的擦痕があるもの：H67-1は床面出土、73は石槍又はナイフ、614は石鋸に分類した。H67-1と73は「石槍又はナイフ」の両側縁に石鋸の使用痕のような擦痕があるものである。木古内遺跡H12出土遺物103・104に類例がある。

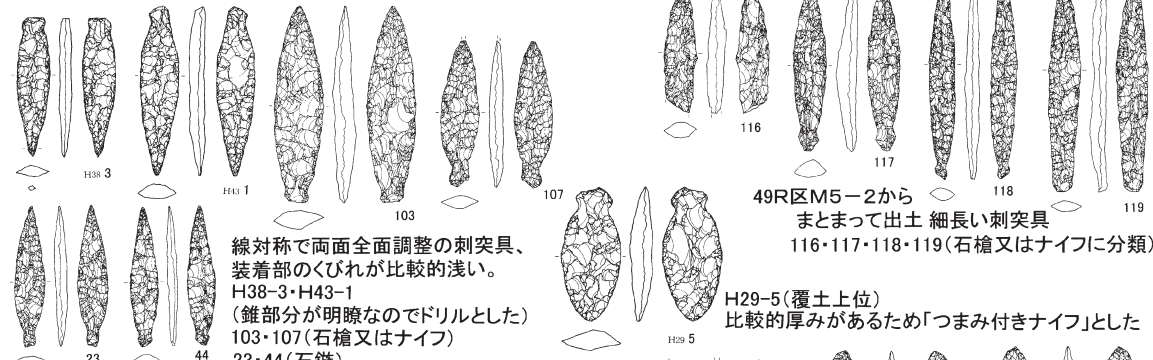
円筒下層式に特徴的な、儀式的要素を思わせる石槍又はナイフ（異形石槍）：齊藤 岳（2010）によって異形石槍と称した石器の類例と考える。127は全体の形状から石槍又はナイフに分類した。651は異形石器の一部としたため石製品とした。しかし、掲載図の上下を反転すると127に類する石槍の基部の付け根という可能性がある。

舟形をした石器：H28-1は覆土2層出土、断面正方形で厚みがあるため石核に分類した。271・272は横刃だが搔器的な刃部を持つスクレイパーである。458・459・469・472は相対的に薄く正面観が線対称なため両面調整石器に分類した。458・459が出土した57R区M2-3はフレイクチップがまとまって出土したため周辺調査区内において接合作業を試みた。すると調査区内、同一層位、あるいは、層位、調査区をまたいでの接合例が見受けられた。

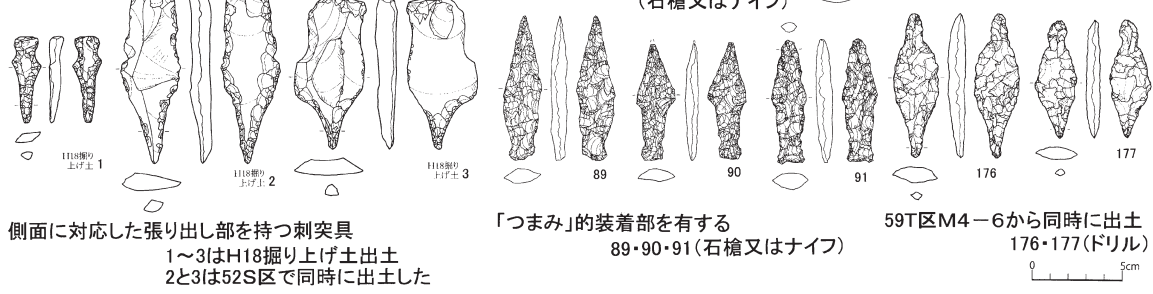
中でも良好な接合状況を示したのが459であった。三分の一スケールで459の図を再録した。459は実測図の展開を、接合図に合わせて甲板面を正面とした。459は接合状況の実測図で、459は接合した剥片の属性図である。57R区M2-3は円筒下層c式四単位の波頂部と対応する区画文様の土器がまと



頁岩以外の素材で作られた石槍型石器
あるいはその未成品
片岩石槍 H31-4・H39-7・H60-3・H62-2(磨製)・P56-2(未成品か)
74・78・93・94・95・97(石槍又はナイフ) 680(石製品) 479(両面調整石器)
礫岩石槍 79(石槍又はナイフ) 凝灰岩石槍 67・131(石槍又はナイフ)
砂岩石槍 96・98(石槍又はナイフ)
流紋岩石槍 132・133(石槍又はナイフ)



線対称で両面全面調整の刺突具、
装着部のくびれが比較的浅い。
H38-3・H43-1
(錐部分が明瞭なのでドリルとした)
103・107(石槍又はナイフ)
23・44(石鏃)
H29-5(覆土上位)
比較的厚みがあるため「つまみ付きナイフ」とした
49R区M5-2から
まとめて出土 細長い刺突具
116・117・118・119(石槍又はナイフに分類)
明瞭な「つまみ」を持つ石槍又はナイフ
76・77・85・86・108・129・130
(石槍又はナイフ)



側面に対応した張り出し部を持つ刺突具
1~3はH18掘り上げ土出土
2と3は52S区で同時に出土した
「つまみ」的装着部を有する
89・90・91(石槍又はナイフ)
59T区M4-6から同時に出土
176・177(ドリル)
5cm

図VI-3-2 石器2 石槍又はナイフ・ドリル・両面調整石器

まっていた。一概には言えないが分布の特徴が一致しているため、この土器の時期ないしはこの直後の時期という可能性もある。

接合状況から素材・原石のもともとの形状がおおよそ舟形の素材と考えられる。類例として亀甲型風の石核435・439が挙げられる。舟形のものよりも長軸が短い、半球状のものと考えられる。

表VI-3-1 石器 接合資料一覧

掲載番号459と接合した

層位	調査区	遺物番号	点数	分類	備考	
M2-3	57R	65	1	両面調整石器	掲載番号459	9月14日
M1	57R	31	6	フレイク		9月8日
M1	57R	302	1	フレイク		9月8日
M2-3	57R	39	1	フレイク		9月25日
M2-3	57R	61	3	フレイク	うち2枚は甲板面の剥離。	9月14日
M2-3	57R	69	5	フレイク		9月15日

備考に記載のないものについては、甲板面から船底へ側面を打ち欠き

57Q～R区で接合した資料

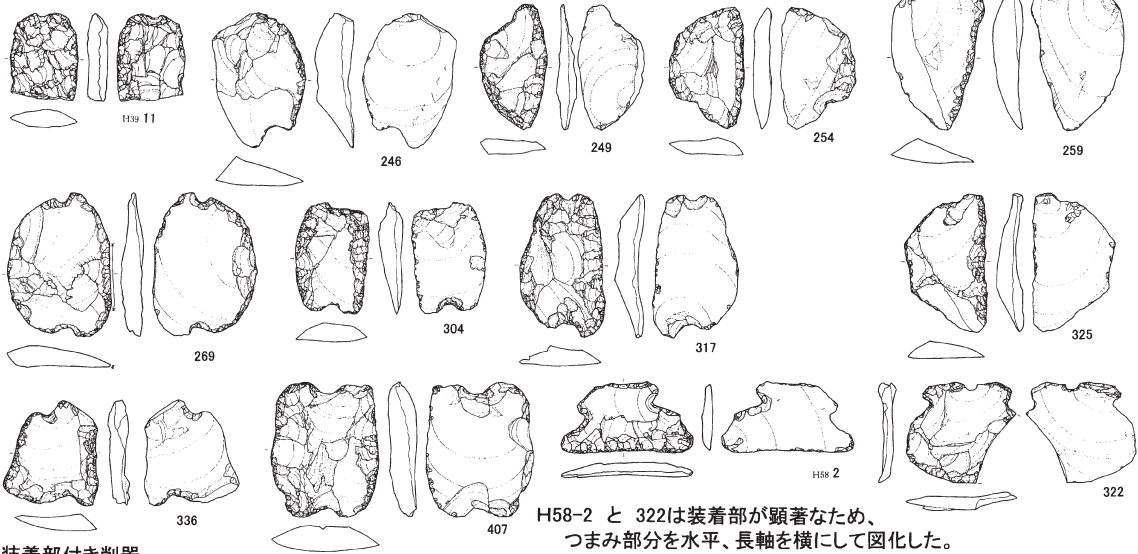
資料名	層位	調査区	遺物番号	分類	打ち欠き順番	状況	取り上げ日	
a	a1	M4-1	57R	259	石核	石核	甲板面から船底への打ち欠き	10月5日
	a2	M4-3	57R	1	フレイク	1		10月1日
b	b1	M4-3	57R	1	フレイク	折れ	折れ	10月1日
	b2	M4-3	57Q	1	フレイク	折れ		10月1日
c	c1	M4-1	57R	48	フレイク	1	打ち欠き	9月28日
	c2	M1	57R	31	フレイク	2	c1と同じ側から打ち欠き	9月8日
	c3	M2-3	57R	39	フレイク	3	c1・c2と反対側から打ち欠き	9月25日
d	d1	M4-1	57R	79	フレイク	折れ	折れ	10月5日
	d2	M4-6	57R	93	フレイク	折れ		10月6日
e	e1	M4-1	57R	79	フレイク	折れ	折れ	10月5日
	e2	M4-6	57R	93	フレイク	折れ		10月6日
f	f1	M4-1	57Q	7	フレイク	1	すべて同じ向きからの、打ち欠き	9月31日
	f2	M4-3	57Q	1	フレイク	2		10月1日
g	g1	M2-3	57R	69	フレイク	1	すべて同じ向きからの、打ち欠き	9月15日
	g2	M2-3	57R	69	フレイク	2		9月15日
	g3	M4-5	57R	108	フレイク	3		10月29日

石斧の両端が潰れているもの：顕著なものを示した。H29-6、H33-4、H58-3は覆土出土遺物、盛土遺構出土の488・494、包含層出土の527である。H58-3・488・494は両端が丸みを帯びて面的に潰れており、最終的にたたき石として用いられたと考える。このような観察をすると、顕著なつぶれ痕跡があるもののうち、たたき石に分類可能なもの6点と、楔形石器のように両端が潰れたもの9点の二種類ある。出土点数が少ないせいか調査範囲内にかたよった分布はない。盛土の基底部焼土層にからの出土は49R区から両端が潰れたもの1点であり、ほかはその焼土層より上位からの出土である。出土点数そのものが10点と少ないため、「傾向」と明言し難いが、M2、M2-2、M2-3、Ⅲ層とそれに準ずるものの出土が目立つ。層位的に上位からの出土である。遺構ではH29、H33、H36、H58から出土



線対称で両面調整、
正面観の側縁形状がおおよそ丸みを帯びる
H31-1(厚みがあり、裏面が甲板風のため、
両面調整石器にした)
H34-2と3(いずれも覆土東側出土)
H39-9(石斧的を思わせる両面調整石器)
88・101(石槍又はナイフ)

両面全面調整のスクレイパー
273・282・288・382(線対称で長楕円形の正面観を持ち篋状)・318・386・396・400・405・408



装着部付き削器
H39-11(唯一の両面全面調整) 269・304・317・336・407 上端、下端ともに「抉り」が明瞭。これを装着部と想定した。
246・249・254・259・325「抉り」が片側のみ、あるいは不明瞭。

H58-2 と 322は装着部が顕著なため、
つまみ部分を水平、長軸を横にして図化した。



頁岩に石鋸的擦痕があるもの
H67-1 ・ 73(石槍又はナイフ)・614(石鋸)

円筒下層式に特徴的な、
石製品的な石槍又はナイフ
127(石槍又はナイフ) 651(石製品)

H67-1と73は「石槍又はナイフ」の側縁に擦痕



図VI-3-3 石器3 石槍又はナイフ・スクレイパー・石鋸・石製品

しているがいずれも覆土からの出土である。

対応する擦り切り残片と石鋸：49S区M5-1から、518（擦り切り残片）と613（石鋸）が同一日に取り上げられていた。試みに確認したところ、擦り切り痕と使用痕の寸法が対応した。石斧の未成品のうち、擦り切り痕が明瞭に残った、「擦り切り残片」はM5、M6に分布するほか、調査区中央部平坦面のM2-3、M4-5、Ⅲ層に準ずる、盛土基底部より上の土層から出土する。H41、H51の覆土あるいはH18掘り上げ土からも出土し、これも盛土出土のものと同傾向が合致する。

全面研磨の石斧風な石器およびそれに準ずる作り、素材が粗いもの：P56-5は覆土出土で、全面の研磨が著しい。H18の掘り上げ土からは4・5が出土している5は素材が軽石である。側縁に明瞭な擦痕がある4や500は、寸法から石斧未成品の可能性もある。H43-2は床面出土である。側縁の打ち欠きからスクレイパーとしてみたが、H25-3との対比から、長軸が長い楕円形の石製品という可能性がある。H25-3は覆土1層からの出土である。

括れのある軽石製石製品：H58-1は覆土出土で、北海道式石冠風の形状である。H29-8は覆土出土で、形状は浮子を思わせるが、発泡等の状況から軽石製としたものの、水に浮かばない。

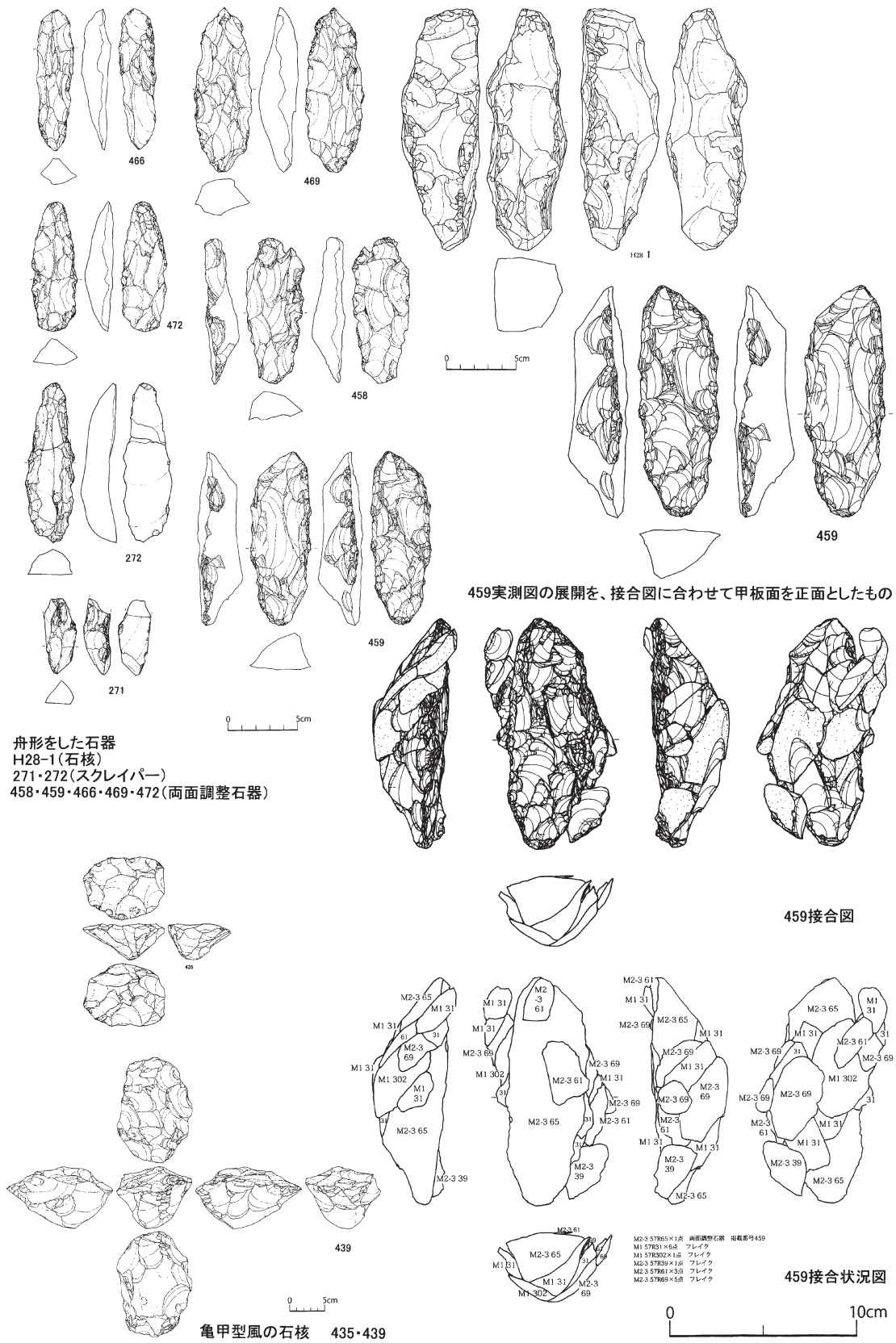
石鋸に類した石製品：673・674・675・676・677は全面に擦痕がある。側縁は石鋸を思わせる。全体の印象としてはメカジキの吻の一部を思わせる。

玦状耳飾り：H28-2・H57-3・660・661・662・663・664・665はいずれも片側だけの破片である。666は未成品である。H28-2は覆土出土で、覆土から円筒下層d1式が二個体復元できたが、住居は縄文時代中期の住居に切られている。H57-3は覆土出土で、周辺からは円筒下層d2式から上層a式にかけての出土が目立つ。666はその近くからの出土である。660・661・662・663・664・665はM1・M2・M2-2・Ⅲ層の出土で円筒下層d2式が多く出土している調査区・層位である。いずれも滑石製である。659の玉も同一素材で666と出土状況が似る。肉眼観察では松前町産の滑石とよく似ている。

線刻礫：H51-2は覆土出土である。H67-9はHF-1覆土出土である。H51-2は磨滅した礫片であり、楕円礫と想定すると、正中線に複数の線刻の可能性もある。H67-9・682・683・685は正中線を意識したと考えられる線刻礫である。684は両面に凹部を持ち、上に擦痕がある。斜面、表土近くからの出土であり、実用品か、線刻礫といわれるものか、判然としない。木古内遺跡H9出土遺物85に類例がある。

石冠 烏帽子型石器的なものか：H23-1は覆土出土である。後面観に凹部がある。H24-4は覆土2層出土である。裏面凹側を底面とすると凹部がある。縁辺の打ち欠きが、H43-2・H25-3に類するものの可能性がある。

石棒：H18-7は覆土1層出土である。H18-7と686は円筒形基調だが胴部中央がやや膨らむ。叩打調整後に、全面を研磨する。681は石棒が被熱後に、破損した破片という可能性がある。



舟形をした石器
H28-1(石核)
271・272(スクレイパー)
458・459・466・469・472(両面調整石器)

459実測図の展開を、接合図に合わせて甲板面を正面としたもの

459接合図

459接合状況図

亀甲型風の石核 435-439

図VI-3-4 石器4 スクレイパー・石核・両面調整石器・接合資料

石棒に類するもの：H23-5は柱状節理を意識的に採取してきたものとする。H54-4は床面出土の棒状礫。P56-18と19は底面から出土した礫。楕円礫の長軸が長いもの

もろい凝灰岩（クサレ凝灰岩）：H27石皿（点取りNo64）、H31台石（点取りNo30）、H43台石（点取りNo25）は「もろい凝灰岩製」で図化できなかった。

H29-15も同質の凝灰岩製であった。これは取り上げ時にすでにかなり崩れそうな状態であったため、大き目のナイロン袋にそっと押し込み、動かないように固定した。そしてその状態で顕著な機能面の稜線のみを表現したものである。図の墨入れ後に袋からとりだし、ヤマトノリで応急処置をして、写真撮影を行った。後に、パラロイドB-72で硬化に努めた。このもろい凝灰岩は水分を含みやすく、それが急激に乾燥した際にこわれるものとする。しかし、疑問に思うのは縄文時代前期後半の出土石器に、この凝灰岩による石皿が出土することである。磨滅がひどく断言出来ないが、扁平打製石器だったのではないかと思われるものも出土する。当時は硬く、「臼と杵」の様な使用ができたと思われる。水分を含みやすく、その上、凍結と解凍も繰り返され、このように脆弱で磨滅した状態で出土すると思われる。

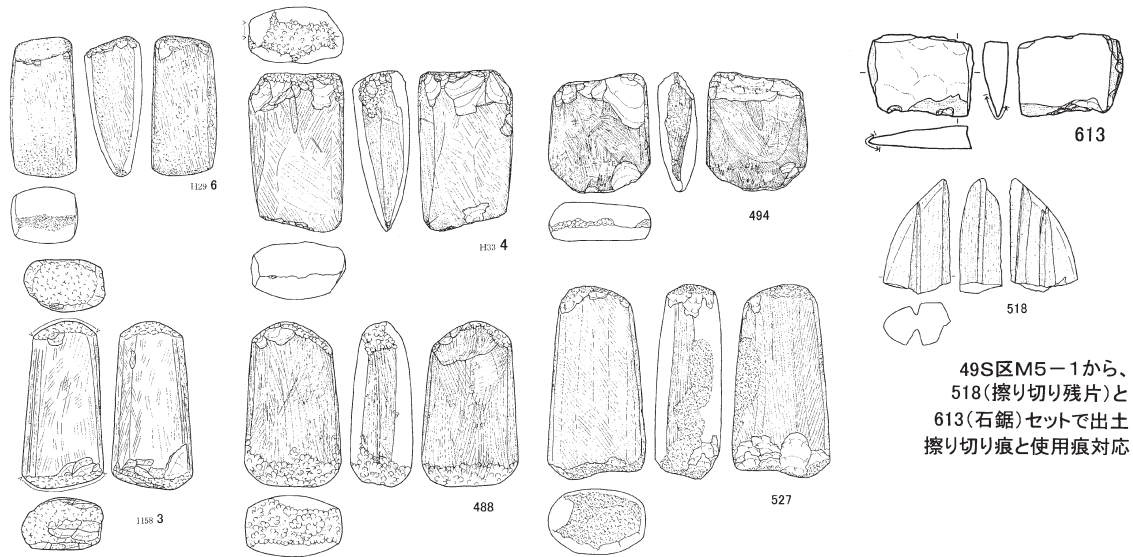
凹み石：円筒上層 a 式の出土量が多い場所によく分布する。83ライン前後を含めたⅢ層からの出土が多い。Ⅲ層以外でも、M4-3、M4-5、M5-1といった土層、つまりM4-6、M5-2、M6-2といった焼土層より上位からの出土が目立つ。平面的な分布で出土が比較的多いのは、「42～46-Y～a 区のM6-1～2」、「55～62-R～T 区のM4-6からⅢ層にかけて」である。

遺構出土の凹み石は41～43-V～W 区のH52とH54、45～46-S 区のF82とH37、49～52-S～V 区のH18やH18掘り上げ土、54V 区のH23、63～64-R 区のH38から出土した。円筒下層d2式の住居H18のみ付属遺構出土である。他のものは、覆土、焼土層、掘り上げ土出土である。

扁平打製石器：形状から細分（図VI-3-9）を行った。形状ごとにと出土の分布状況（図VI-3-8～10）、出土層位（表VI-3-2）と対比して傾向の有無を調べた。細分について再録すると、Aは長楕円礫の長軸に平行な一側縁に機能部を持つもの。Bは縁辺を成形することによって半円形の形状で両端が鋭角的に尖るもの。ABは素材の形状から縁辺を成形して両端がBほど鋭角的にはならず全体が半円形を呈するもの。Cは両端が打ち欠きや叩打などによって抉りを呈するもの。Dは両端を打ち欠きや叩打によって直線的に成形されるもの。CDは片方が抉り、片方が直線的に成形されたもの。加えて-2としたものは機能部の厚さ（幅）が1.5cm以上のもの-3としたものは長軸に平行な縁辺について上下縁に機能部を持つもの。-4は機能部の正面観が丸みを帯びるものである。

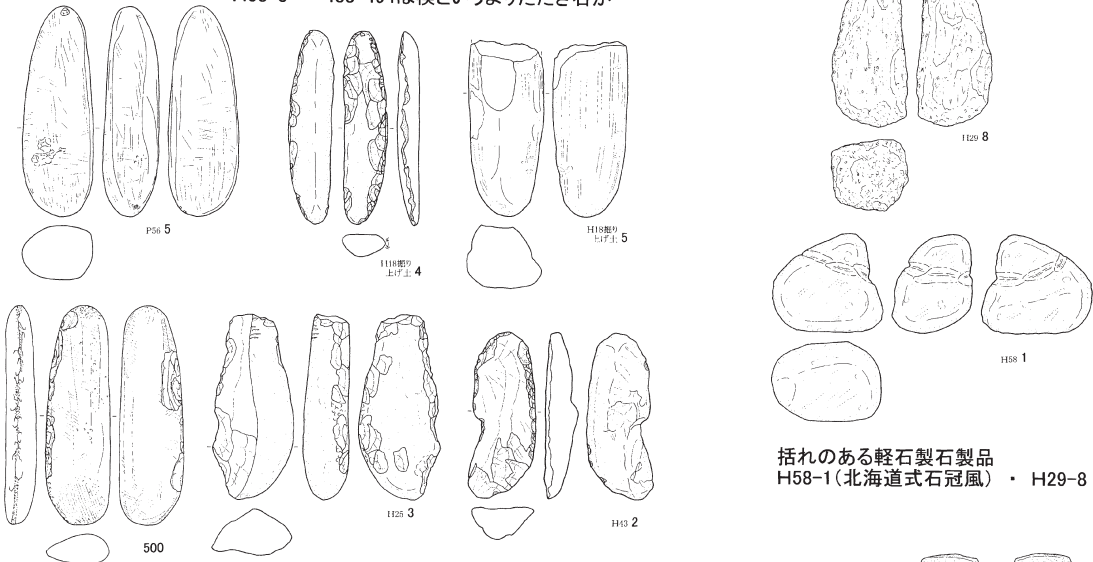
-2（機能部の幅が広い）は閃緑岩素材のものが多い。これは北海道式石冠の素材が安山岩に次いで閃緑岩が多いのに似ている。北海道式石冠の機能部は扁平打製石器の機能部が幅広になったかのようなものである。中期初頭にはない。-3（上下に機能部）と-4（円刃）についても中期初頭の廃棄場所にはなかった。

全体的に多い形状はCとDである。Aはその次である。結果A・AB・Bといった半円状のものが少なかったということとなる。Aの素材選択からいきなり機能部を使い始めるものは出土状況からは、全時期にわたってある。中期にもあるし、中期初頭の廃棄場所になかった-3（上下に機能部）、A3もある。Bは少ない。重量的に軽くなるため、擦り+たたき石として威力にかけるためであろうか。円筒下層d1式以降の廃棄が多い場所に目立つ。しかし円筒下層b式が廃棄される古い土層的から



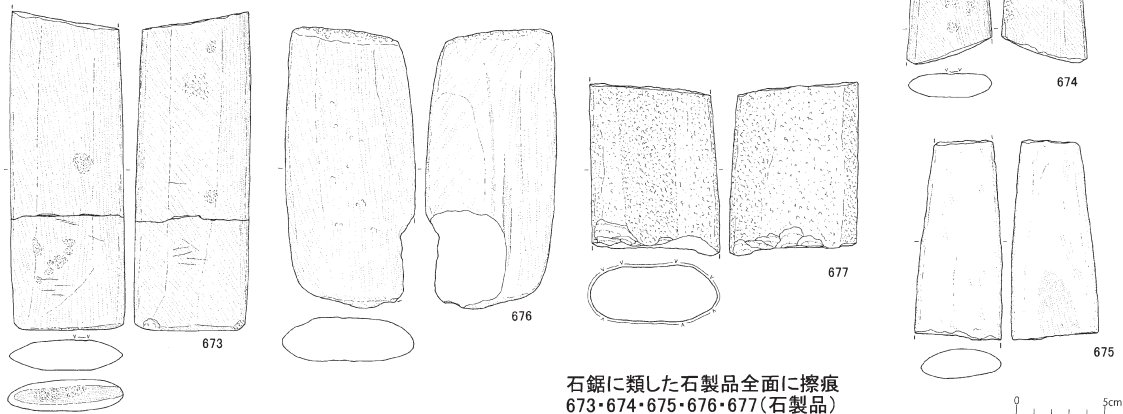
49S区M5-1から、
518(擦り切り残片)と
613(石鋸)セットで出土
擦り切り痕と使用痕対応

石斧の両端が潰れているもの
H29-6・H33-4・H58-3・488・494・527
H58-3・488・494は楔というよりたき石か



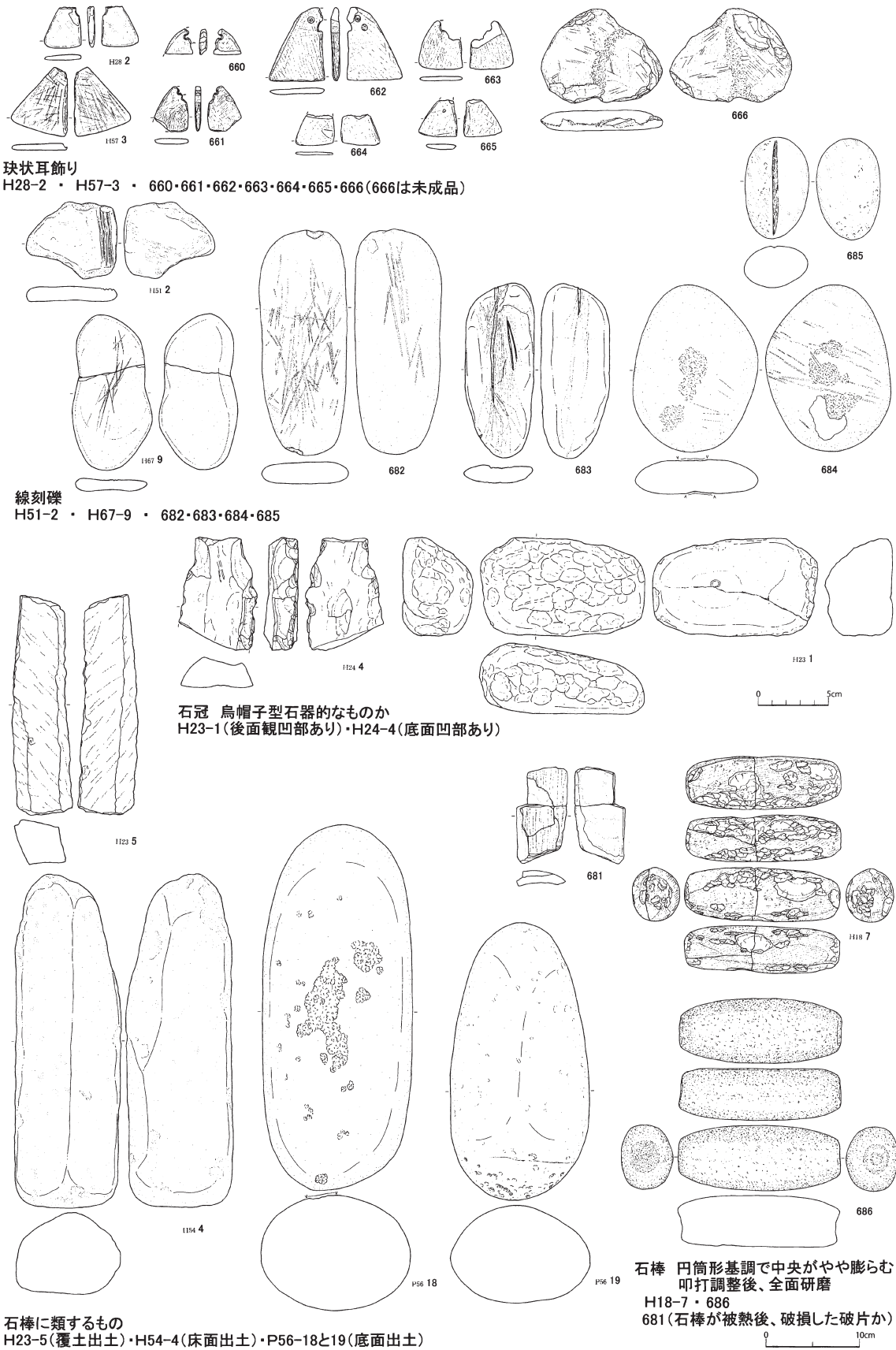
括れのある軽石製石製品
H58-1(北海道式石冠風)・H29-8

全面研磨の石斧風な石器、およびそれに準ずる、作りと素材が粗いもの。
P56-5(研磨著しい)・H18掘り上げ土-4・5(5は素材が軽石)・500
H43-2(スクレイパーとしてみたが、長軸が長い楕円形の石製品の可能性)・H25-3



石鋸に類した石製品全面に擦痕
673・674・675・676・677(石製品)

図VI-3-5 石器5 石斧・石鋸・石製品



図VI-3-6 石器6 石製品

表Ⅵ-3-2 細分可能扁平打製石器出土点数一覧

細分できた 889点	A	AB	ABC	ABD	AC	AD	B	BC	C	CD	D	合計
竪穴住居	24	17	2	1	2	7	2		36	15	67	173
焼土	2	1										3
土坑		3							1	1	2	7
掘り上げ土	2	4				1			7	2	5	21
盛土・包含層	105	74	9	11	21	35	11	2	167	48	202	685
合計	133	99	11	12	23	43	13	2	211	66	276	889

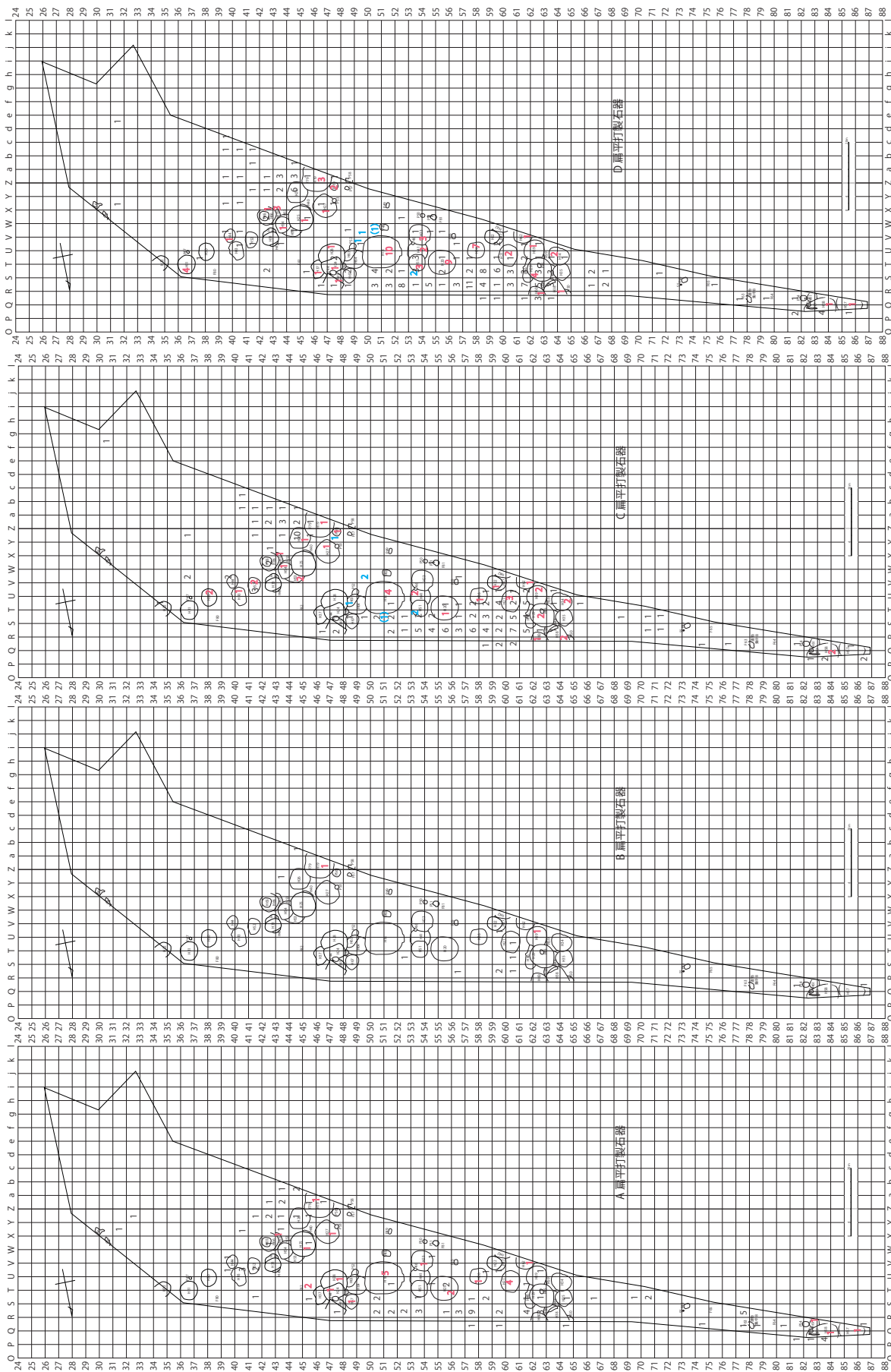
上記のうち 小型	A小型	AB 小型	ABC 小型	ABD 小型	AC 小型	AD 小型	B小型	BC 小型	C小型	CD 小型	D小型	合計
竪穴住居	3	2	1			2	1		2	1	1	13
焼土		1										1
盛土・包含層	8	2			4	2	2		(C4)1	1	1	21
合計	11	5	1		4	4	3		3	2	2	35

上記のうち-2	A2	AB2	ABC2	ABD2	AC2	AD2	B2	BC2	C2	CD2	D2	合計
竪穴住居									6		8	14
掘り上げ土	2	1							3			6
盛土・包含層	6	3	1		2	1			24	3	13	53
合計	8	4	1		2	1			33	3	21	73

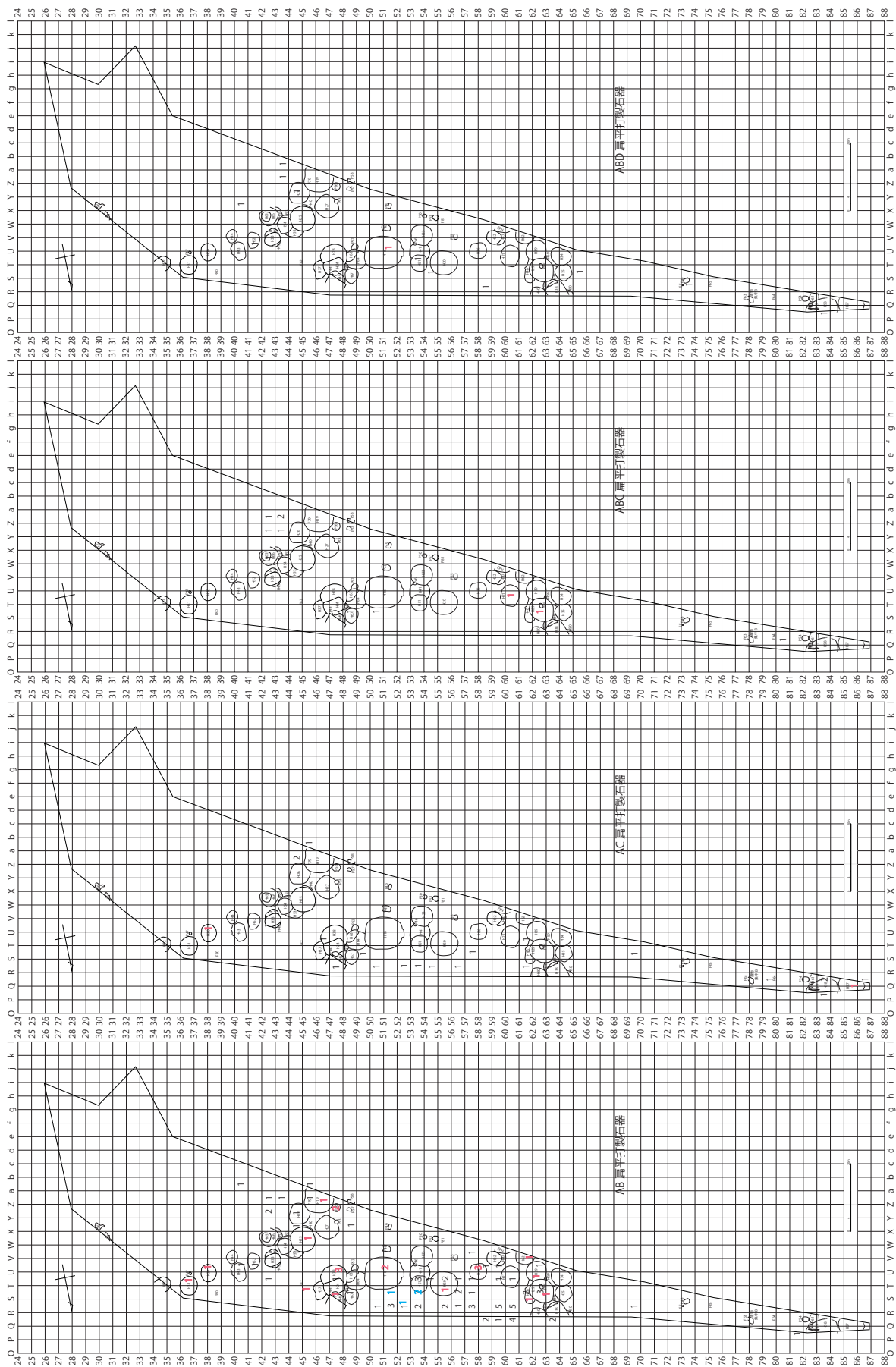
上記のうち-23	A	AB	ABC	ABD	AC	AD	B	BC23	C	CD	D	合計
掘り上げ土						1			1			2
盛土・包含層									2	1		3
合計						1			3	1		5

上記のうち-3	A3	AB3	ABC3	ABD3	AC3	AD3	B3	BC3	C3	CD3	D3	合計
竪穴住居									2	2	3	7
掘り上げ土											2	2
盛土・包含層	6								3	2	9	20
合計	6								5	4	14	29

上記のうち-4	A4	AB4	ABC4	ABD4	AC4	AD4	B4	BC4	C4	CD4	D4	合計
土坑		1										1
盛土・包含層						1			1			2
合計		1				1			1			3

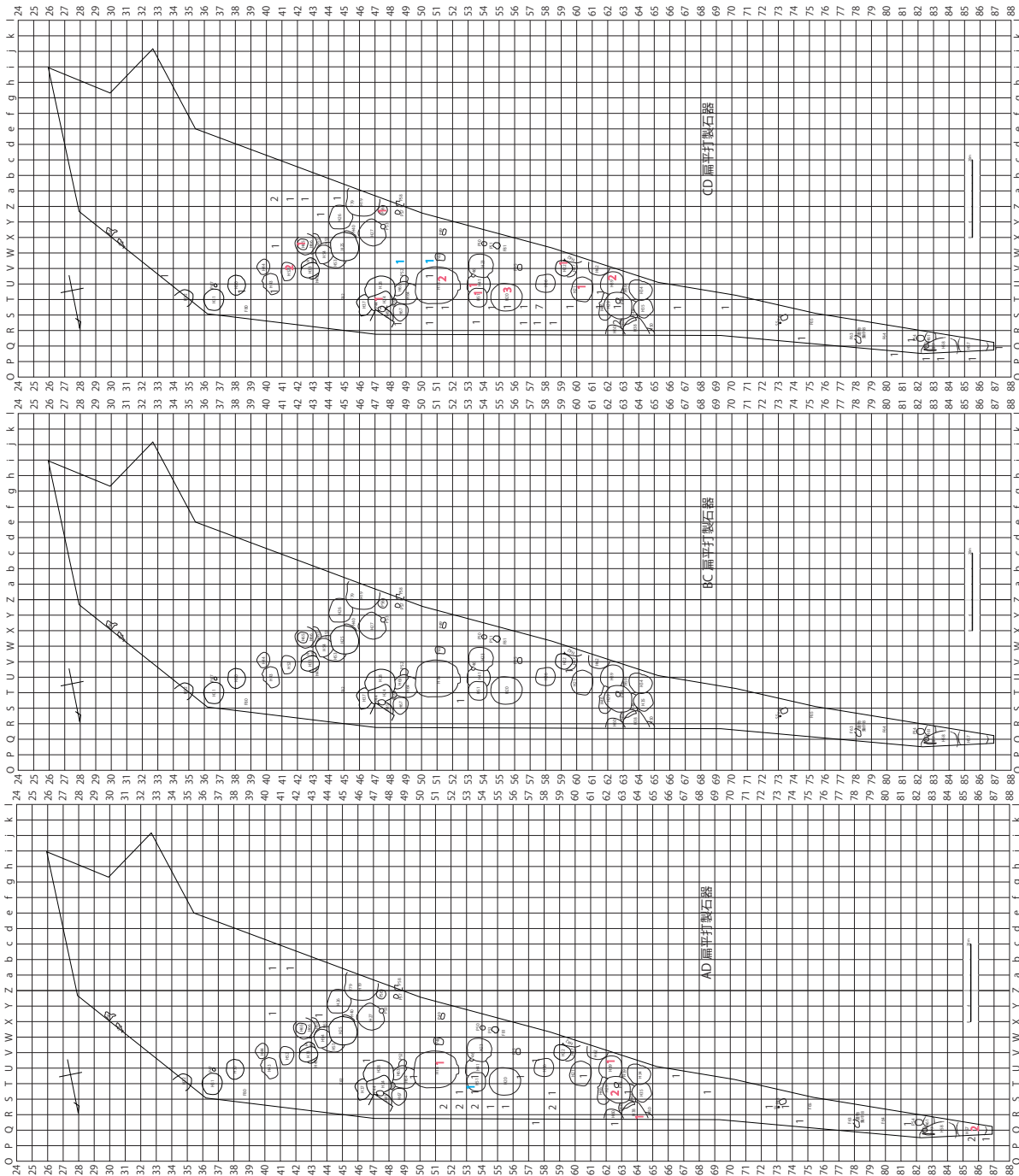
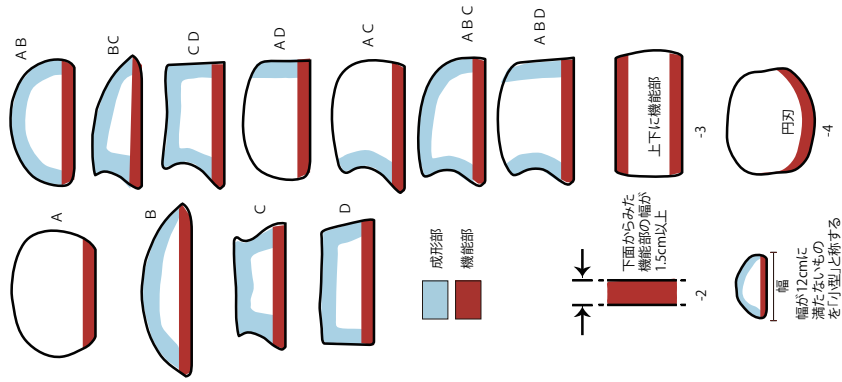


図VI-3-7 石器7 細分可能扁平打製石器分布図

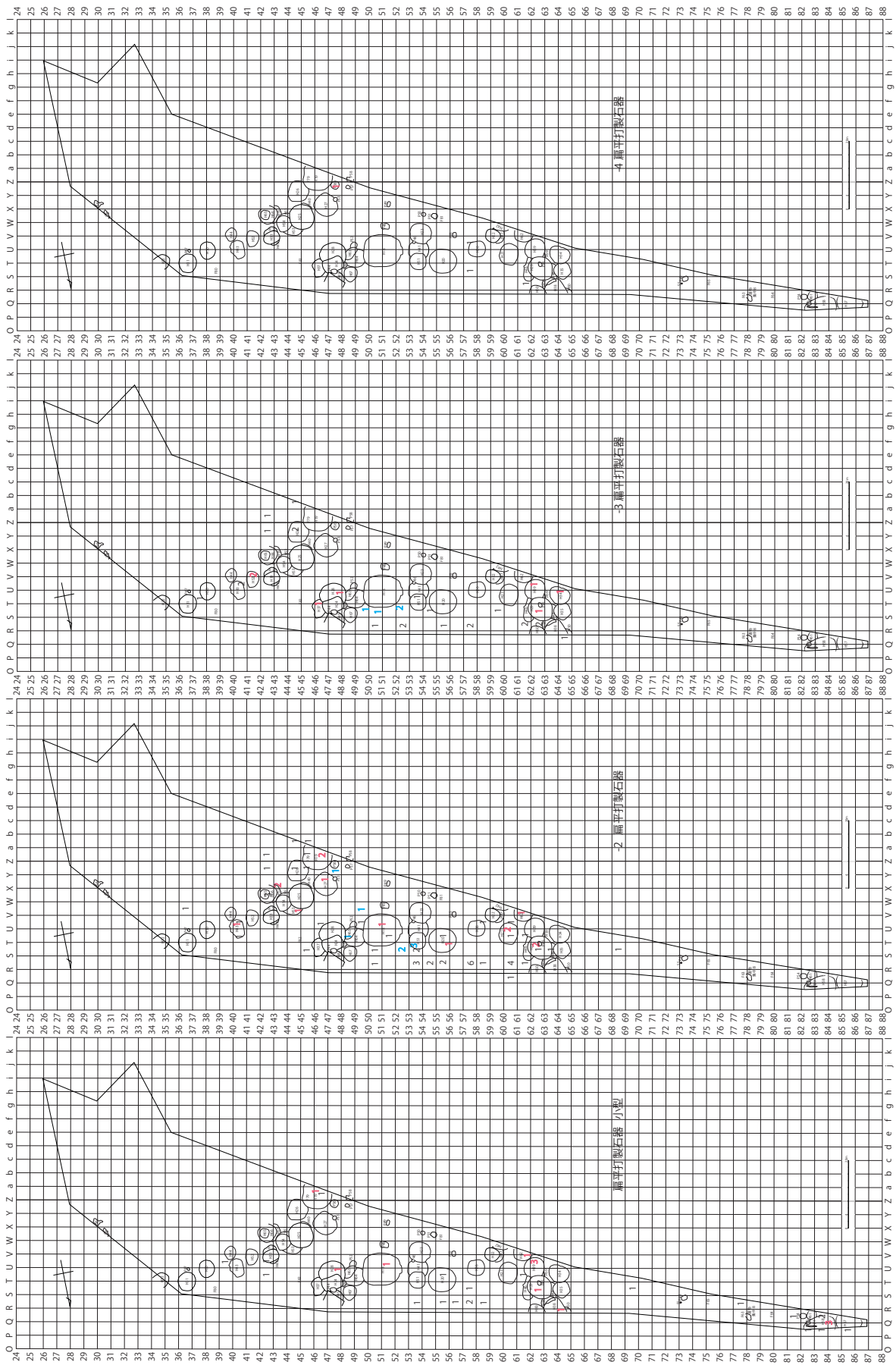


図VI-3-8 石器8 細分可能扁平打製石器分布図

遺物分布図において
 黒字は「盛土・包含層出土遺物」
 赤字は「遺構出土遺物」
 青字は「掘り上げ出土遺物」



図VI-3-9 石器9 細分可能扁平打製石器分布図・扁平打製石器細分模式図



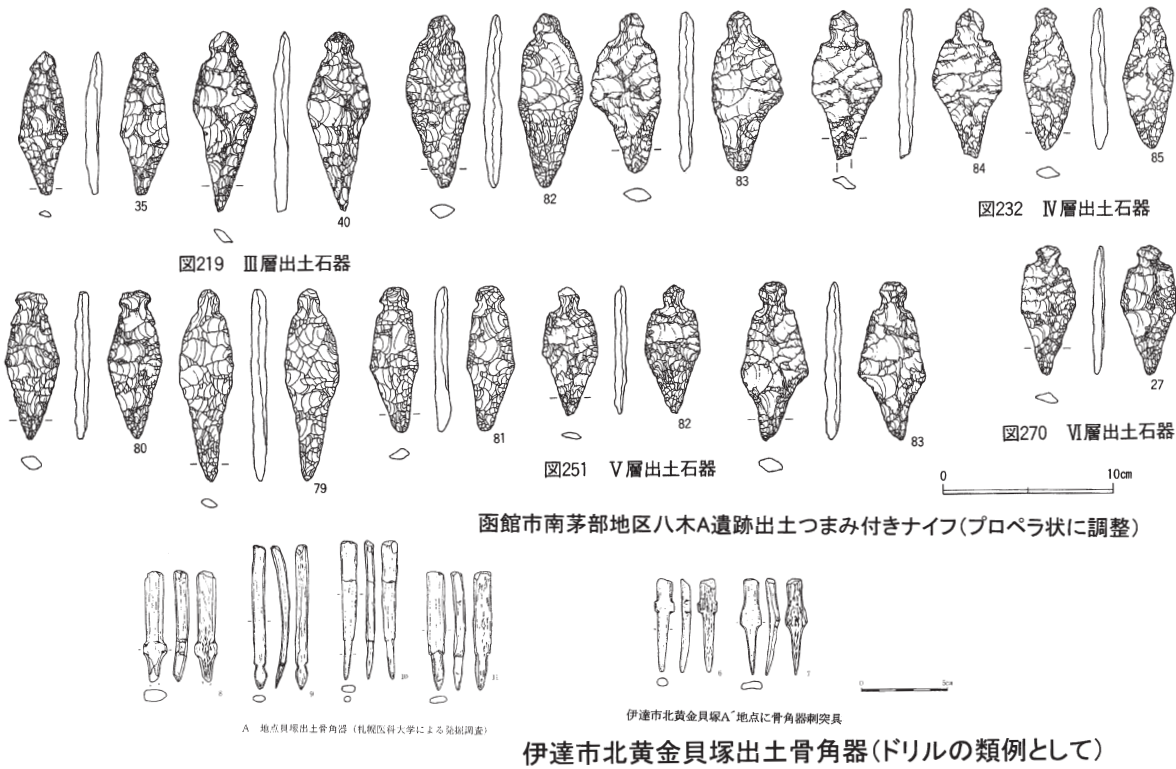
図VI-3-10 石器10 細分可能扁平打製石器分布図

も出土する。出土量が多い、C（両側が抉れるもの）やD（直方体や台型に近い）といった縁辺を成形するものについては円筒下層b式～円筒下層c式～円筒下層d1式～中期初頭と継続して出土する。

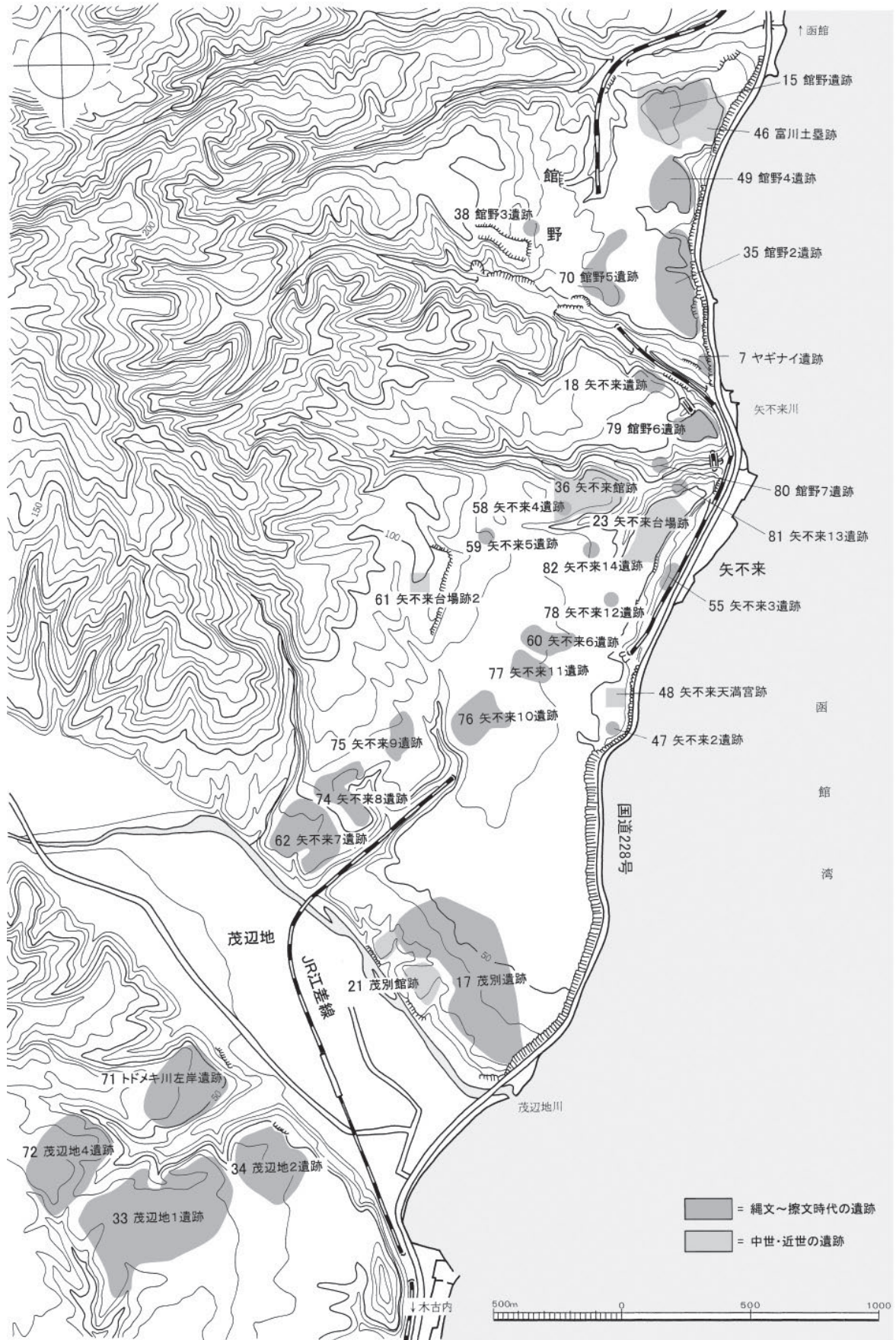
ABの「半円状」に成形したものについては調査範囲内および土層の上下を問わず、まんべんなく存在する。中期初頭の廃棄場所において、AC・AD・ABC・ABD・CDといった正面観が非線対称のものほど多くはない。AC・ABD以外は円筒下層d1式の廃棄場からも目立つ。新しい傾向か。

「小型」はさまざまな形状にあるものである。円筒下層c式以降の廃棄場所に多くみられ、中期初頭の廃棄場所に顕著にある。土層的にも上位からの出土が多い。

円筒下層b式から円筒上層a式にかけて、当調査範囲内では、扁平打製石器は、「厚みがある閃緑岩製で北海道式石冠に類するもの。正面観が線対称のもの」が主体だったのが、「小型のものが多く混じり、正面観が非線対称のもの」が主体となる。 (大泰司)



図VI-3-11 函館市南茅部地区八木A遺跡出土つまみ付きナイフ（プロペラ状に調整）
伊達市北黄金貝塚出土骨角器（ドリルの類例として）



図VI-4-1 北斗市館野~矢不來にかけての遺跡分布

早期後半に相当するものは、**茂別遺跡**で確認されている。住居1軒（H-7）、土坑1基（P-17）にその可能性があるほか、粘土採掘穴状土坑群とした、51基からなる切りあう土坑群が確認されており、これからは中茶路式土器二個体が得られている。

また**館野6遺跡**本線部分の調査において、土坑の内2基が、早期後半に属する可能性があると考えられている。

縄文時代前期

前期前半は2遺跡で遺構が確認されている。三ツ石遺跡では、出土遺物のうち多くが当時期のものとみられ、確認されている遺構土坑5基、焼土4か所もその可能性があるものである。また**茂別遺跡**では、住居跡1軒（H-6）が当該期のものであるほか、P-4、6とした土坑墓からは、春日町式もしくは椀法華式に相当するとみられる土器が各一個体出土している。また、P-15からは綱文式の個体が出土している。

後半になると、遺跡数は増加する。遺物のみ出土、採集されている遺跡は多いが、円筒下層式の住居が確認できた遺跡としては、**矢不來6遺跡**で4軒、**矢不來2遺跡**で1軒、水無遺跡において1軒である。またフコマ野遺跡において、石器製作跡とされた堅穴が確認されている。**茂別遺跡**では、住居跡は確認されていないものの、円筒下層b～c式に相当する若干の出土があるほか、円筒下層a式（P-40）、大木2b～3式（P-63）に相当する土坑墓が検出されている。**館野6遺跡**は2008年度に調査された本線部分についての報告書が刊行された。この部分では円筒下層b～c式に相当する住居跡8軒からなる集落跡である。集落は遺物集中域を伴うほか、43基検出された土坑の中には、フラスコピットを転用したとみられる土坑墓（P-14）がある。またこれ以外にも完形土器と石器等を伴い、埋戻し状の堆積を呈する3基（P-23、24、33）はその可能性が高いものとみられる。西側隣接地にあたる2009年度調査の保障道路部分が本報告である。

縄文時代中期

中期前半の円筒上層式に相当するものは、松前藩戸切地陣屋跡の1986年の調査で、円筒上層a～b式に相当するベンチ構造を持つ全長15.7mの大型住居が1軒検出されている。後続するサイベ沢Ⅶ～見晴町式の住居跡は増加し、7遺跡で複数の検出例がある。内訳は茂辺地4遺跡で6軒、**矢不來9遺跡**で3軒、**館野遺跡**では6軒、**館野2遺跡**B地区では5軒、**館野4遺跡**で6軒、**館野6遺跡**本線道路部分では5軒が検出されている。各遺跡5～6軒の住居で構成されているが、**館野2遺跡**B地区を典型とし若干の時期差があるものとみられ、同時存在は1～2軒程度であった可能性がある。

館野2遺跡C地区は中期前半から後半にかけての上記の時期を含む拠点的な集落跡である。住居跡は総数で90軒が検出されている。その立地は中期前半期と後半期で大きく分かれ、円筒上層b～サイベ沢Ⅶ式までの前半期には調査区の南側半分に分布する。見晴町式の時期には両端に住居跡が分布するものの、榎林式以降の後半期には北側に移動する様子が認められる。1980年の調査で確認された中期の住居5軒のうち、3軒は中期後半の時期で、平成19年調査の北側延長上に位置するものとみられる。また、未報告であるが、村前ノ沢遺跡では、調査区外から流れ込んだとみられる円筒上層式の遺物が多く出土している。

館野遺跡においては、盛土形成以前の中期中葉から後葉、榎林式～大安在B式にかけての住居跡が33軒検出されている。函館市大船C遺跡で確認された住居形態の変化を追認し、石組炉は円形→方形→方形装飾付きへ、平面形は楕円形→卵型→舟形へと変化している。

このほか、大安在B式の住居跡は、**茂別遺跡**で住居1軒(H-14)のほかいくつかその可能性のあるものがある。**矢不來8遺跡**でも1軒確認されている。

縄文時代後期

後期前葉の遺物は、発掘調査が行なわれたほぼ全ての遺跡で出土しているが、特に直前にあたる中期末様の煉瓦台式から天祐寺式にかけての資料が近年増加し、後期前葉の盛土遺構が検出された**館野遺跡**の報告書も刊行されたことにより当期の詳細な様相が明らかとなってきた。後続する涌元、トリサキ式を含めた調査成果について時期を追ってやや詳しく見る。

茂別遺跡では、「壕」とされた盛土遺構が検出されている。これは幅約10mの溝を作り、その両側に土を盛り上げた形のもので、発掘調査時の観察と空中写真判読の推定によると、函館湾に突出した段丘先端部を弧状に区画しており、長さ300m以上となるものである。調査区内の「壕」で区画された段丘先端部からは、平面形が楕円形～円形を呈する煉瓦台式～天祐寺式の住居跡5軒を検出している。このうちの1軒(H-10)は盛土で埋まるものである。盛土の堆積下位からは煉瓦台式～天祐寺式の土器が出土しており、盛土形成の下限とされる。上限は出土遺物からは判然としないが、可能性が高いものとして涌元I式と指摘されている。

押上1遺跡は、上磯町教育委員会による函館江差自動車道の調査と、当センターによる北海道新幹線に係る調査が行われている。教育委員会による調査は、住居跡14軒、土坑32基、フラスコピット19基などとなっている。特筆すべき出土品として、フラスコピットP-170から出土した、赤色漆塗り飾り弓の塗膜とみられるものがある。周囲は涌元式のフラスコピットがややまとまっており、当期のものともみられる。住居跡は南北に分かれて検出されており、北側が中期後半ノダップⅡ～煉瓦台式、南側が天祐寺～涌元式の古い段階のものである。

当センターの調査は、最も遺構の集中するAB地区において、煉瓦台式から涌元式に相当する34軒の住居跡が検出された。これらは、炉の形状に着目すると4つに区分できる。①方形の石組炉で長軸に沿って作り変えられ、最後に壁際付近に定着しているもの(OH-19b、37、39)②隅丸方形の石組炉で、比較的大きな礫を使用するもの。炉の重複はまれで複式炉前庭部に似た付属施設を持つ場合がある(OH-14、31、33、36)。③円形に近い形状でやや小型の石組炉。配石(袖石)を伴わないもの(OH-21、23、19a、30)④明瞭な円形の石組炉で、時に装飾性に富み、配石(袖石)を伴うもの(OH-12、15、22)。の四種である。炉石の焼成痕跡が検出状況と整合しない例があることから、古い住居の石を抜き取り新しい石組炉を作っていたとみられる。この点に着目すると炉石を抜かれずに完形を保つものが④にしかないことから、これが出土遺物の中で最も新しいステージの涌元式のものであるのは疑いない。出土遺物についても示唆される。典型的な涌元式の個体、2段の連続山形文に渦巻文や垂下する蛇行沈線の描かれるものは、OH-15から出土している。

層位の状況から①と②間、③と④間の先後は明らかであるが、②、③は重複しておらず不明である。遺跡からは大木10式の中段階とみられる磨消縄文の土器も出土しており、最古に相当する①は煉瓦台式とせざるを得ないであろう。後続する②、③は天祐寺式、④は涌元式となる。①、②類の住居が検出面まで埋められているのに対し、③、④となるに従い黒色土の明瞭なレンズ状の堆積がみられ、この順序と整合する。①～③の住居を埋めた土は、改築の際の排土であり炉跡の焼土を含むことになる。盛土遺構とされるものはほぼこの土である。総括で述べられるように、比較的深い中期末様の住居を埋め、さらに最大厚30cm以上馬の背状に盛られたとするには、③、④の住居は浅すぎ、検出された住居以外の客土供給地を他に求めなければならないだろう。

茂辺地4遺跡の調査は、平成22年から平成26年まで、初年度のみ当センターが、以降は北斗市教育委員会が中心となり調査を行った。検出遺構は通算で住居跡20軒、土坑83基、焼土五十か所、Tピット5基等となっている。住居跡は多くが後期前葉の天祐寺式のものである。調査者の時田太郎は、余市系土器と大木10式併行もしくは後続する土器の混淆状況が、住居跡の複式炉と中央ピットの混在状況と関連するものとして考察している。

館野遺跡は後期前葉涌元式期の造成跡が検出されている。中央広場とする南東—北西方向に伸びる削平部分を軸とし、北東側と南西側に盛土を行うものである。広場と盛土の境界には配石がなされ、フラスコピットや小柱穴が多数重複している。盛土遺構からは涌元式〜トリサキ式の遺物が出土しており、これら一連の造成はその期間と想定されている。

石倉野遺跡において当期の可能性のあるロームのマウンドや土坑、焼土が確認されている。中心となる時期は涌元I式とみられる。このほか大野地区の向野G遺跡では、北海道教育大学函館校の学術調査が行われ、後期初頭の土坑墓、焼土が検出されている（北斗市2006）。

このほか当期の住居跡は**ヤギナイ遺跡**(1)、三ツ石2遺跡(1)、**矢不來9遺跡**(1)、**館野4遺跡**(3)において確認されている。()内の数字は軒数。

後期中葉の資料は、石倉野3遺跡、三ツ石2遺跡において手稲式が若干出土している。

後期後半には、**矢不來7遺跡**において竪穴住居跡13軒からなる集落跡が調査されている。平面形が楕円形を呈し、短軸一端に出入口とみられる張り出し状の部分をもつ典型的なものである。住居跡は密集して検出されるものの重複が見られないが、炭素年代の結果や構造から新旧を想定している。**ヤギナイ遺跡**において、堂林期の住居2軒(HP-1、2)が確認されている。

後期の最終末に相当するものとして、**茂別遺跡**における落合計策氏の採集資料が挙げられる。重要文化財である「人形装飾付異形注口土器」を始め、貼瘤文、爪形文、三叉文などの特色をもつ後期最終末から晩期初頭にかけての良好な資料である（国立歴史民俗博物館 2001）。

縄文時代晩期

晩期前葉の資料は、**矢不來8遺跡**で出土しており、土坑1基と焼土二か所の遺構も検出されている。

詳細は不明であるが、久根別A遺跡から大洞BC式の破片が出土しているといわれている。

晩期中葉の資料は、**矢不來8遺跡**、**ヤギナイ遺跡**で出土している。**矢不來8遺跡**は埋設土器と、土坑1基、焼土一か所が確認されている。**ヤギナイ遺跡**では、石組炉と埋設土器が検出されている。埋設土器のうちKP-2とされたものは、鹿の上顎骨が納められていた。

晩期後半に相当するものは、添山遺跡があげられる。添山遺跡は落合氏の多数の完形土器を初めてする採集資料がある。遺跡は1979年に調査され、三か所の焼土と、聖山II式に相当するまとまった資料が得られている。

続縄文時代

茂別遺跡は恵山式期の大規模な遺跡である。6軒の住居跡と38基の土坑墓が検出されている。土坑墓のなかには、完形土器や管玉、石斧、魚形石器、石鏃、環石などの石器を副葬するものも多くある。平面形は長軸1m内外の円形ないし楕円形を呈するが、瓢箪型や2mを超えるもの、1mに満たない小型の浅い墓もあり、副葬品の内容や上面の配石の有無など、やや多様なあり方を呈している。

下添山遺跡では、やや古手の二枚橋式に相当するものも含めた恵山式土器、魚形石器が採集されている。1979～1980年に吉崎昌一によって調査されており、同時期の資料が得られたほか、ソバの栽

培の可能性が指摘されている。このほか、恵山式の土器の集中域は、**矢不來6遺跡**、三ツ石2遺跡、**矢不來8遺跡**、**館野6遺跡**本線部分においても確認されている。

擦文文化期

矢不來3遺跡において、擦文前期の住居跡2軒が検出されている。住居は北方向にカマドを持ち、底部にヘラケズリのみられる土器など伴う遺物が出土している。

東浜遺跡、および旧久根別川の対岸にあたる一本木1遺跡は、擦文文化期の遺跡として古くから知られているものである。東浜遺跡では、昭和38(1963)年に調査が行なわれ、五所川原産の須恵器のほか、内黒土師器、擦文土器など8世紀から10世紀ごろのものとみられる遺物が出土している。一本木1遺跡では、同様な時期とみられる須恵器甕の破片が昭和8(1933)年、落合氏により発見されている。

中世

茂別館、**矢不來館**がある。**茂別館**は享徳三(1445)年、安東氏による築城といわれ、中核をなす大館と、砦としての小館から成り立つとされている。近年、表面調査により大小の館の間に「中館」を想定し、さらに大規模な遺構であったとする説もある(市村2000)。

矢不來館は、町教委により範囲確認調査が1999、2000年の二年にわたって行なわれた。調査は遺跡周辺の地形測量と百四十三か所の試掘調査である。その結果15～16世紀のものとみられる陶磁器類が出土し、館の後方に空壕3本と土塁2本、館内部にも土塁と柵列が確認されている。最も規模の大きな西側の空壕は、上幅約9m、底幅約0.5m、深さ約3.6mの薬研堀であり、1間半幅の土橋があることがわかった(森2002)。2008年には**茂別館跡**と**矢不來館跡**を結ぶ旧道(馬道)の確認調査と、**矢不來館跡**の空壕の測量調査が行われている(野村・石井・塚田2009)。2010、11年の二か年にわたり**矢不來館**において弘前大学と愛知学院大学により発掘調査が行われている。土塁1基、柵木列1条のほか、墓坑2基が確認され、15世紀後半から16世紀初頭にあたる陶磁器等が出土している。

このほか、北斗市大野地区市渡の畑で採集され、郷土資料館に保管されている越前焼播鉢がある。15世紀前半～中頃のもので、出土状態から墓に副葬されたものではないかとされている(三上・越田2004)

近世・近代

松前藩戸切地陣屋跡、**矢不來台場跡**、**富川土塁跡**、**矢不來天満宮跡**がある。国指定史跡である松前藩戸切地陣屋跡は、安政元(1854)年の神奈川条約締結後、箱館港の開港に伴って北方防備のため、安政2(1855)年に構築された。工事は洋式築城法により設計され、四稜の陣屋本体と南東部に突出した砲台部分から成り立っている。明治元(1868)年の箱館戦争で焼失している。昭和54(1979)年より、記念物保存修理(環境整備事業)を行い、平成12(2000)年に調査を完了し、平成14(2002)年に整備を終え、現在では桜の名所として地域に親しまれる史跡公園となっている。

矢不來台場跡は、**矢不來館**とともに町教委により範囲確認調査がなされ、二か所の砲台と火薬庫の位置、規模が確認されている。

富川土塁跡は、箱館戦争時の砲台跡とされていたが、昭和62(1987)年に行なわれた調査では、明治40年ごろと推測される煉瓦窯跡が検出されている。その後2009～2011年にかけて、西脇対名夫を代表とする「富川の塁跡」調査会により、この煉瓦窯より西側の部分について測量調査が行われている。

自然地形と整合しない高まりを確認し、それが大規模な土塁であること、壕とみられるものや、いくつかの平坦面が存在しているとし、これらが松前藩以前の城館址の痕跡である可能性を指摘している（「富川の塁址」調査会2012）。

矢不來天満宮跡は、昭和62年に調査が行なわれ、18世紀後半から大正期までの遺物と、三期にわたる建物跡を検出している。

箱館戦争は旧暦明治元（1868）年10月20日、森町鷲ノ木に榎本武揚が上陸したことに端を発し、同年12月15日の選挙による政府の樹立を経て、明治二（1869）年5月18日の新政府軍の反撃による五稜郭陥落までの期間である。北斗市は松前と函館を結ぶ地点となっており、茂辺地～矢不來までの地域、旧大野町台場山場跡は特に激戦地として知られている。

台場山遺跡跡は新撰組副長、土方歳三が江差から進軍する新政府軍を迎え撃つために台場山山頂周囲に築いた砲台と塹壕である。台場山、村山に残る焰硝倉の沢の名称はこの時に由来するものである。4月13日の戦闘で使用された銃弾は三万五千発といわれている。一方木古内の旧幕府軍は、4月21日には制海権を失い矢不來まで退却する。4月24日～29日まで、海上と陸上において茂辺地、矢不來での戦闘が行われ、29日には新政府軍に制圧されている。

茂別遺跡において、調査区の先端に当たる段丘先端部で屈曲する塹壕を検出している。出土遺物から判断すると、この旧幕府軍の施設の可能性があるものである。また、**矢不來9遺跡**において、幕末から明治期にかけての平地式住居が1軒確認されている。

なお箱館戦争時のものとみられる銃弾は、富川から茂別に至る段丘上で多く出土している。報告されているだけでも、**矢不來天満宮**3点、**矢不來10遺跡**7点、**矢不來11遺跡**1点、**矢不來6遺跡**2点、**茂別遺跡**1点と計14点であり、未報告であるが館野遺跡で出土した数は十数点にのぼる。当地が箱館戦争時の激戦地であることを示す証拠の一つといえよう。

近年の調査動向について

館野2遺跡A・B地区の報告以降、市内では**同C地区**、**館野遺跡**の盛土遺構部分、押上1遺跡、茂辺地4遺跡の報告が刊行された。中期後半大安在B式～後期前葉涌元・トリサキ式までの資料は顕著に多くなっている。なかでも中期末様から後期前葉の時期は重要である。当期は遠く関東地方では加曾利EIV～称名寺I式の「遺跡数の減少期」にあたる（今村1977）。同じくして函館市南茅部地域では遺跡の断絶が認められ（福田2014）、その直前には道央北の土器型式であるトコロ6類の道南地域での出土が散見される時期となっている（北埋調報314）。

北斗市の当地域と函館湾周辺の津軽海峡沿岸は、石倉、戸井、湯川の3つの貝塚、北斗市**館野**、**矢不來2**、知内町湯の里1遺跡等多くの同時期の遺跡があり、道内でも有数の遺跡集中域である。後期前葉での遺跡様相の変化は、当期の寒冷化による何らかの影響であることは可能性の高いことだろうが、炭素年代を元にした環境考古学の成果だけに頼るのではなく、詳細な土器の検討を踏まえた上で遺構、遺物の変化をとらえていくべきであろう。その基礎資料は当地においてほぼ整ってきたとみられる。

（立田 理）

引用・参考文献

- 青森県教育委員会 1974 『中の平遺跡発掘調査報告書』
- 青森県教育委員会 1977 『熊沢遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告38集
- 青森県教育委員会 1996 『畑内遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告187集
- 青森県教育委員会 1997 『畑内遺跡Ⅳ』 青森県埋蔵文化財調査報告211集
- 青森県教育委員会 1999 『畑内遺跡Ⅴ』 青森県埋蔵文化財調査報告262集
- 青森県教育委員会 2000 『畑内遺跡Ⅵ』 青森県埋蔵文化財調査報告276集
- 青森県教育委員会 2001 『畑内遺跡Ⅶ』 青森県埋蔵文化財調査報告308集
- 青森県教育委員会 2002 『畑内遺跡Ⅷ』 青森県埋蔵文化財調査報告326集
- 青森県教育委員会 1997 『三内丸山遺跡Ⅷ』 青森県埋蔵文化財調査報告230集
- 青森県教育委員会 1998 『三内丸山遺跡Ⅸ』 青森県埋蔵文化財調査報告249集
- 青森県教育委員会 2008 『石江遺跡・三内沢部(3)遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告458集
- 青森県史編さん自然部会 2001 『青森県史自然編 地学』
- 青森県史編さん考古部会 2002 『青森県史別編 三内丸山遺跡』
- 青森県史編さん民俗部会 2014 『青森県史民俗編 資料津軽』
- 青森市史編集委員会 2006 『新青森市史 資料編1 考古』
- 青森市教育委員会 2001 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 青森市埋蔵文化財調査報告書第56集
- 青森市教育委員会 2002 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 青森市埋蔵文化財調査報告書第62集
- 青森市教育委員会 2003 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 青森市埋蔵文化財調査報告書第66集
- 青森市教育委員会 2004 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』 青森市埋蔵文化財調査報告書第71集
- 青森市教育委員会 2004 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』 青森市埋蔵文化財調査報告書第72集
- 青森市教育委員会 2008 『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』 青森市埋蔵文化財調査報告書第98集
- 秋田県教育委員会 1981 『杉沢台遺跡 竹生遺跡 発掘調査報告書』 秋田県埋蔵文化財報告書83集
- 秋田県教育委員会 1988 『東北横断自動車道発掘調査報告書-Ⅱ上ノ山Ⅰ遺跡・館野遺跡・上ノ山Ⅱ遺跡-』 秋田県埋蔵文化財報告書166集
- 秋田県教育委員会 1990 『はりま館遺跡発掘調査報告書』 秋田県埋蔵文化財報告書192集
- 秋田県教育委員会 1993 『萩ノ台Ⅱ遺跡』 秋田県埋蔵文化財報告書236集
- 秋田県教育委員会 1997 『池内遺跡 遺構編』 秋田県埋蔵文化財報告書268集
- 秋田県教育委員会 1999 『池内遺跡 遺物・資料編』 秋田県埋蔵文化財報告書282集
- 阿部 千春 1993 「北海道南部における初期の円筒土器とその周辺」 『考古学ジャーナル』 6月号No.362
- 石岡 憲雄 1999 「東北地方 前期(円筒下層式)」 『縄文時代』 10号
- 市村 高男 2000 「茂別館跡についての考察-調査の中間報告-」 地域史研究『はこだて』 32
- 岩国市立マイクロ生物館 2013 『日本の海産プランクトン図鑑 第2版』 共立出版株式会社
- 岩内町教育委員会 1958 「東山遺跡」 『岩内遺跡』
- 岩手県立博物館 2005 『縄文北緯40°～前・中期の北東北～』 岩手県立博物館第54回企画展図録
- 今村 啓爾 1977 「称名寺式土器の研究(下)」 『考古学雑誌』 第63巻 第2号
- 江坂 輝弥 編 1970 『石神遺跡』 ニュー・サイエンス社

- 榎森 進 2011 「激動の北の中世」 『新版
北海道の歴史 上』 北海道新聞社
- 大館市教育委員会 2008 『男神遺跡発掘調査
報告書』
- 大川 清・工楽善通・鈴木公雄編1996 『日本土
器事典』 雄山閣
- 太田 陽子・佐藤 賢・渡島半島活断層研究グ
ループ1994 「函館平野とその周辺地形一と
くに西縁の活断層に関連して一」 『第四紀研
究33』
- 大泰司 統 2004 「縄文文化 前・中期」 『北
海道考古学』 第40輯
- 大沼 忠春 1981 「道央部の前期縄文土器群
の編年について」 『北海道考古学』 第17輯
- 大沼 忠春 1984 「道南の前期縄文土器群の
編年について」 『北海道考古学』 第20輯
- 大沼 忠春 1985 「魚骨文の新例について」
『北海道考古学』 第21輯
- 大沼 忠春 1986 「道南の前期縄文土器群の
編年について (Ⅱ)」 『北海道考古学』 22輯
- 大沼 忠春 1993 「北海道東部の円筒土器文
化」 『考古学ジャーナル』 6月号No.362
- 小笠原 雅行2010 「円筒下層式期の墓制－青
森市内の例から－」 『青森県考古学』 第18号
- 尾田 多良・佐藤 時幸 2013 『新版 微化
石研究マニュアル』 朝倉書房
- 乙部町教育委員会 1976 『元和』
- 海峡土器編年研究会 2005 『東北・北海道の
縄文時代前期末葉～中期初頭土器の課題－資
料集－』
- 上磯町 1997 『上磯町史』
- 上磯町教育委員会・北海道文化財保護協会
1981 『館野 2 遺跡』
- 上磯町教育委員会 1988 『富川砲壘跡』
- 上磯町教育委員会 1990 『矢不來 3 遺跡』
- 上磯町教育委員会 2001 『町内遺跡発掘調査
事業報告－平成11・12年度発掘調査概要報告
－』
- 上磯町市史編纂委員会 編 1917 『茂別郷土
史』 上磯町史資料集第 2 集
- 上磯町市史編纂委員会 編 1983 『添山』
- 上條信彦 2014 「アイヌ民族の豎臼と豎杵、
桶、手杵－形態・使用痕観察と残存デンプン
粒分析から－」 『東アジア古文化論攷 1』
- 上條信彦2014 「「扁平石器」の形態的分布から
みた円筒土器文化圏の動態－半円状扁平打製
石器、挟入扁平打製石器、挟入扁平磨製石器
を中心に－」 『青森県考古学』 第22号
- 上條信彦 2015 『縄文時代における脱穀・粉
砕技術の研究』
- 亀田町教育委員会・市立函館博物館 1967
『サイベ沢B遺跡調査報告』
- 木古内町 1982 『木古内町史』
- 木古内町教育委員会 1974 『札苧遺跡』
- 木古内町教育委員会 1989 『鶴岡 2 遺跡 I』
- 木古内町教育委員会 1990 『鶴岡 2 遺跡 II』
- 木古内町教育委員会 1991 『釜谷 4 遺跡』
- 木古内町教育委員会 1992 『釜谷遺跡 概報』
- 木古内町教育委員会 1993 『釜谷遺跡概報』
- 木古内町教育委員会 1995 『釜谷遺跡概報』
- 木古内町教育委員会 1995 『釜谷 5 遺跡』
- 木古内町教育委員会 1996 『釜谷遺跡 概報』
- 木古内町教育委員会 1996 『亀川 2 遺跡・亀
川 3 遺跡 概報』
- 木古内町教育委員会 1997 『亀川 2 遺跡 II・
亀川 3 遺跡 II・泉沢 3 遺跡 概報』
- 木古内町教育委員会 1997 『新道 3 遺跡』
- 木古内町教育委員会 1998 『亀川 2 遺跡』
- 木古内町教育委員会 1998 『亀川 3 遺跡』
- 木古内町教育委員会 1998 『泉沢 3 遺跡』
- 木古内町教育委員会 1999 『釜谷遺跡』
- 木古内町教育委員会 1999 『新道 2 遺跡』
- 木古内町教育委員会 2001 『蛇内遺跡』
- 木古内町教育委員会 2002 『大釜谷 3 遺跡
概報』
- 木古内町教育委員会 2003 『大釜谷 3 遺跡』
- 木古内町教育委員会 2003 『泉沢 2 遺跡 (B
地点)』
- 木古内町教育委員会 2003 『泉沢 2 遺跡 A
地点』
- 木古内町教育委員会 2003 『新道 2 遺跡 II
北地点』
- 木古内町教育委員会 2004 『泉沢 2 遺跡 C
地点』
- 木古内町教育委員会 2004 『蛇内遺跡』
- 久保 泰 1984 「原始・古代の松前」 『松前町
史 通説編第一巻上』
- 熊野 喜蔵 他 1974 「茅部郡森町森川 A 遺
跡出土の前期縄文式土器」 『北海道考古学』
第10輯

- クレア ミルソム・スー リグビー・監訳 小
島郁生 2005 『ひとめでわかる化石のみか
た』朝倉書店
- 小疇 尚・野上 道男・小野 有五・平川 一
臣 2003 『日本の地形2 北海道』
国立歴史民俗博物館 2001 『落合計策縄文時代
遺物コレクション』国立歴史民俗博物館資料
図録1
- 小杉 正人 「珪藻」 第四紀学会編 『第四紀
試料分析法 2 研究対象別分析法』東京大
学出版会
- 小林 達雄 編 2008 『総覧 縄文土器』(株)
アム・プロモーション
- 小山 正忠・竹原 秀雄 2004 『新版標準土
色帖』日本色研事業株式会社
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2008 調査年報
21
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2009 調査年報
22
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1984 『知内町
湯の里遺跡群』北埋調報18
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1985 『知内町
湯の里 3 遺跡』北埋調報32
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1985 『木古内
町 建川1・新道4 遺跡』北埋調報33
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1985 『札苺遺
跡』北埋調報34
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1986 『上磯町
矢不來2 遺跡』北埋調報37
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1986 『木古内
町 建川2・新道4 遺跡』北埋調報43
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1987 『函館市
石川1 遺跡』北埋調報45
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1987 『函館市
桔梗2 遺跡』北埋調報46
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1987 『上磯町
矢不來天満宮跡』北埋調報47
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1987 『木古内
町 新道4 遺跡』北埋調報52
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1997 『千歳市
キウス5 遺跡』北埋調報116
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1997 『上磯町
茂別遺跡』北埋調報121
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1998 『函館市
西桔梗1 遺跡(2)』北埋調報122
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1999 『長万部
町 花岡2 遺跡・花岡3 遺跡』北埋調報139
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1999 『八雲町
シラリカ2 遺跡』北埋調報142
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2003 『森町
倉知川右岸遺跡』北埋調報196
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2006 『北斗市
館野遺跡(1)』北埋調報237
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2006 『占冠村
占冠原野1 遺跡』北埋調報239
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2007 『森町
石倉1 遺跡』北埋調報247
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2009 『白老町
虎杖浜2 遺跡(5)・ボンアヨロ4 遺跡(2)』北
埋調報262
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2009 『千歳市
梅川4 遺跡(2)』北埋調報269
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2009 『北斗市
矢不來8 遺跡(3)・矢不來9 遺跡(2)・矢不來10
遺跡(2)・矢不來11遺跡(3)』北埋調報272
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2010 『木古内町
木古内2 遺跡』北埋調報278
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2010 『木古内町
大平遺跡・大平4 遺跡』北埋調報280
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『木古内町
蛇内2 遺跡』北埋調報281
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『北斗市 館
野遺跡(2)』北埋調報282
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『北斗市 館
野2 遺跡A地区・B地区』北埋調報283
- (財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『木古内町
大平4 遺跡(2)・蛇内2 遺跡(2)』北埋調報292
- (公財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『木古
内町 木古内2 遺跡(2)』北埋調報293
- (公財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『木古
内町 札苺5 遺跡』北埋調報294
- (公財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『北斗
市 館野6 遺跡(1)』北埋調報295
- (公財)北海道埋蔵文化財センター 2013 『木古
内町 札苺6 遺跡』北埋調報301
- (公財)北海道埋蔵文化財センター 2013 『北斗
市 館野2 遺跡C地区』北埋調報303
- (公財)北海道埋蔵文化財センター 2013 『木古
内町 木古内遺跡』北埋調報304
- (公財)北海道埋蔵文化財センター 2013 『木古

- 内町 釜谷 8 遺跡』北埋調報305
 (公財)北海道埋蔵文化財センター 2015 『せたな町 都遺跡』北埋調報314
 (公財)北海道埋蔵文化財センター 2016 『木古内町大平遺跡』北埋調報321
 齊藤 岳 2002 「青森県における石器の石材の研究について」『青森県考古学』第13号
 青森県考古学会30周年記念論集
 齊藤 岳 2010 「青森県内出土例を中心とした異形石槍について」『青森県考古学』第18号
 佐々木 繁善 1997 「東北地方の黒曜石」『岩手考古学』第9号
 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター 一瀬論・若林 徹哉 2011 『普及版 やさしい日本の淡水プランクトン図解ハンドブック改訂版』合同出版株式会社
 知内町教育委員会 1975 『森越』
 市立函館博物館 1972 『サイベ沢遺跡-函館郊外桔梗村サイベ沢遺跡発掘調査報告書-』
 瀬川 秀良 1959 「松前半島東岸の海岸段丘について」『東北地理 11』
 関根 達人 2010 「平成22年度北海道北斗市矢不來館発掘調査概要」第31回 南北海道考古学情報交換会 発表資料
 関根 達人 2011 「北斗市矢不來館跡」第32回 南北海道考古学情報交換会 発表資料
 関根 達人 2012 「北海道晩期縄文土器編年の再構築」『北海道考古学』第48輯
 高橋 哲 2012 「円筒下層式期の土坑出土石器の研究」『北海道考古学』第48輯
 高橋 哲 2014 「縄文時代の石器用途・機能研究の学史」『青森県考古学』第22号
 高橋 正勝・小笠原 忠久 1976 「縄文文化前期・中期」『北海道考古学講座』みやま書房
 高橋 正勝 1981 「北海道南部の土器」『縄文文化の研究』4 雄山閣
 伊達市噴火湾文化研究所 2013 『KITAKO GANE』
 戸井町教育委員会 1992 『戸井貝塚Ⅰ』
 戸井町教育委員会 1993 『戸井貝塚Ⅱ』
 戸井町教育委員会 1993 『戸井貝塚Ⅲ』
 戸井町教育委員会 1994 『戸井貝塚Ⅳ』
 戸井町教育委員会 1996 『戸井貝塚Ⅴ』
 戸沢充則編1994 『縄文時代研究事典』東京堂出版
 「土偶とその情報」研究会 1994 『東北・北海道の土偶Ⅰ』土偶シンポジウム2 秋田大会 資料集
 「富川の埜趾」調査会 2012 「北斗市「富川の埜趾」の地形図作成」『北海道考古学』第48輯 北海道考古学会
 永田 方正 1984 『北海道蝦夷語地名解』草風館
 日本植生史学会 2006 『三内丸山遺跡の生態系史』植生史研究 特別第2号
 日本ペトロロジー学会 編 1997 『土壌調査ハンドブック 改訂版』博友社
 日本の地質1『北海道地方』編集委員会 1990 『日本の地質1 北海道地方』共立出版株式会社
 野村 崇 1985 『北海道縄文時代終末期の研究』みやま書房
 野村 祐一・石井 淳平・塚田 直哉 2008 「下国館跡 茂別館跡・矢不來館跡の基礎的研究」第29回 南北海道考古学情報交換会 発表資料Vol. 2
 野村 祐一・石井 淳平・塚田 直哉 2009 『下之国館跡茂別館跡・矢不來館跡の基礎的研究』
 名取 武光・峰山 巖 1954 『伊達町北黄金遺跡発掘調査報告』
 名取 武光・峰山 巖 1957 「若生貝塚発掘報告」『北方文化研究報告』第12輯
 名取 武光・峰山 巖 1963 「茶呑場遺跡付伊達町北黄金遺跡群」『北方文化研究報告』第18輯
 新渡戸 隆・鈴木 克彦 1983 「日本海七里長浜の黒曜石原石採取踏査」『考古風土記』第8号
 函館圏開発事業団 1974 『西桔梗』
 函館市教育委員会 1977 『函館空港第4地点・中野遺跡』
 函館市教育委員会 1979 『見晴町B遺跡発掘調査報告書』
 函館市教育委員会 1981 『権現台場遺跡発掘調査報告書』
 平取町 2015 『AOTORA = アオトラ石の不思議-そのⅡ』第三回シリムカ文化大学講座

資料集

- 福島町教育委員会 1985 『館崎遺跡－円筒土器文化における「土器塚」の調査－』
- 福田裕二 2014 「円筒土器文化以降における集落と盛土遺構の変遷－垣ノ島遺跡の盛土遺構の調査から－」『日本考古学協会2014年伊達大会 研究発表資料集』
- 藤本 英夫 編 1980 『日本城郭体系1 北海道・沖縄』 新人物往来社
- 弘前大学人文学部文化財論研究室 2012 『北海道渡島半島における戦国城館跡の研究－北斗市矢不來館跡の発掘調査報告－』
- 北斗市大野町史編纂委員会 2006 『新大野町史』
- 北斗市教育委員会 2009 『北斗市 ヤギナイ遺跡』
- 北斗市教育委員会・函館市埋蔵文化財事業団 2012 『北斗市 茂辺地4遺跡』
- 北斗市教育委員会・函館市埋蔵文化財事業団 2013 『北斗市 茂辺地4遺跡』
- 北斗市教育委員会 2015 『北斗市 茂辺地4遺跡』
- 北斗市教育委員会 2015 『北斗市 村前ノ沢遺跡』
- 北海道文化財保護協会 編 1981 『館野2遺跡』
- 前川寛和 2006 「三内丸山遺跡出土の磨製石斧の岩石学的特徴と石材鑑定の可能性について」『史跡三内丸山遺跡 年報10』
- 松浦 武四郎 1856 「渡島日誌 其の壺」
- 秋葉 實 解説 1988 『武四郎蝦夷地紀行』 北海道出版企画センター
- 松浦 武四郎 1859 「東西蝦夷山川地理取調 図二」
- 山田 秀三 監修／佐々木 利和 編 1988 『アイヌ語地名集成』 <別冊>東西蝦夷山川地理取調 草風館
- 松前町教育委員会 1974 『松前町大津遺跡発掘調査報告書』
- 松前町教育委員会 1974 『松前町高野遺跡発掘報告』
- 松前町教育委員会 1984 『松前町郷土資料館調査報告』
- 松前町教育委員会 1983 『白坂』
- 南茅部町埋蔵文化財調査団 1993 『八木A遺

- 跡・ハマナス野遺跡』
- 南茅部町埋蔵文化財調査団 1995 『八木A遺跡II・ハマナス野遺跡』
- 南茅部町教育委員会 2002 『大船C遺跡 ハマナス野遺跡Vol.XVII』
- 南北海道考古学情報交換会 編 1995 『円筒土器下層式図録集』 南北海道考古学情報交換会
- 南北海道考古学情報交換会 編 1995 『円筒土器下層式図録集II』 南北海道考古学情報交換会
- 南北海道考古学情報交換会 「情報交換2 渡島半島における縄文時代中期末から後期初頭の土器様相」第23回 南北海道考古学情報交換会資料
- 三上 敏一・越田 賢一郎 2004 「大野町出土の越前播鉢について」『土・酒・海・山－故 石本省三氏追悼論集－』
- 三宅 徹也 1981 「円筒土器」『縄文文化の研究』 3 雄山閣
- 三宅 徹也 1989 「円筒土器下層様式」・「円筒土器上層様式」『縄文土器大観』 1 小学館
- 宮内 崇裕・八木 浩司 1984 「松前半島東岸の海成段丘と第4期地殻変動」『地学雑誌』 93-5
- 村越 潔 1984 『増補 円筒土器文化』 雄山閣考古学選書10
- 村越 潔 2007 「円筒土器文化の研究史」『村越 潔先生 喜寿記念論集』 弘前大学教育学部考古学研究室OB会
- 森町教育委員会 1982 『森川A遺跡』
- 森 靖裕 2002 「北海道・上磯町の中世館跡と近世台場跡」『日本歴史』 2002年5月号 吉川弘文館
- 森 勇一 2003 「珪藻」 松井 章 編集 『環境考古学マニュアル』 同成社
- 八雲町教育委員会 1992 『コタン温泉遺跡』
- 山内先生没後25年記念編集刊行会 1996 『画龍点睛－山内清男没後25年記念論集－』
- 若山誠治 2011 「上野尻遺跡G地区における縄文時代前期後葉～末葉の住居跡について」『青森県考古学』 第19号

報 告 書 抄 録

ふりがな	ほくとし たてのろくいせきかっこに							
書名	北斗市 館野6遺跡(2)							
副書名	高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	二巻目 補償道路地区							
シリーズ名	公益財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第327集							
編者名	大泰司統							
著者・撮影者名	大泰司統・村田 大・佐川俊一・佐藤 剛・袖岡 淳子・吉田裕吏洋・立田 理・中山昭大							
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地-1 TEL011-386-3231							
発行年月日	西暦2016年10月28日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たてのろくいせき 館野6遺跡	ほっかいどうほくとし 北海道北斗市 たての 館野 北斗市館野91 ほか	01236	B-06-79	41 47 12	140 37 18	20090608 ~20091113	5,763	高規格幹線道路函館江差自動車道函館茂辺地道路工事に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
館野6遺跡	集落跡	縄文時代早期	盛土遺構	縄文土器		縄文時代前期後半の盛土と、同時期の集落を検出した。削平が行われたと思われる場所から墓坑を検出した。縄文時代中期前葉の竪穴住居・廃棄場所を確認した。近世(～近代)の陶器が出土した。対岸の矢不來砲台と同時期。		
		縄文時代前期	住居跡 50軒	コッタロ式・中茶路式・東釧路Ⅳ式・円筒土器下層式・円筒土器上層式・サイベ沢Ⅶ式・見晴町式・大安在B式・榎林式・鳥崎式・大洞式(以上並行するものも含む)				
		縄文時代中期	土坑 18基					
		縄文時代後期	焼土 20ヶ所					
		近世	Tピット 1基					
			遺物集中 1ヶ所					
			集石 2ヶ所					
				近世陶器				
				土製品				
				石器等				
				石鏃・石槍又はナイフ・ドリル・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石核・両面調整石器・フレイク・石斧・たたき石・すり石・扁平打製石器・北海道式石冠・石鋸・砥石・石皿・台石・加工痕のある礫・焼成礫・礫など				
				石製品				

公益財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第327集

北斗市

館野6遺跡(2) 補償道路地区

－高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成28年9月30日

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL (011)386-3231(代表) FAX (011)386-3238

印刷 柏楊印刷株式会社
〒007-0802 札幌市東区東苗穂2条3丁目4番48号
TEL (011)789-2377 FAX (011)789-2376
E-mail : info@hakuyo-print.jp <http://hakuyo-print.jp/>
